TOA

取扱説明書

パケットインターカムシステム

N-8000 シリーズ

このたびは、TOA パケットインターカムシステムをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しくご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

目　次

安全上のご注意 16

取扱説明書の構成 19

第 1 章　システム概要

概　要 1-2

特　長 1-3

使用上のご注意 1-3

システム仕様 1-4

システム構成 1-6

- システム構成例 1-6
- 機器概要 1-10
- 交換機のラック組み込み例 1-17

各部の名称とはたらき 1-19

- IP インターカム交換機とそれに接続する機器 1-19
- IP 端末 1-34
- サブ端末接続ユニットとそれに接続する端末 1-58
- インターフェースユニット 1-71

システムの機能一覧表 1-77

- 基本の機能 1-77
- その他の機能 1-89

2 種類の着信方式について 1-91

- 着信優先方式（マスター／マスターシステム） 1-91
- 選択応答優先方式（マスター／サブシステム） 1-91

ページング（呼び出し放送）機能の概要 1-92

- ページング呼び出しの形態 1-92
- ページング呼び出しの機能 1-93
- ステーションページングの受信モード 1-94
- ページング応答 1-95

緊急メッセージ放送機能の概要 1-96
緊急メッセージの録音 1-97
登録されているメッセージの確認 1-97
緊急メッセージ放送の起動 1-97
緊急メッセージ放送の放送先 1-98
緊急メッセージ放送の終了 1-98
緊急メッセージ放送の優先度 1-99
接点連動制御 1-99
緊急メッセージをミュートする 1-99
（N-8510MS/8515MS/8610MS/8616MS のみ） 1-99

その他の機能の概要 1-100
タイライン 1-100
PBX インターフェース（SS-SR 方式） 1-100
BGM 1-101
接点入出力機能 1-102
タイムシグナル 1-105
音声トリガー 1-105
録音 1-106
時刻補正 1-106
サマータイム自動補正 1-106
SX-2000 システムへの放送 1-107

第２章　機能と操作のしかた

マスター端末の機能と操作のしかた

基本的な使いかた 2-2
呼び出す（個別呼び出し） 2-2
呼び出しを受ける（着信優先設定時） 2-3
呼び出しを受ける（選択応答設定時） 2-3
端末スピーカー音量の設定 2-5
通話方式 2-6

通話機能と操作のしかた 2-9
呼び出し 2-9
着信選択（着信優先設定時のみ） 2-11
短縮ダイヤル 2-12
保　留 2-15
転　送 2-16

自動転送 2-18
代理応答（着信優先設定時のみ） 2-23
緊急割り込み（着信優先設定時のみ） 2-25

ページング機能と操作のしかた 2-26

ページング呼び出し 2-26
ページング応答 2-32

SX-2000 システムへの放送（N-8600MS のみ、SX-200IP 使用時のみ） 2-34

ゾーン選択放送 2-34
業務放送 2-35
BGM 放送 2-36
制御出力起動 2-38
組み合わせ起動 2-40

その他の機能と操作のしかた 2-45

スキャンモニター 2-45
3 者会議 2-47
タイムシグナル（N-8000AF 使用時のみ） 2-51
PBX 接続（N-8000MI 使用時のみ） 2-57
局線接続（N-8000CO 使用時のみ） 2-59
タイライン接続（N-8000MI 使用時のみ） 2-66
BGM（N-8000MI 使用時のみ） 2-69
外部機器制御
（N-8000MI/8000DI/8000AF/8050DS/8540DS/8640DS/8650DS 使用時のみ） 2-71
ドアリモート
（N-8050DS/8540DS/8640DS/8650DS/8000MI/8000DI/8000AF 使用時のみ） 2-73
緊急メッセージ放送（IP マスター端末使用時のみ） 2-75
音声トリガー機能の設定（N-8050DS/8640DS/8650DS 使用時のみ） 2-78
IP ドア端末のスピーカー出力切り換え制御
（N-8640DS/8650DS 使用時のみ） 2-81
アクセスコード認証（N-8500MS/8510MS/8515MS/8610MS を除く） 2-82

マスター端末での操作一覧表 2-83

多機能マスター端末の液晶表示一覧 2-87

リモートマイク端末の機能と操作のしかた

機能キーに割り当てできる機能 2-91

リモートマイク端末でできること 2-92

リモートマイク RM-200SA との機能対比表 2-93

通話機能と操作のしかた 2-94

呼び出す 2-94
呼び出しを受ける（着信優先設定時） 2-95
呼び出しを受ける（選択応答設定時） 2-96
端末スピーカー音量の設定 2-97
通話方式 2-97
ワンタッチダイヤル 2-99
ダイヤルパターン起動 2-99

プライバシー機能を使う 2-100

ページング機能と操作のしかた 2-101

ページング呼び出し 2-101
ページング応答 2-104

SX-2000 システムへの放送（SX-200IP 使用時のみ） 2-105

ゾーン選択放送 2-105
業務放送 2-109
BGM 放送 2-110
制御出力起動 2-110
組み合わせ起動 2-111

その他の機能 2-114

シフトキーの使いかた 2-114
マイクインジケーター機能の使いかた 2-114

リモートマイク端末での操作一覧表 2-115

ドア端末の機能と操作のしかた

呼び出しをする 2-116

呼び出しをする（着信優先設定時） 2-116
呼び出しをする（選択応答設定時） 2-117

緊急呼び出しをする（選択応答設定時のみ） 2-118

呼び出しを受ける 2-118

音声トリガー機能について（N-8050DS/8640DS/8650DS のみ） 2-119

呼び出しボタン制限（N-8050DS/8640DS/8650DS のみ）
（着信優先設定時のみ） 2-121

呼び出しをする 2-121

ドア端末での操作一覧表 2-121

サブ端末、スイッチパネルの機能と操作のしかた

呼び出しをする 2-122

呼び出しボタンでの操作（着信優先設定時） 2-122
呼び出しボタンでの操作（選択応答設定時） 2-123
オプションハンドセットでの操作（RS-140/142/143/144 と
RS-141、RS-442/480 と RS-481 を組み合わせた場合のみ） 2-124

緊急呼び出しをする（選択応答設定時のみ） 2-125

緊急呼び出し用のボタンを使う 2-125
優先順位の低い呼び出しボタンを使う 2-126

呼び出しを受ける 2-127

ページング受信時のご注意 2-127

プライバシー機能を使う（RS-140 のみ） 2-128

プライバシー状態にする 2-128
プライバシー状態を解除する 2-128

呼び出しボタン制限（着信優先設定時のみ） 2-129

呼び出しボタン制限が使用できる端末 2-129
機能の説明 2-129
呼び出しをする 2-130

サブ端末での操作一覧表 2-130

N-8000AL に接続された電話機の機能と操作のしかた

基本的な使いかた 2-131

呼び出す（個別呼び出し） 2-131

呼び出しを受ける 2-132

通話機能と操作のしかた 2-133

呼び出し 2-133
転　送 2-134
自動転送 2-136
緊急割り込み（着信優先設定時のみ） 2-141

ページング機能と操作のしかた 2-142

ページング呼び出し 2-142
ページング受信（緊急一斉ページング受信時のみ） 2-146

その他の機能と操作のしかた 2-147

スキャンモニター 2-147
外部機器制御（N-8000MI/8000DI/8000AF/8050DS /8540DS/8640DS/8650DS 使用時のみ） 2-149
ドアリモート（N-8050DS/8540DS/8640DS/8650DS /8000MI/8000DI/8000AF 使用時のみ） 2-151
IP ドア端末のスピーカー出力切り換え制御（N-8640DS/8650DS 使用時のみ） 2-153
アクセスコード認証 2-154

電話機での操作一覧表 2-155

局線からの操作のしかた（N-8000CO 使用時のみ）

端末を呼び出す 2-157

ダイレクトインラインによる呼び出し 2-157
ダイレクトインダイヤルによる呼び出し 2-157

ページング呼び出し 2-158

系統ページング 2-158
選択ページング 2-160
一斉ページング 2-162

その他の機能と操作のしかた 2-163

スキャンモニター 2-163
タイムシグナル（N-8000AF 使用時のみ） 2-165
外部機器制御（N-8000MI/8000DI/8000AF/8050DS /8540DS/8640DS/8650DS 使用時のみ） 2-171

局線での操作一覧表 2-174

その他の機能（便利な機能）

優先順位 2-175
時間制限 2-176
録音（N-8000AF 使用時のみ） 2-176
限定局呼び出し 2-177
ページング遅延出力 2-178
ページング予鈴音出力制御 2-178
外部入力放送（N-8000MI/8000AF 使用時のみ） 2-179
ページング連動接点出力制御（N-8000MI/8000AF 使用時のみ） 2-180
発呼局表示／ CCTV 連動（N-8000MI/8000DI/8000AF 使用時のみ） 2-181
局線発呼局表示／ CCTV 連動
（N-8000CO/8000MI/8000DI/8000AF 使用時のみ） 2-182
呼び出し・通話連動接点出力
（N-8050DS/8540DS/8640DS/8650DS 使用時のみ） 2-183
IP ドア端末外部制御入力（N-8640DS/8650DS 使用時のみ） 2-184
リモートダイヤル（N-8000MI/8000DI 使用時のみ） 2-185
ダイレクトセレクト（N-8000DI 使用時のみ） 2-186
接点ブリッジ（N-8000MI/8000DI/8050DS/8540DS
/8640DS/8650DS 使用時のみ） 2-187
ページングビジー入力（N-8000MI 使用時のみ） 2-187
システム診断（N-8000MI/8000DI/8000AF 使用時のみ） 2-188
タイムシグナル 2-189
時刻補正 2-189
サマータイム自動補正 2-189
NTP クライアント機能（N-8000AF 使用時のみ） 2-190

備　考

信号音一覧 2-191

第 3 章　設置・配線

交換機の設置のしかた 3-2

キャビネットラックに取り付けるとき 3-2
卓上に置くとき 3-3
壁に取り付けるとき 3-4

サブ端末接続ユニットの設置のしかた 3-5

キャビネットラックに取り付けるとき 3-5
卓上に置くとき 3-6
壁に取り付けるとき 3-7

マルチインターフェースユニットの設置のしかた 3-8
キャビネットラックに取り付けるとき 3-8
卓上に置くとき 3-9
壁に取り付けるとき 3-10
ダイレクトセレクトユニットの設置のしかた 3-11
キャビネットラックに取り付けるとき 3-11
卓上に置くとき 3-12
壁に取り付けるとき 3-13
音声・局線・電話インターフェースユニットの設置のしかた 3-14
キャビネットラックに取り付けるとき 3-14
卓上に置くとき 3-16
壁に取り付けるとき 3-16
スマートマトリクス IP モジュールの設置のしかた 3-17
マスター端末の設置のしかた 3-18
壁掛けで使用するとき 3-18
壁への取り付けかた 3-19
卓上に置くとき 3-23
電工ボックスなどを使用して壁に埋め込むとき 3-25
露出ボックスなどを使用して壁に取り付けるとき 3-28
リモートマイク端末の設置のしかた 3-30
卓上に置くとき 3-30
壁掛けで使用するとき 3-31
リモートマイクの表示ラベルの取り付け 3-33
ドア端末の設置のしかた 3-37
電工ボックスを使用して壁に埋め込むとき 3-37
露出ボックスを使用して壁に取り付けるとき 3-40
サブ端末の設置のしかた 3-43
電工ボックスを使用して壁に埋め込むとき 3-43
露出ボックスを使用して壁に取り付けるとき 3-44
スイッチパネルの設置のしかた 3-46
電工ボックスを使用して壁に埋め込むとき 3-46
露出ボックスを使用して壁に取り付けるとき 3-47

オプションハンドセットの設置のしかた 3-48

配線のしかた 3-49

交換機の接続 3-49
交換機と組み合わせる端末の接続 3-51
サブ端末接続ユニット N-8000RS/8010RS の接続 3-56
N-8000RS/8010RS と組み合わせる端末の接続 3-57
サブ端末接続ユニット N-8400RS の接続 3-59
N-8400RS と組み合わせる端末の接続 3-60
マルチインターフェースユニットの接続 3-62
ダイレクトセレクトユニットの接続 3-65
音声インターフェースユニットの接続 3-67
局線インターフェースユニットの接続 3-69
電話インターフェースユニットの接続 3-70
IP 端末の接続 3-71
線材の選定 3-80
心線径と通達距離の関係 3-81
コネクターの結線 3-82

第 4 章　システム設定の流れ

システム設定の前に 4-2

システムの電源を入れる 4-2

設定の手順 4-2

パソコンでのネットワーク設定 4-3

システム設定の項目と初期値 4-5

システム全般 4-5
交換機 4-6
マルチインターフェース 4-8
サブ端末インターフェース 4-10
IP 端末 4-11
端末 4-15
局線インターフェース 4-17
電話インターフェース 4-19
音声インターフェース 4-21
ダイレクトセレクト 4-23

外部システムインターフェース 4-24
ページング 4-24
グループ 4-24

第 5 章　ソフトウェアによるシステム設定

N-8000 設定ソフトウェアの概要 5-2

ソフトウェアをインストールする 5-3

システムの条件 5-3
セットアップガイドを起動する 5-3
必須コンポーネントをインストールする
（Windows 8.1 または Windows 10 使用時を除く） 5-4
N-8000 設定ソフトウェアをインストールする 5-5
Windows 8.1 または Windows 10 で
N-8000 設定ソフトウェアを動作させる 5-7
N-8000 設定ソフトウェアをアンインストールする 5-11
緊急メッセージ放送用の標準メッセージをインストールする 5-12
フォルダーの構成 5-14
バージョンアップ情報 5-14

N-8000 設定ソフトウェアを起動する 5-15

機器検出（ネットワーク設定）機能 5-17

画面の説明 5-17
機器の設定内容を変更する 5-18

システム設定機能 5-19

画面の説明 5-19
メニュー 5-21
システム全般の設定をする 5-22
交換機の設定をする 5-33
マルチインターフェースの設定をする 5-41
サブ端末インターフェースの設定をする 5-53
IP 端末の設定をする 5-61
交換機に接続する端末とサブ端末接続ユニットに接続する
アナログマスター端末の設定をする 5-82
局線インターフェースの設定をする 5-88
電話インターフェースの設定をする 5-96
音声インターフェースの設定をする 5-105
ダイレクトセレクトの設定をする 5-113

外部システムインターフェースの設定をする 5-120
ページング系統を設定する 5-123
グループの設定をする 5-125

設定が終わったら 5-128

設定内容をファイルに保存する 5-128
設定内容をアップロードする 5-128
設定内容をダウンロードする 5-128
設定内容を印刷する 5-129

システム時刻を設定する 5-130

緊急メッセージの設定をする 5-131

設定画面を表示させる 5-131
メニュー 5-132
オリジナルメッセージを作成・試聴する 5-133
IP マスター端末および IP リモートマイク端末に
メッセージを登録する 5-138

第 6 章　ブラウザーによるシステム設定

ブラウザーでの設定について 6-2

メニュー項目 6-2

メニュー画面を表示させる 6-3

ネットワーク設定 6-5

使用状態の表示 6-7

回線状態の表示（交換機、サブ端末接続ユニットのみ） 6-32

ネットワーク状態の表示 6-38

動作ログ 6-40

ストリームログ 6-42

システム管理 6-45

システム名とパスワードを変更する 6-47

設定ファイルをアップロードする 6-48
設定ファイルをダウンロードする 6-49
ファームウェアを更新する 6-50
時刻を設定する 6-51

第 7 章　多機能端末のメニュー画面操作
（N-8000MS/8500MS/8600MS のみ）

メニュー画面の操作に使用するキー 7-2

メニュー項目 7-3

回線状態をモニターする 7-4

ログファイルを更新する 7-5

音量の設定を確認する（N-8500MS/8600MS のみ） 7-5

LCD バックライトの設定をする（N-8600MS のみ） 7-6

システムを設定する 7-7

保守画面に入る 7-7
ネットワークを設定する 7-8
端末番号を設定する 7-9
システム時刻を設定する 7-10
機器を再起動する 7-11

第 8 章　付録

同時通話と交互通話について 8-2

通話方式 8-2
端末の使用状況による通話方式の違い 8-5
通話が正しく行えないときの対処のしかた 8-6

ネットワークの豆知識 8-7

IP ネットワークとアドレス 8-7
ネットワークアドレスポート変換（NAPT、IP マスカレード）と N-8000 設定ソフトウェア 8-8
ユニキャストとマルチキャストの違い 8-9
ネットワーク経由でのページング先の制限 8-9
機器検出とブロードキャストドメイン 8-10

サンプリング周波数補正機能（N-8000EX/8010EX/8000MI のみ） 8-10
NTP（Network Time Protocol） 8-11

故障かな？と思ったら 8-12

表示灯の状態と異常時の対処のしかた 8-15

仕　様 8-16

IP インターカム交換機　N-8000EX 8-16
IP インターカム交換機　N-8010EX 8-17
多機能マスター端末　N-8000MS 8-18
標準マスター端末　N-8010MS 8-19
ハンズフリー専用標準マスター端末　N-8011MS 8-20
工場用マスター端末　N-8020MS 8-21
ハンズフリー専用埋込型マスター端末　N-8031MS 8-22
オプションハンドセット　RS-191 8-23
ハンズフリー防水壁埋込マスター端末　N-8033MS 8-24
ドア端末　N-8050DS 8-25
IP 多機能マスター端末　N-8500MS 8-26
IP 標準マスター端末　N-8510MS 8-27
IP 標準マスター端末　N-8515MS 8-28
IP 多機能マスター端末　N-8600MS 8-29
IP 標準マスター端末　N-8610MS 8-30
IP 緊急マスター端末　N-8616MS 8-31
IP リモートマイク端末　N-8610RM 8-32
IP ドア端末　N-8540DS 8-33
IP ドア端末　N-8640DS 8-34
IP 屋内ドア端末　N-8650DS 8-35
サブ端末接続ユニット　N-8000RS 8-36
サブ端末接続ユニット　N-8010RS 8-37
屋内用サブ端末　RS-150 8-38
屋内用堅牢型サブ端末　RS-160 8-38
屋外用堅牢型サブ端末　RS-170 8-39
呼び出し表示灯付きサブ端末　RS-180 8-39
スイッチパネル　RS-140 8-40
オプションハンドセット　RS-141 8-40
スイッチボード　RS-142 8-41
スイッチパネル　RS-143 8-41
スイッチパネル　RS-144 8-41
サブ端末接続ユニット　N-8400RS 8-42

アナログ標準マスター端末　N-8410MS 8-43
サブ端末　RS-450 8-44
堅牢型サブ端末　RS-460 8-44
屋外堅牢型サブ端末　RS-470 8-45
呼び出し表示灯付きサブ端末　RS-480 8-46
スイッチボード　RS-442 8-47
オプションハンドセット　RS-481 8-47
マルチインターフェースユニット　N-8000MI 8-48
局線インターフェースユニット　N-8000CO 8-49
音声インターフェースユニット　N-8000AF 8-50
電話インターフェースユニット　N-8000AL 8-51
ダイレクトセレクトユニット　N-8000DI 8-52
スマートマトリクス IP モジュール　SX-200IP 8-53
壁掛卓上金具　YC-280 8-53
壁掛卓上金具　YC-290 8-53
サブ端末屋内露出ボックス　YC-822 8-54
サブ端末屋外露出ボックス　YC-823 8-54
壁埋込／露出兼用ボックス　YC-841 8-54
インターフェースユニット壁掛金具　YC-850 8-55
露出ボックス　YS-13A 8-55
端子盤　E-7000TB 8-55
AC アダプター　AD-1210P 8-56
AC アダプター　AD-1215P 8-56

※ Windows、Windows Vista、SQL Server、および Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
※ Pentium は、米国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。
※ その他の会社名および製品名も各社の商標です。

安全上のご注意

● 適用機種
N-8000EX/8010EX/8000RS/8010RS/8400RS/8000MI/8000DI/8000AF/8000CO/8000AL

※ 以下の安全上のご注意は、交換機 N-8000EX/8010EX、サブ端末接続ユニット N-8000RS/8010RS/8400RS および各種インターフェースユニット N-8000MI/8000DI/8000AF/8000CO/8000AL に適用します。システムに使用する他の機器については、それぞれの機器に付属の取扱説明書に記載されている安全上のご注意をお読みください。

- ご使用の前に、この欄を必ずお読みになり正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保管してください。

表示について

ここでは、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

図記号について

行為を禁止する記号			行為を強制する記号	
分解禁止	禁　止	接触禁止	強　制	電源プラグを抜け

⚠警告　誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

水にぬらさない

本機に水が入ったりしないよう、また、ぬらさないようにご注意ください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

指定外の電源電圧で使用しない

表示された電源電圧を超えた電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたりしないでください。
また、コードの上に重いものをのせないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

禁　止

設置場所の強度を確認する

取付金具類を含む全重量に十分耐えられる強度のある所に取り付けてください。
十分な強度がないと落下して、けがの原因となります。

強　制

⚠警告　誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

使用するとき

万一、異常が起きたら

次の場合、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 煙が出ている、変なにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- 電源コードが傷んだとき（心線の露出、断線など）
- 音が出ないとき

電源プラグを抜け

内部を開けない、改造しない

内部には電圧の高い部分があり、ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。
内部を開けての作業は、専門業者にご依頼ください。

分解禁止

内部に異物を入れない

本機の通風口などから内部に金属類や燃えやすいものなど、異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

雷が鳴ったらさわらない

雷が鳴り出したら、電源プラグにはさわらないでください。
感電の原因となります。

接触禁止

⚠注意　誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。

禁　止

電源コードを引っ張らない

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。

禁　止

ファンの噴き出し口や通風口をふさがない

ふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

禁　止

ラックに取り付けるときの注意

次のことを必ずお守りください。
守らないと、火災・けがの原因となることがあります。

- ラックは安定したところに据え付け、アンカーボルトなどで転倒・移動防止の処置を行うこと。
- 当社のラックに取り付けるねじは、本機に付属のものを使用すること。
- 電源コードをコンセントに接続するときは、コンセントの許容電流を超えないこと。

強　制

使用するとき

上に重いものを置かない

本機のバランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

禁　止

製品の上に乗らない

本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。
倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

禁　止

取扱説明書の構成

このページ以降は、以下の内容で１～８章の構成となっています。
お客様の目的により、必要な章をお読みください。

すべての方	**第1章 システム概要**	・システム構成 ・各部の名称とはたらき ・システムの機能
機器の操作をする方 システム設定をする方	**第2章 機能と操作のしかた**	・マスター端末の機能と操作のしかた ・リモートマイク端末の機能と操作のしかた ・ドア端末の機能と操作のしかた ・サブ端末、スイッチパネルの機能と操作のしかた ・N-8000ALに接続された電話機の機能と操作のしかた ・局線からの操作のしかた ・その他の機能（便利な機能） ・備考（信号音一覧）
機器の設置、配線をする方	**第3章 設置・配線**	・交換機の設置のしかた ・サブ端末接続ユニットの設置のしかた ・各種インターフェースユニットの設置のしかた ・端末の設置のしかた ・配線のしかた
システム設定、保守をする方	**第4章 システム設定の流れ**	・システムの電源の入れかた ・パソコンでのネットワーク設定 ・システム設定の項目と初期値
	第5章 ソフトウェアによるシステム設定	・ソフトウェアの概要 ・インストールと起動のしかた ・機器検出のしかた ・システム設定のしかた
	第6章 ブラウザーによるシステム設定	・ブラウザーの起動のしかた ・ネットワーク設定のしかた ・システムの動作状態表示、動作ログ表示 ・システム管理
	第7章 多機能端末のメニュー画面操作 （N-8000MS/8500MS/8600MSのみ）	・メニュー項目 ・保守機能の使いかた ・設定のしかた
機器の設置、配線をする方	**第8章 付　録**	・ネットワークの豆知識 ・故障かな？と思ったら ・表示灯の状態と異常時の対処のしかた ・仕様

第１章

システム概要

この章では、パケットインターカムシステム N-8000 シリーズの機器構成（交換機、端末、各種インターフェースユニット）、各機器の機能とはたらき、「2 種類の通話方式について」の概略を説明します。

概　要

パケットオーディオ技術*1 を採用したパケットインターカムシステム（IP ネットワーク対応型インターカムシステム）です。
IP インターカム交換機（1 台当たり 16 台の端末が接続可）、IP 端末、各種インターフェースユニットをネットワーク（LAN または WAN*2）に接続して、端末間の相互通話やページング（呼び出し）放送、定時放送、BGM 放送などの構内や広域での情報通信に最適なシステムを構築することができます。交換機、IP 端末、各種インターフェースユニットは合計で最大 192 台まで組み合わせることができます。交換機 192 台を使用すると、最大 3072 台の端末を含むシステムまで対応できます。2 線式端末間の通話は、エコーキャンセラー*3 や音声スイッチにより、ハンズフリーでの通話（双方がハンドセットを使わない通話）を実現しています。条件により、エコーキャンセラーによる同時通話や音声スイッチによる交互通話でのハンズフリー通話となります。（「同時通話と交互通話について」 ☞ P. 8-2）
また、各種インターフェースユニット、モジュールを使用すると、接点入出力制御による接点ブリッジ、接点による外部機器制御や定時放送のタイマー起動、局線との接続、SX-2000 システムへの放送などが実現できます。さらに、2 種類の通話方式に対応しており、マスター／マスター構成のシステムと、マスター／サブ構成のシステムの両方で動作することができます。

*1 ネットワーク上での音声伝送に関する技術
*2 インターネット経由で接続する場合は、固定のグローバル IP アドレスを割り当てる必要があります。
*3 端末の内部スピーカーからの音声がマイクに入ることによって発生するハウリングやエコーを防止する回路

特　長

- 交換機、IP 端末、各種インターフェースユニットをネットワークで接続すれば分散設置もできます。
- 既存のローカルネットワーク（LAN）または広域ネットワーク（WAN）を利用して接続できます。また、光ファイバーのネットワークにも簡単に接続でき、距離の制限がありません。
- 専用の N-8000 設定ソフトウェアを使ってパソコンからシステムの集中管理ができます。
- パソコンからブラウザーを使用してメンテナンス（動作ログや回線状態の確認など）することができます。
- 交換機には次の 3 種類があります。
  （1）2 線式交換機
  　　N-8000EX：内部 4 リンク*、外部 8 リンク*、拡声ページング出力あり
  　　N-8010EX：内部 1 リンク*、外部 2 リンク*、拡声ページング出力なし
  （2）2 心シールド式交換機
  　　N-8000RS：外部 2 リンク*
  　　N-8010RS：外部 1 リンク*
  （3）4 線式交換機
  　　N-8400RS：外部 2 リンク*
- 端末には次の 4 種類があります。
  2 線式、2 心シールド式、4 線式の端末は、同一方式の交換機と接続して動作します。IP 型では、IP 端末だけで動作することができます。（ただし、IP ドア端末だけでシステムを構築することはできません。）
  （1）IP 型端末
  （2）2 線式端末
  （3）2 心シールド式端末
  （4）4 線式端末
- 各種インターフェースユニットには次の 5 種類があります。
  （1）マルチインターフェースユニット
  （2）音声インターフェースユニット
  （3）ダイレクトセレクトユニット
  （4）局線インターフェースユニット
  （5）電話インターフェースユニット
- マルチインターフェースユニットやダイレクトセレクトユニットの接点入出力制御を使って、ドアリモートや CCTV との連動ができます。
- IP 端末を使用すると、交換機を使用しないシステムが実現できます。（ただし、IP ドア端末だけでシステムを構築することはできません。）
- スマートマトリクス IP モジュールを使用すると、SX-2000 システムへの放送ができます。

* リンクとは、通話路のことです。内部 4 リンクとは、1 つの交換機に接続されている端末同士で同時に 4 つの通話または放送ができることを表します。外部 8 リンクとは、他の交換機に接続されている端末や IP 端末などと 8 つの通話または放送ができることを表します。

使用上のご注意

インターネットは、伝送品質が保証されているわけではありません。したがって、このシステムをインターネット経由で接続する場合は、ネットワークが混雑している状態では、パケットの欠落が起こり、通話音声が途切れたり、ノイズが出たりする場合があります。

システム仕様

LAN 接続台数　：交換機、各種インターフェースユニット、IP 端末の合計で最大 192
端末接続台数　：最大 3072（交換機 192 台×1 台あたりの端末数 16 台の場合）
音声リンク数　：最大 768 リンク（192 台の N-8000EX を接続した場合）
　機器内
　　N-8000EX　：4 リンク
　　N-8010EX　：1 リンク
　　N-8400RS　：1 リンク
　機器間
　　N-8000EX　：8 リンク
　　N-8010EX　：2 リンク
　　N-8000RS　：2 リンク
　　N-8010RS　：1 リンク
　　N-8400RS　：2 リンク
　　N-8000MI　：2 リンク
　　　通話（PBX またはタイラインを使用）最大 2
　　　音声入力　最大 2
　　　音声出力　最大 2
　　　（併用可）（☞ P. 1-15 の表）
　　SX-200IP　：2 リンク

ページング
　系統数　：最大 192
　拡声出力　：最大 384（192 台の N-8000EX またはマルチインターフェースユニットを接続した場合）
　　N-8000EX　：2 出力
　　N-8000MI　：2 出力
　　N-8000AF　：1 出力
　同時使用可能数
　　N-8000EX　：マルチキャストページング最大 4 リンク
　　　ユニキャストページング 1 リンク
　　N-8010EX　：マルチキャストページング最大 2 リンク
　　　ユニキャストページング 1 リンク
　　N-8000MI　：マルチキャストページング最大 2 リンク
　　　ユニキャストページング 1 リンク
　　N-8000AF　：マルチキャストページング最大 1 リンク
　　　ユニキャストページング 1 リンク
　　N-8500MS　：マルチキャストページング 1 リンク
　　　ユニキャストページング 1 リンク
　　N-8510MS　：マルチキャストページング 1 リンク
　　　ユニキャストページング 1 リンク
　　N-8515MS　：マルチキャストページング 1 リンク
　　　ユニキャストページング 1 リンク
　　N-8600MS　：マルチキャストページング 1 リンク
　　　ユニキャストページング 1 リンク
　　N-8610MS　：マルチキャストページング 1 リンク
　　　ユニキャストページング 1 リンク
　　N-8616MS　：マルチキャストページング 1 リンク
　　　ユニキャストページング 1 リンク
　　N-8610RM　：マルチキャストページング 1 リンク
　　　ユニキャストページング 1 リンク
　　N-8000AL　：マルチキャストページング 1 リンク
　　　ユニキャストページング 1 リンク
　　N-8000CO　：マルチキャストページング 1 リンク
　　　ユニキャストページング 1 リンク

N-8400RS	：マルチキャストページング最大 2 リンク ユニキャストページング 1 リンク
SX-200IP	：マルチキャストゾーン放送　2 リンク ユニキャストゾーン放送　2 リンク
呼び出し先（ネットワーク経由）	：マルチキャストページング　最大 191 カ所 ユニキャストページング　最大 16 カ所（N-8000AL/8000AF/8000CO/8616MS は最大 8 カ所）
SX-2000 システムゾーン放送	：1 システム最大 16 バス 8 システム最大 128 バス
BGM	：最大 8 系統（端末から選択可能なチャンネル数）
PBX インターフェース	：最大 384（192 台のマルチインターフェースユニットを接続した場合）
タイラインインターフェース	：最大 384（192 台のマルチインターフェースユニットを接続した場合）
局線インターフェース	：最大 192（192 台の局線インターフェースユニットを接続した場合）
電話インターフェース	：最大 192（192 台の電話インターフェースユニットを接続した場合）
外部接点出力	
N-8000MI	：最大 3072（192 台のマルチインターフェースユニットを接続した場合）
N-8000DI	：最大 6144（192 台のダイレクトセレクトユニットを接続した場合）
N-8000AF	：最大 1536（192 台の音声インターフェースユニットを接続した場合）
外部接点入力	
N-8000MI	：最大 3072（192 台のマルチインターフェースユニットを接続した場合）
N-8000DI	：最大 6144（192 台のダイレクトセレクトユニットを接続した場合）
N-8000AF	：最大 1536（192 台の音声インターフェースユニットを接続した場合）
システム設定	：N-8000 設定ソフトウェアによるパソコン設定（LAN 経由）

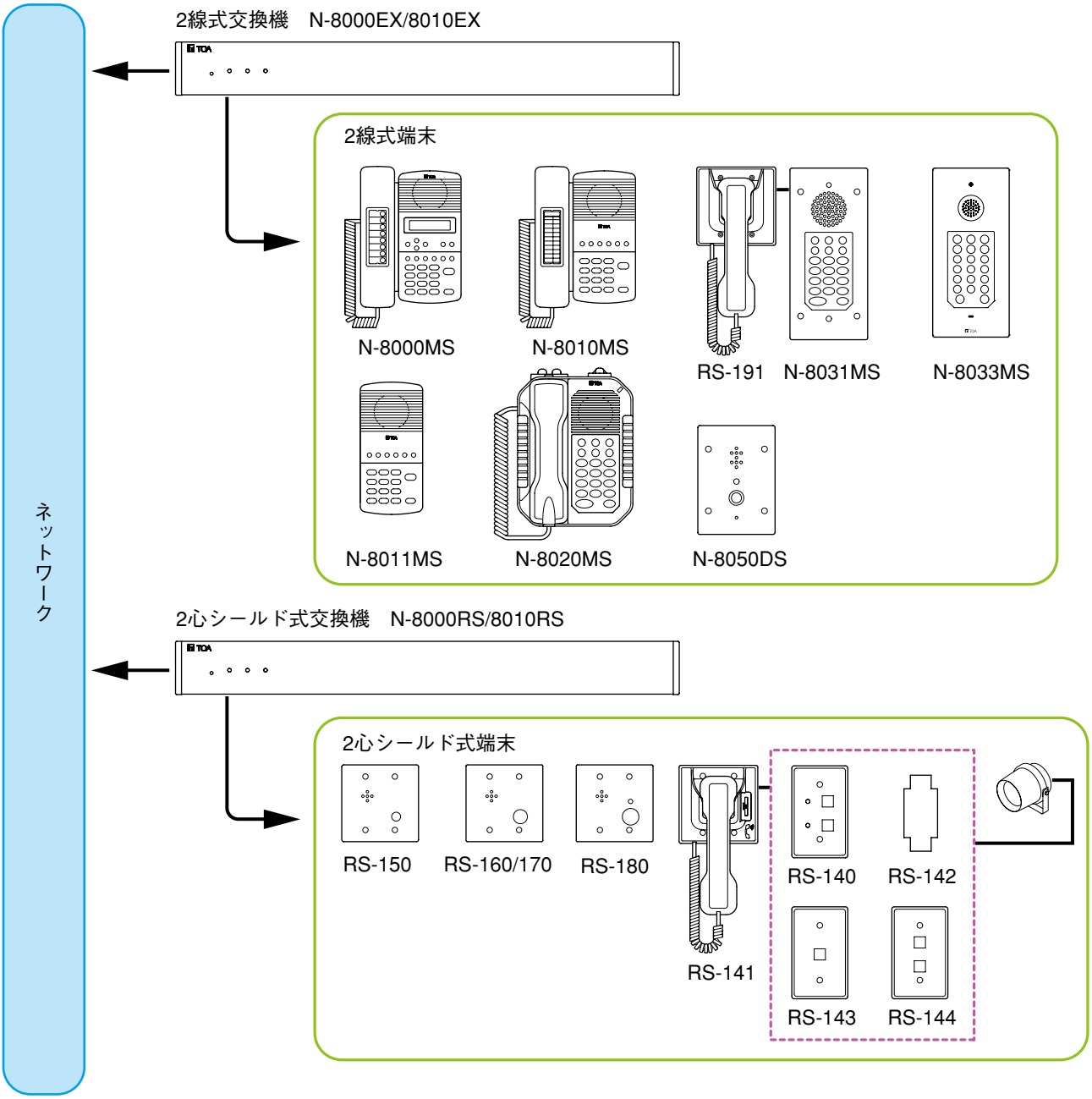
（ネットワーク関連）

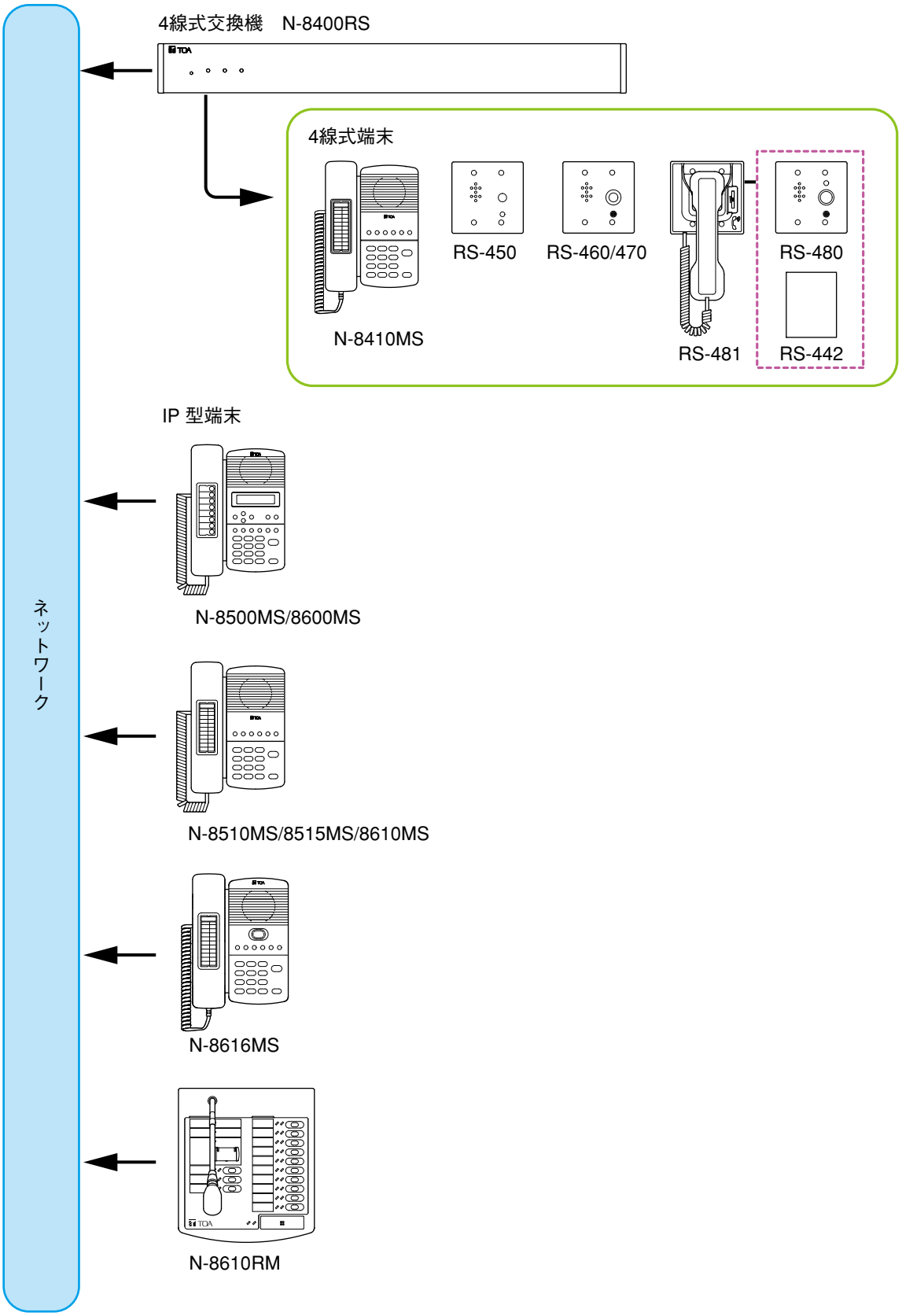
音声遅延時間	：80 ms/320 ms 切り換え
接続遅延時間	：最大 1 秒（マルチキャストページング呼び出し先 191 カ所指定時）
使用帯域	：最大 2.08 Mbps（片方向）／ユニキャストページング 16 カ所放送時 最大 130 kbps（双方向）／ 1 通話当たり

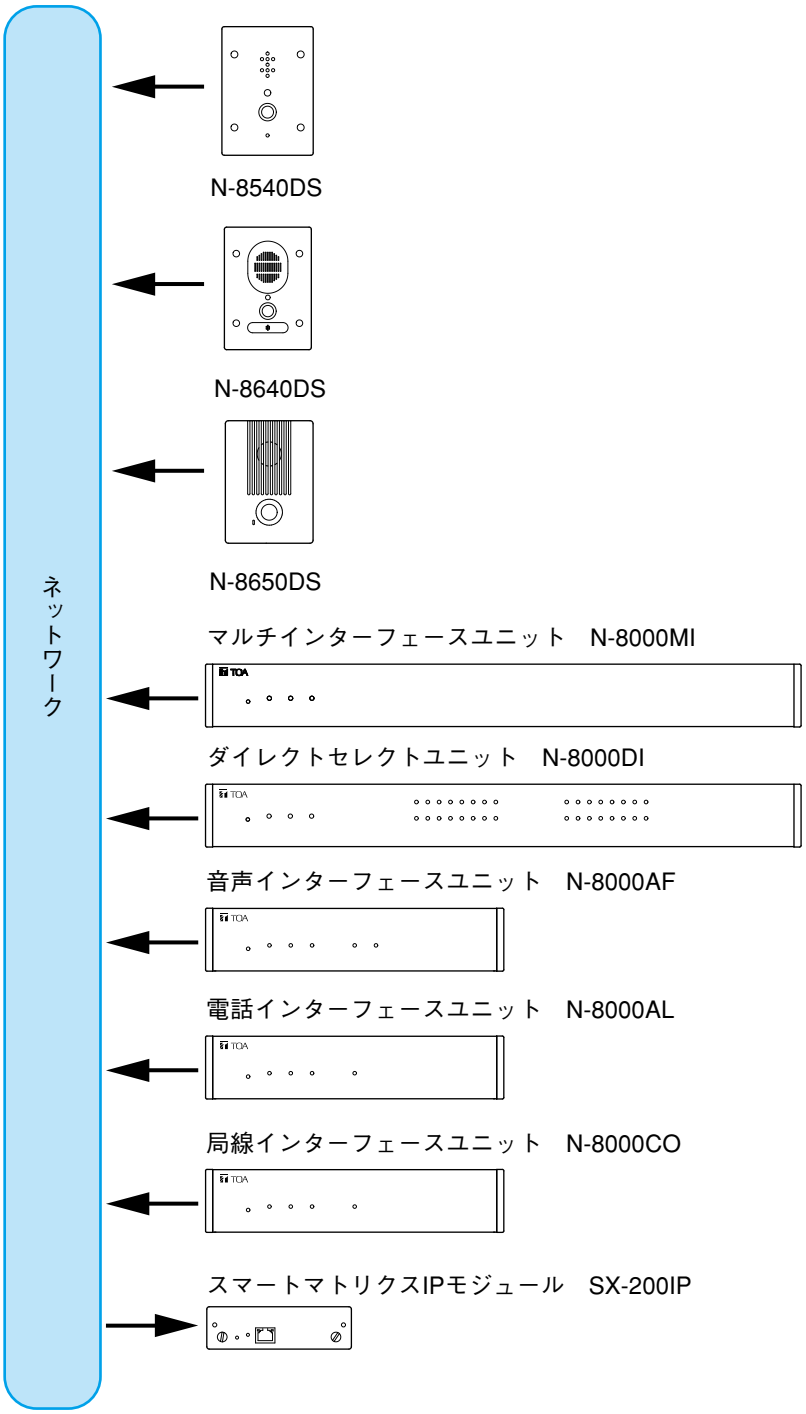
システム構成

■ システム構成例

本システムは、以下のような機器で構成されます。




4線式交換機　N-8400RS
4線式端末
N-8410MS
RS-450
RS-460/470
RS-481
RS-480
RS-442
IP 型端末
N-8500MS/8600MS
N-8510MS/8515MS/8610MS
N-8616MS
N-8610RM
ネットワーク


ネットワーク
N-8540DS
N-8640DS
N-8650DS
マルチインターフェースユニット　N-8000MI
ダイレクトセレクトユニット　N-8000DI
音声インターフェースユニット　N-8000AF
電話インターフェースユニット　N-8000AL
局線インターフェースユニット　N-8000CO
スマートマトリクスIPモジュール　SX-200IP

● 交換機

[2 線式交換機]
N-8000EX ：IP インターカム交換機
N-8010EX ：IP インターカム交換機

[2 心シールド式交換機]
N-8000RS ：IP インターカムサブ端末接続ユニット
N-8010RS ：IP インターカムサブ端末接続ユニット

[4 線式交換機]
N-8400RS ：IP インターカムサブ端末接続ユニット

● 端末

[IP 型端末]
N-8500MS：IP 多機能マスター端末
N-8510MS：IP 標準マスター端末
N-8515MS：IP 標準マスター端末（PoE 機能なし）
N-8600MS：IP 多機能マスター端末
N-8610MS：IP 標準マスター端末
N-8616MS：IP 緊急マスター端末
N-8610RM：IP リモートマイク端末
N-8540DS：IP ドア端末
N-8640DS：IP ドア端末
N-8650DS：IP 屋内ドア端末

[2 線式端末]
N-8000MS：多機能マスター端末
N-8010MS：標準マスター端末
N-8011MS：ハンズフリー専用標準マスター端末
N-8020MS：工場用マスター端末
N-8031MS：ハンズフリー専用埋込型マスター端末
N-8033MS：ハンズフリー防水壁埋込マスター端末
RS-191　：オプションハンドセット
N-8050DS：ドア端末

[2 心シールド式端末]
RS-150　：サブ端末
RS-160　：サブ端末
RS-170　：サブ端末
RS-180　：サブ端末
RS-140　：スイッチパネル
RS-141　：オプションハンドセット
RS-142　：スイッチボード
RS-143　：スイッチパネル
RS-144　：スイッチパネル

[4 線式端末]
N-8410MS：アナログ標準マスター端末
RS-442　：スイッチボード
RS-450　：サブ端末
RS-460　：サブ端末
RS-470　：サブ端末
RS-480　：サブ端末
RS-481　：オプションハンドセット

● 周辺機器

N-8000MI ：マルチインターフェースユニット
N-8000DI ：ダイレクトセレクトユニット
N-8000AF ：音声インターフェースユニット
N-8000CO：局線インターフェースユニット
N-8000AL ：電話インターフェースユニット
SX-200IP ：スマートマトリクス IP モジュール

● その他

YC-280　：壁掛卓上金具（N-8000MS/8010MS/8020MS/8410MS/8500MS/8510MS/8515MS/8600MS/8610MS/8616MS 用）
YC-290　：壁掛卓上金具（N-8011MS 用）
YC-822　：サブ端末屋内露出ボックス
YC-823　：サブ端末屋外露出ボックス
YC-841　：壁埋込／露出兼用ボックス（N-8033MS 用）
YC-850　：インターフェースユニット壁掛金具（N-8000RS/8010RS/8400RS/8000DI/8000AF/8000CO/8000AL 用）
YS-13A　：露出ボックス（N-8050DS/8540DS/8640DS/8650DS 用）
AD-1210P：AC アダプター（N-8500MS/8510MS/8515MS*/8600MS/8616MS*/8540DS/8640DS/8650DS 用）
AD-1215P：AC アダプター（N-8500MS/8510MS/8515MS*/8600MS/8610MS/8616MS*/8540DS/8640DS/8650DS 用）
*N-8515MS/8616MS には AC アダプター付属
E-7000TB：40 局端子盤
CR-273　：キャビネットラック
CR-413　：キャビネットラック
PD-022　：パワーディストリビューター

■ 機器概要

● 交換機

[2 線式交換機]

- IP インターカム交換機　N-8000EX

  2 線式端末を 16 台、拡声ページング出力を 2 系統接続することができる交換機です。
  通話リンクは、内部 4 リンク、外部 8 リンクです。
  ネットワークインターフェースを持ち、IP 端末、各種インターフェースユニット、および他の IP インターカム交換機と接続できます。
  1U サイズのラックマウント型で、卓上設置や壁掛けにも対応できます。

- IP インターカム交換機　N-8010EX

  2 線式端末を 16 台接続することができる交換機です。
  通話リンクは、内部 1 リンク、外部 2 リンクです。拡声ページング出力はありません。
  ネットワークインターフェースを持ち、IP 端末、各種インターフェースユニット、および他の IP インターカム交換機と接続できます。
  1U サイズのラックマウント型で、卓上設置や壁掛けにも対応できます。

[2 心シールド式交換機]

- IP インターカムサブ端末接続ユニット　N-8000RS

  2 心シールド式端末を 16 台接続することができる交換機です。
  通話リンクは、外部 2 リンクです。
  ネットワークインターフェースを持ち、IP 端末、各種インターフェースユニット、および他の IP インターカム交換機と接続できます。
  1U サイズのラックマウント型で、卓上設置や壁掛けにも対応できます。

- IP インターカムサブ端末接続ユニット　N-8010RS

  2 心シールド式端末を 16 台接続することができる交換機です。
  通話リンクは、外部 1 リンクです。
  ネットワークインターフェースを持ち、IP 端末、各種インターフェースユニット、および他の IP インターカム交換機と接続できます。
  1U サイズのラックマウント型で、卓上設置や壁掛けにも対応できます。

[4 線式交換機]

- IP インターカムサブ端末接続ユニット　N-8400RS

  4 線式端末を 16 台接続することができる交換機です。
  通話リンクは、内部 1 リンク、外部 2 リンクです。
  ネットワークインターフェースを持ち、IP 端末、各種インターフェースユニット、および他の IP インターカム交換機と接続できます。
  1U サイズのラックマウント型で、卓上設置や壁掛けにも対応できます。

交換機種類	品 番	通信方式	内部リンク	外部リンク
2 線式交換機	N-8000EX	音声：ディジタル PCM	4	8
	N-8010EX	制御：多重方式	1	2
2 心シールド式交換機	N-8000RS	音声：アナログベースバンド	内部通話不可	2
	N-8010RS	制御：電流ループ方式		1
4 線式交換機	N-8400RS	音声：アナログベースバンド 制御：電流ループ・パイロット信号併用方式	1	2

● 端末

［IP 型端末］

端末名称	仕　様												
	通話方式			設置方法				液晶表示	オートダイヤル	外部スピーカー	制御出力	制御入力	PCカスケード接続	電源
	ハンドセット	ハンズフリー	ヘッドセット	卓上	壁掛け	埋め込み	露出							
IP多機能マスター端末 N-8500MS	○	○	○	○*1	○*2	—	—	○	○	○	—	—	○	○*3
IP標準マスター端末 N-8510MS	○	○	—	○*1	○*2	—	—	—	—	—	—	○	○	○*3
IP標準マスター端末 N-8515MS	○	○	—	○*1	○*2	—	—	—	—	—	—	○	○	○*4
IP多機能マスター端末 N-8600MS	○	○	○	○*1	○*2	—	—	○	○	○	—	—	—	○*3
IP標準マスター端末 N-8610MS	○	○	—	○*1	○*2	—	—	—	—	—	—	○	○	○*5
IP 緊急マスター端末 N-8616MS	○	—	—	○*1	○*2	—	—	—	—	—	○	○	—	○*4
IP リモートマイク端末 N-8610RM	—	○	—	○	○*6	—	—	—	—	—	—	—	—	○*3
IP ドア端末 N-8540DS	—	○	—	—	—	○*7	○*8	—	—	—	○	—	—	○*3
IP ドア端末 N-8640DS	—	○	—	—	—	○*7	○*8	—	—	○	○	○	—	○*3
IP ドア端末 N-8650DS	—	○	—	—	—	○*7	○*8	—	—	○	○	○	—	○*3

*1　専用の壁掛卓上金具 YC-280 を使用することで、操作面を卓上から 16 ˚傾けることができます。

*2　専用の壁掛卓上金具 YC-280 が必要です。

*3　IEEE802.3af 準拠の PoE（Power over Ethernet）対応スイッチングハブまたは別売の AC アダプター AD-1210P/1215P を使用します。

*4　付属の AC アダプター AD-1210P/1215P を使用します。

*5　IEEE802.3af 準拠の PoE（Power over Ethernet）対応スイッチングハブまたは別売の AC アダプター AD-1215P を使用します。

*6　専用のリモートマイク壁掛金具 WB-RM200 が必要です。

*7　市販の JIS 規格 3 個用スイッチボックス（カバー付き）が必要です。

*8　専用の露出ボックス YS-13A が必要です。

［2 線式端末］

端末名称	仕　様											
	通話方式			設置方法				液晶表示	オートダイヤル	外部スピーカー	制御出力	外部ダイヤル入力
	ハンドセット	ハンズフリー	ヘッドセット	卓上	壁掛け	埋め込み	露出					
多機能マスター端末 N-8000MS	○	○	○	○*1	○*3	—	—	○	○	○	—	—
標準マスター端末 N-8010MS	○	○	—	○*1	○*3	—	—	—	—	—	—	—
ハンズフリー専用標準マスター端末 N-8011MS	—	○	—	○*2	○*4	—	—	—	—	—	—	—
工場用マスター端末 N-8020MS	○	○	—	○*1	○*3	—	—	—	—	○	○	—
ハンズフリー専用埋込型マスター端末 N-8031MS	△*5	○	—	—	—	○*6	○*8	—	—	—	—	○
ハンズフリー防水壁埋込マスター端末 N-8033MS	—	○	—	—	—	○*10	○*10	—	—	—	—	○
ドア端末 N-8050DS	—	○	—	—	—	○*7	○*9	—	—	—	○	—

*1 専用の壁掛卓上金具 YC-280 を使用することで、操作面を卓上から 16 ˚傾けることができます。
*2 専用の壁掛卓上金具 YC-290 を使用することで、操作面を卓上から 16 ˚傾けることができます。
*3 専用の壁掛卓上金具 YC-280 が必要です。
*4 専用の壁掛卓上金具 YC-290 が必要です。
*5 オプションハンドセット RS-191 と組み合わせて使用すると、ハンドセット通話ができます。
*6 市販の JIS 規格 5 個用スイッチボックス（カバー付き）が必要です。
*7 市販の JIS 規格 3 個用スイッチボックス（カバー付き）が必要です。
*8 市販の 5 個用スイッチボックス（パナソニック製 DZB295 を推奨）が必要です。
*9 専用の露出ボックス YS-13A が必要です。
*10 専用の壁埋込／露出兼用ボックス YC-841 が必要です。

［2 心シールド式端末］

端末名称	仕　様					
	通話方式		設置方法		外部スピーカー	制御出力
	ハンドセット	ハンズフリー	埋め込み	露出		
サブ端末 RS-150	—	○	○ *1	○ *2	—	—
サブ端末 RS-160	—	○	○ *1	○ *2	—	—
サブ端末 RS-170	—	○	○ *1	○ *2、*3	—	—
サブ端末 RS-180	—	○	○ *1	○ *2、*3	—	○
スイッチパネル RS-140	○ *4	○ *5	○ *6	○ *7	○ *5	—
スイッチパネル RS-143	○ *4	○ *5	○ *6	○ *7	○ *5	—
スイッチパネル RS-144	○ *4	○ *5	○ *6	○ *7	○ *5	—

*1 市販の JIS C8340 2 個用スイッチボックス（カバー付き）が必要です。

*2 専用の露出ボックス YC-822 が必要です。

*3 専用の露出ボックス YC-823 が必要です。

*4 オプションハンドセット RS-141 と組み合わせて使用すると、ハンドセット通話ができます。

*5 既設の 25 V 用スピーカーなどと接続して、スピーカーを通話用途に利用することができます。（マイク・スピーカーの役割となります。）

*6 市販の JIS C8340 1 個用スイッチボックス（カバー付き）が必要です。

*7 市販の 1 個用スイッチボックス（パナソニック製 DZB271 を推奨）が必要です。

［4 線式端末］

端末名称	仕　様						
	通話方式		設置方法				制御出力
	ハンドセット	ハンズフリー	卓上	壁掛け	埋め込み	露出	
アナログ標準マスター端末 N-8410MS	○	○	○ *1	○ *2	―	―	―
サブ端末 RS-450	―	○	―	―	○ *3	○ *4	―
サブ端末 RS-460	―	○	―	―	○ *3	○ *4	―
サブ端末 RS-470	―	○	―	―	○ *3	○ *4、*5	―
サブ端末 RS-480	○ *6	○	―	―	○ *3	○ *4、*5	○

*1 専用の壁掛卓上金具 YC-280 を使用することで、操作面を卓上から 16 ˚傾けることができます。

*2 専用の壁掛卓上金具 YC-280 が必要です。

*3 市販の JIS C8340 2 個用スイッチボックス（カバー付き）が必要です。

*4 専用の露出ボックス YC-822 または市販の 2 個用スイッチボックス（パナソニック製 DZB272W を推奨）が必要です。

*5 専用の露出ボックス YC-823 または市販の 2 個用スイッチボックス（パナソニック製 DZB272W を推奨）が必要です。

*6 オプションハンドセット RS-481 と組み合わせて使用すると、ハンドセット通話ができます。

● 周辺機器

［マルチインターフェースユニット　N-8000MI］

2 回線の音声入出力と 16 接点の入出力を持ち、以下のインターフェース機能* を実現するユニットです。

- EXES-2000、EXES-6000、EXES-7000 と接続するタイラインインターフェース機能。
- PBX の OD トランクと接続する PBX インターフェース機能。
- 拡声機器と接続する拡声ページングインターフェース機能。
- メロディクスやチャイムなどの制御付き演奏機器やリモートマイクと接続する外部入力放送インターフェース機能。
- リモート制御機能のない演奏機器や呼び出しマイクと接続する外部入力放送インターフェース機能。
- リレー接点で表示器や外部機器（CCTV のスイッチャーなど）を制御するインターフェース機能。
- 接点入力と接点出力で、指定したマスター端末に対し、発呼局表示、リモートダイヤル機能を実現するインターフェース機能。
- 接点出力で、システム上の回線およびネットワーク状態を診断し通知するインターフェース機能。

ネットワークインターフェースを持ち、IP 端末、IP インターカム交換機、および各種インターフェースユニットと接続できます。
1U サイズのラックマウント型で、卓上設置や壁掛けにも対応できます。

* 機能組み合わせパターンは以下の 9 通りです。

インターフェース種類	組み合わせパターン								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
PBX 1	○	○	○	—	—	—	—	—	—
PBX 2	○	—	—	○	○	—	—	—	—
タイライン 1	—	—	—	○	—	○	○	—	—
タイライン 2	—	○	—	—	—	○	—	○	—
音声出力 1	—	—	—	—	○	—	—	○	○
音声出力 2	—	—	○	—	—	—	○	—	○
音声入力 1	—	—	—	—	○	—	—	○	○
音声入力 2	—	—	○	—	—	—	○	—	○
接点入出力	○	○	○	○	○	○	○	○	○

［音声インターフェースユニット　N-8000AF］

1 回線の音声入出力、8 接点の入出力、および 1 接点の調時入力を持ち、以下のインターフェース機能を実現するユニットです。

- 拡声機器と接続する拡声ページングインターフェース機能。
- メロディクスやチャイムなどの制御付き演奏機器やリモートマイクと接続する外部入力放送インターフェース機能。
- リモート制御機能のない演奏機器や呼び出しマイクと接続する外部入力放送インターフェース機能。
- タイマーを持ち、スケジュールされた時間に内蔵音源をページングしたり、接点出力を出すことで外部演奏機器の音声をページングする、タイムシグナル機能。
- 指定したマスター端末の通話を音声出力から出力し、接点出力で連動させて、外部録音機器に録音させるインターフェース機能。
- クロックマスターである N-8000AF の時計を NTP サーバーに合わせる NTP クライアント機能。

ネットワークインターフェースを持ち、IP 端末、IP インターカム交換機、および各種インターフェースユニットと接続できます。
1U サイズ（幅はハーフサイズ）のラックマウント型で、卓上設置や壁掛けにも対応できます。

［ダイレクトセレクトユニット　N-8000DI］

32 接点の入出力を持ち、以下のインターフェース機能を実現するユニットです。
・リレー接点で表示器や外部機器（CCTV のスイッチャーなど）を制御するインターフェース機能。
・接点入力と接点出力で、指定したマスター端末に対し、ダイレクトセレクト機能、発呼局表示、リモートダイヤル機能、接点ブリッジ機能を実現するインターフェース機能。
・接点出力で、システム上の回線およびネットワーク状態を診断し通知するインターフェース機能。
ネットワークインターフェースを持ち、IP 端末、IP インターカム交換機、および各種インターフェースユニットと接続できます。
1U サイズのラックマウント型で、卓上設置や壁掛けにも対応できます。

［局線インターフェースユニット　N-8000CO］

1 回線のアナログ局線回路を持ち、局線と接続して以下の機能を実現するユニットです。
・アナログ局線から指定されたマスター端末を呼び出す、ダイレクトインライン機能。
・アナログ局線からマスター端末をダイヤルにより指定して呼び出す、ダイレクトインダイヤル機能。
・呼び出されたマスター端末が不在や不応答の場合に、アナログ局線へ転送する局線転送機能。
・アナログ局線からページングを行う局線ページング機能。
・アナログ局線から N-8000MI や N-8000DI に接続された外部機器を制御する、局線外部機器制御機能。
ネットワークインターフェースを持ち、IP 端末、IP インターカム交換機、および各種インターフェースユニットと接続できます。
1U サイズ（幅はハーフサイズ）のラックマウント型で、卓上設置や壁掛けにも対応できます。

［電話インターフェースユニット　N-8000AL］

1 回線の電話回線接続回路を持ち、アナログ電話機と接続して以下の機能を実現するユニットです。
・接続したアナログ電話機をマスター端末と同様に操作可能にするマスターステーション機能。
ネットワークインターフェースを持ち、IP 端末、IP インターカム交換機、および各種インターフェースユニットと接続できます。
1U サイズ（幅はハーフサイズ）のラックマウント型で、卓上設置や壁掛けにも対応できます。

［スマートマトリクス IP モジュール　SX-200IP］

N-8000 システムから SX-2000 システムへの放送を実現するためのモジュールです。
SX-2000 システムの音声入力ユニット SX-2100AI に組み込むことで、IP 多機能マスター端末 N-8600MS、IP リモートマイク端末 N-8610RM から、SX-2000 システムの各ゾーンに放送することができます。

● その他

［40 局端子盤　E-7000TB］

端末からの回線を各交換機へ中継するためのクリップ式の端子盤です。
1 ペアのケーブルを 40 回線まで接続できます。
配線には専用の工具 YC-105（別売品）が必要です。
3U サイズのラックマウント型です。

［キャビネットラック　CR-273/413］

交換機、40 局端子盤などを組み込むためのキャビネットラックです。

［パワーディストリビューター　PD-022］

交換機へ電源を供給する機器です。

■ 交換機のラック組み込み例

※ 図は交換機 N-8000EX を使用していますが、N-8010EX、N-8000RS、N-8010RS、N-8400RS の場合も同様です。

● 128 回線交換機のシステム

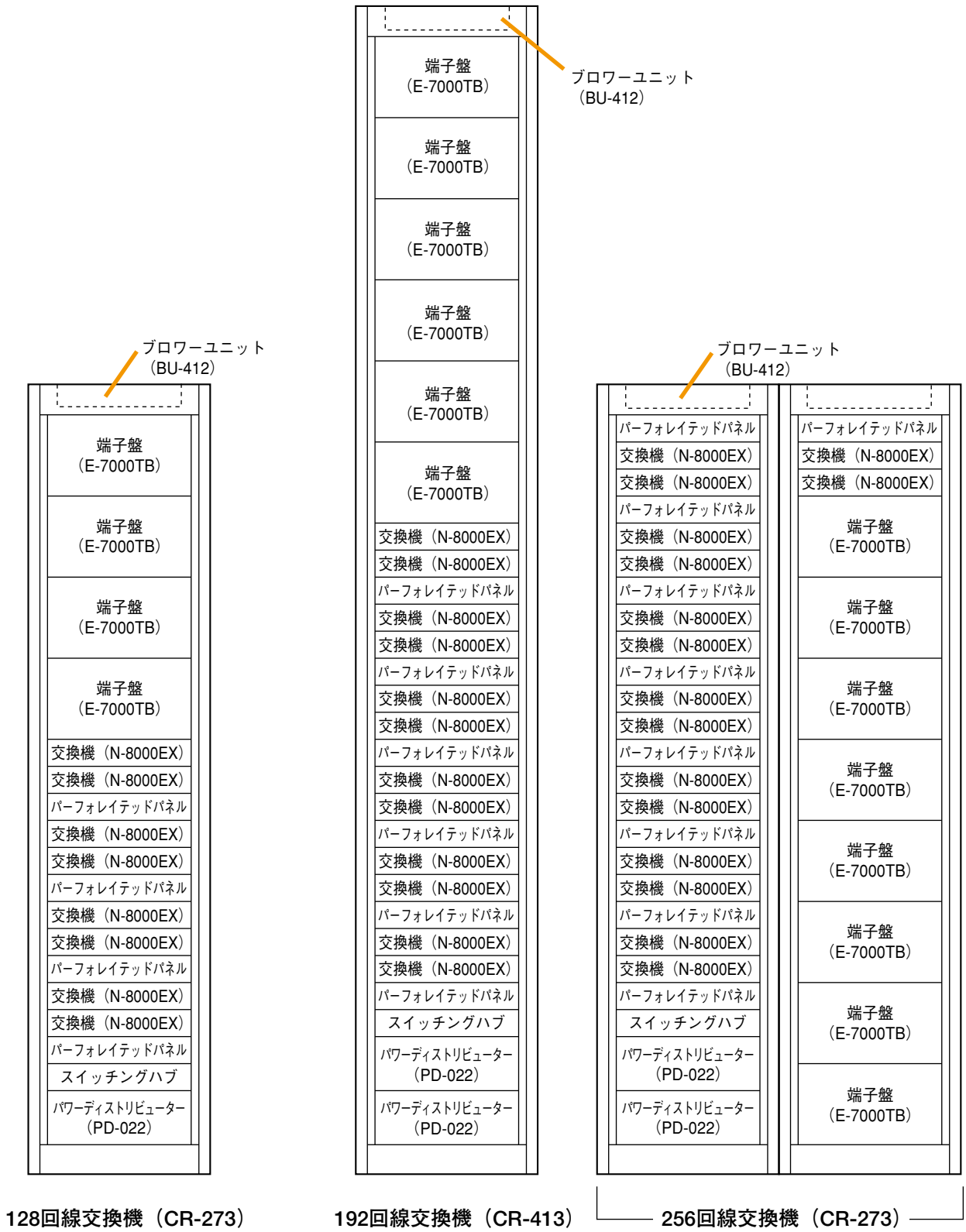
キャビネットラック CR-273 を 1 台使います。

● 192 回線交換機のシステム

キャビネットラック CR-413 を 1 台使います。

● 256 回線交換機のシステム

キャビネットラック CR-273 を 2 台使います。



● 3072 回線交換機のシステム

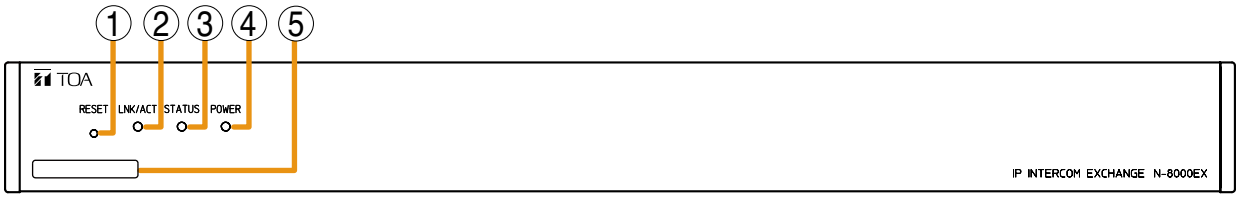
キャビネットラック CR-413 を 16 台使います。

各部の名称とはたらき

■ IP インターカム交換機とそれに接続する機器

● IP インターカム交換機 N-8000EX

［前面］



1. RESET キー［RESET］
押すと、本機を再起動します。

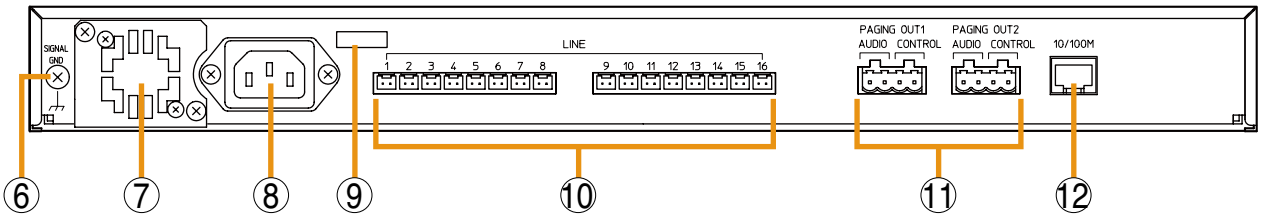
2. LNK/ACT 表示灯［LNK/ACT］（緑）
本機がネットワークに接続されると点灯し、データを送受信中は点滅します。

3. STATUS 表示灯［STATUS］（赤）
内部の記憶媒体（フラッシュメモリー）へデータ書き込み中は点灯し、冷却ファンの故障など交換機に障害があれば点滅します。
（☞ P. 8-15）

4. 電源表示灯［POWER］（緑）
電源を入れると点灯します。

5. MAC アドレス
本機の MAC アドレス*です。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。
* ネットワーク機器につけられた機器固有のアドレスで、12 桁の 16 進数で表現されています。

［後面］



6. 機能アース端子［SIGNAL GND］
必ず接地してください。
※ 安全アースではありません。

7. 冷却ファン

> **⚠ 注意**
> ファンの噴き出し口をふさがないでください。ふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

8. AC インレット
付属の電源コードを接続します。

ご注意

誘雷の恐れのある場合は、電源ラインに適切な電源用保安器を挿入してください。

9. コードクランプ
本機を壁に取り付けて使用するとき、電源コードのプラグが抜けないようにするために、コードを通します。（☞ P. 3-4）

10. 回線接続端子［LINE］
圧接コネクターを使って端末を接続します。
（☞ P. 3-82）

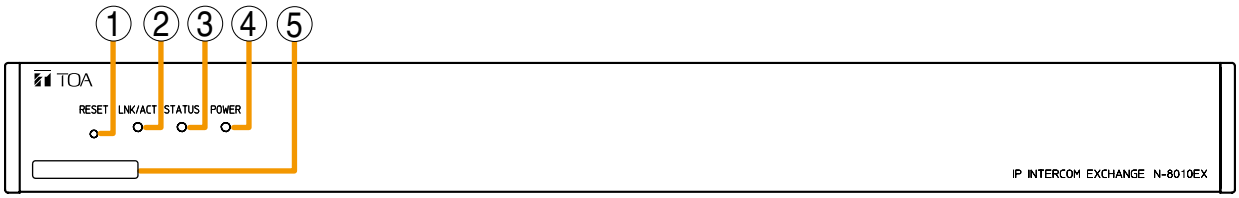
11. ページング出力端子［PAGING OUT 1/2、AUDIO/CONTROL］
音声出力（0 dB *、600 Ω、平衡）と接点出力（無電圧メイク、DC24 V、0.5 A）があります。
接点出力は音声出力中にメイクされます。
着脱式ターミナルプラグを接続します。
（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）

* 0 dB = 1 V

12. ネットワーク接続端子［10/100M］
10BASE-T または 100BASE-TX に対応したネットワークに接続します。
（イーサネット RJ-45 ジャック）

● IP インターカム交換機 N-8010EX

［前面］



1. RESET キー［RESET］
押すと、本機を再起動します。

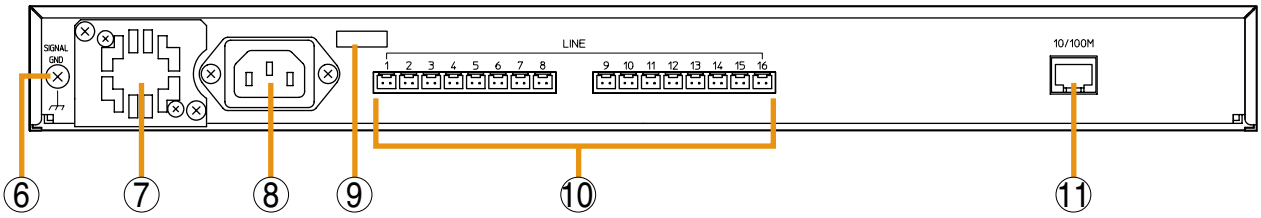
2. LNK/ACT 表示灯［LNK/ACT］（緑）
本機がネットワークに接続されると点灯し、データを送受信中は点滅します。

3. STATUS 表示灯［STATUS］（赤）
内部の記憶媒体（フラッシュメモリー）へデータ書き込み中は点灯し、冷却ファンの故障など交換機に障害があれば点滅します。
（☞ P. 8-15）

4. 電源表示灯［POWER］（緑）
電源を入れると点灯します。

5. MAC アドレス
本機の MAC アドレス*です。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。
* ネットワーク機器につけられた機器固有のアドレスで、12 桁の 16 進数で表現されています。

［後面］



6. 機能アース端子［SIGNAL GND］
必ず接地してください。
※ 安全アースではありません。

7. 冷却ファン

> **⚠ 注意**
> ファンの噴き出し口をふさがないでください。ふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

8. AC インレット
付属の電源コードを接続します。

ご注意
誘雷の恐れのある場合は、電源ラインに適切な電源用保安器を挿入してください。

9. コードクランプ
本機を壁に取り付けて使用するとき、電源コードのプラグが抜けないようにするために、コードを通します。（☞ P. 3-4）

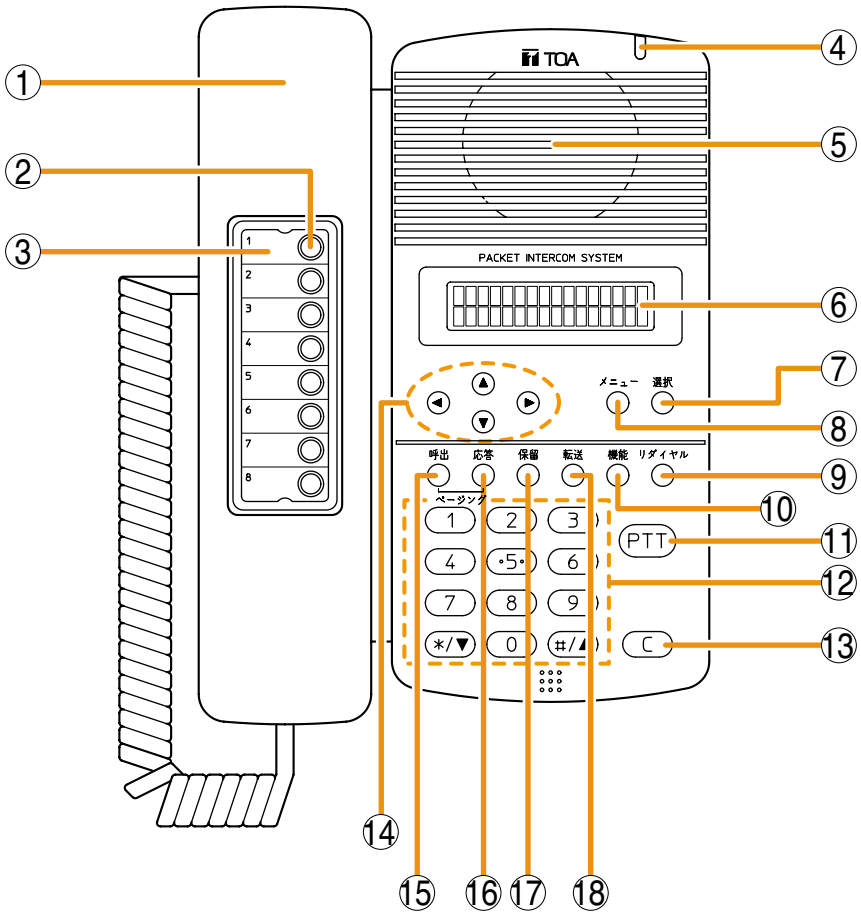
10. 回線接続端子［LINE］
圧接コネクターを使って端末を接続します。
（☞ P. 3-82）

11. ネットワーク接続端子［10/100M］
10BASE-T または 100BASE-TX に対応したネットワークに接続します。
（イーサネット RJ-45 ジャック）

* 0 dB = 1 V

● 多機能マスター端末 N-8000MS

［上面］



1. ハンドセット
ハンドセット通話をするときに使用します。
使用時は、ハンズフリー通話用のマイクとスピーカーは切断されます。

2. オートダイヤルキー
オートダイヤル呼び出し先を登録するときや呼び出すときに使用します。（☞ P. 2-12）

3. 番号簿
オートダイヤルの登録内容を記入します。

4. 状態表示灯（赤）
着信時は点滅、通話中は点灯、待ち受け時は消灯します。また、ページング受信中は点灯します。

5. スピーカー
拡声用のスピーカーで着信音を流したり、ハンズフリー通話に使用したりします。

6. 液晶画面
16 桁×２行の表示で、操作ダイヤルやかかってきた相手番号などを表示します。メニューキー⑧を押すと、メニュー画面を表示します。

7. 選択キー
メニュー項目の選択、入力値の決定に使用します。

8. メニューキー
オートダイヤルの登録（☞ P. 2-12）やシステム設定（☞ 第 7 章）をするときに使用します。

9. リダイヤルキー
直前にしたダイヤル操作を繰り返すときに使用します。（☞ P. 2-9）

10. 機能キー
転送先の設定、ワンタッチダイヤルの登録などの機能設定をするときに使用します。

11. PTT キー［PTT］
連続呼び出し音で呼び出している相手に、このキーを押して音声で呼びかけることができます。（☞ P. 2-10）
また、ハンズフリー通話中に押すと、押した側からの一方向通話になります。（☞ P. 2-7）

12. ダイヤルキー
相手を呼び出したり、機能設定をするときなどに使用します。

13. クリアキー［C］
通話を終了するときに使用します。

14. 矢印キー［▲］［▼］［◄］［►］
オートダイヤルの登録（☞ P. 2-12）やシステム設定（☞ 第 7 章）をするときに使用します。

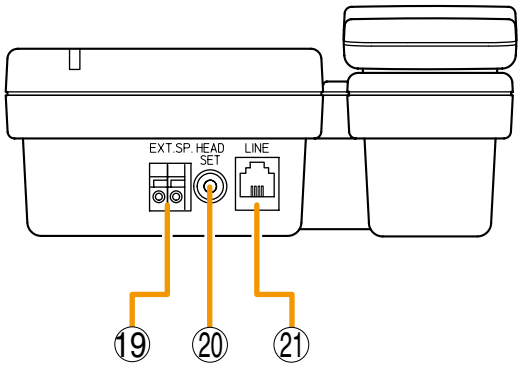
15. ページング呼び出しキー
ページング呼び出し操作をするときに使用します。（☞ P. 2-26）

16. ページング応答キー
ページング応答操作をするときに使用します。（☞ P. 2-32）

17. 保留キー
通話を一時保留するときに使用します。（☞ P. 2-15）

18. 転送キー
通話を他の端末に転送するときに使用します。（☞ P. 2-16）

［後面］

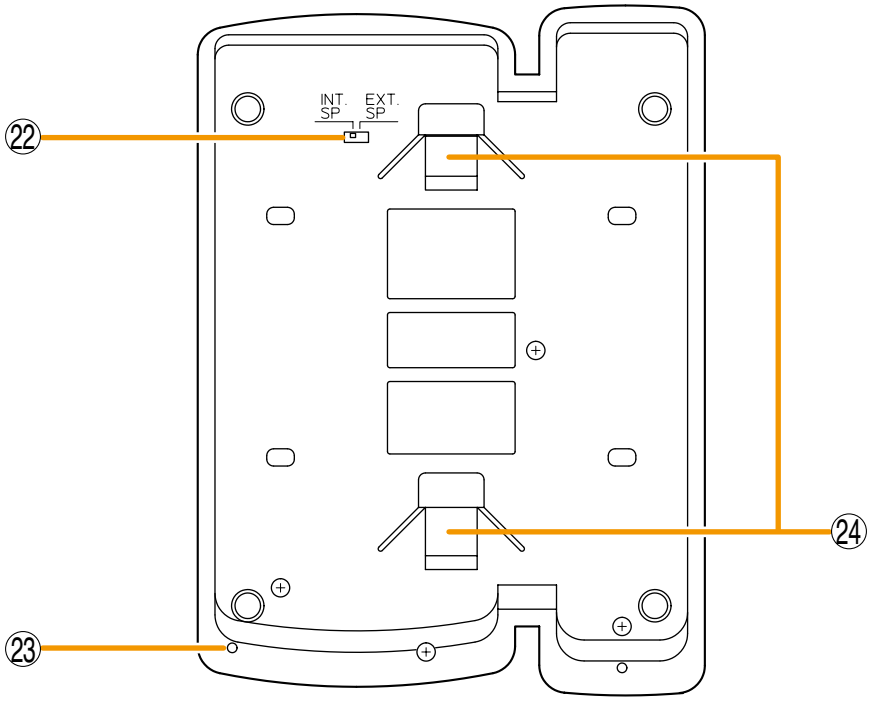


19. 外部スピーカー端子［EXT. SP.］
外部スピーカー（8 Ω、0.6 W 以上）を接続できます。（☞ P. 3-53）
外部スピーカーを使用するときは、底面のスピーカー切換スイッチ（22）を EXT. SP 側に切り換えてください。

20. ヘッドセット端子［HEAD SET］
ヘッドセットを接続できます。
接続すると、上面のスピーカーからの音は出なくなります。

21. 回線接続端子［LINE］
交換機と接続します。
（RJ-11 モジュラージャック）

［底面］



22. スピーカー切換スイッチ［INT. SP / EXT. SP］
内部スピーカー（INT. SP）または外部スピーカー（EXT. SP）の切り換えができます。

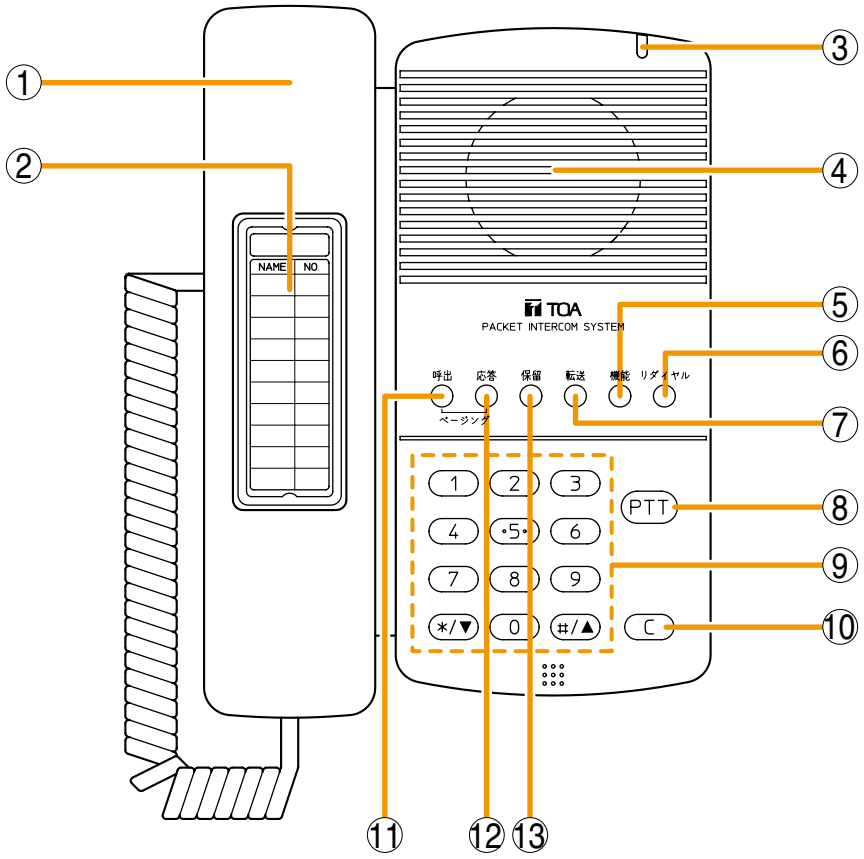
23. マイク
ハンズフリー通話に使用します。

ご注意
マイクの回りに物を置いたりして、ふさがないでください。通話ができなくなります。

24. 壁掛卓上金具挿入口
壁掛卓上金具 YC-280 を使用するとき、金具のフックをここに挿入します。
（☞ P. 3-19、P. 3-23）

● 標準マスター端末 N-8010MS

［上面］



1. ハンドセット
ハンドセット通話をするときに使用します。
使用時は、ハンズフリー通話用のマイクとスピーカーは切断されます。

2. 番号簿
呼び出し先の番号を記入します。

3. 状態表示灯（赤）
着信時は点滅、通話中は点灯、待ち受け時は消灯します。また、ページング受信中は点灯します。

4. スピーカー
拡声用のスピーカーで着信音を流したり、ハンズフリー通話に使用したりします。

5. 機能キー
転送先の設定、ワンタッチダイヤルの登録などの機能設定をするときに使用します。

6. リダイヤルキー
直前にしたダイヤル操作を繰り返すときに使用します。（☞ P. 2-9）

7. 転送キー
通話を他の端末に転送するときに使用します。（☞ P. 2-16））

8. PTT キー［PTT］
連続呼び出し音で呼び出している相手に、このキーを押して音声で呼びかけることができます。（☞ P. 2-10）
また、ハンズフリー通話中に押すと、押した側からの一方向通話になります。（☞ P. 2-7）

9. ダイヤルキー
相手を呼び出したり、機能設定をするときなどに使用します。

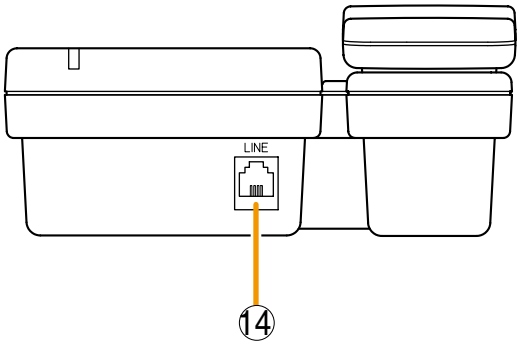
10. クリアキー［C］
通話を終了するときに使用します。

11. ページング呼び出しキー
ページング呼び出し操作をするときに使用します。（☞ P. 2-26）

12. ページング応答キー
ページング応答操作をするときに使用します。（☞ P. 2-32）

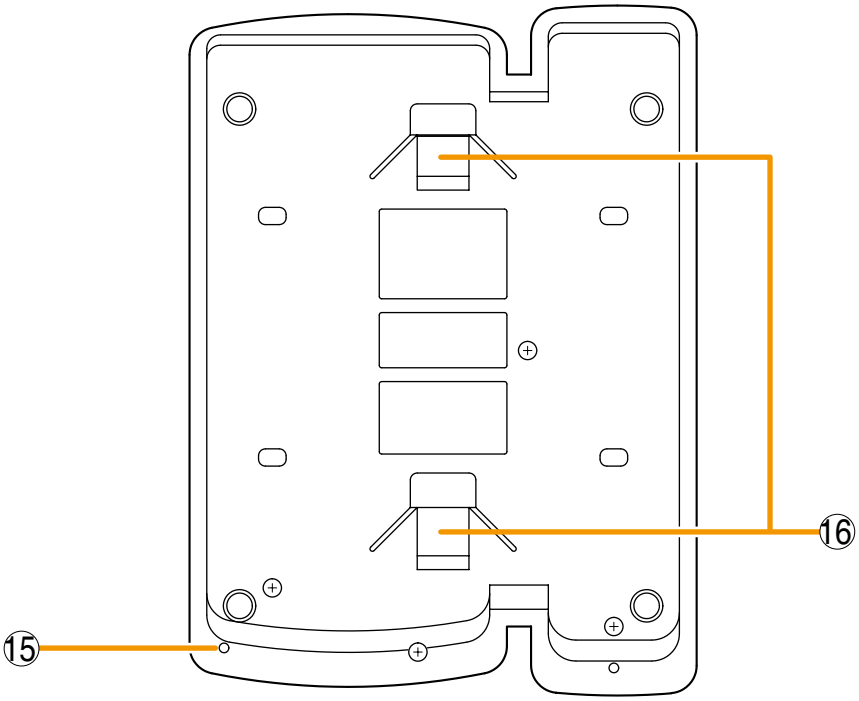
13. 保留キー
通話を一時保留するときに使用します。（☞ P. 2-15）

［後面］



14. 回線接続端子［LINE］
交換機と接続します。
（RJ-11 モジュラージャック）

［底面］



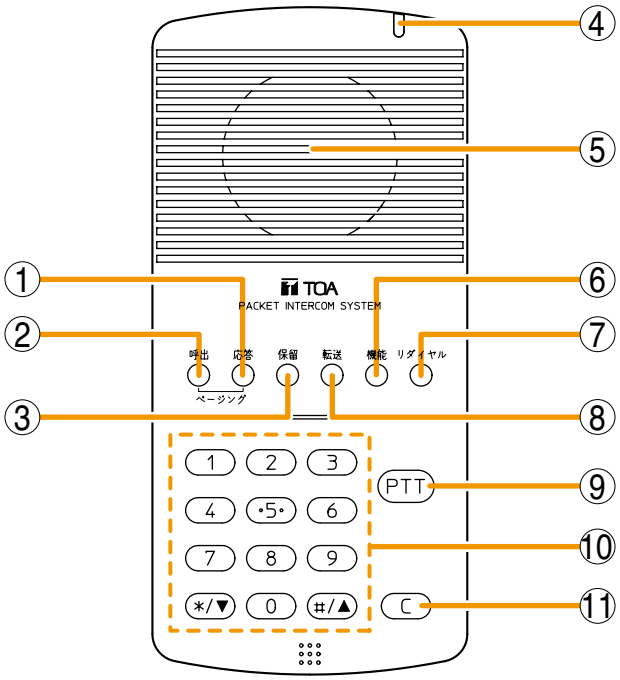
15. マイク
ハンズフリー通話に使用します。

ご注意
マイクの回りに物を置いたりして、ふさがないでください。通話ができなくなります。

16. 壁掛卓上金具挿入口
壁掛卓上金具 YC-280 を使用するとき、金具のフックをここに挿入します。
（☞ P. 3-19、P. 3-23）

● ハンズフリー専用標準マスター端末 N-8011MS

［上面］



1. ページング応答キー
ページング応答操作をするときに使用します。（☞ P. 2-32）

2. ページング呼び出しキー
ページング呼び出し操作をするときに使用します。（☞ P. 2-26）

3. 保留キー
通話を一時保留するときに使用します。（☞ P. 2-15）

4. 状態表示灯（赤）
着信時は点滅、通話中は点灯、待ち受け時は消灯します。また、ページング受信中は点灯します。

5. スピーカー
拡声用のスピーカーで着信音を流したり、ハンズフリー通話に使用したりします。

6. 機能キー
転送先の設定、ワンタッチダイヤルの登録などの機能設定をするときに使用します。

7. リダイヤルキー
直前にしたダイヤル操作を繰り返すときに使用します。（☞ P. 2-9）

8. 転送キー
通話を他の端末に転送するときに使用します。（☞ P. 2-16））

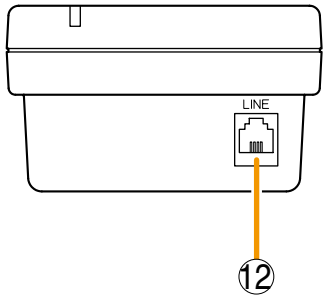
9. PTT キー［PTT］
連続呼び出し音で呼び出している相手に、このキーを押して音声で呼びかけることができます。（☞ P. 2-10）
また、通話中に押すと、押した側からの一方向通話になります。（☞ P. 2-7）

10. ダイヤルキー
相手を呼び出したり、機能設定をするときなどに使用します。

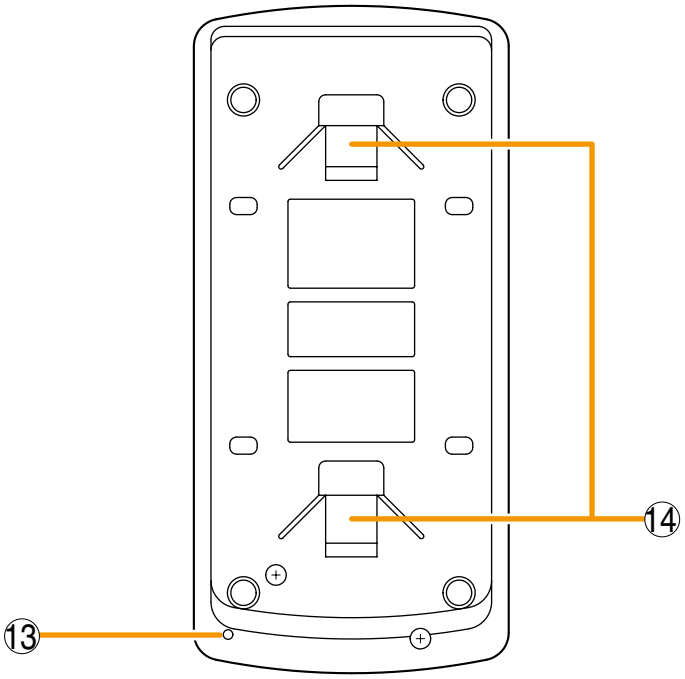
11. クリアキー［C］
通話を終了するときに使用します。

［後面］

12. 回線接続端子［LINE］
交換機と接続します。
（RJ-11 モジュラージャック）



［底面］



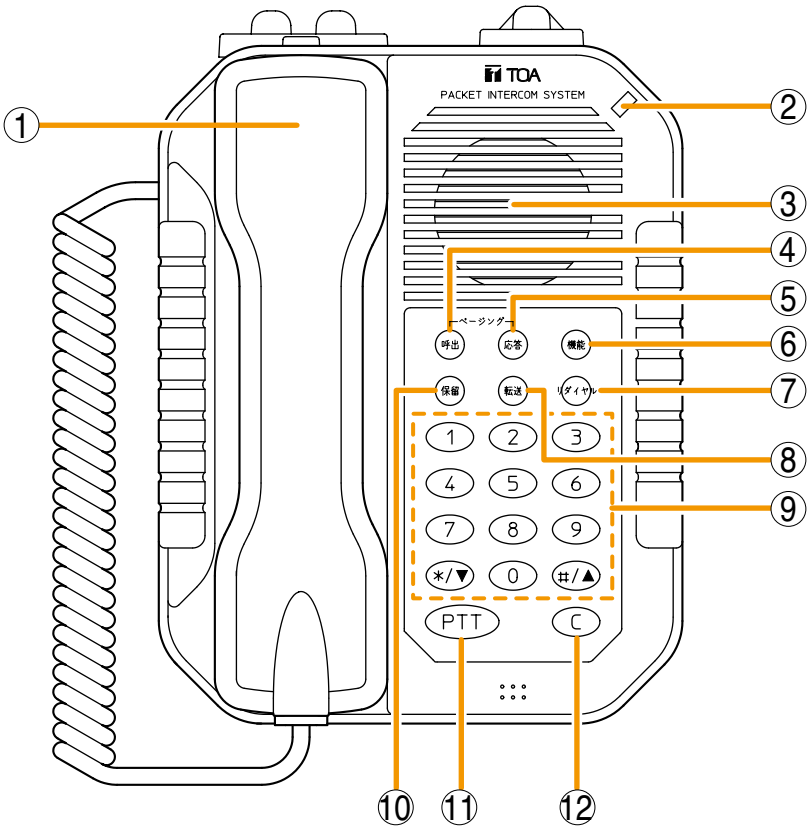
13. マイク
ハンズフリー通話に使用します。

ご注意
マイクの回りに物を置いたりして、ふさがないでください。通話ができなくなります。

14. 壁掛卓上金具挿入口
壁掛卓上金具 YC-290 を使用するとき、金具のフックをここに挿入します。
（☞ P. 3-21、P. 3-24）

● 工場用マスター端末 N-8020MS

［上面］



1. ハンドセット
ハンドセット通話をするときに使用します。
使用時は、ハンズフリー通話用のマイクとスピーカーは切断されます。

2. 状態表示灯（赤）
着信時は点滅、通話中は点灯、待ち受け時は消灯します。また、ページング受信中は点灯します。

3. スピーカー
拡声用のスピーカーで着信音を流したり、ハンズフリー通話に使用したりします。

4. ページング呼び出しキー
ページング呼び出し操作をするときに使用します。（☞ P. 2-26）

5. ページング応答キー
ページング応答操作をするときに使用します。（☞ P. 2-32）

6. 機能キー
転送先の設定、ワンタッチダイヤルの登録などの機能設定をするときに使用します。

7. リダイヤルキー
直前にしたダイヤル操作を繰り返すときに使用します。（☞ P. 2-9）

8. 転送キー
通話を他の端末に転送するときに使用します。（☞ P. 2-16））

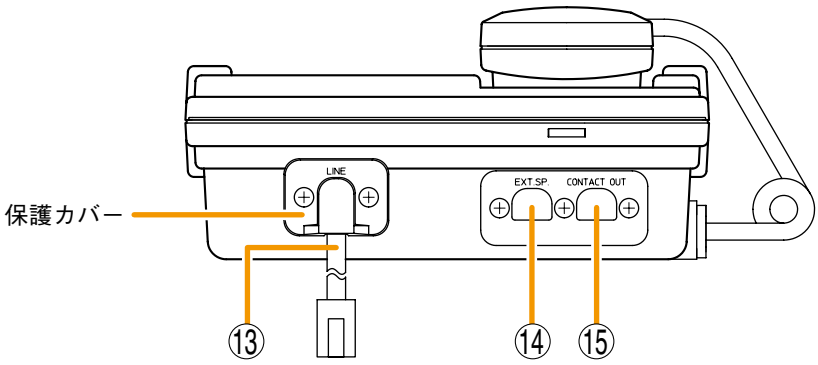
9. ダイヤルキー
相手を呼び出したり、機能設定をするときなどに使用します。

10. 保留キー
通話を一時保留するときに使用します。
（☞ P. 2-15）

11. PTT キー［PTT］
連続呼び出し音で呼び出している相手に、このキーを押して音声で呼びかけることができます。
（☞ P. 2-10）
また、ハンズフリー通話中に押すと、押した側からの一方向通話になります。（☞ P. 2-7）

12. クリアキー［C］
通話を終了するときに使用します。

［後面］



13. 回線接続コード［LINE］
交換機と接続します。
（RJ-11 モジュラープラグ付き、3 m）

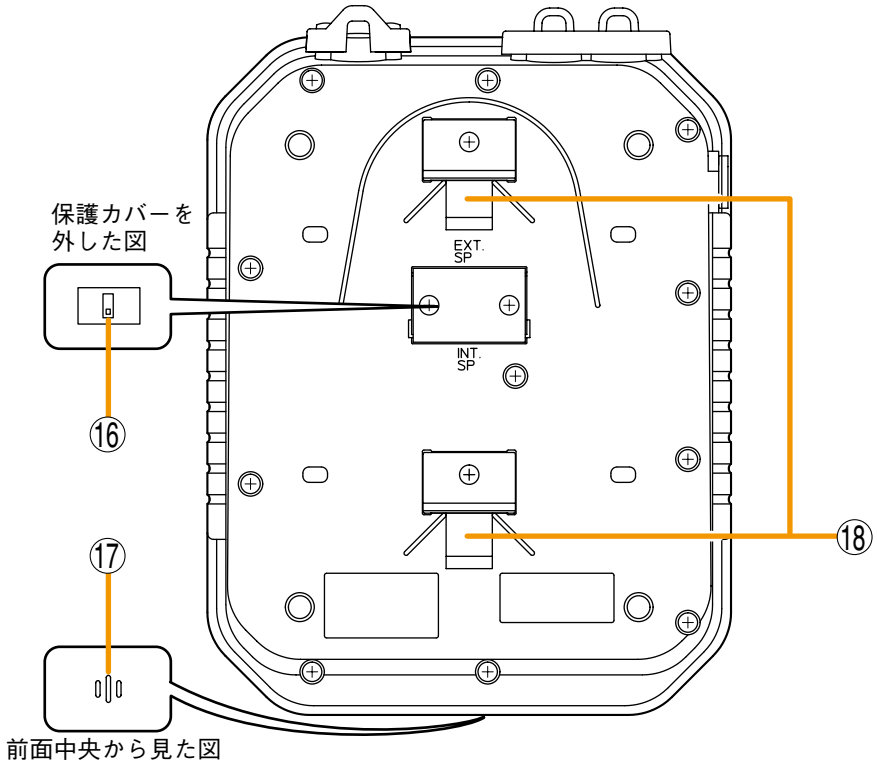
ご注意
保護カバーは取り外さないでください。

14. 外部スピーカー端子［EXT. SP.］
外部スピーカー（8 Ω、0.6 W 以上）を接続できます。接続するときは、保護キャップを付属のゴムブッシングに付け換えてください。
（☞ P. 3-53）

外部スピーカーを使用するときは、底面のスピーカー切換スイッチ（16）を EXT. SP 側に切り換えます。

15. 制御出力端子［CONTACT OUT］
着信を表示する機器（別途製作）を接続できます。呼び出し中のみメイクします。
（出力容量：DC30 V、50 mA）
接続するときは、保護キャップを付属のゴムブッシングに付け換えてください。
（☞ P. 3-53）

［底面］



16. スピーカー切換スイッチ［INT. SP/EXT. SP］
保護カバーを外すと、内部にスイッチがあります。内部スピーカー（INT. SP）または外部スピーカー（EXT. SP）の切り換えができます。切り換えた後は、保護カバーを必ず元どおりに取り付けてください。

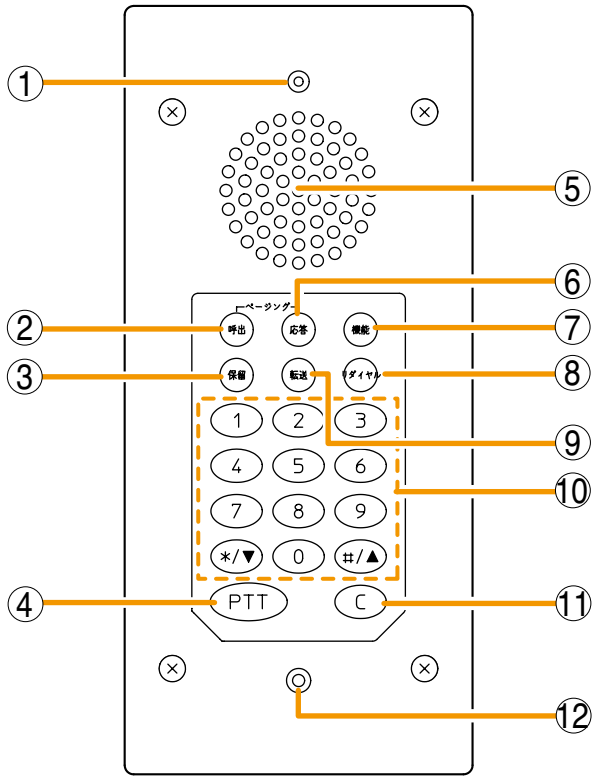
17. マイク
ハンズフリー通話に使用します。

ご注意
マイクの回りに物を置いたりして、ふさがないでください。通話ができなくなります。

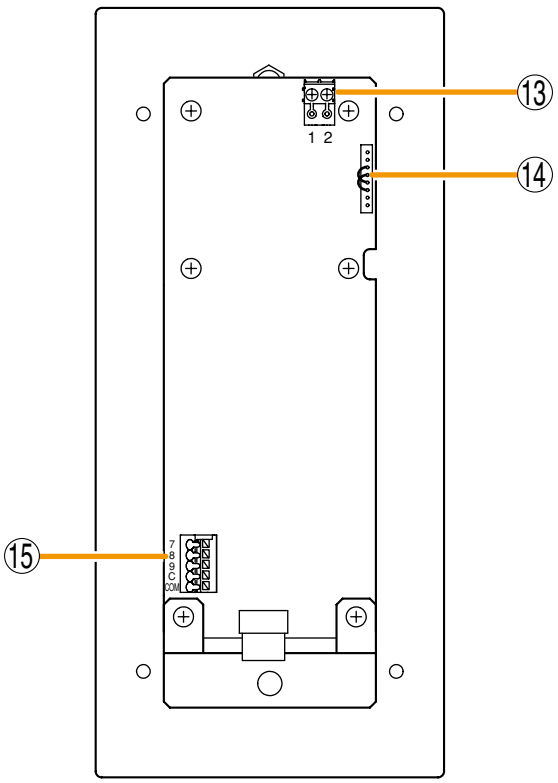
18. 壁掛卓上金具挿入口
壁掛卓上金具 YC-280 を使用するとき、金具のフックをここに挿入します。
（☞ P. 3-19、P. 3-23）

● ハンズフリー専用埋込型マスター端末 N-8031MS

［前面］



［後面］



1. 状態表示灯（赤）
着信時は点滅、通話中は点灯、待ち受け時は消灯します。また、ページング受信中は点灯します。

2. ページング呼び出しキー
ページング呼び出し操作をするときに使用します。（☞ P. 2-26）

3. 保留キー
通話を一時保留するときに使用します。
（☞ P. 2-15）

4. PTT キー［PTT］
連続呼び出し音で呼び出している相手に、このキーを押して音声で呼びかけることができます。
（☞ P. 2-10）
また、ハンズフリー通話中に押すと、押した側からの一方向通話になります。（☞ P. 2-7）

5. スピーカー
拡声用のスピーカーで着信音を流したり、ハンズフリー通話に使用したりします。

6. ページング応答キー
ページング応答操作をするときに使用します。
（☞ P. 2-32）

7. 機能キー
転送先の設定、ワンタッチダイヤルの登録などの機能設定をするときに使用します。

8. リダイヤルキー
直前にしたダイヤル操作を繰り返すときに使用します。（☞ P. 2-9）

9. 転送キー
通話を他の端末に転送するときに使用します。
（☞ P. 2-16））

10. ダイヤルキー
相手を呼び出したり、機能設定をするときなどに使用します。

11. クリアキー［C］
通話を終了するときに使用します。

12. マイク
ハンズフリー通話に使用します。

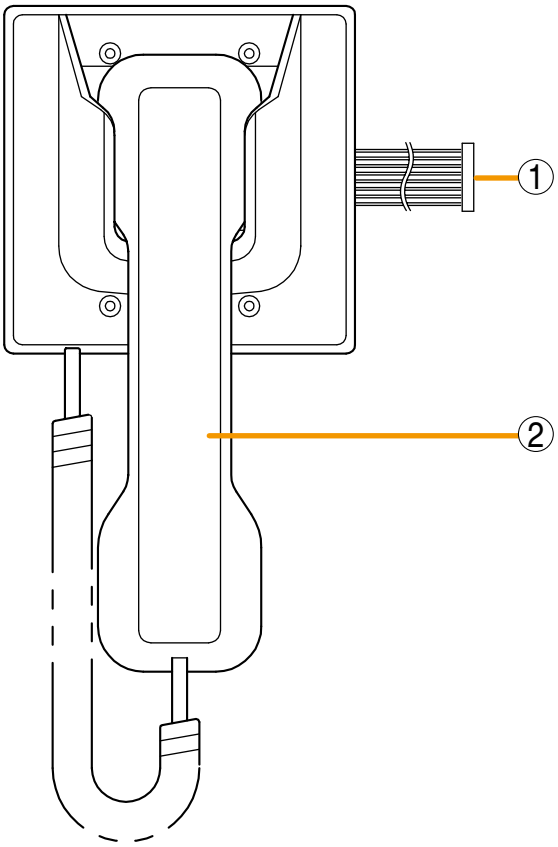
13. 回線接続端子［CN101］
交換機と接続します。（ピンヘッダー）
※ 工場出荷時は付属の着脱式ターミナルプラグ（2P）が装着されています。（☞ P. 3-52）

14. ハンドセット接続端子［CN302］
専用のオプションハンドセット RS-191 を接続できます。（☞ P. 3-54）

15. 外部ダイヤル入力端子［CN306］
フットスイッチなどの外部スイッチを接続できます。（☞ P. 3-55）
使用するときは、ワンタッチダイヤルの登録が必要です。（☞ P. 2-13）

● オプションハンドセット（屋内専用）RS-191

［前面］

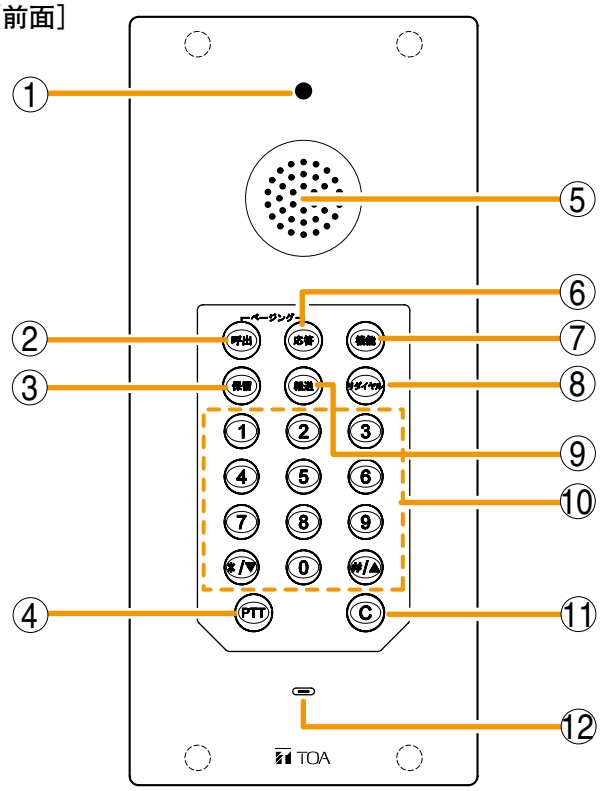


1. ハンドセットケーブル
   N-8031MS のハンドセット接続端子に接続します。

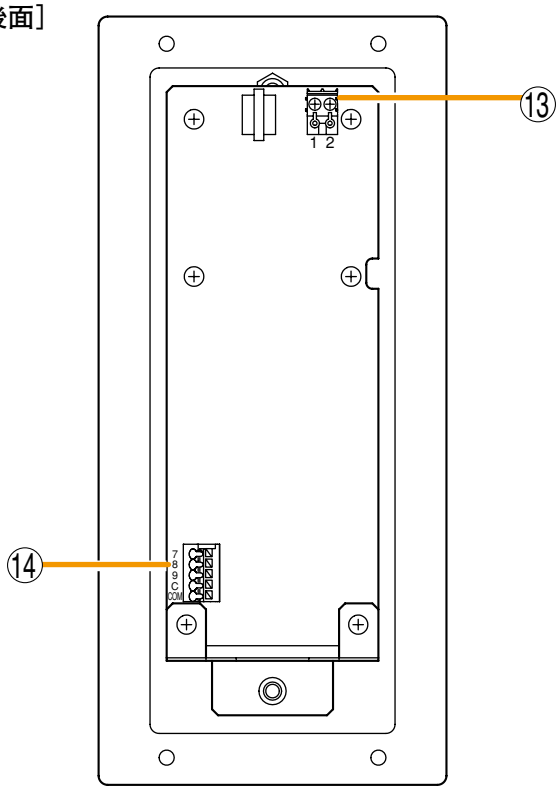
2. ハンドセット
   N-8031MS でハンドセット通話をするときに使用します。
   使用時は、N-8031MS 側にあるハンズフリー通話用のマイクとスピーカーは切断されます。

● ハンズフリー防水壁埋込マスター端末 N-8033MS

［前面］



［後面］



ご注意

前面操作パネルシートは消耗品です。（部品コード 115-51-303-30）
キー操作による使用 100,000 回（約 3 年）を目安に、交換をご検討ください。
交換については、最寄りの当社営業所にお問い合わせください。

1. 状態表示灯（赤）
着信時は点滅、通話中は点灯、待ち受け時は消灯します。また、ページング受信中は点灯します。

2. ページング呼び出しキー
ページング呼び出し操作をするときに使用します。（☞ P. 2-26）

3. 保留キー
通話を一時保留するときに使用します。
（☞ P. 2-15）

4. PTT キー［PTT］
連続呼び出し音で呼び出している相手に、このキーを押して音声で呼びかけることができます。
（☞ P. 2-10）
また、ハンズフリー通話中に押すと、押した側からの一方向通話になります。（☞ P. 2-7）

5. スピーカー
拡声用のスピーカーで着信音を流したり、ハンズフリー通話に使用したりします。

6. ページング応答キー
ページング応答操作をするときに使用します。
（☞ P. 2-32）

7. 機能キー
転送先の設定、ワンタッチダイヤルの登録などの機能設定をするときに使用します。

8. リダイヤルキー
直前にしたダイヤル操作を繰り返すときに使用します。（☞ P. 2-9）

9. 転送キー
通話を他の端末に転送するときに使用します。
（☞ P. 2-16）

10. ダイヤルキー
相手を呼び出したり、機能設定をするときなどに使用します。

11. クリアキー［C］
通話を終了するときに使用します。

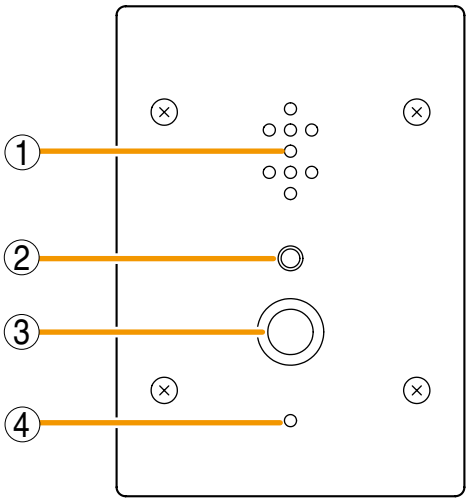
12. マイク
ハンズフリー通話に使用します。

13. 回線接続端子［CN101］
交換機と接続します。（ピンヘッダー）
※ 工場出荷時は付属の着脱式ターミナルプラグ（2P）が装着されています。（☞ P. 3-52）

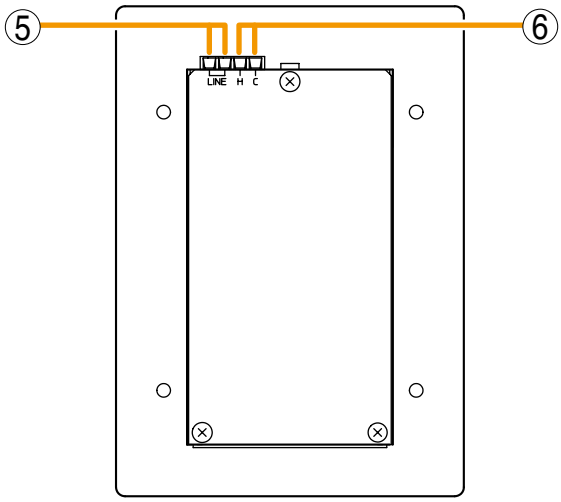
14. 外部ダイヤル入力端子［CN306］
フットスイッチなどの外部スイッチを接続できます。（☞ P. 3-55）
使用するときは、ワンタッチダイヤルの登録が必要です。（☞ P. 2-13）

● ドア端末 N-8050DS

［前面］



［後面］



1. スピーカー
拡声用のスピーカーで着信音を流したり、ハンズフリー通話に使用したりします。

2. 状態表示灯（赤）
着信時は点滅、通話中は点灯、待ち受け時は消灯します。また、ページング受信中は点灯します。

3. 呼び出しボタン
あらかじめ登録されたマスター端末を呼び出すときに使用します。

4. マイク
ハンズフリー通話に使用します。

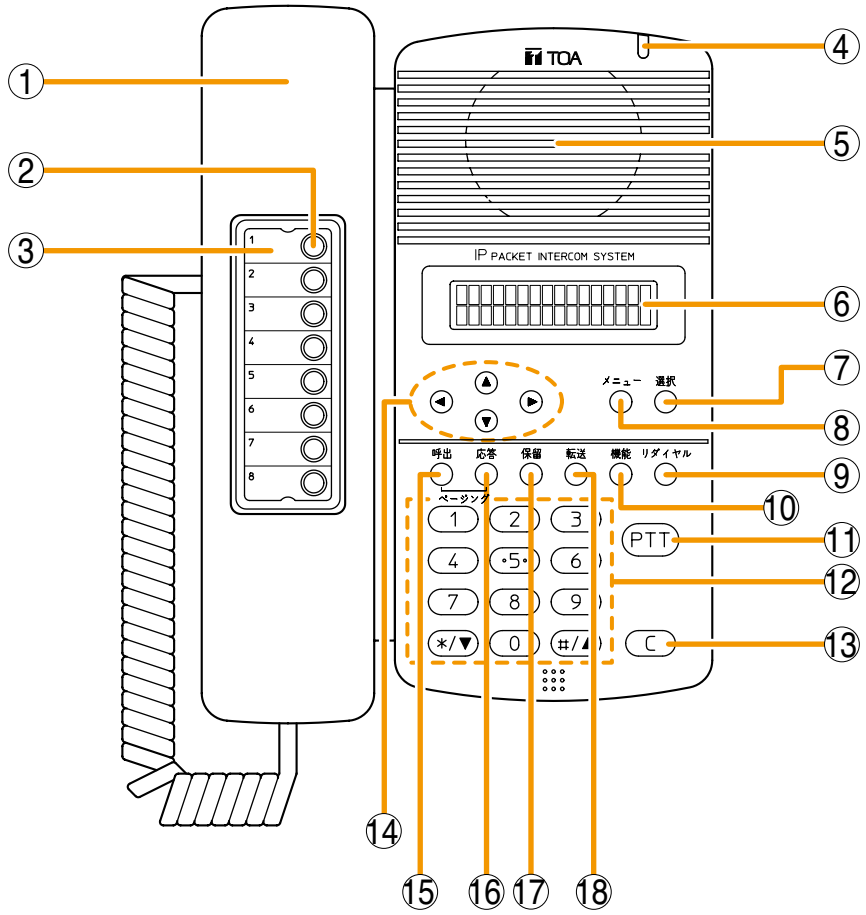
5. 回線接続端子［LINE］
交換機と接続します。
（ターミナルブロック）（☞ P. 3-52）

6. 接点出力端子［H、C］
電子錠などの外部機器を接続できます。
（出力容量：DC30 V、50 mA）
（☞ P. 2-73、P. 2-183、P. 3-55）

■ IP 端末

● IP 多機能マスター端末 N-8500MS

［上面］



1. ハンドセット
ハンドセット通話をするときに使用します。
使用時は、ハンズフリー通話用のマイクとスピーカーは切断されます。

2. オートダイヤルキー
オートダイヤル呼び出し先を登録するときや呼び出すときに使用します。（☞ P. 2-12）

3. 番号簿
オートダイヤルの登録内容を記入します。

4. 状態表示灯（赤）
着信時は点滅、通話中またはページング受信中は点灯、待ち受け時は消灯します。
内部の記憶媒体（フラッシュメモリー）へデータ書き込み中は点灯し、本機に障害があれば点滅します。（☞ P. 8-15）

5. スピーカー
拡声用のスピーカーで着信音を流したり、ハンズフリー通話に使用したりします。

6. 液晶画面
16 桁×2 行の表示で、操作ダイヤルやかかってきた相手番号などを表示します。メニューキー(8)を押すと、メニュー画面を表示します。

7. 選択キー
メニュー項目の選択、入力値の決定に使用します。

8. メニューキー
オートダイヤルの登録（☞ P. 2-12）やシステム設定（☞ 第 7 章）をするときに使用します。

9. リダイヤルキー
直前にしたダイヤル操作を繰り返すときに使用します。（☞ P. 2-9）

10. 機能キー
転送先の設定、ワンタッチダイヤルの登録などの機能設定をするときに使用します。

11. PTT キー［PTT］
連続呼び出し音で呼び出している相手に、このキーを押して音声で呼びかけることができます。（☞ P. 2-10）
また、ハンズフリー通話中に押すと、押した側からの一方向通話になります。（☞ P. 2-7）

12. ダイヤルキー
相手を呼び出したり、機能設定をするときなどに使用します。

13. クリアキー［C］
通話を終了するときに使用します。

14. 矢印キー［▲］［▼］［◄］［►］
オートダイヤルの登録（☞ P. 2-12）やシステム設定（☞ 第 7 章）をするときに使用します。

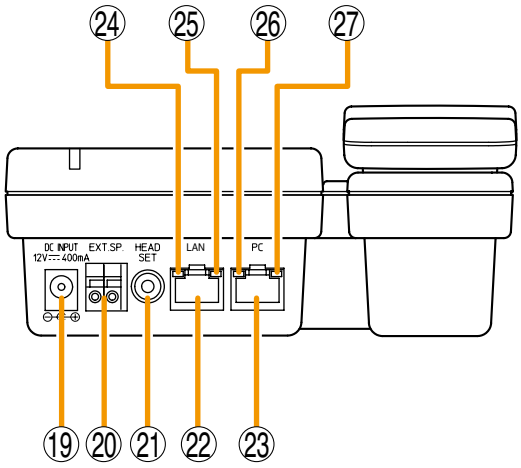
15. ページング呼び出しキー
ページング呼び出し操作をするときに使用します。（☞ P. 2-26）

16. ページング応答キー
ページング応答操作をするときに使用します。（☞ P. 2-32）

17. 保留キー
通話を一時保留するときに使用します。（☞ P. 2-15）

18. 転送キー
通話を他の端末に転送するときに使用します。（☞ P. 2-16）

［後面］



19. AC アダプター端子［DC INPUT］
AC アダプター AD-1210P または AD-1215P を接続します。

20. 外部スピーカー端子［EXT. SP.］
外部スピーカー（8 Ω、0.6 W 以上）を接続できます。（☞ P. 3-71）
外部スピーカーを使用するときは、底面のスピーカー切換スイッチ（29）を EXT. SP 側に切り換えてください。

21. ヘッドセット端子［HEAD SET］
ヘッドセットを接続できます。
接続すると、上面のスピーカーからの音は出なくなります。

22. ネットワーク接続端子［LAN］
10BASE-T または 100BASE-TX に対応したネットワークに接続します。
PoE（Power over Ethernet）に対応したスイッチングハブと接続すれば、AC アダプターなしでも動作します。
（イーサネット RJ-45 ジャック）

23. パソコン接続端子［PC］
パソコンをカスケード接続できます。（PoE には対応していません。）
（イーサネット RJ-45 ジャック）

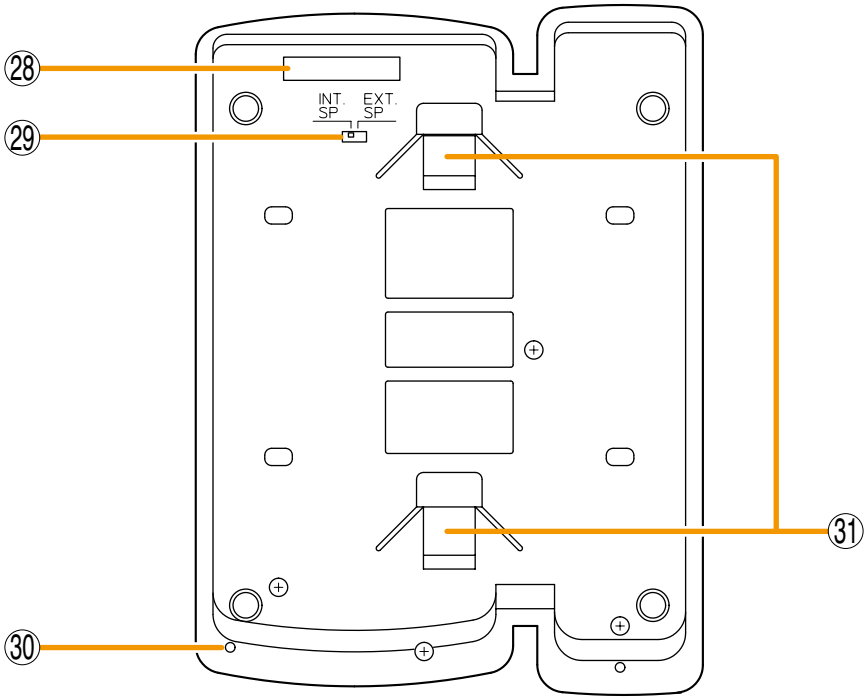
24. ACT 表示灯（緑）
本機がデータを送受信しているときに点灯します。

25. FD 表示灯（黄）
ネットワークが全二重通信をしているときに点灯します。

26. ACT 表示灯（緑）
接続しているパソコンがデータを送受信しているときに点灯します。

27. FD 表示灯（黄）
本機にパソコンを接続すると点灯します。

［底面］



28. MAC アドレス
本機の MAC アドレス*です。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。
* ネットワーク機器につけられた機器固有のアドレスで、12 桁の 16 進数で表現されています。

29. スピーカー切換スイッチ［INT. SP/EXT. SP］
内部スピーカー（INT. SP）または外部スピーカー（EXT. SP）の切り換えができます。

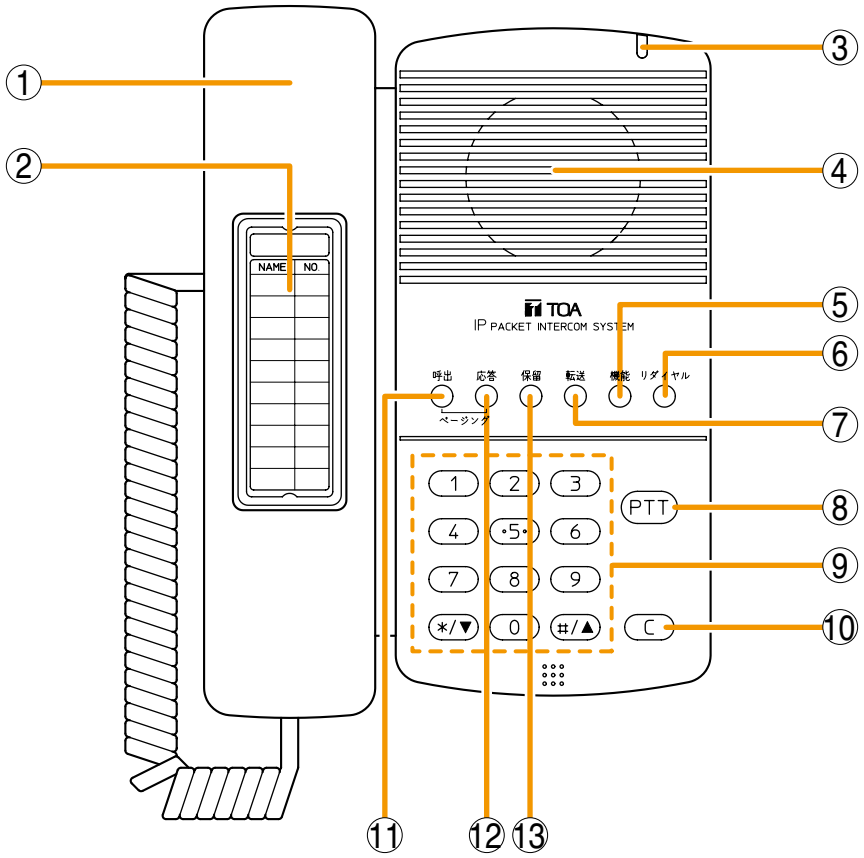
30. マイク
ハンズフリー通話に使用します。

ご注意
マイクの回りに物を置いたりして、ふさがないでください。通話ができなくなります。

31. 壁掛卓上金具挿入口
壁掛卓上金具 YC-280 を使用するとき、金具のフックをここに挿入します。
（☞ P. 3-19、P. 3-23）

● IP 標準マスター端末 N-8510MS

［上面］



1. ハンドセット
ハンドセット通話をするときに使用します。
使用時は、ハンズフリー通話用のマイクとスピーカーは切断されます。

2. 番号簿
呼び出し先の番号を記入します。

3. 状態表示灯（赤）
着信時は点滅、通話中は点灯、待ち受け時は消灯します。また、ページング受信中は点灯します。

4. スピーカー
拡声用のスピーカーで着信音を流したり、ハンズフリー通話に使用したりします。

5. 機能キー
転送先の設定、ワンタッチダイヤルの登録などの機能設定をするときに使用します。

6. リダイヤルキー
直前にしたダイヤル操作を繰り返すときに使用します。（☞ P. 2-9）

7. 転送キー
通話を他の端末に転送するときに使用します。（☞ P. 2-16）

8. PTT キー［PTT］
連続呼び出し音で呼び出している相手に、このキーを押して音声で呼びかけることができます。（☞ P. 2-10）
また、ハンズフリー通話中に押すと、押した側からの一方向通話になります。（☞ P. 2-7）

9. ダイヤルキー
相手を呼び出したり、機能設定をするときなどに使用します。

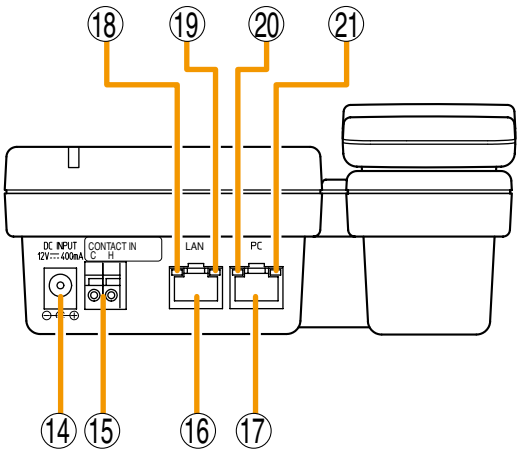
10. クリアキー［C］
通話を終了するときに使用します。

11. ページング呼び出しキー
ページング呼び出し操作をするときに使用します。（☞ P. 2-26）

12. ページング応答キー
ページング応答操作をするときに使用します。（☞ P. 2-32）

13. 保留キー
通話を一時保留するときに使用します。（☞ P. 2-15）

［後面］



14. AC アダプター端子［DC INPUT］
AC アダプター AD-1210P または AD-1215P を接続します。

15. 緊急メッセージ起動端子［CONTACT IN］
外部制御機器（スイッチ、センサーなど）を接続し、メイク信号を入力することにより、緊急メッセージ放送を起動します。（☞ P. 2-75）

16. ネットワーク接続端子［LAN］
10BASE-T または 100BASE-TX に対応したネットワークに接続します。
PoE（Power over Ethernet）に対応したスイッチングハブと接続すれば、AC アダプターなしでも動作します。
（イーサネット RJ-45 ジャック）

17. パソコン接続端子［PC］
パソコンをカスケード接続できます。（PoE には対応していません。）
（イーサネット RJ-45 ジャック）

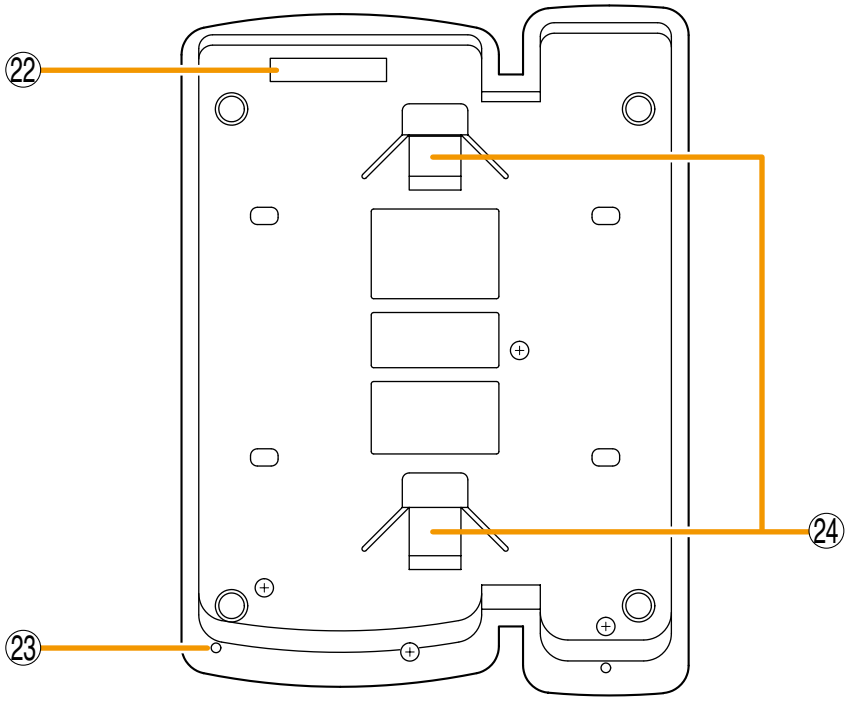
18. ACT 表示灯（緑）
本機がデータを送受信しているときに点灯します。

19. FD 表示灯（黄）
ネットワークが全二重通信をしているときに点灯します。

20. ACT 表示灯（緑）
接続しているパソコンがデータを送受信しているときに点灯します。

21. FD 表示灯（黄）
本機にパソコンを接続すると点灯します。

［底面］



22. MAC アドレス

本機の MAC アドレス*です。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。
* ネットワーク機器につけられた機器固有のアドレスで、12 桁の 16 進数で表現されています。

23. マイク

ハンズフリー通話に使用します。

ご注意

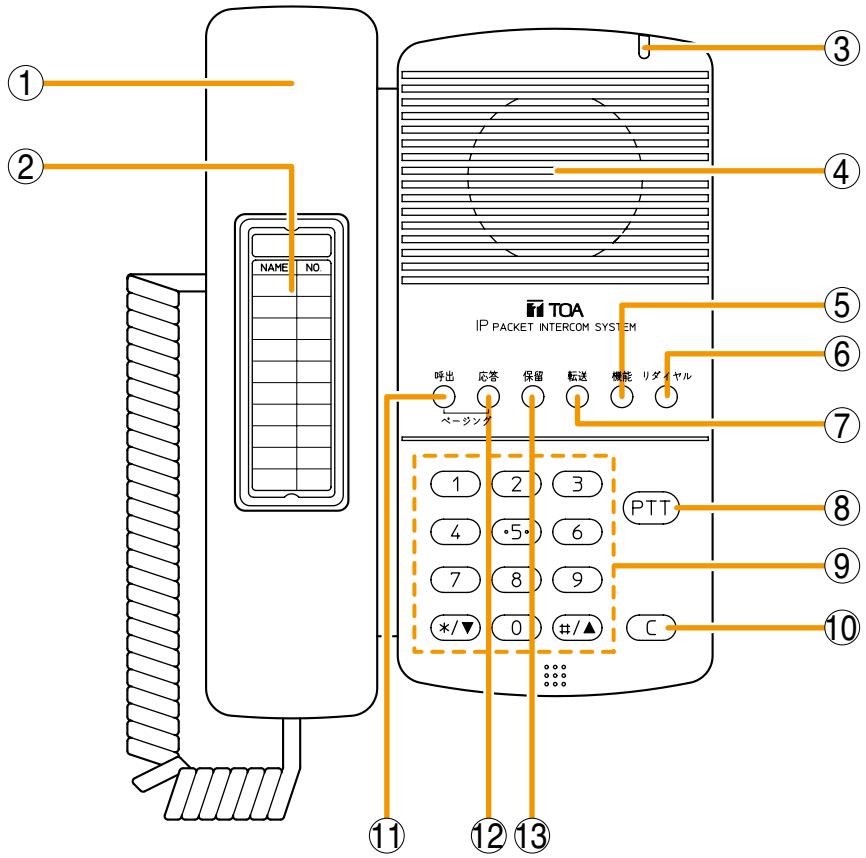
マイクの回りに物を置いたりして、ふさがないでください。通話ができなくなります。

24. 壁掛卓上金具挿入口

壁掛卓上金具 YC-280 を使用するとき、金具のフックをここに挿入します。
（ ☞ P. 3-19、P. 3-23）

● IP 標準マスター端末 N-8515MS

［上面］



1. ハンドセット
ハンドセット通話をするときに使用します。
使用時は、ハンズフリー通話用のマイクとスピーカーは切断されます。

2. 番号簿
呼び出し先の番号を記入します。

3. 状態表示灯（赤）
着信時は点滅、通話中は点灯、待ち受け時は消灯します。また、ページング受信中は点灯します。

4. スピーカー
拡声用のスピーカーで着信音を流したり、ハンズフリー通話に使用したりします。

5. 機能キー
転送先の設定、ワンタッチダイヤルの登録などの機能設定をするときに使用します。

6. リダイヤルキー
直前にしたダイヤル操作を繰り返すときに使用します。（☞ P. 2-9）

7. 転送キー
通話を他の端末に転送するときに使用します。（☞ P. 2-16）

8. PTT キー［PTT］
連続呼び出し音で呼び出している相手に、このキーを押して音声で呼びかけることができます。（☞ P. 2-10）
また、ハンズフリー通話中に押すと、押した側からの一方向通話になります。（☞ P. 2-7）

9. ダイヤルキー
相手を呼び出したり、機能設定をするときなどに使用します。

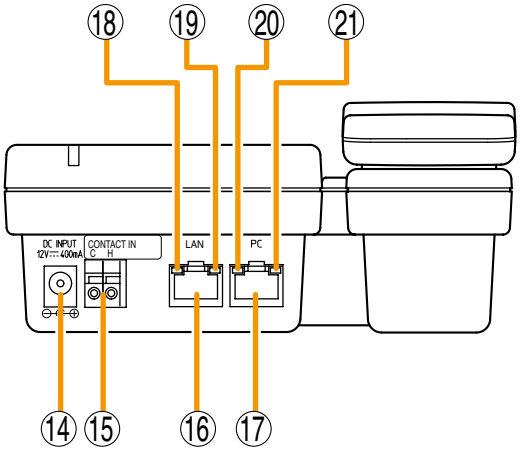
10. クリアキー［C］
通話を終了するときに使用します。

11. ページング呼び出しキー
ページング呼び出し操作をするときに使用します。（☞ P. 2-26）

12. ページング応答キー
ページング応答操作をするときに使用します。（☞ P. 2-32）

13. 保留キー
通話を一時保留するときに使用します。（☞ P. 2-15）

［後面］



14. AC アダプター端子［DC INPUT］
付属の AC アダプター AD-1210P または AD-1215P を接続します。

15. 緊急メッセージ起動端子［CONTACT IN］
外部制御機器（スイッチ、センサーなど）を接続し、メイク信号を入力することにより、緊急メッセージ放送を起動します。（☞ P. 2-75）

16. ネットワーク接続端子［LAN］
10BASE-T または 100BASE-TX に対応したネットワークに接続します。PoE（Power over Ethernet）には対応していません。
（イーサネット RJ-45 ジャック）

17. パソコン接続端子［PC］
パソコンをカスケード接続できます。（PoE には対応していません。）
（イーサネット RJ-45 ジャック）

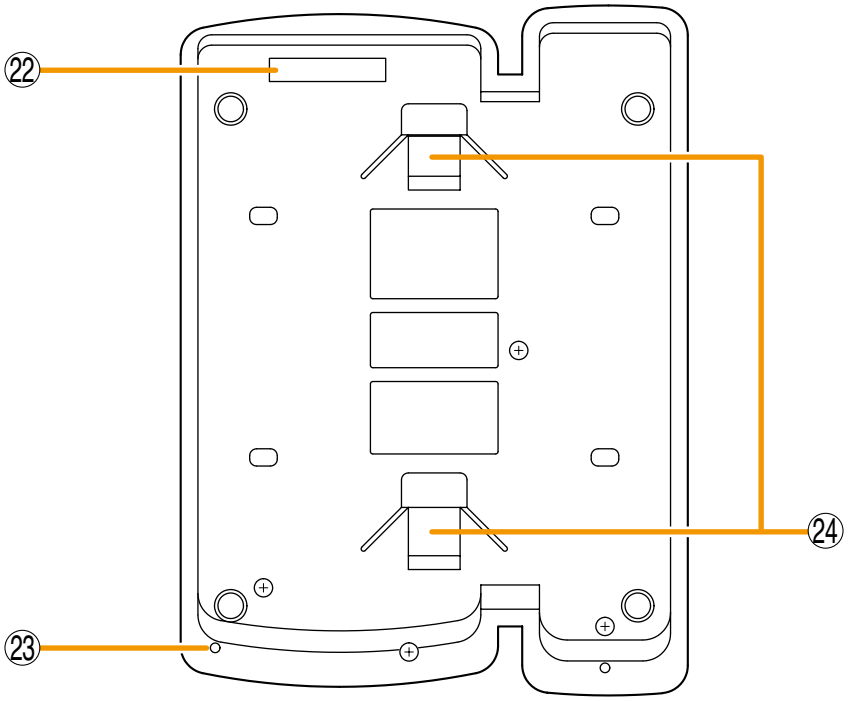
18. ACT 表示灯（緑）
本機がデータを送受信しているときに点灯します。

19. FD 表示灯（黄）
ネットワークが全二重通信をしているときに点灯します。

20. ACT 表示灯（緑）
接続しているパソコンがデータを送受信しているときに点灯します。

21. FD 表示灯（黄）
本機にパソコンを接続すると点灯します。

［底面］



22. MAC アドレス

本機の MAC アドレス* です。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。

* ネットワーク機器につけられた機器固有のアドレスで、12 桁の 16 進数で表現されています。

23. マイク

ハンズフリー通話に使用します。

ご注意

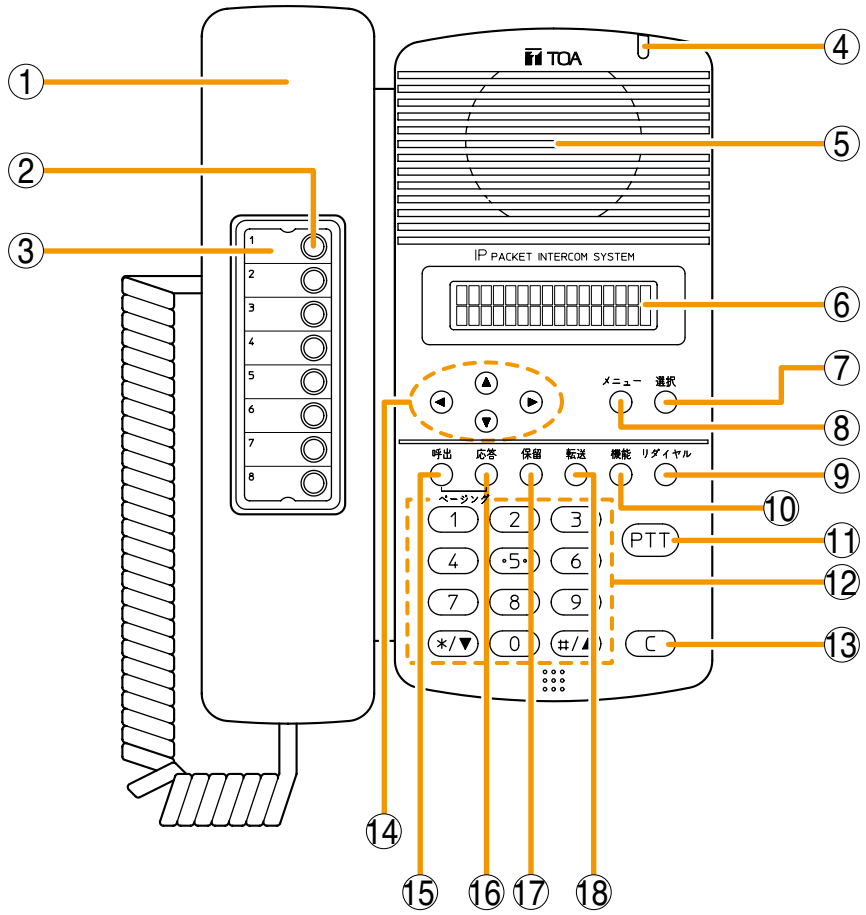
マイクの回りに物を置いたりして、ふさがないでください。通話ができなくなります。

24. 壁掛卓上金具挿入口

壁掛卓上金具 YC-280 を使用するとき、金具のフックをここに挿入します。
（☞ P. 3-19、P. 3-23）

● IP 多機能マスター端末 N-8600MS

［上面］



1. ハンドセット
ハンドセット通話をするときに使用します。
使用時は、ハンズフリー通話用のマイクとスピーカーは切断されます。

2. オートダイヤルキー
オートダイヤル呼び出し先を登録するときや呼び出すときに使用します。（☞ P. 2-12）

3. 番号簿
オートダイヤルの登録内容を記入します。

4. 状態表示灯（赤）
着信時は点滅、通話中またはページング受信中は点灯、待ち受け時は消灯します。
内部の記憶媒体（フラッシュメモリー）へデータ書き込み中は点灯し、本機に障害があれば点滅します。（☞ P. 8-15）

5. スピーカー
拡声用のスピーカーで着信音を流したり、ハンズフリー通話に使用したりします。

6. 液晶画面
16 桁×２行の表示で、操作ダイヤルやかかってきた相手番号などを表示します。メニューキー(8)を押すと、メニュー画面を表示します。

7. 選択キー
メニュー項目の選択、入力値の決定に使用します。

8. メニューキー
オートダイヤルの登録（☞ P. 2-12）やシステム設定（☞ 第 7 章）をするときに使用します。

9. リダイヤルキー
直前にしたダイヤル操作を繰り返すときに使用します。（☞ P. 2-9）

10. 機能キー
転送先の設定、ワンタッチダイヤルの登録などの機能設定をするときに使用します。

11. PTT キー［PTT］
連続呼び出し音で呼び出している相手に、このキーを押して音声で呼びかけることができます。（☞ P. 2-10）
また、ハンズフリー通話中に押すと、押した側からの一方向通話になります。（☞ P. 2-7）

12. ダイヤルキー
相手を呼び出したり、機能設定をするときなどに使用します。

13. クリアキー［C］
通話を終了するときに使用します。

14. 矢印キー［▲］［▼］［◄］［►］
オートダイヤルの登録（☞ P. 2-12）やシステム設定（☞ 第 7 章）をするときに使用します。

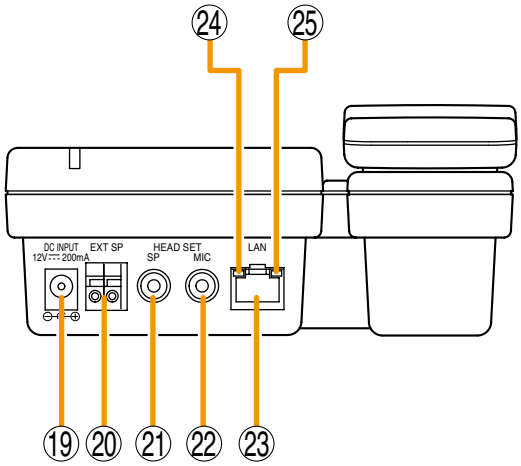
15. ページング呼び出しキー
ページング呼び出し操作をするときに使用します。（☞ P. 2-26）

16. ページング応答キー
ページング応答操作をするときに使用します。（☞ P. 2-32）

17. 保留キー
通話を一時保留するときに使用します。（☞ P. 2-15）

18. 転送キー
通話を他の端末に転送するときに使用します。（☞ P. 2-16）

［後面］



19. AC アダプター端子［DC INPUT］
AC アダプター AD-1210P または AD-1215P を接続します。

20. 外部スピーカー端子［EXT SP］
外部スピーカー（8 Ω、0.6 W 以上）を接続できます。（☞ P. 3-74）
外部スピーカーを使用するときは、底面のスピーカー切換スイッチ（27）を EXT. SP 側に切り換えてください。

21. ヘッドセットスピーカー端子［HEAD SET SP］
ヘッドセットスピーカー端子を接続できます。接続すると、上面のスピーカーからの音は出なくなります。

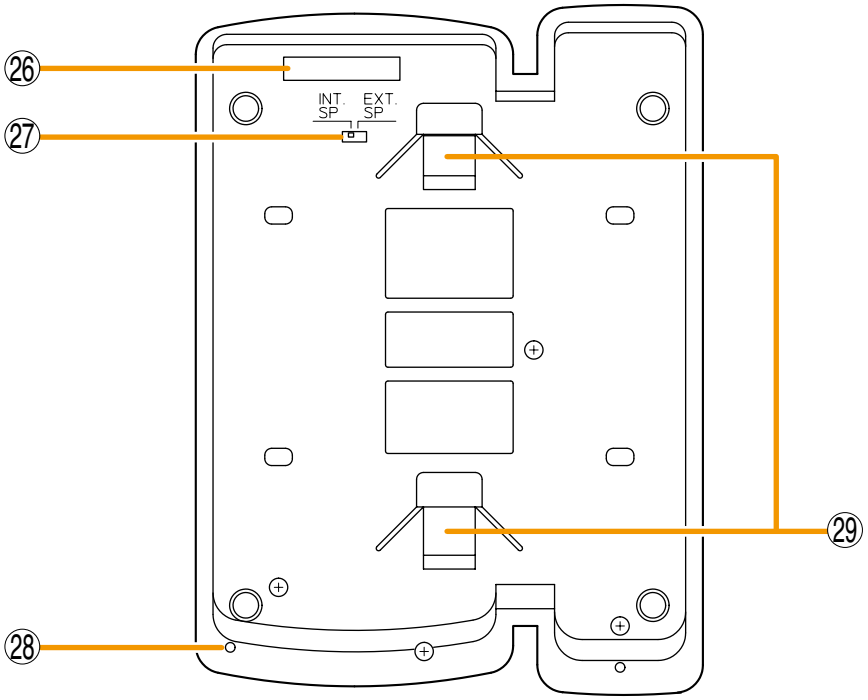
22. ヘッドセットマイク端子［HEAD SET MIC］
ヘッドセットマイク端子を接続できます。

23. ネットワーク接続端子［LAN］
10BASE-T または 100BASE-TX に対応したネットワークに接続します。
PoE（Power over Ethernet）に対応したスイッチングハブと接続すれば、AC アダプターなしでも動作します。
（イーサネット RJ-45 ジャック）

24. LNK/ACT 表示灯（緑）
本機がネットワークに接続されると点灯し、データを送受信中は点滅します。

25. FD 表示灯（黄）
ネットワークが全二重通信をしているときに点灯します。

［底面］



26. MAC アドレス
本機の MAC アドレス*です。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。
* ネットワーク機器につけられた機器固有のアドレスで、12 桁の 16 進数で表現されています。

27. スピーカー切換スイッチ［INT. SP/EXT. SP］
内部スピーカー（INT. SP）または外部スピーカー（EXT. SP）の切り換えができます。

28. マイク
ハンズフリー通話に使用します。

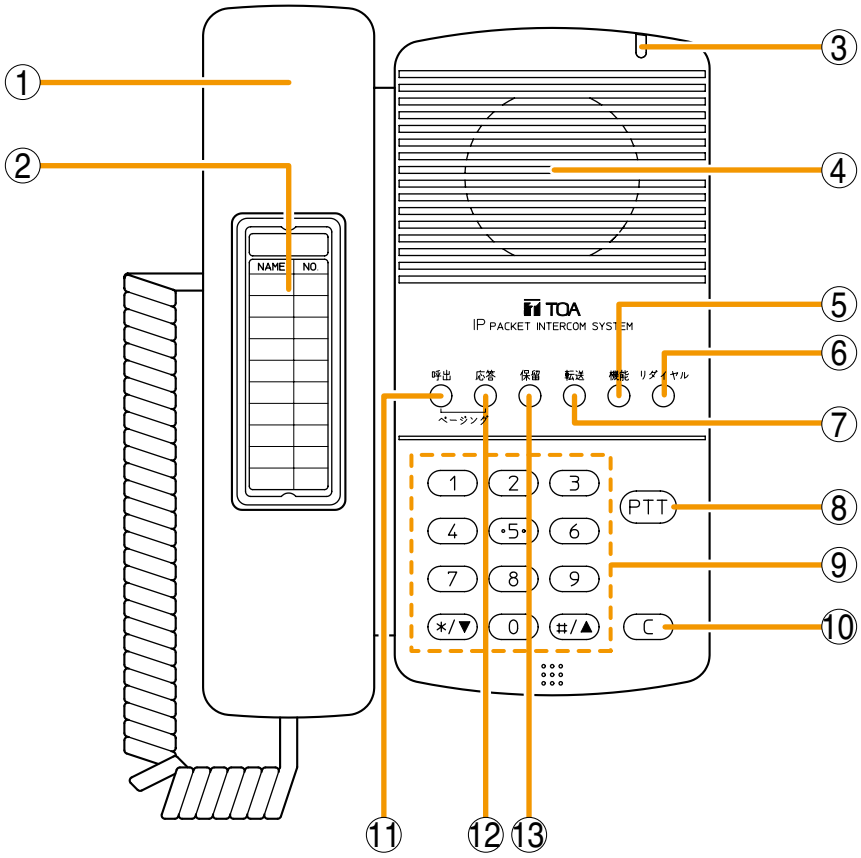
ご注意

マイクの回りに物を置いたりして、ふさがないでください。通話ができなくなります。

29. 壁掛卓上金具挿入口
壁掛卓上金具 YC-280 を使用するとき、金具のフックをここに挿入します。
（☞ P. 3-19、P. 3-23）

● IP 標準マスター端末 N-8610MS

［上面］



1. ハンドセット
ハンドセット通話をするときに使用します。
使用時は、ハンズフリー通話用のマイクとスピーカーは切断されます。

2. 番号簿
呼び出し先の番号を記入します。

3. 状態表示灯（赤）
着信時は点滅、通話中またはページング受信中は点灯、待ち受け時は消灯します。
内部の記憶媒体（フラッシュメモリー）へデータ書き込み中は点灯し、本機に障害があれば点滅します。（☞ P. 8-15）

4. スピーカー
拡声用のスピーカーで着信音を流したり、ハンズフリー通話に使用したりします。

5. 機能キー
転送先の設定、ワンタッチダイヤルの登録などの機能設定をするときに使用します。

6. リダイヤルキー
直前にしたダイヤル操作を繰り返すときに使用します。（☞ P. 2-9）

7. 転送キー
通話を他の端末に転送するときに使用します。（☞ P. 2-16）

8. PTT キー［PTT］
連続呼び出し音で呼び出している相手に、このキーを押して音声で呼びかけることができます。（☞ P. 2-10）
また、ハンズフリー通話中に押すと、押した側からの一方向通話になります。（☞ P. 2-7）

9. ダイヤルキー
相手を呼び出したり、機能設定をするときなどに使用します。

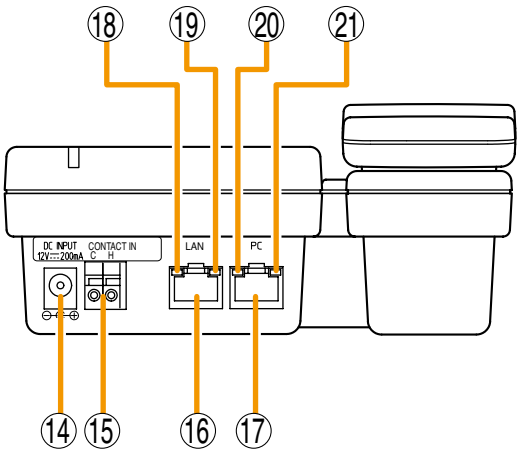
10. クリアキー［C］
通話を終了するときに使用します。

11. ページング呼び出しキー
ページング呼び出し操作をするときに使用します。（☞ P. 2-26）

12. ページング応答キー
ページング応答操作をするときに使用します。（☞ P. 2-32）

13. 保留キー
通話を一時保留するときに使用します。（☞ P. 2-15）

［後面］



14. AC アダプター端子［DC INPUT］
AC アダプター AD-1215P を接続します。

15. 緊急メッセージ起動端子［CONTACT IN］
外部制御機器（スイッチなど）を接続し、メイク信号を入力することにより、緊急メッセージ放送を起動します。（☞ P. 2-75）

16. ネットワーク接続端子［LAN］
10BASE-T または 100BASE-TX に対応したネットワークに接続します。
PoE（Power over Ethernet）に対応したスイッチングハブと接続すれば、AC アダプターなしでも動作します。
（イーサネット RJ-45 ジャック）

17. パソコン接続端子［PC］
パソコンをカスケード接続できます。（PoE には対応していません。）
（イーサネット RJ-45 ジャック）

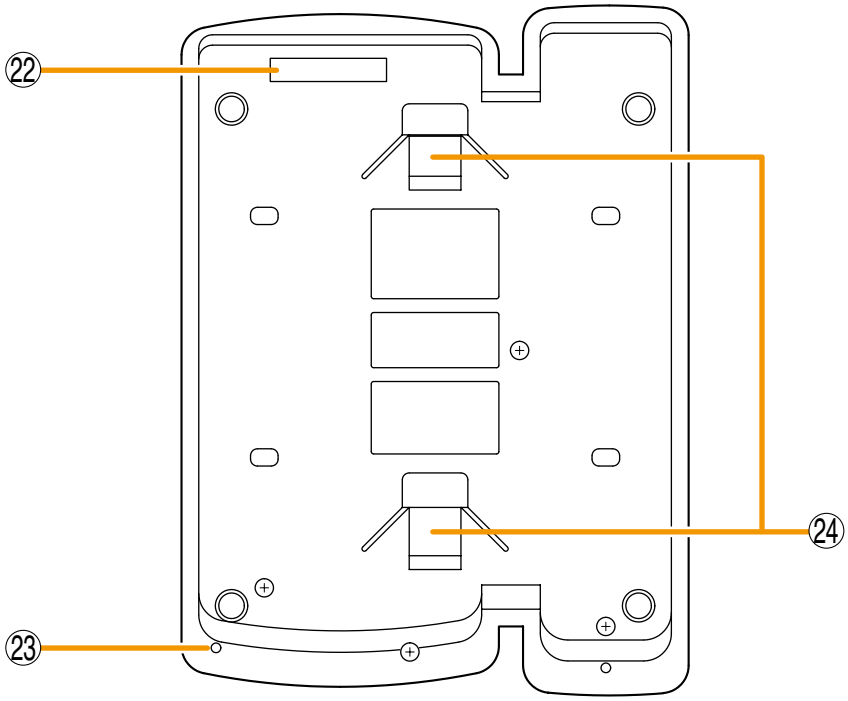
18. LNK/ACT 表示灯（緑）
本機がネットワークに接続されると点灯し、データを送受信中は点滅します。

19. FD 表示灯（黄）
ネットワークが全二重通信をしているときに点灯します。

20. LNK/ACT 表示灯（緑）
本機がパソコンに接続されると点灯し、データを送受信中は点滅します。

21. FD 表示灯（黄）
本機にパソコンを接続すると点灯します。

［底面］



22. MAC アドレス

本機の MAC アドレス*です。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。
* ネットワーク機器につけられた機器固有のアドレスで、12 桁の 16 進数で表現されています。

23. マイク

ハンズフリー通話に使用します。

ご注意

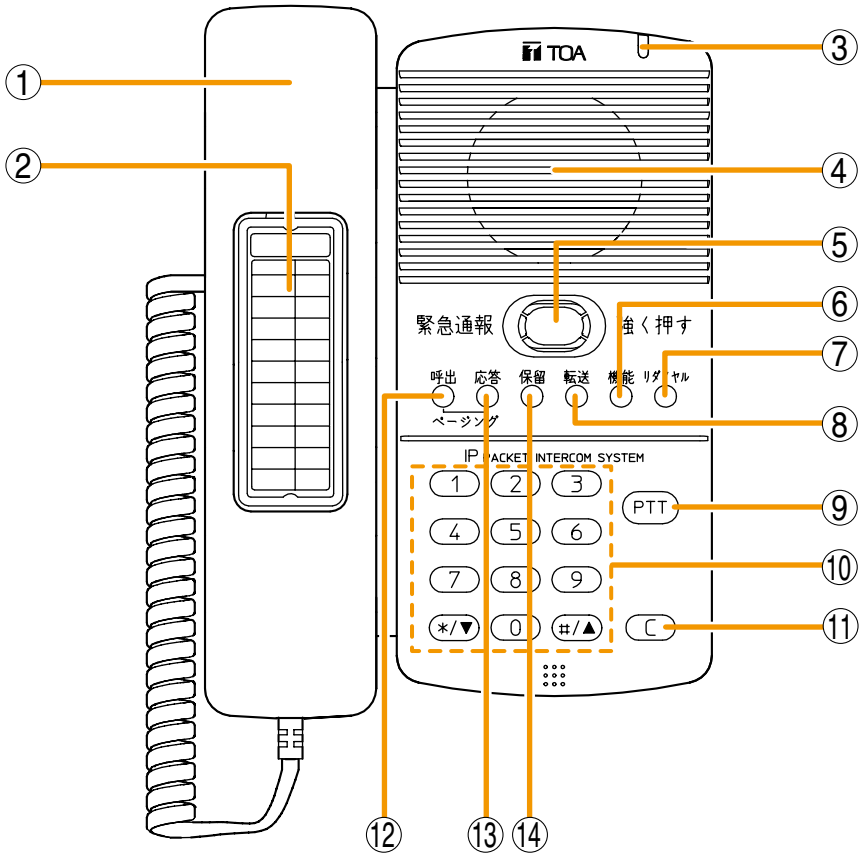
マイクの回りに物を置いたりして、ふさがないでください。通話ができなくなります。

24. 壁掛卓上金具挿入口

壁掛卓上金具 YC-280 を使用するとき、金具のフックをここに挿入します。
（ ☞ P. 3-19、P. 3-23）

● IP 緊急マスター端末 N-8616MS

［上面］



1. ハンドセット
ハンドセット通話をするときに使用します。
PTT 通話用のマイクとスピーカーは切断されます。

2. 番号簿
呼び出し先の番号を記入します。

3. 状態表示灯（赤）
着信時は点滅、通話中は点灯、待ち受け時は消灯します。また、ページング受信中は点灯します。

4. スピーカー
拡声用のスピーカーで着信音を流したり、ハンズフリー通話に使用したりします。

5. 緊急通報ボタン
あらかじめ登録された緊急メッセージを放送するときに使用します。付属の保護カバーを取り付けることによって、いたずらを防止できます。
保護カバーを取り付けたときは、カバーの上から強く押し、カバーを押し割ってボタンを押します。
使用後は、保護カバー*を交換してください。

＊ 最寄りの当社営業所にお問い合わせください。

6. 機能キー
転送先の設定、ワンタッチダイヤルの登録などの機能設定をするときに使用します。

7. リダイヤルキー
直前にしたダイヤル操作を繰り返すときに使用します。（☞ P. 2-9）

8. 転送キー
通話を他の端末に転送するときに使用します。（☞ P. 2-16）

9. PTT キー［PTT］
連続呼び出し音で呼び出している相手に、このキーを押して音声で呼びかけることができます。（☞ P. 2-10）
また、スピーカー（4）で受話しているときに押してマイク（23）を使用すると、押した側からの一方向通話になります。
（PTT 通話 ☞ P. 2-7）

10. ダイヤルキー
相手を呼び出したり、機能設定をするときなどに使用します。

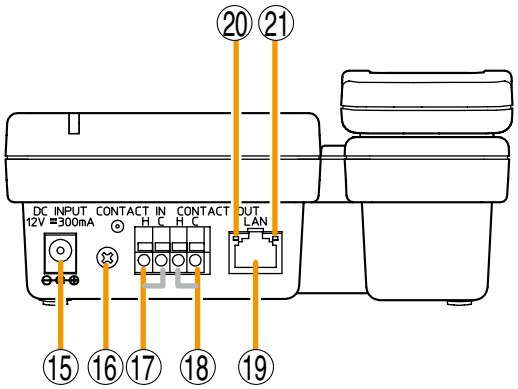
11. クリアキー［C］
通話を終了するときに使用します。

12. ページング呼び出しキー
ページング呼び出し操作をするときに使用します。（☞ P. 2-26）

13. ページング応答キー
ページング応答操作をするときに使用します。（☞ P. 2-32）

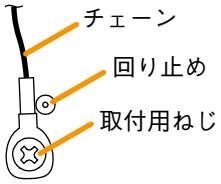
14. 保留キー
通話を一時保留するときに使用します。（☞ P. 2-15）

［後面］



15. AC アダプター端子［DC INPUT］
付属の AC アダプターを接続します。

16. 盗難抑止チェーン取付用ねじ
盗難抑止チェーン* を取り付けるときに使用します。



* 別途用意する必要があります。使用できる盗難抑止チェーンについては、最寄りの当社営業所にお問い合わせください。

17. 緊急メッセージ起動端子［CONTACT IN］
無電圧メイク接点入力（短絡電流：10 mA 以下、開放電圧：最大 DC12 V）です。
外部制御機器（スイッチなど）を接続し、メイク信号を入力することにより、緊急メッセージ放送を起動します。（☞ P. 2-75）

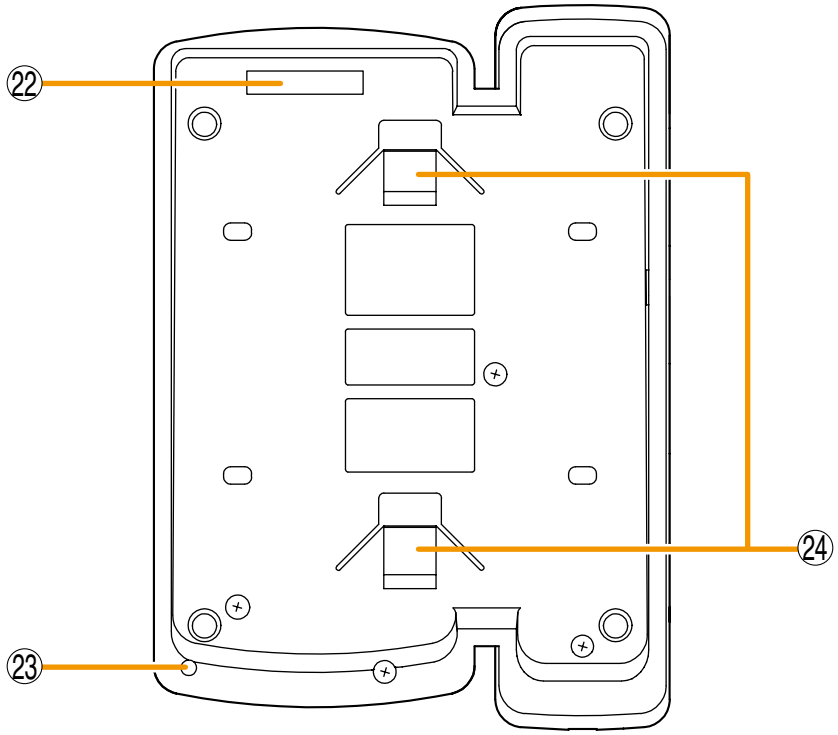
18. 接点出力端子［CONTACT OUT］
オープンコレクター接点出力（耐電圧：最大 DC30 V、制御電流：最大 200 mA）です。
緊急メッセージ起動に連動して外部機器の制御入力端子をメイクするときに使用します。

19. ネットワーク接続端子［LAN］
10BASE-T または 100BASE-TX に対応したネットワークに接続します。PoE（Power over Ethernet）には対応していません。
（イーサネット RJ-45 ジャック）

20. LNK/ACT 表示灯（緑）
ネットワークがつながっているとき、またはページング送信しているときに点灯します。
データを受信しているときは点滅します。

21. FD 表示灯（黄）
ネットワークが全二重通信をしているときに点灯します。

［底面］



22. MAC アドレス

本機の MAC アドレス* です。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。
* ネットワーク機器につけられた機器固有のアドレスで、12 桁の 16 進数で表現されています。

23. マイク

PTT 通話に使用します。

ご注意

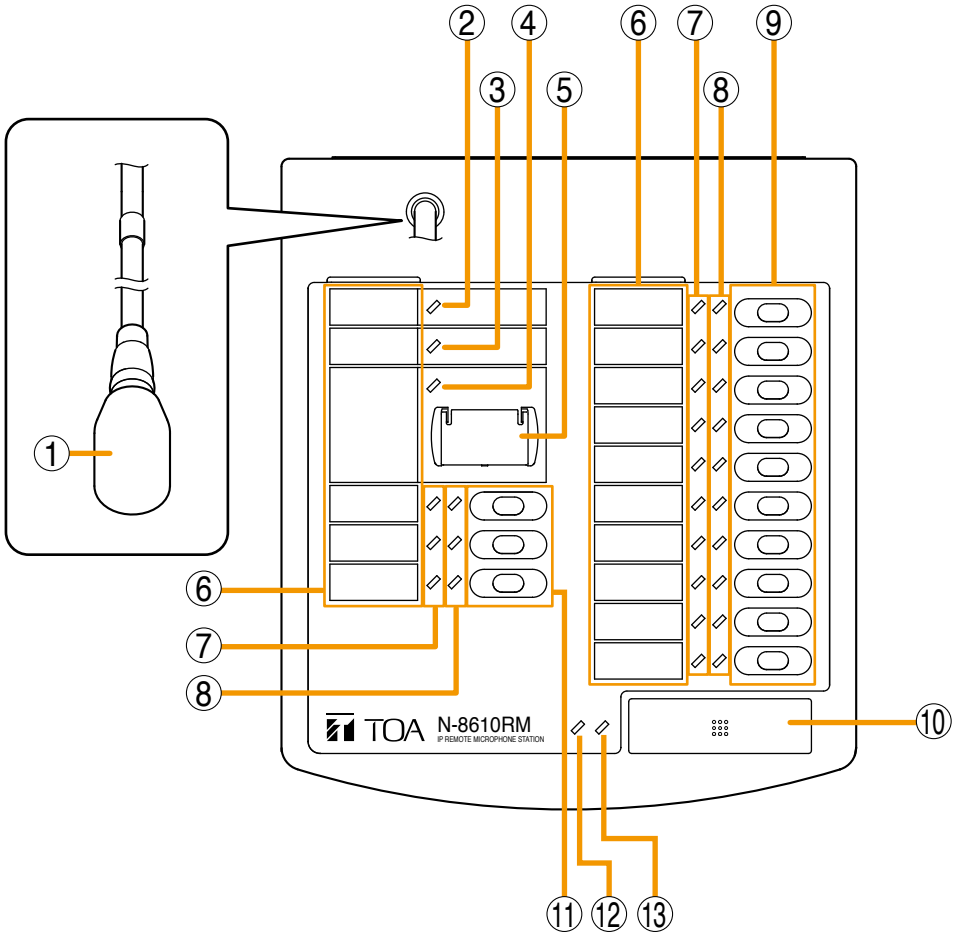
マイクの回りに物を置いたりして、ふさがないでください。通話ができなくなります。

24. 壁掛卓上金具挿入口

壁掛卓上金具 YC-280 を使用するとき、金具のフックをここに挿入します。
（ ☞ P. 3-19、P. 3-23）

● IP リモートマイク端末 N-8610RM

［上面］



1. マイク
通話、放送時に使用します。

2. 電源表示灯（緑）
電源を入れると点灯します。

3. 状態表示灯（赤）
着信時は点滅、通話中またはページング受信中は点灯、待受け時は消灯します。
内部の記憶媒体（フラッシュメモリー）へデータ書き込み中は点灯し、本機に障害があれば点滅します。

4. 状態表示灯（橙／緑）
機能キー（カバー付き）の操作状態に連動して点灯、点滅、消灯します。

5. 機能キー（カバー付き）
N-8000 設定ソフトウェアで設定した機能が実行できます。
機能の割り当ては、N-8000 設定ソフトウェアで行います。

6. 表示ラベル挿入部
表示ラベルを挿入するスペースです。
SX-2000 設定ソフトウェアを使用して、ラベルの印刷ができます。
詳細は、SX-2000 シリーズのソフトウェア取扱説明書をお読みください。

7. 状態表示灯（橙／緑）
機能キーの操作状態に連動して点灯、点滅、消灯します。

8. 選択表示灯（緑）
機能キーの選択状態に連動して点灯、点滅、消灯します。

9. 機能キー（R1 ～ R10）
上から順に R1、R2、・・・・・・・、R10 となっています。各キーを押すと、N-8000 設定ソフトウェアでそのキーに設定した機能が実行できます。
機能の割り当ては、N-8000 設定ソフトウェアで行います。

10. トークキー

マイク放送時と通話の終了に使用します。
PTT 式に設定されているときは、キーを押している間だけ放送することができます。
LOCK 式に設定されているときは、押すと放送が開始され、もう一度押すと放送が終了します。
放送開始・終了時のチャイムが設定されているときは、設定に従ってチャイム音が流れます。
操作の方式およびチャイムの設定は N-8000 設定ソフトウェアで行います。

11. 機能キー（L1 ～ L3）

上から順に L1、L2、L3 となっています。このキーの動作は機能キー（R1 ～ R10）（9）と同じです。

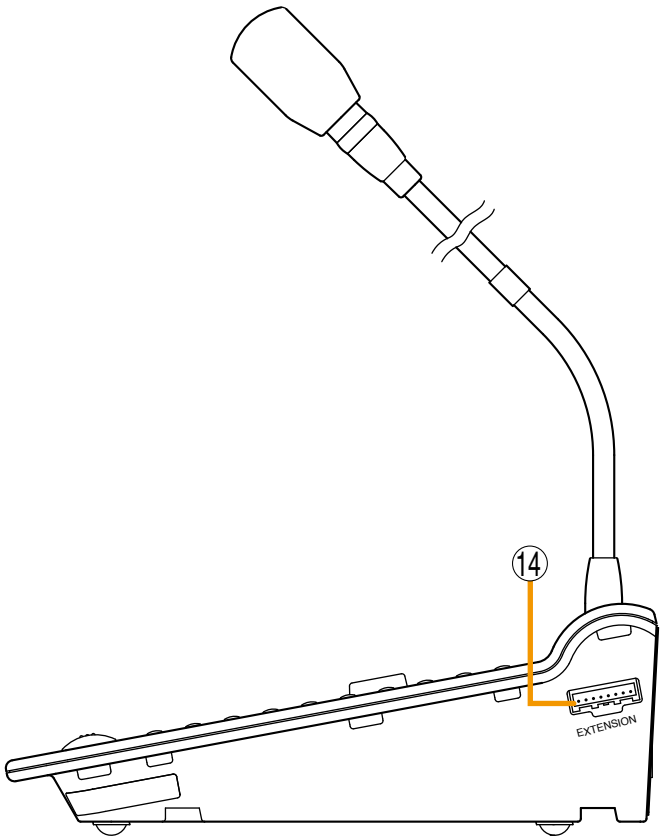
12. 放送状態表示灯（橙／緑／赤）

トークキーの操作状態に連動して点灯、点滅、消灯します。

13. マイク表示灯（緑）

トークキーの操作状態と連動して点灯、消灯します。
チャイム起動時に点滅します。

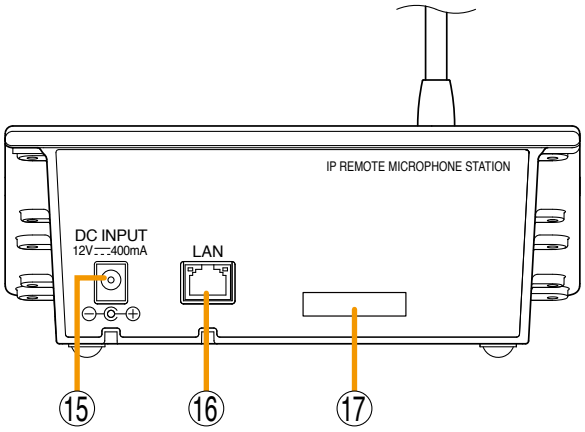
［側面］



14. RM-210 接続端子［EXTENSION］

リモートマイク拡張ユニット RM-210 と接続します。

［後面］



15. AC アダプター端子

AC アダプター AD-1215P を接続します。

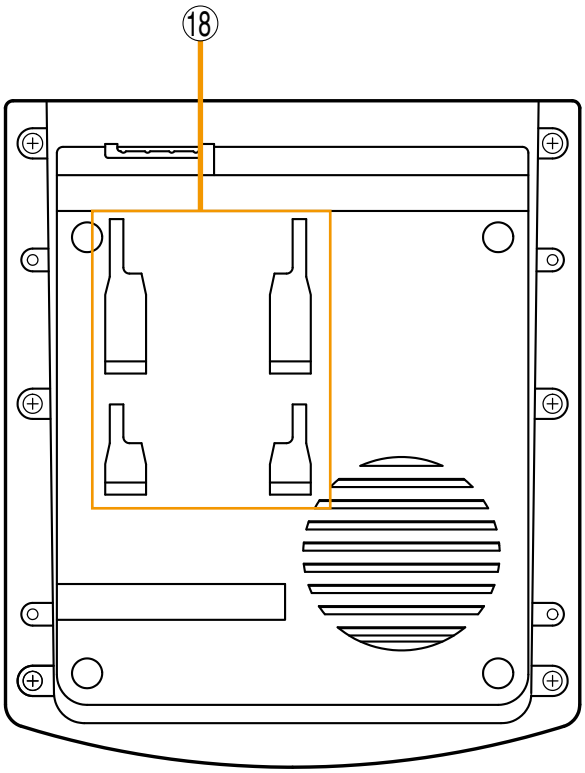
16. ネットワーク接続端子［LAN］

ネットワークに接続します。
PoE（Power over Ethernet）に対応したスイッチングハブと接続すれば、AC アダプターなしでも動作します。
（イーサネット RJ-45 ジャック）

17. MAC アドレス

本機の MAC アドレス* です。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。
* ネットワーク機器につけられた機器固有のアドレスで、12 桁の 16 進数で表現されています。

［底面］

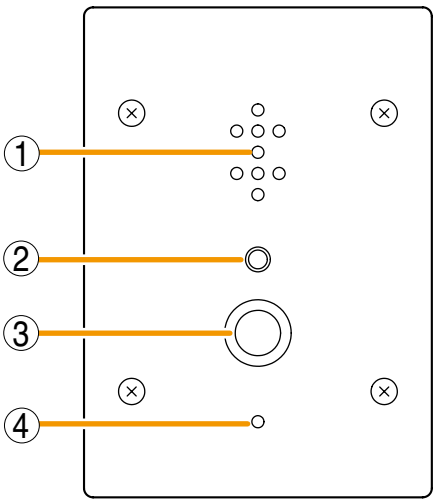


18. 壁取付金具挿入口

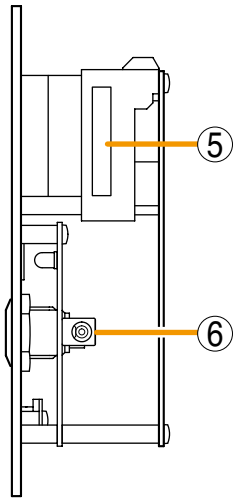
壁取付金具 WB-RM200 を使用するとき、金具のフックをここに挿入します。
（☞ P. 3-31）

● IP ドア端末 N-8540DS

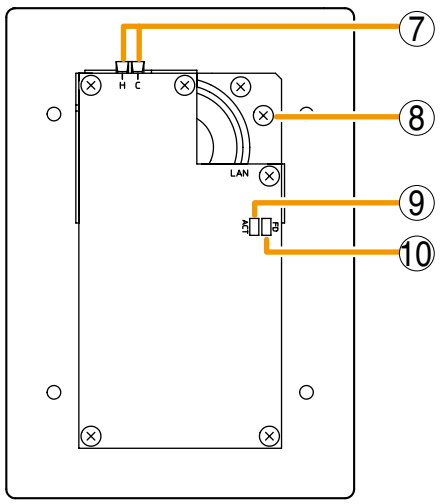
［前面］



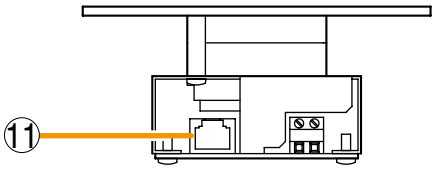
［側面］



［後面］



［上面］



1. スピーカー
拡声用のスピーカーで着信音を流したり、ハンズフリー通話に使用したりします。

2. 状態表示灯（赤）
着信時は点滅、通話中またはページング受信中は点灯、待ち受け時は消灯します。
内部の記憶媒体（フラッシュメモリー）へデータ書き込み中は点灯し、本機に障害があれば点滅します。（☞ P. 8-15）

3. 呼び出しボタン
あらかじめ登録されたマスター端末を呼び出すときに使用します。

4. マイク
ハンズフリー通話に使用します。

5. MAC アドレス
本機の MAC アドレス*です。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。
* ネットワーク機器につけられた機器固有のアドレスで、12 桁の 16 進数で表現されています。

6. AC アダプター端子
AC アダプター AD-1210P または AD-1215P を接続します。

7. 接点出力端子［H、C］
電子錠などの外部機器を接続できます。
（出力容量：DC30 V、50 mA）
（☞ P. 2-73、P. 2-183、P. 3-78）

8. フレームグランド
必ず接地してください。

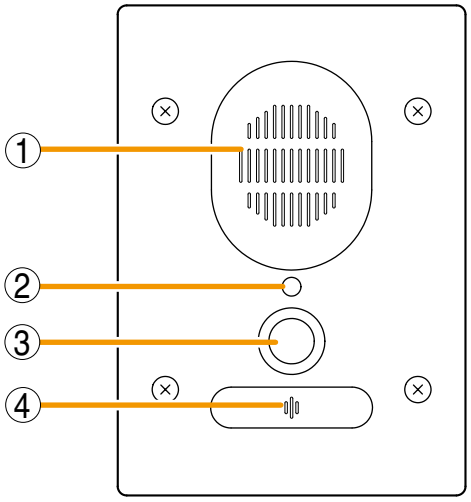
9. ACT 表示灯（緑）
本機がデータを送受信しているときに点灯します。

10. FD 表示灯（黄）
ネットワークが全二重通信をしているときに点灯します。

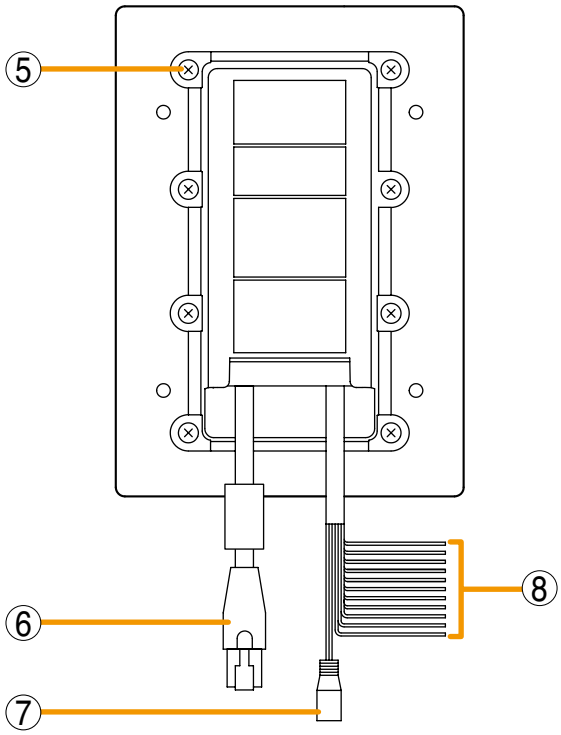
11. ネットワーク接続端子［LAN］
10BASE-T または 100BASE-TX に対応したネットワークに接続します。
PoE（Power over Ethernet）に対応したスイッチングハブと接続すれば、AC アダプターなしでも動作します。
（イーサネット RJ-45 ジャック）

● IP ドア端末 N-8640DS

［前面］



［後面］



1. スピーカー
拡声用のスピーカーで着信音を流したり、ハンズフリー通話に使用したりします。

2. 状態表示灯（赤）
着信時は点滅、通話中またはページング受信中は点灯、待ち受け時は消灯します。
内部の記憶媒体（フラッシュメモリー）へデータ書き込み中は点灯し、本機に障害があれば点滅します。（☞ P. 8-15）

3. 呼び出しボタン
あらかじめ登録されたマスター端末を呼び出すときに使用します。

4. マイク
ハンズフリー通話に使用します。

5. フレームグランド
必ず接地してください。

6. ネットワーク接続端子［LAN］
10BASE-T または 100BASE-TX に対応したネットワークに接続します。
PoE（Power over Ethernet）に対応したスイッチングハブと接続すれば、AC アダプターなしでも動作します。

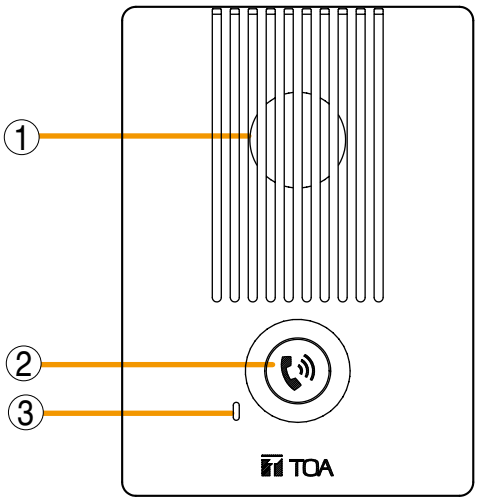
7. AC アダプター端子
AC アダプター AD-1210P または AD-1215P を接続します。

8. 外部接続線

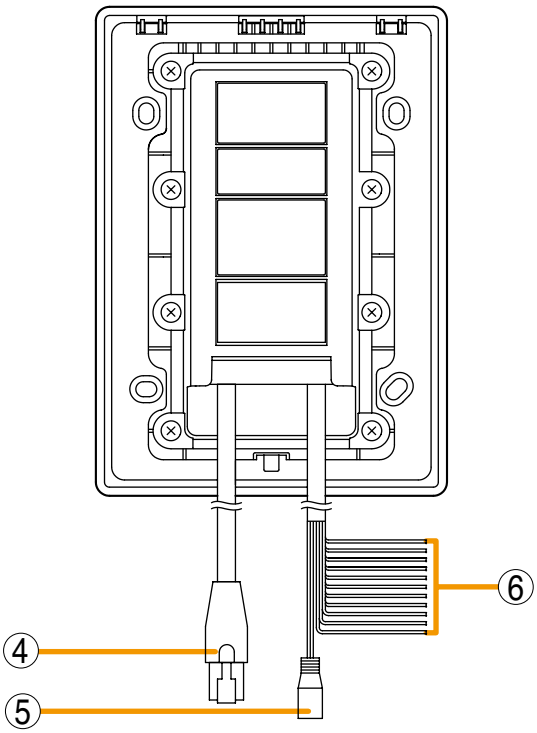
- **外部接点入力（HOT：灰、COM：白）**
  スイッチ、センサーなどの外部機器に接続できます。
  無電圧メイク接点入力（開放電圧：DC5 V、短絡電流 10 mA 以下）
- **外部接点出力（青× 2）**
  電気錠などの外部機器に接続できます。
  リレー接点出力（耐電圧：DC30 V、最大制御電流：500 mA）
- **外部接点出力（CH1：茶、CH2：赤、CH3：橙、CH4：黄、COM：紫）**
  表示器などの外部機器に接続できます。
  オープンコレクター出力（耐電圧：DC30 V、最大制御電流：50 mA）
- **外部スピーカー出力（黒× 2）**
  外部スピーカー（8 Ω、0.6 W 以上）を接続できます。

● IP 屋内ドア端末 N-8650DS

［前面］



［後面］



1. スピーカー
拡声用のスピーカーで着信音を流したり、ハンズフリー通話に使用したりします。

2. 呼び出しボタン／状態表示灯（赤）
あらかじめ登録されたマスター端末を呼び出すときに使用します。
また、本機の状態を以下のように表します。
着信時は点滅、通話中またはページング受信中は点灯、待ち受け時は消灯します。
内部の記憶媒体（フラッシュメモリー）へデータ書き込み中は点灯し、本機に障害があれば点滅します。（☞ P. 8-15）

3. マイク
ハンズフリー通話に使用します。

4. ネットワーク接続端子［LAN］
10BASE-T または 100BASE-TX に対応したネットワークに接続します。
PoE（Power over Ethernet）に対応したスイッチングハブと接続すれば、AC アダプターなしでも動作します。

5. AC アダプター端子
AC アダプター AD-1210P または AD-1215P を接続します。

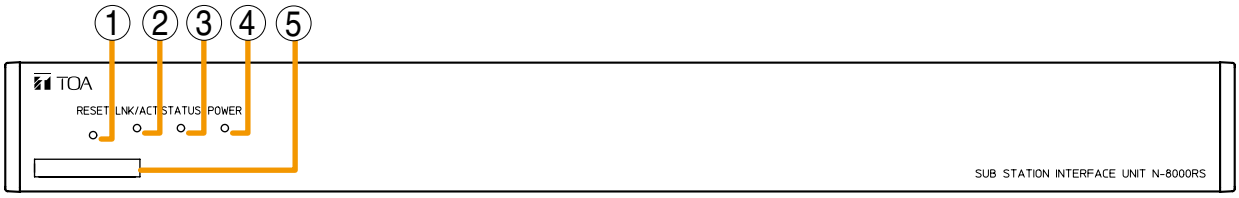
6. 外部接続線

- **外部接点入力（HOT：灰、COM：白）**
  スイッチ、センサーなどの外部機器に接続できます。
  無電圧メイク接点入力（開放電圧：DC5 V、短絡電流 10 mA 以下）
- **外部接点出力（青× 2）**
  電気錠などの外部機器に接続できます。
  リレー接点出力（耐電圧：DC30 V、最大制御電流：500 mA）
- **外部接点出力（CH1：茶、CH2：赤、CH3：橙、CH4：黄、COM：紫）**
  表示器などの外部機器に接続できます。
  オープンコレクター出力（耐電圧：DC30 V、最大制御電流：50 mA）
- **外部スピーカー出力（黒× 2）**
  外部スピーカー（8 Ω、0.6 W 以上）を接続できます。

■ サブ端末接続ユニットとそれに接続する端末

● 2 心シールド式サブ端末接続ユニット N-8000RS/8010RS

［前面］



※ 図は N-8000RS です。

1. RESET キー［RESET］
押すと、本機を再起動します。

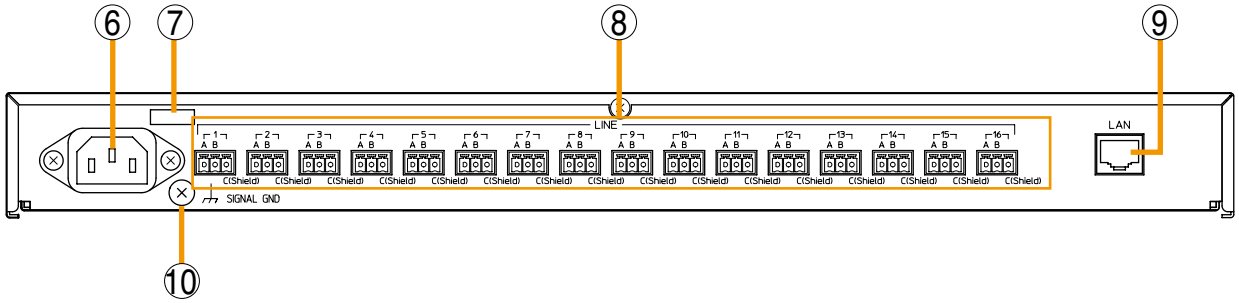
2. LNK/ACT 表示灯［LNK/ACT］（緑）
本機がネットワークに接続されると点灯し、データを送受信中は点滅します。

3. STATUS 表示灯［STATUS］（赤）
内部の記憶媒体（フラッシュメモリー）へデータ書き込み中は点灯し、機器内部の冷却ファンの故障など本機に障害があれば点滅します。（☞ P. 8-15）

4. 電源表示灯［POWER］（緑）
電源を入れると点灯します。

5. MAC アドレス
本機の MAC アドレス*です。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。
* ネットワーク機器につけられた機器固有のアドレスで、12 桁の 16 進数で表現されています。

［後面］



6. AC インレット
付属の電源コードを接続します。

ご注意

誘雷の恐れのある場合は、電源ラインに適切な電源用保安器を挿入してください。

7. コードクランプ
本機を壁に取り付けて使用するとき、電源コードのプラグが抜けないようにするために、コードを通します。
（☞ P. 3-7）

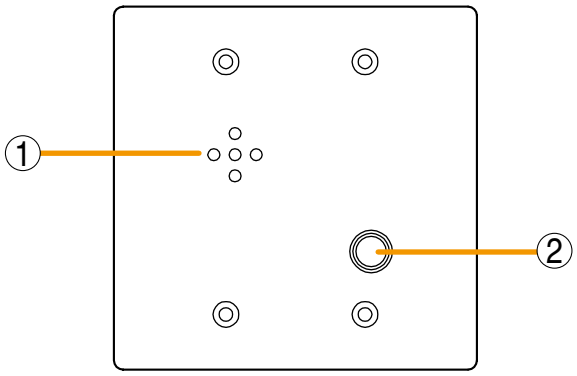
8. サブ端末接続端子［LINE 1 ～ 16］
2 心シールド線を使ってサブ端末を接続します。この端子には着脱式ターミナルプラグを接続します。
（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）

9. ネットワーク接続端子［LAN］
10BASE-T または 100BASE-TX に対応したネットワークに接続します。
（イーサネット RJ-45 ジャック）

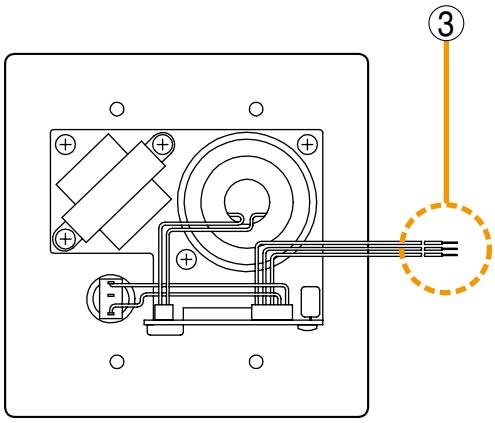
10. 機能アース端子［SIGNAL GND］
必ず接地してください。
※ 安全アースではありません。

● 屋内用サブ端末 RS-150

［前面］



［後面］



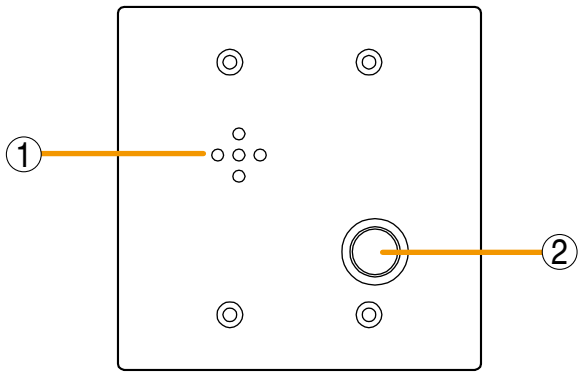
1. スピーカー
拡声用のスピーカーで着信音を流したり、ハンズフリー通話に使用したりします。

2. 呼び出しボタン
あらかじめ登録されたマスター端末を呼び出すときに使用します。

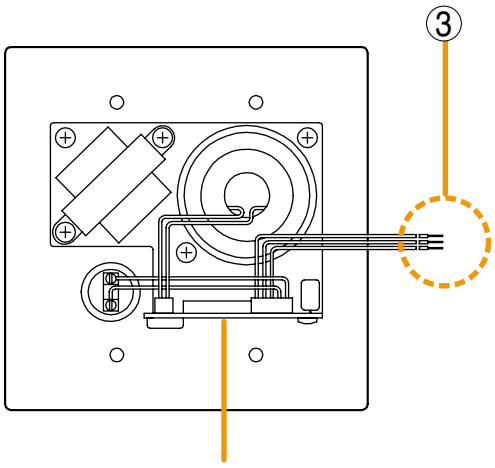
3. 接続線（橙、茶、黒）
2 心シールド式サブ端末接続ユニットに接続します。

● 屋内用堅牢型サブ端末 RS-160、屋外用堅牢型サブ端末 RS-170

［前面］



［後面］



RS-170 の場合は、基板に耐候性コーティングが施されています。

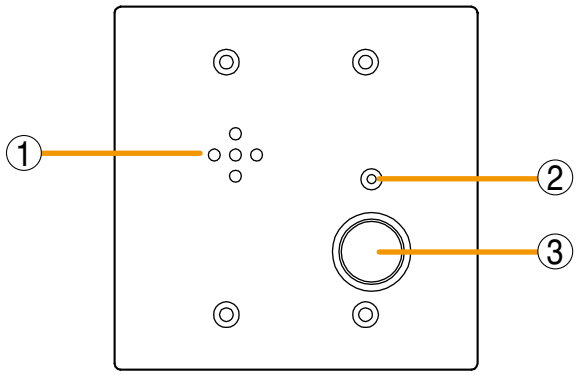
1. スピーカー
拡声用のスピーカーで着信音を流したり、ハンズフリー通話に使用したりします。

2. 呼び出しボタン
あらかじめ登録されたマスター端末を呼び出すときに使用します。

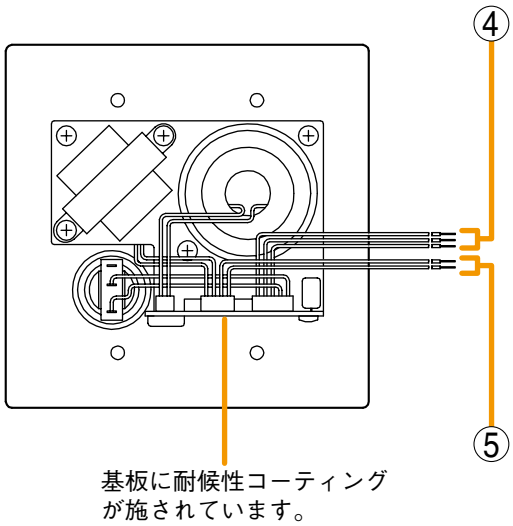
3. 接続線（橙、茶、黒）
2 心シールド式サブ端末接続ユニットに接続します。

● 呼び出し表示灯付きサブ端末 RS-180

［前面］



［後面］



1. スピーカー
拡声用のスピーカーで着信音を流したり、ハンズフリー通話に使用したりします。

2. 状態表示灯（赤）
着信時は点滅、通話中は点灯、待ち受け時は消灯します。また、ページング受信中は点灯します。

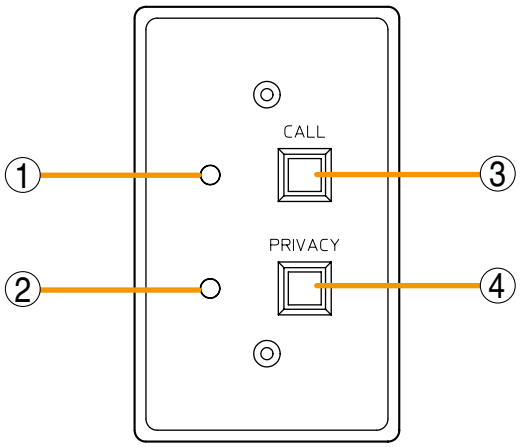
3. 呼び出しボタン
あらかじめ登録されたマスター端末を呼び出すときに使用します。

4. 接続線（橙、茶、黒）
2 心シールド式サブ端末接続ユニットに接続します。

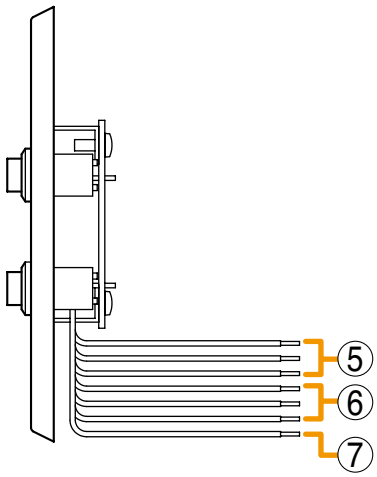
5. 制御線（青、白）
表示灯などの外部機器に接続できます。
通話中のみメイクします。
（オープンコレクター出力、出力容量：DC30 V、30 mA）

● スイッチパネル RS-140

［前面］



［側面］



1. 状態表示灯（赤）
呼び出し時は点滅、通話中は点灯、待ち受け時は消灯します。また、ページング受信中は点灯します。

2. プライバシー表示灯（赤）
プライバシー状態のときに点灯します。

3. 呼び出しボタン［CALL］
あらかじめ登録されたマスター端末を呼び出すときに使用します。

4. プライバシーボタン［PRIVACY］
このボタンを押すと、プライバシー状態になります。
もう一度押すと、プライバシーが解除されます。

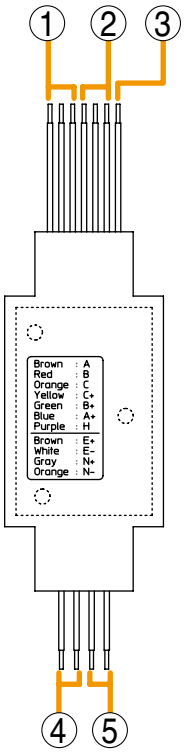
5. 接続線（茶、赤、橙）
2 心シールド式サブ端末接続ユニットに接続します。

6. スピーカー線（黄、緑、青）
外部スピーカーに接続します。

7. 呼び出しボタン連動線（紫）
オプションハンドセット RS-141 に接続します。

● スイッチボード RS-142

［前面］



1. 接続線（茶、赤、橙）
2 心シールド式サブ端末接続ユニットに接続します。

2. スピーカー線（黄、緑、青）
外部スピーカーに接続します。

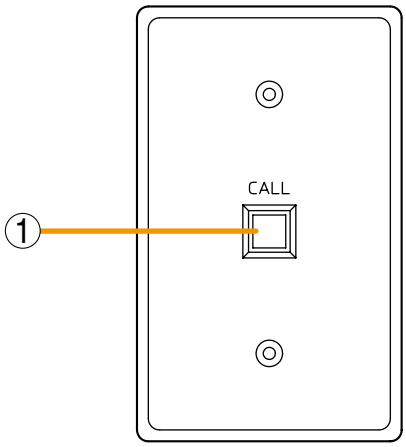
3. 呼び出しボタン連動線（紫）
オプションハンドセット RS-141 に接続します。

4. 呼び出しボタン 1 接続線（白、茶）
あらかじめ登録されたマスター端末を呼び出すときに使用します。

5. 呼び出しボタン 2 接続線（橙、灰）
あらかじめ登録されたマスター端末を呼び出すときに使用します。

● スイッチパネル RS-143

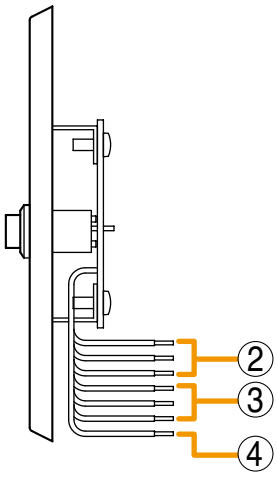
［前面］



1. 呼び出しボタン［CALL］
あらかじめ登録されたマスター端末を呼び出すときに使用します。

2. 接続線（茶、赤、橙）
2 心シールド式サブ端末接続ユニットに接続します。

［側面］

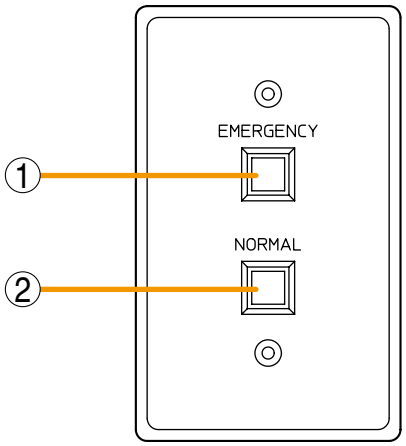


3. スピーカー線（黄、緑、青）
外部スピーカーに接続します。

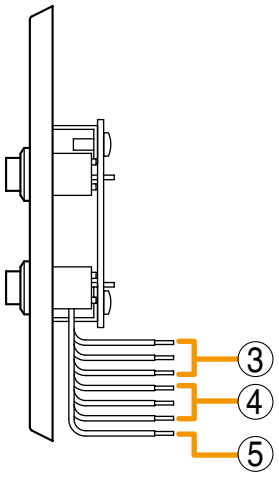
4. 呼び出しボタン連動線（紫）
オプションハンドセット RS-141 に接続します。

● スイッチパネル RS-144

［前面］



［側面］



1. 緊急呼び出しボタン［EMERGENCY］
あらかじめ登録されたマスター端末を緊急呼び出しするときに使用します。

2. 呼び出しボタン［NORMAL］
あらかじめ登録されたマスター端末を呼び出すときに使用します。

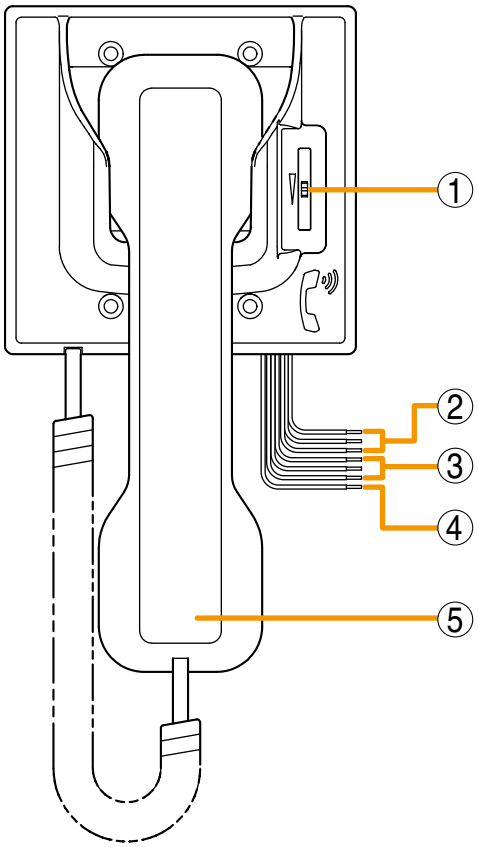
3. 接続線（茶、赤、橙）
2 心シールド式サブ端末接続ユニットに接続します。

4. スピーカー線（黄、緑、青）
外部スピーカーに接続します。

5. 呼び出しボタン連動線（紫）
オプションハンドセット RS-141 に接続します。

● オプションハンドセット（屋内専用）RS-141

［前面］



1. 受話ボリューム
ハンドセットで受話する音量の調節ができます。

2. 接続線（茶、赤、橙）
2 心シールド式サブ端末接続ユニットに接続します。

3. スピーカー線（黄、緑、青）
外部スピーカーに接続します。

4. フックスイッチ信号線（紫）
スイッチパネル RS-140/143/144 またはスイッチボード RS-142 に接続します。

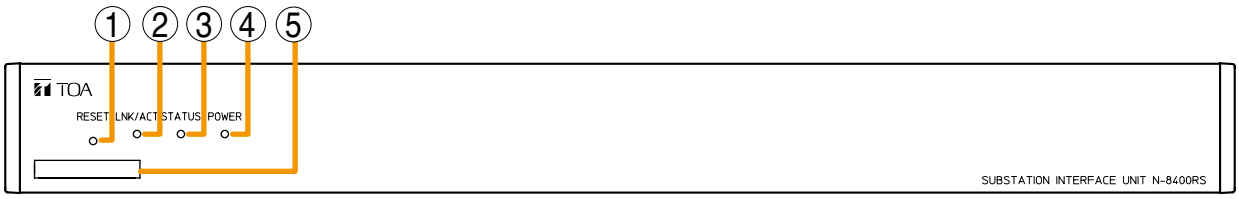
5. ハンドセット
RS-140/142/143/144 でハンドセット通話をするときに使用します。
ハンドセット通話時は、呼び出し用の外部スピーカーは切断されます。

ご注意

サブ端末接続ユニット N-8010RS、スイッチパネル RS-140/143/144 またはスイッチボード RS-142 との組み合わせで使用している場合のみ、ページング受信中はハンドセットを取り上げないでください。
ハンドセットではページングが正しく聞こえません。

● 4 線式サブ端末接続ユニット N-8400RS

［前面］



1. RESET キー［RESET］
押すと、本機を再起動します。

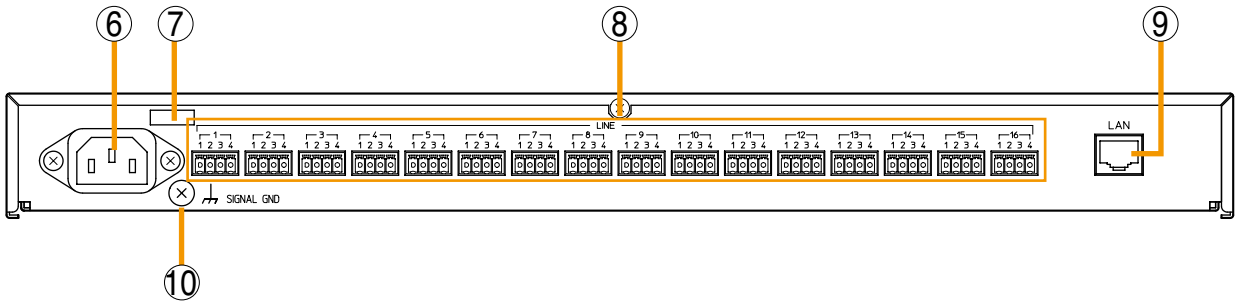
2. LNK/ACT 表示灯［LNK/ACT］（緑）
本機がネットワークに接続されると点灯し、データを送受信中は点滅します。

3. STATUS 表示灯［STATUS］（赤）
内部の記憶媒体（フラッシュメモリー）へデータ書き込み中は点灯し、機器内部の冷却ファンの故障など本機に障害があれば点滅します。（☞ P. 8-15）

4. 電源表示灯［POWER］（緑）
電源を入れると点灯します。

5. MAC アドレス
本機の MAC アドレス*です。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。
* ネットワーク機器につけられた機器固有のアドレスで、12 桁の 16 進数で表現されています。

［後面］



6. AC インレット
付属の電源コードを接続します。

ご注意

誘雷の恐れのある場合は、電源ラインに適切な電源用保安器を挿入してください。

7. コードクランプ
本機を壁に取り付けて使用するとき、電源コードのプラグが抜けないようにするために、コードを通します。（☞ P. 3-7）

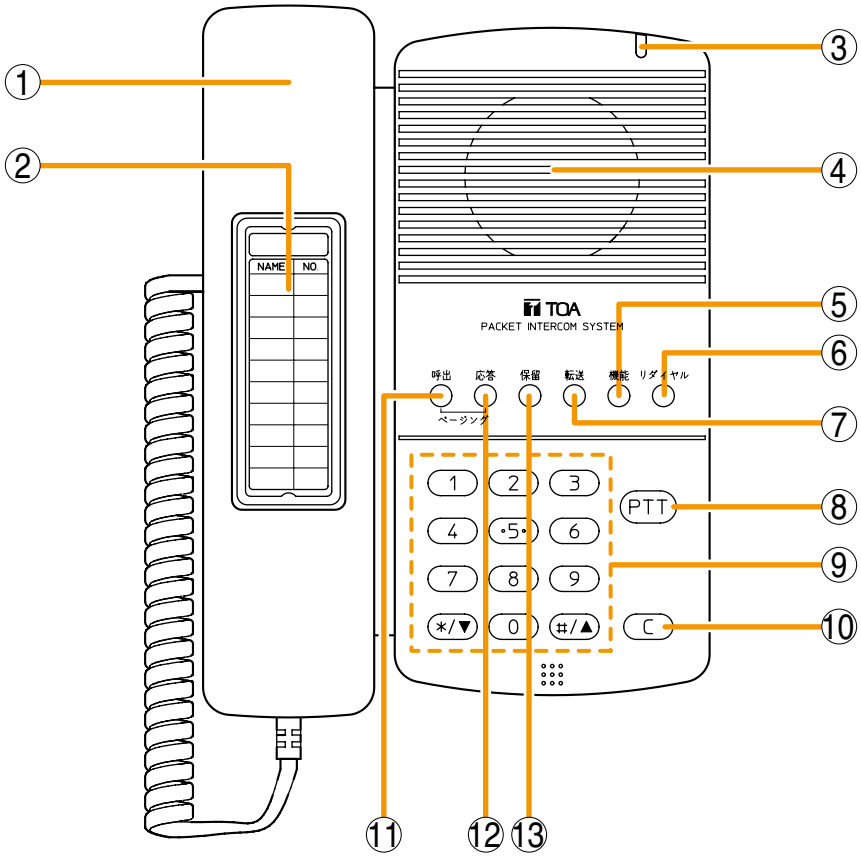
8. サブ端末接続端子［LINE 1 ～ 16］
2 対のツイストペア線を使ってサブ端末を接続します。
この端子には着脱式ターミナルプラグを接続します。
（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）

9. ネットワーク接続端子［LAN］
10BASE-T または 100BASE-TX に対応したネットワークに接続します。
（イーサネット RJ-45 ジャック）

10. 機能アース端子［SIGNAL GND］
必ず接地してください。
※ 安全アースではありません。

● アナログ標準マスター端末 N-8410MS

［上面］



1. ハンドセット
ハンドセット通話をするときに使用します。
使用時は、ハンズフリー通話用のマイクとスピーカーは切断されます。

2. 番号簿
呼び出し先の番号を記入します。

3. 状態表示灯（赤）
着信時および通話中は点灯、待ち受け時は消灯します。また、ページング受信中は点灯します。

4. スピーカー
拡声用のスピーカーで着信音を流したり、ハンズフリー通話に使用したりします。

5. 機能キー
転送先の設定、ワンタッチダイヤルの登録などの機能設定をするときに使用します。

6. リダイヤルキー
直前にしたダイヤル操作を繰り返すときに使用します。（☞ P. 2-9）

7. 転送キー
通話を他の端末に転送するときに使用します。（☞ P. 2-16）

8. PTT キー［PTT］
連続呼び出し音で呼び出している相手に、このキーを押して音声で呼びかけることができます。（☞ P. 2-10）
また、ハンズフリー通話中に押すと、押した側からの一方向通話になります。（☞ P. 2-7）

9. ダイヤルキー
相手を呼び出したり、機能設定をするときなどに使用します。

10. クリアキー［C］
通話を終了するときに使用します。

11. ページング呼び出しキー
ページング呼び出し操作をするときに使用します。（☞ P. 2-26）

12. ページング応答キー
ページング応答操作をするときに使用します。（☞ P. 2-32）

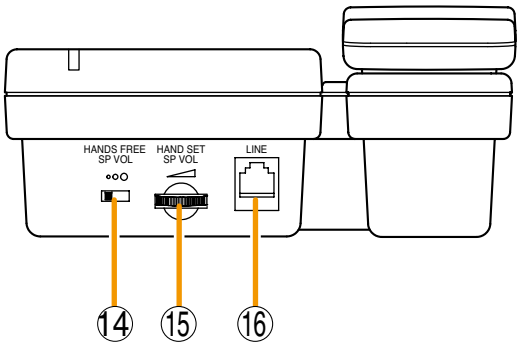
13. 保留キー
通話を一時保留するときに使用します。（☞ P. 2-15）

［後面］

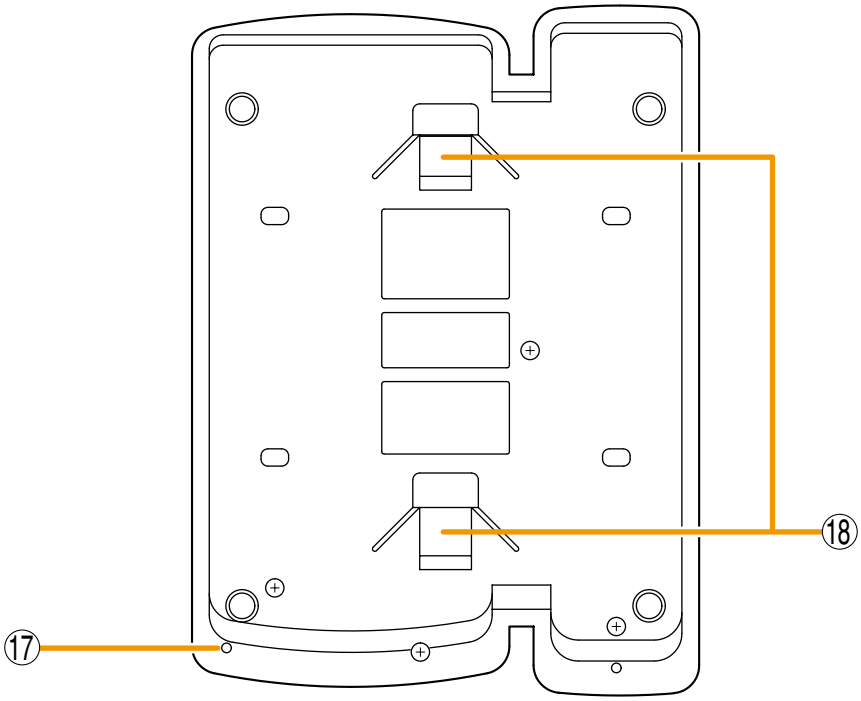
14. ハンズフリースピーカー音量調節スイッチ［HANDS FREE SP VOL］
ハンズフリースピーカーの音量を調節します。

15. ハンドセットスピーカー音量調節ダイヤル［HAND SET SP VOL］
ハンドセットスピーカーの音量を調節します。

16. 回線接続端子［LINE］
4 線式サブ端末接続ユニットに接続します。
（RJ-11 モジュラージャック）



［底面］



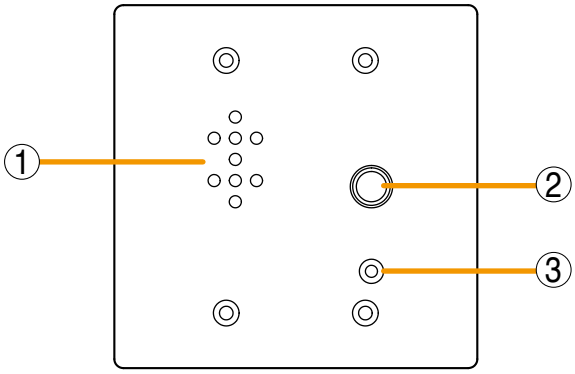
17. マイク
ハンズフリー通話に使用します。

ご注意
マイクの回りに物を置いたりして、ふさがないでください。通話ができなくなります。

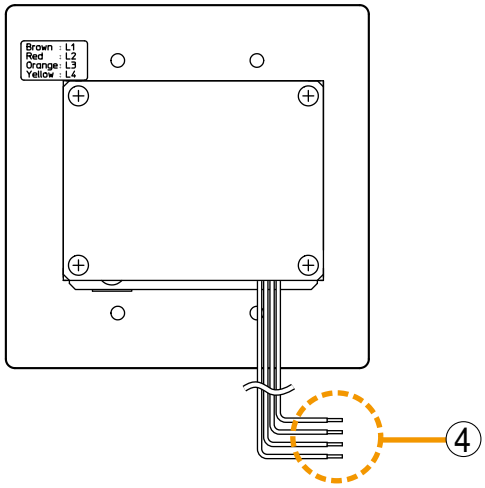
18. 壁掛卓上金具挿入口
壁掛卓上金具 YC-280 を使用するとき、金具のフックをここに挿入します。
（☞ P. 3-19、P. 3-23）

● 4 線式屋内型サブ端末 RS-450

［前面］



［後面］



1. スピーカー
拡声用のスピーカーで着信音を流したり、ハンズフリー通話に使用したりします。

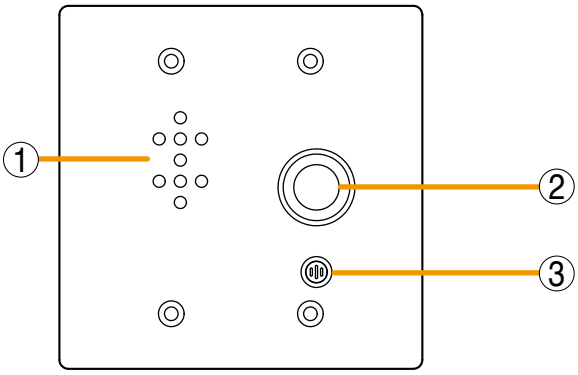
2. 呼び出しボタン
あらかじめ登録されたマスター端末を呼び出すときに使用します。

3. マイク
ハンズフリー通話に使用します。

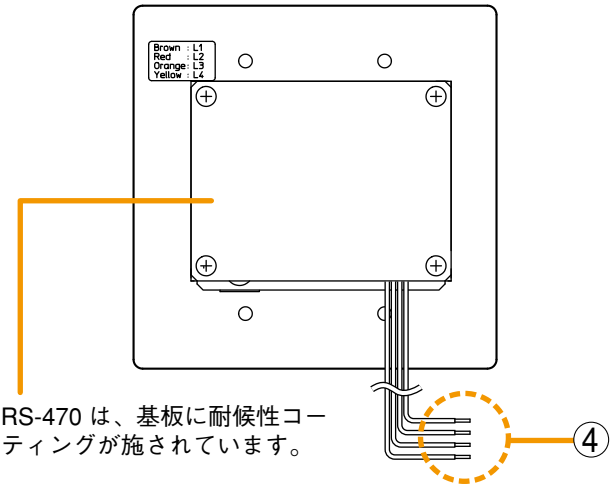
4. 接続線（茶、赤、橙、黄）
4 線式サブ端末接続ユニットに接続します。

● 4 線式屋内堅牢型サブ端末 RS-460、4 線式屋外堅牢型サブ端末 RS-470

［前面］



［後面］



1. スピーカー
拡声用のスピーカーで着信音を流したり、ハンズフリー通話に使用したりします。

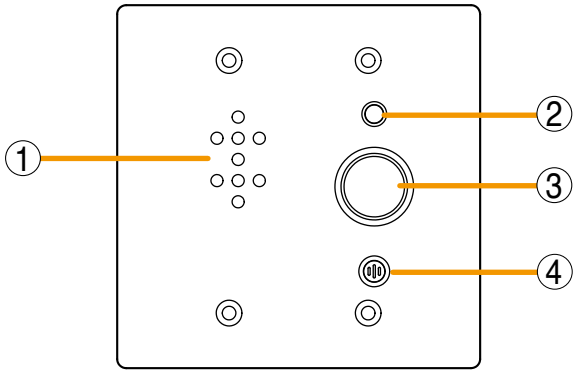
2. 呼び出しボタン
あらかじめ登録されたマスター端末を呼び出すときに使用します。

3. マイク
ハンズフリー通話に使用します。

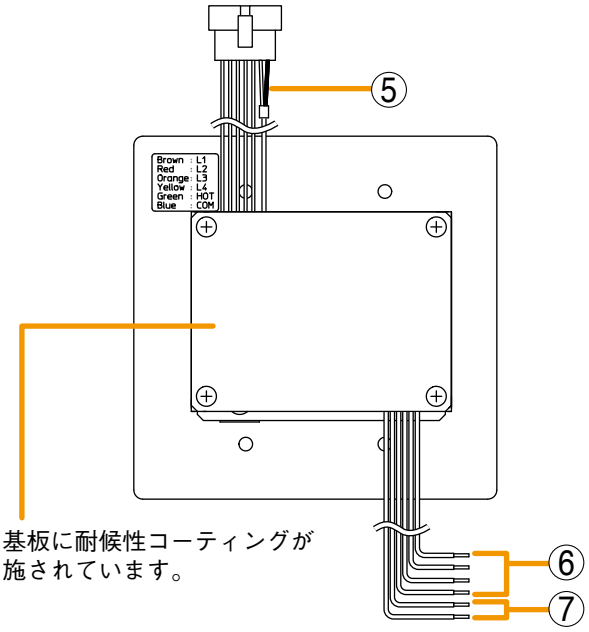
4. 接続線（茶、赤、橙、黄）
4 線式サブ端末接続ユニットに接続します。

● 4 線式多目的サブ端末 RS-480

［前面］



［後面］



1. スピーカー
拡声用のスピーカーで着信音を流したり、ハンズフリー通話に使用したりします。

2. 状態表示灯（赤）
着信時は点滅、通話中は点灯、待ち受け時は消灯します。また、ページング受信中は点灯します。

3. 呼び出しボタン
あらかじめ登録されたマスター端末を呼び出すときに使用します。

4. マイク
ハンズフリー通話に使用します。

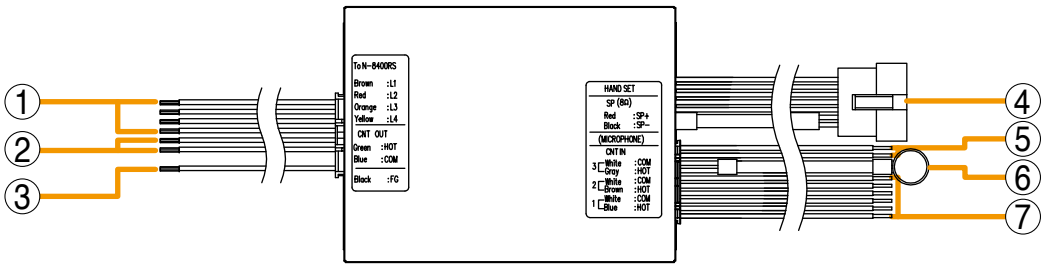
5. ハンドセット接続線
オプションハンドセット RS-481 に接続します。

6. 接続線（茶、赤、橙、黄）
4 線式サブ端末接続ユニットに接続します。

7. 制御線（青、緑）
表示灯などの外部機器に接続できます。
通話中のみメイクします。
（オープンコレクター出力、出力容量：DC24 V、30 mA）

● 4 線式スイッチボード RS-442

［前面］



1. 接続線（茶、赤、橙、黄）
4 線式サブ端末接続ユニットに接続します。

2. 制御線（緑、青）
外部表示灯に接続できます。
通話中のみメイクします。
（オープンコレクター出力、出力容量：DC 24 V、30 mA）

3. パネル接続線（黒）
フレームグランドに接続します。

4. ハンドセット接続線
オプションハンドセット RS-481 に接続します。

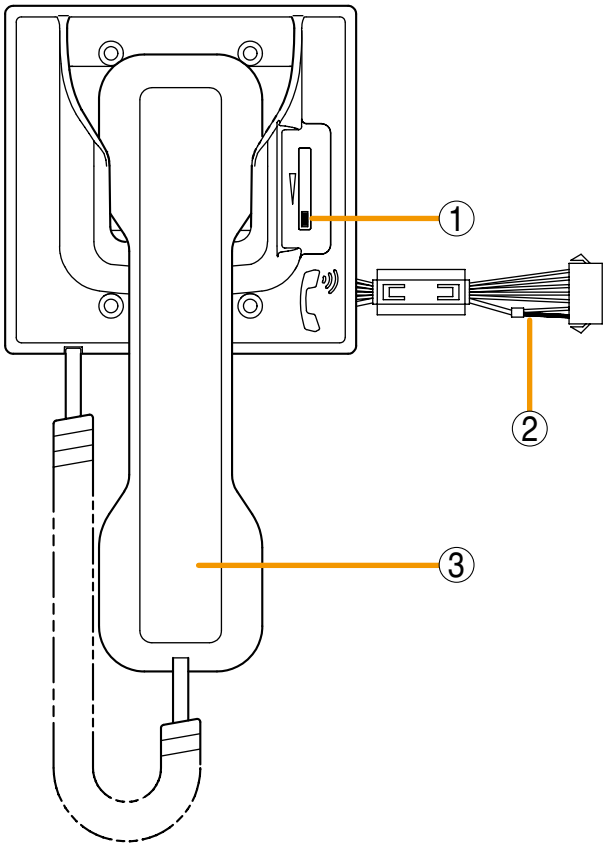
5. スピーカー線（赤、黒）
外部スピーカーに接続します。

6. マイク
パネルなどにマイクを固定して使用します。

7. 呼び出しボタン接続線（白、灰、白、茶、白、青）
あらかじめ登録されたマスター端末を呼び出すときに使用します。
最大で 3 つのボタンを使用でき、それぞれに呼び出し先を割り当てることができます。

● オプションハンドセット（屋内専用）RS-481

［前面］



1. 受話ボリューム
ハンドセットで受話する音量の調節ができます。

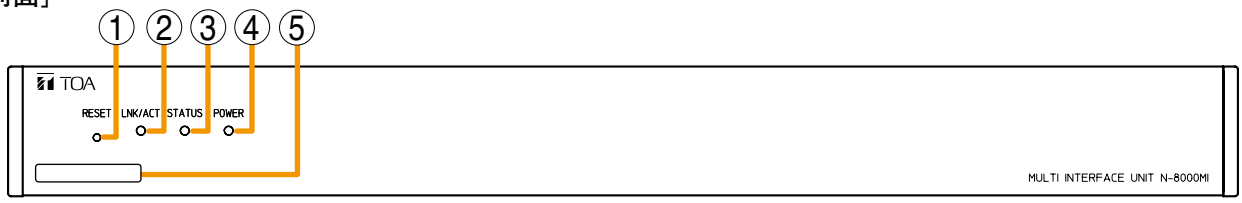
2. ハンドセットケーブル
サブ端末 RS-480 またはスイッチボード RS-442 に接続します。

3. ハンドセット
RS-480 でハンドセット通話をするときに使用します。
ハンドセット通話時は、RS-480 側にあるハンズフリー通話用のマイクとスピーカーは切断されます。

■ インターフェースユニット

● マルチインターフェースユニット N-8000MI

［前面］



1. RESET キー［RESET］
押すと、本機を再起動します。

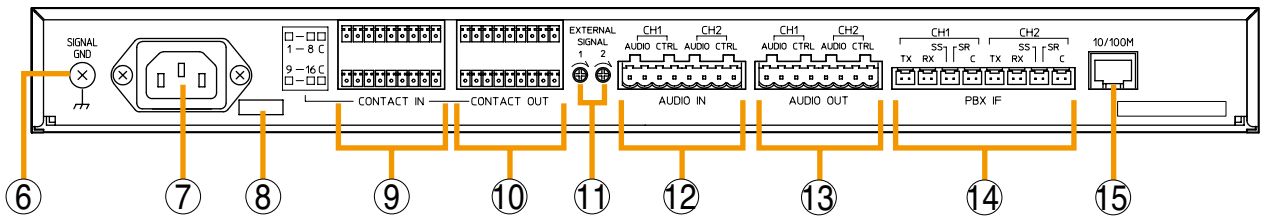
2. LNK/ACT 表示灯［LNK/ACT］（緑）
本機がネットワークに接続されると点灯し、データを送受信中は点滅します。

3. STATUS 表示灯［STATUS］（赤）
内部の記憶媒体（フラッシュメモリー）へデータ書き込み中は点灯し、マルチインターフェースユニットに障害があれば点滅します。
（☞ P. 8-15）

4. 電源表示灯［POWER］（緑）
電源を入れると点灯します。

5. MAC アドレス
本機の MAC アドレス*1 です。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。
*1 ネットワーク機器につけられた機器固有のアドレスで、12 桁の 16 進数で表現されています。

［後面］



6. 機能アース端子［SIGNAL GND］
PBX 接続時以外は、必ず接地してください。
※ 安全アースではありません。

7. AC インレット
付属の電源コードを接続します。

ご注意

誘雷の恐れのある場合は、電源ラインに適切な電源用保安器を挿入してください。

8. コードクランプ
本機を壁に取り付けて使用するとき、電源コードのプラグが抜けないようにするために、コードを通します。
（☞ P. 3-10）

9. 接点入力端子［CONTACT IN］
無電圧メイク接点入力（短絡電流：10 mA、開放電圧：12 V）です。
着脱式ターミナルプラグを接続します。
（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）

10. 接点出力端子［CONTACT OUT］
リレー接点出力（耐電圧：DC24 V、制御電流：最大 0.5 A）です。
着脱式ターミナルプラグを接続します。
（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）

11. 入力音量調節器［EXTERNAL SIGNAL 1、2］
使用する音源に合わせて、音声入力レベルを調節します。

12. 音声入力端子［AUDIO IN］
音声信号は、最大 0 dB*2、10 k Ω以上、平衡型です。
制御信号は、無電圧メイク接点入力（短絡電流：10 mA、開放電圧：12 V）です。
着脱式ターミナルプラグを接続します。
（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）

*2 0 dB = 1 V

13. 音声出力端子［AUDIO OUT］
音声信号は、最大 0 dB *、600 Ω以下、平衡型です。
制御信号は、リレー接点出力（耐電圧：DC24 V、制御電流：最大 0.5 A）です。
接点出力は音声出力中にメイクされます。
着脱式ターミナルプラグを接続します。
（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）

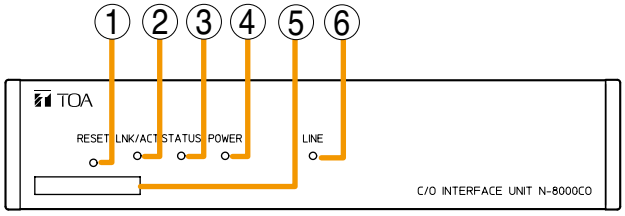
14. PBX インターフェース端子［PBX IF］
OD 方式による PBX との接続、およびインターカム EXES-2000/EXES-6000/EXES-7000 システムとのタイライン接続に使用します。（圧接コネクターの結線のしかた ☞ P. 3-82）

15. ネットワーク接続端子［10/100M］
10BASE-T または 100BASE-TX に対応したネットワークに接続します。
（イーサネット RJ-45 ジャック）

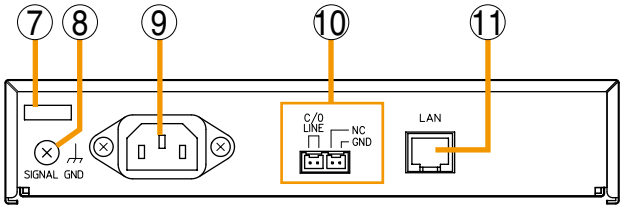
* 0 dB = 1 V

● 局線インターフェースユニット N-8000CO

［前面］



［後面］



1. RESET キー［RESET］
押すと、本機を再起動します。

2. LNK/ACT 表示灯［LNK/ACT］（緑）
本機がネットワークに接続されると点灯し、データを送受信中は点滅します。

3. STATUS 表示灯［STATUS］（赤）
内部の記憶媒体（フラッシュメモリー）へデータ書き込み中は点灯し、局線インターフェースユニットに障害があれば点滅します。
（ ☞ P. 8-15）

4. 電源表示灯［POWER］（緑）
電源を入れると点灯します。

5. MAC アドレス
本機の MAC アドレス*です。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。
* ネットワーク機器につけられた機器固有のアドレスで、12 桁の 16 進数で表現されています。

6. 局線表示灯［LINE］（緑）
局線捕捉中に点灯します。

7. コードクランプ
本機を壁に取り付けて使用するとき、電源コードのプラグが抜けないようにするために、コードを通します。（ ☞ P. 3-17）

8. 機能アース端子［SIGNAL GND］
必ず接地してください。
※ 安全アースではありません。

9. AC インレット
付属の電源コードを接続します。

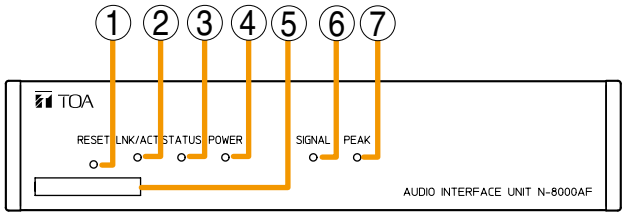
ご注意
誘雷の恐れのある場合は、電源ラインに適切な電源用保安器を挿入してください。

10. 局線接続端子［C/O］
圧接コネクターを使って局線を接続します。
（圧接コネクターの結線のしかた ☞ P. 3-82）

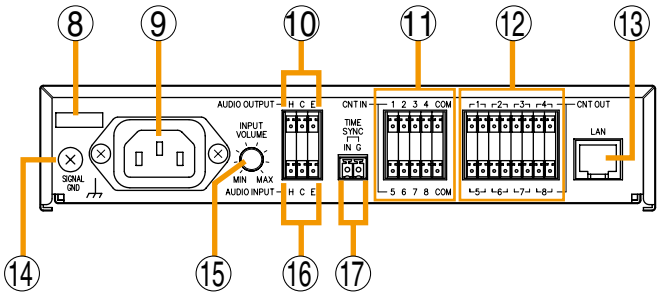
11. ネットワーク接続端子［LAN］
10BASE-T または 100BASE-TX に対応したネットワークに接続します。
（イーサネット RJ-45 ジャック）

● 音声インターフェースユニット N-8000AF

［前面］



［後面］



1. RESET キー［RESET］
押すと、本機を再起動します。

2. LNK/ACT 表示灯［LNK/ACT］（緑）
本機がネットワークに接続されると点灯し、データを送受信中は点滅します。

3. STATUS 表示灯［STATUS］（赤）
内部の記憶媒体（フラッシュメモリー）へデータ書き込み中は点灯し、音声インターフェースユニットに障害があれば点滅します。
（☞ P. 8-15）

4. 電源表示灯［POWER］（緑）
電源を入れると点灯します。

5. MAC アドレス
本機の MAC アドレス*です。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。
* ネットワーク機器につけられた機器固有のアドレスで、12 桁の 16 進数で表現されています。

6. シグナル表示灯［SIGNAL］（緑）
音声が入力されると点灯します。

7. ピーク表示灯［PEAK］（赤）
音声入力が過入力になると点灯します。

8. コードクランプ
本機を壁に取り付けて使用するとき、電源コードのプラグが抜けないようにするために、コードを通します。（☞ P. 3-17）

9. AC インレット
付属の電源コードを接続します。

ご注意
誘雷の恐れのある場合は、電源ラインに適切な電源用保安器を挿入してください。

10. 音声出力端子［AUDIO OUTPUT］
録音機器などを接続します。
（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）
音声信号は、最大 0 dB *、600 Ω以下、平衡型です。

11. 接点入力端子［CNT IN］
無電圧メイク接点入力（短絡電流：5 mA 以下、開放電圧：24 V）です。
着脱式ターミナルプラグを接続します。
（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）

12. 接点出力端子［CNT OUT］
リレー接点出力（耐電圧：DC24 V、制御電流：2 ～ 500 mA）です。
着脱式ターミナルプラグを接続します。
（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）

13. ネットワーク接続端子［LAN］
10BASE-T または 100BASE-TX に対応したネットワークに接続します。
（イーサネット RJ-45 ジャック）

14. 機能アース端子［SIGNAL GND］
必ず接地してください。
※ 安全アースではありません。

15. 入力レベル調節つまみ［INPUT VOLUME］
入力レベルを調節します。ピーク表示灯が常時点灯しないように調節してください。

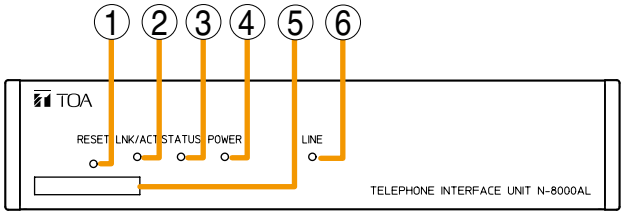
16. 音声入力端子［AUDIO INPUT］
マイク、音源機器などを接続します。
（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）
音声信号は、最大 0 dB *、2 k Ω以上、平衡型です。

17. 調時入力端子［TIME SYNC］
プログラムタイマーなどを接続します。
この端子へは着脱式ターミナルプラグを接続します。
（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）

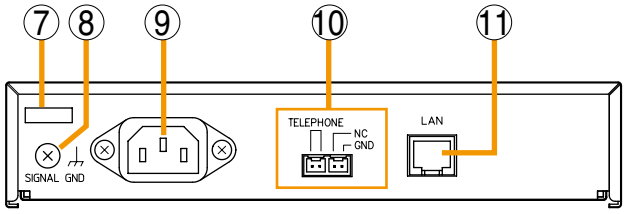
* 0 dB = 1 V

● 電話インターフェースユニット N-8000AL

［前面］



［後面］



1. RESET キー［RESET］
押すと、本機を再起動します。

2. LNK/ACT 表示灯［LNK/ACT］（緑）
本機がネットワークに接続されると点灯し、データを送受信中は点滅します。

3. STATUS 表示灯［STATUS］（赤）
内部の記憶媒体（フラッシュメモリー）へデータ書き込み中は点灯し、電話インターフェースユニットに障害があれば点滅します。
（☞ P. 8-15）

4. 電源表示灯［POWER］（緑）
電源を入れると点灯します。

5. MAC アドレス
本機の MAC アドレス*です。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。
* ネットワーク機器につけられた機器固有のアドレスで、12 桁の 16 進数で表現されています。

6. ライン表示灯［LINE］（緑）
接続された電話機がオフフック中に点灯します。

7. コードクランプ
本機を壁に取り付けて使用するとき、電源コードのプラグが抜けないようにするために、コードを通します。（☞ P. 3-17）

8. 機能アース端子［SIGNAL GND］
必ず接地してください。
※ 安全アースではありません。

9. AC インレット
付属の電源コードを接続します。

ご注意

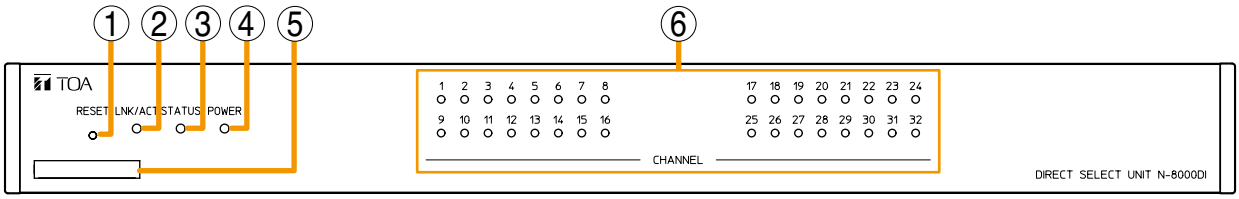
誘雷の恐れのある場合は、電源ラインに適切な電源用保安器を挿入してください。

10. 電話機接続端子［TELEPHONE］
圧接コネクターを使って電話機を接続します。
（圧接コネクターの結線のしかた ☞ P. 3-82）

11. ネットワーク接続端子［LAN］
10BASE-T または 100BASE-TX に対応したネットワークに接続します。
（イーサネット RJ-45 ジャック）

● ダイレクトセレクトユニット N-8000DI

［前面］



1. RESET キー［RESET］
押すと、本機を再起動します。

2. LNK/ACT 表示灯［LNK/ACT］（緑）
本機がネットワークに接続されると点灯し、データを送受信中は点滅します。

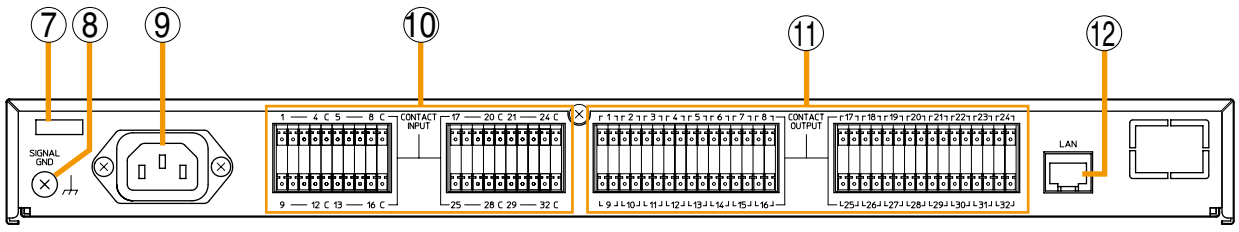
3. STATUS 表示灯［STATUS］（赤）
内部の記憶媒体（フラッシュメモリー）へデータ書き込み中は点灯し、ダイレクトセレクトユニットに障害があれば点滅します。
（☞ P. 8-15）

4. 電源表示灯［POWER］（緑）
電源を入れると点灯します。

5. MAC アドレス
本機の MAC アドレス*です。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。
* ネットワーク機器につけられた機器固有のアドレスで、12 桁の 16 進数で表現されています。

6. チャンネル状態表示灯［CHANNEL］（緑）
接点出力が ON のときに点灯します。

［後面］



7. コードクランプ
本機を壁に取り付けて使用するとき、電源コードのプラグが抜けないようにするために、コードを通します。（☞ P. 3-13）

8. 機能アース端子［SIGNAL GND］
必ず接地してください。
※ 安全アースではありません。

9. AC インレット
付属の電源コードを接続します。

ご注意

誘雷の恐れのある場合は、電源ラインに適切な電源用保安器を挿入してください。

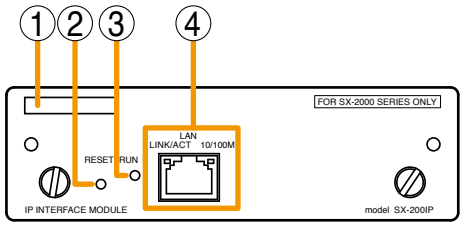
10. 接点入力端子［CONTACT INPUT］
無電圧メイク接点入力（短絡電流：5 mA 以下、開放電圧：24 V）です。
着脱式ターミナルプラグを接続します。
（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）

11. 接点出力端子［CONTACT OUTPUT］
リレー接点出力（耐電圧：DC24 V、制御電流：最大 2 ～ 500 mA）です。
着脱式ターミナルプラグを接続します。
（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）

12. ネットワーク接続端子［LAN］
10BASE-T または 100BASE-TX に対応したネットワークに接続します。
（イーサネット RJ-45 ジャック）

● スマートマトリクス IP モジュール SX-200IP

［前面］



1. MAC アドレス

本機の MAC アドレス*です。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。
* ネットワーク機器につけられた機器固有のアドレスで、12 桁の 16 進数で表現されています。

2. RESET キー［RESET］

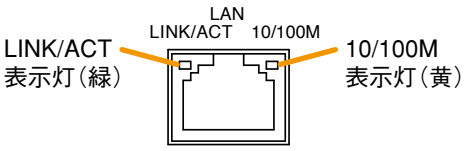
押すと、本モジュールを再起動します。

3. RUN 表示灯［RUN］（緑）

動作中は点滅し、内部の記憶媒体（フラッシュメモリー）へのデータ書き込み中は点灯します。

4. ネットワーク接続端子［LAN］

10BASE-T または 100BASE-TX に対応したネットワークに接続します。
（イーサネット RJ-45 ジャック）



LINK/ACT 表示灯（緑）：
本機がデータを送受信しているときに点滅します。

10/100M 表示灯（黄）：
100BASE-TX で接続しているときに点灯し、10BASE-T で接続しているときには消灯します。

システムの機能一覧表

■ 基本の機能

交換機と端末によるシステムまたは IP 端末や各種インターフェースユニットで、次の機能が実現できます。

● マスター端末の機能

機　能　名		概　　要	参照ページ	
			操作	設定
通話	個別呼び出し	通話したい相手の端末番号をダイヤルして、呼び出すことができます。	P. 2-9	—
	リダイヤル	リダイヤルキーを押すと、最後に行ったダイヤル操作を、もう一度行うことができます。 N-8000MS/8500MS/8600MS の場合のみ、最新 10 件から選択できます。	P. 2-9	—
	リコール	[# / ▲] キーを押すと、最後に通話した相手（呼び出しをかけてきた相手、または呼び出した相手）を呼び出すことができます。 N-8000MS/8500MS/8600MS の場合のみ、最新 10 件から選択できます。	P. 2-10	—
	音声呼び出し	連続呼び出し音で呼び出している相手に、PTT キーを押すことで、音声で呼びかけることができます。 PTT キーを離すと、連続呼び出し音に戻ります。	P. 2-10	—
	グループ呼び出し	端末に同時呼び出し端末が設定されていると、その端末番号をダイヤルしたときに、その端末と同時呼び出し端末すべてが、着信モードの設定に関係なく連続呼び出し音で呼ばれます。いずれかの端末が応答すれば、他の端末への呼び出しは終了します。	P. 2-11	—
着信選択	自動着信	着信があれば短い着信音の後（約 1 秒間）または無音で即時、自動的に通話状態になります。	P. 2-11	P. 5-68 P. 5-83
	連続呼び出し	連続した呼び出し音（または無音）と状態表示灯で、応答するまで呼び出し続けます。	P. 2-11	
短縮ダイヤル	オートダイヤル（N-8000MS/8500MS/8600MS のみ）	端末ごとに、専用のオートダイヤルキーにあらかじめダイヤル操作（最大 20 桁）を登録しておくと、ワンタッチで発信などができます。	P. 2-12	P. 2-12
	ワンタッチダイヤル	端末ごとに、[7]、[8]、[9]、[0] キーまたはオフフック（ハンドセットを持ち上げた状態）にあらかじめダイヤル操作（最大 32 桁）を登録しておくと、ワンタッチで発信などができます。	P. 2-13	P. 5-71 P. 5-86
	ダイヤルパターン起動（N-8600MS のみ）	あらかじめダイヤル操作（最大 380 桁）をダイヤルパターンとして登録しておくと、発信などができます。	P. 2-14	P. 5-81

機　能　名		概　　要	参照ページ	
			操作	設定
保留	マイクオフ	通話中にダイヤルキー（[0] ～ [9]）のいずれかを押すと、押している間だけマイクを切って、相手にこちらの会話を聞かれないようにすることができます。	P. 2-15	—
	一時保留	通話中に保留キーを押すと両者に保留音が鳴って保留状態になります。もう一度押すと保留は解除され、元の通話に戻ります。	P. 2-15	—
転送*		転送キーを操作して、2 者通話状態から、第 3 者を呼び出して通話し、その後元の通話に戻ることや、元の通話相手と第 3 者の通話状態にすることができます。	P. 2-16	—
自動転送	話中転送	通話中に着信があったとき、着信端末に話中転送が設定されていると自動的に転送されます。	P. 2-18	P. 5-38 P. 5-65 P. 5-69 P. 5-83
	不応答転送	着信があったとき、着信端末に不応答転送設定があり一定時間応答しないと自動的に転送されます。	P. 2-20	
	不在転送	着信があった場合、着信端末が不在転送状態ならば、呼び出し音を鳴らさずに、自動的に転送されます。 転送先を設定すれば、すぐに不在転送状態になります。	P. 2-21	
	時刻連動不在転送	着信があった場合、着信端末が不在転送状態ならば、呼び出し音を鳴らさずに、自動的に転送されます。 転送先を設定しても、指定時刻になるまでは不在転送状態になりません。	P. 2-22	
代理応答*		他の端末に着信があったとき、その端末と自席の端末が同一グループに設定されていた場合に、PTT キーを押すと、自席の端末で代わりに呼び出しに応答して通話できます。	P. 2-23	P. 5-127
緊急割り込み*		呼び出した相手端末が使用中で話中音が流れている場合、[9] キーを押すと、割り込み音を数秒流した後、相手端末の通話を強制的に終了させた後、呼び出すことができます。 割り込み操作できる端末、割り込みを拒否できる端末を端末ごとに設定できます。	P. 2-25	P. 5-70 P. 5-85
端末スピーカー音量の設定（N-8410MS 以外）		音量を大きくするには、通話中に［# / ▲］キーを押します。音量を小さくするには、通話中に［＊ / ▼］キーを押します。	P. 2-5	P. 5-68 P. 5-83

＊ 交換機 N-8010EX、サブ端末接続ユニット N-8400RS に接続されている端末の場合は、これらの機能の使用に制限があります。詳しくは、各機能の操作のページをお読みください。

機　能　名		概　　要	参照ページ	
			操作	設定
ページング呼び出し	系統ページング	あらかじめ設定されたエリア（系統）の 1 つに呼び出し放送ができます。	P. 2-26	P. 5-70 P. 5-85 P. 5-123
	選択ページング	あらかじめ設定された複数のエリア（系統）から最大 50 系統を選択して呼び出し放送ができます。	P. 2-27	
	ページング系統および系統のパターンへの選択ページング（N-8600MS のみ）	あらかじめ設定された複数のエリア（系統）から任意の系統および系統のパターンを選択して呼び出し放送ができます。	P. 2-28	P. 5-80 P. 5-123
	一斉ページング	あらかじめ設定されたすべてのエリア（系統）に、一斉に呼び出し放送ができます。	P. 2-29	P. 5-70 P. 5-85 P. 5-123
	緊急一斉ページング	通話中、ページング呼び出し中など、現在動作中のすべての動作を終了させ、すべての端末と、ページング出力に設定されているすべてのユニットに、一斉に呼び出し放送ができます。	P. 2-30	P. 5-70 P. 5-85
	緊急メッセージ放送	IP マスター端末のキー操作または外部から IP マスター端末への制御入力により、あらかじめ録音された緊急メッセージを放送できます。緊急メッセージ放送の起動に連動して、マルチインターフェースユニット、ダイレクトセレクトユニット、または音声インターフェースユニットの接点出力にメイク信号を出すこともできます。	P. 2-75	P. 5-73 P. 5-131
ページング応答	自動応答	ページング応答操作をすると、操作端末が最後に受信したページング系統に応答します。	P. 2-32	P. 5-39 P. 5-66
	系統番号指定応答	ページング応答操作をすると、指定した系統へ最後に放送した端末に応答します。	P. 2-33	
SX-2000 システムへの放送（N-8600MS のみ、SX-200IP 使用時のみ）	ゾーン選択放送	SX-2000 システムのゾーンへ放送することができます。	P. 2-34	P. 5-31 P. 5-75 P. 5-80
	業務放送	SX-2000 システムで設定された業務放送パターンを起動することができます。	P. 2-35	
	BGM 放送	SX-2000 システムで設定された BGM パターンを起動することができます。	P. 2-36	
	制御出力起動	SX-2000システムの制御出力を起動することができます。	P. 2-38	
	組み合わせ起動	SX-2000 ゾーン選択放送、SX-2000 制御出力パターン、N-8000 ページング呼び出しなど、複数の機能を同時に起動することができます。	P. 2-40	P. 5-31 P. 5-75 P. 5-80 P. 5-123

機　能　名		概　　要	参照ページ	
			操作	設定
その他の機能	スキャンモニター	端末から、あらかじめ登録された任意の複数端末の周囲音声を登録順にモニターすることができます。または、マスター端末の操作により端末を指定して、その指定した順番に従ってモニターすることができます。	P. 2-45	P. 5-72 P. 5-87
	3 者会議	他のマスター端末を順次呼び出して、3 者によるハンドセットでの同時通話会議ができます。	P. 2-47	—
	タイムシグナル	あらかじめ設定したスケジュール番号を設定、変更、停止することができます。タイムシグナルは設定されたスケジュールに従って動作します。	P. 2-51	P. 5-110
	PBX 接続	マルチインターフェースユニットを PBX の OD トランクと接続すると、N-8000 システムの端末と PBX の内線電話機の間で相互に呼び出しや通話をしたり、PBX の内線電話機からページング呼び出しなどをしたりすることができます。	P. 2-57	P. 5-48
	局線接続	局線インターフェースユニットを使用すると、マスター端末から局線を呼び出したり、局線から着信を受けたりできます。	P. 2-59	P. 5-93
	タイライン接続	4 線の私設線を介してマルチインターフェースユニットを別のインターカム交換機（EXES-2000、EXES-6000、EXES-7000）と接続すると、別の交換機の端末と相互に呼び出しや通話を行ったり、別の交換機へのページング呼び出しを行ったりすることができます。	P. 2-66	P. 5-48
	BGM	マルチインターフェースユニットに演奏機器などを接続すると、各端末から最大 8 チャンネルの BGM を選択して、待ち受け状態のときに端末のスピーカーから聞くことができます。	P. 2-69	P. 5-39 P. 5-48 P. 5-66
	外部機器制御	端末の操作で、指定したマルチインターフェースユニット、ダイレクトセレクトユニット、または音声インターフェースユニットの接点にワンショットメイク出力やメイク／ブレイク出力を出したり、指定したドア端末の接点にワンショットメイクを出したりすることで、外部機器を制御することができます。	P. 2-71	P. 5-38 /5-46/5-52/ 5-65/5-70/ 5-85/5-109/ 5-112/5-116/ 5-119
	音声トリガー	あらかじめ設定されたドア端末 N-8050DS、IP ドア端末 N-8640DS/8650DS のマイクに入力された音声が、設定された条件を満たすと、アラーム動作を行います。	P. 2-78	P. 5-70 P. 5-85

機　能　名		概　　要	参照ページ	
			操作	設定
その他の機能	ドアリモート	ドア端末の接点出力を利用して、電子錠などの外部機器を制御することができます。 ドア端末と通話中のマスター端末からドアリモート操作をすると、ドア端末の接点出力が一定時間メイクします。マルチインターフェースユニット、ダイレクトセレクトユニット、音声インターフェースユニットの接点出力も同様に制御することができます。	P. 2-73	P. 5-38 P. 5-40 P. 5-65 P. 5-67 P. 5-69 P. 5-83 P. 5-100 P. 5-103
	IP ドア端末のスピーカー出力切り換え制御（N-8640DS /8650DS 使用時のみ）	マスター端末の操作で、そのマスター端末と通話中の IP ドア端末 N-8640DS/8650DS の音声出力先を内部スピーカーまたは外部スピーカー端子に接続したスピーカーに切り換えることができます。通話が終了する、または優先順位の高いページングに割り込まれると、内部スピーカーの設定に戻ります。	P. 2-81	P. 5-69
	アクセスコード認証	アクセスコード認証（4 桁の暗証番号）を有効にすると、マスター端末の使用を制限できます。 認証が一致しなければ、発信、スキャンモニター、ページングなどができません。着信応答、緊急の操作は認証の対象になりません。	P. 2-82	P. 5-70 P. 5-84

● リモートマイク端末の機能

機　能　名		概　　要	参照ページ	
			操作	設定
通話	個別呼び出し	通話したい相手の端末番号が設定された端末キーを押して、呼び出すことができます。	P. 2-94	P. 5-79
着信選択	自動着信	着信があれば短い着信音の後（約 1 秒間）または無音で即時、自動的に通話状態になります。	P. 2-95	P. 5-68
	連続呼び出し	連続した呼出音（または無音）と状態表示灯で、応答するまで呼び出し続けます。		
短縮ダイヤル	ワンタッチダイヤル	1 つのキーにあらかじめ最大 32 桁のダイヤル操作を登録しておくと、ワンタッチでページングなどができます。	P. 2-99	P. 5-71
	ダイヤルパターン起動	あらかじめダイヤル操作（最大 380 桁）をダイヤルパターンとして登録し、ダイヤルパターンキーにダイヤルパターン番号を割り当てておくと、ワンタッチでページングなどができます。	P. 2-99	P. 5-81
プライバシー		緊急一斉ページング以外のページング、スキャンモニター、および呼び出しを受け付けないようにする機能です。	P. 2-100	P. 5-78
ページング呼び出し	選択ページング	あらかじめ設定された複数のエリア（系統および系統のパターン）から最大 50 系統を選択して呼び出し放送ができます。	P. 2-101	P. 5-70 P. 5-123
ページング応答	自動応答	ページング応答操作をすると、操作端末が最後に受信したページング系統に応答します。	P. 2-111	P. 5-66
	系統番号指定応答	ページング応答操作をすると、指定した系統へ最後に放送した端末に応答します。	P. 2-111	
SX-2000 システムへの放送（SX-200IP 使用時のみ）	ゾーン選択放送	SX-2000 システムのゾーンへ放送することができます。	P. 2-105	P. 5-31 P. 5-75 P. 5-80
	業務放送	SX-2000 システムで設定された業務放送パターンを起動することができます。	P. 2-109	
	BGM 放送	SX-2000 システムで設定された BGM パターンを起動することができます。	P. 2-110	
	制御出力起動	SX-2000 システムの制御出力を起動することができます。	P. 2-110	P. 5-31 P. 5-75 P. 5-80
	組み合わせ起動	SX-2000 ゾーン選択放送、SX-2000 制御出力パターン、N-8000 ページング呼び出しなど、複数の機能を同時に起動することができます。	P. 2-111	P. 5-31 P. 5-75 P. 5-80 P. 5-123

機　能　名		概　　要	参照ページ	
			操作	設定
保留	マイクオフ	通話中にダイヤルキー（[0] ～ [9]）のいずれかを押すと、押している間だけマイクを切って、相手にこちらの会話を聞かれないようにすることができます。	P. 2-15	—
	一時保留	通話中に保留キーを押すと両者に保留音が鳴って保留状態になります。もう一度押すと保留は解除され、元の通話に戻ります。	P. 2-15	—
転送		転送キーを操作して、2 者通話状態から、第 3 者を呼び出して通話し、その後元の通話に戻ることや、元の通話相手と第 3 者の通話状態にすることができます。	P. 2-16	—
自動転送	話中転送	通話中に着信があったとき、着信端末に話中転送が設定されていると自動的に転送されます。	P. 2-18	P. 5-65 P. 5-69
	不応答転送	着信があったとき、着信端末に不応答転送設定があり一定時間応答しないと自動的に転送されます。	P. 2-20	
	不在転送	着信があった場合、着信端末が不在転送状態ならば、呼び出し音を鳴らさずに、自動的に転送されます。 転送先を設定すれば、すぐに不在転送状態になります。	P. 2-21	
	時刻連動不在転送	着信があった場合、着信端末が不在転送状態ならば、呼び出し音を鳴らさずに、自動的に転送されます。 転送先を設定しても、指定時刻になるまでは不在転送状態になりません。	P. 2-22	
代理応答		他の端末に着信があったとき、その端末と自席の端末が同一グループに設定されていた場合に、PTT キーを押すと、自席の端末で代わりに呼び出しに応答して通話できます。	P. 2-23	P. 5-127
緊急割り込み		呼び出した相手端末が使用中で話中音が流れている場合、[9] キーを押すと、割り込み音を数秒流した後、相手端末の通話を強制的に終了させた後、呼び出すことができます。 割り込み操作できる端末、割り込みを拒否できる端末を端末ごとに設定できます。	P. 2-25	P. 5-70
端末スピーカー音量の設定		音量を大きくするには、通話中に［# / ▲］キーを押します。音量を小さくするには、通話中に［＊ / ▼］キーを押します。	P. 2-97	P. 5-68
マイクインジケーター		トークキーの左側にある放送状態表示灯の表示をマイクインジケーター表示に切り換えることができます。	P. 2-114	—

● ドア端末の機能

機　能　名	概　　要	参照ページ	
		操作	設定
呼び出し	呼び出しボタンを押すと、あらかじめ設定しているマスター端末や N-8000AL に接続されたアナログ電話機を呼び出すことができます。	P. 2-116	P. 5-71 P. 5-86
緊急呼び出し	呼び出しボタンを 2 回連続早押しすることで、緊急呼び出しをすることができます。	P. 2-118	P. 5-70 P. 5-85
通話	着信後自動的に応答するので、操作なしに通話をすることができます。	P. 2-118	—
音声トリガー（N-8050DS/8640DS/8650DS のみ）	あらかじめ設定された条件で音を検知することで、自動的に呼び出しなどをすることができます。	P. 2-119	P. 5-70 P. 5-84
呼び出しボタン制限（N-8050DS/8640DS/8650DS のみ）	呼び出しボタンを 3 秒以内に 3 回押すことにより、呼び出し動作を行います。 誤操作による呼び出しを防ぐことができます。	P. 2-121	P. 5-70 P. 5-85

● サブ端末、スイッチパネルの機能

機　能　名	概　　要	参照ページ	
		操作	設定
呼び出し	呼び出しボタンを押すと、あらかじめ設定しているマスター端末や N-8000AL に接続されたアナログ電話機を呼び出すことができます。	P. 2-122	P. 5-59
ハンドセット通話	RS-140/142/143/144 と RS-141、RS-442/480 と RS-481 を組み合わせることで、ハンドセットでの通話をすることができます。	P. 2-124	—
緊急呼び出し	呼び出しボタンを 2 回連続早押しすることで、緊急呼び出しをすることができます。	P. 2-125	P. 5-60
通話	着信後自動的に応答するので、操作なしに通話をすることができます。	P. 2-127	—
プライバシー （RS-140 のみ）	プライバシー表示灯が消灯している時にプライバシーボタンを押すことでプライバシー機能を ON にすることができます。プライバシー状態では呼び出しを受け付けません。	P. 2-128	—
呼び出しボタン制限 （RS-150/160/170/450/460/470/480/442 のみ）	呼び出しボタンを 3 秒以内に 3 回押すことにより、呼び出し動作を行います。 誤操作による呼び出しを防ぐことができます。	P. 2-129	P. 5-60

● 電話機の機能

機　能　名		概　　要	参照ページ	
			操作	設定
通話	個別呼び出し	通話したい相手の端末番号をダイヤルして、呼び出すことができます。	P. 2-133	—
	グループ呼び出し	端末に同時呼び出し端末が設定されていると、その端末番号をダイヤルしたときに、その端末と同時呼び出し端末すべてが、着信モードの設定に関係なく連続呼び出し音で呼ばれます。いずれかの端末が応答すれば、他の端末への呼び出しは終了します。	P. 2-133	P. 5-102
転送		フッキング操作をして、2 者通話状態から、第 3 者を呼び出して通話し、その後元の通話に戻ることや、元の通話相手と第 3 者の通話状態にすることができます。	P. 2-134	—
自動転送	話中転送	通話中に着信があったとき、着信端末に話中転送が設定されていると自動的に転送されます。	P. 2-136	P. 5-100 P. 5-103
	不応答転送	着信があったとき、着信端末に不応答転送設定があり一定時間応答しないと自動的に転送されます。	P. 2-138	
	不在転送	着信があった場合、着信端末が不在転送状態ならば、呼び出し音を鳴らさずに、自動的に転送されます。 転送先を設定すれば、すぐに不在転送状態になります。	P. 2-139	
	時刻連動不在転送	着信があった場合、着信端末が不在転送状態ならば、呼び出し音を鳴らさずに、自動的に転送されます。 転送先を設定しても、指定時刻になるまでは不在転送状態になりません。	P. 2-140	
緊急割り込み		呼び出した相手端末が使用中で話中音が流れている場合、[9] キーを押すと、割り込み音を数秒流した後、相手端末の通話を強制的に終了させた後、呼び出すことができます。 割り込み操作できる端末、割り込みを拒否できる端末を端末ごとに設定できます。	P. 2-141	P. 5-103
ページング呼び出し	系統ページング	あらかじめ設定されたエリア（系統）の 1 つに呼び出し放送ができます。	P. 2-142	P. 5-103 P. 5-123
	選択ページング	あらかじめ設定された複数のエリア（系統）から最大 50 系統を選択して呼び出し放送ができます。	P. 2-143	
	一斉ページング	あらかじめ設定されたすべてのエリア（系統）に、一斉に呼び出し放送ができます。	P. 2-144	
	緊急一斉ページング	通話中、ページング呼び出し中など、現在動作中のすべての動作を終了させ、すべての端末と、ページング出力に設定されているすべてのユニットに、一斉に呼び出し放送ができます。	P. 2-145	P. 5-103

機　能　名		概　　要	参照ページ	
			操作	設定
その他の機能	スキャンモニター	端末から、あらかじめ登録された任意の複数端末の周囲音声を登録順にモニターすることができます。または、電話機の操作により端末を指定して、その指定した順番に従ってモニターすることができます。	P. 2-147	P. 5-104
	ドアリモート	ドア端末の接点出力を利用して、電子錠などの外部機器を制御することができます。 ドア端末と通話中の電話機からドアリモート操作をすると、ドア端末の接点出力が一定時間メイクします。 マルチインターフェースユニット、ダイレクトセレクトユニット、音声インターフェースユニットの接点出力も同様に制御することができます。	P. 2-151	P. 5-38 P. 5-40 P. 5-65 P. 5-67 P. 5-69 P. 5-83 P. 5-100 P. 5-103
	外部機器制御	電話機の操作で指定したマルチインターフェースユニット、ダイレクトセレクトユニット、または音声インターフェースユニットの接点にワンショットメイク出力やメイク／ブレイク出力を出したり、指定したドア端末の接点にワンショットメイクを出したりすることで、外部機器を制御することができます。	P. 2-149	P. 5-38 /5-46/5-52 /5-65 /5-103 /5-109 /5-112 /5-116 /5-119
	IP ドア端末のスピーカー出力切り換え制御（N-8640DS /8650DS 使 用 時のみ）	電話機の操作で、その電話機と通話中の IP ドア端末 N-8640DS/8650DS の音声出力先を内部スピーカーまたは外部スピーカー端子に接続したスピーカーに切り換えることができます。通話が終了する、または状態が変化すると、内部スピーカーの設定に戻ります。	P. 2-153	P. 5-69
	アクセスコード認証	アクセスコード認証（4 桁の暗証番号）を有効にすると、電話機の使用を制限できます。 認証が一致しなければ、発信、スキャンモニター、ページングなどができません。着信応答、緊急の操作は認証の対象になりません。	P. 2-154	P. 5-103

● 局線の機能

機　能　名		概　　要	参照ページ	
			操作	設定
ダイレクトインラインによる呼び出し		あらかじめ設定された最大 4 台の端末を同時に呼び出します。	P. 2-157	P. 5-94
ダイレクトインダイヤルによる呼び出し		ある 1 つの端末を指定して直接呼び出します。		
ページング呼び出し	系統ページング	あらかじめ設定されたエリア（系統）の 1 つに呼び出し放送ができます。	P. 2-158	P. 5-92 P. 5-123
	選択ページング	あらかじめ設定された複数のエリア（系統）から最大 50 系統を選択して呼び出し放送ができます。	P. 2-160	
	一斉ページング	あらかじめ設定されたすべてのエリア（系統）に、一斉に呼び出し放送ができます。	P. 2-162	
その他の機能	スキャンモニター	局線から、あらかじめ登録された任意の複数端末の周囲音声を登録順にモニターすることができます。または、局線の操作により端末を指定して、その指定した順番に従ってモニターすることができます。	P. 2-163	P. 5-30 P. 5-92 P. 5-95
	外部機器制御	局線から、指定したマルチインターフェースユニット、ダイレクトセレクトユニット、または音声インターフェースユニットの接点にワンショットメイク出力やメイク／ブレイク出力を出したり、指定したドア端末の接点にワンショットメイクを出したりすることで、外部機器を制御することができます。	P. 2-171	P. 5-30/ 5-38/5-46 /5-52/5-65/ 5-92/5-109 /5-112 /5-116 /5-119
	タイムシグナル	あらかじめ設定したスケジュール番号を設定、変更、停止することができます。タイムシグナルは設定されたスケジュールに従って動作します。	P. 2-165	P. 5-110

■ その他の機能

機　能　名	概　　要	参照ページ	
		操作	設定
優先順位	呼び出し優先： 着信方式が「選択応答」のとき、呼び出しに優先順位を持つことができます。 通話路優先： 通話に優先順位を持つことができます。優先の高い通話やページングが入ると、使用中の機能が強制的に中断されたりします。	P. 2-175	P. 5-39 P. 5-47 P. 5-66
時間制限	終了、キャンセルのし忘れ防止です。 呼び出し時間、通話時間、ページング呼び出し時間に制限を持つことができます。	P. 2-176	P. 5-39/ 5-46/5-57 5-66/5-93 P. 5-101
録音	音声インターフェースユニットの動作モードを「通話録音」に設定することで、マスター端末および電話機の通話、会議、ページング、スキャンモニターを録音することができます。また、通話の相手が局線のときも録音することができます。音声インターフェースユニットに接続された録音装置に録音します。	P. 2-176	P. 5-69 P. 5-84 P. 5-92 P. 5-103 P. 5-109
限定局呼び出し	予め限定局呼び出しグループを設定して、グループ相互間の呼び出しやページングの操作制限をすることができます。	P. 2-177	P. 5-125
ページング遅延出力	外部音響機器の起動時間に応じて音声出力を制御する機能です。 ページングの操作を完了してからページング予鈴音が出力するまで（またはページングが開始できるまで）に遅延時間を挿入することができます。遅延時間の設定にかかわらず、ページングに連動して出力する接点はページング操作完了後すぐにメイクします。	P. 2-178	P. 5-39 P. 5-47 P. 5-58 P. 5-66 P. 5-94 P. 5-101 P. 5-109
ページング予鈴音 出力制御	ページングの際に挿入される予鈴音を使用せずにページングすることができます。ページング予鈴音の ON/OFF を設定することができます。	P. 2-178	P. 5-39/ 5-58/5-66/ 5-94/5-101
外部入力放送	N-8000MI と N-8000AF に演奏機器やリモートマイクなどを接続し、制御入力から起動をかけると、あらかじめ登録したページング系統に放送できます。	P. 2-179	P. 5-48 P. 5-109
ページング連動 接点出力制御	ページングの出力先に、N-8000MI と N-8000AF の接点出力も設定することができます。これによりページングに連動して外部機器を制御することができます。	P. 2-180	P. 5-124

機　能　名	概　　要	参照ページ	
		操作	設定
発呼局表示／ CCTV 連動	通話に連動してマルチインターフェースユニット、ダイレクトセレクトユニット、または音声インターフェースユニットの接点出力にメイク信号を出すことで、発呼局表示をすることや、CCTV を制御することができます。	P. 2-181 P. 2-182	P. 5-40/ 5-58/5-60 5-67/5-69 5-84/5-92 5-101/5-103
呼出通話連動 接点出力	ドア端末の接点出力が、自端末の状態に連動してメイクされます。	P. 2-183	P. 5-40 P. 5-67
IP ドア端末外部制御入力	N-8640DS/8650DS の外部制御入力にあらかじめダイヤル操作（最大 20 桁）を登録しておくと、N-8640DS/8650DS の接点入力をメイクすることで発信などができます。ダイヤル操作が登録されていないときは、メイクしても何も動作しません。	P. 2-184	P. 5-70
リモートダイヤル	マルチインターフェースユニットやダイレクトセレクトユニットの接点入力がメイクされると、あらかじめ指定された端末で、設定されたダイヤル操作を自動的に行います。	P. 2-185	P. 5-51 P. 5-118
ダイレクトセレクト	システムの着信方式が「選択応答」の時に使用できる機能です。 制御するマスター端末を指定し、N-8000DI の接点入出力 ch それぞれに、呼出する端末を指定することで、指定したマスター端末を呼び出している端末をランプなどで表示します。また該当の ch を操作することで、該当の端末と通話を開始することができます。	P. 2-186	P. 5-118
接点ブリッジ	マルチインターフェースユニットやダイレクトセレクトユニットの接点入力を接点出力に伝送することができます。	P. 2-187	P. 5-51. P. 5-118
ページングビジー	外部に接続した拡声ページング機器のビジー状態を通知することができます。	P. 2-187	P. 5-51
システム診断	マルチインターフェースユニット、ダイレクトセレクトユニット、または音声インターフェースユニットがシステムの状態を診断し、その結果を接点出力に出力することができます。システムの診断は、診断対象の機器にネットワーク接続して行います。	P. 2-188	P. 5-52 P. 5-112 P. 5-119
タイムシグナル	あらかじめ設定したスケジュールにより、外部または N-8000AF 内蔵の音源を自動放送します。	P. 2-189	P. 5-109
時刻補正	システム全機器の時計をクロックマスターに設定した 1 台の機器に合わせます。 クロックマスターから残りの全機器に対して 1 日 1 回クロック同期のコマンドを送信します。	P. 2-189	P. 5-30
サマータイム自動補正	サマータイムの期間、自動的に時間を調整します。	P. 2-189	P. 5-30
NTP クライアント	クロックマスターに設定されている N-8000AF の時計を NTP サーバーに合わせます。調時機能との併用はできません。	P. 2-190	P. 5-29

2 種類の着信方式について

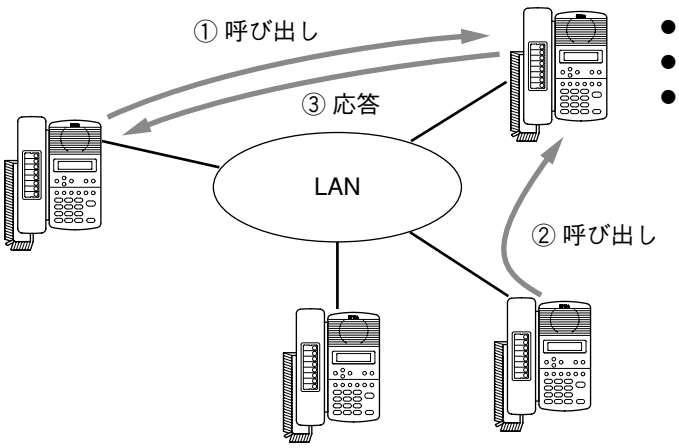
N-8000 システムでは、2 種類の着信方式で使用できます。
連絡用として自由に呼び出しできる「マスター／マスターシステム」と、多くの箇所から特定の親機を呼び出す「マスター／サブシステム」がありますが、システムでの着信方式が異なっており、マスター／マスターシステムでは「着信優先方式」、マスター／サブシステムでは「選択応答方式」となります。

ご注意

着信方式はシステムで統一されます。着信優先のマスター端末と選択応答のマスター端末を同一システムで混在させることはできません。

■ 着信優先方式（マスター／マスターシステム）

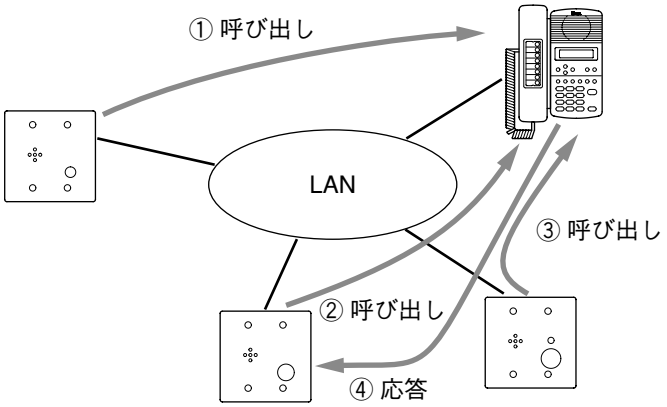
マスター端末が主に用いられ、自由に呼び出しが行われるシステムで使用します。
連絡やページング用途で主に用いられ、呼び出しは先着順となります。
「連続着信」または「自動着信」から応答方法を選択することができ、「自動着信」を選択すると、応答の操作をすることなく、すぐに会話をすることができます。



- 呼び出しは 1 カ所からのみ受け付け。
- 2 台目は話中となる。
- 初めの呼び出しに対して応答する。
  ※ ただし、緊急割り込み機能で後からの呼び出しも応答を要求できる。

■ 選択応答優先方式（マスター／サブシステム）

サブ端末やドア端末が主に用いられ、多くの端末から親機を呼び出すシステムで使用します。
インターホンやナースコールなどで主に用いられ、親機が応答する端末を選択する着信方式となります。自動着信は使用できません。



- 呼び出しが複数入っている状態を確認。
- 応答相手をマスターで選択して通話を開始する。

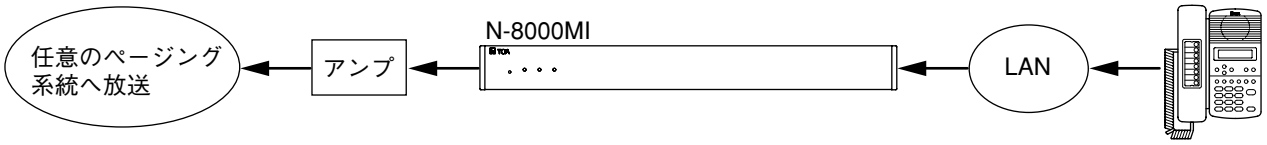
ページング（呼び出し放送）機能の概要

ページングの形態には、①拡声機器を介して放送する拡声ページングと、②端末のスピーカーに放送するステーションページングがあります。さらに、端末からではなく③外部入力機器からのページングもあります。どちらの形態にも、①１つのエリアに放送する系統ページング、②選択した複数のエリアに放送する選択ページング、③すべてのエリアに放送する一斉ページングの機能があります。

■ ページング呼び出しの形態

● 拡声ページング（N-8000EX/8000MI/8000AF 使用時のみ）

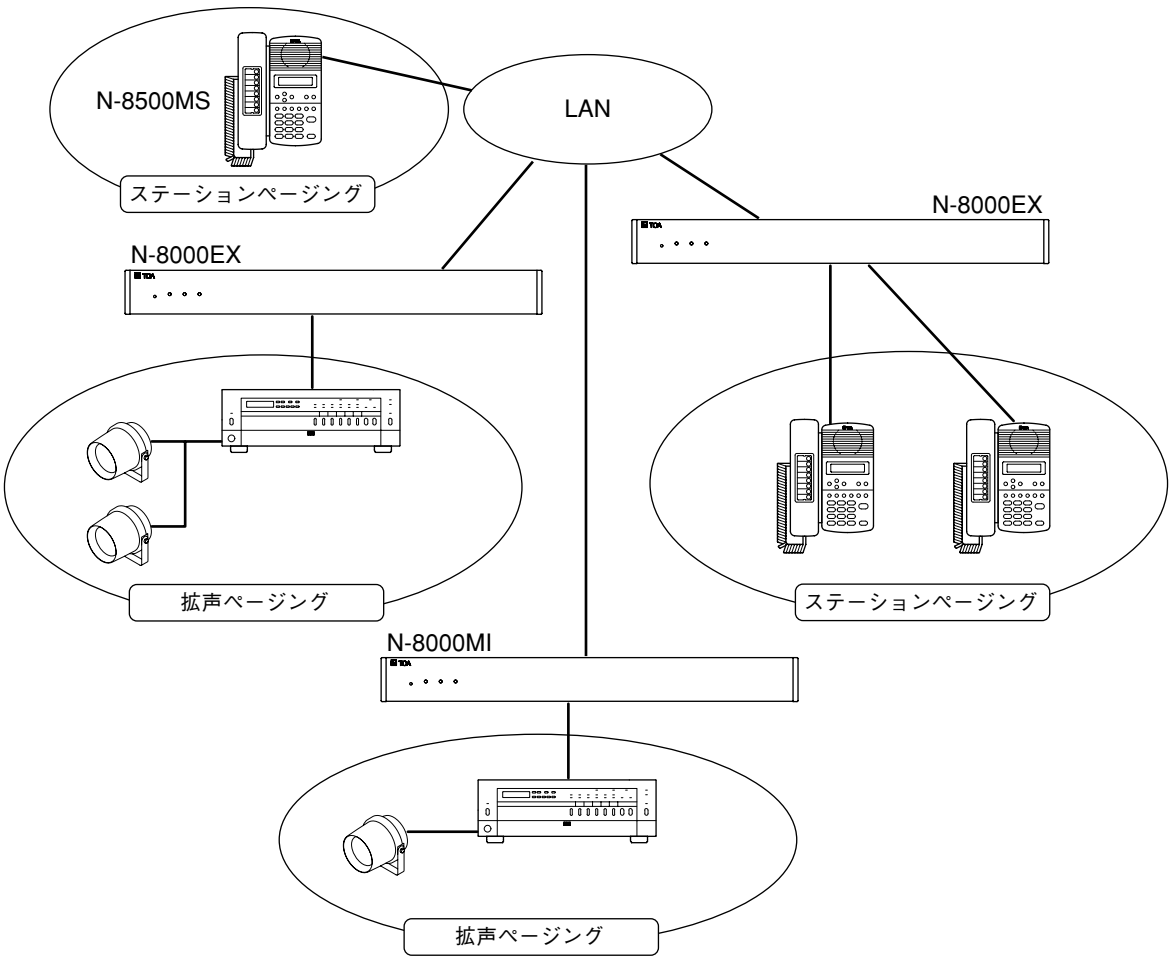
交換機 N-8000EX のページング出力端子あるいはマルチインターフェースユニット N-8000MI または音声インターフェースユニット N-8000AF の音声出力端子に拡声放送機器を接続すると、端末からのダイヤル操作で拡声ページングをすることができます。



● ステーションページング

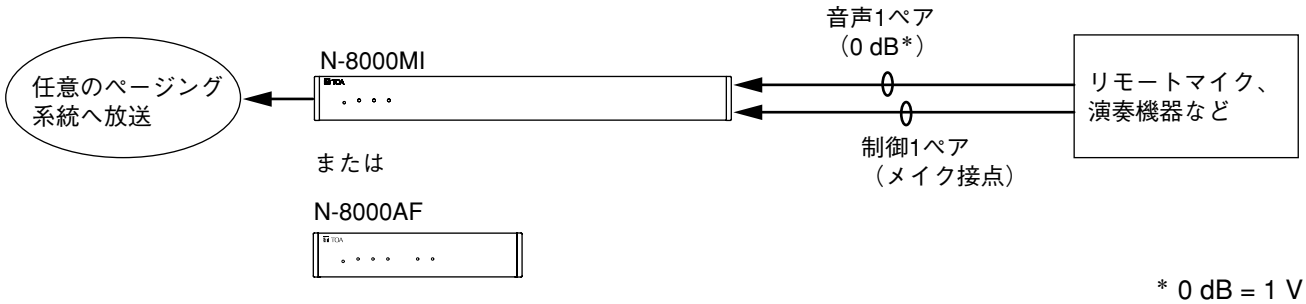
端末からのダイヤル操作で端末のスピーカーにステーションページングをすることができます。

通話中の端末にステーションページングをかけた場合、通話中の端末を除いて放送する「通話優先」モードと通話を保留して放送を流す「ページング優先」モードのどちらかを選択できます。設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。



● 外部入力放送

N-8000MI、N-8000AF にリモートマイクや演奏機器などを接続して、任意の系統に放送できます。
※ 外部入力放送優先の設定を行った場合、他のページング、通話より優先されます。



* 0 dB = 1 V

■ ページング呼び出しの機能

● 系統ページング

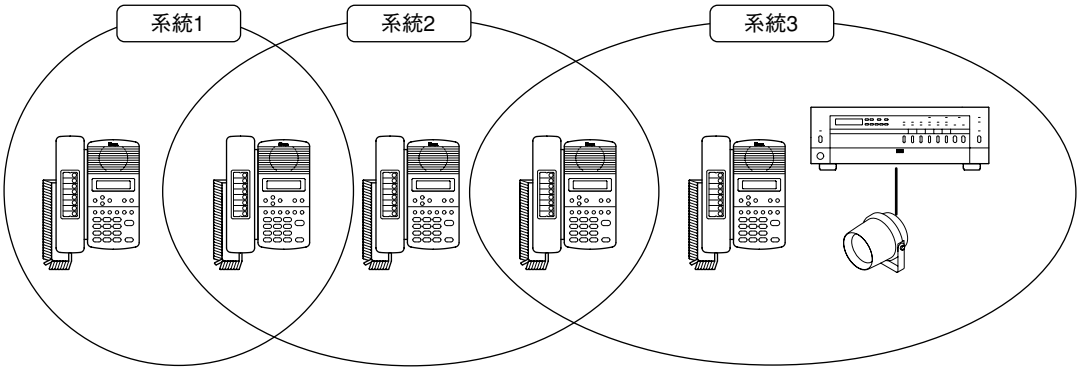
1 つのエリアに呼び出し放送ができます。
拡声ページングの場合は、任意の拡声ページング出力を系統番号に割り当て、ステーションページングの場合は、任意の端末を系統番号に割り当てます。
拡声のみ、端末のみ、拡声＋端末のいずれを選択することもできます。
設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。設定する端末、拡声出力に制限はありません。

● 選択ページング

端末からのダイヤル操作で、任意の複数のページング系統を選択して呼び出し放送を流すことができます。
一度に選択できる系統数は、最大 50 系統です。

● 一斉ページング

系統ページングで設定したすべてのエリアに呼び出し放送ができます。



● 緊急一斉ページング

系統ページングの設定をしていない端末を含め、すべての端末に呼び出し放送ができます。
また、ページング出力が設定されている N-8000MI、N-8000AF と N-8000EX の音声出力など、すべての音声出力から呼び出し放送ができます。

■ ステーションページングの受信モード

ステーションページングを受信する端末は、次の 2 つのモードで動作します。
ただし、端末に接続されている交換機が N-8010EX の場合は、通話優先モードに固定されます。
モードの設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。

ご注意

緊急一斉ページング、緊急メッセージ放送、外部入力放送優先のページングを受信した場合は、受信モードに関係なく、ページングを受信します。割り込まれた機能は復旧しません。

● 通話優先モード

・ページング開始時に、待ち受け状態の場合は、ページングを受信します。通話中、ダイヤル途中などの場合は、ページングを受信しません。
・ページング受信中に他の端末から着信があっても、呼び出し状態にはならず、ページング受信を継続します。
呼び出した端末では話中音が聞こえます。
通話中にページングがあって、通話終了時にまだページングが継続している場合は、通話が終わるとページングが始まり、ページング受信状態に変わります。
※ ページング受信中にも、ダイヤル操作はできます。

● ページング優先モード

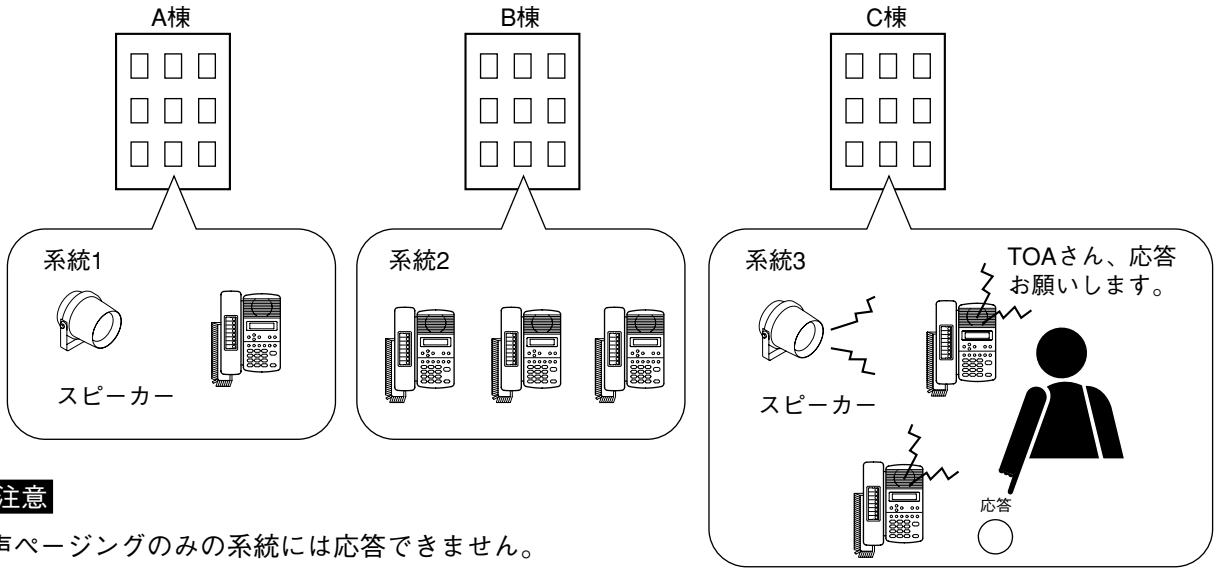
・ページング開始時に、待ち受け状態の場合は、ページングを受信します。通話中の場合は、その状態を保持してページングを受信します。通話中は通話相手がページング系統に属していない場合､保留音を流します。
・ページング受信中に他の端末から着信があった場合は、話中になりページング受信を継続します。
ページング終了時にまだ通話が終了していなかった場合は、通話状態になります。
※ ページング受信中に、ダイヤル操作はできません。（ページング受信中の端末からページング応答をすることもできません。）

■ ページング応答

ページング呼び出しを聞いた人が端末で応答操作をすると、ページング呼び出しをした端末と通話ができます。ページング応答には次の 2 種類があります。設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。

● 自動応答

ページング応答操作をすると、操作端末のページング系統に最後に放送した端末を呼び出して通話ができます。ページング応答は呼び出された系統の端末から行います。各系統の放送エリアが独立している場合は、このモードに設定します。また、拡声用スピーカーを併用している場合は、マスター端末と拡声用スピーカーの系統が一致している必要があります。

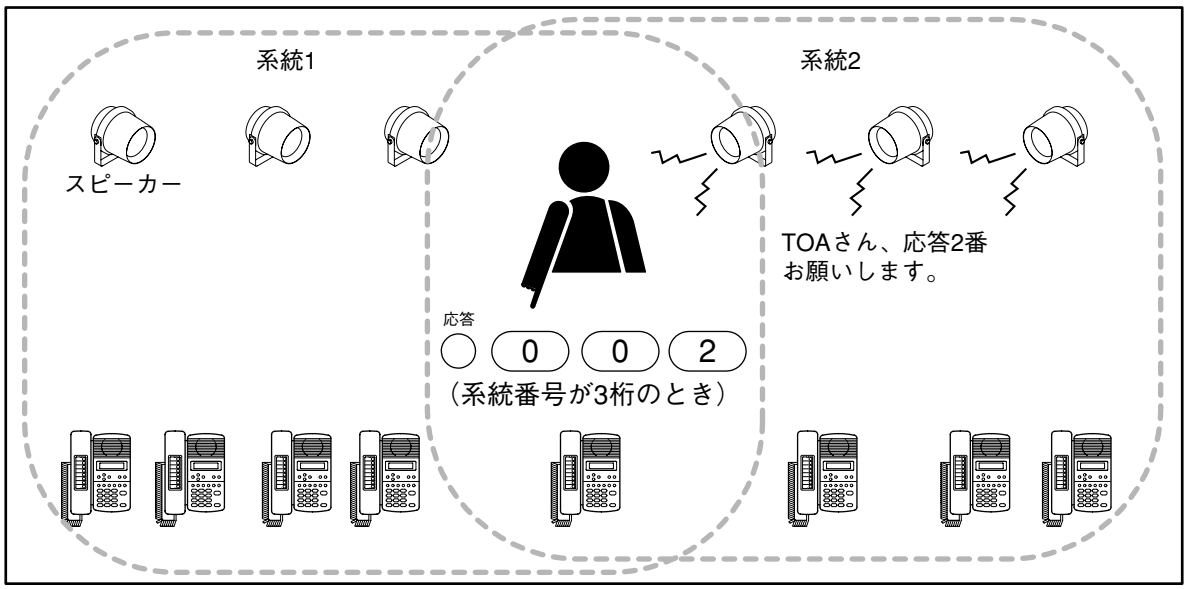


ご注意

拡声ページングのみの系統には応答できません。

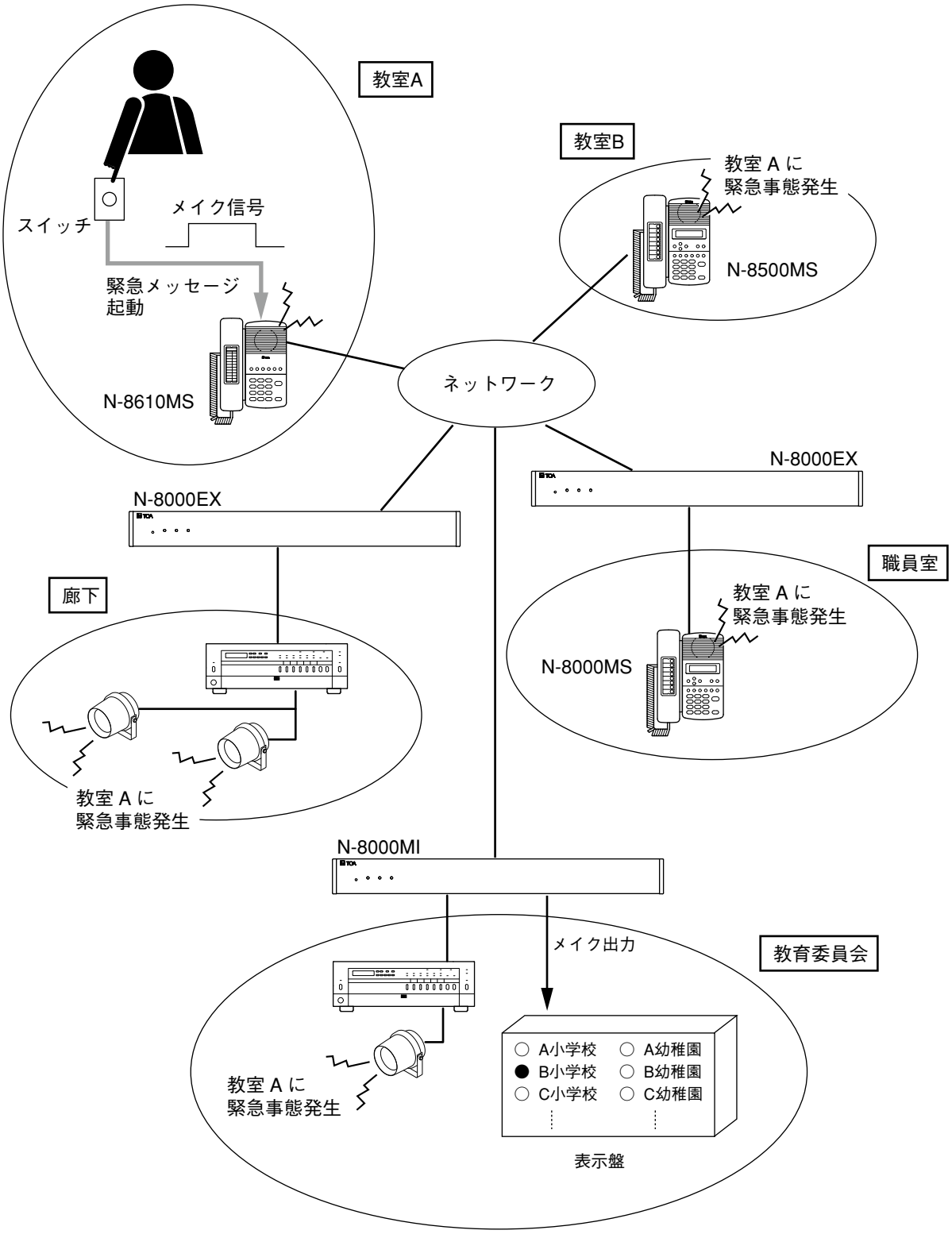
● 系統番号指定応答

ページング呼び出しのときに、どの系統に放送しているのかを伝え、その系統の番号を指定して応答します。ページング応答操作をすると、指定した系統に最後に放送した端末を呼び出して通話ができます。
複数の系統の放送が聞こえる場所がある場合や、拡声ページングのみを行う場合は、このモードに設定します。ページング応答は、呼び出された系統の端末から行います。また、呼び出された系統の端末および拡声ページング出力と同じ交換機に接続しているどの端末からも応答することができます。



緊急メッセージ放送機能の概要

IP マスター端末 N-8500MS/8510MS/8515MS/8600MS/8610MS、IP リモートマイク端末 N-8610RM を使用して、緊急連絡システムを構築することができます。
IP マスター端末、IP リモートマイク端末にあらかじめメッセージを登録しておき、その端末のキー操作または外部制御入力により、自動的にメッセージを放送できます。メッセージの放送先は、ページング機能の場合と同様で、拡声放送機器または端末のスピーカーなど、任意に設定できます。
緊急メッセージ放送が起動されると、放送先の通話やページングがすべて中断され、緊急メッセージ放送が行われます。起動に連動して、監視カメラ、電子錠などを制御することもできます。



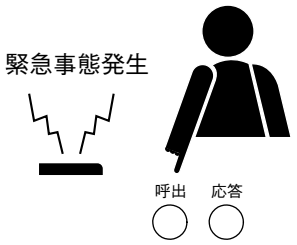
■ 緊急メッセージの録音

- パソコンへの緊急メッセージの録音およびパソコンから IP マスター端末、IP リモートマイク端末への登録は N-8000 設定ソフトウェアで行います。
- 標準メッセージをインストールして登録することができます。
- オリジナルメッセージを録音して登録することもできます。
- IP マスター端末､IP リモートマイク端末 1 台ごとに異なるメッセージを登録できます。
- 最大 20 秒のメッセージを録音、登録できます。

N-8000 設定ソフトウェアを
インストールしたパソコン

■ 登録されているメッセージの確認

IP マスター端末、IP リモートマイク端末に登録されているメッセージをその端末で確認することができます。
IP マスター端末、IP リモートマイク端末が待ち受け状態のときに、ページング呼び出しキーを押し、次にページング応答キーを押すと、その端末に登録されているメッセージを確認することができます。

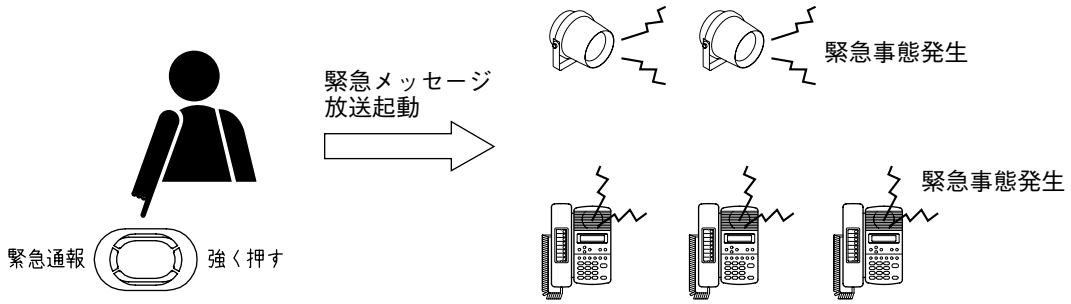


■ 緊急メッセージ放送の起動

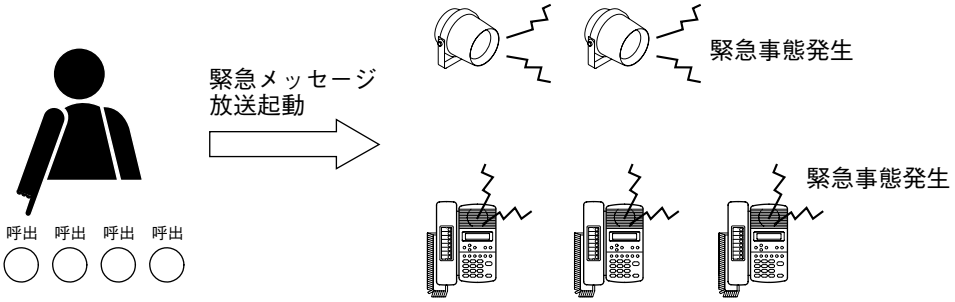
● 緊急メッセージ放送の起動方法

3 とおりの起動方法があります。

(1) IP 緊急マスター端末の緊急通報ボタンを押すことで、その端末に録音されている緊急メッセージを起動できます。



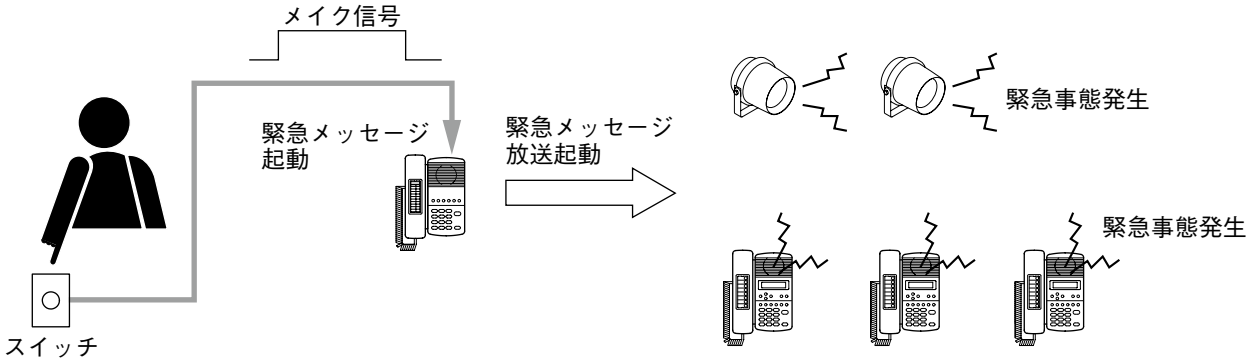
(2) IP マスター端末、IP リモートマイク端末のページング呼び出しキーを 4 回押すことで、その端末に録音されている緊急メッセージを起動できます。



ご注意

操作する IP マスター端末、IP リモートマイク端末が使用中のときは、緊急メッセージ放送を起動できません。待ち受け状態にしてから操作してください。
例外として、通話優先モードに設定されているシステムで、ページング受信中のときは、緊急メッセージ放送の起動が優先されます。(次ページ参照)

(3) IP標準マスター端末N-8510MS/8515MS/8610MSの場合のみ､後面の緊急メッセージ起動端子にスイッチ、センサーなどの外部機器を接続して、メイク信号の入力で起動させることもできます。メイク信号を入力する IP マスター端末が使用中であっても、その使用を中止して、緊急メッセージ放送を起動します。



N-8510MS/8515MS/8610MS の場合、使用できる起動方法を N-8000 設定ソフトウェアで設定します。

● 緊急メッセージ放送起動の条件

起動方法 / 端末の状態	(1) 端末の緊急通報ボタン操作（N-8616MS のみ）	(2) 端末のページング呼び出しキー操作	(3) 外部接点入力（N-8510MS/8515MS/8610MS/8616MS のみ）
待ち受け状態	○	○	○
着信中	○	×	○
通話中	○	×	○
呼び出し中	○	×	○
ページング呼び出し中	○	×	○
ページング着信中	○	通話優先モードのとき　：○ ページング優先モードのとき：×	○

■ 緊急メッセージ放送の放送先

IP マスター端末、IP リモートマイク端末ごとに設定した、任意の 1 つのページング系統（例：一斉）に放送できます。
放送先の設定は N-8000 設定ソフトウェアで行います。

■ 緊急メッセージ放送の終了

放送を起動した IP マスター端末、IP リモートマイク端末のクリアキーを押すと、緊急メッセージ放送は終了します。
終了の操作をするまで繰り返し放送するか、または 1 ～ 10 回の範囲で繰り返し回数を設定することができます。
回数制限が設定されていても終了の操作が優先します。
回数制限の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。

ご注意

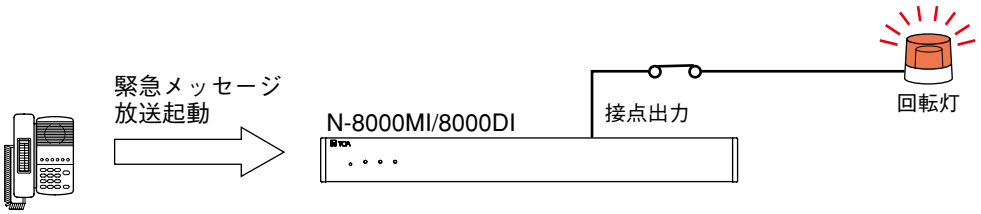
IP 標準マスター端末､IP 緊急マスター端末の緊急メッセージ起動端子をブレイクしても､放送は終了しません。端末のクリアキーを押すか、繰り返し回数を設定してください。

■ 緊急メッセージ放送の優先度

緊急メッセージ放送は、通話、他のページング（緊急一斉ページングを除く）よりも優先度が高い放送です。緊急メッセージの放送先が動作中の場合は、すべて強制終了して、緊急メッセージを放送します。緊急メッセージ放送により強制終了した動作は、緊急メッセージ放送が終了しても復旧しません。

■ 接点連動制御

緊急メッセージ放送の起動に連動して、マルチインターフェースユニット N-8000MI、ダイレクトセレクトユニット N-8000DI、または音声インターフェースユニット N-8000AF の接点出力をメイクすることができます。メイクのタイミングは、緊急メッセージ起動中メイクとワンショットメイクの 2 種類があります。



■ 緊急メッセージをミュートする（N-8510MS/8515MS/8610MS/8616MS のみ）

緊急メッセージ放送を起動したマスター端末（N-8510MS/8515MS/8610MS/8616MS）のみ、その端末本体のスピーカーから緊急メッセージの音声を出力しないように設定することができます。状態表示灯の点灯、繰り返し、接点関連の制御など、緊急メッセージ出力以外の動作はミュートしないときと同じになります。
緊急メッセージを受信した側は通常どおりに音声が出力されます。緊急メッセージ起動以外の操作をした場合は、動作に応じた音源（呼び出し音など）が出力されます。

※ 緊急メッセージミュートの設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-74）

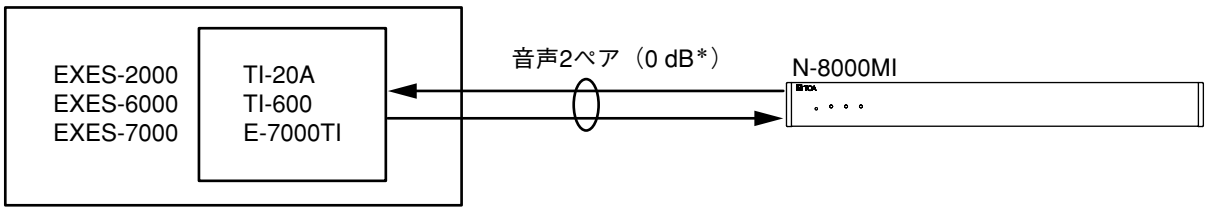
ご注意

- 緊急メッセージがミュートされるのは、マスター端末本体スピーカーのみで、ハンドセットスピーカーはミュートされません。
- 緊急メッセージを起動したときに、エラー音などメッセージ以外の音源が入ってもミュートされます。ただし、緊急メッセージ起動以外の場合はミュートされません。

その他の機能の概要

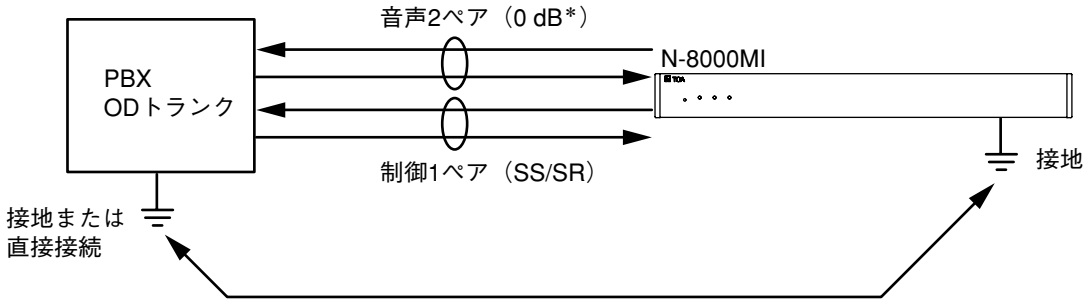
■ タイライン

N-8000MI を EXES-2000/6000/7000 などと接続し、通話やページングができます。
配線は 1 回線あたり 2 ペアで、接続先のインターカムシステムにはタイライン接続ユニット（EXES-2000 には TI-20A、EXES-6000 には TI-600、EXES-7000 には E-7000TI）が実装されている必要があります。



■ PBX インターフェース（SS-SR 方式）

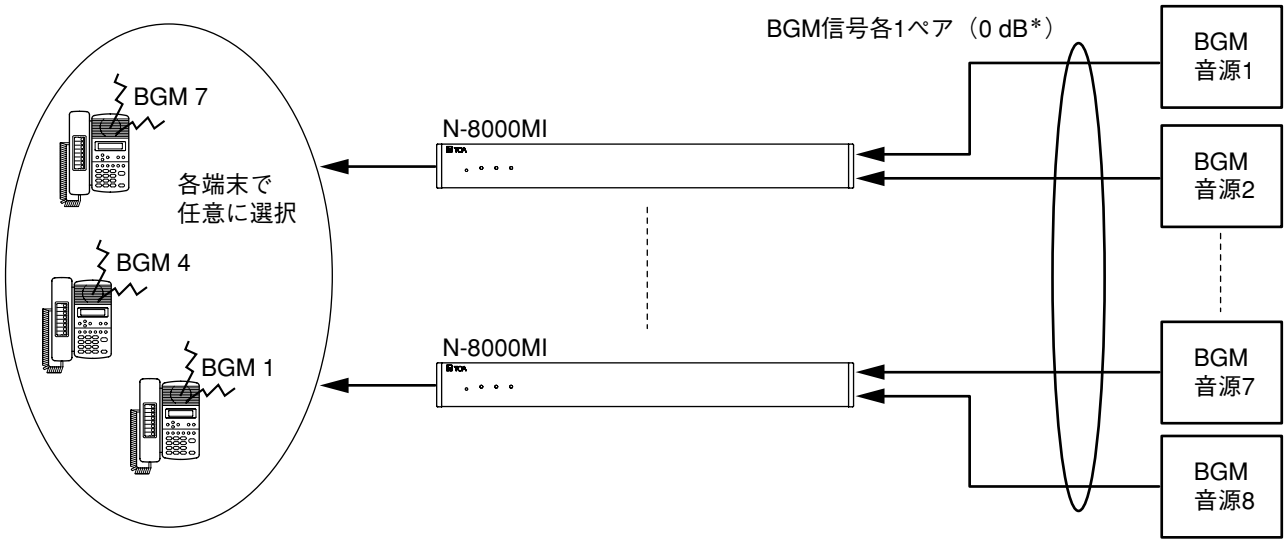
N-8000MI を PBX と接続して電話機と相互通話や電話機からのページング放送ができます。TTC 標準に準拠しており、PBX 標準の OD トランクと 1 回線あたり 3 ペアで接続します。アースリターン方式ですので、接地をするか、別にグランド線を接続する必要があります。



* 0 dB = 1 V

■ BGM

N-8000MI に演奏機器などを接続して、待ち受け状態の端末のスピーカーに BGM を流すことができます。
BGM は各端末で最大 8 チャンネルの中から任意に選択することができます。



ご注意

BGM は通話やページングに比べ優先順位が低いので、通話路がふさがっているときに他の端末が通話やページングを行うと、BGM を聴いている端末が何の操作もしなくても BGM が途切れることがあります。特に、N-8010EX は通話路が少ないため、BGM が途切れる頻度が高くなります。

* 0 dB = 1 V

■ 接点入出力機能

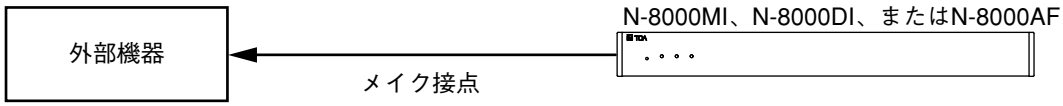
N-8000MI、N-8000DI、または N-8000AF の接点入出力を使用して以下の機能を実現できます。ただし、機種により、実現できる機能は異なります。

機能＼機種	N-8000MI	N-8000DI	N-8000AF
外部機器制御	○	○	○
リモートダイヤル	○	○	×
接点ブリッジ機能	○	○	×
ページングビジー入力	○	×	×
システム診断	○	○	○
ダイレクトセレクト	×	○	×
発呼局表示／ CCTV 連動	○	○	○

○：実現できる
×：実現できない

● 外部機器制御

通話に連動して、あるいは端末から操作して、N-8000MI、N-8000DI、または N-8000AF の接点にワンショットメイク出力またはメイク／ブレイク出力を出すことで、外部機器を制御することができます。
例えば、ドアリモート制御、発呼局表示、投薬表示器の制御などができます。

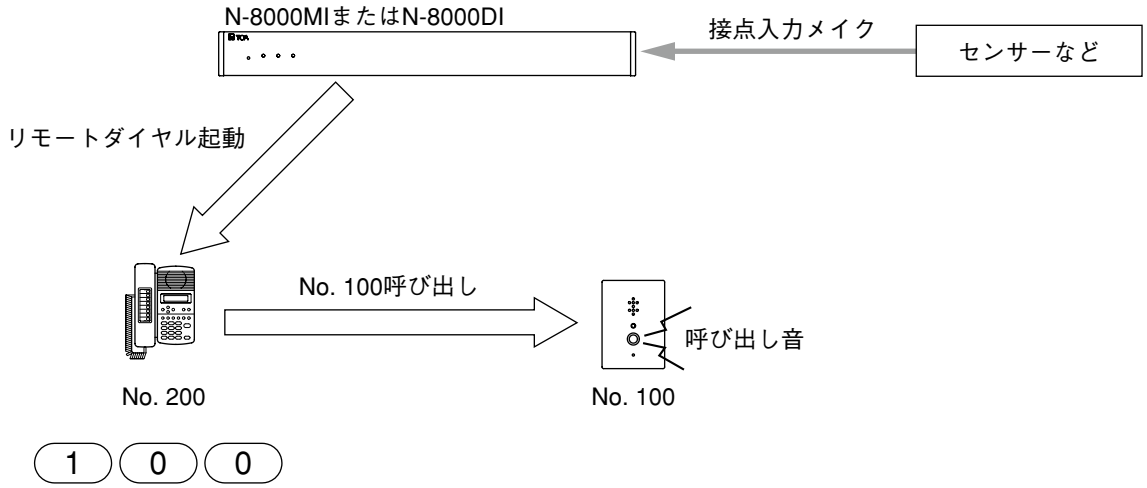


● リモートダイヤル

N-8000MI または N-8000DI の接点入力がメイクされると、任意の端末が自動的にダイヤルします。1 つの接点入力に最大 32 桁のダイヤルコード（ダイヤル番号、キー操作）を設定できます。
例えば、センサーからの信号に連動して通話を開始することができます。

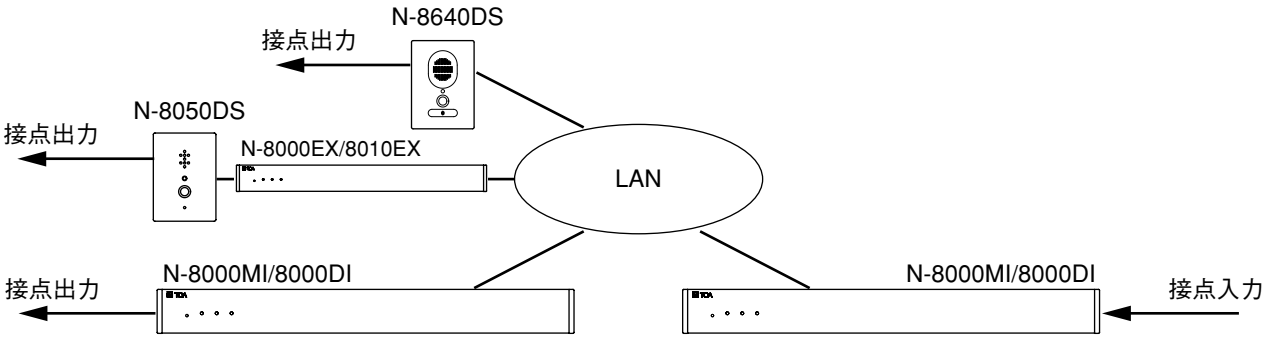
ご注意

リモートダイヤルを起動するには、接点入力を 50 ms 以上メイクする必要があります。



● 接点ブリッジ機能（外部接点連動）

ネットワークを介して接点信号を伝送できます。



● ページングビジー入力

空港などの大規模放送システムと連動する場合、上位システムのビジー状態を受け取ることができ、重要な放送を確実に伝えることができます。

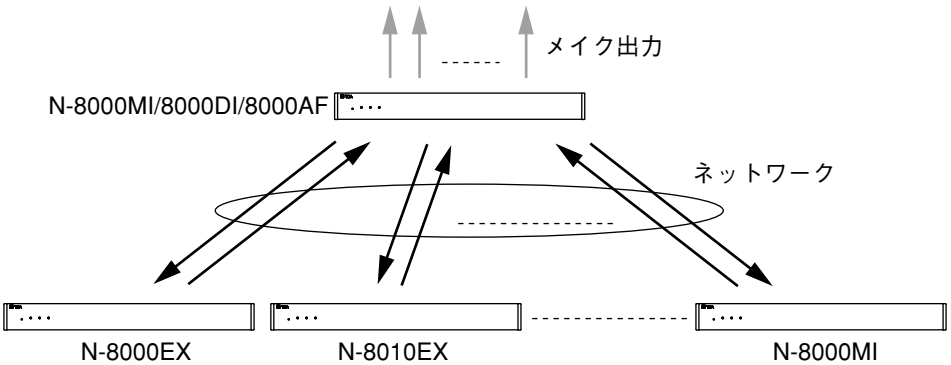
● システム診断

N-8000MI、N-8000DI、または N-8000AF がシステムの状態を診断し、その結果を N-8000MI、N-8000DI、または N-8000AF の接点出力に出力する機能です。システムの診断は、診断対象の機器にネットワーク接続して行います。
接点出力は異常のときにのみメイクします。その後、正常と判断した時点でブレイクします。
診断できるのは、交換機の回線状態とネットワーク接続機器のネットワーク状態です。

ご注意

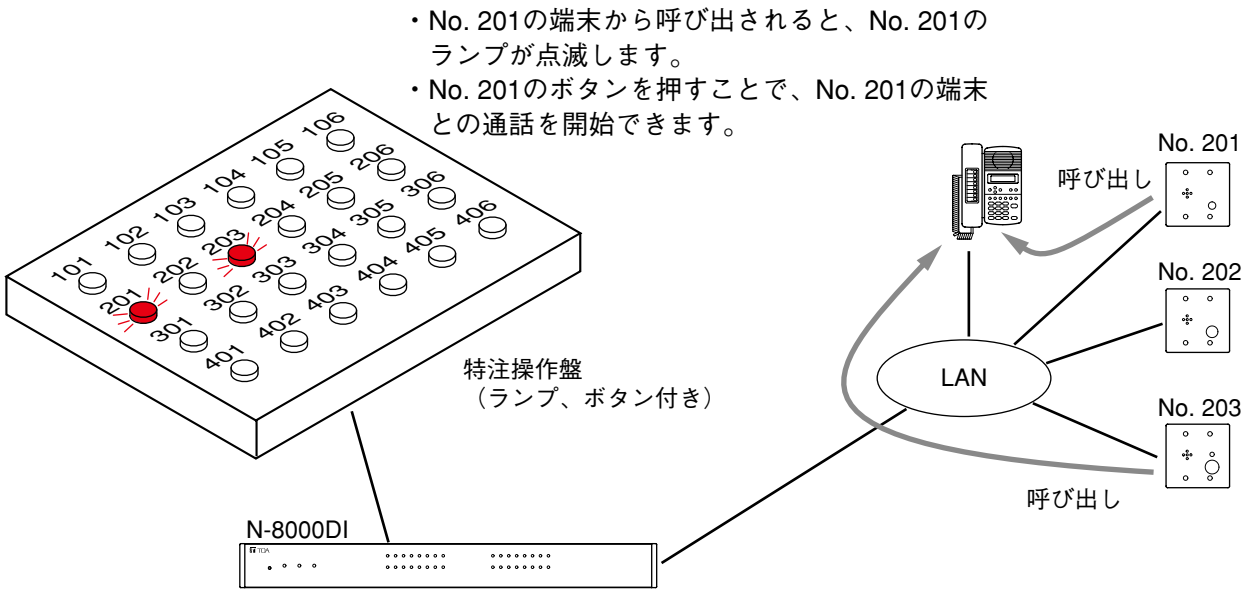
診断は一定時間*おきに行われます。そのため、リアルタイムに診断結果が出力されるわけではありません。また、診断と次の診断までの変化を検出することはできません。

* 診断結果は 20 秒以内に更新されます。



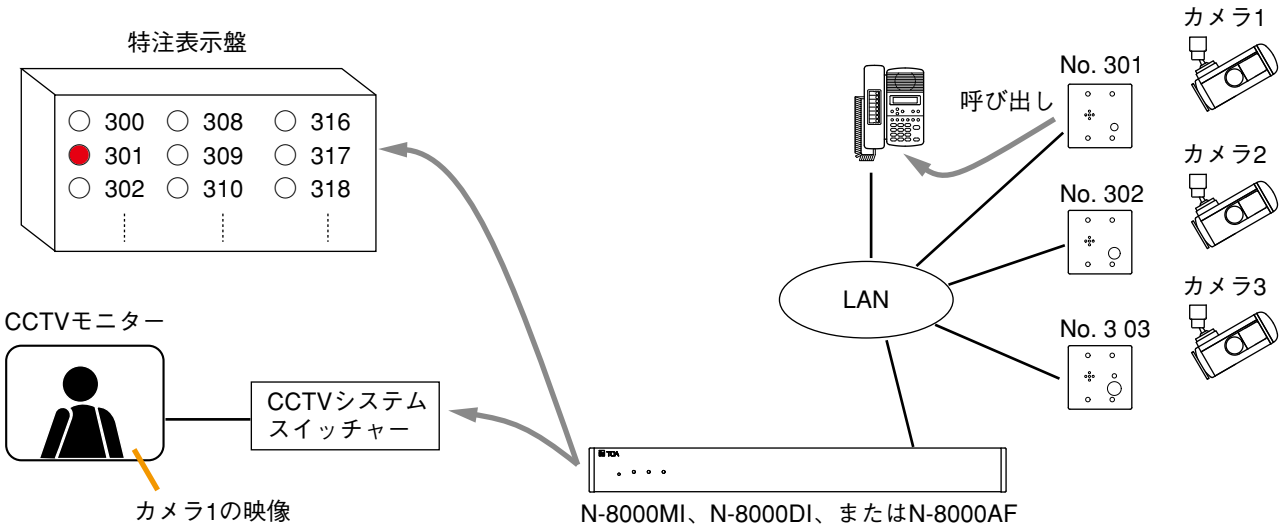
● ダイレクトセレクト

システムの着信方式が「選択応答」の時に使用できる機能です。
マスター端末用に他の端末に対応したランプやキーなどを持つ操作盤を製作し、N-8000DI の接点入出力の各チャンネルにマスター端末および他の端末を割り当てることで、設定したマスター端末を呼び出している端末をランプなどで表示します。また、該当のチャンネルを操作することで、そのチャンネルに割り当てられた端末と通話を開始することができます。



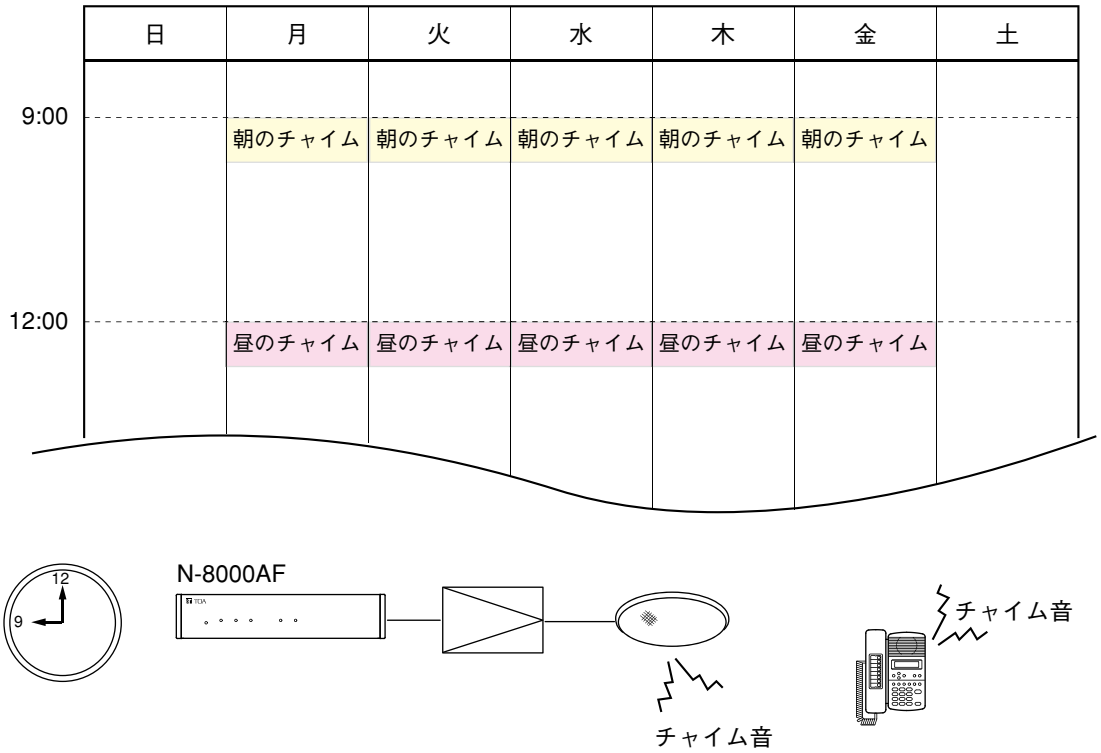
● 発呼局表示／ CCTV 連動

特定の端末にランプ型の表示盤を持たせると、その端末は通話相手や通話中に呼び出してきた相手をランプで表示させることができます。
複数の端末（最大 8 台）で表示盤を共有して、グループ内のどの端末にかかってきても表示させることができます。
また、この接点を利用して CCTV と連動させ、呼び出してきた相手を映像に写すことができます。



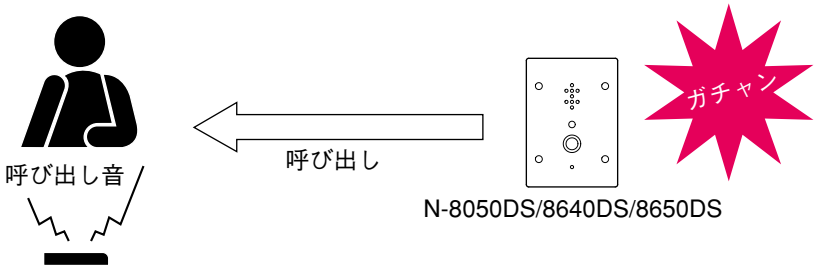
■ タイムシグナル

N-8000AF を使って、あらかじめ設定したスケジュールに合わせて、設定したページング系統へ、設定した音源を放送する機能です。
システム内で 1 台の N-8000AF の動作モードを「タイムシグナル」に設定し、タイムシグナルを自動起動するための「イベント」（時刻、ページング系統、音源など）、イベントを組み合わせた「スケジュール」をあらかじめ設定する必要があります。



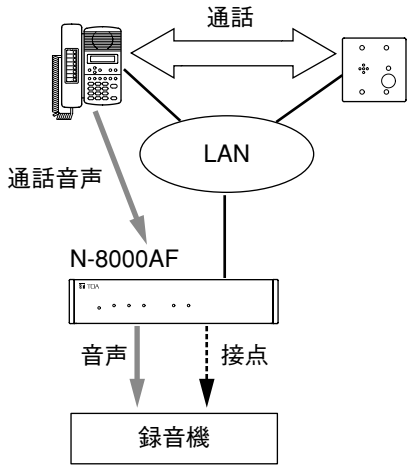
■ 音声トリガー

あらかじめ設定されたドア端末 N-8050DS、IP ドア端末 N-8640DS/8650DS のマイクに入力された音声が、設定された条件を満たすと、アラーム動作を行います。
この機能に対応できる交換機は N-8000EX のみで、音声トリガーによるアラーム動作が可能なドア端末は、交換機 1 台につき最大 4 台です。BGM を受信するドア端末では、音声トリガー機能は動作しません。ドア端末が待ち受け状態のときに入力音声の検知を行います。
アラーム動作では、あらかじめ設定されたマスター端末呼び出しや、あらかじめ設定された N-8000MI または N-8000DI の接点をメイクすることができます。（ワンショットメイク）
またさらに、音声トリガーを検出してから、指定した時間だけ、あらかじめ設定されたマスター端末のハンズフリースピーカーからドア端末の音声が出力されます。



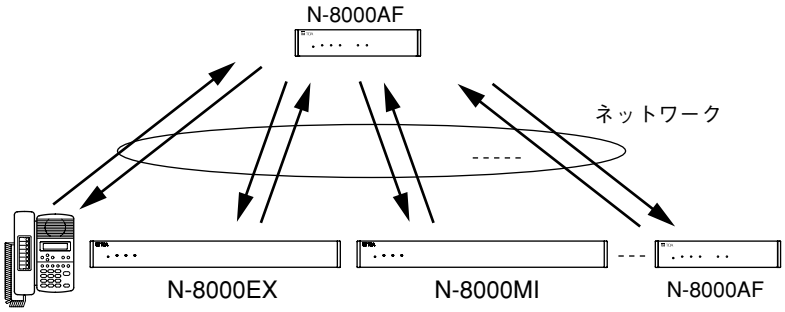
■ 録音

N-8000AF の動作モードを「通話録音」に設定することで、マスター端末および電話機の通話、会議、ページング、スキャンモニターを録音することができます。また、通話の相手が局線のときも録音することができます。音声インターフェースユニット N-8000AF に接続された録音装置に録音します。
録音機能を使用可能に設定されたマスター端末および電話機が通話、会議、ページング、スキャンモニターの動作を開始するとともに録音が開始され、動作が終了すると録音も終了します。



■ 時刻補正

システム全機器の時計をクロックマスターに設定した 1 台の機器に合わせます。
クロックマスターから残りの全機器に対して 1 日 1 回クロック同期のコマンドを送信します。
クロックマスターは付属の N-8000 設定ソフトウェアで設定します。



■ サマータイム自動補正

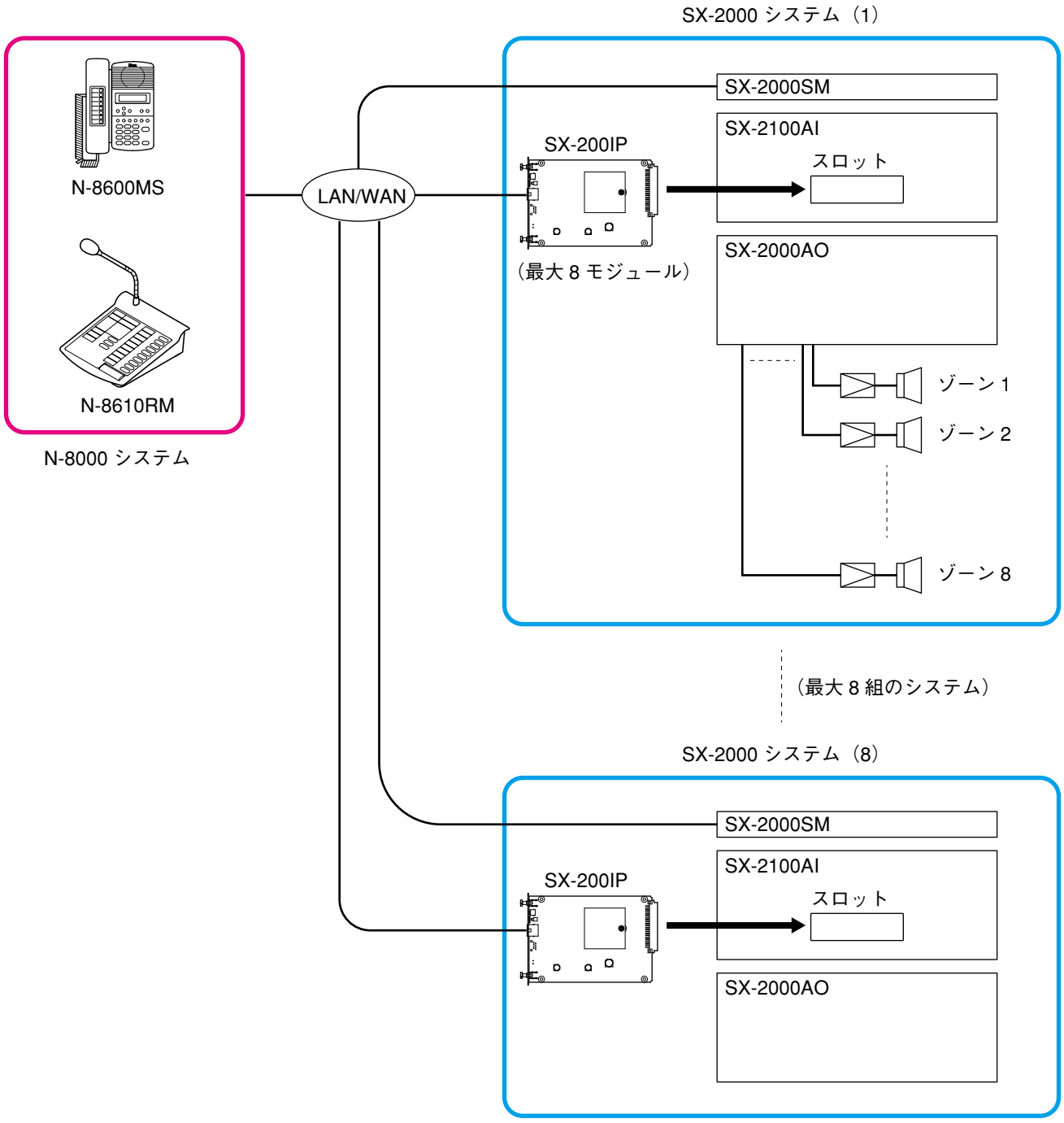
サマータイムへの対応が可能です。付属の N-8000 設定ソフトウェアで以下の設定をすることができます。

・サマータイム　ON/OFF
・サマータイム開始の設定（月、週、曜日、時）
・サマータイム終了の設定（月、週、曜日、時）

○月の第○番目の○曜日の○時から開始、または終了になります。
○月の最後の○曜日という指定も可能です。

■ SX-2000 システムへの放送

スマートマトリクス IP モジュール SX-200IP を SX-2000 システムに組み込むことで、IP 多機能マスター端末 N-8600MS、IP リモートマイク端末 N-8610RM から SX-2000 システムへ放送することができます。



SX-200IP 1 モジュールあたり、同時に 2 チャンネルへの放送が可能です。
1 組の SX-2000 システムに最大 8 モジュール搭載可能で、同時放送数は 16 チャンネルです。
最大で 8 組の SX-2000 システムへの同時放送が可能で、最大で 2048 ゾーンへの個別選択放送が可能になります。

第２章

機能と操作のしかた

この章では、システムの機能と操作のしかたについて説明します。

マスター端末の機能と操作のしかた

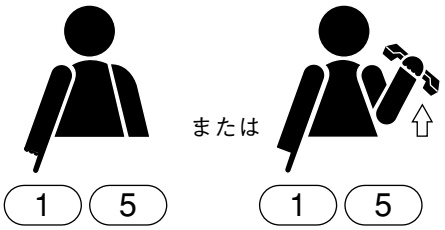
基本的な使いかた

交換機に接続されている端末も IP 端末も使いかたは同じです。さらに、N-8031MS に RS-191 を接続した端末も同様です。

■ 呼び出す（個別呼び出し）

1 **呼び出す端末の番号を押す。**

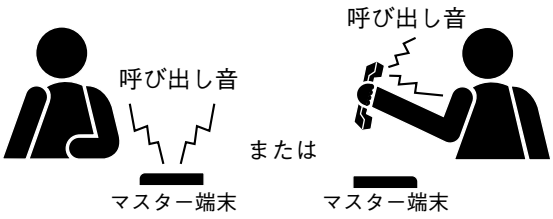
※ ハンドセットを置いたままでも、持ち上げていてもダイヤルできます。



発呼端末の内部スピーカーから呼び出し音が聞こえます。

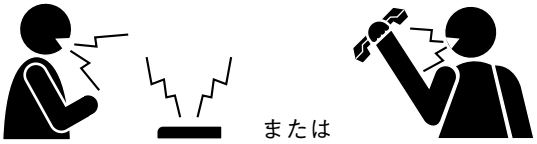
※ ハンドセットを持ち上げてダイヤルした場合には、呼び出し音は、マスター端末のハンドセットから聞こえます。

※ 話中音が聞こえたら、そのままお待ちください。相手の通話が終わり次第、呼び出します。

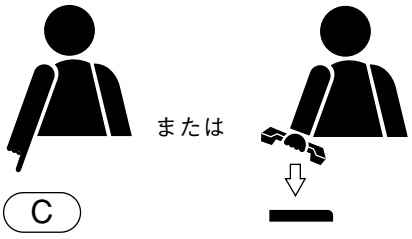


2 **呼び出し音が止まり、呼び出された端末が応答したら、通話を始める。**

※ 通話応答モード*が「着信優先」で自動着信モード*に設定されている場合は、呼び出し音が１度鳴った後、すぐに通話を始めることができます。それ以外の場合は、呼び出し音が鳴り続けます。呼び出された端末が応答すると、呼び出し音が止まり、通話を始めることができます。



3 **通話を終えるときは、クリアキーを押すか、ハンドセットを置く。**



* 通話応答モードおよび着信モードの設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェア（ ☞ P. 5-29、5-68、5-83）で行います。

ご注意

呼び出しまたは通話の制限時間が設定されていると、制限時間が経過すると自動的に呼び出しまたは通話が終了します。

制限時間（10 ～ 990 秒で 10 秒単位）は、あらかじめ付属の N-8000 設定ソフトウェアで交換機または IP 端末ごとに設定されています。（ ☞ P. 5-39、5-66）

■ 呼び出しを受ける（着信優先設定時）

1 呼び出しを受けて、通話する。

1-1 着信モードが「自動着信モード」*に設定されているとき

呼び出し音が１度鳴った後、すぐに相手の声が内部のスピーカーから聞こえますので、そのまま端末に向かって話します。
ハンドセットを持ち上げて通話することもできます。

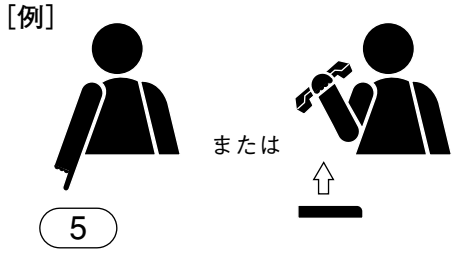
1-2 着信モードが「連続呼び出しモード」*に設定されているとき

任意のキーを押してハンズフリーで通話するか、ハンドセットを持ち上げて通話します。

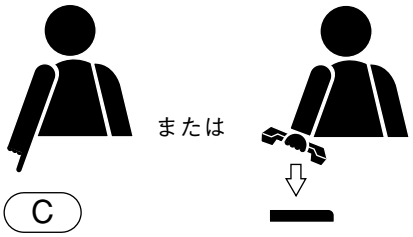
メ　モ

ヘッドセットを接続している場合、呼び出し音は、端末上面のスピーカーからも流れます。
ハンドセットを持ち上げると、ハンドセット通話になります。

［例］



2 通話を終えるときは、クリアキーを押すか、ハンドセットを置く。



* 自動着信モード・連続呼び出しモードの設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェア（ ☞ P. 5-68、5-83）で行います。

■ 呼び出しを受ける（選択応答設定時）

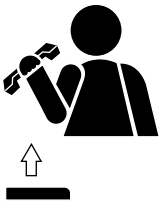
※ 選択応答設定時の着信モードは、連続呼び出しモードのみです。

［標準マスター端末での応答のしかた］

1 呼び出しを受けて、通話する。

1-1 ハンドセットを持ち上げて応答する場合

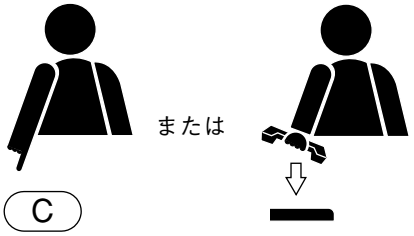
ハンドセットを持ち上げると、呼び出し音が止まり、通話することができます。



1-2 PTT キーを使って応答する場合

PTT キーを押すと、ハンズフリーで通話することができます。

2 通話を終えるときは、クリアキーを押すか、ハンドセットを置く。

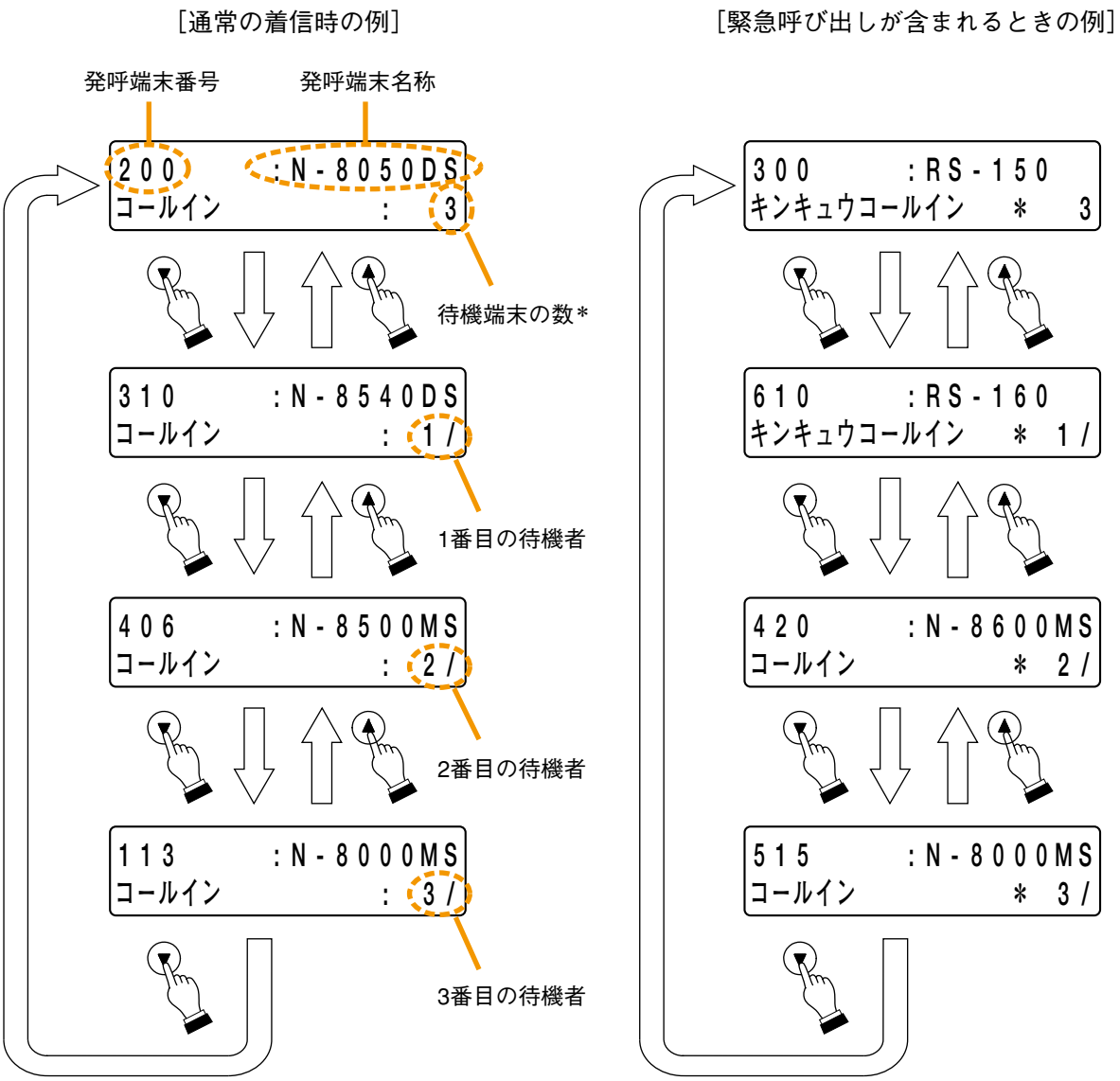


［多機能マスター端末での応答のしかた］

多機能マスター端末も標準マスター端末と同様の操作で、液晶画面に表示されている端末に応答できます。
複数の呼び出しを同時に受信した場合は、下記の操作を行うと、応答する端末を選ぶことができます。

1 上下矢印キーを押して、応答する端末を表示させる。

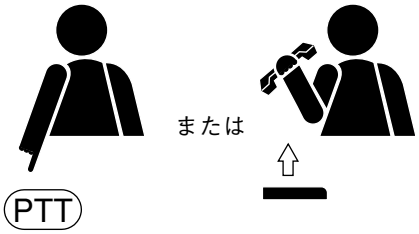
優先順位に従って、端末番号と名称が表示されます。
クリアキーまたは左矢印キーを押すと、最初の表示に戻ります。
右矢印キーを押すと、最後の表示に移動します。



＊　現在表示されている発呼者は含まれません。
　　待機端末がないときは、何も表示されません。

2 応答する端末の番号と名称が表示されたら、ハンドセットを持ち上げる。

呼び出し音が止まり、通話を始めることができます。（PTT キーを押してハンズフリー応答をすることもできます。）



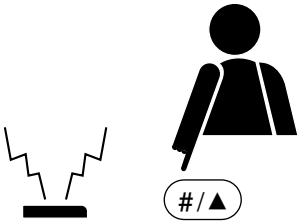
■ 端末スピーカー音量の設定

マスター端末のスピーカーの音量は付属の N-8000 設定ソフトウェアであらかじめ設定できますが、端末からの操作でも調節することができます。

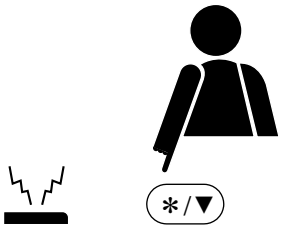
［N-8410MS 以外のマスター端末の場合］

出力レベルは 5 段階（3 dB ステップ）で変更できます。

・音量を大きくするには、通話中に［＃ / ▲］キーを押す。



・音量を小さくするには、通話中に［＊ / ▼］キーを押す。

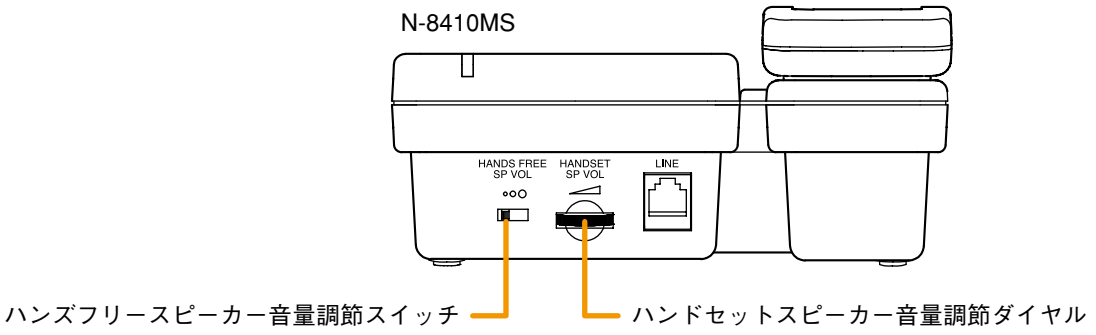


※ 変更した音量は、通話終了後も維持されます。

［N-8410MS の場合］

N-8410MS では、キー操作によるスピーカー音量の調節はできません。

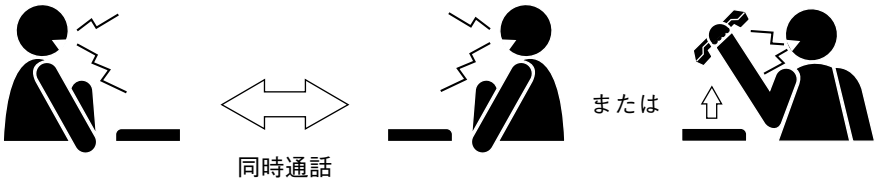
- ハンズフリースピーカーの音量は端末後面のハンズフリースピーカー音量調節スイッチで調節します。
  出力レベルは 3 段階（4 dB ステップ）で変更できます。
- ハンドセットスピーカーの音量は端末後面のハンドセットスピーカー音量調節ダイヤルで調節します。



■ 通話方式

● ハンズフリー通話

ハンドセットを取り上げずに相手を呼び出したときや、自動着信モードで着信したときなどは、ハンドセットを使わずに通話ができます。



同時通話

ご注意

N-8616MS ではハンズフリー通話はできません。PTT 通話になります。（☞ P. 2-8）

[2 者ともハンズフリー通話時の動作]

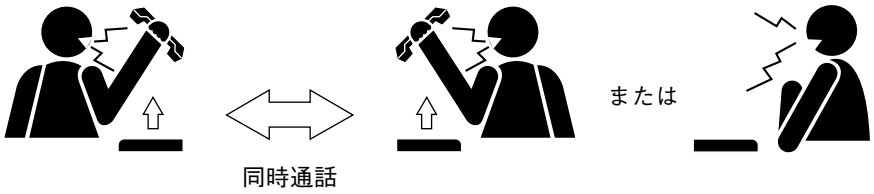
- 2 台の端末（N-8410MS/8616MS を除く）が両方ともハンズフリー通話をする場合、エコーキャンセラー*と音声スイッチを使った同時通話となります。この通話中はマイクで集音される音の変化に応じて、常に端末内部の設定（音の反射条件のパラメーター）を更新し、最適な通話になるようにしています。端末を新しい環境に設置した後や、端末の環境が大きく変化した後に、両方の端末がハンズフリー通話をした場合、ハウリングが起こることがありますが、しばらく通話を続けると正常に通話できるようになります。ただしハウリングがおさまらない場合は、マイク感度・スピーカー出力の調節を行ってください。

  ※ マイク感度・スピーカー出力の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェア（☞ P. 5-68、5-83）で行います。マスター端末のスピーカー出力の設定は端末でも行えます。（☞ P. 2-5）

  * エコーキャンセラー機能は、端末のスピーカーから出る音がマイクで集音されることにより起こるハウリングを抑制する機能ですが、ハウリングを完全に抑制することができないため、通常は、音声スイッチと併用して使用されます。
- N-8410MS がハンズフリー通話をする場合は、音声スイッチのみを使った通話方式となります。（☞ P. 8-5）

● ハンドセット通話

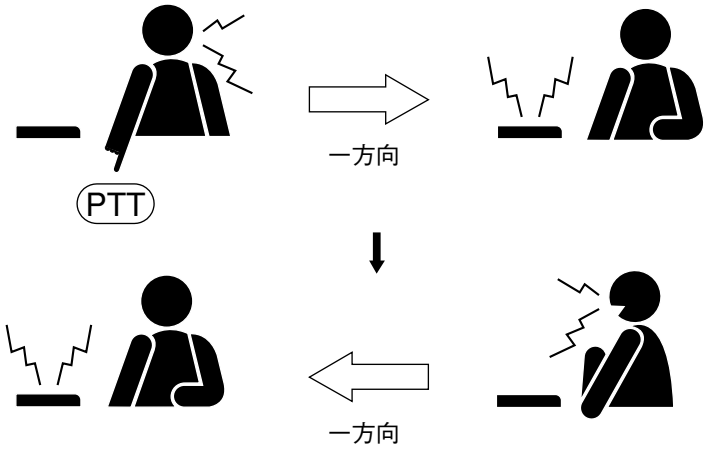
ハンドセットを取り上げて相手を呼び出したり、応答したりできます。



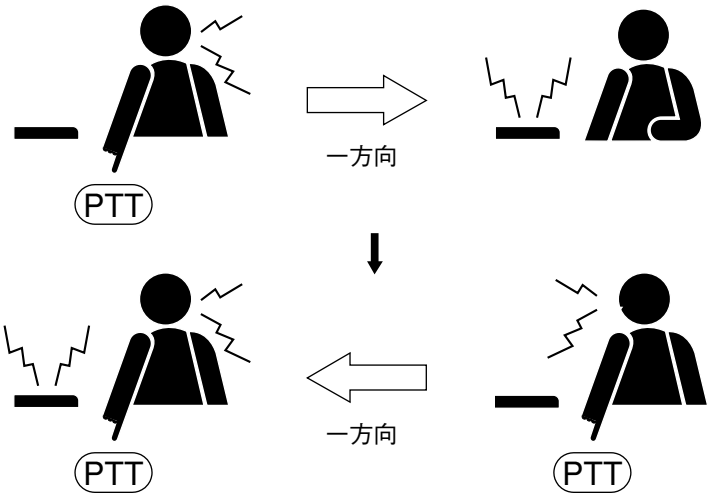
● PTT 通話

［N-8616MS 以外のマスター端末の場合］

周囲騒音が大きい場所にいる相手との通話中に使用します。
ハンズフリー通話中に、PTT キーを押すと、押した側からの一方向通話になり、離すと相手側からの一方向通話になります。

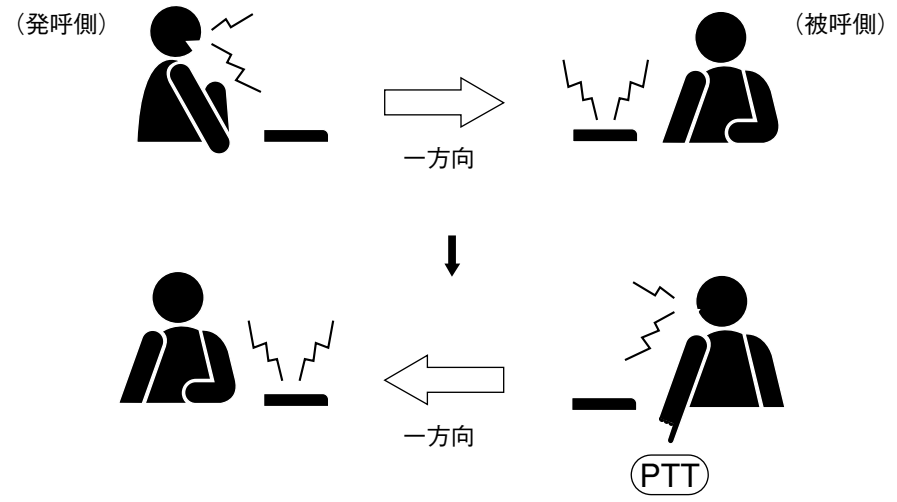


両端末が操作している場合は、後押し優先となります。



［N-8616MS の場合］

N-8616MS でハンドセットを取り上げずに通話をするときは、発呼側からの一方向通話になります。
被呼側からの音声を発呼側に伝えたいときは、PTT キーを押すと、被呼側からの一方向通話に変わります。
以後は、他のマスター端末の場合と同様に、PTT キーを押すと、押した側からの一方向通話になり、離すと相手側からの一方向通話になります。



通話機能と操作のしかた

■ 呼び出し

● 個別呼び出し

・通話したい相手の番号を押すと、相手を呼び出せます。
（ハンドセットを取り上げずにダイヤルしても相手を呼び出せます。）

・相手が応答して、呼び出し音が止まったら通話できます。

・相手が通話中などで呼び出せないときは、話中音が出ます。
そのままの状態で待っていると、相手の通話が終わりしだい呼び出します。

● リダイヤル

リダイヤルキーを使って、最後に行ったダイヤル操作を、もう一度行うことができます。
多機能マスター端末 N-8000MS、IP 多機能マスター端末 N-8500MS/8600MS の場合のみ、最新 10 件から任意に選択することができます。

メ　モ

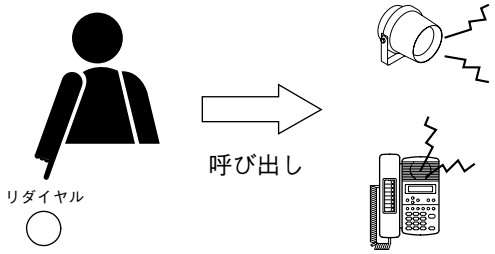
リダイヤルキーに登録されるのは、ダイヤルキー（12 種類）、ページング呼び出しキー、機能キーです。

［N-8010MS/8011MS/8020MS/8031MS/8033MS/8410MS/8510MS/8515MS/8610MS/8616MS の場合］

リダイヤルキーを押す。

最後に行ったダイヤル操作（個別呼び出しやページング呼び出しなど）が、もう一度行われます。

［最後にページング呼び出しをしていたときの例］



［N-8000MS/8500MS/8600MS の場合］

1　リダイヤルキーを押す。

液晶画面に最近のダイヤル操作のデータが表示されます。

［例］

```
リﾀﾞ ｲﾔﾙ
0：1001
```

2　上下矢印キーを押して、かけたいダイヤルを表示させる。

下矢印キーを押すと、新しい順に過去 10 件までのダイヤルデータが表示されます。数字が小さい方が新しく、一番新しいものが 0 です。

```
リﾀﾞ ｲﾔﾙ
7：1203
```

3　選択キーまたはリダイヤルキーを押す。

表示されたダイヤルの操作（個別呼び出しやページング呼び出しなど）が実行されます。

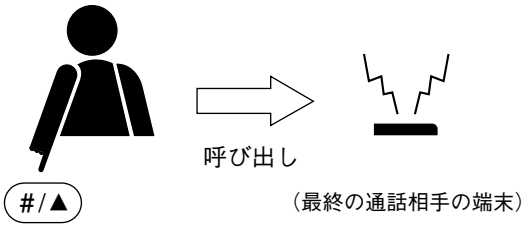
```
1203      TOA
ﾖﾋﾞﾀﾞｼ
```

● リコール

［＃ / ▲］キーを使って、最後に通話した相手（呼び出しをかけてきた相手、または呼び出した相手）を呼び出すことができます。
多機能マスター端末 N-8000MS、IP 多機能マスター端末 N-8500MS/8600MS の場合のみ、最新 10 件から任意に選択することができます。

［N-8010MS/8011MS/8020MS/8031MS/8033MS/8410MS/8510MS/8515MS/8610MS/18616MS の場合］

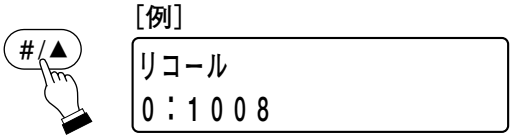
［＃ / ▲］キーを押す。
最後に通話した相手（呼び出しをかけてきた相手、または呼び出した相手）を呼び出します。



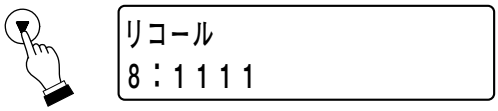
［N-8000MS/8500MS/8600MS の場合］

1 ［＃ / ▲］キーを押す。
液晶画面に最近の通話相手（呼び出しをかけてきた相手、または呼び出した相手）のダイヤルデータが表示されます。

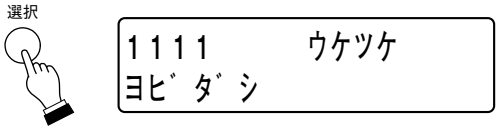
［例］



2 上下矢印キーを押して、かけたいダイヤルを表示させる。
下矢印キーを押すと、新しい順に過去 10 件までのダイヤルデータが表示されます。数字が小さい方が新しく、一番新しいものが 0 です。



3 選択キーまたは［＃ / ▲］キーを押す。
表示されたダイヤルの操作が実行されます。

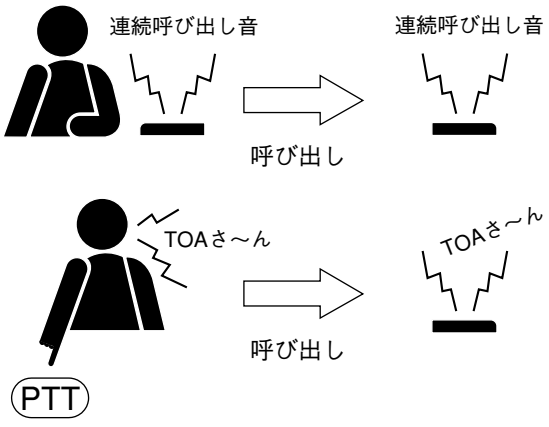


● 音声呼び出し（着信優先設定時のみ）

連続呼び出し音で呼び出している相手、およびプライバシー状態の RS-140 に、音声で呼びかけることができます。

・連続呼び出し音で呼び出しているときに、PTT キーを押して呼びかける。
押している間は呼び出し音が止まり、相手にこちらの音声が届きます。

・PTT キーを離す。
連続呼び出し音に戻ります。
また、プライバシー状態の RS-140 ではプライバシートーンに戻ります。



ご注意
相手の端末にグループ呼び出しのメンバー端末が設定されている場合は、音声呼び出しはできません。

● グループ呼び出し

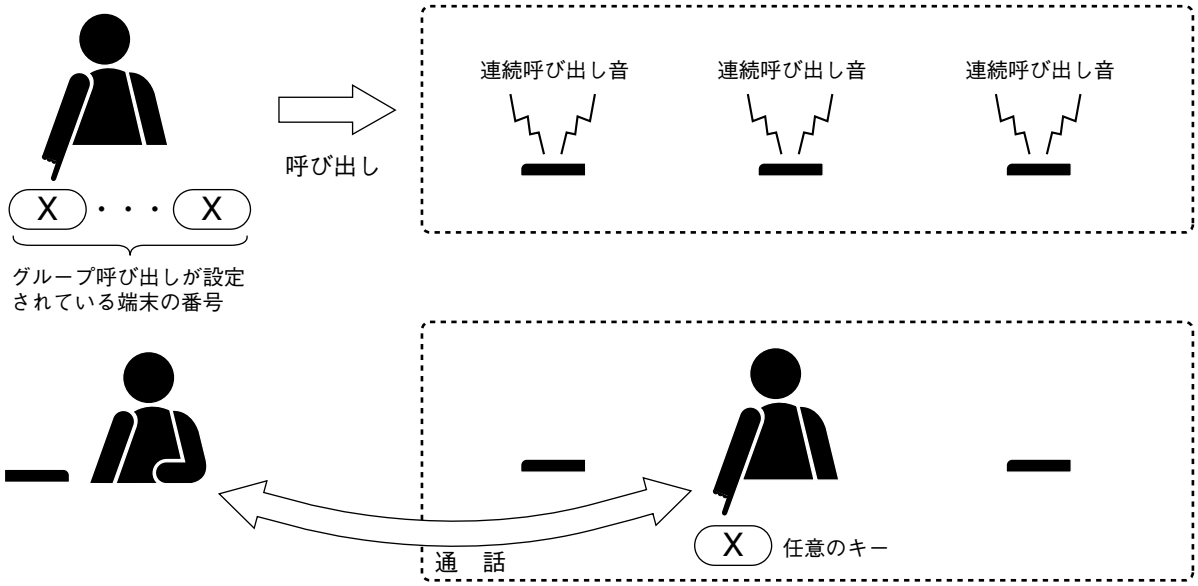
・端末にグループ呼び出しのメンバー端末が設定されていると、その端末番号をダイヤルしたときに、その端末（代表端末）とメンバー端末すべてが、着信モードの設定に関係なく連続呼び出し音で呼ばれます。
代表端末が話中のときでも、メンバー端末のすべてが連続呼び出し音で呼ばれます。

・いずれかの端末が応答すれば、他の端末への呼び出しは終了します。

※ グループ呼び出しのメンバー端末は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで設定します。（☞ P. 5-68、5-83）

ご注意

- ドア端末 N-8050DS、IP ドア端末 N-8540DS/8640DS/8650DS、サブ端末 RS-150/160/170/180/450/460/470/480、スイッチパネル RS-140/143/144、スイッチボード RS-142/442 はグループ呼び出しの代表端末およびメンバー端末に設定できません。
- 選択応答設定時、同じ交換機 N-8010EX またはサブ端末接続ユニット N-8400RS に接続されている端末は、グループ呼び出しのメンバー端末に設定できません。



■ 着信選択（着信優先設定時のみ）

端末ごとに着信時のモードと呼び出し音の有無を設定することができます。

※ 設定は付属の N-8000 設定ソフトウェア（☞ P. 5-68、5-83）で行います。

● 自動着信

着信があれば短い着信音の後（約 1 秒間）または無音で即時、自動的に通話状態になります。
着信時は、状態表示灯が消灯から赤色の点滅に変わります。通話状態になれば、赤色に点灯します。
・ハンドセットを取り上げると、ハンドセット通話となります。

● 連続呼び出し

連続した呼び出し音（または無音）と状態表示灯で、応答するまで呼び出し続けます。
着信時は、状態表示灯が消灯から赤色の点滅に変わります。通話状態になれば、赤色に点灯します。
・ハンドセットを取り上げて応答すると、ハンドセット通話となります。
・任意のキーを押して応答すると、ハンズフリー通話となります。（ワンタッチ応答）

ご注意

ドア端末 N-8050DS、IP ドア端末 N-8540DS/8640DS/8650DS は「連続呼び出し」に設定できません。

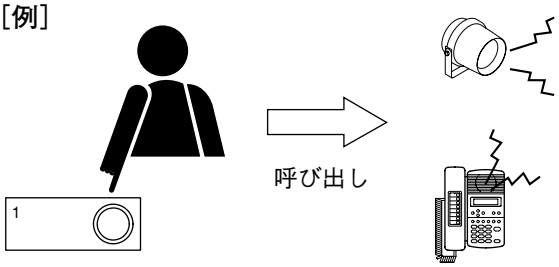
■ 短縮ダイヤル

● オートダイヤル（N-8000MS/8500MS/8600MS のみ）

端末ごとに専用のオートダイヤルキーにあらかじめダイヤル操作（最大 20 桁）を登録しておくと、ワンタッチで発信などができます。

※ オートダイヤルキーへの登録は、各端末で行います。
※ オートダイヤルキーへの登録内容も、各端末で確認できます。

[例]



[登録のしかた]

1 **メニューキーを押す。**
メニューモードに変わります。

→1：オートダ゛イヤルトウロク
　2：カイセンモニター

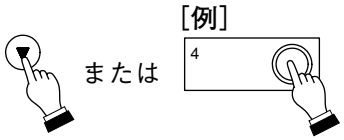
2 **選択キーを押す。**
オートダイヤル登録モードになり、オートダイヤル 1 に登録されているデータが表示されます。

→オートダ゛イヤル1：

メ　モ

- 登録内容が 16 桁以上のときは、左右矢印キーでスクロールさせると確認できます。
- 工場出荷時は何も登録されていないので、空白の表示になります。

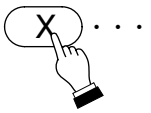
3 **登録したいオートダイヤルの番号をオートダイヤルキーまたは上下矢印キーを押して、カーソルを移動させる。**



4 **選択キーを押す。**
選択したオートダイヤル番号の登録内容を編集できる状態になります。

　オートダ゛イヤル4：
→

5 **ダイヤルキーなどで登録内容を入力する。**



　オートダ゛イヤル4：
→2004

メ　モ

- オートダイヤルキーに登録できるのは、ダイヤルキー（12 種類）、ページング呼び出しキー、ページング応答キー、保留キー、転送キー、機能キーです。
- 16 桁以上の入力をすると、画面はスクロールされます。

6 **入力が完了したら、選択キーを押す。**
入力キーはそのオートダイヤル番号へ記憶されます。
続けてオートダイヤルを登録するときは、**手順 3** に戻ってください。

→オートダ゛イヤル4：
　2004

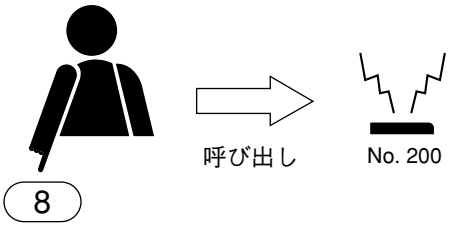
7 **メニューキーを押して、通常モードに戻す。**
待ち受け表示に戻ります。

10：08　AM
　　2000

● ワンタッチダイヤル

端末ごとに、[7]、[8]、[9]、[0] キー、およびオフフック*にあらかじめダイヤル操作（最大 32 桁）を登録しておくと、ワンタッチで発信などができます。

[例]



* ハンドセットを持ち上げる動作

※ N-8031MS/8033MS の外部ダイヤル入力端子を使用するときは、ワンタッチダイヤル登録をしてください。
※ ワンタッチダイヤルの登録は、端末の操作（下記）または付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。
（☞ P. 5-71、5-86）

機能指定番号　ワンタッチダイヤルキー　登録ダイヤル（最大32桁）

[登録のしかた]　機能 ○ ＋ 6 ＋ X ＋ Y ・・・ Y ＋ PTT （確認音）

[消去のしかた]　機能 ○ ＋ 6 ＋ X ＋ PTT （確認音）

メ　モ

- ワンタッチダイヤルキー（上図の X）には、[7]、[8]、[9]、[0] キーまたは PTT キーが入ります。
- ワンタッチダイヤルキーに登録できるキー（上図の Y）は、ダイヤルキー（12 種類）、ページング呼び出しキー、ページング応答キー、保留キー、転送キー、機能キーです。

（不在転送の機能指定番号を［7］キーに登録する例）

機能指定番号　ワンタッチダイヤルキー　登録ダイヤル

機能 ○ ＋ 6 ＋ 7 ＋ 機能 ○ ＋ 4 ＋ 1 ＋ PTT

（例）不在転送の機能指定番号

- オフフック操作をワンタッチダイヤルキーとして登録する場合は、PTT キーを押します。

（オフフック操作にダイヤル［1］［2］［3］を登録・消去する例）

[登録]

機能指定番号　ワンタッチダイヤルキー　登録ダイヤル

機能 ○ ＋ 6 ＋ PTT ＋ 1 ＋ 2 ＋ 3 ＋ PTT

[消去]

機能指定番号　ワンタッチダイヤルキー

機能 ○ ＋ 6 ＋ PTT ＋ PTT

ご注意

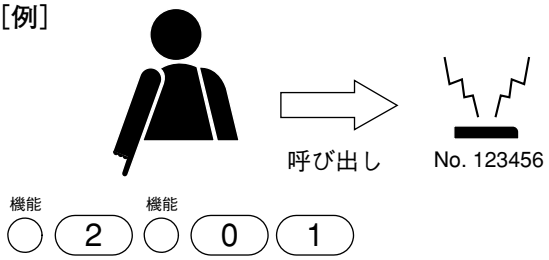
端末の操作で登録した内容は、1 日 1 回（午前 0 時）、交換機または IP 端末内部に保存されます。
保存されるまでに電源を切ると、変更前の設定内容に戻ります。

● ダイヤルパターン起動（N-8600MS のみ）

あらかじめダイヤル操作（最大 380 桁）をダイヤルパターンとして登録しておくと、以下の操作で発信などができます。

機能キーを押し、次に［2］キー、機能キーを押してから、ダイヤルパターン番号（01 ～ 54）を押す。

［例］



※ ダイヤルパターンに登録できるキーは、ダイヤルキー（12 種類）、ページング呼び出しキー、ページング応答キー、保留キー、転送キー、機能キーです。
※ ダイヤルパターンの登録は、付属の N-8000 設定ソフトウェア（ ☞ P. 5-80）で行います。

■保　留

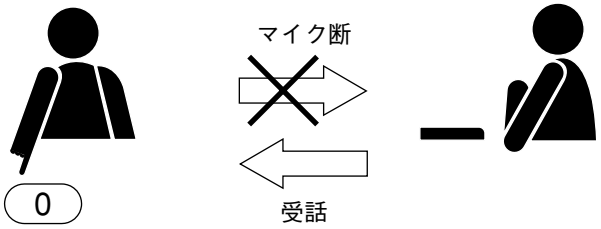
●マイクオフ

通話中にマイクを切って、相手にこちらの会話が聞こえないようにすることができます。

［マイクオフ］

通話中に［０］～［９］のいずれかのキーを押し続ける。

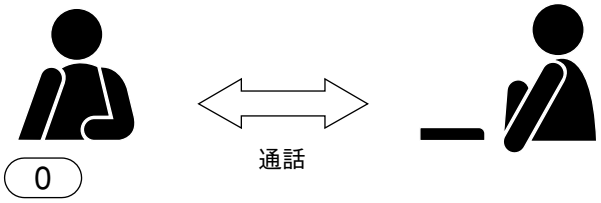
［例］



［マイクオフ解除］

押しているキーを離す。

元の状態に戻ります。



押していたキーを離す。

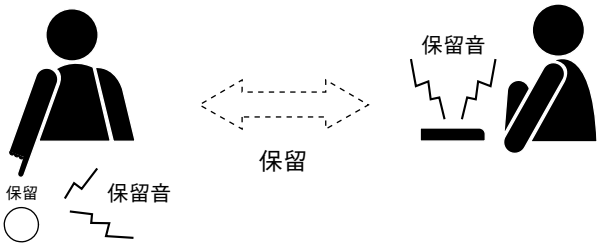
●一時保留

通話中に通話を保留することができます。

［保留］

通話中に保留キーを押す。

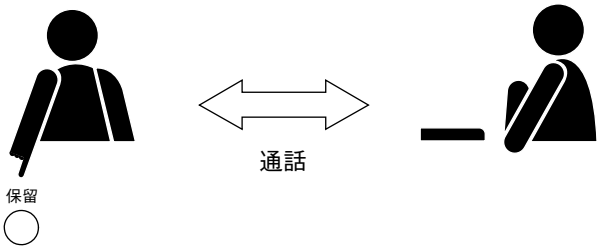
両者に保留音が鳴って、保留状態になります。
保留キーを押した状態でハンドセットを置いても、通話は終了しません。



［保留解除］

もう一度保留キーを押す。

保留が解除され、元の通話に戻ります。
ハンドセットを置いた状態で一時保留にしているときは、ハンドセットを持ち上げただけでも保留が解除されます。



■転　送

２者通話状態から、第３者を呼び出して通話（元の通話相手は一時保留）し、その後元の通話に戻ることや、元の通話相手と第３者の通話状態にする（転送）ことができます。

ご注意

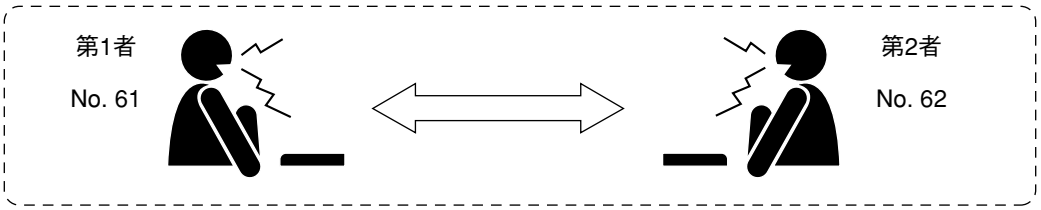
N-8010EX/8400RS に接続されている端末からは転送できません。

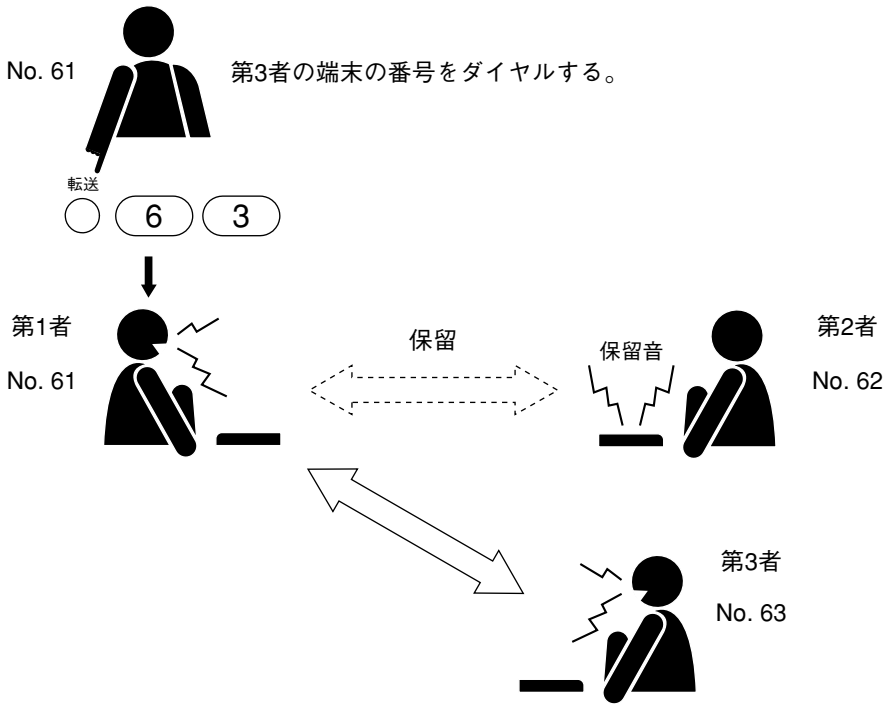
1 **２者間で通話をしている間に、転送キーを押す。**

現在の通話が保留され、保留音が相手に送られます。

2 **第３者の端末番号をダイヤルする。**（例：[6] [3]）

第３者が応答すると、第１者は、元の通話を保留したまま第３者と話すことができます。



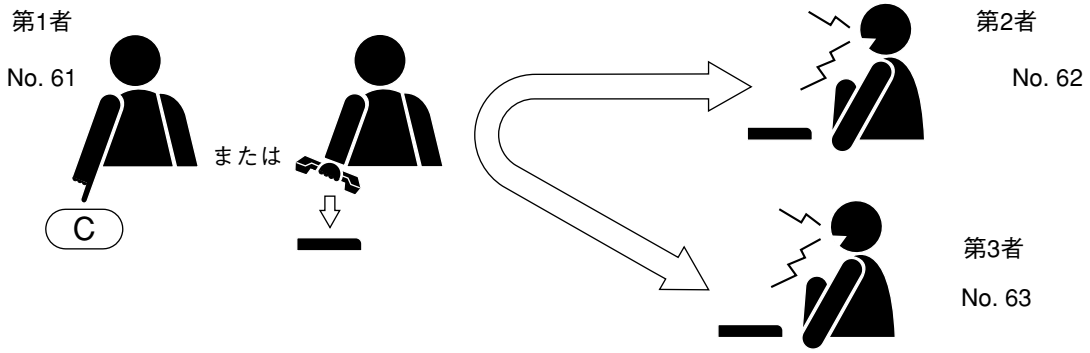


第３者との通話が終わった後、第１者は、その通話を第３者へ転送するか、元の通話に戻ることができます。

［第３者への転送］

3 保留されている相手に第３者をつなぐには、クリアキーを押すか、ハンドセットを置く。

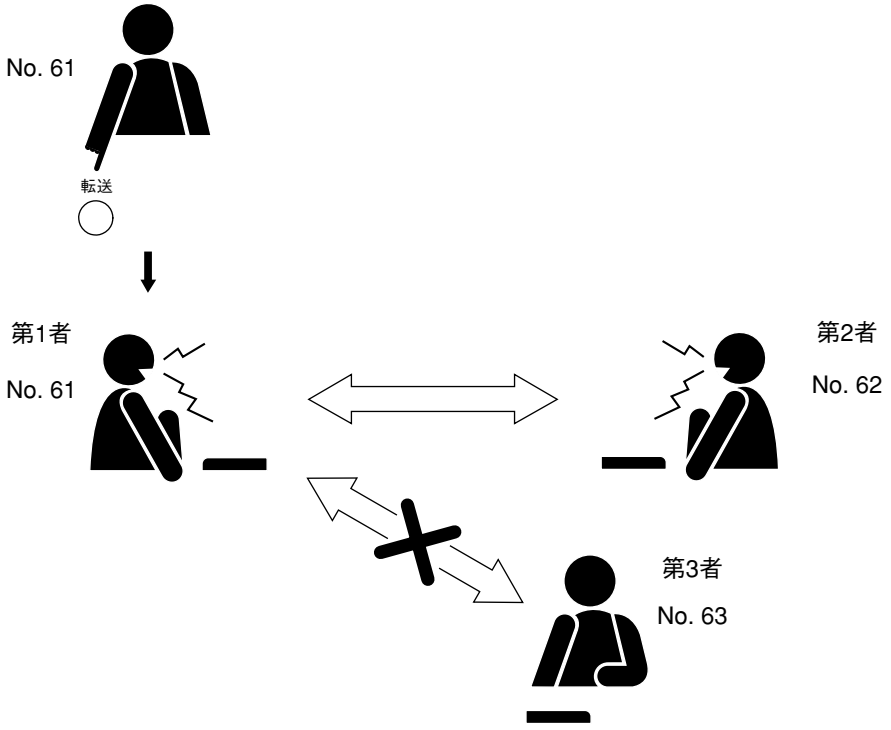
第２者と第３者の通話状態となります。



［元の通話の復旧］

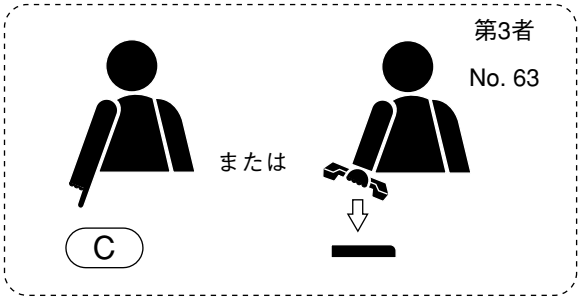
4 転送せずに元の通話に戻るには、もう一度転送キーを押す。

元の２者間通話に戻ります。



メ　モ

第１者が転送キーを押さず、第３者がクリアキーを押すか、またはハンドセットを下ろしても、元の通話に戻ります。



■ 自動転送

ご注意

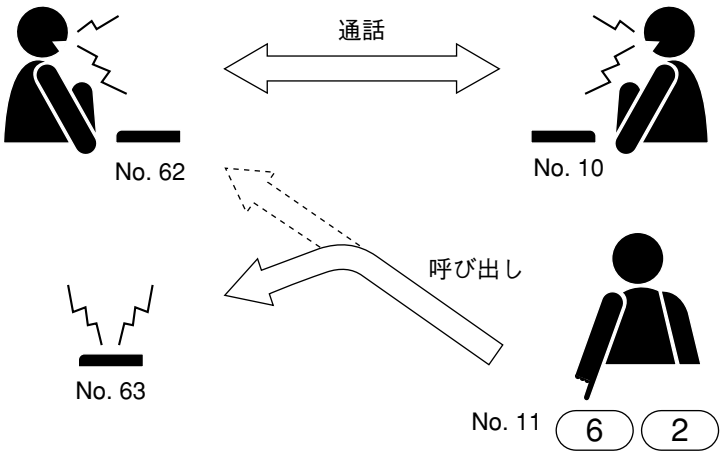
マルチインターフェースユニットを経由した相手先の端末へ自動転送をすることはできません。

● 話中転送

通話中に着信があった場合、着信端末に話中転送が設定されていると自動的に転送されます。
通話中からの呼び出し（転送 ☞ P. 2-16）も話中転送されます。

※ 話中転送先の設定は、端末の操作（次ページ）または付属の N-8000 設定ソフトウェア（ ☞ P. 5-69、5-83）で行います。
※ 話中転送機能の有無は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで設定します。（ ☞ P. 5-38、5-65）
話中転送機能が有効になっていないと、転送先の設定はできません。

［例］通話中の端末（No. 62）にかかってきた呼び出しは、別の指定した端末（No. 63）に転送されます。



ご注意

以下の条件のときは転送されません。

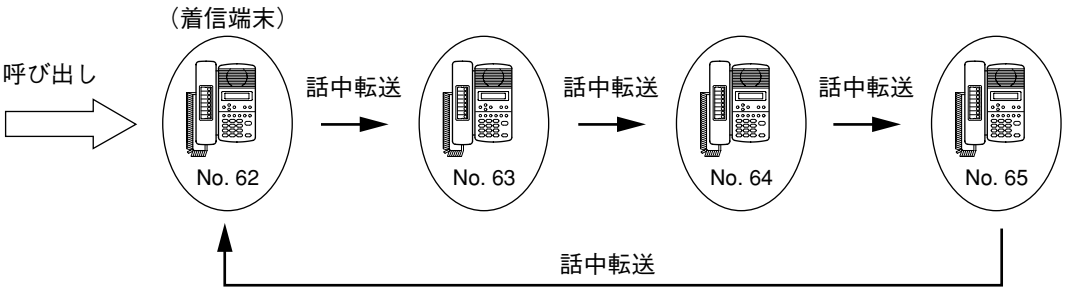
- 転送先端末が不在転送に設定されているとき
- 転送先端末が待ち受け状態でないとき（ただし、転送先端末が話中であっても話中転送に設定されているときは、さらに転送されます。）
- 話中転送に設定されている端末がグループ呼び出しの代表またはメンバーとして呼び出されるとき
- 選択応答設定時に転送先端末が話中のとき
- 転送先端末がプライバシー状態のリモートマイク端末であるとき

着信端末も転送先端末も通話中のとき

システムの通話応答モードの設定により、着信端末も転送先端末も通話中のときの動作が異なります。

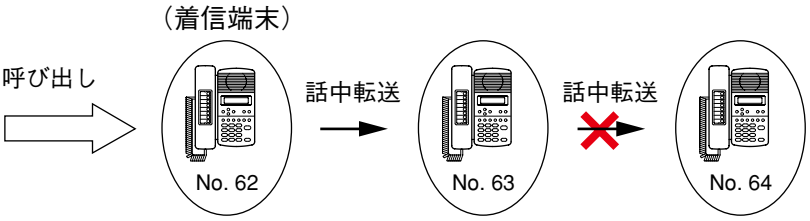
着信優先設定時：転送先端末に話中転送が設定されていれば、さらに別の端末へ転送されます。設定により、空き回線へスライド式に転送させることもできます。

［設定例］　端末を一巡するように転送できます。
No. 62（着信端末）への呼び出しは、通話中であれば順次転送され、
No. 62～No. 65のいずれか空いた端末につながります。



選択応答設定時：着信端末または転送先端末のどちらか先に空いた方につながります。転送先端末に話中転送が設定されていても、さらに別の端末へ転送されることはありません。

［設定例］　No. 62（着信端末）への呼び出しは、No. 63に話中転送を設定していても、
No. 62またはNo. 63のどちらかにしかつながりません。



登録、消去は自端末からできます。

機能指定番号　　転送先端末番号

［登録のしかた］　機能 ○ ＋ 4 5 ＋ X ・・・ X ＋ #/▲（確認音）

自端末番号

［消去のしかた］　機能 ○ ＋ 4 5 ＋ Y ・・・ Y ＋ #/▲（確認音）

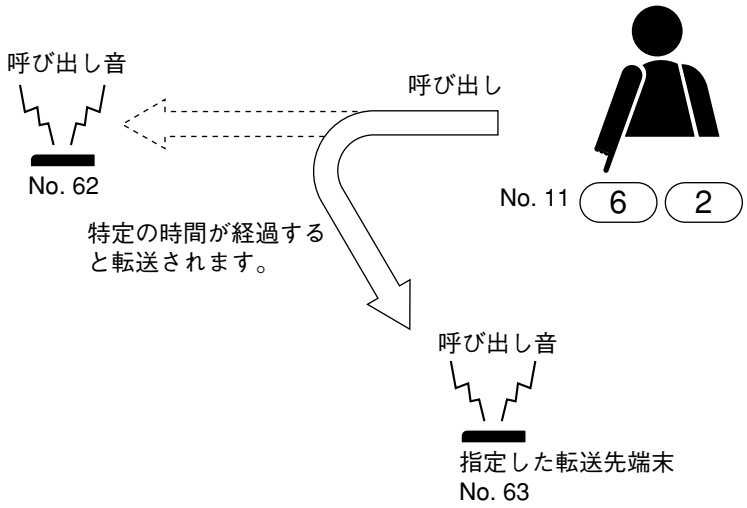
ご注意

- マルチインターフェースユニットを経由した相手先の端末を転送先に登録することはできません。
- 端末の操作で設定した内容は、１日１回（午前０時）、交換機または IP 端末内部に保存されます。保存されるまでに電源を切ると、変更前の設定内容に戻ります。

● 不応答転送

着信があった場合、着信端末に不応答転送設定があり一定時間応答しないと自動的に転送されます。
通話中からの呼び出し（転送 ☞ P. 2-16）も不応答転送されます。

※ 不応答転送先の設定は、端末の操作（下記）または付属の N-8000 設定ソフトウェア（ ☞ P. 5-69、5-83）で行います。
※ 不応答転送機能の有無、呼び出し時間は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで設定します。（ ☞ P. 5-38、5-65）
不応答転送機能が有効になっていないと、転送先の設定はできません。



ご注意

以下の条件のときは転送されません。

- 転送先端末が不在転送に設定されているとき
- 転送先端末が待ち受け状態でないとき
- 不応答転送に設定されている端末がグループ呼び出しの代表またはメンバーとして呼び出されるとき
- 転送先端末がプライバシー状態のリモートマイク端末であるとき

登録、消去は自端末からできます。

［登録のしかた］　機能指定番号　転送先端末番号
機能 ○ ＋ 4 4 ＋ X ・・・ X ＋ #/▲（確認音）

［消去のしかた］　自端末番号
機能 ○ ＋ 4 4 ＋ Y ・・・ Y ＋ #/▲（確認音）

ご注意

- マルチインターフェースユニットを経由した相手先の端末を転送先に登録することはできません。
- 端末の操作で設定した内容は、１日１回（午前０時）、交換機または IP 端末内部に保存されます。保存されるまでに電源を切ると、変更前の設定内容に戻ります。

● 不在転送

着信があった場合、着信端末が不在転送状態ならば、呼び出し音を鳴らさずに、自動的に転送されます。
不在転送には２種類あり、転送先を設定すればすぐに不在転送状態になる手動による不在転送と、転送先を設定しても指定時刻になるまでは不在転送状態にならない時刻連動不在転送があります。
通話中からの呼び出し（転送 ☞ P. 2-16）も不在転送されます。

※ 不在転送先の設定は、端末の操作（ ☞ 下記および次ページ）または付属の N-8000 設定ソフトウェア（ ☞ P. 5-69、5-83）で行います。
※ 不在転送機能の有無、連動時刻（転送開始時刻と終了時刻）は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで設定します。（ ☞ P. 5-38、5-65）
不在転送機能が有効になっていないと、転送先の設定はできません。

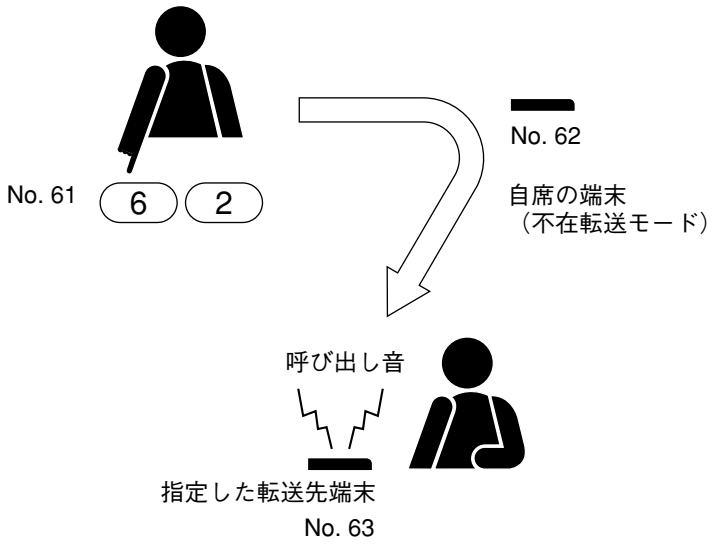
ご注意

以下の条件のときは転送されません。

- 不在転送に設定されている端末がグループ呼び出しのメンバーとして呼び出されるとき
- 転送先端末がプライバシー状態のリモートマイク端末であるとき

［手動による不在転送に設定されている場合］

不在転送に設定した自席の端末にかかってきた呼び出しは、呼び出し音を鳴らさずに、指定した端末に自動的に転送されます。



登録は自端末または転送先端末から、消去は自端末からできます。

［自端末での登録のしかた］

機能指定番号　転送先端末番号

機能 ◯ ＋ 4 1 ＋ X ・・・ X ＋ #/▲（確認音）

［転送先端末での登録のしかた］

自端末番号

機能 ◯ ＋ 4 2 ＋ Y ・・・ Y ＋ #/▲（確認音）

［消去のしかた］（自端末でのみ可）

自端末番号

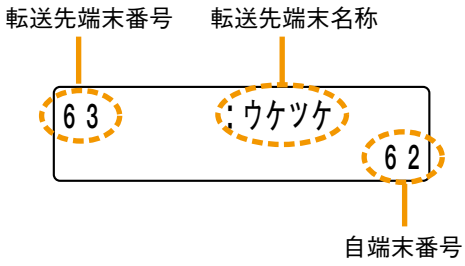
機能 ◯ ＋ 4 1 ＋ Y ・・・ Y ＋ #/▲（確認音）

ご注意

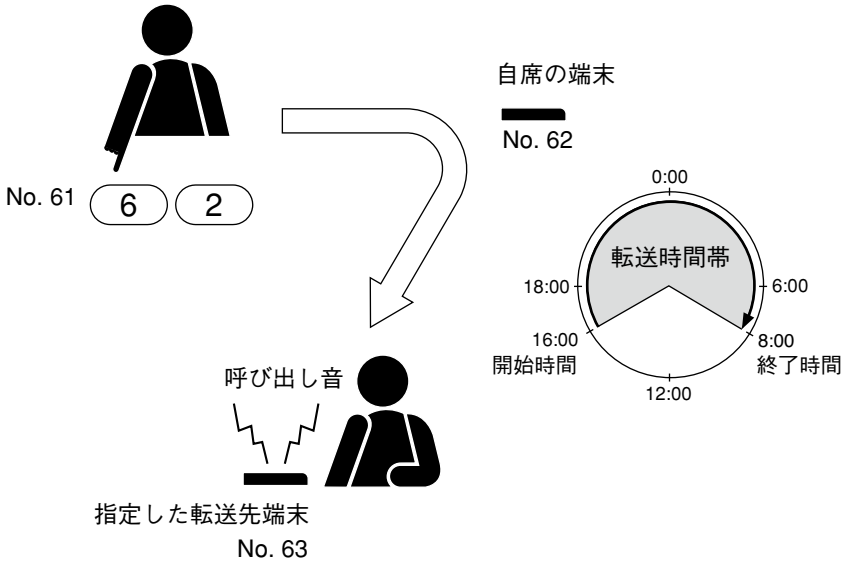
- マルチインターフェースユニットを経由した相手先の端末を転送先に登録することはできません。
- 端末の操作で設定した内容は、１日１回（午前０時）、交換機または IP 端末内部に保存されます。保存されるまでに電源を切ると、変更前の設定内容に戻ります。

［時刻連動不在転送が設定されているとき］

1 あらかじめ設定された転送開始時間になると、端末の表示部に次のように表示され、端末（例：62）が時刻連動不在転送状態に入ったことを示します。（N-8000MS/8500MS/8600MS のみ）



2 自席の端末（転送元端末）にかかってきた呼び出しは、呼び出し音を鳴らさずに、自動的に転送先端末に転送されます。



登録、消去は自端末からできます。

［登録のしかた］　機能指定番号　転送先端末番号

機能 ○ ＋ 4 3 ＋ X ・・・ X ＋ #/▲（確認音）

［消去のしかた］　自端末番号

機能 ○ ＋ 4 3 ＋ Y ・・・ Y ＋ #/▲（確認音）

ご注意

- マルチインターフェースユニットを経由した相手先の端末を転送先に登録することはできません。
- 端末の操作で設定した内容は、１日１回（午前０時）、交換機または IP 端末内部に保存されます。保存されるまでに電源を切ると、変更前の設定内容に戻ります。

■ 代理応答（着信優先設定時のみ）

他の端末に着信があったとき、その端末と自席の端末が同一グループに設定されていた場合に、自席の端末で代わりに呼び出しに応答して通話できます。
応答グループ登録できる端末数は最大 16 台です。
連続呼び出しで呼ばれている場合のみ応答できます。
グループ呼び出し機能で着信している場合は、代理応答機能を使って応答することはできません。

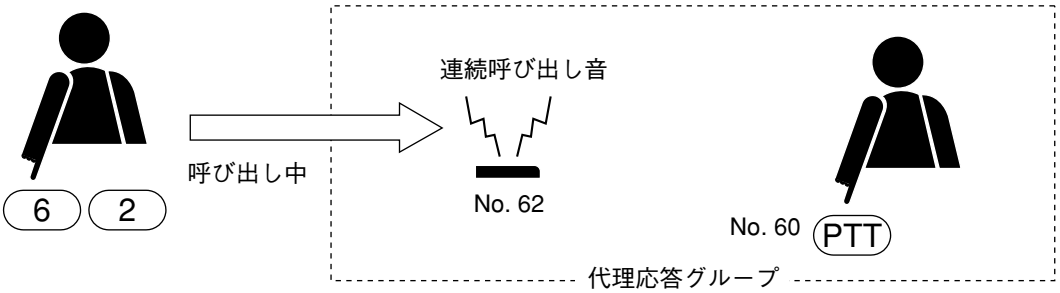
※ 代理応答グループの設定は、端末の操作（ ☞ 次ページ）または付属の N-8000 設定ソフトウェア（ ☞ P. 5-127）で行います。

ご注意

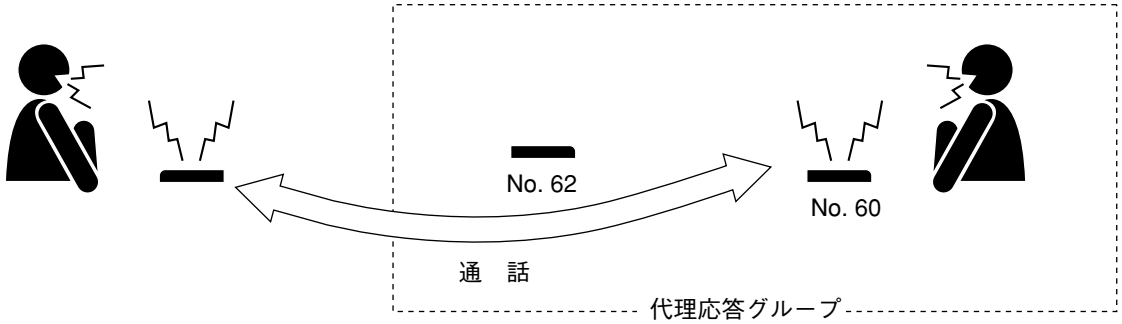
N-8010EX/8400RS に接続されている端末を代理応答のグループに設定することはできません。

［操作例］

同一の代理応答グループに設定されている端末（例：62）が連続呼び出し音で着信しているときに、PTT キーを押す。



PTT キーを押した端末（例：60）が、呼び出された端末（例：62）の代わりに応答することができます。



［代理応答グループメンバー新規登録のしかた］

機能指定番号

機能
◯＋ 7 0 ＋ #/▲ （確認音）

［代理応答グループメンバー追加のしかた］

メンバー端末番号

機能
◯＋ 7 1 ＋ X ・・・ X ＋ #/▲ （確認音）

［代理応答グループ消去のしかた］

機能
◯＋ 7 2 ＋ #/▲ （確認音）

［代理応答グループメンバー消去のしかた］

メンバー端末番号

機能
◯＋ 7 2 ＋ X ・・・ X ＋ #/▲ （確認音）

ご注意

- 他のグループに設定されている端末は、新規代理応答グループを登録することはできません。
- 他のグループに設定されている端末を、代理応答グループのメンバーに登録することはできません。
- 他のグループに設定されている端末を、代理応答グループのメンバーから消去することはできません。
- 端末の操作で設定した内容は、１日１回（午前０時）、交換機または IP 端末内部に保存されます。
  保存されるまでに電源を切ると、変更前の設定内容に戻ります。

■ 緊急割り込み（着信優先設定時のみ）

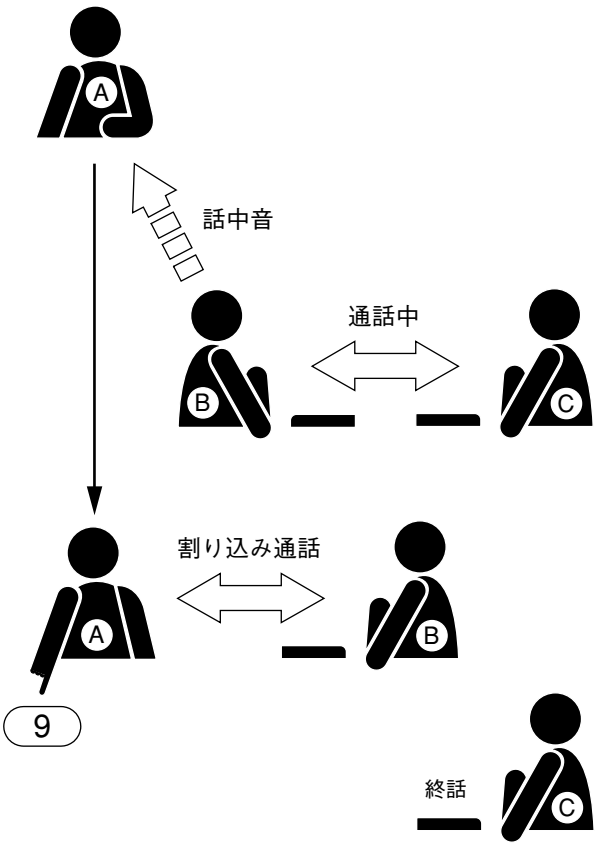
呼び出した相手端末が使用中で話中音が流れている場合、端末から割り込み操作をすると、割り込み音を数秒流して、相手端末*の通話を強制的に終了させた後、呼び出すことができます。
割り込み操作できる端末、割り込みを拒否できる端末を端末ごとに設定できます。

* N-8010EX/8400RS に接続されている端末および N-8000AL に接続されている電話機に割り込むことはできません。

※ 設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-70、5-85）

［操作のしかた］

A から呼び出した端末 B が話中のときに［9］キーを押す。



通話中の２つの端末（B と C）に割り込み音が流れ、強制的に通話を終了させます。そして相手端末 B を呼び出すことができます。

※ 呼び出し中相手端末 B に割り込みを拒否できる設定がされているときは、話中状態のまま変化ありません。

ページング機能と操作のしかた

■ ページング呼び出し

ページング呼び出し操作ができる端末は、あらかじめ設定されています。
また、交換機または IP 端末ごとに、あらかじめ制限時間（10 ～ 990 秒で 10 秒単位）を決めておくと、ページングの呼び出し放送時間を制限できます。

※ ページング操作の可否および制限時間の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。
（ ☞ P.5-39、5-66、5-70、5-85）

● 系統ページング

あらかじめ設定されたエリア（系統）の 1 つに呼び出し放送ができます。

※ エリアの設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（ ☞ P. 5-123）

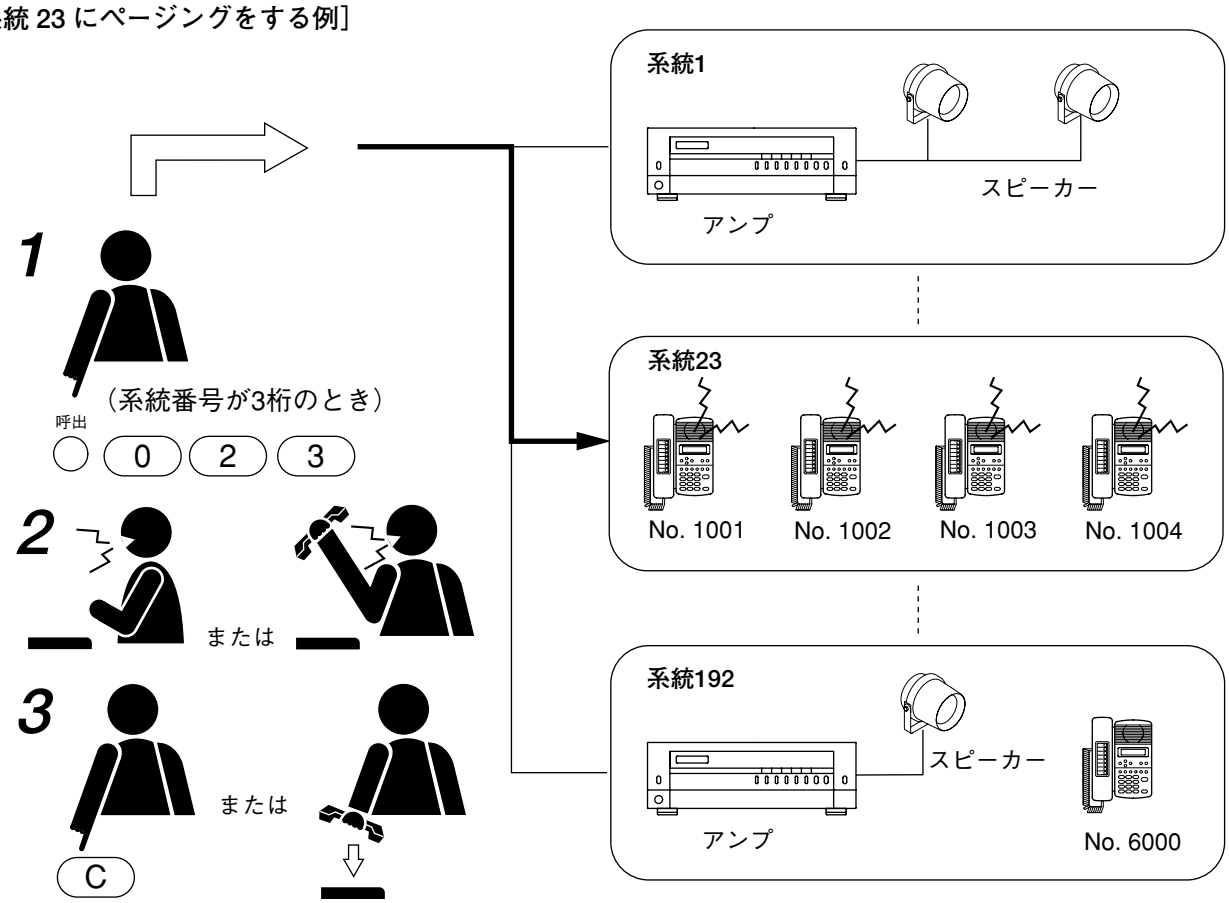
1 **ページング呼び出しキーを押し、次に呼び出し放送をする系統番号（1 ～ 192）を押す。**
ページング呼び出し音が、選択された系統に流れます。

ご注意
系統番号は、N-8000 設定ソフトウェアで設定された桁数（1 ～ 3）に合わせて入力してください。

2 **ハンドセットを置いたまま、あるいは持ち上げて呼び出し放送をする。**
※ 応答モードが系統番号指定応答（ ☞ P. 2-33）に設定されている場合は、呼び出すときに、応答する系統番号を知らせてください。

3 **クリアキーを押すか、あるいはハンドセットを置く。**
呼び出し放送が終了します。

［系統 23 にページングをする例］



● 選択ページング

あらかじめ設定された、複数のエリア（系統）に呼び出し放送ができます。
一度に最大 50 系統を選択できます。
※ エリアの設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-123）

1 **ページング呼び出しキーを押し、次に［＊/▼］キーを押してから、呼び出し放送をする系統番号（1 ～ 192）を押す。**

ご注意

系統番号は、N-8000 設定ソフトウェアで設定された桁数（1 ～ 3）に合わせて入力してください。

2 **続けて系統番号を選択するときは［＊/▼］キーを押す。**

3 **系統番号の選択を終えるときは、系統番号を押した後、［＃/▲］キーを押す。**

ページング呼び出し音が、選択された系統に流れます。

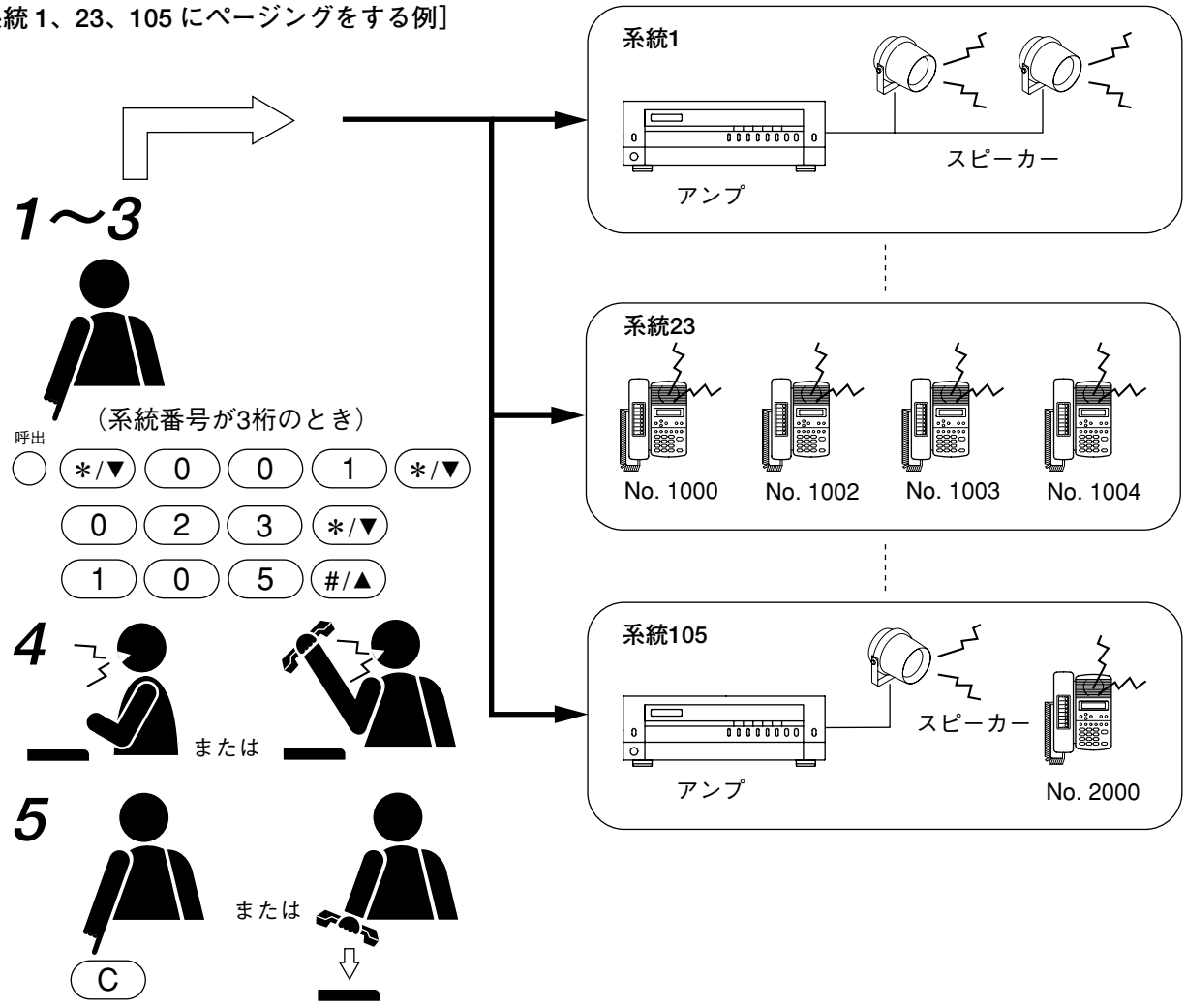
4 **ハンドセットを置いたまま、あるいは持ち上げて呼び出し放送をする。**

※ 応答モードが系統番号指定応答（☞ P. 2-33）に設定されている場合は、呼び出すときに、応答する系統番号（呼び出した系統のいずれか 1 つで可）を知らせてください。

5 **クリアキーを押すか、あるいはハンドセットを置く。**

呼び出し放送が終了します。

［系統 1、23、105 にページングをする例］



● ページング系統および系統のパターンへの選択ページング（N-8600MS のみ）

あらかじめ設定された、複数の系統（系統および系統のパターン*）に呼び出し放送ができます。

* 複数のページング系統をグループにしたもの

※ ページング系統および系統のパターンの設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。
（ ☞ P. 5-123、5-80）

1 ページング呼び出しキーを押す。

2 系統を選択する。

手順 2-1 または 2-2 の操作を繰り返して、複数の系統または系統パターンを続けて選択することができます。

ご注意

系統を選択するときのダイヤルの最大桁数は 380 桁です。

2-1 系統を選択するとき

［＊ / ▼］キーを押してから、呼び出し放送をする系統番号（1 ～ 192）を押してください。

ご注意

系統番号は、N-8000 設定ソフトウェアで設定された桁数（1 ～ 3）に合わせて入力してください。

2-2 系統のパターンを選択するとき

［＊ / ▼］キー、機能キーを押してから、呼び出し放送をする系統のパターン番号（001 ～ 216）を押してください。

3 ［＃ / ▲］キーを押す。

ページング呼び出し音が、選択された系統に流れます。

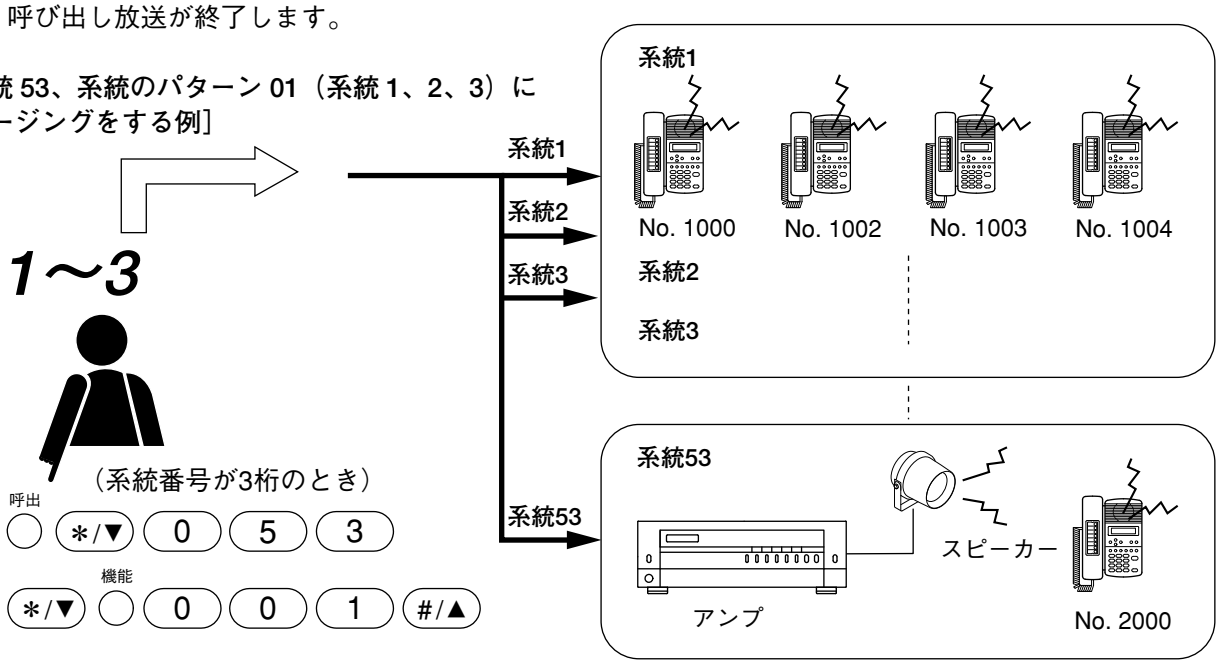
4 ハンドセットを置いたまま、あるいは持ち上げて呼び出し放送をする。

※ 応答モードが系統番号指定応答（ ☞ P. 2-33）に設定されている場合は、呼び出すときに、応答する系統番号（呼び出した系統のいずれか 1 つで可）を知らせてください。

5 クリアキーを押すか、あるいはハンドセットを置く。

呼び出し放送が終了します。

［系統 53、系統のパターン 01（系統 1、2、3）にページングをする例］



● 一斉ページング

あらかじめ設定された、すべてのエリア（系統）に一斉に呼び出し放送ができます。

※ エリアの設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-123）

1 **ページング呼び出しキーを押し、次に系統番号 0（全系統）を押す。**

ページング呼び出し音が、すべての系統に流れます。

ご注意

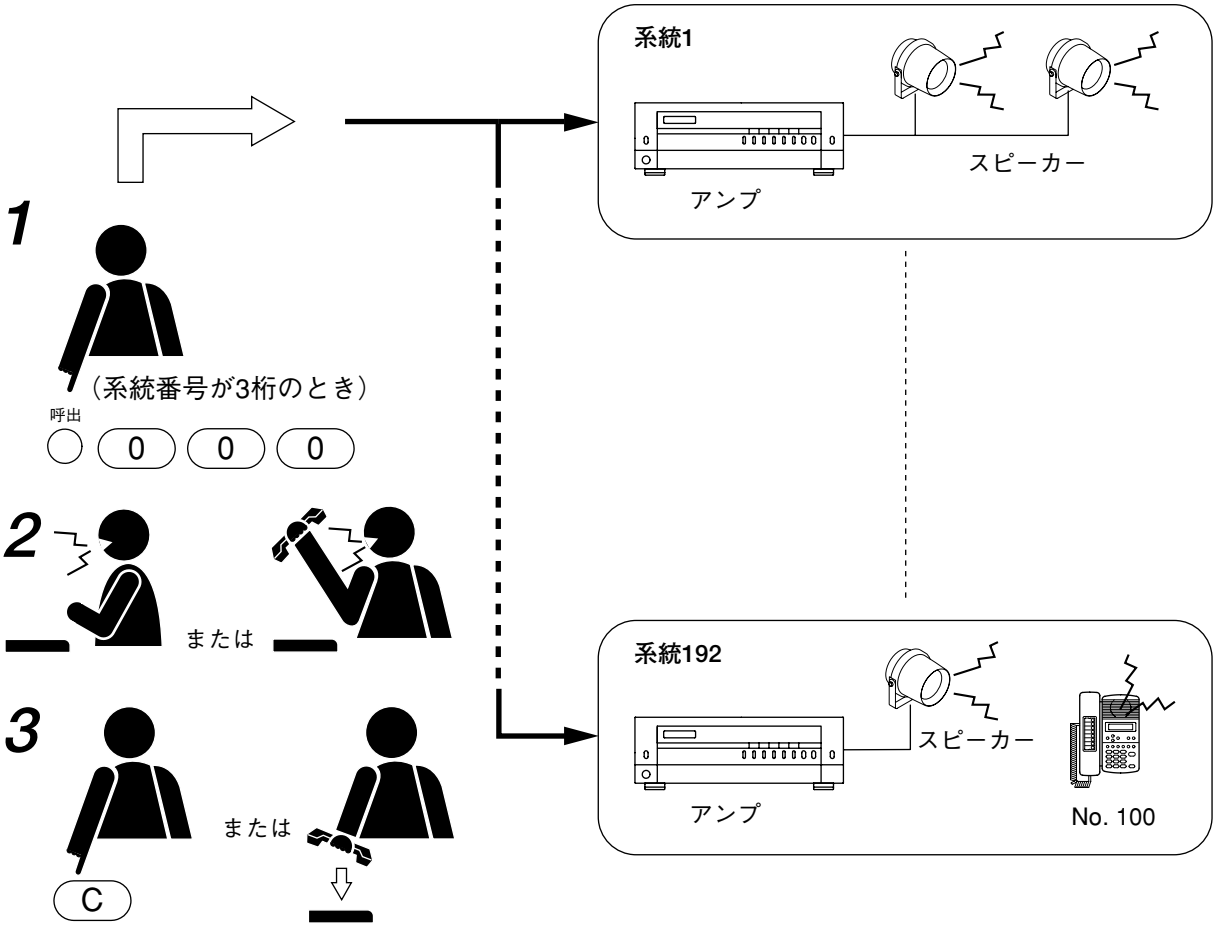
系統番号は、N-8000 設定ソフトウェアで設定された桁数（1 ～ 3）に合わせて入力してください。

2 **ハンドセットを置いたまま、あるいは持ち上げて呼び出し放送をする。**

※ 応答モードが系統番号指定応答（☞ P. 2-33）に設定されている場合は、呼び出すときに、系統番号 0 に応答することを知らせてください。

3 **クリアキーを押すか、あるいはハンドセットを置く。**

呼び出し放送が終了します。



● 緊急一斉ページング

通話中、ページング呼び出し中など、現在動作中のすべての機能を終了させ、すべての端末、N-8000EX の音声出力、ページング出力に設定された N-8000MI、および N-8000AF の音声出力に一斉に呼び出し放送ができます。

※ N-8000MI と N-8000AF でページング系統に含まれる接点はすべてメイクされます。

1 ［＊/▼］キーを 4 回押す。

現在動作中のすべての機能が終了し、ページング呼び出し音が、すべての系統に流れます。

2 ハンドセットを置いたまま、あるいは持ち上げて呼び出し放送をする。

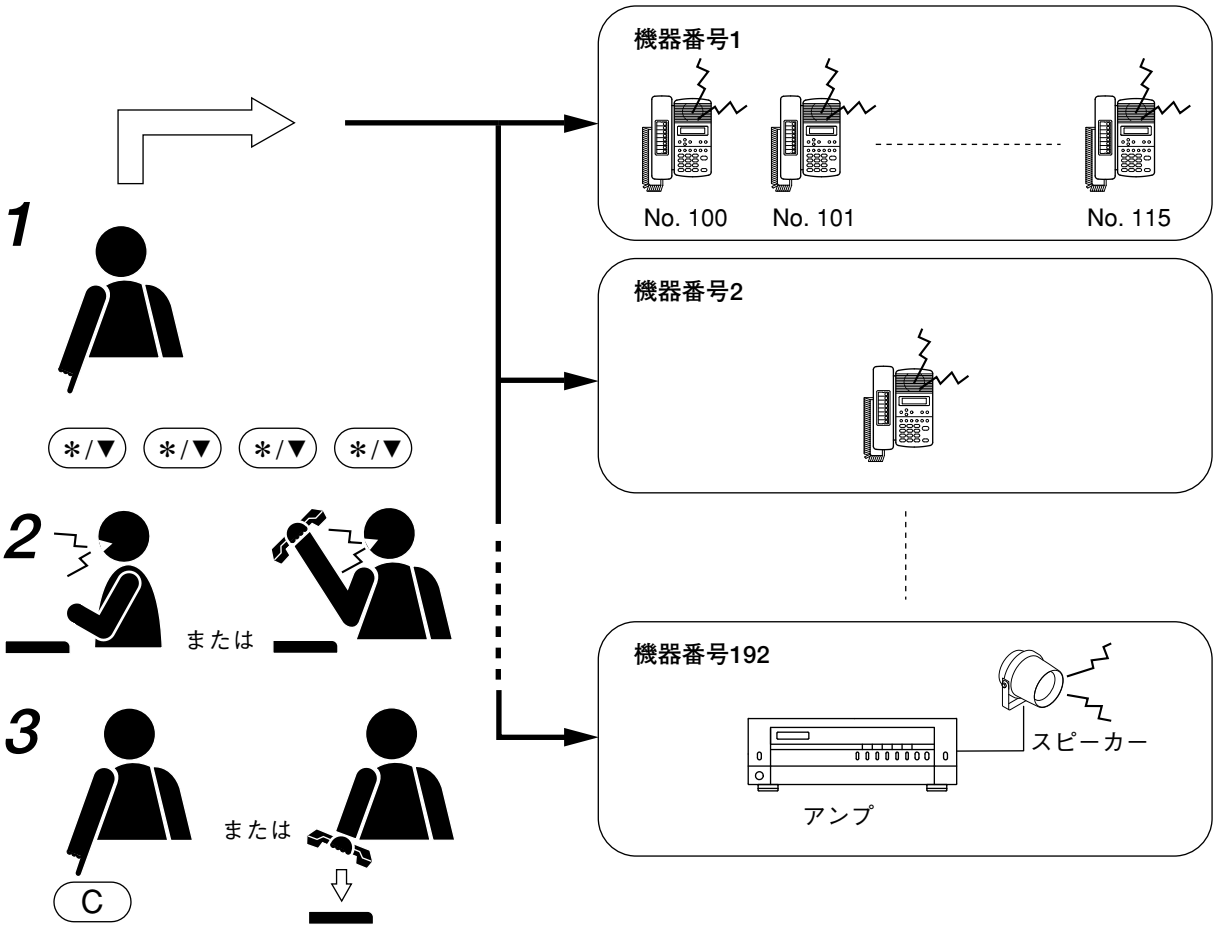
※ 応答モードが系統番号指定応答（ ☞ P. 2-33）に設定されている場合は、呼び出すときに、系統番号＊に応答することを知らせてください。

3 クリアキーを押すか、あるいはハンドセットを置く。

呼び出し放送が終了します。

ご注意

緊急一斉ページングによって終了した機能は、緊急一斉ページングが終わっても元の状態には戻りません。



● ページングの優先度

[緊急一斉ページング]

緊急一斉ページングは、他の通話やページング呼び出しなど、すべての機能の中で最も優先度の高い機能です。緊急一斉ページング時は、他の動作中の機能はすべて終了し、ページング終了後も元の状態に復旧しません。また、緊急一斉ページングが終わるまで、他のすべての動作は受け付けられません。

[一斉ページング、系統ページング、選択ページングの優先度]

一斉ページングは系統ページング、選択ページングよりも優先度が高いページングです。系統ページングと選択ページングの優先度は同じです。

- 系統ページングまたは選択ページング中に一斉ページングをすると、系統ページングまたは選択ページングは強制的に終了し、一斉ページングになります。
- ページング中に、優先度が同じページングをすると、呼び出し放送先の端末や拡声出力が重複する場合は、後からのページングが話中待ちになります。

[すべてのページングの優先度]

下記の上位が最優先となります。

- 緊急一斉ページング
- 緊急メッセージ放送（ ☞ P. 2-75）
- 外部入力放送（優先設定時）（ ☞ P. 2-179）
- 一斉ページング
- 系統ページング、選択ページング

※ 詳しくは P. 2-175「優先順位」をお読みください。

■ ページング応答

ページング呼び出しを聞いた人が最寄りの端末で応答操作をすると、ページング操作した端末を呼び出して通話ができます。応答モードには「自動応答」と「系統番号指定応答」の２種類あり、あらかじめどちらかに設定されています。（ ☞ P. 5-47、5-66）

ご注意

- 通話応答モードが「選択応答」に設定されているシステムの場合は、ステーションページング受信中の端末からページング応答をすることはできません。ページングの受信が終了してから、ページング応答の操作をしてください。
- 通話応答モードが「着信優先」に設定されているシステムの場合に、ステーションページングの受信モード*が「ページング優先モード」に設定されているときは、ページング受信中の端末からページング応答をすることはできません。ページングの受信が終了してから、ページング応答の操作をしてください。

  * ステーションページングを受信する端末には、「通話優先モード」と「ページング優先モード」の２種類の受信モードがあり、あらかじめどちらかに設定されています。（ ☞ P. 5-47、5-66）

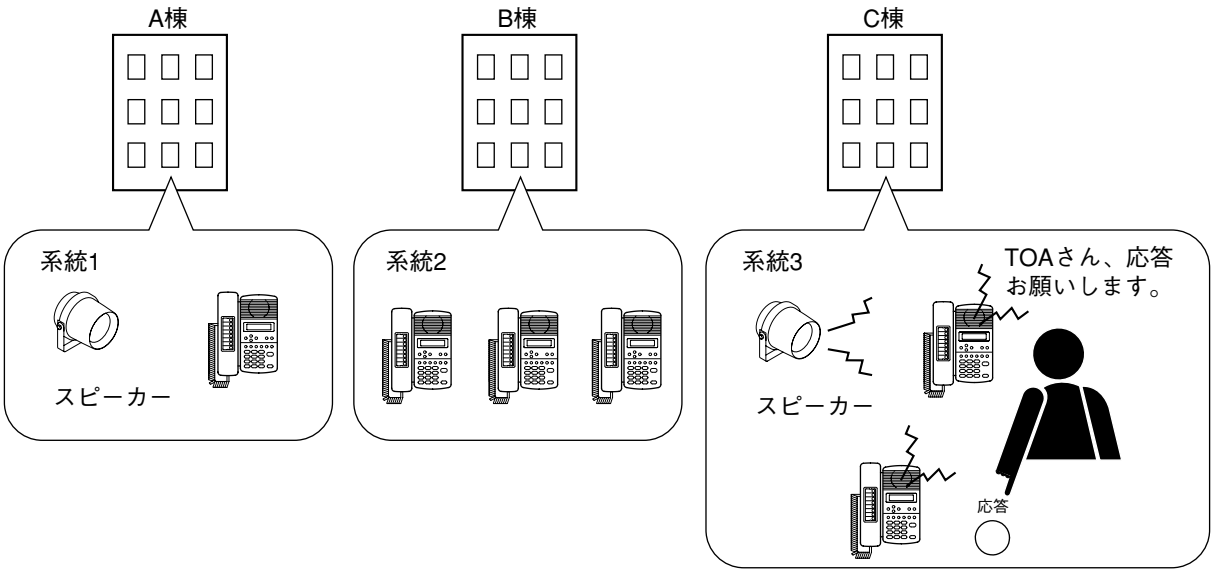
● 自動応答

ページング応答操作をすると、操作端末が最後に受信したページング系統に放送した端末に応答します。

[操作のしかた]

ページング応答キーを押す。

その端末が最後に受信したページング呼び出し端末と通話ができます。



※ 各系統は独立していますので、ページング呼び出しが聞こえた端末から応答操作をすれば、通話できます。

● 系統番号指定応答

ページング応答操作をすると、指定した系統へ最後に放送した端末に応答します。
ページング呼び出し時に、どの系統へ応答すればよいのかを知らせておく必要があります。

［操作のしかた］

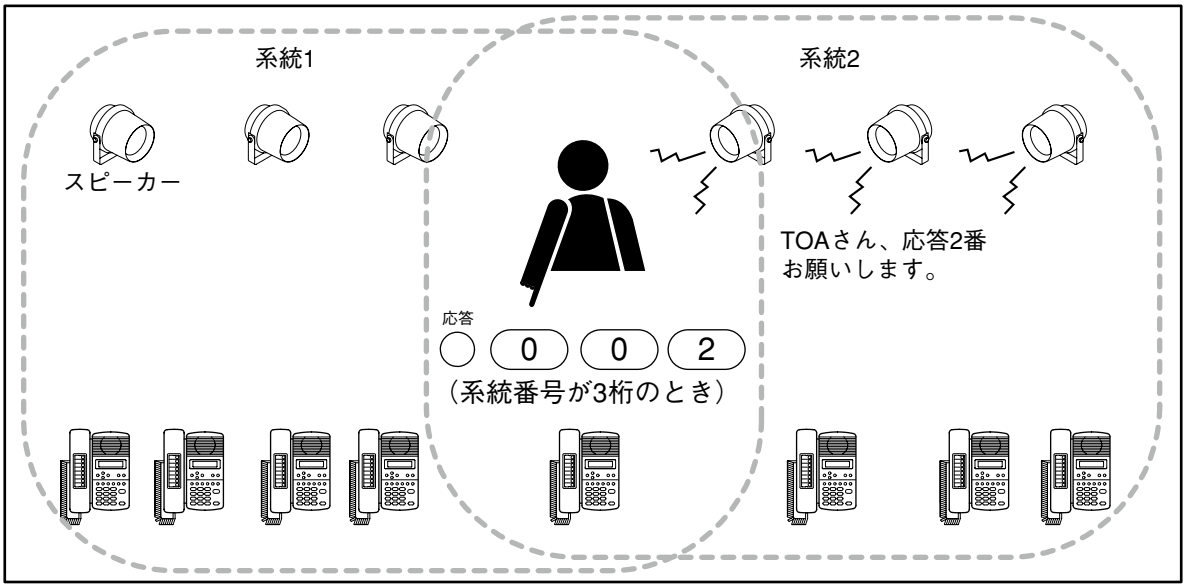
ページング応答キーを押してから、放送された系統番号を押す。

ご注意

系統番号は、N-8000 設定ソフトウェアで設定された桁数（1 ～ 3）に合わせて入力してください。

その系統へ最後に放送した端末と通話ができます。

［例］



応答操作ができる端末は次のとおりです。

- 呼び出された系統の端末
- 呼び出された系統の端末および拡声ページング出力と同じ交換機に接続している端末

SX-2000 システムへの放送（N-8600MS のみ、SX-200IP 使用時のみ）

■ ゾーン選択放送

SX-2000 システムのエリア（ゾーン、ゾーンのパターン*1）へ放送することができます。
端末ごとに、あらかじめ制限時間（1 ～ 20 分で 1 分単位）を決めておくと、放送時間を制限できます。

*1 複数のゾーンをグループにしたもの

※ ゾーンのパターンの設定は N-8000 設定ソフトウェアで行います。SX-2000 設定ソフトウェアで行った出力ゾーンパターンの設定をインポートすることもできます。（☞ P. 5-80）
※ 制限時間（Time out）の設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-75）

1 ページング呼び出しキーを押す。

2 SX-2000 システムのゾーンを選択する。

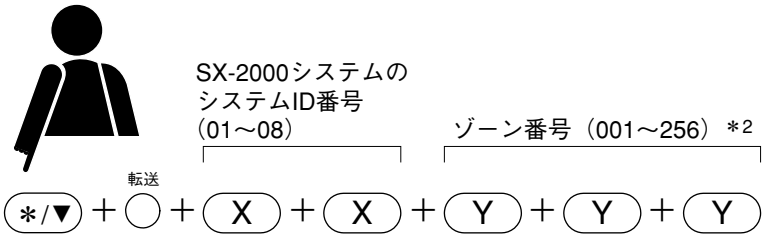
手順 2-1 または 2-2 の操作を繰り返して、複数のゾーンまたはゾーンのパターンを続けて選択することができます。

ご注意

ゾーンを選択するときのダイヤルの最大桁数は 380 桁です。

2-1 ゾーンを選択するとき

以下のキーを順番に押してください。

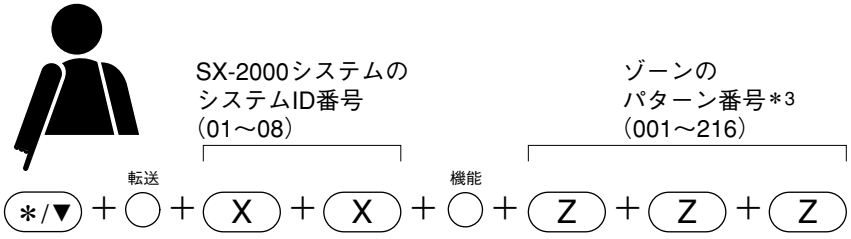


*2 ゾーン番号は次のようになります。

ゾーン番号	SX-2000AO の機器番号	SX-2000AO の音声出力端子番号
001	1	1
002	1	2
⋮	⋮	⋮
008	1	8
009	2	1
⋮	⋮	⋮
256	32	8

2-2 ゾーンのパターンを選択するとき

以下のキーを順番に押してください。



*3 N-8000 設定ソフトウェアで設定したパターン番号

3 ［＃ / ▲］キーを押す。

チャイム音が、選択されたゾーンに流れます。

4 ハンドセットを置いたまま、あるいは持ち上げて呼び出し放送をする。

5 クリアキーを押すか、あるいはハンドセットを置く。

チャイム音が選択されたゾーンに流れた後、放送が終了します。

※ SX-2000 システムのシステム ID の設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-31）
※ 設定により、チャイム音なしにすることもできます。（☞ P. 5-75）

■ 業務放送

SX-2000 システムで設定された業務放送パターン*１ を起動することができます。

*１ 放送の音源、出力ゾーンなどをあらかじめ設定したもの。詳しくは SX-2000 シリーズのソフトウェア取扱説明書をお読みください。
N-8000 システムでは、N-8000 設定ソフトウェアにより、SX-2000 システムの設定をインポートし、制御入出力パターンとして使います。（☞ P. 5-80）

ご注意

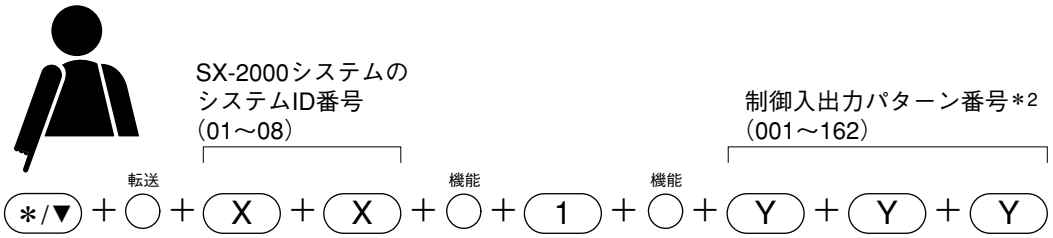
N-8000 システムの端末から起動できる SX-2000 システムの業務パターン放送は、SX-2000 設定ソフトウェアにおいて、各機器の制御入力のイベントで「業務パターン放送（Level）」と設定されているものに限ります。

● 起動のしかた

1 **機能キーを押す。**

2 **業務放送パターンを起動する機能に設定された制御入出力パターンを選択する。**

以下のキーを順番に押してください。



*２ N-8000 設定ソフトウェアで設定したパターン番号

上記の操作を繰り返して、複数の制御入出力パターンを続けて選択することができます。

3 **［＃ / ▲］キーを押す。**

設定された業務放送パターンが選択され、起動します。

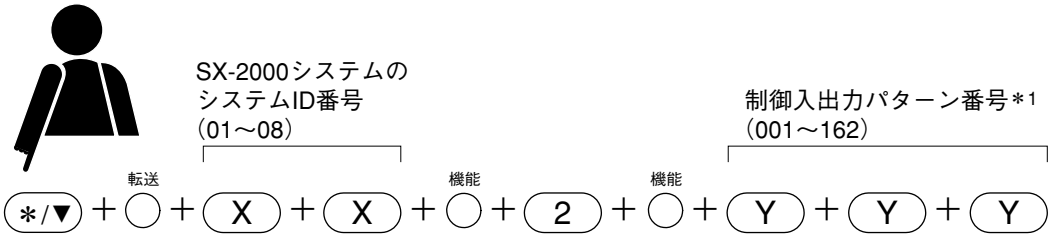
※ SX-2000 システムのシステム ID の設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-31）

● 終了のしかた

1 機能キーを押す。

2 業務放送パターンを起動する機能に設定された制御入出力パターンを選択する。

以下のキーを順番に押してください。



*1 N-8000 設定ソフトウェアで設定したパターン番号

上記の操作を繰り返して、複数の制御入出力パターンを続けて選択することができます。

3 ［＃ / ▲］キーを押す。

設定された業務放送パターンが選択され、終了します。

※ SX-2000 システムのシステム ID の設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（ ☞ P. 5-31）

■ BGM 放送

SX-2000 システムで設定された BGM パターン*2 を起動することができます。

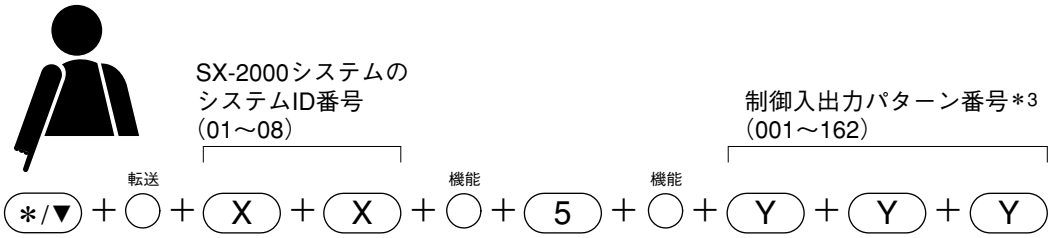
*2 BGM 放送の音源、出力ゾーンなどをあらかじめ設定したもの。詳しくは SX-2000 シリーズのソフトウェア取扱説明書をお読みください。

● 起動のしかた

1 機能キーを押す。

2 BGM パターンを起動する機能に設定された制御入出力パターンを選択する。

以下のキーを順番に押してください。



*3 N-8000 設定ソフトウェアで設定したパターン番号

上記の操作を繰り返して、複数の制御入出力パターンを続けて選択することができます。

3 ［＃ / ▲］キーを押す。

設定された BGM パターンが選択され、起動します。（他の BGM が放送されているときは、放送中の BGM は終了し、押したキーに設定された BGM パターンに変更されます。）

● 終了のしかた

1 機能キーを押す。

2 BGM パターン終了の機能に設定された制御入出力パターンを選択する。

SX-2000システムの
システムID番号
（01～08）

制御入出力パターン番号＊
（001～162）

転送　　機能　　機能

＊/▼ ＋ ○ ＋ X ＋ X ＋ ○ ＋ 5 ＋ ○ ＋ Y ＋ Y ＋ Y

＊ N-8000 設定ソフトウェアで設定したパターン番号

上記の操作を繰り返して、複数の制御入出力パターンを続けて選択することができます。

3 ［＃ / ▲］キーを押す。

BGM パターンが終了します。

※ SX-2000 システムのシステム ID の設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-31）

■ 制御出力起動

SX-2000 システムの制御出力を起動することができます。

● 制御出力の起動のしかた

1 **機能キーを押す。**

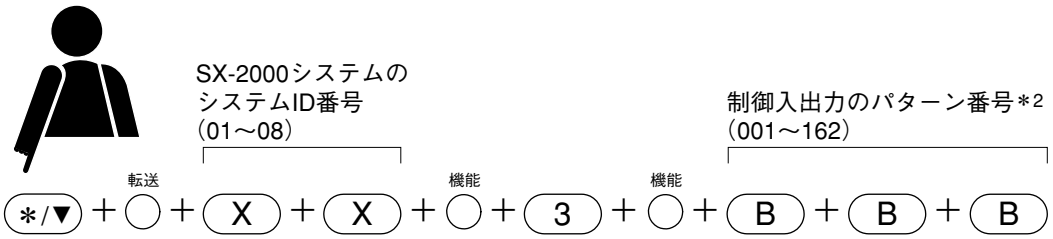
2 **制御出力の機能に設定された制御入出力のパターンを選択する。**

以下のキーを順番に押してください。
以下の操作を繰り返して、制御入出力パターン*1 を続けて選択することができます。

*1 制御入出力パターンは N-8000 設定ソフトウェアで設定します。SX-2000 システムの制御出力パターン設定をインポートするか、SX-2000 システムの制御出力端子を指定します。（☞ P. 5-80）

ご注意

制御出力を選択するときのダイヤルの最大桁数は 380 桁です。



*2 N-8000 設定ソフトウェアで設定したパターン番号

3 **［＃ / ▲］キーを押す。**

制御出力が起動します。

※ SX-2000 システムのシステム ID の設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-31）

● 制御出力の停止のしかた

1 機能キーを押す。

2 制御出力の機能に設定された制御入出力のパターンを選択する。

以下のキーを順番に押してください。
以下の操作を繰り返して、制御入出力パターン*1 を続けて選択することができます。

*1 制御入出力パターンは N-8000 設定ソフトウェアで設定します。SX-2000 システムの制御出力パターン設定をインポートするか、SX-2000 システムの制御出力端子を指定します。（☞ P. 5-80）

ご注意

制御出力を選択するときのダイヤルの最大桁数は 380 桁です。

SX-2000システムの
システムID番号
（01～08）

制御入出力のパターン番号*2
（001～162）

転送　　機能　　機能

＊/▼ ＋ ○ ＋ X ＋ X ＋ ○ ＋ 4 ＋ ○ ＋ B ＋ B ＋ B

*2 N-8000 設定ソフトウェアで設定したパターン番号

3 [＃/▲] キーを押す。

制御出力が停止します。

※ SX-2000 システムのシステム ID の設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-31）

■ 組み合わせ起動

● ゾーン選択放送と制御出力パターンの起動を同時に行う

SX-2000 システムのゾーン（ゾーン、ゾーンのパターン*1）への放送と、SX-2000 システムの制御出力の起動を同時に行うことができます。
端末ごとに、あらかじめ制限時間（1 ～ 20 分で 1 分単位）を決めておくと、放送時間を制限できます。

*1 複数のゾーンをグループにしたもの

※ ゾーンのパターンの設定は N-8000 設定ソフトウェアで行います。SX-2000 設定ソフトウェアで行った出力ゾーンパターンの設定をインポートすることもできます。（☞ P. 5-80）
※ 制限時間（Time out）の設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-75）

1 ページング呼び出しキーを押す。

2 SX-2000 システムのゾーンを選択する。

手順 2-1 または 2-2 の操作を繰り返して、複数のゾーンまたはゾーンのパターンを続けて選択することができます。

ご注意

ゾーンを選択するときのダイヤルの最大桁数は 380 桁です。

2-1 SX-2000 システムのゾーンを選択するとき

以下のキーを順番に押してください。

SX-2000システムの
システムID番号
（01～08）

ゾーン番号（001～256）*2

転送

＊/▼ ＋ ○ ＋ X ＋ X ＋ Y ＋ Y ＋ Y

*2 ゾーン番号は次のようになります。

ゾーン番号	SX-2000AO の機器番号	SX-2000AO の音声出力端子番号
001	1	1
002	1	2
⋮	⋮	⋮
008	1	8
009	2	1
⋮	⋮	⋮
256	32	8

2-2 SX-2000 システムのゾーンのパターンを選択するとき

以下のキーを順番に押してください。

SX-2000システムの
システムID番号
（01～08）

ゾーンの
パターン番号*3
（001～216）

転送　　機能

＊/▼ ＋ ○ ＋ X ＋ X ＋ ○ ＋ Z ＋ Z ＋ Z

*3 N-8000 設定ソフトウェアで設定したパターン番号

3 制御出力の機能に設定された制御入出力のパターンを選択する。

以下のキーを順番に押してください。

SX-2000システムの
システムID番号
（01～08）

制御入出力のパターン番号*4
（001～162）

転送　　機能　　機能

＊/▼ ＋ ○ ＋ X ＋ X ＋ ○ ＋ 3 ＋ ○ ＋ B ＋ B ＋ B

*4 N-8000 設定ソフトウェアで設定したパターン番号

この操作を繰り返して、複数の制御入出力のパターンを続けて選択することができます。

4 ［＃／▲］キーを押す。

確認音が鳴った後、チャイム音が選択されたゾーンに流れます。
選択した制御出力パターンに設定された制御出力が起動します。

5 ハンドセットを置いたまま、あるいは持ち上げて呼び出し放送をする。

6 クリアキーを押すか、あるいはハンドセットを置く。

チャイム音が選択されたゾーンに流れた後、放送が終了します。
放送が終了すると、放送と同時に起動した制御出力も終了します。

※ SX-2000 システムのシステム ID の設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-31）

● ページング呼び出し、ゾーン選択放送、制御出力パターンの起動を同時に行う

N-8000 システムのエリア（ページング系統、ページング系統パターン*1）への呼び出し放送、SX-2000 システムのゾーン（ゾーン、ゾーンのパターン*2）への放送、および SX-2000 システムの制御出力パターンの起動を同時に行うことができます。
端末ごとに、あらかじめ制限時間（10 ～ 990 秒で 10 秒単位または 1 ～ 20 分で 1 分単位）を決めておくと、放送時間を制限できます。

*1 複数のページング系統をグループにしたもの
*2 複数のゾーンをグループにしたもの

※ エリアおよび制限時間（Time out）の設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-123、5-66、5-75）
※ ゾーンのパターンの設定は N-8000 設定ソフトウェアで行います。SX-2000 設定ソフトウェアで行った出力ゾーンパターンの設定をインポートすることもできます。（☞ P. 5-80）

メ　モ

N-8000 システムのページング呼び出しと SX-2000 システムのゾーン選択放送を同時に行うときは、両方とも、ページング予鈴音やチャイム音などについて、同じ動作になります。
N-8000 システムと SX-2000 システムのいずれの設定に従うかは、N-8000 設定ソフトウェアの優先設定（☞ P. 5-76）で決めておきます。
優先設定による動作は下表のようになります。

優先設定	動作
N-8000	ページング呼び出し、ゾーン選択放送ともに、N-8000 システムのページング予鈴音、ページング遅延時間、ページング時間制限の設定に従って動作します。 SX-2000 システム側へもチャイム音ではなく、ページング予鈴音が流れます。
SX-2000	ページング呼び出し、ゾーン選択放送ともに、SX-2000 システムのチャイム、待ち時間、Time out の設定に従って動作します。 N-8000 システム側へもページング予鈴音ではなく、チャイム音が流れます。

N-8000 システムへはページング予鈴音を流し、SX-2000 システムへはチャイム音を流すというように、それぞれの設定で動作させることはできません。

［操作のしかた］

1 ページング呼び出しキーを押す。

2 N-8000 システムのページング系統、SX-2000 システムのゾーンを選択する。

手順 2-1 ～ 2-4 の操作を繰り返して、複数の系統、系統のパターン、ゾーン、またはゾーンのパターンを続けて選択することができます。

ご注意

ページング系統、ゾーンを選択するときのダイヤルの最大桁数は 380 桁です。

2-1 N-8000 システムの系統を選択するとき

以下のキーを順番に押してください。

ページング系統番号
（001～192）

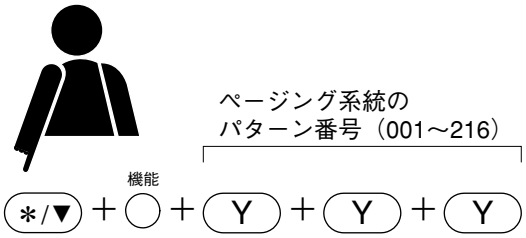
（＊/▼）＋（X）＋（X）＋（X）

ご注意

系統番号は、N-8000 設定ソフトウェアで設定された桁数（1 ～ 3）に合わせて入力してください。

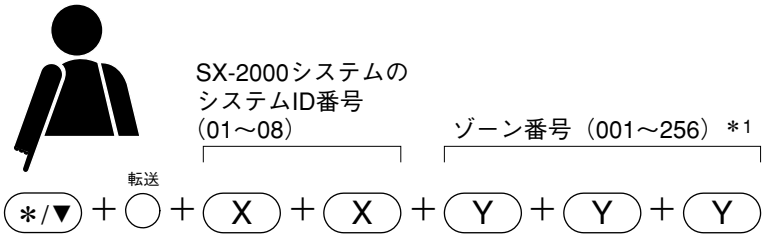
2-2 N-8000 システムの系統のパターンを選択するとき

以下のキーを順番に押してください。



2-3 SX-2000 システムのゾーンを選択するとき

以下のキーを順番に押してください。

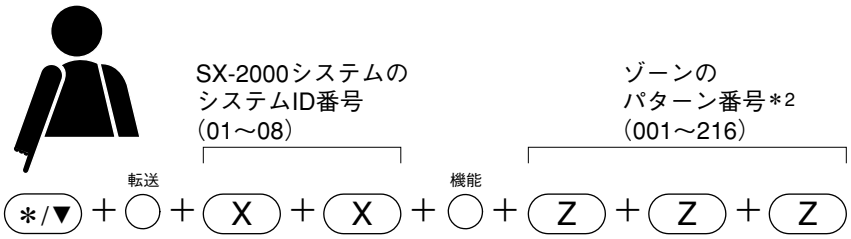


＊1 ゾーン番号は次のようになります。

ゾーン番号	SX-2000AO の機器番号	SX-2000AO の音声出力端子番号
001	1	1
002	1	2
⋮	⋮	⋮
008	1	8
009	2	1
⋮	⋮	⋮
256	32	8

2-4 SX-2000 システムのゾーンのパターンを選択するとき

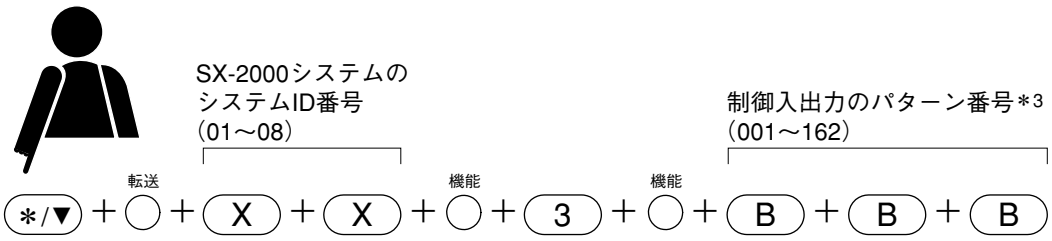
以下のキーを順番に押してください。



＊2 N-8000 設定ソフトウェアで設定したパターン番号

3 制御出力の機能に設定された制御入出力パターンを選択する。

以下のキーを順番に押してください。



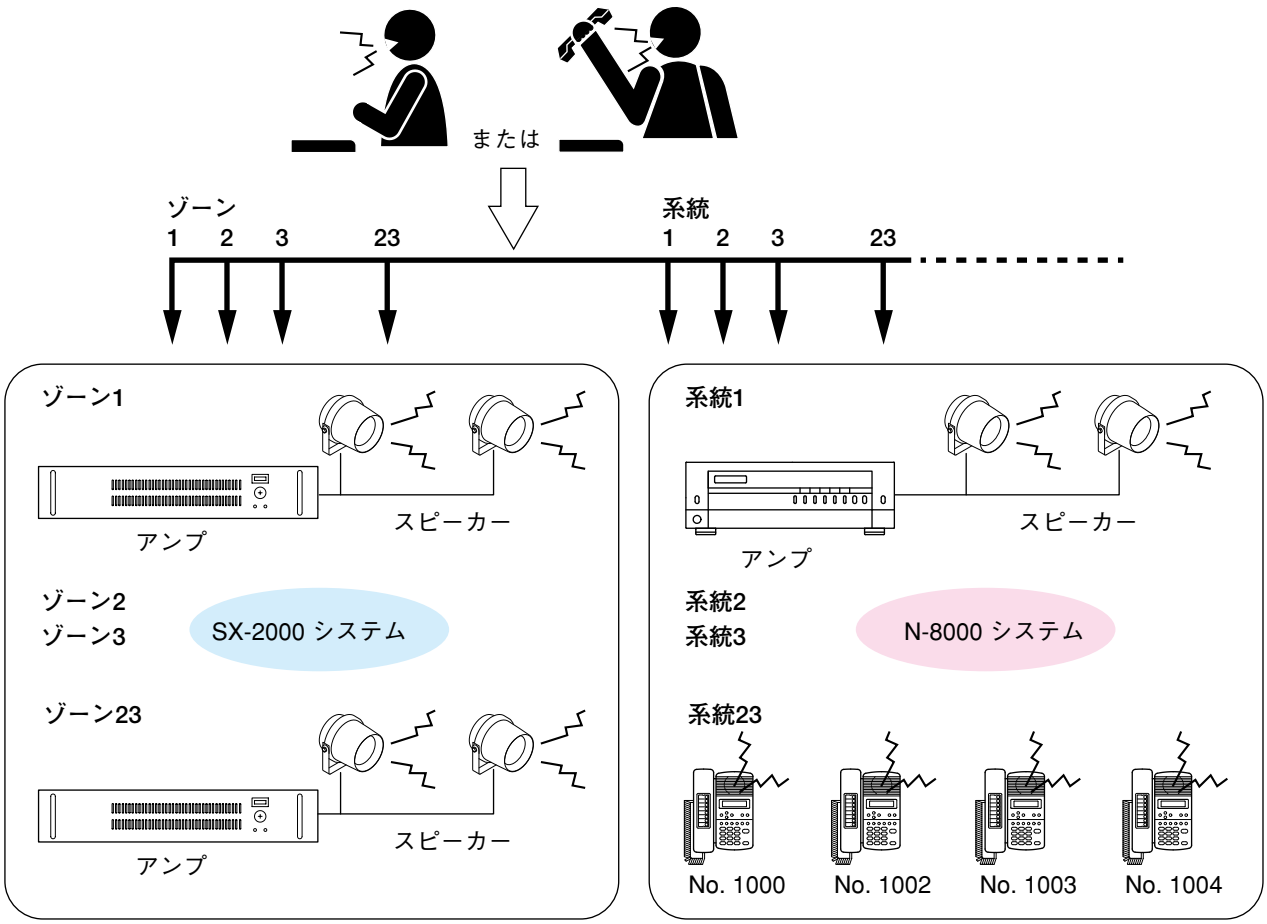
＊3 N-8000 設定ソフトウェアで設定したパターン番号

この操作を繰り返して、複数の制御入出力のパターンを続けて選択することができます。

4 [＃/▲] キーを押す。

確認音が鳴った後、ページング予鈴音またはチャイム音が、選択されたゾーンに流れます。
選択した制御入出力パターンに設定された制御出力が起動します。

5 ハンドセットを置いたまま、あるいは持ち上げて呼び出し放送をする。



6 クリアキーを押すか、あるいはハンドセットを置く。

放送が終了します。
放送が終了すると、放送と同時に起動した制御出力も終了します。

※ SX-2000 システムのシステム ID の設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-31）

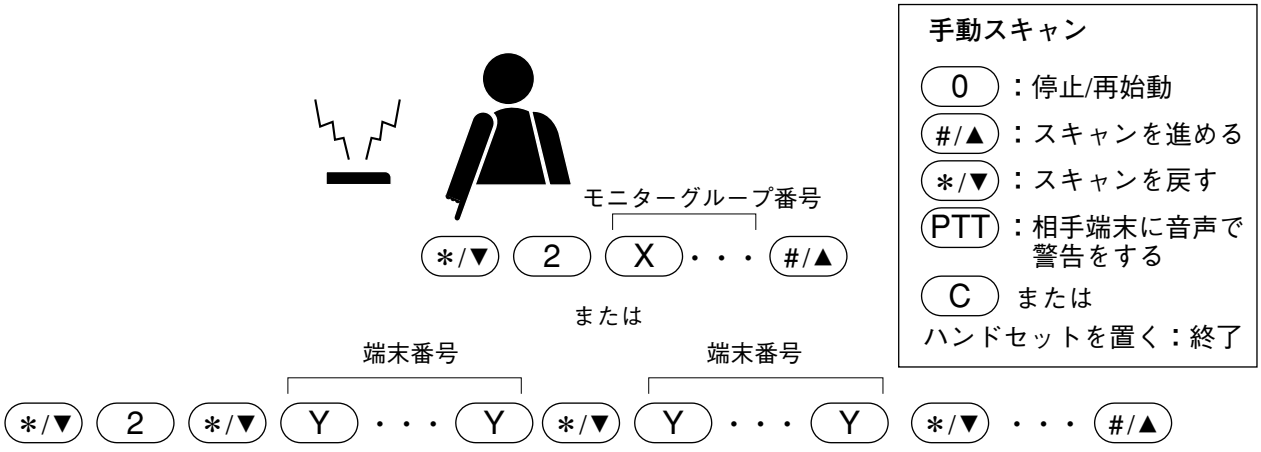
その他の機能と操作のしかた

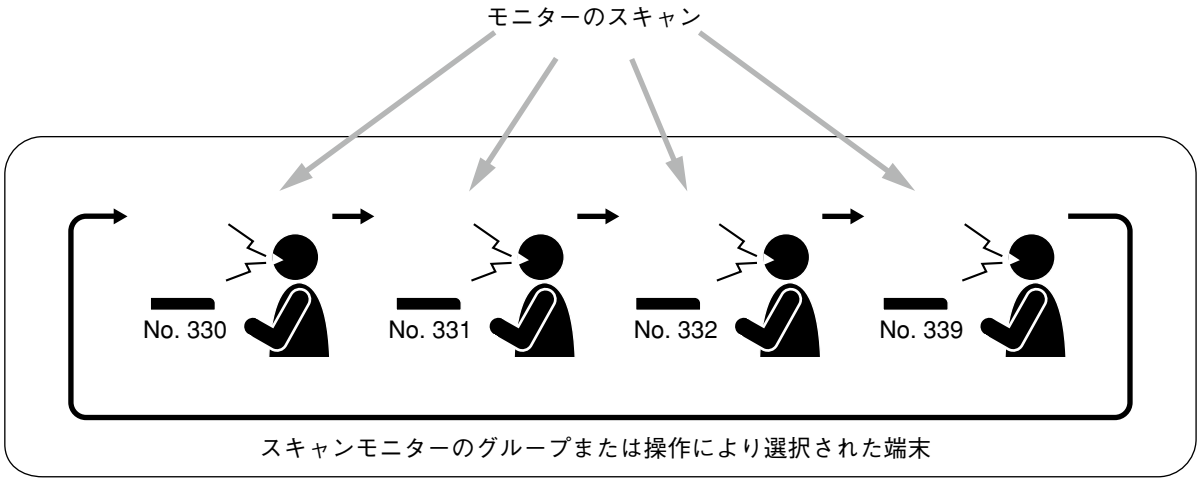
■ スキャンモニター

端末から任意の複数端末の周囲音声をモニターすることができます。
モニターされる端末は、あらかじめモニターグループとして登録しておくか、またはその都度端末番号を指定して選択することができます。
モニターされる端末は、登録された順序または選択された順序にしたがって、一定時間で切り換わります。
モニター端末から手動で制御することもできます。
1 つのモニターグループには最大 16 台の端末を登録できます。
1 台の端末から最大 4 グループ（最大 64 台の端末）を順次モニターできます。
操作により選択できる端末は最大 16 台です。

※ モニターグループ、スキャン時間、およびモニターされる端末の状態の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-72、5-87）

※ 通話中など、使用中の端末はスキップされ、モニターされません。プライバシー状態の RS-140、N-8610RM もスキップされます。





モニターされる端末の動作は、あらかじめ N-8000 設定ソフトウェアで次のいずれかに設定されています。

[表示なし]
モニター中も待ち受け状態（状態表示灯が消灯）のままです。
[表示あり]
モニター中は状態表示灯が点灯します。
[表示＋モニター音]
モニター開始時に開始音（キータッチ音）が鳴り、モニター中は状態表示灯が点灯します。

※ ただし、RS-140/180/480 の場合は、表示ありに設定しても、状態表示灯は点灯しません。

［操作のしかた］

1 自動スキャンを開始する。

1-1 あらかじめ登録された端末をモニターする場合

［＊/▼］［2］キーを押し、モニターグループ番号（1 ～ 4）を押してから、［＃/▲］キーを押す。

※ 複数のグループをモニターするときは、グループ番号を連続して押してください。

1-2 端末番号を指定してモニターする場合

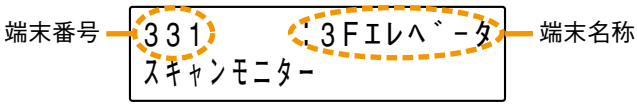
［＊/▼］［2］［＊/▼］キーを押し、端末番号を押す。

続けて端末を選択するときは［＊/▼］キーを押す。

端末の選択を終えるときは［＃/▲］キーを押す。

- スキャンモニターが始まり、手動で止めるまで、設定した順序または選択した順序と設定した時間間隔で自動的に端末グループ内を循環してモニターします。
- モニターされている端末の番号と名称がモニターしている端末の液晶画面に表示されます。（N-8000MS/8500MS/8600MS のみ）

［331 の端末をモニターしている例］



- ハンドセットを使ってもモニターできます。

2 手動でスキャンの動作を操作する。

2-1 自動スキャンの停止および再開

特定の端末を連続してモニターするには、その端末のところで、［0］キーを押して自動スキャンの動作を止めてください。もう一度［0］キーを押すと、引き続き自動スキャン動作が再開します。

2-2 スキャンを進める

［＃/▲］キーを押すと、モニターする端末を 1 台進めます。

2-3 スキャンを戻す

［＊/▼］キーを押すと、モニターする端末を 1 台戻します。

2-4 相手の端末に音声で警告をする

相手端末に音声で警告をするには、PTT キーを押してください。

3 スキャンモニターの終了

スキャンモニターを終了させるには、クリアキーを押すか、ハンドセットを置いてください。

■ 3 者会議

他のマスター端末を順次呼び出して、3 者によるハンドセットでの同時通話会議ができます。
会議を行うための操作は、待ち受け状態から会議を招集する方法と、2 者通話状態から 3 者目を招集する方法の 2 種類があります。

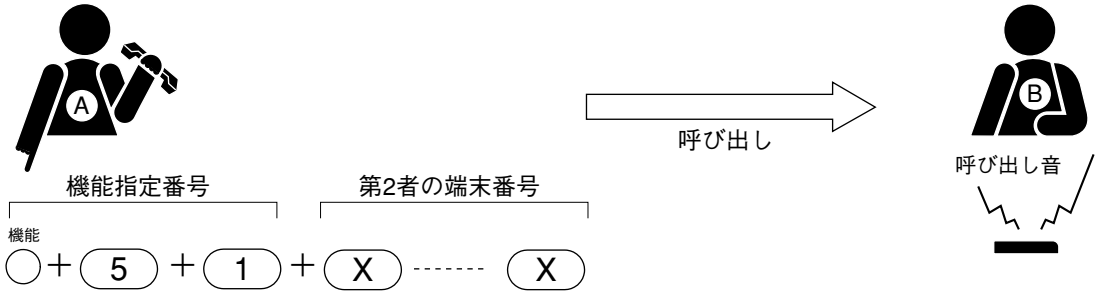
ご注意

N-8010EX/8400RS に接続されたマスター端末、IP 緊急マスター端末 N-8616MS、IP リモートマイク端末 N-8610RM、N-8000CO に接続された局線、および N-8000AL に接続された電話機は会議に参加できません。

● 3 者会議を行う方法

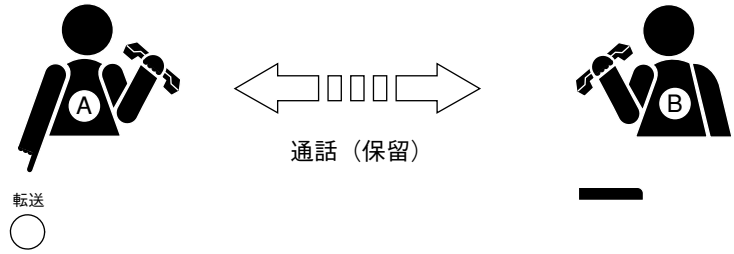
1 **機能キーを押し、次に［5］［1］キーを押してから、招集したい相手（第 2 者）の端末番号をダイヤルする。**

第 2 者が応答すると、第 1 者と第 2 者との間で通話を始めることができます。



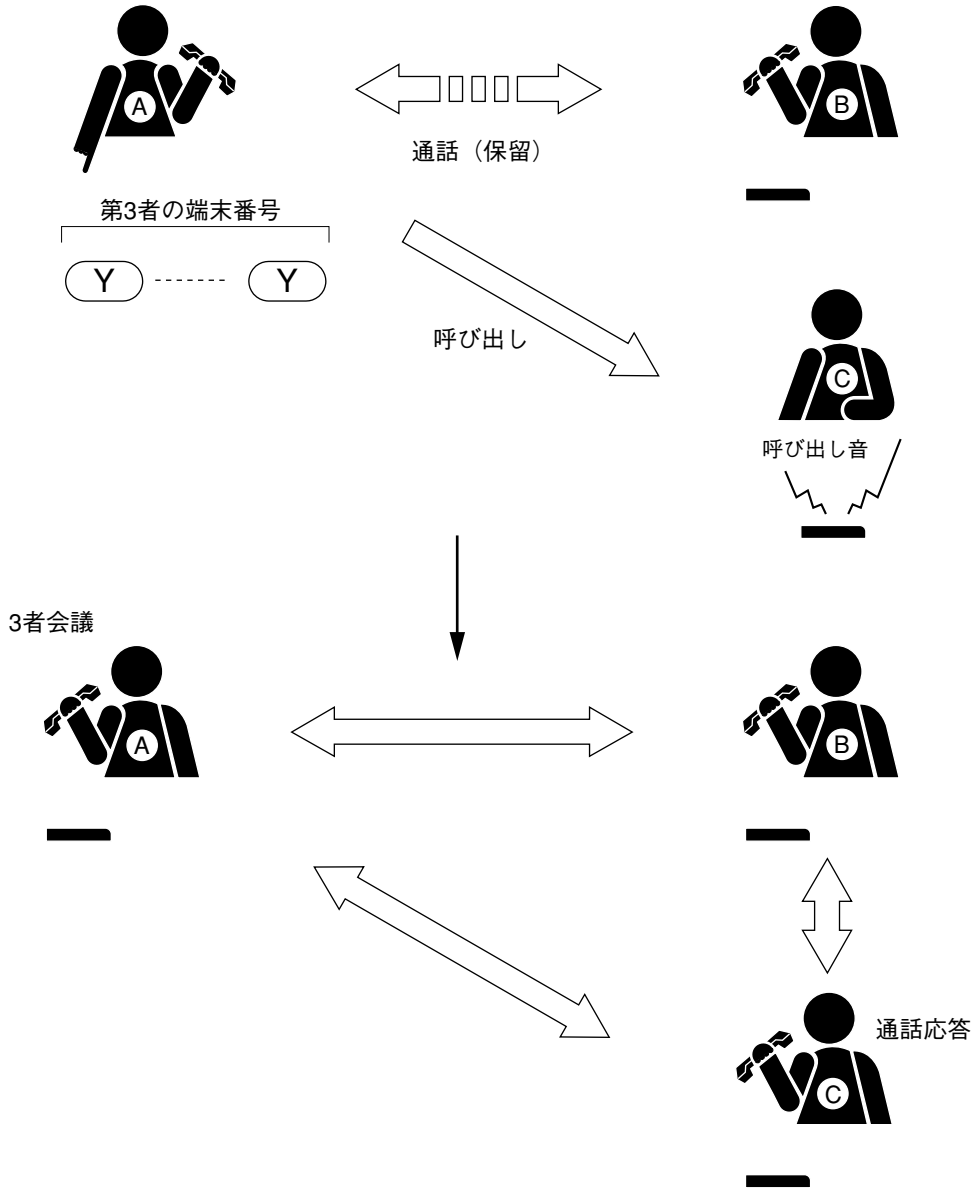
2 **第 2 者が応答した後、転送キーを押す。**

第 2 者が保留されます。



3 第３者の端末番号をダイヤルする。

第３者が応答すると、第２者が保留状態から解除され、３者間で通話できます。



ご注意

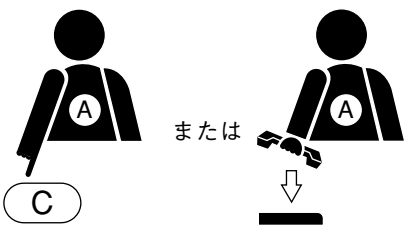
第１者、第２者ともハンドセットを持ち上げていないと、第３者の端末番号をダイヤルした時点でエラー音が鳴り、通話に戻ります。

4 会議を招集した端末のクリアキーを押すか、あるいはハンドセットを置く。

会議が終了します。

メ　モ

招集端末以外の端末がクリアキーを押すか、ハンドセットを置くと、その端末は会議状態から抜けることができます。
招集端末とは、第３者を呼び出した端末です。

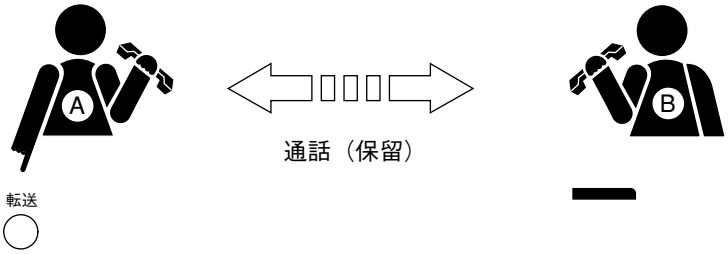


※ 操作の詳細については、P. 2-50「3 者会議の操作の詳細」をお読みください。

● ２者間通話から３者会議を始める方法

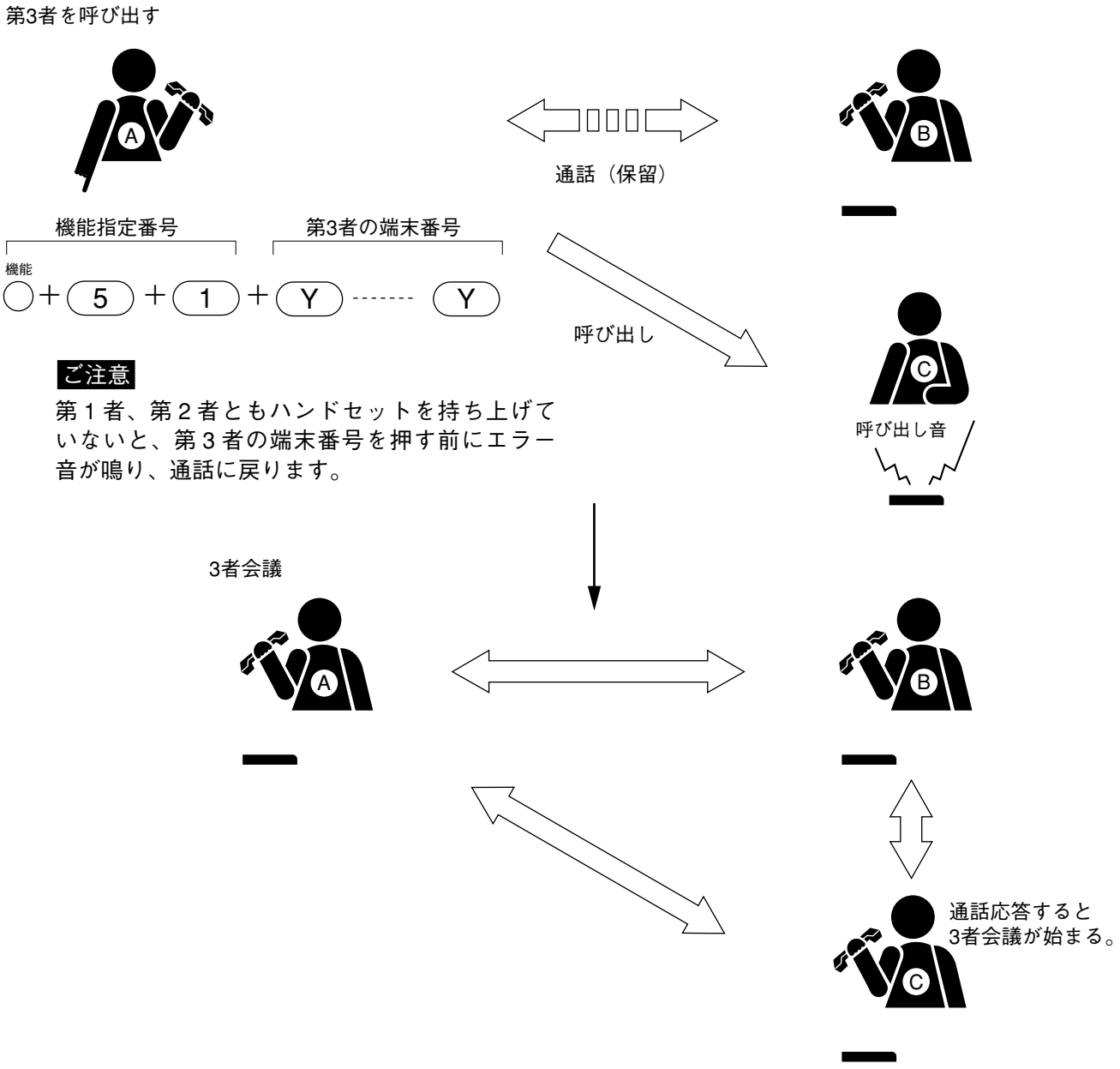
1 **第２者につながっているときに、転送キーを押す。**

第２者が保留されます。



2 **機能キーを押し、次に［5］［1］キーを押してから、招集したい相手（第３者）の端末番号をダイヤルする。**

第３者が応答すると、第２者が保留状態から解除され、３者間で通話できます。



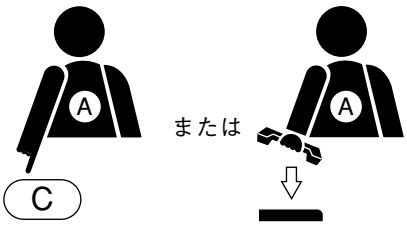
ご注意

第１者、第２者ともハンドセットを持ち上げていないと、第３者の端末番号を押す前にエラー音が鳴り、通話に戻ります。

3 **会議を招集した端末のクリアキーを押すか、あるいはハンドセットを置く。**
会議が終了します。

メ　モ

招集端末以外の端末がクリアキーを押すか、ハンドセットを置くと、その端末は会議状態から抜けることができます。
招集端末とは、第３者を呼び出した端末です。



※ 操作の詳細については、次項「3 者会議の操作の詳細」をお読みください。

● 3 者会議の操作の詳細

(1) 会議に参加できない端末（ドア端末、サブ端末、N-8010EX/8400RS に接続されたマスター端末、IP 緊急マスター端末 N-8616MS、IP リモートマイク端末 N-8610RM、N-8000CO に接続された局線、または N-8000AL に接続された電話機）の番号をダイヤルした場合は、エラー音が流れた後、そのダイヤルをする直前の状態に戻ります。

(2) 呼び出されたマスター端末がハンズフリーで応答すると、発呼者の声が端末スピーカーから聞こえます（ハンズフリー音声受信モード）。話すときにはハンドセットを持ち上げてください。

(3) 呼び出されたマスター端末に不在転送機能が設定されている場合は、転送先がマスター端末のときに限り、その会議呼び出しは自動的に転送されます。それ以外のときは、その会議呼び出しは転送されません。

(4) 呼び出された第３者が通話中のときには、話中音が流れます。第３者の通話が終わり次第、自動的に発呼者につながります（キャンプオンビジー機能）。

(5) 第３者を呼び出している間にコールバック機能*1 を使うと、呼び出しは中止され、元の通話に戻ります*2。

(6) 3 者会議中に招集端末が［転送］キー＋（参加端末番号）の操作をすると、指定端末は終話して、2 者通話に戻ります。

*1 転送キーを押してください。
*2 第３者を呼び出している間にクリアキーを押すか、またはハンドセットを置くと、会議が終了します。

■ タイムシグナル（N-8000AF 使用時のみ）

タイムシグナルとは、あらかじめ設定したスケジュールに合わせて、設定したページング系統へ、設定した音源を放送する機能です。
動作モードが「タイムシグナル」に設定された音声インターフェースユニット N-8000AF からタイムシグナルを送出します。

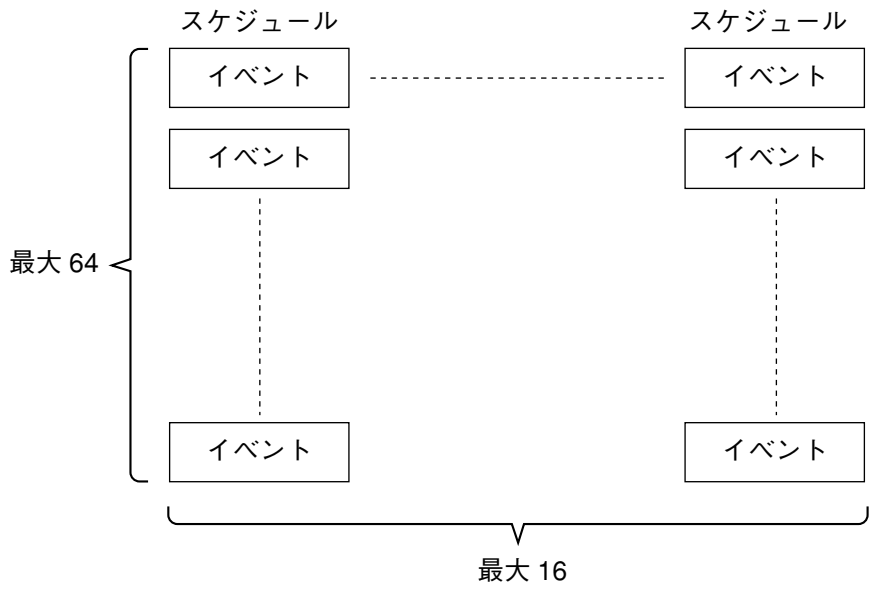
● タイムシグナルイベント

・タイムシグナルを自動起動するためには、イベントの設定が必要です。設定したイベントは、N-8000AF に記録されます。
・イベントの設定をするには、N-8000AF の動作モードを「タイムシグナル」にする必要があります。
・動作モードを「タイムシグナル」に設定できる N-8000AF はシステムで 1 台のみです。

※ タイムシグナル、イベント、スケジュールの設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。
（ ☞ P. 5-110）

［内部タイマーイベント設定］

・最大 1024 のイベントが設定できます。
・各イベントを最大 16 スケジュール（各 64 イベント以内）に分配します。



・各イベントは以下の内容で構成されます。
時刻（秒単位）、曜日（複数選択可能）、ページング系統（192 系統から最大 10 系統選択）、音源番号（0 ～ 9 から選択）、外部機器制御（あり／なし）

・音源番号の内訳は以下のとおりです。
0：無音
1：内部音源 1（トレモロ音）
2：内部音源 2（ベル音 1）
3：内部音源 3（ベル音 2）
4：内部音源 4（チャイム音 1）
5：内部音源 5（チャイム音 2）
6：外部音源 1（N-8000AF 接点出力 1 起動）
7：外部音源 2（N-8000AF 接点出力 2 起動）
8：外部音源 3（N-8000AF 接点出力 3 起動）
9：外部音源 4（N-8000AF 接点出力 4 起動）

・音源に起動時間（1 ～ 99 秒）を設定します。

[外部タイマーイベント設定]

・N-8000AF の接点入力に接続した外部タイマーからのメイク信号により、タイムシグナル放送ができます。
・外部タイマーイベントは接点入力ごと（1 ～ 8）に以下の内容で構成されます。
　ページング系統（192 系統から最大 10 系統選択）、音源番号（0 ～ 9 から選択）、外部機器制御（あり／なし）

● タイムシグナル自動起動

[動作]

・あらかじめ登録されたイベントに合わせて、時報（＝タイムシグナル）を鳴らすことができます。
・あらかじめ起動するスケジュールを設定しておきます。
　指定したスケジュールの各イベント起動時間になると、登録してあるページング系統にタイムシグナルをページングします。
・タイムシグナルを送出する N-8000AF はシステムで 1 台のみです。
・タイムシグナルの音源は N-8000AF の内部音源、または N-8000AF に接続される外部音源です。
・タイムシグナル起動に合わせて外部機器（例：ベル）を制御するための接点出力（5 ～ 8 の任意の接点出力、他の N-8000AF または N-8000MI、N-8000DI でも可）をメイクできます。
・タイムシグナル起動中に新たなイベントが発生しても無視されます。
・音源起動時間が経過すると、タイムシグナルは終了します。
・ページング時間制限は動作しません。
・無音選択かつ外部機器制御なしのときは、何も動作しません。

[起動]

タイムシグナルを自動送出するとき、以下の 2 種類の起動方法があります。

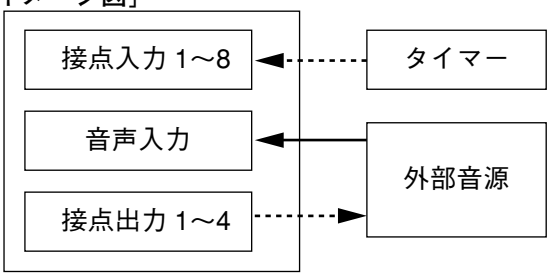
① 内部タイマーによる起動

・あらかじめ登録されたスケジュールのイベント起動時間に合わせて、タイムシグナルを開始します。
・N-8000AF の内部タイマーにより時間管理されます。
・任意のマスター端末の操作により、起動するスケジュールの変更ができます。

② 外部タイマーによる起動

・N-8000AF に接続された外部タイマーからのメイク信号により、タイムシグナルを開始します。
・外部タイマーを N-8000AF の接点入力 1 ～ 8 に接続します。
・接点入力ごとにあらかじめ登録されている外部タイマーイベントに合わせて、タイムシグナルを実行します。
・外部タイマーからのメイク信号によりタイムシグナルが開始されますが、ブレイク信号になってもタイムシグナルは終了しません。

[イメージ図]



［他の放送や通話と重なった場合の動作］

・タイムシグナルのページングが他の放送や通話と重なった場合の動作は、外部入力放送（☞ P. 2-179）と同じです。
・使用中の端末があった場合は、それ以外の端末にタイムシグナルが送出されます。

● タイムシグナルのスケジュールを変更する

任意の端末から、システムで起動するタイムシグナルのスケジュールを変更することができます。

ご注意

端末の操作で設定した内容は、1日1回（午前0時）、N-8000AF に保存されます。
保存されるまでに電源を切ると、変更前の設定内容に戻ります。

機能指定番号　　スケジュール番号（01～16）

機能 ○ ＋ 9 ＋ 0 ＋ X ＋ X （確認音）

● タイムシグナルのスケジュールを停止する

任意の端末から、システムで設定されているタイムシグナルのスケジュールを停止することができます。
スケジュールを再開するときは、スケジュール変更の操作を行ってください。

ご注意

端末の操作で設定した内容は、1日1回（午前0時）、N-8000AF に保存されます。
保存されるまでに電源を切ると、変更前の設定内容に戻ります。

機能指定番号

機能 ○ ＋ 9 ＋ 0 ＋ 0 ＋ 0 （確認音）

● タイムシグナルのスケジュールを確認する（N-8000MS/8500MS/8600MS のみ）

システムで設定されているタイムシグナルのスケジュールを確認することができます。
以下の操作をすると、液晶画面にスケジュール番号が 5 秒間表示されます。

機能指定番号

機能 ○ ＋ 9 ＋ 2 （確認音）

5秒間表示

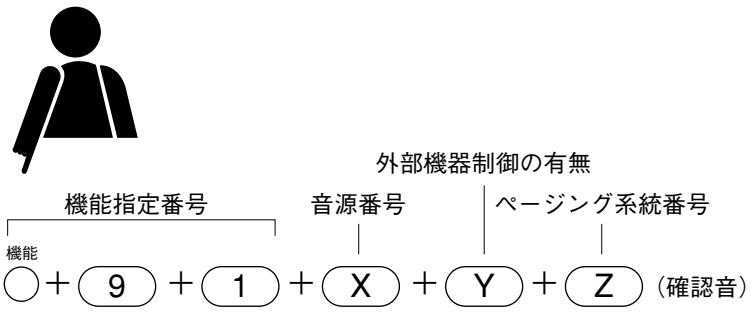
キﾄﾞｳｽｹｼﾞｭｰﾙ
No=1

● タイムシグナル手動起動

マスター端末のダイヤル操作でタイムシグナルを即時に起動できます。
音源番号、外部機器制御の有無、ページング系統を指定します。

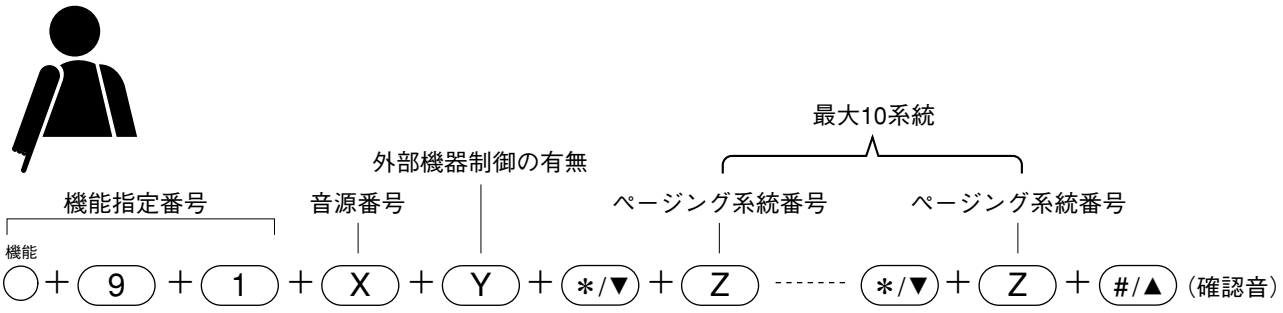
- 音源番号は「0」～「9」で指定します。
  0：無音
  1：内部音源１（トレモロ音）
  2：内部音源２（ベル音 1）
  3：内部音源３（ベル音 2）
  4：内部音源４（チャイム音 1）
  5：内部音源５（チャイム音 2）
  6：外部音源１（N-8000AF 接点出力１起動）
  7：外部音源２（N-8000AF 接点出力２起動）
  8：外部音源３（N-8000AF 接点出力３起動）
  9：外部音源４（N-8000AF 接点出力４起動）
- 外部機器制御の有無は「0」または「1」で指定します。
  外部機器制御ありに設定すると、タイムシグナルの起動に連動して、N-8000 設定ソフトウェアであらかじめ設定された外部機器を起動させることができます。
  0：外部機器制御なし
  1：外部機器制御あり
- 外部機器制御ありに設定すると、タイムシグナルの起動に合わせて外部機器（例：ベル）を制御するための接点出力（5 ～ 8 の任意の接点出力、他の N-8000AF または N-8000MI、N-8000DI でも可）をメイクできます。
- ページング系統は 192 系統から最大 10 系統を選択できます。
  N-8000 設定ソフトウェアであらかじめ設定されたページング番号桁数（1 ～ 3 桁）で指定してください。
  （例）ページング番号桁数が 3 桁に設定されているとき：「001」「025」「192」

［操作のしかた：1 系統のみにページングする場合］



確認音が鳴った後、タイムシグナルが起動します。

［操作のしかた：複数の系統にページングする場合］

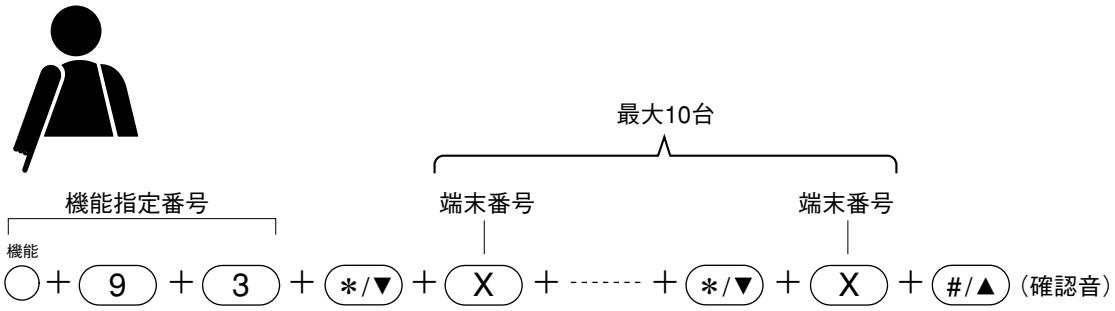


確認音が鳴った後、タイムシグナルが起動します。

● タイムシグナル一時除外

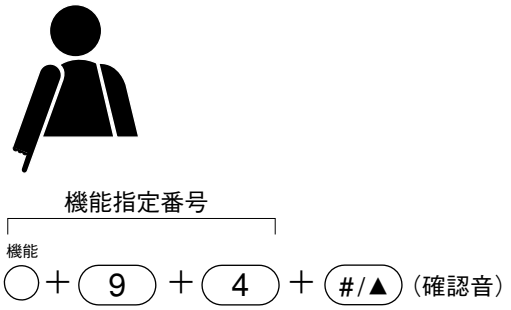
マスター端末の操作で、任意の端末をタイムシグナルのページング先から一時的に除外することができます。一度の操作で、最大 10 台の端末を除外できます。
除外の登録をすると、次に解除の操作をするまで、除外した端末にはすべてのタイムシグナルがページングされません。

［タイムシグナル一時除外：登録のしかた］



端末番号は、N-8000 設定ソフトウェアであらかじめ設定された端末番号桁数（2 ～ 6 桁）で指定してください。

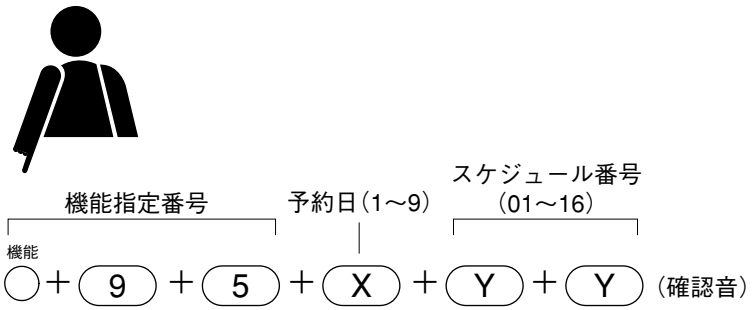
［タイムシグナル一時除外：解除のしかた］



一時除外の登録がすべて解除されます。

● タイムシグナルのスケジュール変更を予約する

任意の端末からの操作によって、システムで設定されているタイムシグナルのスケジュール変更を予約することができます。予約日は、予約の操作をする翌日（1 日後）から 9 日後までを 1 ～ 9 の番号で指定します。予約日の午前 0 時から予約されたスケジュールが実行されます。



● タイムシグナルのスケジュール予約を取り消す

任意の端末からの操作によって、システムで設定されているタイムシグナルのスケジュール予約を取り消すことができます。

機能指定番号

機能
◯＋ 9 ＋ 5 ＋ ＊/▼ （確認音）

● タイムシグナルのスケジュール予約を確認する（N-8000MS/8500MS/8600MS のみ）

任意の端末からの操作によって、システムで設定されているタイムシグナルのスケジュール予約を確認することができます。
以下の操作をすると、液晶画面に予約状況が 5 秒間表示されます。

機能指定番号

機能
◯＋ 9 ＋ 6 （確認音）

（予約のある場合）

5秒間表示

スケジュール番号　予約日までの日数

（予約のない場合）

5秒間表示

■ PBX 接続（N-8000MI 使用時のみ）

マルチインターフェースユニットを PBX の OD トランクと接続すると、N-8000 システムの端末と PBX の内線電話機の間で相互に呼び出しや通話をしたり、PBX の内線電話機からページング呼び出しなどをしたりすることができます。

ご注意

通話応答モードが「選択応答」に設定されている場合には、この機能は使えません。

● PBX の内線を呼び出す

ご注意

N-8616MS からハンズフリーで PBX の内線を呼び出すことはできません。
ハンドセットを持ち上げて呼び出してください。

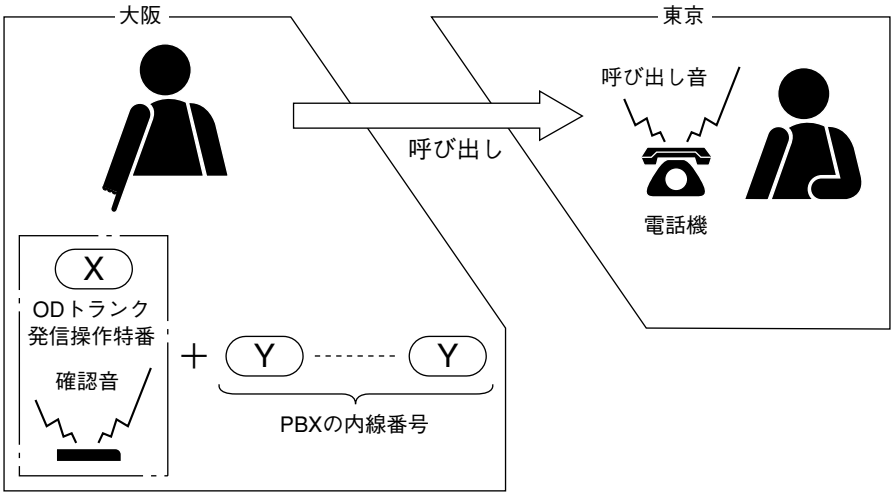
1 OD トランク発信操作特番を押す。

PBX と接続できます。

2 PBX からの発信音を確認して、PBX の内線番号をダイヤルする。

PBX の内線を呼び出します。

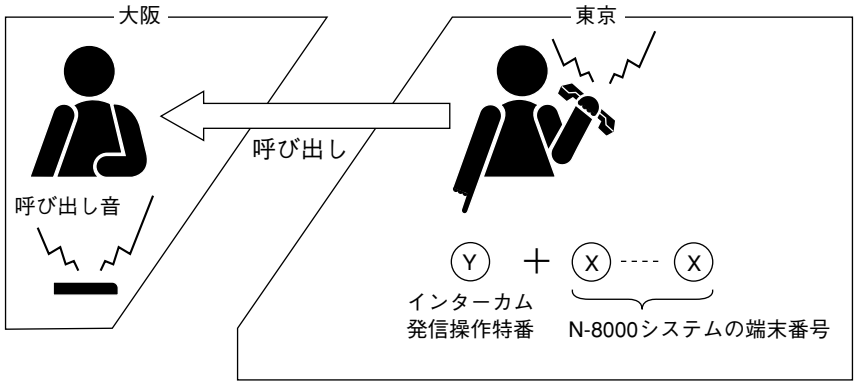
※ OD トランク発信操作特番の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（ ☞ P. 5-49）



● PBX の内線から呼び出しを受ける

PBX の内線電話機からインターカム発信操作特番と N-8000 システムの端末番号をダイヤルすると、N-8000 システムの端末を呼び出せます。
N-8000 システムの端末で PBX の内線電話から呼び出しを受けるときの方法は、N-8000 システム内の端末から呼び出されたときと同じです。

※ インターカム発信操作特番は、PBX 側で設定してください。



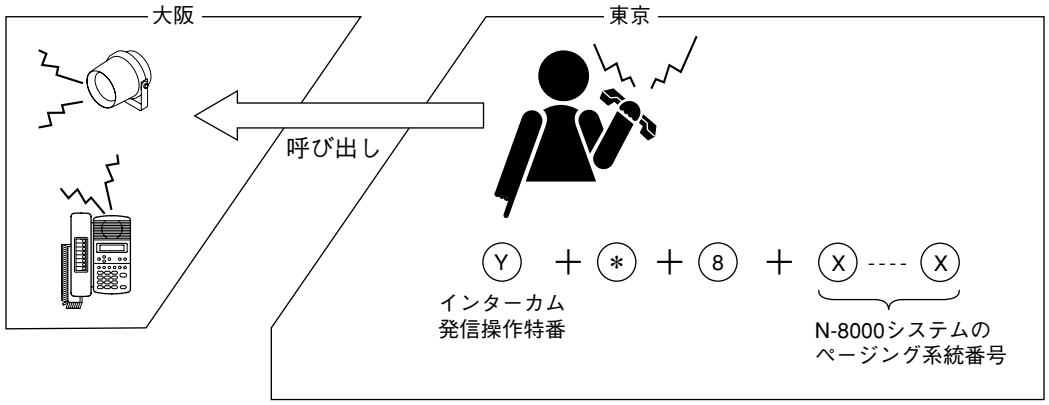
● PBX の内線からページング呼び出しを受ける

PBX の内線電話機からインターカム発信操作特番、「＊」「8」、および N-8000 システムのページング系統番号を続けてダイヤルすると、N-8000 システムへのページング呼び出しができます。
端末でページングに応答する方法は、N-8000 システム内の端末からページング呼び出しをされたときと同じです。（ただし、ページング呼び出しの放送中しか応答できません。）

ご注意

PBX の内線電話機からページング呼び出しができるのは、付属の N-8000 設定ソフトウェアで回線属性を「PB」に設定しているときのみです。（☞ P. 5-49）

※ インターカム発信操作特番は、PBX 側で設定してください。



■ 局線接続（N-8000CO 使用時のみ）

N-8000 システムに局線を接続し、マスター端末から局線を呼び出したり、局線から着信を受けたりできます。

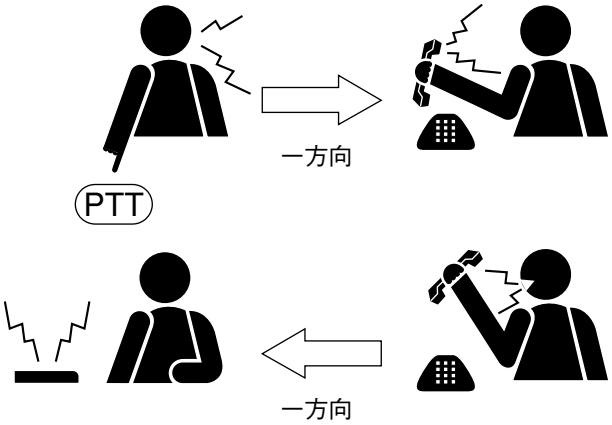
● 局線との通話のしかた

［ハンドセット通話］

ハンドセットを取り上げて相手を呼び出したり、応答したりできます。

［PTT 通話］

ハンズフリー通話中に、マスター端末の PTT キーを押すと、マスター端末側からの一方向通話になり、離すと局線側からの一方向通話になります。



● 局線を呼び出す

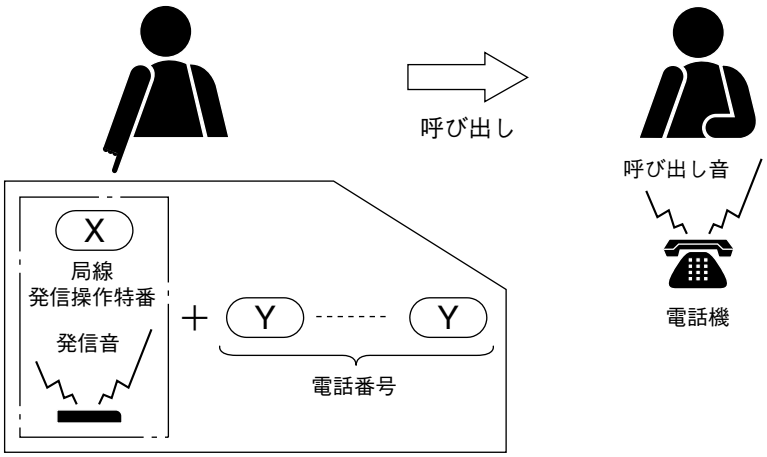
1 **局線発信操作特番を押す。**

局線と接続できます。

2 **局線からの発信音を確認して、電話番号をダイヤルする。**

局線の電話機を呼び出します。

※ 発信音が聞こえない場合は、3 秒経過した後、電話番号をダイヤルします。



※ 局線発信操作をできるように設定する必要があります。
※ 局線発信操作特番および局線発信操作の可否の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。
（☞ P. 5-93）
※ 呼び出した局線が使用中でも、同一特番の局線が空いているときは、そちらの局線を使用します。

● 局線から呼び出しを受ける

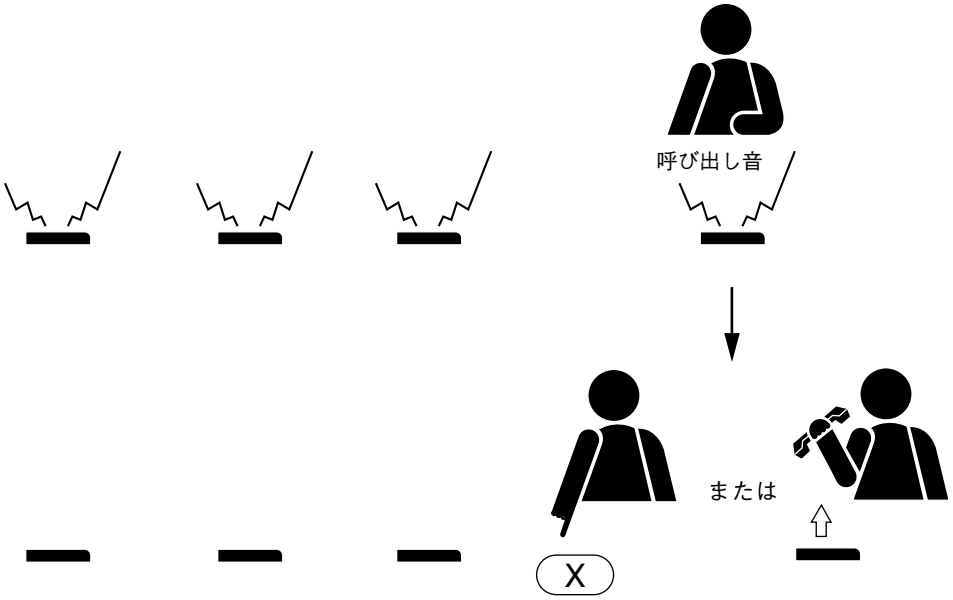
局線から着信を受ける機能には、ダイレクトインラインとダイレクトインダイヤルの２種類があります。
局線からの着信を受けたときの呼び出し音は、他の場合と異なります。（ ☞ P. 2-191「信号音一覧」をご確認ください。）

［ダイレクトインラインによる呼び出し］

局線からの着信があった場合、あらかじめ設定したマスター端末とそのメンバー端末で呼び出し音が鳴ります。
N-8000CO ごとに、呼び出すマスター端末１台を代表端末に、それ以外のマスター端末最大３台をメンバー端末として設定することができます。

※ ダイレクトインラインを着信できるように設定する必要があります。
※ ダイレクトインライン着信の可否の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（ ☞ P. 5-94）
※ ダイレクトインラインの代表端末およびメンバー端末の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（ ☞ P. 5-94）

呼び出し音が鳴ったら、「呼び出しを受ける」操作を行う。
（操作については P. 2-3 をお読みください。）
すべてのマスター端末の呼び出し音が止まり、操作したマスター端末での通話が始まります。



［ダイレクトインダイヤルによる呼び出し］

局線から、通話したい端末番号を指定して、直接呼び出すことができます。
N-8000 システムの端末でダイレクトインダイヤルで局線から呼び出しを受けるときの方法は、N-8000 システム内の端末から呼び出されたときと同じです。

ご注意

- ダイヤル間が５秒以上あれば終話されます。
- 10 秒以上ダイヤルされなければダイレクトインラインになります。

※ ダイレクトインダイヤル機能を使用可能に設定する必要があります。
※ ダイレクトインダイヤル機能の使用可否の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（ ☞ P. 5-94）

● 局線からページング呼び出しを受ける

局線からのページング呼び出しを受けることができます。

ご注意

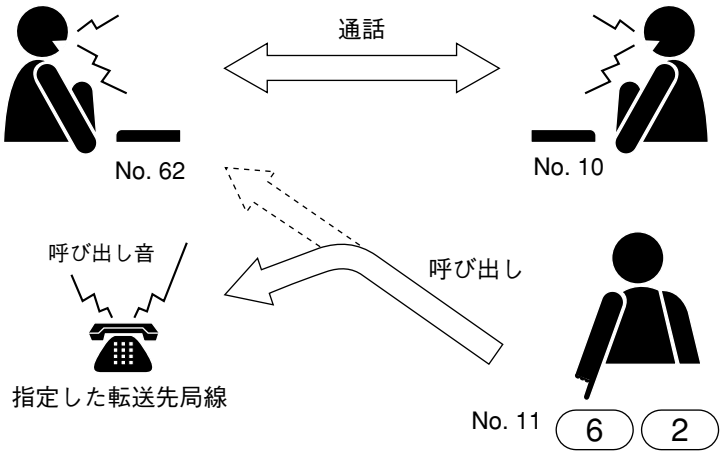
局線からページング呼び出しができるのは、付属の N-8000 設定ソフトウェアでダイレクトインダイヤル機能を使用可能に設定しているときのみです。（☞ P. 5-94）

● 局線話中転送

話中転送（☞ P. 2-18）の転送先を局線に設定することができます。
通話中からの呼び出し（転送 ☞ P. 2-16）も局線に話中転送されます。

※ 話中転送先の設定は、端末の操作（次ページ）または付属の N-8000 設定ソフトウェア（☞ P. 5-69、5-83）で行います。
※ 局線話中転送機能の有無は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで設定します。（☞ P. 5-38、5-65）
局線話中転送機能が有効になっていないと、転送先の設定はできません。
※ 局線発信操作をできるように設定する必要があります。
局線発信操作特番および局線発信操作の可否の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-93）
※ 呼び出した局線が使用中でも、同一特番の局線が空いているときは、そちらの局線を使用します。以降、その局線が話中転送先になります。

［例］通話中の端末（No. 62）にかかってきた呼び出しは、指定した局線に転送されます。



ご注意

局線からの着信に対しての転送は行われず、転送元のマスター端末が呼び出されます。

登録、消去は自端末からできます。

［登録のしかた］

機能指定番号　　発信特番（1～2桁）

機能 ○＋ 4 5 ＋ ＊/▼ ＋ X ＋ #/▲（確認音）

［消去のしかた］

機能指定番号　　自端末番号

機能 ○＋ 4 5 ＋ Y ・・・ Y ＋ #/▲（確認音）

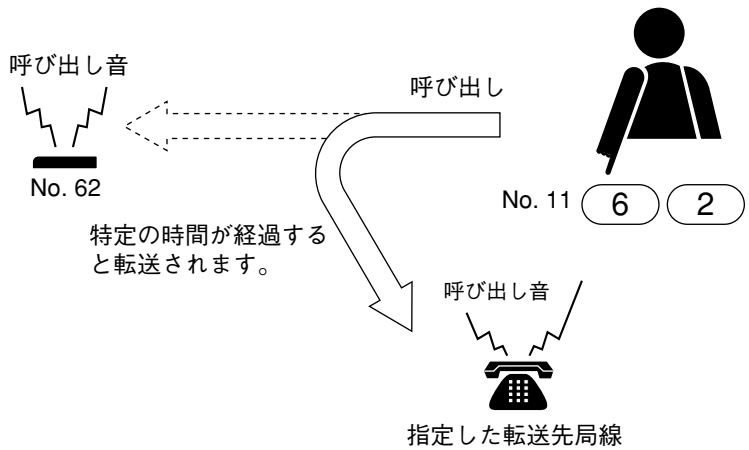
ご注意

端末の操作で設定した内容は、1 日 1 回（午前 0 時）、交換機または IP 端末内部に保存されます。
保存されるまでに電源を切ると、変更前の設定内容に戻ります。

● 局線不応答転送

不応答転送（☞ P. 2-20）の転送先を局線に設定することができます。
通話中からの呼び出し（転送 ☞ P. 2-16）も局線に不応答転送されます。

※ 不応答転送先の設定は、端末の操作（次ページ）または付属の N-8000 設定ソフトウェア（☞ P. 5-69、5-83）で行います。
で行います。
※ 不応答転送機能の有無、呼び出し時間は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで設定します。（☞ P. 5-38、5-65）
不応答転送機能が有効になっていないと、転送先の設定はできません。
※ 局線発信操作をできるように設定する必要があります。
局線発信操作特番および局線発信操作の可否の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-93）
※ 呼び出した局線が使用中でも、同一特番の局線が空いているときは、そちらの局線を使用します。以降、その局線が不応答転送先になります。



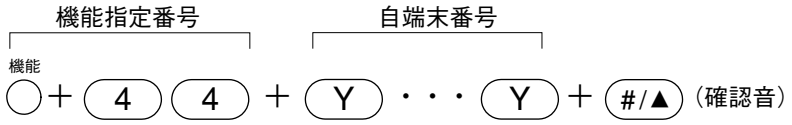
ご注意

局線からの着信に対しての転送は行われず、転送元のマスター端末が呼び出されます。

登録、消去は自端末からできます。

［登録のしかた］

［消去のしかた］



ご注意

端末の操作で設定した内容は、1 日 1 回（午前 0 時）、交換機または IP 端末内部に保存されます。
保存されるまでに電源を切ると、変更前の設定内容に戻ります。

● 局線不在転送

不在転送（ ☞ P. 2-21）の転送先を局線に設定することができます。
手動による不在転送、時刻連動不在転送ともに転送先を局線に設定することができます。

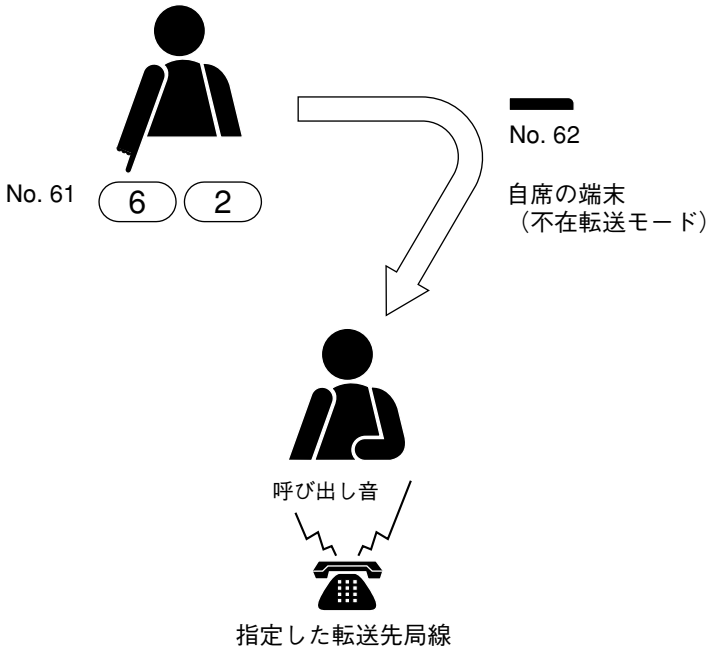
※ 不在転送先の設定は、端末の操作（次ページ）または付属の N-8000 設定ソフトウェア（ ☞ P. 5-69、5-83）で行います。
※ 不在転送機能の有無、連動時刻（転送開始時刻と終了時刻）は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで設定します。（ ☞ P. 5-38、5-65）
不在転送機能が有効になっていないと、転送先の設定はできません。
※ 局線発信操作をできるように設定する必要があります。
局線発信操作特番および局線発信操作の可否の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（ ☞ P. 5-93）
※ 呼び出した局線が使用中でも、同一特番の局線が空いているときは、そちらの局線を使用します。以降、その局線が不在転送先になります。
※ ドア端末またはサブ端末からの呼び出しで不在転送先の局線が使用中の場合は、25 秒間局線への接続を繰り返します。接続の繰り返し後、局線が空かなかったときは、転送元のマスター端末が呼び出されます。

ご注意

局線からの着信に対しての転送は行われず、転送元のマスター端末が呼び出されます。

［手動による局線不在転送に設定されている場合］

不在転送に設定した自席の端末にかかってきた呼び出しは、呼び出し音を鳴らさずに、指定した局線に自動的に転送されます。



登録、消去は自端末からできます。

［登録のしかた］

機能指定番号　　発信特番（1～2桁）

機能 ○ ＋ 4 1 ＋ ＊/▼ ＋ X ＋ #/▲ （確認音）

［消去のしかた］

機能指定番号　　自端末番号

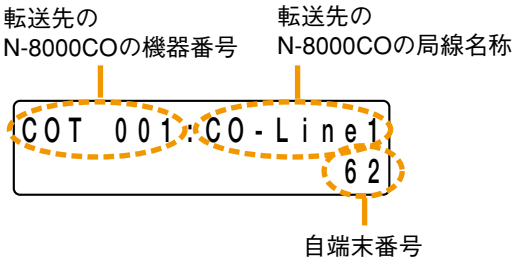
機能 ○ ＋ 4 1 ＋ Y ・・・ Y ＋ #/▲ （確認音）

ご注意

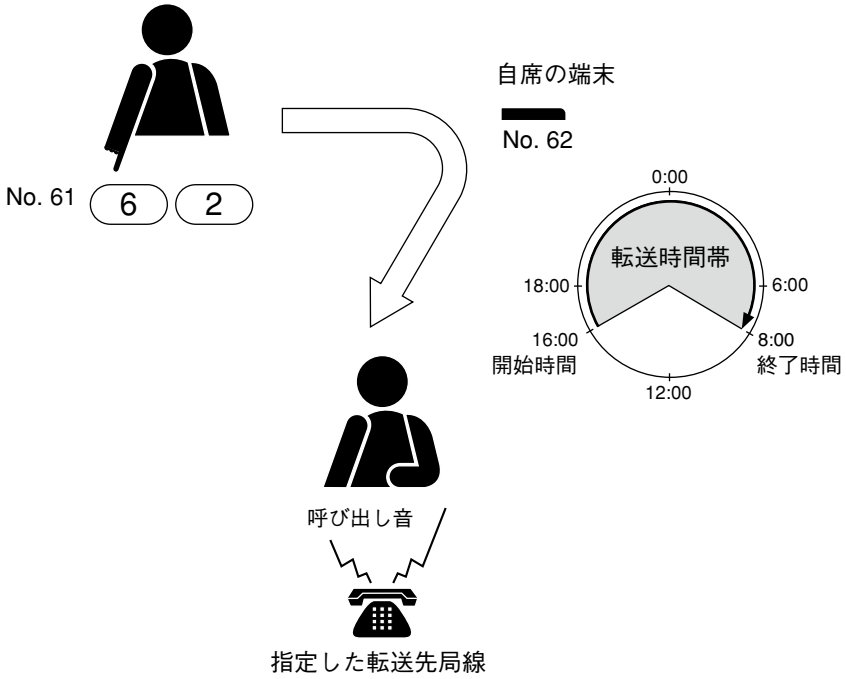
端末の操作で設定した内容は、１日１回（午前０時）、交換機または IP 端末内部に保存されます。
保存されるまでに電源を切ると、変更前の設定内容に戻ります。

［局線時刻連動不在転送が設定されているとき］

1 あらかじめ設定された転送開始時間になると、端末の表示部に次のように表示され、端末（例：62）が時刻連動不在転送状態に入ったことを示します。
（N-8000MS/8500MS/8600MS のみ）



2 自席の端末（転送元端末）にかかってきた呼び出しは、呼び出し音を鳴らさずに、自動的に転送先の局線に転送されます。



登録、消去は自端末からできます。

［登録のしかた］

機能指定番号　　発信特番（1～2桁）

機能 ○ ＋ 4 3 ＋ ＊/▼ ＋ X ＋ #/▲（確認音）

［消去のしかた］

機能指定番号　　自端末番号

機能 ○ ＋ 4 3 ＋ Y ・・・ Y ＋ #/▲（確認音）

ご注意

端末の操作で設定した内容は、１日１回（午前０時）、交換機または IP 端末内部に保存されます。
保存されるまでに電源を切ると、変更前の設定内容に戻ります。

■ タイライン接続（N-8000MI 使用時のみ）

4 線の私設線を介して、マルチインターフェースユニットを別のインターカムシステムと接続すると、別のシステムの端末と相互に呼び出しや通話を行ったり、別のシステムへのページング呼び出しを行ったりすることができます。

ご注意

通話応答モードが「選択応答」に設定されている場合には、この機能は使えません。

● 他のインターカムシステムの端末を呼び出す

ご注意

N-8616MS からハンズフリーで他のインターカムを呼び出すことはできません。
ハンドセットを持ち上げて呼び出してください。

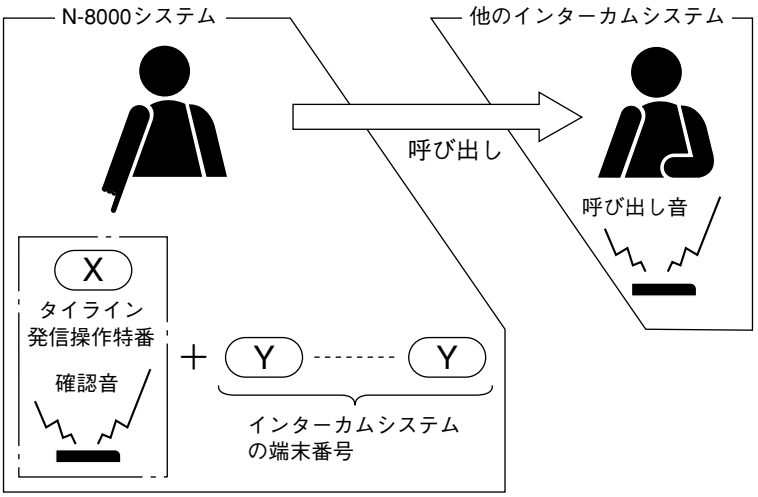
1 タイライン発信操作特番を押す。

他のインターカムシステムと接続できます。

2 接続したシステムからの発信音を確認して、相手のインターカムシステムの端末番号をダイヤルする。

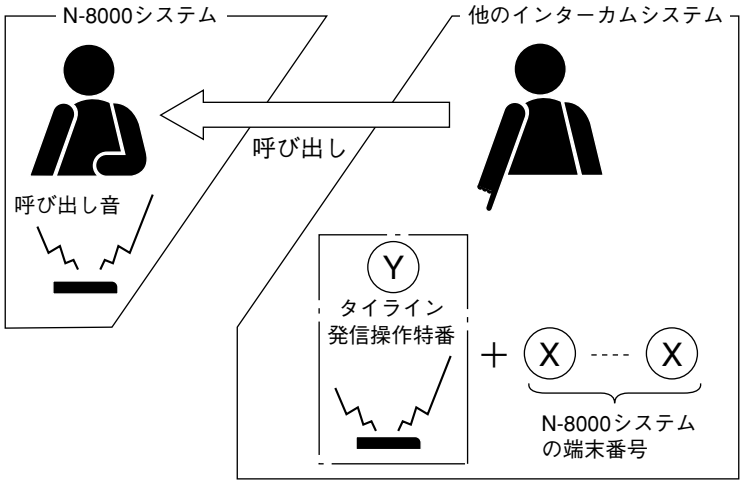
接続したインターカムシステムの端末を呼び出します。

※ タイライン発信操作特番は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-49）



● 他のインターカムシステムの端末から呼び出しを受ける

他のインターカムシステムの端末からタイライン発信操作特番と N-8000 システムの端末番号をダイヤルすると、N-8000 システムの端末を呼び出せます。
N-8000 システムの端末で他のインターカムシステムからの呼び出しを受けるときの方法は、N-8000 システム内の端末から呼び出されたときと同じです。



※ 相手のインターカムシステムの端末からのタイライン発信操作特番は、相手インターカムシステム側で設定してください。

● 他のインターカムシステムへページング呼び出しをする

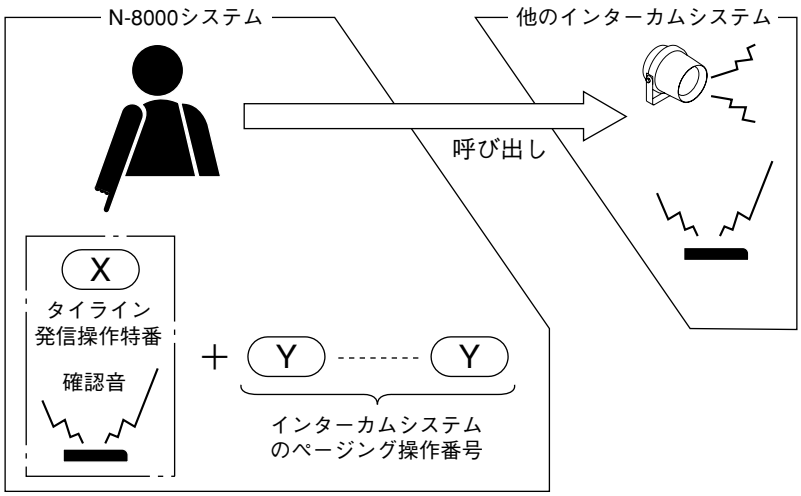
1 タイライン発信操作特番を押す。

他のインターカムシステムと接続できます。

2 接続したシステムからの発信音を確認し、相手のインターカムシステムのページング操作番号をダイヤルする。

接続したインターカムシステムへページング呼び出しをします。

※ タイライン発信操作特番は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（ ☞ P. 5-49）



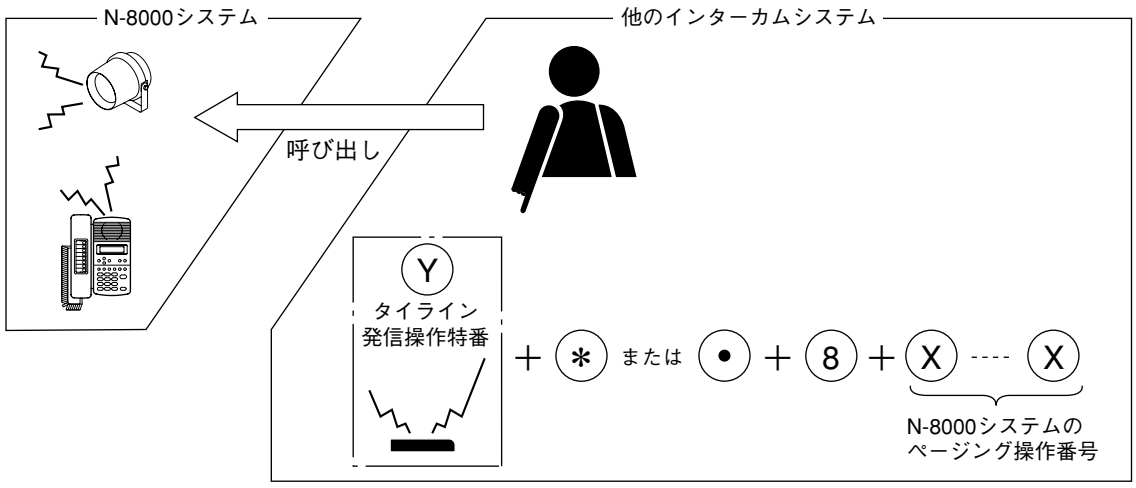
ご注意

N-8000 システムと他のインターカムシステムの両方へ同時にページングすることはできません。

● 他のインターカムシステムからページング呼び出しを受ける

他のインターカムシステムの端末からインターカム発信操作特番、「＊」または「・」、「8」、およびN-8000システムのページング操作番号を続けてダイヤルすると、N-8000 システムへのページング呼び出しができます。
N-8000 システムの端末でページングに応答するときの方法は、N-8000 システム内の端末からページング呼び出しをされたときと同じです。（ただし、ページング呼び出しの放送中しか応答できません。）

※ 相手のインターカムシステムの端末からのタイライン発信操作特番は、相手インターカムシステム側で設定してください。



■ BGM（N-8000MI 使用時のみ）

マルチインターフェースユニットに演奏機器などを接続すると、各端末から最大 8 チャンネルの BGM を選択して、待ち受け状態のときに端末のスピーカーから聞くことができます。

BGM を聞いている状態でも、ダイヤルや他局からの呼び出しを受けることができます。このとき、BGM は自動的に中断します。

中断した BGM は、通話やページングなどが終了すると、すぐに自動的に復旧します。

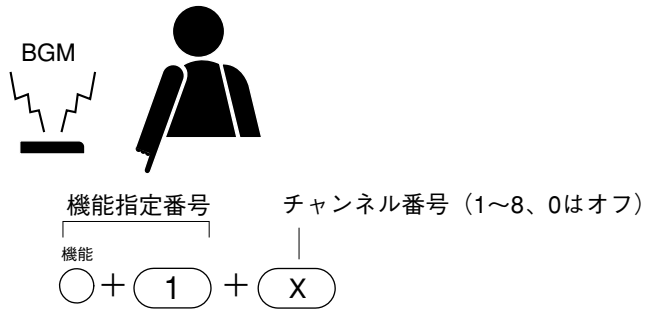
※ 演奏機器を接続しているマルチインターフェースユニットの機器番号と音声入力番号、BGM を受信できる端末の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-39、5-48、5-66、5-69、5-83）

ご注意

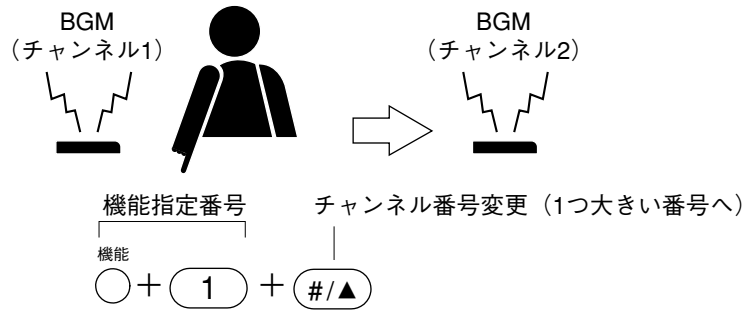
- BGM は通話やページングに比べ優先順位が低いので、通話路がふさがっているときに他の端末が通話やページングを行うと、BGM を聴いている端末が何の操作もしなくても BGM が途切れることがあります。特に、N-8010EX は通話路が少ないため、BGM が途切れる頻度が高くなります。
- 演奏機器を接続するマルチインターフェースユニットと、BGM を選択する端末に接続されている交換機、BGM を選択する IP 端末は、マルチキャスト通信（☞ P. 5-28）が可能で、かつ高音質モード（☞ P. 5-36、5-44、5-64）で接続できるネットワーク設定にしてください。
- サブ端末、電話機は BGM 機能を利用できません。

［チャンネルの選択のしかた］

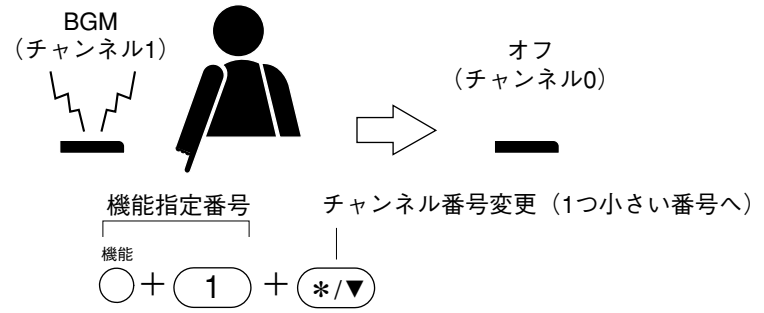
- 機能キー、［1］を押した後、チャンネル番号を選択します。



- 機能キー、［1］を押した後、［# / ▲］キーを押すと、選択中のチャンネル番号より 1 つ大きいチャンネル番号（1 → 2 →…7 → 8 → 0…）に変更できます。



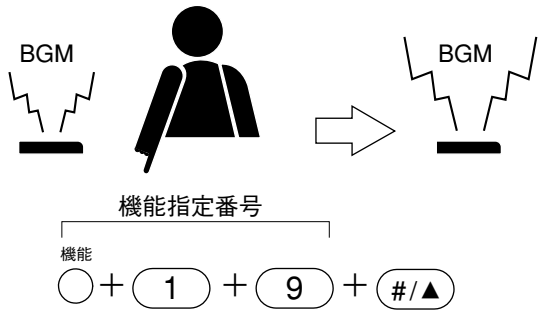
● 機能キー、［1］を押した後、［＊/▼］キーを押すと、選択中のチャンネル番号より１つ小さいチャンネル番号（1 → 0 → 8 → 7…）に変更できます。



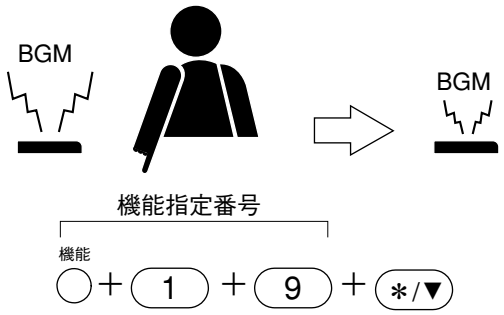
［BGM 音量の調節のしかた］

BGM の音量を５段階で調節することができます。

● 音量を上げるときは、機能キー、［1］［9］を押した後、［＃/▲］キーを押します。



● 音量を下げるときは、機能キー、［1］［9］を押した後、［＊/▼］キーを押します。

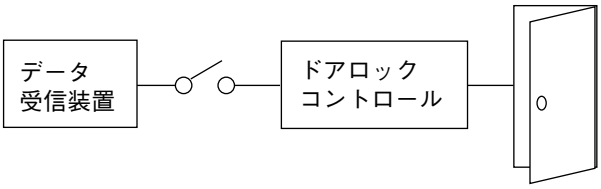


■ 外部機器制御（N-8000MI/8000DI/8000AF/8050DS/8540DS/8640DS/8650DS 使用時のみ）

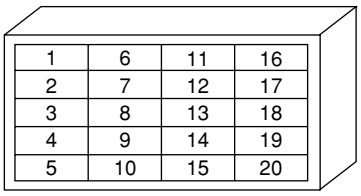
端末の操作で、指定したマルチインターフェースユニット、ダイレクトセレクトユニット、または音声インターフェースユニットの接点にワンショットメイク出力やメイク／ブレイク出力を出したり、指定したドア端末の接点にワンショットメイクを出したりすることで、外部機器を制御することができます。
例えば、ワンショットメイク出力によりドアロックの制御をしたり、メイク／ブレイク出力により表示器を制御したりすることができます。

※ ワンショットメイク時間、操作番号桁数、操作番号、および外部機器制御の操作ができる端末の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-38、5-46、5-52、5-65、5-70、5-85、5-109、5-112、5-116、5-119）

［ワンショットメイク出力制御によるドアリモートの例］

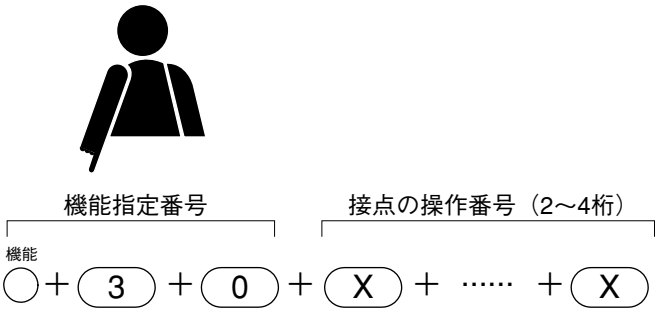


［メイク／ブレイク出力による投薬表示の例］



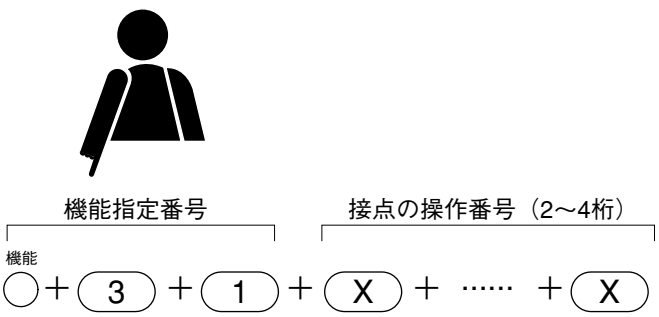
［ワンショットメイク出力の操作のしかた］

機能キー、［3］［0］を押した後、制御したい外部機器に対応する接点の操作番号を押します。



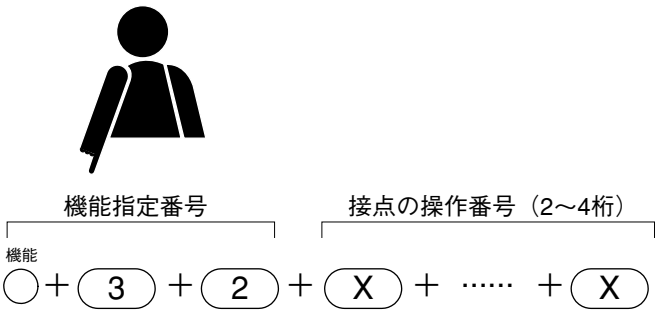
［メイク出力の操作のしかた］

機能キー、［3］［1］を押した後、制御したい外部機器に対応する接点の操作番号を押します。



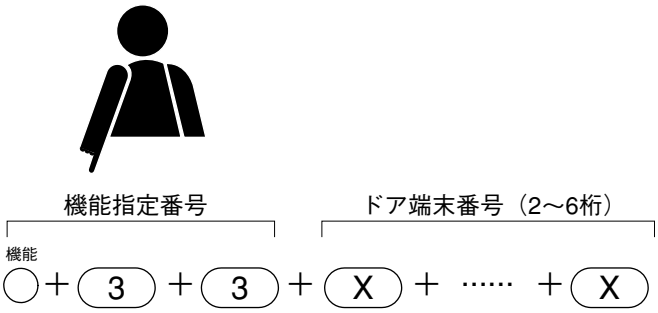
［ブレイク出力の操作のしかた］

機能キー、［3］［2］を押した後、制御したい外部機器に対応する接点の操作番号を押します。



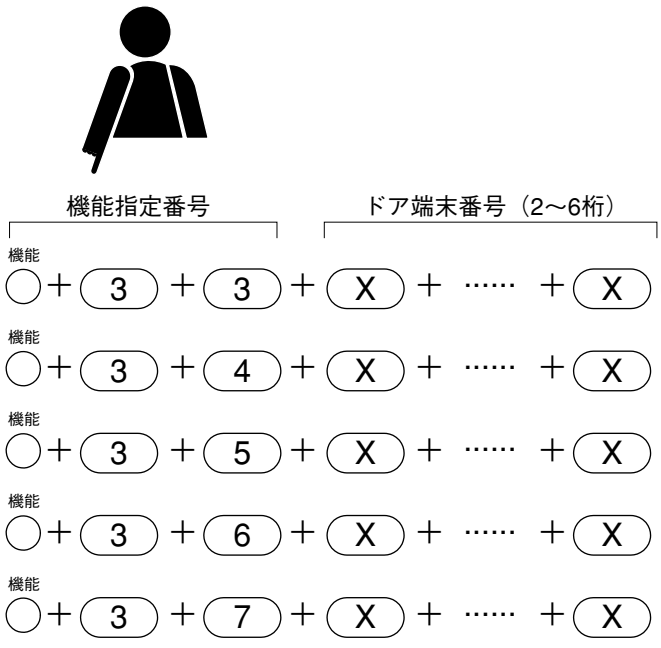
［ドア端末ワンショットメイク出力の操作のしかた（N-8050DS/8540DS 使用時）］

機能キー、［3］［3］を押した後、制御したいドア端末の番号を押します。



［ドア端末ワンショットメイク出力の操作のしかた（N-8640DS/8650DS 使用時）］

N-8640DS/8650DS には接点出力が 5 つあり、制御する接点出力により、機能指定番号が異なります。
接点出力に応じた機能指定番号を押した後、制御したいドア端末の番号を押します。



■ ドアリモート（N-8050DS/8540DS/8640DS/8650DS /8000MI/8000DI/8000AF 使用時のみ）

ドア端末 N-8050DS および IP ドア端末 N-8540DS/8640DS/8650DS のドア端末接点動作モードを「ドアリモート制御」に設定している場合、その端末と通話中のマスター端末からの操作により、N-8050DS/8540DS /8640DS/8650DS の接点出力が一定時間メイクします。
または、端末との通話中にマスター端末からの操作により、マルチインターフェースユニット N-8000MI、ダイレクトセレクトユニット N-8000DI、または音声インターフェースユニット N-8000AF の接点出力が一定時間メイクします。
例えば、電子錠システムと接続すると、ドアロックの制御ができます。

※ ドア端末接点動作モード、ワンショットメイク時間、および各端末に対応する N-8000MI/8000DI/8000AF の接点の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-38、5-40、5-65、5-67、5-69、5-83、5-100、5-103）

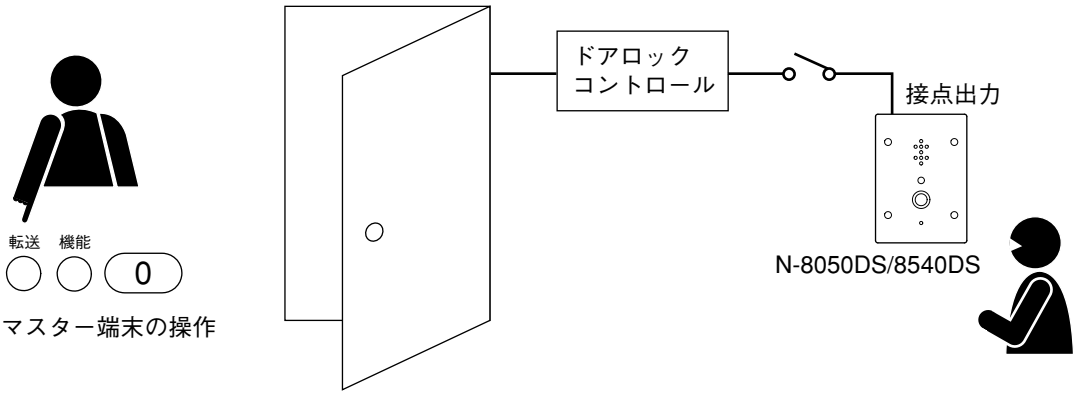
［操作のしかた（N-8050DS/8540DS/8000MI/8000DI/8000AF の接点出力を使用する場合）］

1 **2 者通話をしている間に、転送キーを押す。**
現在の通話が保留され、保留音が相手に送られます。

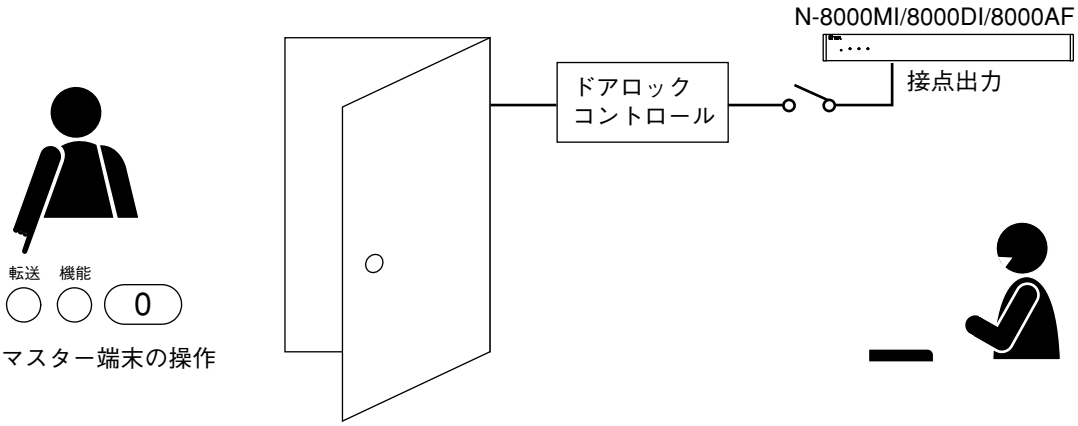
2 **機能キー、［0］を押す。**
通話中の N-8050DS/8540DS の接点出力または自端末に対応する N-8000MI/8000DI/8000AF の接点出力が一定時間メイクします。（例えば、電子錠システムと接続していると、対応するドアのロックを解除することができます。）

3 確認音が鳴って、元の通話に戻ります。

［N-8050DS/8540DS の例］



［N-8000MI/8000DI/8000AF の例］



［操作のしかた（N-8640DS/8650DS の接点出力を使用する場合）］

N-8640DS/8650DS には接点出力が 5 つあり、操作により制御する接点出力を選ぶことができます。

1 **2 者通話をしている間に、転送キーを押す。**

現在の通話が保留され、保留音が相手に送られます。

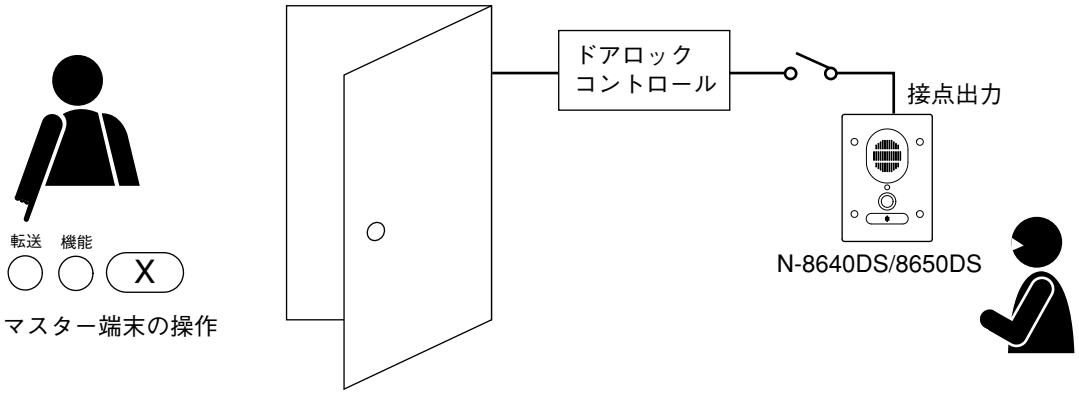
2 **機能キーを押してから、制御する IP ドア端末の接点出力を指定する番号（0 ～ 4）を押す。**

接点出力 1（オープンコレクター）の指定番号：0
接点出力 2（オープンコレクター）の指定番号：1
接点出力 3（オープンコレクター）の指定番号：2
接点出力 4（オープンコレクター）の指定番号：3
接点出力 5（リレー）の指定番号　　：4

通話中の N-8640DS/8650DS の接点出力が一定時間メイクします。（例えば、電子錠システムと接続していると、対応するドアのロックを解除することができます。）

3 確認音が鳴って、元の通話に戻ります。

［N-8640DS/8650DS の例］



X ：接点出力を指定する番号

接点出力1	0
接点出力2	1
接点出力3	2
接点出力4	3
接点出力5	4

■ 緊急メッセージ放送（IP マスター端末使用時のみ）

IP 多機能マスター端末 N-8500MS/8600MS、IP 標準マスター端末 N-8510MS/8515MS/8610MS、または IP 緊急マスター端末 N-8616MS にあらかじめ登録されているメッセージにより緊急メッセージ放送を行うことができます。
緊急メッセージ放送の放送先は、あらかじめ設定したページング系統になります。

※ 緊急メッセージ放送の起動方法、ページング系統番号、繰り返し回数、接点連動制御の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-73）

※ パソコンへのメッセージ録音および IP マスター端末へのメッセージの登録は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-131）

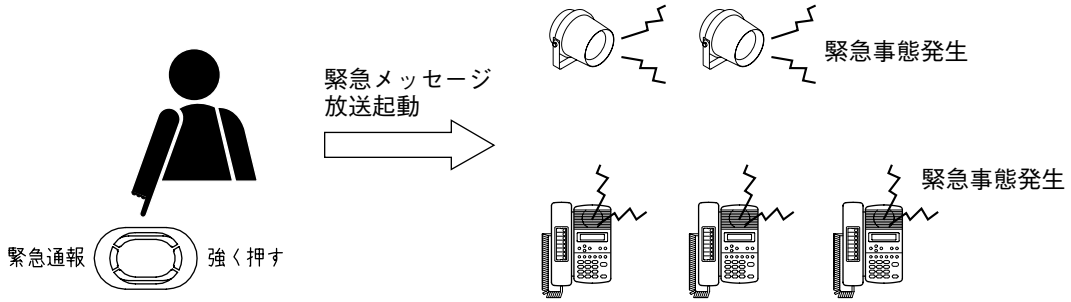
● 緊急メッセージ放送のしかた

1 緊急メッセージ放送を起動する。

3 とおりの起動方法があります。
※ 起動方法の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-73）

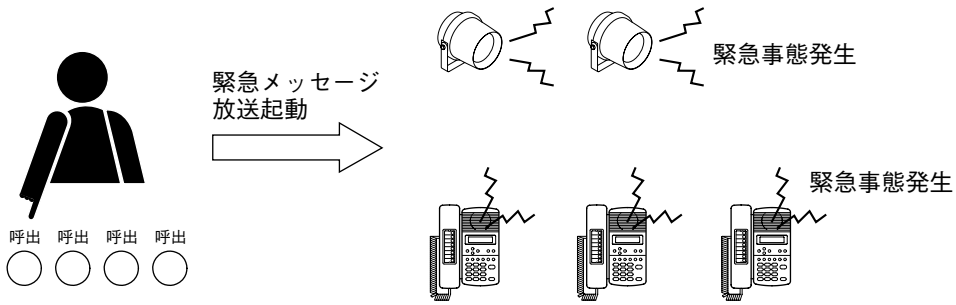
1-1 IP 緊急マスター端末の緊急通報ボタンを操作する場合（N-8616MS のみ）

緊急通報ボタンを強く押します。



1-2 IP マスター端末のダイヤルを操作する場合

ページング呼び出しキーを 4 回押します。

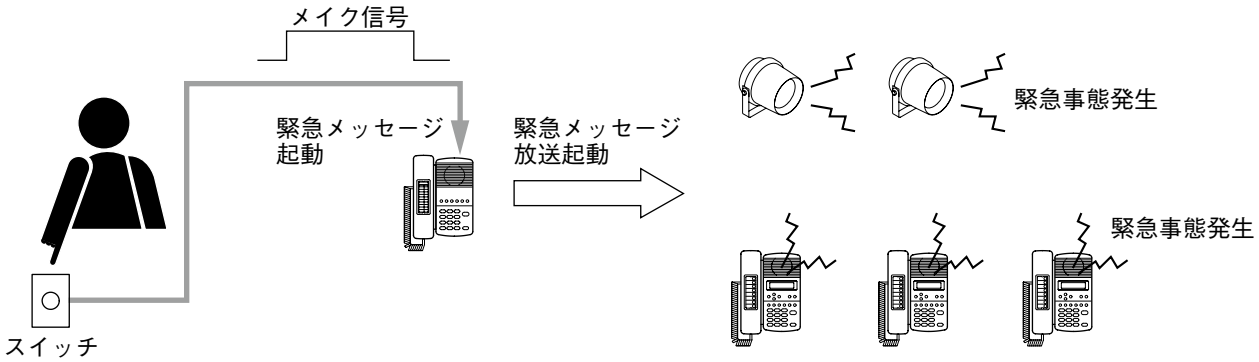


ご注意

操作する IP マスター端末が使用中のときは、緊急メッセージ放送を起動できません。待ち受け状態にしてから操作してください。
例外として、通話優先モードに設定されているシステムで、ページング受信中のときは、緊急メッセージ放送の起動が優先されます。

1-3 IP 標準マスター端末または IP 緊急マスター端末の緊急メッセージ起動端子を使用する場合
（N-8510MS/8515MS/8610MS/8616MS のみ）

IP 標準マスター端末または IP 緊急マスター端末の緊急メッセージ起動端子に接続された外部機器（例：スイッチ）のメイク信号により緊急メッセージ放送を起動します。メイク信号を入力する IP マスター端末が使用中であっても、その使用を中止して、緊急メッセージ放送を起動します。
外部機器からのメイク信号は 100 ms 以上必要です。



2 緊急メッセージ放送を終了する。

2 とおりの終了方法があります。

2-1 IP マスター端末のダイヤルを操作する方法

クリアキーを押します。

※ 回数制限が設定されていても操作が優先します。

2-2 回数制限設定により終了する方法

あらかじめ設定した回数だけメッセージが再生されると、自動的に終了します。

※ 回数制限の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-73）

ご注意

- ページング時間制限（☞ P. 5-66）が設定されていても、緊急メッセージ放送に影響しません。
- IP 標準マスター端末の緊急メッセージ起動端子をブレイクしても、放送は終了しません。端末のクリアキーを押すか、繰り返し回数を設定してください。

● 緊急メッセージ放送の優先度

緊急メッセージ放送は、通話、他のページングよりも（緊急一斉ページングを除く）優先度が高い放送です。緊急メッセージの放送先が動作中の場合は、すべて強制終了して、緊急メッセージを放送します。緊急メッセージ放送により強制終了した動作は、緊急メッセージ放送が終了しても復旧しません。

● 接点連動制御

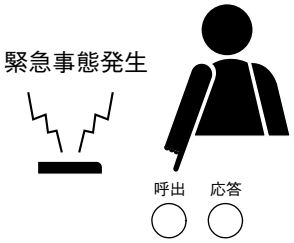
緊急メッセージ放送の起動に連動して、マルチインターフェースユニット N-8000MI、ダイレクトセレクトユニット N-8000DI、または音声インターフェースユニット N-8000AF の接点出力をメイクすることができます。メイクのタイミングは、緊急メッセージ起動中メイクとワンショットメイクの２種類があります。

● 登録されているメッセージの確認

IP マスター端末に登録されているメッセージをその端末で確認することができます。

1 **IP マスター端末が待ち受け状態のときに、ページング呼び出しキーを押し、次にページング応答キーを押す。**

操作した端末の内部スピーカーまたはハンドセットから、緊急メッセージが放送されます。



2 **クリアキーを押す。**

終了します。
※ この操作をするまで、繰り返し再生されます。

● 緊急メッセージをミュートする（N-8510MS/8515MS/8610MS/8616MS のみ）

緊急メッセージ放送を起動したマスター端末（N-8510MS/8515MS/8610MS/8616MS）のみ、その端末本体のスピーカーから緊急メッセージの音声を出力しないように設定することができます。状態表示灯の点灯、繰り返し、接点関連の制御など、緊急メッセージ出力以外の動作はミュートしないときと同じになります。
緊急メッセージを受信した側は通常どおりに音声が出力されます。
緊急メッセージ起動以外の操作をした場合は、動作に応じた音源（呼び出し音など）が出力されます。

※ 緊急メッセージミュートの設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-74）

ご注意

- IP リモートマイク端末は、緊急メッセージをミュートすることはできません。
- 緊急メッセージがミュートされるのは、マスター端末本体スピーカーのみで、ハンドセットのスピーカーはミュートされません。
- 緊急メッセージを起動したときに、エラー音などメッセージ以外の音源が入ってもミュートされます。ただし、緊急メッセージ起動以外の場合はミュートされません。

■ 音声トリガー機能の設定（N-8050DS/8640DS/8650DS 使用時のみ）

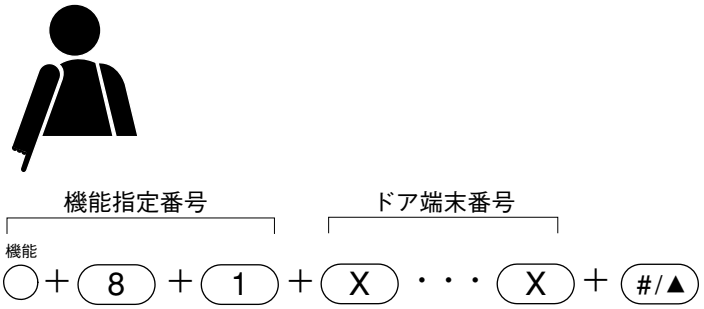
マスター端末の操作で、ドア端末 N-8050DS、IP ドア端末 N-8640DS/8650DS の音声トリガー機能（☞ P. 2-119）に関する設定をすることができます。

● 音声トリガー機能を有効にする

任意の端末から、ドア端末を指定して、音声トリガー機能を有効にすることができます。

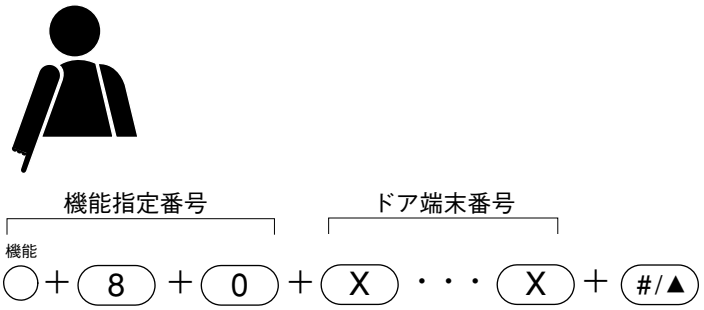
ご注意

- この機能に対応できる交換機は N-8000EX のみで、音声トリガーによるアラーム動作が可能なドア端末は、交換機 1 台につき最大 4 台です。
- BGM を受信するドア端末では、音声トリガー機能は動作しません。



● 音声トリガー機能を無効にする

任意の端末から、ドア端末を指定して、音声トリガー機能を無効にすることができます。

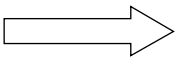


● 音声トリガー機能の設定状態を確認する（N-8000MS/8500MS/8600MS のみ）

任意の多機能マスター端末から、ドア端末を指定して、音声トリガー機能の設定状態を確認することができます。

機能指定番号　　ドア端末番号

機能
◯＋ 8 ＋ 2 ＋ X ・・・ X ＋ #/▲



5秒間表示

```
２００　　：ﾄﾞｳｻﾁｭｳ
ﾚﾍﾞﾙ＝１　：ｼﾞｶﾝ＝１
```

● 音声トリガー機能の効き具合を調節する

任意の端末から、ドア端末を指定して、アラーム検出条件の設定値を変更して、音声トリガー機能の効き具合を調節することができます。

［音声トリガー機能を効きにくくする］

音声トリガー機能が不要なときに働いてしまうときは、以下の操作で設定値を変更してください。

- アラームの検出方法を「レベル検出」に設定している場合は、以下の操作で、指定したドア端末の音声トリガー機能の音圧レベルを 3 dB 大きくすることができます。
- アラームの検出方法を「音声検出」に設定している場合は、以下の操作で、指定したドア端末の音声トリガー機能の感度の設定値を 1 段階大きくすることができます。

機能指定番号　　ドア端末番号

機能
◯＋ 8 ＋ 3 ＋ #/▲ ＋ X ・・・ X ＋ #/▲

［音声トリガー機能を効きやすくする］

音声トリガー機能が必要なときに働かないときは、以下の操作で設定値を変更してください。

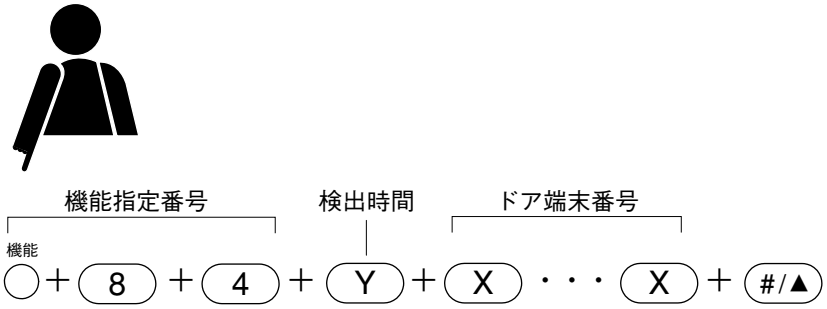
- アラームの検出方法を「レベル検出」に設定している場合は、以下の操作で、指定したドア端末の音声トリガー機能の検出レベルを 3 dB 小さくすることができます。
- アラームの検出方法を「音声検出」に設定している場合は、以下の操作で、指定したドア端末の音声トリガー機能の感度の設定値を 1 段階小さくすることができます。

機能指定番号　　ドア端末番号

機能
◯＋ 8 ＋ 3 ＋ ∗/▼ ＋ X ・・・ X ＋ #/▲

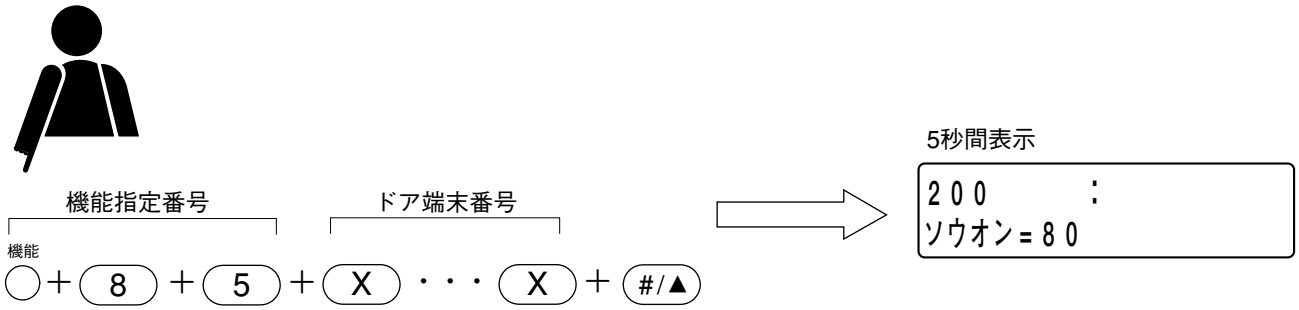
● 音声トリガー機能の検出時間を変更する

任意の端末から、ドア端末を指定して、アラーム発生条件となる音声の検出時間を変更することができます。
検出時間を１～９のダイヤルキーで設定してください。数値が大きいほど、検出時間は長くなります。



● 周囲騒音を表示する（N-8000MS/8600MS のみ）

任意の多機能マスター端末から、ドア端末を指定して、指定したドア端末の周囲騒音を液晶画面に表示できます。
表示値の単位は dB SPL で、参考値です。



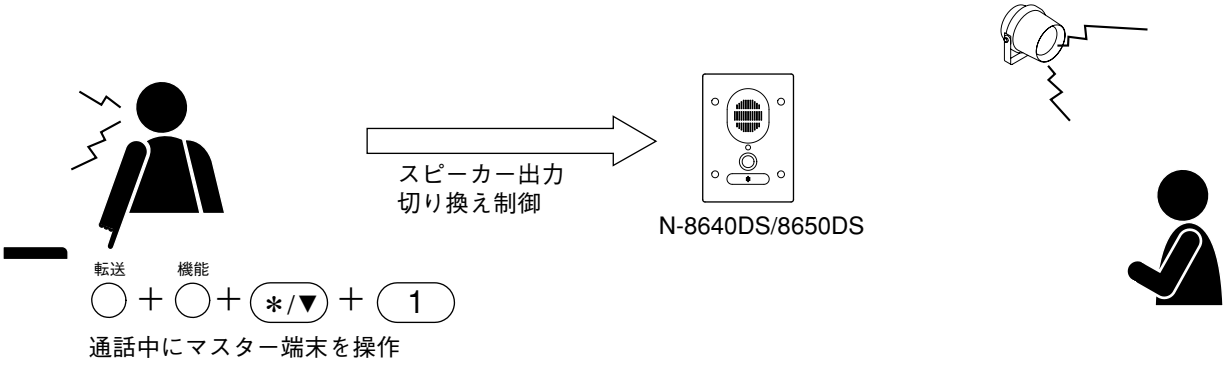
■ IP ドア端末のスピーカー出力切り換え制御（N-8640DS/8650DS 使用時のみ）

マスター端末の操作で、そのマスター端末と通話中の IP ドア端末 N-8640DS/8650DS の音声出力先を内部スピーカーまたは外部スピーカー端子に接続したスピーカーに切り換えることができます。通話が終了する、または優先度の高いページングに割り込まれると、N-8000 設定ソフトウェアで設定されたスピーカーに戻ります。

ご注意

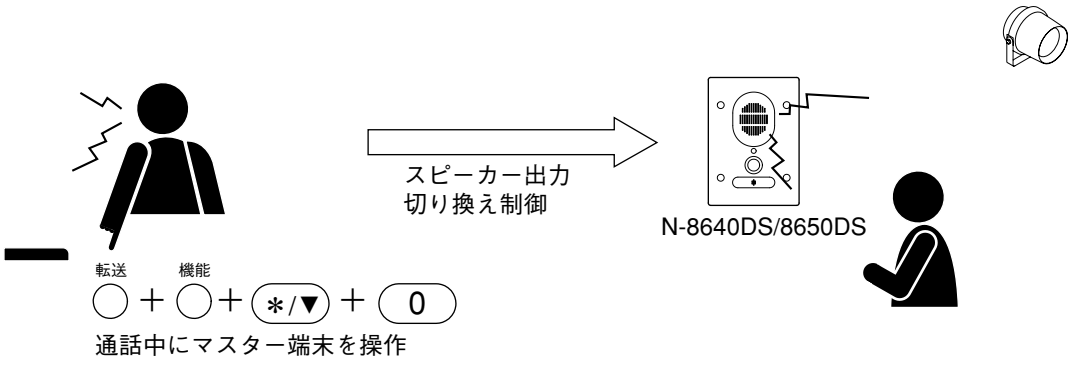
- 通話相手がこの機能を持たない端末であれば、操作したマスター端末からはエラー音が流れ、通話に戻ります。
- 内部スピーカーと外部スピーカーを同時に鳴らすことはできません。

● 外部スピーカーに切り換えるとき



通話中にマスター端末を操作

● 内部スピーカーに切り換えるとき



通話中にマスター端末を操作

■ アクセスコード認証（N-8500MS/8510MS/8515MS/8610MS を除く）

アクセスコード認証を有効にすると、マスター端末の使用を制限できます。
あらかじめ登録された暗証番号（4 桁の数字）を各種機能の始めに入力すると、通常どおり使用することができます。暗証番号を間違えるとエラーとなります。
制限される機能は呼び出し、ページング送信、スキャンモニターなどマスター端末から発信する機能、および外部機器制御、自端末の設定変更などダイヤル操作による制御が対象となります。
着信、代理応答は暗証番号の入力なしで使用できます。
優先度の高い機能である緊急一斉ページング送信および緊急メッセージ送信は、暗証番号の入力なしで使用できます。
通話中からの手動転送など、待ち受けでない状態からの操作は暗証番号の入力なしで使用できます。

※ アクセスコード認証、暗証番号の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-70、5-84）

ご注意

- IP 多機能端末 N-8500MS、IP 標準端末 N-8510MS/8515MS/8610MS、マルチインターフェースユニット N-8000MI に接続されたタイラインまたは PBX 側の端末はアクセスコード認証を使用することができません。
- ワンタッチダイヤル、リモートダイヤルで呼び出しなどを行う場合にも暗証番号が必要になります。番号を登録するときに、端末番号など実行するダイヤルの前に暗証番号も入れて登録してください。
- アクセスコード認証を有効にすると、リダイヤルとリコールは使用できません。
- オートダイヤルによるアクセスコード認証はできません。

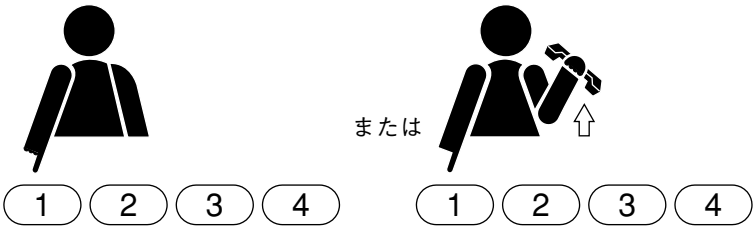
● 操作のしかた

アクセスコード認証を有効にしているときに端末の呼び出しをする例です。

1 **暗証番号（4 桁）を押す。**

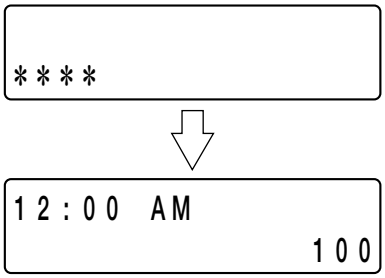
※ ハンドセットを置いたままでも、持ち上げていてもダイヤルできます。

（暗証番号：「1234」のときの例）



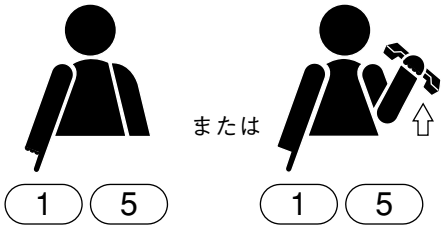
メ　モ

液晶付きマスター端末では入力された暗証番号がアスタリスク（＊）で表示され、4 桁入力後にクリアされます。



2 **呼び出す端末の番号を押す。**

（端末番号：「15」のときの例）



マスター端末での操作一覧表

機能		項目	操作	備考
呼び出し		呼び出し	端末番号[×][×]…[×]をダイヤルする。	端末番号：2～6桁
		リダイヤル	[リダイヤル] を押す。	
		リコール	[＃/▲]を押す。	
		音声呼び出し	連続呼び出し音で呼び出している相手に [PTT] を押して呼びかける。	
応答（着信優先時）			どれか1つのキーを押すか、ハンドセットを持ち上げる。	
応答（選択応答時）		着呼端末表示切換	[▲]または[▼]を押す。（矢印キー）	
		着呼端末先頭表示	[◀](矢印キー)を押すか、[C]を押す。	
		着呼端末後尾表示	[▶]を押す。（矢印キー）	
		選択応答	[PTT] を押す、またはハンドセットを持ち上げる。	
通話		ハンドセット通話	ハンドセットを持ち上げて話す。	
		ハンズフリー通話	手を使わずに話す。	
		PTT通話	ハンズフリー通話中に [PTT] を押す。	
短縮ダイヤル	オートダイヤル	操作	オートダイヤルキー（ [1] ～ [8] ）を押す。	N-8000MS/8500MS/8600MSのみ
	ワンタッチダイヤル	操作	[7]、[8]、[9]、[0] を押す、またはハンドセットを持ち上げる。	
		登録	[機能][6][ワンタッチダイヤル][登録ダイヤル][PTT]をダイヤルする。 ・ワンタッチダイヤルキーは、[7]、[8]、[9]、[0] キー、またはPTTキーが入る。 ・オフフック操作をワンタッチダイヤルキーとして登録する場合は、PTT キーを押す。 ・登録ダイヤルは最大32桁 ・登録できるキーは、ダイヤルキー（12 種類）、ページング呼び出しキー、ページング応答キー、転送キー、機能キー	
		消去	[機能][6][ワンタッチダイヤル][PTT]をダイヤルする。	
	ダイヤルパターン起動	操作	[機能][2][機能][ダイヤルパターン番号]をダイヤルする。	N-8600MSのみ ダイヤルパターン番号：01～54
保留		マイクオフ	通話中に [0] ～ [9] のいずれかを押し続ける。	
		一時保留	通話中に [保留] を押す。	
		一時保留解除	保留中に [保留] を押す。	
転送		転送	通話中に [転送] を押す。 →相手は保留される。 第3者の番号をダイヤルして呼び出す。 →第3者との通話。（元の通話相手は一時保留） [C] を押すか、ハンドセットを置く。 →転送が終了。	
		元の通話の復旧	通話中に [転送] を押す。 →相手は保留される。 第3者の番号をダイヤルして呼び出す。 →第3者との通話。（元の通話者は一時保留） [転送] を再び押す。 →元の通話に戻る。（元の通話の復旧）	
自動転送	不在転送	自端末での登録	[機能][4][1][転送先端末番号][＃/▲]をダイヤルする。	端末番号：2～6桁
		自端末での消去	[機能][4][1][自端末番号][＃/▲]をダイヤルする。	
		転送先端末での登録	[機能][4][2][自端末番号][＃/▲]をダイヤルする。	
	時刻連動不在転送	登録	[機能][4][3][転送先端末番号][＃/▲]をダイヤルする。	
		消去	[機能][4][3][自端末番号][＃/▲]をダイヤルする。	
	不応答転送	登録	[機能][4][4][転送先端末番号][＃/▲]をダイヤルする。	
		消去	[機能][4][4][自端末番号][＃/▲]をダイヤルする。	
	話中転送	登録	[機能][4][5][転送先端末番号][＃/▲]をダイヤルする。	
		消去	[機能][4][5][自端末番号][＃/▲]をダイヤルする。	

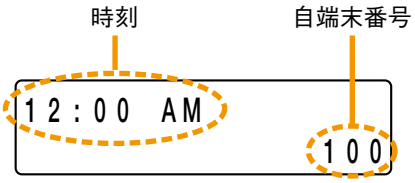
機能		項目	操作	備考
局線自動転送	不在転送	自端末での登録	[機能][4][1][＊/▼][局線発信特番][＃/▲]をダイヤルする。	端末番号：2～6桁
		自端末での消去	[機能] [4] [1] [自端末番号] [＃/▲] をダイヤルする。	
	不応答転送	自端末での登録	[機能][4][4][＊/▼][局線発信特番][＃/▲]をダイヤルする。	
		自端末での消去	[機能] [4] [4] [自端末番号] [＃/▲] をダイヤルする。	
	話中転送	自端末での登録	[機能][4][5][＊/▼][局線発信特番][＃/▲]をダイヤルする。	
		自端末での消去	[機能] [4] [5] [自端末番号] [＃/▲] をダイヤルする。	
	時刻連動	登録	[機能][4][3][＊/▼][局線発信特番][＃/▲]をダイヤルする。	
	不在転送	消去	[機能] [4] [3] [自端末番号] [＃/▲] をダイヤルする。	
代理応答		応答	同じ代理応答グループの端末に着信があったときに [PTT] を押す。	
		グループ新規登録	[機能] [7] [0] [＃/▲] をダイヤルする。	他のグループに設定されている端末は、新規代理応答グループを登録することはできない。
		グループメンバー追加	[機能] [7] [1] [メンバー端末番号] [＃/▲] をダイヤルする。	他のグループに設定されている端末を、代理応答グループのメンバーに登録することはできない。
		グループ消去	[機能] [7] [2] [＃/▲] をダイヤルする。	
		グループメンバー消去	[機能] [7] [2] [メンバー端末番号] [＃/▲] をダイヤルする。	他のグループに設定されている端末を、代理応答グループのメンバーから消去することはできない。
緊急割り込み			呼び出した相手端末が話中のとき [9] を押す。	
スキャンモニター		開始	[＊/▼][2][モニターグループ番号][モニターグループ番号]…[＃/▲] をダイヤルする。 または [＊/▼] [2] [＊/▼] [モニター端末番号] [＊/▼] [モニター端末番号] … [＃/▲] をダイヤルする。	モニターグループ番号：1～4 モニター端末番号：2～6桁
		停止・再開	停止は [0] を、再開は再度 [0] を押す。	モニター中にダイヤル
		スキャン進む	端末のモニターを進めるには [＃/▲] を押す。	
		スキャン戻る	端末のモニターを戻すには [＊/▼] を押す。	
		音声送信	[PTT] を押して話す。	
		終了	[C] を押すか、ハンドセットを置く。	
ページング		系統ページング	[ページング呼出][系統番号]をダイヤルする。	系統番号：1～3桁
		選択ページング	[ページング呼出][＊/▼][系統番号][＊/▼][系統番号] [＊/▼]… [系統番号][＃/▲]をダイヤルする。	
		ページング系統＋ページング系統パターンへの選択ページング	[ページング呼出][系統の選択または系統のパターン選択] … [系統の選択または系統のパターン選択] [＃/▲] をダイヤルする。 ・系統の選択は [＊/▼] [系統番号] をダイヤルする。 ・系統のパターン選択は [＊/▼][機能][ページング系統のパターン番号] をダイヤルする。	N-8600MS のみ 系統番号：1～3桁 ページング系統のパターン番号： 001～216
		一斉ページング	[ページング呼出] [0] をダイヤルする。	
		緊急一斉ページング	[＊/▼][＊/▼][＊/▼][＊/▼]を押す。	
ページング応答		自動応答	[ページング応答] を押す。	
		系統番号指定応答	[ページング応答] [系統番号] をダイヤルする。	系統番号：1～3桁
端末スピーカー出力設定		音量を大きくする	通話中に [＃/▲] を押す。	
		音量を小さくする	通話中に [＊/▼] を押す。	
3者会議		2者通話	[機能][5][1][2者端末番号]をダイヤルする。	招集端末の操作
		3者通話	[転送][3者端末番号]をダイヤルする。	
		2者通話からの3者通話	[転送][機能][5][1][3者端末番号]を通話中にダイヤルする。	
		会議から2者通話	[転送][会議終話端末番号]をダイヤルする。	
		会議終了	[C]を押すか、ハンドセットを置く。	

機能	項目	操作	備考
SX-2000 システムへの放送など（N-8600MS のみ）	ゾーン選択放送	[ページング呼出][ゾーンの選択またはゾーンのパターン選択] … [ゾーンの選択またはゾーンのパターン選択] [＃ / ▲] をダイヤルする。 ・ゾーンの選択は以下のとおりダイヤルする。 [＊ / ▼][転送][SX-2000 システムのシステム ID 番号][ゾーン番号] ・ゾーンのパターン選択は以下のとおりダイヤルする。 [＊ / ▼][転送][SX-2000 システムのシステム ID 番号][機能][ゾーンのパターン番号]	SX-2000 システムのシステム ID 番号： 01 ～ 08 ゾーン番号： 001 ～ 256 ゾーンのパターン番号： 001 ～ 216
	業務放送起動	[機能][＊ / ▼][転送][SX-2000 システムのシステム ID 番号][機能][1][機能][制御入力（業務放送パターン機能）のパターン番号][＃ / ▲] をダイヤルする。	制御入力のパターン番号：001 ～ 162
	業務放送終了	[機能][＊ / ▼][転送][SX-2000 システムのシステム ID 番号][機能][2][機能][制御入力（業務放送パターン機能）のパターン番号][＃ / ▲] をダイヤルする。	
	BGM 放送変更	[機能][＊ / ▼][転送][SX-2000 システムのシステム ID 番号][機能][5][機能][制御入力（BGM 変更機能）のパターン番号][＃ / ▲] をダイヤルする。	
	BGM 放送終了	[機能][＊ / ▼][転送][SX-2000 システムのシステム ID 番号][機能][5][機能][制御入力（BGM 終了機能）のパターン番号][＃ / ▲] をダイヤルする。	
	制御出力起動	[機能][制御出力パターンの選択] … [制御出力パターンの選択][＃ / ▲] をダイヤルする。 ・制御出力のパターン選択は以下のとおりダイヤルする。 [＊ / ▼][転送][SX-2000 システムのシステム ID 番号][機能][3][機能][制御出力のパターン番号]	制御出力のパターン番号：001 ～ 162
	制御出力停止	[機能][制御出力パターンの選択] … [制御出力パターンの選択][＃ / ▲] をダイヤルする。 ・制御出力のパターン選択は以下のとおりダイヤルする。 [＊ / ▼][転送][SX-2000 システムのシステム ID 番号][機能][4][機能][制御出力のパターン番号]	
	組み合わせ起動（ゾーン選択放送＋制御出力パターン起動）	[ページング呼出][ゾーンの選択またはゾーンのパターン選択] … [ゾーンの選択またはゾーンのパターン選択][制御出力のパターン選択] … [制御出力のパターン選択][＃ / ▲] をダイヤルする。 ・ゾーンの選択は以下のとおりダイヤルする。 [＊ / ▼][転送][SX-2000 システムのシステム ID 番号][ゾーン番号] ・ゾーンのパターン選択は以下のとおりダイヤルする。 [＊ / ▼][転送][SX-2000 システムのシステム ID 番号][機能][ゾーンのパターン番号] ・制御出力のパターン選択は以下のとおりダイヤルする。 [＊ / ▼][転送][SX-2000 システムのシステム ID 番号][機能][3][機能][制御出力のパターン番号]	
SX-2000 システムへの放送など（N-8600MS のみ）	組み合わせ起動（ページング＋ゾーン選択放送＋制御出力パターン起動）	[ページング呼出][系統の選択、系統のパターン選択、ゾーンの選択、またはゾーンのパターン選択] … [系統の選択、系統のパターン選択、ゾーンの選択、またはゾーンのパターン選択][制御出力のパターン選択] … [制御出力のパターン選択][＃ / ▲] をダイヤルする。 ・系統の選択は [＊ / ▼][ページング系統番号] をダイヤルする。 ・系統のパターン選択は [＊ / ▼][機能][ページング系統のパターン番号] をダイヤルする。 ・ゾーンの選択は以下のとおりダイヤルする。 [＊ / ▼][転送][SX-2000 システムのシステム ID 番号][ゾーン番号] ・ゾーンのパターン選択は以下のとおりダイヤルする。 [＊ / ▼][転送][SX-2000 システムのシステム ID 番号][機能][ゾーンのパターン番号] ・制御出力のパターン選択は以下のとおりダイヤルする。 [＊ / ▼][転送][SX-2000 システムのシステム ID 番号][機能][3][機能][制御出力のパターン番号]	ページング系統番号： 1 ～ 3 桁 ページング系統のパターン番号： 001 ～ 216 SX-2000 システムのシステム ID 番号： 01 ～ 08 ゾーン番号： 001 ～ 256 ゾーンのパターン番号： 001 ～ 216 制御出力のパターン番号：001 ～ 162

機能	項目	操作	備考
タイムシグナル	起動スケジュール変更	[機能] [9] [0] [スケジュール番号] をダイヤルする。	スケジュール番号： 01 ～ 16
	起動スケジュール停止	[機能] [9] [0] [0] [0] をダイヤルする。	
	手動系統送出	[機能] [9] [1] [音源番号] [外部制御] [系統番号] をダイヤルする。	系統番号：1 ～ 3 桁 音源番号：1 ～ 9 外部制御：0（なし）、 1（あり）
	手動選択送出	[機能] [9] [1] [音源番号] [外部制御] [系統番号] [＊ / ▼] [系統番号] [＊ / ▼] … [系統番号] [＃ / ▲] をダイヤルする。	
	起動スケジュール確認	[機能] [9] [2] をダイヤルする。	多機能端末のみ表示
	一時除外登録	[機能] [9] [3] [＊ / ▼] [端末番号] [＊ / ▼] [端末番号] [＊ / ▼] … [端末番号] [＃ / ▲] をダイヤルする。	端末番号：除外対象端末
	一時除外解除	[機能] [9] [4] [＃ / ▲] をダイヤルする。	
	スケジュール予約	[機能] [9] [5] [予約日] [スケジュール番号] をダイヤルする。	予約日：1 ～ 9 スケジュール番号： 01 ～ 16
	スケジュール予約の取り消し	[機能] [9] [5] [＊ / ▼] をダイヤルする。	
	スケジュール予約の確認	[機能] [9] [6] をダイヤルする。	多機能端末のみ表示
音声トリガー	機能を有効にする	[機能] [8] [1] [ドア端末番号] [＃ / ▲] をダイヤルする。	
	機能を無効にする	[機能] [8] [0] [ドア端末番号] [＃ / ▲] をダイヤルする。	
	設定の確認	[機能] [8] [2] [ドア端末番号] [＃ / ▲] をダイヤルする。	
	機能を効きにくくする	[機能][8][3][＃ / ▲][ドア端末番号][＃ / ▲]をダイヤルする。	
	機能を効きやすくする	[機能][8][3][＊ / ▼][ドア端末番号][＃ / ▲]をダイヤルする。	
	検出時間を変更する	[機能] [8] [4] [検出時間] [ドア端末番号] [＃ / ▲] をダイヤルする。	
	周囲騒音を表示する	[機能] [8] [5] [ドア端末番号] [＃ / ▲] をダイヤルする。	
ドアリモート		（N-8050DS/8540DS/8000MI/8000DI/8000AF の場合） 通話中に [転送] [機能] [0] をダイヤルする。 （N-8640DS/8650DS の場合） 通話中に [転送] [機能] [接点指定番号] をダイヤルする。	接点指定番号： 接点出力 1 = 0 接点出力 2 = 1 接点出力 3 = 2 接点出力 4 = 3 接点出力 5 = 4
BGM	チャンネル選択	[機能] [1] [チャンネル番号] をダイヤルする。	チャンネル番号：0 ～ 8
		[機能] [1] [＃ / ▲] をダイヤルする。	1 つ大きい番号を選択
		[機能] [1] [＊ / ▼] をダイヤルする。	1 つ小さい番号を選択
	音量を大きくする	[機能] [1] [9] [＃ / ▲] をダイヤルする。	
	音量を小さくする	[機能] [1] [9] [＊ / ▼] をダイヤルする。	
外部機器制御	ワンショットメイク出力	[機能] [3] [0] [接点操作番号] をダイヤルする。	接点操作番号：2 ～ 4 桁
	メイク出力	[機能] [3] [1] [接点操作番号] をダイヤルする。	
	ブレイク出力	[機能] [3] [2] [接点操作番号] をダイヤルする。	
	ドア端末ワンショットメイク出力	（N-8050DS/8540DS の場合） [機能] [3] [3] [ドア端末番号] をダイヤルする。 （N-8640DS/8650DS の場合） [機能] [3] [接点指定番号] [ドア端末番号] をダイヤルする。	接点指定番号： 接点出力 1 = 3 接点出力 2 = 4 接点出力 3 = 5 接点出力 4 = 6 接点出力 5 = 7
	スピーカー出力切り換え制御	（内部スピーカーに切り換えるとき） N-8640DS/8650DS との通話中に [転送] [機能] [＊ / ▼] [0] をダイヤルする。 （外部スピーカーに切り換えるとき） N-8640DS/8650DS との通話中に [転送] [機能] [＊ / ▼] [1] をダイヤルする。	
緊急メッセージ	起動	（IP 緊急マスター端末の場合） [緊急通報] を強く押す。 （IP マスター端末の場合） [ページング呼出] [ページング呼出] [ページング呼出] [ページング呼出] を押す。	
	メッセージ確認	[ページング呼出] [ページング応答] を押す。	
アクセスコード認証		操作の前に [暗証番号] をダイヤルする。	暗証番号：4 桁の数値

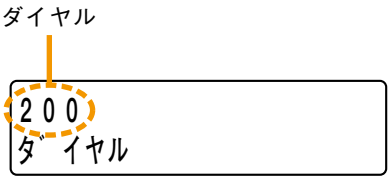
多機能マスター端末の液晶表示一覧

● 待ち受け表示

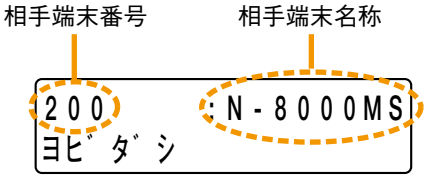


● ダイヤル表示1（オフフック）

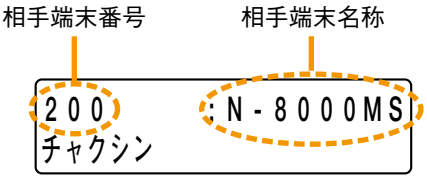
● ダイヤル表示2（ダイヤル）



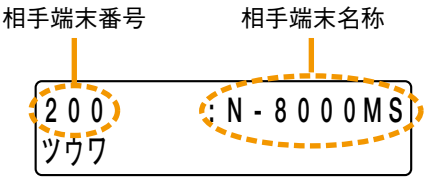
● 呼び出し中（個別、グループ、リコール、音声）



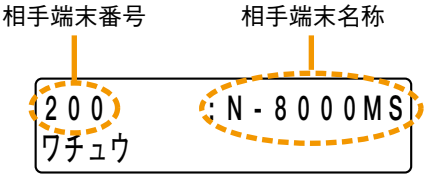
● 着信中



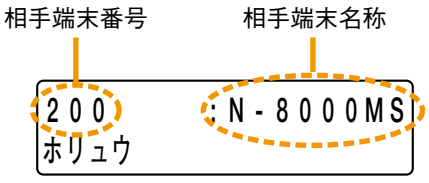
● 通話中



● 話中

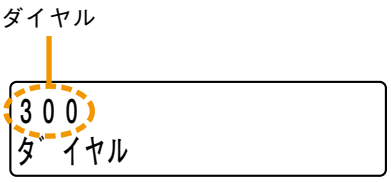


● 保留

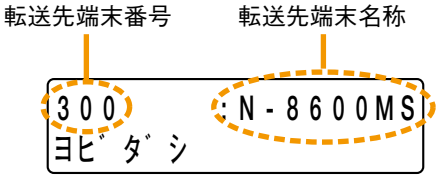


● ダイヤル表示3（転送キーを押したとき）

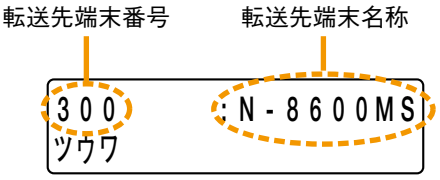
● ダイヤル表示4（転送キーを押した後、ダイヤル）



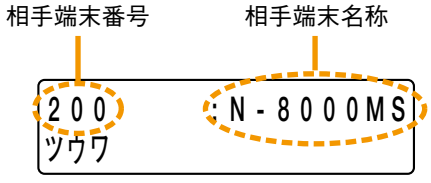
● 呼び出し中（転送時）



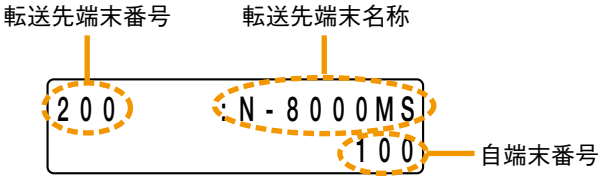
● 通話中（転送時）



● コールホールド



● 不在転送



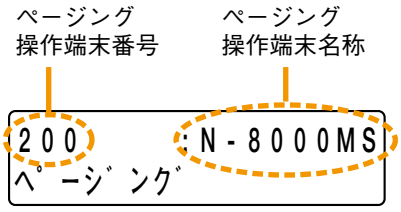
● ページング呼び出し

ページング系統番号　ページング系統名称

※ 選択ページングは最初の選択系統を表示。

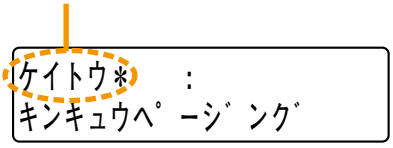
● ページング受信

ページング操作端末番号　ページング操作端末名称



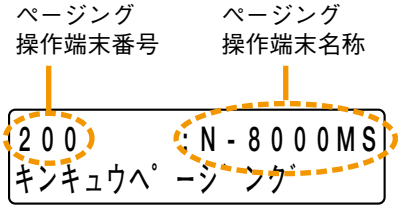
● 緊急一斉ページング呼び出し

ページング系統番号



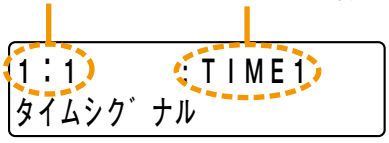
● 緊急一斉ページング受信

ページング操作端末番号　ページング操作端末名称



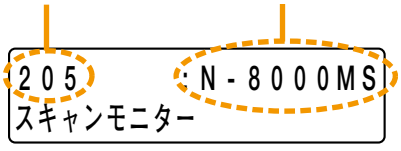
● タイムシグナル受信

機器番号：回線番号　スケジュール名

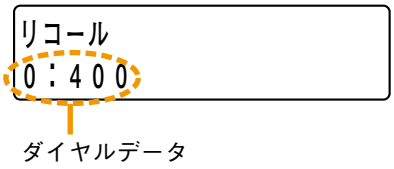


● スキャンモニター

モニター相手端末番号　モニター相手端末名称

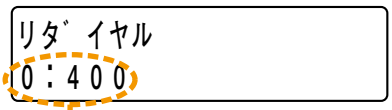


● リコール



ダイヤルデータ

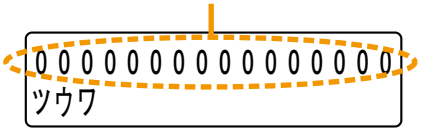
● リダイヤル



ダイヤルデータ

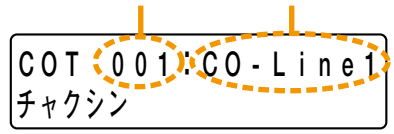
● 局線ダイヤル

N-8000COの局線番号（最終の16桁）



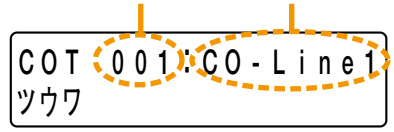
● 局線着信中

N-8000COの機器番号　N-8000COの局線名称



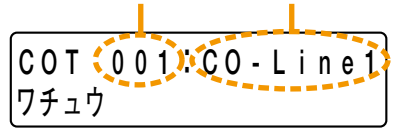
● 局線通話中

N-8000COの機器番号　N-8000COの局線名称



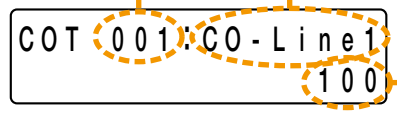
● 局線使用中

N-8000COの機器番号　N-8000COの局線名称



● 局線不在転送

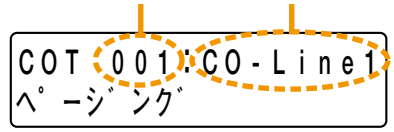
転送先のN-8000COの機器番号　転送先のN-8000COの局線名称



自端末番号

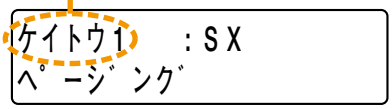
● 局線ページング受信

N-8000COの機器番号　N-8000COの局線名称

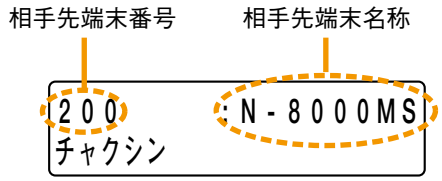


● ゾーン選択放送

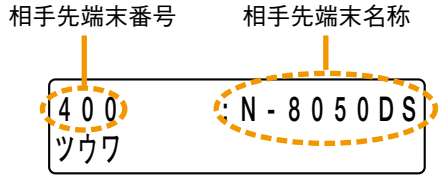
SX-2000システムのシステムID番号



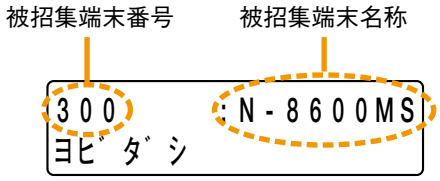
● 音声アラーム着信



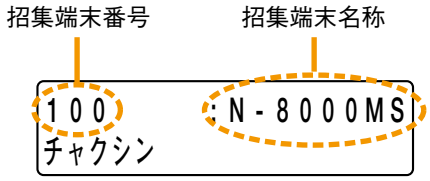
● 音声アラーム通話



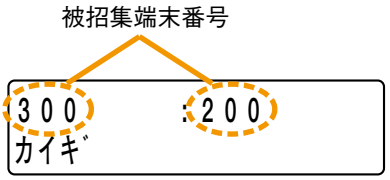
● 3者会議呼び出し中（招集者）



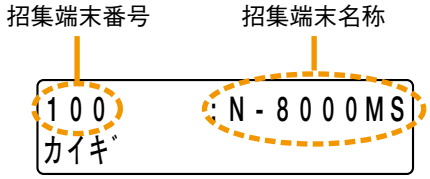
● 3者会議着信中（被招集者）



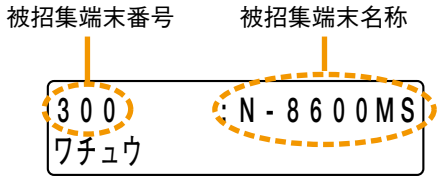
● 3者会議中（招集者）



● 3者会議中（被招集者）

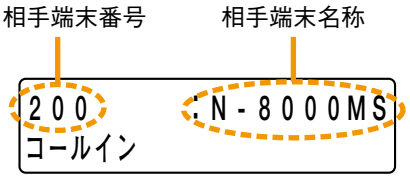


● 3者会議話中（招集者）

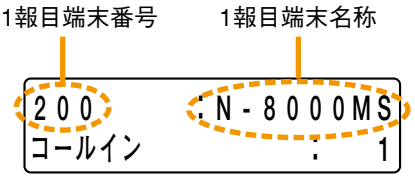


● 選択応答

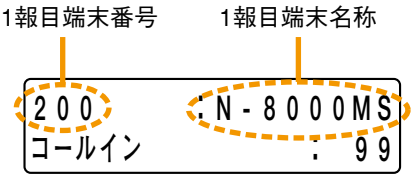
・着信（話中待ちなし）



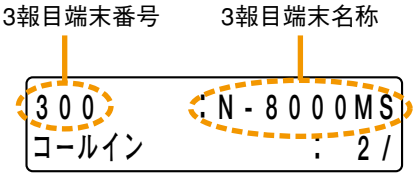
・着信（話中待ち1）



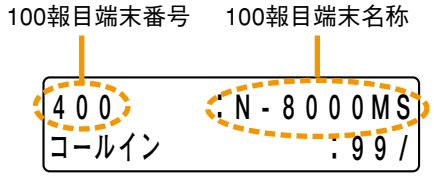
・着信（話中待ち99）



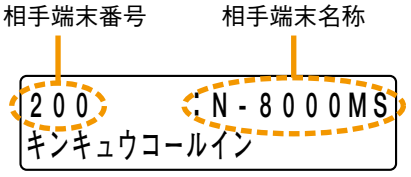
・3報目表示（すべて通常着信）



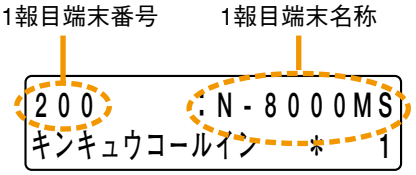
・100報目表示（すべて通常着信）



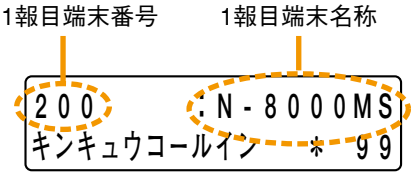
・緊急着信（話中待ちなし）



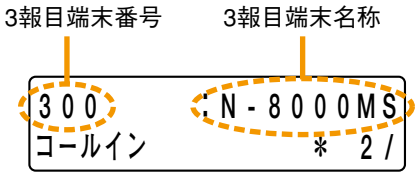
・緊急着信（緊急含む話中待ち1）



・緊急着信（緊急含む話中待ち99）

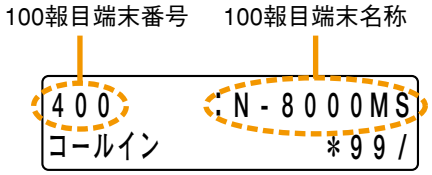


・3報目表示（3報目は通常着信だが、上位に緊急着信がある）

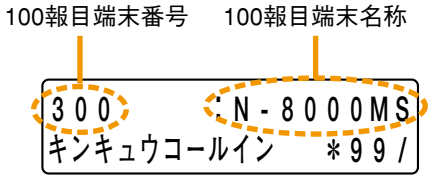


・3報目表示（3報目は緊急着信）

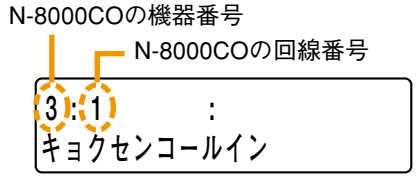
・100報目表示（100報目は通常着信だが、上位に緊急着信がある）



・100報目表示（100報目は緊急着信）

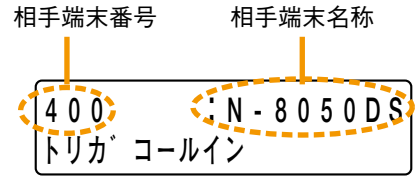


・局線着信（話中待ちなし）



※ 話中待ちなどは上記他例と同様

・音声トリガー着信（話中待ちなし）



※ 話中待ちなどは上記他例と同様

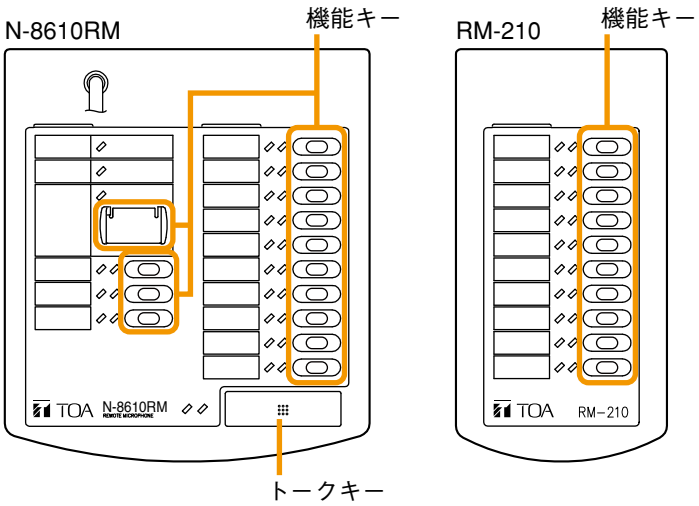
リモートマイク端末の機能と操作のしかた

機能キーに割り当てできる機能

リモートマイク端末 N-8610RM およびリモートマイク拡張ユニット RM-210 の機能キーには、下表のいずれかの機能を割り当てることができます。

リモートマイク端末に IP マスター端末が持つキーの機能を割り当てると、ハンドセットおよび液晶表示に関する機能を除き、IP マスター端末と同じ機能を実現できます。
IP マスター端末と同じ機能と操作については、P. 2-2「マスター端末の機能と操作のしかた」をお読みください。

リモートマイク端末独自の機能と操作については後述します。機能キーについては、割り当てられた機能の名称で説明しています。（例：ページング系統キー）



	割り当てできる機能	機能の説明
N-8000 システムの機能	ページング系統選択	ページング呼び出しをする系統または系統のパターンを選択します。
	ページング系統の全選択解除	ページング呼び出し時に選択したすべての系統の選択を解除します。
	ダイヤル（0 ～ 9、＊ / ▼、＃ / ▲）、クリア、ページング呼び出し、ページング応答、保留、転送、機能、リダイヤル	N-8000 システムの端末のキーと同じ機能です。
	PTT	呼び出しに応答するときなどに使います。
	音量アップ	通話中に端末スピーカー音量を大きくします。
	音量ダウン	通話中に端末スピーカー音量を小さくします。
	プライバシー	着信を拒否するときに使います。スイッチパネル RS-140 のプライバシー機能とは一部仕様が異なります。
	端末番号	特定の端末への呼び出しまたは応答をします。
	ダイヤルパターン	ダイヤルパターンを起動します。
	シフト	他のキーと組み合わせて使います。（☞ P. 2-114）
	マイクインジケーター	放送状態表示灯をマイクインジケーターに切り換えます。
SX-2000 システムの機能	ゾーン選択	SX-2000 システムへの放送時に放送するゾーンまたはゾーンのパターンを選択します。制御出力パターンを含めることもできます。
	ゾーンの全選択解除	SX-2000 システムへの放送時に選択したすべてのゾーンの選択を解除します。
	業務放送パターン	SX-2000 システムの業務放送パターンを起動、終了します。
	BGM パターン変更	SX-2000 システムの BGM パターンを起動します。
	BGM パターン終了	SX-2000 システムの BGM パターンを終了します。
	制御出力	SX-2000 システムの制御出力を起動、終了します。

※ 機能の割り当ては N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-76）

リモートマイク端末でできること

機能		操作（参照ページ）	備考
リモートマイク端末固有の機能（または固有の操作をする機能）	呼び出し（端末番号）	P. 2-94	機能キーにダイヤルキー以外の各機能を割り当てます。
	応答（着信優先）	P. 2-95	
	応答（選択応答）	P. 2-96	
	終話	P. 2-94、2-95、2-96	
	ページング呼び出し	P. 2-101	
	端末スピーカー音量の変更	P. 2-97	
	ダイヤルパターン起動	P. 2-99	
	プライバシー	P. 2-100	
	ゾーン選択放送	P. 2-105	
	マイクインジケーター	P. 2-114	
	業務放送パターン起動	P. 2-109	
	BGM パターン変更／終了	P. 2-110	
	制御出力起動	P. 2-110	
	組み合わせ起動	P. 2-111	
マスター端末と同様の機能	呼び出し（個別）	P. 2-2	機能キーにダイヤルキーを割り当てると、マスター端末と同様の左記の機能が実現できます。
	ワンタッチダイヤル	P. 2-99	
	保留	P. 2-15	
	転送	P. 2-16	
	自動転送	P. 2-18	
	代理応答（着信優先）	P. 2-23	
	緊急割り込み（着信優先）	P. 2-25	
	ページング呼び出し	P. 2-26	
	ページング応答	P. 2-32	
	スキャンモニター	P. 2-45	
IP マスター端末と同様の機能	緊急メッセージ放送	P. 2-75	機能キーにページング呼び出しキーを割り当てます。
IP マスター端末 N-8600MS と同様の機能	ダイヤルパターン起動	P. 2-14	機能キーにダイヤルキーを割り当てると、IP マスター端末 N-8600MS と同様の左記の機能が実現できます。
	SX-2000 システムへのゾーン選択放送	P. 2-34	
	SX-2000 システムへの業務放送（業務パターン起動／終了）	P. 2-35	
	SX-2000 システムへの BGM 放送（BGM パターン変更／終了）	P. 2-36	
	SX-2000 システムへの制御出力起動／終了	P. 2-38	
	組み合わせ起動	P. 2-40	

リモートマイク RM-200SA との機能対比表

SX-2000 システムへの放送について、リモートマイク端末 N-8610RM と SX-2000 システムのリモートマイク RM-200SA との機能の違いは下表のとおりです。

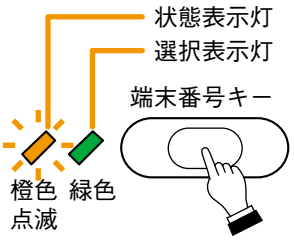
SX-2000 システムへの放送の種類	リモートマイク端末 N-8610RM	リモートマイク RM-200SA
ゾーン選択放送	○	○
BGM パターン変更／終了	○	○
業務パターン起動	○	○
業務 EV 放送	―	○
緊急一斉放送	―	○
緊急放送	―	○

通話機能と操作のしかた

■ 呼び出す

● 端末番号キーを使う方法

1 **呼び出したい端末番号が設定された端末番号キーを押す。**

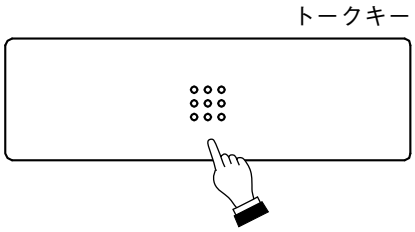


発呼端末の内部スピーカーから呼び出し音が聞こえます。
※ 話中音が聞こえたら、そのままお待ちください。相手の通話が終わり次第、呼び出します。

2 **呼び出し音が止まり、呼び出された端末が応答したら、マイクに向かって話す。**

※ 通話応答モード*が「着信優先」で自動着信モード*に設定されている場合は、呼び出し音が１度鳴った後、すぐに通話を始めることができます。それ以外の場合は、呼び出し音が鳴り続けます。呼び出された端末が応答すると、呼び出し音が止まり、通話を始めることができます。

3 **通話を終えるときは、トークキーを押す。**



* 通話応答モードおよび着信モードの設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェア（ ☞ P. 5-29、5-68）で行います。

ご注意

呼び出しまたは通話の制限時間が設定されていると、制限時間が経過すると自動的に呼び出しまたは通話が終了します。
制限時間（10 ～ 990 秒で 10 秒単位）は、あらかじめ付属の N-8000 設定ソフトウェアで端末ごとに設定されています。（ ☞ P. 5-66）

● ダイヤルキーを使う方法

機能キーにダイヤルキーを割り当てているときは、マスター端末の個別呼び出しと同じダイヤル操作で呼び出すこともできます。（ ☞ P. 2-2）

■ 呼び出しを受ける（着信優先設定時）

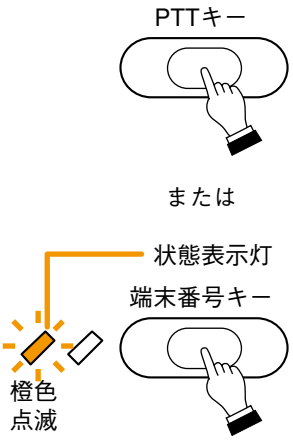
1 呼び出しを受けて、通話する。

1-1 着信モードが「自動着信モード」*に設定されているとき

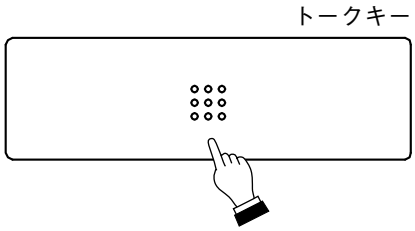
呼び出し音が１度鳴った後、すぐに相手の声が内部のスピーカーから聞こえますので、そのままマイクに向かって話します。

1-2 着信モードが「連続呼び出しモード」*に設定されているとき

呼び出し音が鳴り続けます。
発呼端末番号が設定された端末番号キーがあるときは、そのキーの状態表示灯が点滅します。
PTT キーまたは状態表示灯が点滅している端末番号キーを押した後、マイクに向かって話します。



2 通話を終えるときは、トークキーを押す。



＊ 着信モードの設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェア（ ☞ P. 5-68）で行います。

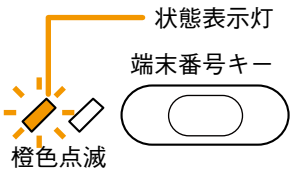
■ 呼び出しを受ける（選択応答設定時）

※ 選択応答設定時の着信モードは、連続呼び出しモードのみです。

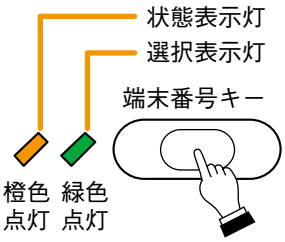
1 呼び出しを受けて、通話する。

1-1 端末を選択して応答する場合

呼び出しを受けると、発呼端末番号が設定された端末番号キーの状態表示灯が点滅します。

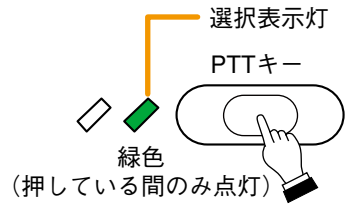


端末番号キーを押した後、マイクに向かって話します。
複数の端末からの呼び出しがあったときは、応答したい端末の端末番号キーを押してください。

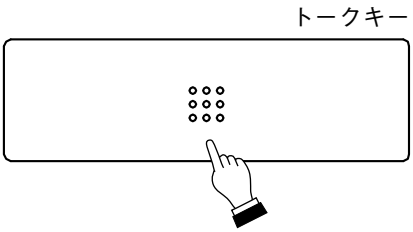


1-2 優先順位の一番高い端末に応答する場合

PTT キーを押した後、マイクに向かって話します。



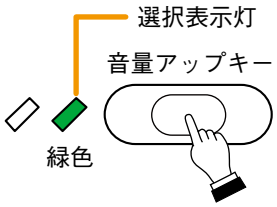
2 通話を終えるときは、トークキーを押す。



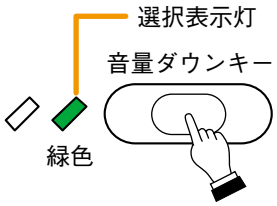
■ 端末スピーカー音量の設定

端末のスピーカーの音量は付属の N-8000 設定ソフトウェアであらかじめ設定できますが、端末からの操作でも調節することができます。
出力レベルは 5 段階（3 dB ステップ）で変更できます

・音量を大きくするには、通話中に音量アップキーを押す。



・音量を小さくするには、通話中に音量ダウンキーを押す。



■ 通話方式

● ハンズフリー通話

相手を呼び出したときや着信をしたときなどは、グースネックマイクと内蔵スピーカーを使用して、ハンズフリー通話ができます。

[2 者ともハンズフリー通話時の動作]

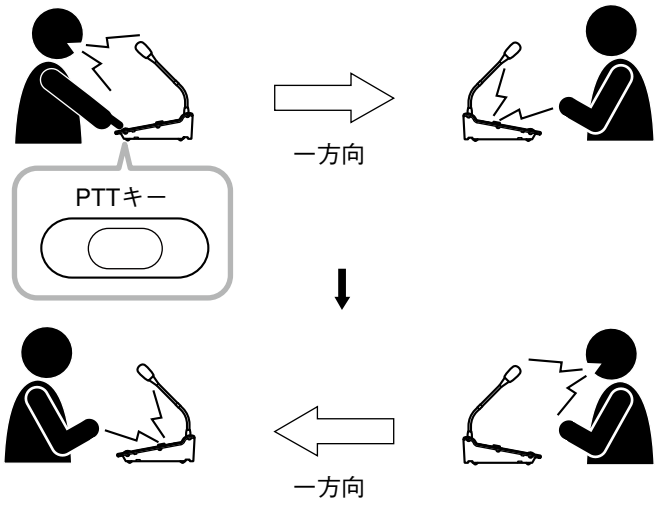
2 台の端末（N-8410MS/8616MS を除く）が両方ともハンズフリー通話をする場合、エコーキャンセラー*と音声スイッチを使った同時通話となります。この通話中はマイクで集音される音の変化に応じて、常に端末内部の設定（音の反射条件のパラメーター）を更新し、最適な通話になるようにしています。端末を新しい環境に設置した後や、端末の環境が大きく変化した後に、両方の端末がハンズフリー通話をした場合、ハウリングが起こることがありますが、しばらく通話を続けると正常に通話できるようになります。ただしハウリングがおさまらない場合は、マイク感度・スピーカー出力の調節を行ってください。

※ マイク感度・スピーカー出力の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェア（ ☞ P. 5-68）で行います。

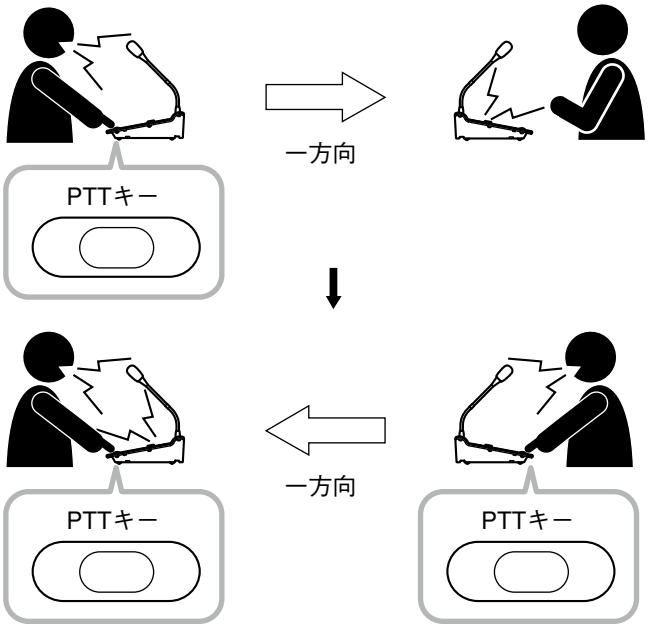
* エコーキャンセラー機能は、端末のスピーカーから出る音がマイクで集音されることにより起こるハウリングを抑制する機能ですが、ハウリングを完全に抑制することができないため、通常は、音声スイッチと併用して使用されます。

● PTT 通話

周囲騒音が大きい場所にいる相手との通話中に使用します。
ハンズフリー通話中に、PTT キーを押すと、押した側からの一方向通話になり、離すと相手側からの一方向通話になります。



両端末が操作している場合は、後押し優先となります。

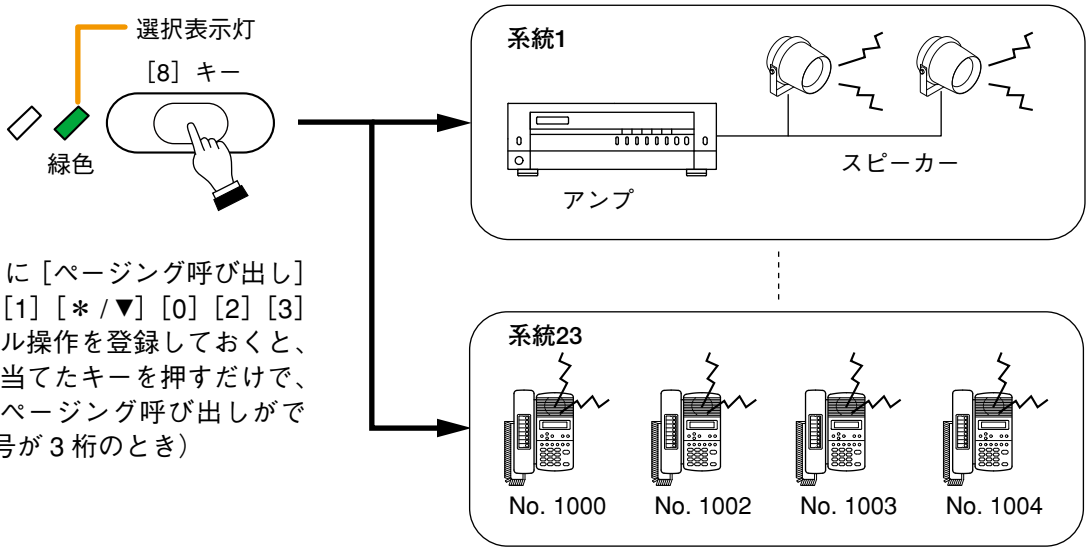


■ ワンタッチダイヤル

端末ごとに、[7]、[8]、[9]、[0] キーにあらかじめ最大 32 桁のダイヤル操作*を登録しておくと、ワンタッチでページングなどができます。

* 0 ～ 9、＊ / ▼、＃ / ▲、ページング呼び出し、ページング応答、保留、転送、機能

（例）



例えばダイヤル 8 に［ページング呼び出し］［＊ / ▼］［0］［0］［1］［＊ / ▼］［0］［2］［3］［＃ / ▲］のダイヤル操作を登録しておくと、ダイヤル 8 に割り当てたキーを押すだけで、系統 1 と 23 へのページング呼び出しができます。（系統番号が 3 桁のとき）

※ ワンタッチダイヤルの登録は、付属の N-8000 設定ソフトウェア（ ☞ P. 5-71）で行います。

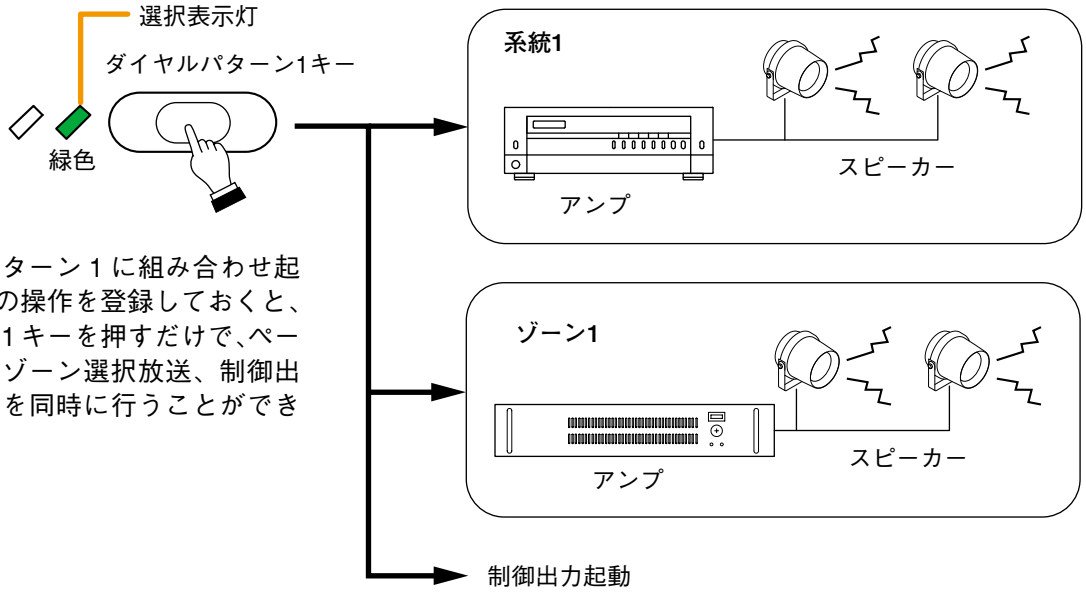
■ ダイヤルパターン起動

● ダイヤルパターンキーを使う方法

あらかじめダイヤル操作（最大 380 桁）をダイヤルパターンとして登録し、ダイヤルパターンキーにダイヤルパターン番号を割り当てておくと、ワンタッチでページングなどができます。

ダイヤルパターンキーを押す。

（例）



例えばダイヤルパターン 1 に組み合わせ起動（ ☞ P. 2-42）の操作を登録しておくと、ダイヤルパターン 1 キーを押すだけで、ページング呼び出し、ゾーン選択放送、制御出力パターンの起動を同時に行うことができます。

※ ダイヤルパターンに登録できるキーは、ダイヤルキー（12 種類）、ページング呼び出しキー、ページング応答キー、保留キー、転送キー、機能キーです。
※ ダイヤルパターンの登録は、付属の N-8000 設定ソフトウェア（ ☞ P. 5-80）で行います。

● ダイヤルキーを使う方法

機能キーにダイヤルキーを割り当てているときは、N-8600MS のダイヤルパターン起動と同じダイヤル操作でダイヤルパターンを起動することもできます。（☞ P. 2-14）

プライバシー機能を使う

プライバシー機能とは、緊急一斉ページング以外のページング、スキャンモニター、および呼び出しを受け付けないようにする機能です。

ご注意

リモートマイク端末が以下の状態のときのみ、プライバシー状態の設定または解除ができます。

待ち受け状態
ページング（緊急一斉ページングを除く）受信中
BGM 受信中

発信、着信、通話、ページング呼び出しなどを行っているときに操作しても無効になります。

● プライバシー状態にする

プライバシーキーの状態表示灯が消灯しているときに、プライバシーキーを押す。

プライバシー状態になり、状態表示灯が点灯します。

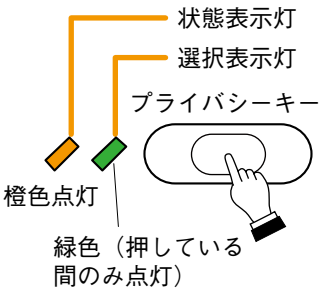
※ プライバシー状態でも、端末番号キーを押すと、マスター端末または電話機を呼び出して通話状態にすることができます。通話が終わると、元のプライバシー状態に戻ります。

※ プライバシー状態のときは、着信が拒否されます。マスター端末または電話機からプライバシー状態のリモートマイク端末を呼び出すと、マスター端末または電話機側では、エラートーンが鳴った後、自動的に終了します。リモートマイク側では、着信音も鳴りません。

※ グループ呼び出しのメンバー端末にプライバシー状態のリモートマイク端末があれば、その端末を除いた代表端末、メンバー端末に着信します。

※ ページングの呼び出し先にプライバシー状態のリモートマイク端末があれば、その端末を除いた呼び出し先の端末へページングすることができます。

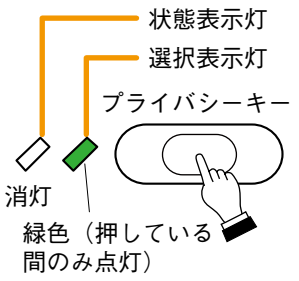
※ マスター端末または電話機からプライバシー状態のリモートマイク端末にスキャンモニターをすると、マスター端末または電話機側ではビジートーンが聞こえ、次の端末をモニターします。



● プライバシー状態を解除する

プライバシーキーの状態表示灯が点灯しているときに、プライバシーキーを押す。

プライバシー状態が解除され、状態表示灯が消灯します。



ページング機能と操作のしかた

■ ページング呼び出し

ページング呼び出し操作ができる端末は、あらかじめ設定されています。
また、端末ごとに、あらかじめ制限時間（10 ～ 990 秒で 10 秒単位）を決めておくと、ページングの呼び出し放送時間を制限できます。

※ ページング操作の可否および制限時間の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。
（ ☞ P. 5-66、5-70）

● 系統選択キーを使う方法

あらかじめ設定された系統（ページング系統、ページング系統パターン*）に呼び出し放送ができます。

* 複数のページング系統をグループにしたもの

※ 系統の設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（ ☞ P. 5-123）

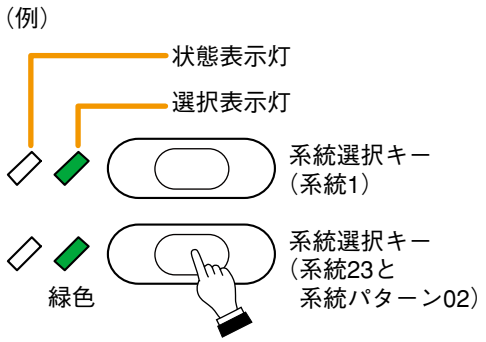
［トークキーが「LOCK」に設定されているとき］

1 **系統選択キーを押す。（系統の選択）**

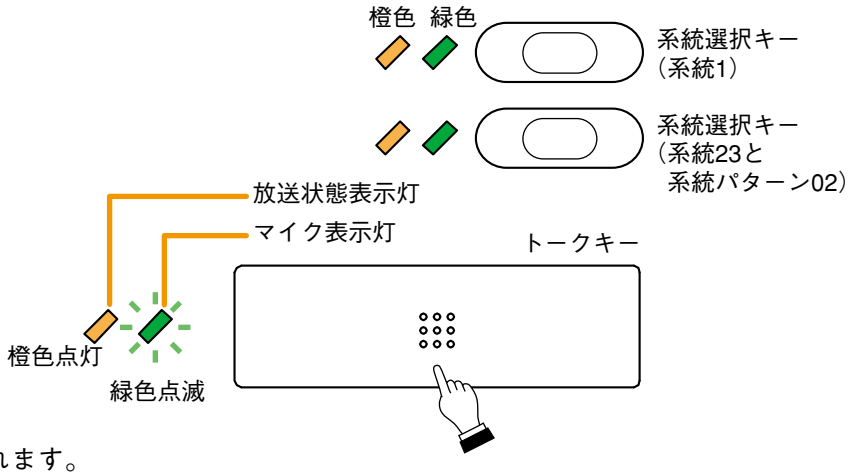
複数のキーを順次押し、ページング系統およびページング系統パターンを組み合わせて選択することもできます。
選択したキーの選択表示灯が緑色に点灯します。

メ　モ

- 選択を解除するには、もう一度系統選択キーを押します。
- すべての系統の選択を解除するには、系統の全選択解除キーを押します。



2 **トークキーを押す。（ページング呼び出しの開始）**



ページング予鈴音が放送されます。
このとき、端末に内蔵されているスピーカーからページング予鈴音が聞こえます。
ページング予鈴音放送中は、トークキーのマイク表示灯が緑色で点滅します。

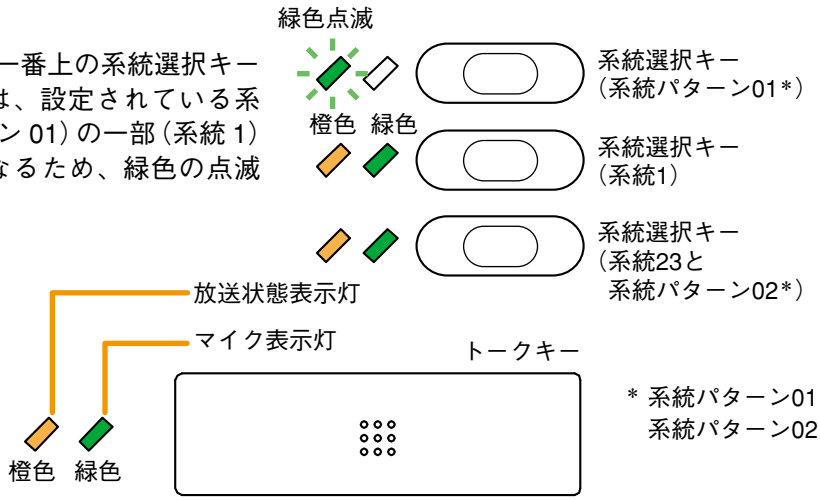
※ ページング予鈴音なしに設定することもできます。ページング予鈴音の設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（ ☞ P. 5-66）

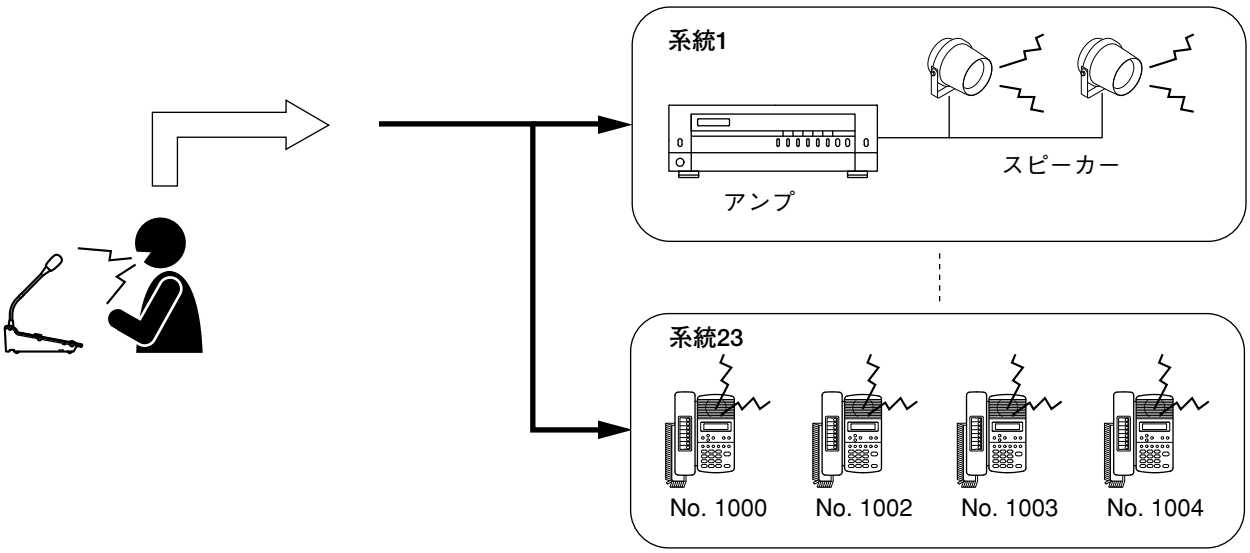
3 トークキーのマイク表示灯が緑色の点灯に変わったら、マイクに向かって話す。

メ　モ

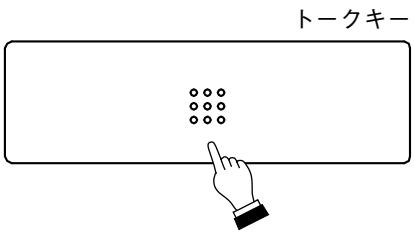
手順１で押したキー以外の系統選択キーに放送中の系統の一部が設定されている場合は、そのキーの状態表示灯が緑色に点滅します。

※ 右図の例では、一番上の系統選択キーの状態表示灯は、設定されている系統（系統パターン 01）の一部（系統 1）が放送状態になるため、緑色の点滅になります。





4 トークキーを押す。（ページング呼び出しの終了）



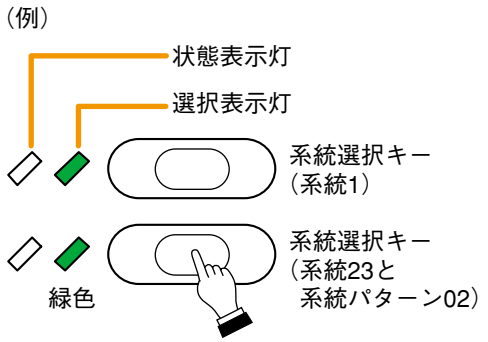
［トークキーが「PTT」に設定されているとき］

1 系統選択キーを押す。（系統の選択）

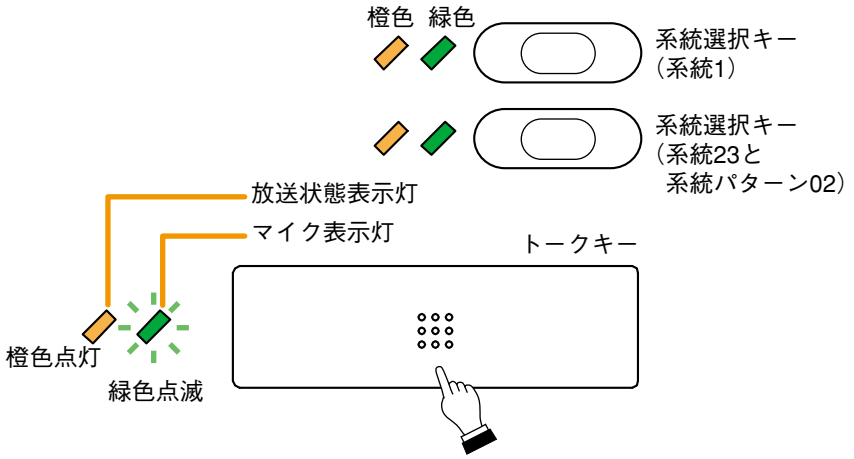
複数のキーを順次押し、ページング系統およびページング系統パターンを組み合わせて選択することもできます。
選択したキーの選択表示灯が緑色に点灯します。

メ　モ

- 選択を解除するには、もう一度系統選択キーを押します。
- すべての系統の選択を解除するには、系統の全選択解除キーを押します。



2 トークキーを押し続ける。（ページング呼び出しの開始）



ページング予鈴音が放送されます。
このとき、端末に内蔵されているスピーカーからページング予鈴音が聞こえます。
ページング予鈴音放送中は、トークキーのマイク表示灯が緑色で点滅します。

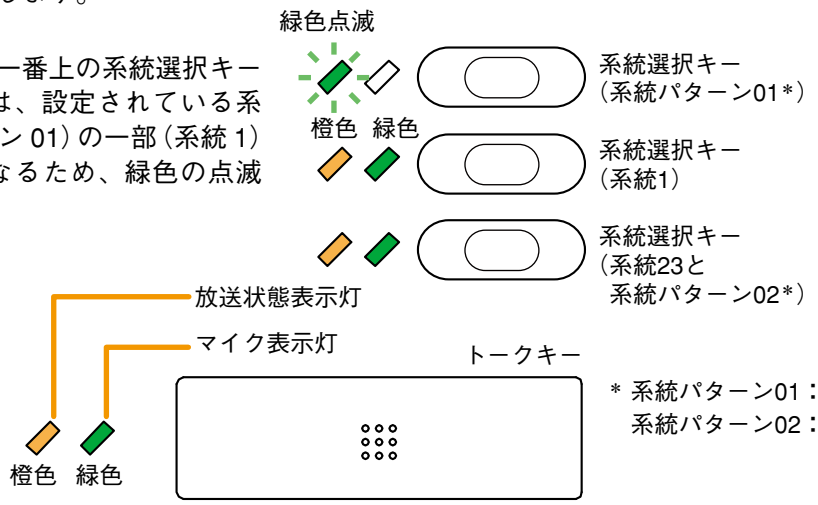
※ ページング予鈴音なしに設定することもできます。ページング予鈴音の設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-66）

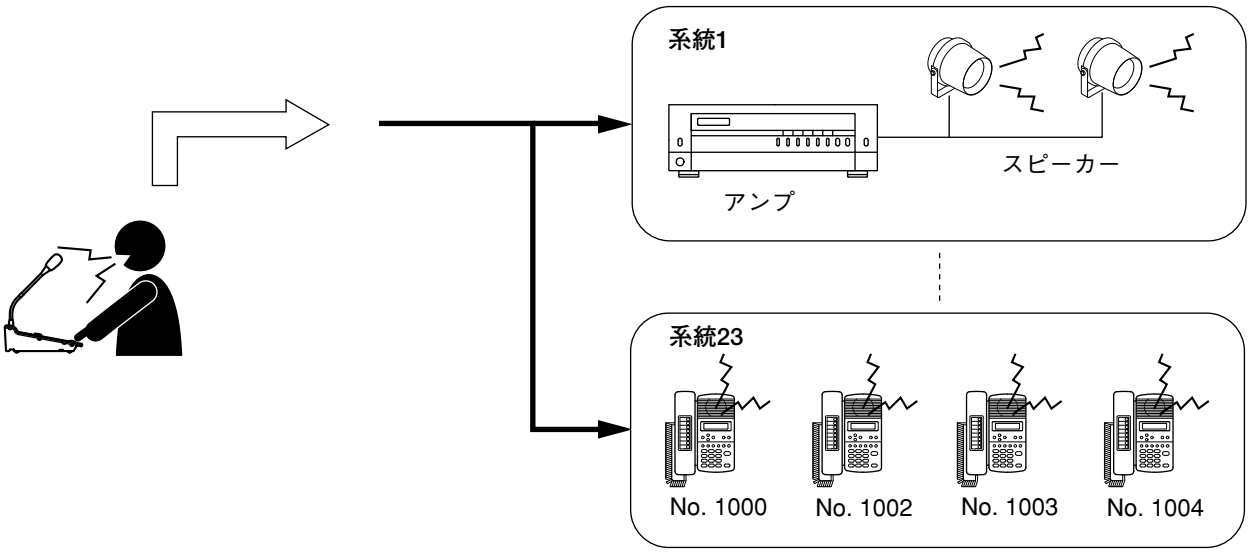
3 トークキーのマイク表示灯が緑色の点灯に変わったら、トークキーを押したまま、マイクに向かって話す。

メ　モ

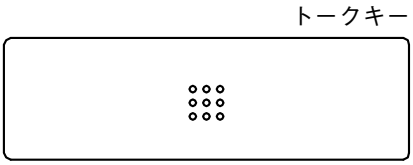
手順 1 で押したキー以外の系統選択キーに放送中の系統の一部が設定されている場合は、そのキーの状態表示灯が緑色に点滅します。

※ 右図の例では、一番上の系統選択キーの状態表示灯は、設定されている系統（系統パターン 01）の一部（系統 1）が放送状態になるため、緑色の点滅になります。





4 トークキーから指を離す。（ページング呼び出しの終了）



● ダイヤルキーを使う方法

機能キーにダイヤルキーを割り当てているときは、マスター端末の選択ページングと同じダイヤル操作（☞ P. 2-27）でページング呼び出しができます。

■ ページング応答

ページング呼び出しを聞いた人が最寄りの端末で応答操作をすると、ページング操作した端末を呼び出して通話ができます。ページング応答キーでマスター端末と同様に操作できます。
詳細はマスター端末のページング応答のしかたをお読みください。（☞ P. 2-32）

SX-2000 システムへの放送（SX-200IP 使用時のみ）

■ ゾーン選択放送

SX-2000 システムのゾーン（ゾーン、ゾーンのパターン*）へ放送することができます。
端末ごとに、あらかじめ制限時間（1 ～ 20 分で 1 分単位）を決めておくと、放送時間を制限できます。（トークキーが「LOCK」に設定されているときのみ）

* 複数のゾーンをグループにしたもの

※ ゾーンのパターンの設定は N-8000 設定ソフトウェアで行います。SX-2000 設定ソフトウェアで行った出力ゾーンパターンの設定をインポートすることもできます。（☞ P. 5-80）

※ 制限時間（Time out）の設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-75）

● ゾーン選択キーを使う方法

あらかじめ設定されたゾーン（ゾーン、ゾーンのパターン）に呼び出し放送ができます。

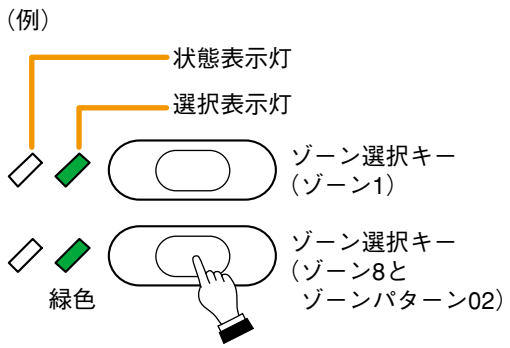
［トークキーが「LOCK」に設定されているとき］

1 **ゾーン選択キーを押す。（ゾーンの選択）**

複数のキーを順次押し、ゾーンおよびゾーンのパターンを組み合わせて選択することもできます。
選択したキーの選択表示灯が緑色に点灯します。

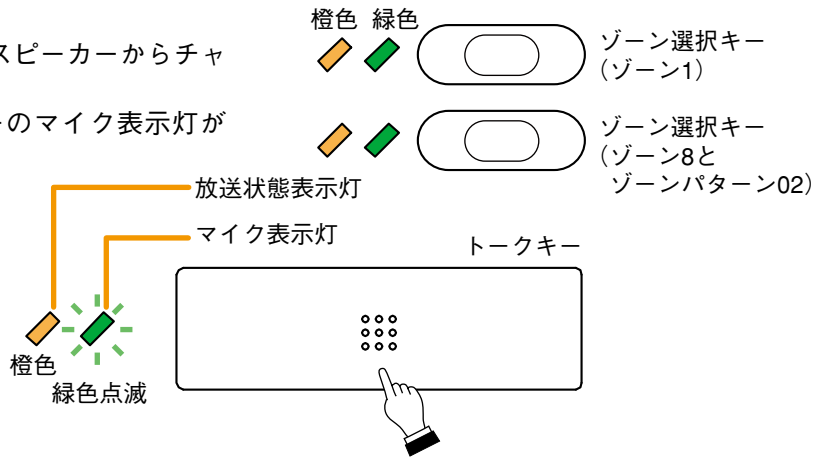
メ　モ

- 状態表示灯が緑色に点滅しているときは、そのゾーン選択キーに設定されているゾーンの一部またはすべてが他の機器で放送中です。
- 選択を解除するには、もう一度ゾーン選択キーを押します。
- すべてのゾーンの選択を解除するには、ゾーンの全選択解除キーを押します。



2 **トークキーを押す。（放送の開始）**

チャイム音が放送されます。
このとき、端末に内蔵されているスピーカーからチャイム音が聞こえます。
チャイム音放送中は、トークキーのマイク表示灯が緑色で点滅します。



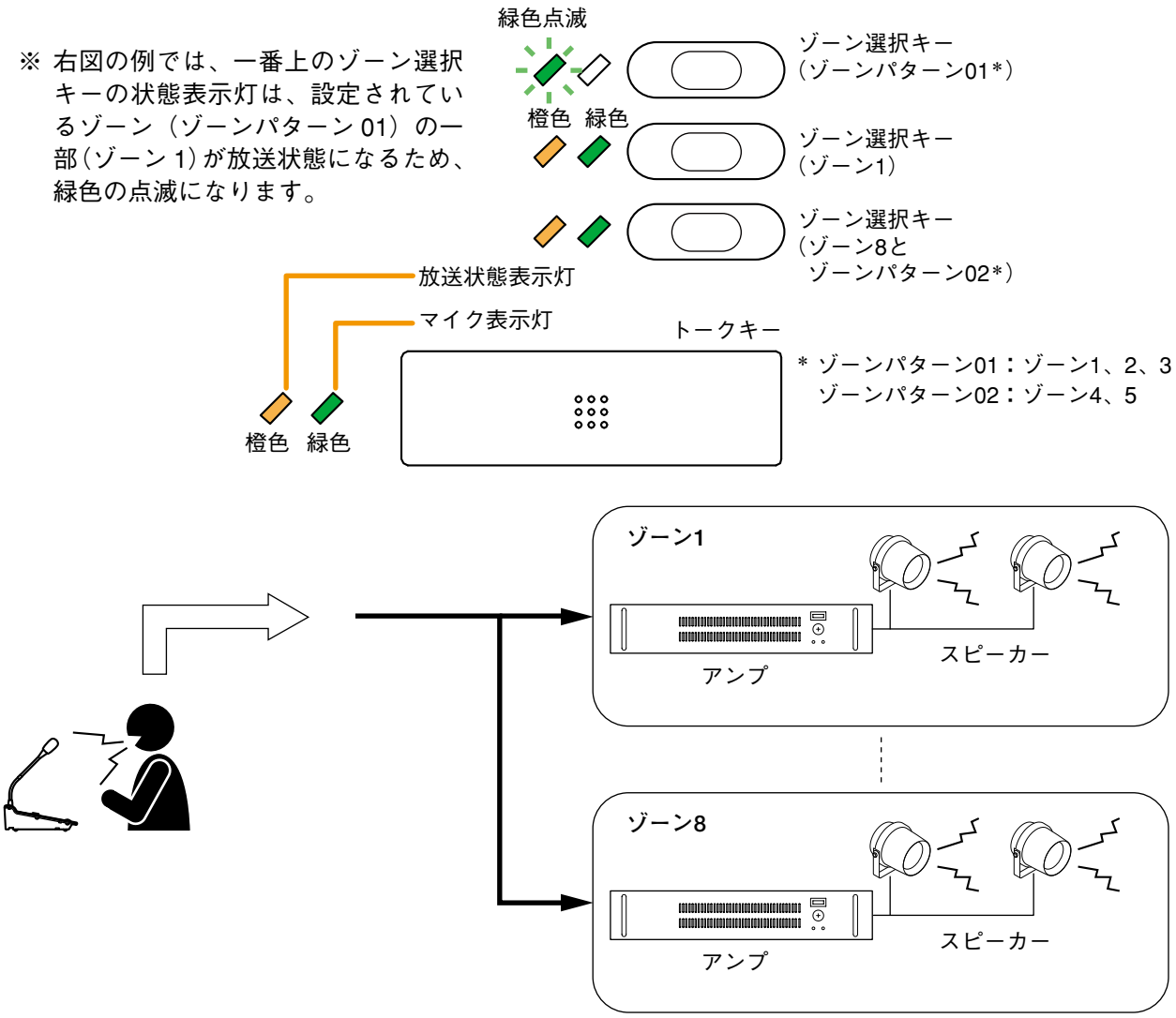
※ チャイム音なしに設定することもできます。チャイム音の設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-75）

3 トークキーのマイク表示灯が緑色の点灯に変わったら、マイクに向かって話す。

メ　モ

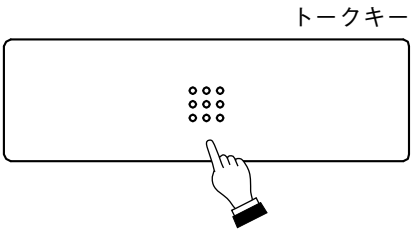
手順１で押したキー以外のゾーン選択キーに放送中のゾーンの一部が設定されている場合は、そのキーの状態表示灯が緑色に点滅します。

※ 右図の例では、一番上のゾーン選択キーの状態表示灯は、設定されているゾーン（ゾーンパターン 01）の一部（ゾーン 1）が放送状態になるため、緑色の点滅になります。



4 トークキーを押す。（放送の終了）

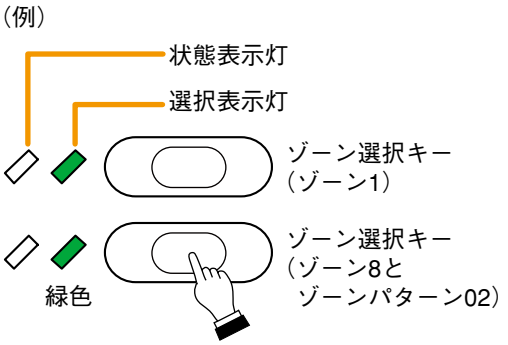
チャイム音が放送されます。
このとき、端末に内蔵されているスピーカーからチャイム音が聞こえます。



［トークキーが「PTT」に設定されているとき］

1 ゾーン選択キーを押す。（ゾーンの選択）

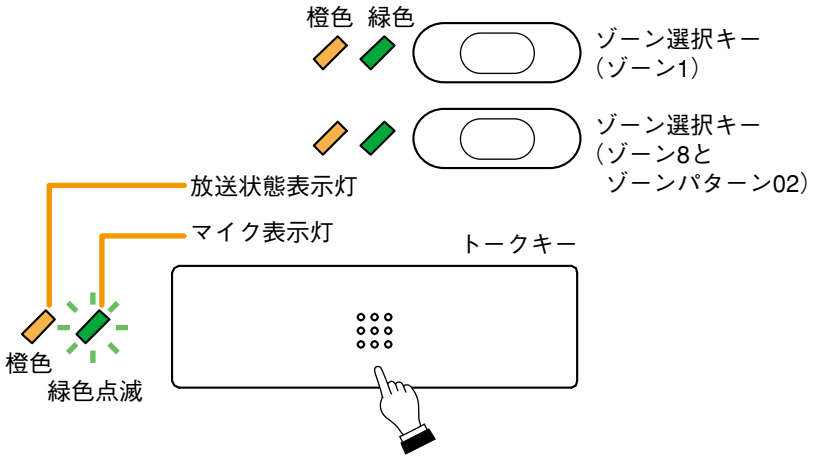
複数のキーを順次押し、ゾーンおよびゾーンのパターンを組み合わせて選択することもできます。
選択したキーの選択表示灯が緑色に点灯します。



メ　モ

- 状態表示灯が緑色に点滅しているときは、そのゾーン選択キーに設定されているゾーンの一部またはすべてが他の機器で放送中です。
- 選択を解除するには、もう一度ゾーン選択キーを押します。
- すべてのゾーンの選択を解除するには、ゾーンの全選択解除キーを押します。

2 トークキーを押し続ける。（放送の開始）



チャイム音が放送されます。
このとき、端末に内蔵されているスピーカーからチャイム音が聞こえます。
チャイム音放送中は、トークキーのマイク表示灯が緑色で点滅します。

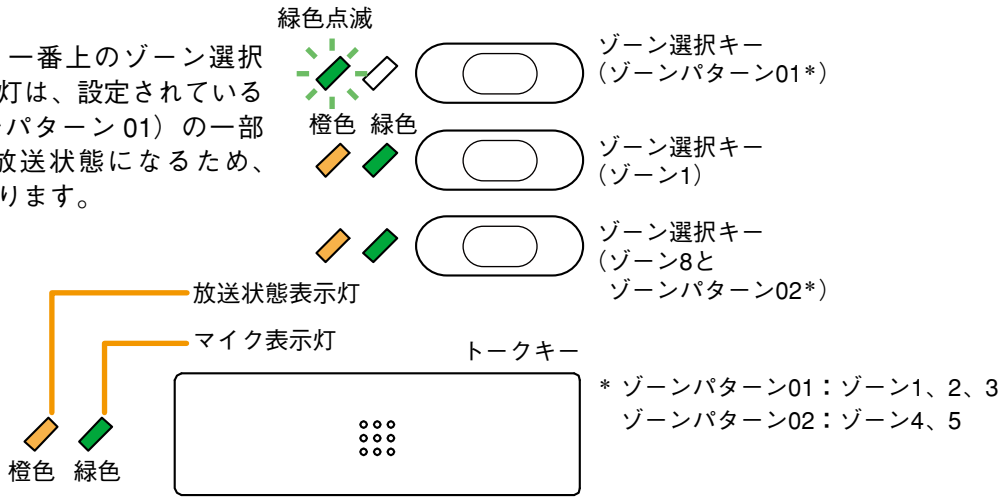
※ チャイム音なしに設定することもできます。チャイム音の設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-75）

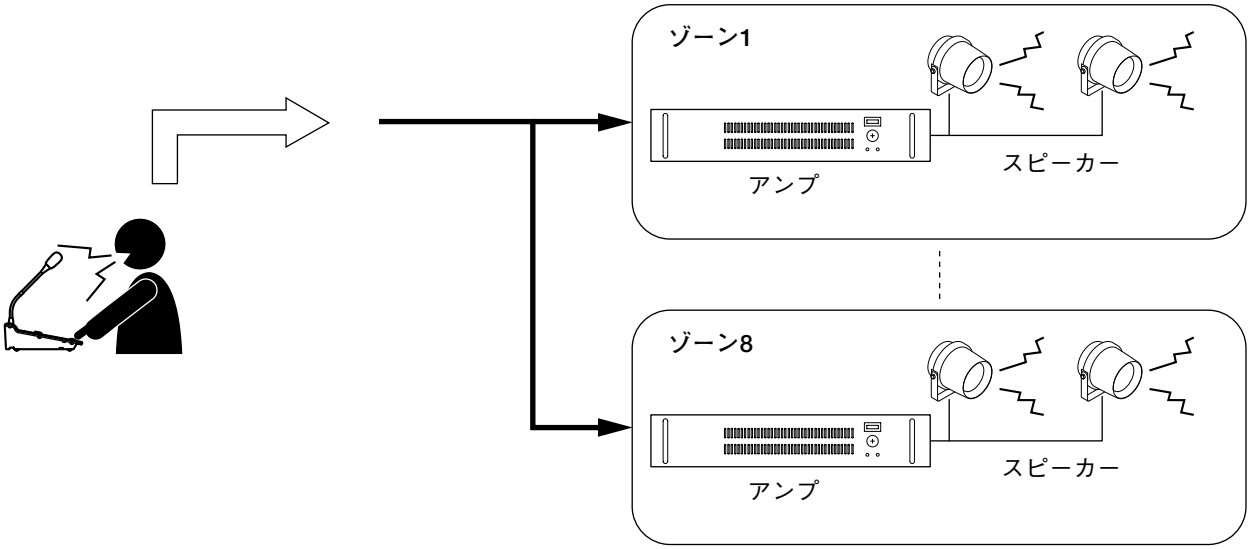
3 トークキーのマイク表示灯が緑色の点灯に変わったら、トークキーを押したまま、マイクに向かって話す。

メ　モ

手順 1 で押したキー以外のゾーン選択キーに放送中のゾーンの一部が設定されている場合は、そのキーの状態表示灯が緑色に点滅します。

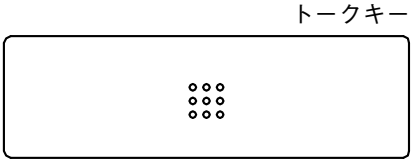
※ 右図の例では、一番上のゾーン選択キーの状態表示灯は、設定されているゾーン（ゾーンパターン 01）の一部（ゾーン 1）が放送状態になるため、緑色の点滅になります。





4 トークキーから指を離す。（放送の終了）

チャイム音が放送されます。
このとき、端末に内蔵されているスピーカーからチャイム音が聞こえます。



● ダイヤルキーを使う方法

機能キーにダイヤルキーを割り当てているときは、N-8600MS のゾーン選択放送と同じダイヤル操作（☞ P. 2-34）でゾーン選択放送ができます。

■ 業務放送

SX-2000 システムで設定された業務放送パターン* を起動することができます。

* 放送の音源、出力ゾーンなどをあらかじめ設定したもの。詳しくは SX-2000 シリーズのソフトウェア取扱説明書をお読みください。
N-8000 システムでは、N-8000 設定ソフトウェアにより、SX-2000 システムの設定をインポートし、制御入出力パターンとして使います。（☞ P. 5-80）

ご注意

N-8000 システムの端末から起動できる SX-2000 システムの業務パターン放送は、SX-2000 設定ソフトウェアにおいて、各機器の制御入力のイベントで「業務パターン放送（Level）」と設定されているものに限ります。

● 業務放送パターンキーを使う方法

1 **業務放送パターンキーを押す。**

設定された業務パターンが選択され、起動します。
業務パターンキーの選択表示灯が緑色に点灯します。

2 **業務放送パターンキーをもう一度押す。**

選択中の機能キーをもう一度押すことで、業務パターンが停止します。
業務パターンキーの選択表示灯が消灯します。

● ダイヤルキーを使う方法

機能キーにダイヤルキーを割り当てているときは、N-8600MS の業務放送パターン起動と同じダイヤル操作（☞ P. 2-35）で業務放送パターンの起動ができます。

■ BGM 放送

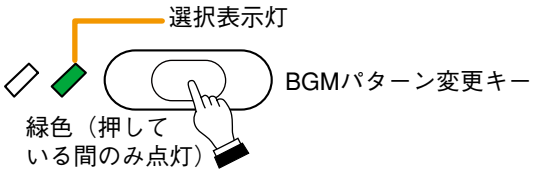
SX-2000 システムで設定された BGM パターン* を起動することができます。

* BGM 放送の音源、出力ゾーンなどをあらかじめ設定したもの。詳しくは SX-2000 シリーズのソフトウェア取扱説明書をお読みください。

● BGM パターン変更キーを使う方法

1 BGM パターン変更キーを押す。

設定された BGM パターンが選択され、起動します。
（他の BGM が放送されているときは、放送中の BGM は終了し、押したキーに設定された BGM パターンに変更されます。）



2 BGM パターン終了キーを押す。

BGM が終了します。
すべての表示灯が消灯します。

メ　モ

BGM パターン変更キーとは異なるキーを BGM パターン終了キーに設定しておきます。

● ダイヤルキーを使う方法

機能キーにダイヤルキーを割り当てているときは、N-8600MS の BGM パターン起動と同じダイヤル操作（☞ P. 2-36）で BGM 放送パターンの起動ができます。

■ 制御出力起動

SX-2000 システムの制御出力を起動することができます。

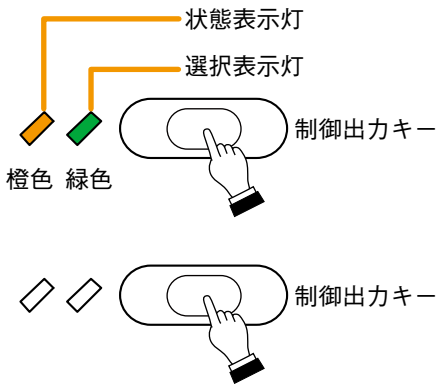
● 制御出力キーを使う方法

1 制御出力キーを押す。

設定された SX-2000 システムの制御出力が起動します。
選択表示灯が緑色に点灯、状態表示灯が橙色に点灯します。

2 もう一度制御出力キーを押す。

制御出力が終了します。
すべての表示灯が消灯します。



● ダイヤルキーを使う方法

機能キーにダイヤルキーを割り当てているときは、N-8600MS の制御出力起動と同じダイヤル操作（☞ P. 2-38）で制御出力の起動ができます。

■ 組み合わせ起動

● ゾーン選択放送と制御出力パターンの起動を同時に行う

ゾーン選択キーに制御出力パターンを登録しておくと、SX-2000 システムのゾーン（ゾーン、ゾーンのパターン*1）への放送と、SX-2000 システムの制御出力の起動を同時に行うことができます。ゾーン放送を終了すると同時に制御出力も終了します。
端末ごとに、あらかじめ制限時間（1 ～ 20 分で 1 分単位）を決めておくと、放送時間を制限できます。（トークキーが「LOCK」に設定されているときのみ）

*1 複数のゾーンをグループにしたもの

※ 制御出力パターン*2 の登録、ゾーンのパターン*2、および制限時間（Time out）設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-75、5-80）

*2 SX-2000 設定ソフトウェアで行った制御出力パターンまたは出力ゾーンのパターンの設定をインポートすることもできます。

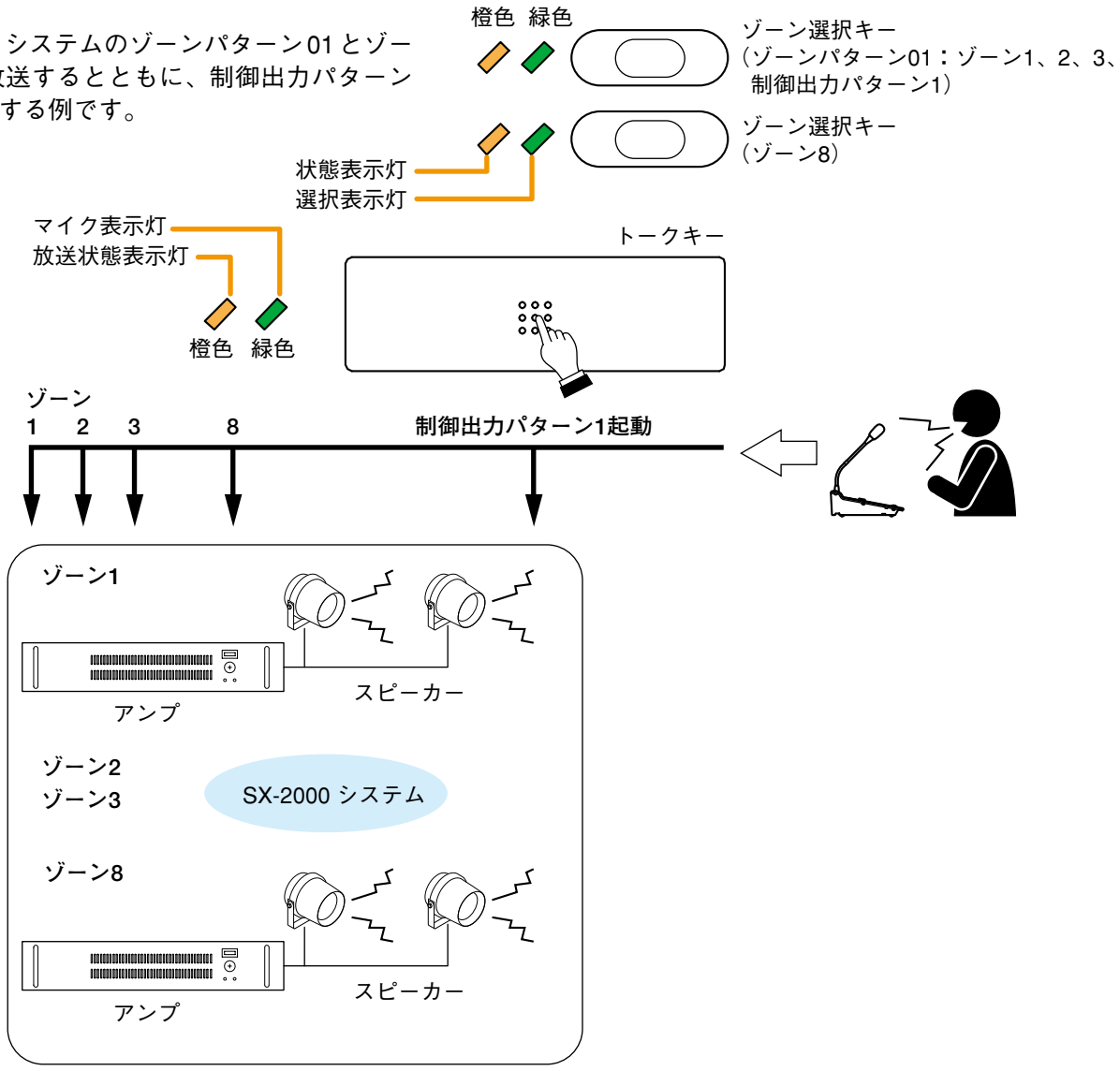
［操作のしかた］

操作はゾーン選択放送のとき（☞ P. 2-105）と同じです。

ご注意

制御出力キーを使って、制御出力の起動、終了をゾーン選択放送と連動させることはできません。
ゾーン選択キーを押した後に、制御出力キーを押すと、すぐに制御出力のみ起動します。

（例）
SX-2000 システムのゾーンパターン 01 とゾーン 8 に放送するとともに、制御出力パターン 1 を起動する例です。



● ページング呼び出し、ゾーン選択放送、制御出力の起動を同時に行う

N-8000 システムの系統（ページング系統、ページング系統パターン）への呼び出し放送、SX-2000 システムのゾーン（ゾーン、ゾーンのパターン）への放送を同時に行うことができます。ゾーン選択キーに制御出力パターンを登録しておくと、各放送に加えて、SX-2000 システムの制御出力の起動も同時に行うことができます。放送を終了すると同時に制御出力も終了します。
端末ごとに、あらかじめページング制限時間（10 ～ 990 秒で 10 秒単位）または Time out（1 ～ 20 分で 1 分単位）を決めておくと、放送時間を制限できます。

※ ページング呼び出しの系統、各制限時間の設定、および優先設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（ ☞ P. 5-123、5-66、5-75）
※ ゾーンのパターン*の設定および制御出力パターン*の登録は N-8000 設定ソフトウェアで行います。（ ☞ P. 5-80）
　* SX-2000 設定ソフトウェアで行った制御出力パターンまたは出力ゾーンのパターンの設定をインポートすることもできます。

メ　モ

N-8000 システムのページング呼び出しと SX-2000 システムのゾーン選択放送を同時に行うときは、両方とも、ページング予鈴音やチャイム音などについて、同じ動作になります。
N-8000 システムと SX-2000 システムのいずれの設定に従うかは、N-8000 設定ソフトウェアの優先設定（ ☞ P. 5-76）で決めておきます。
優先設定による動作は下表のようになります。

優先設定	動作
N-8000	ページング呼び出し、ゾーン選択放送ともに、N-8000 システムのページング予鈴音、ページング遅延時間、ページング時間制限の設定に従って動作します。 SX-2000 システム側へもチャイム音ではなく、ページング予鈴音が流れます。
SX-2000	ページング呼び出し、ゾーン選択放送ともに、SX-2000 システムのチャイム、待ち時間、Time out の設定に従って動作します。 N-8000 システム側へもページング予鈴音ではなく、チャイム音が流れます。

N-8000 システムへはページング予鈴音を流し、SX-2000 システムへはチャイム音を流すというように、それぞれの設定で動作させることはできません。

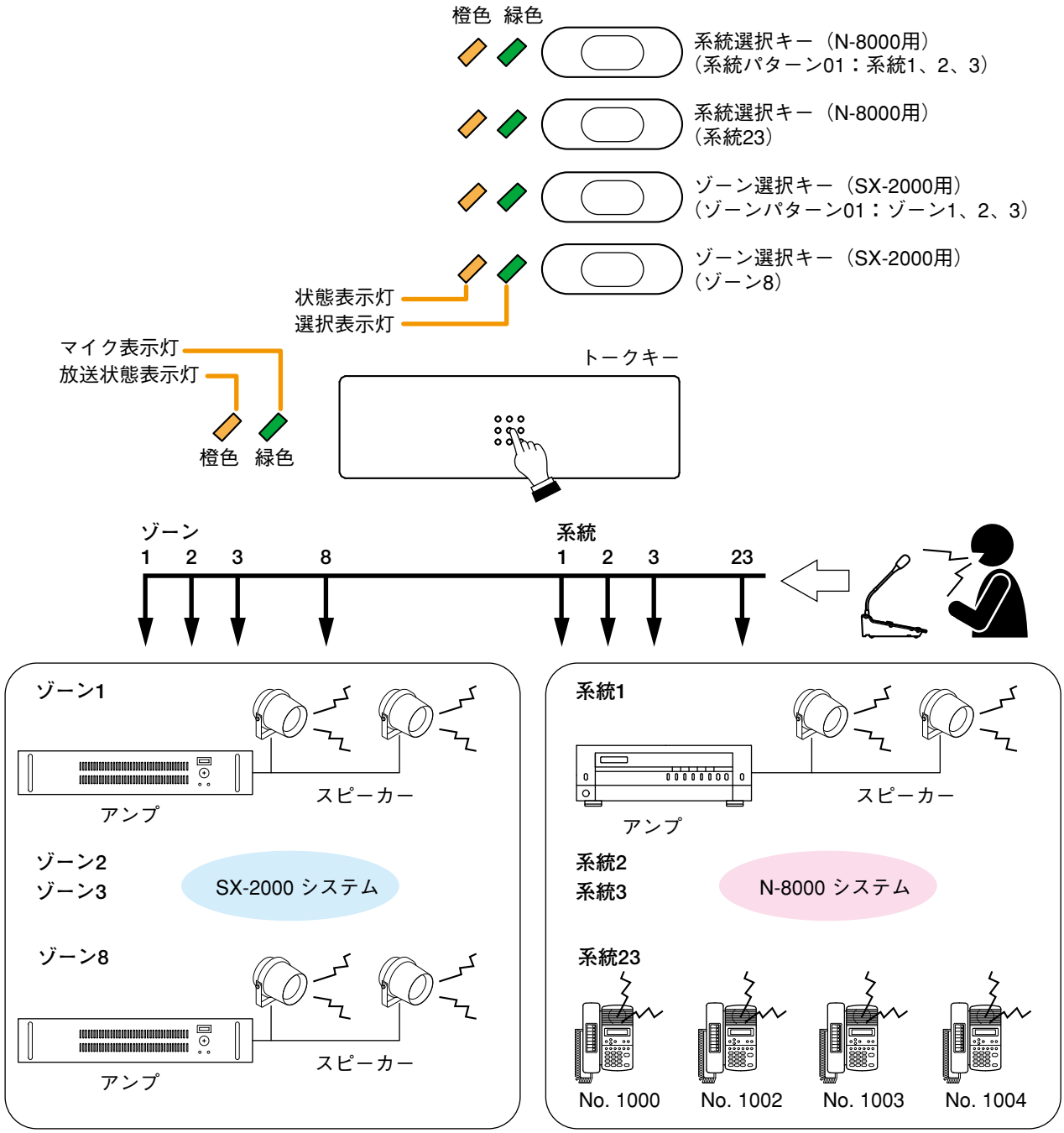
［操作のしかた］

基本的な操作はページング呼び出しのとき（ ☞ P. 2-101）およびゾーン選択放送のとき（ ☞ P. 2-105）と同じです。
系統およびゾーンの選択のときに、系統選択キー、ゾーン選択キーを順不同で複数選択することができます。
（次ページの例を参照）

ご注意

制御出力キーを使って、制御出力の起動、終了をページング呼び出し、ゾーン選択放送と連動させることはできません。
系統選択キー、ゾーン選択キーを押した後に、制御出力キーを押すと、すぐに制御出力のみ起動します。

（例）
N-8000 システムのページング系統パターン 01 と系統 23、SX-2000 システムのゾーンパターン 01 とゾーン 8 に放送する例です。



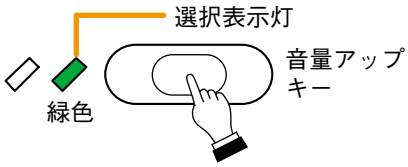
その他の機能

■ シフトキーの使いかた

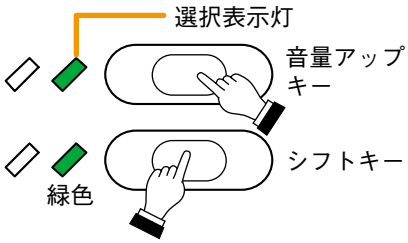
リモートマイク端末のキーには、キーを単独で使うときの機能と、シフトキーを同時に押しながら使うときの機能をあらかじめ設定しておくことができます。

（例）
例えば、単独で使うときの機能を「音量＋（音量アップ）」、シフトキーを同時に押しながら使うときの機能を「音量－（音量ダウン）」に設定し、以下のように操作します。

・音量を大きくするには、通話中に音量アップキーを押す。



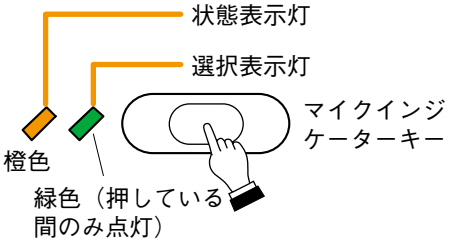
・音量を小さくするには、通話中に音量アップキーとシフトキーを同時に押す。



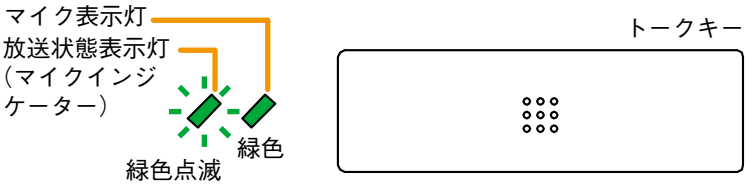
■ マイクインジケーター機能の使いかた

トークキーの左側にある放送状態表示灯の表示をマイクインジケーター表示に切り換えることができます。

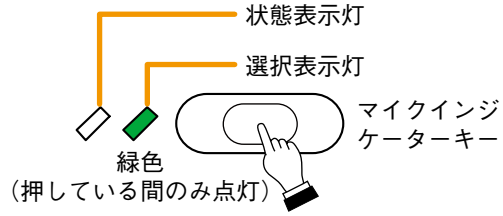
1 **マイクインジケーターキーを押す。**
放送状態表示灯がマイクインジケーターに切り換わります。



2 **マイクに向かって話す。**
放送状態表示灯が点滅します。
マイクから音声が入力されると緑色に点滅します。ピークレベル以上の音声が入力されたときは赤色に点滅します。



3 **もう一度マイクインジケーターキーを押す。**
放送状態表示灯の機能に戻ります。



リモートマイク端末での操作一覧表

リモートマイク端末固有の操作について記載します。
マスター端末と同様のものは「マスター端末での操作一覧表」（P. 2-83）を参照してください。

機能		操作	備考
呼び出し（端末番号）		端末番号キーを押す。	
応答（着信優先時）		（自動着信モード設定時） マイクに向かって話す。 （連続呼び出しモード設定時） PTT キーを押した後、マイクに向かって話す。	
応答（選択応答時）		（端末を選択して応答する場合） 状態表示灯が点滅している端末番号キーの中から応答したい端末のキーを押して選択した後、マイクに向かって話す。 （優先順位の一番高い端末に応答する場合） PTT キーを押した後、マイクに向かって話す。	
通話終了		トークキーを押す。	
端末スピーカー音量の設定	音量を大きくする	通話中に音量アップキーを押す。	
	音量を小さくする	通話中に音量ダウンキーを押す。	
通話	ハンズフリー通話	手を使わずに話す。	
	PTT 通話	ハンズフリー通話中に PTT キーを押す。	
短縮ダイヤル	ワンタッチダイヤル	[7]、[8]、[9]、[0] キーを押す。	
	ダイヤルパターン起動	ダイヤルパターンキーを押す。	
プライバシー	プライバシー ON	プライバシーキーの状態表示灯が消灯しているときに、プライバシーキーを押す。	
	プライバシー OFF	プライバシーキーの状態表示灯が点灯しているときに、プライバシーキーを押す。	
ページング呼び出し		（開始） 系統選択キーを押し、トークキーを押す。 ※ トークキー「PTT」設定時はトークキーを押しながら話す。 （終了） トークキー「LOCK」設定時：トークキーをもう一度押す。 トークキー「PTT」設定時　：トークキーを離す。	系統選択キーは複数選択可。
SX-2000 システムへの放送など	ゾーン選択放送	（開始） ゾーン選択キーを押し、トークキーを押す。 ※ トークキー「PTT」設定時はトークキーを押しながら話す。 （終了） トークキー「LOCK」設定時：トークキーをもう一度押す。 トークキー「PTT」設定時　：トークキーを離す。	ゾーン選択キーは複数選択可。
	業務放送	（開始）業務放送パターンキーを押す。 （終了）業務放送パターンキーをもう一度押す。	
	BGM 放送	（開始）BGM パターン変更キーを押す。 （終了）BGM パターン終了キーを押す。	
	制御出力起動	制御出力キーを押す。	
	制御出力停止	制御出力キーをもう一度押す。	
	組み合わせ起動（ゾーン選択放送＋制御出力パターン起動）	（開始） ゾーン選択キーを押し、トークキーを押す。 ※ トークキー「PTT」設定時はトークキーを押しながら話す。 （終了） トークキー「LOCK」設定時：トークキーをもう一度押す。 トークキー「PTT」設定時　：トークキーを離す。	ゾーン選択キーは複数選択可。 ゾーン選択キーに制御出力パターンを登録しておく必要あり。
	組み合わせ起動（ページング放送＋ゾーン選択放送＋制御出力パターン起動）	系統選択キー、ゾーン選択キーを押し、トークキーを押す。	系統選択キー、ゾーン選択キーは順不同で複数選択可。 制御出力パターンを起動するには、ゾーン選択キーに制御出力パターンを登録しておく必要あり。
マイクインジケーター		（機能 ON）マイクインジケーターキーを押す。 （機能 OFF）マイクインジケーターキーをもう一度押す。	

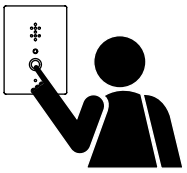
ドア端末の機能と操作のしかた

呼び出しをする

■ 呼び出しをする（着信優先設定時）

1 **呼び出しボタンを押す。**

※ あらかじめ登録されたマスター端末または電話機を呼び出します。



発呼端末の内部スピーカーから呼び出し音が聞こえます。

※ ドア端末がドアホンモードに設定されていない場合は、相手のマスター端末が話中のときに、話中音が聞こえます。話中音が聞こえたら、そのままお待ちください。相手の通話が終わり次第、呼び出します。

[ドア端末がドアホンモードに設定されている場合]

呼び出し相手の着信モードの設定に関係なく、呼び出し音は 1 回しか流れません。また、この場合は呼び出し制限時間が 30 秒に設定されますので、30 秒が経過しても相手が応答しないときは自動的に呼び出しが終了します。

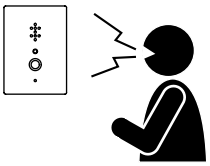
[ドア端末がドアホンモードに設定されていない場合]

相手のマスター端末が自動着信モードに設定されているときは、呼び出し音が 1 度鳴った後、すぐに通話を始めることができます。
相手のマスター端末が連続呼び出しモードに設定されているときは、呼び出し音が鳴り続けます。呼び出された端末が応答すると、呼び出し音が止まり、通話を始めることができます。

ご注意

ドア端末から呼び出しを終了することはできません。

2 **呼び出された端末が応答したら、通話を始める。**



[ドア端末がドアホンモードに設定されている場合]

通話制限時間が 30 秒に設定されますので、30 秒が経過すると自動的に通話が終了します。

メ　モ

マスター端末がハンドセットを取り上げる、保留キーや転送キーを押すなどの操作をすると、30 秒の制限はなくなります。

[ドア端末がドアホンモードに設定されていない場合]

相手のマスター端末または電話機が通話終了の操作をするまで通話できます。

ご注意

ドア端末から通話を終了することはできません。

※ 呼び出し先のマスター端末または電話機をあらかじめ登録する必要があります。登録は、付属の N-8000 設定ソフトウェア（☞ P. 5-71、5-86）または多機能端末の操作（☞ P. 7-10）で行います。

※ ドアホンモードの設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェア（☞ P. 5-70、5-85）で行います。

■ 呼び出しをする（選択応答設定時）

1 呼び出しボタンを押す。

※ あらかじめ登録されたマスター端末または電話機を呼び出します。
※ 状態表示灯が点滅します。

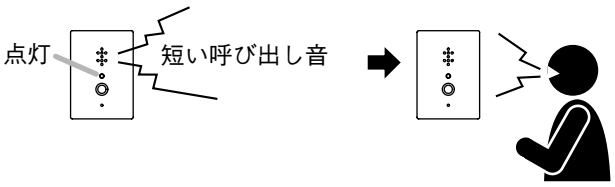
ご注意

呼び出し時間制限機能が設定されている場合は、特定の時間内に応答がなければ、自動的に呼び出しが終了します。

2 呼び出し音が聞こえたら、パネルに向かって話す。

相手のマスター端末または電話機が応答すれば、短い呼び出し音が鳴ります。

※ 点滅していた状態表示灯は、点灯の状態に変わります。



⬇

マスター端末または電話機側がハンドセットを置くか、クリアキーを押すと、通話が終了します。

※ 通話が終了すると、状態表示灯は消えます。

※ 呼び出し先のマスター端末または電話機をあらかじめ登録する必要があります。登録は、付属の N-8000 設定ソフトウェア（ ☞ P. 5-71、5-86）または多機能端末の操作（ ☞ P. 7-10）で行います。

※ 呼び出し時間制限機能の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェア（ ☞ P. 5-39、5-66）で行います。

緊急呼び出しをする（選択応答設定時のみ）

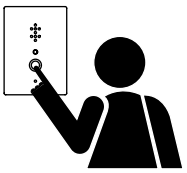
緊急呼び出しとは、他の呼び出しよりも優先して着信させることができる呼び出しです。
マスター端末または電話機が緊急呼び出しに応答すると、緊急通話となり、他の通話やページングよりも優先して扱われます。

ご注意

- 通話応答モードが「選択応答」に設定されている場合に、緊急呼び出しをできるように設定されたドア端末からのみ、緊急呼び出しをすることができます。
- 通話リンクがすべて塞がっているときにマスター端末または電話機が緊急呼び出しに応答すると、優先順位の低い通話、ページングを強制的に切断して、緊急通話が始まります。

1 **呼び出しボタンを短い間隔（400 ms 以下）で 2 回以上続けて押す。**

呼び出し先がマスター端末の場合は、緊急呼び出し音が鳴ります。
多機能マスター端末の場合は、緊急呼び出し表示となり、緊急呼び出し音が鳴ります。
※ 緊急呼び出しには、呼び出し時間制限は適用されません。



2 **呼び出された端末が応答したら、通話を始める。（緊急通話）**

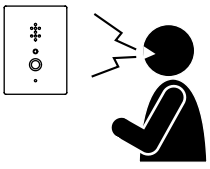
相手のマスター端末または電話機が通話終了の操作をするまで通話できます。
※ 緊急通話には、通話時間制限は適用されません。

※ 呼び出し先のマスター端末または電話機をあらかじめ登録する必要があります。登録は、付属の N-8000 設定ソフトウェア（☞ P. 5-71、5-86）または多機能端末の操作（☞ P. 7-10）で行います。
※ ドア端末が緊急呼び出しをできるように設定する必要があります。
※ ドア端末の緊急呼び出しの可否の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-70、5-85）
※ 通話応答モードの設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェア（☞ P. 5-29）で行います。

呼び出しを受ける

1 **呼び出し音が 1 度鳴った後、すぐに相手の声が内部のスピーカーから聞こえます。**

2 **端末に向かって話す。**



3 **相手側がハンドセットを置くか、クリアキーを押すと、通話が終了します。**

ご注意

ドア端末から通話を終える操作はできません。通話相手のマスター端末または電話機が通話を終える操作をするか、またはあらかじめ設定された通話制限時間が経過したら、通話が終了します。

音声トリガー機能について（N-8050DS/8640DS/8650DS のみ）

あらかじめ設定されたドア端末 N-8050DS、IP ドア端末 N-8640DS/8650DS のマイクに入力された音声が、設定された条件を満たすと、アラーム動作を行います。

ご注意

- 雨、風、音楽、道路騒音など、周囲の音に反応して動作することがあります。
- アラームの検出方法を「音声検出」（☞ P. 2-120）に設定したとき、状況により音声を検出できないことがあります。

※ 音声トリガー機能に関する設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-70、5-85）
※ マスター端末の操作で設定内容の一部を変更することもできます。（☞ P. 2-78）

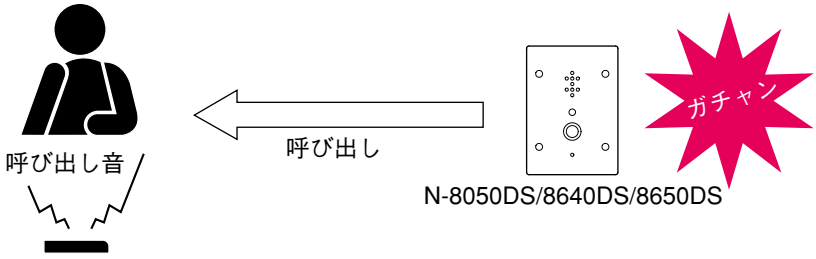
［音声トリガーによるアラーム動作が可能なドア端末］

- N-8050DS でこの機能を使用する場合、対応できる交換機は N-8000EX のみで、音声トリガーによるアラーム動作が可能なドア端末は、交換機 1 台につき最大 4 台です。
- BGM を受信するドア端末では、音声トリガー機能は動作しません。
- ドア端末が待ち受け状態のときに入力音声の検知を行います。

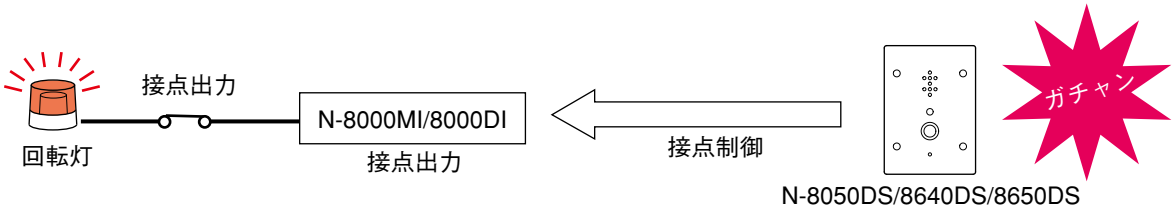
［アラーム動作］

アラーム動作は次の中から選択できます。

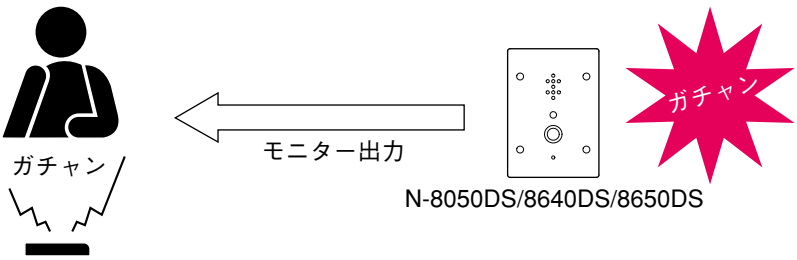
- マスター呼び出し
  あらかじめ設定されたマスター端末を呼び出します。



- N-8000MI/8000DI の接点制御
  あらかじめ設定された N-8000MI/8000DI の接点をメイクします。（ワンショットメイク）



- モニター出力
  音声トリガーを検出してから、指定した時間だけ、あらかじめ設定されたマスター端末のハンズフリースピーカーからドア端末の音声が出力されます。



［アラームの検出方法］

アラームの検出方法は次の２種類から選択できます。

● レベル検出
設定音圧以上のレベルの音を一定時間検出すると、アラーム動作を行います。

● 音声検出
人間の音声を検出すると、アラーム動作を行います。
入力された音声から、人間の音声の母音に含まれる特徴的な周波数を検出することで、人間の音声のみを検出することができます。

ご注意

● 音楽、サイレン音、エンジン音など、人間の音声に似た周波数の音に反応することがあります。
● 周囲の騒音が音声より大きい場合など、状況により音声が検出できないことがあります。

［アラームの検出条件］

● レベル検出
検出時間（レベル）：検出するまでの時間を設定します。
設定範囲：1 ～ 9 秒（9 段階、1 秒ステップ）
音圧レベル　：音圧のしきい値を設定します。
設定範囲：73 ～ 97 dB＊（9 段階、3 dB＊ステップ）
＊単位は dB SPL で、参考値です。

● 音声検出
検出時間（音声）　：検出する声の母音の長さを設定します。
設定範囲：100 ～ 500 ms（9 段階、50 ms ステップ）
感度　：音声の検出感度を設定します。
設定範囲：1 ～ 9（9 段階、1：最も検出しやすい、9：最も検出しにくい）

［時刻連動設定］

1 日の中でアラーム動作をする時間帯を限定することができます。
開始時刻、終了時刻を設定すると、その間の時間帯だけ、音声を検知してアラーム動作を行います。

［音声トリガー呼び出しの優先度］

● 通話応答モードが「着信優先」に設定されているとき
通常の呼び出しと同様です。相手のマスター端末が話中であれば、話中音が聞こえます。そして、相手の通話が終了した後に呼び出します。

● 通話応答モードが「選択応答」に設定されているとき
音声トリガー呼び出しは、通常の呼び出しより優先されます。（呼び出しの優先度 ☞ P. 2-175）

呼び出しボタン制限　（N-8050DS/8640DS/8650DS のみ）（着信優先設定時のみ）

呼び出しボタン制限を有効にすると、呼び出しボタンの使いかたが変わります。呼び出しボタンを 3 秒以内に 3 回押すことにより呼び出し動作を行います。誤操作による呼び出しを防ぐことができます。
呼び出しボタンを 3 秒以内に 3 回押し終えると、あらかじめ登録されたマスター端末または電話機を呼び出します。
呼び出しを受けるときは、呼び出しボタン制限が有効であっても、呼び出し音が 1 度鳴った後、すぐに通話状態になります。

※ 呼び出しボタン制限の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-70、5-85）

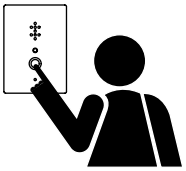
ご注意

- N-8640DS、N-8650DS の外部接点入力からの起動方法は変わりません。
- 発呼局表示 /CCTV 連動、呼び出し・通話連動接点出力（ドア端末接点動作モード）など、呼び出し動作と連動する機能は、呼び出しボタンを 3 秒以内に 3 回押し終えると動作します。
- 状態表示灯は、呼び出しボタンを 3 秒以内に 3 回押し終えると点灯します。

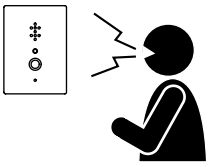
■ 呼び出しをする

1 **呼び出しボタンを 3 秒以内に 3 回押す。**

3 回押し終えると、あらかじめ登録されたマスター端末または電話機を呼び出します。



2 **呼び出された端末が応答したら、通話を始める。**



ドア端末での操作一覧表

機能	操作
呼び出し	呼び出しボタンを押す。
通話	自動的に応答するので、操作は不要。
緊急呼び出し	呼び出しボタンを短い間隔（400 ms 以下）で 2 回以上続けて押す。
呼び出しボタン制限（N-8050DS、N-8640DS、N-8650DS のみ）	呼び出しボタンを 3 秒以内に 3 回押す。

サブ端末、スイッチパネルの機能と操作のしかた

サブ端末接続ユニットに接続するサブ端末、スイッチパネル、およびスイッチボードの機能と操作のしかたを記します。以下、サブ端末と総称します。

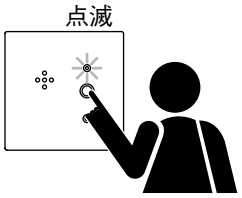
呼び出しをする

■ 呼び出しボタンでの操作（着信優先設定時）

1 **呼び出しボタンを押す。**

※ あらかじめ登録されたマスター端末または電話機を呼び出します。

※ 状態表示灯が点滅します。（RS-140/180/480 のみ）



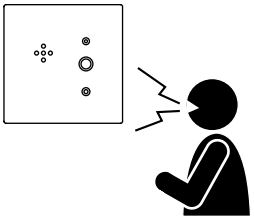
発呼端末の内部スピーカー（RS-140 では外部スピーカー）から呼び出し音が聞こえます。
呼び出し音は通話状態になるまで鳴り続けます。

※ 相手のマスター端末が話中のときは、話中音が聞こえます。話中音が聞こえたら、そのままお待ちください。相手の通話が終わり次第、呼び出します。

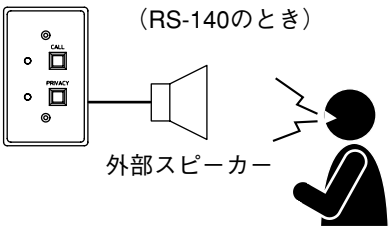
2 **呼び出された端末が応答したら、パネルに向かって話す。**
（RS-140/142/143/144 では、外部スピーカーに向かって話す。）

※ 点滅していた状態表示灯は、点灯の状態に変わります。（RS-140/180/480 のみ）

※ ハンドセットを持ち上げると、秘話通話ができます。（RS-140/142/143/144 と RS-141、RS-480 と RS-442/481 を組み合わせた場合のみ）



（RS-140のとき）

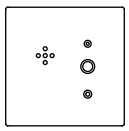


3 **通話を終了する。**

マスター端末または電話機側がハンドセットを置くか、クリアキーを押すと、通話が終了します。

RS-140/142/143/144 と RS-141、RS-480 と RS-442/481 を組み合わせた場合で、秘話通話時のみ、ハンドセットを置くと通話が終了します。

※ 通話が終了すると、状態表示灯は消えます。（RS-140/180/480 のみ）



メ　モ

- RS-142 には呼び出しボタンが 2 つ、RS-442 には呼び出しボタンが 3 つあります。呼び出し中、通話中に他の呼び出しボタンを押しても変化はありません。
- RS-144 の緊急呼び出しボタンでの操作も上記と同様です。

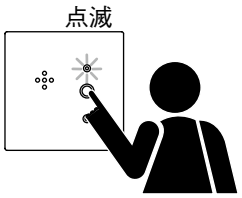
※ 呼び出し先のマスター端末または電話機をあらかじめ登録する必要があります。登録は、付属の N-8000 設定ソフトウェア（ ☞ P. 5-59）または多機能端末の操作（ ☞ P. 7-10）で行います。

■ 呼び出しボタンでの操作（選択応答設定時）

1 呼び出しボタンを押す。

※ あらかじめ登録されたマスター端末または電話機を呼び出します。

※ 状態表示灯が点滅します。（RS-140/180/480 のみ）



ご注意

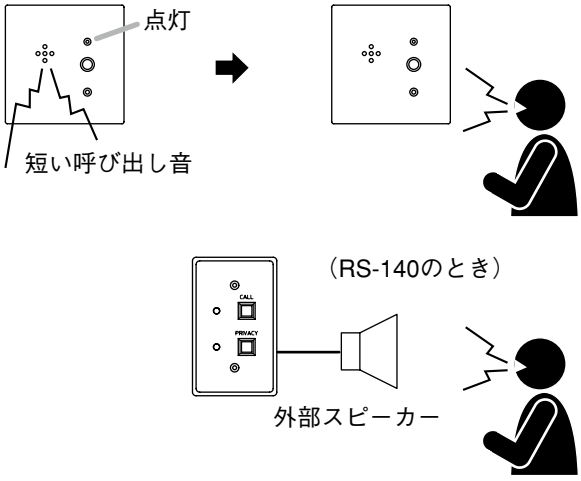
呼び出し時間制限機能が設定されている場合は、特定の時間内に応答がなければ、自動的に呼び出しが終了します。

2 呼び出し音が聞こえたら、パネルに向かって話す。（RS-140/142/143/144 では、外部スピーカーに向かって話す。）

相手のマスター端末または電話機が応答すれば、短い呼び出し音が鳴ります。

※ 点滅していた状態表示灯は、点灯の状態に変わります。（RS-140/180/480 のみ）

※ ハンドセットを持ち上げると、秘話通話ができます。（RS-140/142/143/144 と RS-141、RS-442/480 と RS-481 を組み合わせた場合のみ）

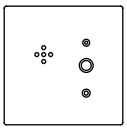


3 通話を終了する。

マスター端末または電話機側がハンドセットを置くか、クリアキーを押すと、通話が終了します。

RS-140/142/143/144 と RS-141、RS-442/480 と RS-481 を組み合わせた場合で、秘話通話時のみ、ハンドセットを置くと通話が終了します。

※ 通話が終了すると、状態表示灯は消えます。（RS-140/180/480 のみ）



ご注意

- RS-142 には呼び出しボタンが 2 つ、RS-442 には呼び出しボタンが 3 つあります。呼び出し中に他の呼び出しボタンを押した場合、先に押した呼び出しボタンより呼び出し優先度が高いと、前の呼び出しがキャンセルされ、後の呼び出しに切り換わります。
- RS-144 には呼び出しボタンと緊急呼び出しボタンがあります。呼び出しボタンでの呼び出し中に緊急呼び出しボタンを押した場合、呼び出しボタンでの呼び出しがキャンセルされ、緊急呼び出しボタンの呼び出しに切り換わります。

※ 呼び出し先のマスター端末または電話機をあらかじめ登録する必要があります。登録は、付属の N-8000 設定ソフトウェア（ ☞ P. 5-59）または多機能端末の操作（ ☞ P. 7-10）で行います。

※ 呼び出し時間制限機能の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェア（ ☞ P. 5-57）で行います。

■ オプションハンドセットでの操作

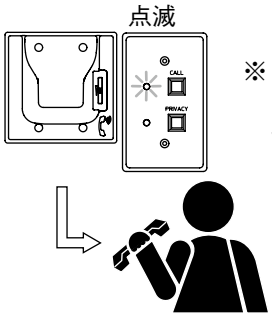
（RS-140/142/143/144 と RS-141、RS-442/480 と RS-481 を組み合わせた場合のみ）

1 ハンドセットを持ち上げる。

※ あらかじめ登録されたマスター端末または電話機を呼び出します。
※ 状態表示灯が点滅します。（RS-140/480 のみ）

ご注意

呼び出し時間制限機能が設定されている場合は、特定の時間内に応答がなければ、自動的に呼び出しが終了します。

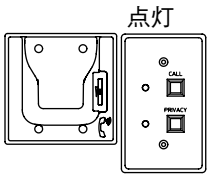


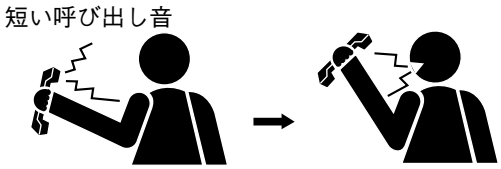
※ 図は RS-140 と RS141 を組み合わせたときの例です。

2 呼び出し音が聞こえたら、ハンドセットで通話する。

相手のマスター端末または電話機が応答すれば、短い呼び出し音が鳴ります。

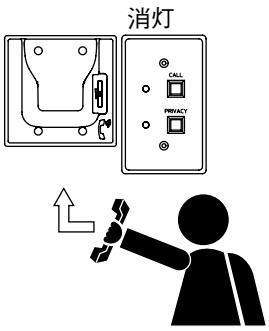
状態表示灯が点滅から点灯に変わります。（RS-140/480 のみ）





3 通話を終了したいときは、ハンドセットを置く。

状態表示灯は消えます。
※ マスター端末または電話機側がハンドセットを置くか、クリアキーを押しても、通話が終了します。



メ　モ

RS-142/144 と RS-141 を組み合わせて使用している場合、待ち受け時にハンドセットを持ち上げると、N-8000 設定ソフトウェアで「Call 1」に登録されているマスター端末または電話機を呼び出します。
「Call 1」、「Call 2」に該当するボタンは表 1 のとおりです。
呼び出し中、通話中にハンドセットを持ち上げると外部スピーカーからハンドセットに切り換わります。
また、呼び出し中、通話中に呼び出しボタンを押しても変化はありません。
ハンドセットを持ち上げた（オフフック）ときの動作は表 2 のとおりです。

［表 1］

	RS-142	RS-144
Call 1	呼び出しボタン 1	緊急呼び出しボタン（Emergency）
Call 2	呼び出しボタン 2	呼び出しボタン（Normal）

［表 2］

オフフック前の状態	オフフック時の動作
待ち受け	「Call 1」を呼び出し
「Call 1」を呼び出し中	ハンドセットから呼び出し音が聞こえる。「Call 1」の呼び出し継続。
「Call 2」を呼び出し中	ハンドセットから呼び出し音が聞こえる。「Call 2」の呼び出し継続。
「Call 1」と通話中	ハンドセット通話になる。「Call 1」の通話継続。
「Call 2」と通話中	ハンドセット通話になる。「Call2 」の通話継続。

※ 呼び出し先のマスター端末または電話機をあらかじめ登録する必要があります。登録は、付属の N-8000 設定ソフトウェア（ ☞ P. 5-59）または多機能端末の操作（ ☞ P. 7-10）で行います。

※ 呼び出し時間制限機能の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェア（ ☞ P. 5-57）で行います。

緊急呼び出しをする（選択応答設定時のみ）

緊急呼び出しとは、他の呼び出しよりも優先して着信させることができる呼び出しです。
マスター端末または電話機が緊急呼び出しに応答すると、緊急通話となり、他の通話やページングよりも優先して扱われます。

ご注意

- 通話応答モードが「選択応答」に設定されている場合に、緊急呼び出しをできるように設定されたサブ端末からのみ、緊急呼び出しをすることができます。
- N-8010RS では、通話リンクがすべて塞がっているときにマスター端末または電話機が緊急呼び出しに応答すると、優先順位の低い通話、ページング、スキャンモニターを強制的に切断して、緊急通話が始まります。

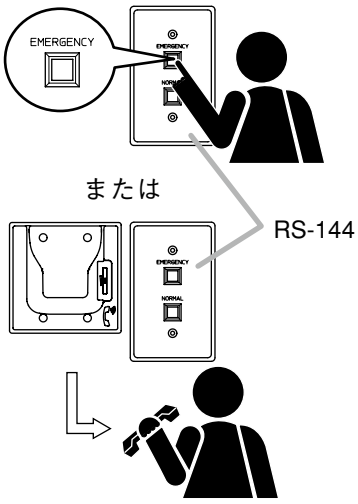
※ サブ端末が緊急呼び出しをできるように設定する必要があります。
※ サブ端末の緊急呼び出しの可否の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-60）
※ 通話応答モードの設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェア（☞ P. 5-29）で行います。

■ 緊急呼び出し用のボタンを使う

RS-144 には緊急呼び出し専用のボタンがあります。
他のサブ端末でも、あらかじめ優先順位の設定を変更することで、呼び出しボタンを緊急呼び出しボタンと同じように使えます。

ご注意

優先順位の設定を変更することにより、RS-144 の緊急呼び出しボタンで緊急呼び出しを行わないようにすることもできます。



1 緊急呼び出しボタンを押すか、ハンドセット*を持ち上げる。

* RS-144 と RS-141 を組み合わせて使用している場合

呼び出し先がマスター端末の場合は、緊急呼び出し音が鳴ります。
多機能マスター端末の場合は、緊急呼び出し表示となり、緊急呼び出し音が鳴ります。

※ 緊急呼び出しには、呼び出し時間制限は適用されません。

2 呼び出された端末が応答したら、通話を始める。（緊急通話）

相手のマスター端末または電話機が通話終了の操作をするまで通話できます。

※ 緊急通話には、通話時間制限は適用されません。

⬇

相手側がハンドセットを置くか、クリアキーを押すと、通話が終了します。

ご注意

RS-140/142/143/144 と RS-141、RS-442/480 と RS-481 を組み合わせて秘話通話をしたとき以外は、サブ端末から通話を終える操作はできません。

※ 呼び出し先のマスター端末または電話機をあらかじめ登録する必要があります。登録は、付属の N-8000 設定ソフトウェア（☞ P. 5-59）または多機能端末の操作（☞ P. 7-10）で行います。
※ 優先順位の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェア（☞ P. 5-60）で行います。

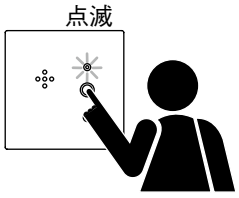
■ 優先順位の低い呼び出しボタンを使う

優先順位の低い呼び出しボタンからでも、下記の操作をすることで、緊急呼び出しをできます。

ご注意

- RS-140/180/480 は、下記の操作での緊急呼び出しをすることができません。ただし、呼び出し優先順位の設定を変更することで、緊急呼び出しをすることができます。（ ☞ 前ページ）
- RS-144 の呼び出しボタンは下記の操作で緊急呼び出しができます。

1 呼び出しボタンを短い間隔（400 ms 以下）で 2 回以上続けて押す。



呼び出し先がマスター端末の場合は、緊急呼び出し音が鳴ります。
多機能マスター端末の場合は、緊急呼び出し表示となり、緊急呼び出し音が鳴ります。

※ 緊急呼び出しには、呼び出し時間制限は適用されません。

2 呼び出された端末が応答したら、通話を始める。（緊急通話）

相手のマスター端末または電話機が通話終了の操作をするまで通話できます。
※ 緊急通話には、通話時間制限は適用されません。

⬇

相手側がハンドセットを置くか、クリアキーを押すと、通話が終了します。

ご注意

RS-140/142/143/144 と RS-141、RS-442/480 と RS-481 を組み合わせて秘話通話をしたとき以外は、サブ端末から通話を終える操作はできません。

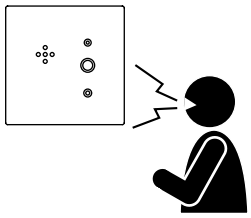
※ 呼び出し先のマスター端末または電話機をあらかじめ登録する必要があります。登録は、付属の N-8000 設定ソフトウェア（ ☞ P. 5-59）または多機能端末の操作（ ☞ P. 7-10）で行います。
※ 優先順位の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェア（ ☞ P. 5-60）で行います。

呼び出しを受ける

1 短い呼び出し音が鳴った後、すぐに相手の声が内部のスピーカーから聞こえます。

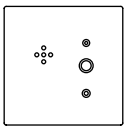
2 端末に向かって話す。

※ ハンドセットを取り上げると、秘話通話ができます。（RS-140/142/143/144 と RS-141、RS-442/480 と RS-481 を組み合わせた場合のみ）



3 通話を終了する。

相手側がハンドセットを置くか、クリアキーを押すと、通話が終了します。



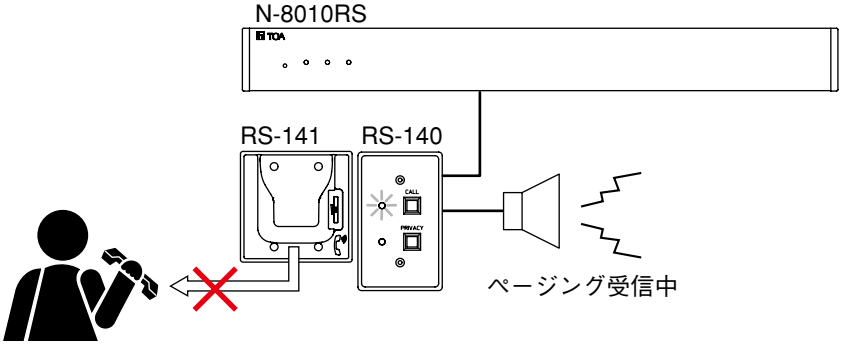
※ 秘話通話をしていたときは、RS-141/481 のハンドセットを置くことでも通話が終了します。（RS-140/142/143/144 と RS-141、RS-442/480 と RS-481 を組み合わせた場合のみ）

ご注意

RS-140/142/143/144 と RS-141、RS-442/480 と RS-481 を組み合わせて秘話通話をしたとき以外は、サブ端末から通話を終える操作はできません。通話相手のマスター端末または電話機が通話を終える操作をするか、またはあらかじめ設定された通話制限時間が経過したら、通話が終了します。

ページング受信時のご注意

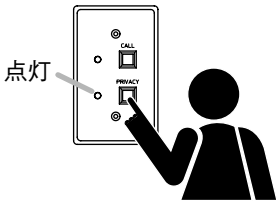
サブ端末接続ユニット N-8010RS、スイッチパネル RS-140/143/144、スイッチボード RS-142、オプションハンドセット RS-141 を組み合わせて使用する場合のみ、ページング受信中はハンドセットを取り上げないでください。
ハンドセットではページングが正しく聞こえません。



プライバシー機能を使う（RS-140 のみ）

プライバシー機能とは、緊急一斉ページング以外のページング、および呼び出しを受け付けないようにする機能です。

■ プライバシー状態にする



プライバシー表示灯が消灯しているときに、プライバシーボタンを押す。

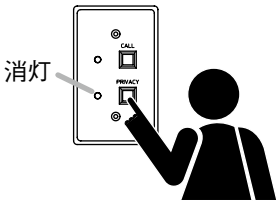
プライバシー状態になり、プライバシー表示灯が点灯します。

※ プライバシー状態でも、呼び出しボタンを押すと、マスター端末または電話機を呼び出して通話状態にすることができます。通話が終わると、元のプライバシー状態に戻ります。

※ マスター端末または電話機からプライバシー状態の RS-140 を呼び出すと、マスター端末または電話機側ではプライバシートーンが聞こえます。（RS-140 に着信音は鳴りません。）

※ プライバシートーン鳴動中に PTT キーを押すと、音声呼び出しになります。

■ プライバシー状態を解除する



プライバシー表示灯が点灯しているときに、プライバシーボタンを押す。

プライバシー状態が解除され、プライバシー表示灯が消灯します。

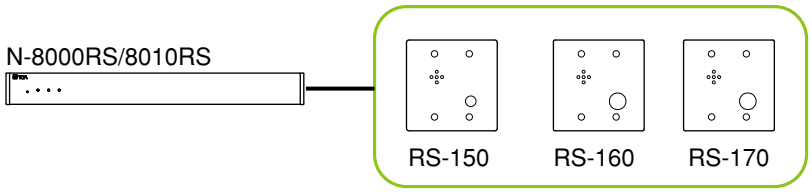
※ 通話中でもプライバシー解除の操作をすることができます。

※ 通話中、音声呼び出し中にプライバシー解除の操作をした場合、通話終了に反映されます。

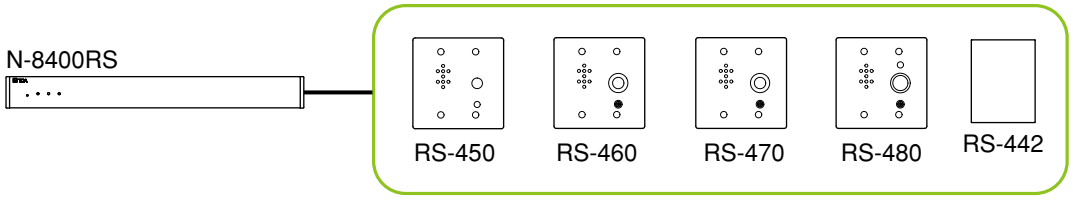
呼び出しボタン制限（着信優先設定時のみ）

■ 呼び出しボタン制限が使用できる端末

● N-8000RS/8010RS に接続するサブ端末のうち RS-150/160/170 のみ

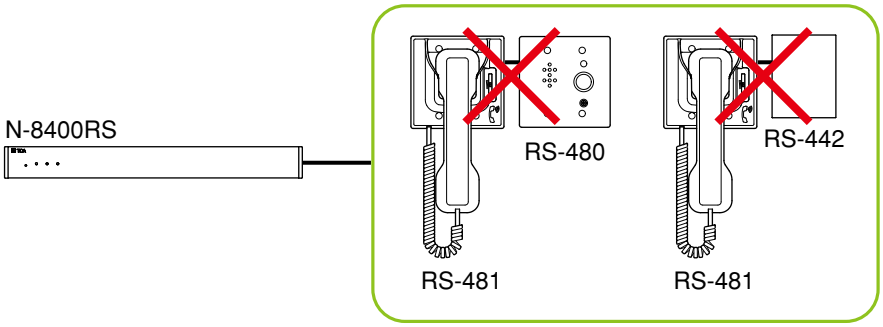


● N-8400RS に接続するすべてのサブ端末とスイッチボード



ご注意

ただし、RS-481 と接続した場合、この機能は使用できません。



■ 機能の説明

呼び出しボタン制限を有効にすると、呼び出しボタンの使いかたが変わります。呼び出しボタンを 3 秒以内に 3 回押すことにより呼び出し動作を行います。誤操作による呼び出しを防ぐことができます。
呼び出しボタンを 3 秒以内に 3 回押し終えると、あらかじめ登録されたマスター端末または電話機を呼び出します。
呼び出しを受けるときは、呼び出しボタン制限が有効であっても、呼び出し音が 1 度鳴った後、すぐに通話状態になります。

※ 呼び出しボタン制限の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-60）

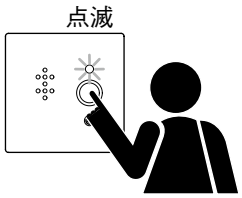
ご注意

- 発呼局表示 /CCTV 連動など、呼び出し動作と連動する機能は、呼び出しボタンを 3 秒以内に 3 回押し終えると動作します。
- 状態表示灯は、呼び出しボタンを 3 秒以内に 3 回押し終えると点灯します。

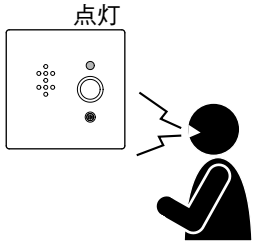
■ 呼び出しをする

1 **呼び出しボタンを 3 秒以内に 3 回押す。**

3 回押し終えると、あらかじめ登録されたマスター端末または電話機を呼び出します。



2 **呼び出された端末が応答したら、通話を始める。**



サブ端末での操作一覧表

機能		操作
呼び出し		呼び出しボタンを押す。
通話		自動的に応答するので、操作は不要。
緊急呼び出し		緊急呼び出しボタンを押す。（RS-144 のみ）
		呼び出しボタンを短い間隔（400 ms 以下）で 2 回以上続けて押す。
プライバシー（RS-140 のみ）	プライバシー ON	プライバシー表示灯が消灯しているときに、プライバシーボタンを押す。
	プライバシー OFF	プライバシー表示灯が点灯しているときに、プライバシーボタンを押す。
呼び出しボタン制限（RS-150/160/170/450/460/470/480 * /442 *のみ）		呼び出しボタンを 3 秒以内に 3 回押す。

* RS-481 と接続した場合、この機能は使用できません。

N-8000AL に接続された電話機の機能と操作のしかた

基本的な使いかた

■ 呼び出す（個別呼び出し）

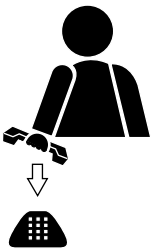
1 ハンドセットを持ち上げ、呼び出す端末の番号を押す。

電話機のハンドセットから呼び出し音が聞こえます。
※ 話中音が聞こえたら、そのままお待ちください。
　相手の通話が終わり次第、呼び出します。

2 呼び出し音が止まり、呼び出された端末が応答したら、通話を始める。

※ 通話応答モード*が「着信優先」で自動着信モード*に設定されている場合は、呼び出し音が１度鳴った後、すぐに通話を始めることができます。
それ以外の場合は、呼び出し音が鳴り続けます。呼び出された端末が応答すると、呼び出し音が止まり、通話を始めることができます。

3 通話を終えるときは、ハンドセットを置く。



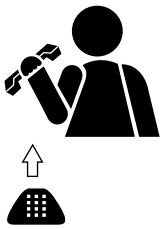
* 通話応答モードおよび着信モードの設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェア（ ☞ P. 5-29）で行います。

ご注意

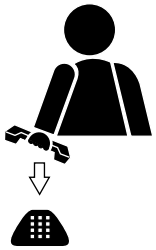
- 呼び出しまたは通話の制限時間が設定されていると、制限時間が経過すると自動的に呼び出しまたは通話が終了します。
  制限時間（10 ～ 990 秒で 10 秒単位）は、あらかじめ付属の N-8000 設定ソフトウェアで N-8000AL ごとに設定されています。（ ☞ P. 5-101）
- N-8000AL は局線と通話することができません。
- N-8000AL は N-8000MI の PBX 接続による内線およびタイライン接続による他のインターカムと通話することはできません。
- N-8000AL に接続する電話機は PB 信号を出力するよう設定してください。(DP10、DP20 では動作しません。)

■ 呼び出しを受ける

1 呼び出しがあれば、ハンドセットを持ち上げて通話する。



2 通話を終えるときは、ハンドセットを置く。



通話機能と操作のしかた

■ 呼び出し

● 個別呼び出し

・ハンドセットを持ち上げて、通話したい相手の番号を押すと、相手を呼び出せます。

・相手が応答して、呼び出し音が止まったら通話できます。

・相手が通話中などで呼び出せないときは、話中音が出ます。
そのままの状態で待っていると、相手の通話が終わりしだい呼び出します。

● グループ呼び出し

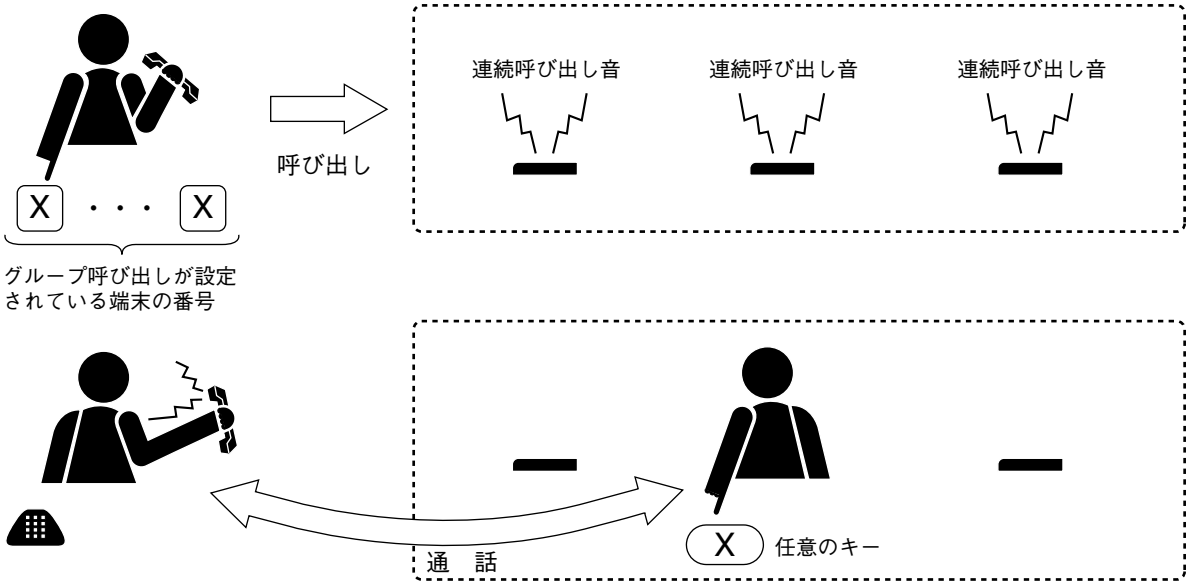
・端末にグループ呼び出しのメンバー端末が設定されていると、その端末番号をダイヤルしたときに、その端末（代表端末）とメンバー端末すべてが、着信モードの設定に関係なく連続呼び出し音で呼ばれます。
代表端末が話中のときでも、メンバー端末のすべてが連続呼び出し音で呼ばれます。

・いずれかの端末が応答すれば、他の端末への呼び出しは終了します。

※ グループ呼び出しのメンバー端末は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで設定します。（☞ P. 5-102）

ご注意

ドア端末 N-8050DS、IP ドア端末 N-8540DS/8640DS/8650DS、サブ端末 RS-150/160/170/180/450/460/470/480、スイッチパネル RS-140/143/144、スイッチボード RS-142/442 はグループ呼び出しの代表端末およびメンバー端末に設定できません。



■転　送

２者通話状態から、第３者を呼び出して通話（元の通話相手は一時保留）し、その後元の通話に戻ることや、元の通話相手と第３者の通話状態にする（転送）ことができます。

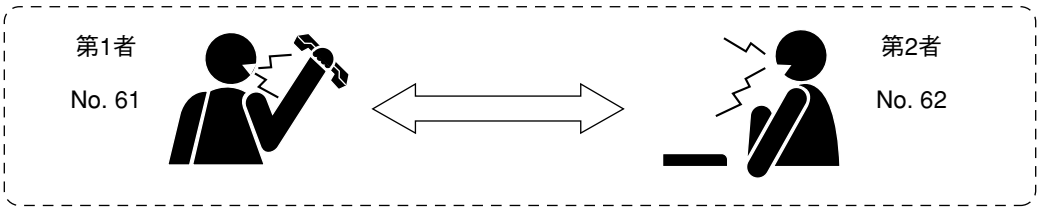
1 **２者間で通話をしている間に、フッキング*をする。**

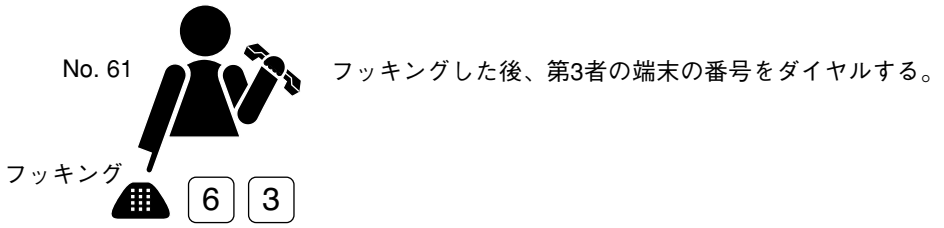
現在の通話が保留され、保留音が相手に送られます。

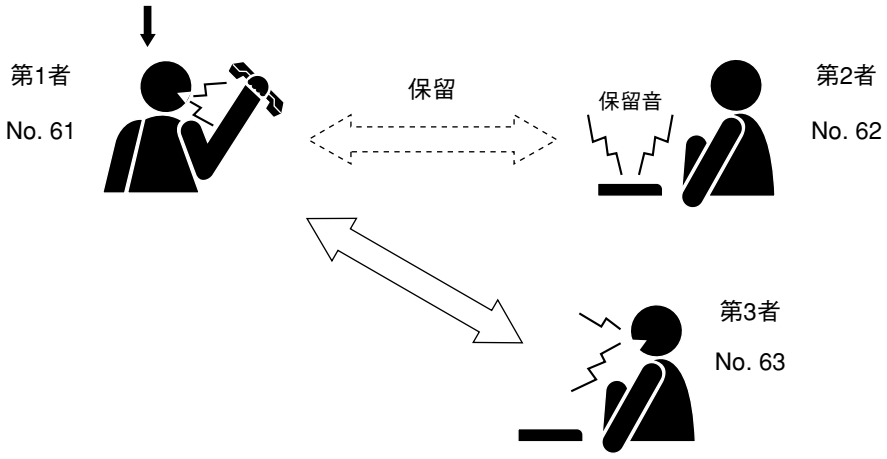
* フックスイッチを押してすぐに戻します。

2 **第３者の端末番号をダイヤルする。**（例：[6] [3]）

第３者が応答すると、第１者は、元の通話を保留したまま第３者と話すことができます。



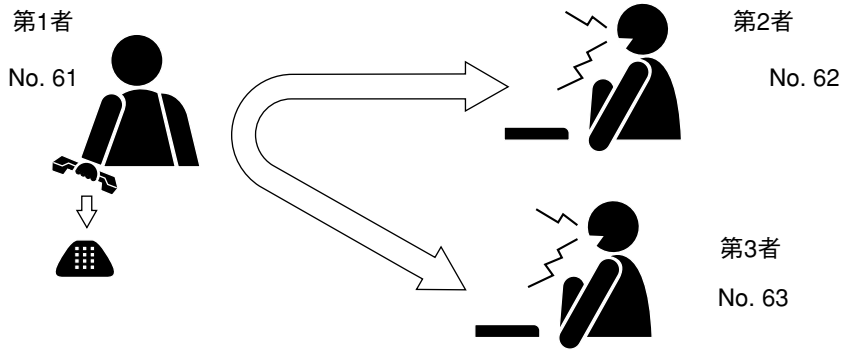




第３者との通話が終わった後、第１者は、その通話を第３者へ転送するか、元の通話に戻ることができます。

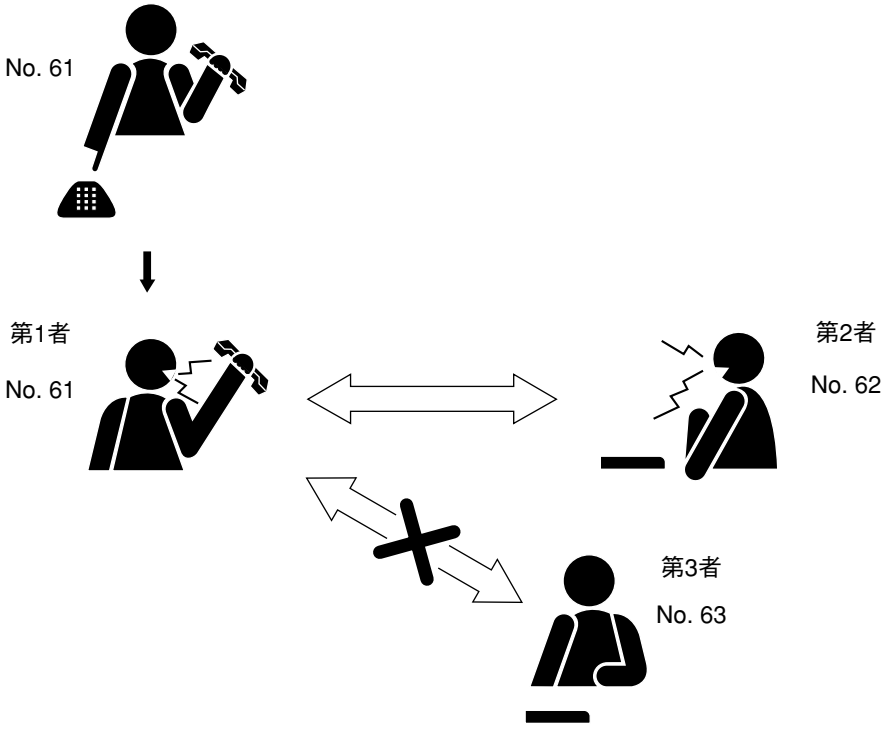
［第３者への転送］

3 保留されている相手に第３者をつなぐには、ハンドセットを置く。
第２者と第３者の通話状態となります。



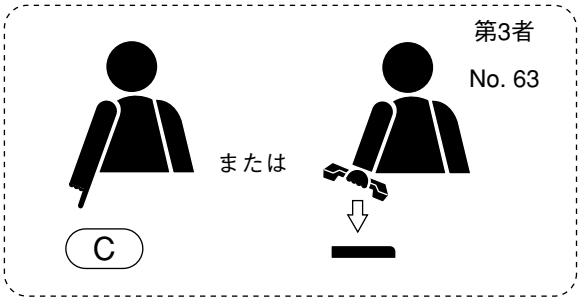
［元の通話の復旧］

3 転送せずに元の通話に戻るには、もう一度フッキングをする。
元の２者間通話に戻ります。



メ　モ

第１者がフッキングの操作をせず、第３者がクリアキーを押すか、またはハンドセットを下ろしても、元の通話に戻ります。



■ 自動転送

ご注意

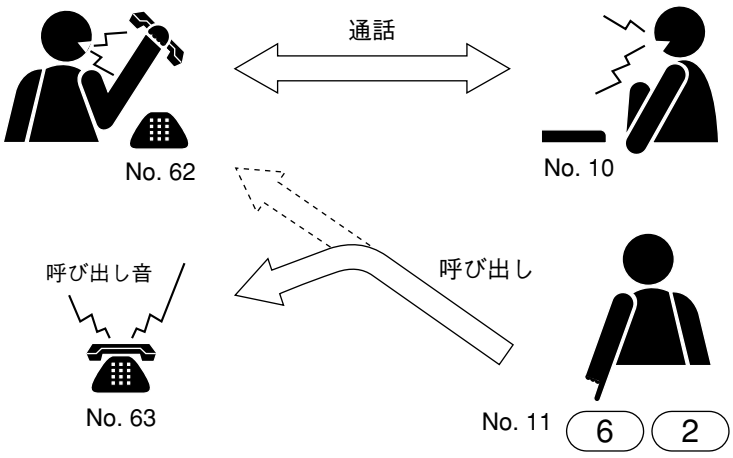
マルチインターフェースユニット、局線インターフェースユニットを経由した相手先の端末へ自動転送をすることはできません。

● 話中転送

通話中に着信があった場合、着信電話機に話中転送が設定されていると自動的に転送されます。
通話中からの呼び出し（転送 ☞ P. 2-134）も話中転送されます。
転送先も通話中の場合は、さらに別の端末へ転送させることができるため、空き回線へスライド式に転送させることもできます。

※ 話中転送先の設定は、電話機の操作（次ページ）または付属の N-8000 設定ソフトウェア（ ☞ P. 5-103）で行います。
※ 話中転送機能の有無は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで設定します。（ ☞ P. 5-100）
話中転送機能が有効になっていないと、転送先の設定はできません。

［例］通話中の電話機（No. 62）にかかってきた呼び出しは、別の指定した端末（No. 63）に転送されます。



ご注意

以下の条件のときは転送されません。

- 転送先端末が不在転送に設定されているとき
- 転送先端末が待ち受け状態でないとき（ただし、転送先端末が話中であっても話中転送に設定されているときは、さらに転送されます。）
- 話中転送に設定されている端末がグループ呼び出しの代表またはメンバーとして呼び出されるとき

登録、消去は自端末（話中転送を行う電話機）からできます。

［登録のしかた］

機能指定番号　転送先端末番号

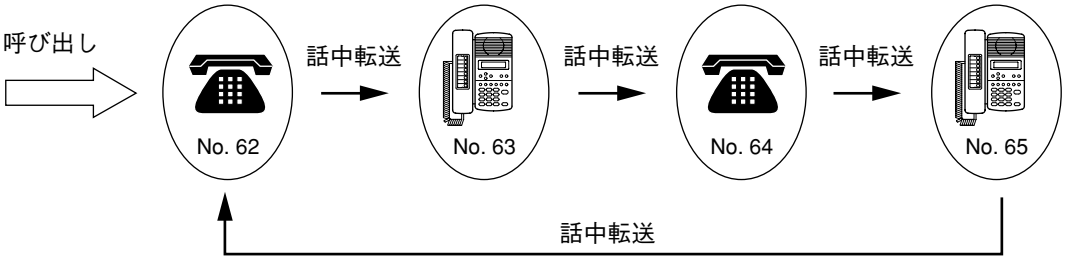
＊ ＋ 4 5 ＋ X ・・・ X ＋ ＃ （確認音）

［消去のしかた］

機能指定番号　自端末番号

＊ ＋ 4 5 ＋ Y ・・・ Y ＋ ＃ （確認音）

［設定例］　端末を一巡するように転送できます。



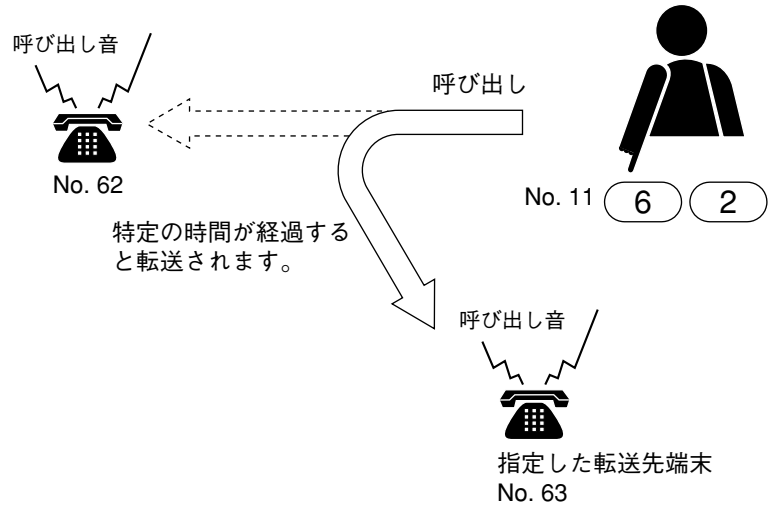
ご注意

- マルチインターフェースユニット、局線インターフェースユニットを経由した相手先の端末を転送先に登録することはできません。
- 電話機の操作で設定した内容は、１日１回（午前０時）、電話インターフェースユニット内部に保存されます。
  保存されるまでに電源を切ると、変更前の設定内容に戻ります。

● 不応答転送

着信があった場合、着信電話機に不応答転送設定があり一定時間応答しないと自動的に転送されます。
通話中からの呼び出し（転送 ☞ P. 2-134）も不応答転送されます。

※ 不応答転送先の設定は、電話機の操作（下記）または付属の N-8000 設定ソフトウェア（ ☞ P. 5-103）で行います。
※ 不応答転送機能の有無、呼び出し時間は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで設定します。（ ☞ P. 5-101）
不応答転送機能が有効になっていないと、転送先の設定はできません。



ご注意

以下の条件のときは転送されません。

- 転送先端末が不在転送に設定されているとき
- 転送先端末が待ち受け状態でないとき
- 不応答転送に設定されている端末がグループ呼び出しの代表またはメンバーとして呼び出されるとき

登録、消去は自端末（不応答転送を行う電話機）からできます。

［登録のしかた］　機能指定番号：＊ ＋ 4 4 ＋　転送先端末番号：X ・・・ X ＋ ＃ （確認音）

［消去のしかた］　機能指定番号：＊ ＋ 4 4 ＋　自端末番号：Y ・・・ Y ＋ ＃ （確認音）

ご注意

- マルチインターフェースユニット、局線インターフェースユニットを経由した相手先の端末を転送先に登録することはできません。
- 端末の操作で設定した内容は、１日１回（午前０時）、電話インターフェースユニットに保存されます。保存されるまでに電源を切ると、変更前の設定内容に戻ります。

● 不在転送

着信があった場合、着信電話機が不在転送状態ならば、呼び出し音を鳴らさずに、自動的に転送されます。
不在転送には２種類あり、転送先を設定すればすぐに不在転送状態になる手動による不在転送と、転送先を設定しても指定時刻になるまでは不在転送状態にならない時刻連動不在転送があります。
通話中からの呼び出し（転送 ☞ P. 2-134）も不在転送されます。

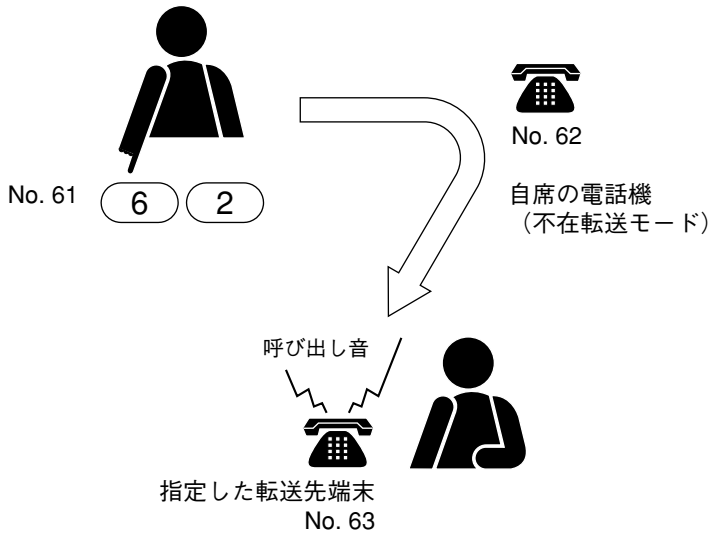
※ 不在転送先の設定は、電話機の操作（ ☞ 下記および P. 2-140）または付属の N-8000 設定ソフトウェア（ ☞ P. 5-103）で行います。
※ 不在転送機能の有無、連動時刻（転送開始時刻と終了時刻）は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで設定します。（ ☞ P. 5-100）
不在転送機能が有効になっていないと、転送先の設定はできません。

ご注意

不在転送に設定されている端末がグループ呼び出しのメンバーとして呼び出されるときは、転送されません。

[手動による不在転送に設定されている場合]

不在転送に設定した自席の電話機にかかってきた呼び出しは、呼び出し音を鳴らさずに、指定した端末に自動的に転送されます。



登録は自端末（不在転送を行う電話機）または転送先端末から、消去は自端末からできます。

[自端末での登録のしかた]

機能指定番号　転送先端末番号

＊ ＋ 4 1 ＋ X ・・・ X ＋ # （確認音）

[転送先端末での登録のしかた]

機能指定番号　自端末番号

＊ ＋ 4 2 ＋ Y ・・・ Y ＋ # （確認音）

[消去のしかた]（自端末でのみ可）

機能指定番号　自端末番号

＊ ＋ 4 1 ＋ Y ・・・ Y ＋ # （確認音）

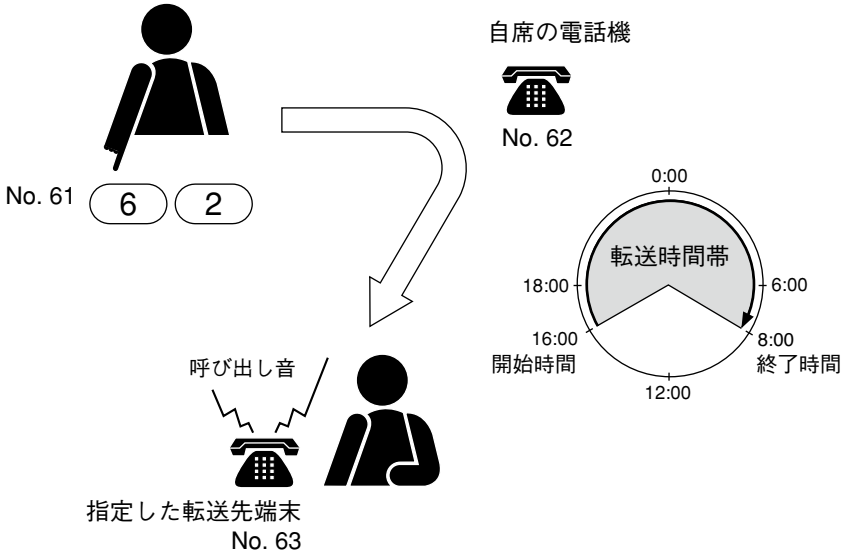
ご注意

- マルチインターフェースユニット、局線インターフェースユニットを経由した相手先の端末を転送先に登録することはできません。
- 端末の操作で設定した内容は、１日１回（午前０時）、電話インターフェースユニットに保存されます。保存されるまでに電源を切ると、変更前の設定内容に戻ります。

［時刻連動不在転送が設定されているとき］

1 あらかじめ設定された転送開始時間になると、時刻連動不在転送状態に入ります。

2 自席の電話機（転送元端末）にかかってきた呼び出しは、呼び出し音を鳴らさずに、自動的に転送先端末に転送されます。



登録、消去は自端末からできます。

［登録のしかた］　機能指定番号　転送先端末番号

＊ ＋ 4 3 ＋ X ・・・ X ＋ ＃ （確認音）

［消去のしかた］　機能指定番号　自端末番号

＊ ＋ 4 3 ＋ Y ・・・ Y ＋ ＃ （確認音）

ご注意

- マルチインターフェースユニット、局線インターフェースユニットを経由した相手先の端末を転送先に登録することはできません。
- 端末の操作で設定した内容は、１日１回（午前０時）、電話インターフェースユニットに保存されます。保存されるまでに電源を切ると、変更前の設定内容に戻ります。

■ 緊急割り込み（着信優先設定時のみ）

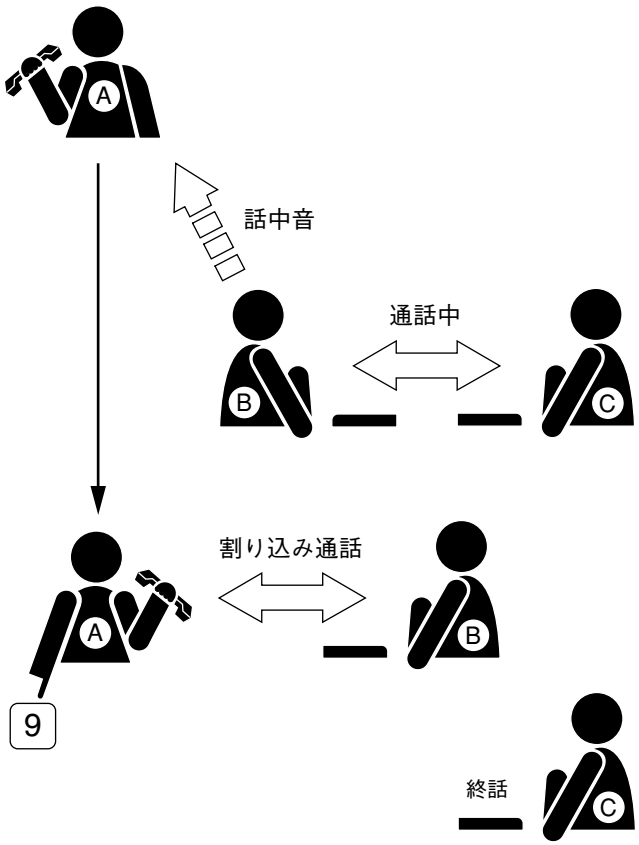
呼び出した相手端末が使用中で話中音が流れている場合、電話機から割り込み操作をすると、割り込み音を数秒流して、相手端末*の通話を強制的に終了させた後、呼び出すことができます。
割り込み操作できる電話機、割り込みを拒否できる端末を端末ごとに設定できます。

* N-8010EX/8400RS に接続されている端末に割り込むことはできません。

※ 設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-103）

［操作のしかた］

A から呼び出した端末 B が話中のときに［9］キーを押す。



通話中の 2 つの端末（B と C）に割り込み音が流れ、強制的に通話を終了させます。そして相手端末 B を呼び出すことができます。

※ 通話中の相手に割り込みを拒否できる設定がされているときは、話中状態のまま変化ありません。

ページング機能と操作のしかた

■ ページング呼び出し

ページング呼び出し操作ができる電話機は、あらかじめ設定されています。
また、電話インターフェースユニットごとに、あらかじめ制限時間（10 ～ 990 秒で 10 秒単位）を決めておくと、ページングの呼び出し放送時間を制限できます。

※ ページング操作の可否および制限時間の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。
（ ☞ P. 5-101、5-103）

● 系統ページング

あらかじめ設定されたエリア（系統）の 1 つに呼び出し放送ができます。

※ エリアの設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（ ☞ P. 5-123）

1 **ハンドセットを持ち上げ、［＊］［8］キーを押してから、次に呼び出し放送をする系統番号（1 ～ 192）を押す。**

ページング呼び出し音が、選択された系統に流れます。

ご注意

系統番号は、N-8000 設定ソフトウェアで設定された桁数（1 ～ 3）に合わせて入力してください。

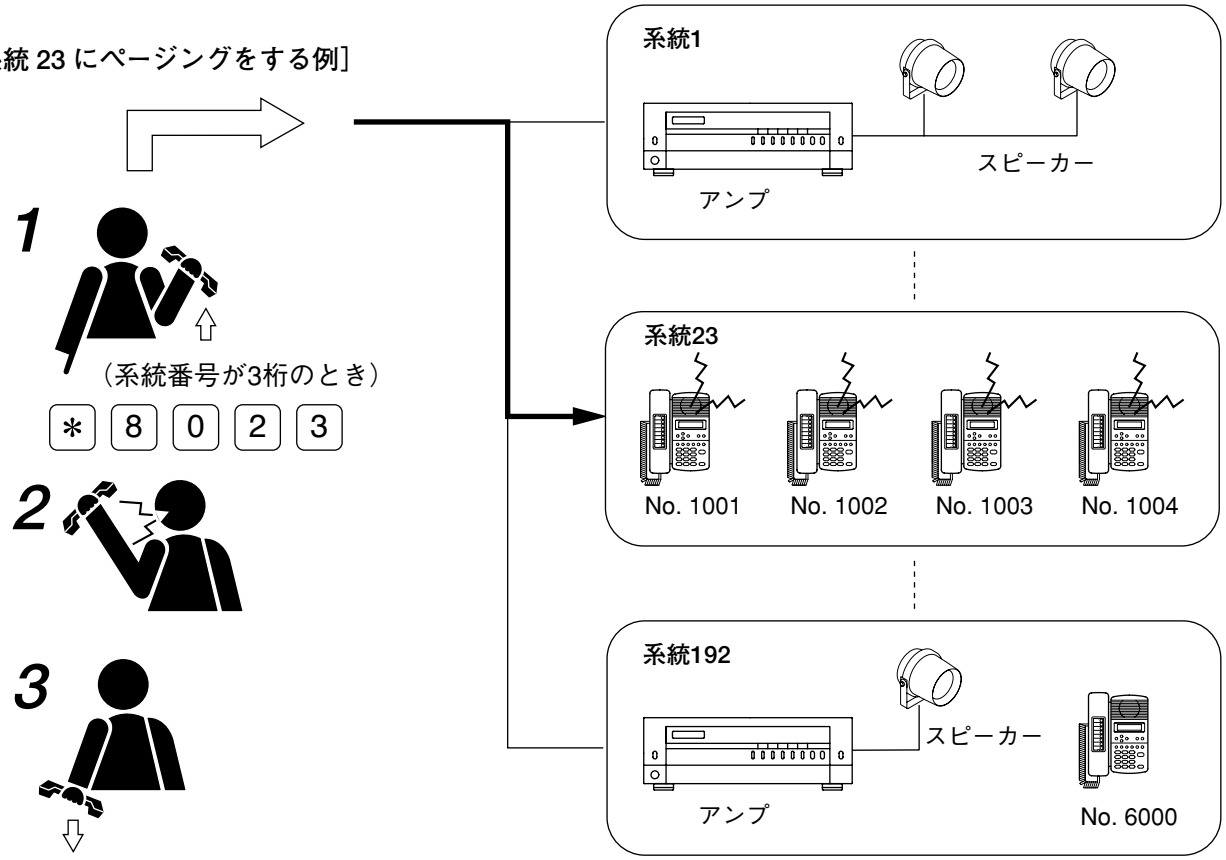
2 **呼び出し放送をする。**

※ 応答モードが系統番号指定応答（ ☞ P. 2-33）に設定されている場合は、呼び出すときに、応答する系統番号を知らせてください。

3 **ハンドセットを置く。**

呼び出し放送が終了します。

［系統 23 にページングをする例］



● 選択ページング

あらかじめ設定された、複数のエリア（系統）に呼び出し放送ができます。
一度に最大 50 系統を選択できます。

※ エリアの設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-123）

1 **ハンドセットを持ち上げ、［＊］［8］［＊］キーを押してから、次に呼び出し放送をする系統番号（1 ～ 192）を押す。**

ご注意

系統番号は、N-8000 設定ソフトウェアで設定された桁数（1 ～ 3）に合わせて入力してください。

2 **続けて系統番号を選択するときは［＊］キーを押す。**

3 **系統番号の選択を終えるときは、系統番号を押した後、［＃］キーを押す。**

ページング呼び出し音が、選択された系統に流れます。

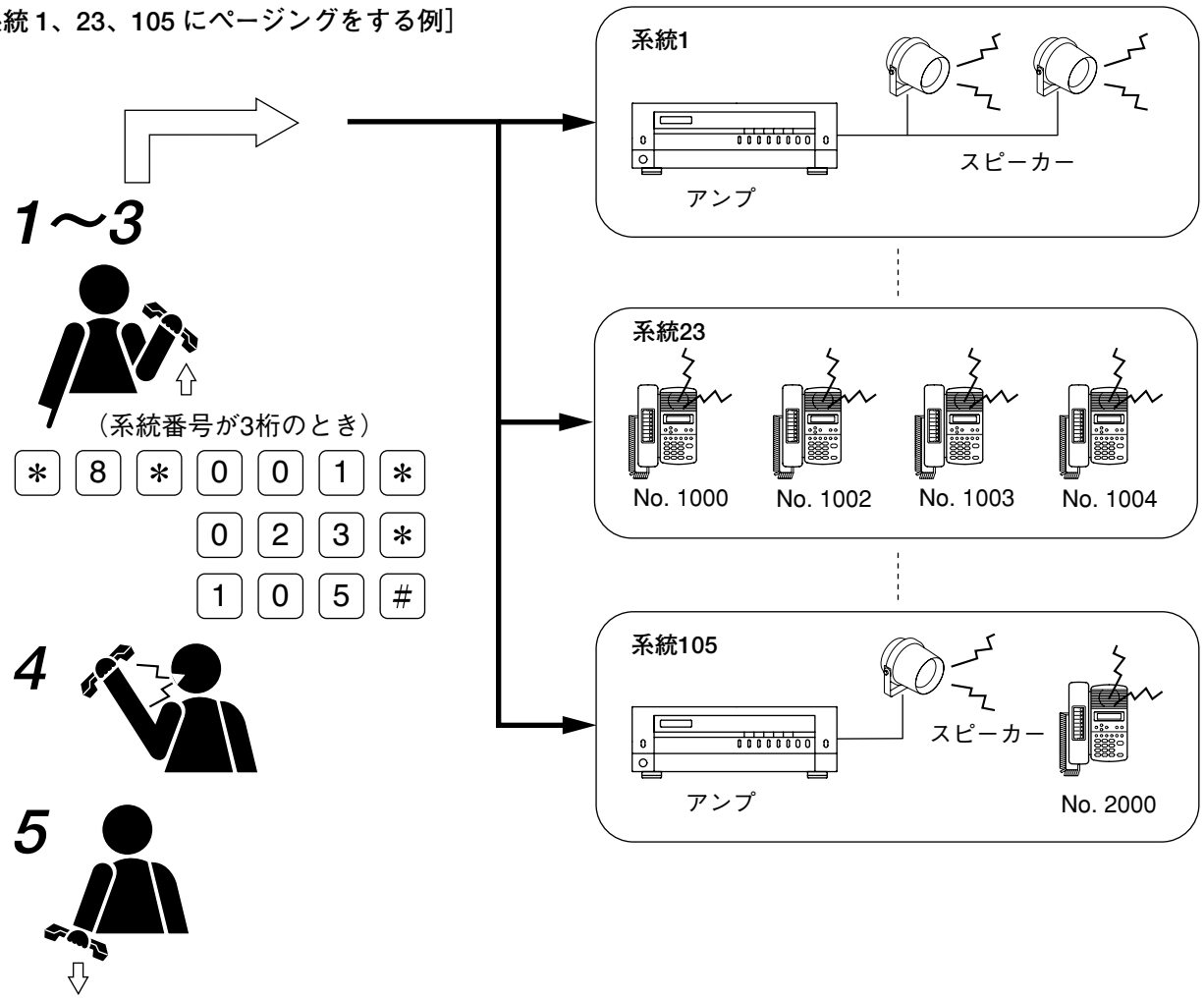
4 **呼び出し放送をする。**

※ 応答モードが系統番号指定応答（☞ P. 2-33）に設定されている場合は、呼び出すときに、応答する系統番号（呼び出した系統のいずれか 1 つで可）を知らせてください。

5 **ハンドセットを置く。**

呼び出し放送が終了します。

［系統 1、23、105 にページングをする例］



● 一斉ページング

あらかじめ設定された、すべてのエリア（系統）に一斉に呼び出し放送ができます。

※ エリアの設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（ ☞ P. 5-123）

1 **ハンドセットを持ち上げ、［＊］［8］キーを押してから、次に系統番号 0（全系統）を押す。**

ページング呼び出し音が、すべての系統に流れます。

ご注意

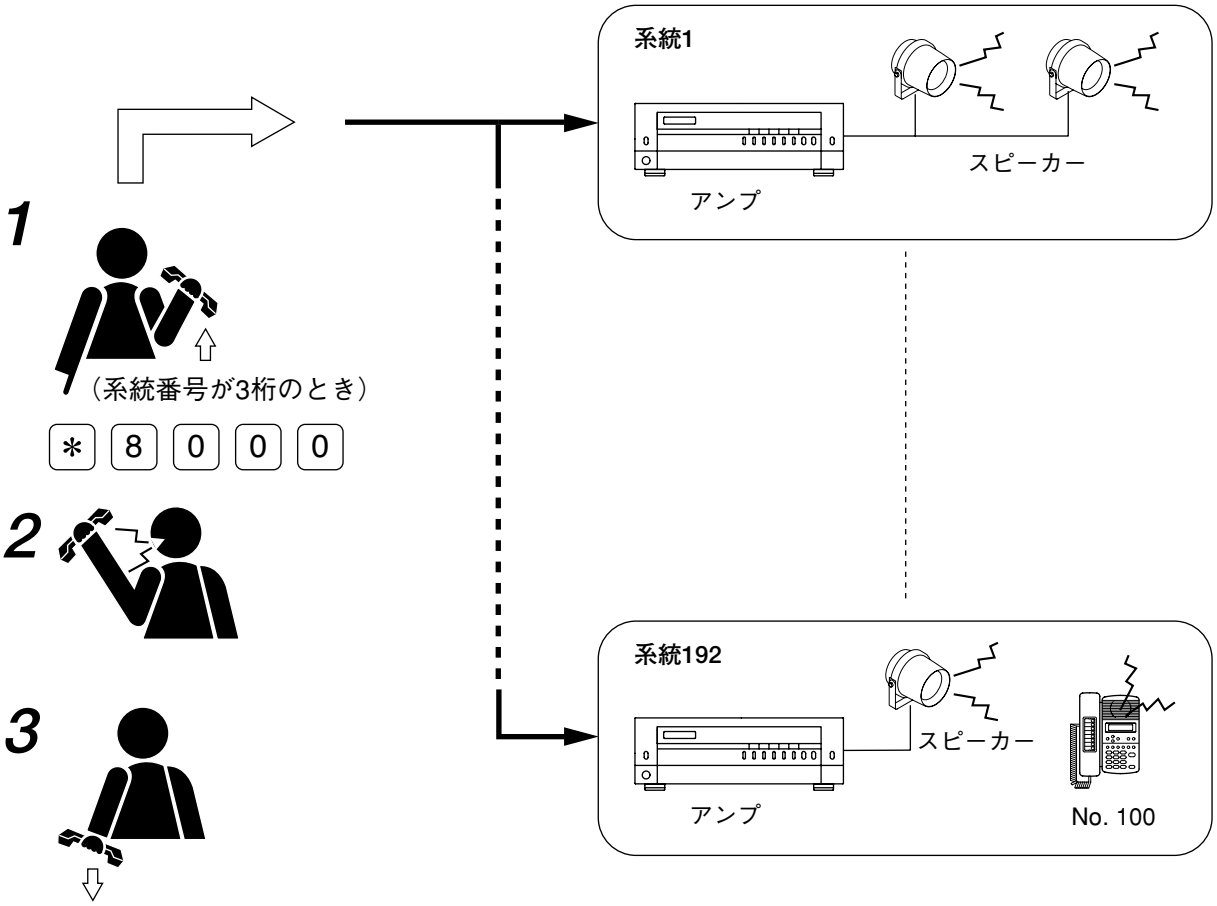
系統番号は、N-8000 設定ソフトウェアで設定された桁数（1 ～ 3）に合わせて入力してください。

2 **呼び出し放送をする。**

※ 応答モードが系統番号指定応答（ ☞ P. 2-33）に設定されている場合は、呼び出すときに、系統番号 0 に応答することを知らせてください。

3 **ハンドセットを置く。**

呼び出し放送が終了します。



● 緊急一斉ページング

通話中、ページング呼び出し中など、現在動作中のすべての機能を終了させ、すべてのエリア（系統）に一斉に呼び出し放送ができます。

※ エリアの設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-123）

1 ハンドセットを持ち上げ、［＊］キーを 4 回押す。

現在動作中のすべての機能が終了し、ページング呼び出し音が、すべての系統に流れます。

2 呼び出し放送をする。

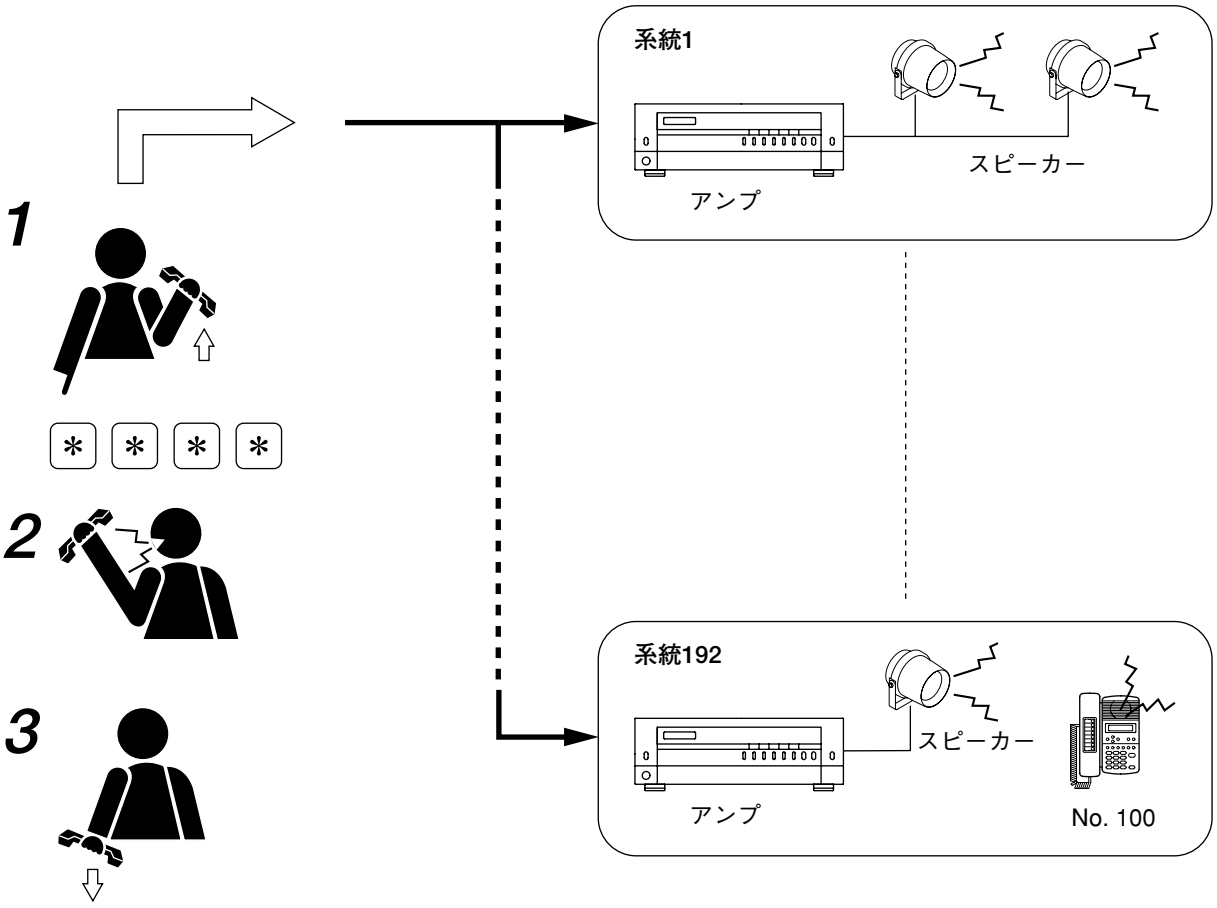
※ 応答モードが系統番号指定応答（☞ P. 2-33）に設定されている場合は、呼び出すときに、系統番号＊に応答することを知らせてください。

3 ハンドセットを置く。

呼び出し放送が終了します。

ご注意

緊急一斉ページングによって終了した機能は、緊急一斉ページングが終わっても元の状態には戻りません。



● ページングの優先度

[緊急一斉ページング]

緊急一斉ページングは、他の通話やページング呼び出しなど、すべての機能の中で最も優先度の高い機能です。緊急一斉ページング時は、他の動作中の機能はすべて終了し、ページング終了後も元の状態に復旧しません。また、緊急一斉ページングが終わるまで、他のすべての動作は受け付けられません。

[一斉ページング、系統ページング、選択ページングの優先度]

一斉ページングは系統ページング、選択ページングよりも優先度が高いページングです。系統ページングと選択ページングの優先度は同じです。

- 系統ページングまたは選択ページング中に一斉ページングをすると、系統ページングまたは選択ページングは強制的に終了し、一斉ページングになります。
- ページング中に、優先度が同じページングをすると、呼び出し放送先の端末や拡声出力が重複する場合は、後からのページングが話中待ちになります。

[すべてのページングの優先度]

下記の上位が最優先となります。

- 緊急一斉ページング
- 緊急メッセージ放送（ ☞ P. 2-75）
- 外部入力放送（優先設定時）（ ☞ P. 2-179）
- 一斉ページング
- 系統ページング、選択ページング

※ 詳しくは P. 2-175「優先順位」をお読みください。

■ ページング受信（緊急一斉ページング受信時のみ）

緊急一斉ページングを受信すると、N-8000AL に接続された電話機の呼び出しベル*が鳴ります。

* 通常の呼び出し音とは異なります。（ ☞ P. 2-191「信号音一覧」をご確認ください。）

電話機のハンドセットを持ち上げ、受話機からページングの内容を聞くことができます。

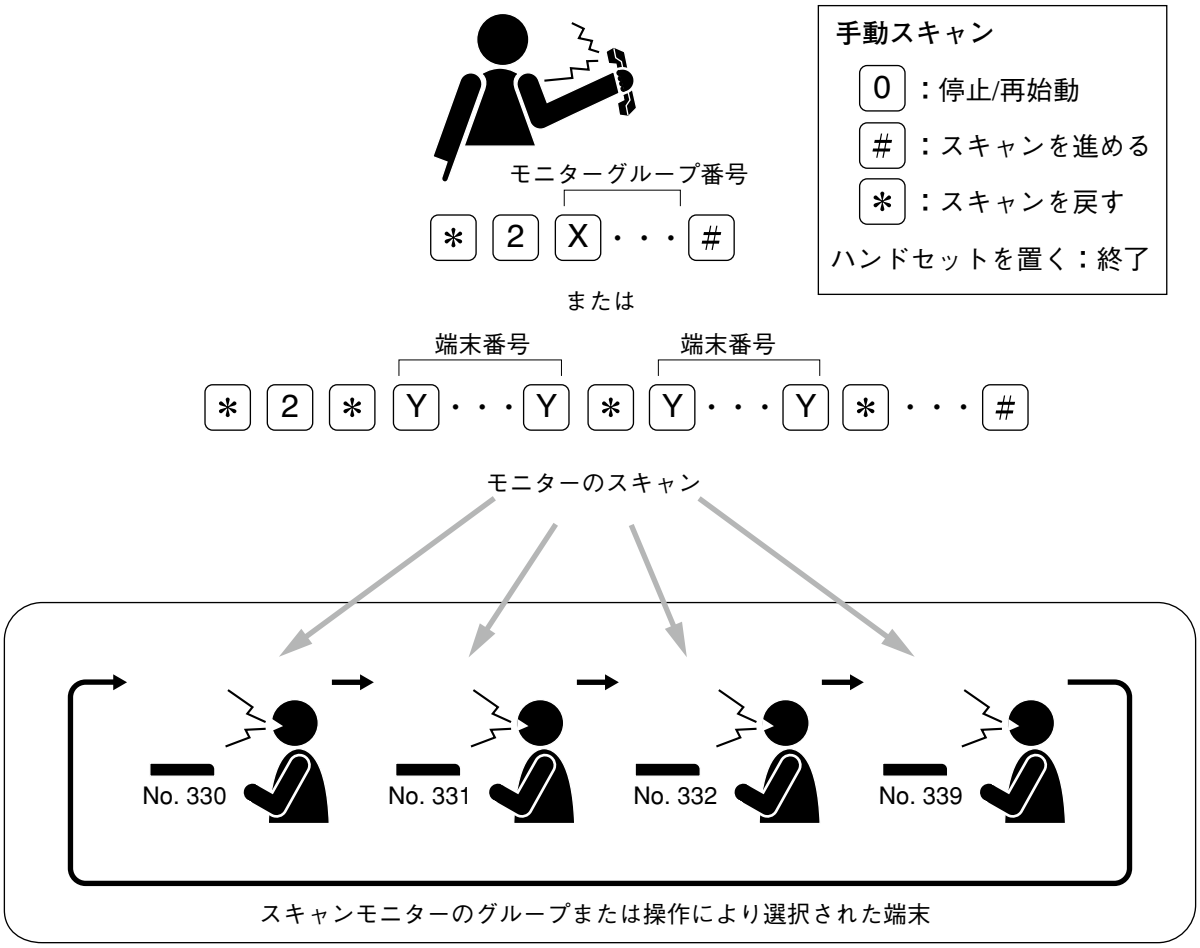
その他の機能と操作のしかた

■ スキャンモニター

電話機から任意の複数端末の周囲音声をモニターすることができます。
モニターされる端末は、あらかじめモニターグループとして登録しておくか、またはその都度端末番号を指定して選択することができます。
モニターされる端末は、登録された順序または選択された順序にしたがって、一定時間で切り換わります。
1 つのモニターグループには最大 16 台の端末を登録できます。
1 台の電話機から最大 4 グループ（最大 64 台の端末）を順次モニターできます。
操作により選択できる端末は最大 16 台です。

※ モニターグループ、スキャン時間、およびモニターされる端末の状態の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-104）

※ 通話中など、使用中の端末はスキップされ、モニターされません。プライバシー状態の RS-140 もスキップされます。



モニターされる端末の動作は、あらかじめ N-8000 設定ソフトウェアで次のいずれかに設定されています。

[表示なし]
モニター中も待ち受け状態（状態表示灯が消灯）のままです。
[表示あり]
モニター中は状態表示灯が点灯します。
[表示＋モニター音]
モニター開始時に開始音（キータッチ音）が鳴り、モニター中は状態表示灯が点灯します。

※ ただし、RS-140/180/480 の場合は、表示ありに設定しても、状態表示灯は点灯しません。

［操作のしかた］

1 自動スキャンを開始する。

1-1 あらかじめ登録された端末をモニターする場合

ハンドセットを持ち上げ、［＊］［2］キーを押し、モニターグループ番号（1 ～ 4）を押してから、［＃］キーを押す。

※ 複数のグループをモニターするときは、グループ番号を連続して押してください。

1-2 端末番号を指定してモニターする場合

ハンドセットを持ち上げ、［＊］［2］［＊］キーを押し、端末番号を押す。

続けて端末を選択するときは［＊］キーを押す。

端末の選択を終えるときは［＃］キーを押す。

スキャンモニターが始まり、手動で止めるまで、設定した順序と設定した時間間隔で自動的に端末グループ内を循環してモニターします。

2 手動でスキャンの動作を操作する。

2-1 自動スキャンの停止および再開

特定の端末を連続してモニターするには、その端末のところで、［0］キーを押して自動スキャンの動作を止めてください。もう一度［0］キーを押すと、引き続き自動スキャン動作が再開します。

2-2 スキャンを進める

［＃］キーを押すと、モニターする端末を 1 台進めます。

2-3 スキャンを戻す

［＊］キーを押すと、モニターする端末を 1 台戻します。

3 スキャンモニターの終了

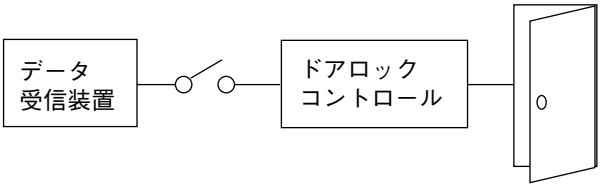
スキャンモニターを終了させるには、ハンドセットを置いてください。

■ 外部機器制御（N-8000MI/8000DI/8000AF/8050DS/8540DS/8640DS/8650DS 使用時のみ）

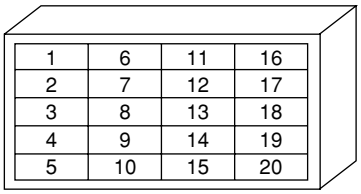
電話機の操作で指定したマルチインターフェースユニット、ダイレクトセレクトユニット、または音声インターフェースユニットの接点にワンショットメイク出力やメイク／ブレイク出力を出したり、指定したドア端末の接点にワンショットメイクを出したりすることで、外部機器を制御することができます。
例えば、ワンショットメイク出力によりドアロックの制御をしたり、メイク／ブレイク出力により表示器を制御したりすることができます。

※ ワンショットメイク時間、操作番号桁数、操作番号、および外部機器制御の操作ができる電話機の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-38、5-46、5-52、5-65、5-103、5-109、5-112、5-116、5-119）

［ワンショットメイク出力制御によるドアリモートの例］



［メイク／ブレイク出力による投薬表示の例］



［ワンショットメイク出力の操作のしかた］

［＊］［3］［0］キーを押した後、制御したい外部機器に対応する接点の操作番号を押します。

機能指定番号　　接点の操作番号（2～4桁）

＊ ＋ 3 ＋ 0 ＋ X ＋ ------- ＋ X

［メイク出力の操作のしかた］

［＊］［3］［1］キーを押した後、制御したい外部機器に対応する接点の操作番号を押します。

機能指定番号　　接点の操作番号（2～4桁）

＊ ＋ 3 ＋ 1 ＋ X ＋ ------- ＋ X

［ブレイク出力の操作のしかた］

［＊］［3］［2］キーを押した後、制御したい外部機器に対応する接点の操作番号を押します。

機能指定番号　　接点の操作番号（2～4桁）

＊ ＋ 3 ＋ 2 ＋ X ＋ ------- ＋ X

［ドア端末ワンショットメイク出力の操作のしかた（N-8050DS/8540DS 使用時）］

［＊］［3］［3］キーを押した後、制御したいドア端末の番号を押します。

機能指定番号　　ドア端末番号（2～6桁）

＊ ＋ 3 ＋ 3 ＋ X ＋ ------- ＋ X

［ドア端末ワンショットメイク出力の操作のしかた（N-8640DS/8650DS 使用時）］

N-8640DS/8650DS には接点出力が 5 つあり、制御する接点出力により、機能指定番号が異なります。
接点出力に応じた機能指定番号を押した後、制御したいドア端末の番号を押します。

機能指定番号　　ドア端末番号（2～6桁）

接点出力1を制御するとき　＊ ＋ 3 ＋ 3 ＋ X ＋ ------- ＋ X

接点出力2を制御するとき　＊ ＋ 3 ＋ 4 ＋ X ＋ ------- ＋ X

接点出力3を制御するとき　＊ ＋ 3 ＋ 5 ＋ X ＋ ------- ＋ X

接点出力4を制御するとき　＊ ＋ 3 ＋ 6 ＋ X ＋ ------- ＋ X

接点出力5を制御するとき　＊ ＋ 3 ＋ 7 ＋ X ＋ ------- ＋ X

■ ドアリモート（N-8050DS/8540DS/8640DS/8650DS /8000MI/8000DI/8000AF 使用時のみ）

ドア端末 N-8050DS および IP ドア端末 N-8540DS/8640DS/8650DS のドア端末接点動作モードを「ドアリモート制御」に設定している場合、その端末と通話中の電話機からの操作により、N-8050DS/8540DS/8640DS/8650DS の接点出力が一定時間メイクします。
または、端末との通話中に電話機からの操作により、マルチインターフェースユニット N-8000MI、ダイレクトセレクトユニット N-8000DI、または音声インターフェースユニット N-8000AF の接点出力が一定時間メイクします。
例えば、電子錠システムと接続すると、ドアロックの制御ができます。

※ ドア端末接点動作モード、ワンショットメイク時間、および各端末に対応する N-8000MI/8000DI/8000AF の接点の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-38、5-40、5-65、5-67、5-69、5-83、5-100、5-103）

［操作のしかた（N-8050DS/8540DS/8000MI/8000DI/8000AF の接点出力を使用する場合）］

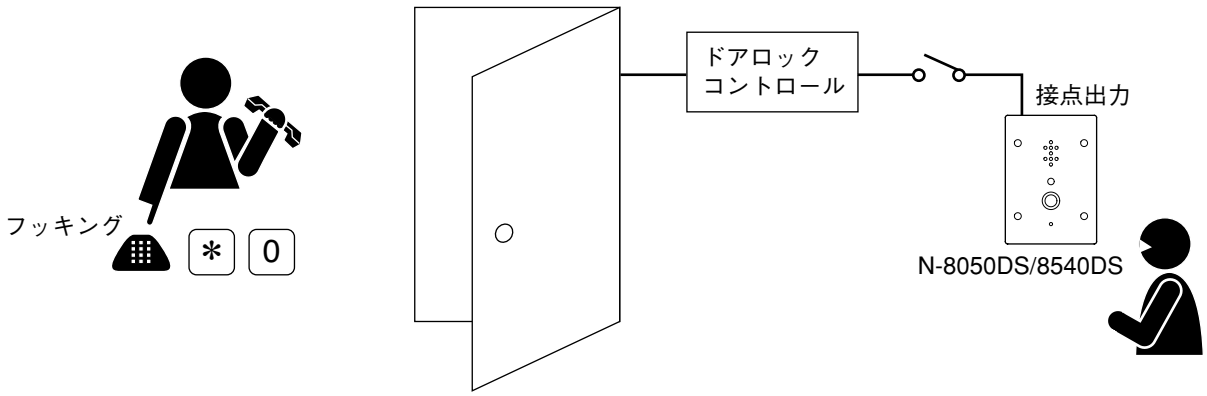
1 **2 者通話をしている間に、フッキング*をする。**
現在の通話が保留され、保留音が相手に送られます。

* フックスイッチを押してすぐに戻します。

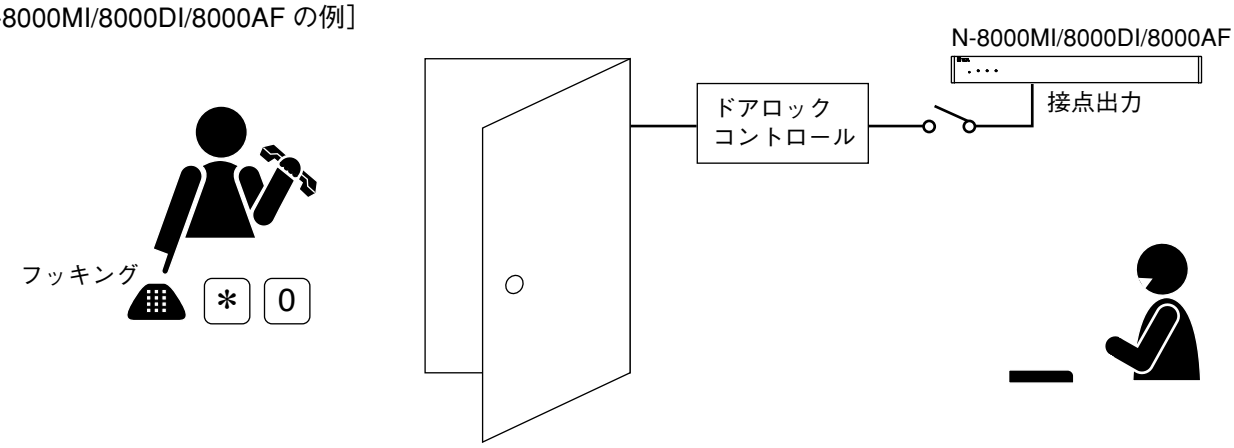
2 **［＊］、［0］キーを押す。**
通話中の N-8050DS/8540DS の接点出力または自端末に対応する N-8000MI/8000DI/8000AF の接点出力が一定時間メイクします。（例えば、電子錠システムと接続していると、対応するドアのロックを解除することができます。）

3 確認音が鳴って、元の通話に戻ります。

［N-8050DS/8540DS の例］



［N-8000MI/8000DI/8000AF の例］



［操作のしかた（N-8640DS/8650DS の接点出力を使用する場合）］

N-8640DS/8650DS には接点出力が 5 つあり、操作により制御する接点出力を選ぶことができます。

1 **2 者通話をしている間に、フッキング*をする。**

現在の通話が保留され、保留音が相手に送られます。

* フックスイッチを押してすぐに戻します。

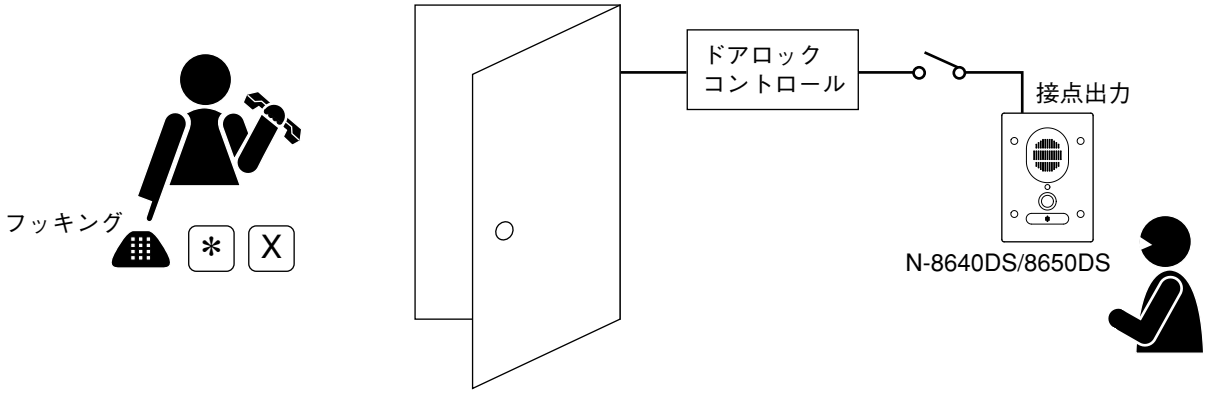
2 **［＊］キーを押してから、制御する IP ドア端末の接点出力を指定する番号（0 ～ 4）を押す。**

接点出力 1（オープンコレクター）の指定番号：0
接点出力 2（オープンコレクター）の指定番号：1
接点出力 3（オープンコレクター）の指定番号：2
接点出力 4（オープンコレクター）の指定番号：3
接点出力 5（リレー）の指定番号　　：4

通話中の N-8640DS/8650DS の接点出力が一定時間メイクします。（例えば、電子錠システムと接続していると、対応するドアのロックを解除することができます。）

3 確認音が鳴って、元の通話に戻ります。

［N-8640DS/8650DS の例］



X：接点出力を指定する番号

接点出力1	0
接点出力2	1
接点出力3	2
接点出力4	3
接点出力5	4

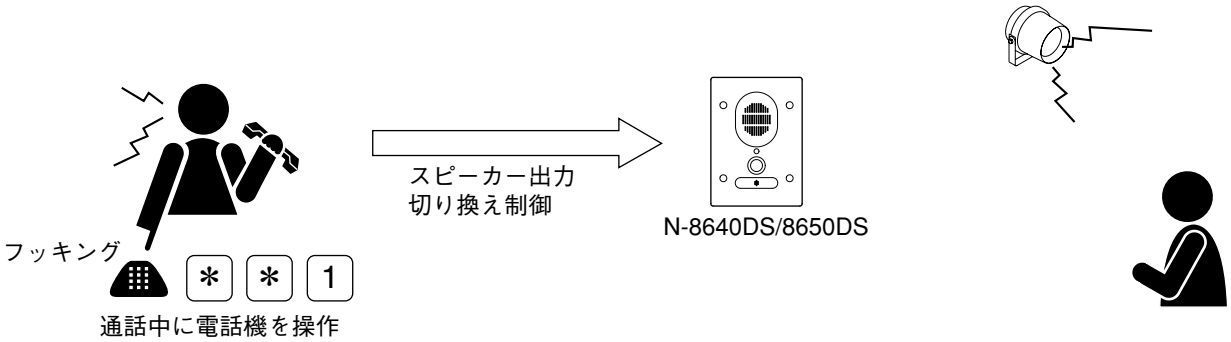
■ IP ドア端末のスピーカー出力切り換え制御（N-8640DS/8650DS 使用時のみ）

電話機の操作で、その電話機と通話中の IP ドア端末 N-8640DS/8650DS の音声出力先を内部スピーカーまたは外部スピーカー端子に接続したスピーカーに切り換えることができます。通話が終了する、または優先度の高いページングに割り込まれると、N-8000 設定ソフトウェアで設定されたスピーカーに戻ります。

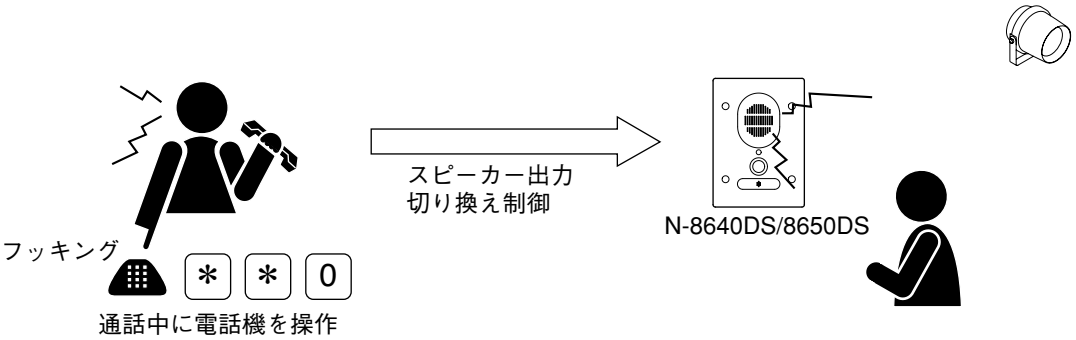
ご注意

- 通話相手がこの機能を持たない端末であれば、操作した電話機からはエラー音が流れ、通話に戻ります。
- 内部スピーカーと外部スピーカーを同時に鳴らすことはできません。

● 外部スピーカーに切り換えるとき



● 内部スピーカーに切り換えるとき



■ アクセスコード認証

アクセスコード認証を有効にすると、電話機の使用を制限できます。
あらかじめ登録された暗証番号（4 桁の数字）を各種機能の始めに入力すると、通常どおり使用することができます。暗証番号を間違えるとエラーとなります。
制限される機能は呼び出し、ページング送信、スキャンモニターなど電話機から発信する機能、および外部機器制御、自端末の設定変更などダイヤル操作による制御が対象となります。
着信は暗証番号の入力なしで使用できます。
優先度の高い機能である緊急一斉ページング送信は、暗証番号の入力なしで使用できます。
通話中からの手動転送など、待ち受けでない状態からの操作は暗証番号の入力なしで使用できます。

※ アクセスコード認証、暗証番号の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-103）

● 操作のしかた

アクセスコード認証を有効にしているときに端末の呼び出しをする例です。

1 **暗証番号（4 桁）を押す。**

（暗証番号：「1234」のときの例）

2 **呼び出す端末の番号を押す。**

（端末番号：「15」のときの例）

電話機での操作一覧表

機能		項目	操作	備考
呼び出し/応答		呼び出し	端末番号[×][×] … [×]をダイヤルする。	端末番号：2～6桁
		応答	ハンドセットを持ち上げる。	
通話		ハンドセット通話	ハンドセットを持ち上げて話す。	
転送		転送	通話中にフッキングをする。 →相手は保留される。 第3者の番号をダイヤルして呼び出す。 →第3者との通話。（元の通話相手は一時保留） ハンドセットを置く。 →転送が終了。	
		元の通話の復旧	通話中にフッキングをする。 →相手は保留される。 第3者の番号をダイヤルして呼び出す。 →第3者との通話。（元の通話者は一時保留） 再びフッキングをする。 →元の通話に戻る。（元の通話の復旧）	
自動転送	不在転送	自端末での登録	[＊][4][1][転送先端末番号][＃]をダイヤルする。	端末番号：2～6桁
		自端末での消去	[＊][4][1][自端末番号][＃]をダイヤルする。	
		転送先端末での登録	[＊][4][2][自端末番号][＃]をダイヤルする。	
	時刻連動不在転送	登録	[＊][4][3][転送先端末番号][＃]をダイヤルする。	
		消去	[＊][4][3][自端末番号][＃]をダイヤルする。	
	不応答転送	登録	[＊][4][4][転送先端末番号][＃]をダイヤルする。	
		消去	[＊][4][4][自端末番号][＃]をダイヤルする。	
	話中転送	登録	[＊][4][5][転送先端末番号][＃]をダイヤルする。	
		消去	[＊][4][5][自端末番号][＃]をダイヤルする。	
緊急割り込み			呼び出した相手端末が話中のとき［9］を押す。	
スキャンモニター		開始	[＊][2][モニターグループ番号][モニターグループ番号] … [＃]をダイヤルする。 または [＊][2][＊][モニター端末番号][＊][モニター端末番号] … [＃]をダイヤルする。	モニターグループ番号：1～4 モニター端末番号：2～6桁 モニター中にダイヤル
		停止・再開	停止は［0］を、再開は再度［0］を押す。	
		スキャン進む	端末のモニターを進めるには[＃]を押す。	
		スキャン戻る	端末のモニターを戻すには［＊］を押す。	
		終了	ハンドセットを置く。	
ページング呼び出し		系統ページング	[＊][8][系統番号]をダイヤルする。	系統番号：1～3桁
		選択ページング	[＊][8][＊][系統番号][＊][系統番号][＊] … [系統番号][＃]をダイヤルする。	
		一斉ページング	[＊][8][0]をダイヤルする。	
		緊急一斉ページング	[＊][＊][＊][＊]をダイヤルする。	
緊急一斉ページング受信			ハンドセットを持ち上げる。	
外部機器制御		ワンショットメイク出力	[＊][3][0][接点操作番号]をダイヤルする。	接点操作番号：2～4桁
		メイク出力	[＊][3][1][接点操作番号]をダイヤルする。	
		ブレイク出力	[＊][3][2][接点操作番号]をダイヤルする。	
		ドア端末ワンショットメイク出力	(N-8050DS/8540DSの場合) [＊][3][3][ドア端末番号]をダイヤルする。 (N-8640DS/8650DSの場合) [＊][3][接点指定番号][ドア端末番号]をダイヤルする。	接点指定番号： 接点出力1 = 3 接点出力2 = 4 接点出力3 = 5 接点出力4 = 6 接点出力5 = 7
		スピーカー出力切り換え制御	(内部スピーカーに切り換えるとき) N-8640DS/8650DSとの通話中にフッキングをした後、[＊][＊][0] をダイヤルする。 (外部スピーカーに切り換えるとき) N-8640DS/8650DSとの通話中にフッキングをした後、[＊][＊][1] をダイヤルする。	

機能	項目	操作	備考
ドアリモート		(N-8050DS/8540DS/8000MI/8000DI/8000AF の場合) 通話中にフッキングをした後、[＊][0] をダイヤルする。 (N-8640DS/8650DS の場合) 通話中にフッキングをした後、[＊][接点出力指定番号] をダイヤルする。	接点出力指定番号： 接点出力 1 = 0 接点出力 2 = 1 接点出力 3 = 2 接点出力 4 = 3 接点出力 5 = 4
アクセスコード認証		操作の前に [暗証番号] をダイヤルする。	暗証番号：4 桁の数値

局線からの操作のしかた（N-8000CO 使用時のみ）

端末を呼び出す

N-8000 システムが局線から着信を受ける機能には、ダイレクトインラインとダイレクトインダイヤルの２種類があります。N-8000 システムの設定により、呼び出しかたが異なります。

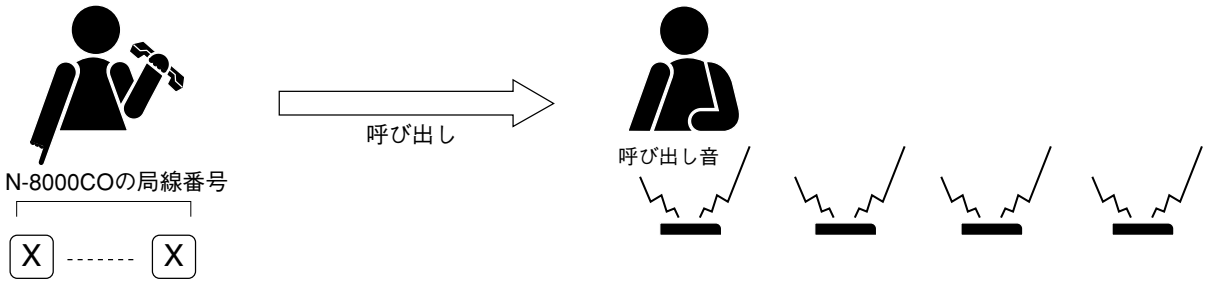
■ ダイレクトインラインによる呼び出し

N-8000CO にダイレクトインライン機能が設定されている場合は、あらかじめ設定された最大４台の端末を同時に呼び出します。

N-8000CO の局線番号をダイヤルする。
あらかじめ登録された最大４台の端末で呼び出し音が鳴ります。
いずれか１つの端末が応答すれば、その端末と通話できます。

ご注意

- 呼び出したマスター端末が 30 秒以内で応答しなければ、回線が切断されます。



■ ダイレクトインダイヤルによる呼び出し

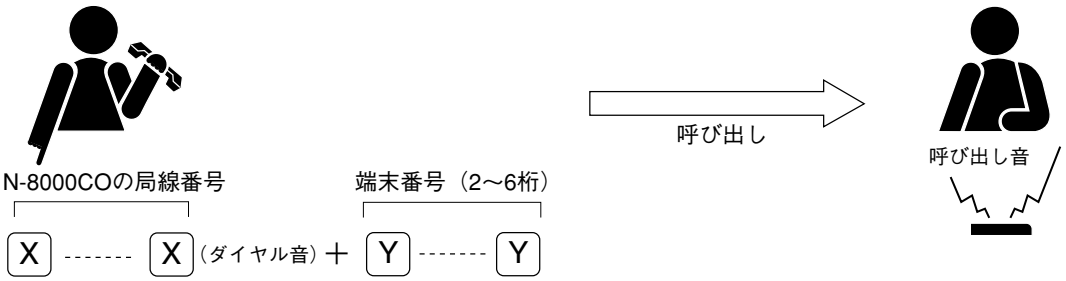
N-8000CO にダイレクトインダイヤル機能が設定されている場合は、ある１つの端末を指定して直接呼び出します。

1 ハンドセットを持ち上げて、N-8000CO の局線番号をダイヤルする。
N-8000CO が自動的に応答し、発信者にはダイヤル受付音が聞こえます。

2 ダイヤル受付音を聞いた後、呼び出したい端末の番号をダイヤルする。
指定された端末で呼び出し音が鳴ります。
相手の端末が応答すれば、通話できます。

ご注意

- ダイヤル桁間の操作間隔が５秒空くと、エラーになり、回線が切断されます。
- 呼び出したマスター端末が 30 秒以内で応答しなければ、回線が切断されます。



ページング呼び出し

N-8000CO にダイレクトインダイヤル機能が設定されており、かつページング操作ができるように設定されているとき、局線から N-8000 システムに呼び出し放送をすることができます。
また、N-8000CO ごとに、あらかじめ制限時間（10 ～ 990 秒で 10 秒単位）を決めておくと、ページングの呼び出し放送時間を制限できます。

※ ダイレクトインダイヤル機能の使用可否、ページング操作の可否、および制限時間の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-92、5-93、5-94）

■ 系統ページング

あらかじめ設定されたエリア（系統）の 1 つに呼び出し放送ができます。

※ エリアの設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-123）

1 **ハンドセットを持ち上げて、N-8000CO の局線番号をダイヤルする。**

N-8000CO が自動的に応答し、発信者にはダイヤル受付音が聞こえます。

2 **ダイヤル受付音を聞いた後、［＊］［8］キーを押してから、呼び出し放送をする系統番号（1 ～ 192）を押す。**

ページング呼び出し音が、選択された系統に流れます。

ご注意

系統番号は、N-8000 設定ソフトウェアで設定された桁数（1 ～ 3）に合わせて入力してください。

3 **呼び出し放送をする。**

※ 応答モードが系統番号指定応答（☞ P. 2-33）に設定されている場合は、呼び出すときに、応答する系統番号を知らせてください。

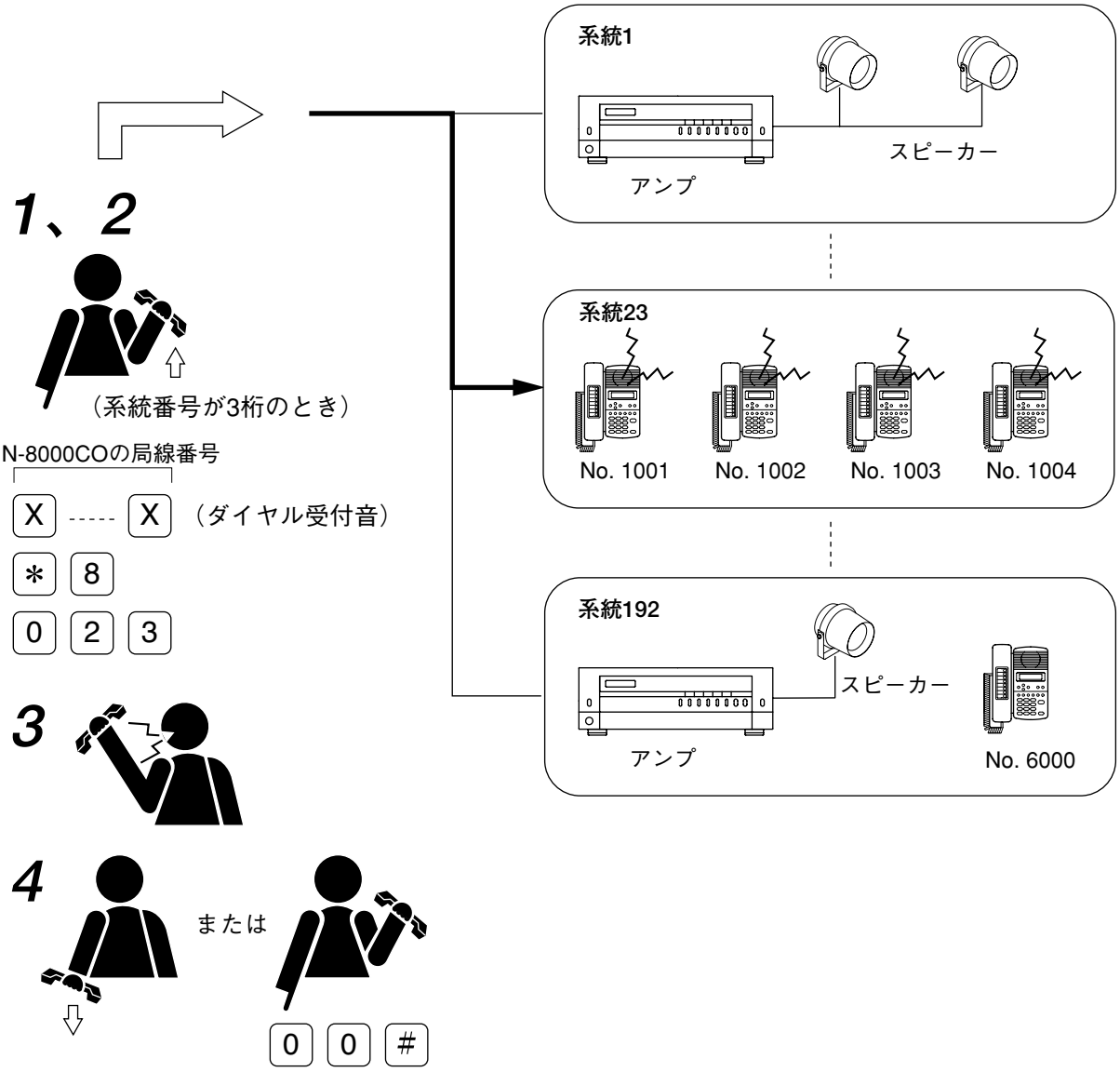
4 **ハンドセットを置くか、あるいは［0］［0］［＃］キーを押す。**

呼び出し放送が終了します。

ご注意

- ハンドセットを置いて終話するとビジートーンが何回か拡声されます。
- ［0］［0］［＃］キーの操作で終話すると、［0］［0］［＃］キーの DTMF 音が拡声されます。

［系統 23 にページングをする例］



■ 選択ページング

あらかじめ設定された、複数のエリア（系統）に呼び出し放送ができます。
一度に最大 50 系統を選択できます。

※ エリアの設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（ ☞ P. 5-123）

1 **ハンドセットを持ち上げて、N-8000CO の局線番号をダイヤルする。**

N-8000CO が自動的に応答し、発信者にはダイヤル受付音が聞こえます。

2 **ダイヤル受付音を聞いた後、［＊］［8］キーを押し、次に［＊］キーを押してから、呼び出し放送をする系統番号（1 ～ 192）を押す。**

ご注意

系統番号は、N-8000 設定ソフトウェアで設定された桁数（1 ～ 3）に合わせて入力してください。

3 **続けて系統番号を選択するときは［＊］キーを押す。**

4 **系統番号の選択を終えるときは、系統番号を押した後、［＃］キーを押す。**

ページング呼び出し音が、選択された系統に流れます。

5 **呼び出し放送をする。**

※ 応答モードが系統番号指定応答（ ☞ P. 2-33）に設定されている場合は、呼び出すときに、応答する系統番号（呼び出した系統のいずれか 1 つで可）を知らせてください。

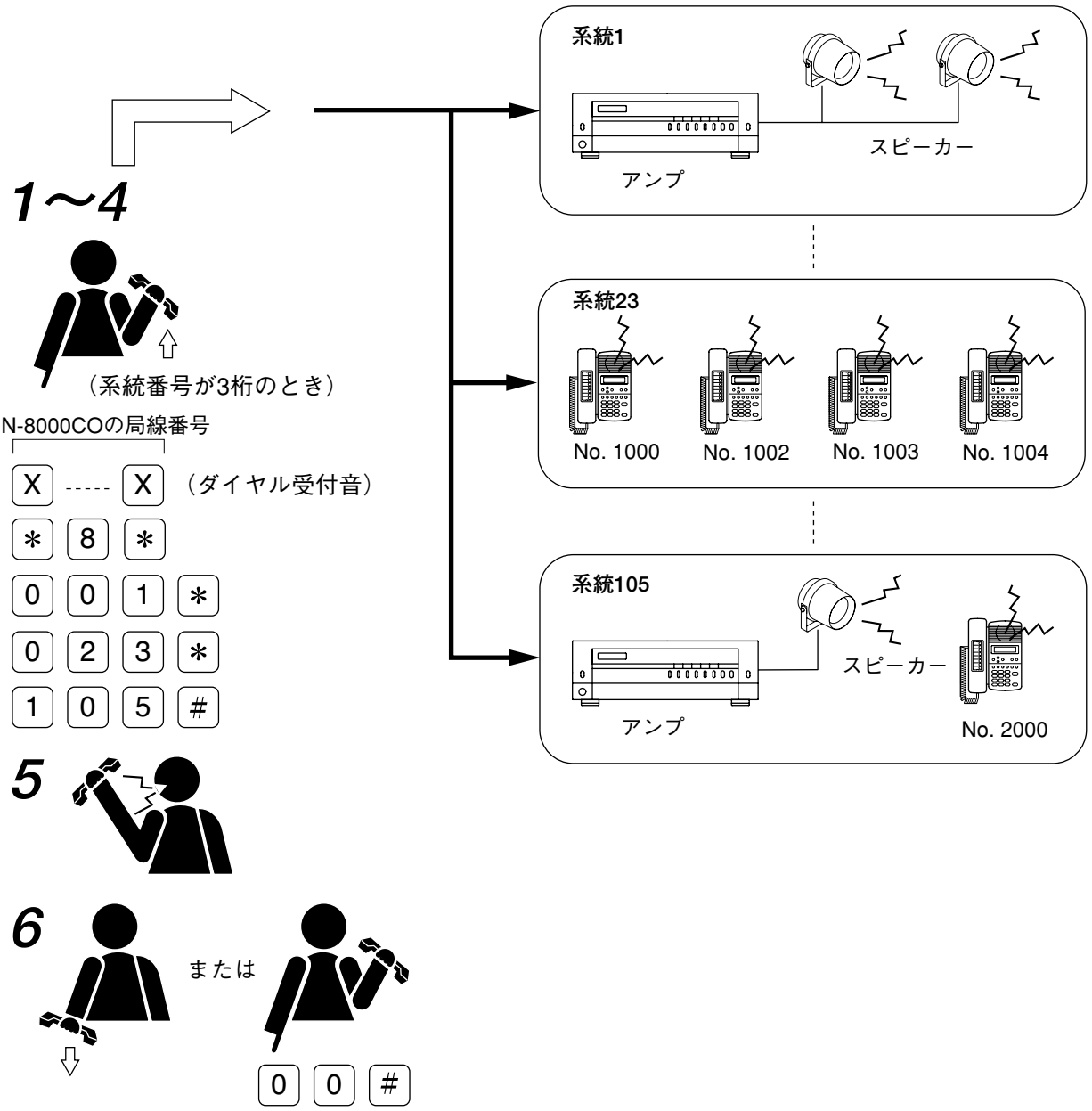
6 **ハンドセットを置くか、あるいは［0］［0］［＃］キーを押す。**

呼び出し放送が終了します。

ご注意

- ハンドセットを置いて終話するとビジートーンが何回か拡声されます。
- ［0］［0］［＃］キーの操作で終話すると、［0］［0］［＃］キーの DTMF 音が拡声されます。

［系統 1、23、105 にページングをする例］



■ 一斉ページング

あらかじめ設定された、すべてのエリア（系統）に一斉に呼び出し放送ができます。

※ エリアの設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（ ☞ P. 5-123）

1 **ハンドセットを持ち上げて、N-8000CO の局線番号をダイヤルする。**

N-8000CO が自動的に応答し、発信者にはダイヤル受付音が聞こえます。

2 **ダイヤル受付音を聞いた後、［＊］［8］キーを押してから、系統番号 0（全系統）を押す。**

ページング呼び出し音が、すべての系統に流れます。

ご注意

系統番号は、N-8000 設定ソフトウェアで設定された桁数（1 ～ 3）に合わせて入力してください。

3 **呼び出し放送をする。**

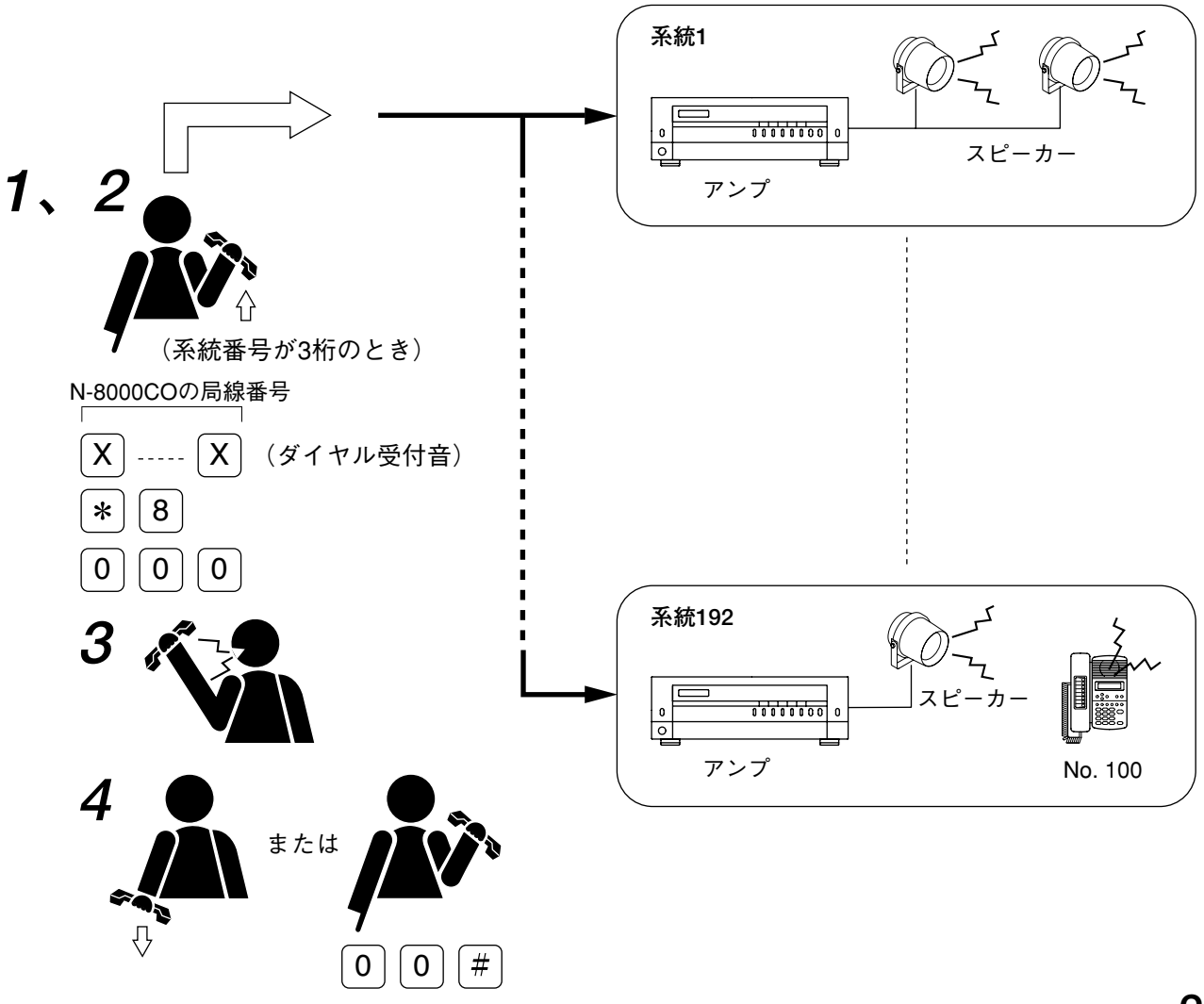
※ 応答モードが系統番号指定応答（ ☞ P. 2-33）に設定されている場合は、呼び出すときに、系統番号 0 に応答することを知らせてください。

4 **ハンドセットを置くか、あるいは［0］［0］［＃］キーを押す。**

呼び出し放送が終了します。

ご注意

- ハンドセットを置いて終話するとビジートーンが何回か拡声されます。
- ［0］［0］［＃］キーの操作で終話すると、［0］［0］［＃］キーの DTMF 音が拡声されます。



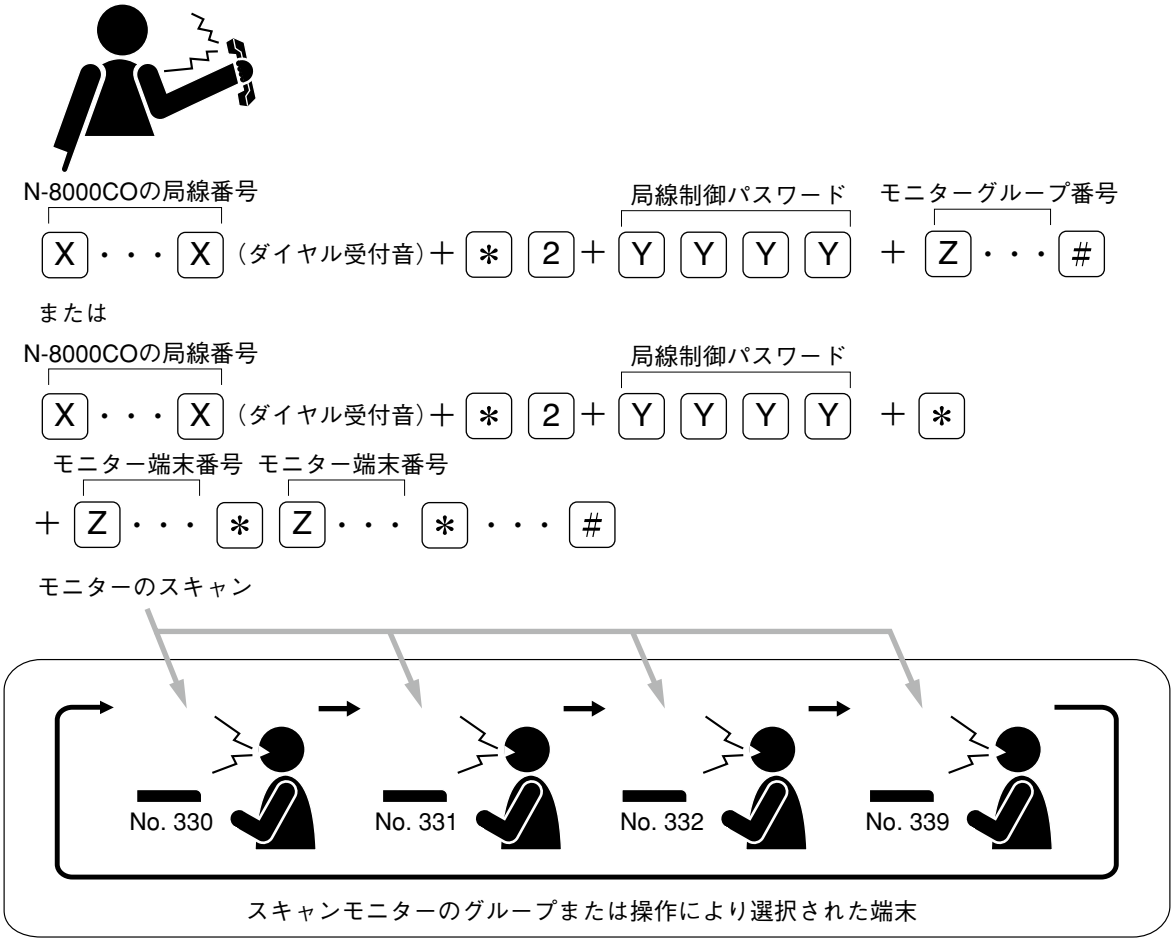
その他の機能と操作のしかた

■ スキャンモニター

N-8000CO がスキャンモニターの操作可能な設定にされていると、局線から、任意の複数端末の周囲音声をモニターすることができます。局線からの操作時に使う局線制御パスワードを設定することもできます。
モニターされる端末は、あらかじめモニターグループとして登録しておくか、またはその都度端末番号を指定して選択することができます。
モニターされる端末は、登録された順序または選択された順序にしたがって、一定時間で切り換わります。
モニター中に局線からスキャンモニターの停止、再開などの制御をすることはできません。
1 つのモニターグループには最大 16 台の端末を登録できます。
1 台の端末から最大 4 グループ（最大 64 台の端末）を順次モニターできます。
操作により選択できる端末は最大 16 台です。

※ スキャンモニター操作の可否、局線制御パスワード、モニターグループ、およびスキャン時間の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 5-95）

※ 局線接続時間がスキャンモニター接続時間よりも短く設定されていれば、そちらが有効になり、スキャンモニター接続時間を待たずに回線が切断されます。



● モニターされる端末の動作は、あらかじめ N-8000 設定ソフトウェアで次のいずれかに設定されています。

[表示なし]
モニター中も待ち受け状態（状態表示灯が消灯）のままです。
[表示あり]
モニター中は状態表示灯が点灯します。
[表示＋モニター音]
モニター開始時に開始音（キータッチ音）が鳴り、モニター中は状態表示灯が点灯します。

※ ただし、RS-140/180/480 の場合は、表示ありに設定しても、状態表示灯は点灯しません。

［操作のしかた］

1 ハンドセットを持ち上げて、N-8000CO の局線番号をダイヤルする。

N-8000CO が自動的に応答し、発信者にはダイヤル受付音が聞こえます。

2 自動スキャンを開始する。

2-1 あらかじめ登録された端末をモニターする場合

ダイヤル受付音を聞いた後、［＊］［2］キー、局線制御パスワード（4 桁）*、モニターグループ番号（1 ～ 4）、［＃］キーを順に押す。

* 局線制御パスワードは設定されている場合のみ必要です。

※ 複数のグループをモニターするときは、グループ番号を連続して押してください。

2-2 端末番号を指定してモニターする場合

ダイヤル受付音を聞いた後、［＊］［2］キー、局線制御パスワード（4 桁）*、［＊］キー、端末番号を順に押す。

続けて端末を選択するときは［＊］キーを押す。

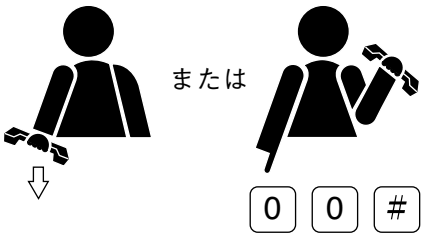
端末の選択を終えるときは［＃］キーを押す。

* 局線制御パスワードは設定されている場合のみ必要です。

- スキャンモニターが始まり、終了の操作（手順 3）をするまで、設定した順序または選択した順序と設定した時間間隔で自動的に端末グループ内を循環してモニターします。
- モニターされる端末が切り換わるときは、モニター開始音（キータッチ音）が聞こえます。
- モニターされる端末が話中のときは、話中音が 1 秒間聞こえます。

3 ハンドセットを置くか、あるいは［0］［0］［＃］キーを押す。

スキャンモニターが終了します。



■ タイムシグナル（N-8000AF 使用時のみ）

N-8000CO にダイレクトインダイヤル機能が設定されているとき、局線からタイムシグナルのスケジュール変更、停止、確認、予約、予約確認をすることができます。局線からの操作時に使う局線制御パスワードを設定することもできます。

※ ダイレクトインダイヤル機能の使用可否、局線制御パスワードの設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-94）

● タイムシグナルのスケジュールを変更する

局線からの操作によって、システムで起動するタイムシグナルのスケジュールを変更することができます。

［操作のしかた］

1 **ハンドセットを持ち上げて、N-8000CO の局線番号をダイヤルする。**

N-8000CO が自動的に応答し、発信者にはダイヤル受付音が聞こえます。

2 **ダイヤル受付音を聞いた後、［＊］［9］［0］キー、局線制御パスワード（4 桁）*、スケジュール番号（01 ～ 16）を押す。**

発信者には確認音が聞こえ、指定したスケジュールに変更されます。

* 局線制御パスワードは設定されている場合のみ必要です。

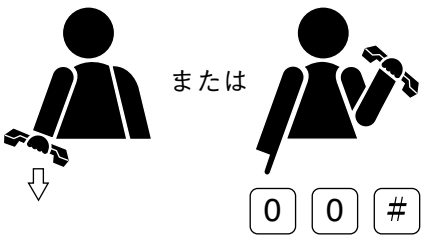
N-8000COの局線番号　　局線制御パスワード　　スケジュール番号

[X]・・・[X]（ダイヤル受付音）＋[＊][9][0]＋[Y][Y][Y][Y]＋[Z][Z]（確認音）

メ　モ

続けてスケジュールの確認をすることができます。
確認音が聞こえた後 10 秒以内に、「タイムシグナルのスケジュールを確認する」の手順 2（☞ P. 2-167）を行ってください。
ただし、誤ったダイヤル操作をしたり、何も操作をしないで 10 秒を経過したら、局線を切断します。

3 **ハンドセットを置くか、あるいは［0］［0］［＃］キーを押す。**



ご注意

局線からの操作で設定した内容は、1 日 1 回（午前 0 時）、N-8000AF に保存されます。
保存されるまでに電源を切ると、変更前の設定内容に戻ります。

● タイムシグナルのスケジュールを停止する

局線からの操作によって、システムで設定されているタイムシグナルのスケジュールを停止することができます。
スケジュールを再開するときは、スケジュール変更の操作を行ってください。（☞ 前ページ）

［操作のしかた］

1 **ハンドセットを持ち上げて、N-8000CO の局線番号をダイヤルする。**
N-8000CO が自動的に応答し、発信者にはダイヤル受付音が聞こえます。

2 **ダイヤル受付音を聞いた後、［＊］［9］［0］キー、局線制御パスワード（4 桁）*、［0］［0］キーを押す。**
発信者には確認音が聞こえ、スケジュールが停止されます。
* 局線制御パスワードは設定されている場合のみ必要です。

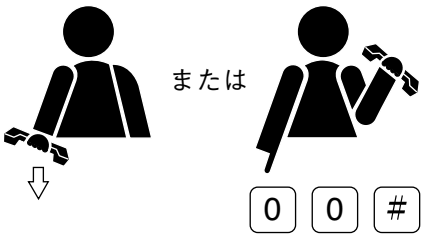
N-8000COの局線番号　　局線制御パスワード

［X］・・・［X］（ダイヤル受付音）＋［＊］［9］［0］＋［Y］［Y］［Y］［Y］＋［0］［0］（確認音）

メ　モ

続けてスケジュールの確認をすることができます。
確認音が聞こえた後 10 秒以内に、「タイムシグナルのスケジュールを確認する」の手順 2（☞ 次ページ）を行ってください。
ただし、誤ったダイヤル操作をしたり、何も操作をしないで 10 秒を経過したら、局線を切断します。

3 **ハンドセットを置くか、あるいは［0］［0］［＃］キーを押す。**



ご注意

局線からの操作で設定した内容は、1 日 1 回（午前 0 時）、N-8000AF に保存されます。
保存されるまでに電源を切ると、変更前の設定内容に戻ります。

● タイムシグナルのスケジュールを確認する

局線からの操作によって、システムで設定されているタイムシグナルのスケジュールを確認することができます。
局線から操作をすると、局線から聞こえる音でタイムシグナルのスケジュール確認ができます。

［操作のしかた］

1 **ハンドセットを持ち上げて、N-8000CO の局線番号をダイヤルする。**
N-8000CO が自動的に応答し、発信者にはダイヤル受付音が聞こえます。

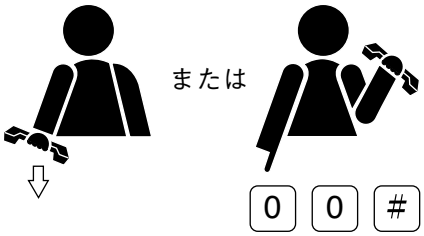
2 **ダイヤル受付音を聞いた後、［＊］［9］［2］キー、局線制御パスワード（4 桁）＊1 を押す。**
発信者にはスケジュール音＊2 が聞こえ、続いて確認音（キンコーン）が聞こえます。
ただし、スケジュール停止中は確認音のみ聞こえます。

＊1　局線制御パスワードは設定されている場合のみ必要です。
＊2　1 を短音（プッ）、5 を長音（プー）で表し、スケジュール番号の数だけ音源を再生します。
（例）
スケジュールが No.3 の場合：　プップップッ
スケジュールが No.5 の場合：　プー
スケジュールが No.7 の場合：　プープップッ
スケジュールが No.10 の場合：プープー

N-8000COの局線番号　　局線制御パスワード

［X］・・・［X］（ダイヤル受付音）＋［＊］［9］［2］＋［Y］［Y］［Y］［Y］（スケジュール音）（確認音）

3 **ハンドセットを置くか、あるいは［0］［0］［＃］キーを押す。**



● タイムシグナルのスケジュールを予約する

局線からの操作によって、システムで設定されているタイムシグナルのスケジュール変更を予約することができます。予約日は、予約の操作をする翌日（1 日後）から 9 日後までを 1 ～ 9 の番号で指定します。
予約日の午前 0 時から予約されたスケジュールが実行されます。

［操作のしかた］

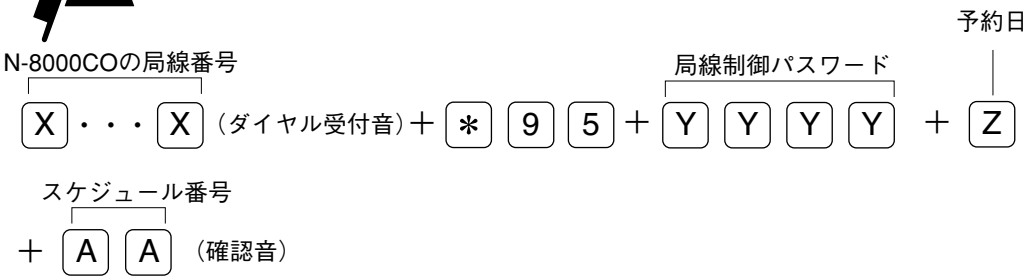
1 **ハンドセットを持ち上げて、N-8000CO の局線番号をダイヤルする。**

N-8000CO が自動的に応答し、発信者にはダイヤル受付音が聞こえます。

2 **ダイヤル受付音を聞いた後、［＊］［9］［5］キー、局線制御パスワード（4 桁）*、予約日（1 ～ 9）、スケジュール番号（01 ～ 16）を押す。**

発信者には確認音が聞こえ、スケジュール変更が予約されます。

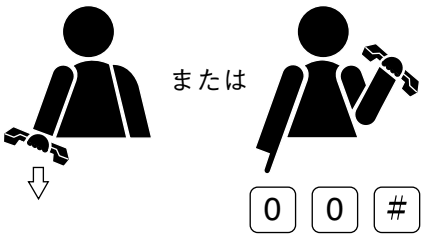
* 局線制御パスワードは設定されている場合のみ必要です。



メ　モ

続けてスケジュール予約の確認をすることができます。
確認音が聞こえた後 10 秒以内に、「タイムシグナルのスケジュール予約を確認する」の手順 2（☞ P. 2-170）を行ってください。
ただし、誤ったダイヤル操作をしたり、何も操作をしないで 10 秒を経過したら、局線を切断します。

3 **ハンドセットを置くか、あるいは［0］［0］［＃］キーを押す。**



ご注意

局線からの操作で設定した内容は、1 日 1 回（午前 0 時）、N-8000AF に保存されます。
保存されるまでに電源を切ると、変更前の設定内容に戻ります。

● タイムシグナルのスケジュール予約を取り消す

局線からの操作によって、システムで設定されているタイムシグナルのスケジュール予約を取り消すことができます。

［操作のしかた］

1 **ハンドセットを持ち上げて、N-8000CO の局線番号をダイヤルする。**

N-8000CO が自動的に応答し、発信者にはダイヤル受付音が聞こえます。

2 **ダイヤル受付音を聞いた後、［＊］［9］［5］キー、局線制御パスワード（4 桁）*、［＊］キーを押す。**

発信者には確認音が聞こえ、スケジュール予約が取り消されます。

* 局線制御パスワードは設定されている場合のみ必要です。

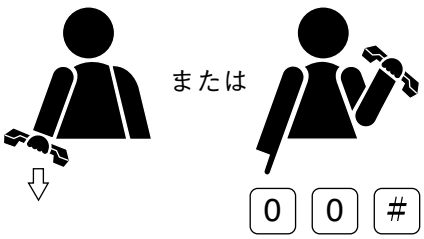
N-8000COの局線番号　　局線制御パスワード

X ・・・ X（ダイヤル受付音）＋ ＊ 9 5 ＋ Y Y Y Y ＋ ＊（確認音）

メ　モ

続けてスケジュール予約の確認をすることができます。
確認音が聞こえた後 10 秒以内に、「タイムシグナルのスケジュール予約を確認する」の手順 2（☞ 次ページ）を行ってください。
ただし、誤ったダイヤル操作をしたり、何も操作をしないで 10 秒を経過したら、局線を切断します。

3 **ハンドセットを置くか、あるいは［0］［0］［＃］キーを押す。**



ご注意

局線からの操作で設定した内容は、1 日 1 回（午前 0 時）、N-8000AF に保存されます。
保存されるまでに電源を切ると、変更前の設定内容に戻ります。

● タイムシグナルのスケジュール予約を確認する

局線からの操作によって、システムで設定されているタイムシグナルのスケジュール予約を確認することができます。
局線から操作をすると、局線から聞こえる音でタイムシグナルのスケジュール予約の確認ができます。

［操作のしかた］

1 **ハンドセットを持ち上げて、N-8000CO の局線番号をダイヤルする。**
N-8000CO が自動的に応答し、発信者にはダイヤル受付音が聞こえます。

2 **ダイヤル受付音を聞いた後、［＊］［9］［6］キー、局線制御パスワード（4 桁）＊1 キーを押す。**
発信者には予約日とスケジュールを示す音＊2 が聞こえ、続いて確認音（キンコーン）が聞こえます。
ただし、スケジュール停止中は確認音のみ聞こえます。

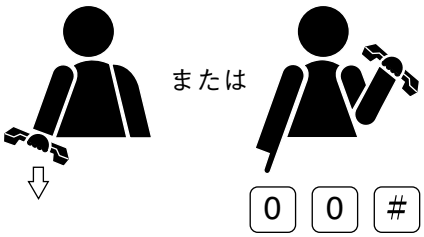
＊1　局線制御パスワードは設定されている場合のみ必要です。

＊2　1 を短音（プッ）、5 を長音（プー）で表し、予約日までの残り日数とスケジュール番号の数だけ音源を再生します。日数とスケジュール番号を示す音の間には短い音源（プ）を 3 回再生します。
（例）
残日数が 1 日、スケジュールが No.3 の場合：　プッ　プププ　プップップッ
残日数が 5 日、スケジュールが No.6 の場合：　プー　プププ　プープッ
残日数が 0 日、スケジュールが No.1 の場合：　プププ　プッ

N-8000COの局線番号　　局線制御パスワード

［X］・・・［X］（ダイヤル受付音）＋［＊］［9］［6］＋［Y］［Y］［Y］［Y］（確認音）

3 **ハンドセットを置くか、あるいは［0］［0］［＃］キーを押す。**



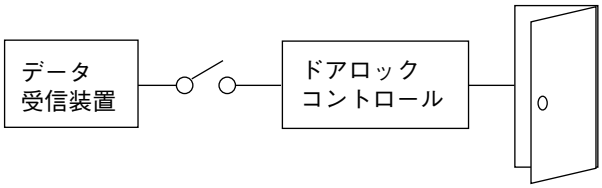
■ 外部機器制御（N-8000MI/8000DI/8000AF/8050DS/8540DS/8640DS/8650DS 使用時のみ）

N-8000CO が外部機器制御の操作可能な設定にされていると、局線から、指定したマルチインターフェースユニット、ダイレクトセレクトユニット、または音声インターフェースユニットの接点にワンショットメイク出力やメイク／ブレイク出力を出したり、指定したドア端末の接点にワンショットメイクを出したりすることで、外部機器を制御することができます。
例えば、ワンショットメイク出力によりドアロックの制御をしたり、メイク／ブレイク出力により表示器を制御したりすることができます。
局線からの操作時に使う局線制御パスワードを設定することもできます。

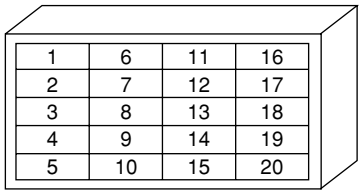
※ ワンショットメイク時間、操作番号桁数、操作番号、外部機器制御の操作可否、および局線制御パスワードの設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-30、5-38、5-46、5-52、5-65、5-92、5-109、5-112、5-116、5-119）

※ 局線外部機器制御機能の操作は、すべてのダイヤル操作を 30 秒以内に終わらせてください。そうしないと、回線が強制的に切断されてしまいます。

［ワンショットメイク出力制御によるドアリモートの例］



［メイク／ブレイク出力による投薬表示の例］



［ワンショットメイク出力の操作のしかた］

N-8000CO の局線番号をダイヤルし、ダイヤル受付音を聞いてから、［＊］［3］［0］キー、局線制御パスワード（4 桁）*、制御したい外部機器に対応する接点の操作番号を押します。

* 局線制御パスワードは設定されている場合のみ必要です。

N-8000COの局線番号　　機能指定番号　　局線制御パスワード　　接点の操作番号（2～4桁）

X ・・・ X（ダイヤル受付音）＋ ＊ ＋ 3 ＋ 0 ＋ Y Y Y Y ＋ Z ＋ ------- ＋ Z

［メイク出力の操作のしかた］

N-8000CO の局線番号をダイヤルし、ダイヤル受付音を聞いてから、［＊］［3］［1］キー、局線制御パスワード（4 桁）、制御したい外部機器に対応する接点の操作番号を押します。

N-8000COの局線番号　　機能指定番号　　局線制御パスワード　　接点の操作番号（2～4桁）

X・・・X（ダイヤル受付音）＋＊＋3＋1＋YYYY＋Z＋------＋Z

※ 操作受け付け完了時に、確認音（キンコーン）が流れます。確認音完了後、自動的に回線を切断します。

［ブレイク出力の操作のしかた］

N-8000CO の局線番号をダイヤルし、ダイヤル受付音を聞いてから、［＊］［3］［2］キー、局線制御パスワード（4 桁）、制御したい外部機器に対応する接点の操作番号を押します。

N-8000COの局線番号　　機能指定番号　　局線制御パスワード　　接点の操作番号（2～4桁）

X・・・X（ダイヤル受付音）＋＊＋3＋2＋YYYY＋Z＋------＋Z

※ 操作受け付け完了時に、確認音（キンコーン）が流れます。確認音完了後、自動的に回線を切断します。

［ドア端末ワンショットメイク出力の操作のしかた（N-8050DS/8540DS 使用時）］

N-8000CO の局線番号をダイヤルし、ダイヤル受付音を聞いてから、［＊］［3］［3］キー、局線制御パスワード（4 桁）、制御したいドア端末の番号を押します。

N-8000COの局線番号　　機能指定番号　　局線制御パスワード　　ドア端末番号（2～6桁）

X・・・X（ダイヤル受付音）＋＊＋3＋3＋YYYY＋Z＋------＋Z

※ 操作受け付け完了時に、確認音（キンコーン）が流れます。確認音完了後、自動的に回線を切断します。

［ドア端末ワンショットメイク出力の操作のしかた（N-8640DS/8650DS 使用時）］

N-8640DS/8650DS には接点出力が 5 つあり、制御する接点出力により、機能指定番号が異なります。
N-8000CO の局線番号をダイヤルし、ダイヤル受付音を聞いてから、機能指定番号、局線制御パスワード（4 桁）、制御したいドア端末の番号を押します。

N-8000COの局線番号　　機能指定番号　　局線制御パスワード　　ドア端末番号（2～6桁）

[X]・・・[X]（ダイヤル受付音）＋[＊]＋[3]＋[A]＋[Y][Y][Y][Y]＋[Z]＋-------＋[Z]

接点出力1を制御するとき　[＊]＋[3]＋[3]

接点出力2を制御するとき　[＊]＋[3]＋[4]

接点出力3を制御するとき　[＊]＋[3]＋[5]

接点出力4を制御するとき　[＊]＋[3]＋[6]

接点出力5を制御するとき　[＊]＋[3]＋[7]

※ 操作受け付け完了時に、確認音（キンコーン）が流れます。確認音完了後、自動的に回線を切断します。

局線での操作一覧表

機能	項目	操作	備考
発信	ダイレクトインライン	[N-8000COの局線番号]をダイヤルする。	
	ダイレクトイン ダイヤル	[N-8000COの局線番号][端末番号]をダイヤルする。	端末番号：2～6桁
ページング 呼び出し	系統ページング	[N-8000COの局線番号][＊][8][系統番号]をダイヤルする。	系統番号：1～3桁
	選択ページング	[N-8000COの局線番号][＊][8][＊][系統番号][＊]… [系統番号][＃]をダイヤルする。	
	一斉ページング	[N-8000COの局線番号][＊][8][0]をダイヤルする。	
スキャンモニター	開始	[N-8000COの局線番号][＊][2][局線制御パスワード] [モニターグループ番号] [モニターグループ番号]…[＃]を ダイヤルする。 または [N-8000COの局線番号][＊][2][局線制御パスワード] [＊][モニター端末番号][＊][モニター端末番号][＊] … [＃]をダイヤルする。	局線制御パスワード： 4桁（設定時のみ） モニターグループ番号 ：1～4 モニター端末番号： 2～6桁
	終了	ハンドセットを置く、または [0][0][＃]をダイヤルする。	
タイムシグナル	起動スケジュール 変更	[N-8000COの局線番号][＊][9][0][局線制御パスワード] [スケジュール番号]をダイヤルする。	局線制御パスワード： 4桁（設定時のみ） 予約日：1～9 スケジュール番号：01 ～16
	起動スケジュール 停止	[N-8000COの局線番号][＊][9][0][局線制御パスワード] [0][0] をダイヤルする。	
	起動スケジュール 確認	[N-8000COの局線番号][＊][9][2][局線制御パスワード] をダイヤルする。	
	スケジュール予約	[N-8000COの局線番号][＊][9][5][局線制御パスワード] [予約日][スケジュール番号]をダイヤルする。	
	スケジュール予約の 取り消し	[N-8000COの局線番号][＊][9][5][局線制御パスワード] [＊]をダイヤルする。	
	スケジュール予約の 確認	[N-8000COの局線番号][＊][9][6][局線制御パスワード] をダイヤルする。	
外部機器制御	ワンショットメイク出力	[N-8000COの局線番号][＊][3][0][局線制御パスワード] [接点操作番号]をダイヤルする。	局線制御パスワード： 4桁（設定時のみ） 接点操作番号：2～4桁
	メイク出力	[N-8000COの局線番号][＊][3][1][局線制御パスワード] [接点操作番号]をダイヤルする。	
	ブレイク出力	[N-8000COの局線番号][＊][3][2][局線制御パスワード] [接点操作番号]をダイヤルする。	
	ドア端末 ワンショットメイク 出力	(N-8050DS/8540DSの場合) [N-8000COの局線番号][＊][3][3][局線制御パスワード] [ドア端末番号]をダイヤルする。 (N-8640DS/8650DSの場合) [N-8000COの局線番号][＊][3][接点指定番号] [局線制御パスワード][ドア端末番号]をダイヤルする。	端末番号：2～6桁 接点指定番号： 接点出力1 = 3 接点出力2 = 4 接点出力3 = 5 接点出力4 = 6 接点出力5 = 7

その他の機能（便利な機能）

■ 優先順位

呼び出し優先と通話路優先の２つの優先順位があります。

● 呼び出し優先（「選択応答」のときのみ）

・通話応答モードが「選択応答」のときのみに、この優先順位が適用されます。
・マスター端末に複数の着信が重なった場合、一番優先順位の高い着信が待ち行列の先頭になります。
・優先順位の低い着信や、後から呼び出された同じ優先順位の着信は、優先順位に従って、話中待ちになります。（同じ優先順位の場合は、先着順）
・最優先の着信の呼び出し音が鳴り、着信表示が切り換わります。

［呼び出し優先順位］（「選択応答」のときのみ）

1. サブ端末およびドア端末からの緊急呼び出し（緊急呼び出し操作、または優先度５の設定）
2. 局線からの呼び出し
3. 音声トリガーによる呼び出し
4. 優先度４に設定されたサブ端末およびドア端末
5. 優先度３に設定されたサブ端末およびドア端末
6. 優先度２に設定されたサブ端末およびドア端末
7. 優先度が１（初期値）のサブ端末、ドア端末、マスター端末、電話機からの呼び出し

● 通話路優先

・使用中の端末が他の端末から呼び出しなどを受けた場合は、通話路優先順位に従って、使用中の機能が強制的に切断されたり、後からの呼び出しが待たされたりします。
・外部入力放送は設定により優先度を変えることができます。
　外部入力放送優先なし：一斉、系統ページングと優先度が同じ（初期値）
　外部入力放送優先あり：一斉、系統ページングより優先度が高い

［通話路優先順位］

●「着信優先」のとき
1. 緊急一斉ページング
2. 緊急メッセージ放送
3. 外部入力放送（優先あり）
4. 一斉ページング／外部入力放送（優先なし）
5. 系統ページング／外部入力放送（優先なし）
6. 通常通話／局線通話／音声トリガー通話
7. BGM

●「選択応答」のとき
1. 緊急一斉ページング
2. 緊急メッセージ放送
3. 緊急通話
4. 局線通話
5. 音声トリガー通話
6. 外部入力放送（優先あり）
7. 一斉ページング／外部入力放送（優先なし）
8. 系統ページング／外部入力放送（優先なし）
9. 通常通話
10. BGM

■ 時間制限

通話やページングなどでキャンセルし忘れて通話路が実際には使われないまま保留されるのを防止するために、以下の３種類の時間を制限することができます。制限時間が経過すると、自動的に待ち受け状態に戻ります。

1. 呼び出し時間
2. 通話時間
3. ページング呼び出し時間

※ それぞれの制限時間（10 ～ 990 秒で 10 秒単位）の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-39、5-46、5-57、5-66、5-93、5-101）

ご注意

- 緊急呼び出しに、呼び出し時間制限は適用されません。
- 緊急通話に、通話時間制限は適用されません。
- 緊急一斉ページングに、ページング時間制限は適用されません。

メ　モ

制限時間は呼び出し操作をした端末が接続されている交換機での設定または呼び出し操作をした IP 端末での設定になります。

■ 録音（N-8000AF 使用時のみ）

マスター端末および電話機が以下の動作をしているときの音声を録音することができます。
　マスター端末：通話、会議、ページング、スキャンモニター
　電話機　　：通話、ページング、スキャンモニター
録音機能を使用可能に設定されたマスター端末および電話機が上記の動作を開始するとともに録音が開始され、動作を終了すると録音も終了します。
通話の相手が局線のときも録音することができます。
音声インターフェースユニット N-8000AF に接続された録音装置に録音します。
録音中、接点１（固定）がメイクします。

※ N-8000AF の動作モードを「通話録音」に設定しておく必要があります。
※ マスター端末、電話機ごとに録音機能の使用可否、録音先の N-8000AF をあらかじめ設定しておく必要があります。
※ N-8000AF の動作モードの設定およびマスター端末と電話機の録音機能の使用に関する設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-69、5-84、5-92、5-103、5-51）

ご注意

- N-8010EX に接続されているマスター端末は録音機能を使用できません。
- N-8000EX に接続されているマスター端末で、録音機能を使用可能に設定できるのは、２台までです。

■ 限定局呼び出し

あらかじめ、グループ（最大 31 グループ）を設定して、グループ相互間の呼び出しの可否や呼び出しできるページング系統番号を任意に設定することができます。
※ 限定局呼び出しのグループ、グループ相互間の呼び出しの可否、および呼び出しできるページング系統の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-118）

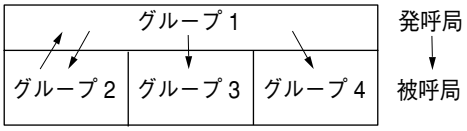
[限定局グループの設定例]

任意のグループ（最大 31 グループ）を設定します。

グループ1　No.201～209		
グループ2 No.210～219	グループ3 No.220～249	グループ4 No.250～279

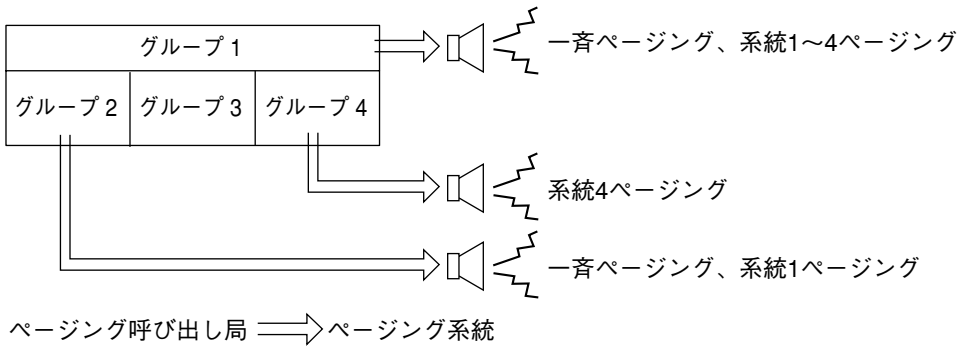
[グループ相互間の呼び出し可否の設定例]

グループ相互間で呼び出しの可否を任意に設定できます。
この例では、グループ 1 はグループ 2 ～ 4 を、グループ 2 はグループ 1 のみ呼び出せます。グループ 3 と 4 は他のグループを呼び出せません。



[呼び出しできるページング系統番号の設定例]

それぞれのグループから呼び出せるページング系統番号を任意に決められます。
この例では、グループ 1 は一斉と系統 1 ～ 4 に、グループ 2 は一斉とページング系統 1 のみに、グループ 4 はページング系統 4 のみにページングできます。



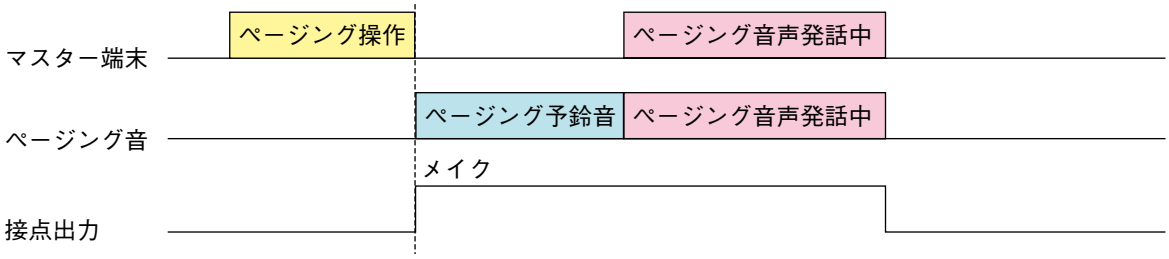
メ　モ

ページング系統のエリアは、限定局呼び出しのグループとは関係なく、任意に設定できます。

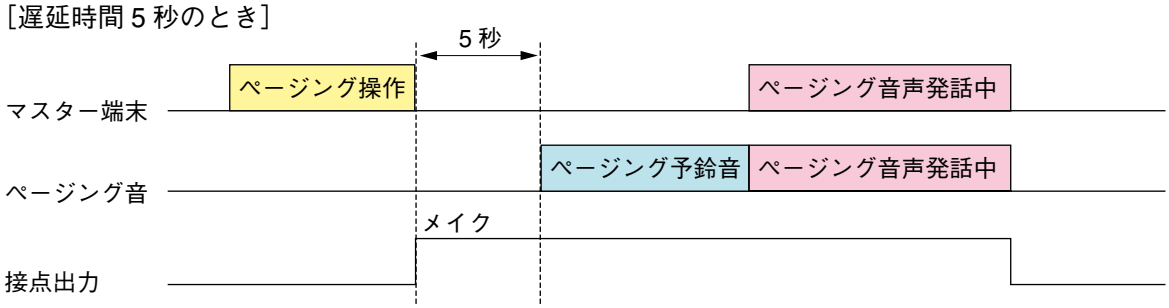
■ ページング遅延出力

外部音響機器の起動時間に応じて音声出力を制御する機能です。
ページングの操作を完了してからページング予鈴音が出力するまで（またはページングが開始できるまで）に遅延時間を挿入することができます。遅延時間の設定にかかわらず、ページングに連動して出力する接点はページング操作完了後すぐにメイクします。

［遅延時間 0 秒のとき］



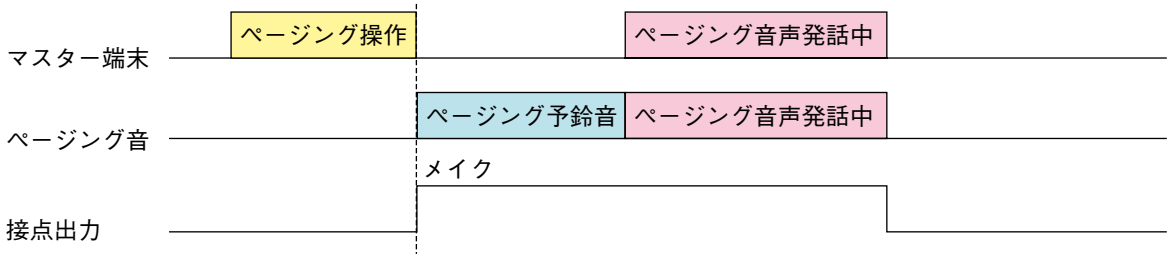
［遅延時間 5 秒のとき］



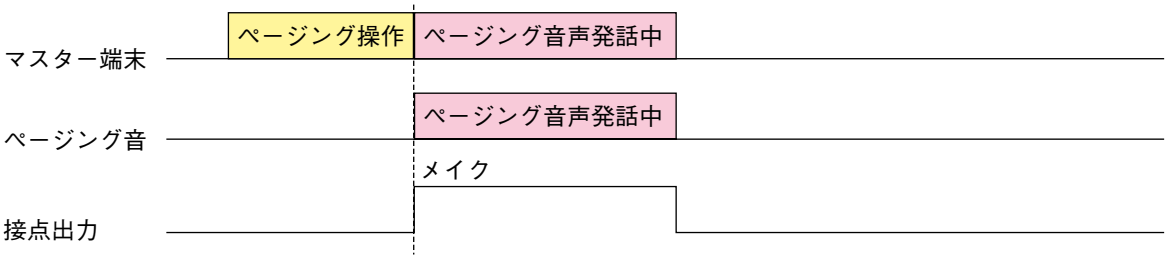
■ ページング予鈴音出力制御

ページングの際に挿入される予鈴音を使用せずにページングすることができます。ページング予鈴音の ON/OFF を設定することができます。

［ON のとき］



［OFF のとき］



■ 外部入力放送（N-8000MI/8000AF 使用時のみ）

マルチインターフェースユニットや音声インターフェースユニットに演奏機器やリモートマイクなどを接続し、制御入力から起動をかけると、あらかじめ登録したページング系統に放送できます。

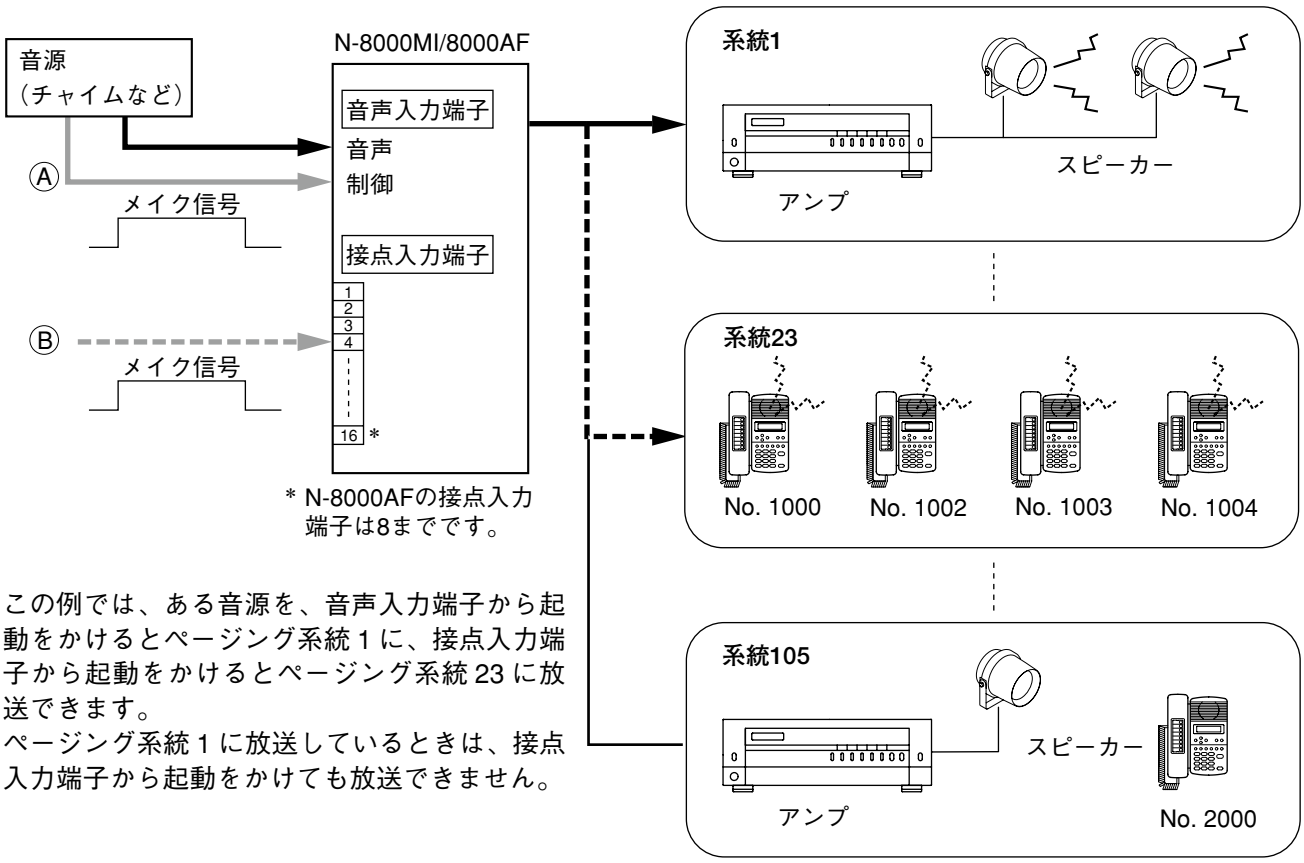
起動をかける方法は、音声入力端子（下図Ⓐ）または接点入力端子（下図Ⓑ）の２通りあります。
音声入力端子で起動をかけるときは、放送先のみ設定します。
接点入力端子で起動をかけるときは、放送先と入力音源を設定します。入力音源の動作モードは「外部入力放送」に設定します。

外部入力放送に「優先」を設定することができます。
優先の動きについては「優先順位」（☞ P. 2-175）をお読みください。

※ 各設定は付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-48、5-51）

- 制御入力をメイクすると、外部音源からの放送があらかじめ登録されたページング系統に流れます。
- 制御入力がブレイクすると、放送は終了します。
- N-8000AF では、外部放送入力の設定をすれば、同時に拡声出力先としても設定できますが、同時使用はできません。N-8000AF から放送しているときはページング受信できず、また、ページング受信中は放送できません。

[音声入力端子または接点入力端子で起動をかける例]



この例では、ある音源を、音声入力端子から起動をかけるとページング系統１に、接点入力端子から起動をかけるとページング系統 23 に放送できます。
ページング系統１に放送しているときは、接点入力端子から起動をかけても放送できません。

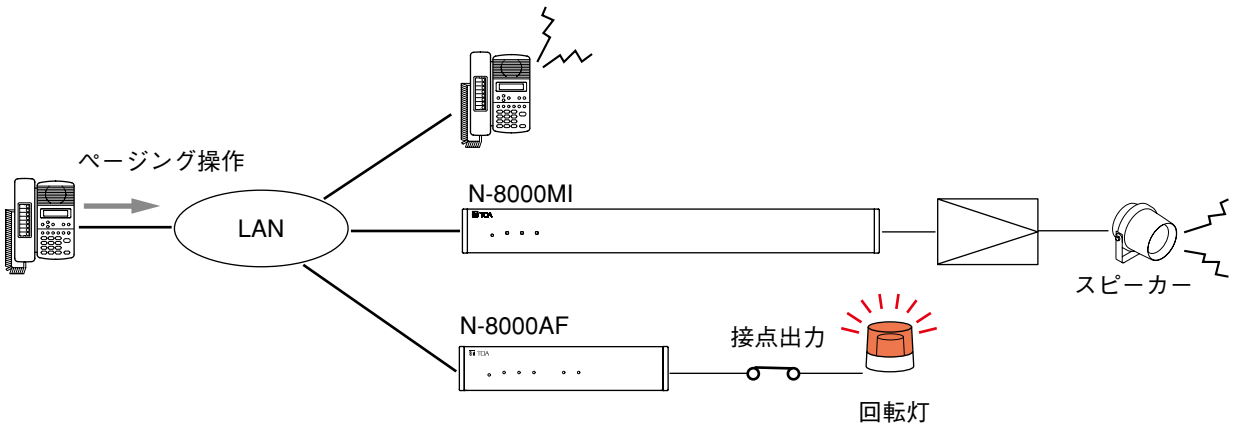
[優先度]

- 音声入力端子と接点入力端子の制御信号間に優先はありません。入力がメイク中にもう一方の入力がメイクしても受け付けません。
- ページングは他の端末からのページングと同等の優先順位です。他のページング中に入力がメイクすると、そのまま待機状態になり、他のページングが終了するとすぐにページング放送ができます。
  ただし、「優先」の設定がされているときは、一斉ページング、系統ページングより優先して放送できます。（☞ P. 2-175）

■ ページング連動接点出力制御（N-8000MI/8000AF 使用時のみ）

ページングの出力先に、N-8000MI と N-8000AF の接点出力も設定することができます。これによりページングに連動して外部機器を制御することができます。

接点出力先は任意にいくつでも選択できます。
N-8000MI の接点出力は 1-16、N-8000AF の接点出力は 1-8 です。その際、音声拡声出力を選択せず、接点だけをページング系統に含むように設定すれば、接点出力だけが起動され、音声は拡声されません。
また、接点メイク状態もビジーと判定されるため、あるページング系統で接点出力を使用中に別のページング操作が行われた場合、接点がブレイク状態になるのを待って放送が開始されます。



■ 発呼局表示／ CCTV 連動（N-8000MI/8000DI/8000AF 使用時のみ）

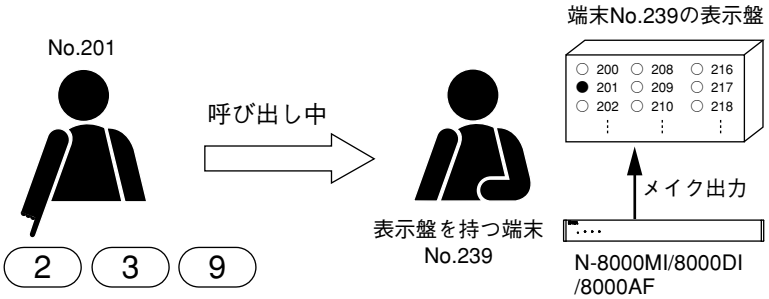
特定の端末にランプ型の表示盤* を持たせると、その端末は通話相手や通話中に呼び出してきた相手をランプで表示させることができます。
複数の端末（最大 8 台）で表示盤を共有して、グループ内のどの端末にかかってきても表示させることができます。
また、この接点を利用して CCTV と連動させ、呼び出してきた相手を映像に写すことができます。

* マルチインターフェースユニット、ダイレクトセレクトユニット、または音声インターフェースユニットの出力を利用して、別途製作する必要があります。

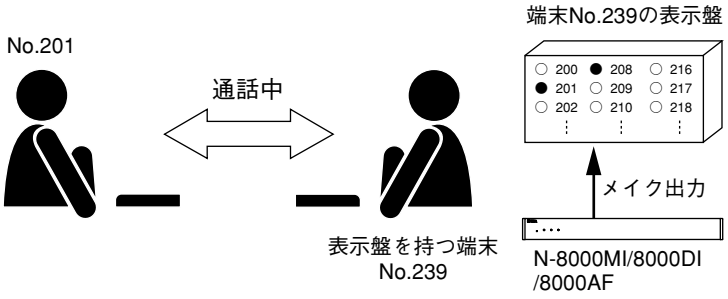
※ マルチインターフェースユニット、ダイレクトセレクトユニット、または音声インターフェースユニットの接点番号および表示盤などを持つ端末の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。
（ ☞ P. 5-40、5-58、5-60、5-67、5-69、5-84、5-101、5-103）

［発呼局表示の例］

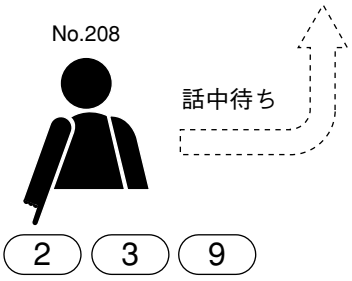
- 表示盤を持つ端末に呼び出しがあると、呼び出しをしてきた端末のランプが点灯します。この呼び出しに応答し、終話すると消灯します。



- 表示盤を持つ端末が通話中で呼び出しがあるときも、呼び出しをしてきた端末（話中待ちの端末）のランプは点灯します。
- 話中待ちの端末がキャンセルすればランプは消灯します。

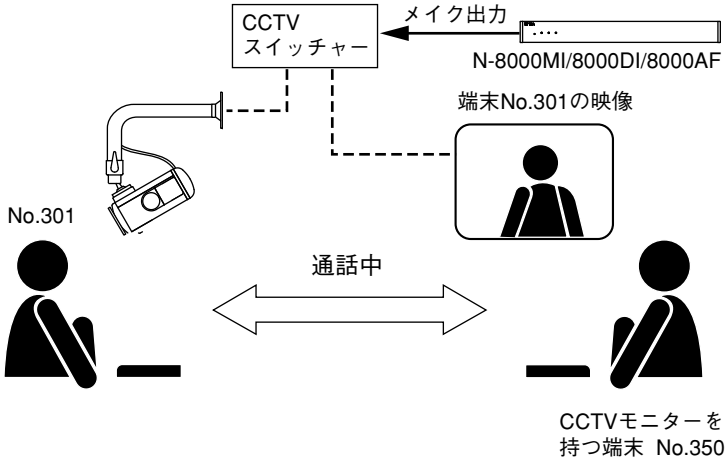


※ この説明での動作は、発呼局表示モードを「呼び出し・通話中メイク」に設定したときのものです。設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。
（ ☞ P. 5-40、5-58、5-67、5-101）



［CCTV 連動の例］

- CCTV モニターを持つ端末に呼び出しがあり、応答すると、相手端末の場所の映像がモニターに写ります。



※ この説明での動作は、発呼局表示モードを「通話中メイク」に設定したときのものです。設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。
（ ☞ P. 5-40、5-58、5-67、5-101）

■ 局線発呼局表示／ CCTV 連動（N-8000CO/8000MI/8000DI/8000AF 使用時のみ）

局線への呼び出し、局線からの着信、通話に対して、発呼局表示／ CCTV 連動が可能です。
呼び出しの場合、発信端末ごとに設定された特番を使用するたびに接点出力をメイクします。
着信の場合、ダイレクトインラインのメンバーであっても、発呼局表示の対象とします。
端末ごとに局線発呼局表示可否と、制御する N-8000MI/8000DI/8000AF の接点出力番号を設定します。

- 発呼局表示モードが「呼び出し・通話中メイク」に設定されているときは、次のような動作になります。

  ［局線への呼び出し］
  局線発信操作特番を押し、N-8000CO が局線との接続を開始する時点で N-8000MI/8000DI/8000AF の接点がメイクされます。N-8000CO が使用中であってもメイクします。

  ［局線からの着信］
  ダイレクトインダイヤルのときは、呼び出したい端末が確定し、その端末への呼び出しが開始されると、N-8000MI/8000DI の接点がメイクされます。呼び出す端末が使用中であってもメイクされます。
  ダイレクトインラインのときは、N-8000CO が局線からの呼び出しを受け付けた時点で、N-8000MI/8000DI/8000AF の接点がメイクされます。代表またはメンバーがビジーのときでもメイクされます。

- 発呼局表示モードが「通話中メイク」に設定されているときは、端末の通話開始時にメイクし、通話終了時にブレイクします。

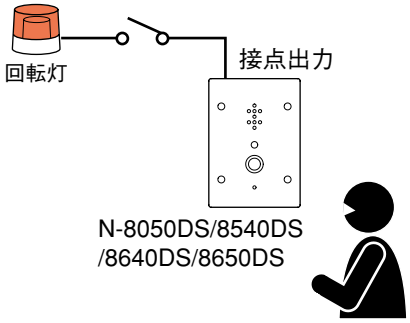
※ 局線発呼局表示の可否、マルチインターフェースユニット、ダイレクトセレクトユニット、または音声インターフェースユニットの接点番号、および発呼局表示モードの設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-92）

■ 呼び出し・通話連動接点出力（N-8050DS/8540DS/8640DS/8650DS 使用時のみ）

ドア端末 N-8050DS または IP ドア端末 N-8540DS/8640DS/8650DS の接点出力が自端末の状態に連動してメイクされます。
接点出力がメイクされるタイミングは、「呼び出し中メイク」、「呼び出し・通話中メイク」、「通話中メイク」、「状態表示灯連動（N-8640DS/8650DS のみ）」から選択できます。
例えば、呼び出し、通話に連動して回転灯やカメラを制御することが可能です。
IP ドア端末 N-8640DS/8650DS には接点出力が５つあり、メイクされるタイミングを接点ごとに設定できます。
「状態表示灯連動」に設定できる接点は、N-8640DS/8650DS の１～４ch のみです。

※ ドア端末接点動作モードの設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-40、5-67）

［回転灯を接続した例］



［ドア端末の動作による接点出力の状態］

ドア端末接点動作モード / ドア端末の動作	呼び出し中メイク	通話中メイク	呼び出し・通話中メイク	状態表示灯連動（N-8640DS/8650DSのみ）
呼び出し中	メイク	ブレイク	メイク	着信優先時：メイク（点灯） 選択応答時：メイク／ブレイク繰り返し（点滅）
着信中	ブレイク	メイク	メイク	メイク／ブレイク繰り返し（点滅）
話中待ち	メイク	ブレイク	メイク	メイク（点灯）
通話	ブレイク	メイク	メイク	メイク（点灯）
ページング受信	ブレイク	ブレイク	ブレイク	メイク（点灯）
スキャンモニター受信	ブレイク	メイク	メイク	スキャンモニター発呼端末側のモニター警告設定による

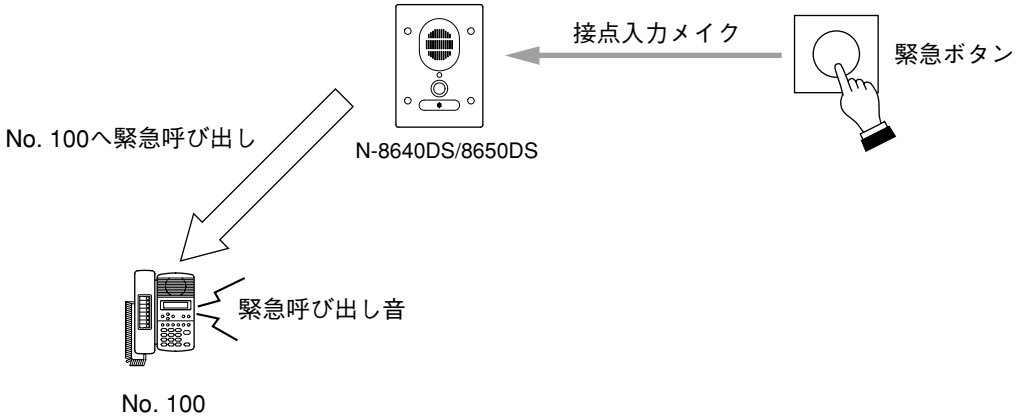
■ IP ドア端末外部制御入力（N-8640DS/8650DS 使用時のみ）

IP ドア端末 N-8640DS/8650DS の外部制御入力にあらかじめダイヤル操作（最大 20 桁）を登録しておくと、N-8640DS/8650DS の接点入力をメイクすることで発信などができます。ダイヤル操作が登録されていないときは、メイクしても何も動作しません。
外部機器からのメイク信号は 100 ms 以上必要です。

※ ドア端末外部制御入力の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-70）

［例］

呼び出しボタンを 2 回押すダイヤル操作を登録しておくと、N-8640DS/8650DS の接点入力をメイクすることで、緊急呼び出しをすることができます。



■ リモートダイヤル（N-8000MI/8000DI 使用時のみ）

マルチインターフェースユニットまたはダイレクトセレクトユニットの接点入力がメイクされると、任意の端末が自動的にダイヤルします。1 つの接点入力に最大 32 のダイヤルコード（ダイヤル番号、キー操作）を設定できます。
例えば、センサーからの信号に連動して通話を開始することができます。

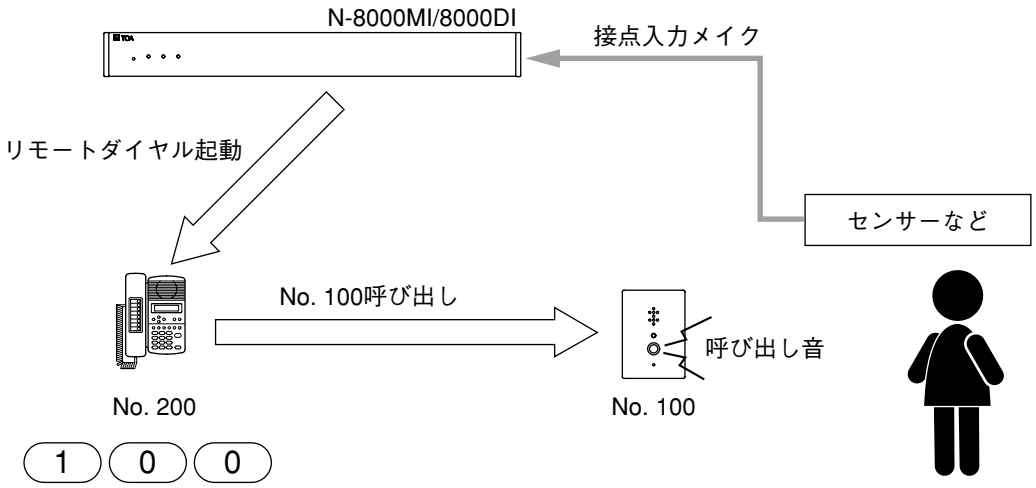
※ リモートダイヤルの設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（ ☞ P. 5-51、5-118）

ご注意

リモートダイヤルを起動するには、接点入力を 50 ms 以上メイクする必要があります。

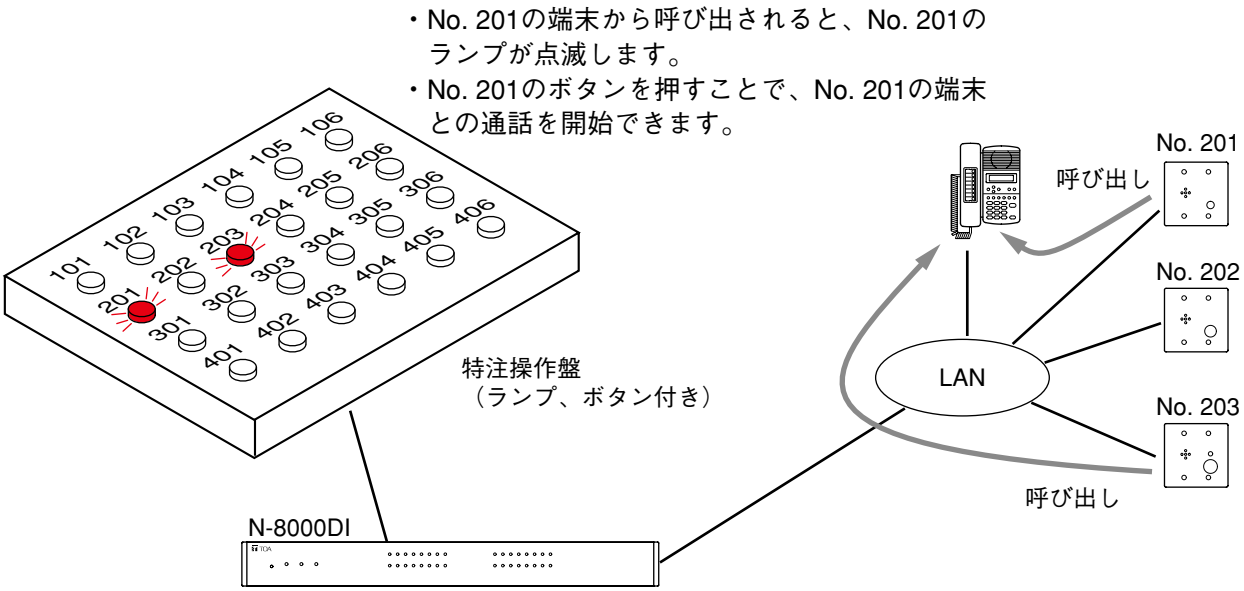
［例］

センサーからの接点入力により、端末 No. 200 から No. 100 を自動的に呼び出す例です。



■ ダイレクトセレクト（N-8000DI 使用時のみ）

システムの通話応答モードが「選択応答」の時に使用できる機能です。
マスター端末用に他の端末に対応したランプやキーなどを持つ操作盤を製作し、N-8000DI の接点入出力の各チャンネルにマスター端末および他の端末を割り当てることで、設定したマスター端末を呼び出している端末をランプなどで表示します。また、該当のチャンネルを操作することで、そのチャンネルに割り当てられた端末と通話を開始することができます。



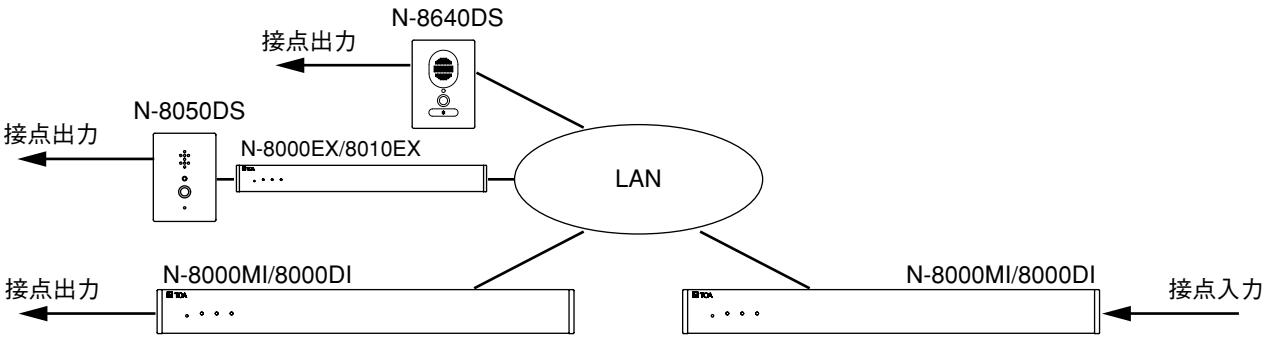
※ N-8000DI 前面のチャンネル状態表示灯と接点出力の動作は次のようになります。

被制御端末動作	N-8000DI 前面のチャンネル状態表示灯の状態	N-8000DI の接点出力の状態
緊急コールイン*1	高速点滅	メイク
その他コールイン*2	低速点滅	メイク
呼び出し（発呼）	点灯	メイク
話中待ち	点灯	メイク
通話	点灯	メイク
保留	点灯	メイク
ページング受信	消灯	ブレイク
スキャンモニター	点灯	メイク

*1　緊急呼び出しまたは優先度 5 に設定された端末からの呼び出しを着信したとき
*2　緊急コールイン以外の呼び出しを着信したとき

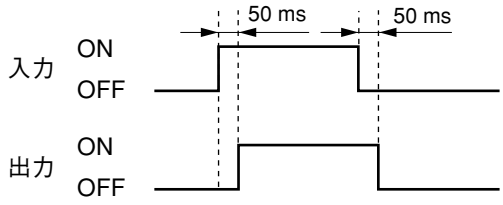
■ 接点ブリッジ（N-8000MI/8000DI/8050DS/8540DS /8640DS/8650DS 使用時のみ）

ネットワークを介して接点信号を伝送できます。

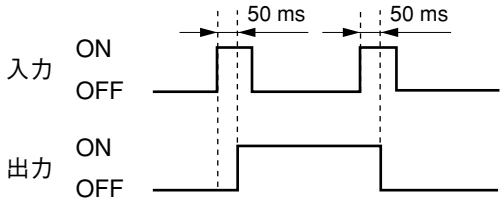


接点入力の動作モードは次の２種類から選択できます。

［入力連動レベル］



［入力連動エッジ］



※ 入力が変化して 50 ms 間安定すると、入力が確定します。

※ 伝送する接点および伝送出力信号の種類の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。
（☞ P. 5-50、5-117）

ご注意

接点信号をサブ端末 RS-180/480、スイッチボード RS-442 へ伝送することはできません。

■ ページングビジー入力（N-8000MI 使用時のみ）

空港などの大規模放送システムと連動する場合、上位システムのビジー状態を受け取ることができ、重要な放送を確実に伝えることができます。

※ ページングビジー入力に使用する接点の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。
（☞ P. 5-51）

■ システム診断（N-8000MI/8000DI/8000AF 使用時のみ）

マルチインターフェースユニット、ダイレクトセレクトユニット、または音声インターフェースがシステムの状態を診断し、その結果を N-8000MI/8000DI/8000AF の接点出力に出力する機能です。システムの診断は、診断対象の機器にネットワーク接続して行います。
接点出力は異常のときにのみメイクします。その後、正常と判断した時点でブレイクします。
診断できるのは、交換機の回線状態とネットワーク接続機器のネットワーク状態です。

※ 診断する回線および機器の設定は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで行います。（☞ P. 5-52、5-112、5-119）

ご注意

診断は一定時間*おきに行われます。そのため、リアルタイムに診断結果が出力されるわけではありません。また、診断と次の診断までの変化を検出することはできません。

* 診断結果は 20 秒以内に更新されます。

● 回線状態診断

交換機 N-8000EX/8010EX の診断対象回線が次の状態のときに異常と判断します。

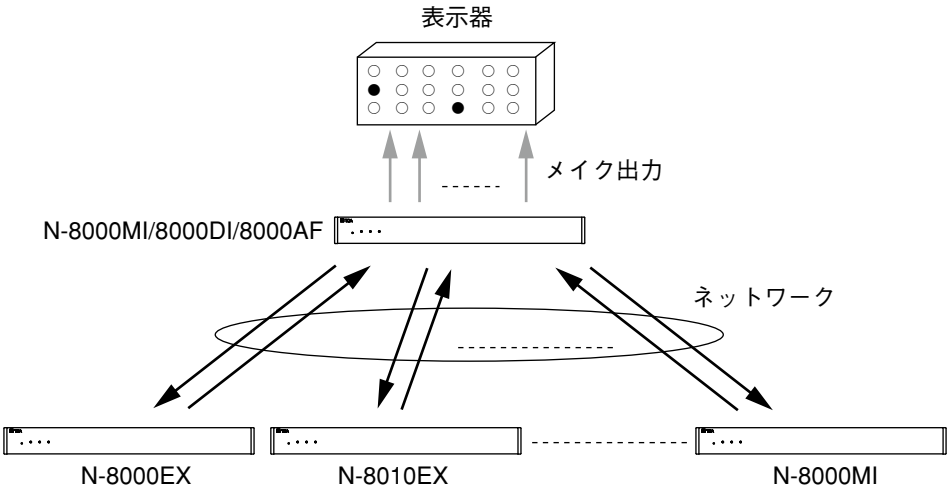
・端末の CPU 異常
・回線同期異常
・端末番号登録済みであるが未接続

● ネットワーク状態診断

診断対象のネットワーク接続機器（交換機、各種インターフェースユニット、IP 端末）とネットワーク通信を行い、応答がないと異常と判断します。

［例］

外部表示器を接続して診断結果を表示させることができます。

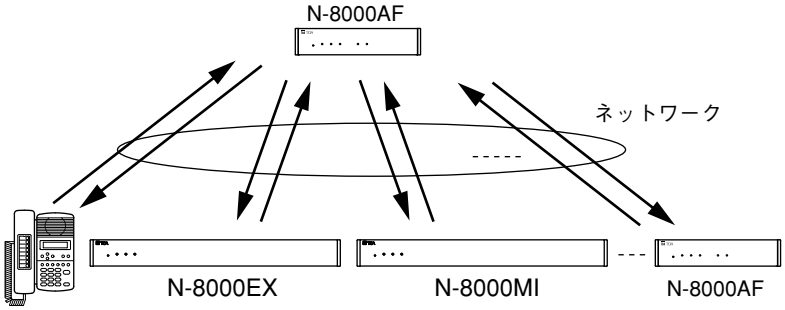


■ タイムシグナル

（タイムシグナル ☞ P. 2-51）

■ 時刻補正

システム全機器の時計をクロックマスターに設定した１台の機器に合わせます。
クロックマスターから残りの全機器に対して１日１回クロック同期のコマンドを送信します。
クロックマスターは付属の N-8000 設定ソフトウェアで設定します。



ご注意

- N-8000AF で調時機能を有効にしている場合は、その N-8000AF しかクロックマスターに設定できません。
- N-8000RS/8010RS/8400RS はクロックマスターに設定できません。
- クロックマスターに設定した N-8000AF の NTP クライアント機能（☞ P. 2-190）を有効にしている場合は、NTP サーバーとの同期の後に時刻補正を行うことを推奨します。

■ サマータイム自動補正

サマータイムへの対応が可能です。付属の N-8000 設定ソフトウェアで以下の設定をすることができます。

・サマータイム自動補正　ON/OFF
・サマータイム開始の設定（月、週、曜日、時）
・サマータイム終了の設定（月、週、曜日、時）

○月の第○番目の○曜日の○時から開始、または終了になります。
○月の最後の○曜日という指定も可能です。

■ NTP クライアント機能（N-8000AF 使用時のみ）

クロックマスターに設定した N-8000AF の NTP クライアント機能を有効にしている場合に、その N-8000AF の時計を 1 日 1 回 NTP サーバーに合わせます。NTP サーバーの IP アドレスとポート番号は、付属の N-8000 設定ソフトウェアで設定します。

［NTP 公開サーバーの例］

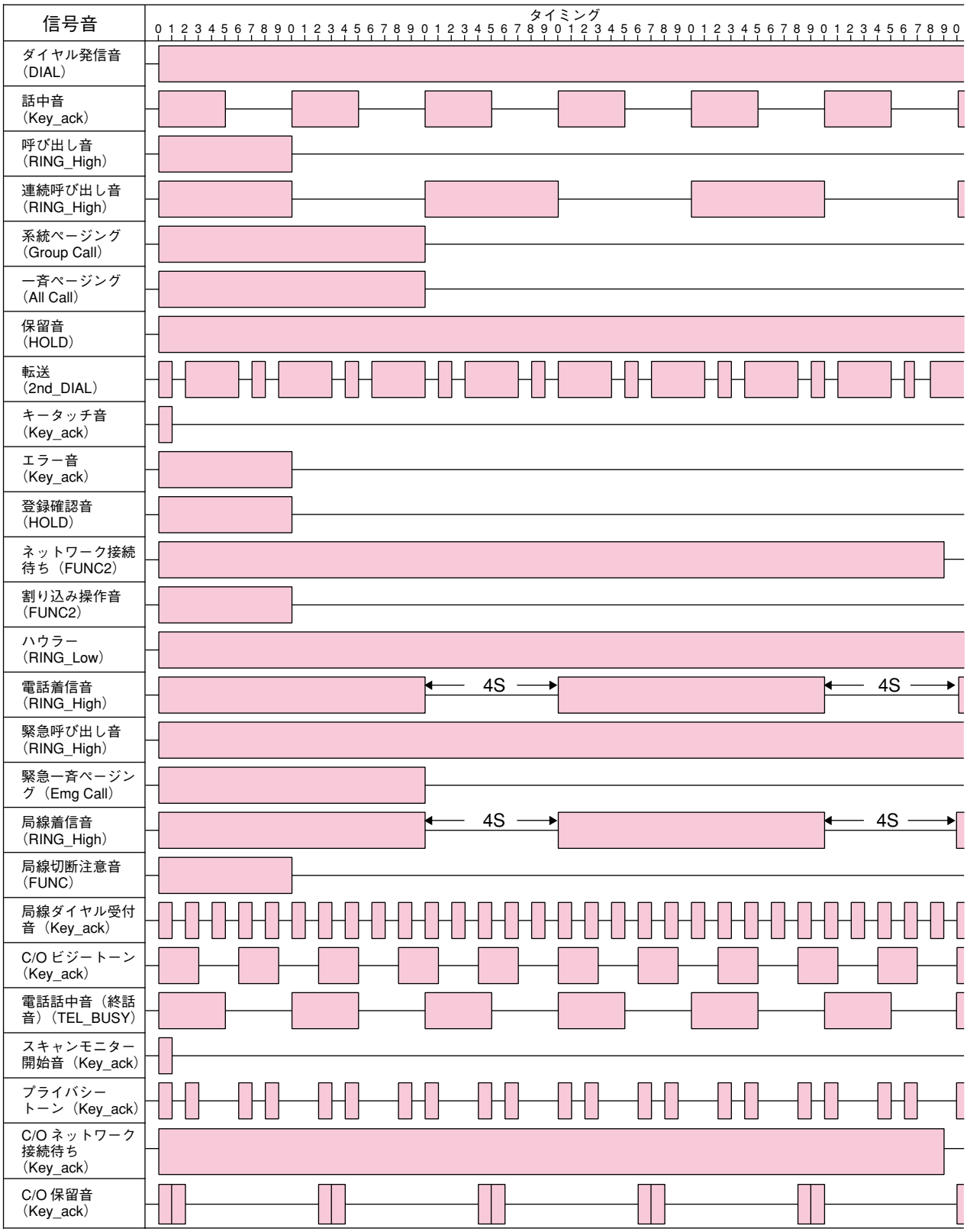
提供機構	参照先	IP アドレス	ポート番号
インターネットマルチフィード（MFEED）　ー日本ー	NICT 内 NTP サーバー	210.173.160.57	123
NASA　ーアメリカー	GPS	198.123.30.132	123

ご注意

- 調時機能との併用はできません。
- この機能による時刻補正範囲は分と秒のみです。この機能を使用する前に、クロックマスターの N-8000AF に正しい時刻を設定してください。（☞ P. 5-130、6-51）
- NTP サーバーのドメイン名指定はできません。IP アドレスで指定してください。
- NTP 公開サーバー例は 2014 年 4 月現在の情報です。使用時には、上記 IP アドレスとポート番号に変更がないか、ご確認ください。
- 時刻補正（☞ P. 2-189）は、NTP サーバーとの同期の後に行うことを推奨します。

備　考

■ 信号音一覧



All Call　：640/800/960/480 Hz　0.9180 Hz で Discharge
Group Call　：640/800 Hz　0.9180 Hz で Discharge
Emerg Call　：新規
Hold　：800/960 Hz　0.9180 Hz で Discharge
RING_High　：640/800 Hz　7.3438 Hz で 0/−12 dB 切り換え
RING_Low　：627/940 Hz　7.3438 Hz で 0/−12 dB 切り換え

2nd DIAL　：800 Hz 断続
FUNC2　：800 Hz　7.3438 Hz で 0/−∞ dB 切り換え
FUNC　：480 Hz　3.6719 Hz で 0/−∞ dB 切り換え
Key_ack　：480 Hz　Discharge
DIAL　：480 Hz 断続
TEL_BUSY　：400 Hz 断続

第３章

設置・配線

この章では、交換機・各種インターフェースユニット・端末の取り付けと配線など、具体的な設置・配線方法について説明します。

交換機の設置のしかた

交換機 N-8000EX/8010EX の設置方法には、キャビネットラックへの取り付け、卓上設置、壁への取り付けの３種類があります。

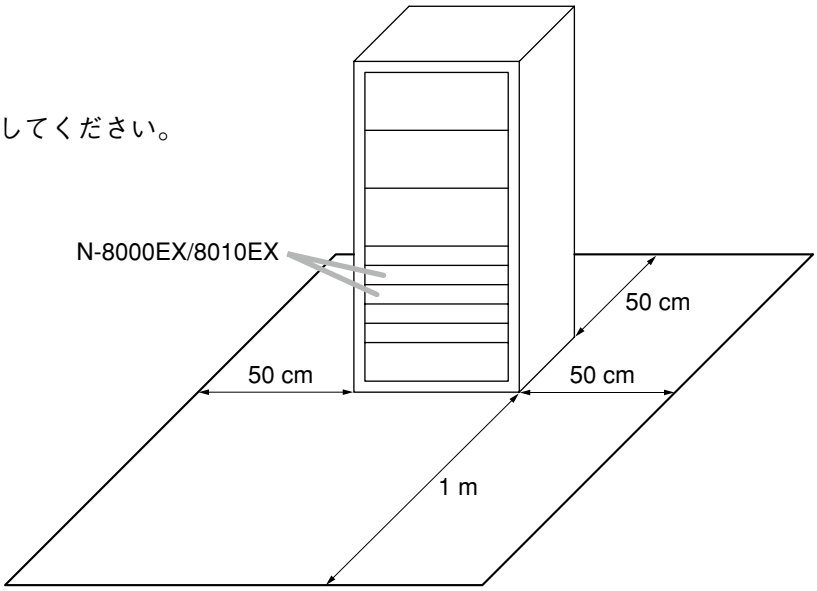
■ キャビネットラックに取り付けるとき

N-8000EX/8010EX のキャビネットラックとして CR-273、CR-413 が使用できます。CR-273 × 1 台で 128 回線まで、CR-413 × 1 台で 192 回線まで、CR-413 × 16 台で 3072 回線を接続できます。（☞ P. 1-17）
キャビネットラック CR-273、CR-413 の組み立て、ブロワーユニット BU-412 の取り付けなどは、ラックに付属の工事説明書をお読みください。

※ ブロワーユニット・端子盤・N-8000EX/8010EX を取り付けるときは、キャビネットラックを横に倒した状態で行うと安全に作業ができます。
※ ブロワーユニットはラック内部から取り付けますので、必ず収納機器を取り付ける前に行ってください。

● 設置スペース

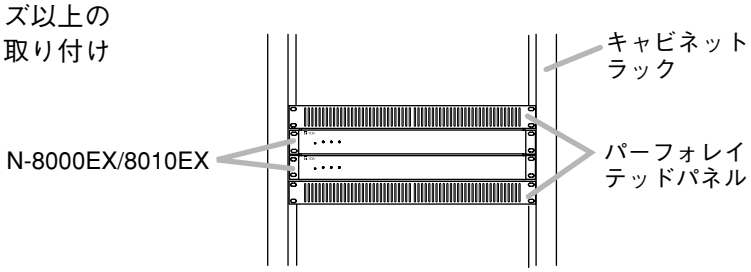
N-8000EX/8010EX の周囲は、
保守点検のために必要なスペースを確保してください。



● 機器取り付け時のご注意

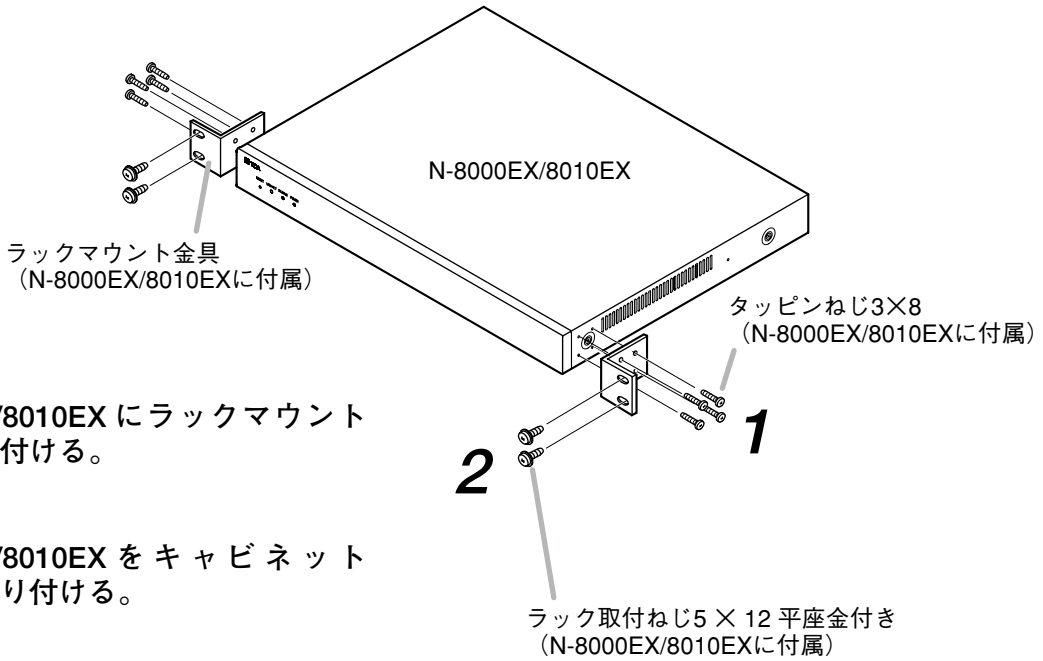
⚠ 注意　本機の通風口をふさがないでください。
ふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- N-8000EX/8010EX は 2 台を超える積み重ね設置をしないでください。2 台ごとに上下に 1U サイズ以上のパーフォレイテッドパネル PF-013B などを取り付けてください。



- 端子盤は、付属のラック取付ねじ類を使用し、キャビネットラックのケーブル引き込み方向と配線作業・保守がしやすい位置に取り付けてください。

● 交換機 N-8000EX/8010EX の取り付けかた

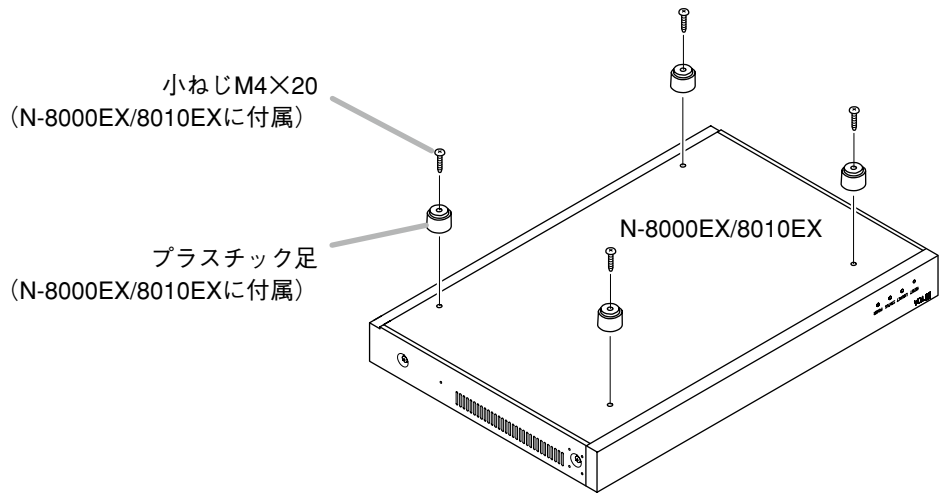


1 N-8000EX/8010EX にラックマウント金具を取り付ける。

2 N-8000EX/8010EX をキャビネットラックに取り付ける。

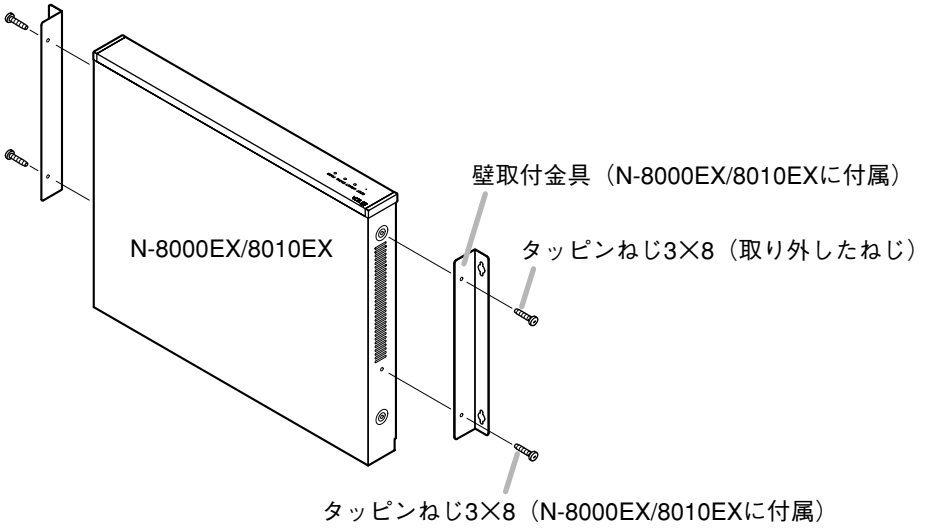
■ 卓上に置くとき

卓上に置いて使用するときは、付属のプラスチック足を N-8000EX/8010EX の底面に取り付けてください。



■ 壁に取り付けるとき

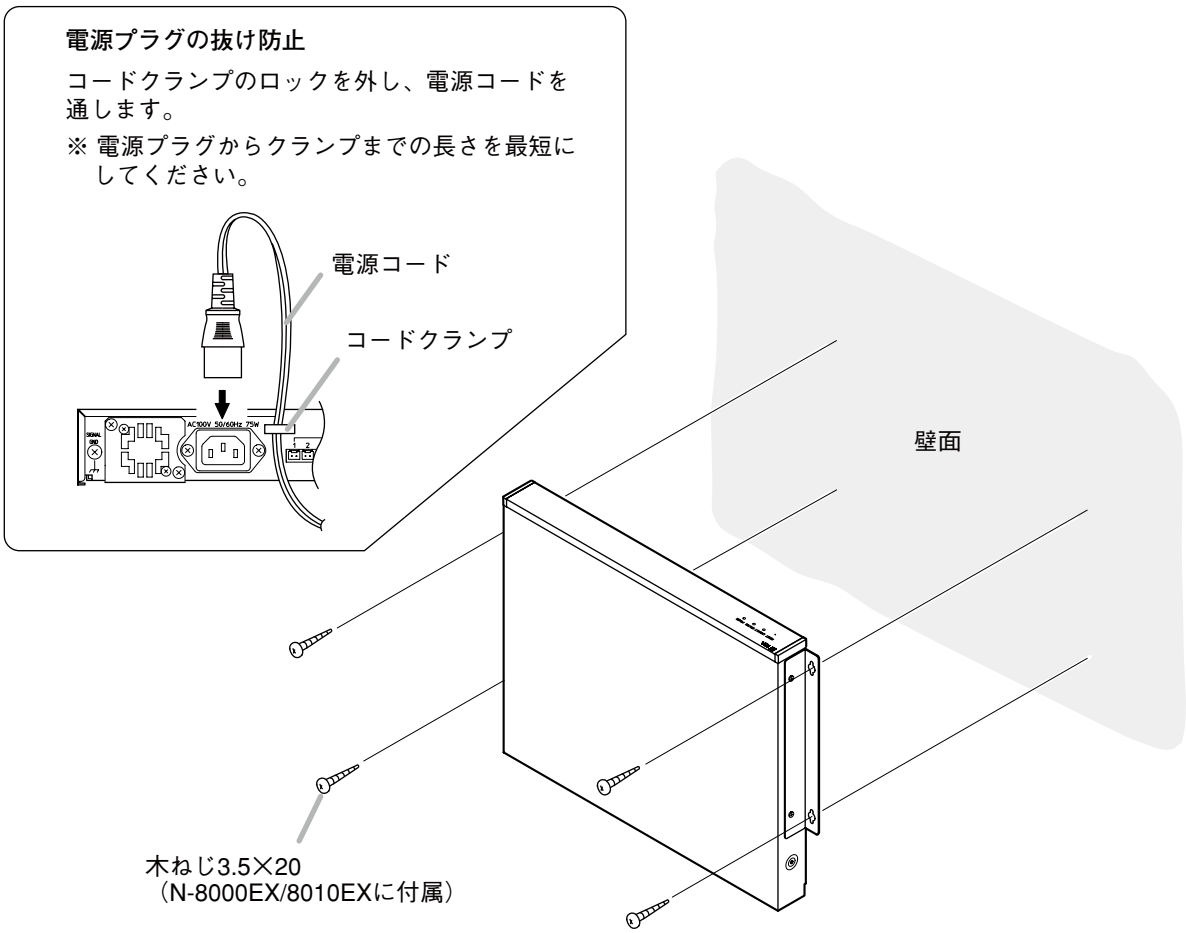
1 付属ねじ２本とケースから取り外したねじ２本を使用して、付属の壁取付金具を N-8000EX/8010EX に取り付ける。



2 N-8000EX/8010EX を壁に取り付ける。

ご注意

- 壁面の材質に応じた取付ねじを使用してください。
- N-8000EX/8010EX には木ねじ 3.5 × 20 が付属されています。



サブ端末接続ユニットの設置のしかた

サブ端末接続ユニット N-8000RS/8010RS/8400RS の設置方法には、キャビネットラックへの取り付け、卓上設置、壁への取り付けの 3 種類があります。

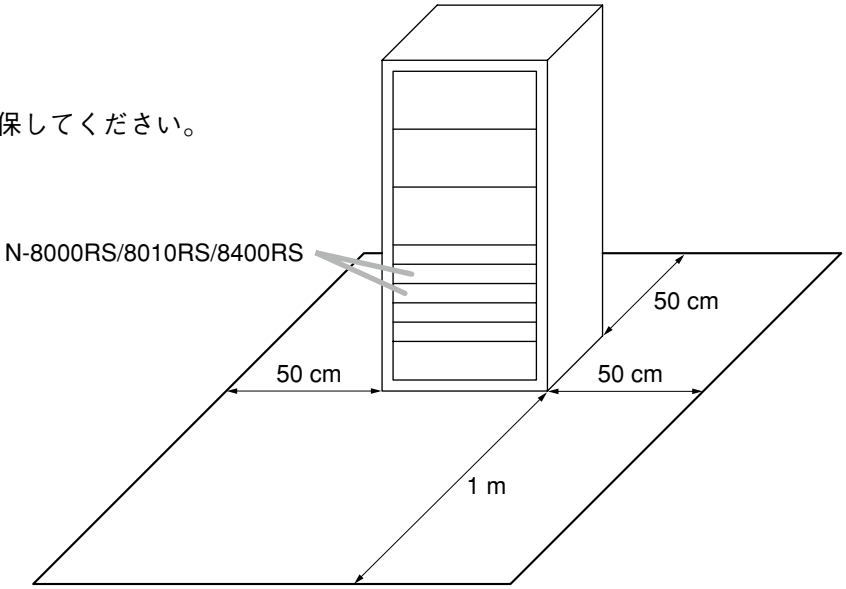
■ キャビネットラックに取り付けるとき

N-8000RS/8010RS/8400RS のキャビネットラックとして CR-273、CR-413 が使用できます。
キャビネットラック CR-273、CR-413 の組み立て、ブロワーユニット BU-412 の取り付けなどは、ラックに付属の工事説明書をお読みください。

※ ブロワーユニット・N-8000RS/8010RS/8400RS を取り付けるときは、キャビネットラックを横に倒した状態で行うと安全に作業ができます。
※ ブロワーユニットはラック内部から取り付けますので、必ず収納機器を取り付ける前に行ってください。

● 設置スペース

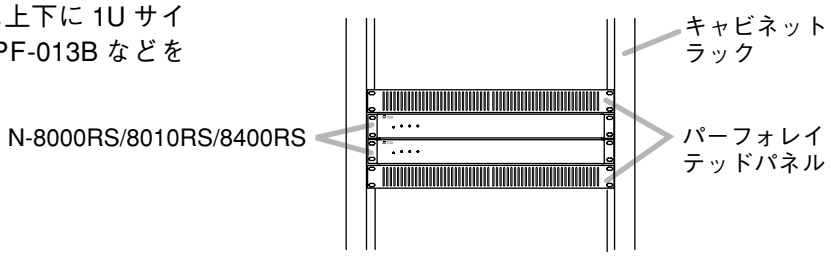
N-8000RS/8010RS/8400RS の周囲は、
保守点検のために必要なスペースを確保してください。



● 機器取り付け時のご注意

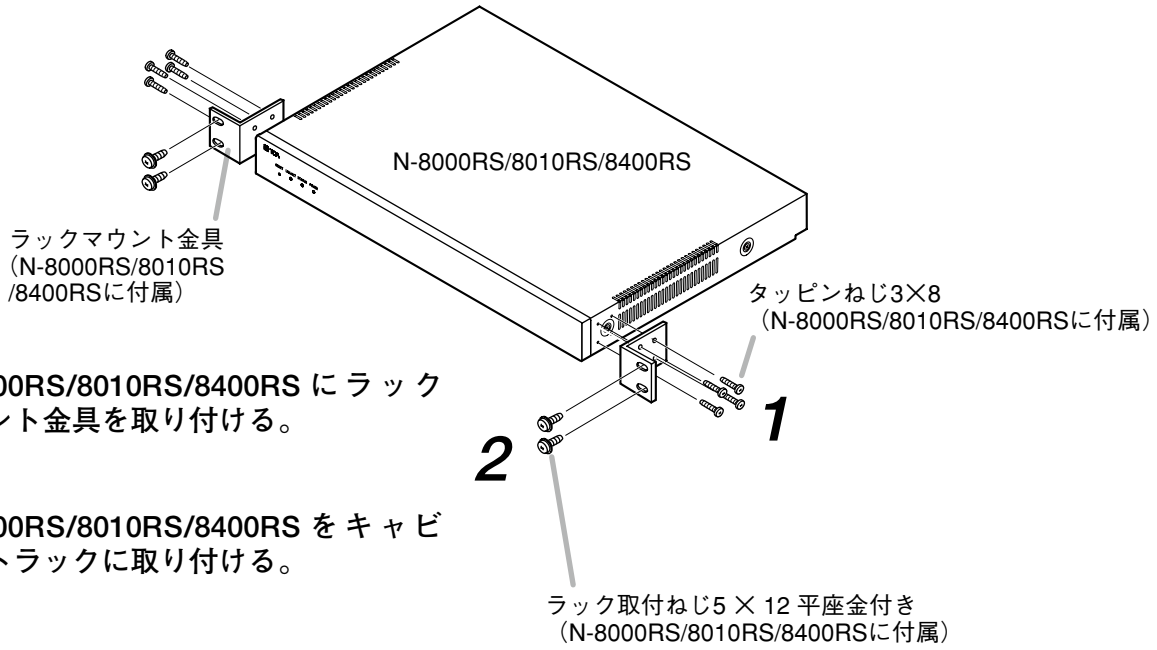
⚠注意　本機の通風口をふさがないでください。
ふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- N-8000RS/8010RS/8400RS は 2 台を超える積み重ね設置をしないでください。2 台ごとに上下に 1U サイズ以上のパーフォレイテッドパネル PF-013B などを取り付けてください。



- 端子盤は、付属のラック取付ねじ類を使用し、キャビネットラックのケーブル引き込み方向と配線作業・保守がしやすい位置に取り付けてください。

● サブ端末接続ユニット N-8000RS/8010RS/8400RS の取り付けかた

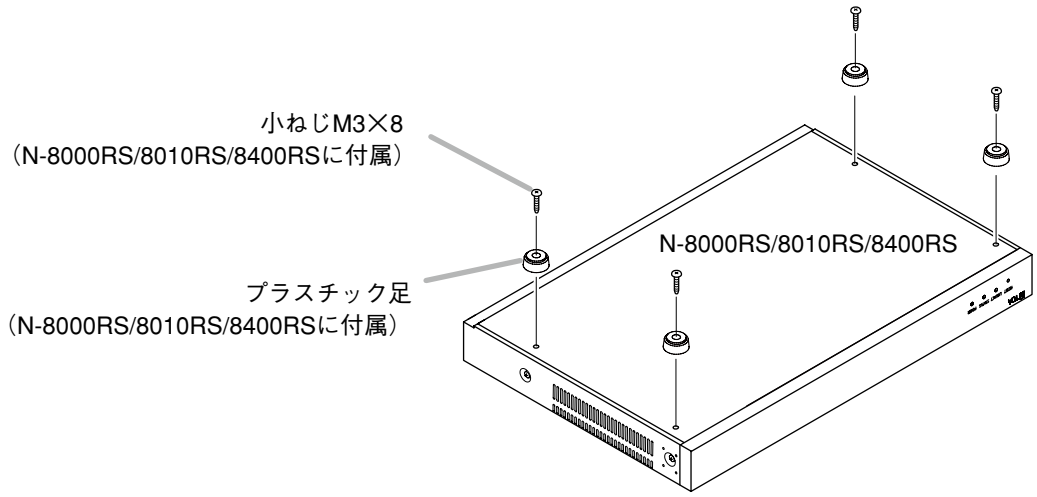


1 N-8000RS/8010RS/8400RS にラックマウント金具を取り付ける。

2 N-8000RS/8010RS/8400RS をキャビネットラックに取り付ける。

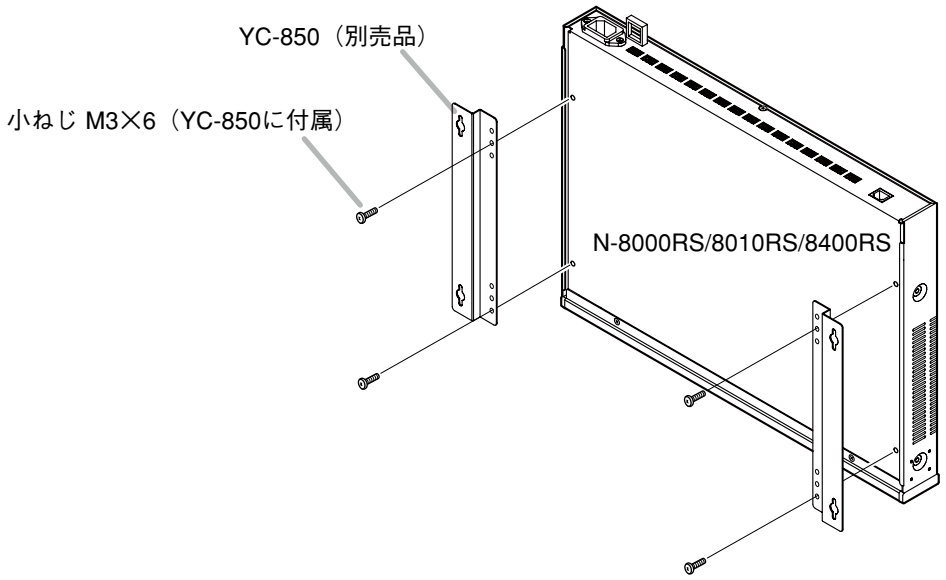
■ 卓上に置くとき

卓上に置いて使用するときは、付属のプラスチック足を N-8000RS/8010RS/8400RS の底面に取り付けてください。



■ 壁に取り付けるとき

1 別売の壁取付金具 YC-850 を N-8000RS/8010RS/8400RS に取り付ける。



2 N-8000RS/8010RS/8400RS を壁に取り付ける。

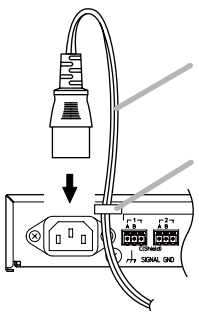
ご注意

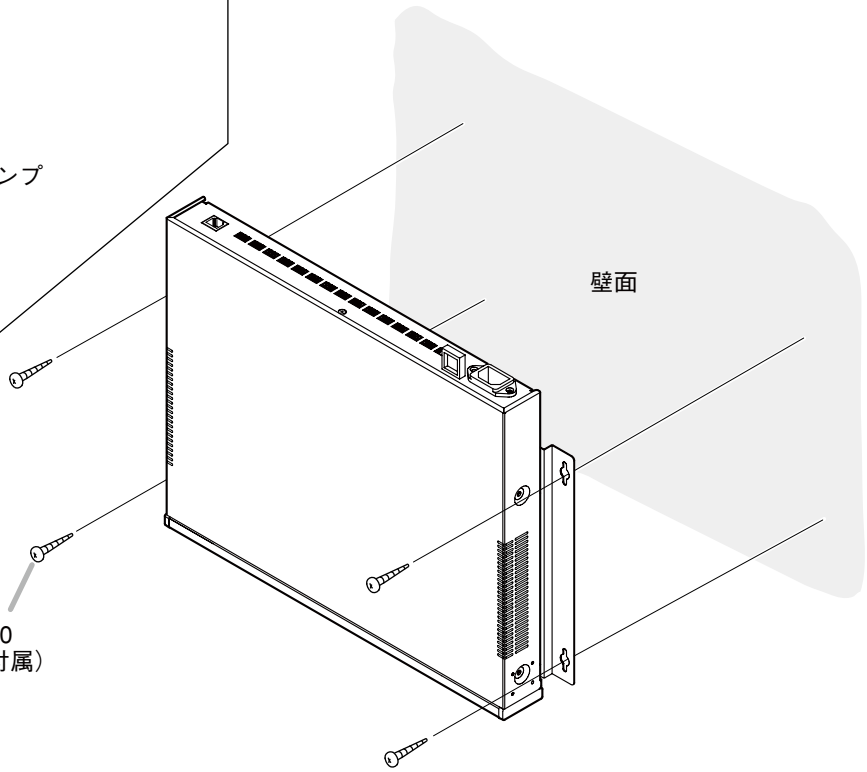
- 壁面の材質に応じた取付ねじを使用してください。
- 壁取付金具 YC-850 には木ねじ 3.5 × 20 が付属されています。

電源プラグの抜け防止

コードクランプのロックを外し、電源コードを通します。

※ 電源プラグからクランプまでの長さを最短にしてください。





マルチインターフェースユニットの設置のしかた

マルチインターフェースユニット N-8000MI の設置方法には、キャビネットラックへの取り付け、卓上設置、壁への取り付けの３種類があります。

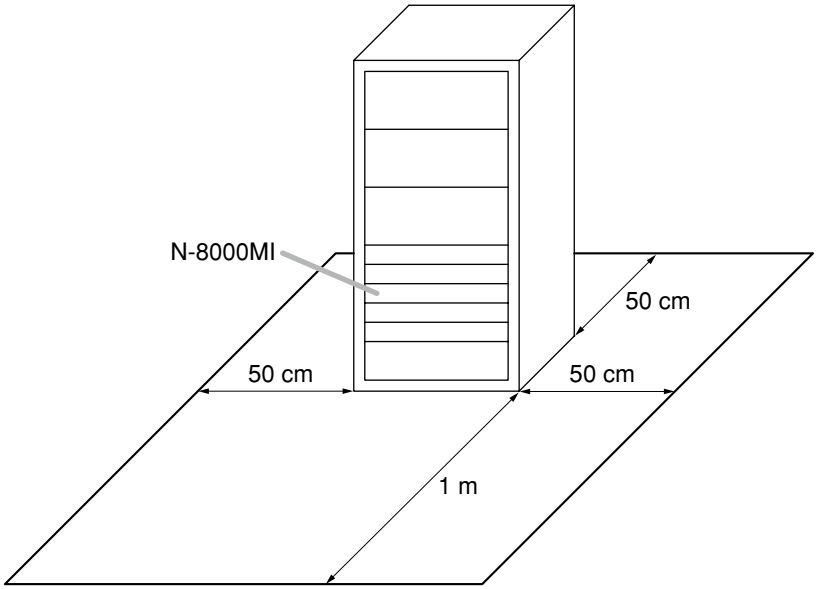
■ キャビネットラックに取り付けるとき

N-8000MI のキャビネットラックとして CR-273、CR-413 が使用できます。キャビネットラック CR-273、CR-413 の組み立ては、ラックに付属の工事説明書をお読みください。

※ N-8000MI を取り付けるときは、キャビネットラックを横に倒した状態で行うと安全に作業ができます。

● 設置スペース

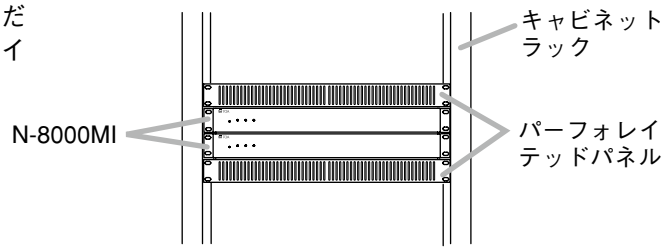
N-8000MI の周囲は、保守点検のために必要なスペースを確保してください。



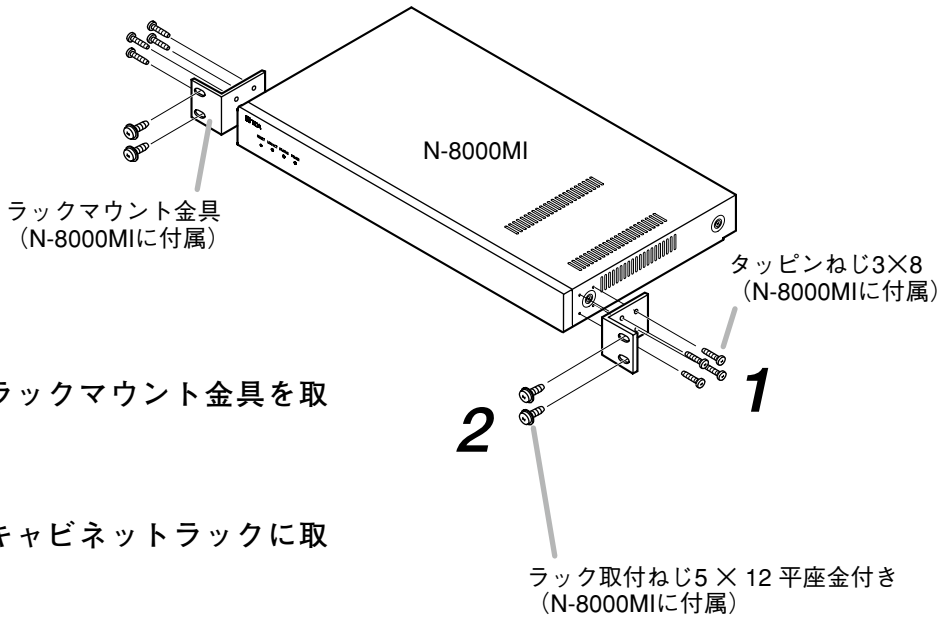
● 機器取り付け時のご注意

⚠注意　本機の通風口をふさがないでください。
ふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

N-8000MI は２台を超える積み重ね設置をしないでください。２台ごとに上下に 1U サイズ以上のパーフォレイテッドパネル PF-013B などを取り付けてください。



● マルチインターフェースユニット N-8000MI の取り付けかた

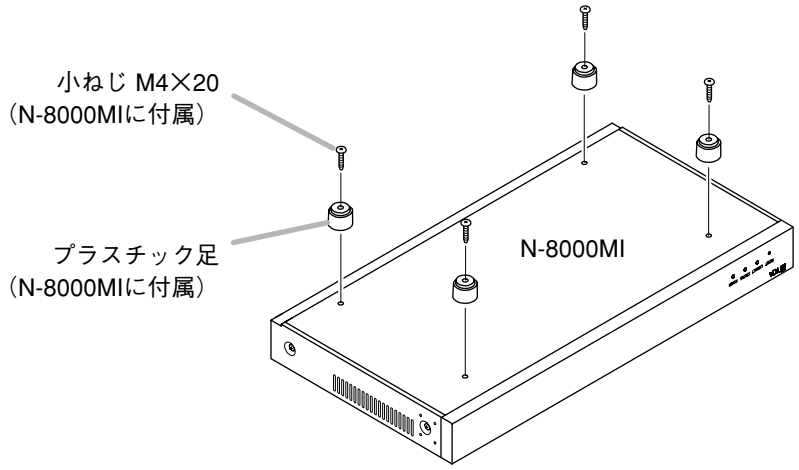


1 N-8000MI にラックマウント金具を取り付ける。

2 N-8000MI をキャビネットラックに取り付ける。

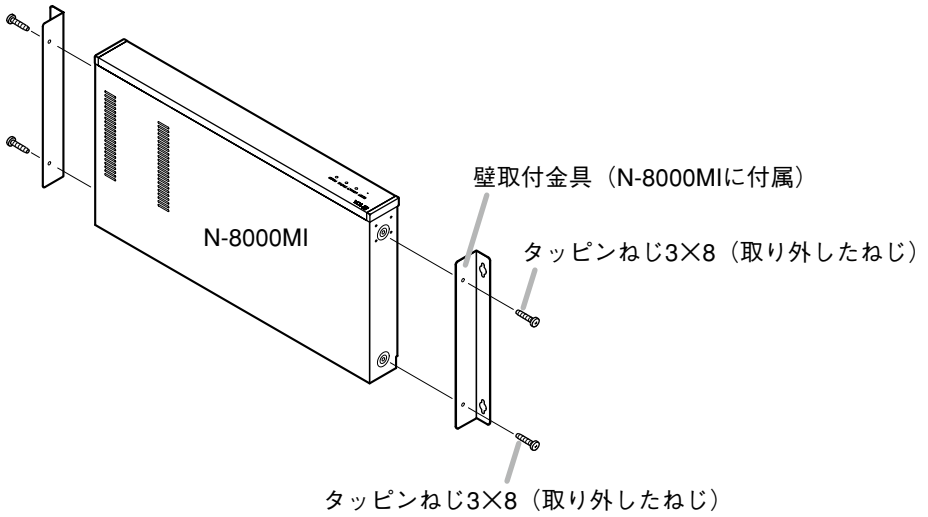
■ 卓上に置くとき

卓上に置いて使用するときは、付属のプラスチック足を N-8000MI の底面に取り付けてください。



■ 壁に取り付けるとき

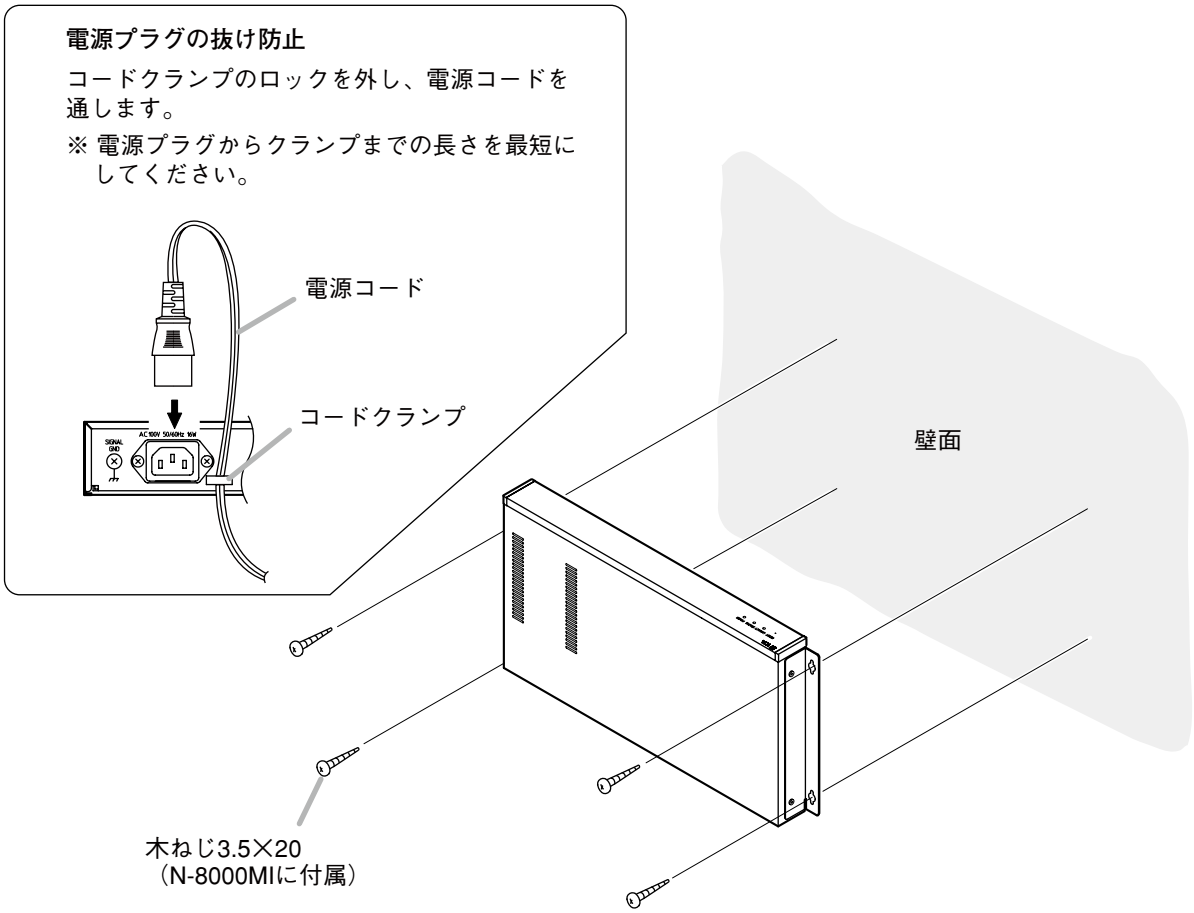
1 ケースから取り外したねじ 4 本を使用して、付属の壁取付金具を N-8000MI に取り付ける。



2 N-8000MI を壁に取り付ける。

ご注意

- 壁面の材質に応じた取付ねじを使用してください。
- N-8000MI には木ねじ 3.5 × 20 が付属されています。



ダイレクトセレクトユニットの設置のしかた

ダイレクトセレクトユニット N-8000DI の設置方法には、キャビネットラックへの取り付け、卓上設置、壁への取り付けの３種類があります。

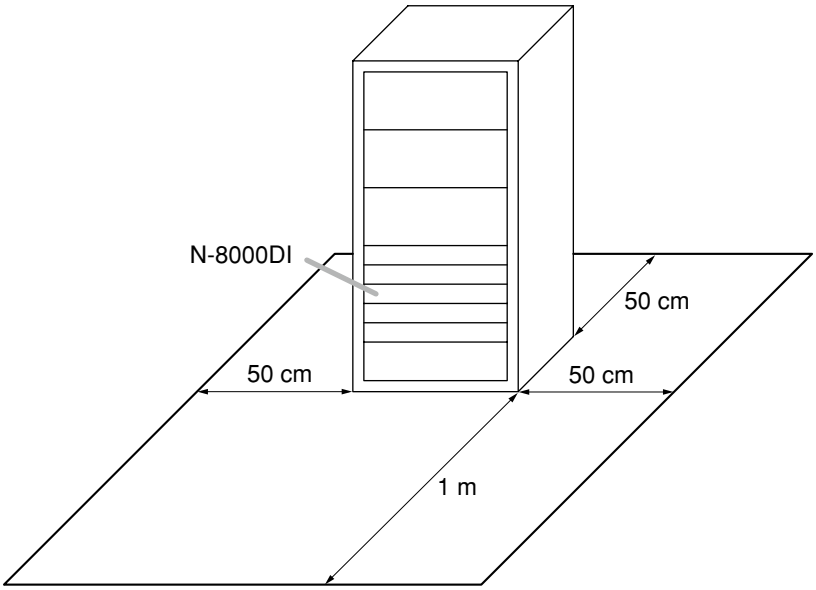
■ キャビネットラックに取り付けるとき

N-8000DI のキャビネットラックとして CR-273、CR-413 が使用できます。キャビネットラック CR-273、CR-413 の組み立ては、ラックに付属の工事説明書をお読みください。

※ N-8000DI を取り付けるときは、キャビネットラックを横に倒した状態で行うと安全に作業ができます。

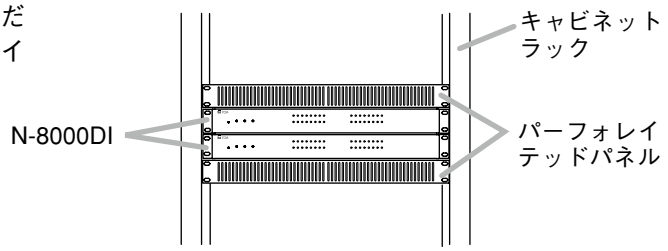
● 設置スペース

N-8000DI の周囲は、保守点検のために必要なスペースを確保してください。

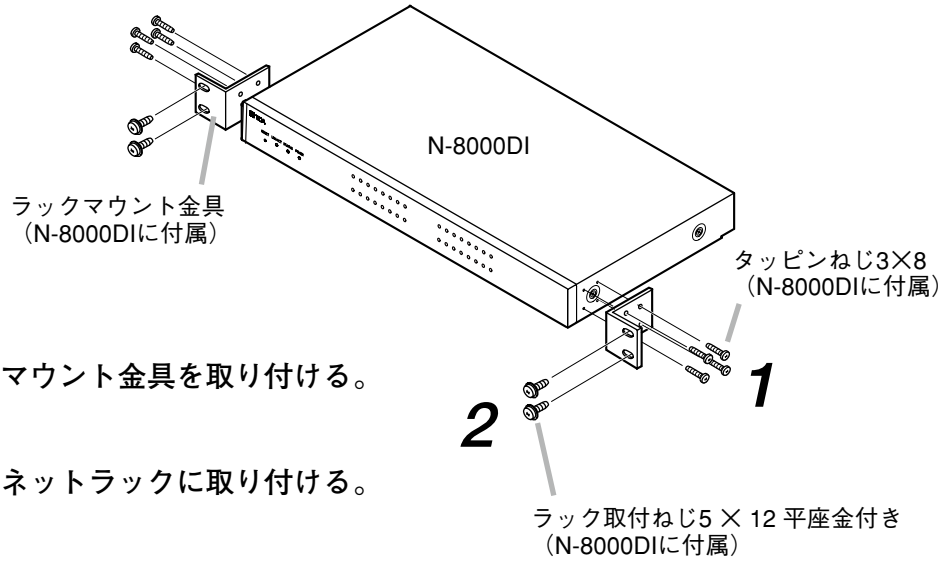


● 機器取り付け時のご注意

N-8000DI は２台を超える積み重ね設置をしないでください。２台ごとに上下に 1U サイズ以上のパーフォレイテッドパネル PF-013B などを取り付けてください。



● ダイレクトセレクトユニット N-8000DI の取り付けかた

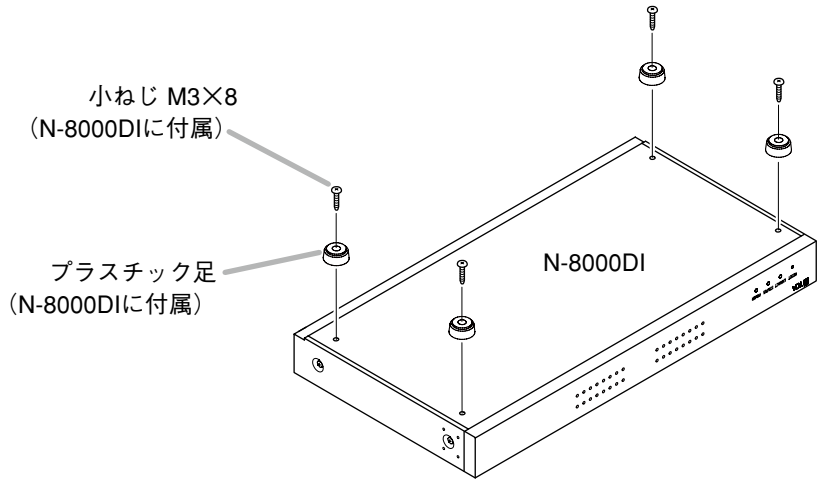


1 N-8000DI にラックマウント金具を取り付ける。

2 N-8000DI をキャビネットラックに取り付ける。

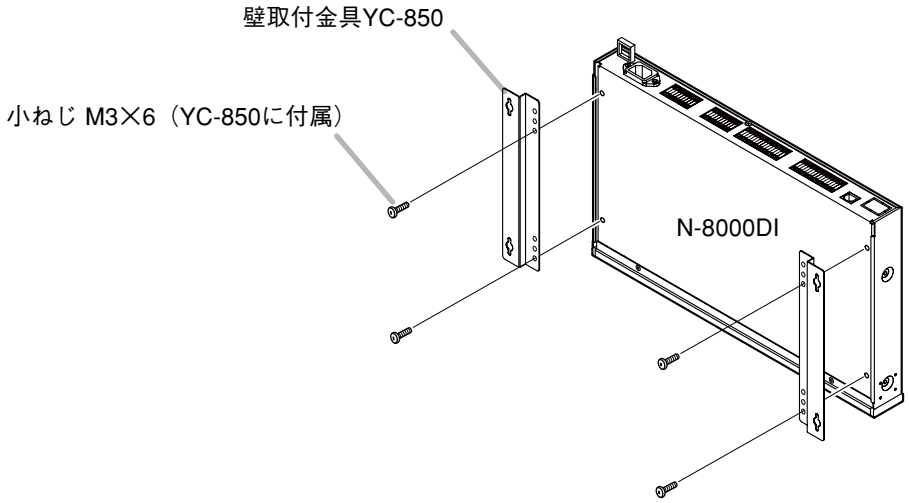
■ 卓上に置くとき

卓上に置いて使用するときは、付属のプラスチック足を N-8000DI の底面に取り付けてください。



■ 壁に取り付けるとき

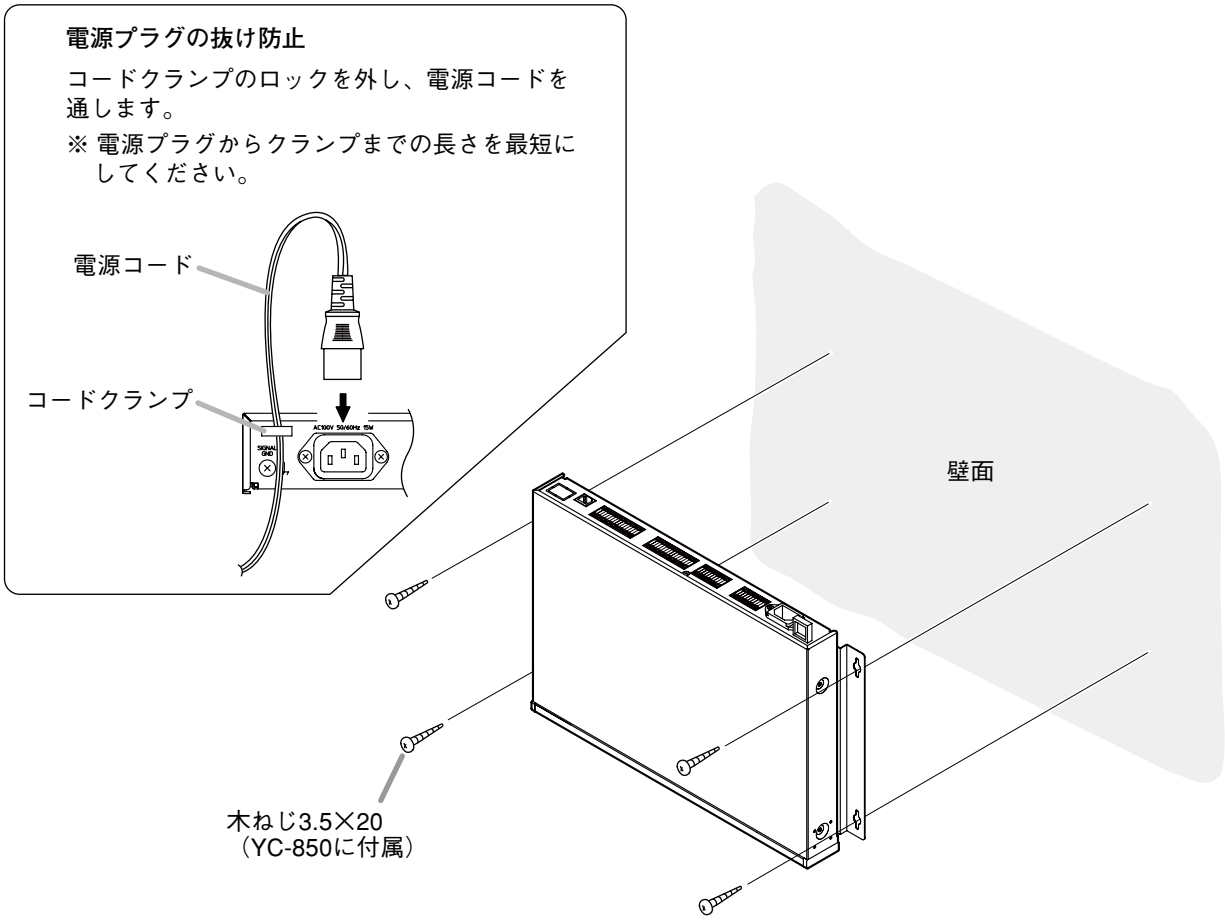
1 別売の壁取付金具 YC-850 を N-8000DI に取り付ける。



2 N-8000DI を壁に取り付ける。

ご注意

- 壁面の材質に応じた取付ねじを使用してください。
- 壁取付金具 YC-850 には木ねじ 3.5 × 20 が付属されています。



音声・局線・電話インターフェースユニットの設置のしかた

音声インターフェースユニット N-8000AF、局線インターフェースユニット N-8000CO、電話インターフェースユニット N-8000AL の設置方法には、キャビネットラックへの取り付け、卓上設置、壁への取り付けの 3 種類があります。

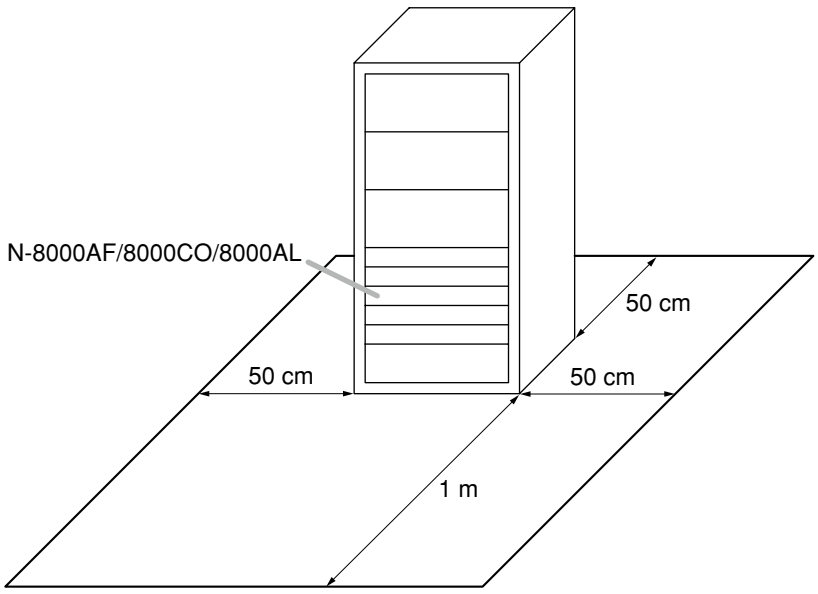
■ キャビネットラックに取り付けるとき

N-8000AF/8000CO/8000AL のキャビネットラックとして CR-273、CR-413 が使用できます。キャビネットラック CR-273、CR-413 の組み立ては、ラックに付属の工事説明書をお読みください。

※ N-8000AF/8000CO/8000AL を取り付けるときは、キャビネットラックを横に倒した状態で行うと安全に作業ができます。

● 設置スペース

N-8000AF/8000CO/8000AL の周囲は、保守点検のために必要なスペースを確保してください。



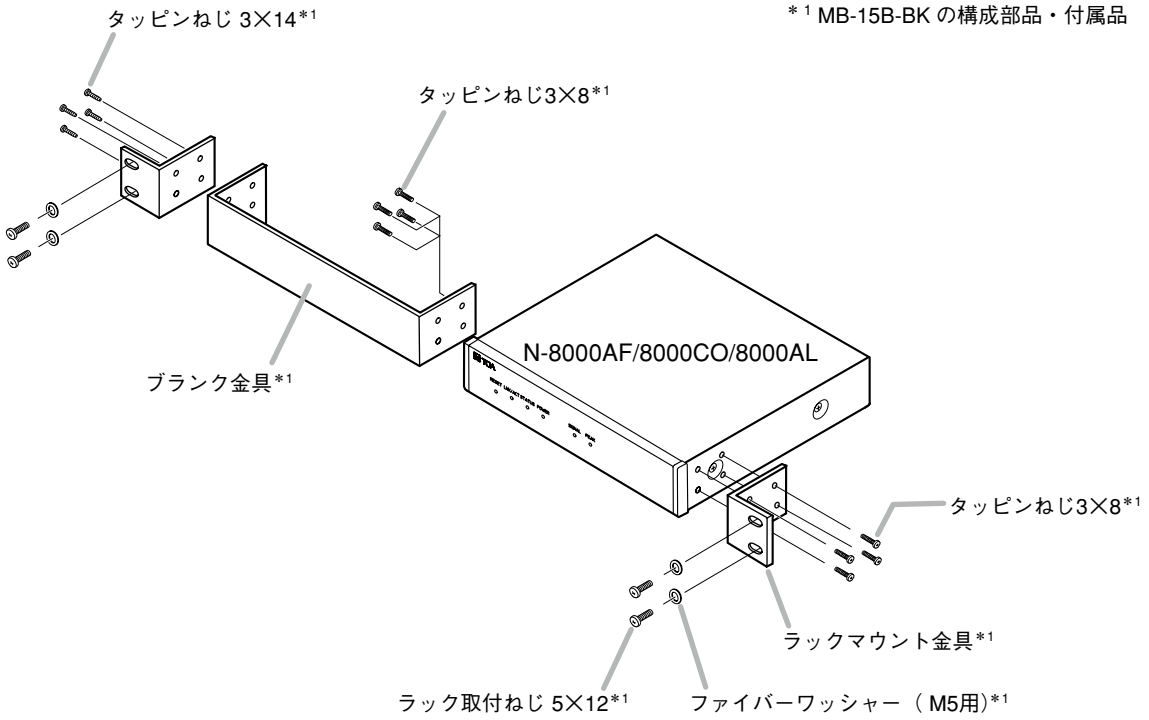
● 音声インターフェースユニット N-8000AF / 局線インターフェースユニット N-8000CO / 電話インターフェースユニット N-8000AL の取り付けかた

ご注意

ラックに取り付けるときは別売の金具セットを使用してください。

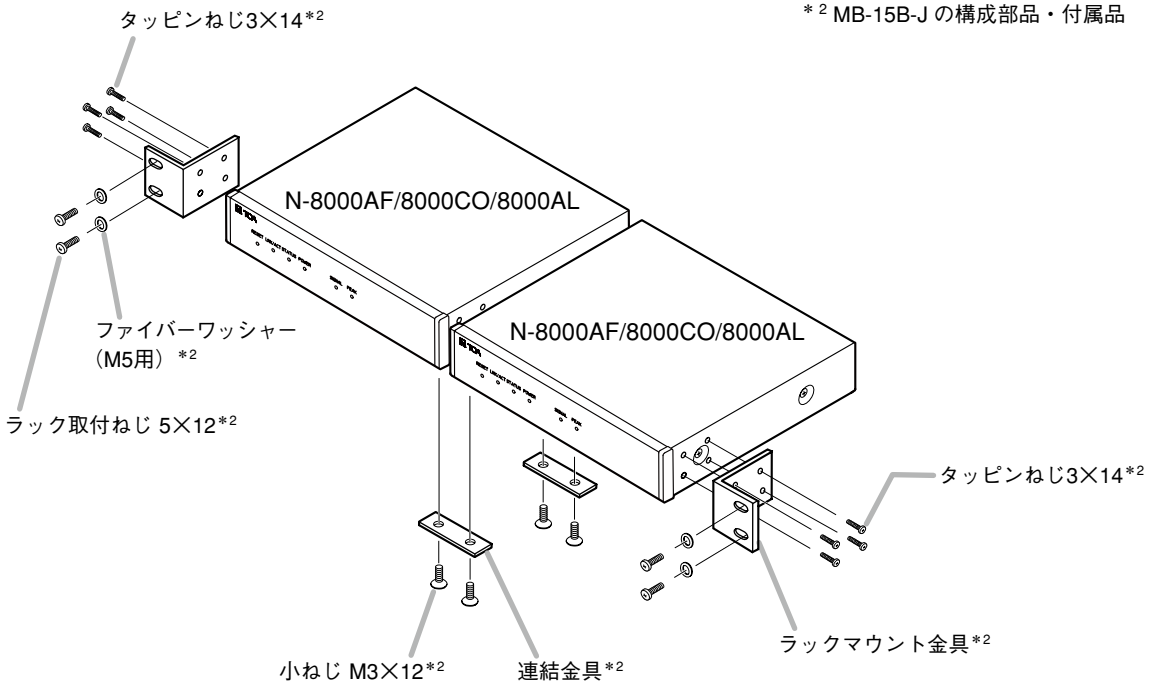
［ラックに 1 台取り付けるとき］

別売金具 MB-15B-BK を使用します。



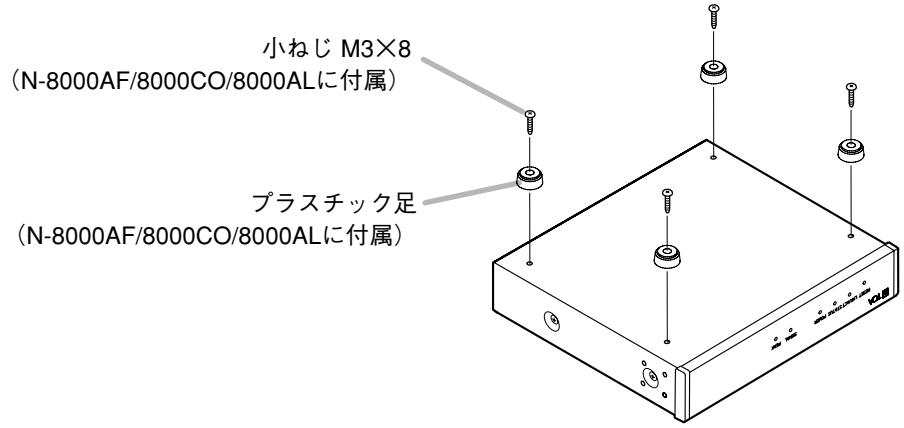
［ラックに 2 台取り付けるとき］

別売金具 MB-15B-J を使用します。



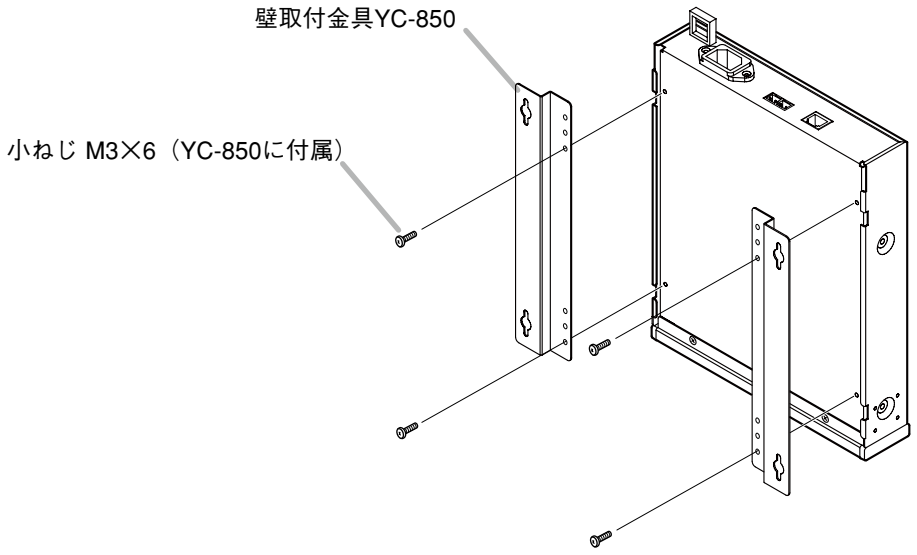
■ 卓上に置くとき

卓上に置いて使用するときは、付属のプラスチック足を N-8000AF/8000CO/8000AL の底面に取り付けてください。



■ 壁に取り付けるとき

1 別売の壁取付金具 YC-850 を N-8000AF/8000CO/8000AL に取り付ける。

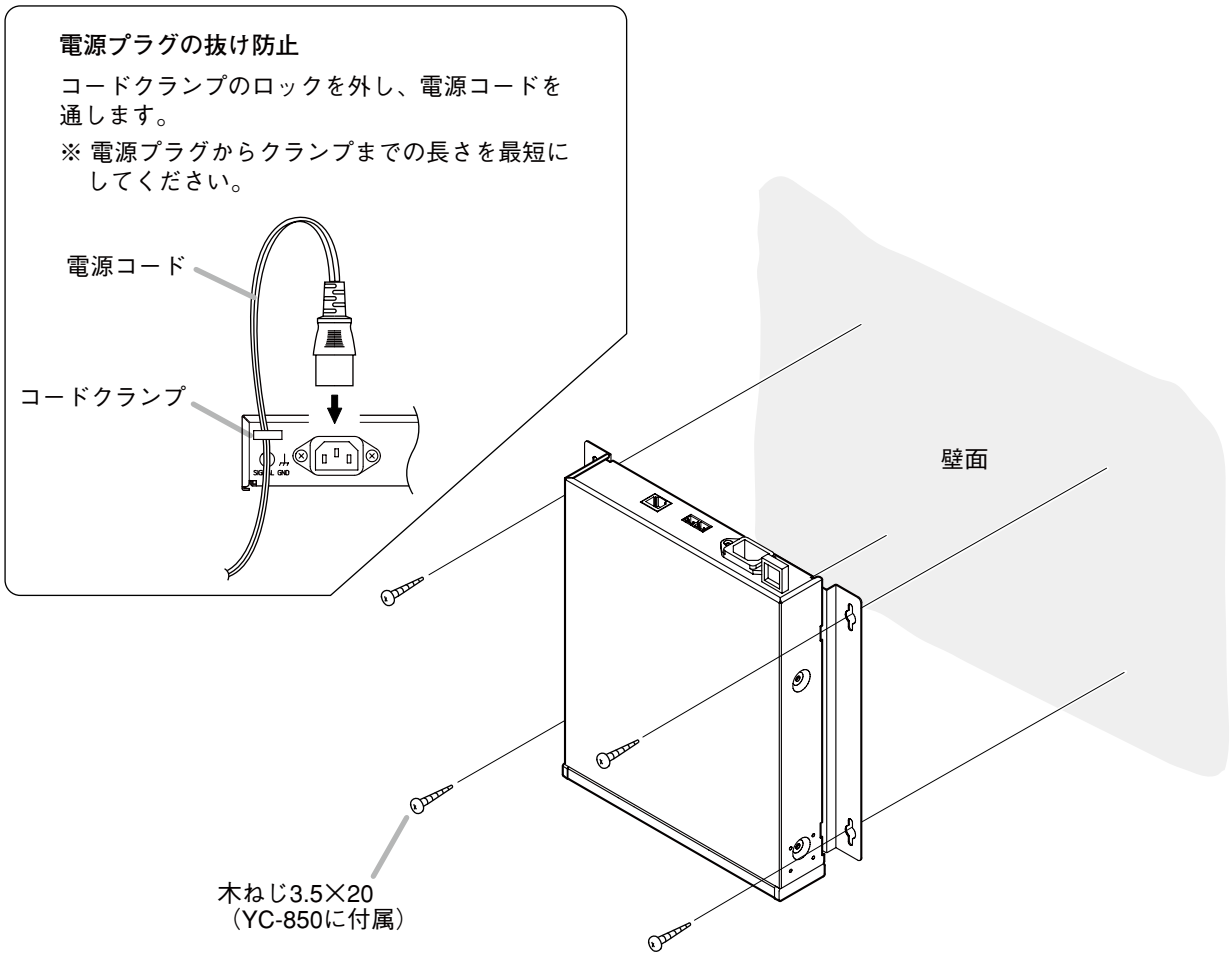


※ 図は N-8000CO/8000AL です。

2 N-8000AF/8000CO/8000AL を壁に取り付ける。

ご注意

- 壁面の材質に応じた取付ねじを使用してください。
- 壁取付金具 YC-850 には木ねじ 3.5 × 20 が付属されています。



※ 図は N-8000CO/8000AL です。

スマートマトリクス IP モジュールの設置のしかた

スマートマトリクス IP モジュール SX-200IP は、SX-2000 システムの音声入力ユニットに組み込みます。
詳しくは、SX-200IP に付属の設置説明書をお読みください。

マスター端末の設置のしかた

マスター端末の設置方法には、壁への取り付け、卓上設置、電工ボックスを使用した壁への埋め込み、露出ボックスを使用した壁への取り付けの４種類があります。

ご注意

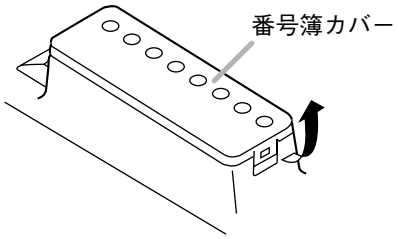
ページング呼び出しのあるシステムの場合は、拡声スピーカーとのハウリングを防ぐため、端末を拡声スピーカーからできるだけ遠ざけて設置してください。

■ 壁掛けで使用するとき

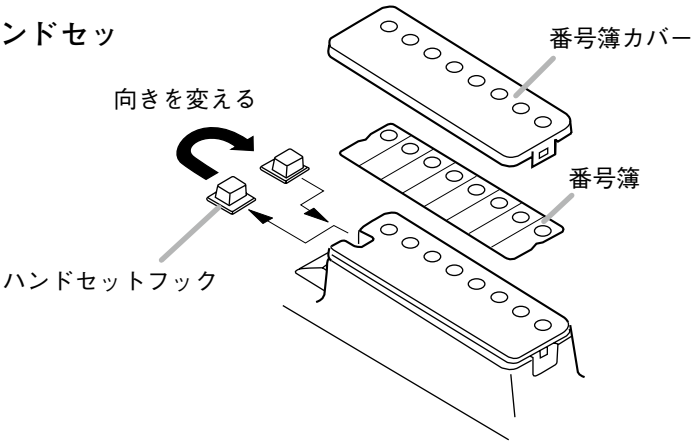
壁掛けで使用するときは、ハンドセットフックの向きを変えてください。

● N-8000MS/8010MS/8410MS/8500MS/8510MS/8515MS/8600MS/8610MS/8616MS の場合

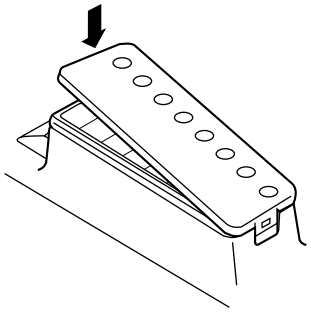
1 番号簿カバーの手前のつめを上に引き上げる。



2 番号簿カバーと番号簿を取り外し、ハンドセットフックの向きを入れ換える。

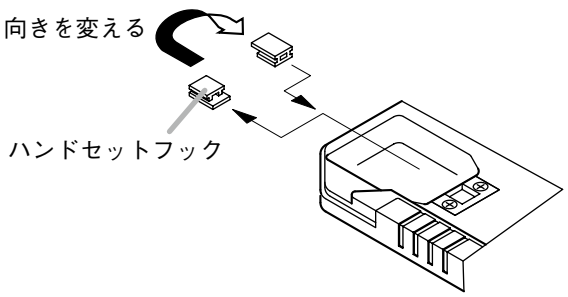


3 番号簿を載せてから、番号簿カバーの手前のつめを引っ掛け、番号簿カバーの上部を押す。



● N-8020MS の場合

ハンドセットフックを取り外し、向きを入れ換える。



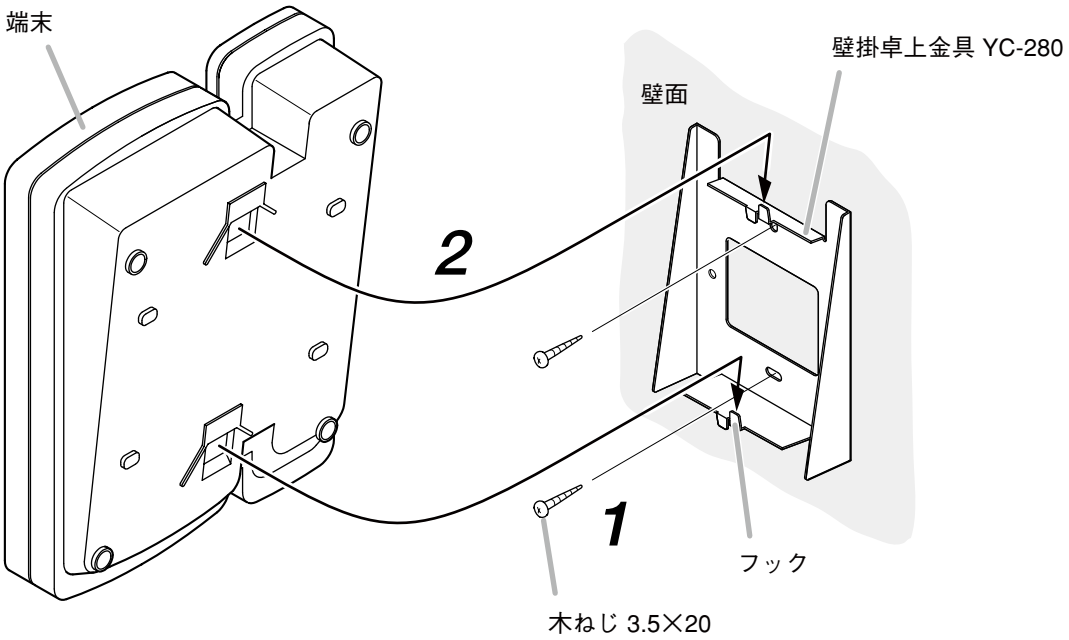
■ 壁への取り付けかた

● N-8000MS/8010MS/8020MS/8410MS/8500MS/8510MS/8515MS/8600MS/8610MS/8616MS の場合

壁掛卓上金具 YC-280 * を使って壁に取り付けます。
YC-280 は JIS 規格の 1 個用スイッチボックスに取り付けることもできます。

* N-8515MS/8610MS には付属

［取り付けかた］



※ 図はN-8000MSです。

1 壁掛卓上金具 YC-280 を壁に取り付ける。

ご注意

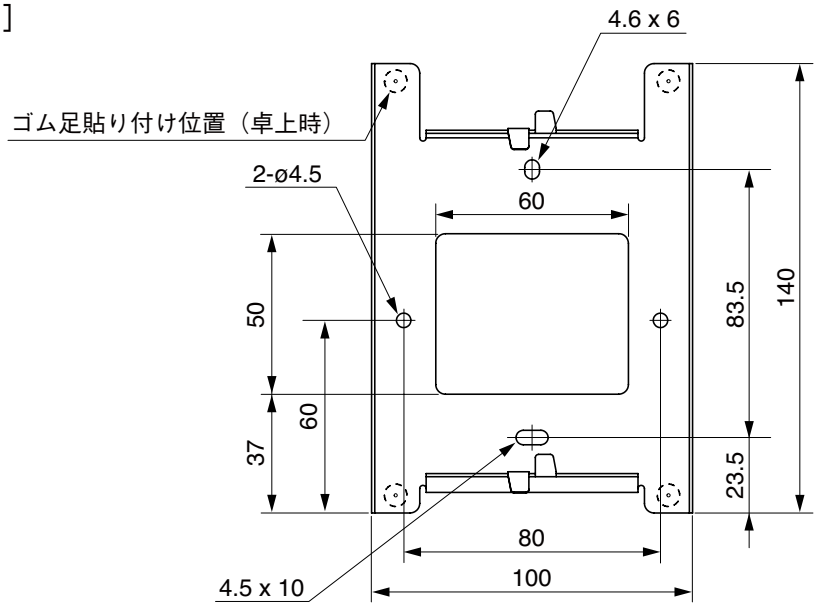
- 壁面の材質に応じた取付ねじを使用してください。
- 木ねじ 3.5 × 20 は、N-8515MS および別売の YC-280 に付属されています。
- スイッチボックス用の取付ねじは、付属していません。
  適切なものを市販品から選んで使用してください。

2 端末を金具のフックに引っ掛けて取り付ける。

端末本体を矢印方向に押し下げてください。

［YC-280寸法図］

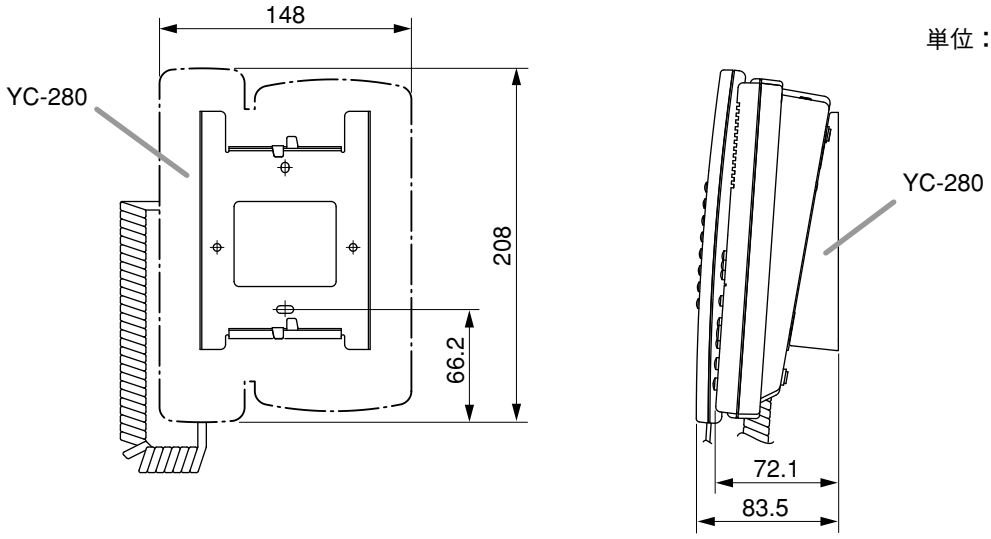
単位：mm



［取付完成図］

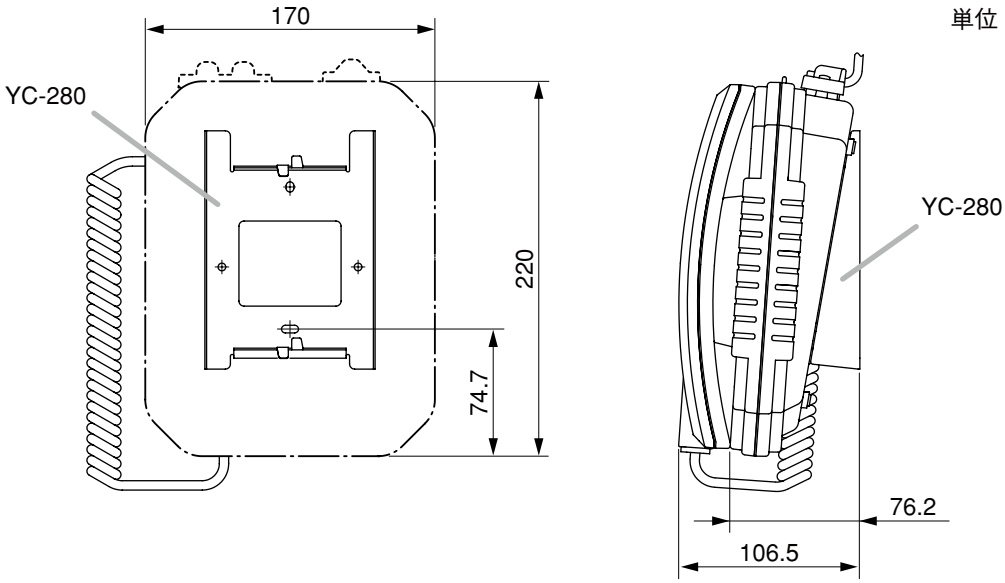
● N-8000MS/8010MS/8410MS/8500MS/8510MS/8515MS/8600MS/8610MS/8616MS

単位：mm



● N-8020MS

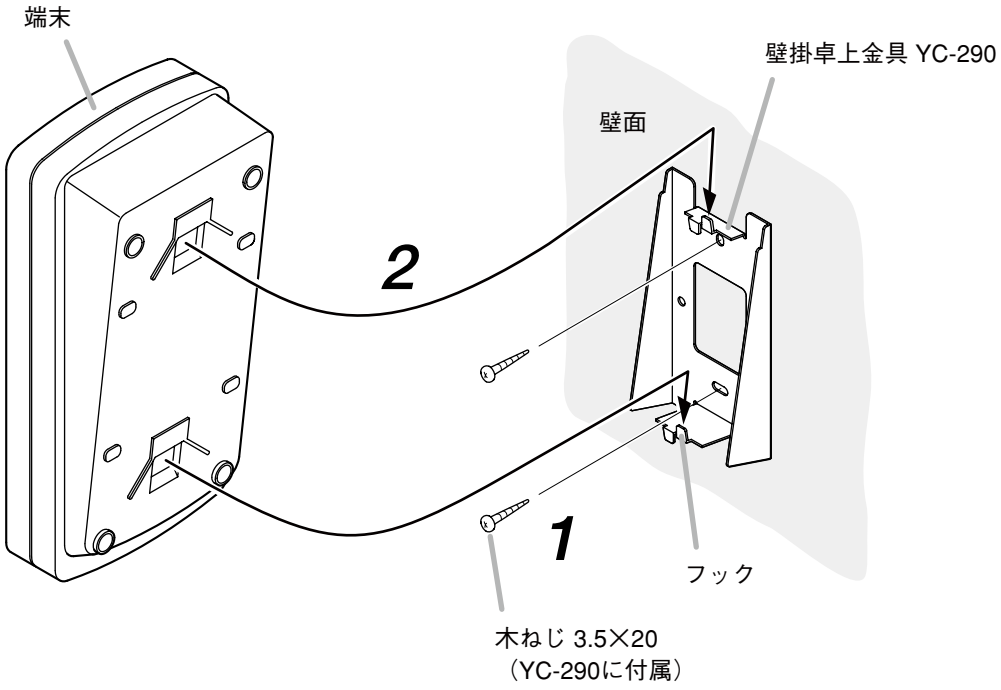
単位：mm



● N-8011MS の場合

壁掛卓上金具 YC-290 を使って壁に取り付けます。
YC-290 は JIS 規格の 1 個用スイッチボックスに取り付けることもできます。

［取り付けかた］



1 壁掛卓上金具 YC-290 を壁に取り付ける。

ご注意

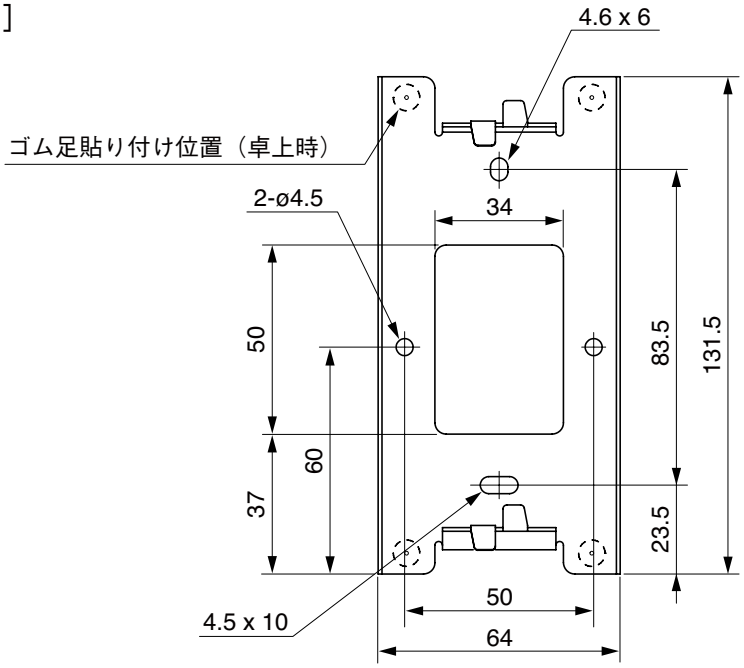
- 壁面の材質に応じた取付ねじを使用してください。
- YC-290 には木ねじ 3.5 × 20 が付属されています。
- スイッチボックス用の取付ねじは、付属していません。
  適切なものを市販品から選んで使用してください。

2 端末を金具のフックに引っ掛けて取り付ける。

端末本体を矢印方向に押し下げてください。

［YC-290寸法図］

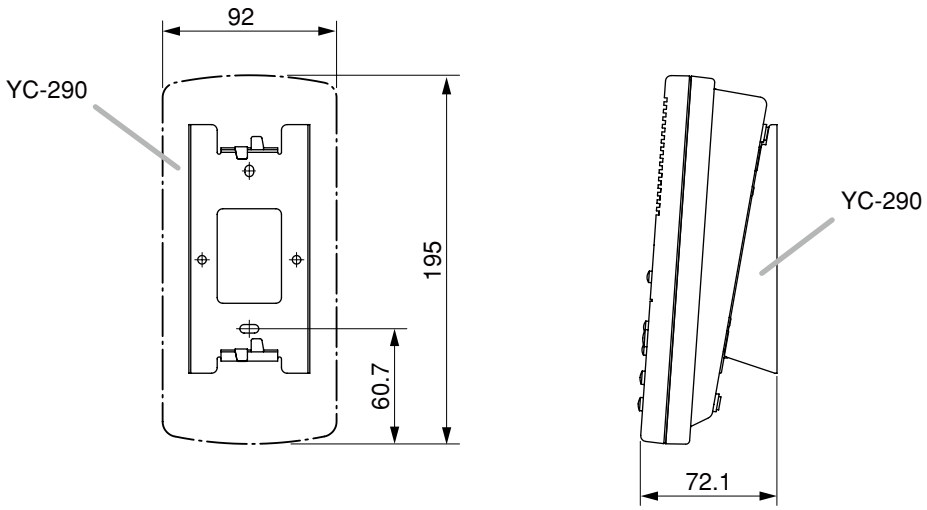
単位：mm



［取付完成図］

● N-8011MS

単位：mm



■ 卓上に置くとき

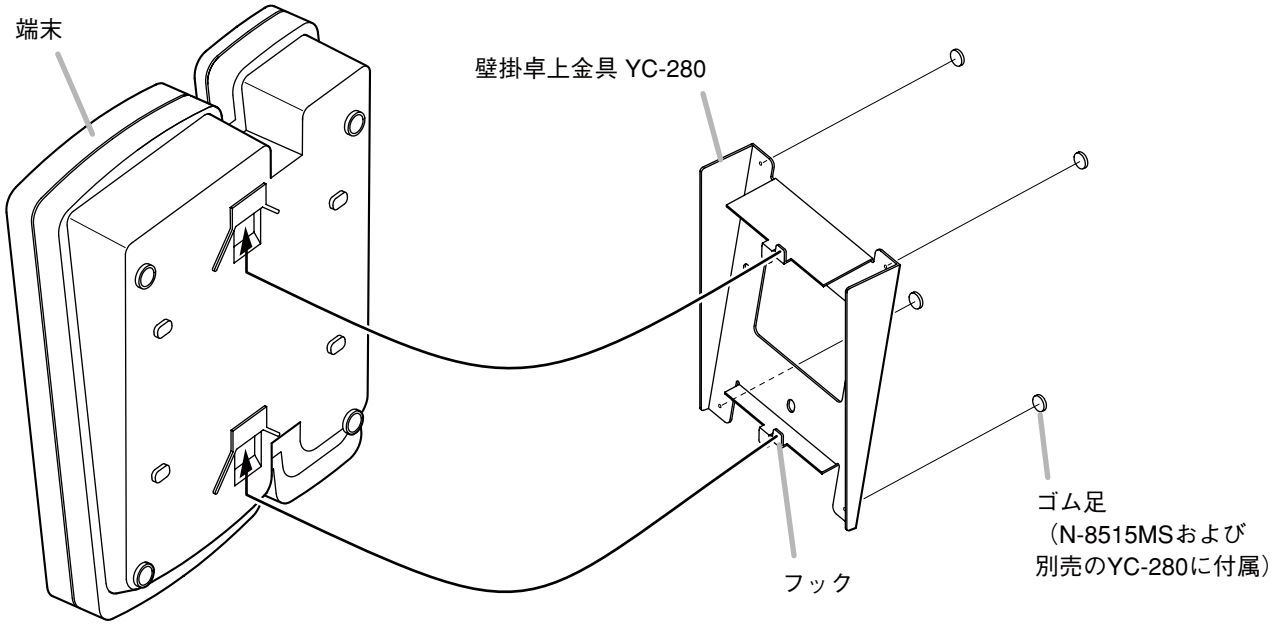
● N-8000MS/8010MS/8020MS/8410MS/8500MS/8510MS/8515MS/8600MS/8610MS/8616MS の場合

端末をそのまま卓上に置いて使用できます。
また、壁掛卓上金具 YC-280 * を端末の底面に取り付けて卓上に置くと、操作面が水平から 16 ° 上向きになり、操作しやすくなります。

* N-8515MS/8610MS には付属

[金具の取り付けかた]

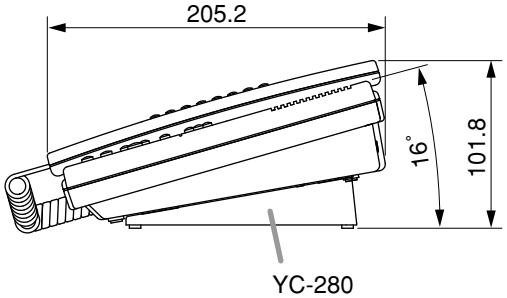
壁掛卓上金具のフックを端末の挿入口に引っ掛けて取り付ける。
壁掛卓上金具を矢印方向に押し上げてください。



※ 図はN-8000MSです。

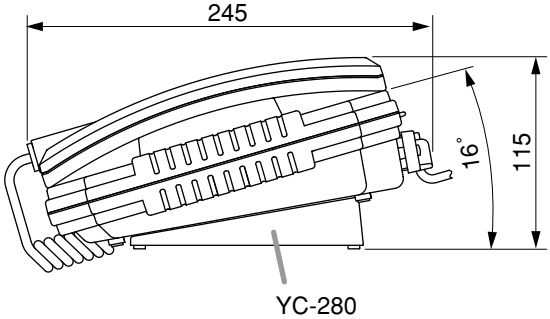
[取付完成図]

● N-8000MS/8010MS/8410MS/8500MS/8510MS/8515MS/8600MS/8610MS/8616MS



● N-8020MS

単位：mm

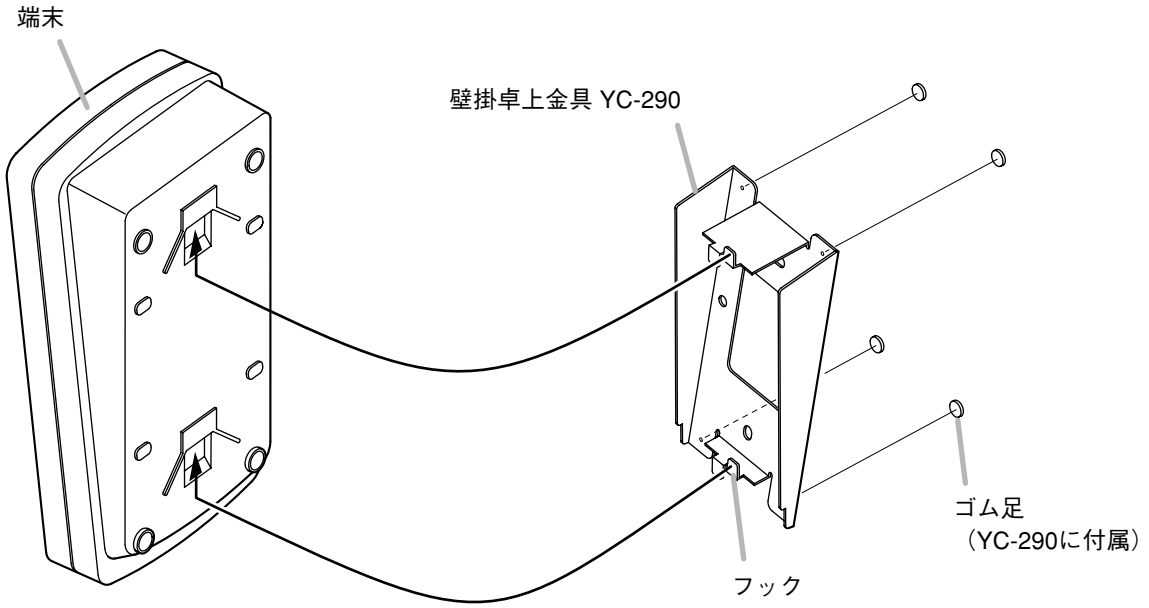


● N-8011MS の場合

端末をそのまま卓上に置いて使用できます。
また、壁掛卓上金具 YC-290 を端末の底面に取り付けて卓上に置くと、操作面が水平から 16 ˚上向きになり、操作しやすくなります。

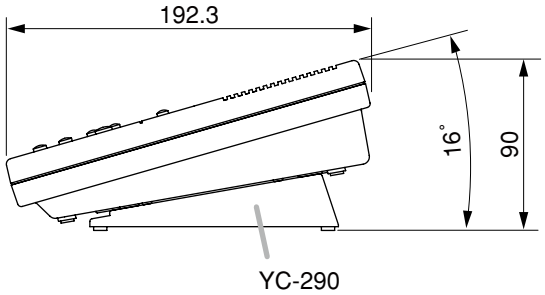
［金具の取り付けかた］

壁掛卓上金具のフックを端末の挿入口に引っ掛けて取り付ける。
壁掛卓上金具を矢印方向に押し上げてください。



［取付完成図］

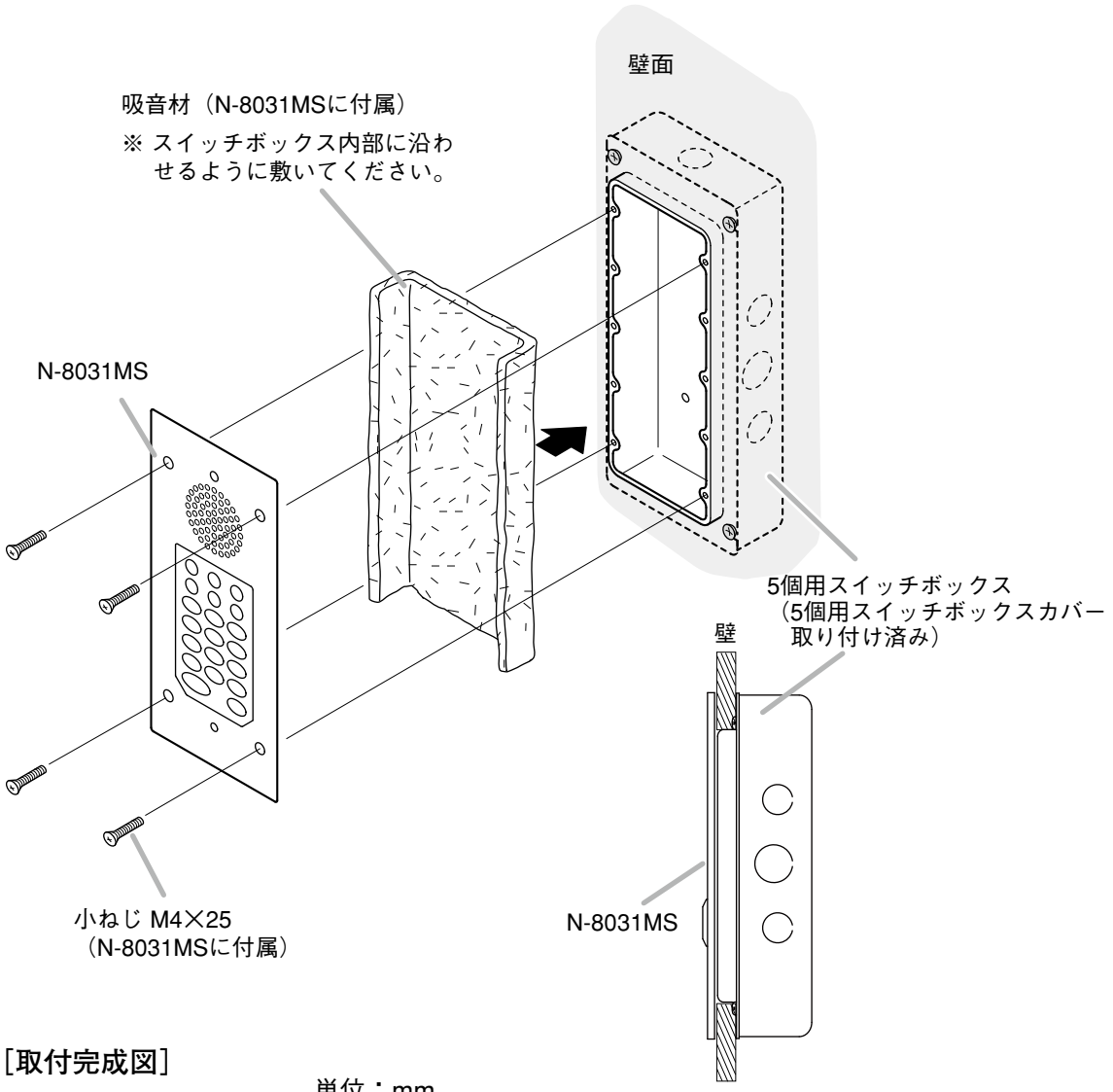
単位：mm



■ 電工ボックスなどを使用して壁に埋め込むとき

● N-8031MS の場合

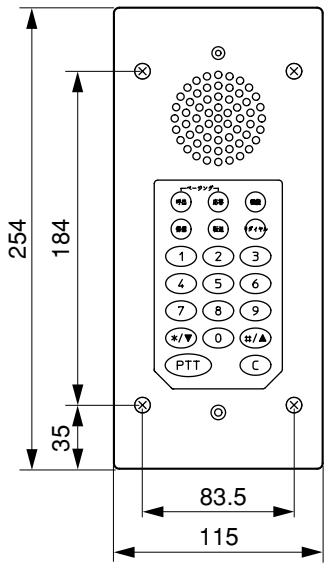
壁に取り付けた電工ボックス（JIS 規格の 5 個用スイッチボックス）に N-8031MS を取り付けます。



［断面図］

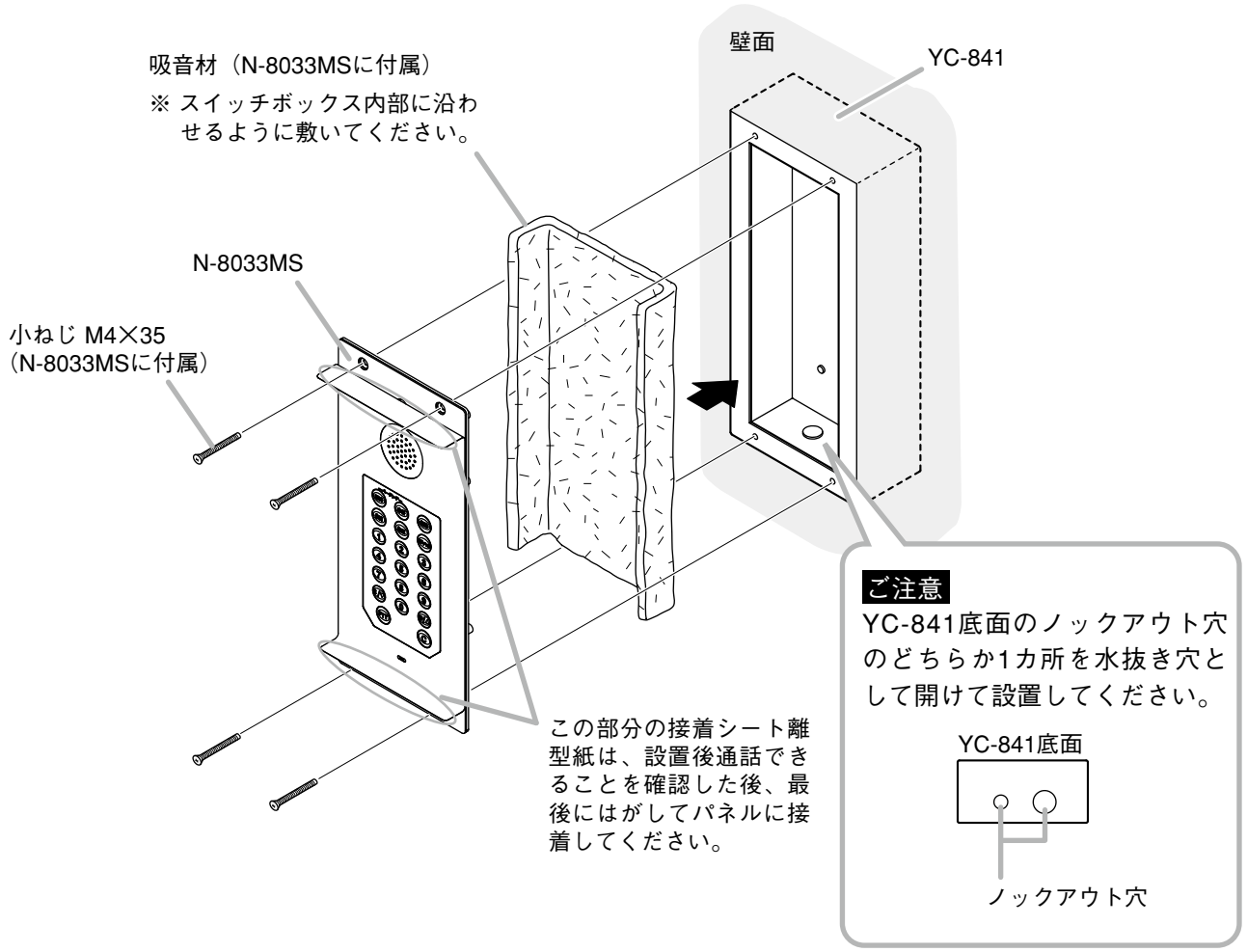
［取付完成図］

単位：mm



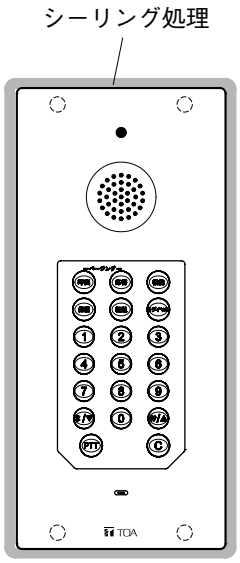
● N-8033MS の場合

壁に取り付けた壁埋込／露出兼用ボックス YC-841 に N-8033MS を取り付けます。



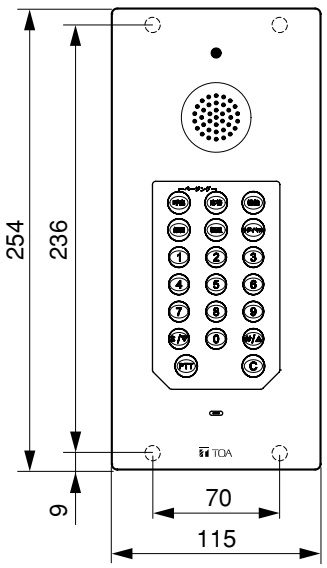
ご注意

防水が必要な場所に設置するときは、パネル外周をシーリング処理してください。
シーリング処理については、当社営業所にご相談ください。



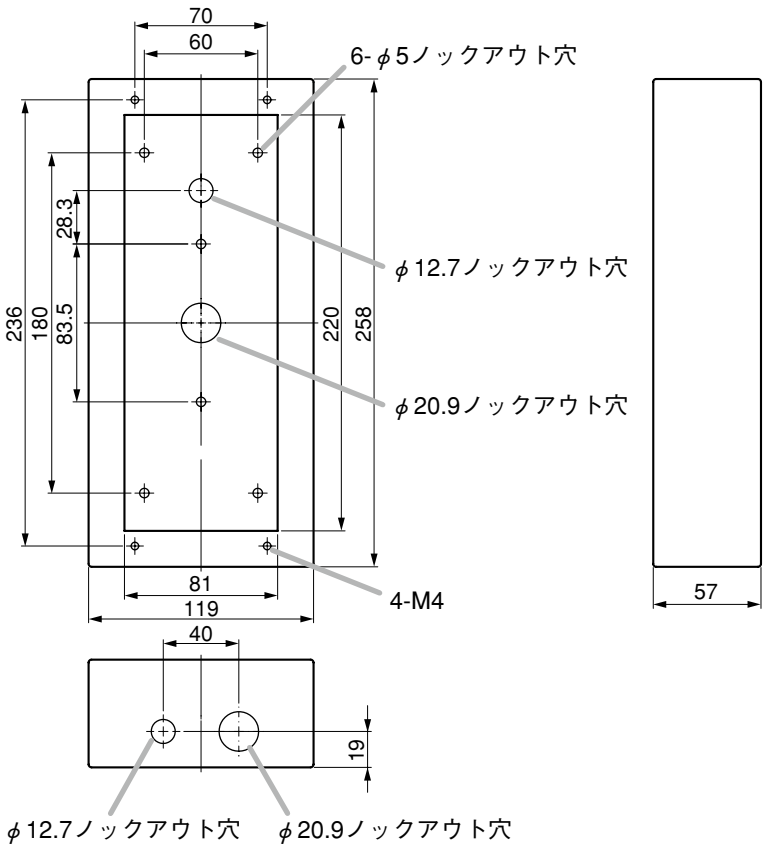
［取付完成図］

単位：mm



［YC-841 外観寸法図］

単位：mm

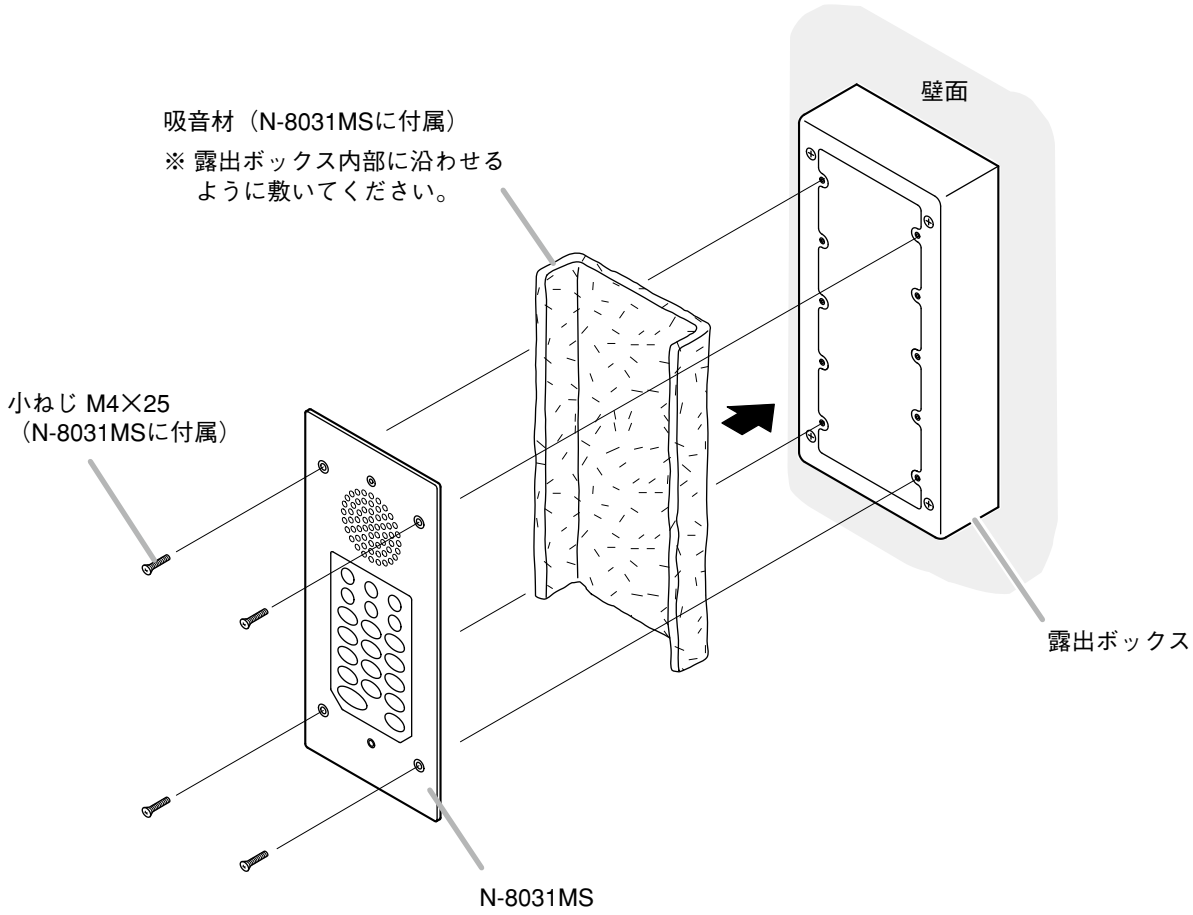


■ 露出ボックスなどを使用して壁に取り付けるとき

● N-8031MS の場合

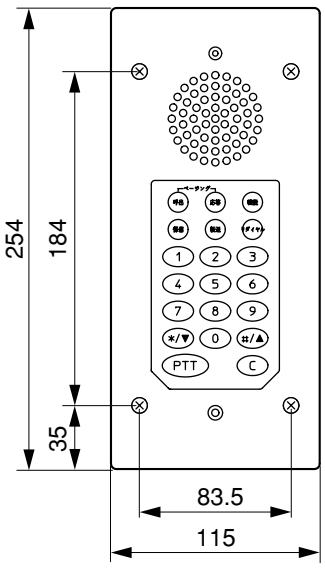
壁に取り付けた露出ボックス*に N-8031MS を取り付けます。

*５個用スイッチボックス（パナソニック製 DZB295W を推奨）を使用します。



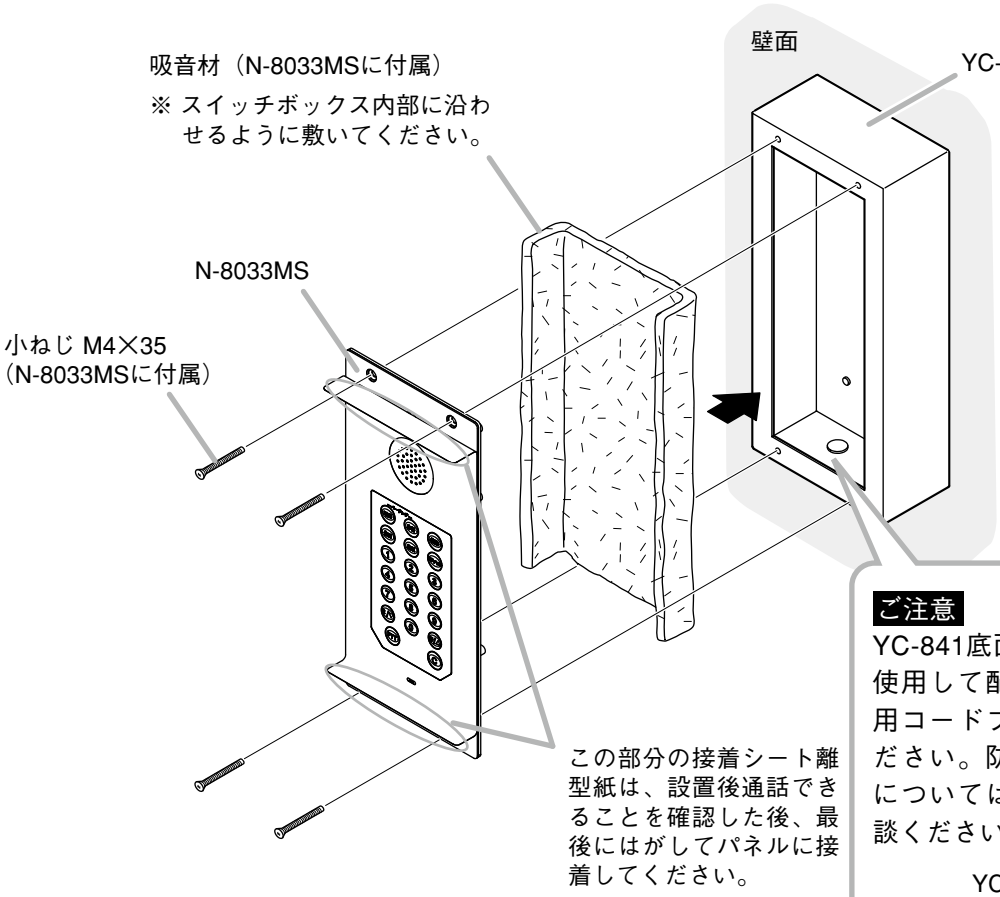
［取付完成図］

単位：mm



● N-8033MS の場合

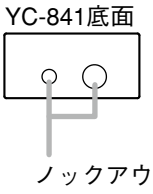
壁に取り付けた壁埋込／露出兼用ボックス YC-841 に N-8033MS を取り付けます。



※ YC-841 の外観寸法図は P. 3-27 を参照してください。

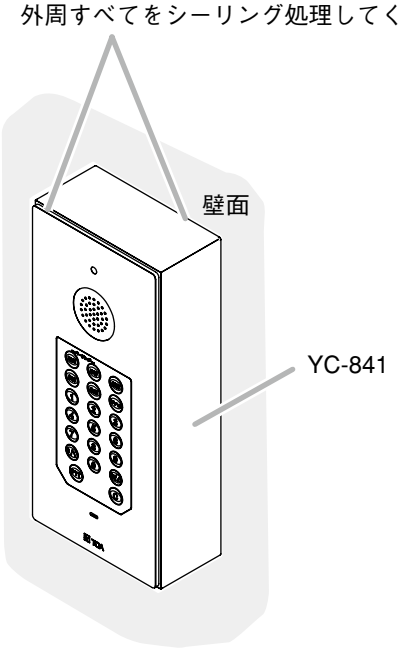
ご注意

YC-841底面のノックアウト穴を使用して配線するときは、防水用コードブッシュを使用してください。防水用コードブッシュについては、当社営業所にご相談ください。



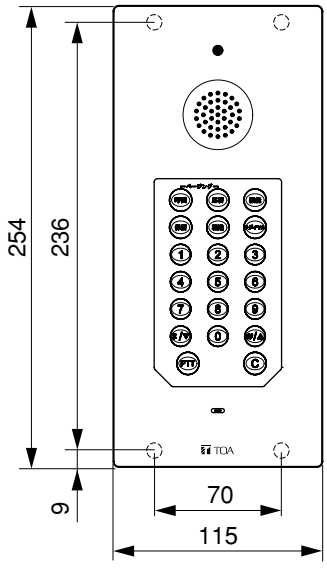
ご注意

防水が必要な場所に設置するときは、パネル外周およびボックスと壁面の間の外周をシーリング処理してください。
シーリング処理については、当社営業所にご相談ください。



［取付完成図］

単位：mm



リモートマイク端末の設置のしかた

■ 卓上に置くとき

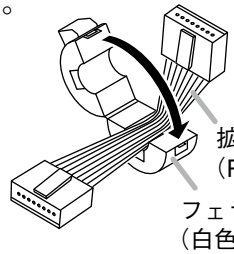
● N-8610RM と RM-210 の連結のしかた

リモートマイク拡張ユニット RM-210 を追加してリモートマイク端末 N-8610RM を拡張する場合は、RM-210 に付属の拡張ケーブルと連結金具を使用してお互いを連結します。
以下の手順で連結してください。

1 **N-8610RM と RM-210 を裏返して、お互いを密着させる。**

2 **RM-210 に付属の拡張ケーブルで、N-8610RM 側面の RM-210 接続端子（EXTENSION）と RM-210 側面の RM 接続端子（EXTENSION）を接続する。**

このとき、N-8610RM に付属のフェライトクランプを拡張ケーブルに取り付けてください。



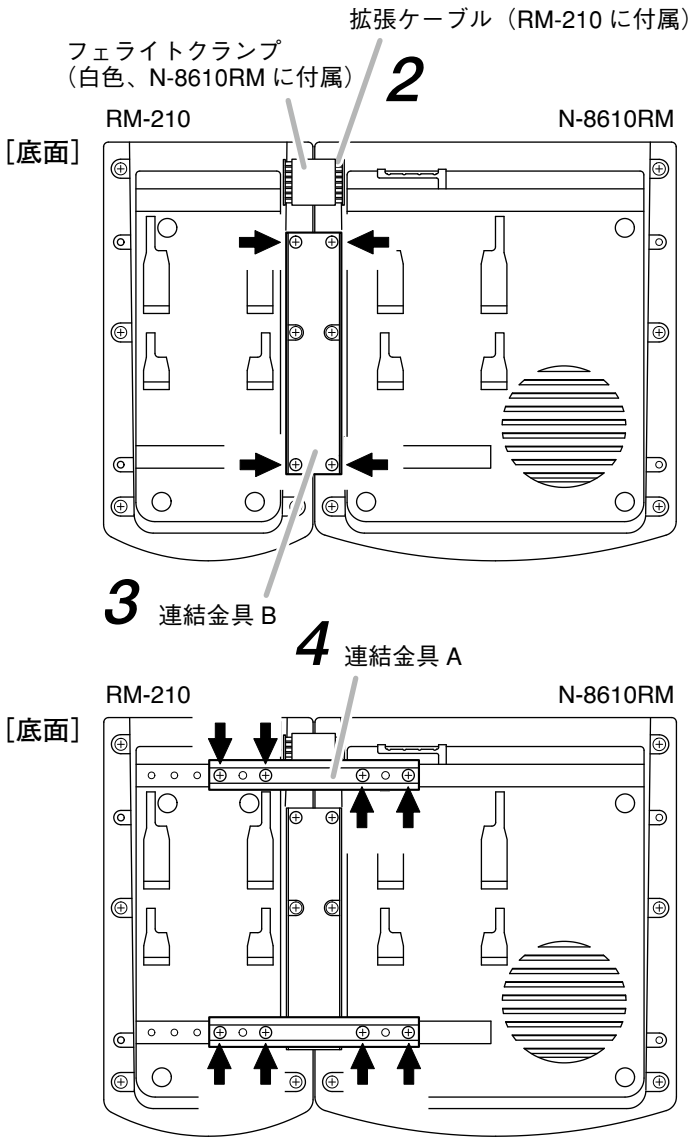
3 **RM-210 に付属の連結金具 B を使用して、N-8610RM と RM-210 を連結する。**

右図の矢印で示した箇所を RM-210 に付属のねじ 4 本で留めます。

4 **RM-210 に付属の連結金具 A（2 本）を使用して、N-8610RM と RM-210 をしっかりと固定する。**

右図の矢印で示した箇所を RM-210 に付属のねじ 8 本で留めます。

※ RM-210 をさらに連結する場合も、同様の手順で行います。ただし、RM-210 同士を連結する拡張ケーブルにフェライトクランプを取り付ける必要はありません。



ご注意

- 連結金具 A には、予備のねじ穴が 2 カ所あります。指示したねじ穴が損傷している場合は、予備のねじ穴を利用して 2 台を連結させてください。
- 両機器の間で接続間違いやケーブルのゆるみがあれば、金具取付ねじをすべて外し、もう一度ねじを締めて連結させてください。

■ 壁掛けで使用するとき

N-8610RM を壁に取り付けるときは、別売のリモートマイク壁掛金具 WB-RM200 を使用します。

● N-8610RM の取り付けかた

1 **リモートマイク壁掛金具 WB-RM200 を壁に取り付ける。**

このとき、LAN ケーブルを金具の切り欠き部から外に出しておきます。

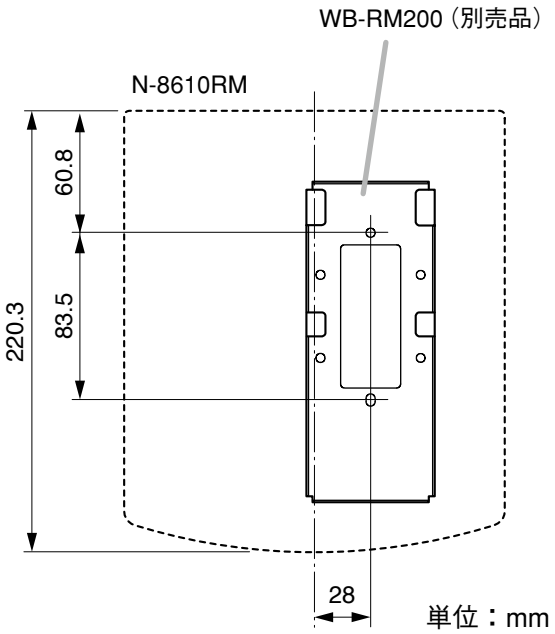
※ WB-RM200 に付属の壁取付ねじは、スイッチボックス用と壁直付け用の２種類がありますので、取付面に応じて使い分けてください。

スイッチボックス用：小ねじ M3.5 × 20
壁直付け用　　：タッピンねじ 4 × 25

⚠ 警告

- 壁掛金具類を含む全重量に十分耐えられる強度のある所に取り付けてください。
  十分な強度がないと落下して、けがの原因となります。
- 壁掛金具は、必ずねじを２本使用して壁に取り付けてください。

［WB-RM200 取付寸法］

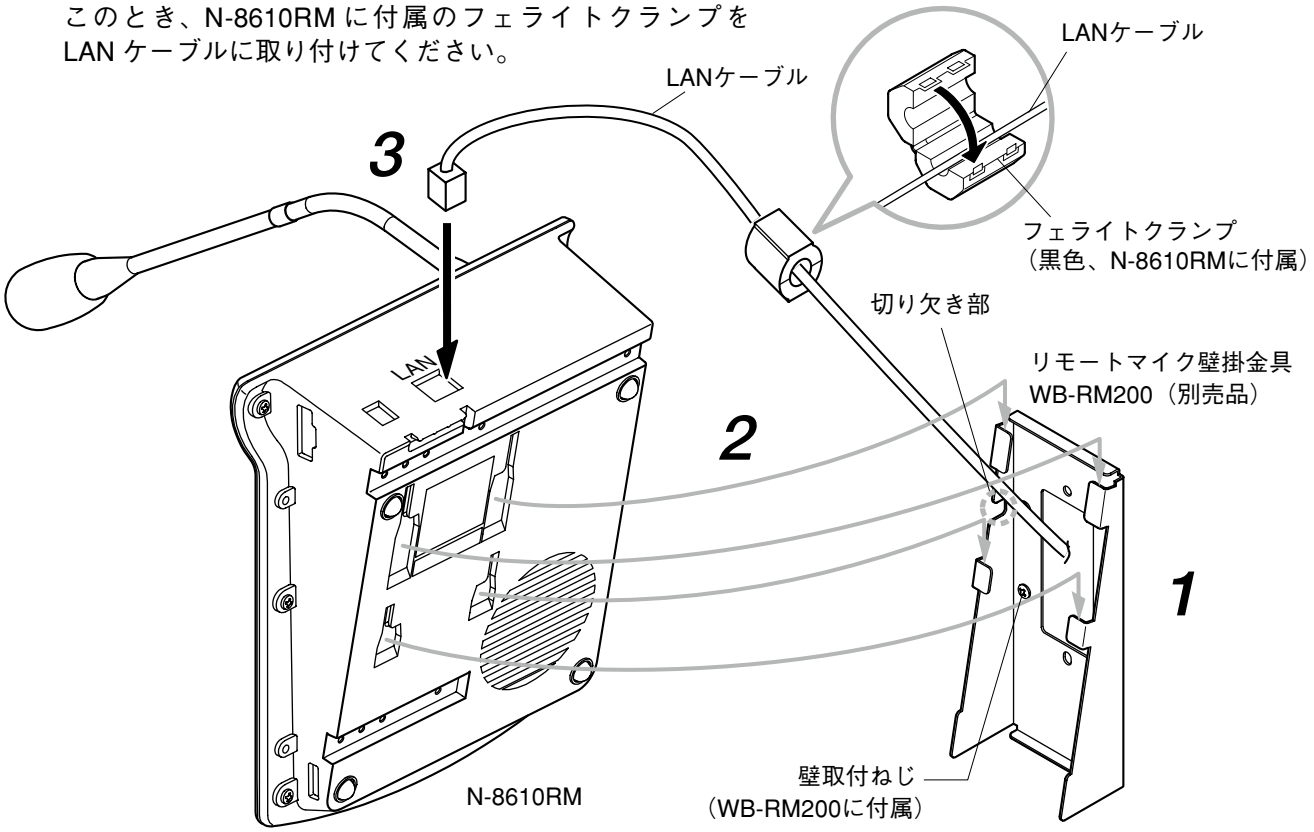


単位：mm

2 **N-8610RM の底面を WB-RM200 に引っ掛ける。**

3 **LAN ケーブルを N-8610RM の LAN 端子に接続する。**

このとき、N-8610RM に付属のフェライトクランプを LAN ケーブルに取り付けてください。



● RM-210 の取り付けかた

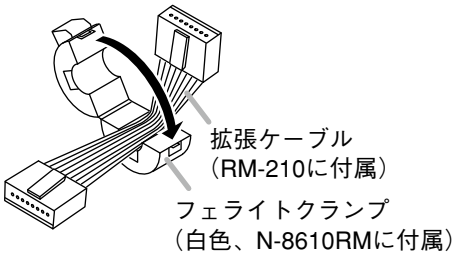
RM-210 を壁に取り付けるときは、別売のリモートマイク壁掛金具 WB-RM200 を使用します。

1 **N-8610RM を壁に取り付ける。**（前ページ参照）

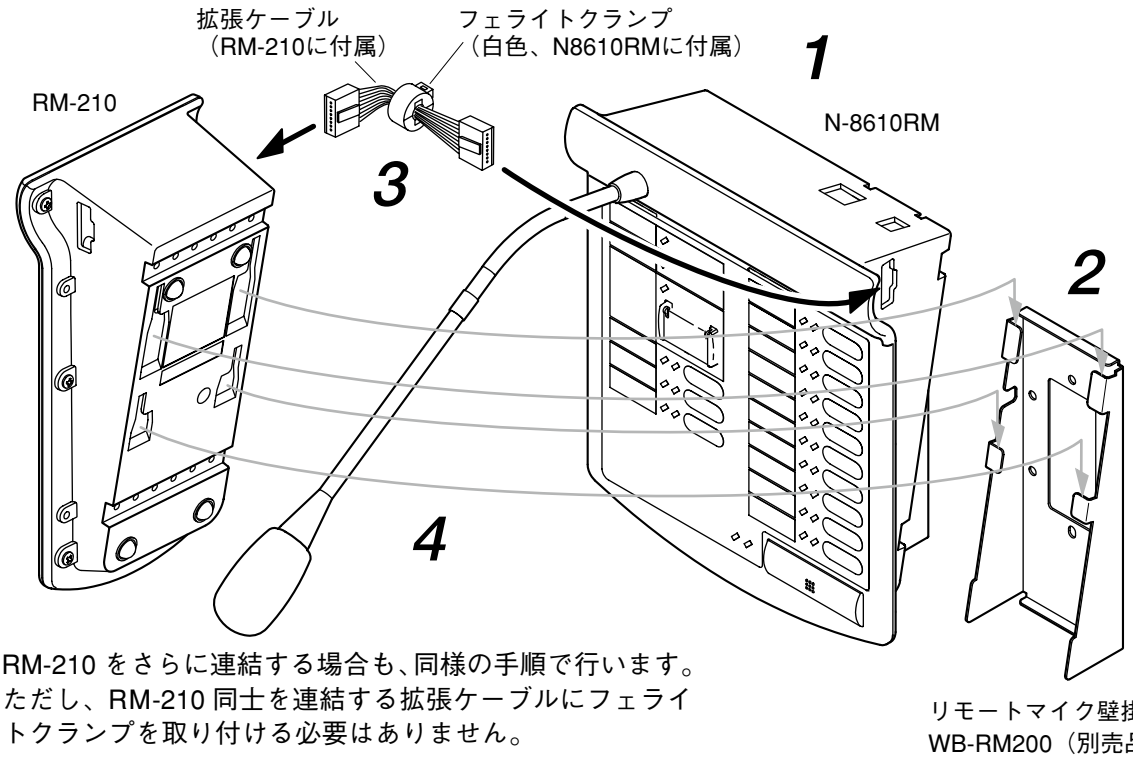
2 **RM-210 取り付け用の WB-RM200 を壁に取り付ける。**

3 **RM-210 に付属の拡張ケーブルで、N-8610RM 側面の RM-210 接続端子（EXTENSION）と RM-210 側面の RM 接続端子（EXTENSION）を接続する。**

このとき、N-8610RM に付属のフェライトクランプを拡張ケーブルに取り付けてください。

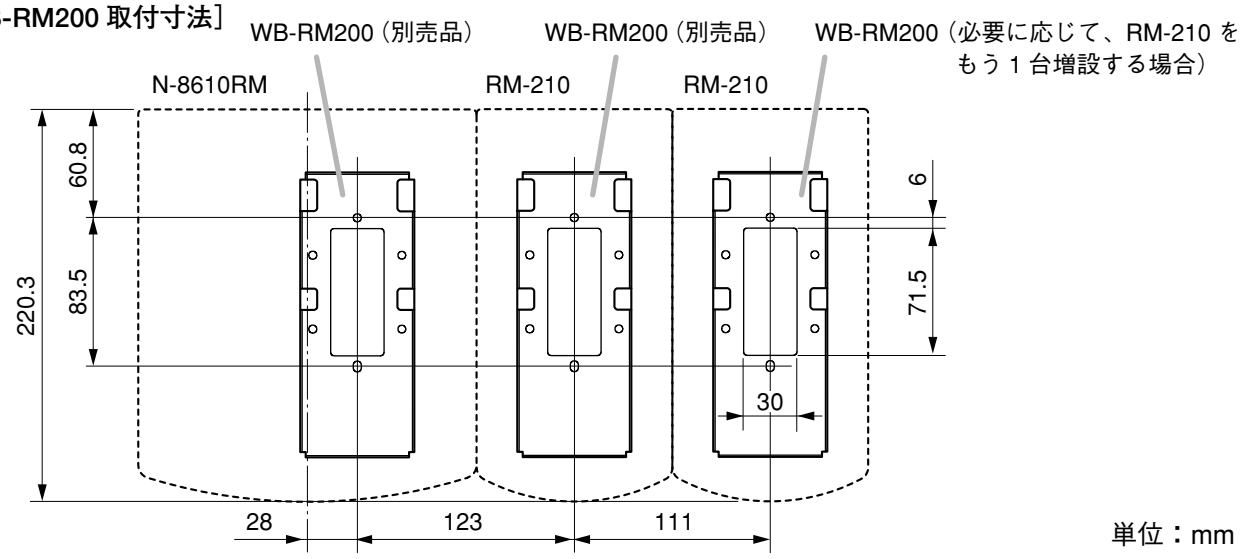


4 **RM-210 の底面を WB-RM200 に引っ掛ける。**



※ RM-210 をさらに連結する場合も、同様の手順で行います。ただし、RM-210 同士を連結する拡張ケーブルにフェライトクランプを取り付ける必要はありません。

［WB-RM200 取付寸法］



単位：mm

■ リモートマイクの表示ラベルの取り付け

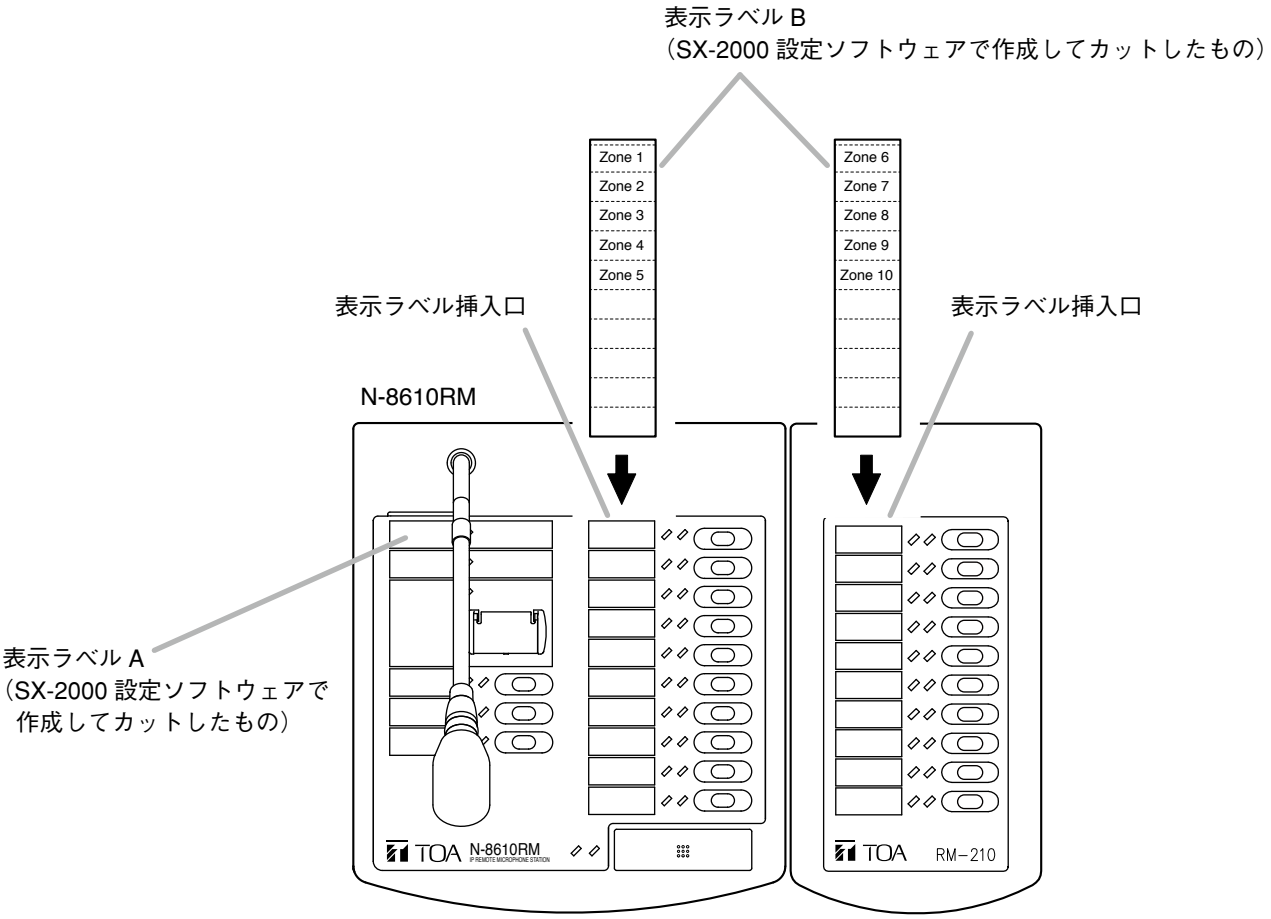
● SX-2000 設定ソフトウェアで表示ラベルを作成する

SX-2000 設定ソフトウェアを使って、N-8610RM と RM-210 の機能キーに割り当てた名称を印刷できます。印刷後、はさみで切り取り、表示ラベルとして使用します。表示ラベルは、厚さ 0.2 mm 以下の紙を使用してください。

※ SX-2000 設定ソフトウェアによる表示ラベルの作りかた、および印刷のしかたについては、SX-2000 シリーズに付属のソフトウェア取扱説明書「リモートマイクの表示ラベルを印刷する」をお読みください。

● 表示ラベルを挿入する

- 指定のサイズに切り取った表示ラベルを、挿入口からしっかりと差し込みます。
- ラベルを取り出すときは、刃物の先端などを使って挿入口から引き出します。



● 表示ラベルが正しく印刷されない場合

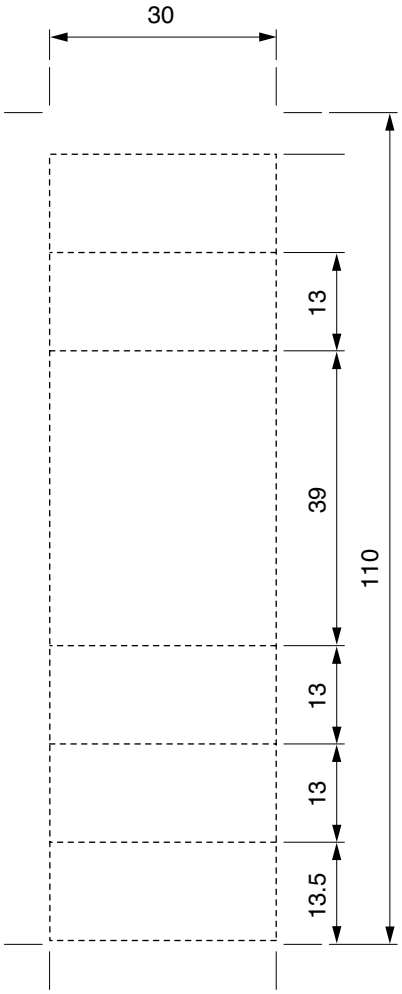
パソコンの設定環境によっては、SX-2000 設定ソフトウェアを使って作成した表示ラベルが正しいサイズで印刷されないことがあります。そのときは、以下の方法で表示ラベルを作成してください。

(1) 手書きで作成する場合
P. 3-35、P. 3-36 の「手書き用コピー台紙」を厚さ 0.2 mm 以下の紙にコピーし、表示内容を記入して、ガイドラインに合わせて切り取ってください。

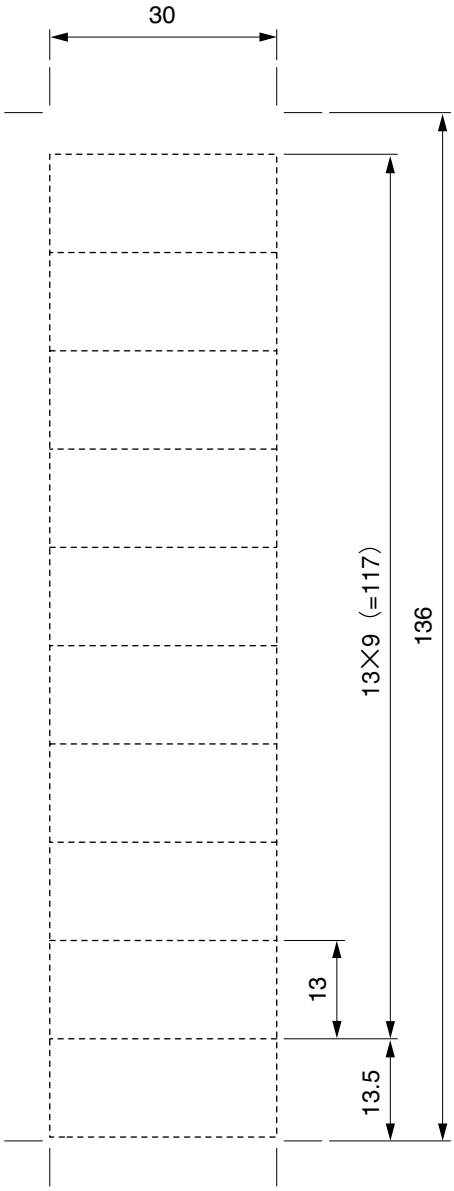
(2) パソコン、ワードプロセッサーなどで作成する場合
以下の「表示ラベル寸法図」に従って作成し、厚さ 0.2 mm 以下の紙に印刷して、指定寸法に切り取ってください。

[表示ラベル寸法図]

表示ラベル A
切り取り寸法：30×110 mm



表示ラベル B
切り取り寸法：30×136 mm



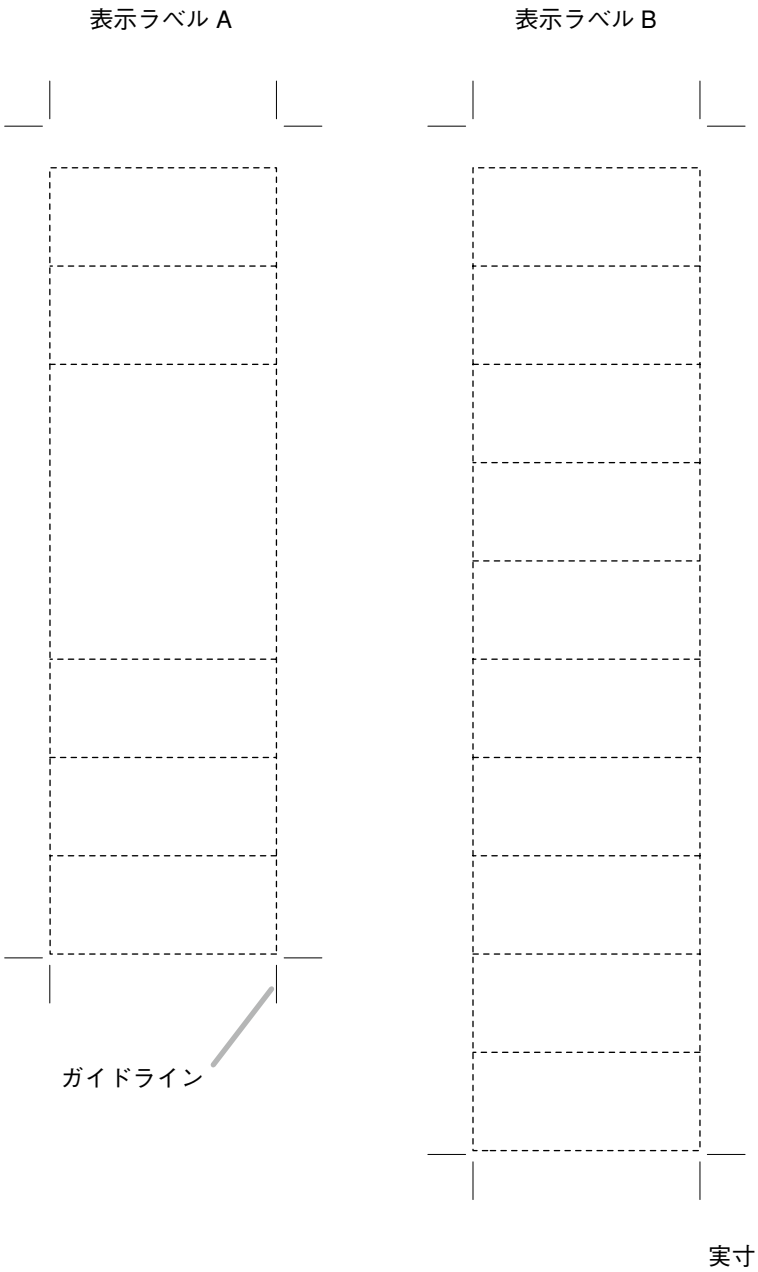
［手書き用台紙］

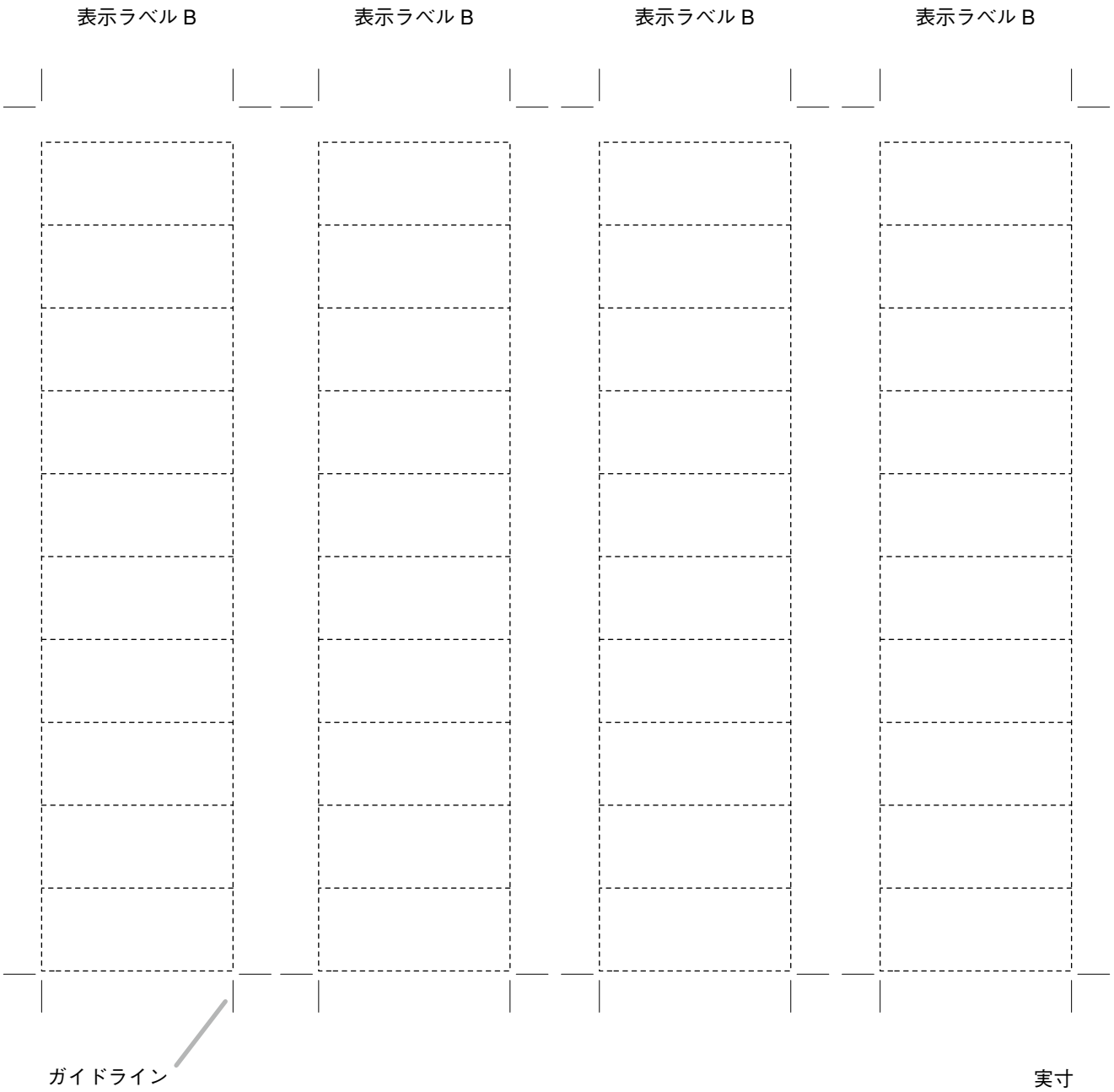
印刷にあたってのご注意

本書の PDF ファイルを印刷するときは、100% の大きさでプリントアウトしてください。
Adobe Acrobat または Adobe Reader をデフォルトの設定のまま印刷すると縮小され、規定のサイズに印刷されません。印刷の設定を以下のとおりにしてください。

【Adobe Acrobat 6 ～ 9 または Adobe Reader 6 ～ 9 の場合】
メニューから［ファイル→印刷］を選択します。
表示される［印刷］ダイアログボックス内の［ページ処理］エリアの項目を下記のとおりに設定してください。
　［ページの拡大／縮小］:「なし」
　他の項目　　：チェックを入れない

【Adobe Acrobat X、XI または Adobe Reader X、XI の場合】
メニューから［ファイル→印刷］を選択します。
表示される［印刷］ダイアログボックス内の［ページサイズ処理］エリアで［サイズ］ボタンを選択し、［実際のサイズ］に設定してください。




表示ラベル B
表示ラベル B
表示ラベル B
表示ラベル B
ガイドライン
実寸

ドア端末の設置のしかた

ドア端末 N-8050DS/8540DS/8640DS/8650DS の設置方法には、電工ボックスを使用した壁への埋め込み、露出ボックスを使用した壁への取り付けの２種類があります。

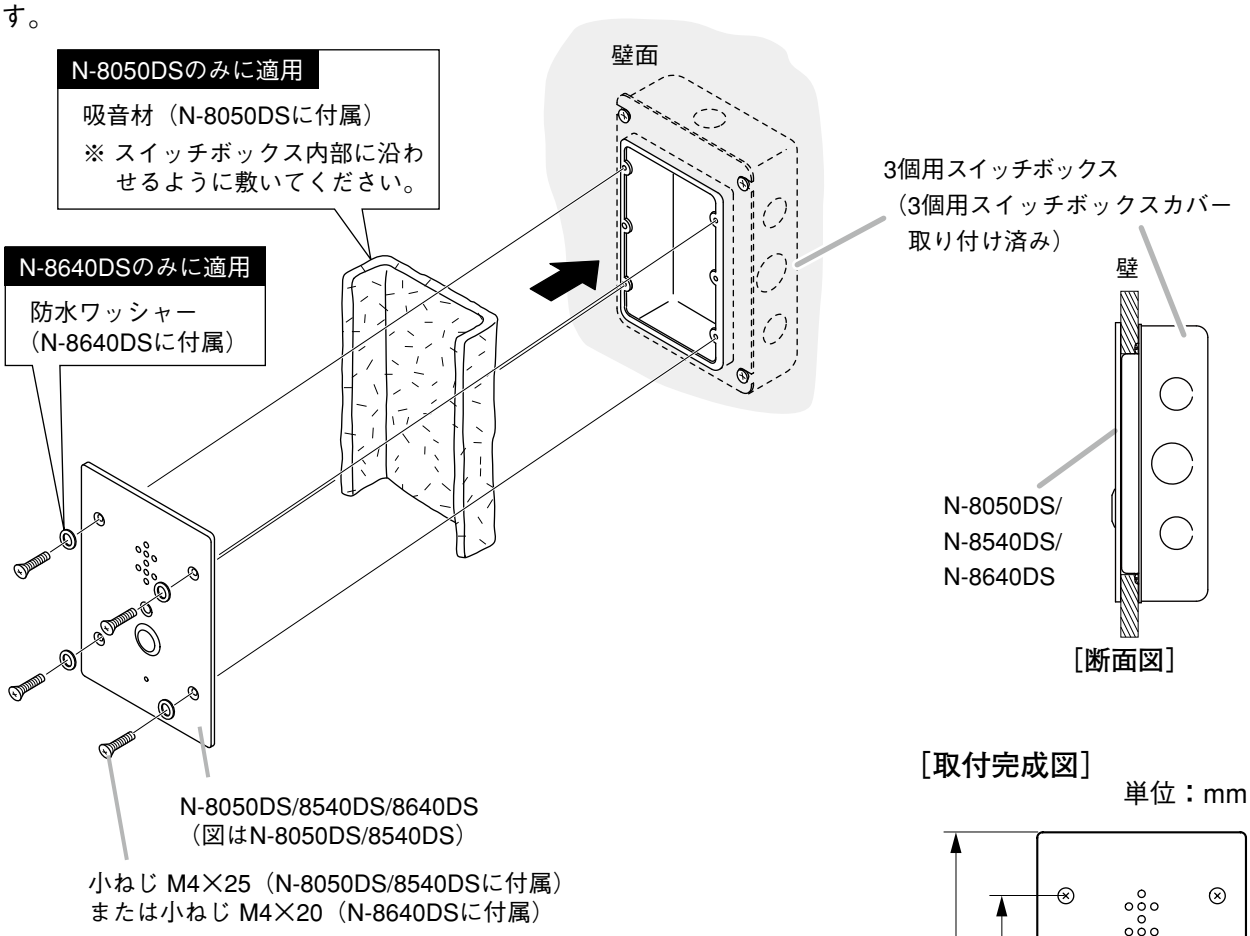
ご注意

ページング呼び出しのあるシステムの場合は、拡声スピーカーとのハウリングを防ぐため、端末を拡声スピーカーからできるだけ遠ざけて設置してください。

■ 電工ボックスを使用して壁に埋め込むとき

● N-8050DS/8540DS/8640DS の場合

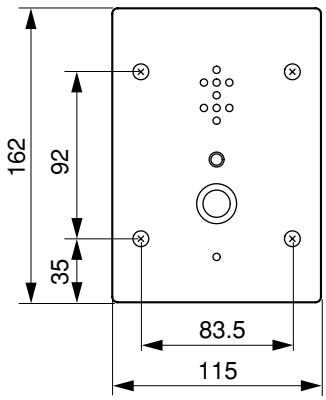
壁に取り付けた電工ボックス（JIS 規格の３個用スイッチボックス）に N-8050DS/8540DS/8640DS を取り付けます。



［断面図］

［取付完成図］

単位：mm



※ 図 は N-8050DS/8540DS です。寸法は N-8640DS も上記と同じです。

付属ねじについて

- N-8050DS/8540DSには、小ねじ M4×25とUNC No. 6-32×18の2種類のねじが付属されています。
  電工ボックス側がミリねじの場合は、小ねじ M4×25をご使用ください。
- N-8640DSには、小ねじ M4×20とUNC No. 6-32×20の2種類のねじが付属されています。
  電工ボックス側がミリねじの場合は、小ねじ M4×20をご使用ください。

ご注意

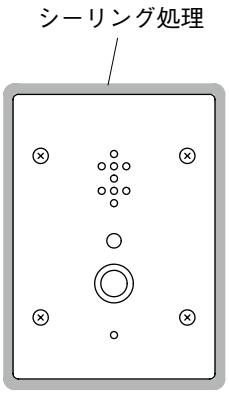
- N-8050DS/8540DS/8640DS で電子錠を制御する場合は、機器が容易に取り外しできないよう、設置時にトルクスねじなどをご使用ください。

- N-8050DS の場合は、スイッチボックスを必ず接地してください。
  N-8540DS の場合は、スイッチボックスまたは後面のフレームグランド端子（☞ P. 3-78）を必ず接地してください。
  N-8640DS の場合は、スイッチボックスおよび後面のフレームグランド端子（☞ P. 3-79）の両方を必ず接地してください。

- 屋外など水のかかる場所に設置するときは、パネル外周をシーリング処理してください。また、機器を取り付けるボックスには水抜き穴を設けてください。

- 海岸付近や高湿度の場所など、環境条件の悪い場所に設置するときは、機器内部をコーティング処理する必要があります。コーティング処理については、当社営業所にご相談ください。（N-8050DS/8540DS のみ）

- 使用しないケーブルは、ショートしないよう処理してください。
  （N-8640DS のみ）

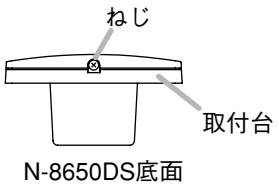


※ 図はN-8050DS/8540DSです。

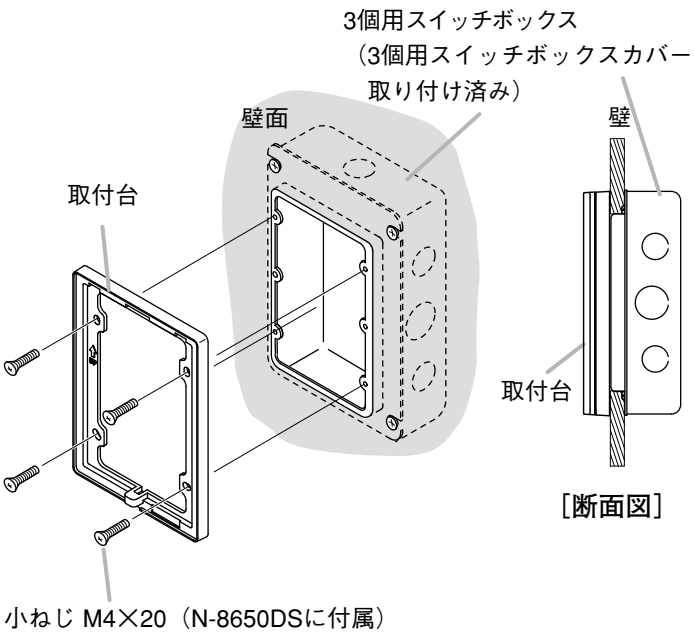
● N-8650DS の場合

壁に取り付けた電工ボックス（JIS 規格の 3 個用スイッチボックス）に取付台を取り付けた後、N-8650DS を取り付けます。

1 N-8650DS 底面のねじをゆるめて、取付台を本体から取り外す。

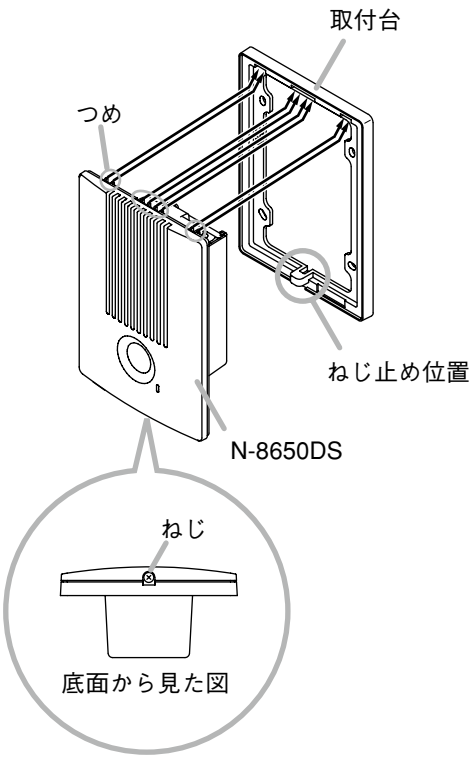


2 取付台を電工ボックスに取り付ける。



3 N-8650DS を取付台に取り付ける。

N-8650DS 上部のつめを取付台の溝にひっかけてはめ込み、底面のねじで止めます。



付属ねじについて

N-8650DSには、小ねじ M4×20とUNC No. 6-32×20の2種類のねじが付属されています。
電工ボックス側がミリねじの場合は、小ねじ M4×20をご使用ください。

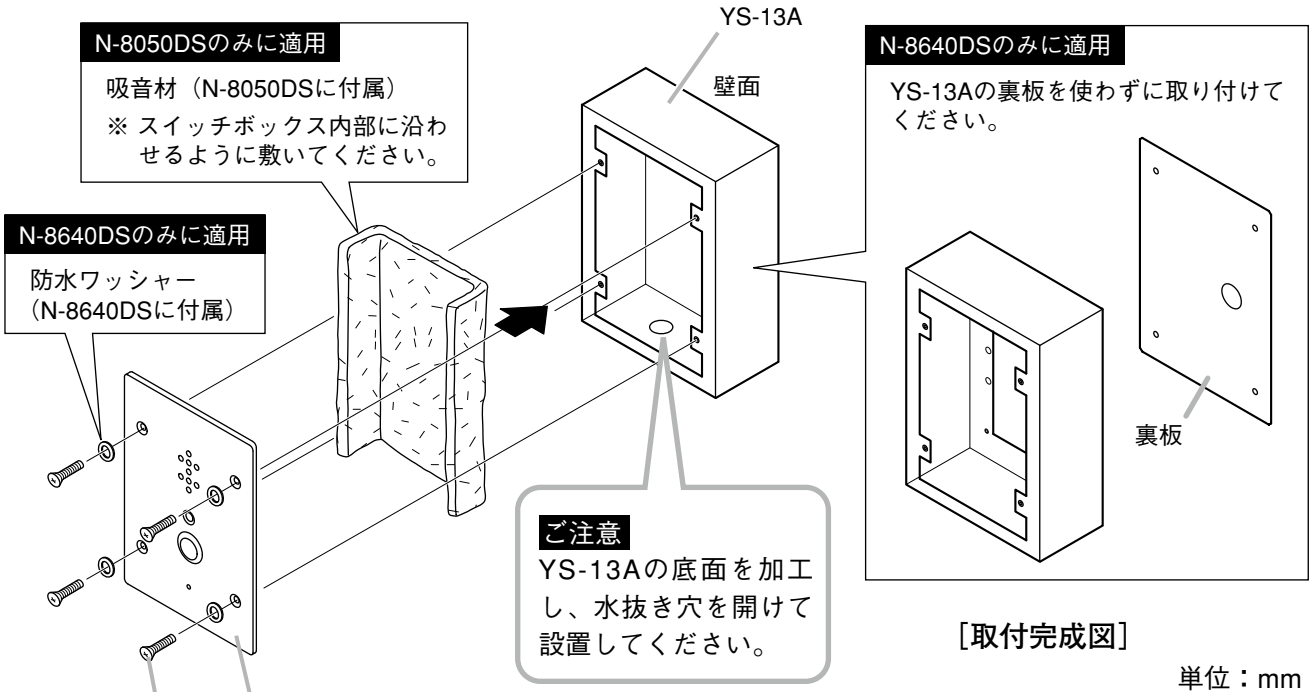
ご注意

使用しないケーブルは、ショートしないよう処理してください。

■ 露出ボックスを使用して壁に取り付けるとき

● N-8050DS/8540DS/8640DS の場合

壁に取り付けた露出ボックス YS-13A に N-8050DS/8540DS/8640DS を取り付けます。

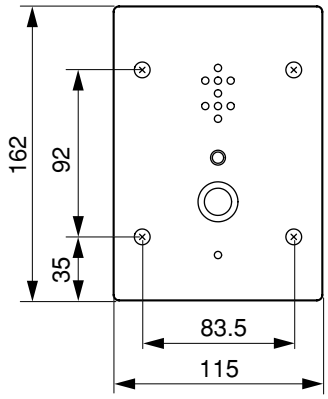


付属ねじについて

- N-8050DS/8540DSには、小ねじ M4×25とUNC No. 6-32×18の2種類のねじが付属されています。
  ここでは、小ねじ M4×25をご使用ください。
- N-8640DSには、小ねじ M4×20とUNC No. 6-32×20の2種類のねじが付属されています。
  ここでは、小ねじ M4×20をご使用ください。

［取付完成図］

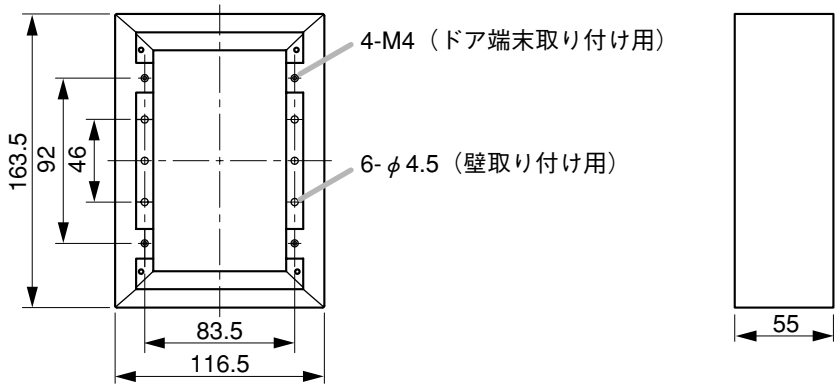
単位：mm



※ 図 は N-8050DS/8540DS です。寸法は N-8640DS も上記と同じです。

［YS-13A 外観寸法図］

単位：mm



ご注意

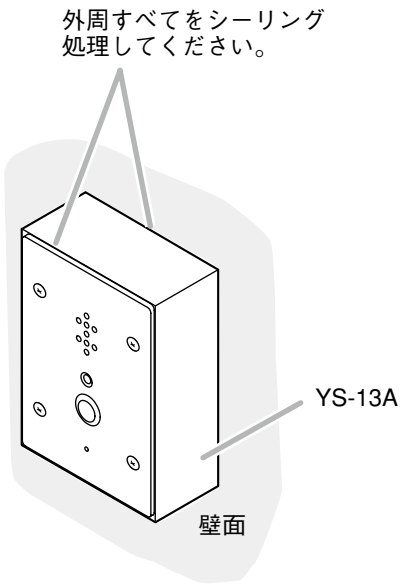
- N-8050DS/8540DS/8640DS で電子錠を制御する場合は、機器が容易に取り外しできないよう、設置時にトルクスねじなどをご使用ください。

- N-8640DS は後面のフレームグランド端子（☞ P. 3-79）を必ず接地してください。

- 屋外など水のかかる場所に設置するときは、パネル外周およびボックスと壁面の間の外周をシーリング処理してください。また、機器を取り付けるボックスには水抜き穴を設けてください。

- 海岸付近や高湿度の場所など、環境条件の悪い場所に設置するときは、機器内部をコーティング処理する必要があります。コーティング処理については、当社営業所にご相談ください。（N-8050DS/8540DS のみ）

- 使用しないケーブルは、ショートしないよう処理してください。（N-8640DS のみ）

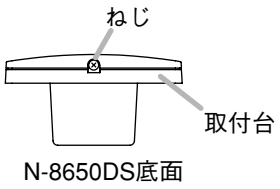


※ 図はN-8050DS/8540DSです。

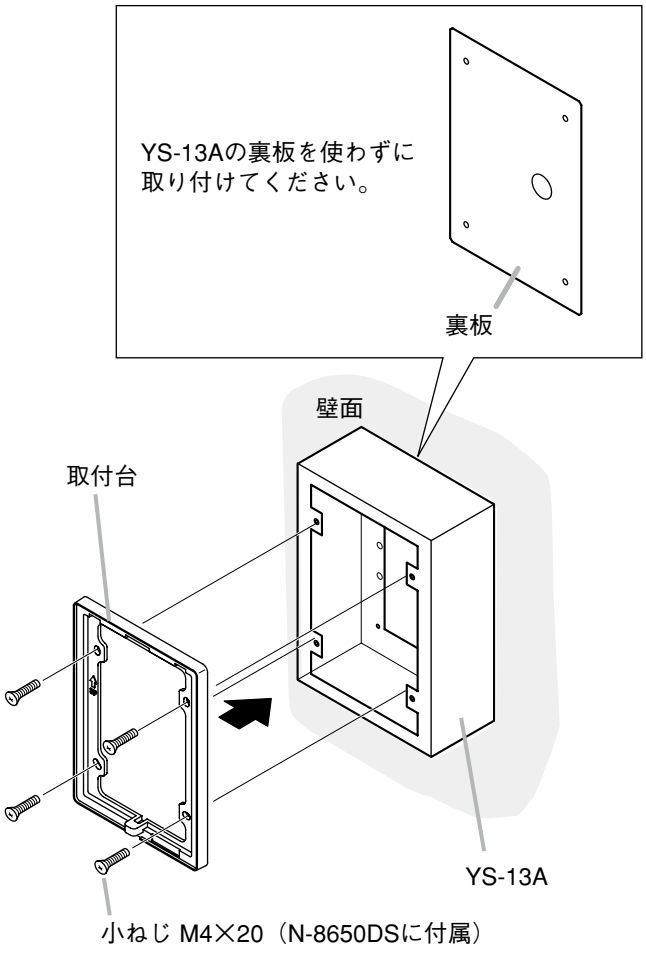
● N-8650DS の場合

壁に取り付けた露出ボックス YS-13A に取付台を取り付けた後、N-8650DS を取り付けます。

1 N-8650DS 底面のねじをゆるめて、取付台を本体から取り外す。



2 取付台を露出ボックスに取り付ける。



付属ねじについて

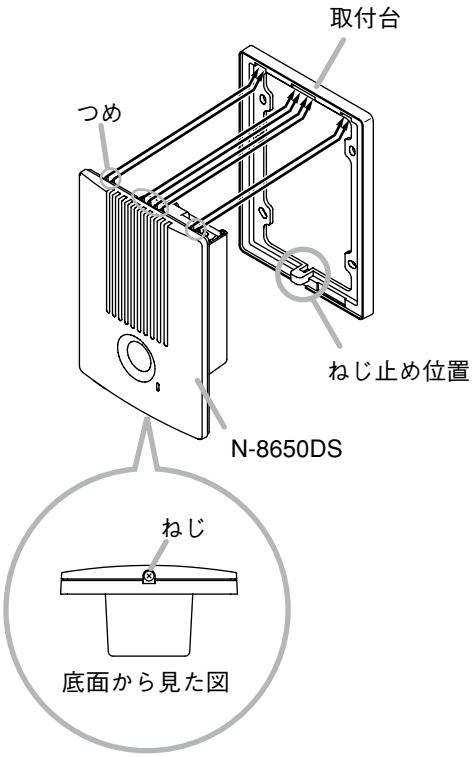
N-8650DSには、小ねじ M4×20とUNC No. 6-32×20の2種類のねじが付属されています。
ここでは、小ねじ M4×20をご使用ください。

ご注意

使用しないケーブルは、ショートしないよう処理してください。

3 N-8650DS を取付台に取り付ける。

N-8650DS 上部のつめを取付台の溝にひっかけてはめ込み、底面のねじで止めます。



※ YS-13A の外観寸法図は P. 3-40 を参照してください。

サブ端末の設置のしかた

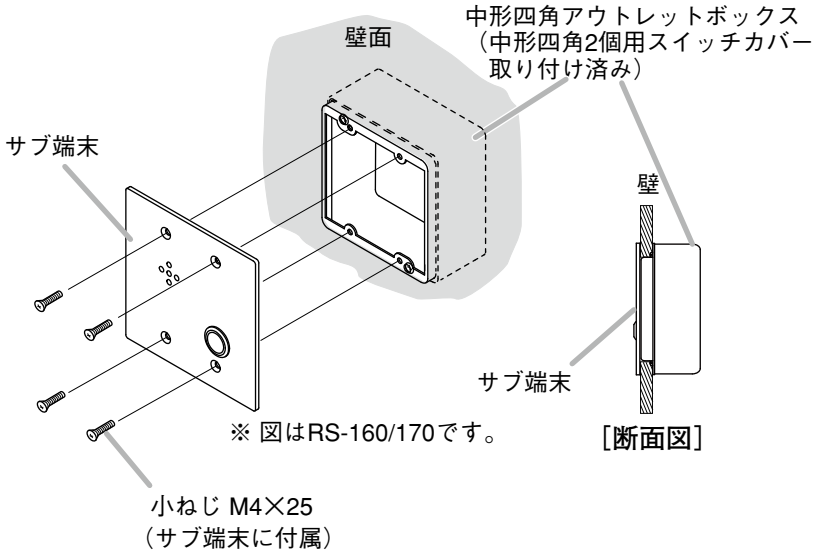
サブ端末の設置方法には、電工ボックスを使用した壁への埋め込み、露出ボックスを使用した壁への取り付けの２種類があります。

ご注意

ページング呼び出しのあるシステムの場合は、拡声スピーカーとのハウリングを防ぐため、端末を拡声スピーカーからできるだけ遠ざけて設置してください。

■ 電工ボックスを使用して壁に埋め込むとき

壁に取り付けた電工ボックスにサブ端末を取り付けます。

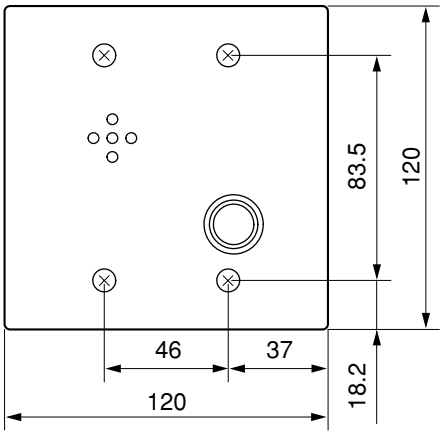


※ 図はRS-160/170です。

［断面図］

［取付完成図］

単位：mm



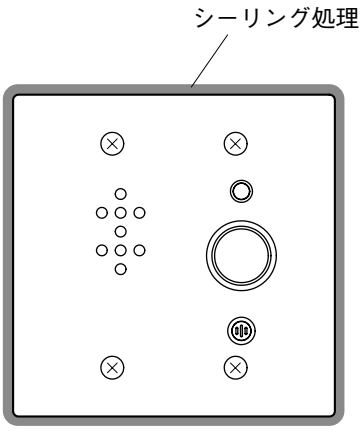
※ 図はRS-160/170です。

付属ねじについて

サブ端末には、小ねじ M4×25とUNC No. 6-32×18の2種類のねじが付属されています。
電工ボックス側がミリねじの場合は、小ねじM4×25をご使用ください。

ご注意

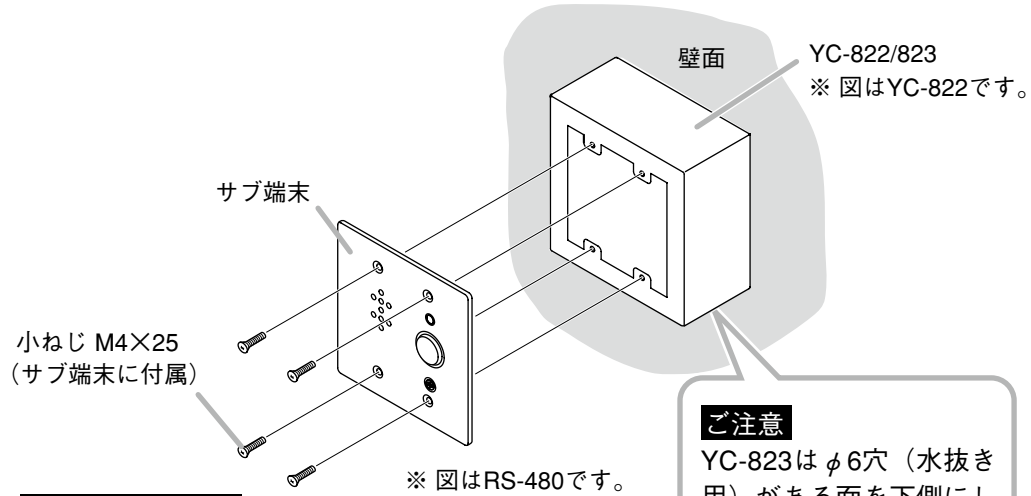
RS-470/480 を屋外など水のかかる場所に設置するときは、パネル外周をシーリング処理してください。また、機器を取り付けるボックスには水抜き穴を設けてください。



※ 図はRS-480です。

■ 露出ボックスを使用して壁に取り付けるとき

壁に取り付けたサブ端末屋内露出ボックス YC-822 またはサブ端末屋外露出ボックス YC-823 にサブ端末を取り付けます。
RS-450/460/470/480 の場合は、市販の露出ボックス（2 個用スイッチボックス：パナソニック製 DZB272W を推奨）を使用して取り付けることもできます。



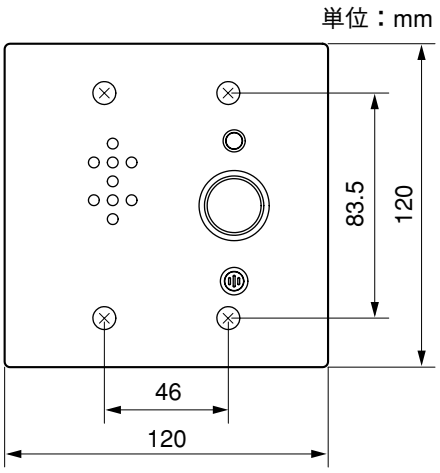
付属ねじについて

サブ端末には、小ねじ M4×25とUNC No. 6-32×18の2種類のねじが付属されています。
露出ボックス側がミリねじの場合は、小ねじM4×25をご使用ください。

ご注意

YC-823は φ6穴（水抜き用）がある面を下側にして設置してください。

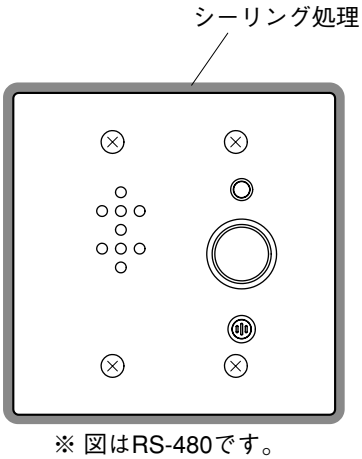
［取付完成図］



※ 図はRS-480です。

ご注意

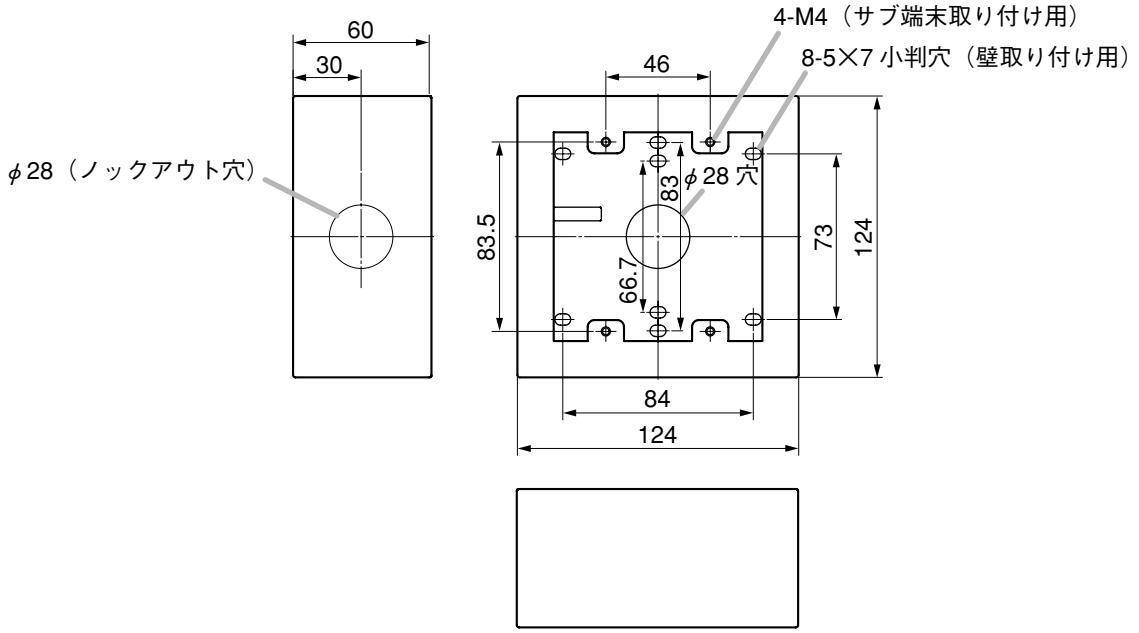
RS-470/480 を屋外など水のかかる場所に設置するときは、パネル外周をシーリング処理してください。また、機器を取り付けるボックスには水抜き穴を設けてください。



※ 図はRS-480です。

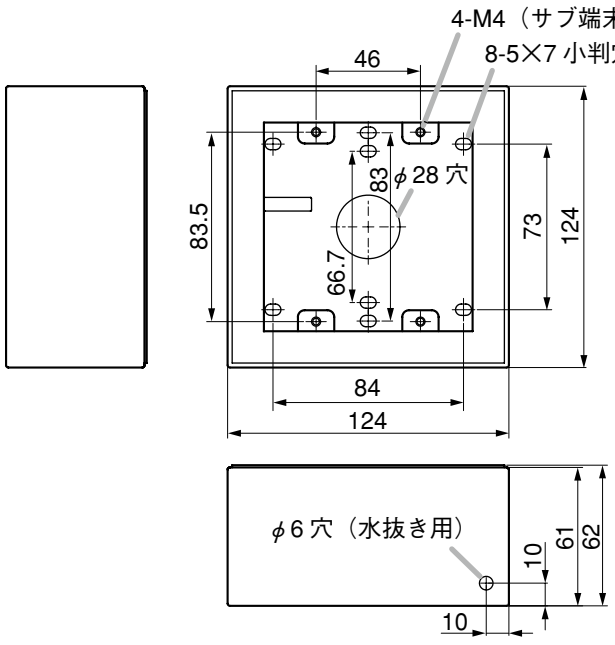
［YC-822 外観寸法図］

単位：mm



［YC-823 外観寸法図］

単位：mm

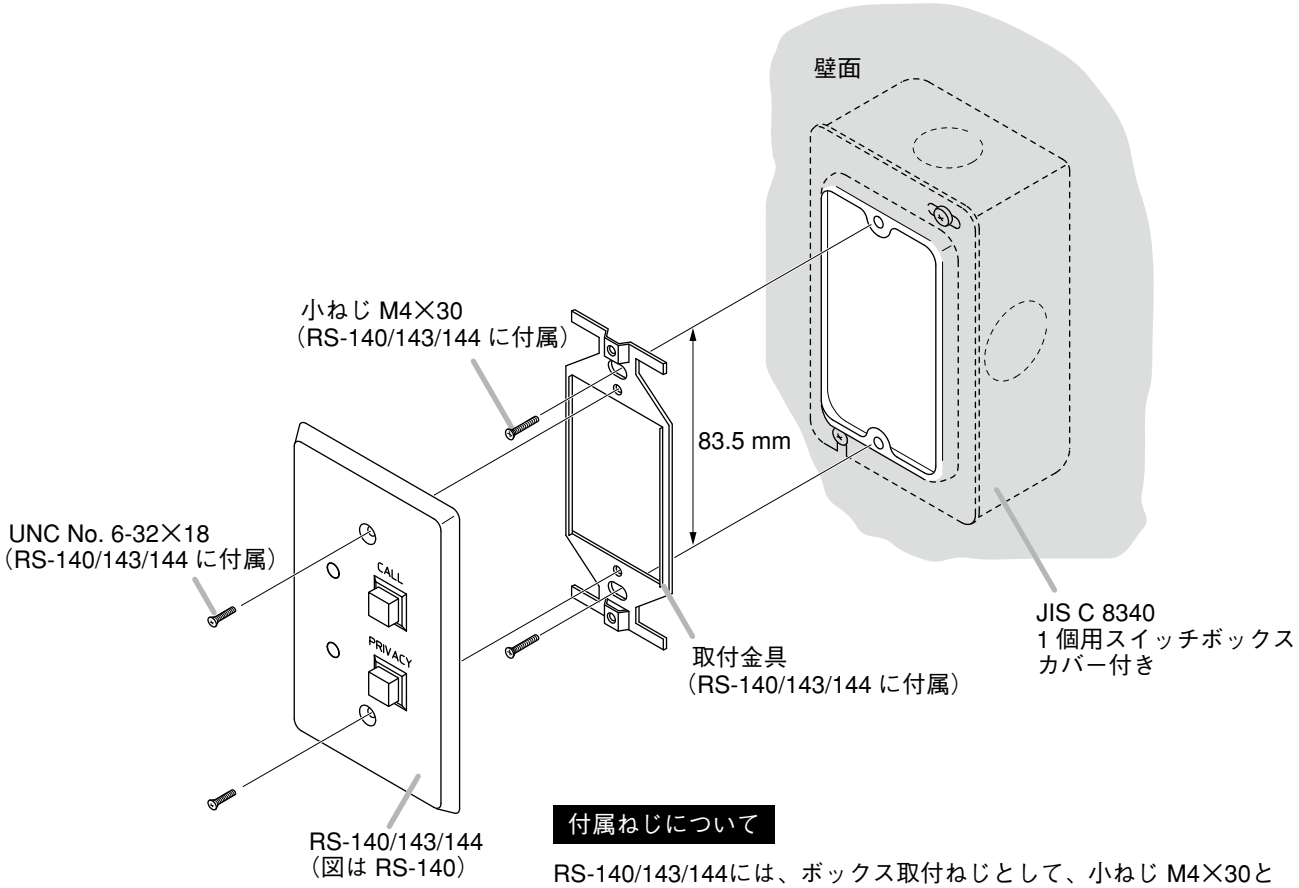


スイッチパネルの設置のしかた

スイッチパネル RS-140/143/144 の設置方法には、電工ボックスを使用した壁への埋め込み、露出ボックスを使用した壁への取り付けの２種類があります。

■ 電工ボックスを使用して壁に埋め込むとき

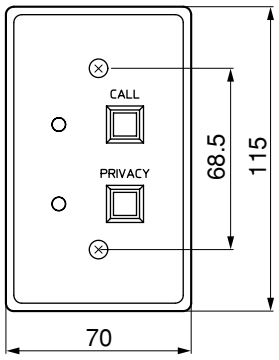
壁に取り付けた電工ボックス（JIS 規格の１個用スイッチボックス）にスイッチパネルを取り付けます。



付属ねじについて

RS-140/143/144には、ボックス取付ねじとして、小ねじ M4×30と UNC No. 6-32×30の2種類のねじが付属されています。
電工ボックス側がミリねじの場合は、小ねじ M4×30をご使用ください。

［取付完成図］

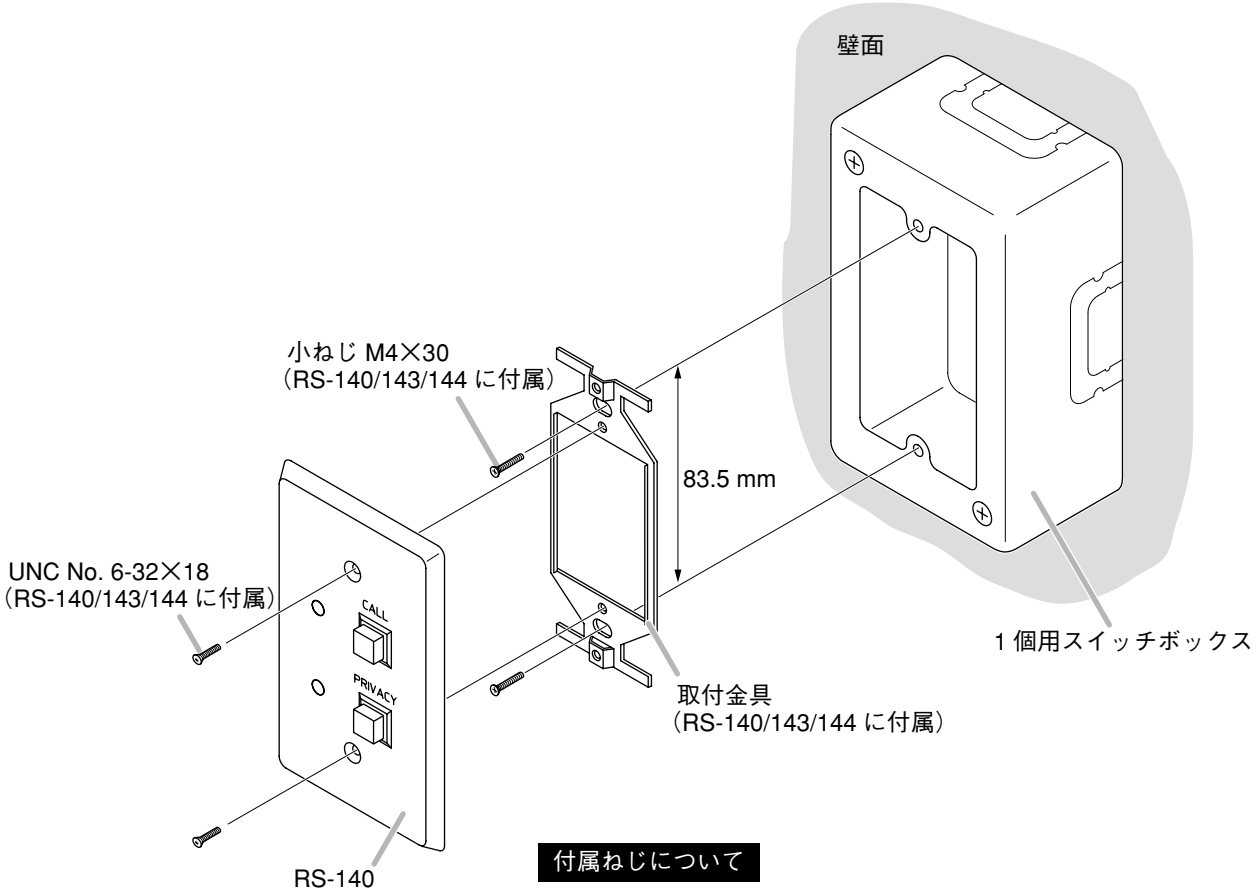


単位：mm

※ 図は RS-140 です。

■ 露出ボックスを使用して壁に取り付けるとき

壁に取り付けた露出ボックス（1 個用スイッチボックス）にスイッチパネルを取り付けます。
露出ボックスにはパナソニック製 DZB271KW を推奨します。

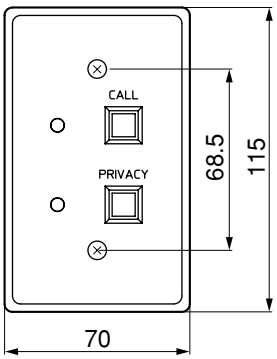


付属ねじについて

RS-140/143/144には、ボックス取付ねじとして、小ねじ M4×30と UNC No. 6-32×30の2種類のねじが付属されています。
露出ボックス側がミリねじの場合は、小ねじ M4×30をご使用ください。

［取付完成図］

単位：mm

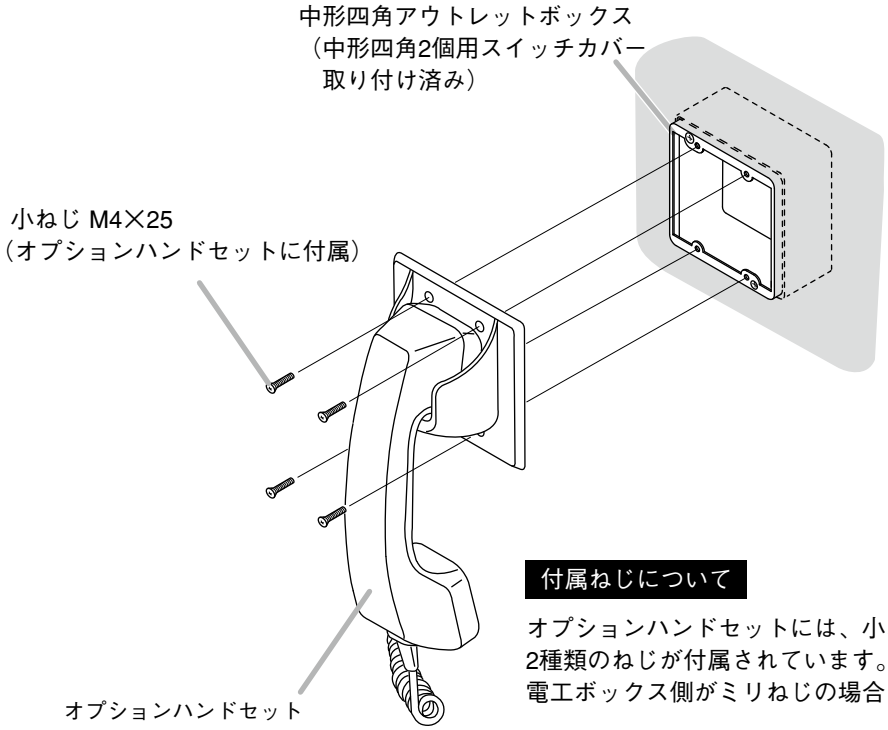


※ 図は RS-140 です。

オプションハンドセットの設置のしかた

オプションハンドセット RS-141/191/481 は、電工ボックスを使用して壁に埋め込みます。

壁に取り付けた電工ボックスにオプションハンドセットを取り付けます。



※ 図はRS-191です。

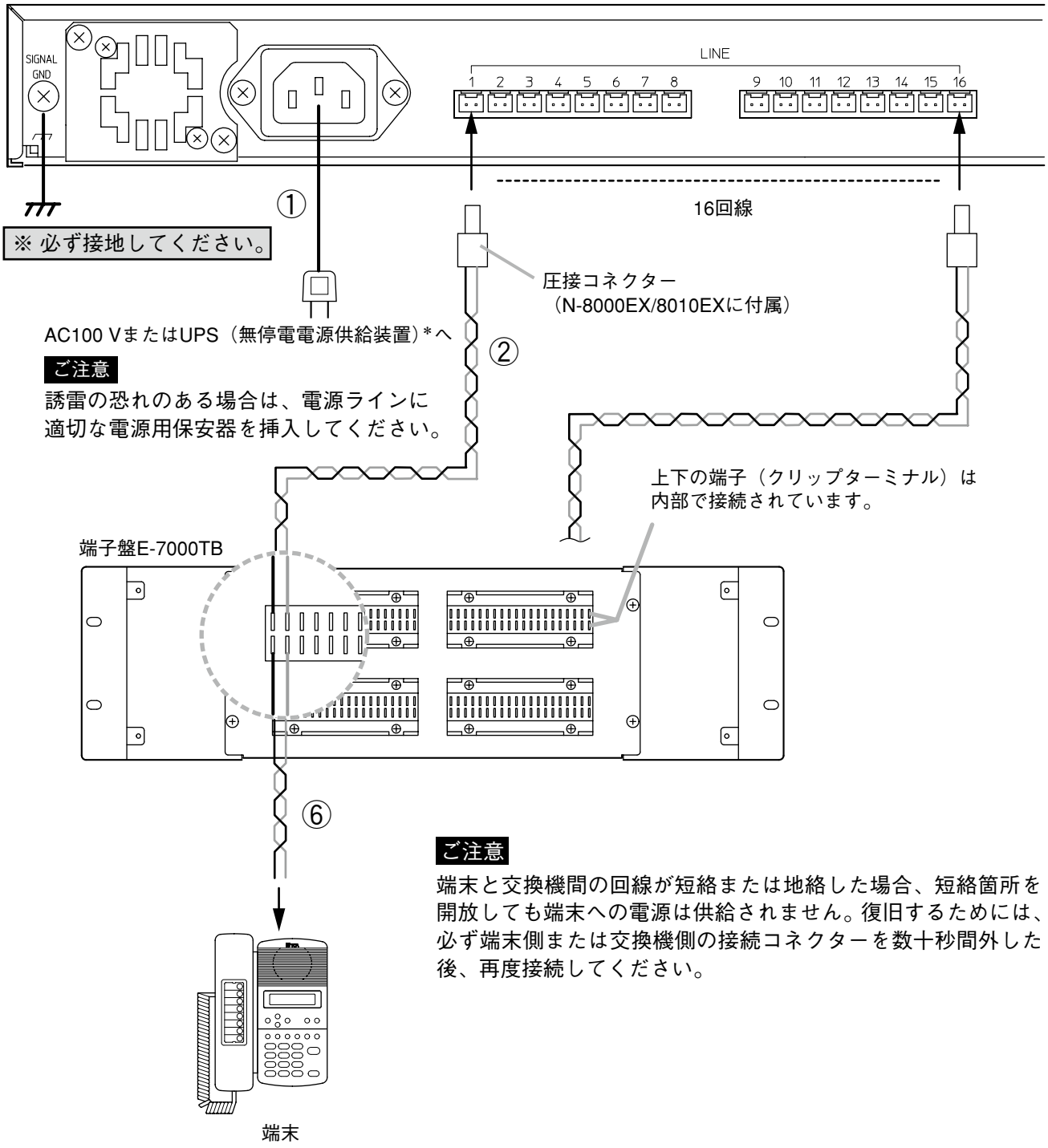
付属ねじについて

オプションハンドセットには、小ねじ M4×25とUNC No. 6-32×18の2種類のねじが付属されています。
電工ボックス側がミリねじの場合は、小ねじM4×25をご使用ください。

配線のしかた

■ 交換機の接続

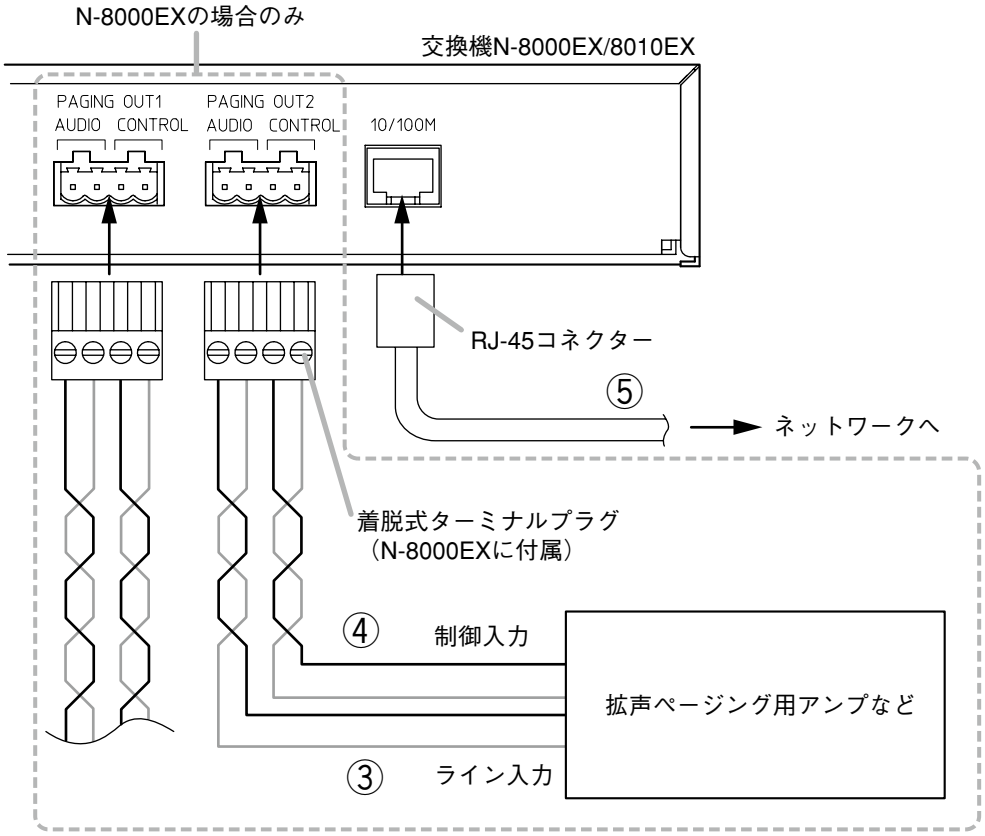
交換機N-8000EX/8010EX



ご注意

端末と交換機間の回線が短絡または地絡した場合、短絡箇所を開放しても端末への電源は供給されません。復旧するためには、必ず端末側または交換機側の接続コネクターを数十秒間外した後、再度接続してください。

* システムを構成する機器の消費電力の合計とバックアップしたい時間から、適切な UPS を選定します。
常時インバーター給電方式の UPS を使用してください。
（参考）
交換機：50 W（定格）
8 ポート 10M/100M スイッチングハブ：約 10 W（メーカーにより異なります。）



● 接続の概要

※ 使用する線材については、P. 3-80 をお読みください。

① 電源の接続

付属の電源コードで、AC100 V または UPS（無停電電源供給装置）に接続します。

電源コードの取り扱いについて

付属の電源コードは、N-8000EX/8010EX の専用品です。
これ以外の機器に使用しないでください。

② 回線端子の接続

回線端子に極性はありません。
（圧接コネクターの結線のしかた ☞ P. 3-82）

③ ページング音声出力端子の接続

（N-8000EX のみ）
ページング音声出力端子に極性はありません。
（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）
[ページング音声出力の仕様]
0 dB *、600 Ω、平衡

④ ページング接点出力端子の接続

（N-8000EX のみ）
ページング接点出力端子に極性はありません。
（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）
[ページング接点出力の仕様]
無電圧メイク接点出力
耐電圧　：最大 DC24 V
制御電流：最大 0.5 A

⑤ ネットワークの接続

10BASE-T/100BASE-TX のネットワークに自動判別で接続できます。
この接続には、UTP カテゴリー５規格以上のストレートケーブルを使用してください。

⑥ 端末の接続

接続のしかたは、端末の種類により異なります。
（端末の接続 ☞ 次ページ）

* 0 dB = 1 V

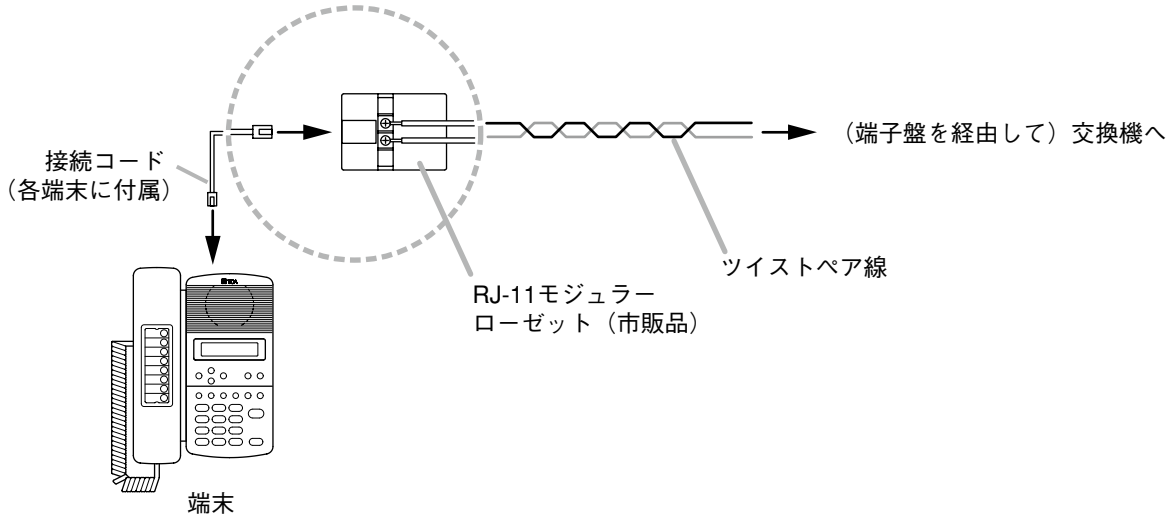
■ 交換機と組み合わせる端末の接続

● 端末と交換機の接続

端末と交換機の接続には、極性はありません。

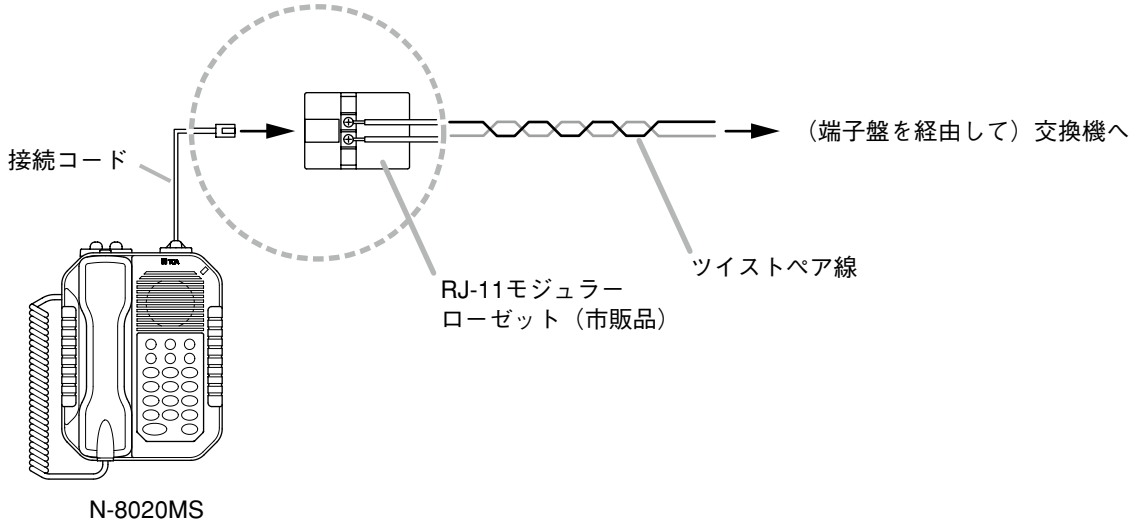
[N-8000MS/8010MS/8011MS の場合]

交換機からのケーブルとの接続は、各端末に付属の接続コードと市販の RJ-11 モジュラーローゼットを使用します。



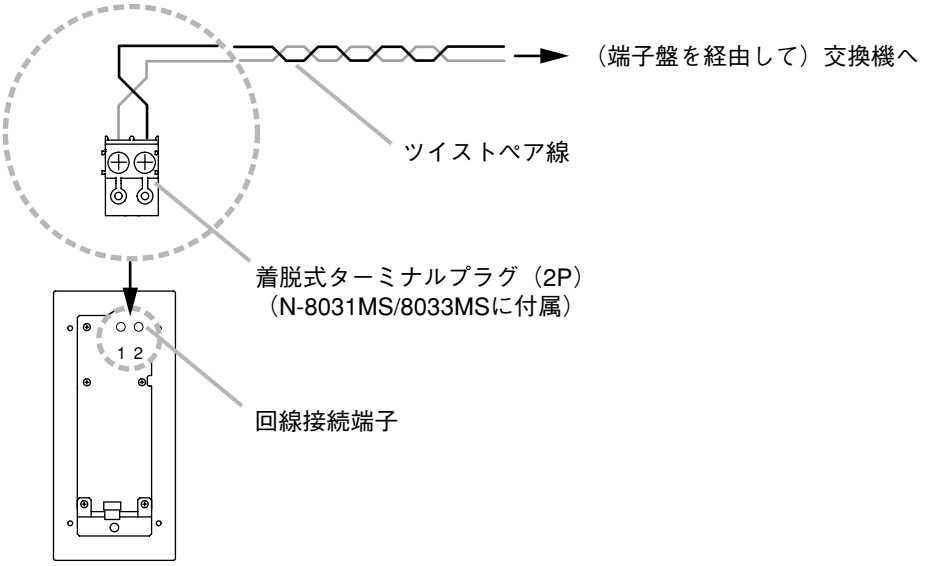
[N-8020MS の場合]

交換機からのケーブルとの接続は、端末から直出しされている接続コードと市販の RJ-11 モジュラーローゼットを使用します。



[N-8031MS/8033MS の場合]

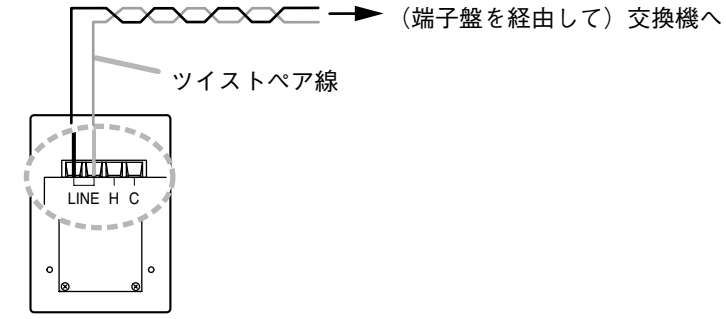
交換機からのケーブルとの接続は、N-8031MS/8033MS に付属の着脱式ターミナルプラグ（2P）を使用します。
（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）



N-8031MS/8033MS（後面）

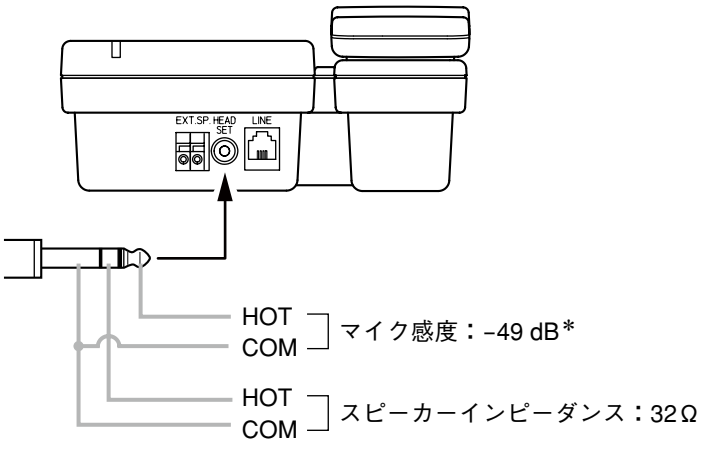
[N-8050DS の場合]

交換機からのケーブルは、直接、N-8050DS の回線接続端子に接続します。
（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）



N-8050DS（後面）

● ヘッドセット端子の接続（N-8000MS のみ）



* 0 dB = 1 V/pa（1 kHz）

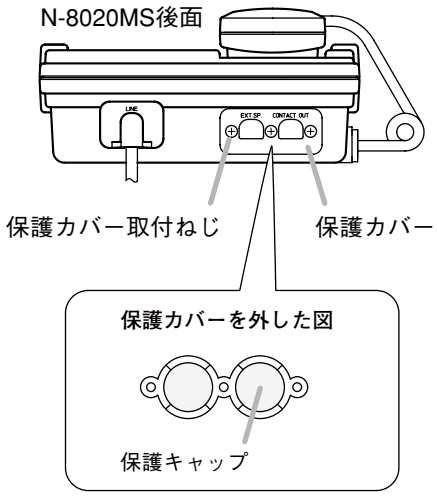
● 外部スピーカー端子および制御出力端子の接続（N-8000MS/8020MS のみ）

［N-8000MS の場合］
外部スピーカーのみ接続できます。
後面のプッシュ式ターミナルを⊖ドライバーの先などで押し、電線を差し込んでください。

［N-8020MS の場合］
外部スピーカー端子、制御出力端子ともに以下の手順で接続してください。

1 保護カバーを取り外す。

3 本の保護カバー取付ねじを外します。

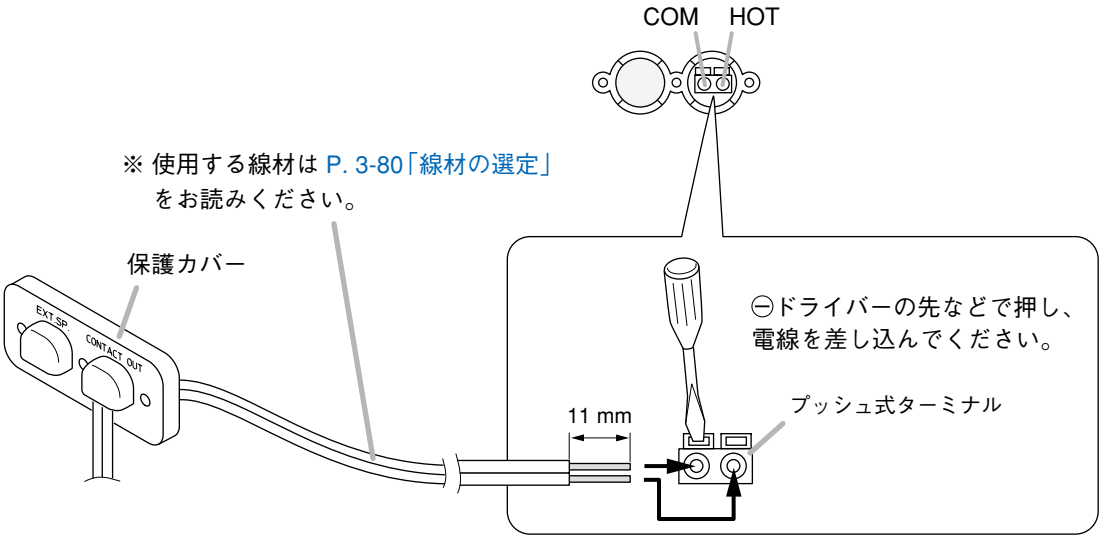


2 使用する端子の保護キャップを引き抜く。

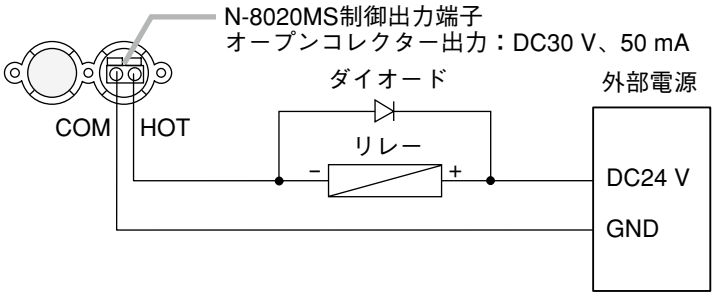
ご注意

使用しない端子の保護キャップは、取り外さないでください。

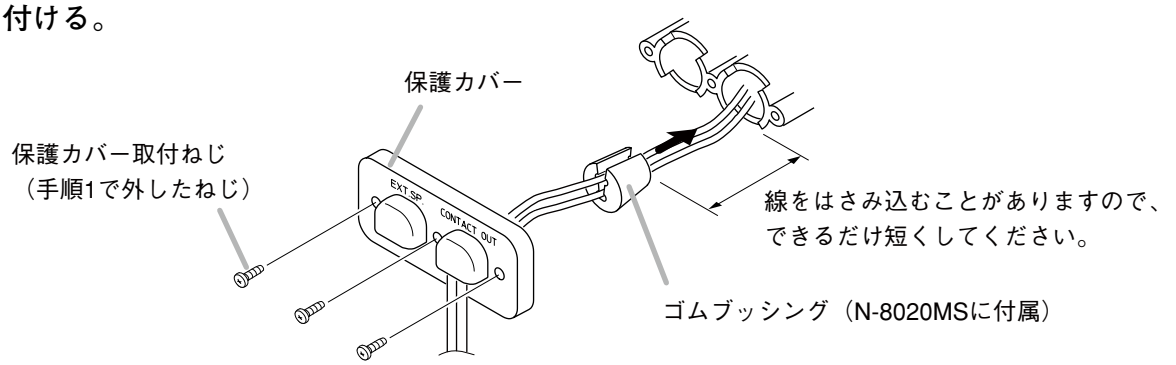
3 外した保護カバーに電線を通してから、プッシュ式ターミナルに接続する。



［制御出力端子の接続例］
表示器などを接続できます。



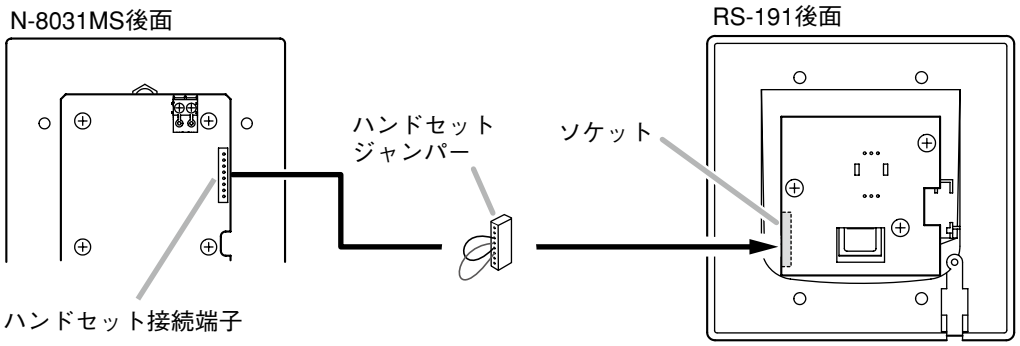
4 付属のゴムブッシングを電線にはさみ込み端末本体に挿入してから、保護カバーを元どおりに取り付ける。



● N-8031MS と RS-191 の接続

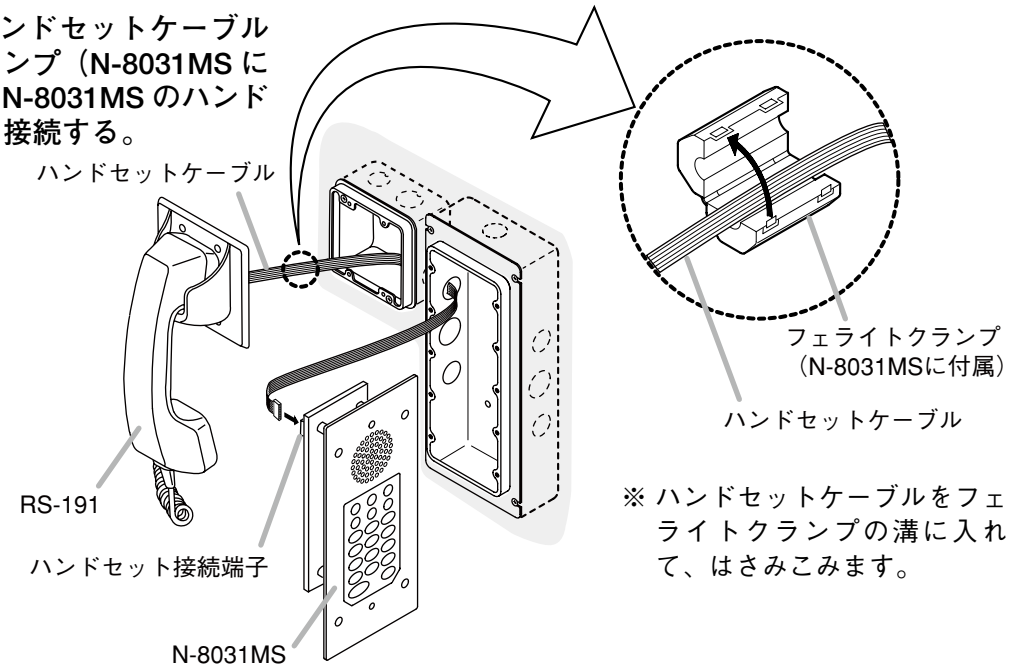
オプションハンドセット RS-191 に接続してハンドセット通話をすることができます。

1 N-8031MS のハンドセット接続端子に装着されているハンドセットジャンパーを外し、RS-191 後面基板のソケットに差し込む。



※ ソケットは基板の内側に付いており、横から
ハンドセットジャンパーを差し込みます。

2 RS-191 からのハンドセットケーブルにフェライトクランプ（N-8031MS に付属）を装着し、N-8031MS のハンドセット接続端子に接続する。

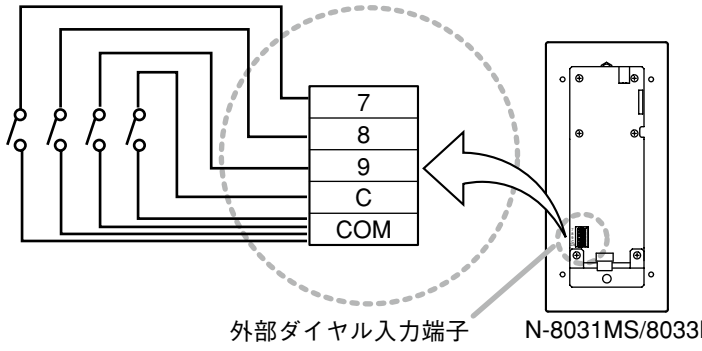


※ ハンドセットケーブルをフェライトクランプの溝に入れて、はさみこみます。

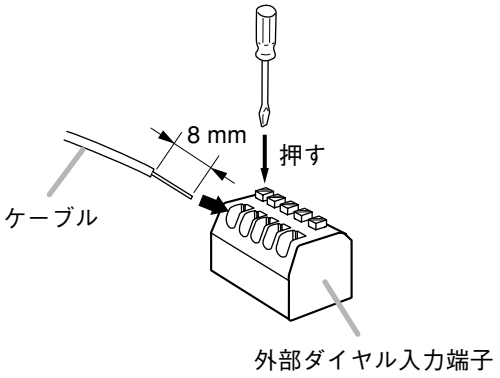
● N-8031MS/8033MS と外部スイッチの接続

N-8031MS/8033MS の外部ダイヤル入力端子に、フットスイッチなどの外部スイッチを接続できます。

ご注意　外部スイッチからの配線は 3 m 以内にしてください。



［結線のしかた］

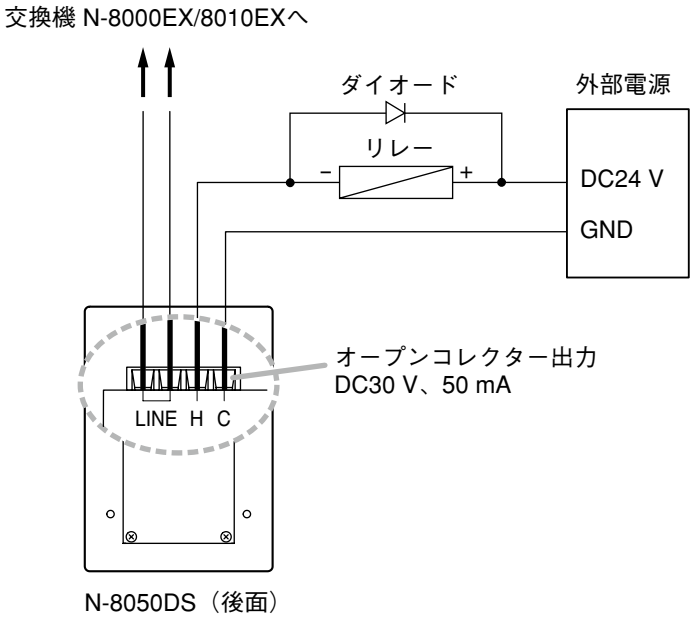


※ 使用する線材については、P. 3-80 をお読みください。

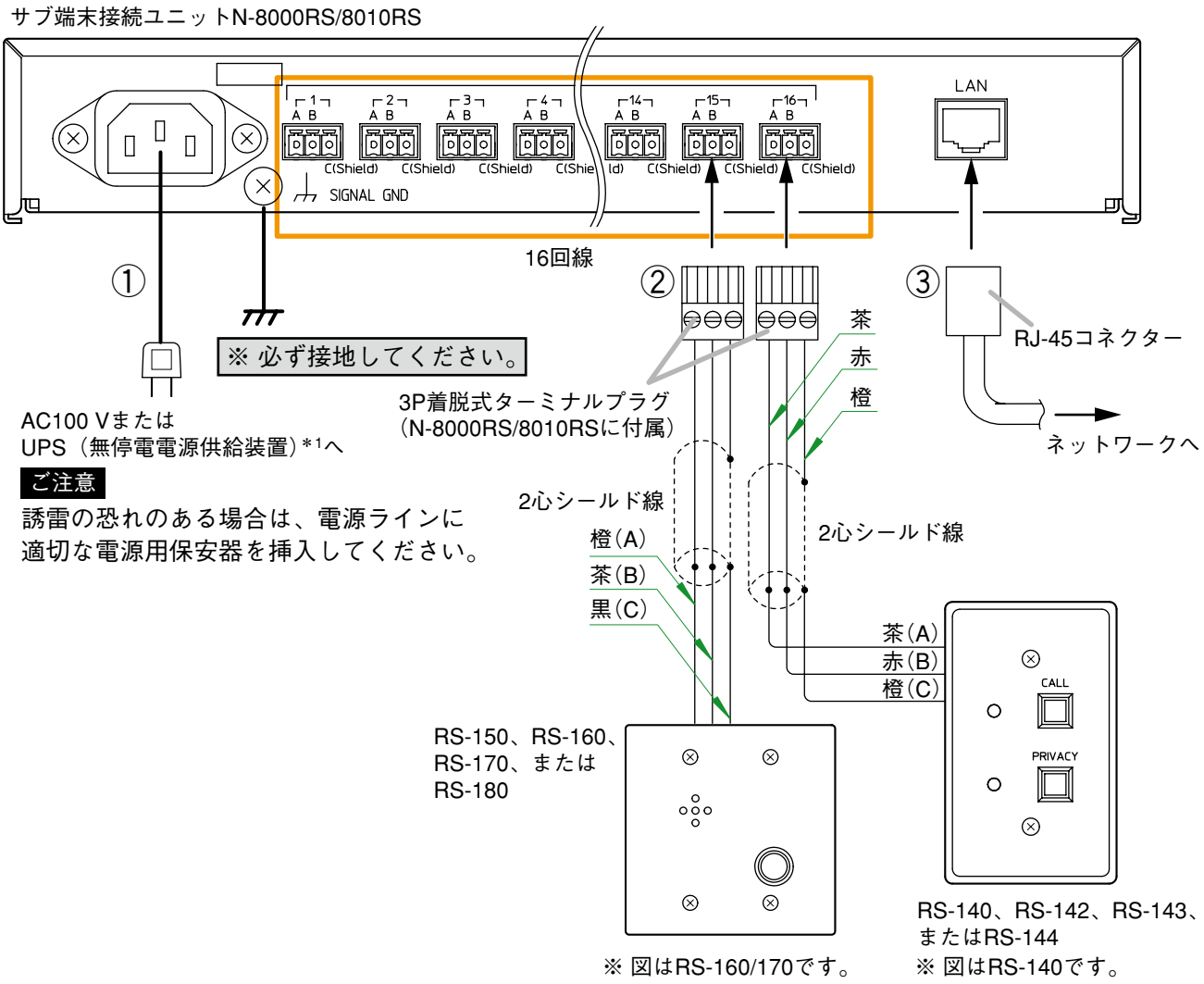
外部ダイヤル入力端子「7」「8」「9」「C」に接続された各スイッチで、ダイヤル「7」「8」「9」「C」を押したときと同じ操作をすることができます。
これらのダイヤルにワイタッチダイヤルの登録をしておくと、例えば、フットスイッチを押して、登録された端末を呼び出すことができます。（登録のしかた ☞ P. 2-13、P. 5-86）

● N-8050DS と外部リレーの接続

N-8050DS の接点出力端子に、外部リレーを接続できます。（ターミナルプラグの結線のしかた☞ P. 3-82）



■ サブ端末接続ユニット N-8000RS/8010RS の接続



● 接続の概要

※ 使用する線材については、P. 3-80 をお読みください。

① 電源の接続

付属の電源コードで、AC100 V または UPS（無停電電源供給装置）に接続します。

電源コードの取り扱いについて

付属の電源コードは、N-8000RS/8010RS の専用品です。
これ以外の機器に使用しないでください。

② サブ端末、スイッチパネル、スイッチボードの接続

（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）

③ ネットワークの接続

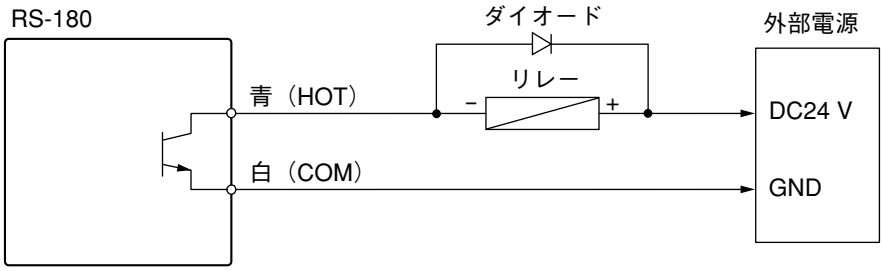
10BASE-T/100BASE-TX のネットワークに自動判別で接続できます。
この接続には、UTP カテゴリー５規格以上のストレートケーブルを使用してください。

*1 システムを構成する機器の消費電力の合計とバックアップしたい時間から、適切な UPS を選定します。
常時インバーター給電方式の UPS を使用してください。

（参考）
サブ端末接続ユニット N-8000RS：35 W（定格）
サブ端末接続ユニット N-8010RS：26 W（定格）
8 ポート 10M/100M スイッチングハブ：約 10 W（メーカーにより異なります。）

■ N-8000RS/8010RS と組み合わせる端末の接続

● RS-180 と外部リレーの接続

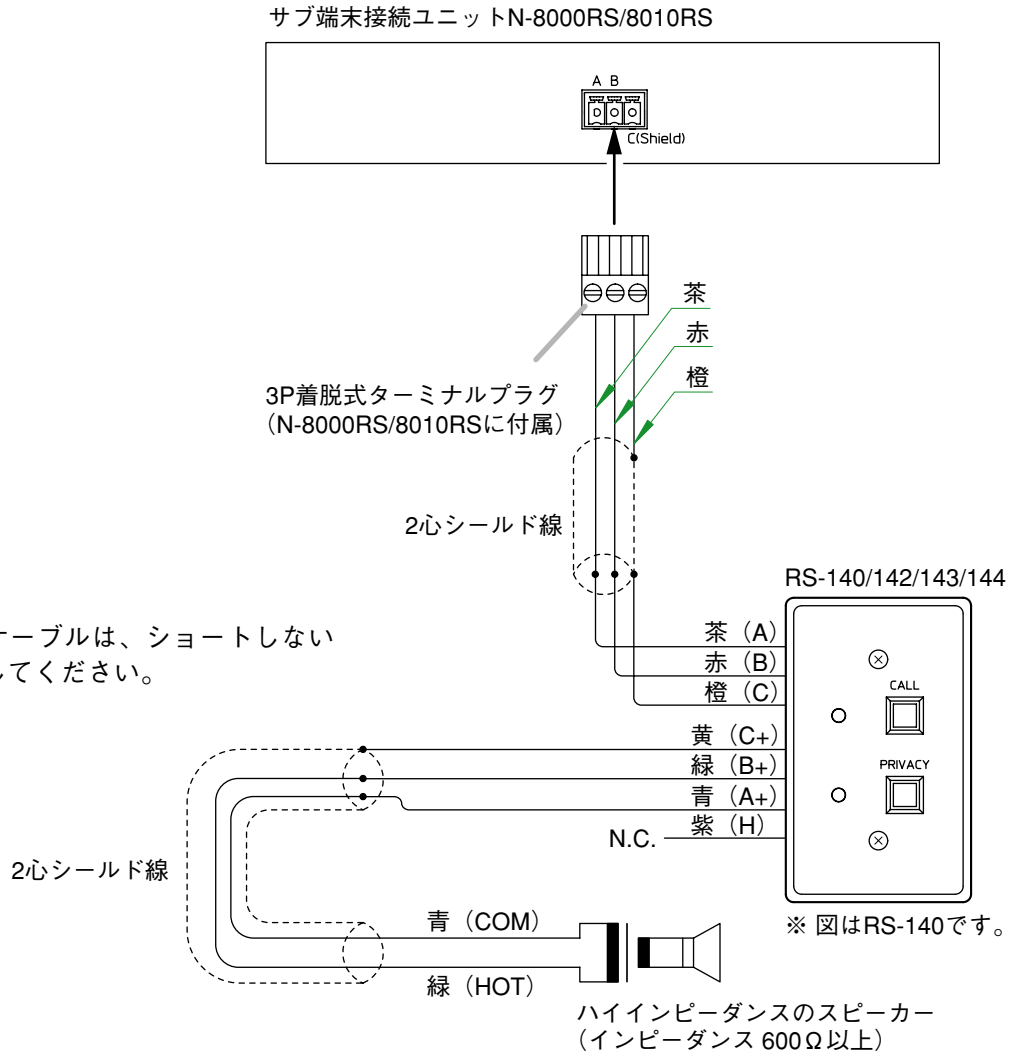


※ オープンコレクター出力：DC24 V、最大30 mA

ご注意

制御線を使用しないときは、ショートしないよう、切断してください。

● RS-140/142/143/144 とスピーカーの接続

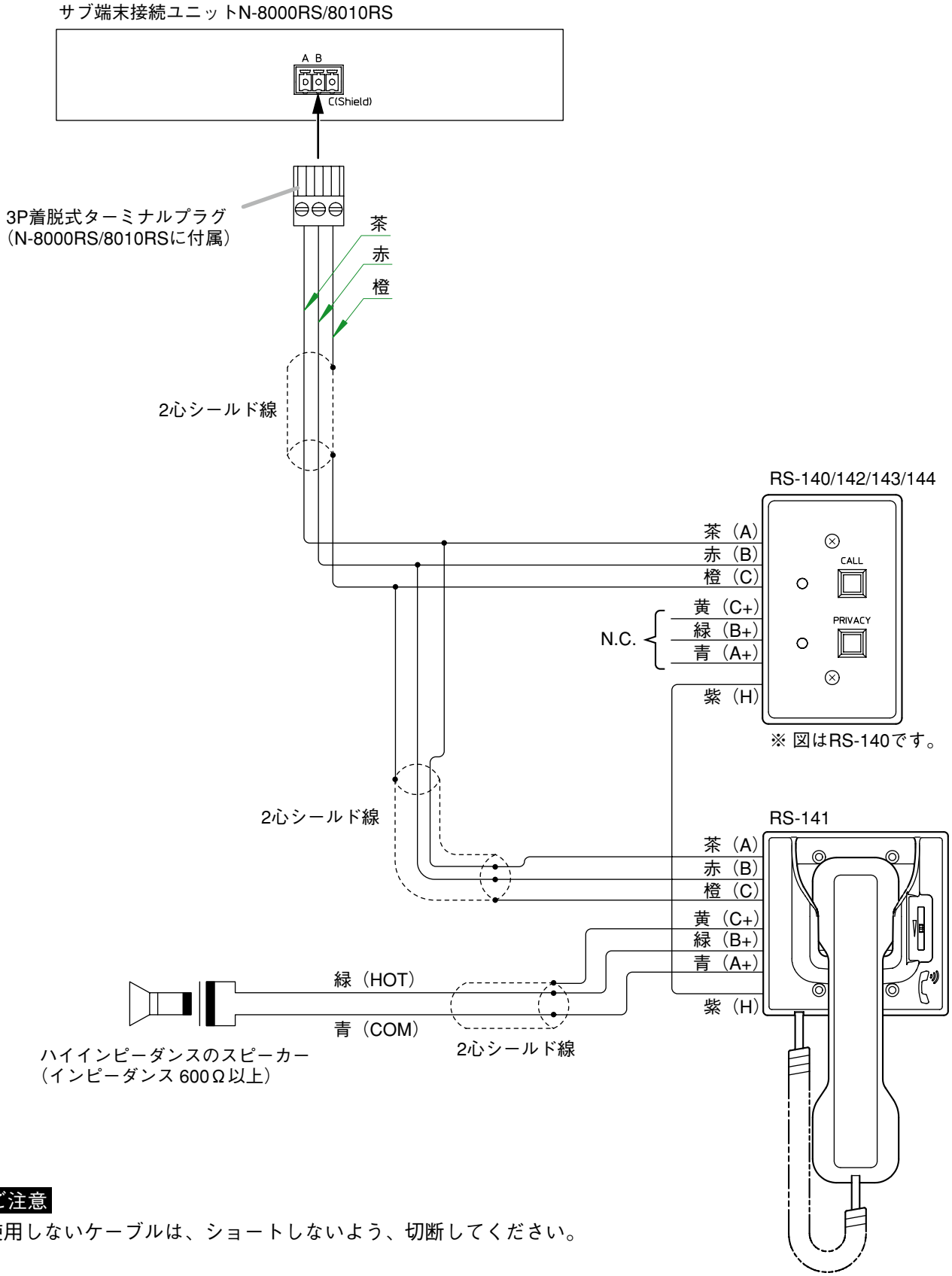


ご注意

使用しないケーブルは、ショートしないよう、切断してください。

※ 図はRS-140です。

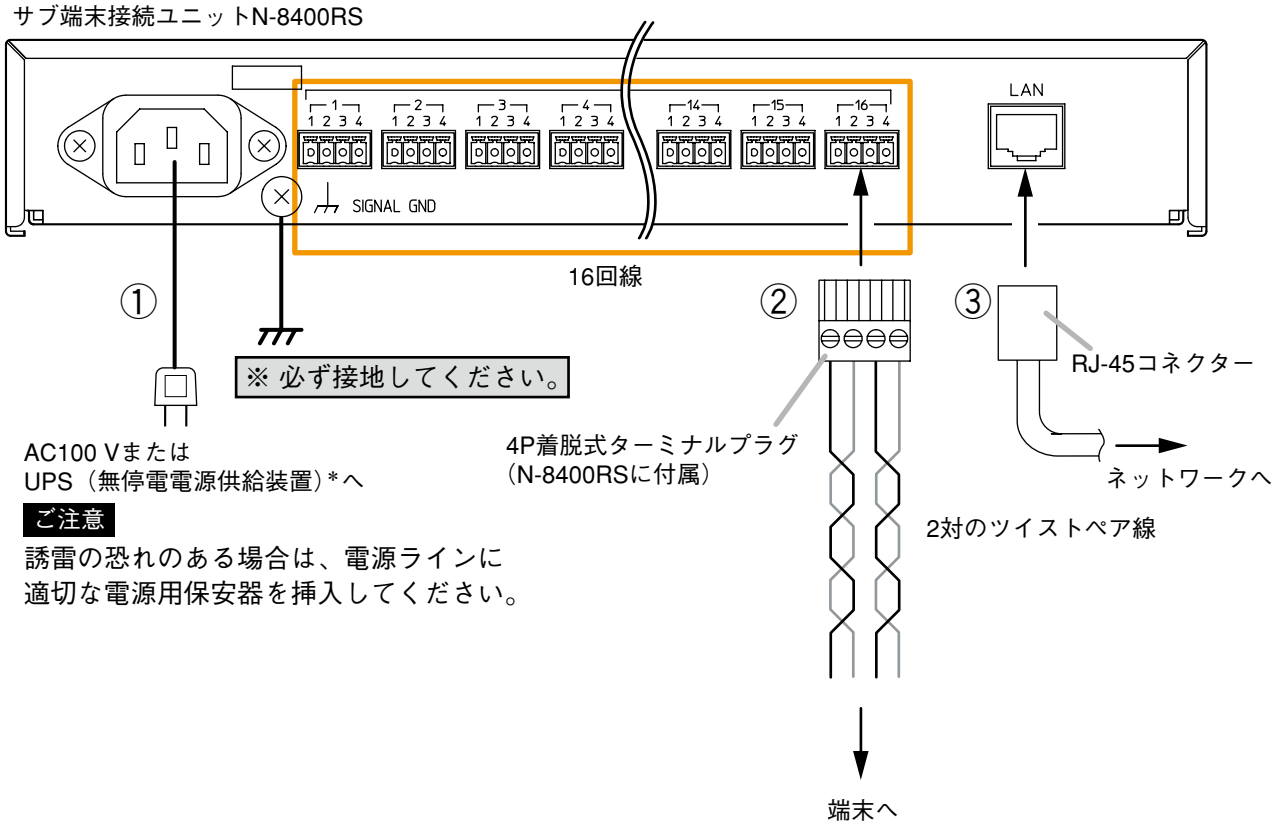
● RS-140/142/143/144 と RS-141、およびスピーカーの接続



ご注意

使用しないケーブルは、ショートしないよう、切断してください。

■ サブ端末接続ユニット N-8400RS の接続



ご注意

誘雷の恐れのある場合は、電源ラインに
適切な電源用保安器を挿入してください。

● 接続の概要

※ 使用する線材については、P. 3-80 をお読みください。

① 電源の接続

付属の電源コードで、AC100 V または UPS（無停電電源供給装置）に接続します。

電源コードの取り扱いについて

付属の電源コードは、N-8400RS の専用品です。
これ以外の機器に使用しないでください。

② 端末の接続

接続のしかたは、端末の種類により異なります。
（端末の接続 ☞ 次ページ）
（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）

③ ネットワークの接続

10BASE-T/100BASE-TX のネットワークに自動判別で接続できます。
この接続には、UTP カテゴリー５規格以上のストレートケーブルを使用してください。

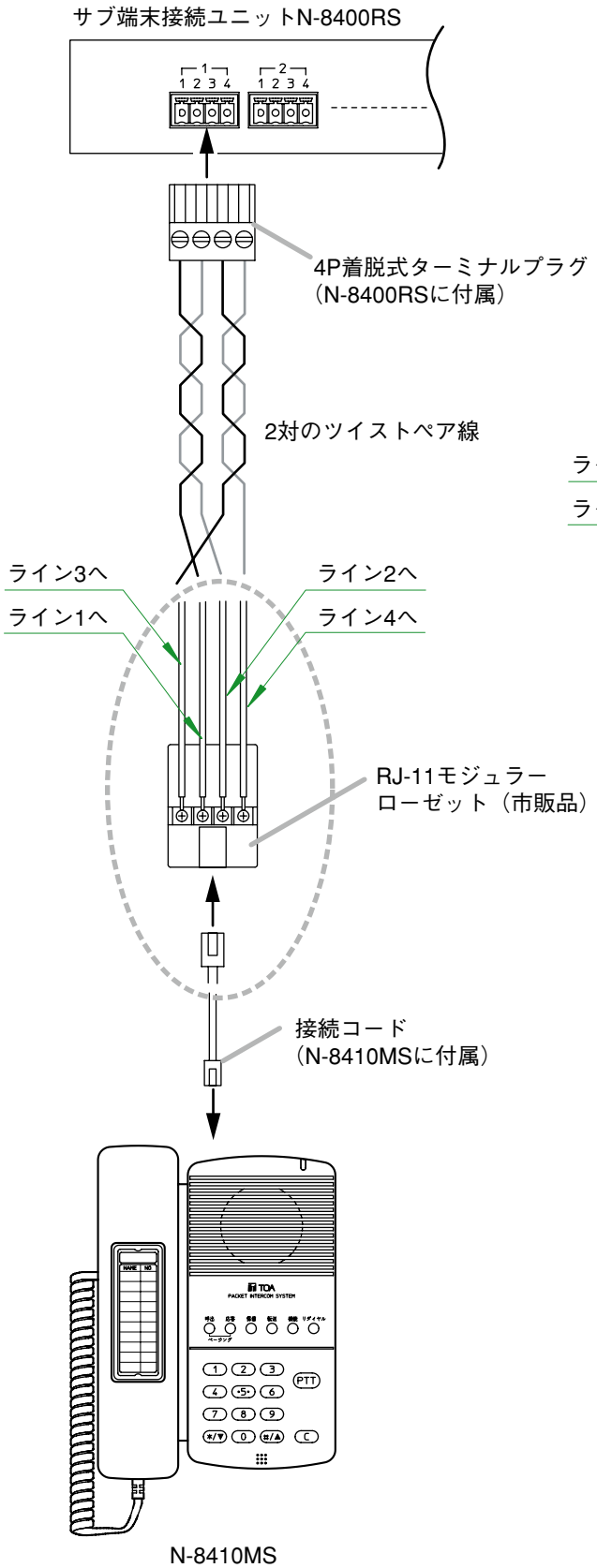
* システムを構成する機器の消費電力の合計とバックアップしたい時間から、適切な UPS を選定します。
常時インバーター給電方式の UPS を使用してください。

（参考）
サブ端末接続ユニット N-8400RS　　：30 W（定格）
8 ポート 10M/100M スイッチングハブ　：約 10 W（メーカーにより異なります。）

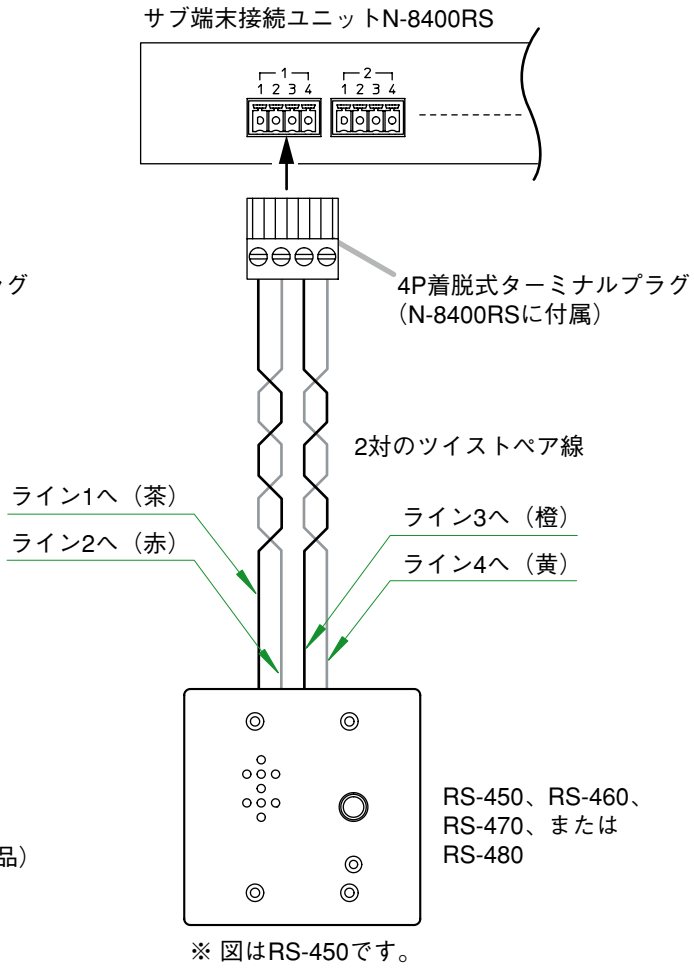
■ N-8400RS と組み合わせる端末の接続

● 端末とサブ端末接続ユニットの接続

［N-8410MS の場合］

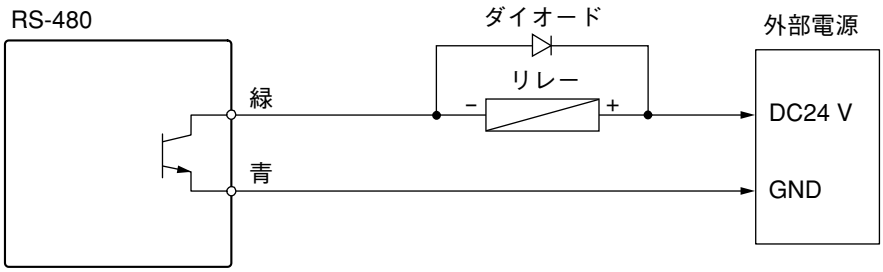


［RS-450/460/470/480 の場合］



※ 図はRS-450です。

● RS-480 と外部リレーの接続



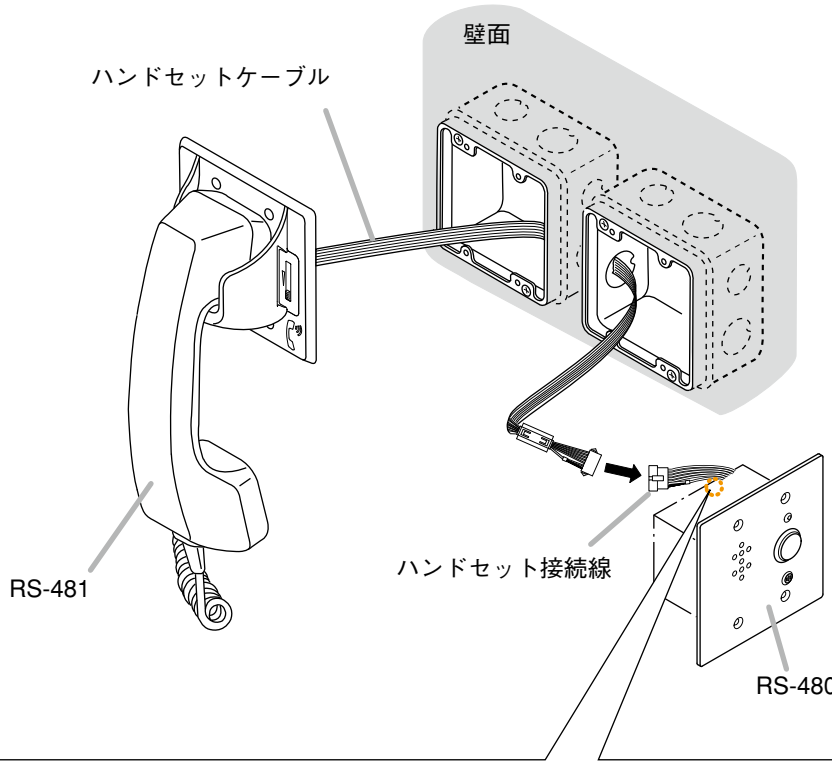
※ オープンコレクター出力：DC24 V、最大30 mA

ご注意

制御線を使用しないときは、ショートしないよう、切断してください。

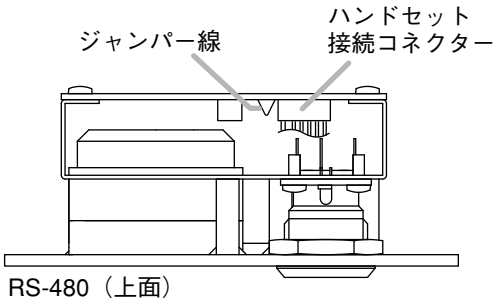
● RS-480 と RS-481 の接続

RS-480 からのハンドセットケーブルを RS-481 のハンドセット接続線に接続します。

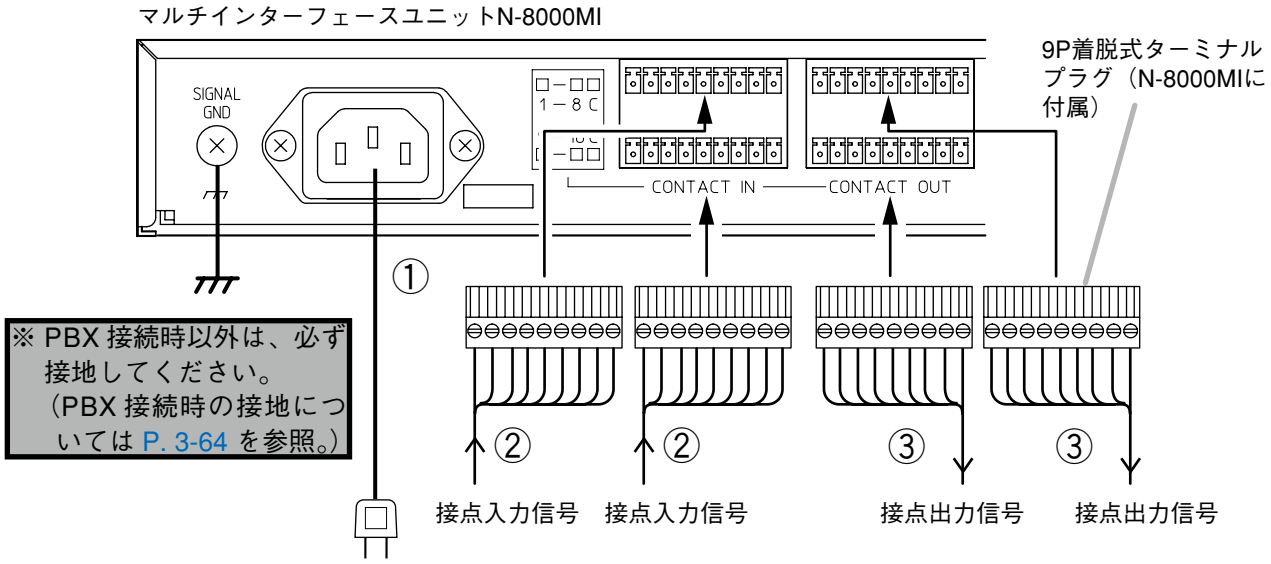


ご注意

オプションハンドセットを使用する場合、ハンドセット接続コネクターの横にあるジャンパー線を切断してください。
切断しないと、ハンドセットを取り上げてもRS-480のスピーカーから音が出るため、ハンドセットマイクとの間でハウリングしてしまいます。



■ マルチインターフェースユニットの接続



AC100 VまたはUPS（無停電電源供給装置）*へ

ご注意

誘雷の恐れのある場合は、電源ラインに
適切な電源用保安器を挿入してください。

● 接続の概要

※ 使用する線材については、P. 3-80 をお読みください。

① 電源の接続

付属の電源コードで、AC100 V または UPS（無停電電源供給装置）に接続します。

電源コードの取り扱いについて

付属の電源コードは、N-8000MI の専用品です。
これ以外の機器に使用しないでください。

② 接点入力端子の接続

（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）

[無電圧メイク接点入力の仕様]

短絡電流：10 mA
開放電圧：12 V

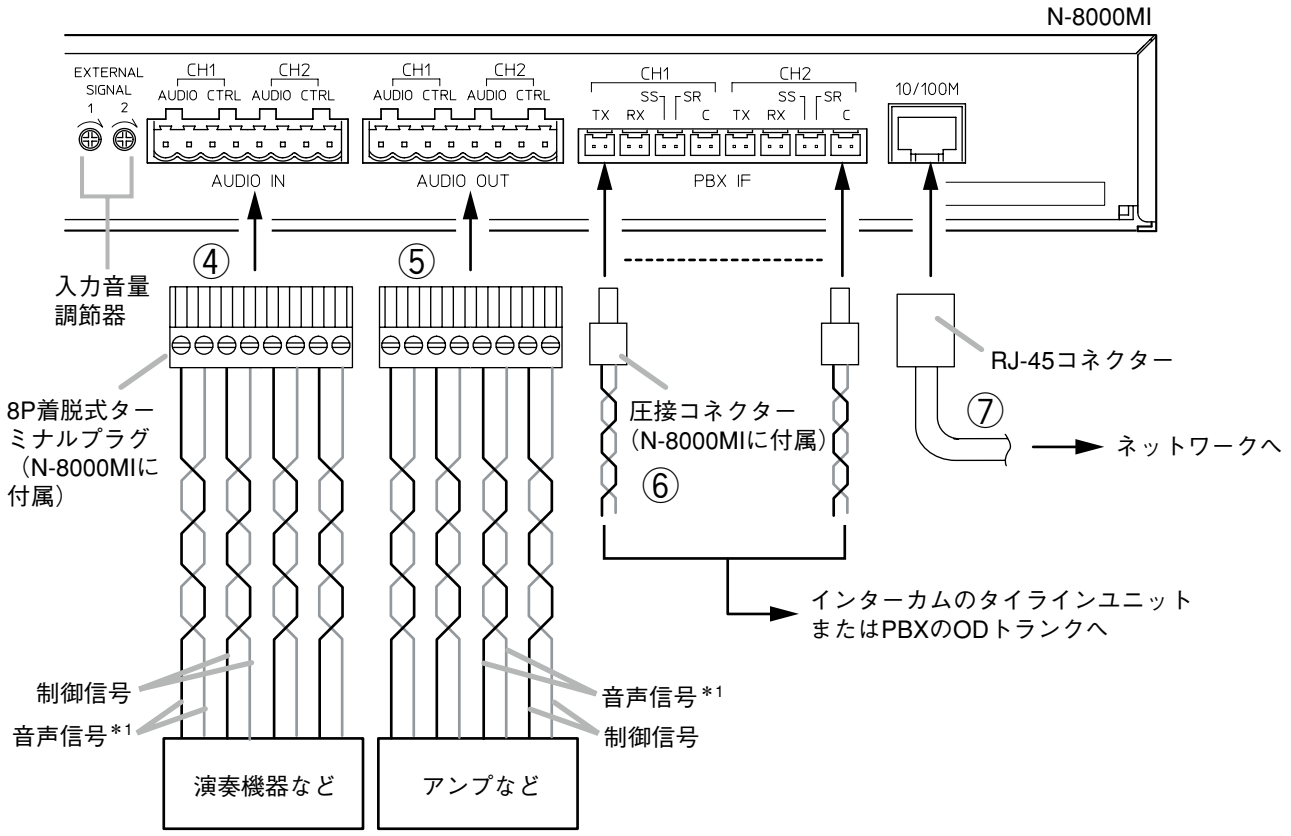
③ 接点出力端子の接続

接点出力端子に極性はありません。
（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）

[リレー接点出力の仕様]

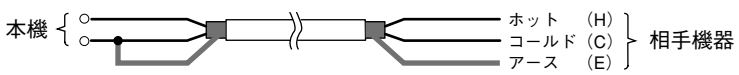
耐電圧　：DC24 V
制御電流：最大 0.5 A

* システムを構成する機器の消費電力の合計とバックアップしたい時間から、適切な UPS を選定します。
常時インバーター給電方式の UPS を使用してください。
（参考）
マルチインターフェースユニット：16 W（定格）
8 ポート 10M/100M スイッチングハブ：約 10 W（メーカーにより異なります。）

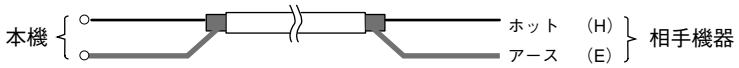


*1 音声信号線は、相手機器に応じて下図のように接続してください。

● 相手機器が平衡入力（出力）のとき



● 相手機器が不平衡入力（出力）のとき



ご注意

音声入出力端子１とPBXインターフェース端子１は、どちらか一方しか使用できません。

また、音声入出力端子２とPBXインターフェース端子２は、どちらか一方しか使用できません。

④ 音声入力端子の接続

音声入力端子に極性はありません。

（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）

[音声入力の仕様]

最大 0 dB *2、10 k Ω以上、平衡

※ 入力音量調節器を使用して、音声入力の感度を 0 ～ −25 dB *2 の範囲で調節することができます。接続する機器に応じて、調節してください。（工場出荷時：0 dB *2）

[制御入力の仕様]

無電圧メイク接点

短絡電流：10 mA

開放電圧：12 V

⑤ 音声出力端子の接続

音声出力端子に極性はありません。

（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）

[音声出力の仕様]

最大 0 dB *2、600 Ω以下、平衡

[制御出力の仕様]

リレー接点出力

耐電圧　：DC24 V

制御電流：最大 0.5 A

⑥ PBX インターフェース端子の接続

PBX の OD トランクに接続するときと、インターカム EXES-2000/EXES-6000/EXES-7000 システムとのタイライン接続のときで、接続のしかたが異なります。

（接続のしかた ☞ 次ページ）

（圧接コネクターの結線のしかた ☞ P. 3-82）

⑦ ネットワークの接続

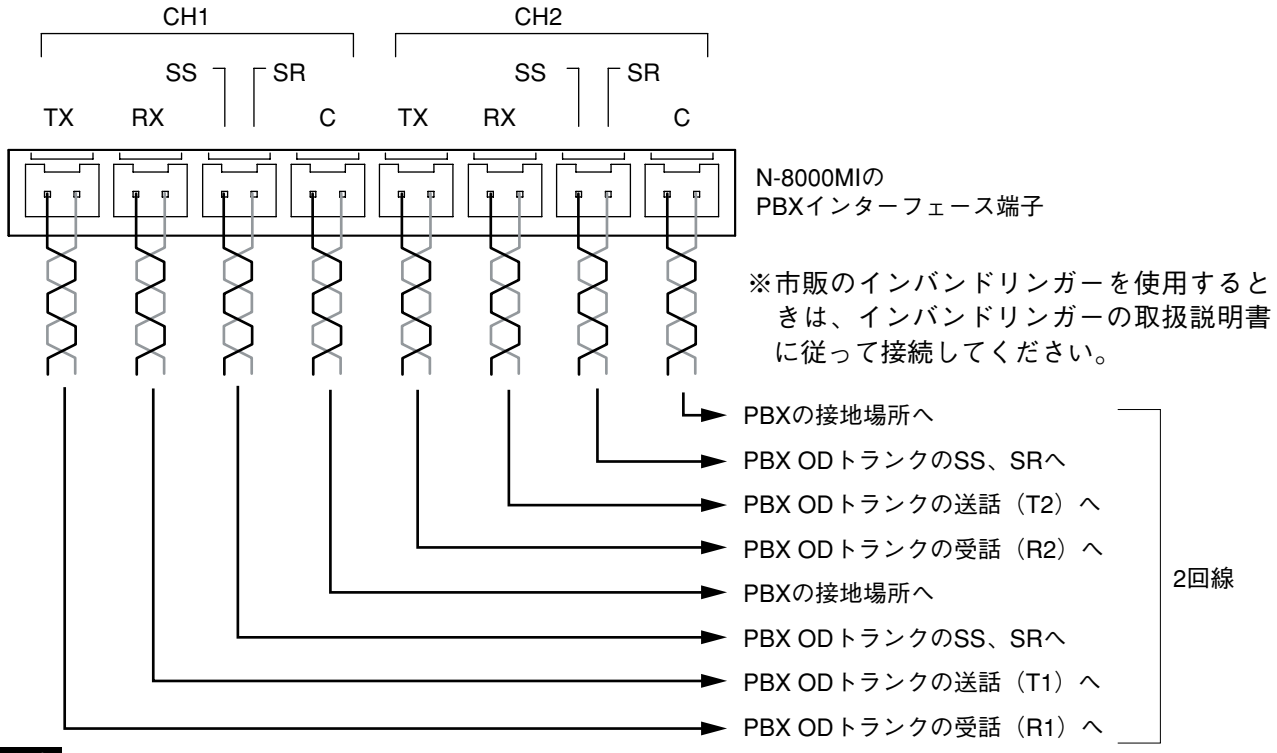
10BASE-T/100BASE-TX のネットワークに自動判別で接続できます。

この接続には、UTP カテゴリー５規格以上のストレートケーブルを使用してください。

*2 0 dB = 1 V

● PBX の OD トランクと接続するとき

相手送話側からのケーブルは受話へ、相手受話側からのケーブルは送話へ接続します。
相手 SS 線は SR へ、相手 SR 線は SS へ接続します。



ご注意

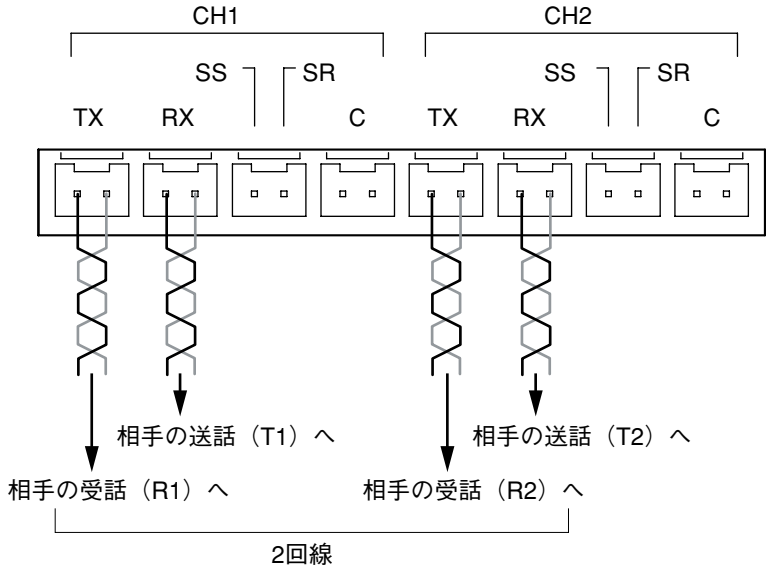
- C 端子は内部で筐体（機能アース端子）と接続されています。
- この接続の場合は、N-8000MI の機能アース端子（ ☞ P. 1-71 の⑥）は接地しないでください。

メ　モ

接続する機器や距離に応じて、出力レベルおよび入力感度を 0 ～ 15 dB の範囲で調節することができます。
（ ☞ P. 5-49）

● インターカムのタイラインユニットと接続するとき

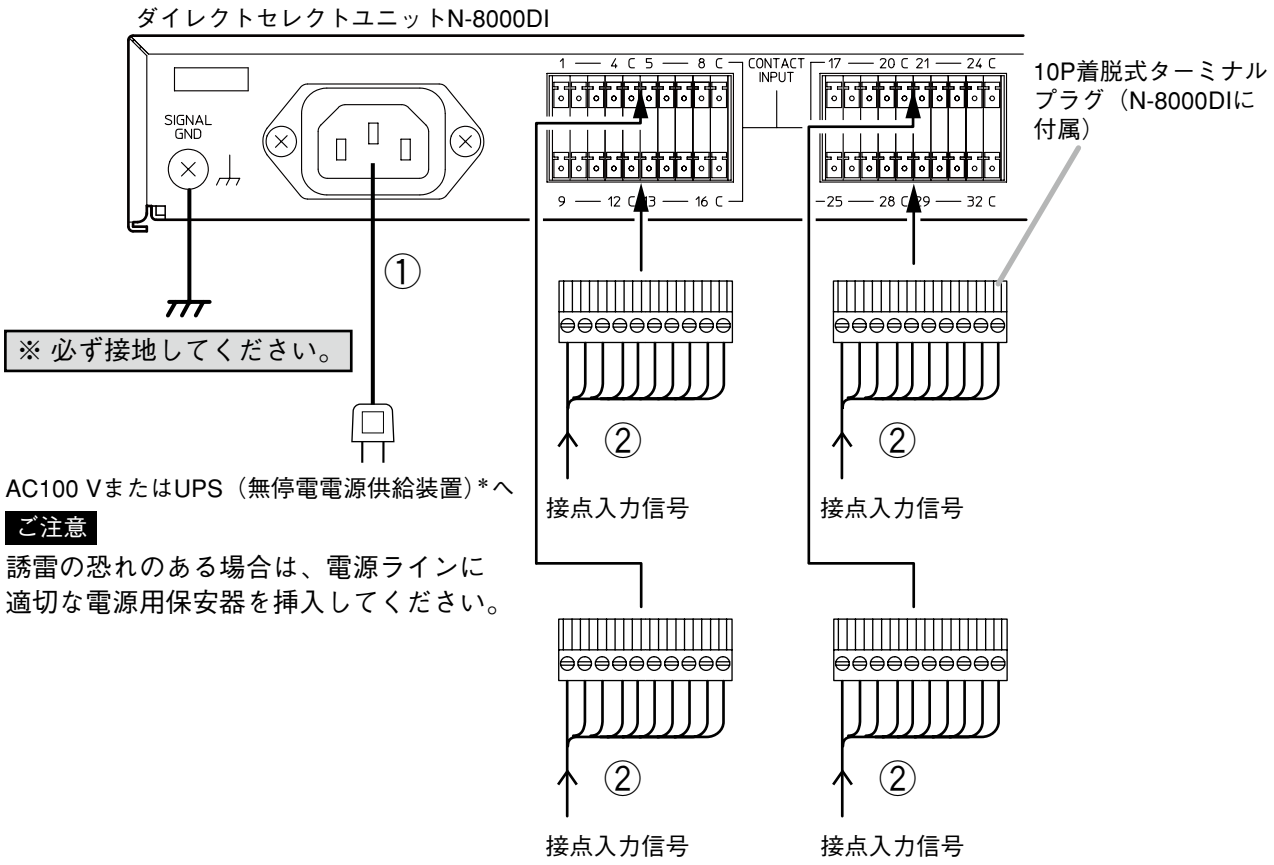
相手送話側からのケーブルは受話へ、相手受話側からのケーブルは送話へ接続します。



メ　モ

接続する機器や距離に応じて、出力レベルおよび入力感度を 0 ～ 15 dB の範囲で調節することができます。
（ ☞ P. 5-49）

■ ダイレクトセレクトユニットの接続



ご注意

誘雷の恐れのある場合は、電源ラインに適切な電源用保安器を挿入してください。

● 接続の概要

※ 使用する線材については、P. 3-80 をお読みください。

① 電源の接続

付属の電源コードで、AC100 V または UPS（無停電電源供給装置）に接続します。

電源コードの取り扱いについて

付属の電源コードは、N-8000DI の専用品です。
これ以外の機器に使用しないでください。

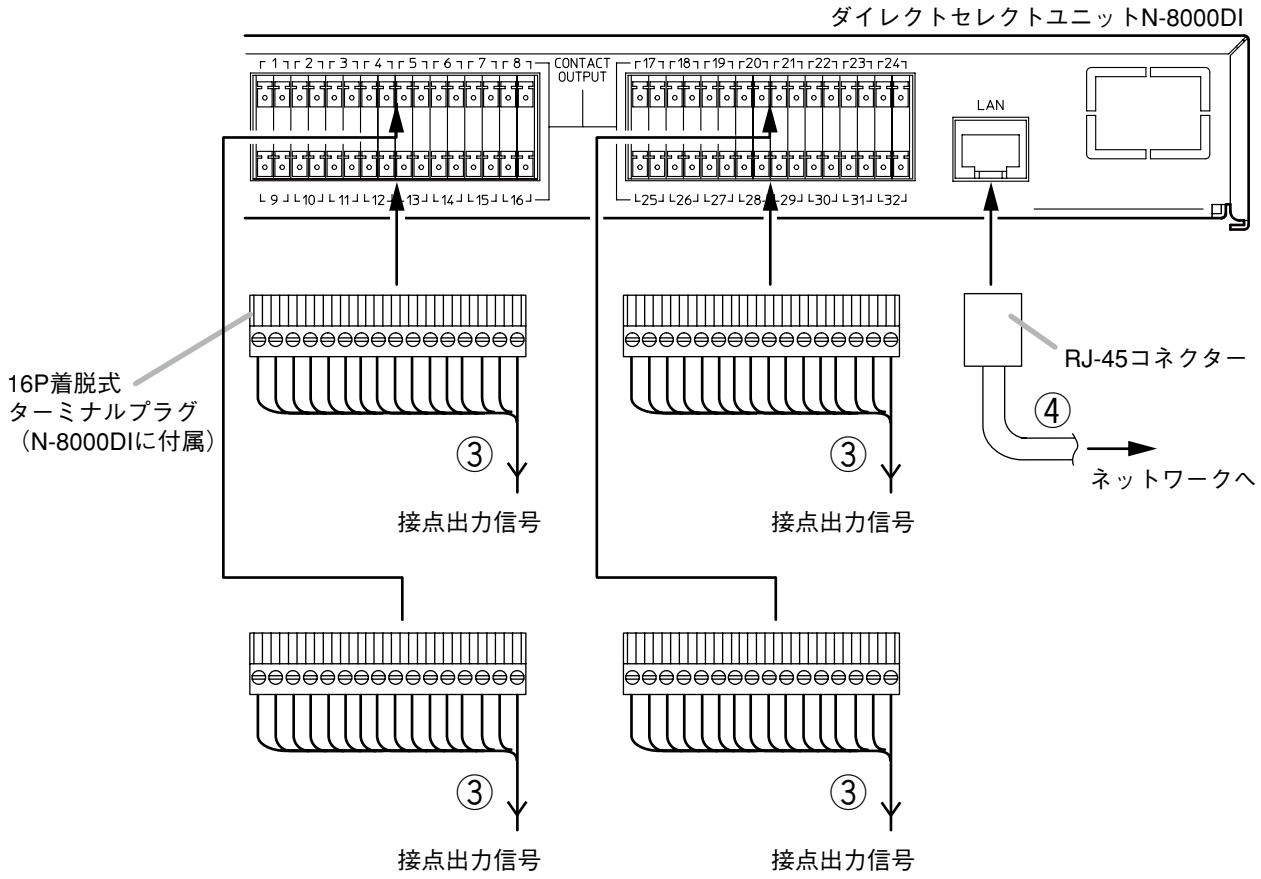
② 接点入力端子の接続

（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）

[無電圧メイク接点入力の仕様]

短絡電流：5 mA
開放電圧：24 V

* システムを構成する機器の消費電力の合計とバックアップしたい時間から、適切な UPS を選定します。
常時インバーター給電方式の UPS を使用してください。
（参考）
ダイレクトセレクトユニット：16 W（定格）
8 ポート 10M/100M スイッチングハブ：約 10 W（メーカーにより異なります。）



③ 接点出力端子の接続

接点出力端子に極性はありません。
（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）

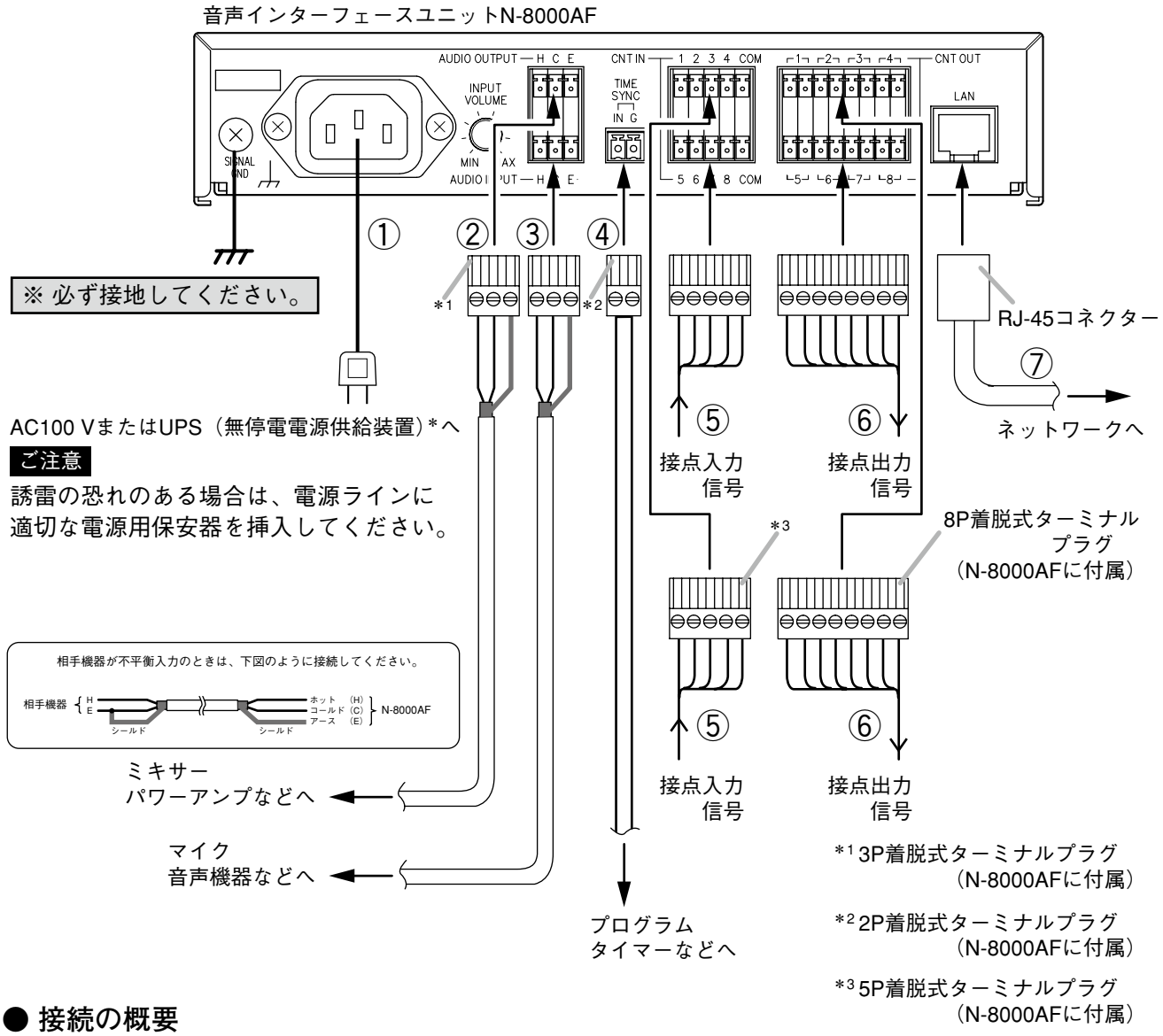
［リレー接点出力の仕様］

耐電圧　：DC24 V
制御電流：2mA ～ 500mA

④ ネットワークの接続

10BASE-T/100BASE-TX のネットワークに自動判別で接続できます。
この接続には、UTP カテゴリー５規格以上のストレートケーブルを使用してください。

■ 音声インターフェースユニットの接続



● 接続の概要

※ 使用する線材については、P. 3-80 をお読みください。

① 電源の接続

付属の電源コードで、AC100 V または UPS（無停電電源供給装置）に接続します。

電源コードの取り扱いについて

付属の電源コードは、N-8000AF の専用品です。
これ以外の機器に使用しないでください。

② 音声出力端子の接続

ミキサー・パワーアンプなどを、2 心シールド線で接続します。
（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）

[音声出力端子の仕様]

0 dB *4、600 Ω、平衡型です。
ラインレベルの音声信号を出力します。
H：ホット
C：コールド
E：アース（シールド）

③ 音声入力端子の接続

マイク・音源機器などを、2 心シールド線で接続します。
（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）

[音声入力端子の仕様]

−58 ～ 0 dB *4、2 kΩ平衡型です。
マイクまたはラインレベルの音声信号を入力します。
マイクまたはラインレベルの切換はソフトで行います。
H：ホット
C：コールド
E：アース（シールド）

*4 0 dB = 1 V

④ 調時入力端子の接続
プログラムタイマーなどを接続します。
（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）
［無電圧メイク接点入力の仕様］
短絡電流：5 mA
開放電圧：24 V

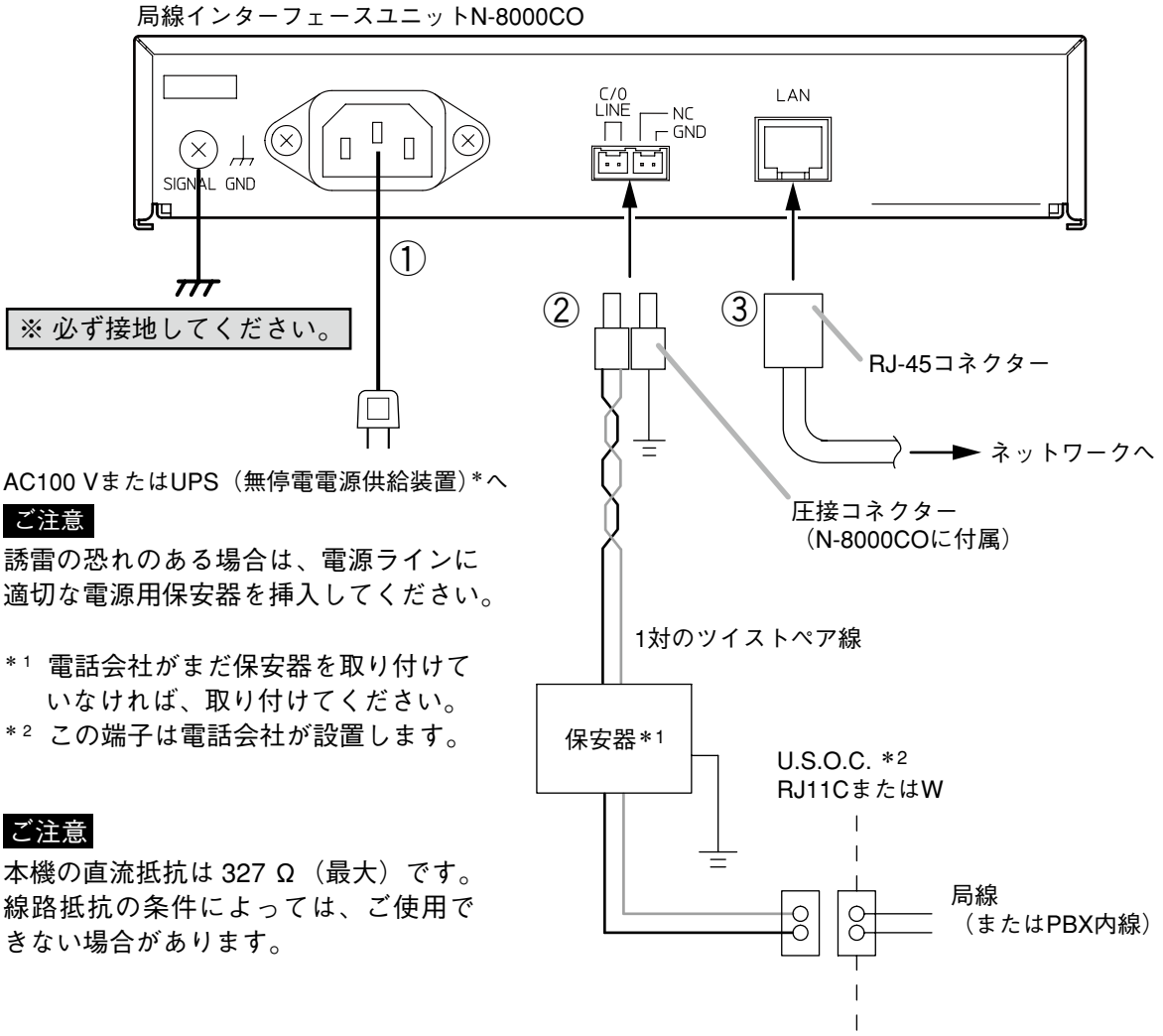
⑤ 接点入力端子の接続
（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）
［無電圧メイク接点入力の仕様］
短絡電流：5 mA
開放電圧：24 V

⑥ 接点出力端子の接続
接点出力端子に極性はありません。
（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）
［リレー接点出力の仕様］
耐電圧　：DC24 V
制御電流：2 mA ～ 500 mA

⑦ ネットワークの接続
10BASE-T/100BASE-TX のネットワークに自動判別で接続できます。
この接続には、UTP カテゴリー５規格以上のストレートケーブルを使用してください。

＊ システムを構成する機器の消費電力の合計とバックアップしたい時間から、適切な UPS を選定します。
常時インバーター給電方式の UPS を使用してください。
（参考）
音声インターフェースユニット：4 W（定格）
8 ポート 10M/100M スイッチングハブ：約 10 W（メーカーにより異なります。）

■ 局線インターフェースユニットの接続



ご注意

誘雷の恐れのある場合は、電源ラインに適切な電源用保安器を挿入してください。

*1 電話会社がまだ保安器を取り付けていなければ、取り付けてください。
*2 この端子は電話会社が設置します。

ご注意

本機の直流抵抗は 327 Ω（最大）です。線路抵抗の条件によっては、ご使用できない場合があります。

● 接続の概要

※ 使用する線材については、P. 3-80 をお読みください。

① 電源の接続

付属の電源コードで、AC100 V または UPS（無停電電源供給装置）に接続します。

電源コードの取り扱いについて

付属の電源コードは、N-8000CO の専用品です。
これ以外の機器に使用しないでください。

② C/O ラインの接続

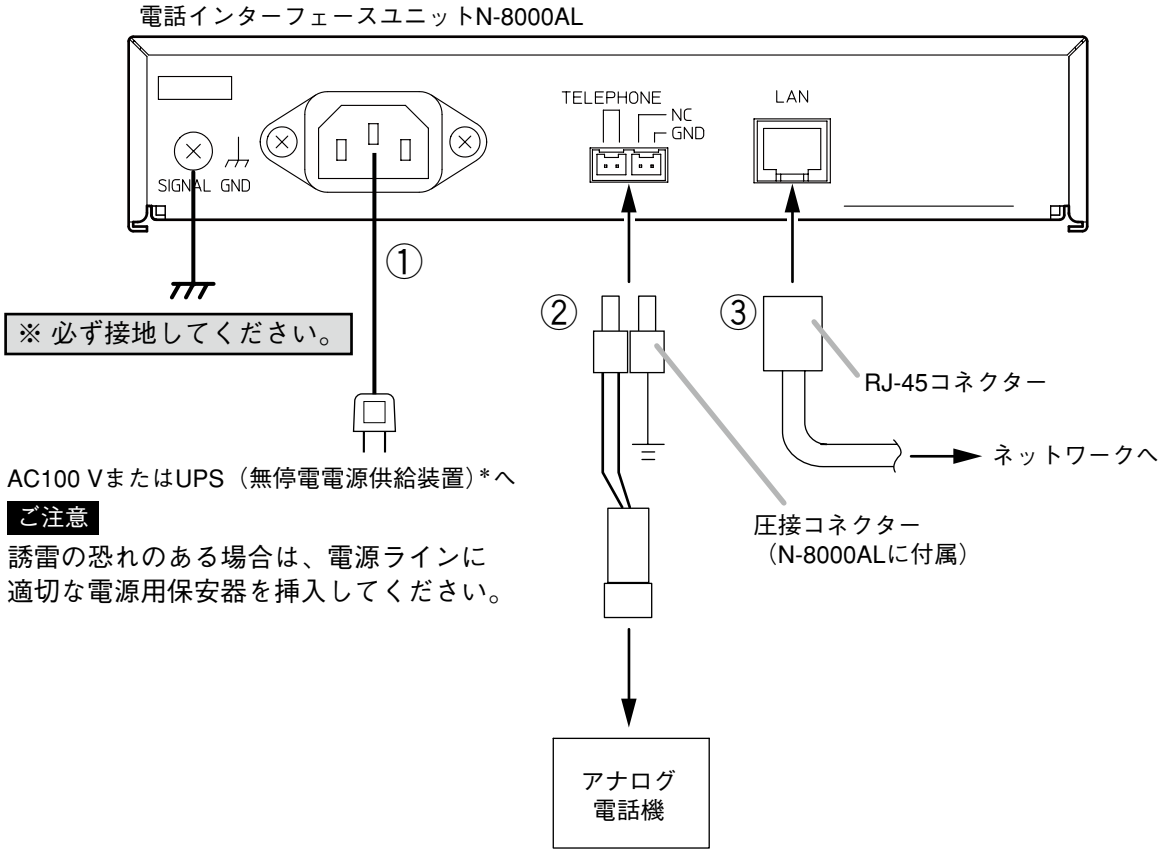
付属の圧接コネクターを使って PSTN（公衆交換電話網）に接続します。
（圧接コネクターの結線のしかた ☞ P. 3-82）

③ ネットワークの接続

10BASE-T/100BASE-TX のネットワークに自動判別で接続できます。
この接続には、UTP カテゴリー５規格以上のストレートケーブルを使用してください。

* システムを構成する機器の消費電力の合計とバックアップしたい時間から、適切な UPS を選定します。
常時インバーター給電方式の UPS を使用してください。
（参考）
局線インターフェースユニット：6 W（定格）
8 ポート 10M/100M スイッチングハブ：約 10 W（メーカーにより異なります。）

■ 電話インターフェースユニットの接続



● 接続の概要

※ 使用する線材については、P. 3-80 をお読みください。

① 電源の接続

付属の電源コードで、AC100 V または UPS（無停電電源供給装置）に接続します。

電源コードの取り扱いについて

付属の電源コードは、N-8000AL の専用品です。
これ以外の機器に使用しないでください。

② 電話機への接続

付属の圧接コネクターを使って使用該当国の認定電話機に接続します。
（圧接コネクターの結線のしかた ☞ P. 3-82）

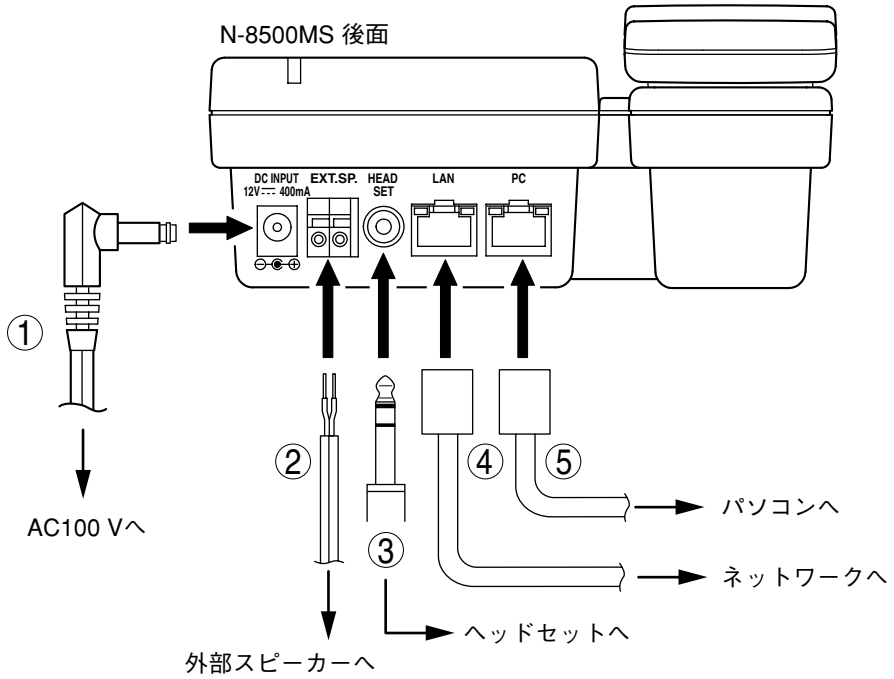
③ ネットワークの接続

10BASE-T/100BASE-TX のネットワークに自動判別で接続できます。
この接続には、UTP カテゴリー５規格以上のストレートケーブルを使用してください。

* システムを構成する機器の消費電力の合計とバックアップしたい時間から、適切な UPS を選定します。
常時インバーター給電方式の UPS を使用してください。
（参考）
電話インターフェースユニット：7 W（定格）
8 ポート 10M/100M スイッチングハブ：約 10 W（メーカーにより異なります。）

■ IP 端末の接続

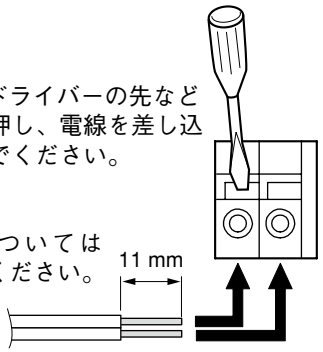
● N-8500MS の接続



① AC アダプター端子の接続

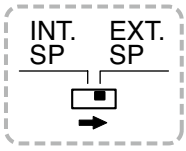
AC アダプター AD-1210P または AD-1215P を接続します。

② 外部スピーカー端子の接続

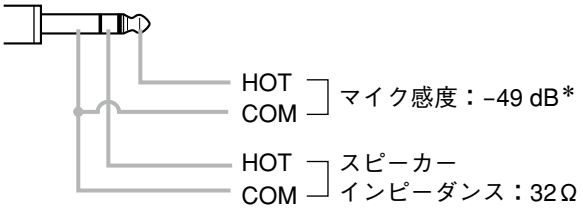


※ 使用する線材については P. 3-80 をお読みください。

※ 外部スピーカーを使用するときは、底面のスピーカー切換スイッチをEXT. SP側に設定してください。



③ ヘッドセット端子の接続



④ ネットワーク接続端子の接続

10BASE-T/100BASE-TX のネットワークに自動判別で接続できます。
IEEE802.3af 準拠の PoE（Power over Ethernet）対応スイッチングハブと接続すれば、AC アダプターなしでも動作します。（接続のしかたについては、スイッチングハブに付属の説明書をお読みください。）
この接続には、UTP カテゴリー 5 規格以上のストレートケーブルを使用してください。

⑤ パソコン接続端子の接続

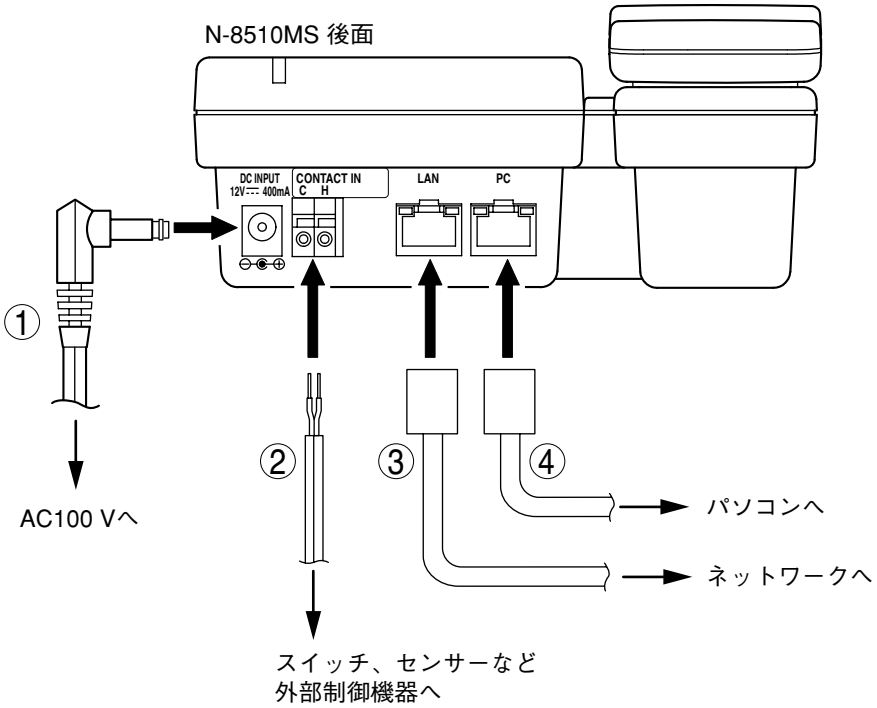
パソコンをカスケード接続することができます。ただし、本機に電源が供給されていないときは、ハブ機能も停止します。
この接続には、UTP カテゴリー 5 規格以上のストレートケーブルを使用してください。

ご注意

パソコン 1 台以外は接続しないでください。

* 0 dB = 1 V/pa（1 kHz）

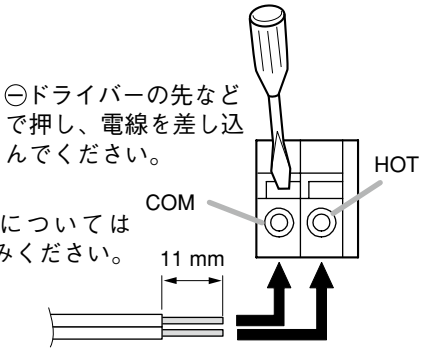
● N-8510MS の接続



① AC アダプター端子の接続

AC アダプター AD-1210P または AD-1215P を接続します。

② 緊急メッセージ起動端子の接続



※ 使用する線材については P. 3-80 をお読みください。

③ ネットワーク接続端子の接続

10BASE-T/100BASE-TX のネットワークに自動判別で接続できます。
IEEE802.3af 準拠の PoE（Power over Ethernet）対応スイッチングハブと接続すれば、AC アダプターなしでも動作します。（接続のしかたについては、スイッチングハブに付属の説明書をお読みください。）
この接続には、UTP カテゴリー５規格以上のストレートケーブルを使用してください。

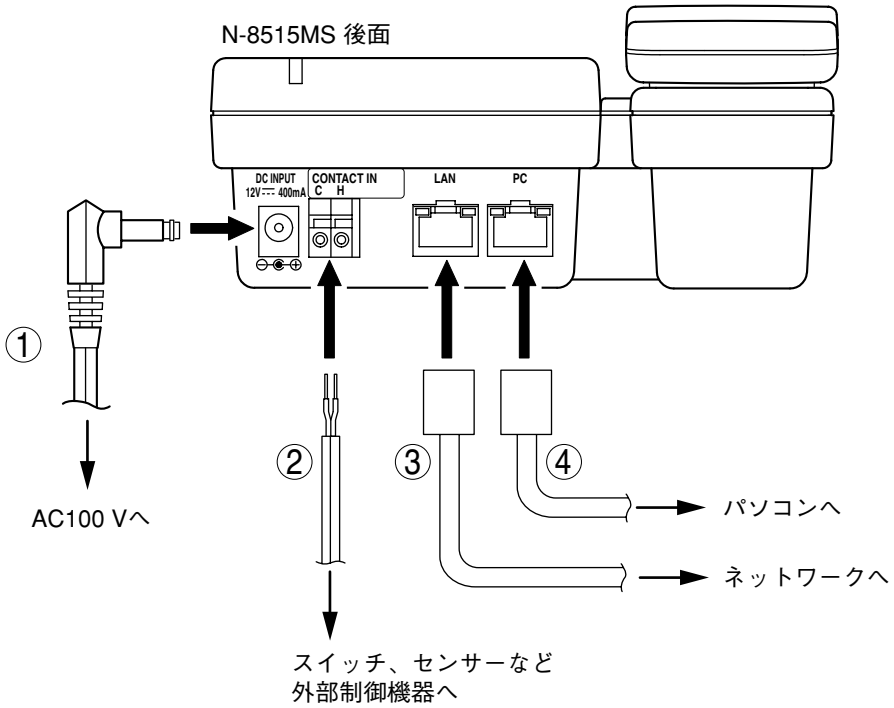
④ パソコン接続端子の接続

パソコンをカスケード接続することができます。ただし、本機に電源が供給されていないときは、ハブ機能も停止します。
この接続には、UTP カテゴリー５規格以上のストレートケーブルを使用してください。

ご注意

パソコン１台以外は接続しないでください。

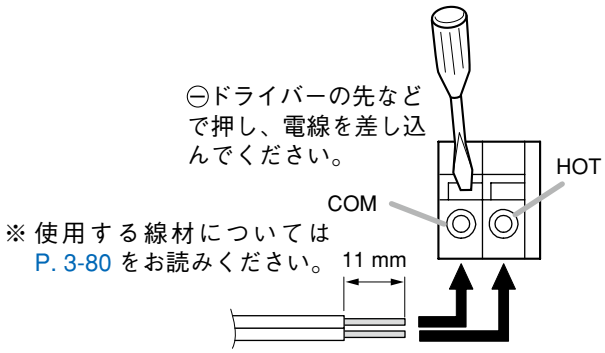
● N-8515MS の接続



① AC アダプター端子の接続

付属の AC アダプター AD-1210P または AD-1215P を接続します。

② 緊急メッセージ起動端子の接続



③ ネットワーク接続端子の接続

10BASE-T/100BASE-TX のネットワークに自動判別で接続できます。
この接続には、UTP カテゴリー５規格以上のストレートケーブルを使用してください。

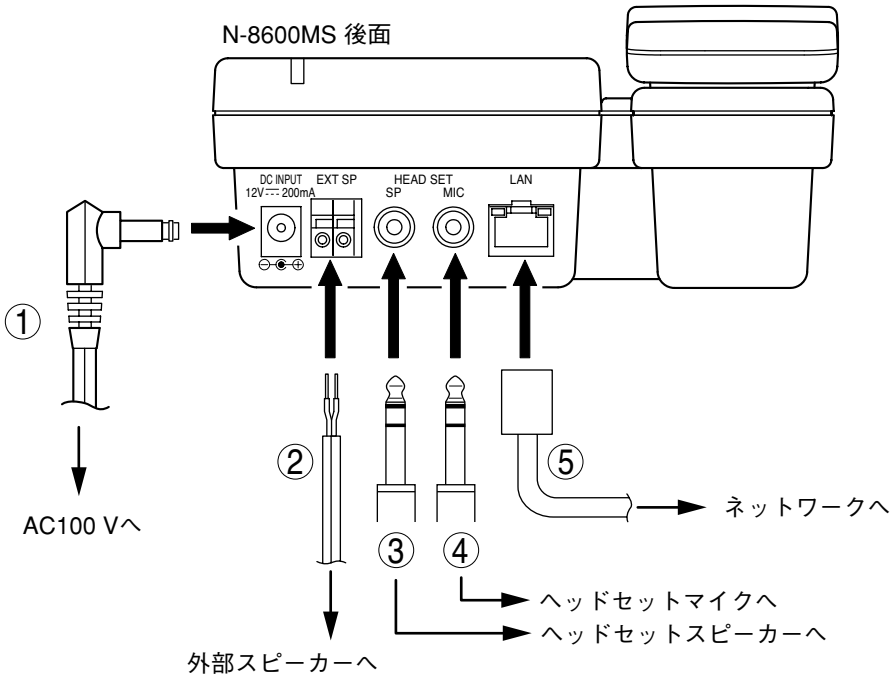
④ パソコン接続端子の接続

パソコンをカスケード接続することができます。ただし、本機に電源が供給されていないときは、ハブ機能も停止します。
この接続には、UTP カテゴリー５規格以上のストレートケーブルを使用してください。

ご注意

パソコン１台以外は接続しないでください。

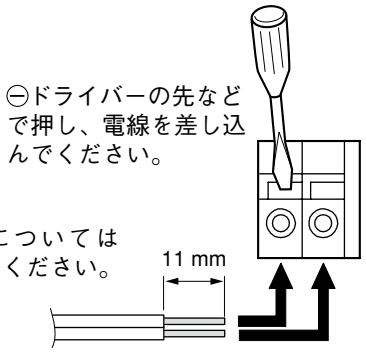
● N-8600MS の接続



① AC アダプター端子の接続

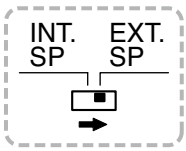
AC アダプター AD-1210P または AD-1215P を接続します。

② 外部スピーカー端子の接続



※ 使用する線材については P. 3-80 をお読みください。

※ 外部スピーカーを使用するときは、底面のスピーカー切換スイッチをEXT. SP側に設定してください。



③ ヘッドセットスピーカーの接続

ϕ 3.5 ミニジャックです。
ヘッドセットスピーカーを接続します。

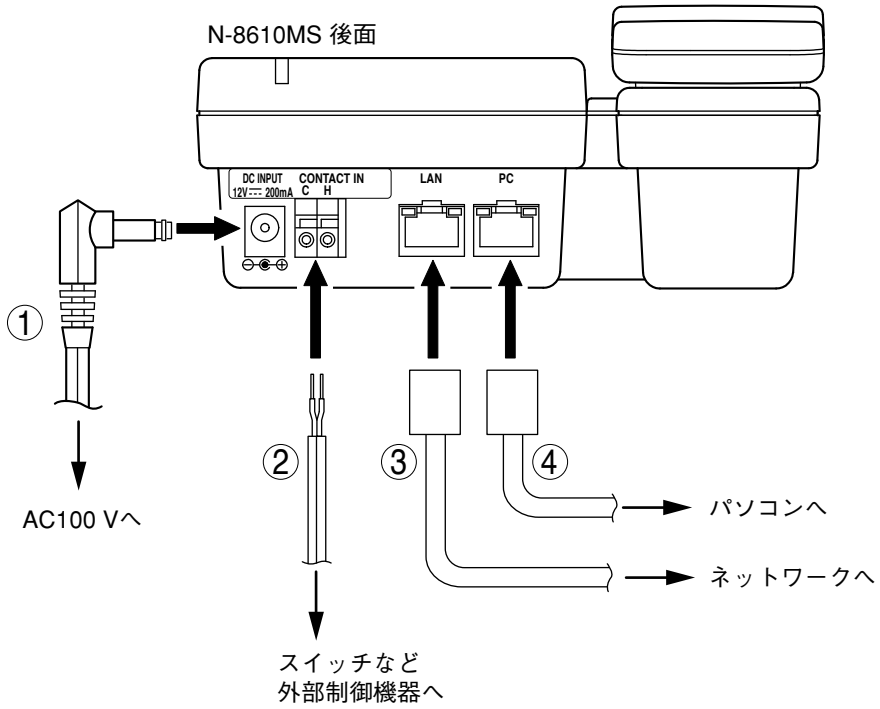
④ ヘッドセットマイクの接続

ϕ 3.5 ミニジャックです。
ヘッドセットマイクを接続します。

⑤ ネットワーク接続端子の接続

10BASE-T/100BASE-TX のネットワークに自動判別で接続できます。
IEEE802.3af 準拠の PoE（Power over Ethernet）対応スイッチングハブと接続すれば、AC アダプターなしでも動作します。（接続のしかたについては、スイッチングハブに付属の説明書をお読みください。）
この接続には、UTP カテゴリー 5 規格以上のストレートケーブルを使用してください。

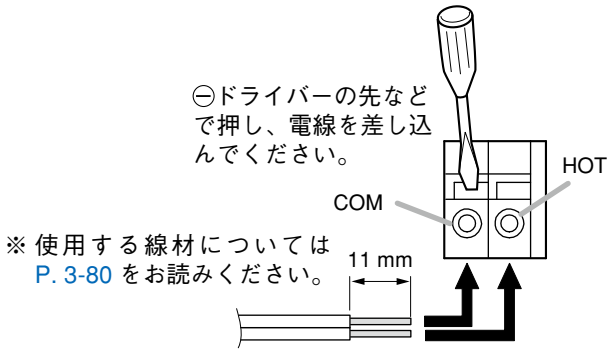
● N-8610MS の接続



① AC アダプター端子の接続

AC アダプター AD-1215P を接続します。

② 緊急メッセージ起動端子の接続



③ ネットワーク接続端子の接続

10BASE-T/100BASE-TX のネットワークに自動判別で接続できます。
IEEE802.3af 準拠の PoE（Power over Ethernet）対応スイッチングハブと接続すれば、AC アダプターなしでも動作します。（接続のしかたについては、スイッチングハブに付属の説明書をお読みください。）
この接続には、UTP カテゴリー５規格以上のストレートケーブルを使用してください。

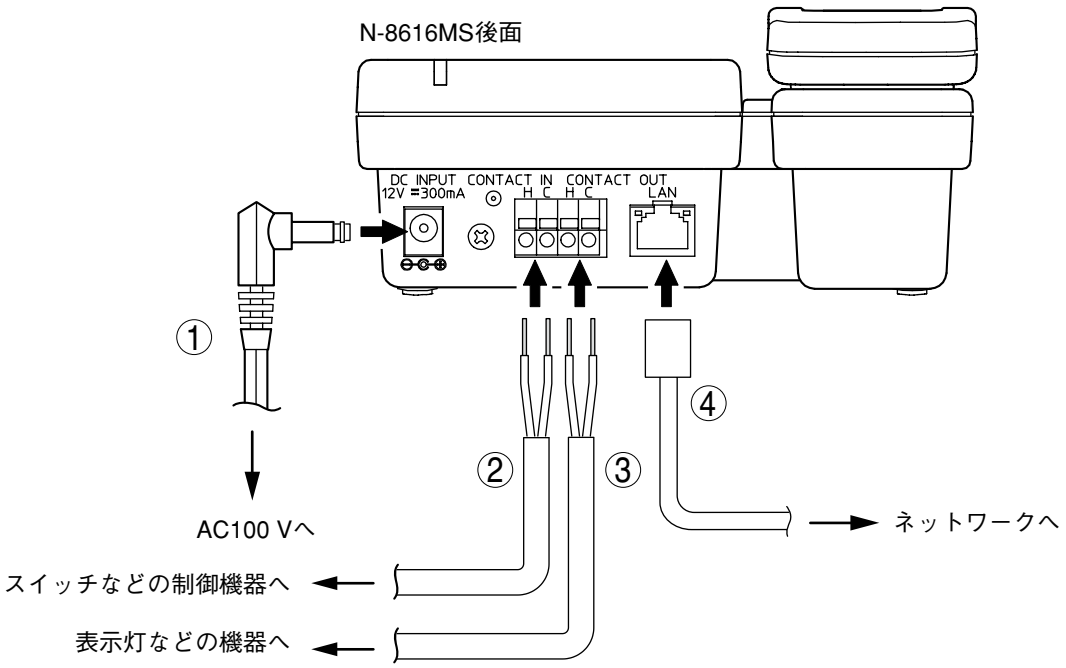
④ パソコン接続端子の接続

パソコンをカスケード接続することができます。ただし、本機に電源が供給されていないときは、ハブ機能も停止します。
この接続には、UTP カテゴリー５規格以上のストレートケーブルを使用してください。

ご注意

パソコン１台以外は接続しないでください。

● N-8616MS の接続



① AC アダプター端子の接続

付属の AC アダプター AD-1210P または AD-1215P を接続します。

② 緊急メッセージ起動端子の接続

下図のように接続します。

[接点入力の仕様]

無電圧メイク接点入力

開放電圧：最大 DC12 V

短絡電流：10 mA 以下

③ 接点出力端子の接続

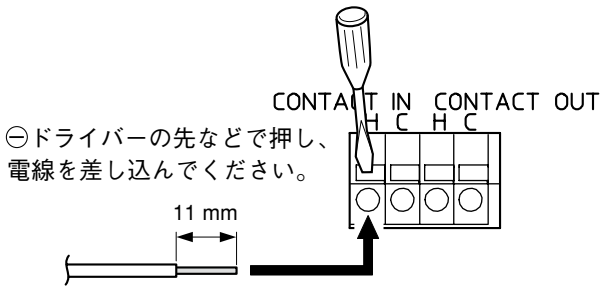
下図のように接続します。

[接点出力の仕様]

オープンコレクター出力

耐電圧　：DC30 V

制御電流：最大 200 mA



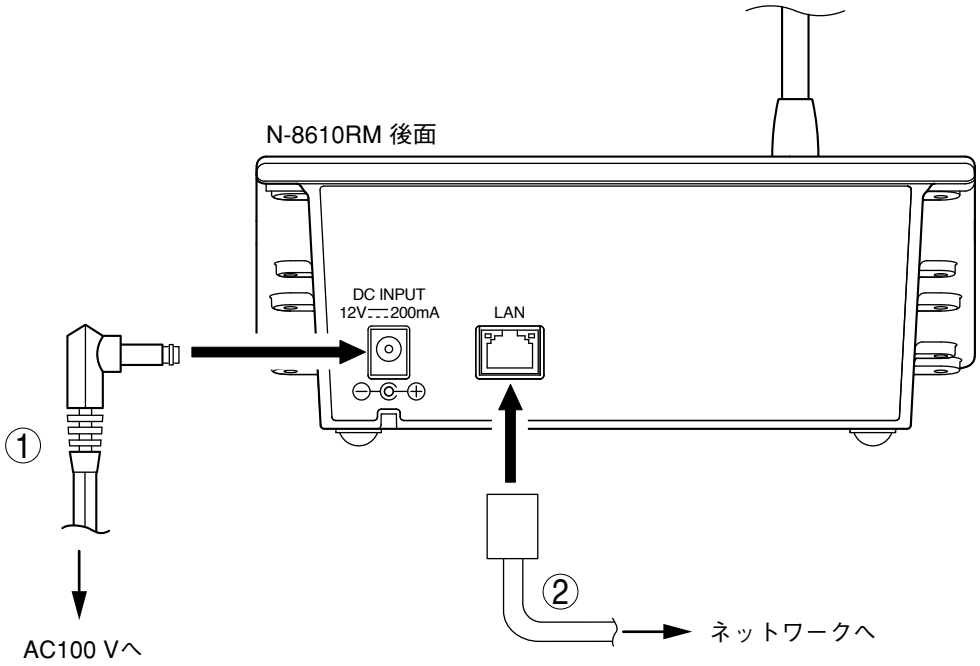
※ 使用する線材については、
P. 3-80 をお読みください。

④ ネットワーク接続端子の接続

10BASE-T/100BASE-TX のネットワークに自動判別で接続できます。

この接続には、UTP カテゴリー５規格以上のストレートケーブルを使用してください。

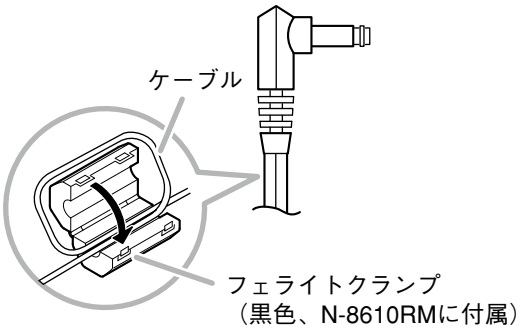
● N-8610RM の接続



① AC アダプター端子の接続

AC アダプター AD-1215P を接続します。

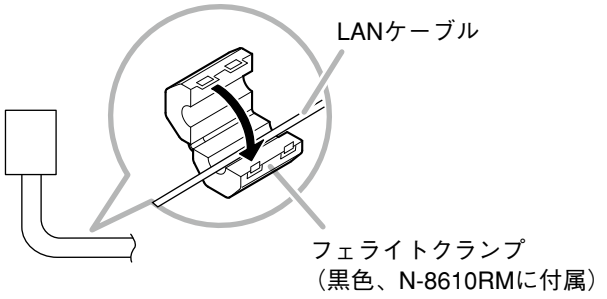
※ このケーブルには、フェライトクランプ（黒色、N-8610RM に付属）を装着してください。



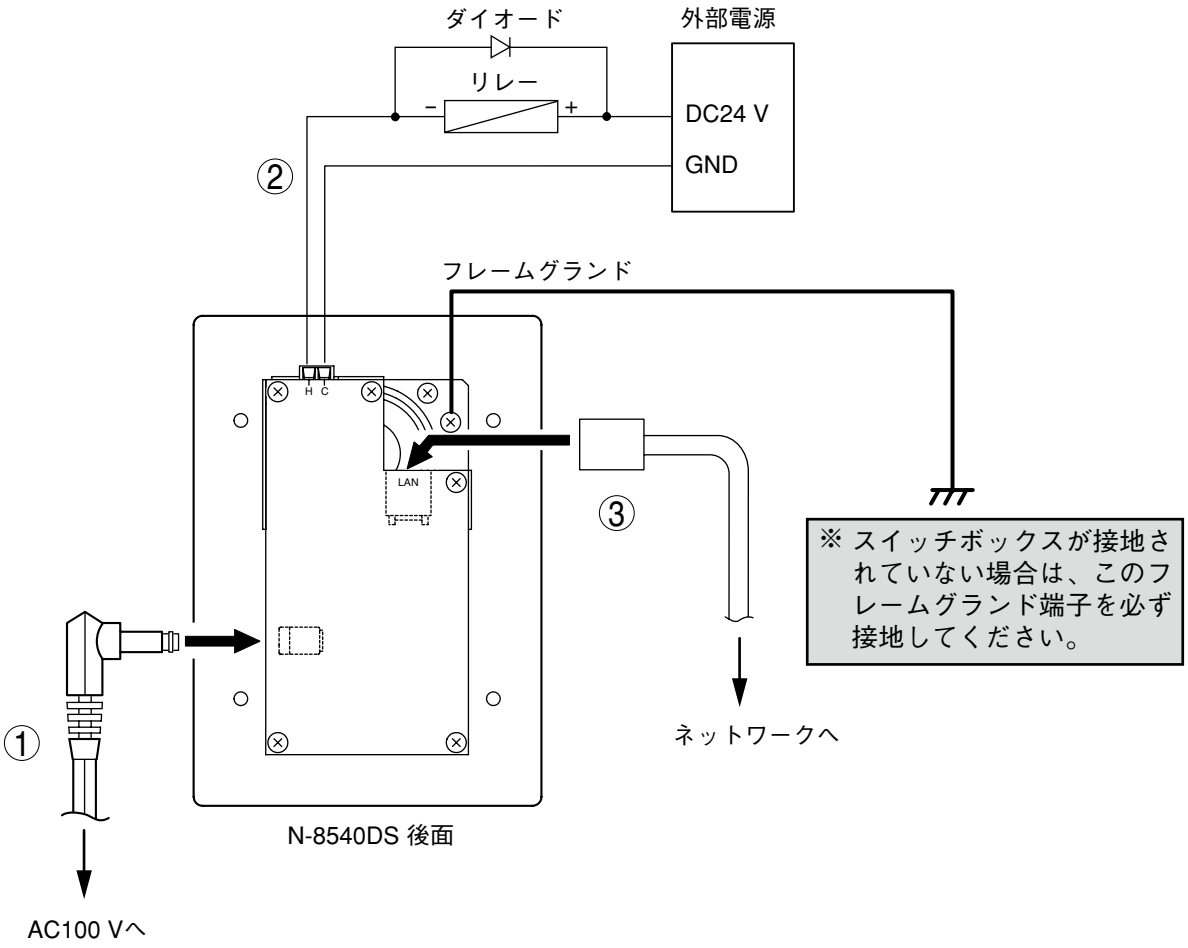
② ネットワーク接続端子の接続

10BASE-T/100BASE-TX のネットワークに自動判別で接続できます。
IEEE802.3af 準拠の PoE（Power over Ethernet）対応スイッチングハブと接続すれば、AC アダプターなしでも動作します。（接続のしかたについては、スイッチングハブに付属の説明書をお読みください。）
この接続には、UTP カテゴリー５規格以上のストレートケーブルを使用してください。

※ このケーブルには、フェライトクランプ（黒色、N-8610RM に付属）を装着してください。



● N-8540DS の接続



① AC アダプター端子の接続

AC アダプター AD-1210P または AD-1215P を接続します。

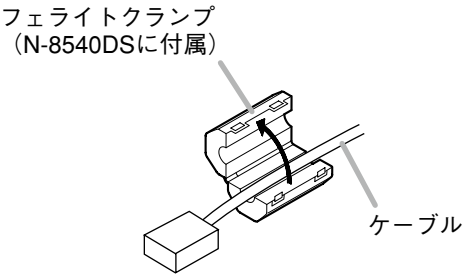
② 接点出力端子の接続

上図のように、外部リレーと接続できます。
（ターミナルプラグの結線のしかた ☞ P. 3-82）
［接点出力の仕様］
オープンコレクター出力
耐電圧　：DC30 V
制御電流：50 mA

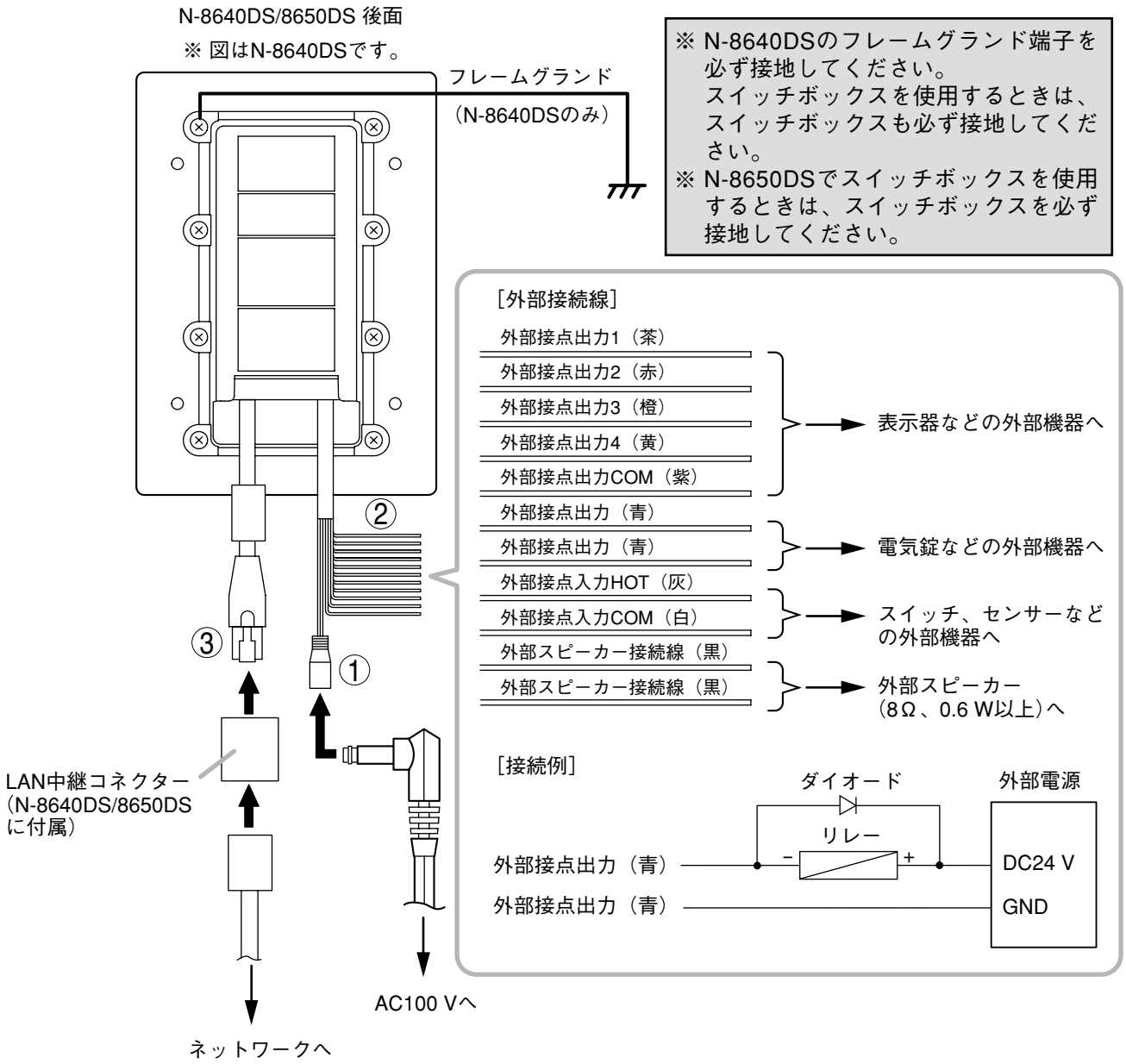
③ ネットワーク接続端子の接続

10BASE-T/100BASE-TX のネットワークに自動判別で接続できます。
IEEE802.3af 準拠の PoE（Power over Ethernet）対応スイッチングハブと接続すれば、AC アダプターなしでも動作します。（接続のしかたについては、スイッチングハブに付属の説明書をお読みください。）
この接続には、UTP カテゴリー５規格以上のストレートケーブルを使用してください。

※ このケーブルには、フェライトクランプ（N-8540DS に付属）を装着してください。



● N-8640DS/8650DS の接続



① AC アダプター端子の接続

AC アダプター AD-1210P または AD-1215P を接続します。

② 外部接続線の接続

［外部接点出力の仕様］

オープンコレクター出力
耐電圧　　：DC30 V
最大制御電流：50 mA

［外部接点出力（青×２）の仕様］

リレー接点出力
耐電圧　　：DC30 V
最大制御電流：500 mA

［外部接点入力（灰、白）の仕様］

無電圧メイク接点入力
開放電圧：DC5 V
短絡電流：10 mA 以下

③ ネットワーク接続端子の接続

10BASE-T/100BASE-TX のネットワークに自動判別で接続できます。
IEEE802.3af 準拠の PoE（Power over Ethernet）対応スイッチングハブと接続すれば、AC アダプターなしでも動作します。（接続のしかたについては、スイッチングハブに付属の説明書をお読みください。）
この接続には、UTP カテゴリー５規格以上のストレートケーブルを使用してください

■ 線材の選定

使用する線材は、次の条件により選定してください。

- 交換機から端末への配線、サブ端末接続ユニット N-8400RS からマスター端末 N-8410MS、サブ端末 RS-450/460/470/480 への配線、およびマルチインターフェースユニットの音声入出力端子、PBX インターフェース端子の配線は、必ずツイストペア線（電子ボタン電話用ケーブルなど）を使用してください。
- IP ネットワークへ接続する機器の接続には、RJ-45 コネクター付き UTP カテゴリー 5 規格以上のストレートケーブルを使用してください。
- ケーブルの対数は、将来の増設を十分に見込んだものとしてください。
- 点検のできない天井裏や床下などに配線するときは、屋外線を使用してください。
  ただし、熱気などによる障害の恐れがないときは、屋内線を使用することができます。
- サブ端末接続ユニット N-8000RS/8010RS からサブ端末 RS-150/160/170/180 またはスイッチパネル RS-140/142/143/144 への配線は、必ず 2 心シールド線を使用してください。

※ 各接続部の仕様は、次のとおりです。

圧接コネクター（N-8000EX/8010EX 回線端子）
（N-8000MI　PBX インターフェース端子）
（N-8000CO C/O ライン接続端子、N-8000AL 電話機接続端子）
導体径：φ 0.4 ～ 0.65 mm（AWG22 ～ 26）、単線
外形　：φ 1.05 mm 以下
クリップターミナル（E-7000TB）
導体径：φ 0.4 ～ 0.8 mm（AWG20 ～ 26）、単線
外形　：φ 1.5 mm 以下
着脱式ターミナルプラグ（N-8000EX ページング出力）
（N-8000MI 接点入出力端子・音声入出力端子）
（N-8000RS/8010RS/8400RS 回線端子）
（N-8000DI 接点入出力端子）
（N-8000AF 接点入出力端子・音声入出力端子・調時入力端子）
導体径：φ 0.5 ～ 2 mm（AWG12 ～ 24）、単線・より線
着脱式ターミナルプラグ（N-8031MS/8033MS 回線接続端子）
導体径：φ 0.4 ～ 1.6 mm（AWG14 ～ 26）、単線・より線
外部スピーカー端子（N-8000MS/8500MS/8600MS）、
緊急メッセージ起動端子（N-8510MS/8515MS/8610MS/8616MS）、接点出力端子（N-8616MS）
導体径：φ 0.4 ～ 1.3 mm（AWG16 ～ 26）、単線
φ 0.7 ～ 1.4 mm（AWG16 ～ 22）、より線
外部スピーカー端子、制御出力端子（N-8020MS）
導体径：φ 0.65 mm（AWG22）、単線
φ 0.7 mm（AWG22）、より線
外部ダイヤル入力端子（N-8031MS/8033MS）
導体径：φ 0.8 ～ 1.3 mm（AWG16 ～ 20）、単線・より線
端末ターミナル（N-8050DS 回線接続端子・接点出力端子、N-8540DS 接点出力端子）
導体径：φ 0.4 ～ 1.3 mm（AWG16 ～ 26）、単線・より線

■ 心線径と通達距離の関係

交換機と端末間の距離は、ループ抵抗が 170 Ω以下になるよう、次の表を目安に設計してください。

心線径（mm）	ループ抵抗（Ω / km）	交換機から端末までの最大延長距離 （ループ抵抗を 170 Ω として算出）
φ 0.4	295	570 m
φ 0.5	187	900 m
φ 0.65	113	1.5 km
φ 0.9	58	2.9 km

サブ端末接続ユニット N-8000RS/8010RS とサブ端末 RS-150/160/170/180、スイッチパネル RS-140/143/144 またはスイッチボード RS-142 を接続するケーブル（2 心シールド線）の最大延長距離は次のとおりです。

心線径（mm）	最大延長距離（km）
φ 0.5	0.5
φ 0.65	0.8
φ 0.9	1.3

サブ端末接続ユニット N-8400RS とマスター端末 N-8410MS またはサブ端末 RS-450/460/470/480 を接続するケーブル（2 対のツイストペア線）の最大延長距離は次のとおりです。

心線径（mm）	最大延長距離（km）
φ 0.5	1.0
φ 0.65	1.5
φ 0.9	2.0

■ コネクターの結線

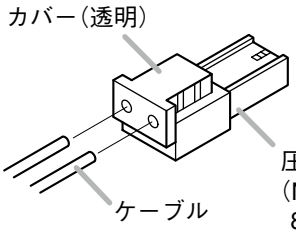
● 圧接コネクターの結線

市販の工具（プライヤー）を使用して、各機器に付属の圧接コネクターをケーブルに接続します。

1 **2本のケーブルの先端を同じ長さに切断し、圧接コネクターのカバー（透明側）に挿入する。**

※ ケーブルの被覆をむかずに挿入してください。

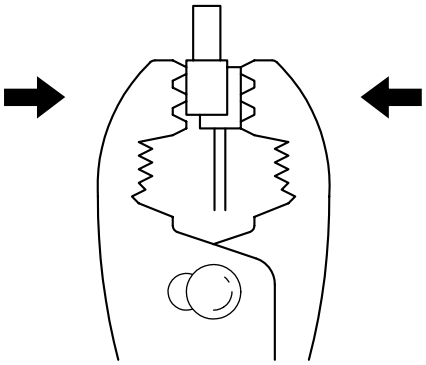
※ 使用する線材は P. 3-80「線材の選定」をお読みください。



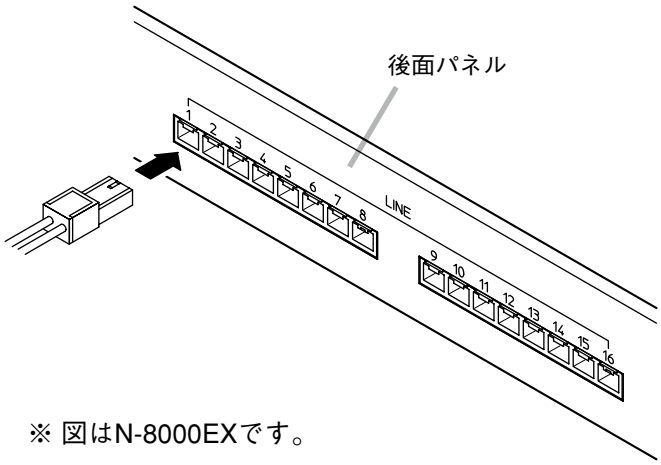
圧接コネクター
（N-8000EX/8010EX/8000MI
8000CO/8000ALに付属、
第一電子工業株式会社製
232D-02S1B-DA5）

2 **圧接コネクターのカバー全体をプライヤーで軽くはさみ、ケーブル挿入を確認してから圧接する。**

※ カバーが全体にロックされるまで確実に押し込んでください。



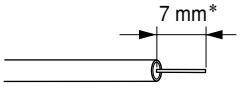
3 **機器後面のコネクター（ソケット）に、ケーブルを圧接したコネクター（プラグ）をロックするまで挿入する。**



※ 図はN-8000EXです。

● ターミナルプラグの結線

1 **ケーブルの先端に約 7 mm（N-8031MS/8033MS の場合のみ約 5 mm）のむきしろを作る。**



* N-8031MS/8033MSの場合のみ5 mm

※ 使用する線材は P. 3-80「線材の選定」をお読みください。

ご注意

より線を使用するときは、むきしろ部分にはんだめっきをしないでください。

2 端子ねじをゆるめて、線材を差し込む。

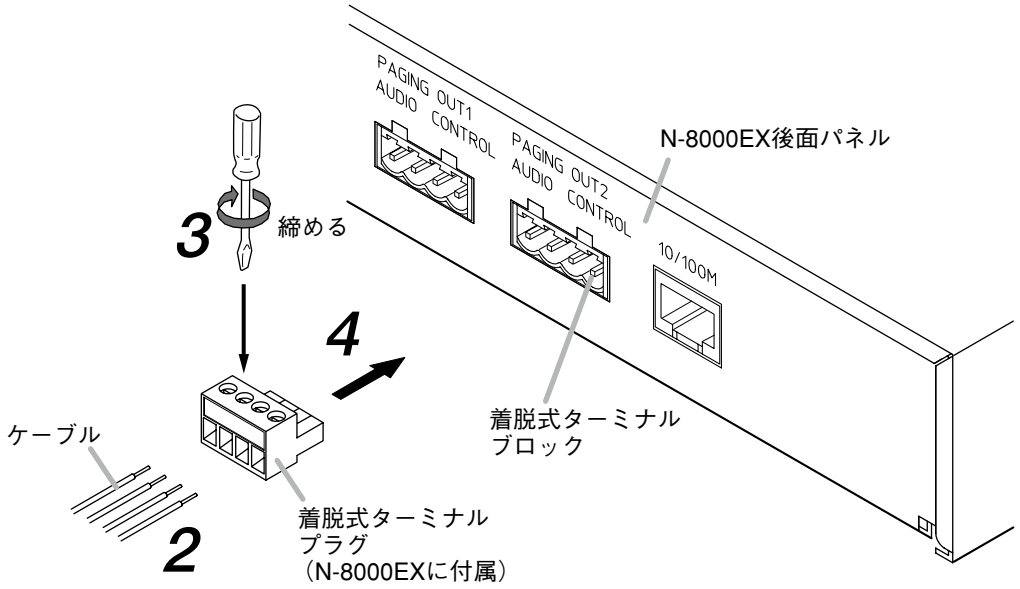
3 端子ねじをしっかりと締め付ける。

ご注意

- 線材を引っ張って抜けないことを確認してください。もし抜けた場合は端子ねじをゆるめ、やり直してください。
- ターミナルプラグのねじに合った適切なドライバーを使用してください。

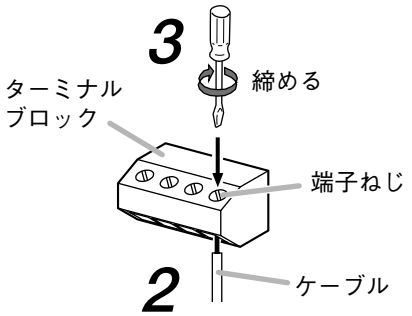
4 （着脱式の場合のみ）

本体のターミナルブロックまたはピンヘッダーに、ケーブルを接続したターミナルプラグを挿入する。



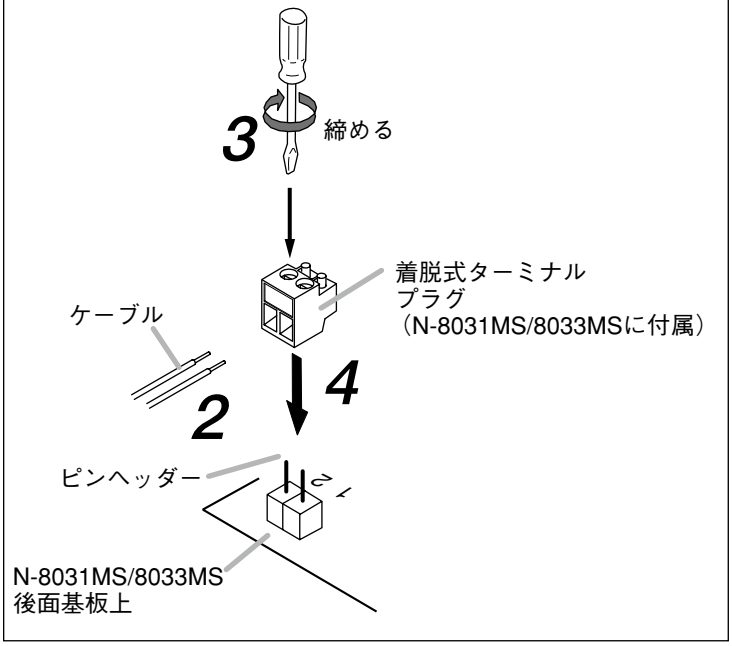
※ N-8000MI、N-8000RS、N-8010RS、N-8400RS、N-8000DI、N-8000AF の場合も N-8000EX と同様です。

［N-8050DSの場合］



※ N-8540DS の場合も N-8050DS と同様です。

［N-8031MS/8033MSの場合］



第 4 章

システム設定の流れ

この章では、システム設定の項目、システムの電源投入などについて説明します。

システム設定の前に

N-8000 シリーズを動作させるためには、システム・機器の設定が必要となります。
各設定は以下の 3 つの方法で行うことができます。各章にて詳細の設定方法を説明します。

・ソフトウェアを利用した設定（第 5 章　ソフトウェアによるシステム設定）
・ブラウザーを利用した設定　（第 6 章　ブラウザーによるシステム設定）
・多機能端末を利用した設定　（第 7 章　多機能端末によるシステム設定）

システムの電源を入れる

システム設定を行うためには、システムに電源が供給されている必要があります。

● 電源を入れるときのご注意

システムの電源を入れる前に、次のことをもう一度確認してください。
・ケーブル、コネクター類の配線と接続は正しく確実に行われているか。
・交換機および各種インターフェースユニットの機能アースは正しく接続されているか。

● 電源の入れかた

次の手順で電源を入れてください。

1 **接続されているネットワーク機器（スイッチングハブ、ルーターなど）の電源を入れる。**

2 **すべての交換機、各種インターフェースユニット、および IP 端末の電源を入れる。**

設定の手順

① ネットワーク設定をする。（☞ P. 5-17、P. 6-5、P. 7-8 ）

ネットワークに接続するすべての交換機、各種インターフェースユニット、および IP 端末のネットワーク設定（IP アドレス、デフォルトゲートウェイ、サブネットマスク）を行います。
下記の 3 通りの設定方法があります。
・ソフトウェアを利用した設定
・ブラウザーを利用した設定
・多機能端末を利用した設定
ネットワーク設定の概略は、次のページの「パソコンでのネットワーク設定」をお読みください。

② システム設定をする。（☞ P. 5-22）

交換機、各種インターフェースユニット、端末、ページングなどのシステムに関する各種設定を行います。
ソフトウェアを利用した設定を行います。
システム設定の概略は、「システム設定の項目と初期値」をお読みください。（☞ P. 4-5）

③ 設定を保存し、機器にアップロードする。（☞ P. 5-128）

設定内容を保存し、交換機、各種インターフェースユニット、および IP 端末に書き込みます。
ソフトウェアを利用した設定を行います。

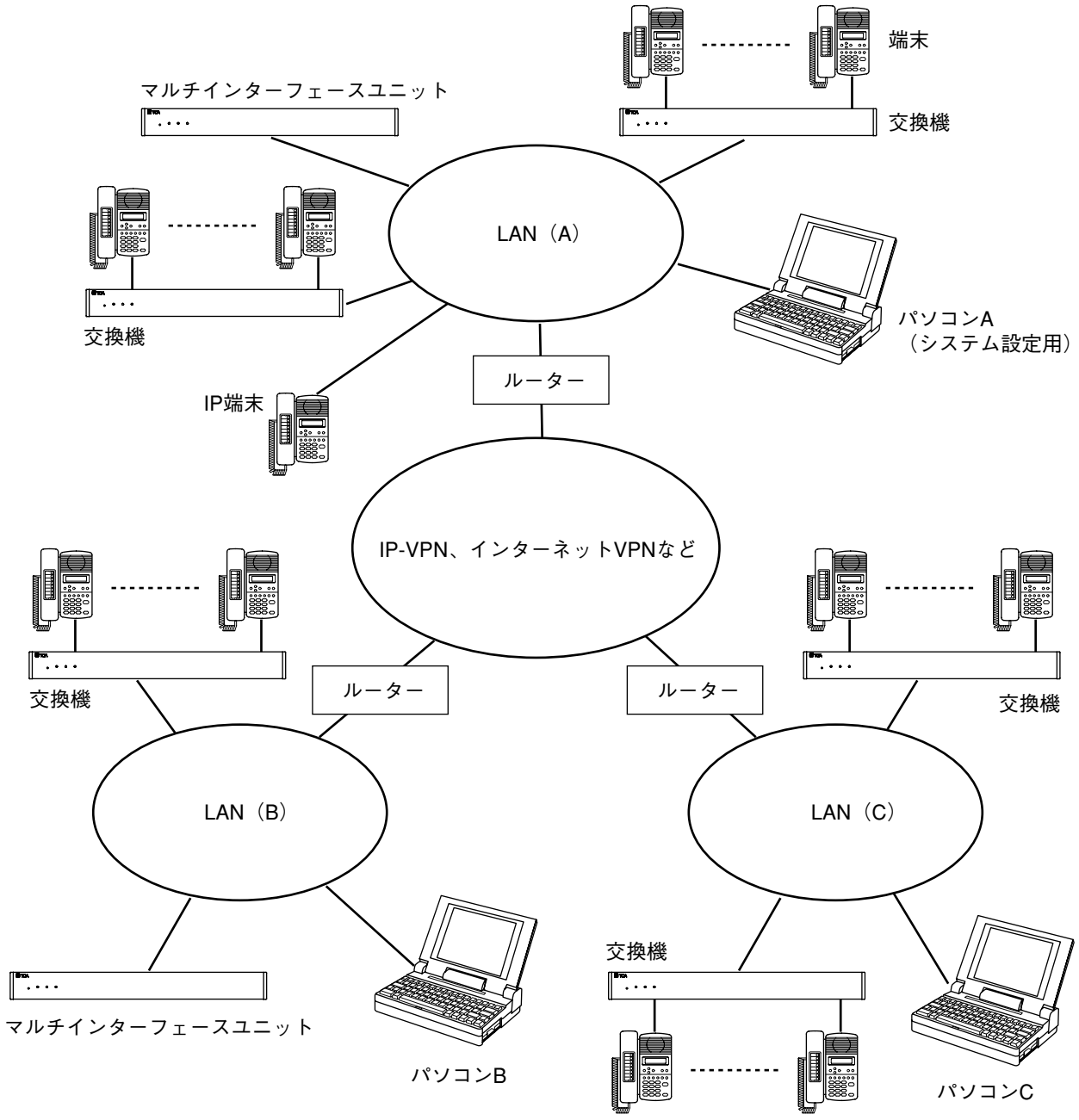
パソコンでのネットワーク設定

パソコンでのネットワーク設定はネットワーク構成によって方法が変わります。LAN 内（ブロードキャストが伝送できる範囲）であれば、特に注意は必要ありませんが、LAN 内ではない構成の場合は工夫が必要です。

3 つのローカルネットワーク（LAN）がインターネットを介して接続されているシステムを例に、パソコンで各交換機、各種インターフェースユニット、および各 IP 端末のネットワーク設定をする方法を説明します。

それぞれの LAN 内はブロードキャストが伝送できる範囲であり、異なる LAN 同士はブロードキャストが届かないものとします。
LAN（A）に接続されているパソコン A をシステム設定用とします。

[システムのイメージ図]



［設定の概略手順］

1 **システム設定用のパソコン*1 からブロードキャストが伝送できる範囲*2 にある交換機、各種インターフェースユニット、または IP 端末のネットワーク設定を、このパソコンを使って行う。**

*1 前ページの図ではパソコン A
*2 前ページの図では LAN（A）内
付属の N-8000 ソフトウェアの機器検出機能を使って設定してください。（☞ P. 5-17）

2 **システム設定用のパソコンからブロードキャストが伝送できない範囲*3 にある交換機、各種インターフェースユニット、または IP 端末のネットワーク設定を、各ローカルネットワーク内のパソコンを使って行う。**

*3 前ページの図では LAN（B）と（C）

- N-8000 ソフトウェアの機器検出機能を使って設定します。

  ご注意

  このとき、N-8000 ソフトウェアは交換機、各種インターフェースユニット、または IP 端末のネットワーク設定にのみお使いください。システム全体に関する各種設定は、パソコン A で行ってください。

- 次の①、②いずれかの方法でも設定できます。（☞ P. 6-5）
  ① Web ブラウザーを使ってネットワークを介して設定する。

  ご注意

  交換機、各種インターフェースユニット、または IP 端末が複数台あり、IP アドレスが同じ（工場出荷時はすべて同じ）場合は、1 台ずつネットワークに接続して設定してください。

  ② 交換機、各種インターフェースユニット、または IP 端末を LAN から外して、直接パソコンにクロスケーブルで接続し、Web ブラウザーを使って設定する。

- パソコンを使わないで、多機能マスター端末のメニュー画面を使って設定する方法もあります。
  交換機のネットワーク設定をするときは、設定したい交換機に多機能マスター端末を接続して設定してください。
  IP 多機能マスター端末の場合は、メニュー画面を使って、その端末のネットワーク設定をすることができます。（☞ P. 7-8）

3 **ネットワーク上のすべての交換機、各種インターフェースユニット、および IP 端末をシステム設定用のパソコンから通信できるようにする。**

システム設定用のパソコンで N-8000 ソフトウェアのシステム設定機能を使って、**手順 1** または **2** でネットワーク設定をした交換機、各種インターフェースユニット、および IP 端末を登録してください。
（☞ P. 5-22）

以上の手順で、システム設定用のパソコンからシステム内のすべての交換機、各種インターフェースユニット、または IP 端末と通信ができます。

システム設定の項目と初期値

システム設定は、オートダイヤルの登録を除くすべての設定項目について、付属の N-8000 ソフトウェアで行えます。
一部の設定項目は、ブラウザー、端末からも設定できます。ただし、ブラウザーからは、接続している交換機、各種インターフェースユニット、または IP 端末に対してのみの設定となります。また、端末からは接続している交換機に対して、あるいは自端末に関してのみの設定となります。
システム設定の分類と項目、および各項目についての工場出荷時の初期値などは以下の一覧のとおりです。

※ 表中の略語はソ：ソフトウェア、ブ：ブラウザー、端：端末を表します。

■ システム全般

左タブ名	項目名	初期値	参照ページ
機器登録	各機器必要台数	——	P. 5-23
	機器番号	1 ～	P. 5-23
	機器名称*1	各機器の品番（例：N-8000EX）	ソ：P. 5-23 ブ：P. 6-6
端末一覧	端末番号桁数	2	P. 5-25
	端末番号*2	回線 1 は 10、回線 2 は 11、……、回線 16 は 25	ソ：P. 5-26 端：P. 7-9
	端末名称	——	P. 5-26
ネットワーク通信の登録		——	P. 5-27
マルチキャストの登録		——	P. 5-28
システム設定	通信応答モード	着信優先	P. 5-29
	クロックマスター	——	
	NTP クライアント	——	
	タイムシグナル	——	
	サマータイム設定	OFF	P. 5-30
	サマータイム開始時間	1 月 1 日 0:00	
	サマータイム終了時間	1 月 1 日 0:00	
	NTP サーバーアドレス	——	
	NTP サーバーポート	——	
	NTP 同期時間	2:45	
	システム同期時刻設定	3:00	
	局線制御パスワード	0000	
	端末保守パスワード	——	
外部システム設定	SX システムの有効／無効	無効	P. 5-31
	登録する SX-200IP の機器番号	——	
	スロット情報	——	

・すべての項目でソフトウェアからの設定可
*1 ブラウザーからも設定可
*2 多機能マスター端末 N-8000MS、IP 多機能マスター端末 N-8500MS/8600MS の場合のみ、端末からも設定可

■ 交換機

左タブ名	項目名	初期値	参照ページ
ネットワーク設定	IP アドレス*1、2、3	192.168.1.1	ソ：P. 5-33 ブ：P. 6-5 端：P. 7-8
	サブネットマスク*1、2、3	255.255.255.0	ソ：P. 5-33 ブ：P. 6-5 端：P. 7-8
	デフォルトゲートウェイ*1、2、3	0.0.0.0	ソ：P. 5-33 ブ：P. 6-6 端：P. 7-8
	Web サーバーポート番号*1、2	80	ソ：P. 5-34 ブ：P. 6-6
	TCP 開始ポート番号	5000	P. 5-34
	UDP 開始ポート番号	5006	
	ページング用ポート番号	6000	
	NAPT 対応の可否	有効でない	
	ネットワーク ID	1	P. 5-35
	WAN 側 IP アドレス	192.168.1.1	
	WAN 側 Web サーバーポート番号	80	
	WAN 側 TCP 開始ポート番号	5000	
	WAN 側 UDP 開始ポート番号	5006	
	音声スペック	高音質モード	P. 5-36
	通信容量	2990 kbps	
サンプリング周波数補正	サンプリング周波数補正	自動	P. 5-37
	送信先 IP アドレス	——	
	送信先ポート番号	——	
	受信元 IP アドレス	——	
	受信マルチキャスト使用可否	——	
	受信マルチキャストアドレス	——	
機能設定	不在転送機能	OFF ——	P. 5-38
	時刻連動不在転送機能	OFF ——	
	時刻連動不在転送開始時刻	0:00	
	時刻連動不在転送終了時刻	0:00	
	話中転送機能	OFF	
	不応答転送機能	OFF	
	不応答転送呼び出し時間	10 秒	
	ワンショットメイク時間	1 秒	

・すべての項目でソフトウェアからの設定可
*1 ネットワーク経由で設定、通話するために、必ず設定してください。
*2 ブラウザーからも設定可
*3 多機能マスター端末 N-8000MS の場合のみ、端末からも設定可

左タブ名	項目名	初期値	参照ページ
機能設定	呼び出し時間制限	制限なし	P. 5-39
	通話時間制限	制限なし	
	ページング時間制限	制限なし	
	BGM 入力	——	
	時刻連動音声トリガ設定	OFF	
	開始時刻	0:00	
	終了時刻	0:00	
	音声トリガ時間制限設定	ON	
	制限時間	10 秒	
	ページング予鈴音設定	ON	
	ページング予鈴音遅延時間	0	
	ページング応答モード	系統選択	
	通話 / ページング優先設定	ページング優先	
	発呼局表示モード	呼び出し・通話中メイク	P. 5-40
	ドア端末接点動作モード	ドアリモート制御	

・すべての項目でソフトウェアからの設定可

■ マルチインターフェース

左タブ名	項目名	初期値	参照ページ
ネットワーク設定	IP アドレス*1、2	192.168.1.1	ソ：P. 5-41 ブ：P. 6-5
	サブネットマスク*1、2	255.255.255.0	
	デフォルトゲートウェイ*1、2	0.0.0.0	ソ：P. 5-41 ブ：P. 6-6
	Web サーバーポート番号*1、2	80	ソ：P. 5-42 ブ：P. 6-6
	TCP 開始ポート番号	5000	P. 5-42
	UDP 開始ポート番号	5006	
	ページング用ポート番号	6000	
	NAPT 対応の可否	有効でない	
	ネットワーク ID	1	P. 5-43
	WAN 側 IP アドレス	192.168.1.1	
	WAN 側 Web サーバーポート番号	80	
	WAN 側 TCP 開始ポート番号	5000	
	WAN 側 UDP 開始ポート番号	5006	
	音声スペック	高音質モード	P. 5-44
	通信容量	2990 kbps	
サンプリング周波数補正	サンプリング周波数補正	自動	P. 5-45
	送信先 IP アドレス	——	
	送信先ポート番号	——	
	受信元 IP アドレス	——	
	受信マルチキャスト使用可否	——	
	受信マルチキャストアドレス	——	
機能設定	ワンショットメイク時間	1 秒	P. 5-46
	呼び出し時間制限	制限なし	
	通話時間制限	制限なし	
	ページング時間制限	制限なし	P. 5-47
	外部入力放送優先	OFF	
	ページング応答モード	系統選択	
	通話 / ページング優先設定	ページング優先	

・すべての項目でソフトウェアからの設定可
*1 ネットワーク経由で設定、通話するために、必ず設定してください。
*2 ブラウザーからも設定可

左タブ名	項目名	初期値	参照ページ
音声入出力	入力動作モード	使用しない	P. 5-48
	出力動作モード	使用しない	P. 5-49
	入力感度	1	
	特番	——	
	（外部入力放送の）放送先系統	——	
	出力レベル	4	
	回線属性	PB	
	回線方式	ウィンクスタート方式	
接点入力	接点入力番号	1	P. 5-50
	動作モード	使用しない	
	入力連動接点　ドア端末番号	——	P. 5-51
	入力連動接点　ドア端末接点番号	——	
	入力連動接点　MI/DI 機器番号	——	
	入力連動接点　MI/DI 接点番号	——	
	外部入力放送　放送先系統番号	——	
	外部入力放送　音声番号	——	
	リモートダイヤル　機器番号	——	
	リモートダイヤル　回線番号	——	
	リモートダイヤル　ダイヤルコード	——	
接点出力	接点出力番号	1	P. 5-52
	外部機器制御の操作番号	——	
	外部機器制御の操作番号桁数	2	
	回線状態診断	使用しない	
	ネットワーク状態診断	使用しない	

・すべての項目でソフトウェアからの設定可

■ サブ端末インターフェース

左タブ名	項目名	初期値	参照ページ
ネットワーク設定	IP アドレス*1、2	192.168.1.1	ソ：P. 5-53 ブ：P. 6-5
	サブネットマスク*1、2	255.255.255.0	
	デフォルトゲートウェイ*1、2	0.0.0.0	ソ：P. 5-53 ブ：P. 6-6
	Web サーバーポート番号*1、2	80	ソ：P. 5-54 ブ：P. 6-6
	TCP 開始ポート番号	5000	P. 5-54
	UDP 開始ポート番号	5006	
	ページング用ポート番号	6000	
	NAPT 対応の可否	有効でない	
	ネットワーク ID	1	P. 5-55
	WAN 側 IP アドレス	192.168.1.1	
	WAN 側 Web サーバーポート番号	80	
	WAN 側 TCP 開始ポート番号	5000	
	WAN 側 UDP 開始ポート番号	5006	
	音声スペック	高音質モード	P. 5-56
	通信容量	2990 kbps	
機能設定	呼び出し時間制限	制限なし	P. 5-57
	通話時間制限	制限なし	
	ページング時間制限	制限なし	
	ページング応答モード	系統選択	P. 5-58
	発呼局表示モード	呼び出し・通話中メイク	
サブ端末設定	マスター呼出　Call 1	——	P. 5-59
	マスター呼出　Call 2	——	
	マスター呼出　Call 3	——	
	音量　呼び出し音量	3	
	サブ端末選択　回線番号	——	
	サブ端末選択　サブ端末番号	——	
	サブ端末選択　サブ端末名称	——	
	呼び出し優先度（Call 1）	1（RS-144 の場合のみ 5）	P. 5-60
	呼び出し優先度（Call 2）	1	
	呼び出し優先度（Call 3）	1	
	音量　マイク感度	2	
	音量　スピーカー出力	3	
	表示接点　MI/DI/AF 機器番号	——	
	表示接点　接点出力番号	——	
	呼び出し先端末番号	——	
	呼び出しボタンの制限（3 回押し）をする	OFF	
	呼び出し音あり	ON	
	他端末からの割り込みを拒否する	OFF	
	緊急呼び出し操作可	OFF	

・すべての項目でソフトウェアからの設定可
*1 ネットワーク経由で設定、通話するために、必ず設定してください。
*2 ブラウザーからも設定可

■ IP 端末

左タブ名	項目名	初期値	参照ページ
ネットワーク設定	IP アドレス*1、2、3	192.168.1.1	ソ：P. 5-61 ブ：P. 6-5 端：P. 7-8
	サブネットマスク*1、2、3	255.255.255.0	
	デフォルトゲートウェイ*1、2、3	0.0.0.0	ソ：P. 5-61 ブ：P. 6-6 端：P. 7-8
	Web サーバーポート番号*1、2	80	ソ：P. 5-62 ブ：P. 6-6
	TCP 開始ポート番号	5000	P. 5-62
	UDP 開始ポート番号	5006	
	ページング用ポート番号	6000	
	NAPT 対応の可否	有効でない	
	ネットワーク ID	1	P. 5-63
	WAN 側 IP アドレス	192.168.1.1	
	WAN 側 Web サーバーポート番号	80	
	WAN 側 TCP 開始ポート番号	5000	
	WAN 側 UDP 開始ポート番号	5006	
	音声スペック	高音質モード	P. 5-64
	通信容量	2990 kbps	
機能設定 1	不在転送機能	OFF	P. 5-65
	時刻連動不在転送機能	OFF	
	時刻連動不在転送開始時刻	0:00	
	時刻連動不在転送終了時刻	0:00	
	話中転送機能	OFF	
	不応答転送機能	OFF	
	不応答転送呼び出し時間	10 秒	
	ワンショットメイク時間	1 秒	
	呼び出し時間制限	制限なし	P. 5-66
	通話時間制限	制限なし	
	ページング時間制限	制限なし	
	BGM 入力	——	
	ページング予鈴音設定	ON	
	ページング予鈴音遅延時間	0	
	ページング応答モード	系統選択	
	通話 / ページング優先設定	ページング優先	

・すべての項目でソフトウェアからの設定可
*1 ネットワーク経由で設定、通話するために、必ず設定してください。
*2 ブラウザーからも設定可
*3 IP 多機能マスター端末 N-8500MS/8600MS の場合のみ、端末からも設定可

左タブ名	項目名	初期値	参照ページ
機能設定 1	発呼局表示モード	呼び出し・通話中メイク	P. 5-67
	ドア端末接点動作モード	1ch：ドアリモート制御	
機能設定 2	着信モード	自動着信	P. 5-68
	呼び出し音あり	ON	
	音量　マイク感度	2	
	音量　スピーカー出力*	3	ソ：P. 5-68 端：P. 2-5
	音量　呼び出し音量	3	P. 5-68
	グループ呼び出し端末番号	——	
	転送先　不在転送先*	——	ソ：P. 5-69 端：P. 2-21
	転送先　時刻連動不在転送先*	——	ソ：P. 5-69 端：P. 2-22
	転送先　話中転送先*	——	ソ：P. 5-69 端：P. 2-18
	転送先　不応答転送先*	——	ソ：P. 5-69 端：P. 2-20
	呼び出し優先順位　優先度	1	P. 5-69
	BGM　BGM を受信する*	OFF	ソ：P. 5-69 端：P. 2-69
	BGM　BGM 入力 ch*	——	
	ドアリモート　MI/DI/AF 機器番号	——	P. 5-69
	ドアリモート　接点出力番号	——	
	発呼局表示 /CCTV 連動　機器番号	——	
	発呼局表示 /CCTV 連動　接点出力番号	——	
	呼び出し先端末番号	——	
	通話録音　録音する	OFF	
	通話録音　AF 機器番号	——	
	スピーカー出力切替　ページング	内部スピーカー	
	アクセスコード認証　認証をする	OFF	P. 5-70
	アクセスコード認証　暗証番号	——	
	音声トリガ　音声トリガ機能を使う	OFF	
	音声トリガ　動作モード	マスター呼び出し	
	音声トリガ　機器番号	——	
	音声トリガ　接点出力番号	——	
	音声トリガ　検出方法	レベル検出	
	音声トリガ　検出時間（レベル）	5	
	音声トリガ　音圧レベル	5	

・すべての項目でソフトウェアからの設定可
* IP マスター端末の場合のみ、端末からも設定可

左タブ名	項目名	初期値	参照ページ
機能設定 2	音声トリガ　検出時間（音声）	5	P. 5-70
	音声トリガ　感度	5	
	外部制御入力	——	
	ドアホンモード	OFF	
	呼び出しボタンの制限（3 回押し）をする	OFF	
	他端末への割り込み操作をする	不可	
	他端末からの割り込みを拒否する	不可	
	緊急呼び出し操作可	不可	
	ページング呼び出し操作可	可能	
	緊急一斉ページング呼び出し可	不可	
	音声トリガ設定操作可	不可	
	外部機器制御操作可	不可	
短縮ダイヤル	ワンタッチダイヤル*1	——	ソ：P. 5-71 端：P. 2-13
	マスター呼出 端末番号	——	P. 5-71
	オートダイヤル*2	——	P. 2-12
スキャンモニター	スキャンモニター時間	3（秒）	P. 5-72
	スキャンモニター モニター警告	なし	
	スキャンモニター グループ別端末番号	——	
緊急メッセージ	緊急メッセージ放送操作をする	OFF	P. 5-73
	時刻連動起動制限　時刻連動あり	OFF	
	時刻連動開始時刻	00:00	
	時刻連動終了時刻	00:00	
	緊急メッセージ起動方法	ダイヤル操作のみ	
	ページング系統番号	一斉	
	繰り返し	制限なし	
	スピーカー出力　操作端末はミュートする	OFF	P. 5-74
	内部接点出力機能を使う	OFF	
	内部接点出力 緊急メッセージ送信	ON	
	内部接点出力 緊急メッセージ受信	OFF	
	内部接点出力 連動内部接点モード	起動中メイク	
	接点連動制御 MI/DI/AF 機器番号	——	
	接点連動制御 接点出力番号	——	
	接点連動制御 連動接点モード	起動中メイク	

・「オートダイヤル」以外のすべての項目でソフトウェアからの設定可
*1 IP マスター端末からも設定可
*2 IP 多機能マスター端末 N-8500MS/8600MS からのみ設定可

左タブ名	項目名	初期値	参照ページ
リモートマイク設定	トークキー　PTT or LOCK	PTT	P. 5-75
	トークキー　Time out（LOCK 時）	None	
	チャイム　Start chime	None	
	チャイム　End chime	None	
	チャイム　チャイム音量	−6（dB）	
	チャイム　待ち時間	0（秒）	
	優先設定	SX-2000	
	RM-210 台数	0	
	機能キー	——	
パターン	ゾーン	——	P. 5-80
	制御入出力	——	
	ダイヤル	——	

・すべての項目でソフトウェアからの設定可

■ 端末

左タブ名	項目名	初期値	参照ページ
機能設定	着信モード	自動着信	P. 5-82
	呼び出し音あり	ON	
	音量　マイク感度	2	
	音量　スピーカー出力*	3	ソ：P. 5-83 端：P. 2-5
	音量　呼び出し音量	3	P. 5-83
	グループ呼び出し端末番号	——	
	転送先　不在転送先*	——	ソ：P. 5-83 端：P. 2-21
	転送先　時刻連動不在転送先*	——	ソ：P. 5-83 端：P. 2-22
	転送先　話中転送先*	——	ソ：P. 5-83 端：P. 2-18
	転送先　不応答転送先*	——	ソ：P. 5-83 端：P. 2-20
	呼び出し優先順位　優先度	1	P. 5-83
	BGM　BGM を受信する*	OFF	ソ：P. 5-83 端：P. 2-69
	BGM　BGM 入力 ch*	——	
	ドアリモート　MI/DI/AF 機器番号	——	P. 5-83
	ドアリモート　接点出力番号	——	
	発呼局表示 /CCTV 連動　機器番号	——	P. 5-84
	発呼局表示 /CCTV 連動　接点出力番号	——	
	呼び出し先端末番号	——	
	通話録音　録音する	OFF	
	通話録音　AF 機器番号	——	
	アクセスコード認証　認証をする	OFF	
	アクセスコード認証　暗証番号	——	
	音声トリガ　音声トリガ機能を使う	OFF	
	音声トリガ　動作モード	マスター呼び出し	
	音声トリガ　機器番号	——	
	音声トリガ　接点出力番号	——	
	音声トリガ　検出方法	レベル検出	
	音声トリガ　検出時間（レベル）	5	
	音声トリガ　音圧レベル	5	
	音声トリガ　検出時間（音声）	5	
	音声トリガ　感度	5	

・すべての項目でソフトウェアからの設定可
* マスター端末の場合のみ、端末からも設定可

左タブ名	項目名	初期値	参照ページ
機能設定	ドアホンモード	——	P. 5-85
	呼び出しボタンの制限（3 回押し）をする	OFF	
	他端末への割り込み操作をする	OFF	
	他端末からの割り込みを拒否する	不可	
	緊急呼び出し操作可	不可	
	ページング呼び出し操作可	可能	
	緊急一斉ページング呼び出し可	不可	
	音声トリガ設定操作可	不可	
	外部機器制御操作可	不可	
短縮ダイヤル	ワンタッチダイヤル*1	——	ソ：P. 5-86 端：P. 2-13
	マスター呼出　端末番号	——	P. 5-86
	オートダイヤル*2	——	P. 2-12
スキャンモニター	スキャンモニター時間	3（秒）	P. 5-87
	スキャンモニター　モニター警告	なし	
	スキャンモニター　グループ別端末番号	——	

・「オートダイヤル」以外のすべての項目でソフトウェアからの設定可
*1 マスター端末からも設定可
*2 多機能マスター端末 N-8000MS からのみ設定可

■ 局線インターフェース

左タブ名	項目名	初期値	参照ページ
ネットワーク設定	IP アドレス*1、2	192.168.1.1	ソ：P. 5-88 ブ：P. 6-5
	サブネットマスク*1、2	255.255.255.0	
	デフォルトゲートウェイ*1、2	0.0.0.0	ソ：P. 5-88 ブ：P. 6-6
	Web サーバーポート番号*1、2	80	ソ：P. 5-89 ブ：P. 6-6
	TCP 開始ポート番号	5000	P. 5-89
	UDP 開始ポート番号	5006	
	ページング用ポート番号	6000	
	NAPT 対応の可否	有効でない	
	ネットワーク ID	1	P. 5-90
	WAN 側 IP アドレス	192.168.1.1	
	WAN 側 Web サーバーポート番号	80	
	WAN 側 TCP 開始ポート番号	5000	
	WAN 側 UDP 開始ポート番号	5006	
	音声スペック	高音質モード	P. 5-91
	通信容量	2990 kbps	
機能設定 1	発呼局表示 /CCTV 連動　機器番号	——	P. 5-92
	発呼局表示 /CCTV 連動　接点出力番号	——	
	通話録音　録音する	OFF	
	通話録音　AF 機器番号	——	
	ページング呼び出し操作可	不可	
	スキャンモニター操作可	不可	
	外部機器制御操作可	不可	
機能設定 2	局線設定　局線名称	——	P. 5-93
	局線接続時間	5（分）	
	局線スキャンモニター接続時間	5（分）	
	ページング時間制限	制限なし	
	発信特番	——	
	転送先電話番号	——	
	ダイレクトインダイヤル操作可否	不可	P. 5-94
	ダイレクトインライン操作可否	不可	
	ダイレクトインライン　代表端末	——	
	ダイレクトインライン　メンバー端末	——	
	ページング予鈴音設定	ON	
	ページング予鈴音遅延時間	0	
	局線制御パスワードを使用する	ON	

・すべての項目でソフトウェアからの設定可
*1 ネットワーク経由で設定、通話するために、必ず設定してください。
*2 ブラウザーからも設定可

左タブ名	項目名	初期値	参照ページ
スキャンモニター	スキャンモニター時間	3（秒）	P. 5-95
	スキャンモニター　モニター警告	なし	
	スキャンモニター　グループ別端末番号	——	

・すべての項目でソフトウェアからの設定可

■ 電話インターフェース

左タブ名	項目名	初期値	参照ページ
ネットワーク設定	IP アドレス*1、2	192.168.1.1	ソ：P. 5-96 ブ：P. 6-5
	サブネットマスク*1、2	255.255.255.0	
	デフォルトゲートウェイ*1、2	0.0.0.0	ソ：P. 5-96 ブ：P. 6-6
	Web サーバーポート番号*1、2	80	ソ：P. 5-97 ブ：P. 6-6
	TCP 開始ポート番号	5000	P. 5-97
	UDP 開始ポート番号	5006	
	ページング用ポート番号	6000	
	NAPT 対応の可否	有効でない	
	ネットワーク ID	1	P. 5-98
	WAN 側 IP アドレス	192.168.1.1	
	WAN 側 Web サーバーポート番号	80	
	WAN 側 TCP 開始ポート番号	5000	
	WAN 側 UDP 開始ポート番号	5006	
	音声スペック	高音質モード	P. 5-99
	通信容量	2990 kbps	
機能設定 1	不在転送機能	OFF	P. 5-100
	時刻連動不在転送機能	OFF	
	時刻連動不在転送開始時刻	0:00	
	時刻連動不在転送終了時刻	0:00	
	話中転送機能	OFF	
	不応答転送機能	OFF	
	不応答転送呼び出し時間	10 秒	
	ワンショットメイク時間	1 秒	
	呼び出し時間制限	制限なし	P. 5-101
	通話時間制限	制限なし	
	ページング時間制限	制限なし	

・すべての項目でソフトウェアからの設定可
*1 ネットワーク経由で設定、通話するために、必ず設定してください。
*2 ブラウザーからも設定可

左タブ名	項目名	初期値	参照ページ
機能設定 1	ページング予鈴音設定	ON	P. 5-101
	ページング予鈴音遅延時間	0	
	ページング応答モード	系統選択	
	発呼局表示モード	呼び出し・通話中メイク	
機能設定 2	音量　マイク感度	2	P. 5-102
	音量　スピーカー出力	3	
	音量　呼び出し音量	3	
	グループ呼び出し端末番号	——	
	転送先　不在転送先*	——	ソ：P. 5-103 端：P. 2-139
	転送先　時刻連動不在転送先*	——	ソ：P. 5-103 端：P. 2-140
	転送先　話中転送先*	——	ソ：P. 5-103 端：P. 2-136
	転送先　不応答転送先*	——	ソ：P. 5-103 端：P. 2-138
	ドアリモート　MI/DI/AF 機器番号	——	P. 5-103
	ドアリモート　接点出力番号	——	
	発呼局表示 /CCTV 連動　機器番号	——	
	発呼局表示 /CCTV 連動　接点出力番号	——	
	呼び出し先端末番号	——	
	通話録音　録音する	OFF	
	通話録音　AF 機器番号	——	
	他端末への割り込み操作をする	不可	
	ページング呼び出し操作可	可能	
	緊急一斉ページング呼び出し可	不可	
	外部機器制御操作可	不可	
スキャンモニター	スキャンモニター時間	3（秒）	P. 5-104
	スキャンモニター　モニター警告	なし	
	スキャンモニター　グループ別端末番号	——	

・すべての項目でソフトウェアからの設定可
* 端末からも設定可

■ 音声インターフェース

左タブ名	項目名	初期値	参照ページ
ネットワーク設定	IP アドレス*1、2	192.168.1.1	ソ：P. 5-105 ブ：P. 6-5
	サブネットマスク*1、2	255.255.255.0	
	デフォルトゲートウェイ*1、2	0.0.0.0	ソ：P. 5-105 ブ：P. 6-6
	Web サーバーポート番号*1、2	80	ソ：P. 5-106 ブ：P. 6-6
	TCP 開始ポート番号	5000	P. 5-106
	UDP 開始ポート番号	5006	
	ページング用ポート番号	6000	
	NAPT 対応の可否	有効でない	
	ネットワーク ID	1	P. 5-107
	WAN 側 IP アドレス	192.168.1.1	
	WAN 側 Web サーバーポート番号	80	
	WAN 側 TCP 開始ポート番号	5000	
	WAN 側 UDP 開始ポート番号	5006	
	音声スペック	高音質モード	P. 5-108
	通信容量	2990kbps	
機能設定	ワンショットメイク時間	1 秒	P. 5-109
	動作モード	未登録	
	外部入力放送 / 接点入力放送先系統番号	——	
	外部入力放送 / ページング時間制限	OFF	
	外部入力放送 / ページング制限時間	0	
	ページング遅延時間	0	
	ページング / 外部入力放送優先	OFF	
	入力レベル	LINE	
	調時　調時機能を使う	OFF	P. 5-110
	調時　開始時刻	00:00:00	
	調時　終了時刻	00:10:00	
	タイムシグナル　スケジュール設定	——	

・すべての項目でソフトウェアからの設定可
*1 ネットワーク経由で設定、通話するために、必ず設定してください。
*2 ブラウザーからも設定可

左タブ名	項目名	初期値	参照ページ
スケジュール設定	音源起動時間	10	P. 5-110
	外部タイマー起動可	OFF	
	音源番号	1	
	ページング系統	——	
	外部機器起動　機器番号	——	P. 5-111
	外部機器起動　接点番号	——	
	外部機器起動　起動時間	10	
	名称	——	
	設定時間	00:00:00	
	対応曜日	OFF	
	ページング系統番号	——	
	音源番号	1	
	外部機器制御可否	OFF	
接点出力	接点出力番号	1	P. 5-112
	外部機器制御の操作番号	——	
	外部機器制御の操作番号桁数	2	
	回線状態診断	使用しない	
	ネットワーク状態診断	使用しない	

・すべての項目でソフトウェアからの設定可

■ ダイレクトセレクト

左タブ名	項目名	初期値	参照ページ
ネットワーク設定	IP アドレス*1、2	192.168.1.1	ソ：P. 5-113 ブ：P. 6-5
	サブネットマスク*1、2	255.255.255.0	
	デフォルトゲートウェイ*1、2	0.0.0.0	ソ：P. 5-113 ブ：P. 6-6
	Web サーバーポート番号*1、2	80	ソ：P. 5-114 ブ：P. 6-6
	TCP 開始ポート番号	5000	P. 5-114
	NAPT 対応の可否	有効でない	
	ネットワーク ID	1	P. 5-115
	WAN 側 IP アドレス	192.168.1.1	
	WAN 側 Web サーバーポート番号	80	
	WAN 側 TCP 開始ポート番号	5000	
機能設定	ワンショットメイク時間	1 秒	P. 5-116
接点入力	接点入力番号	1	P. 5-117
	動作モード	使用しない	
	入力連動接点　ドア端末番号		P. 5-118
	入力連動接点　ドア端末接点番号	——	
	入力連動接点　MI/DI 機器番号	——	
	入力連動接点　MI/DI 接点番号	——	
	リモートダイヤル　機器番号	——	
	リモートダイヤル　回線番号	——	
	リモートダイヤル　ダイヤルコード	——	
	ダイレクトセレクト　マスター端末番号	——	
	ダイレクトセレクト　セレクト端末番号	——	
接点出力	接点出力番号	1 ——	P. 5-119
	外部機器制御の操作番号		
	外部機器制御の操作番号桁数	2 ——	
	外部機器制御出力先 / Relay	ON	
	外部機器制御出力先 / LED	ON	
	回線状態診断	使用しない	
	ネットワーク状態診断	使用しない	

・すべての項目でソフトウェアからの設定可
*1 ネットワーク経由で設定、通話するために、必ず設定してください。
*2 ブラウザーからも設定可

■ 外部システムインターフェース

左タブ名	項目名	初期値	参照ページ
ネットワーク設定	IP アドレス*1、2	192.168.1.1	P. 5-120
	サブネットマスク*1、2	255.255.255.0	
	デフォルトゲートウェイ*1、2	0.0.0.0	
	Web サーバーポート番号*1、2	80	P. 5-121
	TCP 開始ポート番号	5000	
	UDP 開始ポート番号	5006	
	NAPT 対応の可否	有効でない	
	ネットワーク ID	1	P. 5-122
	WAN 側 IP アドレス	192.168.1.1	
	WAN 側 Web サーバーポート番号	80	
	WAN 側 TCP 開始ポート番号	5000	
	WAN 側 UDP 開始ポート番号	5006	

・すべての項目でソフトウェアからの設定可
*1 ネットワーク経由で設定、通話するために、必ず設定してください。
*2 ブラウザーからも設定可

■ ページング

左タブ名	項目名	初期値	参照ページ
ページング	ページング番号桁数	1	P. 5-123
	ページング用ポート開始番号	6000	
	ページング系統名称	——	
	ページング系統の設定	——	P. 5-124

・すべての項目でソフトウェアからの設定可

■ グループ

左タブ名	項目名	初期値	参照ページ
グループ	限定局呼出グループ	——	P. 5-125
	限定局呼出先	——	P. 5-126
	代理応答グループ	——	P. 5-127

・すべての項目でソフトウェアからの設定可

第 5 章

ソフトウェアによるシステム設定

この章では N-8000 設定ソフトウェアのインストール、ソフトウェアでの設定のしかたについて説明します。

N-8000 設定ソフトウェアの概要

■ N-8000 設定ソフトウェアとは

付属の N-8000 設定ソフトウェアは、システムの設定を行うソフトウェアです。
このソフトウェアには、以下の 2 つの機能があります。

● 機器検出（ネットワーク設定）機能

ローカルネットワークに接続された交換機、各種インターフェースユニット、および IP 端末の検出と、ネットワークの設定を行います。システムの初期設定時に使ってください。
※ 機器検出機能が使えるのは、ブロードキャストが届く範囲のみです。それ以外の機器は、別途ネットワーク設定を行ってください。（☞ P. 4-3）

● システム設定機能

システムに関する各種設定を行います。

ご注意

システムの動作ログはこのソフトウェアでは表示できません。ブラウザーまたはメンテナンスソフトウェアをお使いください。（☞ P. 6-40）

■ パソコンのネットワークの設定について

パソコンのネットワーク設定は、ネットワーク管理者の指示に従って、あらかじめ行ってください。
誤った設定をすると、同じネットワークに接続されている他の機器に影響を与える恐れがあります。

ご注意

パソコンと交換機、各種インターフェースユニット、および IP 端末が通信できるように、パソコンのネットワーク設定を行ってください。
パソコンのネットワーク設定を適切に行わないと、N-8000 システムの設定ができません。
ただし、交換機、各種インターフェースユニット、および IP 端末のネットワーク設定は、パソコンのネットワーク設定が適切でなくても、できる場合もあります。

■ 設定内容更新時のご注意

設定内容の更新中*は、絶対に交換機、各種インターフェースユニット、および IP 端末を再起動したり、電源を切ったりしないでください。
故障の原因となります。

* 更新中は、交換機・各種インターフェースユニット前面の STATUS 表示灯、および IP 端末の状態表示灯が点灯します。

ソフトウェアをインストールする

■ システムの条件

N-8000 設定ソフトウェアを正常に動作させるために、パソコンは以下の条件を推奨します。

- OS　：Windows XP Professional SP2 以降、Windows Vista Business、Windows 7 Professional、Windows 8.1 Pro *、Windows 10 Home *、Windows 10 Pro *
- CPU　：Pentium Ⅳ、2 GHz 以上
- メモリー　：1 GB 以上
- 必須コンポーネント：Microsoft .NET Framework 3.5 SP1、および Microsoft SQL Server 2005 Express Edition（インストールのしかた ☞ 次ページ）

* Windows 8.1 または Windows 10 の場合、他の OS とインストール手順および必須コンポーネントが異なります。詳しくは、P. 5-7「Windows 8.1 または Windows 10 で N-8000 設定ソフトウェアを動作させる」をお読みください。

■ セットアップガイドを起動する

付属の CD をパソコンのドライブに入れると、セットアップガイドが自動的にスタートします。

ご注意

お持ちのパソコンの CD ドライブがオートラン機能に対応していない場合、CD を挿入してもセットアップガイドは自動的に起動しません。その場合は、以下のファイルを直接実行してください。

＜ CD の入っているドライブ＞　¥index.html

例：D ドライブに CD を挿入している場合　→　D:¥index.html

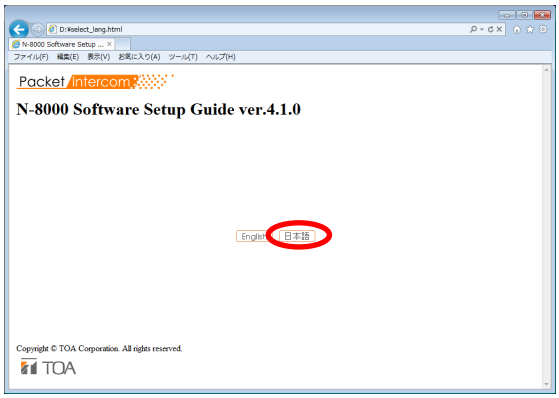
次の画面が表示されます。

メ　モ

画面右上の［select language］をクリックすると、言語選択画面が表示されます。その画面で希望の言語を選択すると画面に表示する言語を変更できます。

※ 画面は Ver. 4.1.0 のものです。

ブラウザーが JavaScript に対応していない場合、右のような画面が表示されます。
日本語で表示させるには［日本語］をクリックしてください。



■ 必須コンポーネントをインストールする
（Windows 8.1 または Windows 10 使用時を除く）

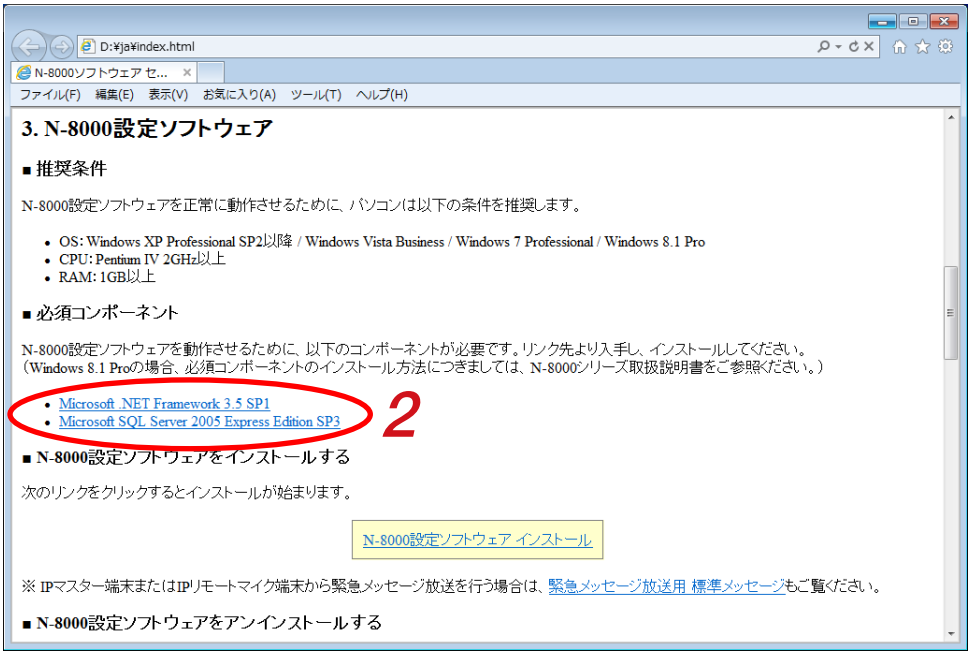
N-8000 設定ソフトウェアを動作させるために、以下のコンポーネントが必要です。
・Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 以降*
・Microsoft SQL Server 2005 Express Edition
* Windows 7 の場合は、このコンポーネントのインストールは必要ありません。

以下の手順でパソコンにあらかじめインストールしてください。
コンポーネントのインストーラーをダウンロードするにはパソコンをインターネットに接続する必要があります。

1 前ページのセットアップガイド画面で「3. N-8000 設定ソフトウェア」をクリックする。

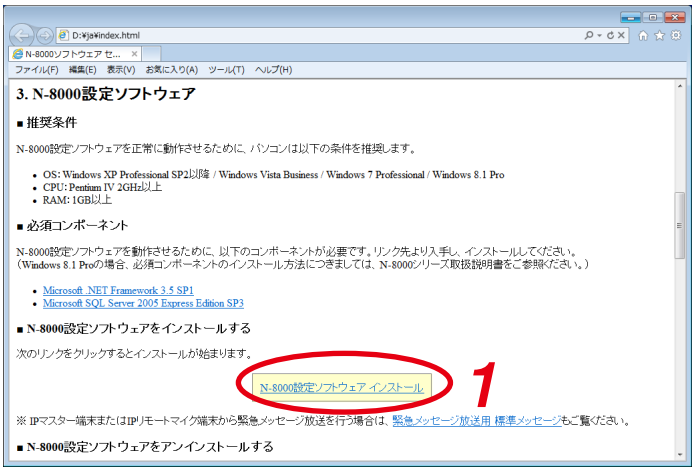
2 「必須コンポーネント」で必要なコンポーネントをクリックする。
コンポーネントのダウンロードサイトが表示されますので、インストーラーをダウンロードしてください。

3 手順 2 で入手したインストーラーを起動して、必須コンポーネントをパソコンにインストールする。



■ N-8000 設定ソフトウェアをインストールする

1 セットアップガイドの「N-8000 設定ソフトウェア インストール」をクリックする。



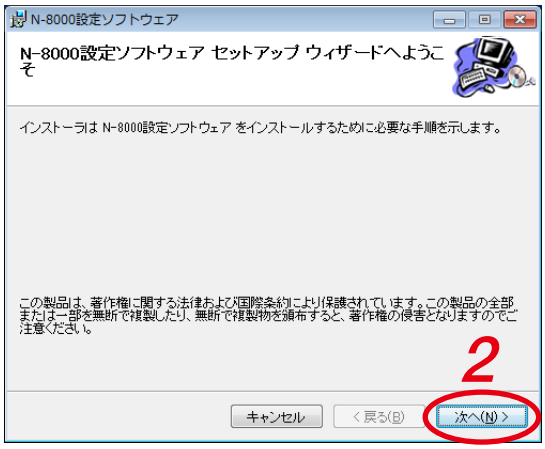
インストーラーが起動します。

ご注意

インストーラーが起動しない場合は、以下のファイルを直接実行してください。

＜ CD の入っているドライブ＞　¥ja¥N-8000¥setup.exe

例：D ドライブに CD を挿入している場合
→ D:¥ja¥N-8000¥setup.exe



2 [次へ] ボタンを押す。

ライセンス条項の確認画面が表示されます。

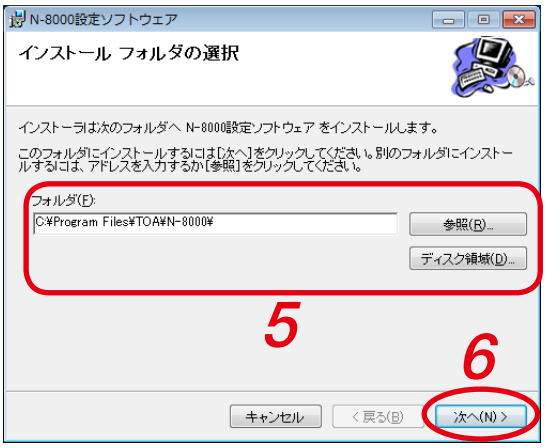
3 ライセンス条項を読み、「同意する」を選択してから［次へ］ボタンを押す。

言語選択画面が表示されます。

※「同意しない」を選択し、［キャンセル］ボタンを押すと、インストールせずに終了します。

4 言語を選択し、［次へ］ボタンを押す。

インストール先の選択画面が表示されます。

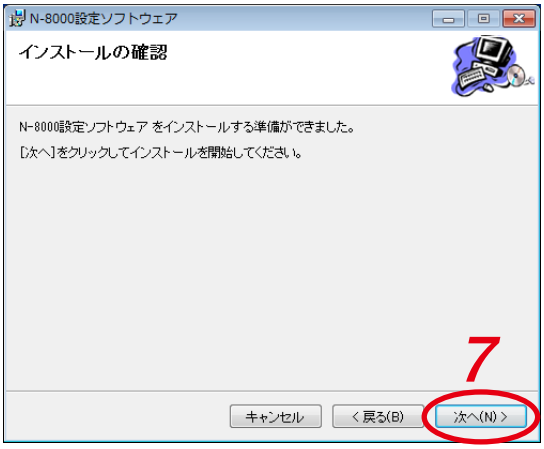


5 インストール先の変更が必要な場合は、フォルダーを選択する。

表示されているものとは異なるフォルダーにインストールしたい場合は、［参照］ボタンまたは［ディスク領域］ボタンを押して、フォルダーを選択してください。

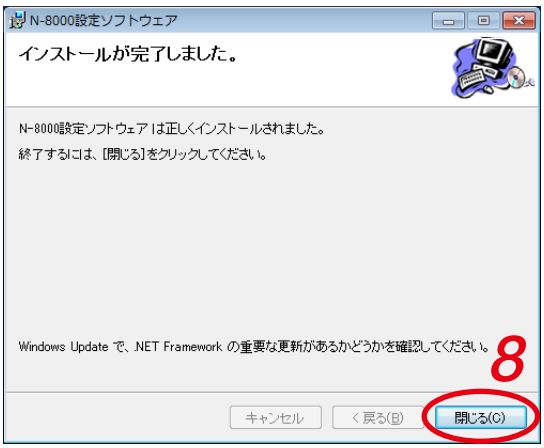
6 ［次へ］ボタンを押す。

インストール準備完了画面が表示されます。



7 ［次へ］ボタンを押す。

選択したフォルダーにインストールされ、完了すると、セットアップの完了画面が表示されます。



8 ［閉じる］ボタンを押す。

■ Windows 8.1 または Windows 10 で N-8000 設定ソフトウェアを動作させる

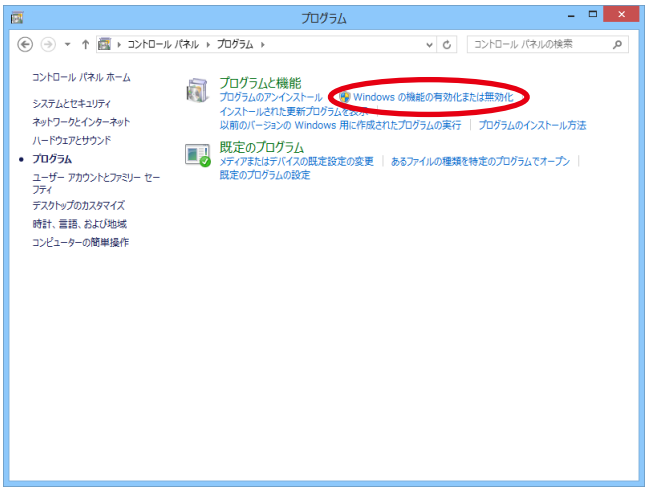
Windows 8.1 Pro または Windows 10 Pro で N-8000 設定ソフトウェアを動作させるためには、以下の手順が必要です。

Microsoft .NET Framework 3.5 の有効化（次項参照）
↓
Microsoft SQL Server Express のインストール（☞ 次ページ）
↓
N-8000 設定ソフトウェアのインストール（☞ P. 5-10）
↓
「N8000Config.mdf」「N8000Config_log.ldf」ファイルへの User による変更権限付与（☞ P. 5-11）

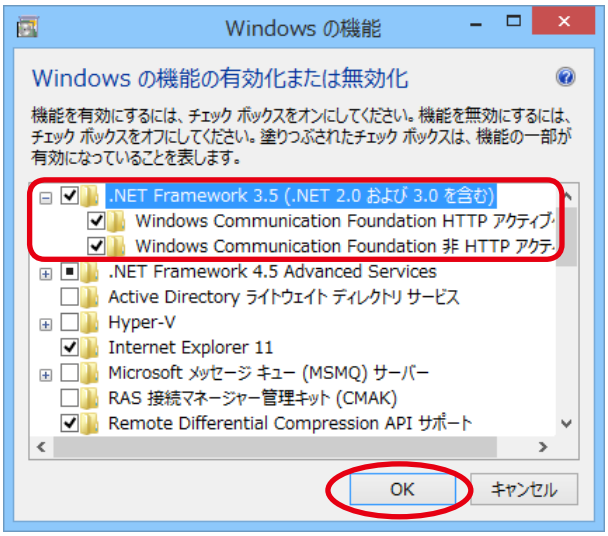
※ 以上の手順を実施するためには、パソコンをインターネットに接続する必要があります。

● Microsoft .NET Framework 3.5 の有効化

1 パソコンの「コントロールパネル」を開き、[プログラム→プログラムと機能→Windows の機能の有効化または無効化] をクリックする。



Windows の機能画面が表示されます。



2 「.NET Framework 3.5（.NET 2.0 および 3.0 を含む）」に含まれるすべてのコンポーネントにチェックを入れ、[OK] ボタンを押す。

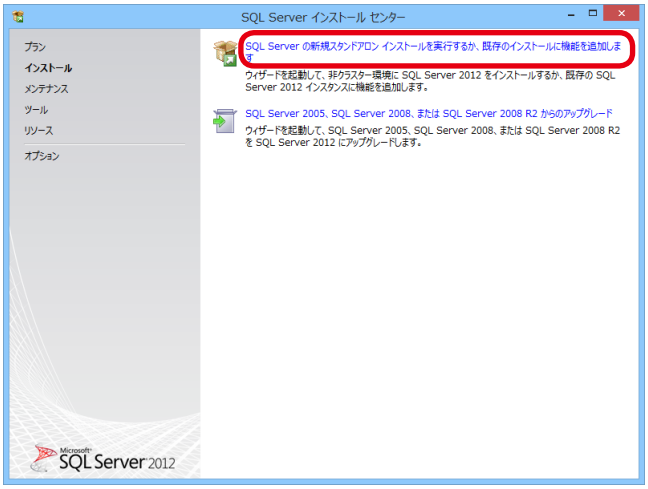
● Microsoft SQL Server Express のインストール

1 「Microsoft SQL Server Express」をダウンロードする。

Windows 8.1 の場合：Microsoft SQL Server 2012 Express
Windows 10 の場合 ：Microsoft SQL Server 2014 SP2 Express
Microsoft Corporation のダウンロードセンターからダウンロードしてください。

2 ダウンロードしたインストーラーを起動し、「SQL Server の新規スタンドアロンインストールを実行するか、既存のインストールに機能を追加します」をクリックする。

※ 画面は Microsoft SQL Server 2012 Express のものです。Microsoft SQL Server 2014 SP2 Express の場合も同様の手順でインストールできます。



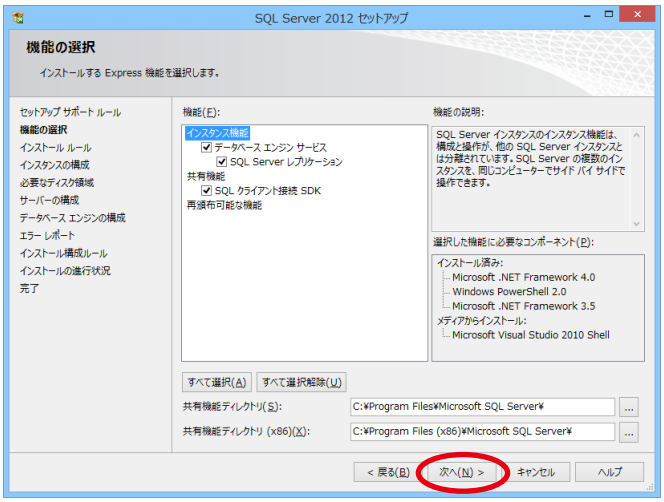
マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項が表示されます。

3 ライセンス条項を読み、「ライセンス条項に同意します」にチェックを入れてから、［次へ］ボタンを押す。

製品の更新プログラム画面が表示されます。

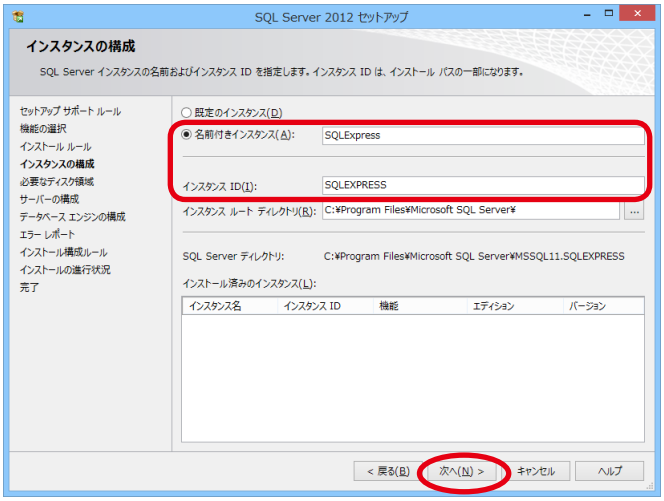
4 SQL Server 製品の更新プログラムがあった場合は、「SQL Server 製品の更新プログラムを含める」にチェックを入れて［次へ］ボタンを押す。

機能の選択画面が表示されます。



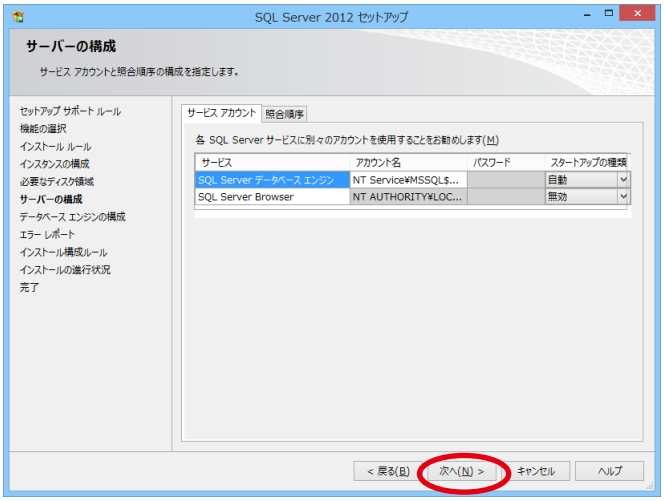
5 ［次へ］ボタンを押す。

インスタンスの構成画面が表示されます。



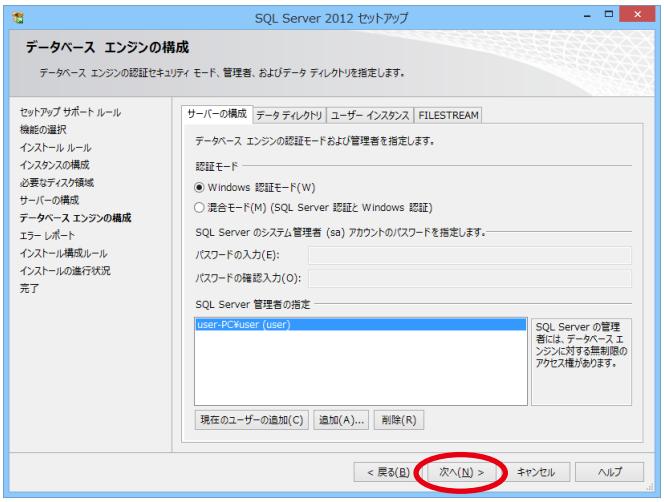
6 名前付きインスタンスが「SQLExpress」、インスタンス ID が「SQLEXPRESS」であることを確認し、［次へ］ボタンを押す。

サーバーの構成画面が表示されます。



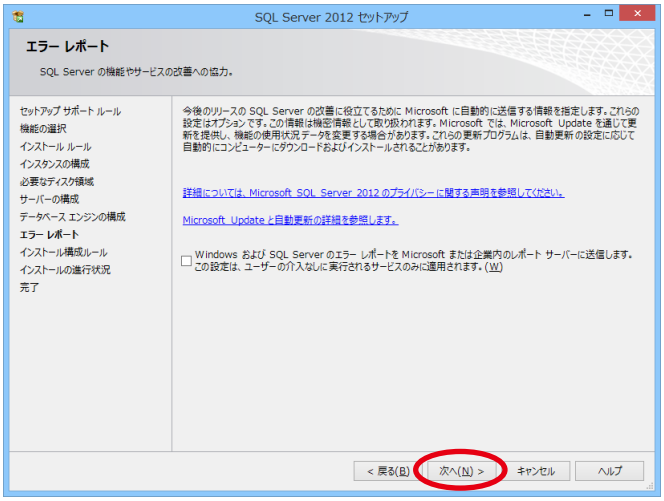
7 ［次へ］ボタンを押す。

データベース エンジンの構成画面が表示されます。



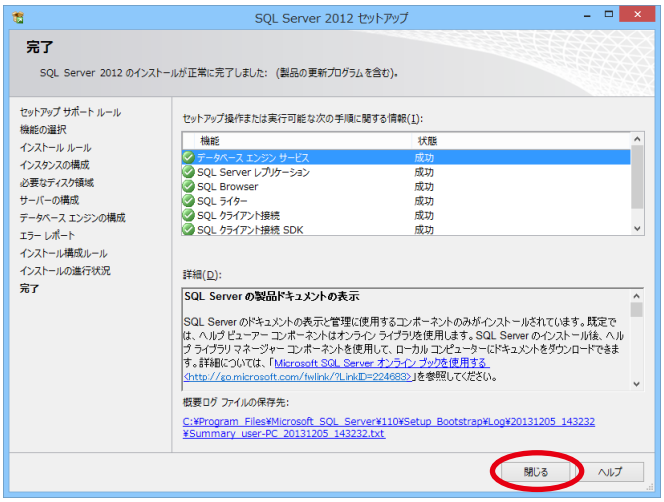
8 [次へ] ボタンを押す。

エラー レポート画面が表示されます。



9 [次へ] ボタンを押す。

インストールが開始されます。
インストールが完了すると、完了画面が表示されます。



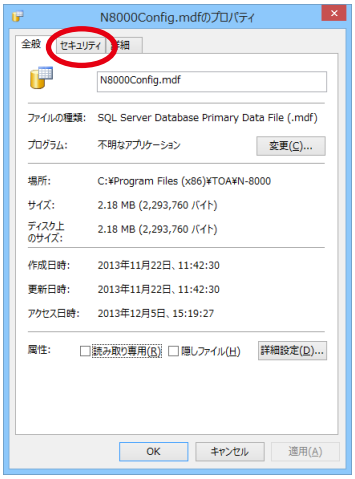
10 [閉じる] ボタンを押す。

● N-8000 設定ソフトウェアのインストール

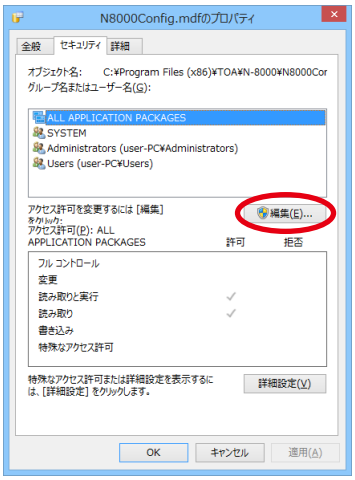
P. 5-5「N-8000 設定ソフトウェアをインストールする」を参照してインストールしてください。

●「N8000Config.mdf」「N8000Config_log.ldf」ファイルへの User による変更権限付与

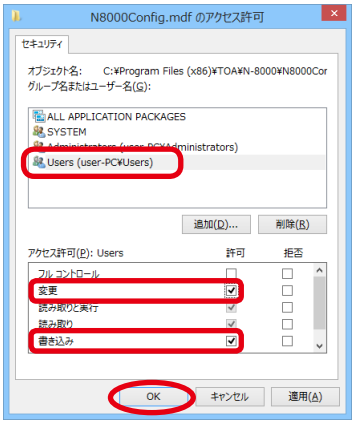
1 N-8000 設定ソフトウェアをインストールしたフォルダーを開き、N8000Config.mdf を右クリックして、プロパティを選択する。
プロパティ画面が表示されます。



2「セキュリティ」タブを選択する。



3［編集］ボタンを押す。



4「グループ名またはユーザー名」から「Users」を選択し、「変更」「書き込み」の許可にチェックを入れて、［OK］ボタンを押す。

5 以上の手順を、「N8000Config_log.ldf」についても同様に実施する。

■ N-8000 設定ソフトウェアをアンインストールする

［コントロールパネル］→［プログラムと機能］から「N-8000 設定ソフトウェア」を削除してください。

■ 緊急メッセージ放送用の標準メッセージをインストールする

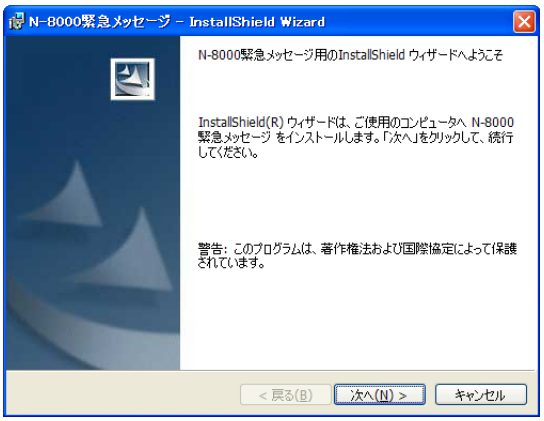
IP マスター端末および IP リモートマイク端末から行う緊急メッセージ放送の標準メッセージをパソコンにインストールします。
緊急メッセージ放送は、ここでインストールする標準メッセージのほか、オリジナルメッセージを作成し放送することも可能です。

ご注意

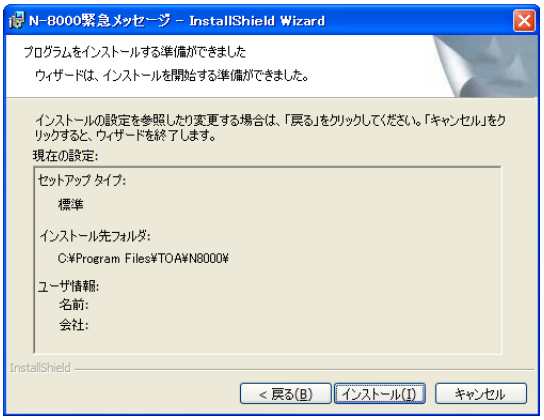
標準メッセージのインストールは、N-8000 設定ソフトウェアをインストールした後に行ってください。

● インストールのしかた

1 セットアップガイドの「緊急メッセージ放送用標準メッセージのインストール」をクリックする。
インストーラーが起動します。

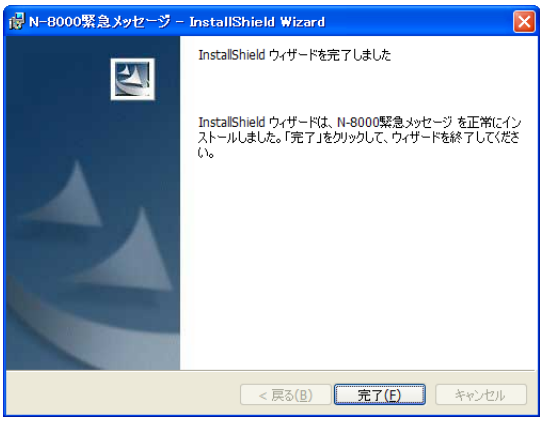


2 ［次へ］ボタンを押す。
インストール準備完了画面が表示されます。



3 ［インストール］ボタンを押す。

N-8000 設定ソフトウェアと同じフォルダーにインストールされ、完了すると、セットアップの完了画面が表示されます。



4 ［完了］ボタンを押す。

● アンインストールのしかた

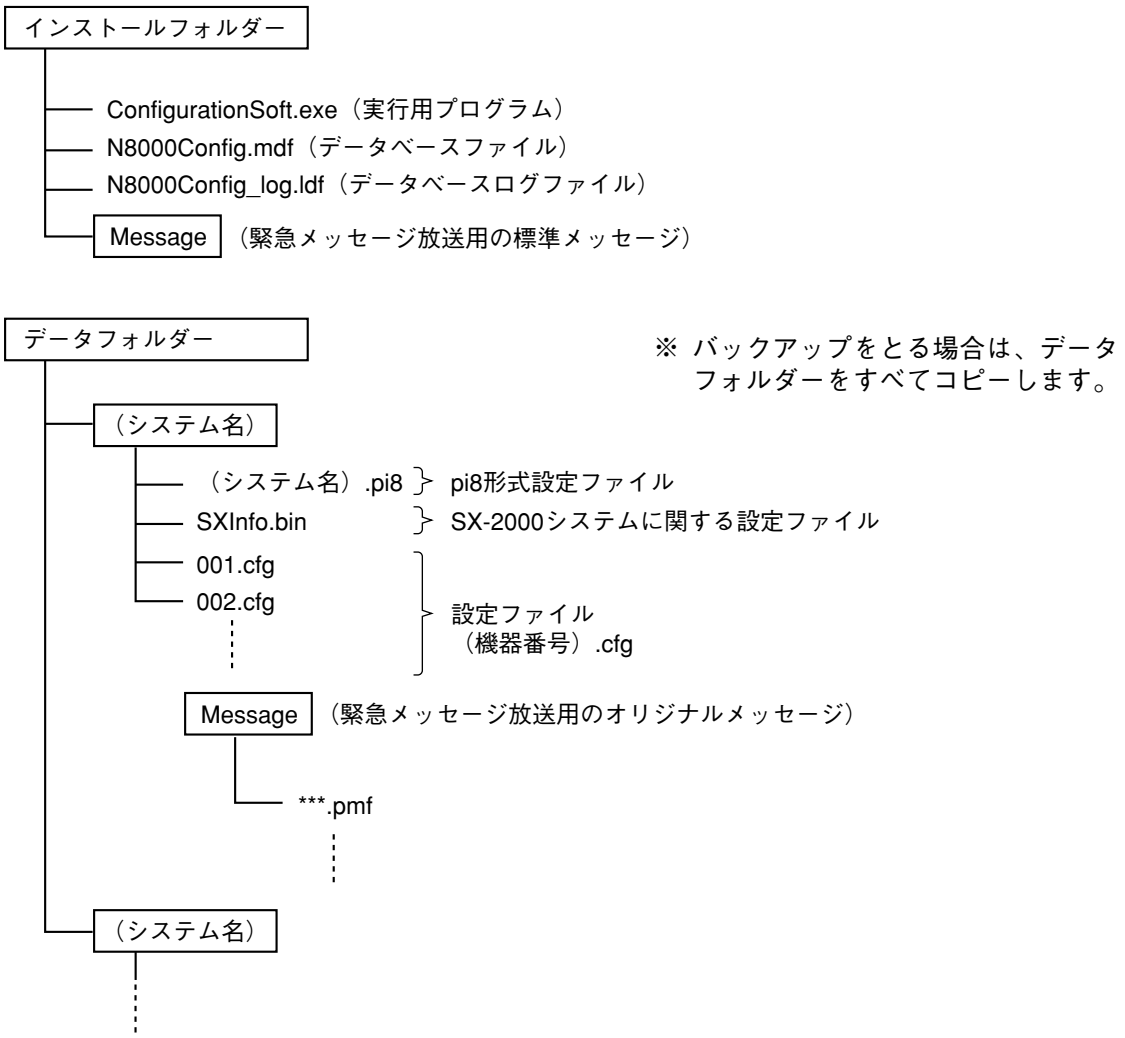
［コントロールパネル］→［プログラムと機能］から「N-8000 緊急メッセージ」を削除してください。

■ フォルダーの構成

N-8000 設定ソフトウェアは、デフォルトで C:¥Program Files¥TOA¥N-8000 にインストールされます。
システム設定ファイルは、Windows XP の場合は①、Windows Vista、Windows 7、Windows 8.1、Windows 10 の場合は②に作成されます。

① C:¥Document and Settings¥All Users¥Application Data¥TOA¥N-8000
② C:¥ProgramData¥TOA¥N-8000

フォルダーの構成は下記のとおりです。（ただし、システム設定ファイルはソフトウェアでの設定後に生成されます。）
フォルダー内のファイル、フォルダーの構成や名前を変更しないでください。



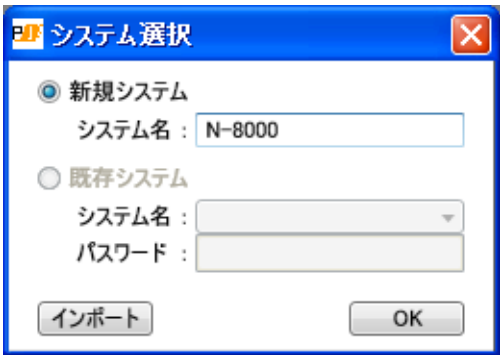
■ バージョンアップ情報

- N-8000 設定ソフトウェア、ファームウェア、および取扱説明書の最新版を TOA 商品ダウンロードサイト（http://www.toa-products.com/）で公開しています。
  最新のものを上記サイトからダウンロードしてお使いください。
- N-8000 設定ソフトウェアのバージョンはヘルプメニューから確認できます。
- ファームウェアのバージョンは、ブラウザーから交換機、各種インターフェースユニット、および IP 端末に接続すると、システム管理画面（☞ P. 6-45）で確認できます。
- 取扱説明書のバージョンは、最終ページ右下の作成年月で確認できます。
  （例）2017 年 12 月作成の場合：201712

N-8000 設定ソフトウェアを起動する

1 インストール時、デスクトップに作成された N-8000 設定ソフトウェアのショートカットをダブルクリックする。または、インストールしたフォルダーに作成された ConfigurationSoft.exe を直接ダブルクリックする。

［システム選択］の画面が表示されます。



①新規システム

新しくシステムを作成します。
作成するシステム名を入力します。
パスワードはデフォルト値として「guest」が設定されます。

②既存システム

既存のシステムから選択します。
システム名を選択後、パスワードを入力してください。

③インポートボタン

pi8 形式のファイルからシステムの情報を読み込み、データーベースに保存します。
他のパソコンで作成したシステムの情報を読み込むときに用います。

ご注意

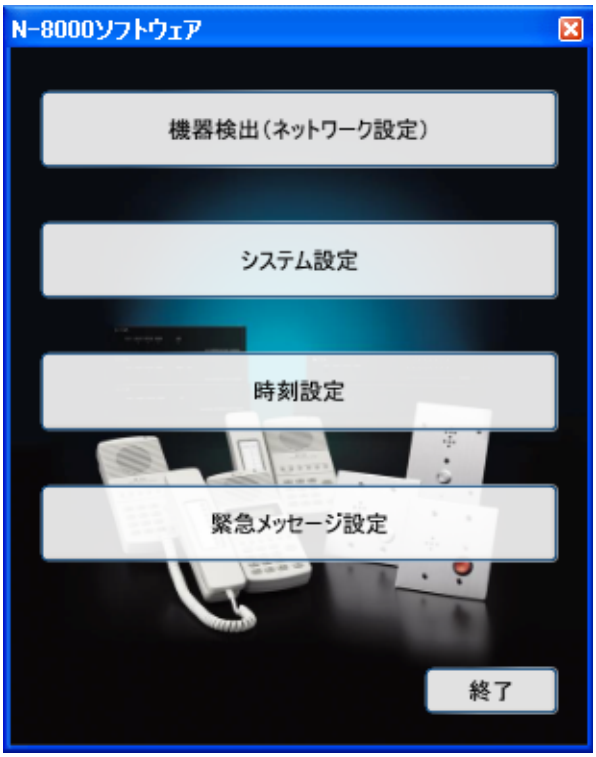
インポートしようとするシステムと同じ名称のシステムがすでに登録されていると、新たにインポートすることはできません。
同じ名称のシステムの設定データフォルダーを削除してから、インポートの操作を行ってください。
設定データフォルダーについては、前ページをお読みください。

2 システム名を選択、パスワードを入力し、［OK］ボタンを押す。

※ システム名、パスワードは大文字、小文字を区別します。
※ 新しいシステムの設定をする場合は、「新規システム」を選択し、システム名を入力した後［OK］ボタンを押してください。

工場出荷時は、**システム名：N-8000**、**パスワード：guest** になっています。システム名とパスワードの変更は P. 5-21、P. 5-30 をお読みください。

システム名とパスワードが正しく入力されると、N-8000 設定ソフトウェアの初期画面が表示されます。



3 機器検出をするときは「機器検出（ネットワーク設定)」をクリックする。

4 システムの設定をするときは「システム設定」をクリックする。

5 システム時刻の設定をするときは「時刻設定」をクリックする。

6 IP マスター端末および IP リモートマイク端末の緊急メッセージを作成・登録するときは「緊急メッセージ設定」をクリックする。

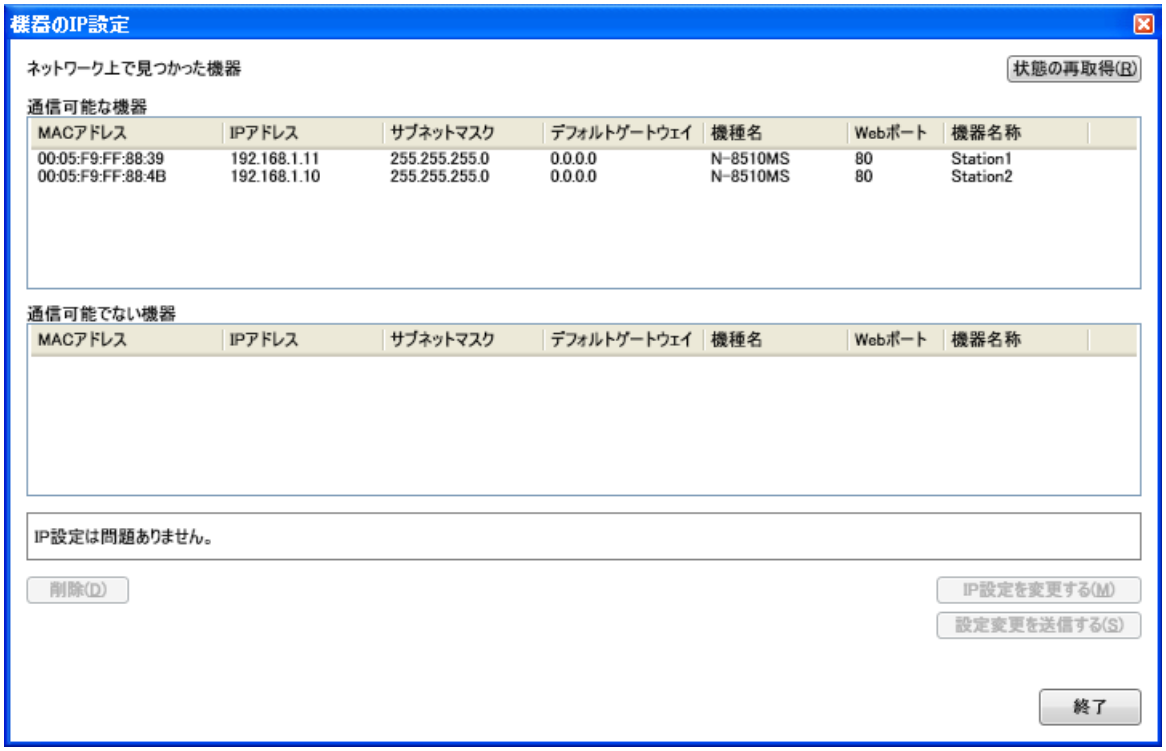
7 このソフトウェアを終了するときは「終了」をクリックする。

機器検出（ネットワーク設定）機能

ローカルネットワークに接続された交換機、各種インターフェースユニット、および IP 端末の検出とネットワーク設定を行います。
※ 機器検出機能が使えるのは、ブロードキャストが届く範囲（☞ P. 8-10）のみです。それ以外の機器は、別途ネットワーク設定を行ってください。（☞ P. 4-3）

■ 画面の説明

初期画面で「機器検出（ネットワーク設定）」をクリックします。
機器検出の画面が立ち上がり、自動的に機器の検出を開始します。
以下の画面は、機器検出後の画面例です。検出された交換機、各種インターフェースユニット、および IP 端末のリストが表示されます。



①通信可能な機器
正常に通信できる状態にある機器が表示されます。

②通信可能でない機器
ネットワークの設定が正しく通信できない状態にある機器が表示されます。

③状態の再取得ボタン
再度検出を行います。

④削除ボタン
選択されている機器をリストから削除します。

⑤IP 設定を変更するボタン
選択されている機器の IP 設定を変更します。

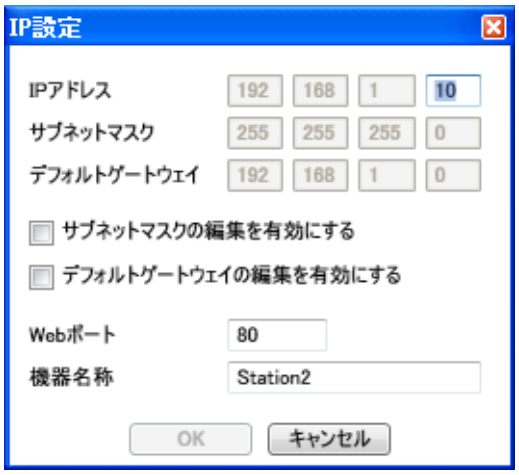
⑥設定変更を送信するボタン
変更した設定内容を機器に送信します。

⑦終了ボタン
機器検出を終了します。

■ 機器の設定内容を変更する

● 単一機器を選択して起動した場合

機器の IP 設定画面で変更したい機器を選択して、[IP 設定を変更する] ボタンをクリックします。
以下の画面は、機器の IP 設定画面で単一機器を選択して起動した場合の画面例です。



①IP アドレス
機器の IP アドレスを設定します。

②サブネットマスク
機器のサブネットマスクを設定します。
設定を変更する場合は、「サブネットマスクの編集を有効にする」にチェックを入れてください。

③デフォルトゲートウェイ
機器のデフォルトゲートウェイを設定します。
設定を変更する場合は、「デフォルトゲートウェイの編集を有効にする」にチェックを入れてください。

④サブネットマスクの編集を有効にする
サブネットマスクの変更可否を選択します。

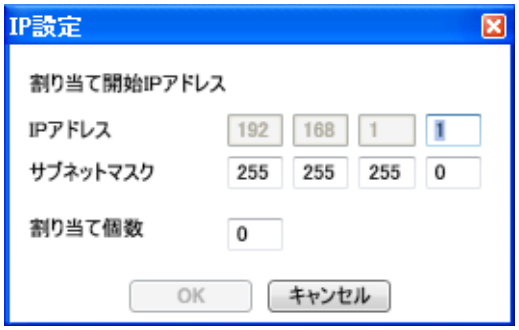
⑤デフォルトゲートウェイの編集を有効にする
デフォルトゲートウェイの変更可否を選択します。

⑥Web ポート
Web サーバーのポート番号を設定します。

⑦機器名称
機器の名前を設定します。

● 複数機器を選択して起動した場合

機器の IP 設定画面で変更したい機器を選択して、[IP 設定を変更する] ボタンをクリックします。
以下の画面は、機器の IP 設定画面で複数機器を選択して起動した場合の画面例です。



①IP アドレス
選択された機器に割り当てる IP アドレスの開始値を設定します。

②サブネットマスク
選択された機器に割り当てるサブネットマスクを設定します。

③割り当て個数
設定された IP アドレスの開始値から、IP アドレスを割り当てる機器の台数を設定します。
「IP アドレス」①で設定した IP アドレスから、指定した台数分の IP アドレスが順番に振られます。

システム設定機能

システムに関する各種設定を行います。機器検出（ネットワーク設定）機能またはブラウザーまたは多機能マスター端末 N-8000MS または IP 多機能マスター端末 N-8500MS/8600MS を使用して IP アドレスを正しく設定した後、このシステム設定機能を使用して交換機、各種インターフェースユニット、および IP 端末の設定情報を更新してください。

■ 画面の説明

初期画面で「システム設定」をクリックします。

※ 上の画面は 15 台の機器の設定が完了した状態のものです。

① システム全般タブ

システム全体に関する設定をします。[機器登録]、[端末一覧]、[ネットワーク通信の登録]、[マルチキャストの登録]、[システム設定]、[外部システム設定] の各タブがあります。

② 交換機タブ

交換機に関する設定をします。[ネットワーク設定]、[サンプリング周波数補正]、[機能設定] の各タブがあります。

③ マルチインターフェースタブ

マルチインターフェースユニットに関する設定をします。[ネットワーク設定]、[サンプリング周波数補正]、[機能設定]、[音声入出力]、[接点入力]、[接点出力] の各タブがあります。

④ サブ端末インターフェースタブ

サブ端末接続ユニットに関する設定をします。[ネットワーク設定]、[機能設定]、[サブ端末設定] の各タブがあります。

⑤ IP 端末タブ

IP 端末に関する設定をします。[ネットワーク設定]、[機能設定 1]、[機能設定 2]、[短縮ダイヤル]、[スキャンモニター]、[緊急メッセージ] の各タブがあります。

⑥ 端末タブ

交換機に接続する端末と、サブ端末接続ユニットに接続するアナログマスター端末に関する設定をします。[機能設定]、[短縮ダイヤル]、[スキャンモニター] の各タブがあります。

⑦局線インターフェースタブ
局線インターフェースユニットに関する設定をします。
[ネットワーク設定]、[機能設定 1]、[機能設定 2]、[スキャンモニター] の各タブがあります。

⑧電話インターフェースタブ
電話インターフェースユニットに関する設定をします。[ネットワーク設定]、[機能設定 1]、[機能設定 2]、[スキャンモニター] の各タブがあります。

⑨音声インターフェースタブ
音声インターフェースユニットに関する設定をします。[ネットワーク設定]、[機能設定] の各タブがあります。

⑩ダイレクトセレクトタブ
ダイレクトセレクトユニットに関する設定をします。[ネットワーク設定]、[機能設定]、[接点入力]、[接点出力] の各タブがあります。

⑪外部システムインターフェースタブ
スマートマトリクス IP モジュールに関する設定をします。[ネットワーク設定]のタブがあります。

⑫ページングタブ
ページング系統の設定をします。

⑬グループタブ
限定局呼び出しおよび代理応答グループの機能についての設定をします。[限定局呼出グループ]、[限定局呼出先]、[代理応答グループ] の各タブがあります。

■ メニュー

● ファイル

新規作成　　：新しいシステムの設定ファイルを作成します。
開く　　：保存されている設定ファイルを開きます。
保存　　：編集中の設定ファイルを保存します。
名前を付けて保存：編集中の設定ファイルを別のシステムの設定ファイルとして保存します。
印刷　　：設定内容を印刷します。
閉じる　　：このソフトウェアを終了します。

● 設定

アップロード　　：設定内容を機器へ書き込みます。
ダウンロード　　：機器の設定内容をパソコンにダウンロードします。
エクスポート　　：設定ファイル（*.pi8、*.cfg）を出力します。
ファームウェアバージョンチェック：機器ファームウェアバージョンを確認します。
　また、バージョン 2.00 以上でない機器が存在する場合は、バージョン 2.00 へファームウェアの更新を行うことができます。

● ヘルプ

バージョン情報：このソフトウェアのバージョン情報を表示します。

■ システム全般の設定をする

システム全般タブをクリックします。

● 機器を登録する

システム内のネットワークに接続する機器の構成を決め、登録します。機器検出（ネットワーク設定）機能を使って検出した機器の情報をインポートする方法と、手動で入力する方法があります。

1 機器登録タブをクリックする。

設定画面が表示されます。

※ 上の画面は 16 台の機器の設定が完了した状態のものです。

［画面の説明］

①開始機器番号
設定する機器番号の最初の値を入力します。ここに入力された値から順番に機器番号が 1 ～ 192 の範囲で自動的に割り振られます。ただし、重複した番号を割り振ることはできません。

②機器番号
機器の番号を入力します。1 ～ 192 の範囲で、他の機器と重複しない番号を設定します。

③機器名称
機器の名称を入力します。半角（カタカナ、英数記号）8 文字以内です。

④機種名（編集できません。）
機器の機種名が表示されます。

⑤IP アドレス
機器の IP アドレスを入力します。

⑥Web ポート
Web サーバーのポート番号を入力します。

⑦WAN 側 IP アドレス
WAN 側から見たこの機器の IP アドレスを入力します。NAPT を使わない場合は、空欄のままでかまいません。

⑧WAN 側 Web ポート
WAN 側から見たこの機器の Web サーバーのポート番号を入力します。NAPT を使わない場合は、空欄のままでかまいません。

2 システム構成を設定する。

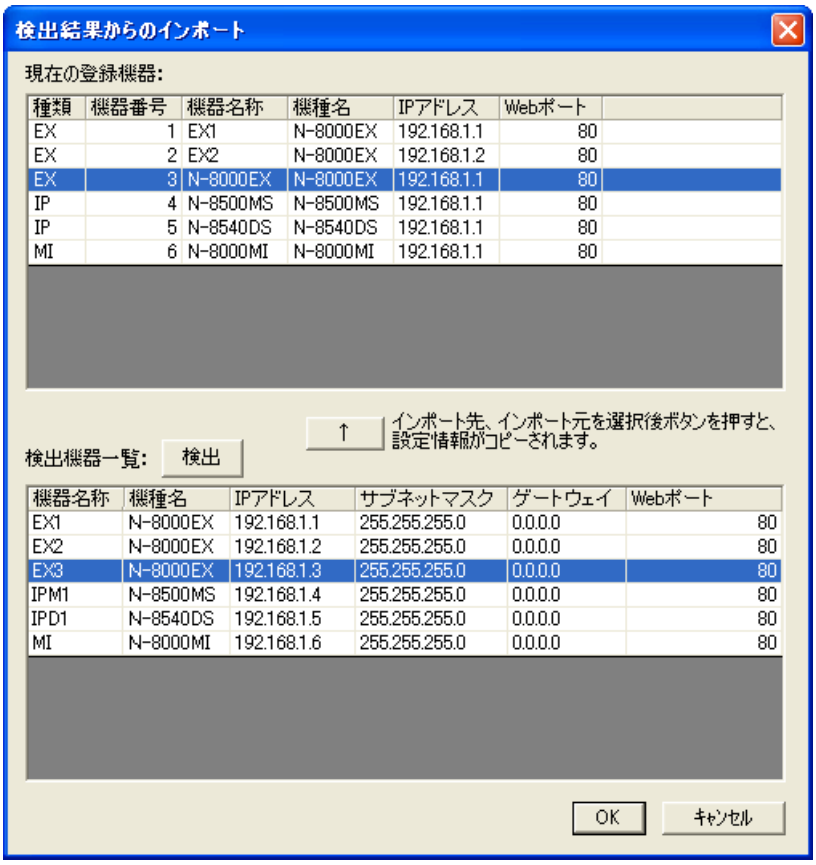
ネットワークに接続する機器の台数を入力してください。
ネットワーク接続機器総数の欄に合計台数が表示され、機器の一覧が表示されます。

3 機器名称、機種名、IP アドレス、Web ポートを設定する。

各セルを直接クリックして編集するか、機器検出（ネットワーク設定）機能を使って検出した機器の情報を取り込むこともできます。
機器検出の結果から情報を取り込むときは、次の手順で行ってください。

3-1 ［検出結果からインポート］ボタンを押す。

次のダイアログが表示されます。



3-2 ［現在の登録機器］からインポート先を、［検出機器一覧］からインポート元を選択し、［↑］ボタンを押す。

検出した機器の設定情報が、インポート先に選択した機器の設定にコピーされます。

ご注意

インポート先とインポート元は、必ず機種名が一致するものを選択してください。

3-3 ［OK］ボタンをクリックしてダイアログを閉じる。

元の設定画面に戻ります。

4 必要に応じて WAN 側 IP アドレスと WAN 側 Web ポートを変更する。

各セルを直接クリックして編集してください。

● 端末番号と端末種別を設定する

1 端末一覧タブをクリックする。

設定画面が表示されます。

2 端末番号桁数を選択する。

端末番号の桁数を選択します。

3 各項目を設定する。

①機器番号（編集できません。）
端末が接続している交換機の機器番号です。

②機器名称（編集できません。）
端末が接続している交換機の名称です。

③回線番号（編集できません。）
端末が接続している回線の番号です。

④種類
端末の種類を選択します。ここで選んだ種類に応じて、設定内容が変わります。

⑤端末番号

呼び出し時に使う端末の番号です。端末番号桁数（2 ～ 6 桁）で設定した桁数で設定します。
マルチインターフェースユニットまたは局線インターフェースユニットで特番を使用する場合、特番で始まる端末番号（特番が 2 桁のときは、2 桁とも一致する番号）は使用できません。
例）特番が「10」の場合 …… 使用可：110、1100 など。使用不可：10、100、101、1000 など。

ご注意

端末番号を「0」で始まる番号（01、0001 など）に設定した場合は、端末番号を入力する項目（ドア端末、サブ端末のマスター呼出など）において、「0」を省略せず、設定した端末番号どおりに入力してください。
例）端末番号が「0001」の場合 ……「0001」と入力する。（「1」、「01」などは不可）

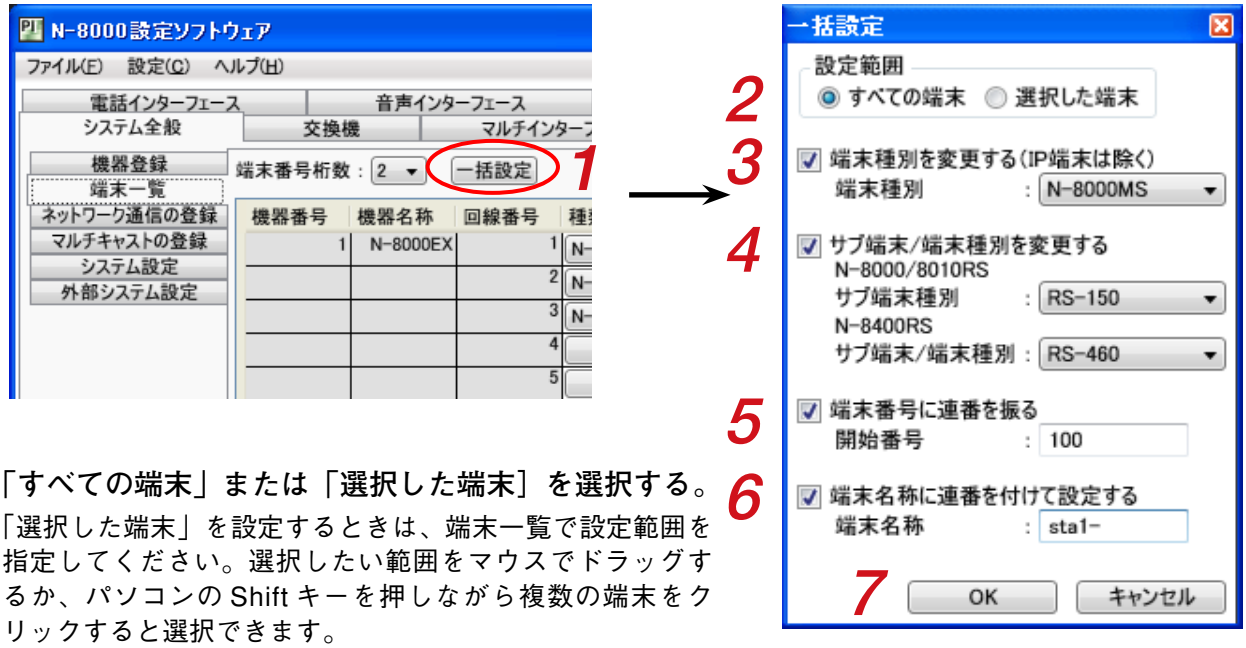
⑥端末名称

端末の名称を設定します。半角（カタカナ、英数記号）で 8 文字以内です。多機能端末で表示することができます。

［一括設定のしかた］

［一括設定］ボタンを使用して、すべての端末または選択した端末の端末種別、端末番号、端末名称を一括して設定することができます。

1 ［一括設定］ボタンをクリックする。
一括設定画面が表示されます。



2 「すべての端末」または「選択した端末」を選択する。
「選択した端末」を設定するときは、端末一覧で設定範囲を指定してください。選択したい範囲をマウスでドラッグするか、パソコンの Shift キーを押しながら複数の端末をクリックすると選択できます。

3 交換機に接続する端末の種別を変更するときは、「端末種別を変更する（IP 端末は除く）」にチェックを入れて、新しく設定する端末種別をプルダウンメニューから選択する。

ご注意

IP 端末の種別は一括設定することはできません。

4 サブ端末接続ユニットに接続する端末の種別を変更するときは、「サブ端末／端末種別を変更する」にチェックを入れて、新しく設定するサブ端末種別またはサブ端末／端末種別をプルダウンメニューから選択する。

5 端末番号に連番を振るときは、チェックを入れて、開始番号を入力する。

例えば、開始番号に「100」と入力した場合、端末に設定される端末番号は「100」「101」「102」…となります。
設定した端末番号の桁数を超えると、それ以降の端末番号は変更されません。

6 端末名称に連番を付けて設定するときは、チェックを入れて、新しく設定する端末名称を入力する。

設定できる文字数は、連番の部分も含めて、半角（カタカナ、英数記号）で８文字以内です。
例えば、端末名称に「sta1-」と入力した場合、端末に設定される名称は「sta1-1」「sta1-2」「sta1-3」…となります。

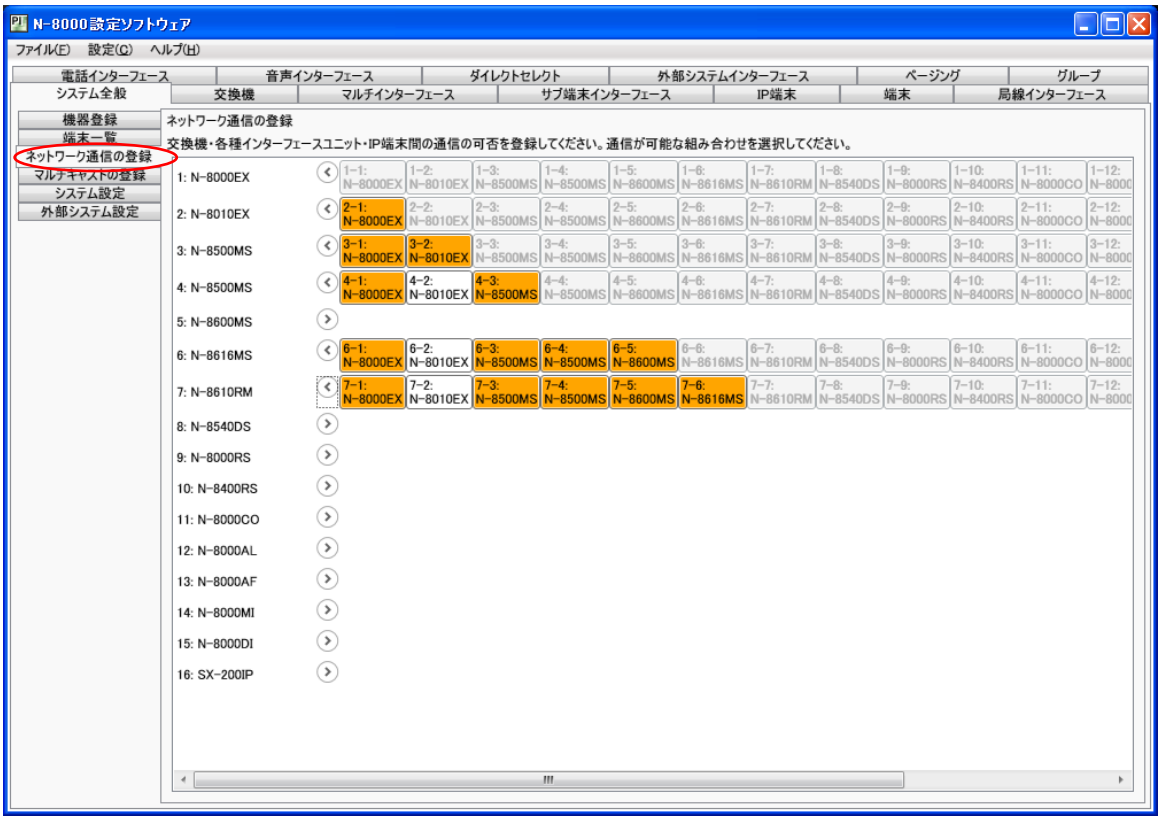
7 ［OK］ボタンを押す。

● ネットワーク通信の登録

ネットワークに接続する機器間でネットワーク（ユニキャスト）通信が可能かどうかを登録します。

1 ネットワーク通信の登録タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 ネットワーク通信が可能な機器の組み合わせを選択する。

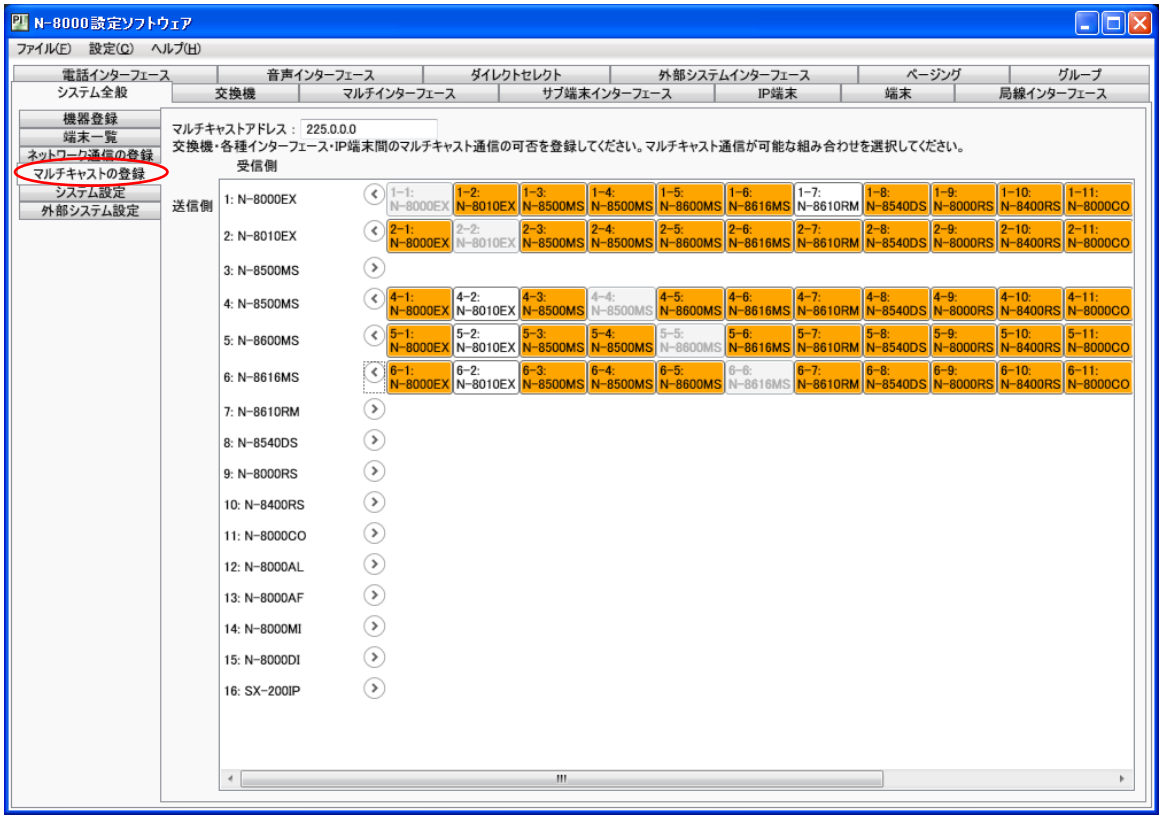
通信が可能な組み合わせをクリックすると選択できます。

● マルチキャスト通信の登録

ネットワークに接続する機器間でマルチキャスト通信が可能かどうかを登録します。マルチキャストが可能な場合にこの登録をしておくとマルチキャストページングを行います。

1 マルチキャストの登録タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 システムで使用するマルチキャストアドレスを入力する。

ご注意

第２オクテットが「0」または「128」、かつ第４オクテットが「1」となるマルチキャストアドレスは設定しないでください。
（例）225.0.0.1、225.128.0.1
IP 端末が正常に音声を受信できなくなります。

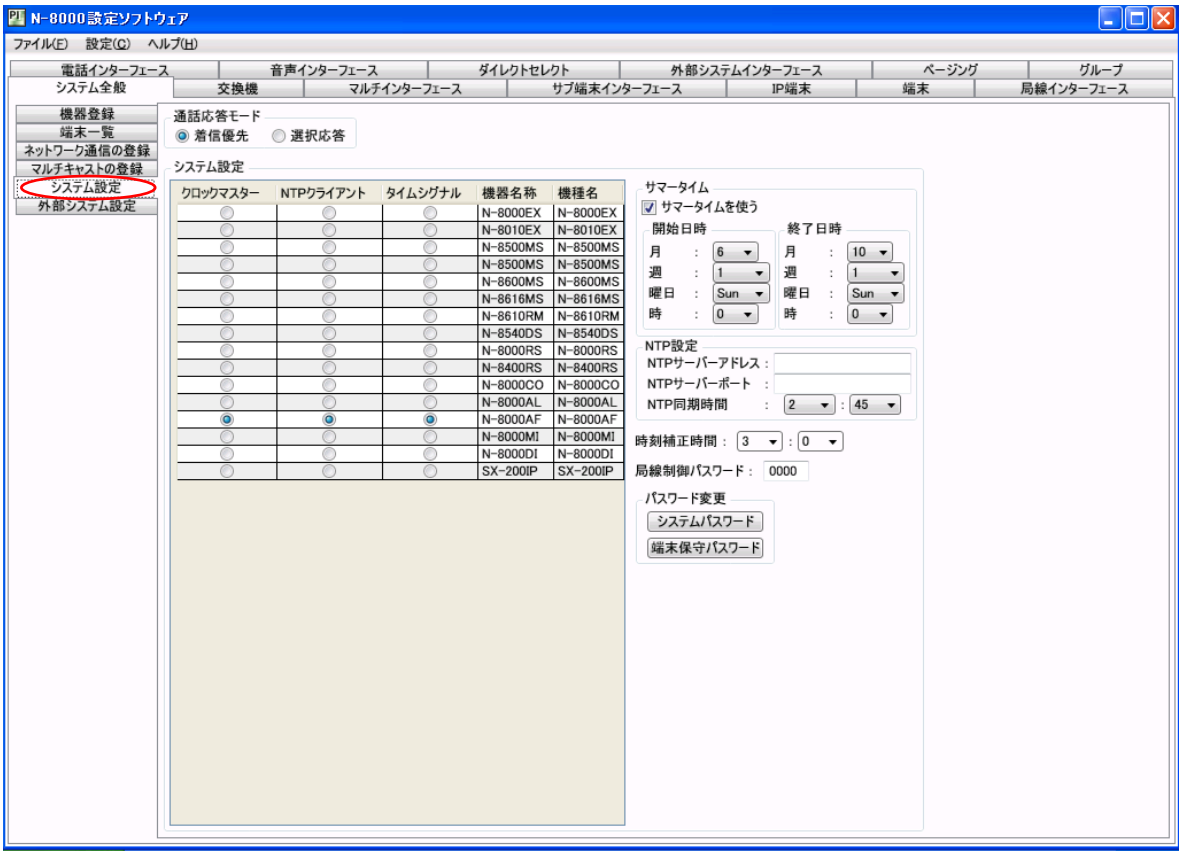
3 マルチキャストが可能な組み合わせをチェックする。

● システム設定の登録

システム内で共通する設定を行います。

1 システム設定タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



①通話応答モード

通話応答モードを設定します。

着信優先：着信した順番に応答します。

選択応答：マスター端末が端末を選択して応答します。

※「選択応答」は、ファームウェアがバージョン 2.00 以降でなければ動作しません。

②クロックマスター設定

システム全機器の時計を合わせるための、クロックマスターの機器を選択します。

クロックマスターとして設定できる機器は、システムで 1 台です。

N-8000AF で調時機能を有効にしている場合は、その N-8000AF しかクロックマスターに設定できません。

また、N-8000RS/8010RS/8400RS はクロックマスターに設定できません。

③NTP クライアント設定

NTP サーバーと接続する機器を選択します。

NTP クライアントとして設定できる機器はシステムで 1 台で、クロックマスターに設定した N-8000AF のみです。

ご注意

NTP クライアント機能による時刻補正範囲は分と秒のみです。この機能を使用する前に、クロックマスターの N-8000AF に正しい時刻を設定してください。（☞ P. 5-130、6-51）

④タイムシグナル設定

タイムシグナルを使用する N-8000AF を設定します。

⑤ サマータイム設定

サマータイムの設定をします。

サマータイムを使う　：サマータイムを使用するかどうかを設定します。
開始／終了　　：サマータイムを開始／終了する日時を設定します。○月の第○番目の○曜日の○時という形で指定します。○月の最後の○曜日という指定も可能です。

（設定例）

上の画面のように設定すると、開始／終了日は右のように設定されます。

6 月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

サマータイム開始日

10 月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

サマータイム終了日

⑥ NTP 設定

NTP サーバーアドレス：NTP サーバーの IP アドレスを入力します。
NTP サーバーポート　：NTP サーバーのポート番号を入力します。
NTP 同期時間　　：NTP サーバーと通信を行う時刻を設定します。
※ NTP は Ver. 3 を使用しています。

⑦ 時刻補正時間設定

クロックマスターを設定した場合に、システムの時計を合わせる時刻を設定します。

ご注意

- 時刻補正は、NTP 同期時間よりも後の時刻に設定することを推奨します。
- 時刻補正時間と NTP 同期時間を同じにした場合、システム上のいくつかの機器が NTP 同期後の正確な時刻にならないことがあります。

⑧ 局線制御パスワード

局線制御パスワードを設定します。

⑨ システムパスワードボタン

システムパスワードを変更します。

⑩ 端末保守パスワードボタン

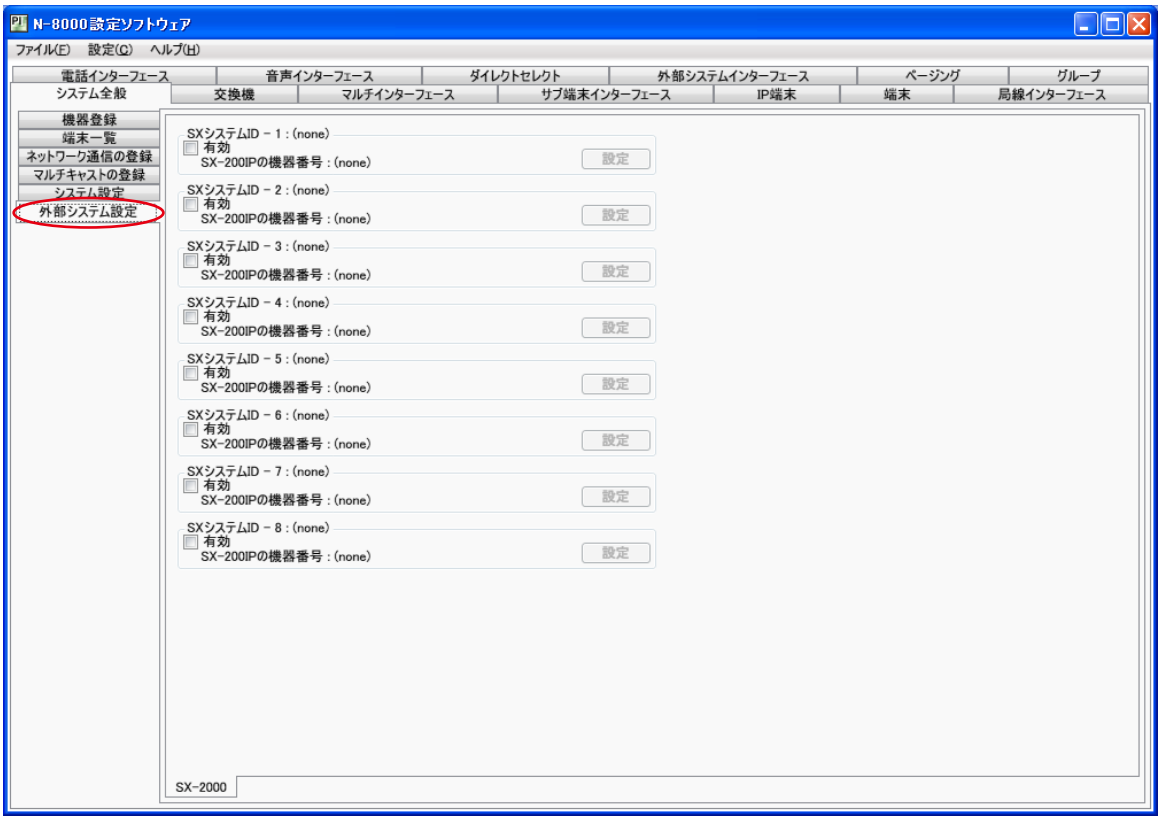
端末保守パスワードを変更します。

● 外部システムの設定

SX-2000 システムへの放送を行うために必要な設定を行います。
SX-2000 設定ファイルをあらかじめ用意しておいてください。

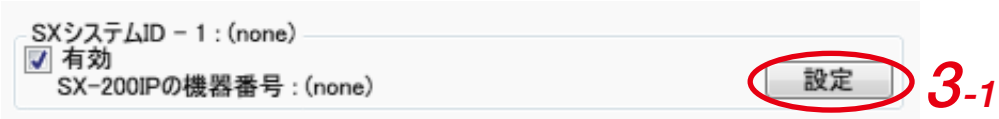
1 外部システム設定タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 接続する SX-2000 システムを選択する。

接続する SX-2000 システムの「有効」にチェックを入れます。

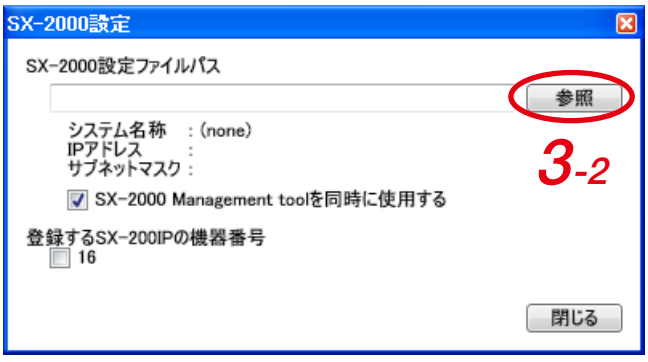


［設定］ボタンが有効になります。
8 システムまで接続できます。
※ チェックボックスの上の数字（1 ～ 8）が SX-2000 システムのシステム ID になります。

3 SX-2000 システムの設定を読み込む。

3-1 ［設定］ボタンを押す。
SX-2000 設定ダイアログが表示されます。

3-2 ［参照］ボタンを押して、SX-2000 設定ファイルを選択する。



SX-2000 システムのシステム名称、IP アドレスなどが表示されます。

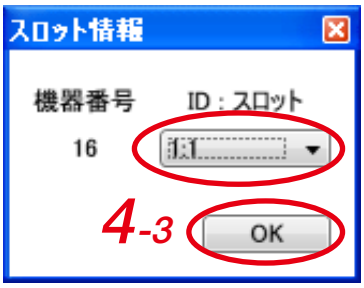
4 登録する SX-200IP を選択する。

4-1 登録する SX-200IP にチェックを入れる。

SX-2000 システム 1 つにつき 8 台まで接続できます。

4-2 ［閉じる］ボタンを押す。

スロット情報ダイアログが表示されます。



4-3 プルダウンメニューからスロットを選択し、［OK］ボタンを押す。

■ 交換機の設定をする

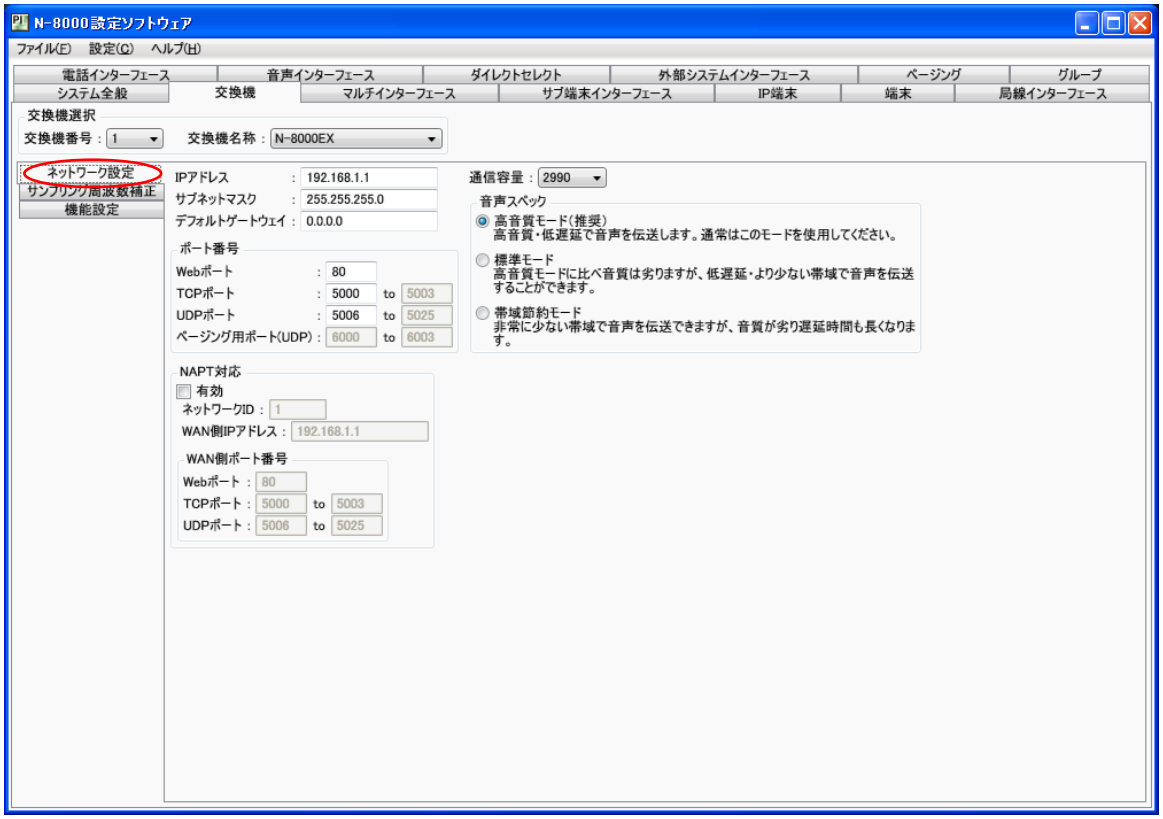
交換機タブをクリックします。

設定する交換機を選択します。交換機番号または交換機名称をリストから選択してください。

● ネットワークの設定

1 ネットワーク設定タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 各項目を設定する。

①IP アドレス
交換機の IP アドレスを入力します。

②サブネットマスク
サブネットマスクを入力します。

③デフォルトゲートウェイ
デフォルトゲートウェイを入力します。

④ ポート番号

各プロトコルで使用するポート番号を設定します。

[Web ポート]
Web サーバーのポート番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65535 です。（工場出荷時：80）

[TCP ポート]
Web サーバー以外の TCP ポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65532 です。N-8000 システムでは、TCP 開始ポートから連続して 4 個のポートを使います。（工場出荷時：5000）

TCP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
Webサーバー	TCP	Webサーバー	80
呼び出し制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 0	5000
PC監視	TCP	開始ポート番号 ＋ 1	5001
PC制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 2	5002
予約	TCP	開始ポート番号 ＋ 3	5003

[UDP ポート]
UDP で使用するポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65516 です。N-8000 システムでは、UDP 開始ポートから連続して 20 個のポートを使います。（工場出荷時：5006）

UDP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
予約	UDP	開始ポート番号 ＋ 0	5006
周波数補正	UDP	開始ポート番号 ＋ 1～3	5007～5009
通話	UDP	開始ポート番号 ＋ 4～19	5010～5025

ご注意
UDP のポート番号 15000 は内部で使用しています。14981 ～ 15000 は入力できません。

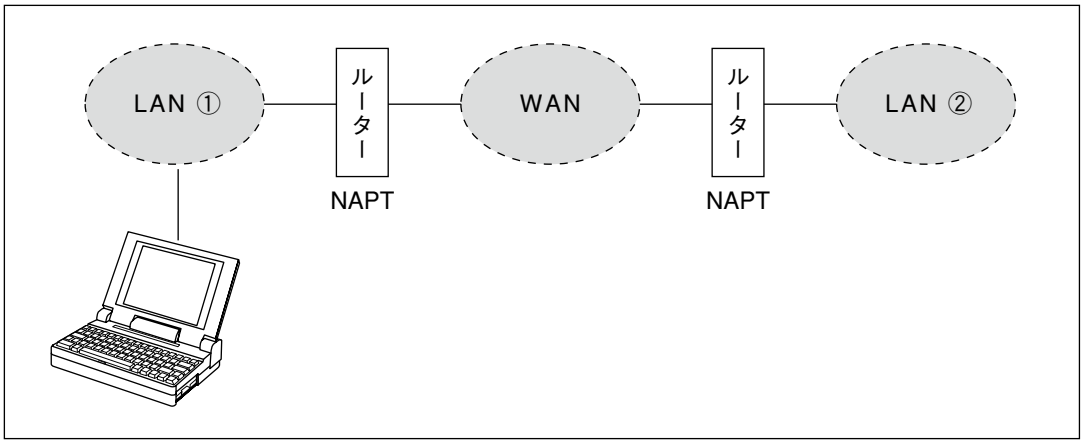
[ページング用ポート（UDP）]
マルチキャストを使用してページングを行う場合に使われるポート番号（UDP）が表示されます。
（設定のしかた ☞ P. 5-123「ページング系統を設定する」）

⑤ NAPT 対応

グローバル IP アドレスを使ってこの交換機に接続する場合は、「有効」にチェックを入れてください。ネットワーク ID ⑥～ WAN 側ポート番号⑧が入力可能になります。

⑥ ネットワーク ID

グローバル IP アドレスを使って接続する場合、ローカルアドレスを使ってアクセスできる範囲ごとにネットワークを識別する番号を入力します。
例えば、下図のようなネットワーク接続をしている場合、LAN ①に接続する機器には 1、LAN ②に接続する機器には 2、のように異なるネットワーク ID をつけます。
設定用のパソコンにはネットワーク ID：1 を割り当てています。パソコンからローカルアドレスを使ってアクセスできる機器（例えば LAN ①に接続する機器）には、ネットワーク ID：1 を設定してください。



⑦ WAN 側 IP アドレス

WAN 側から見たこの交換機の IP アドレスを入力します。

⑧ WAN 側ポート番号

WAN 側から見た各プロトコルで使用するポート番号を設定します。

[Web ポート]
Web サーバーのポート番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65535 です。（工場出荷時：80）

[TCP ポート]
Web サーバー以外の TCP ポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65532 です。N-8000 システムでは、TCP 開始ポートから連続して 4 個のポートを使います。（工場出荷時：5000）

TCP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
Webサーバー	TCP	Webサーバー	80
呼び出し制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 0	5000
PC監視	TCP	開始ポート番号 ＋ 1	5001
PC制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 2	5002
予約	TCP	開始ポート番号 ＋ 3	5003

[UDP ポート]
UDP で使用するポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65516 です。N-8000 システムでは、UDP 開始ポートから連続して 20 個のポートを使います。（工場出荷時：5006）

UDP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
予約	UDP	開始ポート番号 ＋ 0	5006
周波数補正	UDP	開始ポート番号 ＋ 1～3	5007～5009
通話	UDP	開始ポート番号 ＋ 4～19	5010～5025

⑨ 通信容量

この機器が接続するネットワーク回線の容量（または使用可能な上限値）を設定します。通信容量を設定すると、通話・ページングにより設定値を超えるトラフィックが発生して、音質が低下したり遅延が長くなったりするのを防ぐことができます。

⑩ 音声スペック

使用できる帯域によって、音声伝送のスペックを選択します。

高音質モード　：高音質・低遅延で音声を伝送します。通常はこのモードを使用してください。
標準モード　　：低遅延で音声を伝送します。音質は劣りますが、高音質モードと遅延時間は同じで使用帯域が少なくなります。ISDN 回線（128 kbps）で接続している場合などはこのモードを使用してください。
帯域節約モード：非常に少ない帯域で音声を伝送できますが、音質は劣り、遅延時間も長くなります。アナログ回線（56 kbps）で接続している場合はこのモードを使用してください。

	サンプリング周波数	遅延	使用帯域
高音質モード	16 kHz	0.08 秒	130 kbps
標準モード	8 kHz	0.08 秒	98 kbps
帯域節約モード	8 kHz	0.32 秒	49.5 kbps

● サンプリング周波数補正の設定

1 サンプリング周波数補正タブをクリックする。

設定画面が表示されます。

2 各項目を設定する。

①サンプリング周波数補正

サンプリング周波数補正情報を異なるネットワーク間に転送する設定をします。（ブロードキャストパケットが届く範囲は、自動的に補正情報が送受信されます。）

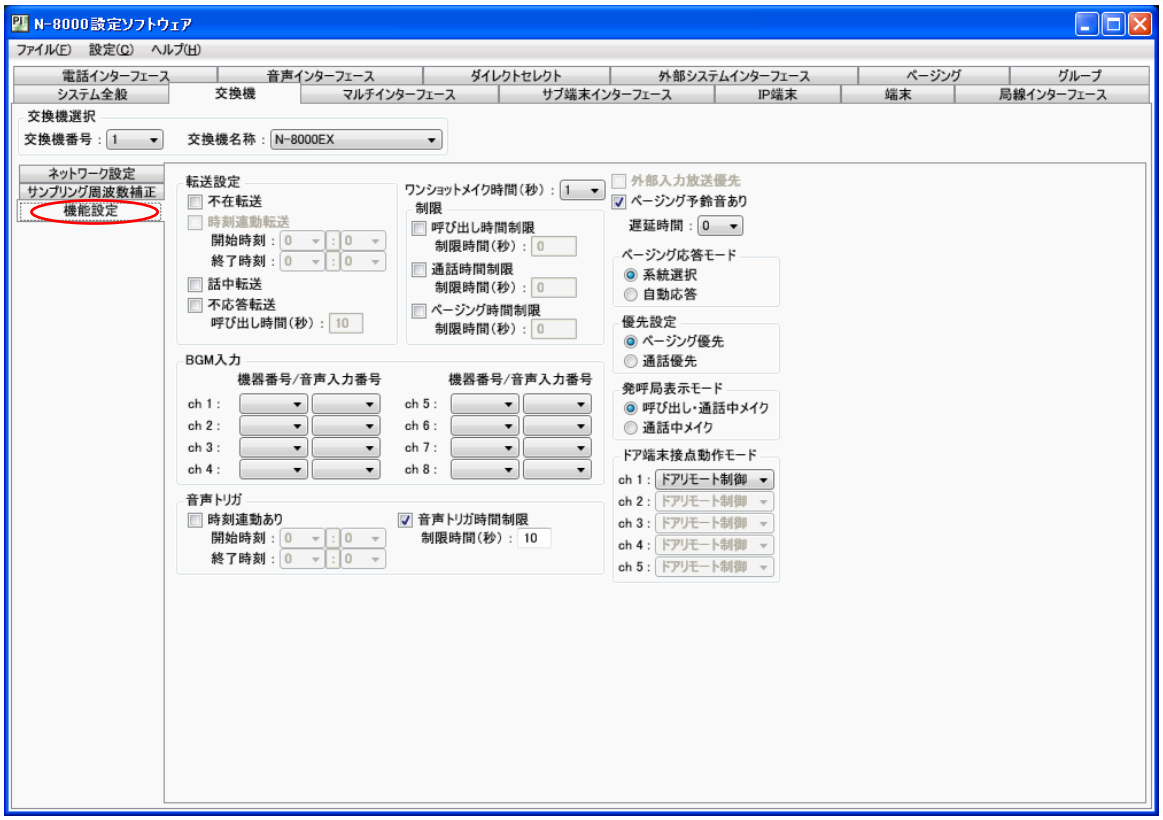
※ サンプリング周波数補正については、P. 8-10 をお読みください。

自動 ：補正情報を他のネットワークへ転送せずに、ローカルネットワーク上のみで補正します。
送信 ：補正情報を他のネットワークへ送信します。送信先入力欄が入力可能になりますので、送信先 IP アドレスとポート番号を入力します。最大 16 カ所まで設定可能です。マルチキャストを使用してサンプリング周波数を補正する場合、送信先 IP アドレスを入力してください。
受信 ：補正情報を他のネットワークから受信します。受信元アドレスが入力可能になりますので、受信元 IP アドレスを入力します。
マルチキャストを使用して補正情報を転送する場合、「マルチキャストパケットを受信する」にチェックし、使用するマルチキャストアドレスを入力してください。

● 機能の設定

1 機能設定タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



※ 交換機の種類により、入力できる項目は異なります。

2 各項目を設定する。

①転送設定

この交換機に接続する端末で転送機能を使うかどうか設定します。

不在転送　　：着信があった場合、着信端末が不在転送に設定されていれば、呼び出し音を鳴らさずに、自動的に転送されます。

時刻連動転送：設定された時間内に着信があった場合、呼び出し音を鳴らさずに、自動的に転送されます。不在転送機能が有効になっている場合に時刻連動転送設定ができます。時刻連動転送機能が有効になっているときのみ時刻設定ができます。

話中転送　　：通話中に着信があった場合、着信端末に話中転送が設定されていると自動的に転送されます。

不応答転送　：着信があった場合、着信端末に不応答転送設定があり一定時間応答しないと自動的に転送されます。転送するまでの呼び出し時間は、不応答転送が有効になっている場合のみ設定できます。

②ワンショットメイク時間（秒）

外部制御出力端子がワンショットメイクする時間を設定します。

設定範囲は１～９秒（1 秒単位）です。

③制限

呼び出し、通話、ページング機能についての時間制限を設定します。
制限時間は 10 ～ 990 秒（10 秒単位）で設定します。

呼び出し時間制限　：端末を呼び出し続ける時間に制限を設けるかどうかを設定します。
制限を設ける場合、制限時間を入力してください。制限時間を過ぎると、端末の呼び出しは自動的に終わります。
制限がない場合は、呼び出しをやめるか、呼び出し先端末が応答するまで呼び出し続けます。

通話時間制限　：端末の通話時間に上限を設けるかどうかを設定します。
制限を設ける場合、制限時間を入力してください。制限時間を過ぎると、通話は自動的に終了します。
制限がない場合は、終了操作を行うまで通話は継続します。

ページング時間制限　：ページング呼び出し時間に上限を設けるかどうかを設定します。
制限を設ける場合、制限時間を入力してください。制限時間を過ぎると、ページング呼び出しは自動的に終わります。
制限がない場合は、終了操作を行うまでページング呼び出しは継続します。

④BGM 入力

この交換機に接続する端末で聞く BGM を設定します。
各チャンネルに、BGM 音源が接続されているマルチインターフェースユニットの機器番号と音声入力番号を選択します。

⑤音声トリガ

N-8050DS の音声トリガ機能の、時刻連動機能と時間制限機能の設定を行います。
交換機が N-8000EX の場合のみ有効です。

時刻連動あり　：時刻連動ありを選択することにより、音声トリガ機能を有効にする時間帯を設定できます。

音声トリガ時間制限　：音声トリガのモニター機能の制限時間を設定します。

⑥ページング予鈴音あり

チェックを入れると、ページング開始時に予鈴音が鳴ります。

⑦遅延時間

ページング開始時の遅延時間を設定します。

⑧ページング応答モード

ページング応答時の動作を「系統選択」モードまたは「自動応答」モードから選択します。

系統選択　：ページング系統番号を指定して応答します。指定した系統へ最後に呼び出し放送をした端末に応答します。
複数系統の呼び出し放送が聞こえる場所があるときは、このモードに設定します。

自動応答　：ページング応答キーのみで応答します。操作端末が最後に受信したページング系統に呼び出し放送をした端末に応答します。

⑨優先設定

ページングと通話が重なった場合に、どちらを優先させるかを設定します。
N-8010EX は、「通話優先」モード固定になります。

ページング優先：ページング受信中に他の端末から着信があっても、話中になりページング受信を継続します。ページング受信中に、ダイヤル操作はできません。（ページング受信中の端末からページング応答をすることもできません。）

通話優先　：通話中、ダイヤル途中などのときにページングがあっても、ページングを受信しません。
ページング受信中にも、ダイヤル操作はできます。

⑩ 発呼局表示モード

発呼局表示時の動作を「呼び出し・通話中メイク」モードまたは「通話中メイク」モードから選択します。
マルチインターフェースユニット、ダイレクトセレクトユニット、または音声インターフェースユニットの接点出力がメイクされるタイミングは右の表のとおりです。

発呼局表示モード / 端末の動作	呼び出し・通話中メイク	通話中メイク
呼び出し中	メイク	ブレイク
着信中	ブレイク	ブレイク
話中待ち	メイク	ブレイク
通話	メイク	メイク
ページング受信	ブレイク	ブレイク
スキャンモニター受信	メイク	メイク

⑪ ドア端末接点動作モード

この交換機に接続するドア端末の接点出力の動作モードを設定します。
「ドアリモート制御」「呼び出し中メイク」「通話中メイク」「呼び出し･通話中メイク」の中から選択します。
ドア端末の接点出力がメイクされるタイミングは次の表のとおりです。

ドア端末接点動作モード / ドア端末の動作	ドアリモート制御	呼び出し中メイク	通話中メイク	呼び出し・通話中メイク
呼び出し中	ブレイク	メイク	ブレイク	メイク
着信中	ブレイク	ブレイク	メイク	ブレイク
話中待ち	ブレイク	メイク	ブレイク	メイク
通話	ブレイク	ブレイク	メイク	メイク
ページング受信	ブレイク	ブレイク	ブレイク	ブレイク
スキャンモニター受信	ブレイク	ブレイク	メイク	メイク
ドアリモート	メイク	——	——	——

■ マルチインターフェースの設定をする

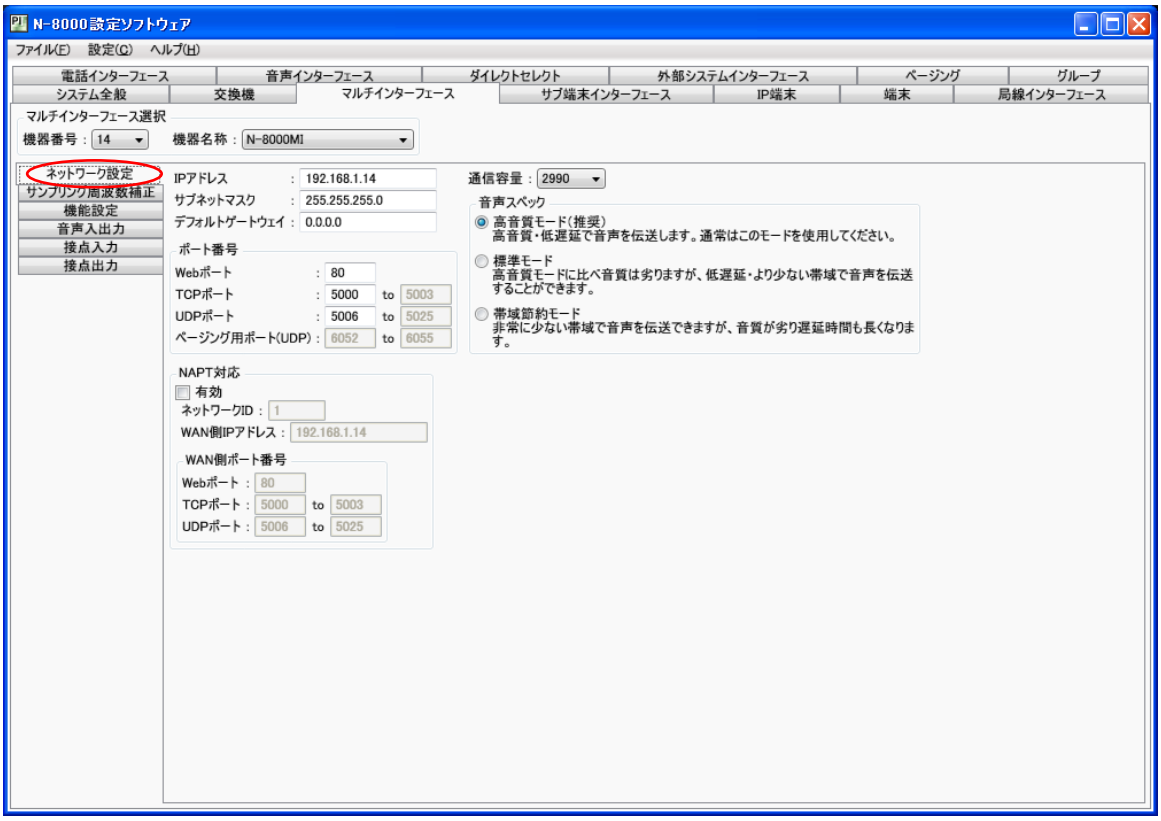
マルチインターフェースタブをクリックします。

設定するマルチインターフェースユニットを選択します。機器番号または機器名称をリストから選択してください。

● ネットワークの設定

1 ネットワーク設定タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 各項目を設定する。

①IP アドレス
マルチインターフェースユニットの IP アドレスを入力します。

②サブネットマスク
サブネットマスクを入力します。

③デフォルトゲートウェイ
デフォルトゲートウェイを入力します。

④ ポート番号

各プロトコルで使用するポート番号を設定します。

[Web サーバー]
Web サーバーのポート番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65535 です。（工場出荷時：80）

[TCP ポート]
Web サーバー以外の TCP ポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65532 です。N-8000 システムでは、TCP 開始ポートから連続して 4 個のポートを使います。（工場出荷時：5000）

TCP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
Webサーバー	TCP	Webサーバー	80
呼び出し制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 0	5000
PC監視	TCP	開始ポート番号 ＋ 1	5001
PC制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 2	5002
予約	TCP	開始ポート番号 ＋ 3	5003

[UDP ポート]
UDP で使用するポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65516 です。N-8000 システムでは、UDP 開始ポートから連続して 20 個のポートを使います。（工場出荷時：5006）

UDP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
予約	UDP	開始ポート番号 ＋ 0	5006
周波数補正	UDP	開始ポート番号 ＋ 1～3	5007～5009
通話	UDP	開始ポート番号 ＋ 4～19	5010～5025

ご注意
UDP のポート番号 15000 は内部で使用しています。14981 ～ 15000 は入力できません。

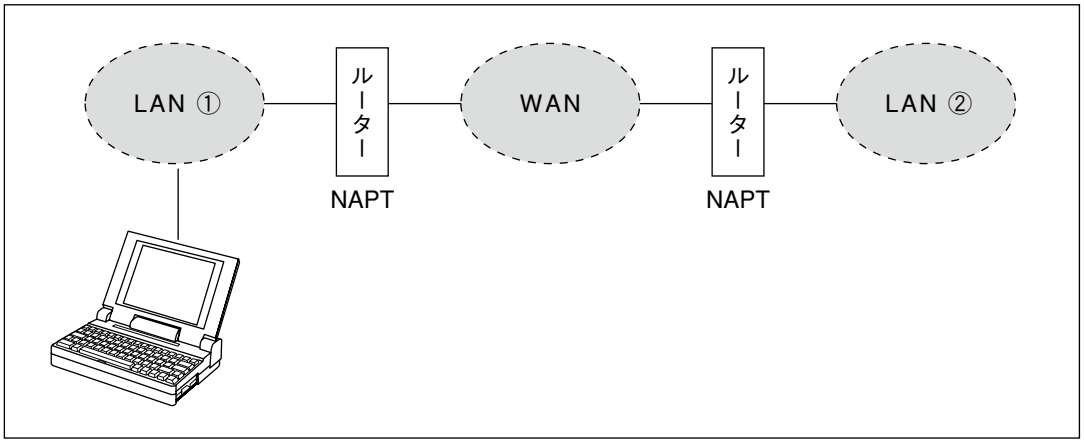
[ページング用ポート（UDP）]
マルチキャストを使用してページングを行う場合に使われるポート番号（UDP）が表示されます。
（設定のしかた ☞ P. 5-123「ページング系統を設定する」）

⑤ NAPT 対応

グローバル IP アドレスを使ってこの交換機に接続する場合は、「有効」にチェックを入れてください。ネットワーク ID ⑥～ WAN 側ポート番号⑧が入力可能になります。

⑥ ネットワーク ID

グローバル IP アドレスを使って接続する場合、ローカルアドレスを使ってアクセスできる範囲ごとにネットワークを識別する番号を入力します。
例えば、下図のようなネットワーク接続をしている場合、LAN ①に接続する機器には 1、LAN ②に接続する機器には 2、のように異なるネットワーク ID をつけます。
設定用のパソコンにはネットワーク ID：1 を割り当てています。パソコンからローカルアドレスを使ってアクセスできる機器（例えば LAN ①に接続する機器）には、ネットワーク ID：1 を設定してください。



⑦ WAN 側 IP アドレス

WAN 側から見たこのマルチインターフェースユニットの IP アドレスを入力します。

⑧ WAN 側ポート番号

WAN 側から見た各プロトコルで使用するポート番号を設定します。

[Web ポート]
Web サーバーのポート番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65535 です。（工場出荷時：80）

[TCP ポート]
Web サーバー以外の TCP ポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65532 です。N-8000 システムでは、TCP 開始ポートから連続して 4 個のポートを使います。（工場出荷時：5000）

TCP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
Webサーバー	TCP	Webサーバー	80
呼び出し制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 0	5000
PC監視	TCP	開始ポート番号 ＋ 1	5001
PC制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 2	5002
予約	TCP	開始ポート番号 ＋ 3	5003

[UDP ポート]
UDP で使用するポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65516 です。N-8000 システムでは、UDP 開始ポートから連続して 20 個のポートを使います。（工場出荷時：5006）

UDP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
予約	UDP	開始ポート番号 ＋ 0	5006
周波数補正	UDP	開始ポート番号 ＋ 1～3	5007～5009
通話	UDP	開始ポート番号 ＋ 4～19	5010～5025

⑨通信容量

この機器が接続するネットワーク回線の容量（または使用可能な上限値）を設定します。通信容量を設定すると、通話・ページングにより設定値を超えるトラフィックが発生して、音質が低下したり遅延が長くなったりするのを防ぐことができます。

⑩音声スペック

使用できる帯域によって、音声伝送のスペックを選択します。

高音質モード　：高音質・低遅延で音声を伝送します。通常はこのモードを使用してください。BGM 音源を接続する場合は、必ずこのモードにしてください。

標準モード　　：低遅延で音声を伝送します。音質は劣りますが、高音質モードと遅延時間は同じで使用帯域が少なくなります。ISDN 回線（128 kbps）で接続している場合などはこのモードを使用してください。

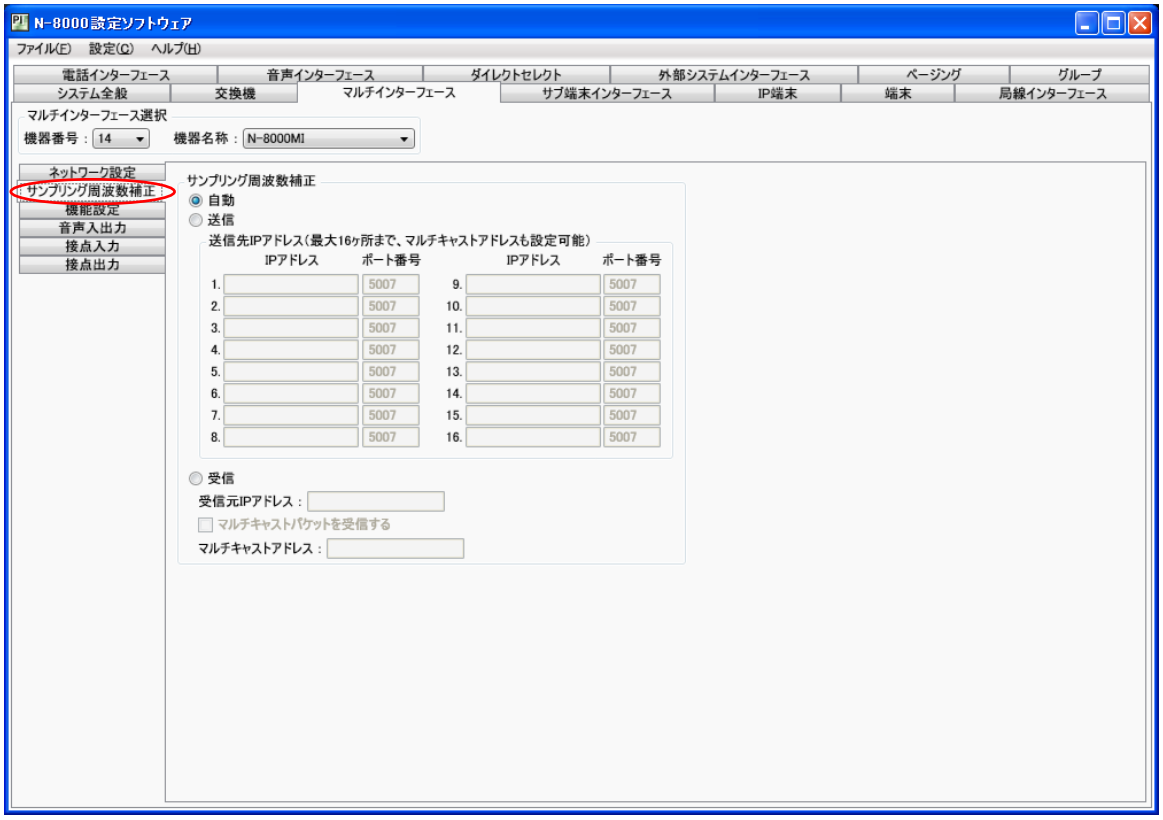
帯域節約モード：非常に少ない帯域で音声を伝送できますが、音質は劣り、遅延時間も長くなります。アナログ回線（56 kbps）で接続している場合はこのモードを使用してください。

	サンプリング周波数	遅延	使用帯域
高音質モード	16 kHz	0.08 秒	130 kbps
標準モード	8 kHz	0.08 秒	98 kbps
帯域節約モード	8 kHz	0.32 秒	49.5 kbps

● サンプリング周波数補正の設定

1 サンプリング周波数補正タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 各項目を設定する。

①サンプリング周波数補正

サンプリング周波数補正情報を異なるネットワーク間に転送する設定をします。（ブロードキャストパケットが届く範囲は、自動的に補正情報が送受信されます。）

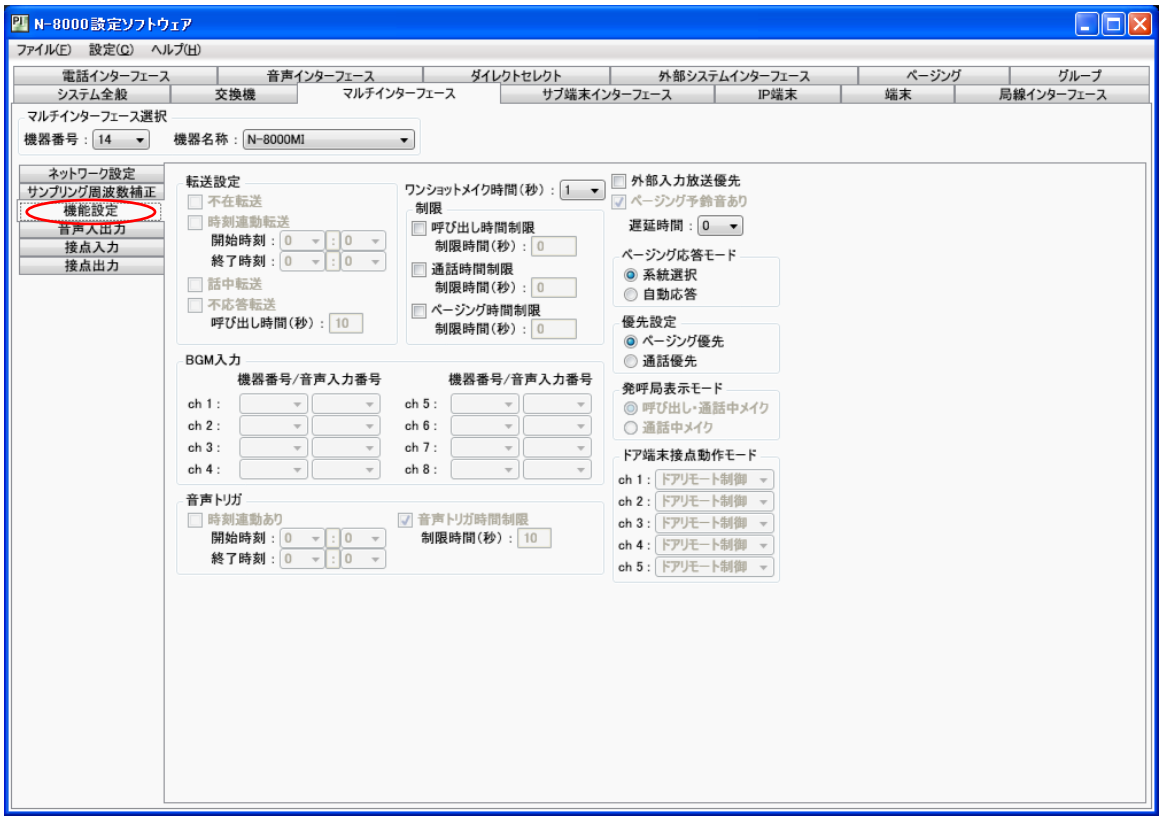
※ サンプリング周波数補正については、P. 8-10 をお読みください。

自動　：補正情報を他のネットワークへ転送せずに、ローカルネットワーク上のみで補正します。
送信　：補正情報を他のネットワークへ送信します。送信先入力欄が入力可能になりますので、送信先 IP アドレスとポート番号を入力します。最大 16 カ所まで設定可能です。マルチキャストを使用してサンプリング周波数を補正する場合、送信先 IP アドレスを入力してください。
受信　：補正情報を他のネットワークから受信します。受信元アドレスが入力可能になりますので、受信元 IP アドレスを入力します。
マルチキャストを使用して補正情報を転送する場合、「マルチキャストパケットを受信する」にチェックし、使用するマルチキャストアドレスを入力してください。

● 機能の設定

1 機能設定タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 各項目を設定する。

①ワンショットメイク時間（秒）

外部制御出力端子がワンショットメイクする時間を設定します。
設定範囲は１～９秒（1 秒単位）です。

②制限

呼び出し、通話、ページング機能についての時間制限を設定します。
制限時間は 10 ～ 990 秒（10 秒単位）で設定します。

呼び出し時間制限　：端末を呼び出し続ける時間に制限を設けるかどうかを設定します。
制限を設ける場合、制限時間を入力してください。制限時間を過ぎると、端末の呼び出しは自動的に終わります。
制限がない場合は、呼び出しをやめるか、呼び出し先端末が応答するまで呼び出し続けます。

通話時間制限　：端末の通話時間に上限を設けるかどうかを設定します。
制限を設ける場合、制限時間を入力してください。制限時間を過ぎると、通話は自動的に終了します。
制限がない場合は、終了操作を行うまで通話は継続します。

ページング時間制限 ：ページング呼び出し時間に上限を設けるかどうかを設定します。
制限を設ける場合、制限時間を入力してください。制限時間を過ぎると、ページング呼び出しは自動的に終わります。
制限がない場合は、終了操作を行うまでページング呼び出しは継続します。

③外部入力放送優先

外部入力放送を一斉ページングや系統ページングよりも優先します。

④遅延時間

ページング開始時の遅延時間を設定します。

⑤ページング応答モード

ページング応答時の動作を「系統選択」モードまたは「自動応答」モードから選択します。

系統選択 ：ページング系統番号を指定して応答します。指定した系統へ最後に呼び出し放送をした端末に応答します。
複数系統の呼び出し放送が聞こえる場所があるときは、このモードに設定します。

自動応答 ：ページング応答キーのみで応答します。操作端末が最後に受信したページング系統に呼び出し放送をした端末に応答します。

⑥優先設定

ページングと通話が重なった場合に、どちらを優先させるかを設定します。

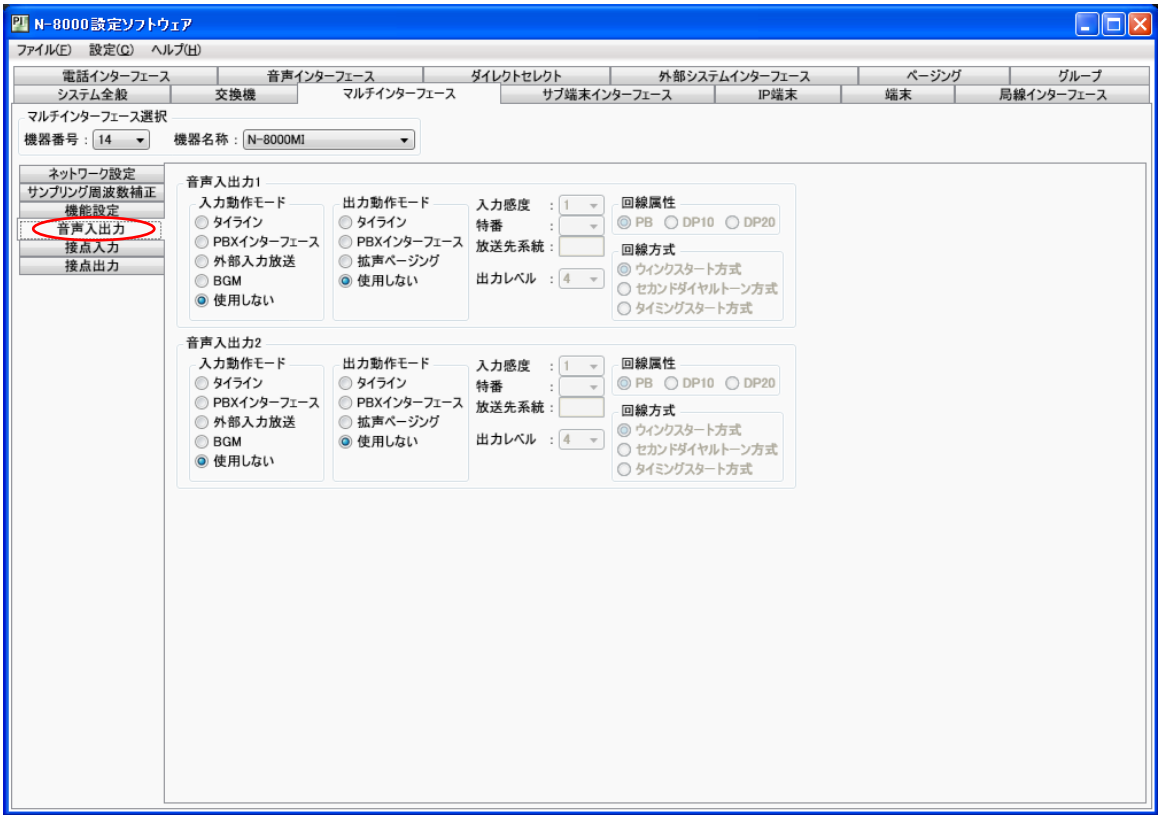
ページング優先 ：ページング受信中に他の端末から着信があっても、話中になりページング受信を継続します。ページング受信中に、ダイヤル操作はできません。（ページング受信中の端末からページング応答をすることもできません。）

通話優先 ：通話中、ダイヤル途中などのときにページングがあっても、ページングを受信しません。
ページング受信中にも、ダイヤル操作はできます。

● 音声入出力の設定

1 音声入出力タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 音声入出力１と２の各項目を設定する。

マルチインターフェースユニットの音声入出力をどのように使用するかを設定します。
音声入出力１と２にそれぞれ次の設定項目があります。

① 入力動作モード

使用する動作モードを設定します。
「タイライン」または「PBX インターフェース」を選択すると、出力動作モードも自動的に同じ内容に設定されます。

タイライン	：別のインターカム交換機（EXES-2000、EXES-6000、EXES-7000）と接続する場合に選択します。
PBX インターフェース	：PBX の OD トランクと接続する場合に選択します。
外部入力放送	：演奏機器やリモートマイクなどと接続して、ページング呼び出しをする場合に選択します。制御入力から起動がかかると、あらかじめ登録していたページング系統に、ページング呼び出しをすることができます。
BGM	：演奏機器などと接続して、待ち受け状態の端末のスピーカーに、この入力からの音源を流すときに選択します。
使用しない	：この音声入力を使用しません。

②出力動作モード

入力動作モードを「外部入力放送」「BGM」または「使用しない」に設定すると、「拡声ページング」を選択することができます。

タイライン	：別のインターカム交換機（EXES-2000、EXES-6000、EXES-7000）と接続する場合に選択します。
PBX インターフェース	：PBX の OD トランクと接続する場合に選択します。
拡声ページング	：アンプなどと接続して拡声ページングをする場合に選択します。
使用しない	：この音声出力を使用しません。

③入力感度

入力動作モードを「タイライン」または「PBX インターフェース」に設定すると、入力感度が設定できるようになります。

1 ～ 4 の 4 段階で設定します。1 が最小、4 が最大です。初期値は 1 です。（5 dB ステップ）

④特番

入力動作モードを「タイライン」または「PBX インターフェース」に設定すると、特番が設定できるようになります。

別のインターカム交換機または PBX に発信するときに操作する特番を 0 ～ 99（1 桁または 2 桁）で設定してください。

ご注意

特番が 1 桁の場合、端末番号の上 1 桁と一致しないように設定してください。
特番が 2 桁の場合、端末番号の上 2 桁と一致しないように設定してください。

⑤放送先系統

入力動作モードを「外部入力放送」に設定すると、放送先系統が設定できるようになります。

放送先のページング系統番号を入力してください。

⑥出力レベル

入力動作モードを「タイライン」または「PBX インターフェース」に設定すると、出力レベルが設定できるようになります。

1 ～ 4 の 4 段階で設定します。1 が最小、4 が最大です。初期値は 4 です。（5 dB ステップ）

⑦回線属性

入力動作モードを「PBX インターフェース」に設定すると、回線属性を設定できるようになります。

「PB」「DP10」「DP20」から選択します。

⑧回線方式

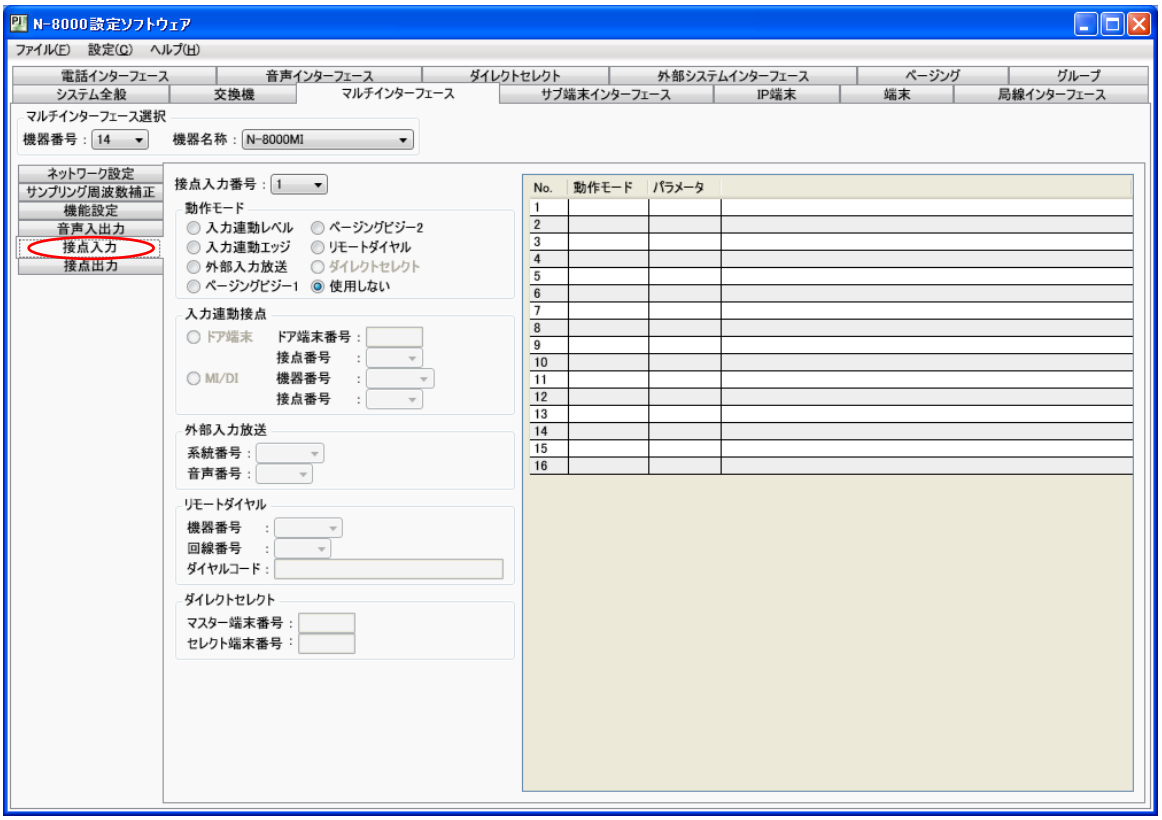
入力動作モードを「PBX インターフェース」に設定すると、回線方式を設定できるようになります。

「ウインクスタート方式」「セカンドダイヤルトーン方式」「タイミングスタート方式」から選択します。

● 接点入力の設定

1 接点入力タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 接点入力の各項目を設定する。

① 接点入力番号

この機器の接点入力端子の番号です。編集できません。

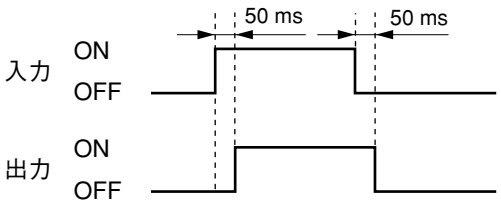
② 動作モード

接点入力の動作モードを選択します。ここで選んだ種類に応じて設定内容が変わります。

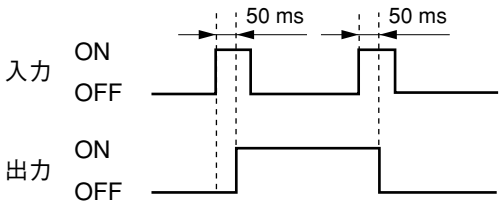
入力連動レベル ：この接点入力を接点出力に伝送するときに選択します。伝送出力信号は下図のようになります。（入力が変化して 50 ms 間安定すると、入力が確定します。）

入力連動エッジ ：この接点入力を接点出力に伝送するときに選択します。伝送出力信号は下図のようになります。（入力が変化して 50 ms 間安定すると、入力が確定します。）

［入力連動レベル］



［入力連動エッジ］



外部入力放送　　：マルチインターフェースユニットの音声入力端子に接続された演奏機器などにこの制御入力から起動をかけるときに選択します。
ページングビジー１：外部に接続した拡声ページングのビジー状態を音声出力１に出力するときに選択します。
ページングビジー２：外部に接続した拡声ページングのビジー状態を音声出力２に出力するときに選択します。
リモートダイヤル　：マルチインターフェースユニットの接点入力がメイクされると、任意の端末が自動的にダイヤルします。１つの接点入力で最大 32 桁のダイヤルコード（ダイヤル番号、キー操作）を設定できます。
使用しない　　：この接点入力を使用しません。

③入力連動接点

動作モードの設定で「入力連動レベル」または「入力連動エッジ」を選択した場合に、出力する接点の番号を指定します。ドア端末の接点出力端子を指定するときは、「ドア端末」にチェックを入れ、ドア端末番号を設定します。N-8640DS/8650DS の場合は、接点出力端子の番号も設定します。マルチインターフェースユニットまたはダイレクトセレクトユニットの接点を指定するときは、「MI/DI」にチェックを入れ、マルチインターフェースユニットまたはダイレクトセレクトユニットの機器番号と接点出力端子の番号を設定します。

④外部入力放送

動作モードの設定で「外部入力放送」を選択した場合に、ページングの放送先系統番号とページング放送の音源を入力する端子の番号（音声入力端子の番号）を設定します。

⑤リモートダイヤル

動作モードの設定で「リモートダイヤル」を選択した場合に、リモートダイヤルをする端末が接続されている交換機の機器番号と回線番号を選択し、ダイヤルの内容を下の表に示すダイヤルコード（半角）で入力します。

・ダイヤルコードに登録できるキーおよび操作は、下の表のとおりです。
・最大 32 桁のダイヤルコードを登録できます。

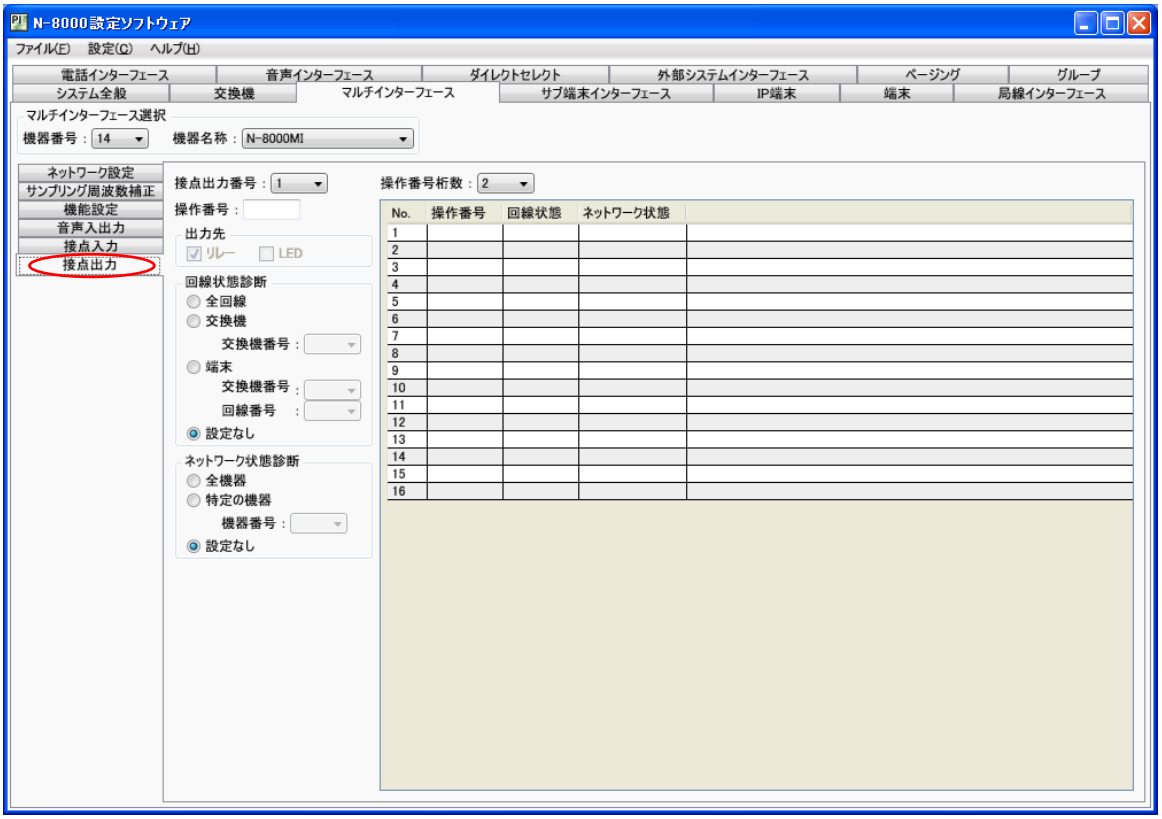
登録するキーまたは操作	ダイヤルコード
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8
9	9
0	0
＊/▼	*
＃/▲	#
C	C

登録するキーまたは操作	ダイヤルコード
PTT キーを押す（PTT キーがオン）	PN
PTT キーを離す（PTT キーがオフ）	PF
ページング呼出	PC
ページング応答	PR
保留	HD
転送	TR
機能	FN
リダイヤル	RD
メニュー	MN
選択	SL
左矢印（◀）	LC
右矢印（▶）	RC
上矢印（▲）	UC
下矢印（▼）	DC

● 接点出力の設定

1 接点出力タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 接点出力の各項目を設定する。

端末で外部機器制御（ワンショットメイク出力、メイク／ブレイク出力）の操作をする接点出力のみ、その設定をします。

①接点出力番号

この機器の接点出力端子の番号です。編集できません。

②操作番号桁数

端末で外部機器制御の操作をするときの番号の桁数を選択します。

③操作番号

端末で外部機器制御の操作をするときの番号を「操作番号桁数」で設定した桁数で設定します。

ご注意

- 操作番号を「0」に設定することはできません。
- 操作番号桁数が 4 桁の場合、設定できる操作番号は「0001」～「6144」となります。

④ 回線状態診断

診断する回線を選択します。
回線状態が CPU 異常または端末番号登録済みであるが未接続のときに、異常と判断して、接点出力をメイクします。

⑤ ネットワーク状態診断

診断する機器を選択します。
通信の応答がないと、異常と判断して、接点出力をメイクします。

■ サブ端末インターフェースの設定をする

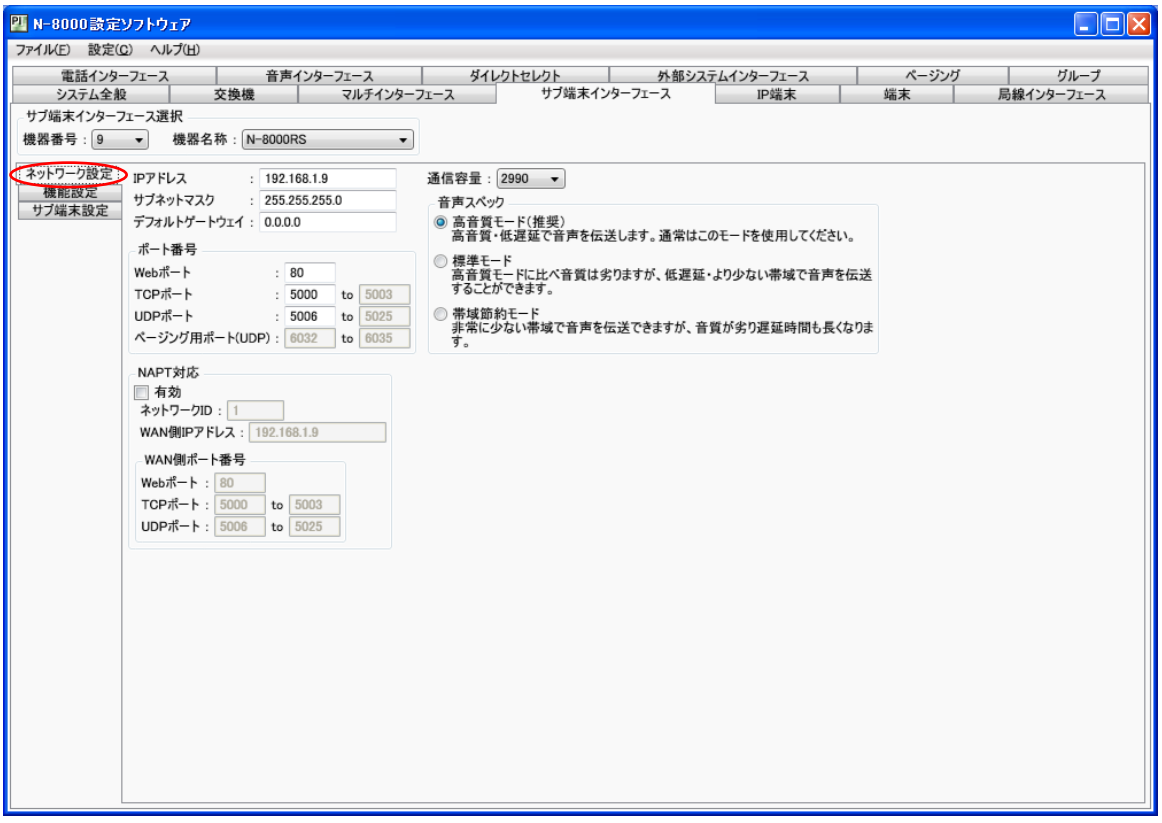
サブ端末インターフェースタブをクリックします。

設定するサブ端末接続ユニットを選択します。機器番号または機器名称をリストから選択してください。

● ネットワークの設定

1 ネットワーク設定タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 各項目を設定する。

①IP アドレス
サブ端末接続ユニットの IP アドレスを入力します。

②サブネットマスク
サブネットマスクを入力します。

③デフォルトゲートウェイ
デフォルトゲートウェイを入力します。

④ ポート番号

各プロトコルで使用するポート番号を設定します。

[Web ポート]
Web サーバーのポート番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65535 です。（工場出荷時：80）

[TCP ポート]
Web サーバー以外の TCP ポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65532 です。N-8000 システムでは、TCP 開始ポートから連続して 4 個のポートを使います。（工場出荷時：5000）

TCP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
Webサーバー	TCP	Webサーバー	80
呼び出し制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 0	5000
PC監視	TCP	開始ポート番号 ＋ 1	5001
PC制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 2	5002
予約	TCP	開始ポート番号 ＋ 3	5003

[UDP ポート]
UDP で使用するポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65516 です。N-8000 システムでは、UDP 開始ポートから連続して 20 個のポートを使います。（工場出荷時：5006）

UDP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
予約	UDP	開始ポート番号 ＋ 0	5006
周波数補正	UDP	開始ポート番号 ＋ 1～3	5007～5009
通話	UDP	開始ポート番号 ＋ 4～19	5010～5025

ご注意
UDP のポート番号 15000 は内部で使用しています。14981 ～ 15000 は入力できません。

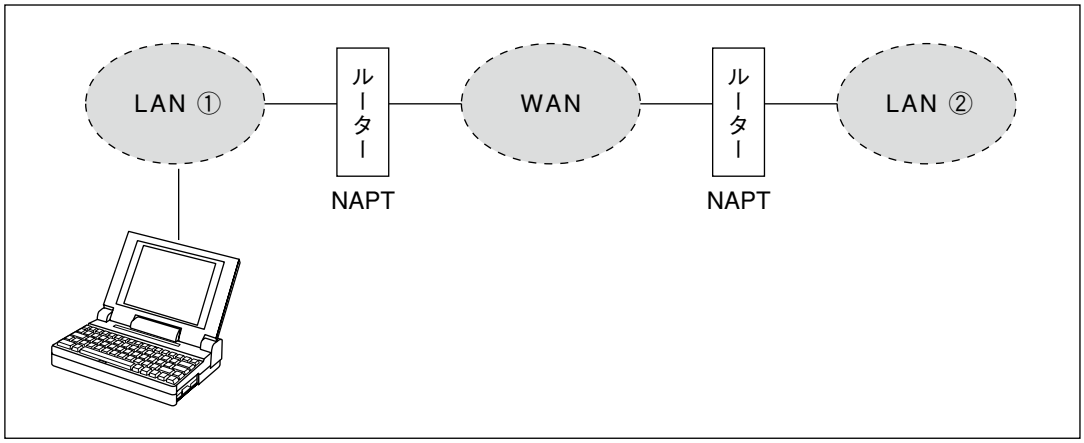
[ページング用ポート（UDP）]
マルチキャストを使用してページングを行う場合に使われるポート番号（UDP）が表示されます。
（設定のしかた ☞ P. 5-123「ページング系統を設定する」）

⑤ NAPT 対応

グローバル IP アドレスを使ってこの交換機に接続する場合は、「有効」にチェックを入れてください。ネットワーク ID ⑥～ WAN 側ポート番号⑧が入力可能になります。

⑥ ネットワーク ID

グローバル IP アドレスを使って接続する場合、ローカルアドレスを使ってアクセスできる範囲ごとにネットワークを識別する番号を入力します。
例えば、下図のようなネットワーク接続をしている場合、LAN ①に接続する機器には 1、LAN ②に接続する機器には 2、のように異なるネットワーク ID をつけます。
設定用のパソコンにはネットワーク ID：1 を割り当てています。パソコンからローカルアドレスを使ってアクセスできる機器（例えば LAN ①に接続する機器）には、ネットワーク ID：1 を設定してください。



⑦ WAN 側 IP アドレス

WAN 側から見たこのサブ端末接続ユニットの IP アドレスを入力します。

⑧ WAN 側ポート番号

WAN 側から見た各プロトコルで使用するポート番号を設定します。

[Web ポート]
Web サーバーのポート番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65535 です。（工場出荷時：80）

[TCP ポート]
Web サーバー以外の TCP ポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65532 です。N-8000 システムでは、TCP 開始ポートから連続して 4 個のポートを使います。（工場出荷時：5000）

TCP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
Webサーバー	TCP	Webサーバー	80
呼び出し制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 0	5000
PC監視	TCP	開始ポート番号 ＋ 1	5001
PC制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 2	5002
予約	TCP	開始ポート番号 ＋ 3	5003

[UDP ポート]
UDP で使用するポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65516 です。N-8000 システムでは、UDP 開始ポートから連続して 20 個のポートを使います。（工場出荷時：5006）

UDP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
予約	UDP	開始ポート番号 ＋ 0	5006
周波数補正	UDP	開始ポート番号 ＋ 1～3	5007～5009
通話	UDP	開始ポート番号 ＋ 4～19	5010～5025

⑨通信容量

この機器が接続するネットワーク回線の容量（または使用可能な上限値）を設定します。通信容量を設定すると、通話・ページングにより設定値を超えるトラフィックが発生して、音質が低下したり遅延が長くなったりするのを防ぐことができます。

⑩音声スペック

使用できる帯域によって、音声伝送のスペックを選択します。

高音質モード　：高音質・低遅延で音声を伝送します。通常はこのモードを使用してください。BGM 音源を接続する場合は、必ずこのモードにしてください。

標準モード　　：低遅延で音声を伝送します。音質は劣りますが、高音質モードと遅延時間は同じで使用帯域が少なくなります。ISDN 回線（128 kbps）で接続している場合などはこのモードを使用してください。

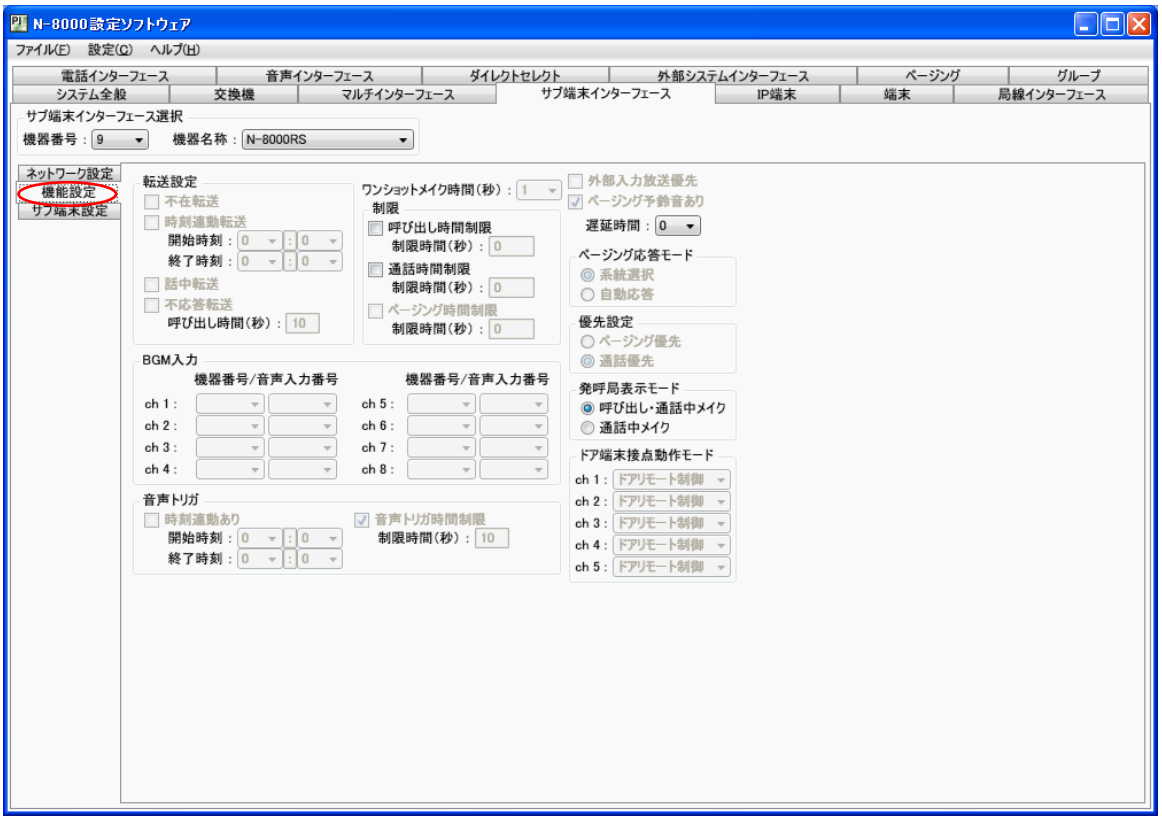
帯域節約モード：非常に少ない帯域で音声を伝送できますが、音質は劣り、遅延時間も長くなります。アナログ回線（56 kbps）で接続している場合はこのモードを使用してください。

	サンプリング周波数	遅延	使用帯域
高音質モード	16 kHz	0.08 秒	130 kbps
標準モード	8 kHz	0.08 秒	98 kbps
帯域節約モード	8 kHz	0.32 秒	49.5 kbps

● 機能の設定

1 機能設定タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 各項目を設定する。

①転送設定（N-8400RS のみ）

転送機能を使うかどうか設定します。

不在転送　　：着信があった場合、着信端末が不在転送に設定されていれば、呼び出し音を鳴らさずに、自動的に転送されます。

時刻連動転送　：設定された時間内に着信があった場合、呼び出し音を鳴らさずに、自動的に転送されます。不在転送機能が有効になっている場合に時刻連動転送設定ができます。時刻連動転送機能が有効になっているときのみ時刻設定ができます。

話中転送　　：通話中に着信があった場合、着信端末に話中転送が設定されていると自動的に転送されます。

不応答転送　　：着信があった場合、着信端末に不応答転送設定があり一定時間応答しないと自動的に転送されます。転送するまでの呼び出し時間は、不応答転送が有効になっている場合のみ設定できます。

②制限

呼び出し、通話、ページング機能についての時間制限を設定します。

制限時間は 10 ～ 990 秒（10 秒単位）で設定します。

呼び出し時間制限　：端末を呼び出し続ける時間に制限を設けるかどうかを設定します。
制限を設ける場合、制限時間を入力してください。制限時間を過ぎると、端末の呼び出しは自動的に終わります。
制限がない場合は、呼び出しをやめるか、呼び出し先端末が応答するまで呼び出し続けます。

通話時間制限　　：端末の通話時間に上限を設けるかどうかを設定します。
制限を設ける場合、制限時間を入力してください。制限時間を過ぎると、通話は自動的に終了します。
制限がない場合は、終了操作を行うまで通話は継続します。

ページング時間制限（N-8400RS のみ）
：ページング呼び出し時間に上限を設けるかどうかを設定します。
制限を設ける場合、制限時間を入力してください。制限時間を過ぎると、ページング呼び出しは自動的に終わります。
制限がない場合は、終了操作を行うまでページング呼び出しは継続します。

③ページング予鈴音あり（N-8400RS のみ）
チェックを入れると、ページング開始時に予鈴音が鳴ります。

④遅延時間
ページング開始時の遅延時間を設定します。

⑤ページング応答モード（N-8400RS のみ）
ページング応答時の動作を「系統選択」モードまたは「自動応答」モードから選択します。
系統選択：ページング系統番号を指定して応答します。指定した系統へ最後に呼び出し放送をした端末に応答します。
複数系統の呼び出し放送が聞こえる場所があるときは、このモードに設定します。
自動応答：ページング応答キーのみで応答します。操作端末が最後に受信したページング系統に呼び出し放送をした端末に応答します。

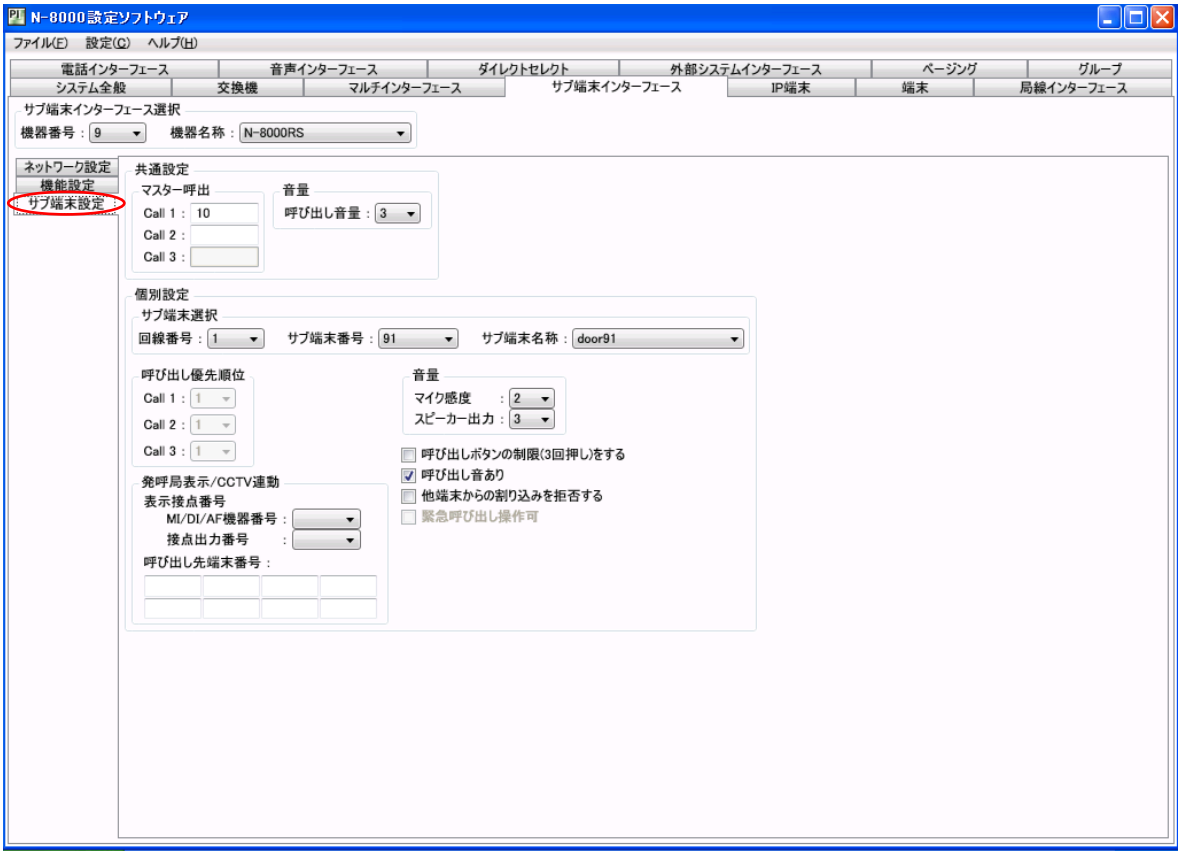
⑥発呼局表示モード
発呼局表示時の動作を「呼び出し・通話中メイク」モードまたは「通話中メイク」モードから選択します。
マルチインターフェースユニット、ダイレクトセレクトユニット、または音声インターフェースユニットの接点出力がメイクされるタイミングは右の表のとおりです。

発呼局表示モード / 端末の動作	呼び出し・通話中メイク	通話中メイク
呼び出し中	メイク	ブレイク
着信中	ブレイク	ブレイク
話中待ち	メイク	ブレイク
通話	メイク	メイク
ページング受信	ブレイク	ブレイク
スキャンモニター受信	メイク	メイク

● サブ端末の設定

1 サブ端末設定タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 各項目を設定する。

① 共通設定

このサブ端末接続ユニットに接続されるすべての端末に共通の機能の設定をします。

マスター呼出：各端末の呼び出しボタン Call 1、Call 2、Call 3 を押したときに呼び出すマスター端末の番号を入力します。

呼び出し音量（N-8000RS/8010RS のみ）：
サブ端末の呼び出し音量を 5 段階で設定できます。
レベル 1 が最小、レベル 5 が最大です。
初期値はレベル 3 です。

② 個別設定

このサブ端末接続ユニットに接続される各サブ端末の機能を設定します。

サブ端末選択：設定するサブ端末を選択します。
回線番号、サブ端末番号またはサブ端末名称をリストから選択してください。

呼び出し優先順位（選択応答のみ）　：各端末の呼び出しボタン Call 1、Call 2、Call 3 に設定する優先度を 5 段階で設定します。優先度 1 が最小、優先度 5 は緊急呼び出しと同等の優先度です。
初期値は RS-144 の緊急呼び出しボタンのみ 5、その他は 1 です。

ご注意

Call 1、Call 2、Call 3 に該当する各端末のボタンは下表のとおりです。
Call 2 の設定は RS-142/144/442 を接続した場合のみ有効です。
Call 3 の設定は RS-442 を接続した場合のみ有効です。

	RS-150/160/170/180/450/460/470/480	RS-140	RS-142	RS-143	RS-144	RS-442
Call 1	呼び出しボタン	呼び出しボタン（CALL）	呼び出しボタン1	呼び出しボタン（CALL）	緊急呼び出しボタン（EMERGENCY）	呼び出しボタン1
Call 2	—	—	呼び出しボタン2	—	呼び出しボタン（NORMAL）	呼び出しボタン2
Call 3	—	—	—	—	—	呼び出しボタン3

発呼局表示／ CCTV 連動
　表示接点番号　　：端末を呼び出したときにメイク信号を出力するマルチインターフェースユニット、ダイレクトセレクトユニット、または音声インターフェースユニットの機器番号と接点出力端子の番号を設定します。
　呼び出し先端末番号：ここで設定するサブ端末を呼び出したときにメイク信号を出力します。最大 8 台設定できます。

音量（N-8000RS/8010RS のみ）
　マイク感度　　：サブ端末のハンズフリーマイクの感度を 3 段階で設定できます。レベル 1 が最小、レベル 3 が最大です。初期値は 2 です。
　スピーカー出力　：サブ端末のスピーカー出力のレベルを 5 段階で設定できます。レベル 1 が最小、レベル 5 が最大です。初期値レベル 3 です。

呼び出しボタンの制限（3 回押し）をする（着信優先、RS-150/160/170/450/460/470/480/442 のみ）
　：呼び出しボタンを 3 秒以内に 3 回押す操作により呼び出しを行うかどうかを設定します。

呼び出し音あり　　：呼び出し音の有無を設定できます。

他端末からの割り込みを拒否する（着信優先のみ）
　：他の端末からの割り込み操作が行われたときに、割り込みを拒否するかどうかを設定します。

緊急呼び出し操作可（選択応答のみ）
　：この端末から緊急呼び出し操作を行うかどうかを設定します。

■ IP 端末の設定をする

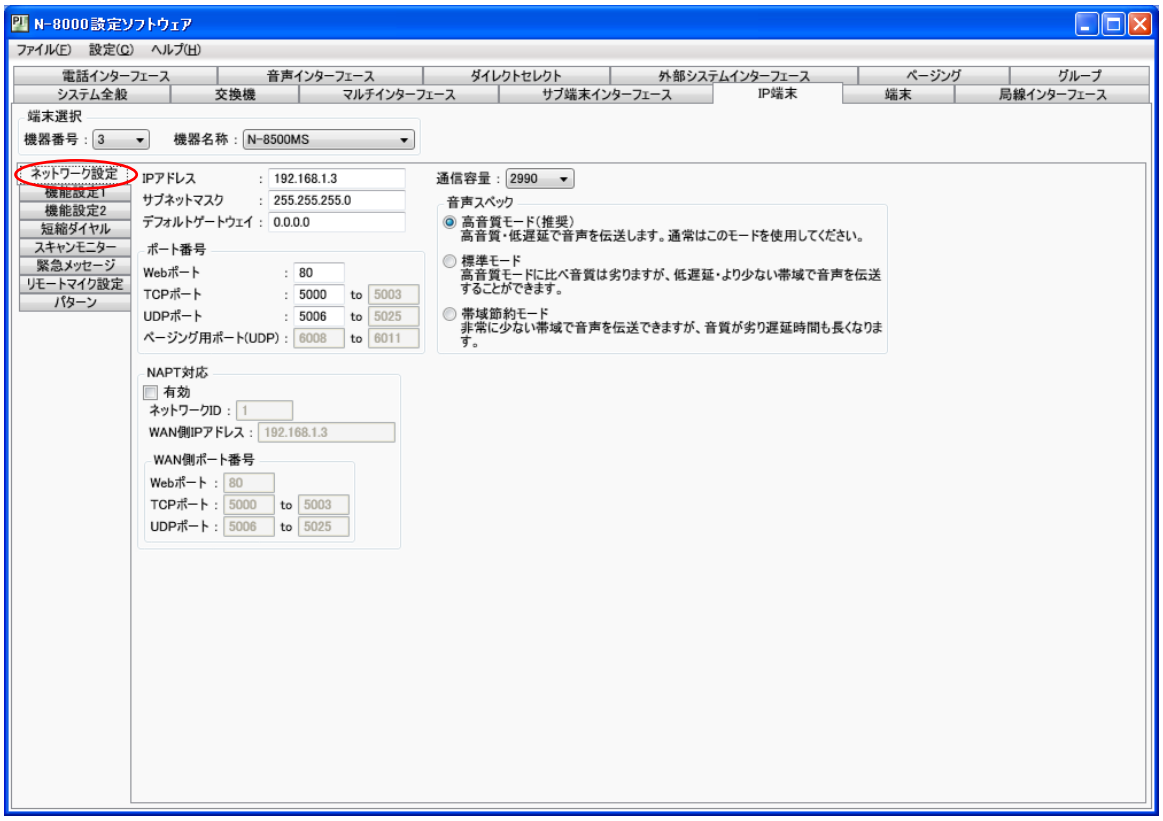
IP 端末タブをクリックします。

設定する IP 端末を選択します。機器番号または端末名称をリストから選択してください。

● ネットワークの設定

1 ネットワーク設定タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 各項目を設定する。

①IP アドレス
IP 端末の IP アドレスを入力します。

②サブネットマスク
サブネットマスクを入力します。

③デフォルトゲートウェイ
デフォルトゲートウェイを入力します。

④ ポート番号

各プロトコルで使用するポート番号を設定します。

[Web ポート]
Web サーバーのポート番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65535 です。（工場出荷時：80）

[TCP ポート]
Web サーバー以外の TCP ポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65532 です。N-8000 システムでは、TCP 開始ポートから連続して 4 個のポートを使います。（工場出荷時：5000）

TCP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
Webサーバー	TCP	Webサーバー	80
呼び出し制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 0	5000
PC監視	TCP	開始ポート番号 ＋ 1	5001
PC制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 2	5002
予約	TCP	開始ポート番号 ＋ 3	5003

[UDP ポート]
UDP で使用するポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65516 です。N-8000 システムでは、UDP 開始ポートから連続して 20 個のポートを使います。（工場出荷時：5006）

UDP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
予約	UDP	開始ポート番号 ＋ 0～3	5006～5009
通話	UDP	開始ポート番号 ＋ 4～19	5010～5025

ご注意
UDP のポート番号 15000 は内部で使用しています。14981 ～ 15000 は入力できません。

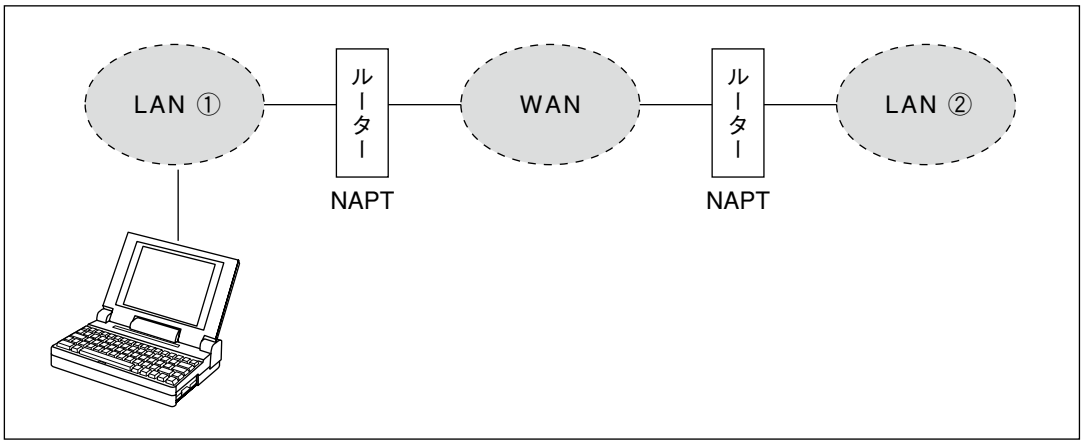
[ページング用ポート（UDP）]
マルチキャストを使用してページングを行う場合に使われるポート番号（UDP）が表示されます。
（設定のしかた ☞ P. 5-123「ページング系統を設定する」）

⑤ NAPT 対応

グローバル IP アドレスを使ってこの IP 端末に接続する場合は、「有効」にチェックを入れてください。ネットワーク ID ⑥～ WAN 側ポート番号⑧が入力可能になります。

⑥ ネットワーク ID

グローバル IP アドレスを使って接続する場合、ローカルアドレスを使ってアクセスできる範囲ごとにネットワークを識別する番号を入力します。
例えば、下図のようなネットワーク接続をしている場合、LAN ①に接続する機器には 1、LAN ②に接続する機器には 2、のように異なるネットワーク ID をつけます。
設定用のパソコンにはネットワーク ID：1 を割り当てています。パソコンからローカルアドレスを使ってアクセスできる機器（例えば LAN ①に接続する機器）には、ネットワーク ID：1 を設定してください。



⑦ WAN 側 IP アドレス

WAN 側から見たこの IP 端末の IP アドレスを入力します。

⑧ WAN 側ポート番号

WAN 側から見た各プロトコルで使用するポート番号を設定します。

[Web ポート]
Web サーバーのポート番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65535 です。（工場出荷時：80）

[TCP ポート]
Web サーバー以外の TCP ポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65532 です。N-8000 システムでは、TCP 開始ポートから連続して 4 個のポートを使います。（工場出荷時：5000）

TCP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
Webサーバー	TCP	Webサーバー	80
呼び出し制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 0	5000
PC監視	TCP	開始ポート番号 ＋ 1	5001
PC制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 2	5002
予約	TCP	開始ポート番号 ＋ 3	5003

[UDP ポート]
UDP で使用するポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65516 です。N-8000 システムでは、UDP 開始ポートから連続して 20 個のポートを使います。（工場出荷時：5006）

UDP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
予約	UDP	開始ポート番号 ＋ 0～3	5006～5009
通話	UDP	開始ポート番号 ＋ 4～19	5010～5025

⑨通信容量

この機器が接続するネットワーク回線の容量（または使用可能な上限値）を設定します。通信容量を設定すると、通話・ページングにより設定値を超えるトラフィックが発生して、音質が低下したり遅延が長くなったりするのを防ぐことができます。

⑩音声スペック

使用できる帯域によって、音声伝送のスペックを選択します。

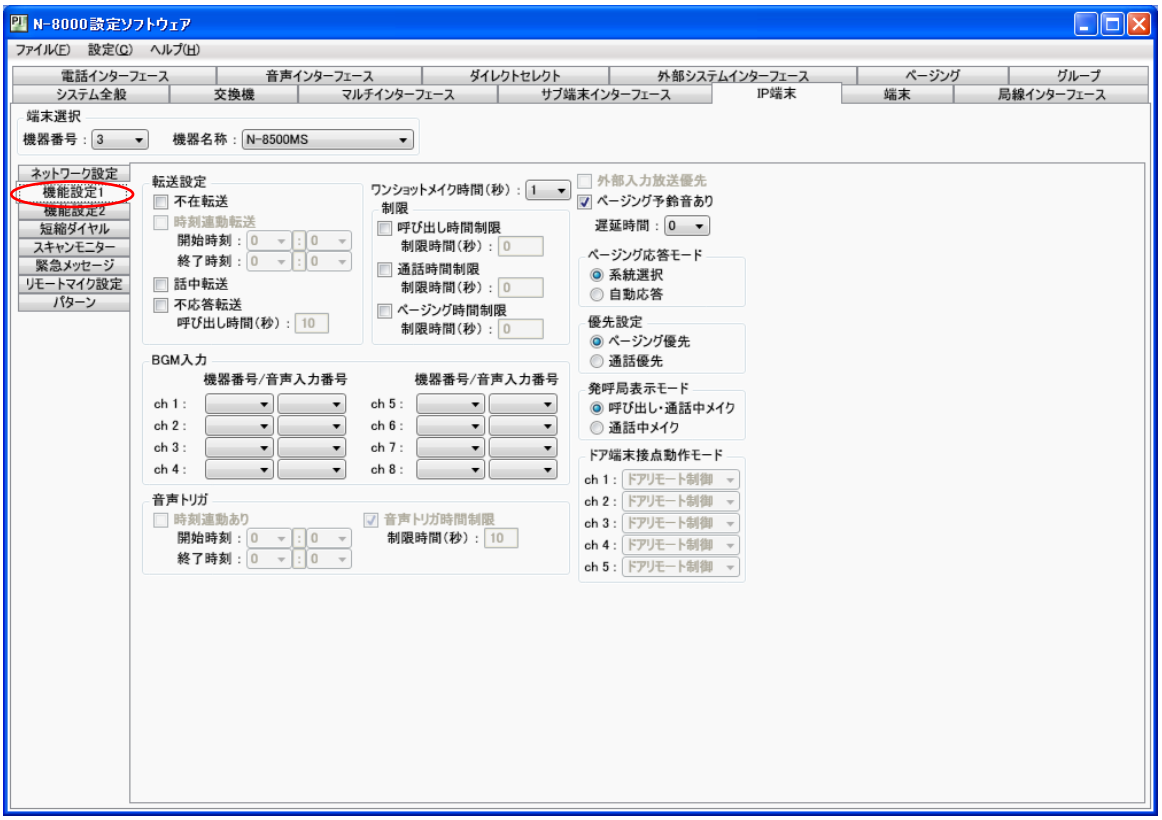
高音質モード　：高音質・低遅延で音声を伝送します。通常はこのモードを使用してください。
標準モード　　：低遅延で音声を伝送します。音質は劣りますが、高音質モードと遅延時間は同じで使用帯域が少なくなります。ISDN 回線（128 kbps）で接続している場合などはこのモードを使用してください。
帯域節約モード：非常に少ない帯域で音声を伝送できますが、音質は劣り、遅延時間も長くなります。アナログ回線（56 kbps）で接続している場合はこのモードを使用してください。

	サンプリング周波数	遅延	使用帯域
高音質モード	16 kHz	0.08 秒	130 kbps
標準モード	8 kHz	0.08 秒	98 kbps
帯域節約モード	8 kHz	0.32 秒	49.5 kbps

● 機能の設定

1 機能設定１タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



※ IP 端末の種類により、入力できる項目は異なります。

2 各項目を設定する。

①転送設定（IP マスター端末と IP リモートマイク端末のみ）

転送機能を使うかどうか設定します。

不在転送　　：着信があった場合、着信端末が不在転送に設定されていれば、呼び出し音を鳴らさずに、自動的に転送されます。

時刻連動転送　：設定された時間内に着信があった場合、呼び出し音を鳴らさずに、自動的に転送されます。不在転送機能が有効になっている場合に時刻連動転送設定ができます。時刻連動転送機能が有効になっているときのみ時刻設定ができます。

話中転送　　：通話中に着信があった場合、着信端末に話中転送が設定されていると自動的に転送されます。

不応答転送　　：着信があった場合、着信端末に不応答転送設定があり一定時間応答しないと自動的に転送されます。転送するまでの呼び出し時間は、不応答転送が有効になっている場合のみ設定できます。

②ワンショットメイク時間（秒）

外部制御出力端子がワンショットメイクする時間を設定します。

設定範囲は１～９秒（1 秒単位）です。

③ 制限

呼び出し、通話、ページング機能についての時間制限を設定します。
制限時間は 10 ～ 990 秒（10 秒単位）で設定します。

呼び出し時間制限　：端末を呼び出し続ける時間に制限を設けるかどうかを設定します。
制限を設ける場合、制限時間を入力してください。制限時間を過ぎると、端末の呼び出しは自動的に終わります。
制限がない場合は、呼び出しをやめるか、呼び出し先端末が応答するまで呼び出し続けます。

通話時間制限　：端末の通話時間に上限を設けるかどうかを設定します。
制限を設ける場合、制限時間を入力してください。制限時間を過ぎると、通話は自動的に終了します。
制限がない場合は、終了操作を行うまで通話は継続します。

ページング時間制限（IP マスター端末と IP リモートマイク端末のみ）
：ページング呼び出し時間に上限を設けるかどうかを設定します。
制限を設ける場合、制限時間を入力してください。制限時間を過ぎると、ページング呼び出しは自動的に終わります。
制限がない場合は、終了操作を行うまでページング呼び出しは継続します。

④ BGM 入力

この IP 端末で聞く BGM を設定します。
各チャンネルに、BGM 音源が接続されているマルチインターフェースユニットの機器番号と音声入力番号を選択します。

⑤ 音声トリガ（N-8640DS/8650DS のみ）

N-8640DS または N-8650DS の音声トリガ機能の、時刻連動機能と時間制限機能の設定を行います。

時刻連動あり　：時刻連動ありを選択することにより、音声トリガ機能を有効にする時間帯を設定できます。

音声トリガ時間制限 ：音声トリガのモニター機能の制限時間を設定します。

⑥ ページング予鈴音あり（IP マスター端末と IP リモートマイク端末のみ）

チェックを入れると、ページング開始時に予鈴音が鳴ります。

⑦ 遅延時間

ページング開始時の遅延時間を設定します。

⑧ ページング応答モード（IP マスター端末と IP リモートマイク端末のみ）

ページング応答時の動作を「系統選択」モードまたは「自動応答」モードから選択します。

系統選択 ：ページング系統番号を指定して応答します。指定した系統へ最後に呼び出し放送をした端末に応答します。
複数系統の呼び出し放送が聞こえる場所があるときは、このモードに設定します。

自動応答 ：ページング応答キーのみで応答します。操作端末が最後に受信したページング系統に呼び出し放送をした端末に応答します。

⑨ 優先設定（着信優先のみ）

ページングと通話が重なった場合に、どちらを優先させるかを設定します。

ページング優先　：ページング受信中に他の端末から着信があっても、話中になりページング受信を継続します。ページング受信中に、ダイヤル操作はできません。（ページング受信中の端末からページング応答をすることもできません。）

通話優先　：通話中、ダイヤル途中などのときにページングがあっても、ページングを受信しません。ページング受信中にも、ダイヤル操作はできます。

⑨ 発呼局表示モード

発呼局表示時の動作を「呼び出し・通話中メイク」モードまたは「通話中メイク」モードから選択します。
マルチインターフェースユニット、ダイレクトセレクトユニット、または音声インターフェースユニット接点出力がメイクされるタイミングは右の表のとおりです。

発呼局表示モード / IP端末の動作	呼び出し・通話中メイク	通話中メイク
呼び出し中	メイク	ブレイク
着信中	ブレイク	ブレイク
話中待ち	メイク	ブレイク
通話	メイク	メイク
ページング受信	ブレイク	ブレイク
スキャンモニター受信	メイク	メイク

⑩ ドア端末接点動作モード（IP ドア端末のみ）

IP ドア端末の接点出力の動作モードを設定します。
「ドアリモート制御」「呼び出し中メイク」「通話中メイク」「呼び出し・通話中メイク」「状態表示灯連動」の中から選択します。
IP ドア端末の接点出力がメイクされるタイミングは次の表のとおりです。

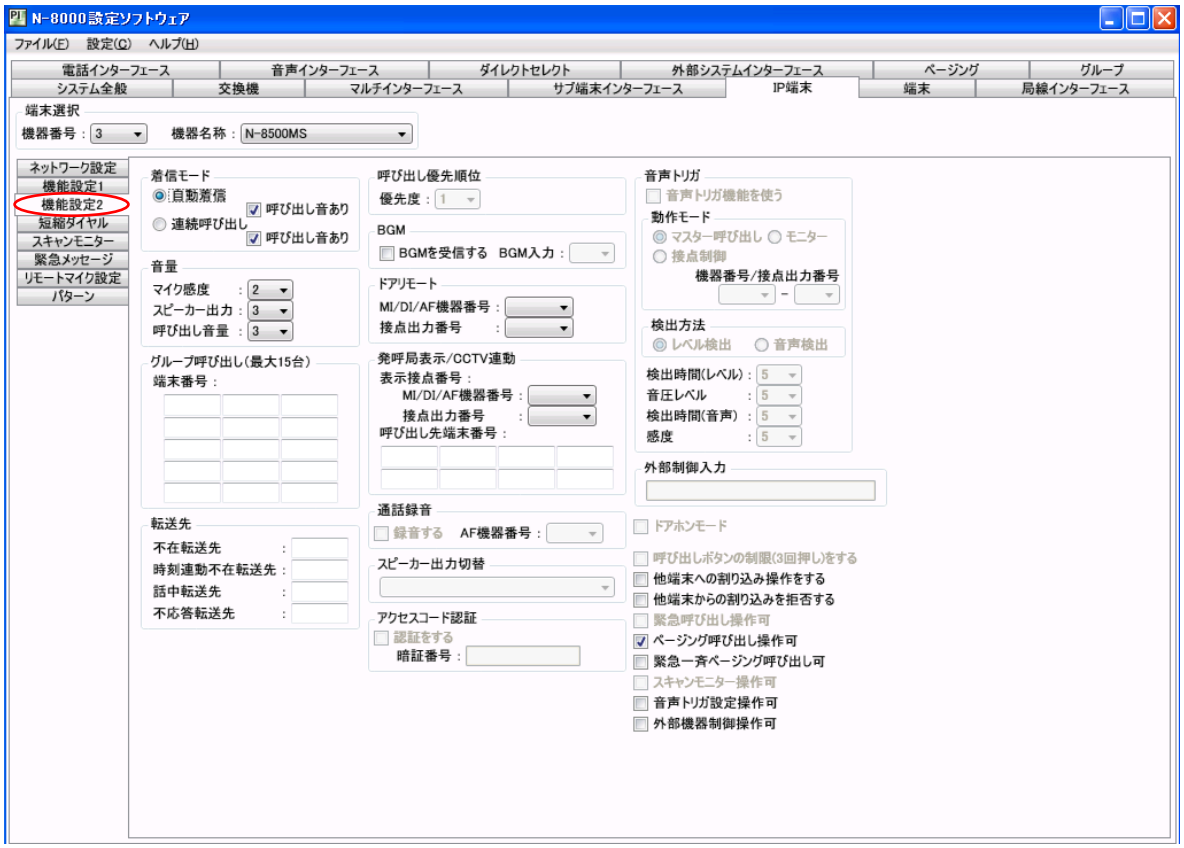
ご注意

「状態表示灯連動」に設定できる接点は、N-8640DS/8650DS のオープンコレクター出力チャンネル 1 ～ 4 のみです。
リレー接点出力を状態表示灯連動に設定することはできません。

ドア端末接点動作モード / IPドア端末の動作	ドアリモート制御	呼び出し中メイク	通話中メイク	呼び出し・通話中メイク	状態表示灯連動（N-8640DS/8650DSのみ）
呼び出し中	ブレイク	メイク	ブレイク	メイク	着信優先時：メイク（点灯） 選択応答時：メイク／ブレイク繰り返し（点滅）
着信中	ブレイク	ブレイク	メイク	ブレイク	メイク／ブレイク繰り返し（点滅）
話中待ち	ブレイク	メイク	ブレイク	メイク	メイク（点灯）
通話	ブレイク	ブレイク	メイク	メイク	メイク（点灯）
ページング受信	ブレイク	ブレイク	ブレイク	ブレイク	メイク（点灯）
スキャンモニター受信	ブレイク	ブレイク	メイク	メイク	スキャンモニター発呼端末側のモニター警告設定による
ドアリモート	メイク	——	——	——	——

3 機能設定 2 タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



※ IP 端末の種類により、入力できる項目は異なります。

4 各項目を設定する。

①着信モード

着信モード（ ☞ P. 2-11）を「自動着信」または「連続呼び出し」から選択します。
「自動着信」の場合も「連続呼び出し」の場合も、呼び出し音の有無を設定することができます。
IP ドア端末は「自動着信」固定です。

②音量

マイク感度　　：端末のハンズフリーマイクの感度を 3 段階で設定できます。レベル 1 が最小、レベル 3 が最大です。初期値はレベル 2 です。
スピーカー出力：端末のスピーカー出力のレベルを 5 段階で設定できます。レベル 1 が最小、レベル 5 が最大です。初期値はレベル 3 です。
呼び出し音量　：端末の呼び出し音量を 5 段階で設定できます。レベル 1 が最小、レベル 5 が最大です。初期値はレベル 3 です。

③グループ呼び出し（最大 15 台）（IP マスター端末と IP リモートマイク端末のみ）

この端末が呼び出された場合に、同時に呼び出す端末を設定します。最大 15 台設定できます。
同時呼び出し端末の設定をしておくと、この端末が呼び出されたときに話中の場合でも、同時に呼び出された他の端末で応答することができます。

④ **転送先**（IP マスター端末と IP リモートマイク端末のみ）
各転送機能の転送先の端末番号を設定します。転送先として局線インターフェースユニットを設定する場合は、「#」に続けて発信特番を入力してください。例えば、発信特番が「05」と設定されている局線インターフェースユニットを設定する場合は「#05」と入力します。
転送設定が有効になっている場合のみ、転送先の設定ができます。（☞ P. 5-65）

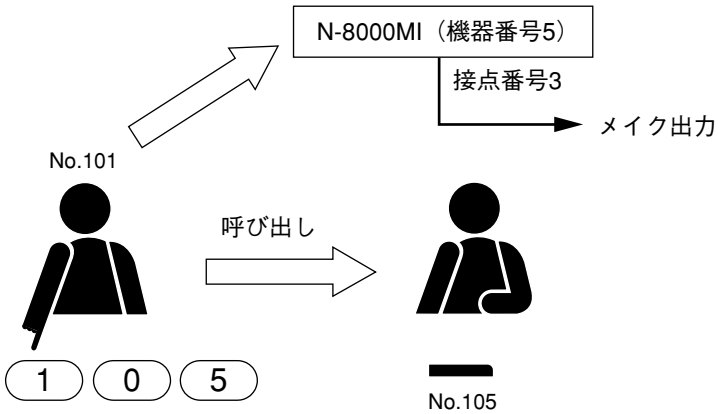
ご注意
マルチインターフェースユニットを経由した相手先の端末を転送先に設定することはできません。

⑤ **呼び出し優先順位**（選択応答、IP ドア端末のみ）
呼び出しの優先度を 5 段階で設定できます。
優先度 1 が最小、優先度 5 は緊急呼び出しと同等の優先度です。
初期値は優先度 1 です。

⑥ **BGM**
この端末で BGM を受信するかどうかを設定します。
受信するときはチェックを入れ、BGM のチャンネル番号（1 ～ 8）を選択します。

⑦ **ドアリモート**
ドアリモートで制御するマルチインターフェースユニット、ダイレクトセレクトユニット、または音声インターフェースユニットの機器番号と接点出力端子の番号を設定します。

⑧ **発呼局表示／ CCTV 連動**
表示接点番号　　：端末を呼び出したときにメイク信号を出力するマルチインターフェースユニット、ダイレクトセレクトユニット、または音声インターフェースユニットの機器番号と接点出力端子の番号を設定します。
呼び出し先端末番号：ここで設定する端末を呼び出したときにメイク信号を出力します。最大 8 台設定できます。
呼び出し先端末番号として局線インターフェースユニットを設定する場合は、「#」に続けて発信特番を入力してください。例えば、発信特番が「05」と設定されている局線インターフェースユニットを設定する場合は「#05」と入力します。
（例）No. 101 の端末の発呼局表示／ CCTV 連動の設定で、表示接点番号を「MI 機器番号：5、接点出力番号 3」、呼び出し先端末番号を「105」に設定した場合



端末 No. 101 が No. 105 を呼び出すと、マルチインターフェースユニット（機器番号 5）の接点番号 3 がメイクします。

⑨ **通話録音**
この端末の通話内容を録音します。
指定した N-8000AF の音声出力から、端末の通話音声を出力します。

⑩ **スピーカー出力切替**（N-8640DS/8650DS のみ）
通話とページングそれぞれの音声を、端末の内部スピーカーと外部スピーカーのどちらで出力するかを設定します。
「常時外部スピーカー」「ページング時外部スピーカー」「常時内部スピーカー」の中から選択します。

⑪ **アクセスコード認証**（N-8600MS/8616MS のみ）
アクセスコード認証を有効にするかどうかを設定します。
暗証番号（4 桁の数字）を入力します。

⑫ **音声トリガ**（N-8640DS/8650DS のみ）
この端末の音声トリガ機能の設定を行います。
音声トリガ機能を使う：音声トリガ機能を使用するかどうかを設定します。

⑬ **動作モード**（N-8640DS/8650DS のみ）
音声が検出されたときの動作を選択します。
マスター呼び出し：マスター端末を呼び出します。
モニター　　：端末の音声を、マスター端末のハンズフリースピーカーから出力します。
接点制御　　：指定した機器の接点出力をワンショットメイクします。

⑭ **検出方法**（N-8640DS/8650DS のみ）
検出条件を選択します。
レベル検出　　：設定音圧以上の音が一定時間続いたことを検出します。
音声検出　　：人間の音声を検出します。
検出時間（レベル）：検出するまでの時間を設定します。
音圧レベル　　：音圧のしきい値を設定します。
検出時間（音声）：検出する音声の母音の長さを設定します。
感度　　：音声検出の感度を設定します。（1：最も検出しやすい、9：最も検出しにくい）

⑮ **外部制御入力**（N-8640DS/8650DS のみ）
端末の接点入力をメイクしたときに発信したい番号を入力します。

⑯ **ドアホンモード**（着信優先、IP ドア端末のみ）
この端末（ドア端末）をドアホンモード*で動作させるかどうかを設定します。
* マスター端末を呼び出したとき、ドア端末では呼び出し音は 1 回しか聞こえません。また、呼び出し制限時間および通話制限時間がそれぞれ 30 秒に設定されます。

⑰ **呼び出しボタンの制限（3 回押し）をする**（着信優先、N-8640DS/8650DS のみ）
呼び出しボタンを 3 秒以内に 3 回押す操作により呼び出しを行うかどうかを設定します。

⑱ **他端末への割り込み操作をする**（着信優先、IP マスター端末と IP リモートマイク端末のみ）
この端末から割り込み操作ができるかどうかを設定します。

⑲ **他端末からの割り込みを拒否する**（着信優先のみ）
他の端末から割り込み操作が行われたときに、割り込みを拒否するかどうかを設定します。

⑳ **緊急呼び出し操作可**（選択応答、IP ドア端末のみ）
この端末から緊急呼び出し操作を行うかどうかを設定します。

㉑ **ページング呼び出し操作可**（IP マスター端末と IP リモートマイク端末のみ）
この端末からページング呼び出し操作を行うかどうかを設定します。

㉒ **緊急一斉ページング呼び出し可**（IP マスター端末と IP リモートマイク端末のみ）
この端末から緊急一斉ページング操作を行うかどうかを設定します。

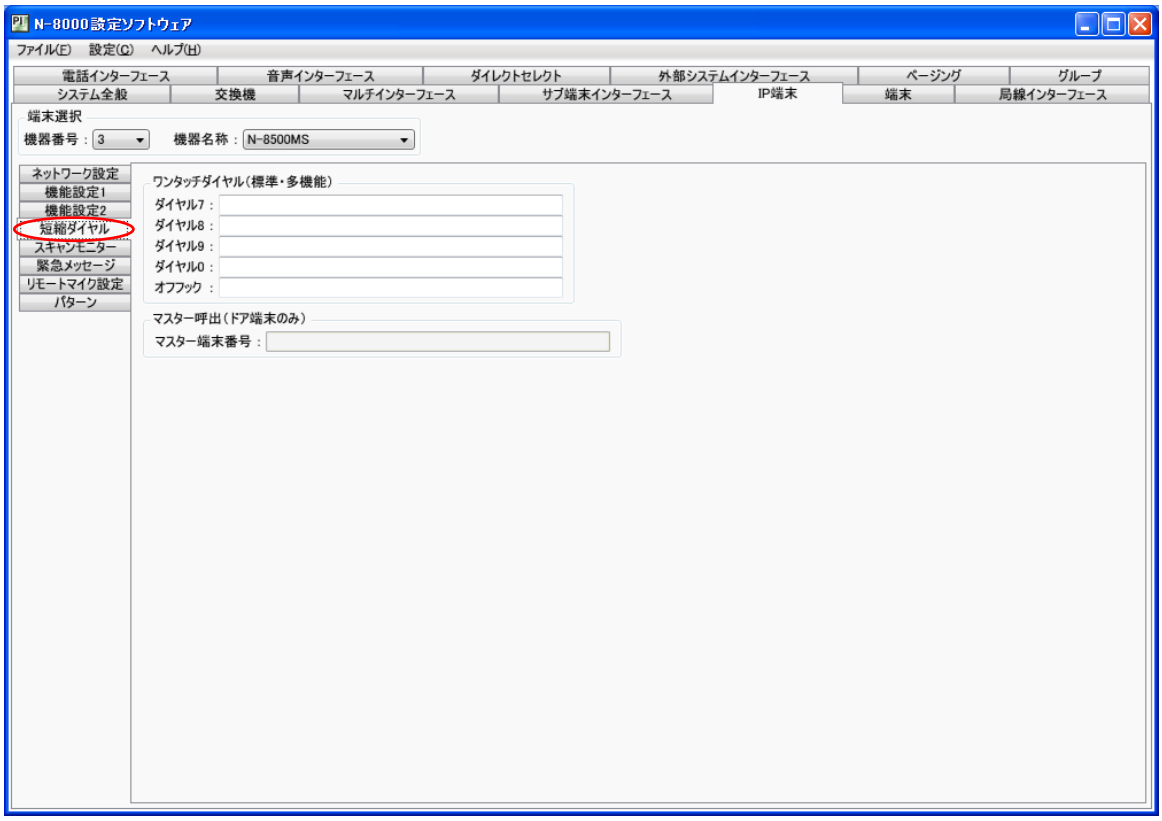
㉓ **音声トリガ設定操作可**（IP マスター端末と IP リモートマイク端末のみ）
この端末から音声トリガ設定操作を行うかどうかを設定します。

㉔ **外部機器制御操作可**（IP マスター端末と IP リモートマイク端末のみ）
この端末からワンショットメイク出力やメイク／ブレイク出力の操作を行うかどうかを設定します。

● 短縮ダイヤルの設定

1 短縮ダイヤルタブをクリックする。

設定画面が表示されます。



※ 端末の種類により、入力できる項目は異なります。

2 各項目を設定する。

① **ワンタッチダイヤル**（IP マスター端末と IP リモートマイク端末のみ）
［7］［8］［9］［0］キーからワンタッチで、またはオフフックで発信したい番号を入力します。
※ IP リモートマイク端末の場合はオフフックへの割り当てはできません。

メ　モ

- ワンタッチダイヤルに登録できるキーは、ダイヤルキー（12 種類）、ページング呼び出しキー、ページング応答キー、機能キー、保留キー、転送キーです。
- 最大 32 桁のダイヤル操作を登録できます。
- 数字以外のキーを登録したいときは、それぞれ半角で次のように入力してください。

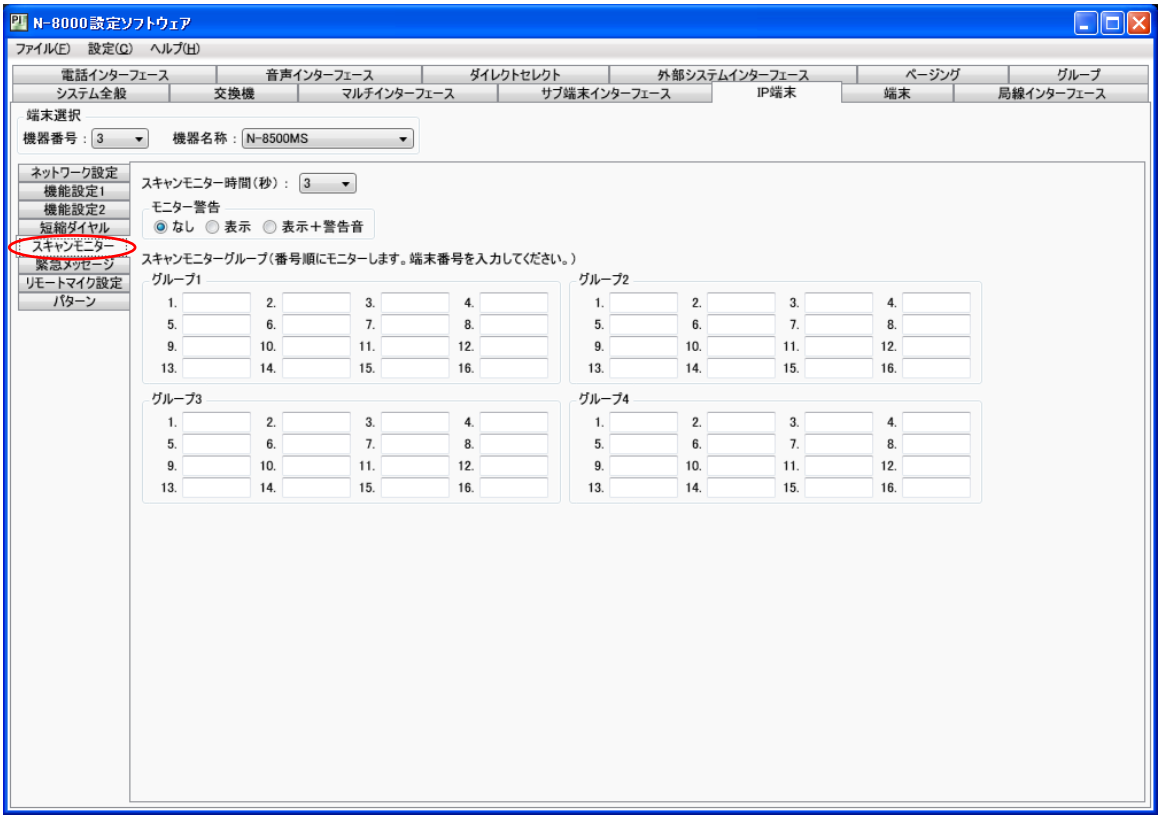
＃ /▲	：#
＊ /▼	：*
ページング呼び出しキー	：P
ページング応答キー	：R
機能キー	：F
保留キー	：H
転送キー	：T

② **マスター呼出**（IP ドア端末のみ）
ドア端末の呼び出しボタンを押したときに呼び出すマスター端末の番号を入力します。

● スキャンモニターの設定（IP マスター端末と IP リモートマイク端末のみ）

1 スキャンモニタータブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 スキャンモニター時間を設定する。

モニターを切り換える時間を設定します。1 ～ 10 秒の間で 1 秒単位で入力してください。

3 モニター警告を設定する。

モニター時の端末の動作を設定します。

なし　　：モニター中も待ち受け状態の表示のままです。
表示　　：モニター中は、状態表示灯が点灯します。
表示＋警告音：モニター開始時に開始音が鳴ります。
　　また、モニター中は状態表示灯が点灯します。

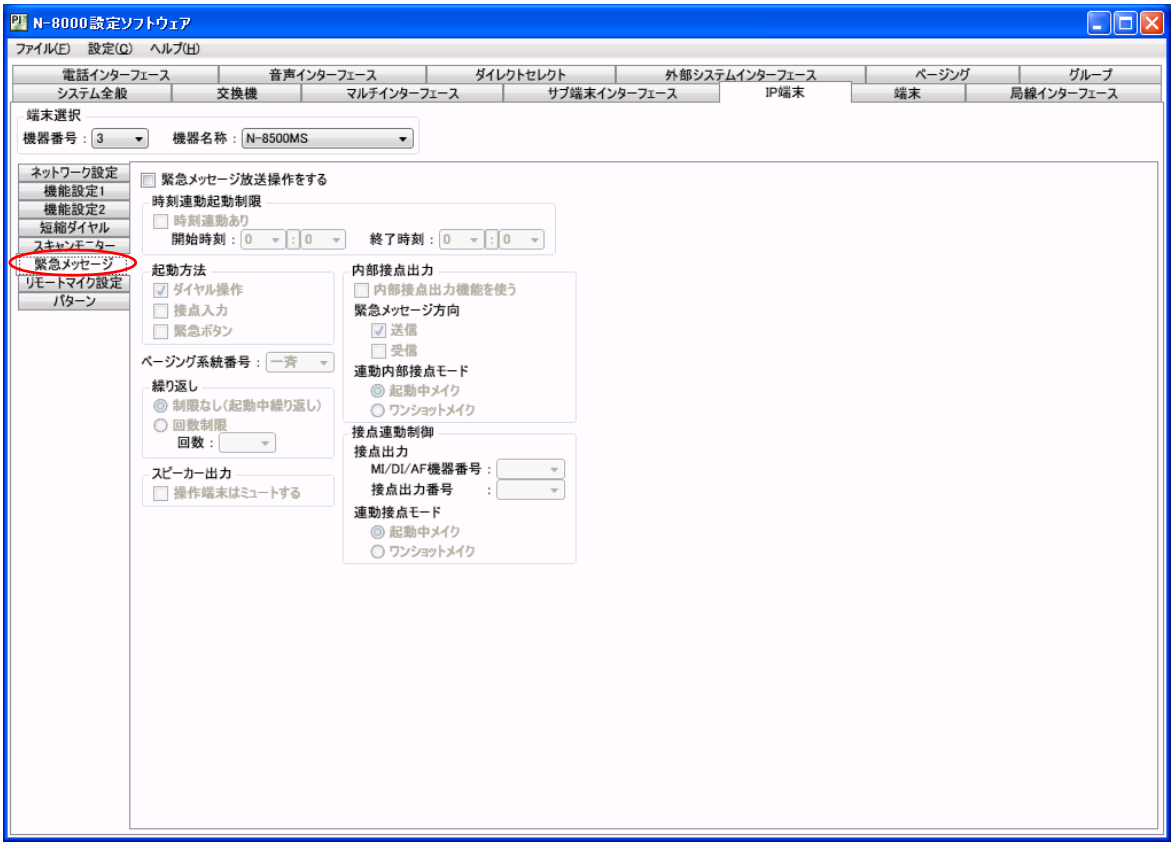
4 スキャンモニターグループを設定する。

モニターしたい端末の端末番号を、モニターする順に入力します。

● 緊急メッセージの設定（IP マスター端末と IP リモートマイク端末のみ）

1 緊急メッセージタブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 「緊急メッセージ放送操作をする」にチェックを入れる。

以下の項目が設定できるようになります。

3 時刻連動起動制限を設定する。

時刻連動あり：緊急メッセージ放送を起動できる時間に制限をかけます。
設定した開始時刻と終了時刻の間のみ、緊急メッセージ放送操作を行うことができます。

4 起動方法を設定する。

ダイヤル操作：ダイヤル操作により緊急メッセージ放送を起動します。
接点入力　　：外部接点入力により緊急メッセージ放送を起動します。

ご注意 N-8500MS/8600MS/8610RM は外部接点入力による起動はできません。

緊急ボタン　：IP 緊急マスター端末からの緊急通報ボタンの操作により緊急メッセージ放送を起動します。（N-8616MS のみ）

5 放送先を設定する。

放送先のページング系統番号を設定します。

6 繰り返しを設定する。

制限なし　　：緊急メッセージ終了操作をするまで、メッセージを繰り返し放送します。
回数制限　　：指定した回数だけメッセージを繰り返します。1 ～ 10 回の範囲で指定できます。

7 操作端末のミュートを設定する。（N-8510MS/8515MS/8610MS/8616MS のみ）

緊急メッセージ放送を起動した端末本体のスピーカーから出力される音をミュートするかどうかを設定します。

8 内部接点出力を設定する。（N-8616MS のみ）

内部連動出力機能を使う：緊急メッセージ放送時に、自端末の接点を出力します。
緊急メッセージ方向
　送信：緊急メッセージ放送を送信するときに、自端末の接点を出力します。
　受信：緊急メッセージ放送を受信したときに、自端末の接点を出力します。
連動内部接点モード
　起動中メイク　　：緊急メッセージ放送起動時にメイクし、終了時にブレイクします。
　ワンショットメイク：緊急メッセージ放送起動時にメイクし、ワンショットメイク時間で設定した時間が経つとブレイクします。

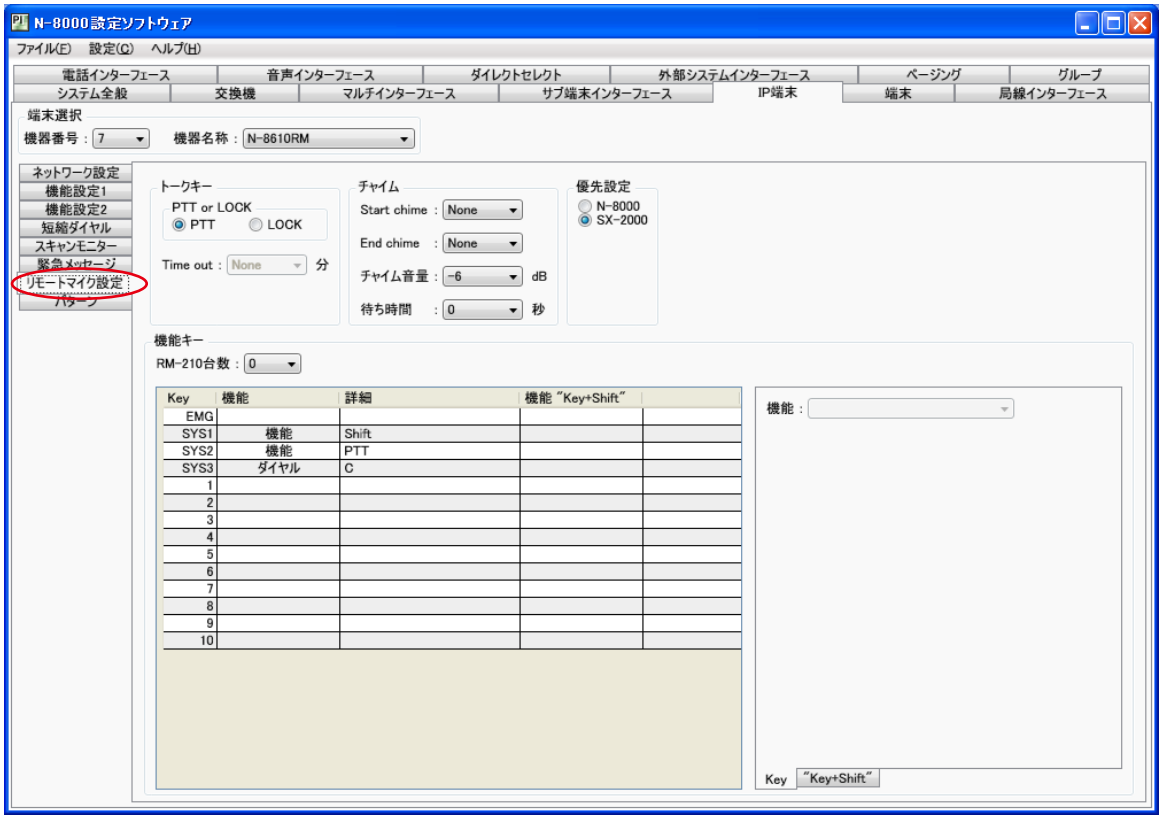
9 接点連動制御を設定する。

緊急メッセージ放送の起動と連動してメイクする、マルチインターフェースユニット、ダイレクトセレクトユニット、または音声インターフェースユニットの機器番号と接点出力番号を設定します。
　起動中メイク　　：緊急メッセージ放送起動時にメイクし、終了時にブレイクします。
　ワンショットメイク：緊急メッセージ放送起動時にメイクし、ワンショットメイク時間で設定した時間が経つとブレイクします。

● リモートマイクの設定（N-8600MS、IP リモートマイク端末のみ）

1 リモートマイク設定タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 トークキーの設定をする。

2-1 トークキーの操作方式を「PTT」、「LOCK」のどちらかに設定する。（N-8610RM のみ）

PTT　：トークキーを押している間だけマイク放送が可能です。
LOCK：トークキーを一度押すとマイク放送が可能になり、もう一度押すとマイク放送を終了します。

2-2 Time out を設定する。（トークキーの操作方式が「LOCK」のときのみ）（N-8600MS、N-8610RM 共通）

マイクを切り忘れたときのために、自動的にリモートマイク放送を終了させる時間を選択します。
0 ～ 20 分（1 分刻み）の間で選択できます。

3 ゾーン放送、ゾーン・系統同時放送を行うときのチャイムを設定する。（N-8600MS、N-8610RM 共通）

3-1 放送開始・終了時のチャイム音を選択する。

Start chime：放送開始時のチャイム音を選択します。
End chime　：放送終了時のチャイム音を選択します。
チャイム音は None（なし）、1（上り 4 音）、2（下り 4 音）、3（2 音）、4（ゴング）から選択できます。

3-2 チャイム音量を設定する。

端末から放送されるチャイムの音量を選択できます。
設定範囲は 0 ～ –20 dB（2 dB ステップ）です。

3-3 待ち時間を設定する。

トークキーを押してから放送開始までの時間を設定します。
放送開始時のチャイム音を「None」に設定している場合は放送が始まるまでの時間、チャイム音を放送する設定にしている場合はチャイムが放送されるまでの時間になります。
パワーアンプや回線選択リレーの起動時間に合わせて設定してください。
（設定範囲：0、0.5、1.0、1.5、2.0、3.0、4.0、5.0、6.0、7.0、8.0、9.0 秒）

4 優先設定をする。（N-8600MS、N-8610RM 共通）

ゾーン・系統同時放送を行うときに、下表の各設定について、どちらの設定で放送するか選択します。

選択肢	設定
N-8000	機能設定（ ☞ P. 5-66）で設定したページング予鈴音、遅延時間、ページング時間制限
SX-2000	リモートマイク設定（ ☞ 前ページ）で設定したチャイム音、待ち時間、Time out

5 機能キーの設定をする。（以降の設定は N-8610RM のみ）

※ 各機能キーには、そのキーを押したときに動作する機能と、シフトキーと同時に押したときに動作する機能の 2 種類の機能を割り当てることができます。

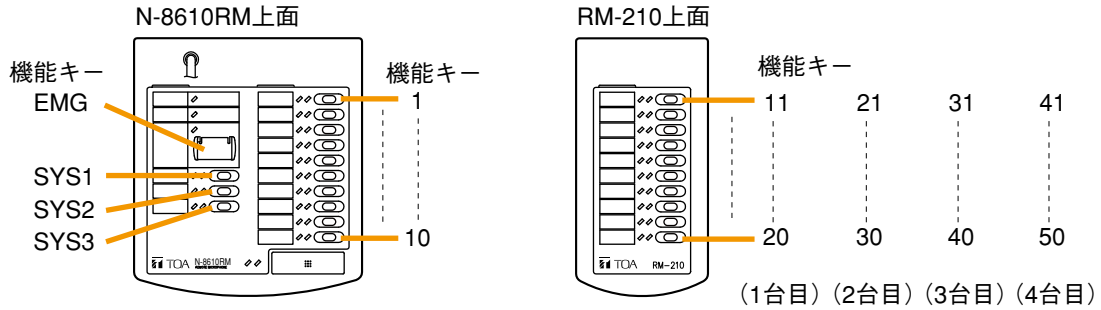
5-1 リモートマイク拡張ユニット RM-210 の台数を設定する。

台数を選択します。0 ～ 4 まで設定可能です。

5-2 機能キーに割り当てる機能を設定する。

設定するキーの行を選択し、「"Key+Shift"」タブのプルダウンメニューから機能を選択します。

機能キーの名称は以下のとおりです。



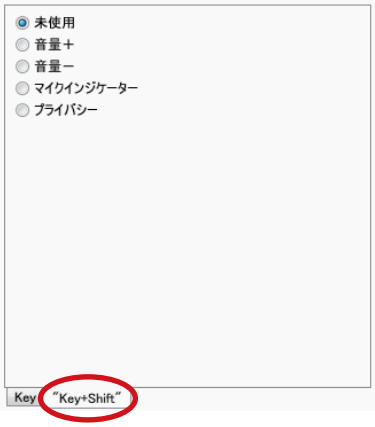
機能は「ゾーン／系統選択」、「ダイヤル」、「機能」、「業務パターン放送」、「BGM パターン」、「制御出力」、「ダイヤルパターン」、「端末番号」のいずれかを選択できます。
設定したい機能キーの行をクリックして選択し、画面右側のプルダウンメニューから機能を選択します。

5-3 機能キーに割り当てる機能の詳細を設定する。

機能ごとの詳細設定のしかたは次項をお読みください。

5-4 必要に応じて、機能キーにもう 1 つ別の機能を設定する。

「"Key+Shift"」タブを選択すると、「音量＋」、「音量－」、「マイクインジケーター」、「プライバシー」の中からもう 1 つ機能を設定できます。シフトキーを押しながら機能キーを押したときに「"Key+Shift"」タブで設定した機能になります。



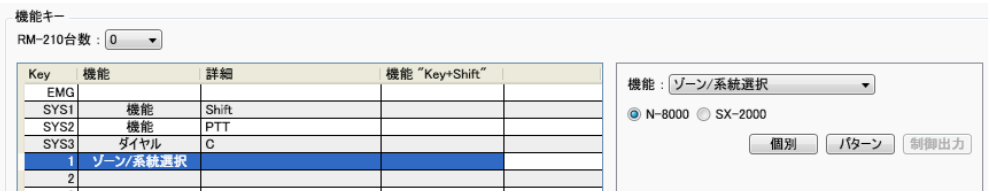
［機能の詳細の設定のしかた］

①ゾーン／系統選択

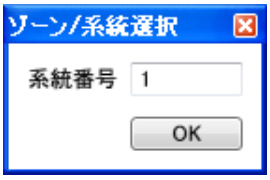
放送先を SX-2000 システムのゾーンまたは N-8000 システムの系統のどちらかから選択できます。
複数のゾーンまたは複数の系統を設定できます。
SX-2000 システムのゾーンを設定したときは、制御出力パターンも登録することができます。（☞ 次ページ）

1 「N-8000」または「SX-2000」を選択する。

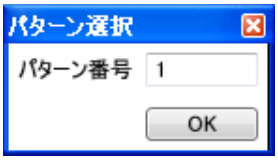
2 ［個別］ボタンまたは［パターン］ボタンをクリックして、放送先を設定する。



個別ボタン　：1 つのゾーンまたは系統を設定します。
クリックすると、ゾーン／系統番号選択ダイアログが表示されるので、番号を入力します。

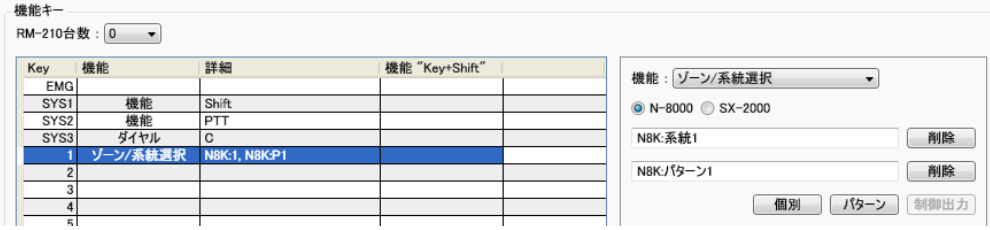


パターンボタン：ゾーン／系統のパターンを設定します。
クリックすると、パターン選択ダイアログが表示されるので、番号を入力します。



3 必要に応じて、手順 2 の操作を繰り返し、放送先を追加する。

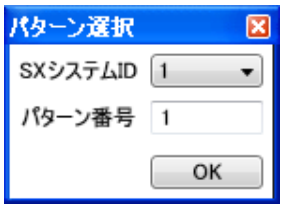
個別ボタン、パターンボタンを続けてクリックすると、ゾーンまたは系統を追加できます。
ただし、ゾーンと系統を混在して設定することはできません。



4 （手順 1 で「SX-2000」を選択した場合のみ）放送に連動して制御出力パターンを起動させたいときは、［制御出力］ボタンをクリックして、制御出力パターンを登録する。

SX-2000 システムのシステム ID を選択し、パターン番号を入力します。
システム ID は、外部システム設定（P. 5-31）でスマートマトリクス IP モジュール SX-200IP に設定した SX-2000 システムのシステム ID です。

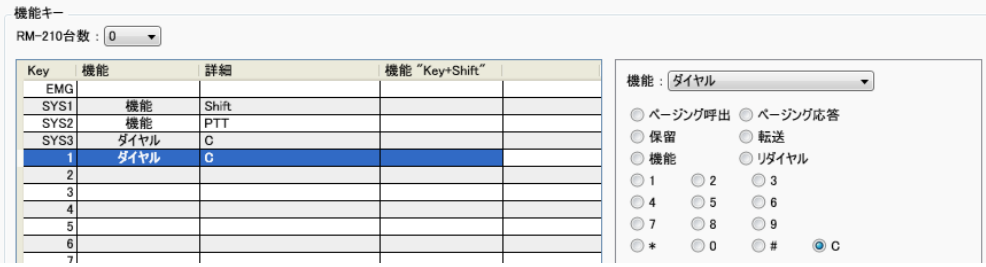
操作を繰り返して、複数の制御出力パターンを登録することができます。



② ダイヤル

以下のキーを選択できます。

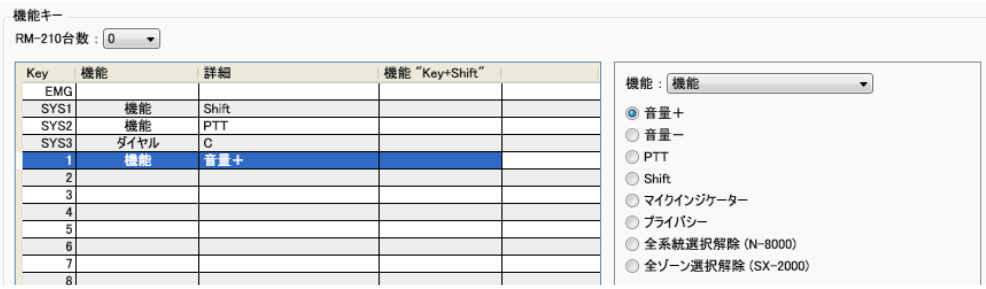
ページング呼出、ページング応答、保留、転送、機能、リダイヤル、1、2、3、4、5、6、7、8、9、＊、0、＃、C



③ 機能

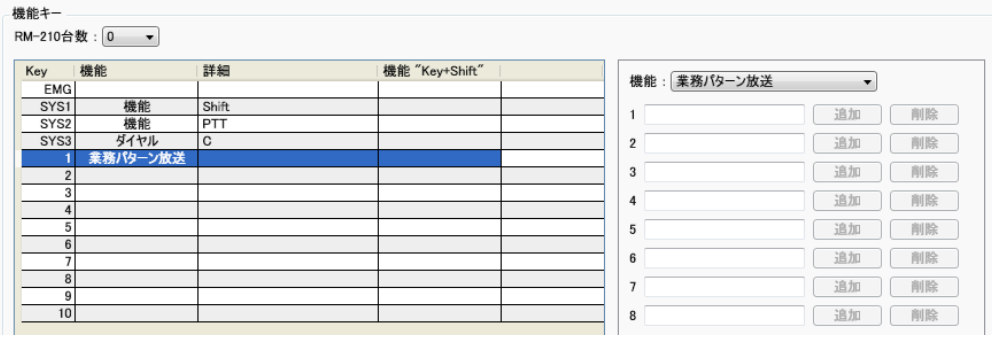
次の機能を選択できます。

音量＋、音量－、PTT、Shift、マイクインジケーター、プライバシー、全系統選択解除（N-8000）、全ゾーン選択解除（SX-2000）



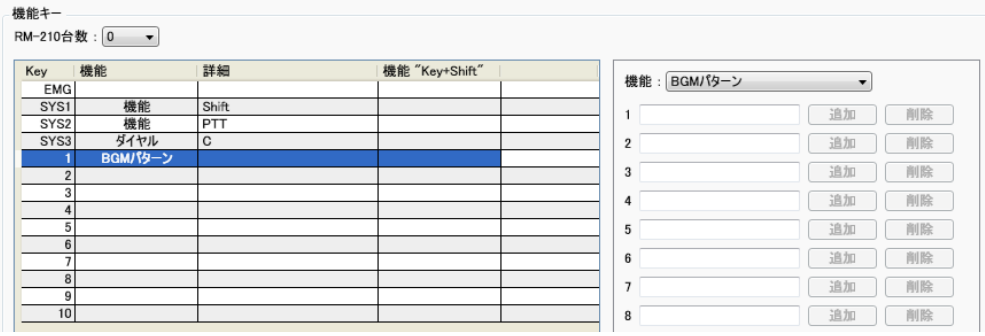
④ 業務パターン放送

SX-2000 システムで設定された業務放送パターンを選択できます。
SX-2000 システムの制御入力のイベントのうち、業務パターン放送（Level）に設定されたもののみが選択できます。
［追加］ボタンをクリックして選択してください。



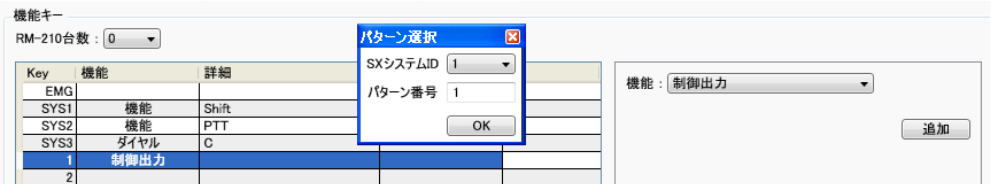
⑤ BGM パターン

SX-2000 システムで設定された「BGM パターン変更／終了」を選択できます。
SX-2000 システムの制御入力のイベントのうち、「BGM パターン変更／終了」に設定されたもののみが選択可能です。
［追加］ボタンをクリックして選択してください。



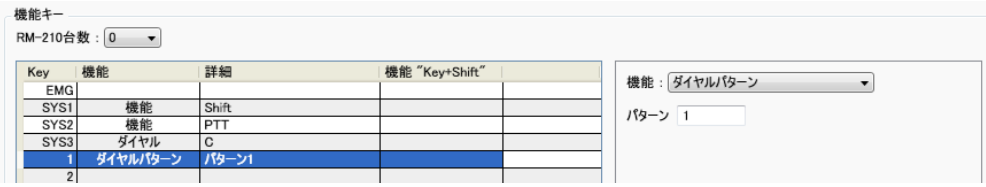
⑥ 制御出力

制御出力先を制御出力パターンから選択できます。
［追加］ボタンをクリックするとパターン選択ダイアログが表示されます。
システム ID をプルダウンメニューから選択し、制御入力のパターン番号を入力します。
システム ID は、外部システム設定（P. 5-31）でスマートマトリクス IP モジュール SX-200IP に設定した SX-2000 システムのシステム ID です。
追加の手順を繰り返すと、複数の制御出力パターンを設定できます。



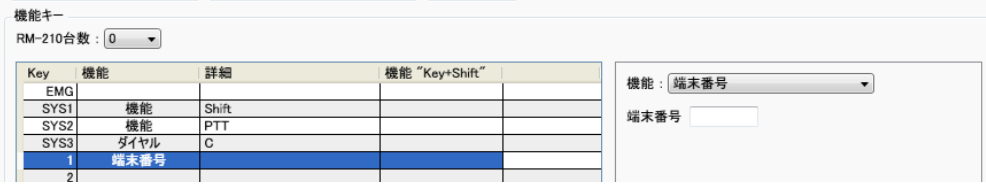
⑦ ダイヤルパターン

ダイヤルパターンを選択できます。
パターンの設定（次ページ）で設定したダイヤルパターンの番号を入力してください。



⑧ 端末番号

端末番号を選択できます。
端末の番号を入力してください。

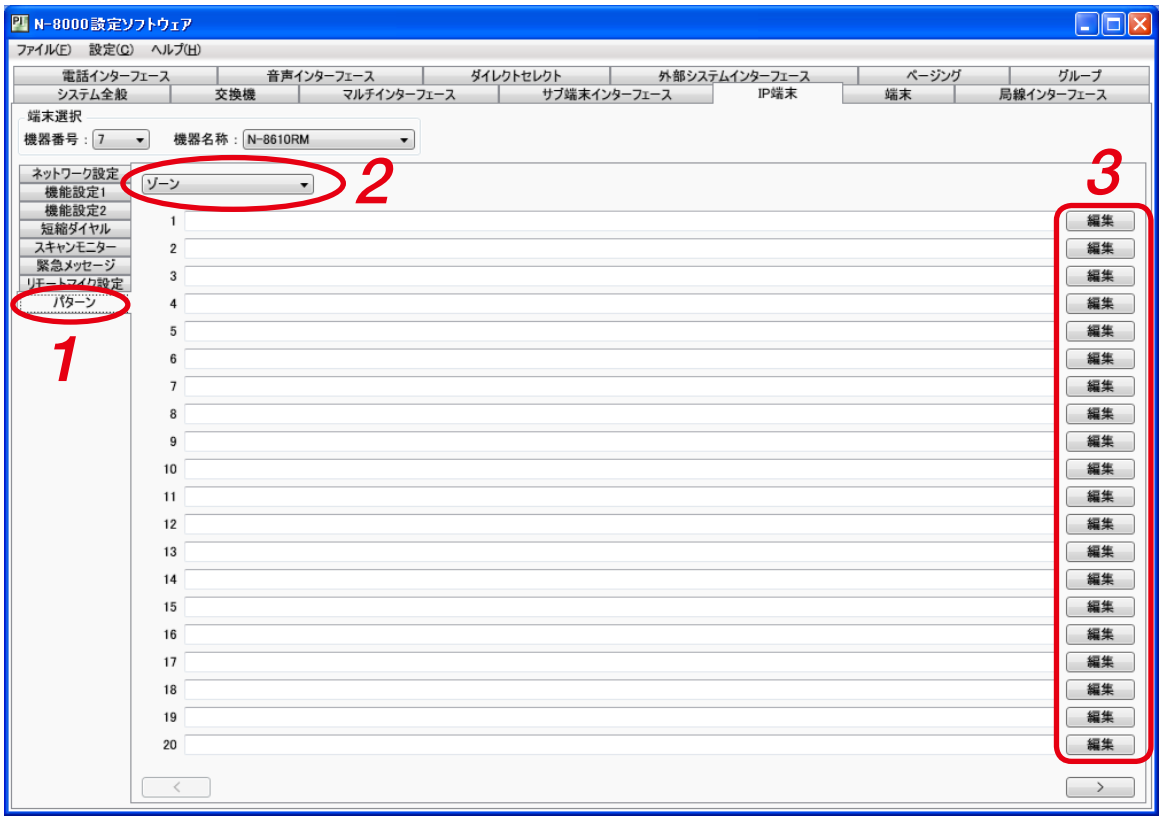


● パターンの設定（N-8600MS と IP リモートマイク端末のみ）

「ゾーン」、「制御入出力」、「ダイヤル」のそれぞれのパターンを登録できます。

1 パターンタブをクリックする。

設定画面が表示されます。



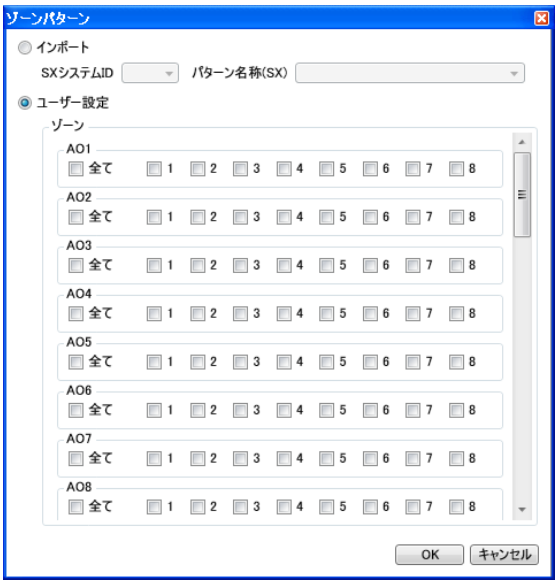
2 パターンの種類を選択する。

プルダウンメニューで「ゾーン」、「制御入出力」、「ダイヤル」から選択できます。

3 ［編集］ボタンを押して、手順 2 で選択したパターンの詳細を設定する。

選択したパターンの種類に応じて、詳細設定のダイアログが表示されます。

［パターンの詳細の設定のしかた］



① ゾーンパターン

「インポート」か「ユーザー設定」を選択して登録できます。

・SX-2000 システムの設定データからインポートする場合

「インポート」を選択し、システム ID とパターン名称をプルダウンメニューから選択します。
システム ID は、外部システム設定（P. 5-31）でスマートマトリクス IP モジュール SX-200IP に設定した SX-2000 システムのシステム ID です。

・ゾーンパターンを新規に設定する場合

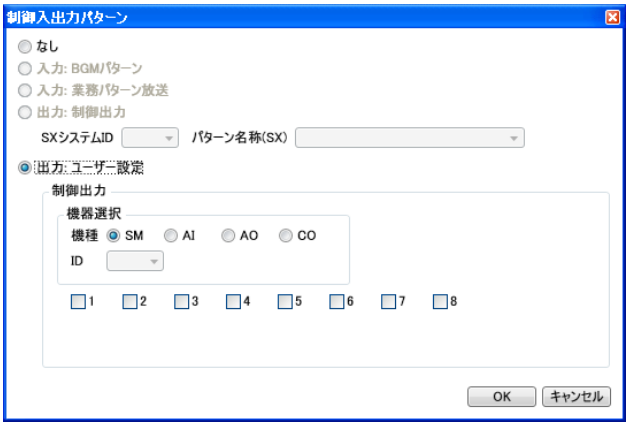
「ユーザー設定」を選択し、登録するゾーンにチェックを入れます。「AO1」～「AO32」は音声出力ユニット SX-2000AO を表します。
「全て」、「1」～「8」は音声出力端子を表します。

・系統パターンを新規に設定する場合

「ユーザー設定」を選択すると、N-8000 システムの系統パターンを設定することもできます。
このときは、「AO1」～「AO32」を N-8000 システムの系統として、以下のように読み替えてください。

「AO1」の 1　→ 系統 1
「AO1」の 2　→ 系統 2
⋮
「AO24」の 8 → 系統 192

②制御入出力パターン



・パターンを使用しない場合

「なし」を選択します。

・SX-2000 システムの設定データから BGM パターンをインポートする場合

「入力：BGM パターン」を選択し、システム ID *とパターン名称をプルダウンメニューから選択します。

・SX-2000 システムの設定データから業務パターン放送をインポートする場合

「入力：業務パターン放送」を選択し、システム ID とパターン名称をプルダウンメニューから選択します。

・SX-2000 システムの設定データから制御出力パターンをインポートする場合

「出力：制御出力」を選択し、システム ID とパターン名称をプルダウンメニューから選択します。

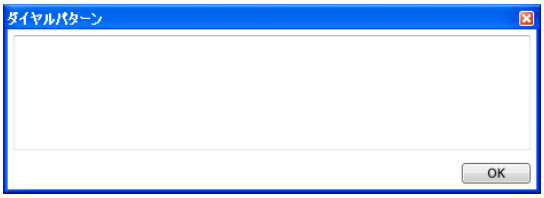
* システム ID は、外部システム設定（P. 5-31）で SX-200IP に設定した SX-2000 システムのシステム ID です。

・制御出力パターンを新規に設定する場合

「出力：ユーザー設定」を選択し、機種を選択します。
SM：システムマネージャー SX-2000SM を表します。
AI　：音声入力ユニット SX-2100AI を表します。
AO：音声出力ユニット SX-2000AO を表します。
CO：制御出力ユニット SX-2000CO を表します。
AI、AO、CO は ID も選択します。
チェックボックス横の数字は制御出力端子を表します。機器に応じてチェックボックスの数が変わります。

③ダイヤルパターン

ダイヤルを入力することで登録できます。



メ　モ

- ダイヤルパターンに登録できるキーは、ダイヤルキー（12 種類）、ページング呼び出しキー、ページング応答キー、機能キー、保留キー、転送キーです。
- 最大 380 桁のダイヤル操作を登録できます。
- 数字以外のキーを登録したいときは、それぞれ半角で次のように入力してください。

＃ /▲	：#
＊ /▼	：*
ページング呼び出しキー	：P
ページング応答キー	：R
機能キー	：F
保留キー	：H
転送キー	：T

■ 交換機に接続する端末とサブ端末接続ユニットに接続するアナログマスター端末の設定をする

端末タブをクリックします。

設定する端末を選択します。交換機番号・交換機名称・回線番号、端末番号または端末の名称をリストから選択してください。

①交換機番号
端末が接続している交換機またはサブ端末接続ユニットの機器番号を選択します。

②交換機名称
端末が接続している交換機またはサブ端末接続ユニットの名称を選択します。

③回線番号
端末が接続している回線の番号を選択できます。

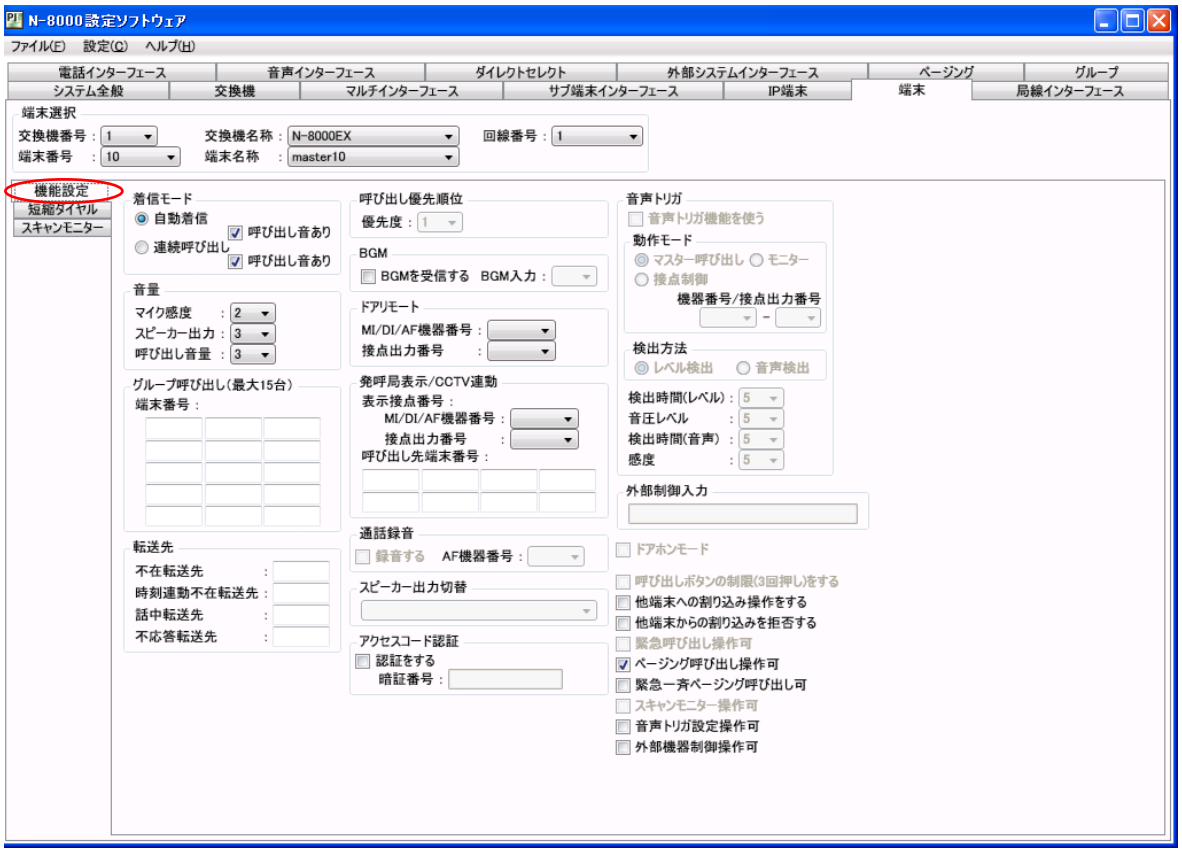
④端末番号
端末の番号を選択できます。

⑤端末名称
端末の名称を選択できます。

● 機能の設定

1 機能設定タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



※ 端末の種類および端末が接続している交換機の種類により、入力できる項目は異なります。

2 各項目を設定する。

①着信モード

着信モード（ ☞ P. 2-11）を「自動着信」または「連続呼び出し」から選択します。
「自動着信」の場合も「連続呼び出し」の場合も、呼び出し音の有無を設定することができます。
ドア端末は「自動着信」固定です。

②音量（アナログマスター端末を除く）

マイク感度　　：端末のハンズフリーマイクの感度を 3 段階で設定できます。レベル 1 が最小、レベル 3 が最大です。初期値はレベル 2 です。

ご注意

ハンドセットマイクの感度は固定です。

スピーカー出力：端末のスピーカー出力のレベルを 5 段階で設定できます。レベル 1 が最小、レベル 5 が最大です。初期値はレベル 3 です。

呼び出し音量　：端末の呼び出し音量を 5 段階で設定できます。レベル 1 が最小、レベル 5 が最大です。初期値はレベル 3 です。

③グループ呼び出し（最大 15 台）（マスター端末のみ）

この端末が呼び出された場合に、同時に呼び出す端末を設定します。最大 15 台設定できます。
同時呼び出し端末の設定をしておくと、この端末が呼び出されたときに話中の場合でも、同時に呼び出された他の端末で応答することができます。

ご注意

選択応答設定時、同じ交換機 N-8010EX またはサブ端末接続ユニット N-8400RS に接続されている端末は、グループ呼び出しのメンバー端末に設定できません。

④転送先（マスター端末のみ）

各転送機能の転送先の端末番号を設定します。転送先として局線インターフェースユニットを設定する場合は、「#」に続けて発信特番を入力してください。例えば、発信特番が「05」と設定されている局線インターフェースユニットを設定する場合は「#05」と入力します。
交換機の転送設定が有効になっている場合のみ、転送先の設定ができます。（ ☞ P. 5-38）

ご注意

マルチインターフェースユニットを経由した相手先の端末を転送先に設定することはできません。

⑤呼び出し優先順位（選択応答、ドア端末のみ）

呼び出しの優先度を 5 段階で設定できます。
優先度 1 が最小、優先度 5 は緊急呼び出しと同等の優先度です。
初期値は優先度 1 です。

⑥BGM

この端末で BGM を受信するかどうかを設定します。
受信するときはチェックを入れ、BGM のチャンネル番号（1 ～ 8）を選択します。

⑦ドアリモート

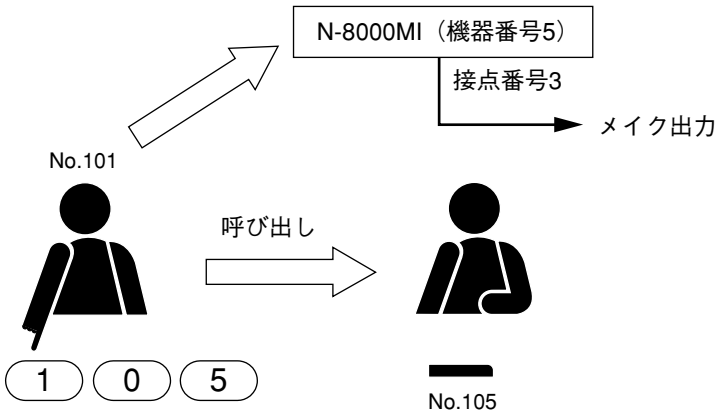
ドアリモートで制御するマルチインターフェースユニット、ダイレクトセレクトユニット、または音声インターフェースユニットの機器番号と接点出力端子の番号を設定します。

⑧ 発呼局表示／ CCTV 連動

表示接点番号　　：端末を呼び出したときにメイク信号を出力するマルチインターフェースユニット、ダイレクトセレクトユニット、または音声インターフェースユニットの機器番号と接点出力端子の番号を設定します。

呼び出し先端末番号：ここで設定する端末を呼び出したときにメイク信号を出力します。最大 8 台設定できます。
呼び出し先端末番号として局線インターフェースユニットを設定する場合は、「#」に続けて発信特番を入力してください。例えば、発信特番が「05」と設定されている局線インターフェースユニットを設定する場合は「#05」と入力します。

（例）No. 101 の端末の発呼局表示／ CCTV 連動の設定で、表示接点番号を「MI 機器番号：5、接点出力番号 3」、呼び出し先端末番号を「105」に設定した場合



端末 No. 101 が No. 105 を呼び出すと、マルチインターフェースユニット（機器番号 5）の接点番号 3 がメイクします。

⑨ 通話録音

この端末の通話内容を録音します。
指定した N-8000AF の音声出力から、端末の通話音声を出力します。

⑩ アクセスコード認証（マスター端末のみ）

アクセスコード認証を有効にするかどうかを設定します。
暗証番号（4 桁の数字）を入力します。

⑪ 音声トリガ（ドア端末のみ）

この端末の音声トリガ機能の設定を行います。
音声トリガ機能を使う：音声トリガ機能を使用するかどうかを設定します。

⑫ 動作モード（ドア端末のみ）

音声が検出されたときの動作を選択します。
マスター呼び出し：マスター端末を呼び出します。
モニター　　：端末の音声を、マスター端末のハンズフリースピーカーから出力します。
接点制御　　：指定した機器の接点出力をワンショットメイクします。

⑬ 検出方法（ドア端末のみ）

検出条件を選択します。
レベル検出　　：設定音圧以上の音が一定時間続いたことを検出します。
音声検出　　：人間の音声を検出します。
検出時間（レベル）：検出するまでの時間を設定します。
音圧レベル　　：音圧のしきい値を設定します。
検出時間（音声）：検出する音声の母音の長さを設定します。
感度　　：音声検出の感度を設定します。（1：最も検出しやすい、9：最も検出しにくい）

⑭ **ドアホンモード**（着信優先、ドア端末のみ）
この端末（ドア端末）をドアホンモード*で動作させるかどうかを設定します。
* マスター端末を呼び出したとき、ドア端末では呼び出し音は 1 回しか聞こえません。また、呼び出し制限時間および通話制限時間がそれぞれ 30 秒に設定されます。

⑮ **呼び出しボタンの制限（3 回押し）をする**（着信優先、ドア端末のみ）
呼び出しボタンを 3 秒以内に 3 回押す操作により呼び出しを行うかどうかを設定します。

⑯ **他端末への割り込み操作をする**（着信優先、マスター端末のみ）
この端末から割り込み操作ができるかどうかを設定します。

⑰ **他端末からの割り込みを拒否する**（着信優先のみ）
N-8000EX に接続している端末の場合、他の端末から割り込み操作が行われたときに、割り込みを拒否するかどうかを設定します。
N-8010EX に接続している端末の場合は、割り込みを拒否する設定に固定されます。

⑱ **緊急呼び出し操作可**（選択応答、ドア端末のみ）
この端末から緊急呼び出し操作を行うかどうかを設定します。

⑲ **ページング呼び出し操作可**（マスター端末のみ）
この端末からページング呼び出し操作を行うかどうかを設定します。

⑳ **緊急一斉ページング呼び出し可**（マスター端末のみ）
この端末から緊急一斉ページング操作を行うかどうかを設定します。

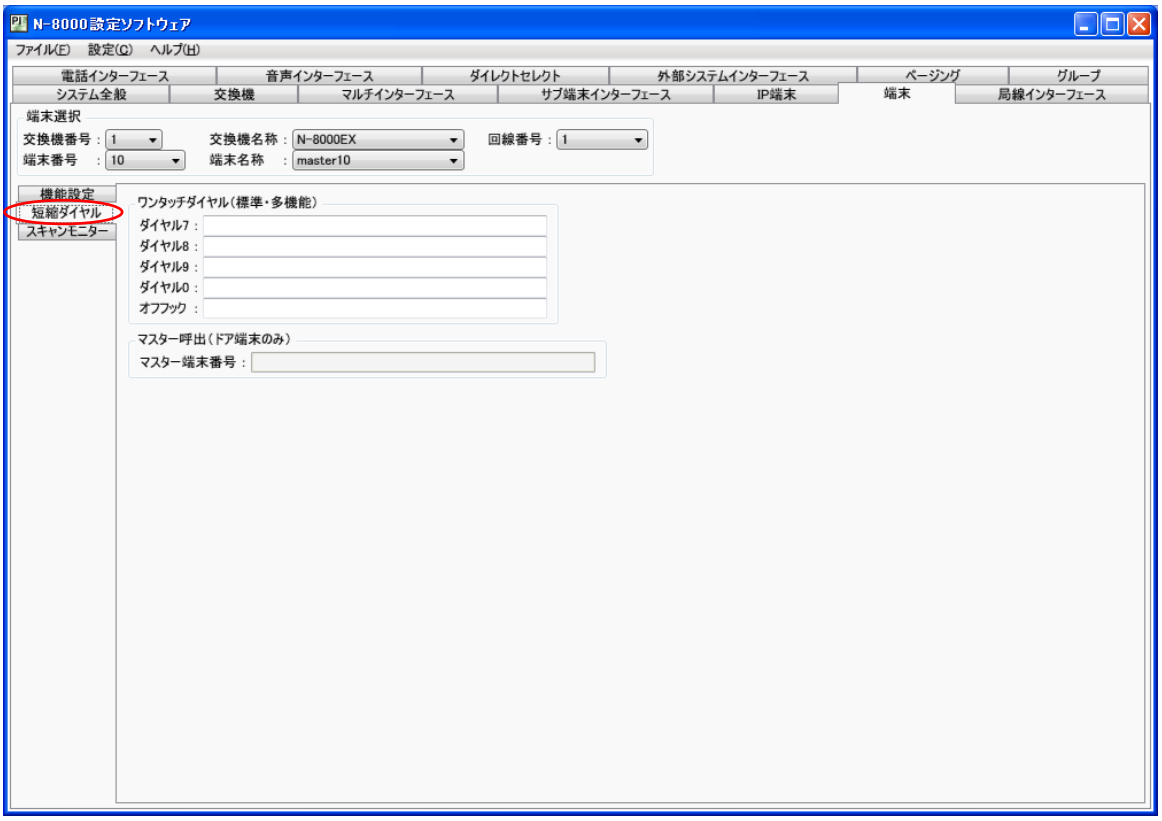
㉑ **音声トリガ設定操作可**（マスター端末のみ）
この端末から音声トリガ設定操作を行うかどうかを設定します。

㉒ **外部機器制御操作可**（マスター端末のみ）
この端末からワンショットメイク出力やメイク／ブレイク出力の操作を行うかどうかを設定します。

● 短縮ダイヤルの設定

1 短縮ダイヤルタブをクリックする。

設定画面が表示されます。



※ 端末の種類により、入力できる項目は異なります。

2 各項目を設定する。

① ワンタッチダイヤル（マスター端末のみ）

［7］［8］［9］［0］キーからワンタッチで、またはオフフックで発信したい番号を入力します。

メ　モ

- ワンタッチダイヤルに登録できるキーは、ダイヤルキー（12 種類）、ページング呼び出しキー、ページング応答キー、機能キー、保留キー、転送キーです。
- 最大 32 桁のダイヤル操作を登録できます。
- 数字以外のキーを登録したいときは、それぞれ半角で次のように入力してください。

＃ /▲	：#
＊ /▼	：*
ページング呼び出しキー	：P
ページング応答キー	：R
機能キー	：F
保留キー	：H
転送キー	：T

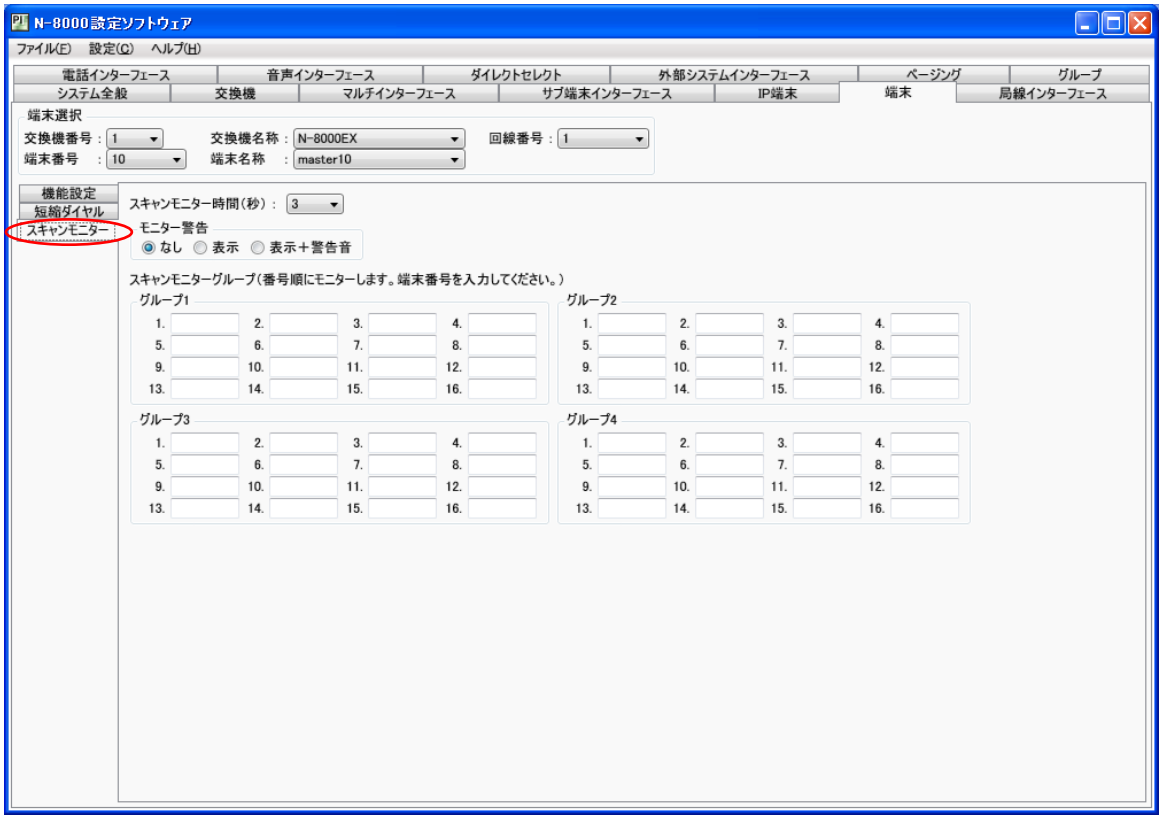
② マスター呼出（ドア端末のみ）

ドア端末の呼び出しボタンを押したときに呼び出すマスター端末の番号を入力します。

● スキャンモニターの設定

1 スキャンモニタータブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 スキャンモニター時間を設定する。

モニターを切り換える時間を設定します。1 ～ 10 秒の間で 1 秒単位で入力してください。

3 モニター警告を設定する。

モニター時の端末の動作を設定します。

なし　　：モニター中も待ち受け状態の表示のままです。
表示　　：モニター中は、状態表示灯が点灯します。
表示＋警告音：モニター開始時に開始音が鳴ります。
　　また、モニター中は状態表示灯が点灯します。

4 スキャンモニターグループを設定する。

モニターしたい端末の端末番号を、モニターする順に入力します。

■ 局線インターフェースの設定をする

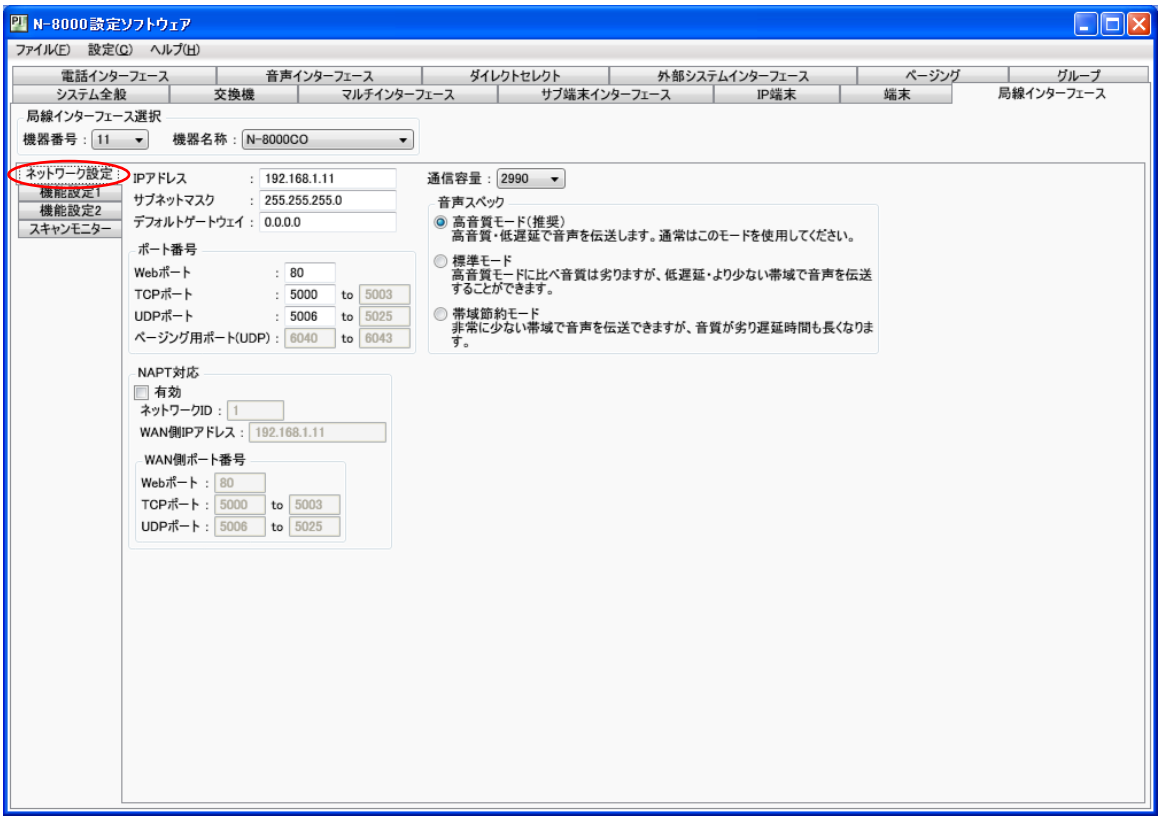
局線インターフェースタブをクリックします。

設定する局線インターフェースユニットを選択します。機器番号または機器名称をリストから選択してください。

● ネットワークの設定

1 ネットワーク設定タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 各項目を設定する。

①IP アドレス
局線インターフェースユニットの IP アドレスを入力します。

②サブネットマスク
サブネットマスクを入力します。

③デフォルトゲートウェイ
デフォルトゲートウェイを入力します。

④ ポート番号

各プロトコルで使用するポート番号を設定します。

[Web ポート]
Web サーバーのポート番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65535 です。（工場出荷時：80）

[TCP ポート]
Web サーバー以外の TCP ポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65532 です。N-8000 システムでは、TCP 開始ポートから連続して 4 個のポートを使います。（工場出荷時：5000）

TCP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
Webサーバー	TCP	Webサーバー	80
呼び出し制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 0	5000
PC監視	TCP	開始ポート番号 ＋ 1	5001
PC制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 2	5002
予約	TCP	開始ポート番号 ＋ 3	5003

[UDP ポート]
UDP で使用するポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65516 です。N-8000 システムでは、UDP 開始ポートから連続して 20 個のポートを使います。（工場出荷時：5006）

UDP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
予約	UDP	開始ポート番号 ＋ 0～3	5006～5009
通話	UDP	開始ポート番号 ＋ 4～19	5010～5025

ご注意

UDP のポート番号 15000 は内部で使用しています。14981 ～ 15000 は入力できません。

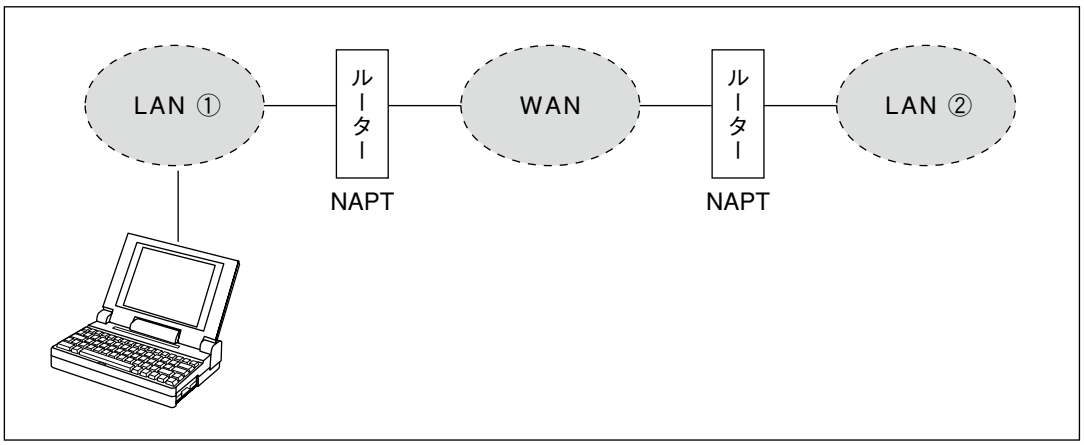
[ページング用ポート（UDP）]
マルチキャストを使用してページングを行う場合に使われるポート番号（UDP）が表示されます。
（設定のしかた ☞ P. 5-123「ページング系統を設定する」）

⑤ NAPT 対応

グローバル IP アドレスを使ってこの IP 端末に接続する場合は、「有効」にチェックを入れてください。ネットワーク ID ⑥～ WAN 側ポート番号⑧が入力可能になります。

⑥ ネットワーク ID

グローバル IP アドレスを使って接続する場合、ローカルアドレスを使ってアクセスできる範囲ごとにネットワークを識別する番号を入力します。
例えば、下図のようなネットワーク接続をしている場合、LAN ①に接続する機器には 1、LAN ②に接続する機器には 2、のように異なるネットワーク ID をつけます。
設定用のパソコンにはネットワーク ID：1 を割り当てています。パソコンからローカルアドレスを使ってアクセスできる機器（例えば LAN ①に接続する機器）には、ネットワーク ID：1 を設定してください。



⑦ WAN 側 IP アドレス

WAN 側から見たこの局線インターフェースユニットの IP アドレスを入力します。

⑧ WAN 側ポート番号

WAN 側から見た各プロトコルで使用するポート番号を設定します。

[Web ポート]
Web サーバーのポート番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65535 です。（工場出荷時：80）

[TCP ポート]
Web サーバー以外の TCP ポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65532 です。N-8000 システムでは、TCP 開始ポートから連続して 4 個のポートを使います。（工場出荷時：5000）

TCP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
Webサーバー	TCP	Webサーバー	80
呼び出し制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 0	5000
PC監視	TCP	開始ポート番号 ＋ 1	5001
PC制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 2	5002
予約	TCP	開始ポート番号 ＋ 3	5003

[UDP ポート]
UDP で使用するポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65516 です。N-8000 システムでは、UDP 開始ポートから連続して 20 個のポートを使います。（工場出荷時：5006）

UDP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
予約	UDP	開始ポート番号 ＋ 0～3	5006～5009
通話	UDP	開始ポート番号 ＋ 4～19	5010～5025

⑨通信容量

この機器が接続するネットワーク回線の容量（または使用可能な上限値）を設定します。通信容量を設定すると、通話・ページングにより設定値を超えるトラフィックが発生して、音質が低下したり遅延が長くなったりするのを防ぐことができます。

⑩音声スペック

使用できる帯域によって、音声伝送のスペックを選択します。

高音質モード　：高音質・低遅延で音声を伝送します。通常はこのモードを使用してください。

標準モード　　：低遅延で音声を伝送します。音質は劣りますが、高音質モードと遅延時間は同じで使用帯域が少なくなります。ISDN 回線（128 kbps）で接続している場合などはこのモードを使用してください。

帯域節約モード：非常に少ない帯域で音声を伝送できますが、音質は劣り、遅延時間も長くなります。アナログ回線（56 kbps）で接続している場合はこのモードを使用してください。

	サンプリング周波数	遅延	使用帯域
高音質モード	16 kHz	0.08 秒	130 kbps
標準モード	8 kHz	0.08 秒	98 kbps
帯域節約モード	8 kHz	0.32 秒	49.5 kbps

● 機能の設定

1 機能設定１タブをクリックする。

設定画面が表示されます。

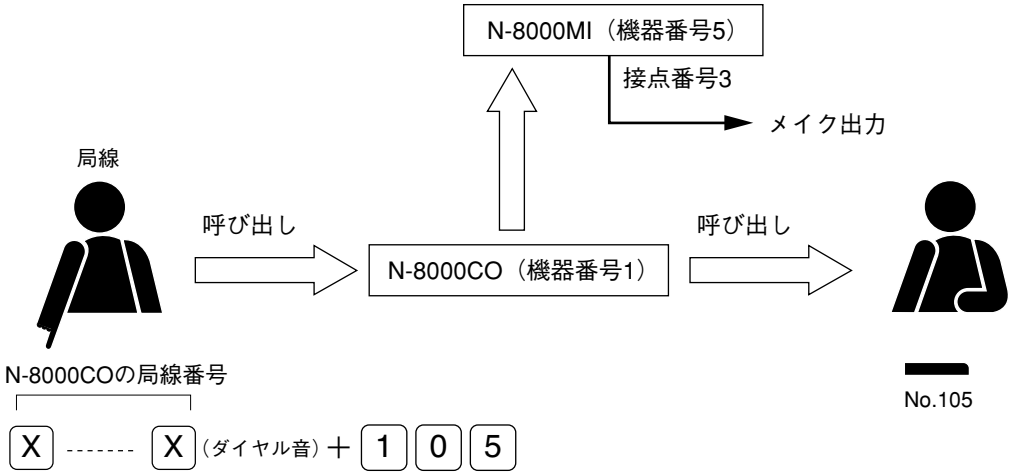
2 各項目を設定する。

① 発呼局表示／ CCTV 連動

表示接点番号　　：端末を呼び出したときにメイク信号を出力するマルチインターフェースユニット、ダイレクトセレクトユニット、または音声インターフェースユニットの機器番号と接点出力端子の番号を設定します。

呼び出し先端末番号：ここで設定する端末を呼び出したときにメイク信号を出力します。最大 8 台設定できます。
呼び出し先端末番号として局線インターフェースユニットを設定する場合は、「#」に続けて発信特番を入力してください。例えば、発信特番が「05」と設定されている局線インターフェースユニットを設定する場合は「#05」と入力します。

（例）機器番号 1 の局線インターフェースユニットの発呼局表示／ CCTV 連動の設定で、表示接点番号を「MI 機器番号：5、接点出力番号 3」、呼び出し先端末番号を「105」に設定した場合



局線インターフェースユニット（機器番号 1）が No. 105 を呼び出すと、マルチインターフェースユニット（機器番号 5）の接点番号 3 がメイクします。

② 通話録音

この局線の通話内容を録音します。
指定した N-8000AF の音声出力から、局線の通話音声を出力します。

③ ページング呼び出し操作可

この局線からページング呼び出し操作を行うかどうかを設定します。

④ スキャンモニター操作可

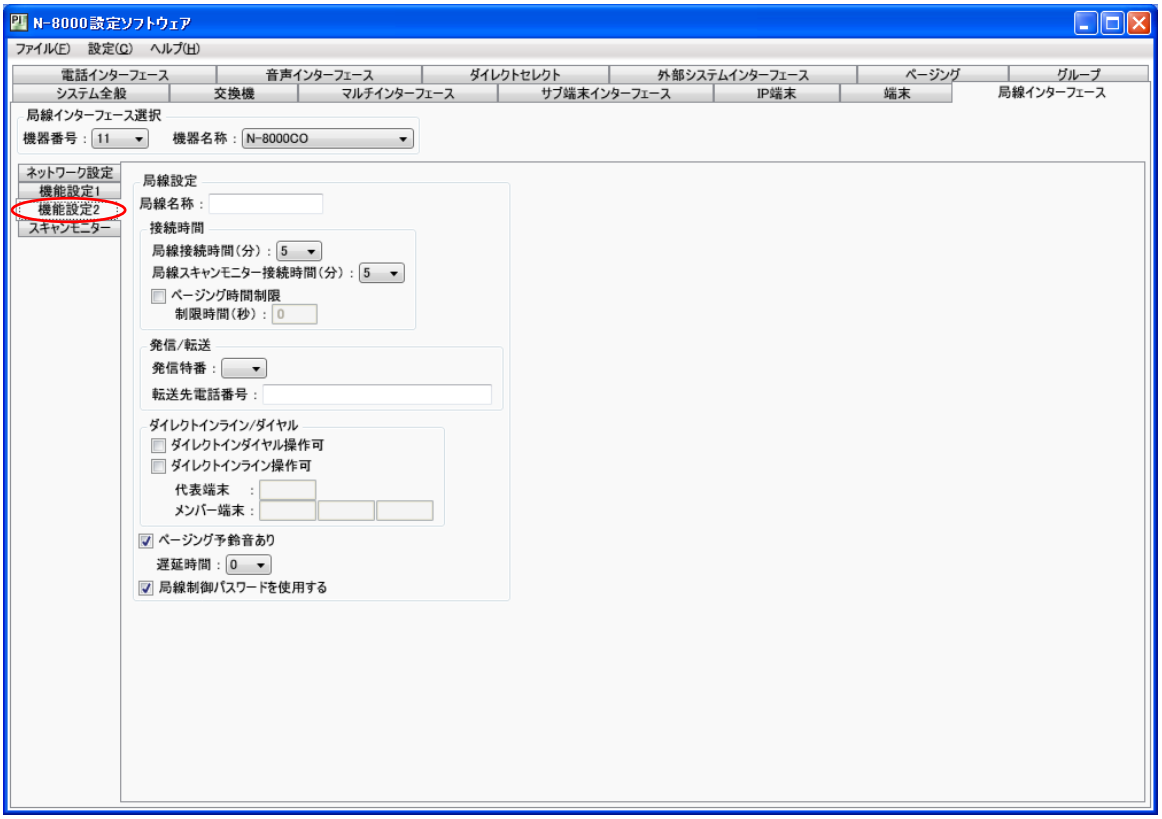
この局線からスキャンモニター操作を行うかどうかを設定します。

⑤ 外部機器制御操作可

この局線からワンショットメイク出力やメイク／ブレイク出力の操作を行うかどうかを設定します。

1 機能設定２タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 各項目を設定する。

① 局線設定

局線名称：局線の名称を設定します。

② 接続時間

局線接続時間　　：自動的に通話を終了するまでの時間を、1 ～ 99 分の範囲で設定します。
局線スキャンモニター接続時間：自動的にスキャンモニターを終了するまでの時間を、1 ～ 99 分の範囲で設定します。
ページング時間制限　：ページング呼び出し時間に上限を設けるかどうかを設定します。
制限を設ける場合、制限時間を入力してください。制限時間を過ぎると、ページング呼び出しは自動的に終わります。
制限がない場合は、終了操作を行うまでページング呼び出しは継続します。

③ 発信／転送

発信特番　　：局線に発信するときに操作する特番を 0 ～ 99 から選択してください。

ご注意

特番が 1 桁の場合、端末番号の上 1 桁と一致しないように設定してください。
特番が 2 桁の場合、端末番号の上 2 桁と一致しないように設定してください。

転送先電話番号　：この機器に対して転送が行われたときに、呼び出しを行う電話番号を最大 32 桁まで設定します。

④ ダイレクトインライン／ダイヤル

ダイレクトインダイヤル操作可：ダイレクトインダイヤル操作の使用可否を設定します。
ダイレクトインライン操作可　：ダイレクトインライン操作の使用可否を設定します。
代表端末　：呼び出すマスター端末を設定します。
メンバー端末　：代表端末の着信と同時に呼び出す端末を、最大３台まで設定できます。

ご注意

代表端末が設定されていない場合、メンバー端末に対する呼び出しは行われません。

⑤ ページング予鈴音あり

チェックを入れると、ページング開始時に予鈴音が鳴ります。

⑥ 遅延時間

ページング開始時の遅延時間を設定します。

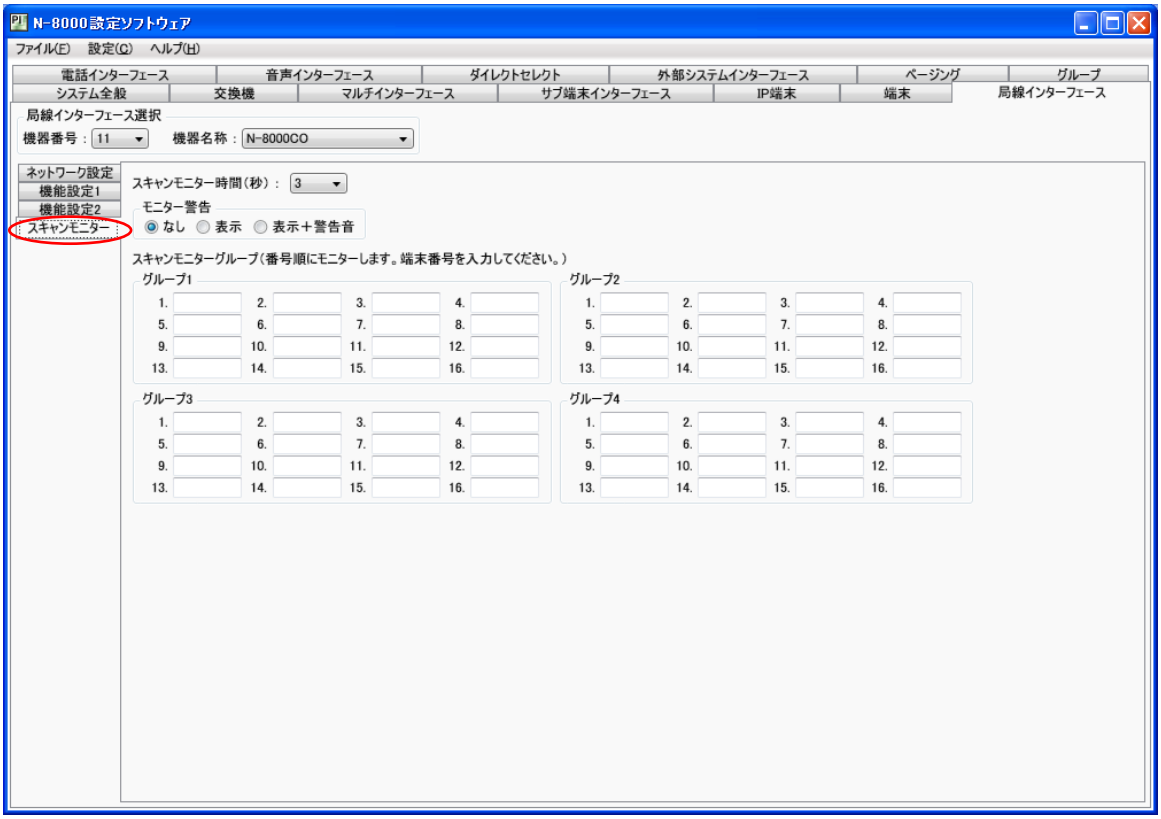
⑦ 局線制御パスワードを使用する

局線スキャンモニターおよび局線外部機器制御時に、パスワードを使用するかどうかを設定します。

● スキャンモニターの設定

1 スキャンモニタータブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 スキャンモニター時間を設定する。

モニターを切り換える時間を設定します。1 ～ 10 秒の間で 1 秒単位で入力してください。

3 モニター警告を設定する。

モニター時の端末の動作を設定します。

なし　　：モニター中も待ち受け状態の表示のままです。
表示　　：モニター中は、状態表示灯が点灯します。
表示＋警告音：モニター開始時に開始音が鳴ります。
　　また、モニター中は状態表示灯が点灯します。

4 スキャンモニターグループを設定する。

モニターしたい端末の端末番号を、モニターする順に入力します。

■ 電話インターフェースの設定をする

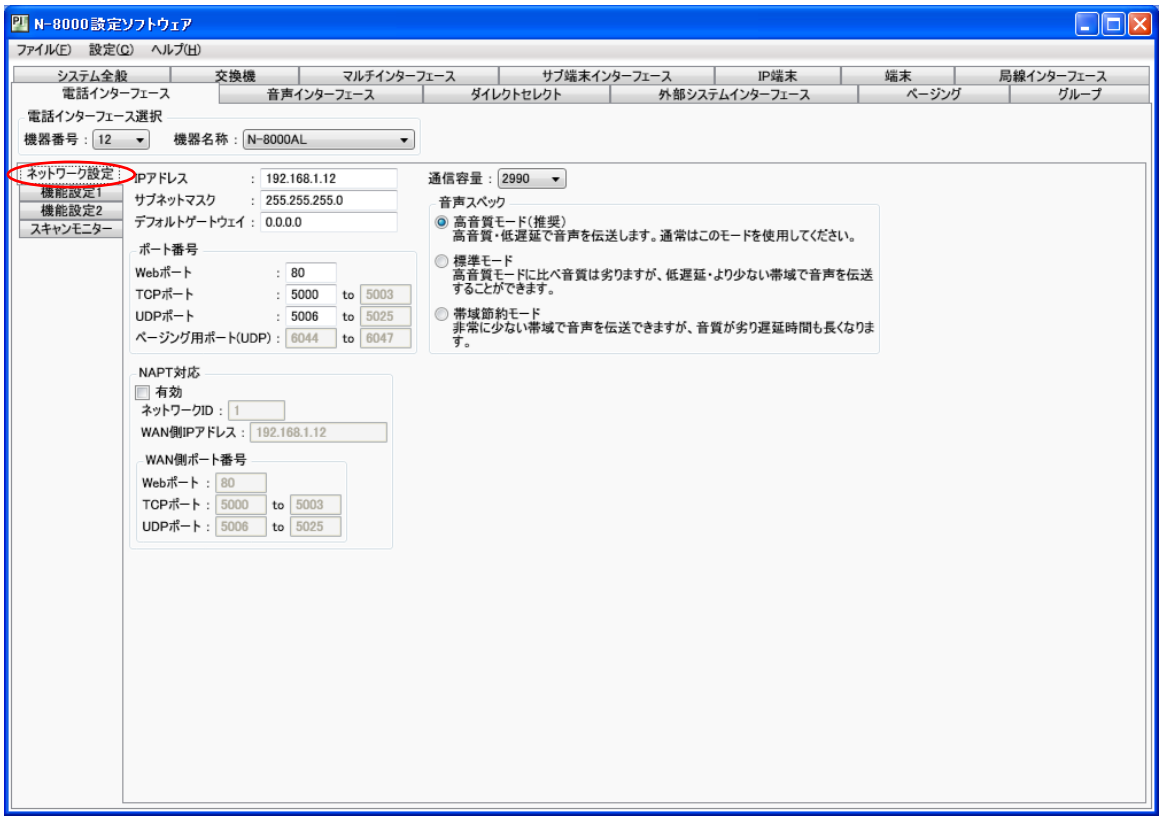
電話インターフェースタブをクリックします。

設定する電話インターフェースユニットを選択します。機器番号または機器名称をリストから選択してください。

● ネットワークの設定

1 ネットワーク設定タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 各項目を設定する。

①IP アドレス
電話インターフェースユニットの IP アドレスを入力します。

②サブネットマスク
サブネットマスクを入力します。

③デフォルトゲートウェイ
デフォルトゲートウェイを入力します。

④ ポート番号

各プロトコルで使用するポート番号を設定します。

[Web ポート]
Web サーバーのポート番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65535 です。（工場出荷時：80）

[TCP ポート]
Web サーバー以外の TCP ポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65532 です。N-8000 システムでは、TCP 開始ポートから連続して 4 個のポートを使います。（工場出荷時：5000）

TCP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
Webサーバー	TCP	Webサーバー	80
呼び出し制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 0	5000
PC監視	TCP	開始ポート番号 ＋ 1	5001
PC制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 2	5002
予約	TCP	開始ポート番号 ＋ 3	5003

[UDP ポート]
UDP で使用するポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65516 です。N-8000 システムでは、UDP 開始ポートから連続して 20 個のポートを使います。（工場出荷時：5006）

UDP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
予約	UDP	開始ポート番号 ＋ 0～3	5006～5009
通話	UDP	開始ポート番号 ＋ 4～19	5010～5025

ご注意
UDP のポート番号 15000 は内部で使用しています。14981 ～ 15000 は入力できません。

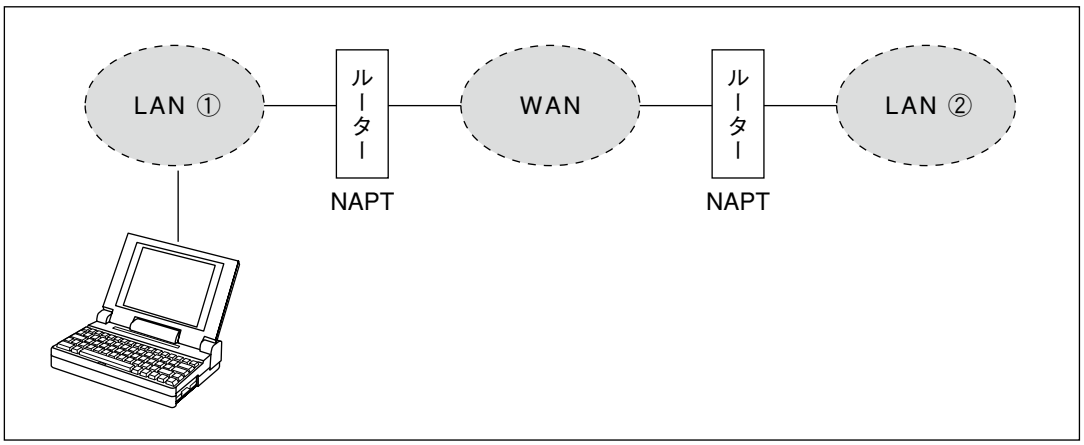
[ページング用ポート（UDP）]
マルチキャストを使用してページングを行う場合に使われるポート番号（UDP）が表示されます。
（設定のしかた ☞ P. 5-123「ページング系統を設定する」）

⑤ NAPT 対応

グローバル IP アドレスを使ってこの IP 端末に接続する場合は、「有効」にチェックを入れてください。ネットワーク ID ⑥～ WAN 側ポート番号⑧が入力可能になります。

⑥ ネットワーク ID

グローバル IP アドレスを使って接続する場合、ローカルアドレスを使ってアクセスできる範囲ごとにネットワークを識別する番号を入力します。
例えば、下図のようなネットワーク接続をしている場合、LAN ①に接続する機器には 1、LAN ②に接続する機器には 2、のように異なるネットワーク ID をつけます。
設定用のパソコンにはネットワーク ID：1 を割り当てています。パソコンからローカルアドレスを使ってアクセスできる機器（例えば LAN ①に接続する機器）には、ネットワーク ID：1 を設定してください。



⑦ WAN 側 IP アドレス

WAN 側から見たこの電話インターフェースユニットの IP アドレスを入力します。

⑧ WAN 側ポート番号

WAN 側から見た各プロトコルで使用するポート番号を設定します。

[Web ポート]
Web サーバーのポート番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65535 です。（工場出荷時：80）

[TCP ポート]
Web サーバー以外の TCP ポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65532 です。N-8000 システムでは、TCP 開始ポートから連続して 4 個のポートを使います。（工場出荷時：5000）

TCP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
Webサーバー	TCP	Webサーバー	80
呼び出し制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 0	5000
PC監視	TCP	開始ポート番号 ＋ 1	5001
PC制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 2	5002
予約	TCP	開始ポート番号 ＋ 3	5003

[UDP ポート]
UDP で使用するポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65516 です。N-8000 システムでは、UDP 開始ポートから連続して 20 個のポートを使います。（工場出荷時：5006）

UDP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
予約	UDP	開始ポート番号 ＋ 0～3	5006～5009
通話	UDP	開始ポート番号 ＋ 4～19	5010～5025

⑨通信容量

この機器が接続するネットワーク回線の容量（または使用可能な上限値）を設定します。通信容量を設定すると、通話・ページングにより設定値を超えるトラフィックが発生して、音質が低下したり遅延が長くなったりするのを防ぐことができます。

⑩音声スペック

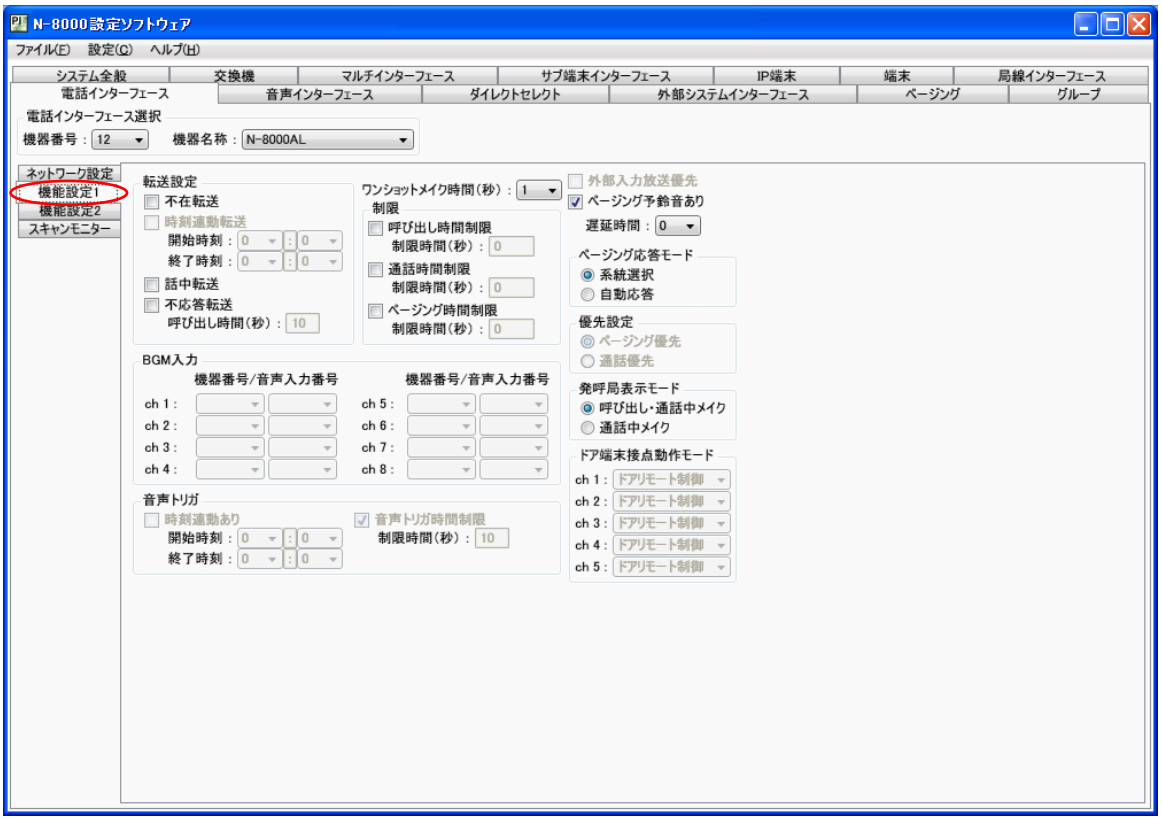
使用できる帯域によって、音声伝送のスペックを選択します。

高音質モード　：高音質・低遅延で音声を伝送します。通常はこのモードを使用してください。
標準モード　　：低遅延で音声を伝送します。音質は劣りますが、高音質モードと遅延時間は同じで使用帯域が少なくなります。ISDN 回線（128 kbps）で接続している場合などはこのモードを使用してください。
帯域節約モード：非常に少ない帯域で音声を伝送できますが、音質は劣り、遅延時間も長くなります。アナログ回線（56 kbps）で接続している場合はこのモードを使用してください。

	サンプリング周波数	遅延	使用帯域
高音質モード	16 kHz	0.08 秒	130 kbps
標準モード	8 kHz	0.08 秒	98 kbps
帯域節約モード	8 kHz	0.32 秒	49.5 kbps

1 機能設定１タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 各項目を設定する。

①転送設定

転送機能を使うかどうか設定します。

不在転送　　：着信があった場合、着信端末が不在転送に設定されていれば、呼び出し音を鳴らさずに、自動的に転送されます。

時刻連動転送：設定された時間内に着信があった場合、呼び出し音を鳴らさずに、自動的に転送されます。不在転送機能が有効になっている場合に時刻連動転送設定ができます。時刻連動転送機能が有効になっているときのみ時刻設定ができます。

話中転送　　：通話中に着信があった場合、着信端末に話中転送が設定されていると自動的に転送されます。

不応答転送　：着信があった場合、着信端末に不応答転送設定があり一定時間応答しないと自動的に転送されます。転送するまでの呼び出し時間は、不応答転送が有効になっている場合のみ設定できます。

②ワンショットメイク時間（秒）

外部制御出力端子がワンショットメイクする時間を設定します。

設定範囲は１～９秒（1 秒単位）です。

③制限

呼び出し、通話、ページング機能についての時間制限を設定します。
制限時間は 10 ～ 990 秒（10 秒単位）で設定します。

呼び出し時間制限　：端末を呼び出し続ける時間に制限を設けるかどうかを設定します。
制限を設ける場合、制限時間を入力してください。制限時間を過ぎると、端末の呼び出しは自動的に終わります。
制限がない場合は、呼び出しをやめるか、呼び出し先端末が応答するまで呼び出し続けます。

通話時間制限　：端末の通話時間に上限を設けるかどうかを設定します。
制限を設ける場合、制限時間を入力してください。制限時間を過ぎると、通話は自動的に終了します。
制限がない場合は、終了操作を行うまで通話は継続します。

ページング時間制限：ページング呼び出し時間に上限を設けるかどうかを設定します。
制限を設ける場合、制限時間を入力してください。制限時間を過ぎると、ページング呼び出しは自動的に終わります。
制限がない場合は、終了操作を行うまでページング呼び出しは継続します。

④ページング予鈴音あり

チェックを入れると、ページング開始時に予鈴音が鳴ります。

⑤遅延時間

ページング開始時の遅延時間を設定します。

⑥ページング応答モード

ページング応答時の動作を「系統選択」モードまたは「自動応答」モードから選択します。

系統選択：ページング系統番号を指定して応答します。指定した系統へ最後に呼び出し放送をした端末に応答します。
複数系統の呼び出し放送が聞こえる場所があるときは、このモードに設定します。

自動応答：ページング応答キーのみで応答します。操作端末が最後に受信したページング系統に呼び出し放送をした端末に応答します。

⑦発呼局表示モード

発呼局表示時の動作を「呼び出し・通話中メイク」モードまたは「通話中メイク」モードから選択します。
マルチインターフェースユニット、ダイレクトセレクトユニット、または音声インターフェースユニットの接点出力がメイクされるタイミングは右の表のとおりです。

発呼局表示モード / 端末の動作	呼び出し・通話中メイク	通話中メイク
呼び出し中	メイク	ブレイク
着信中	ブレイク	ブレイク
話中待ち	メイク	ブレイク
通話	メイク	メイク
ページング受信	ブレイク	ブレイク
スキャンモニター受信	メイク	メイク

1 機能設定２タブをクリックする。

設定画面が表示されます。

2 各項目を設定する。

①音量

マイク感度　　：端末のハンズフリーマイクの感度を３段階で設定できます。レベル１が最小、レベル３が最大です。初期値はレベル２です。

ご注意

ハンドセットマイクの感度は固定です。

スピーカー出力：端末のスピーカー出力のレベルを５段階で設定できます。レベル１が最小、レベル５が最大です。初期値はレベル３です。

呼び出し音量　：端末の呼び出し音量を５段階で設定できます。レベル１が最小、レベル５が最大です。初期値はレベル３です。

②グループ呼び出し（最大 15 台）

この端末が呼び出された場合に、同時に呼び出す端末を設定します。最大 15 台設定できます。
同時呼び出し端末の設定をしておくと、この端末が呼び出されたときに話中の場合でも、同時に呼び出された他の端末で応答することができます。

③ 転送先

各転送機能の転送先の端末番号を設定します。
転送設定が有効になっている場合のみ、転送先の設定ができます。（☞ P. 5-100）

ご注意

マルチインターフェースユニットを経由した相手先の端末を転送先に設定することはできません。

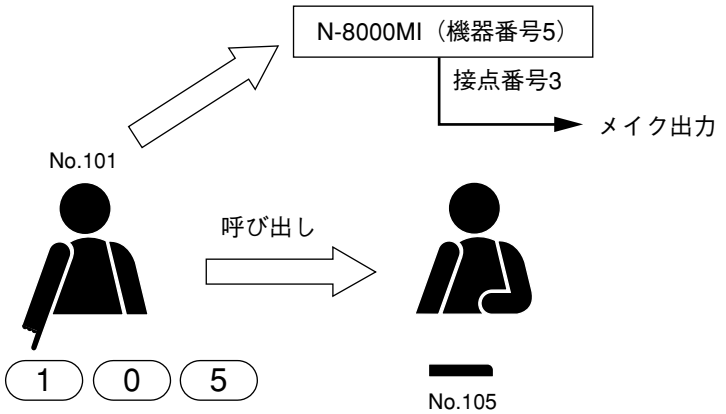
④ ドアリモート

ドアリモートで制御するマルチインターフェースユニット、ダイレクトセレクトユニット、または音声インターフェースユニットの機器番号と接点出力端子の番号を設定します。

⑤ 発呼局表示／ CCTV 連動

表示接点番号　　：端末を呼び出したときにメイク信号を出力するマルチインターフェースユニット、ダイレクトセレクトユニット、または音声インターフェースユニットの機器番号と接点出力端子の番号を設定します。
呼び出し先端末番号：ここで設定する端末を呼び出したときにメイク信号を出力します。最大 8 台設定できます。
呼び出し先端末番号として局線インターフェースユニットを設定する場合は、「#」に続けて発信特番を入力してください。例えば、発信特番が「05」と設定されている局線インターフェースユニットを設定する場合は「#05」と入力します。

（例）No. 101 の端末の発呼局表示／ CCTV 連動の設定で、表示接点番号を「MI 機器番号：5、接点出力番号 3」、呼び出し先端末番号を「105」に設定した場合



端末 No. 101 が No. 105 を呼び出すと、マルチインターフェースユニット（機器番号 5）の接点番号 3 がメイクします。

⑥ 通話録音

この端末の通話内容を録音します。
指定した N-8000AF の音声出力から、端末の通話音声を出力します。

⑦ アクセスコード認証

アクセスコード認証を有効にするかどうかを設定します。
暗証番号（4 桁の数字）を入力します。

⑧ 他端末への割り込み操作をする

この端末から割り込み操作ができるかどうかを設定します。
この機能は、着信優先モードの時のみ有効です。

⑨ ページング呼び出し操作可

この端末からページング呼び出し操作を行うかどうかを設定します。

⑩ 緊急一斉ページング呼び出し可

この端末から緊急一斉ページング操作を行うかどうかを設定します。

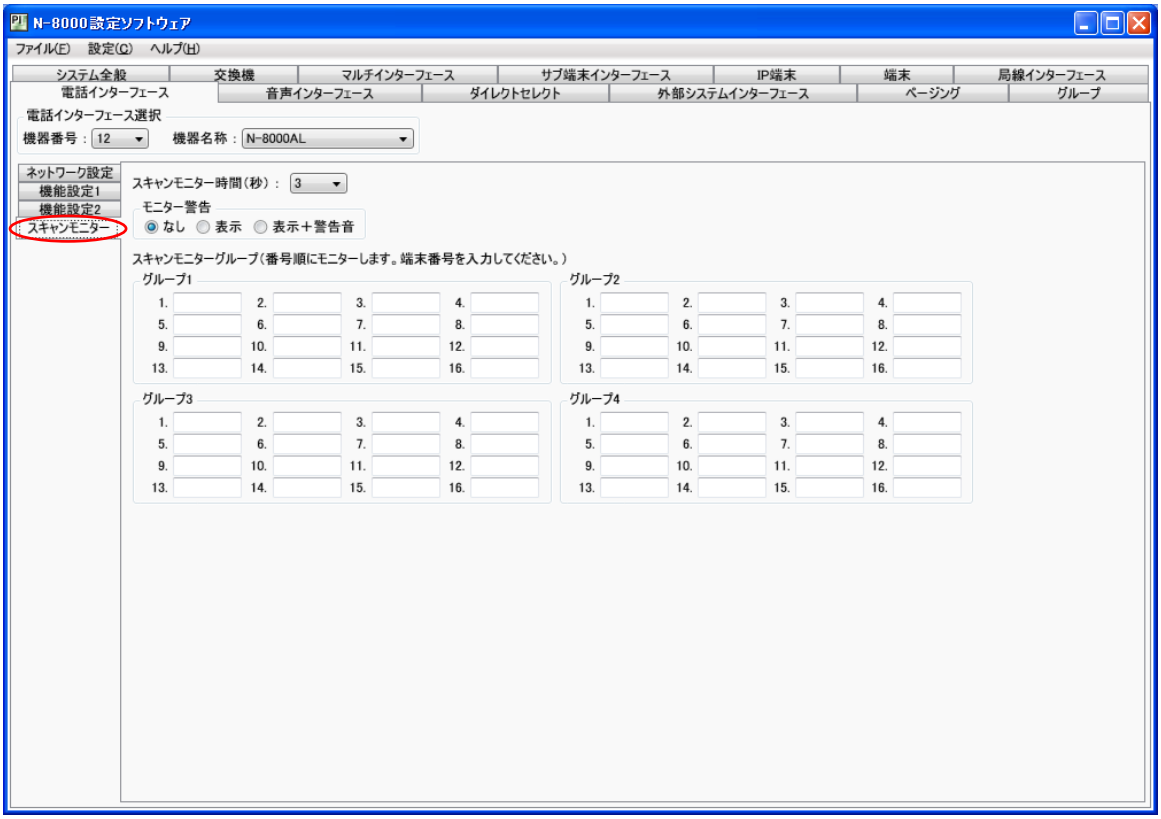
⑪ 外部機器制御操作可

この端末からワンショットメイク出力やメイク／ブレイク出力の操作を行うかどうかを設定します。

● スキャンモニターの設定

1 スキャンモニタータブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 スキャンモニター時間を設定する。

モニターを切り換える時間を設定します。1 ～ 10 秒の間で 1 秒単位で入力してください。

3 モニター警告を設定する。

モニター時の端末の動作を設定します。

なし　　：モニター中も待ち受け状態の表示のままです。
表示　　：モニター中は、状態表示灯が点灯します。
表示＋警告音：モニター開始時に開始音が鳴ります。
　　また、モニター中は状態表示灯が点灯します。

4 スキャンモニターグループを設定する。

モニターしたい端末の端末番号を、モニターする順に入力します。

■ 音声インターフェースの設定をする

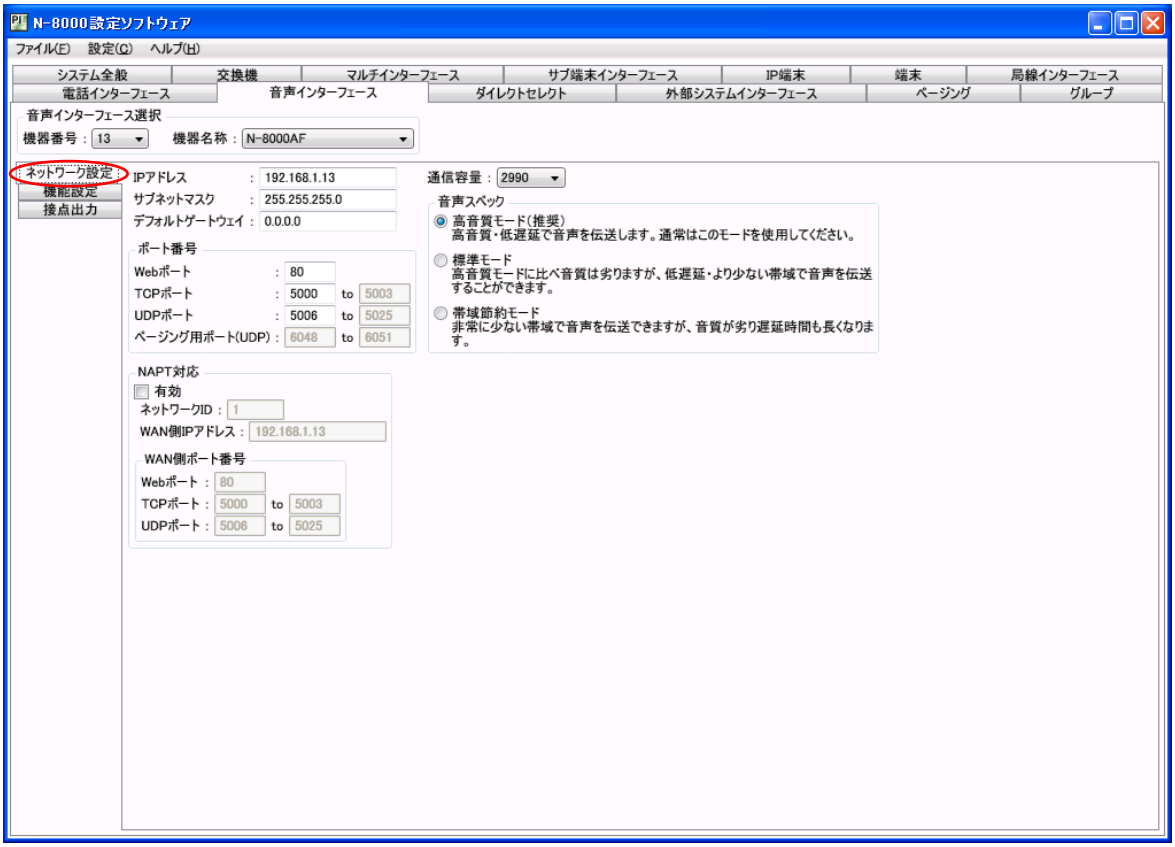
音声インターフェースタブをクリックします。

設定する音声インターフェースユニットを選択します。機器番号または機器名称をリストから選択してください。

● ネットワークの設定

1 ネットワーク設定タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 各項目を設定する。

①IP アドレス
音声インターフェースユニットの IP アドレスを入力します。

②サブネットマスク
サブネットマスクを入力します。

③デフォルトゲートウェイ
デフォルトゲートウェイを入力します。

④ ポート番号

各プロトコルで使用するポート番号を設定します。

[Web ポート]

Web サーバーのポート番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65535 です。（工場出荷時：80）

[TCP ポート]

Web サーバー以外の TCP ポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65532 です。N-8000 システムでは、TCP 開始ポートから連続して 4 個のポートを使います。（工場出荷時：5000）

TCP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
Webサーバー	TCP	Webサーバー	80
呼び出し制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 0	5000
PC監視	TCP	開始ポート番号 ＋ 1	5001
PC制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 2	5002
予約	TCP	開始ポート番号 ＋ 3	5003

[UDP ポート]

UDP で使用するポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65516 です。N-8000 システムでは、UDP 開始ポートから連続して 20 個のポートを使います。（工場出荷時：5006）

UDP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
予約	UDP	開始ポート番号 ＋ 0～3	5006～5009
通話	UDP	開始ポート番号 ＋ 4～19	5010～5025

ご注意

UDP のポート番号 15000 は内部で使用しています。14981 ～ 15000 は入力できません。

[ページング用ポート（UDP）]

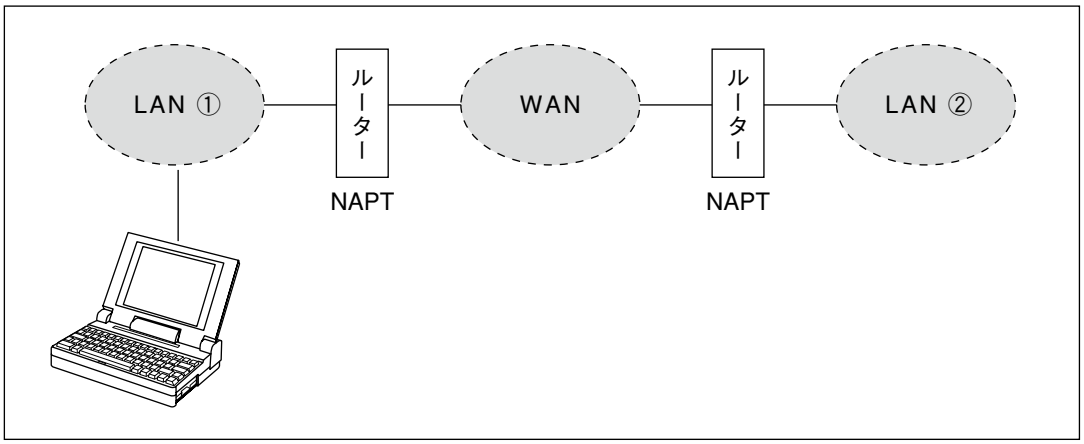
マルチキャストを使用してページングを行う場合に使われるポート番号（UDP）が表示されます。
（設定のしかた ☞ P. 5-123「ページング系統を設定する」）

⑤ NAPT 対応

グローバル IP アドレスを使ってこの IP 端末に接続する場合は、「有効」にチェックを入れてください。ネットワーク ID ⑥～ WAN 側ポート番号⑧が入力可能になります。

⑥ ネットワーク ID

グローバル IP アドレスを使って接続する場合、ローカルアドレスを使ってアクセスできる範囲ごとにネットワークを識別する番号を入力します。
例えば、下図のようなネットワーク接続をしている場合、LAN ①に接続する機器には 1、LAN ②に接続する機器には 2、のように異なるネットワーク ID をつけます。
設定用のパソコンにはネットワーク ID：1 を割り当てています。パソコンからローカルアドレスを使ってアクセスできる機器（例えば LAN ①に接続する機器）には、ネットワーク ID：1 を設定してください。



⑦ WAN 側 IP アドレス

WAN 側から見たこの音声インターフェースユニットの IP アドレスを入力します。

⑧ WAN 側ポート番号

WAN 側から見た各プロトコルで使用するポート番号を設定します。

[Web ポート]
Web サーバーのポート番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65535 です。（工場出荷時：80）

[TCP ポート]
Web サーバー以外の TCP ポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65532 です。N-8000 システムでは、TCP 開始ポートから連続して 4 個のポートを使います。（工場出荷時：5000）

TCP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
Webサーバー	TCP	Webサーバー	80
呼び出し制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 0	5000
PC監視	TCP	開始ポート番号 ＋ 1	5001
PC制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 2	5002
予約	TCP	開始ポート番号 ＋ 3	5003

[UDP ポート]
UDP で使用するポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65516 です。N-8000 システムでは、UDP 開始ポートから連続して 20 個のポートを使います。（工場出荷時：5006）

UDP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
予約	UDP	開始ポート番号 ＋ 0	5006
周波数補正	UDP	開始ポート番号 ＋ 1～3	5007～5009
通話	UDP	開始ポート番号 ＋ 4～19	5010～5025

⑨通信容量

この機器が接続するネットワーク回線の容量（または使用可能な上限値）を設定します。通信容量を設定すると、通話・ページングにより設定値を超えるトラフィックが発生して、音質が低下したり遅延が長くなったりするのを防ぐことができます。

⑩音声スペック

使用できる帯域によって、音声伝送のスペックを選択します。

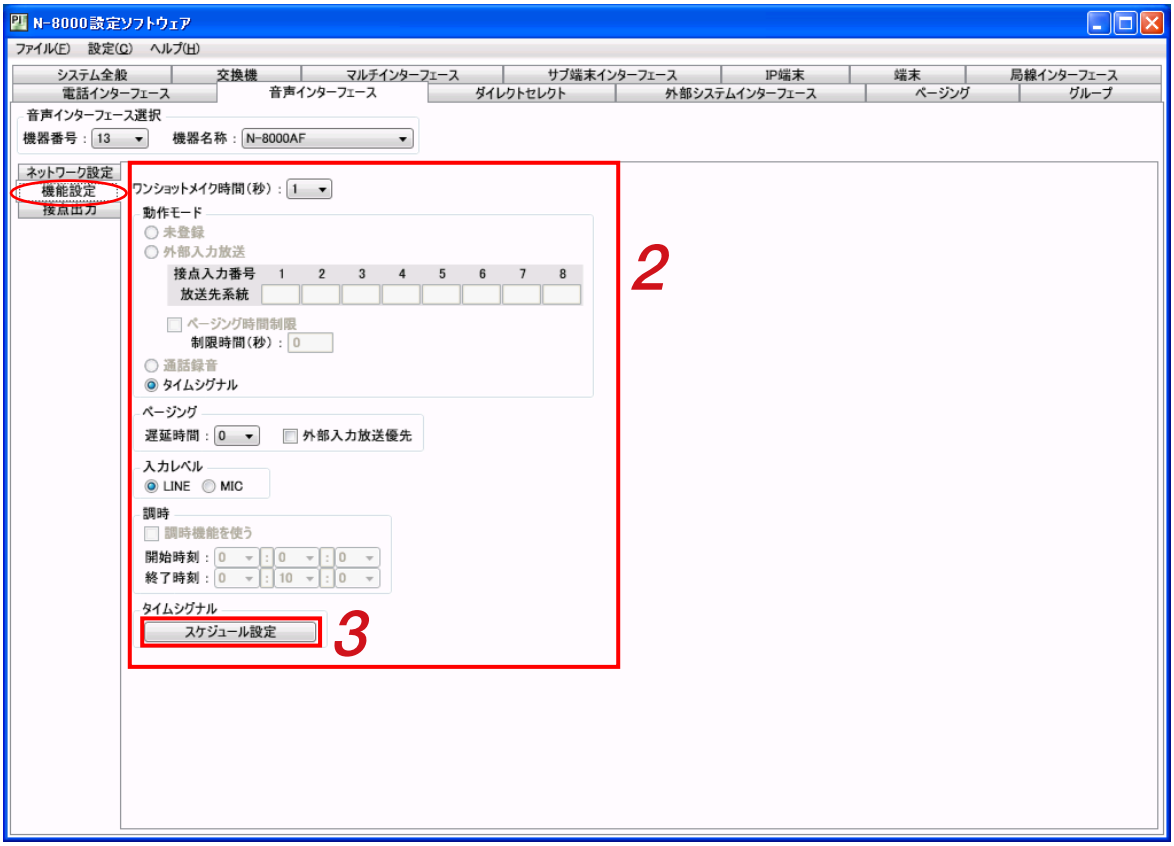
高音質モード　：高音質・低遅延で音声を伝送します。通常はこのモードを使用してください。
標準モード　　：低遅延で音声を伝送します。音質は劣りますが、高音質モードと遅延時間は同じで使用帯域が少なくなります。ISDN 回線（128 kbps）で接続している場合などはこのモードを使用してください。
帯域節約モード：非常に少ない帯域で音声を伝送できますが、音質は劣り、遅延時間も長くなります。アナログ回線（56 kbps）で接続している場合はこのモードを使用してください。

	サンプリング周波数	遅延	使用帯域
高音質モード	16 kHz	0.08 秒	130 kbps
標準モード	8 kHz	0.08 秒	98 kbps
帯域節約モード	8 kHz	0.32 秒	49.5 kbps

● 機能の設定

1 機能設定タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 各項目を設定する。

①ワンショットメイク時間（秒）

外部制御出力端子がワンショットメイクする時間を設定します。設定範囲は１～９秒（1 秒単位）です。

②動作モード

この機器の動作モードを設定します。

未登録	：この機器を使用しません。
外部入力放送	：演奏機器やリモートマイクなどと接続して、ページング呼び出しをする場合に選択します。制御入力から起動がかかると、あらかじめ登録していたページング系統に、ページング呼び出しをすることができます。
接点入力番号／放送先系統	：接点入力がメイクされたときのページング放送先系統番号を、接点入力端子ごとに設定します。
通話録音	：録音機器などに接続して、機器の通話内容を録音する場合に選択します。
タイムシグナル	：チャイムなど、決まった日時に音源を鳴らす場合に選択します。

ご注意

「タイムシグナル」に設定できる機器は、1 システムにつき 1 台のみです。
システム設定画面（P. 5-29）でタイムシグナル設定を行った機器のみが、動作モードの設定で「タイムシグナル」を選択できる状態になります。

③ページング

この機器のページングに関する設定を行います。

遅延時間	：ページング開始時の遅延時間を設定します。
外部入力放送優先	：外部入力放送を一斉ページングや系統ページングよりも優先します。

④入力レベル

音声信号の入力レベルを設定します。

⑤ 調時

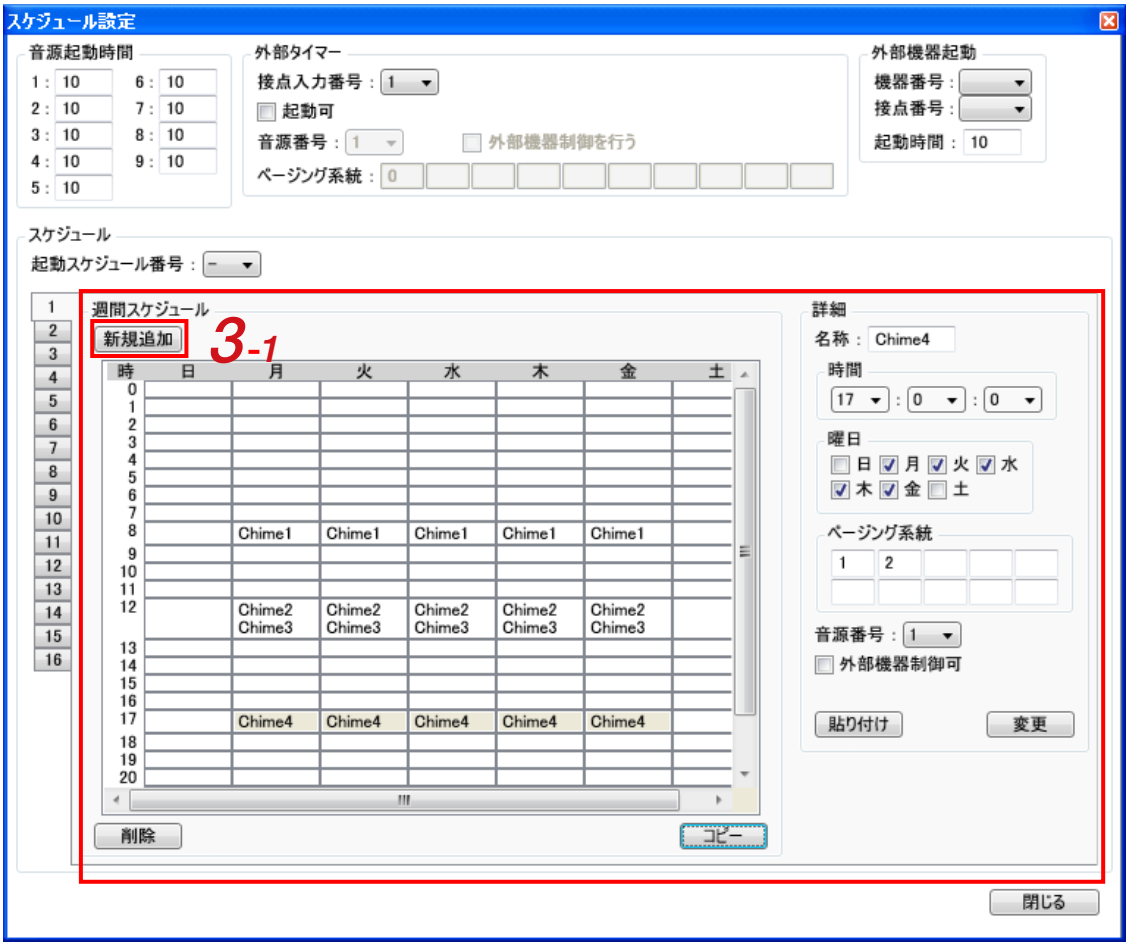
調時機能の設定を行います。
調時機能を使う　　：調時機能を有効にするかどうかを設定します。
開始時刻／終了時刻：調時機能を有効にする時間帯を設定します。

ご注意

NTP クライアント機能との併用はできません。

⑥ タイムシグナル

タイムシグナルのスケジュール設定をします。
スケジュール設定ボタンをクリックすると、スケジュール設定画面が表示されます。



3 スケジュールを設定する

①音源起動時間

音源ごとに、起動する時間を 1 ～ 1024 秒の範囲で設定します。
1 ～ 5 は内部音源、6 ～ 9 は外部音源（接点出力 1 ～ 4）に対応しています。

②外部タイマー

この機器の接点入力に接続した外部の機器からのメイク信号により、タイムシグナルの放送をするときの設定を行います。

接点入力番号　　：この機器の接点入力端子の番号です。
　※ 編集できません。
起動可　　：選択された接点入力端子の外部タイマー機能を有効にします。
音源番号　　：選択された接点入力端子がメイクされた時に起動する音源の番号を設定します。
　1 ～ 5 は内部音源、6 ～ 9 は外部音源（接点出力 1 ～ 4）に対応しています。
外部機器制御を行う：選択された接点入力端子がメイクされた時に外部機器起動で設定された接点出力端子を制御します。
ページング系統　　：選択された接点入力端子がメイクされた時に放送するページング系統を設定します。

③外部機器起動

外部タイマーやタイムシグナルのイベント発生時に、外部の機器を起動させるための設定ができます。

機器番号　　：マルチインターフェースユニット、ダイレクトセレクトユニット、または動作モードが「タイムシグナル」に設定されている音声インターフェースユニットの機器番号を選択します。

接点番号　　：選択した機器の接点出力端子の番号を選択します。音声インターフェースユニットの場合は５～８の範囲でしか選択できません。

起動時間　　：接点を起動する時間を１～1024 秒の範囲で設定します。

④ スケジュール

16 種類のスケジュールを登録でき、各スケジュールには最大 64 個のイベントを登録できます。

起動スケジュール番号 ：使用するスケジュールの番号を設定します。

各スケジュールの設定 ：1 ～ 16 のタブを選択すると、各スケジュールの設定を行うことができます。

新規追加ボタン　　：新しいイベントを追加します。
イベントは、スケジュールごとに最大 64 個まで追加できます。
新規追加ボタンをクリックすると、新規イベント画面が立ち上がります。

3-1 新規イベントの設定をする。

① 名称

イベントの名称を設定します。

名称は多機能マスター端末の液晶画面に表示されます。半角８文字以内で設定してください。

② 時間

イベントの発生する時刻を設定します。

③ 曜日

イベントの発生する曜日を設定します。

※同じ曜日の同一時刻に対して、複数のイベントを登録することはできません。

3-2 週間スケジュールの設定をする。

① 週間スケジュール表

曜日・時間別に登録されているイベントが一覧表示されます。

削除ボタン　　：選択したイベントを削除します。

コピーボタン　　：選択したイベントの、時間以外の設定内容をコピーします。

② 詳細

イベントの詳細内容の設定と確認ができます。

名称　　：イベントの名称を設定します。
名称は半角８文字以内で入力してください。

時間　　：イベントの発生する時刻を設定します。

曜日　　：イベントの発生する曜日を設定します。
※同じ曜日の同一時刻に対して、複数のイベントを登録することはできません。

ページング系統　　：イベント発生時に放送するページング系統を設定します。

音源番号　　：イベント発生時に起動する音源番号を選択します。

外部機器制御可　　：イベント発生時に、外部機器起動で設定された接点出力端子を制御します。

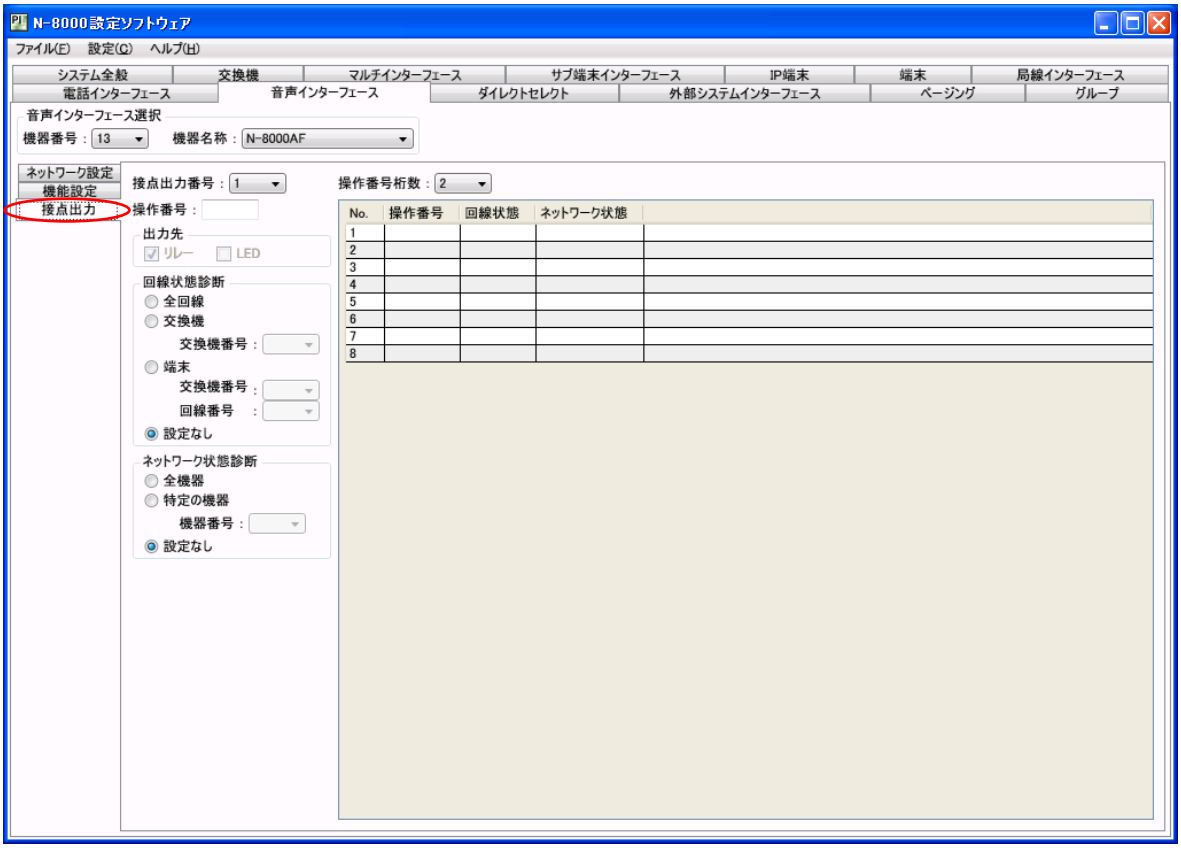
貼り付けボタン　　：コピーしたイベントの設定内容を貼り付けます。

変更ボタン　　：変更内容を有効にします。

● 接点出力の設定

1 接点出力タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 接点出力の各項目を設定する。

端末で外部機器制御（ワンショットメイク出力、メイク／ブレイク出力）の操作をする接点出力のみ、その設定をします。

①接点出力番号

この機器の接点出力端子の番号です。編集できません。

②操作番号桁数

端末で外部機器制御の操作をするときの番号の桁数を選択します。

③操作番号

端末で外部機器制御の操作をするときの番号を「操作番号桁数」で設定した桁数で設定します。

ご注意

- 操作番号を「0」に設定することはできません。
- 操作番号桁数が 4 桁の場合、設定できる操作番号は「0001」～「6144」となります。

④ 回線状態診断

診断する回線を選択します。
回線状態が CPU 異常または端末番号登録済みであるが未接続のときに、異常と判断して、接点出力をメイクします。

⑤ ネットワーク状態診断

診断する機器を選択します。
通信の応答がないと、異常と判断して、接点出力をメイクします。

■ ダイレクトセレクトの設定をする

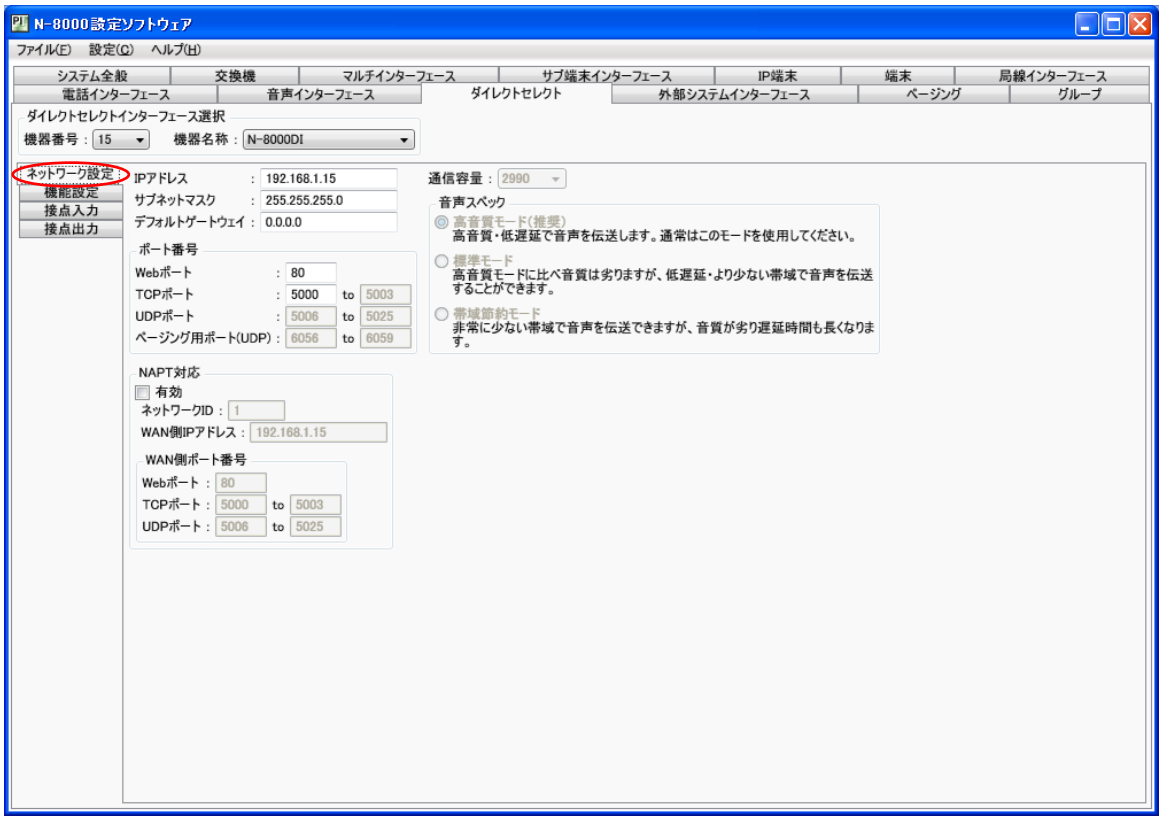
ダイレクトセレクトタブをクリックします。

設定するダイレクトセレクトユニットを選択します。機器番号または機器名称をリストから選択してください。

● ネットワークの設定

1 ネットワーク設定タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 各項目を設定する。

①IP アドレス
ダイレクトセレクトユニットの IP アドレスを入力します。

②サブネットマスク
サブネットマスクを入力します。

③デフォルトゲートウェイ
デフォルトゲートウェイを入力します。

④ ポート番号

各プロトコルで使用するポート番号を設定します。

[Web ポート]
Web サーバーのポート番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65535 です。（工場出荷時：80）

[TCP ポート]
Web サーバー以外の TCP ポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65532 です。N-8000 システムでは、TCP 開始ポートから連続して 4 個のポートを使います。（工場出荷時：5000）

TCP ポートは下記のように割り当てられます。

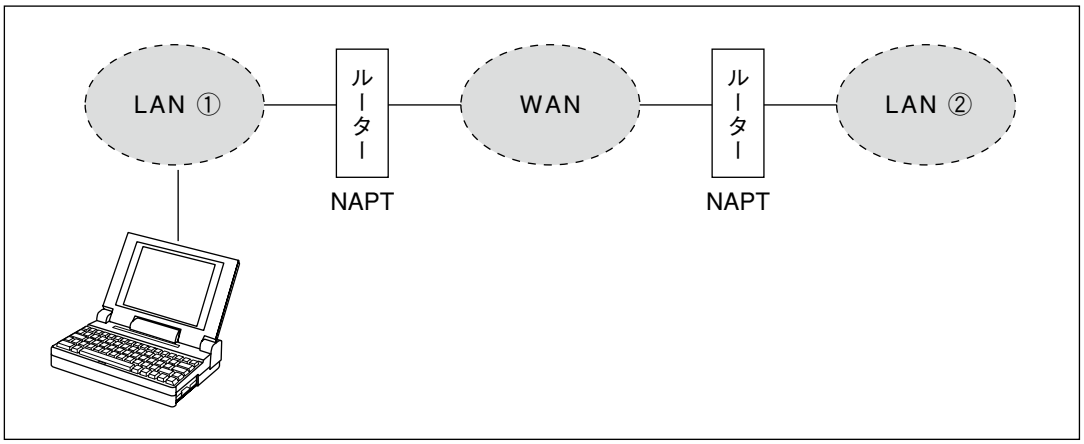
ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
Webサーバー	TCP	Webサーバー	80
呼び出し制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 0	5000
PC監視	TCP	開始ポート番号 ＋ 1	5001
PC制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 2	5002
予約	TCP	開始ポート番号 ＋ 3	5003

⑤ NAPT 対応

グローバル IP アドレスを使ってこの IP 端末に接続する場合は、「有効」にチェックを入れてください。ネットワーク ID ⑥～ WAN 側ポート番号⑧が入力可能になります。

⑥ ネットワーク ID

グローバル IP アドレスを使って接続する場合、ローカルアドレスを使ってアクセスできる範囲ごとにネットワークを識別する番号を入力します。
例えば、下図のようなネットワーク接続をしている場合、LAN ①に接続する機器には 1、LAN ②に接続する機器には 2、のように異なるネットワーク ID をつけます。
設定用のパソコンにはネットワーク ID：1 を割り当てています。パソコンからローカルアドレスを使ってアクセスできる機器（例えば LAN ①に接続する機器）には、ネットワーク ID：1 を設定してください。



⑦ WAN 側 IP アドレス

WAN 側から見たこのダイレクトセレクトユニットの IP アドレスを入力します。

⑧ WAN 側ポート番号

WAN 側から見た各プロトコルで使用するポート番号を設定します。

［Web ポート］
Web サーバーのポート番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65535 です。（工場出荷時：80）

［TCP ポート］
Web サーバー以外の TCP ポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65532 です。N-8000 システムでは、TCP 開始ポートから連続して 4 個のポートを使います。（工場出荷時：5000）

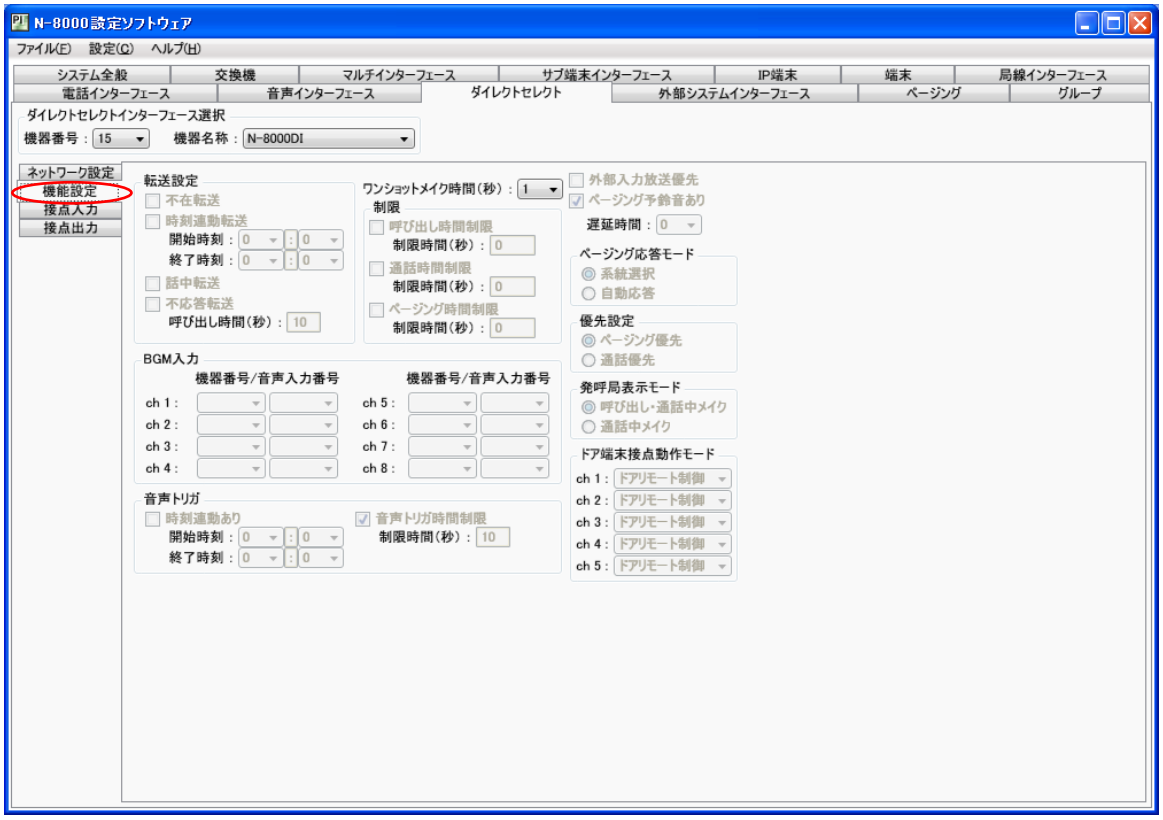
TCP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
Webサーバー	TCP	Webサーバー	80
呼び出し制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 0	5000
PC監視	TCP	開始ポート番号 ＋ 1	5001
PC制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 2	5002
予約	TCP	開始ポート番号 ＋ 3	5003

● 機能の設定

1 機能設定タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 以下の項目を設定する。

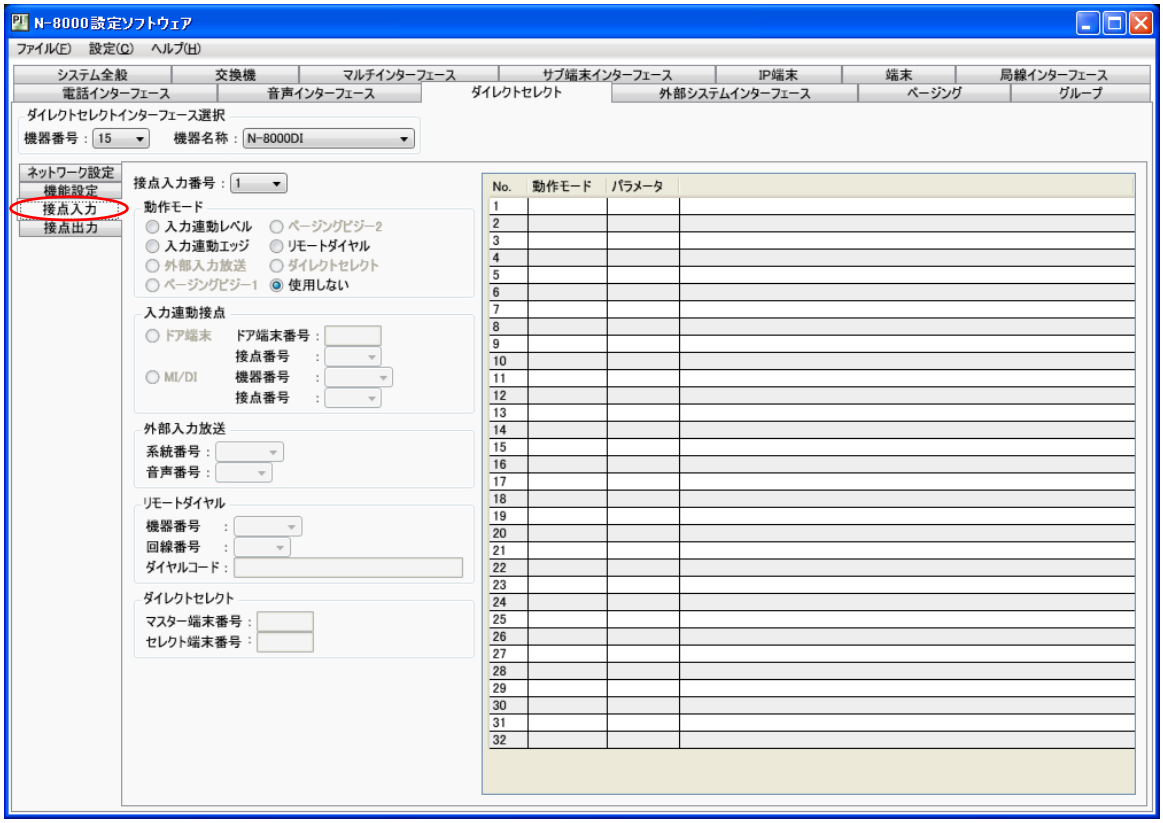
①ワンショットメイク時間（秒）

外部制御出力端子がワンショットメイクする時間を設定します。
設定範囲は１～９秒（1 秒単位）です。

● 接点入力の設定

1 接点入力タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 接点入力の各項目を設定する。

① 接点入力番号

この機器の接点入力端子の番号です。編集できません。

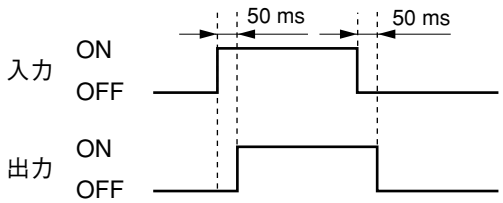
② 動作モード

接点入力の動作モードを選択します。ここで選んだ種類に応じて設定内容が変わります。

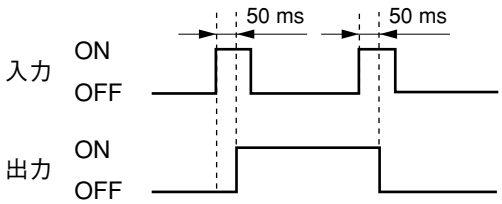
入力連動レベル　：この接点入力を接点出力に伝送するときに選択します。伝送出力信号は下図のようになります。（入力が変化して 50 ms 間安定すると、入力が確定します。）

入力連動エッジ　：この接点入力を接点出力に伝送するときに選択します。伝送出力信号は下図のようになります。（入力が変化して 50 ms 間安定すると、入力が確定します。）

［入力連動レベル］



［入力連動エッジ］



リモートダイヤル　：ダイレクトセレクトユニットの接点入力がメイクされると、任意の端末が自動的にダイヤルします。1 つの接点入力で最大 32 桁のダイヤルコード（ダイヤル番号、キー操作）を設定できます。
ダイレクトセレクト：ダイレクトセレクトユニットの接点入力がメイクされると、設定した任意の端末を呼び出します。
使用しない　　：この接点入力を使用しません。

③ 入力連動接点

動作モードの設定で「入力連動レベル」または「入力連動エッジ」を選択した場合に、出力する接点の番号を指定します。ドア端末の接点出力端子を指定するときは、「ドア端末」にチェックを入れ、ドア端末番号を設定します。N-8640DS/8650DS の場合は、接点出力端子の番号も設定します。マルチインターフェースユニットまたはダイレクトセレクトユニットの接点を指定するときは、「MI/DI」にチェックを入れ、マルチインターフェースユニットまたはダイレクトセレクトユニットの機器番号と接点出力端子の番号を設定します。

④ リモートダイヤル

動作モードの設定で「リモートダイヤル」を選択した場合に、リモートダイヤルをする端末が接続されている交換機の機器番号と回線番号を選択し、ダイヤルの内容を下の表に示すダイヤルコード（半角）で入力します。

・ダイヤルコードに登録できるキーおよび操作は、下の表のとおりです。
・最大 20 のダイヤルコードを登録できます。

登録するキーまたは操作	ダイヤルコード
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8
9	9
0	0
＊/▼	*
＃/▲	#
C	C

登録するキーまたは操作	ダイヤルコード
PTT キーを押す（PTT キーがオン）	PN
PTT キーを離す（PTT キーがオフ）	PF
ページング呼出	PC
ページング応答	PR
保留	HD
転送	TR
機能	FN
リダイヤル	RD
メニュー	MN
選択	SL
左矢印（◀）	LC
右矢印（▶）	RC
上矢印（▲）	UC
下矢印（▼）	DC

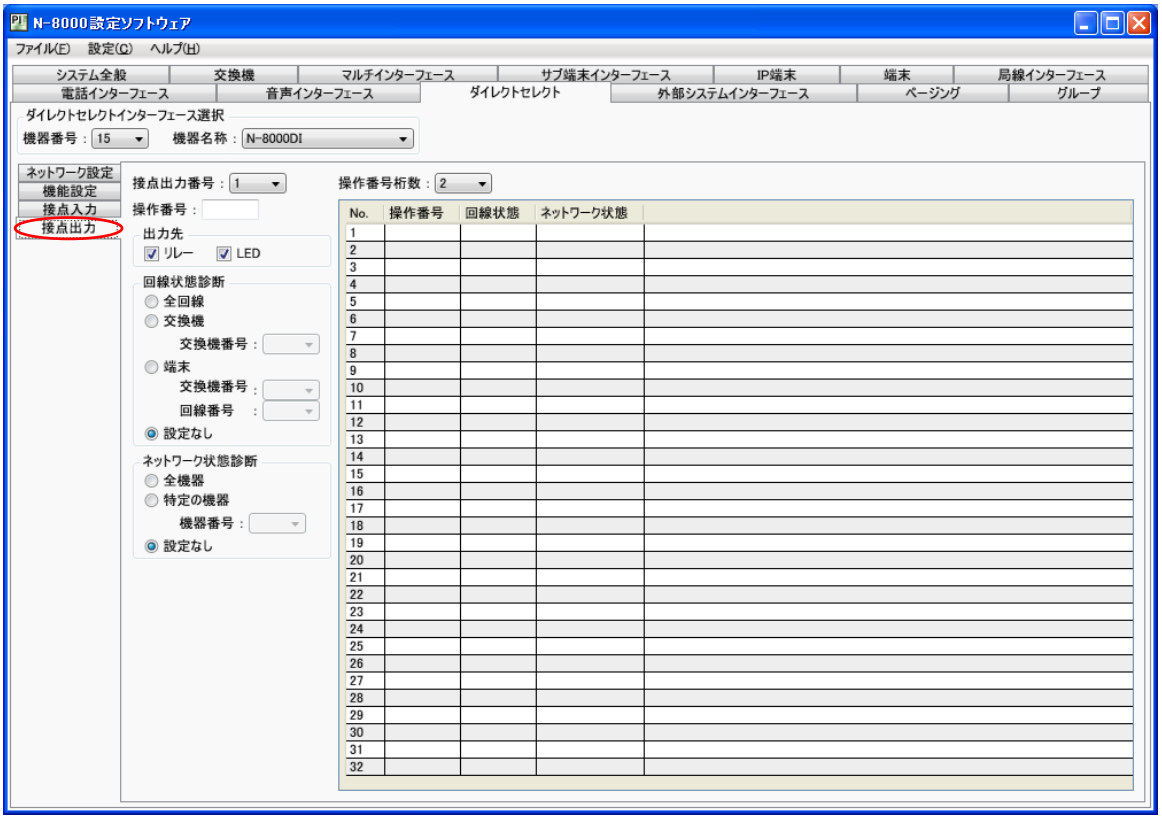
⑤ ダイレクトセレクト

動作モードの設定で「ダイレクトセレクト」を選択した場合に、制御するマスター端末の番号と、通話相手の端末の番号を設定します。

● 接点出力の設定

1 接点出力タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 接点出力の各項目を設定する。

端末で外部機器制御（ワンショットメイク出力、メイク／ブレイク出力）の操作をする接点出力のみ、そのを設定します。

①接点出力番号

この機器の接点出力端子の番号です。編集できません。

②操作番号桁数

端末で外部機器制御の操作をするときの番号の桁数を選択します。

③操作番号

端末で外部機器制御の操作をするときの番号を「操作番号桁数」で設定した桁数で設定します。

ご注意

- 操作番号を「0」に設定することはできません。
- 操作番号桁数が 4 桁の場合、設定できる操作番号は「0001」～「6144」となります。

④出力先

リレー出力、LED 出力それぞれの出力の有無を設定します。

⑤回線状態診断

診断する回線を選択します。
回線状態が CPU 異常または端末番号登録済みであるが未接続のときに、異常と判断して、接点出力をメイクします。

⑥ネットワーク状態診断

診断する機器を選択します。
通信の応答がないと、異常と判断して、接点出力をメイクします。

■ 外部システムインターフェースの設定をする

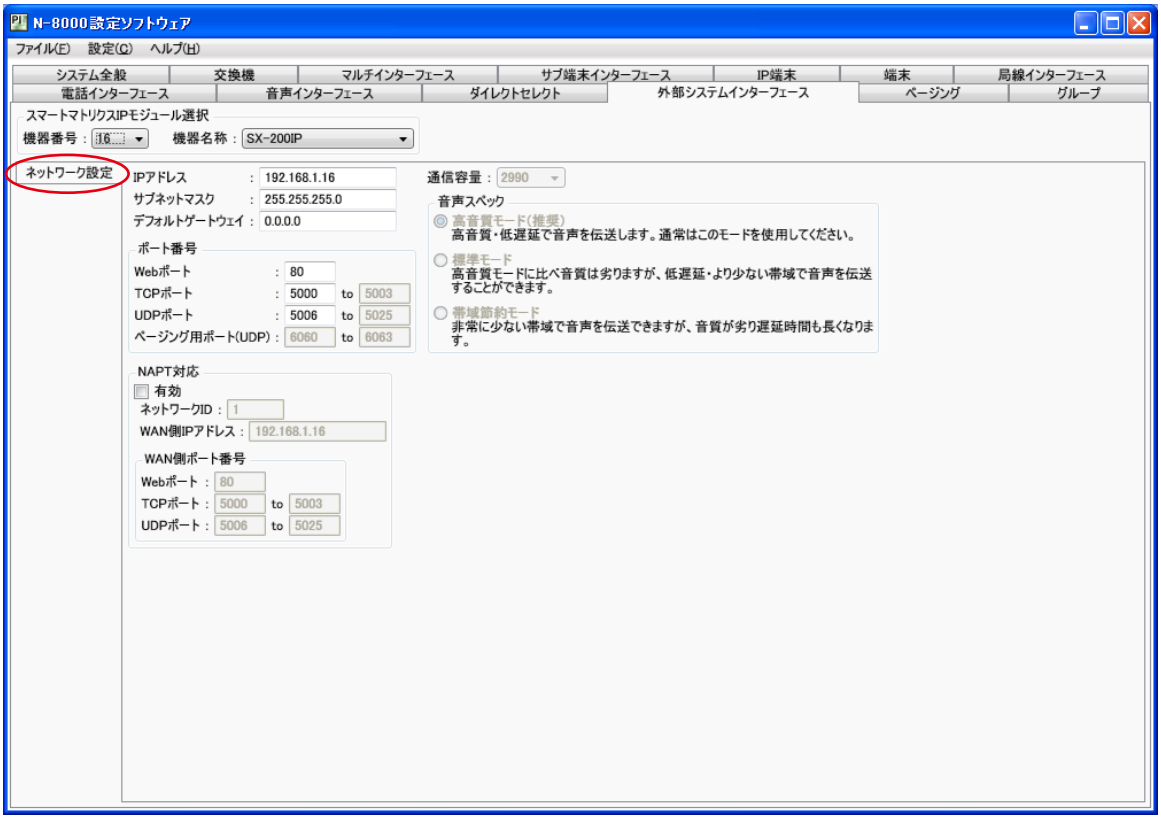
外部システムインターフェースタブをクリックします。

設定するスマートマトリクス IP モジュールを選択します。機器番号または機器名称をリストから選択してください。

● ネットワークの設定

1 ネットワーク設定タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 各項目を設定する。

①IP アドレス
スマートマトリクス IP モジュールの IP アドレスを入力します。

②サブネットマスク
サブネットマスクを入力します。

③デフォルトゲートウェイ
デフォルトゲートウェイを入力します。

④ ポート番号

各プロトコルで使用するポート番号を設定します。

[Web サーバー]
Web サーバーのポート番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65535 です。（工場出荷時：80）

[TCP ポート]
Web サーバー以外の TCP ポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65532 です。N-8000 システムでは、TCP 開始ポートから連続して 4 個のポートを使います。（工場出荷時：5000）

TCP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
Webサーバー	TCP	Webサーバー	80
呼び出し制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 0	5000
PC監視	TCP	開始ポート番号 ＋ 1	5001
PC制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 2	5002
予約	TCP	開始ポート番号 ＋ 3	5003

[UDP ポート]
UDP で使用するポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65516 です。N-8000 システムでは、UDP 開始ポートから連続して 20 個のポートを使います。（工場出荷時：5006）

UDP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
予約	UDP	開始ポート番号 ＋ 0	5006
周波数補正	UDP	開始ポート番号 ＋ 1～3	5007～5009
通話	UDP	開始ポート番号 ＋ 4～19	5010～5025

ご注意
UDP のポート番号 15000 は内部で使用しています。14981 ～ 15000 は入力できません。

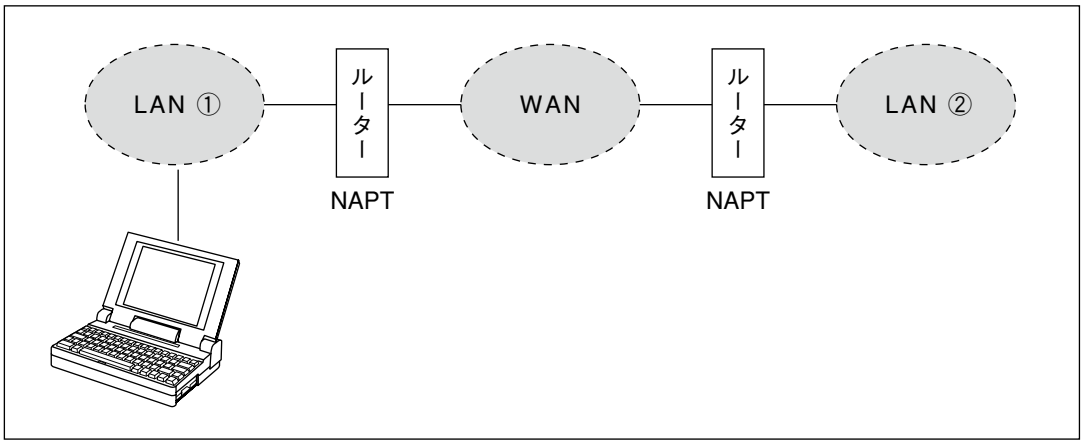
[ページング用ポート（UDP）]
マルチキャストを使用してページングを行う場合に使われるポート番号（UDP）が表示されます。
（設定のしかた ☞ P. 5-123「ページング系統を設定する」）

⑤ NAPT 対応

グローバル IP アドレスを使ってこの交換機に接続する場合は、「有効」にチェックを入れてください。ネットワーク ID ⑥～ WAN 側ポート番号⑧が入力可能になります。

⑥ ネットワーク ID

グローバル IP アドレスを使って接続する場合、ローカルアドレスを使ってアクセスできる範囲ごとにネットワークを識別する番号を入力します。
例えば、下図のようなネットワーク接続をしている場合、LAN ①に接続する機器には 1、LAN ②に接続する機器には 2、のように異なるネットワーク ID をつけます。
設定用のパソコンにはネットワーク ID：1 を割り当てています。パソコンからローカルアドレスを使ってアクセスできる機器（例えば LAN ①に接続する機器）には、ネットワーク ID：1 を設定してください。



⑦ WAN 側 IP アドレス

WAN 側から見たこの IP モジュールの IP アドレスを入力します。

⑧ WAN 側ポート番号

WAN 側から見た各プロトコルで使用するポート番号を設定します。

[Web ポート]
Web サーバーのポート番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65535 です。（工場出荷時：80）

[TCP ポート]
Web サーバー以外の TCP ポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65532 です。N-8000 システムでは、TCP 開始ポートから連続して 4 個のポートを使います。（工場出荷時：5000）

TCP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
Webサーバー	TCP	Webサーバー	80
呼び出し制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 0	5000
PC監視	TCP	開始ポート番号 ＋ 1	5001
PC制御	TCP	開始ポート番号 ＋ 2	5002
予約	TCP	開始ポート番号 ＋ 3	5003

[UDP ポート]
UDP で使用するポートの開始番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65516 です。N-8000 システムでは、UDP 開始ポートから連続して 20 個のポートを使います。（工場出荷時：5006）

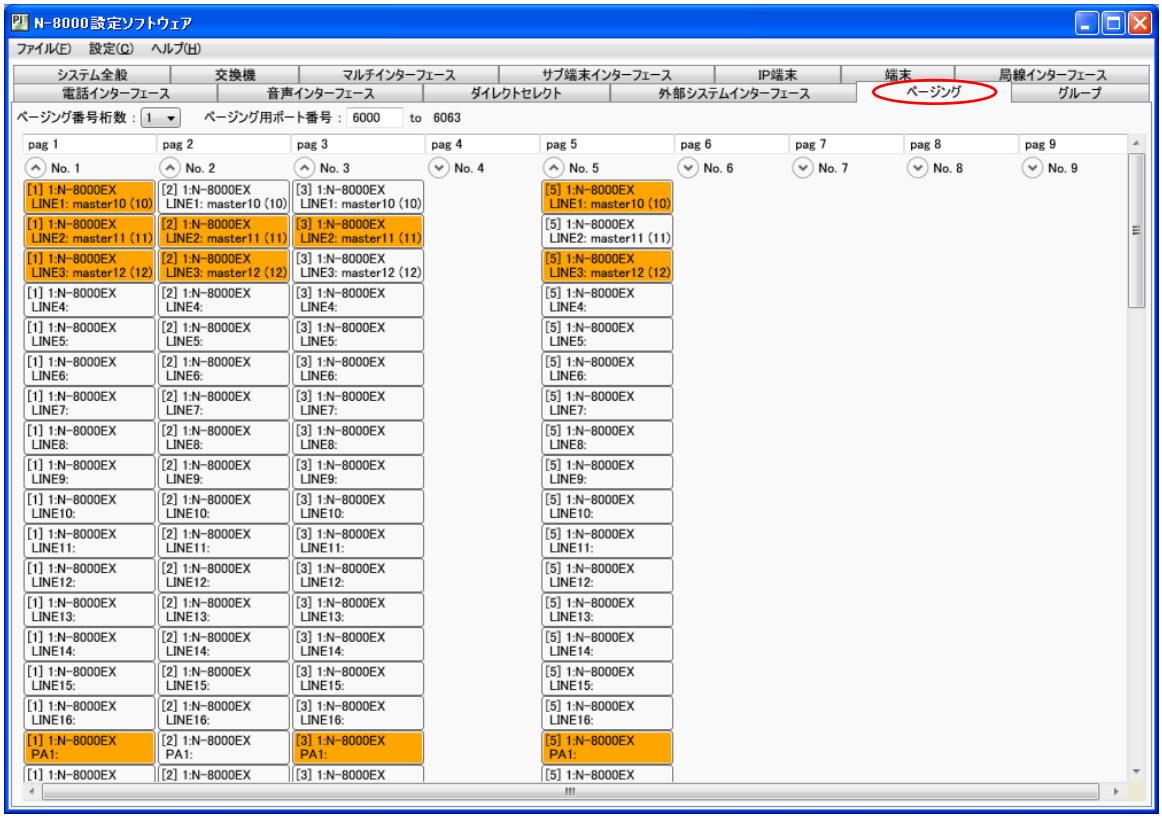
UDP ポートは下記のように割り当てられます。

ポート	プロトコル	ポート番号	初期値
予約	UDP	開始ポート番号 ＋ 0～3	5006～5009
通話	UDP	開始ポート番号 ＋ 4～19	5010～5025

■ ページング系統を設定する

1 ページングタブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 ページング番号桁数を選択する。

ページング番号の桁数を選択してください。
設定した桁数に応じて、系統が自動的に表示されます。（ただし、最大系統数は 192 です。）

3 ページングに使用するポート番号を入力する。

システムで使用するページング用ポート番号の開始番号を入力します。
入力できる範囲は 1 ～ 65535 です。
N-8000 システムでは開始ポートから連続して（交換機台数）×4 個、（各種インターフェースユニット台数）×4 個、および（IP 端末台数）×4 個のポートを使います。

ご注意

P. 5-34、5-42、5-54、5-62、5-89、5-97、5-106、5-121 で設定した［UDP ポート］および内部で使用している 15000 と重ならないようにしてください。

4 系統名を入力する。

系統番号の上のセル（pag 1 ～）をダブルクリックすると、系統名を編集できます。

ご注意

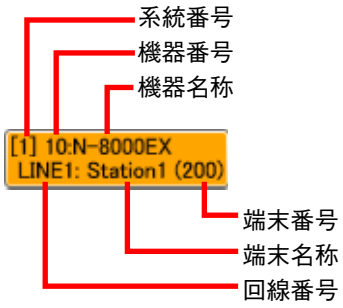
系統名は半角（カタカナ、英数記号）8 文字以内で入力してください。

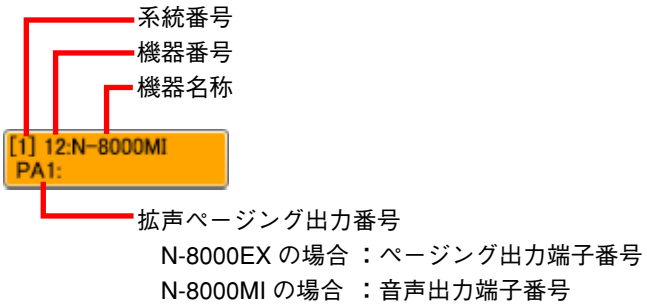
5 各系統に含まれる端末・拡声ページング出力・N-8000MI/8000AF の接点出力を選択する。

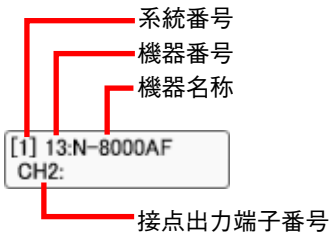
設定したいページング系統の下矢印ボタンを押すと、出力先（端末・拡声ページング出力・N-8000MI/8000AF 接点出力）が個別のボタンとして表示されます。

ボタンをクリックすることで、系統に含めるかどうかを選択できます。
系統に含まれているときは、ボタンの色が橙色になります。

［各ボタンの表示例］







■ グループの設定をする

グループタブをクリックします。

限定局呼び出しグループと代理応答グループの設定ができます。

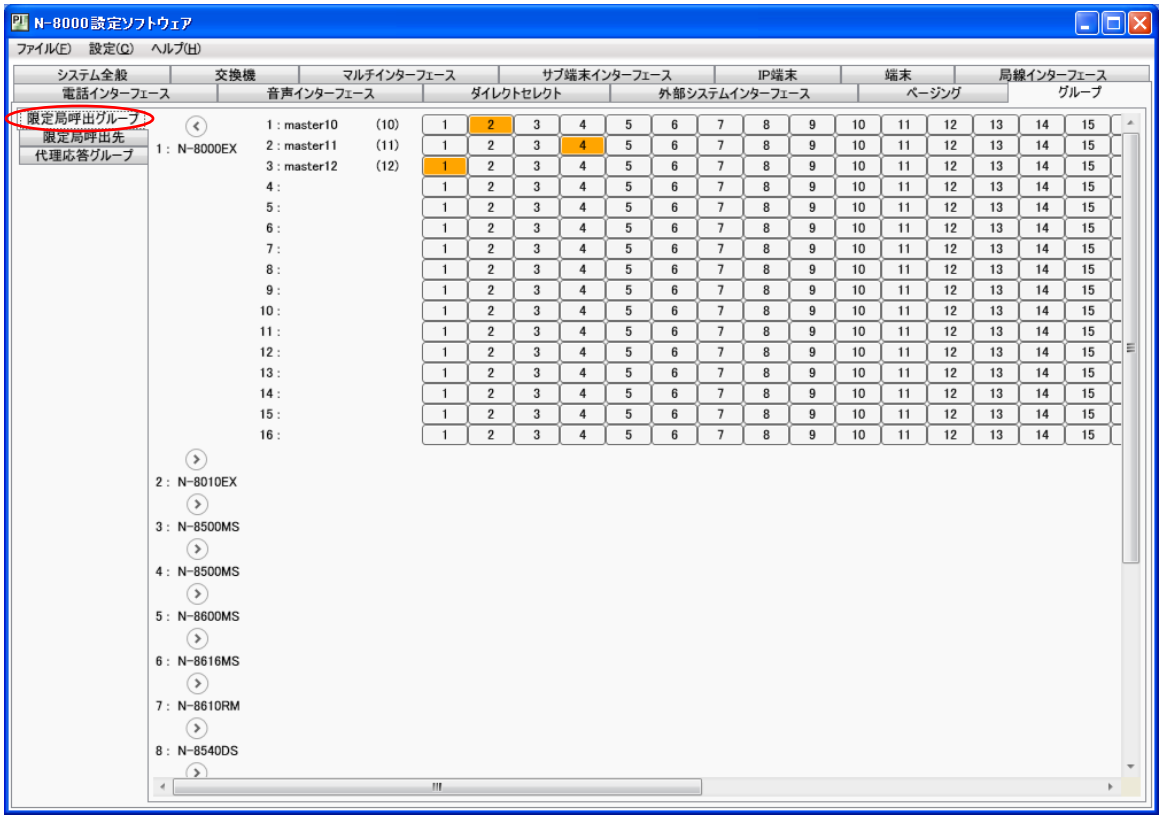
● 限定局呼び出しグループの設定をする

端末をいくつかのグループに分け、グループごとに呼び出し可能なグループとページング系統を設定することができます。
限定局呼び出しグループを設定することにより、1 つのシステムをいくつかに区分して使用することができます。
設定できるグループ数は最大 31 グループです。

［グループの設定のしかた］

1 限定局呼出グループタブをクリックする。

設定画面が表示されます。



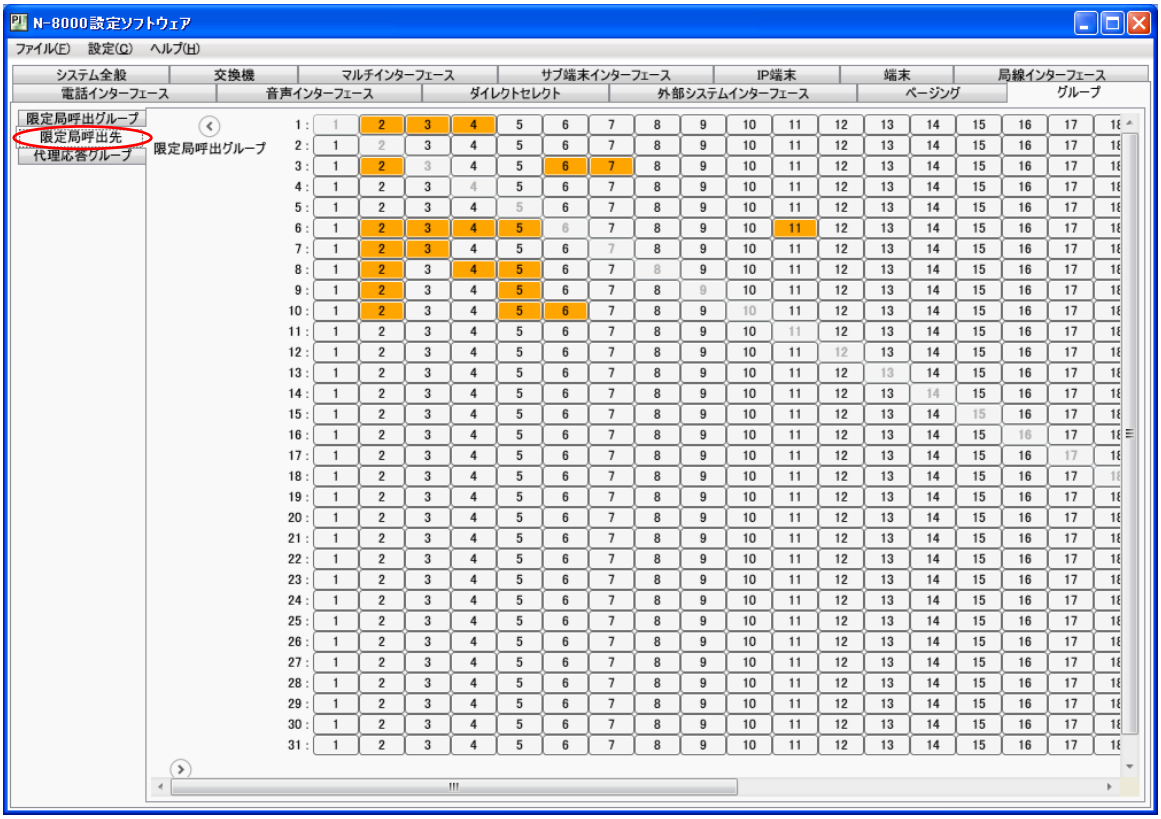
2 各グループに所属する端末を選択する。

設定したいページング系統の右矢印ボタンを押すと、グループのボタンが機器別に表示されます。
ボタンをクリックすることで、グループに含めるかどうかを選択できます。グループに含まれているときは、ボタンの色が橙色になります。

［呼び出し先の設定のしかた］

1 限定局呼出先タブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 各グループが呼び出し可能なグループ、ページング系統をクリックして選択する。

各グループが呼び出し可能なグループを設定する場合は「限定局呼び出しグループ」の右矢印ボタンを、ページング系統を設定する場合は「ページング」の右矢印ボタンを押すと、限定局呼び出しグループあるいはページング系統ごとに、グループのボタンが表示されます。

ボタンをクリックすることで、呼び出し可能かどうかを選択できます。
呼び出し可能なグループは、ボタンの色が橙色になります。

ご注意

呼び出し可能なページング系統は、一斉および個別の系統番号から選択します。
一斉ページングをできるようにしたいときは「一斉」を選択してください。
すべての系統番号を選択しても、「一斉」を選択していないと一斉ページングはできません。

● 代理応答グループの設定をする

代理応答グループを設定すると、グループ内の端末への呼び出しに代理で応答、通話することができます。
代理応答グループに登録できる端末数は最大 16 台です。また、着信優先モードの時のみ有効です。

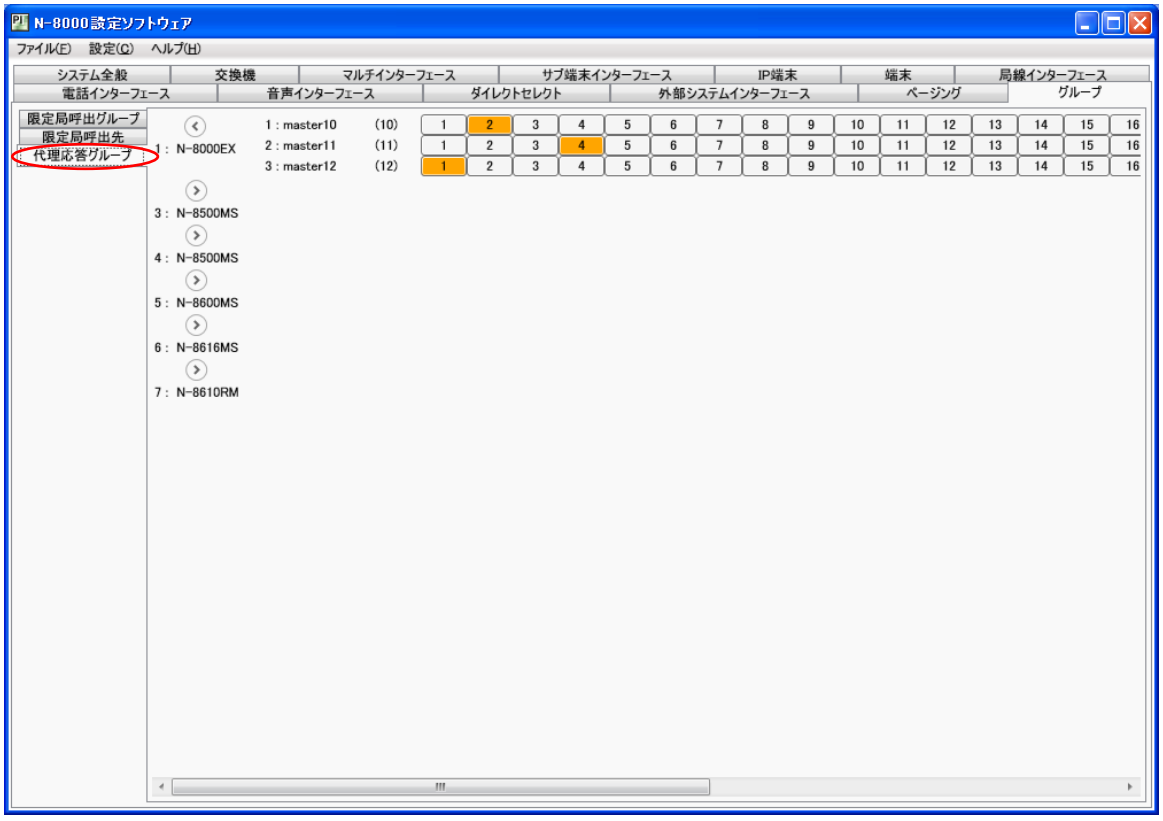
ご注意

N-8010EX に接続されている端末を代理応答グループに登録することはできません。

［代理応答グループを新規に作成する］

1 代理応答グループタブをクリックする。

設定画面が表示されます。



2 グループに所属する端末をリストから選択する。

設定したい機器の右矢印ボタンを押すと、端末別のグループのボタンが表示されます。
ボタンをクリックすることで、グループに含めるかどうかを選択できます。
グループに所属しているときは、ボタンの色が橙色になります。

ご注意

1 つのグループには 16 端末まで所属できます。
1 つの端末が複数のグループに所属することはできません。

設定が終わったら

■ 設定内容をファイルに保存する

設定内容を規定の場所（☞ P. 5-14）に保存します。

メニューバーから［ファイル→保存］を選択する。

■ 設定内容をアップロードする

現在編集中の設定内容を機器へアップロードします。
アップロードする前に、必ず前項の方法で、設定ファイルを保存してください。

メニューバーから［設定→アップロード］を選択する。

■ 設定内容をダウンロードする

現在接続されている機器の設定内容を、N-8000 設定ソフトウェアに読み込みます。

メニューバーから［設定→ダウンロード］を選択する。
システムに登録されている機器の設定情報がシステム設定画面に表示されます。

■ 設定内容を印刷する

現在編集中の設定内容を印刷できます。

メニューバーから［ファイル→印刷］を選択する。

システムに登録されている機器の設定情報が印刷されます。

● 印刷例

TOA パケットインターカム N-8000シリーズ 設定データ　　*システム名称:N-8000*

[システム全般]

機器登録

種類	機器番号	機器名称	機種名	IPアドレス	Webポート	WAN側IPアドレス	WAN側Webポート
EX	1	EX1	N-8000EX	192.168.1.1	80		
EX	2	EX2	N-8000EX	192.168.1.2	80		
EX	3	EX3	N-8000EX	192.168.1.3	80		
IP	4	IPM1	N-8500MS	192.168.1.4	80		
IP	5	IPD1	N-8540DS	192.168.1.5	80		
MI	6	MI	N-8000MI	192.168.1.6	80		

端末一覧

端末番号桁数: 3

機器番号	機器名称	回線番号	種類	端末番号	端末名称
1	EX1	1	N-8000MS	100	sta1-1
1	EX1	2	N-8000MS	101	sta1-2
1	EX1	3	N-8000MS	102	sta1-3
1	EX1	4	N-8000MS	103	sta1-4
1	EX1	5	N-8000MS	104	sta1-5
1	EX1	6	N-8000MS	105	sta1-6
1	EX1	7	N-8000MS	106	sta1-7
1	EX1	8	N-8000MS	107	sta1-8
1	EX1	9	N-8000MS	108	sta1-9
1	EX1	10	N-8000MS	109	sta1-10
1	EX1	11	N-8000MS	110	sta1-11
1	EX1	12	N-8000MS	111	sta1-12
1	EX1	13	N-8000MS	112	sta1-13
1	EX1	14	N-8000MS	113	sta1-14
1	EX1	15	N-8000MS	114	sta1-15
1	EX1	16	N-8000MS	115	sta1-16
2	EX2	1	N-8000MS	116	sta2-1
2	EX2	2	N-8000MS	117	sta2-2
2	EX2	3	N-8000MS	118	sta2-3
2	EX2	4	N-8000MS	119	sta2-4
2	EX2	5	N-8000MS	120	sta2-5
2	EX2	6	N-8000MS	121	sta2-6
2	EX2	7	N-8000MS	122	sta2-7
2	EX2	8	N-8000MS	123	sta2-8
2	EX2	9	N-8000MS	124	sta2-9
2	EX2	10	N-8000MS	125	sta2-10
2	EX2	11	N-8000MS	126	sta2-11
2	EX2	12	N-8000MS	127	sta2-12
2	EX2	13	N-8000MS	128	sta2-13
2	EX2	14	N-8000MS	129	sta2-14
2	EX2	15	N-8000MS	130	sta2-15
2	EX2	16	N-8000MS	131	sta2-16
3	EX3	1	N-8000MS	132	sta3-1
3	EX3	2	N-8000MS	133	sta3-2
3	EX3	3	N-8000MS	134	sta3-3
3	EX3	4	N-8000MS	135	sta3-4
3	EX3	5	N-8000MS	136	sta3-5
3	EX3	6	N-8000MS	137	sta3-6
3	EX3	7	N-8000MS	138	sta3-7
3	EX3	8	N-8000MS	139	sta3-8
3	EX3	9	N-8000MS	140	sta3-9
3	EX3	10	N-8000MS	141	sta3-10
3	EX3	11	N-8000MS	142	sta3-11
3	EX3	12	N-8000MS	143	sta3-12
3	EX3	13	N-8000MS	144	sta3-13
3	EX3	14	N-8000MS	145	sta3-14
3	EX3	15	N-8000MS	146	sta3-15
3	EX3	16	N-8000MS	147	sta3-16
4	IPM1	1	N-8500MS	148	IPM1
5	IPD1	1	N-8540DS	149	IPD1

- 1 -

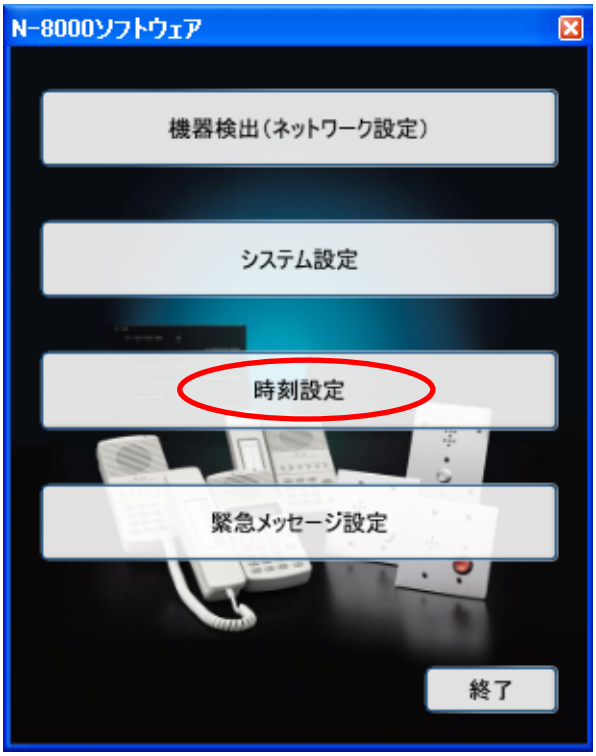
システム時刻を設定する

N-8000 設定ソフトウェアからシステムに接続するすべての交換機、各種インターフェースユニット、および IP 端末の時刻設定ができます。
システムに接続する機器間で時差がある場合など、個別に時刻設定を行う場合にはブラウザーから（P. 6-51）、または多機能マスター端末 N-8000MS、IP 多機能マスター端末 N-8500MS/8600MS から（P. 7-10）時刻設定を行ってください。

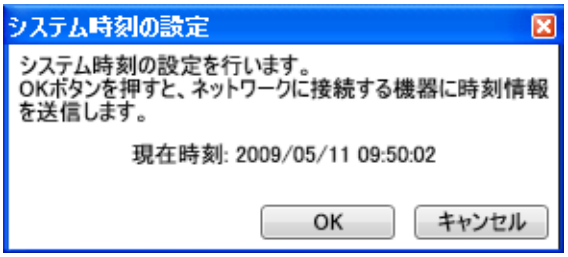
ご注意

以下の操作でシステム時刻をパソコンの時刻に合わせます。あらかじめパソコンの時刻が合っていることを確認してください。

1 初期画面で「時刻設定」をクリックする。



時刻設定のダイアログが表示され、パソコンの現在時刻が表示されます。



2 時刻を設定する場合は［OK］ボタンを押す。

システム時刻がパソコンの時刻に合わせられ、ネットワークに接続された機器にシステム時刻情報が送信されます。

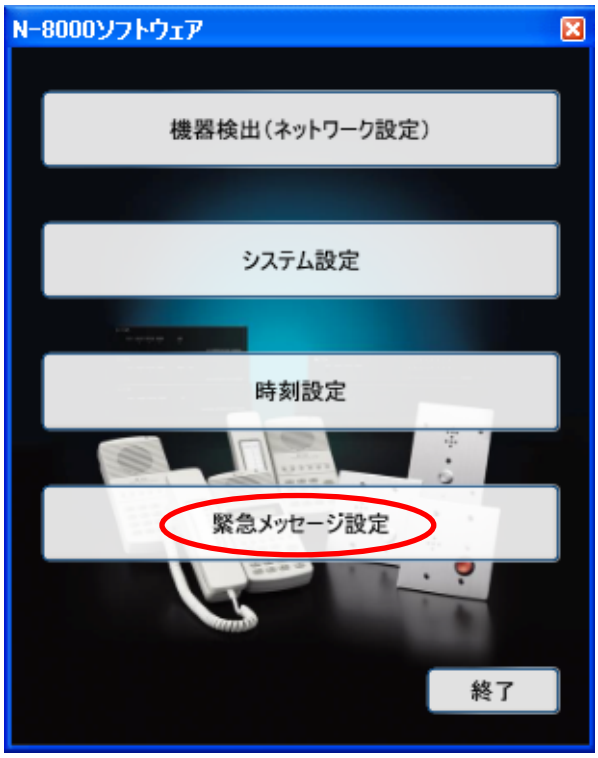
緊急メッセージの設定をする

IP マスター端末および IP リモートマイク端末の緊急メッセージ放送に使用するメッセージの作成・設定を行います。

■ 設定画面を表示させる

初期画面で「緊急メッセージ設定」をクリックすると、緊急メッセージ設定画面が表示されます。

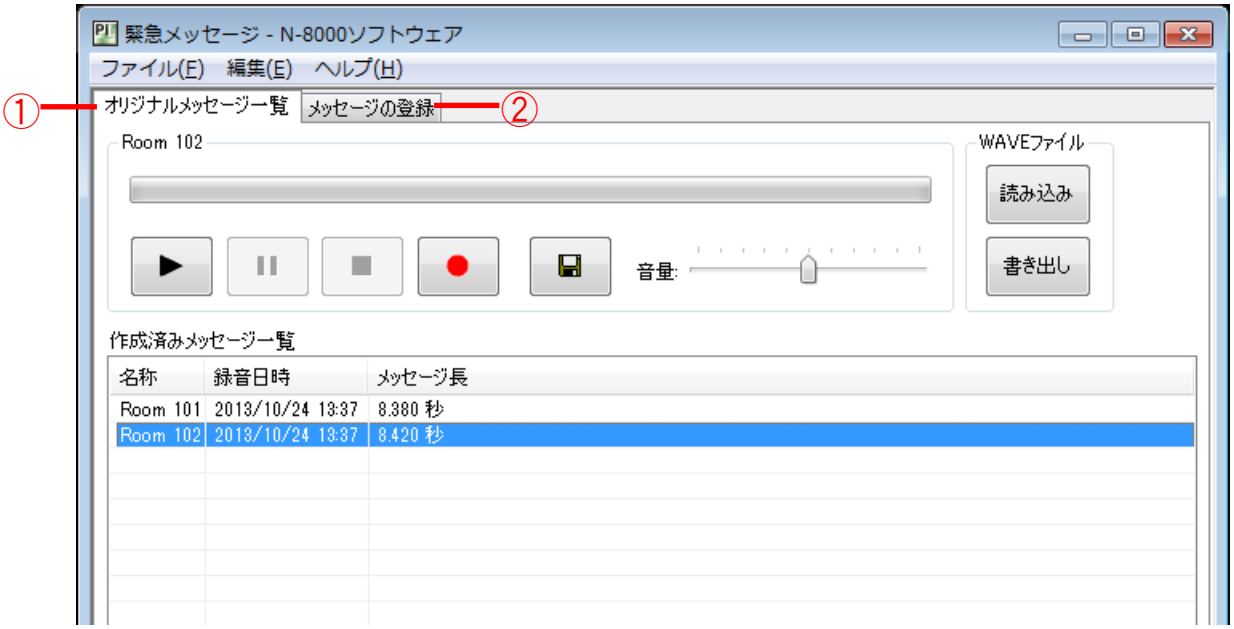
［初期画面］



① オリジナルメッセージ一覧
パソコン上にあるオリジナルメッセージの一覧を表示します。
新規にメッセージを作成したり、既存のメッセージの音量を調節したりできます。

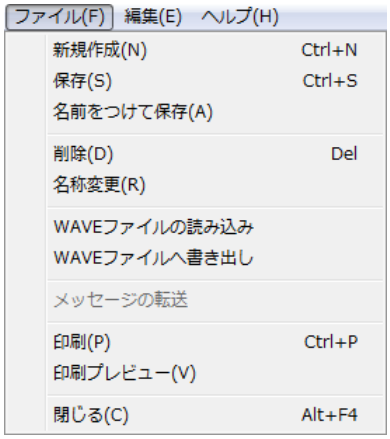
② メッセージの登録
IP マスター端末および IP リモートマイク端末へのメッセージ登録内容を表示します。
システムで使用するサイレン音を選択できます。
作成したメッセージや、標準メッセージの内容を確認することができます。

［緊急メッセージ設定画面］



■ メニュー

● ファイル

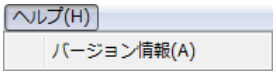


新規作成　　：新しいメッセージを作成します。
保存　　：メッセージを保存します。
名前をつけて保存　　：メッセージに名前をつけて保存します。
削除　　：メッセージを削除します。
名称変更　　：メッセージの名称を変更します。
WAVE ファイルの読み込み：WAVE 形式のファイルを緊急メッセージ用の形式に変換し、オリジナルメッセージを作成します。
WAVE ファイルへ書き出し：緊急メッセージ用の形式のファイルを WAVE 形式に変換し、ファイルに保存します。
メッセージの転送　　：パソコンに保存されているメッセージを IP マスター端末および IP リモートマイク端末へ転送します。
印刷　　：オリジナルメッセージの一覧およびメッセージの登録内容を印刷します。
印刷プレビュー　　：印刷プレビュー画面を表示します。
閉じる　　：緊急メッセージ設定画面を閉じます。

● 編集

再生　　：録音されたメッセージを再生します。
一時停止：メッセージの録音、再生などの動作を一時停止します。
停止　　：メッセージの録音、再生などの動作を停止します。
録音　　：メッセージの録音を開始します。

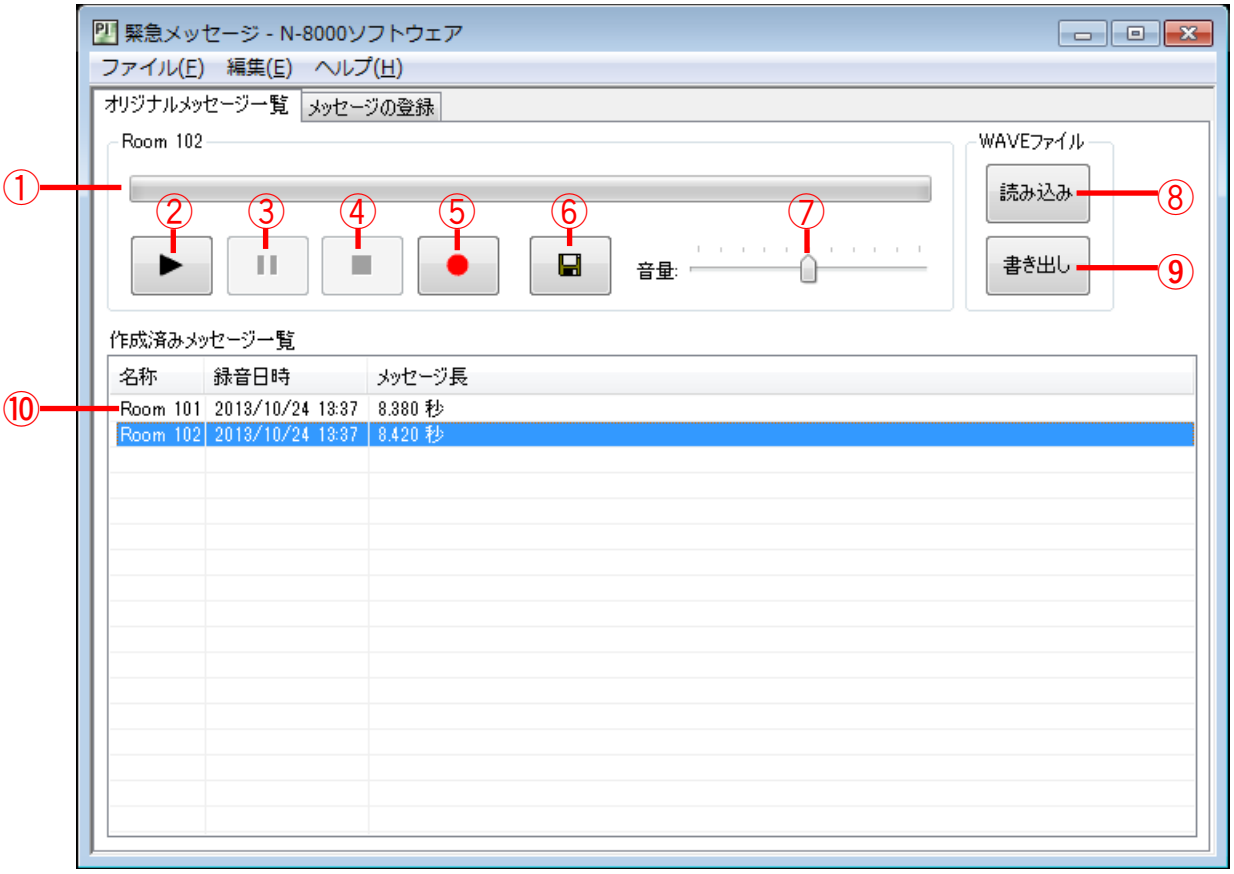
● ヘルプ



バージョン情報：このソフトウェアのバージョン情報を表示します。

■ オリジナルメッセージを作成・試聴する

緊急メッセージ設定画面で「オリジナルメッセージ一覧」タブをクリックします。
作成済みのオリジナルメッセージの一覧が表示されます。



● 画面の説明

①位置表示
録音または再生中の位置をバーグラフで表示します。

②再生ボタン
選択したメッセージ、または録音したメッセージ（未保存）を再生します。

③一時停止ボタン
メッセージの録音や、選択したメッセージまたは録音したメッセージの再生を一時停止します。

④停止ボタン
メッセージの録音・再生を停止します。

⑤録音ボタン
メッセージの録音を開始します。

⑥保存ボタン
録音したメッセージを保存します。

⑦音量つまみ
メッセージの音量を調節します。
つまみが中央の位置にあるのが標準レベルです。左に動かすと小さくなり、右に動かすと大きくなります。
標準レベルからどちらかへ動かして保存ボタンを押すと、動かした値を標準レベルに変更してメッセージを保存します。

ご注意
音量を最小にして保存すると、その後読み込んで再度大きくして保存しても、元には戻りません。

⑧読み込みボタン
WAVE 形式のファイルを緊急メッセージ用の形式に変換し、オリジナルメッセージを作成します。

⑨書き出しボタン
選択したメッセージを WAVE 形式に変換し、ファイルに保存します。

⑩ 作成済みメッセージ一覧
保存したメッセージの名称、録音日時、メッセージ長を表示します。

N-8000 設定ソフトウェアをデータフォルダー内の「(システム名) ￥Message」フォルダーに保存されているファイルがここに表示されます。

● 新しいメッセージを作成する

録音したい入力ソース（マイク、外部再生機器など）をパソコンに接続しておきます。
録音時の音量はパソコンの入力音量設定に従います。適切な音量に設定しておいてください。

1 メニューバーから［ファイル→新規作成］を選択する。
新しいメッセージを作成できる状態になります。

※ ソフトウェア起動時は、すでにこの状態になっています。

2 録音ボタンを押す、またはメニューバーから［編集→録音］を選択し、メッセージの録音を開始する。
マイクに向かって話す、または入力機器を再生します。
最大 20 秒のメッセージを録音することができます。
20 秒経つと、自動的に録音が停止します。
途中で録音を中止する場合は、停止ボタンを押す、またはメニューバーから［編集→停止］を選択します。

3 再生ボタンを押す、またはメニューバーから［編集→再生］を選択し、録音内容を確認する。

4 保存ボタンを押す、またはメニューバーから［ファイル→保存］を選択する。
メッセージ名を入力するダイアログが表示されます。

5 メッセージ名を入力し、OK ボタンを押す。
メッセージ名は半角 128 文字または全角 64 文字以内で入力してください。
保存が完了すると、N-8000 設定ソフトウェアをデータフォルダー内の「(システム名) ￥Message」フォルダーに、そのメッセージのファイルが作成されます。

● 作成済みメッセージを削除する

1 作成済みメッセージ一覧でメッセージを選択する。

2 メニューバーから［ファイル→削除］を選択する、またはパソコンの Delete キーを押す。
選択したメッセージが削除されます。

● 作成済みメッセージの名称を変更する

1 作成済みメッセージ一覧でメッセージを選択する。

2 メニューバーから［ファイル→名称変更］を選択する、または選択したメッセージをもう一度クリックする。

名称が変更できる状態になります。

3 新しい名称を入力する。

メッセージ名は半角 128 文字または全角 64 文字以内で入力してください。

● WAVE 形式のファイルからメッセージを作成する

WAVE 形式のファイルを緊急メッセージ用の形式のファイルに変換し、オリジナルメッセージとして保存することができます。

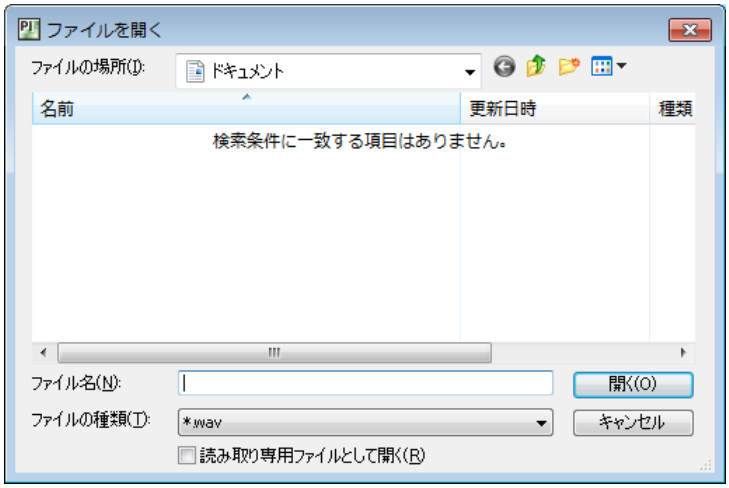
ご注意

対応している WAVE 形式のファイルフォーマットは次のとおりです。

- 16 bit、16 kHz サンプリング
- モノラル

1 読み込みボタンを押す、またはメニューバーから［ファイル→ WAVE ファイルの読み込み］を選択する。

WAVE ファイルを選択するダイアログが表示されます。



2 ファイルを選択し、開くボタンを押す。

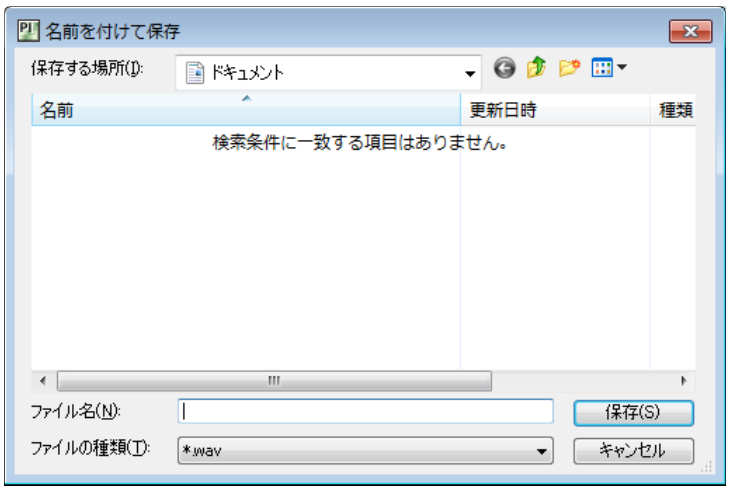
緊急メッセージ用の形式に変換し、作成済みのオリジナルメッセージとして保存されます。
変換が完了すると、N-8000 設定ソフトウェアをデータフォルダー内の「(システム名称) ¥Message」フォルダーに、そのメッセージのファイルが作成されます。

● オリジナルメッセージから WAVE 形式のファイルを作成する

オリジナルメッセージとして登録されたファイルから、WAVE 形式のファイルを作成することができます。

1 **作成済みメッセージ一覧でメッセージを選択し、書き出しボタンを押す、またはメニューバーから［編集→ WAVE ファイルへの書き出し］を選択する。**

ファイルを保存するダイアログが表示されます。



2 **保存するファイル名を入力し、保存先を選択して、保存ボタンを押す。**

WAVE 形式のファイルが作成され、保存されます。
WAVE 形式のファイルフォーマットは次のとおりです。

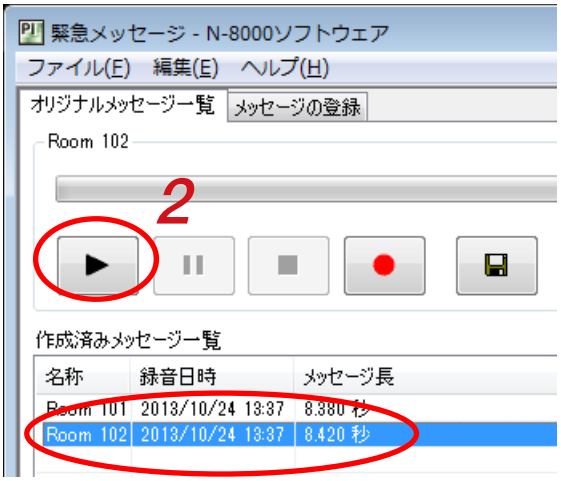
- 16 bit、16 kHz サンプリング
- モノラル

● メッセージを試聴する

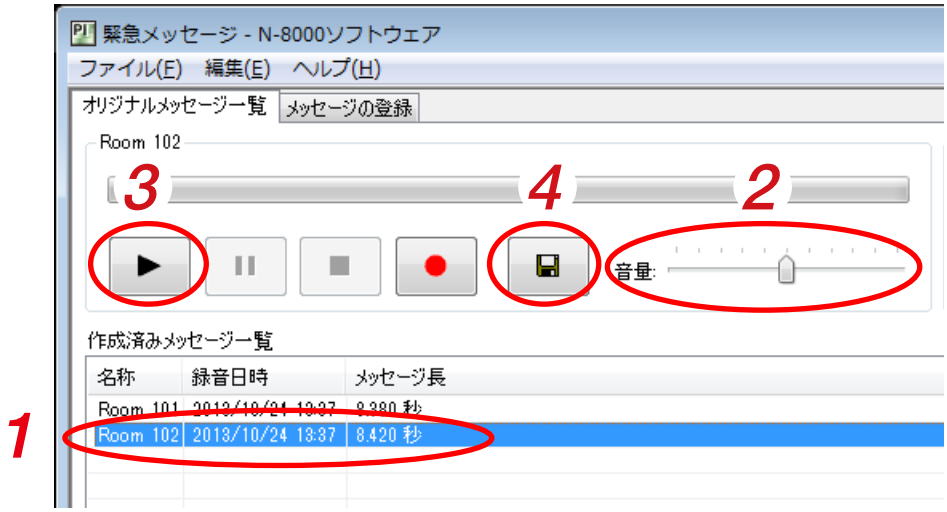
1 **作成済みメッセージの一覧から、試聴したいメッセージを選択する。**

2 **再生ボタンを押す､またはメニューバーから［編集→再生］を選択する。**

最後まで再生すると自動的に停止します。
途中で停止する場合は、停止ボタンを押す、またはメニューバーから［編集→停止］を選択します。



● 音量を調節する



1 作成済みメッセージの一覧から、音量を調節したいメッセージを選択する。

2 音量調節つまみを動かして、音量を調節する。

3 再生ボタンを押す、またはメニューバーから［編集→再生］を選択し、音量を確認する。

4 保存ボタンを押す、またはメニューバーから［ファイル→保存］を選択する。

ご注意

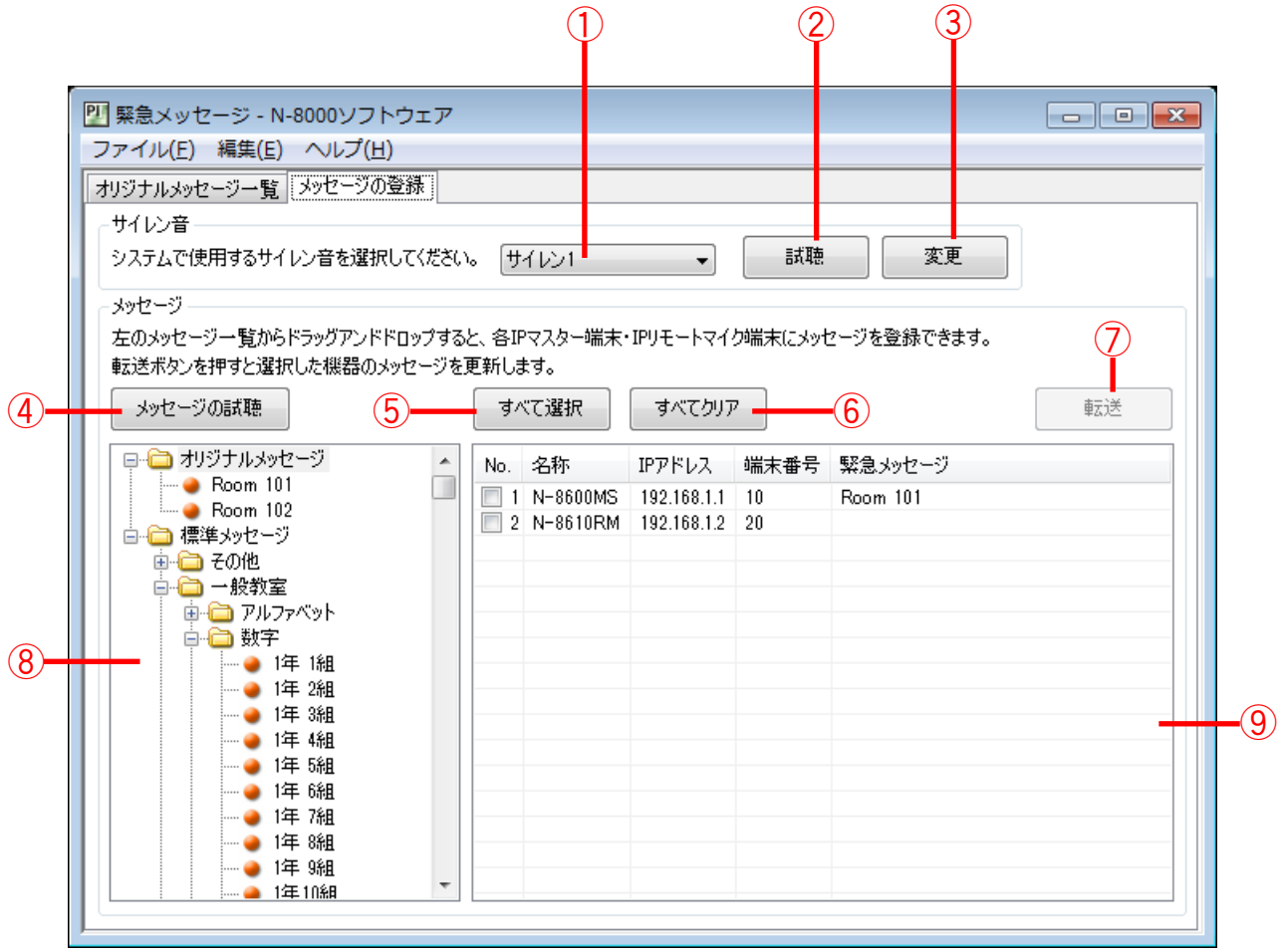
- 音量を変更した後、保存しないと、音量情報は更新されません。
- 音量を最小にして保存すると、その後読み込んで再度大きくして保存しても、元には戻りません。

メ　モ

音量を変更して保存すると、次の再生時からは、保存した音量が音量調節領域の中央の値（標準レベル）になります。

■ IP マスター端末および IP リモートマイク端末にメッセージを登録する

緊急メッセージ設定画面で「メッセージの登録」タブをクリックします。



● 画面の説明

① サイレン音選択
N-8000 設定ソフトウェア起動時は、現在設定されているサイレン音が表示されます。
試聴または変更したいときは、プルダウンメニューからサイレン音を選択します。

② 試聴ボタン
選択したサイレン音を試聴します。

③ 変更ボタン
変更したサイレン音がすべての IP マスター端末および IP リモートマイク端末に転送されます。

④ メッセージの試聴ボタン
選択したメッセージを試聴します。

⑤ すべて選択ボタン
すべての端末を選択します。

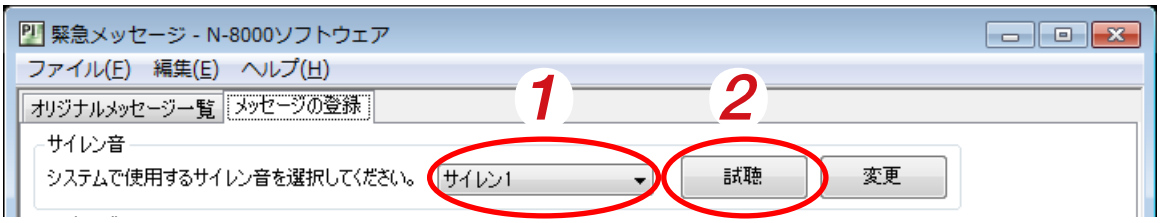
⑥ すべてクリアボタン
端末の選択をすべて解除します。

⑦ 転送ボタン
選択したメッセージを IP マスター端末および IP リモートマイク端末に転送します。

⑧ メッセージ一覧
N-8000 設定ソフトウェアがインストールされているフォルダーおよびデータフォルダー内に保存されているメッセージ（標準メッセージおよびオリジナルメッセージ）が表示されます。

⑨ 端末一覧
システム内の IP マスター端末、IP リモートマイク端末およびその端末に転送する緊急メッセージを表示します。
チェックボックスをクリックして端末を選択します。

● サイレン音を試聴する



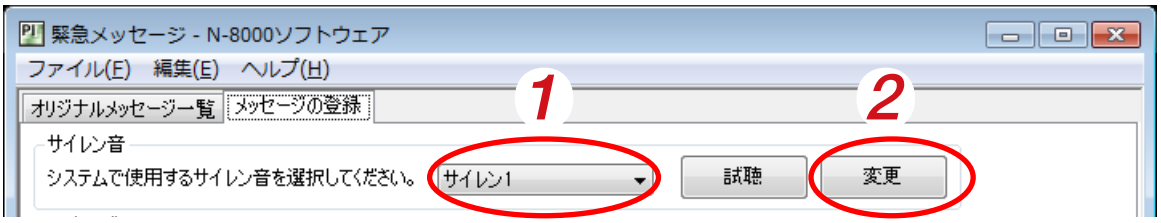
1 プルダウンメニューから、試聴したいサイレン音を選択する。

2 試聴ボタンを押す。

選択したサイレン音が再生されます。最後まで再生すると自動的に停止します。

※ パソコンで試聴するサイレン音は「これはサンプル音源です。」というアナウンスが重なって再生されます。

● IP マスター端末および IP リモートマイク端末にサイレン音を転送する



1 プルダウンメニューから、変更したいサイレン音を選択する。

2 変更ボタンを押す。

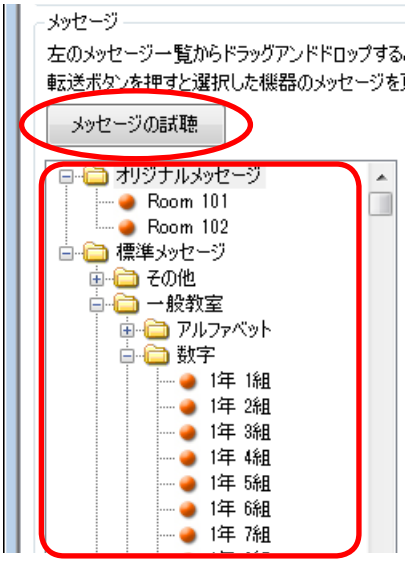
選択したサイレン音がシステム内のすべての IP マスター端末および IP リモートマイク端末に転送されます。

● メッセージを試聴する

1 メッセージ一覧から、試聴したいメッセージを選択する。

2 [メッセージの試聴] ボタンを押す。

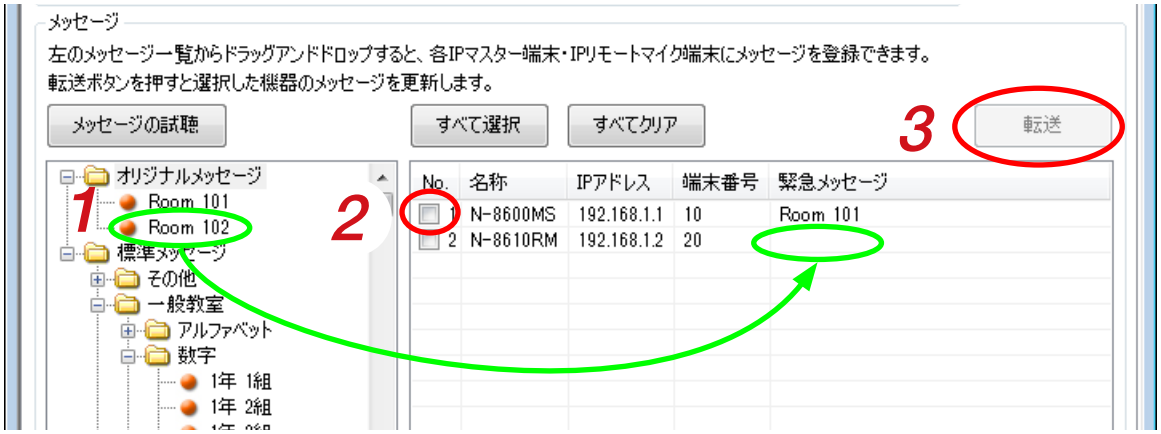
選択したメッセージが再生されます。最後まで再生すると自動的に停止します。



● パソコンから IP マスター端末および IP リモートマイク端末にメッセージを登録する

1 IP マスター端末または IP リモートマイク端末に転送するメッセージを指定する。

メッセージ一覧から端末一覧へドラッグアンドドロップすることで、転送するメッセージを指定することができます。
登録したいメッセージを選択してドラッグし、メッセージを転送したい IP マスター端末または IP リモートマイク端末の上でドロップします。
メッセージを転送したい IP マスター端末および IP リモートマイク端末すべてについて、この作業を繰り返します。



2 転送したい IP マスター端末および IP リモートマイク端末にチェックを入れる。

チェックを外したいときは、もう一度チェックボックスをクリックします。

メ　モ

- ［すべて選択］ボタンを押すと、一覧に表示されているすべての IP マスター端末および IP リモートマイク端末にチェックを入れることができます。
- ［すべてクリア］ボタンを押すと、一覧に表示されているすべての IP マスター端末および IP リモートマイク端末のチェックを外すことができます。

3 転送ボタンを押す、またはメニューバーから［ファイル→メッセージの転送］を選択する。

パソコンから、チェックを入れた IP マスター端末および IP リモートマイク端末へメッセージのデータが転送され、端末にメッセージが登録されます。

第 6 章

ブラウザーによるシステム設定

この章では、ブラウザーで行う、ネットワークの設定のしかた、保守機能の操作のしかたについて説明します。

ブラウザーでの設定について

システムを管理するパソコンからブロードキャストが伝送できない範囲にあるシステム内のすべての交換機、各種インターフェースユニットまたは IP 端末の場合は、別のパソコンを使ってその機器と通信できる状態にすることにより、ブラウザー*からその機器に接続し、ネットワーク設定を書き換えたり、保守機能の操作をしたリできます。

* 動作確認済みのブラウザー：Internet Explorer 6
Internet Explorer 7
Internet Explorer 8
Internet Explorer 11（Ver. 11.0.10240.16384）
Microsoft Edge（Ver. 20.10240.16384.0）
Firefox（Ver. 53.0.2）
Google Chrome（Ver. 58.0.3029.110）

ご注意

- ブラウザーですべての設定を行うことはできません。ネットワーク設定を書き換えた後は、システムを管理するパソコンで、N-8000 ソフトウェアを使って手動でその機器を追加し、必要な設定を行ってください。（☞ P. 4-3、P. 5-22）
- 工場出荷時は IP アドレスが重複していたり、パソコンと交換機、各種インターフェースユニット、または IP 端末が同一ネットワークではない設定になっていることがあります。ブラウザーでネットワーク設定をする場合は、同一ネットワーク内に交換機、各種インターフェースユニット、または IP 端末を 1 台だけ接続するか、設定するパソコンと設定する機器をネットワークから切り離し、クロスケーブルで直接接続して設定をしてください。
- 設定変更中に電源が切れると、故障の原因となります。
- 設定の変更は、設定した機器の再起動後に反映されます。設定を変更したら必ず再起動してください。再起動時は、通話および呼び出し放送が停止されます。

メニュー項目

メニュー		
	ネットワーク設定（☞ P. 6-5）	パソコンに接続しているシステム内のすべての交換機、各種インターフェースユニット、または IP 端末の IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを変更します。
	使用状態（☞ P. 6-7）	通話路（リンク）、回線、接点、コールインなどの使用状態を表示します。
	回線状態（☞ P. 6-32）	交換機、サブ端末接続ユニットのみの設定です。回線の状態を表示します。
	ネットワーク状態（☞ P. 6-38）	システム内のすべての交換機、各種インターフェースユニット、または IP 端末との接続状態を表示します。
	動作ログ（☞ P. 6-40）	システム内のすべての交換機、各種インターフェースユニット、または IP 端末の動作履歴を表示します。
	ストリームログ（☞ P. 6-42）	IP ネットワークによる音声通信の履歴を表示します。
	システム管理（☞ P. 6-45）	パスワードの変更、設定ファイルのアップロード、ダウンロードなどを行います。 ※ このシステム管理メニューは、付属の N-8000 ソフトウェアを使ってシステム設定および機能設定が完了している交換機、各種インターフェースユニット、または IP 端末の保守用に使用します。

メニュー画面を表示させる

ご注意

パソコンとシステム内のすべての交換機、各種インターフェースユニット、および IP 端末が通信できるように、パソコンのネットワーク設定をあらかじめ行ってください。
パソコンのネットワーク設定を適切に行わないと、ユーザー認証画面が表示できません。

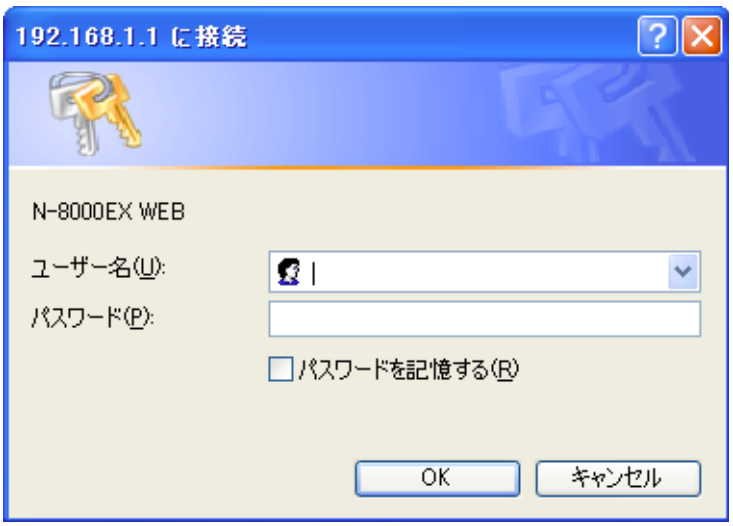
1 ブラウザーを起動して URL を入力する。

※ システム内のすべての交換機、各種インターフェースユニット、および IP 端末の工場出荷時の IP アドレスは「192.168.1.1」、Web サーバーポート番号は「80」です。Web サーバーポート番号が「80」のときは、「:」以下のポート番号の記述を省略できます。

URL	例
http://〈IP アドレス〉:〈Web サーバーポート番号〉/index-j.htm	http://192.168.1.1/index-j.htm

ユーザー認証画面が表示されます。

※ 下の画面は N-8000EX の例です。
※ 使用するブラウザーによって、表示される画面は異なります。



2 ユーザー名とパスワードを入力し、［OK］ボタンを押す。

※ ユーザー名には、システム内のすべての交換機、各種インターフェースユニットに設定されているシステム名を入力します。
※ ユーザー名、パスワードは大文字、小文字を区別します。

工場出荷時は、**システム名：N-8000**、**パスワード：guest** になっています。システム名とパスワードの変更は P. 6-47 をお読みください。

ユーザー名とパスワードが正しく入力されると、設定メニュー画面が表示されます。

※ 下の画面は N-8000EX の例です。

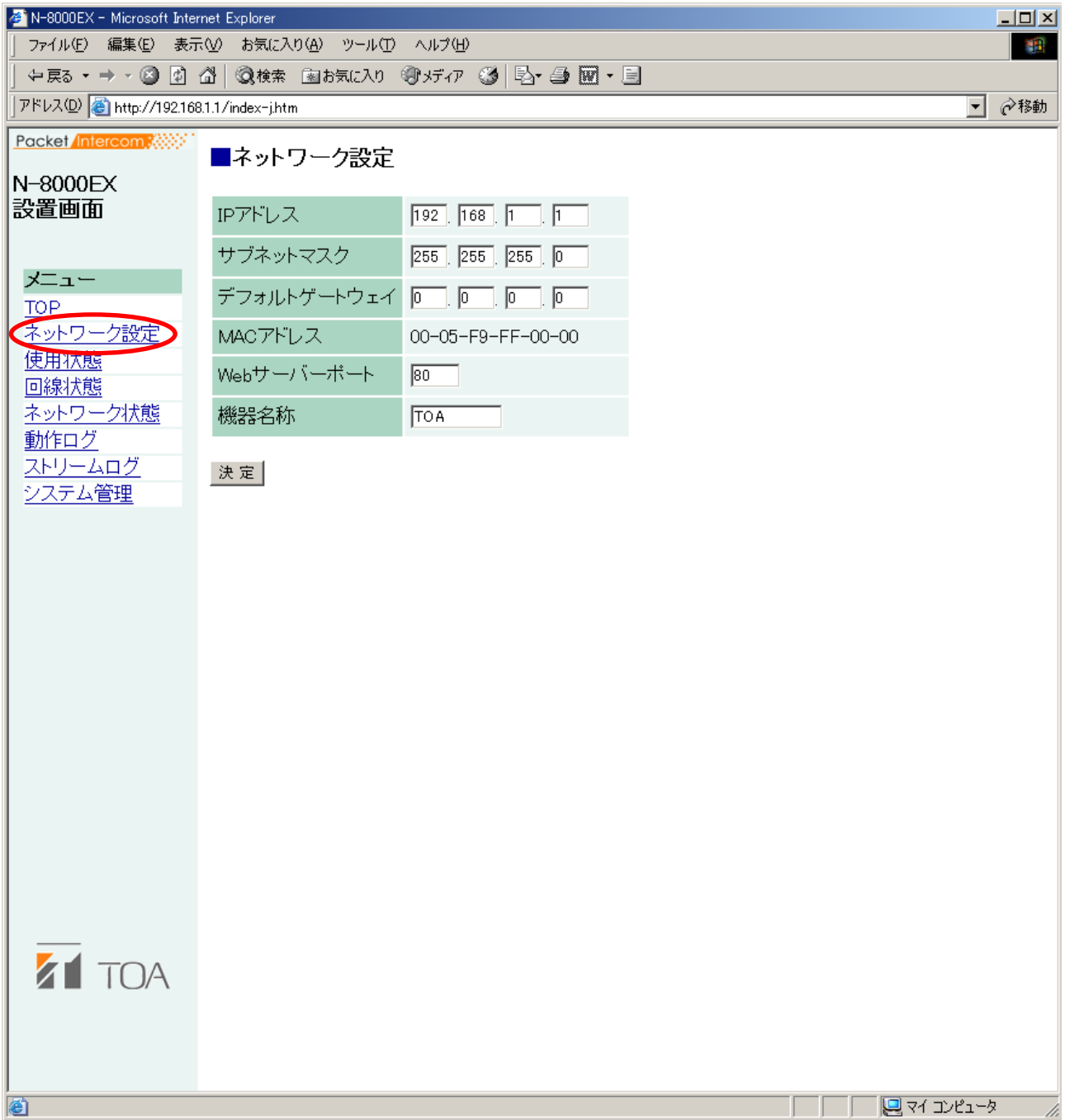
ご注意

ブラウザーの各設定画面を表示するときに、ブラウザーの「戻る」「進む」ボタンを使用すると、正しく表示されません。画面左側のメニューを使用してください。

ネットワーク設定

画面左側のメニューから「ネットワーク設定」をクリックします。

※ 下の画面は N-8000EX の例です。



①IP アドレス

この機器（パソコンに接続しているシステム内のすべての交換機、各種インターフェースユニット、または IP 端末）の IP アドレスを入力します。（工場出荷時：192.168.1.1）

②サブネットマスク

サブネットマスクを設定してください。（工場出荷時：255.255.255.0）

③デフォルトゲートウェイ
所属するサブネット外の機器を使用する場合は設定してください。（工場出荷時：0.0.0.0）

④Web サーバーポート
Web サーバーのポート番号を入力します。入力可能な範囲は 1 ～ 65535 です。（工場出荷時：80）

⑤機器名称
この機器の名称を入力します。半角（カタカナ、英数記号）8 文字以内で入力してください。

⑥決定ボタン
この機器の中の設定ファイルに書き込みます。

ご注意

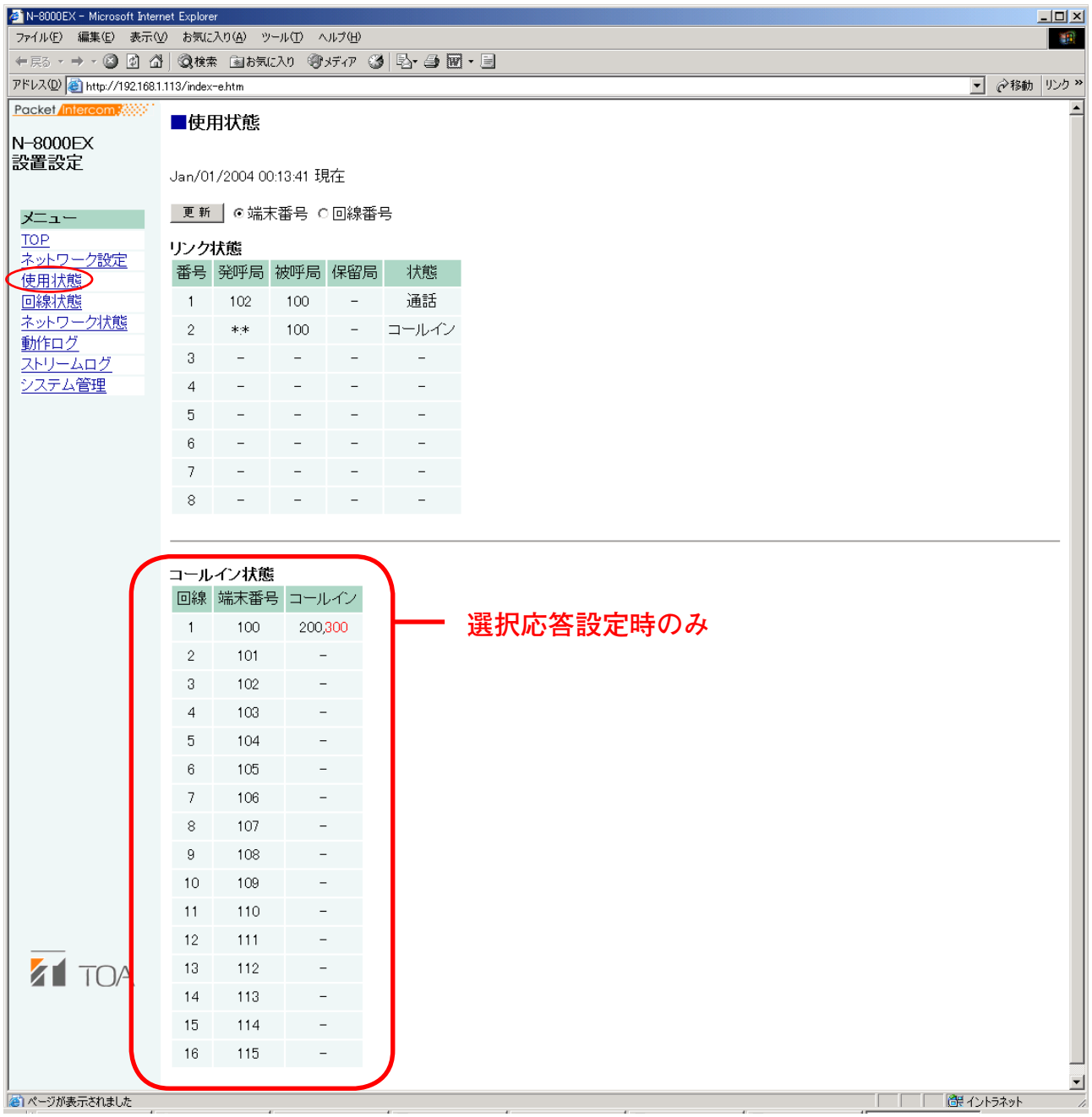
- 書き込み中は、システム内のすべての交換機・各種インターフェースユニット前面の STATUS 表示灯、または IP 端末の状態表示灯が点灯します。絶対に電源を切る、再起動、LAN ケーブルを抜くなどをしないでください。
- ネットワークの設定は、変更してもすぐに更新されません。システム内のすべての交換機･各種インターフェースユニット、または IP 端末を再起動すると、新しい設定内容になります。
  設定変更後は、画面右上に再起動ボタンが表示されますので、そのボタンを押して再起動してください。

使用状態の表示

画面左側のメニューから「使用状態」をクリックします。

● N-8000EX/8010EX の場合

※ 下の画面は N-8000EX の例です。



［操作ボタン］

① 更新
通話路、回線、コールイン*の状態を最新の情報に更新します。
* N-8000 システムの通話応答モードを「選択応答」に設定している場合に、他の端末から呼び出されている状態をコールインと呼びます。

② 端末番号／回線番号ボタン
局番表示を端末番号または回線番号に切り換えます。

［リンク状態］

交換機の現在の通話路状態を表示します。更新ボタンを押すと情報が更新されます。

① 番号
通話路番号です。

② 発呼局
呼び出した端末の局番が表示されます。

③ 被呼局
受信した端末の局番が表示されます。

④ 保留局
保留された端末の局番が表示されます。

⑤ 状態
通話路の動作を表示します。

［コールイン状態］

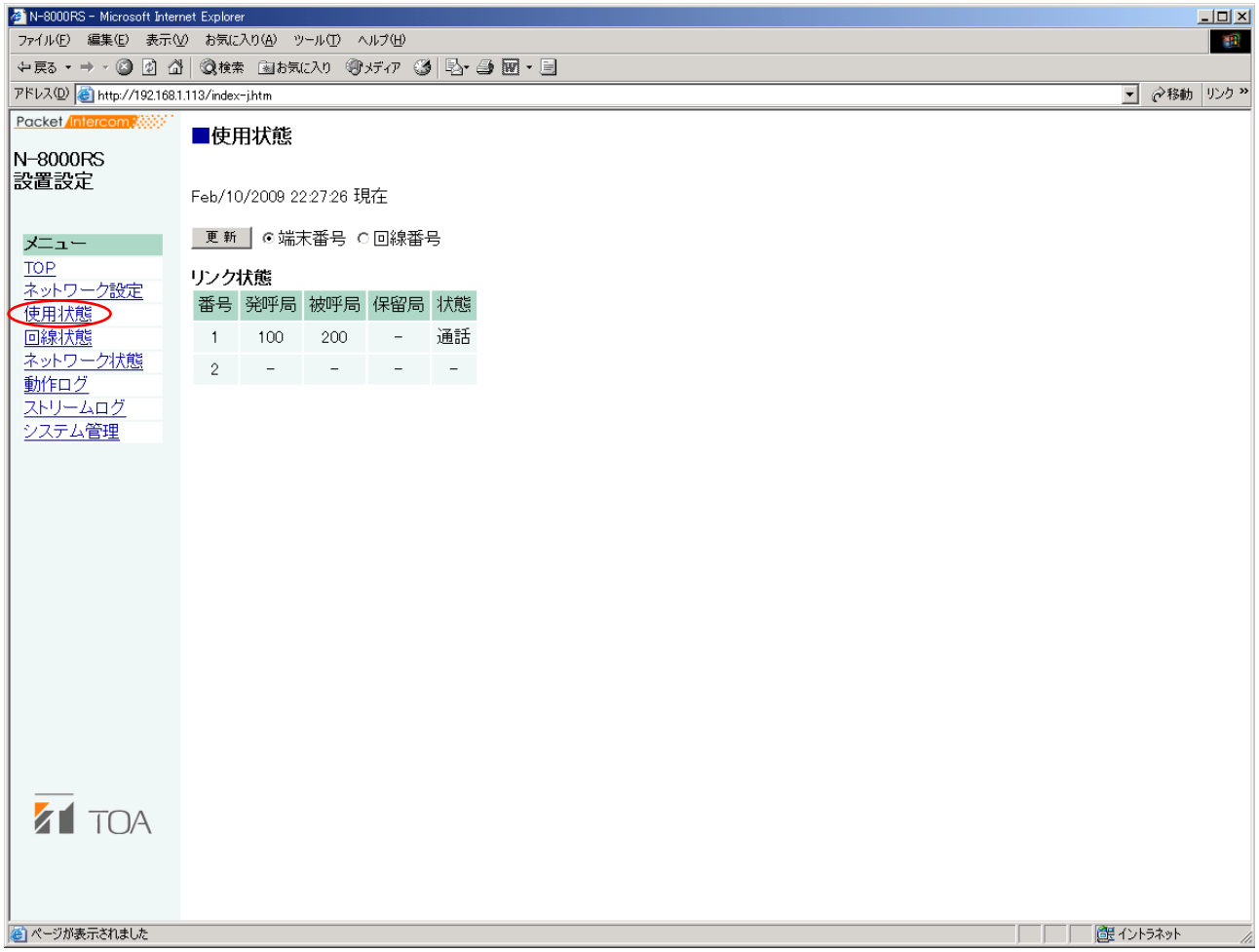
現在交換機で受け付けているコールインの状態を表示します。

① 端末番号
接続されている端末番号が表示されます。

② コールイン（選択応答設定時のみ）
接続されている端末へ発信中のすべての端末番号が表示されます。
緊急コールインは赤字で表示されます。
※着信優先のシステムの場合、コールイン状態は表示されません。

● N-8000RS/8010RS の場合

※ 下の画面は N-8000RS の例です。
　N-8010RS は 1 リンクの表示となります。



[操作ボタン]

① 更新

通話路、回線の状態を最新の情報に更新します。

② 端末番号／回線番号ボタン

局番表示を端末番号または回線番号に切り換えます。

［リンク状態］

サブ端末接続ユニットの現在の通話路状態を表示します。更新ボタンを押すと情報が更新されます。

① **番号**
通話路番号です。

② **発呼局**
呼び出した端末の局番が表示されます。

③ **被呼局**
受信した端末の局番が表示されます。

④ **保留局**
保留された端末の局番が表示されます。

⑤ **状態**
通話路の動作を表示します。

● N-8400RS の場合

[操作ボタン]

① 更新

通話路、回線、コールイン*の状態を最新の情報に更新します。

* N-8000 システムの通話応答モードを「選択応答」に設定している場合に、他の端末から呼び出されている状態をコールインと呼びます。

② 端末番号／回線番号ボタン

局番表示を端末番号または回線番号に切り換えます。

［リンク状態］

サブ端末接続ユニットの現在の通話路状態を表示します。更新ボタンを押すと情報が更新されます。

① 番号
通話路番号です。

② 発呼局
呼び出した端末の局番が表示されます。

③ 被呼局
受信した端末の局番が表示されます。

④ 保留局
保留された端末の局番が表示されます。

⑤ 状態
通話路の動作を表示します。

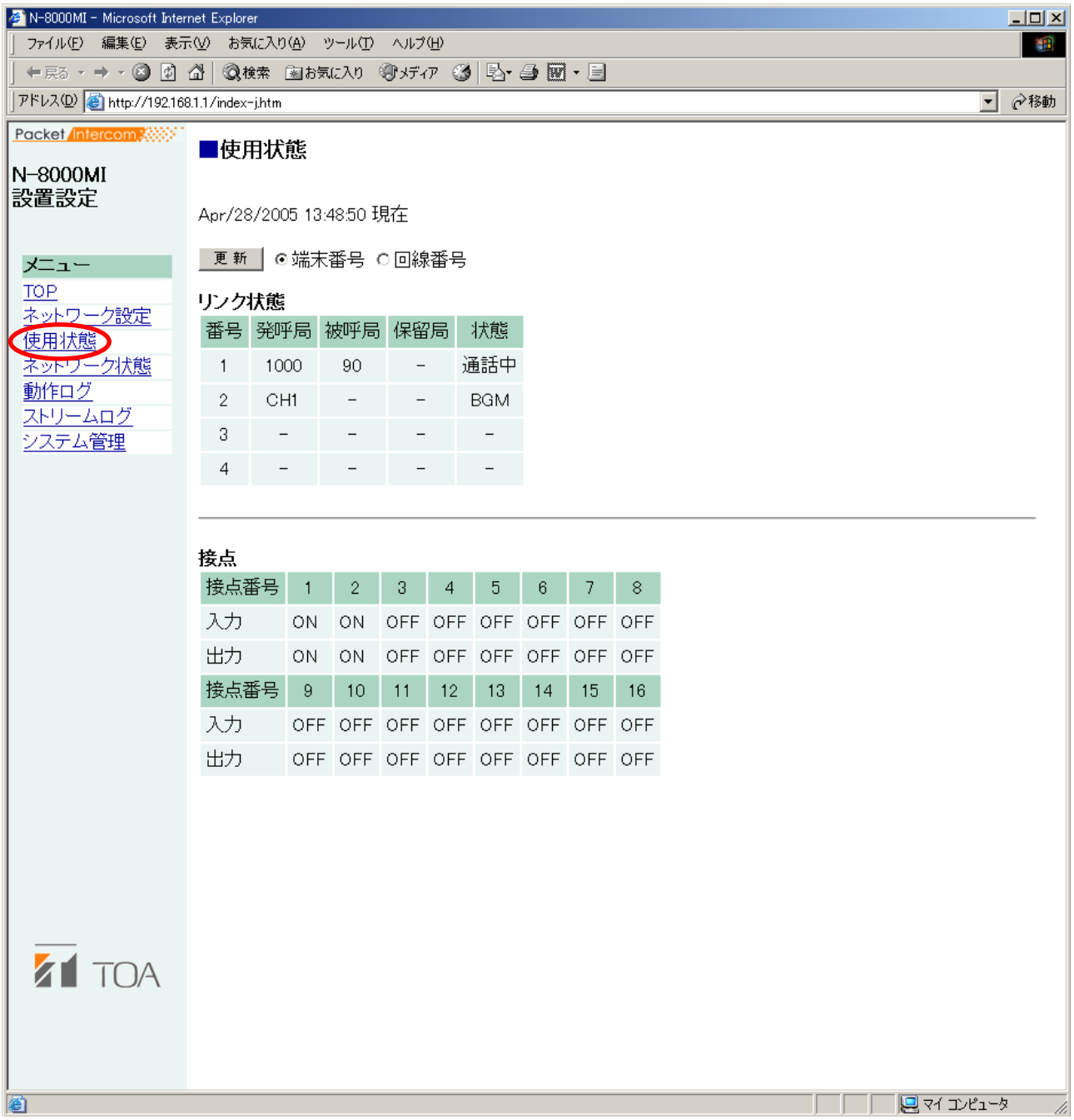
［コールイン状態］

現在 N-8400RS で受け付けているコールインの状態を表示します。

① 端末番号
接続されている端末番号が表示されます。

② コールイン（選択応答設定時のみ）
接続されている端末へ発信中のすべての端末番号が表示されます。
緊急コールインは赤字で表示されます。
※ 着信優先のシステムの場合、コールイン状態は表示されません。

● N-8000MI の場合



[操作ボタン]

① 更新
通話路、回線、接点の状態を最新の情報に更新します。

② 端末番号／回線番号ボタン
局番表示を端末番号または回線番号に切り換えます。

［リンク状態］

マルチインターフェースユニットの現在の通話路状態を表示します。
更新ボタンを押すと情報が更新されます。

① 番号
通話路番号です。

② 発呼局
呼び出した端末の局番が表示されます。

③ 被呼局
受信した端末の局番が表示されます。

④ 保留局
保留された端末の局番が表示されます。

⑤ 状態
通話路の動作を表示します。

［接点］

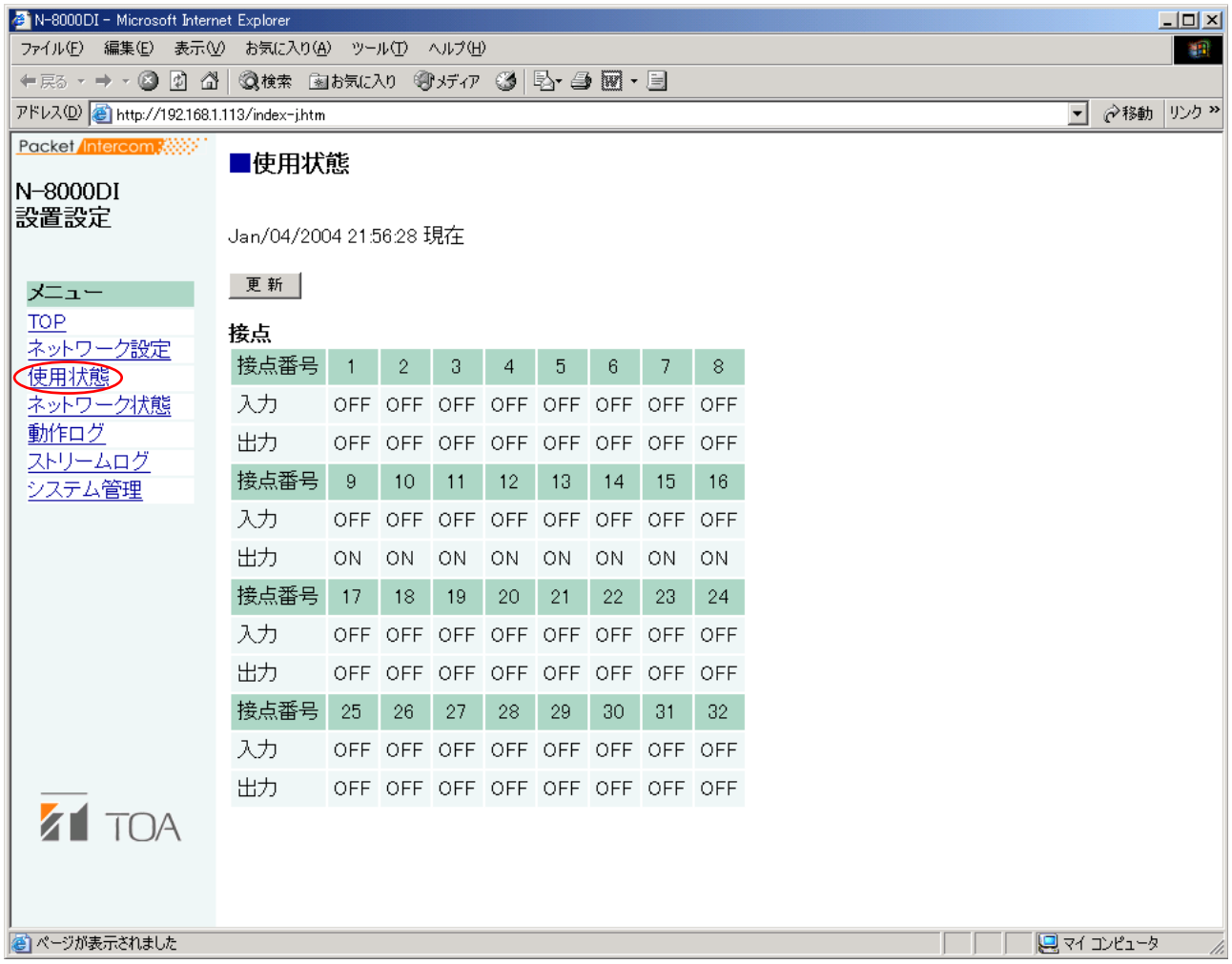
マルチインターフェースユニットの現在の接点の状態を表示します。
更新ボタンを押すと情報が更新されます。

① 接点番号
マルチインターフェースユニットの接点入出力端子の番号です。

② 入力
接点入力端子の現在の状態が表示されます。
各表示は次の状態を表します。
ON：メイク、OFF：ブレイク

③ 出力
接点出力端子の現在の状態が表示されます。
各表示は次の状態を表します。
ON：メイク、OFF：ブレイク

● N-8000DI の場合



接点番号	1	2	3	4	5	6	7	8
入力	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
出力	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
接点番号	9	10	11	12	13	14	15	16
入力	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
出力	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON
接点番号	17	18	19	20	21	22	23	24
入力	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
出力	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
接点番号	25	26	27	28	29	30	31	32
入力	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
出力	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF

[操作ボタン]

① **更新**
　接点の状態を最新の情報に更新します。

[接点]

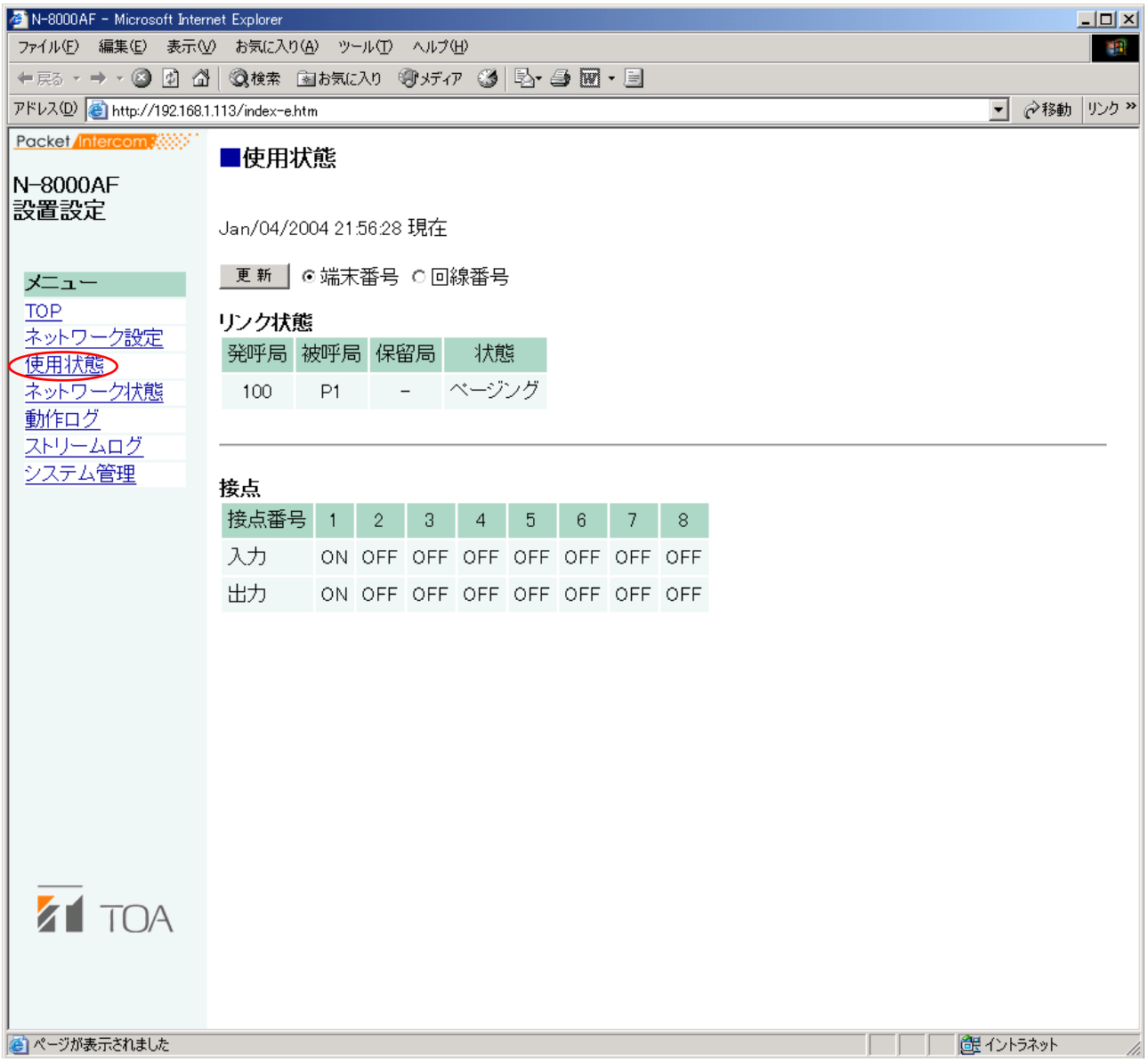
ダイレクトセレクトユニットの現在の接点の状態を表示します。
更新ボタンを押すと情報が更新されます。

① **接点番号**
　ダイレクトセレクトユニットの接点入出力端子の番号です。

② **入力**
　接点入力端子の現在の状態が表示されます。
　各表示は次の状態を表します。
　　ON：メイク、OFF：ブレイク

③ **出力**
　接点出力端子の現在の状態が表示されます。
　各表示は次の状態を表します。
　　ON：メイク、OFF：ブレイク

● N-8000AF の場合



[操作ボタン]

① 更新
通話路、回線の状態を最新の情報に更新します。

② 端末番号／回線番号ボタン
局番表示を端末番号または回線番号に切り換えます。

［リンク状態］

音声インターフェースユニットの現在の通話路状態を表示します。
更新ボタンを押すと情報が更新されます。

① 発呼局
呼び出した端末の局番が表示されます。

② 被呼局
受信した端末の局番が表示されます。

③ 保留局
保留された端末の局番が表示されます。

④ 状態
通話路の動作を表示します。

［接点］

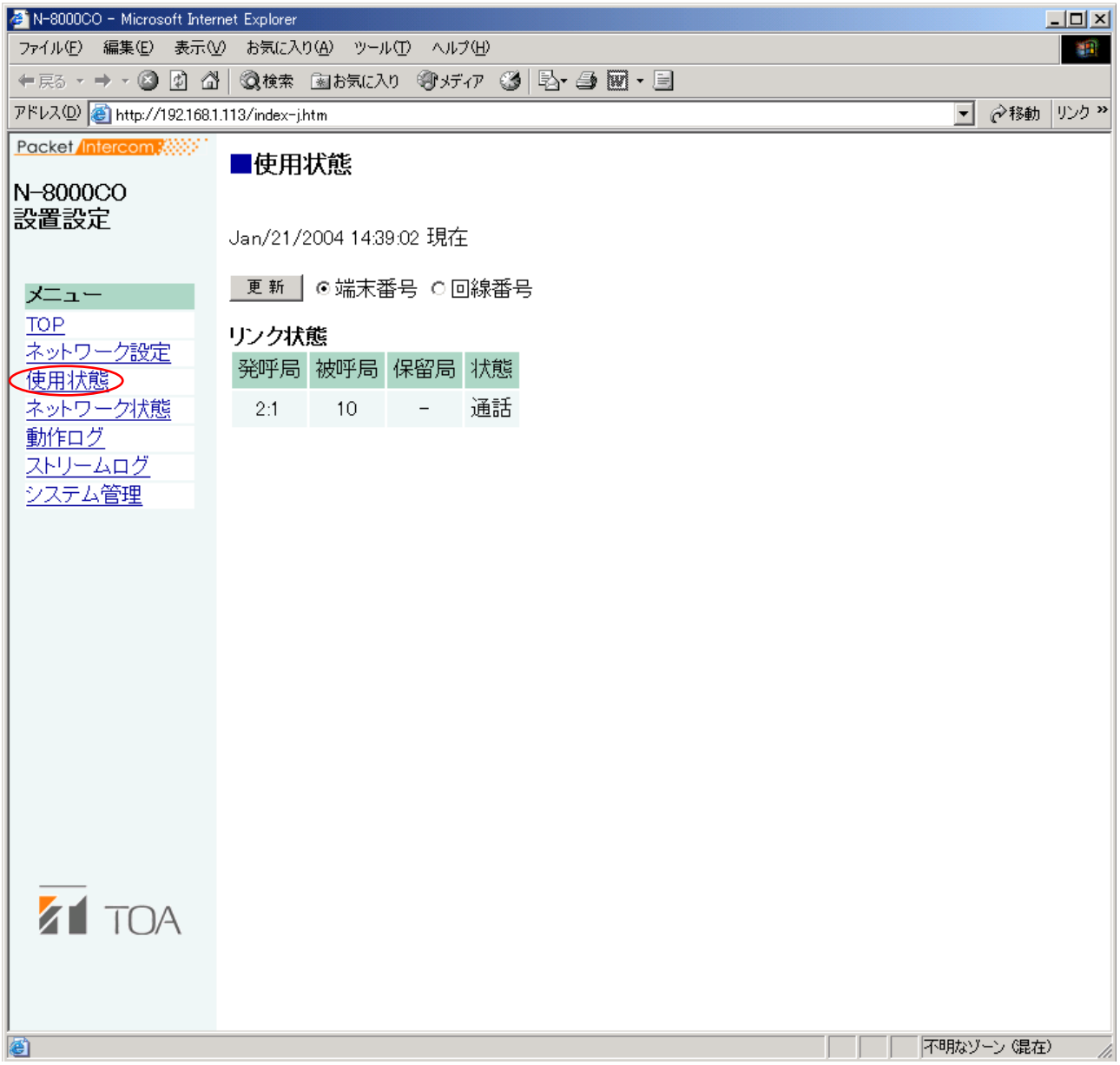
音声インターフェースユニットの現在の接点の状態を表示します。
更新ボタンを押すと情報が更新されます。

① 接点番号
音声インターフェースユニットの接点入出力端子の番号です。

② 入力
接点入力端子の現在の状態が表示されます。
各表示は次の状態を表します。
ON：メイク、OFF：ブレイク

③ 出力
接点出力端子の現在の状態が表示されます。
各表示は次の状態を表します。
ON：メイク、OFF：ブレイク

● N-8000CO の場合



[操作ボタン]

① 更新
通話路、回線の状態を最新の情報に更新します。

② 端末番号／回線番号ボタン
局番表示を端末番号または回線番号に切り換えます。

［リンク状態］

局線インターフェースユニットの現在の通話路状態を表示します。
更新ボタンを押すと情報が更新されます。

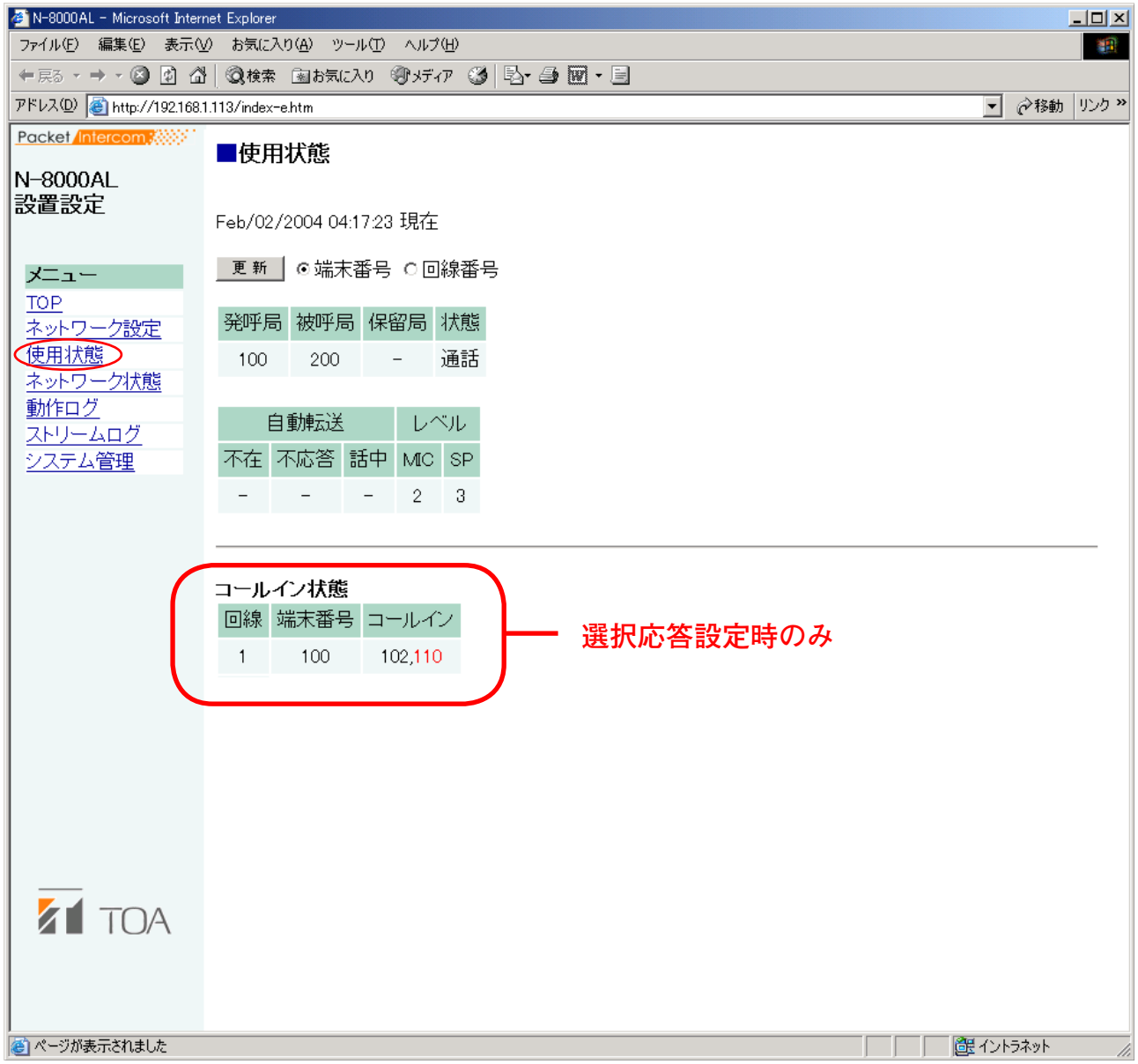
① **発呼局**
　呼び出した端末の局番が表示されます。

② **被呼局**
　受信した端末の局番が表示されます。

③ **保留局**
　保留された端末の局番が表示されます。

④ **状態**
　通話路の動作を表示します。

● N-8000AL の場合



[操作ボタン]

① 更新

通話路、回線、コールイン*の状態を最新の情報に更新します。

* N-8000 システムの通話応答モードを「選択応答」に設定している場合に、他の端末から呼び出されている状態をコールインと呼びます。

② 端末番号／回線番号ボタン

局番表示を端末番号または回線番号に切り換えます。

［リンク状態］

電話インターフェースユニットの現在の通話路状態を表示します。
更新ボタンを押すと情報が更新されます。

① 発呼局
呼び出した端末の局番が表示されます。

② 被呼局
受信した端末の局番が表示されます。

③ 保留局
保留された端末の局番が表示されます。

④ 状態
通話路の動作を表示します。

⑤ 自動転送
接続されている電話機の自動転送先の番号です。

⑥ レベル
電話インターフェースユニットの各種音量です。
各表示は次のとおりです。
MIC：マイク感度、SP：スピーカー出力

［コールイン状態］

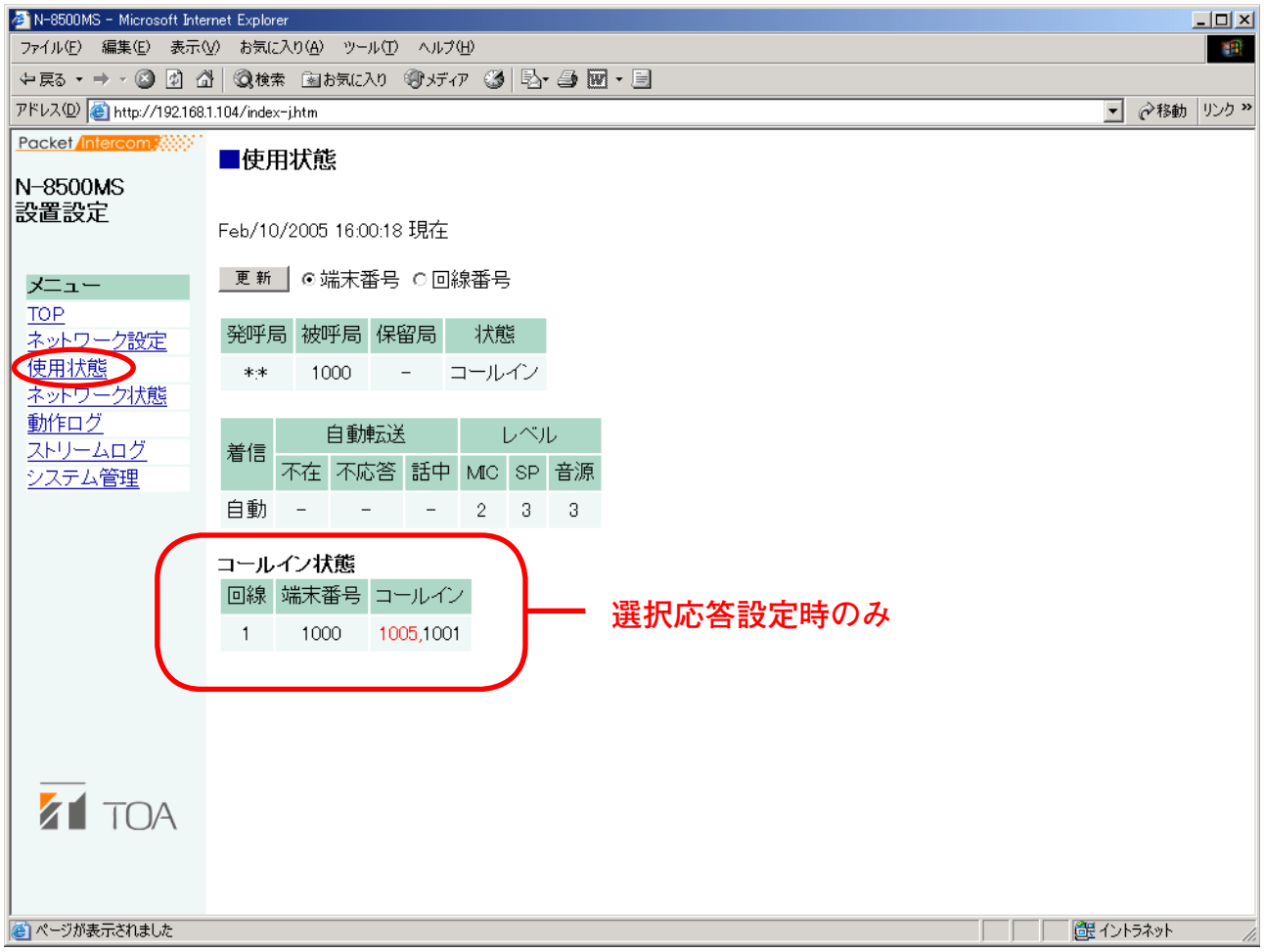
現在電話機で受け付けているコールインの状態を表示します。

① 端末番号
接続されている電話機の端末番号が表示されます。

② コールイン（選択応答設定時のみ）
接続されている電話機へ発信中のすべての端末番号が表示されます。
緊急コールインは赤字で表示されます。
※着信優先のシステムの場合、コールイン状態は表示されません。

● N-8500MS/8510MS/8515MS/8610MS の場合

※ 下の画面は N-8500MS の例です。



[操作ボタン]

① 更新
通話路、回線、コールイン*の状態を最新の情報に更新します。

* N-8000 システムの通話応答モードを「選択応答」に設定している場合に、他の端末から呼び出されている状態をコールインと呼びます。

② 端末番号／回線番号ボタン
局番表示を端末番号または回線番号に切り換えます。

[使用状態の項目]

IP マスター端末の現在の通話路、回線の状態を表示します。更新ボタンを押すと情報が更新されます。

① 発呼局
呼び出した端末の局番が表示されます。

② 被呼局
受信した端末の局番が表示されます。

③ 保留局
保留された端末の局番が表示されます。

④ **状態**
通話路の動作を表示します。

⑤ **着信**
IP マスター端末の着信音動作です。

⑥ **自動転送**
IP マスター端末の自動転送先の番号です。

⑦ **レベル**
IP マスター端末の各種音量です。
各表示は次のとおりです。
MIC：マイク感度、SP：スピーカー出力、音源：呼び出し音量

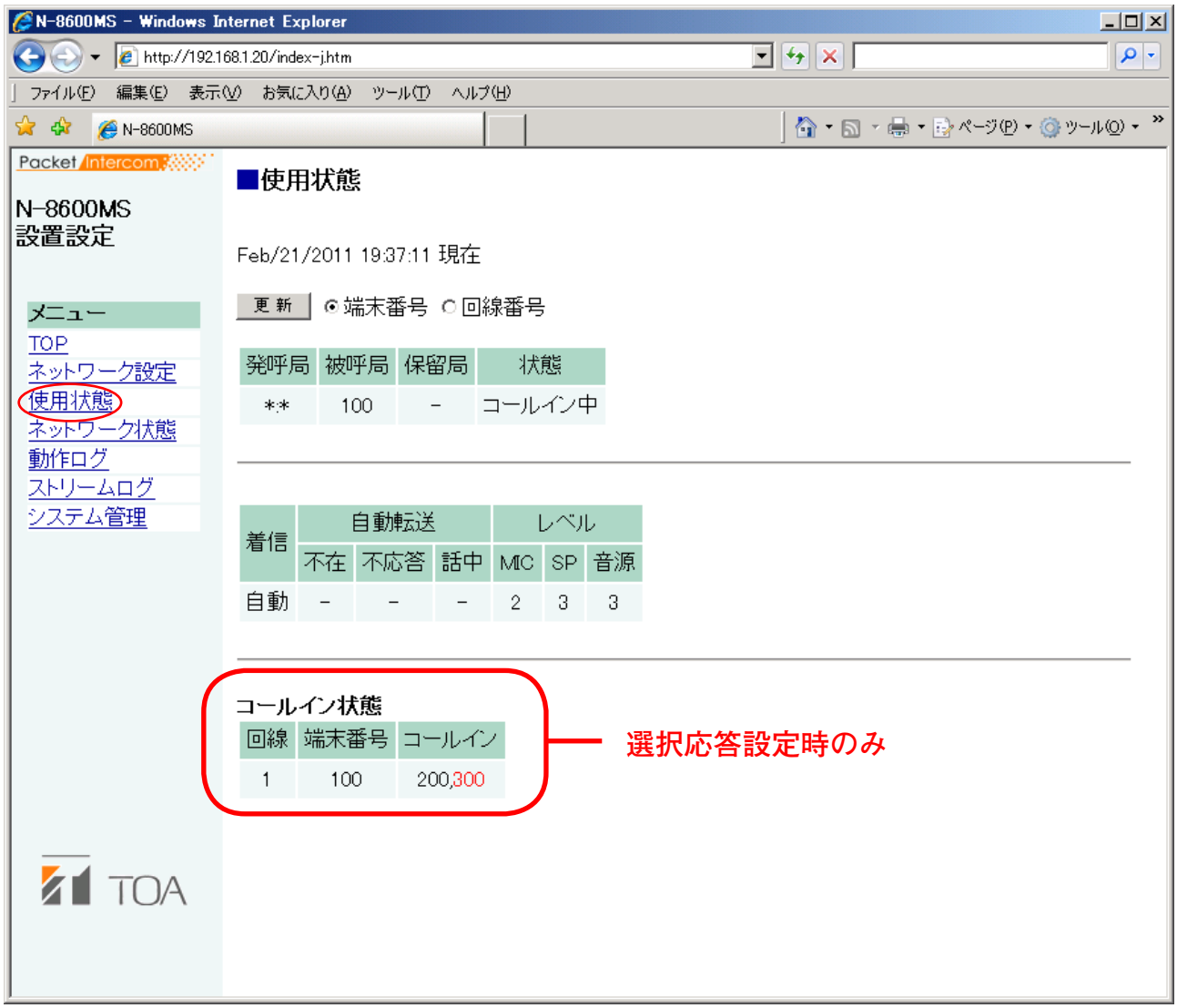
[コールイン状態]

現在 IP マスター端末で受け付けているコールインの状態を表示します。

① **端末番号**
IP マスター端末の端末番号が表示されます。

② **コールイン（選択応答設定時のみ）**
IP マスター端末へ発信中のすべての端末番号が表示されます。
緊急コールインは赤字で表示されます。
※着信優先のシステムの場合、コールイン状態は表示されません。

● N-8600MS の場合



[操作ボタン]

① **更新**
通話路、回線、コールイン*の状態を最新の情報に更新します。

* N-8000 システムの通話応答モードを「選択応答」に設定している場合に、他の端末から呼び出されている状態をコールインと呼びます。

② **端末番号／回線番号ボタン**
局番表示を端末番号または回線番号に切り換えます。

［使用状態の項目］

IP マスター端末の現在の通話路、回線の状態を表示します。更新ボタンを押すと情報が更新されます。

① 発呼局
呼び出した端末の局番が表示されます。

② 被呼局
受信した端末の局番が表示されます。

③ 保留局
保留された端末の局番が表示されます。

④ 状態
通話路の動作を表示します。

⑤ 着信
IP マスター端末の着信音動作です。

⑥ 自動転送
IP マスター端末の自動転送先の番号です。

⑦ レベル
IP マスター端末の各種音量です。
各表示は次のとおりです。
　　MIC：マイク感度、SP：スピーカー出力、音源：呼び出し音量

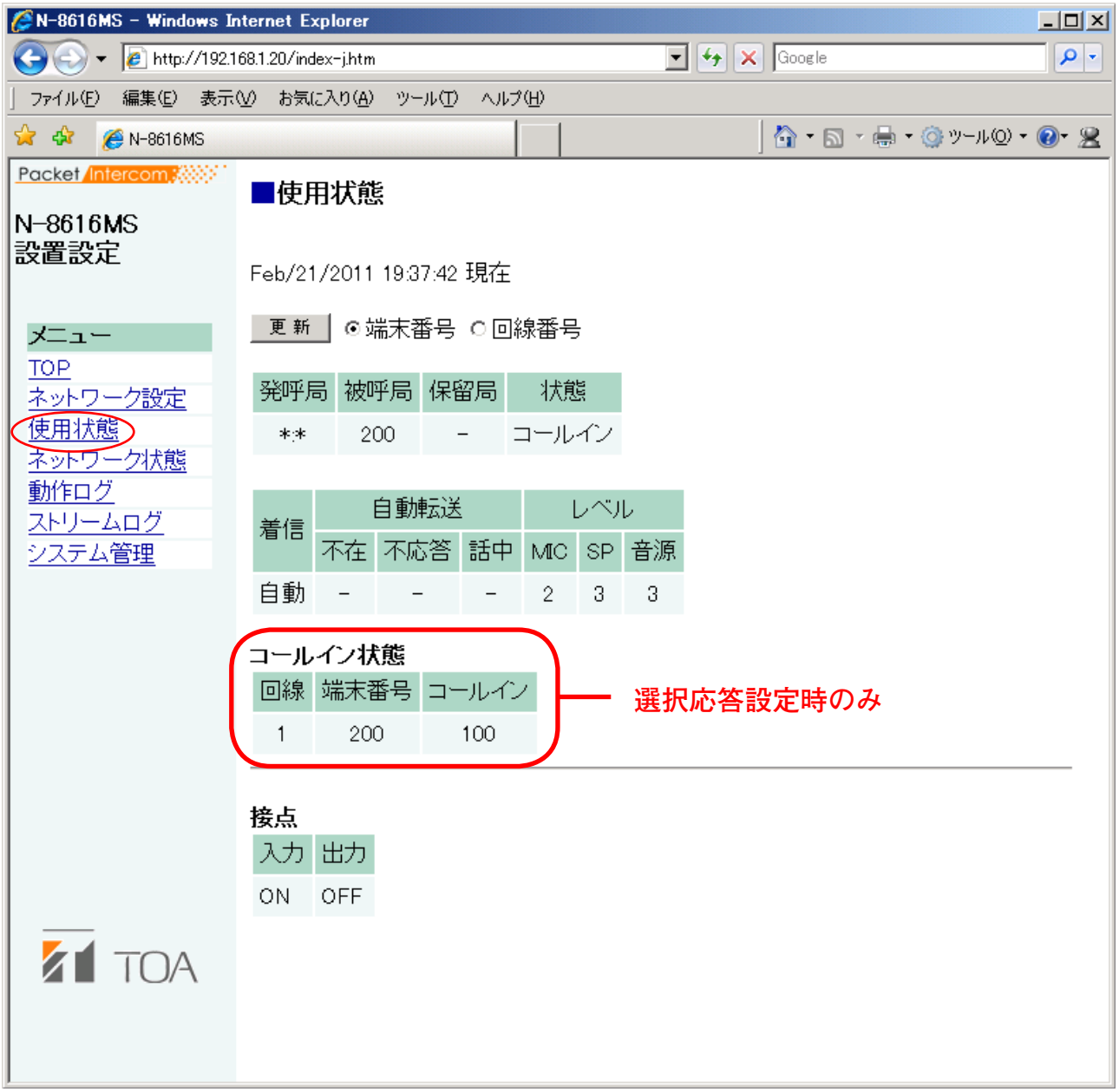
［コールイン状態］

現在 IP マスター端末で受け付けているコールインの状態を表示します。

① 端末番号
IP マスター端末の端末番号が表示されます。

② コールイン（選択応答設定時のみ）
IP マスター端末へ発信中のすべての端末番号が表示されます。
緊急コールインは赤字で表示されます。
※ 着信優先のシステムの場合、コールイン状態は表示されません。

● N-8616MS の場合



［操作ボタン］

① 更新
通話路、回線、コールイン*、接点の状態を最新の情報に更新します。

* N-8000 システムの通話応答モードを「選択応答」に設定している場合に、他の端末から呼び出されている状態をコールインと呼びます。

② 端末番号／回線番号ボタン
局番表示を端末番号または回線番号に切り換えます。

［使用状態の項目］

IP 緊急マスター端末の現在の通話路、回線の状態を表示します。更新ボタンを押すと情報が更新されます。

① 発呼局
呼び出した端末の局番が表示されます。

② 被呼局
受信した端末の局番が表示されます。

③ 保留局
保留された端末の局番が表示されます。

④ 状態
通話路の動作を表示します。

⑤ 着信
IP 緊急マスター端末の着信音動作です。

⑥ 自動転送
IP 緊急マスター端末の自動転送先の番号です。

⑦ レベル
IP 緊急マスター端末の各種音量です。
各表示は次のとおりです。
　　MIC：マイク感度、SP：スピーカー出力、音源：呼び出し音量

［コールイン状態］

現在 IP 緊急マスター端末で受け付けているコールインの状態を表示します。

① 端末番号
IP 緊急マスター端末の端末番号が表示されます。

② コールイン（選択応答設定時のみ）
IP 緊急マスター端末へ発信中のすべての端末番号が表示されます。
緊急コールインは赤字で表示されます。
※ 着信優先のシステムの場合、コールイン状態は表示されません。

［接点］

現在 IP 緊急マスター端末で受け付けている接点の状態を表示します。
更新ボタンを押すと情報が更新されます。

① 入力
接点入力端子の現在の状態が表示されます。
各表示は次の状態を表します。
　　ON：メイク、OFF：ブレイク

② 出力
接点出力端子の現在の状態が表示されます。
各表示は次の状態を表します。
　　ON：メイク、OFF：ブレイク

● N-8540DS の場合

[操作ボタン]

① **更新**
通話路、回線の状態を最新の情報に更新します。

② **端末番号／回線番号ボタン**
局番表示を端末番号または回線番号に切り換えます。

［使用状態の項目］

IP ドア端末の現在の通話路、回線の状態を表示します。更新ボタンを押すと情報が更新されます。

① **発呼局**
呼び出した端末の局番が表示されます。

② **被呼局**
受信した端末の局番が表示されます。

③ **保留局**
保留された端末の局番が表示されます。

④ **状態**
通話路の動作を表示します。

⑤ **レベル**
IP ドア端末の各種音量です。
各表示は次のとおりです。
MIC：マイク感度、SP：スピーカー出力、音源：呼び出し音量

● N-8640DS/8650DS の場合

※ 下の画面は N-8640DS の例です。

[操作ボタン]

① 更新
通話路、回線、接点の状態を最新の情報に更新します。

② 端末番号／回線番号ボタン
局番表示を端末番号または回線番号に切り換えます。

［使用状態の項目］

IP ドア端末の現在の通話路、回線の状態を表示します。更新ボタンを押すと情報が更新されます。

① 発呼局
呼び出した端末の局番が表示されます。

② 被呼局
受信した端末の局番が表示されます。

③ 保留局
保留された端末の局番が表示されます。

④ 状態
通話路の動作を表示します。

⑤ レベル
IP ドア端末の各種音量です。
各表示は次のとおりです。
MIC：マイク感度、SP：スピーカー出力、音源：呼び出し音量

［接点］

現在 IP ドア端末で受け付けている接点の状態を表示します。
更新ボタンを押すと情報が更新されます。

① 接点番号
IP ドア端末の接点入出力端子の番号です。

② 入力
接点入力端子の現在の状態が表示されます。
各表示は次の状態を表します。
ON：メイク、OFF：ブレイク
※ 接点入力は 1 のみです。
接点番号 2 ～ 5 は常に「ー」が表示されます。

③ 出力
接点出力端子の現在の状態が表示されます。
各表示は次の状態を表します。
ON：メイク、OFF：ブレイク

回線状態の表示（交換機、サブ端末接続ユニットのみ）

● N-8000EX/8010EX の場合

画面左側のメニューから「回線状態」をクリックします。
回線の状態および接続されている端末の情報が表示されます。

※ 下の画面は N-8000EX の例です。

番号	品番	状態	着信	自動転送			レベル				Ver.
				不在	不応答	話中	MIC	SP	音源	ノイズ	
1	N-8000MS	正常	連続	1000	-	-	2	2	2	300	1.00
2	N-8000MS	正常	連続	1000	2000	3000	2	2	2	128	1.00
3	N-8010MS	正常	自動	4000	-	-	2	2	3	128	1.00
4	N-8010MS	正常	自動	4000	-	-	2	2	3	128	1.00
5	N-8010MS	正常	自動	4000	-	-	2	2	3	128	1.00
6	N-8010MS	正常	自動	4000	-	-	2	2	3	128	1.00
7	N-8010MS	正常	自動	4000	-	-	2	2	3	128	1.00
8	N-8010MS	正常	自動	4000	-	-	2	2	3	128	1.00
9	N-8010MS	正常	自動	4000	-	-	2	2	3	128	1.00
10	N-8010MS	異常	自動	4000	-	-	2	2	3	128	1.00
11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

［操作ボタン］

① **更新**
回線状態および端末の情報を最新の情報に更新します。

［回線状態］

現在、交換機に接続されている端末の状態が表示されます。
接続されていない回線は、すべての欄に「ー」が表示されます。

① **番号**
回線番号です。

② **品番**
接続されている端末の品番です。

③ **状態**
回線状態です。

④ **着信**
接続されている端末の着信音動作です。

⑤ **自動転送**
接続されている端末の自動転送先の番号です。

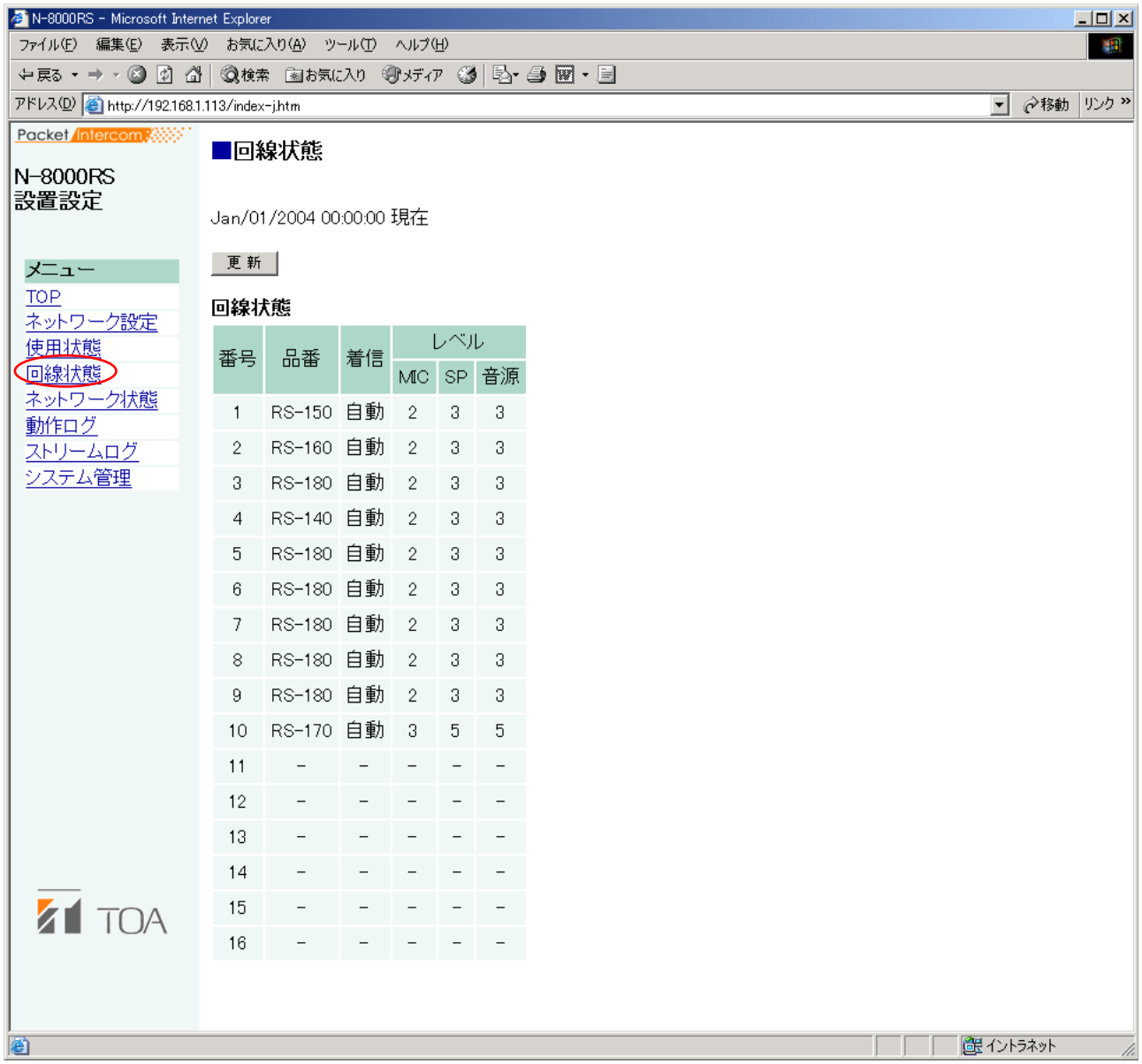
⑥ **レベル**
接続されている端末の各種音量です。ノイズは周囲騒音の測定値です。
各表示は次のとおりです。
MIC：マイク感度、SP：スピーカー出力、音源：呼び出し音量

⑦ **Ver.**
接続されている端末のファームウェアバージョンです。

● N-8000RS/8010RS の場合

画面左側のメニューから「回線状態」をクリックします。
回線の状態および設定されている端末の情報が表示されます。

※ 下の画面は N-8000RS の例です。



[操作ボタン]

① 更新

回線状態および端末の設定情報を最新の情報に更新します。

ご注意

N-8000RS/8010RS は、現在の回線の接続状態を表示することができません。

［回線状態］

サブ端末接続ユニットに設定されている端末の設定内容が表示されます。
設定されていない回線は、すべての欄に「ー」が表示されます。

① **番号**
回線番号です。

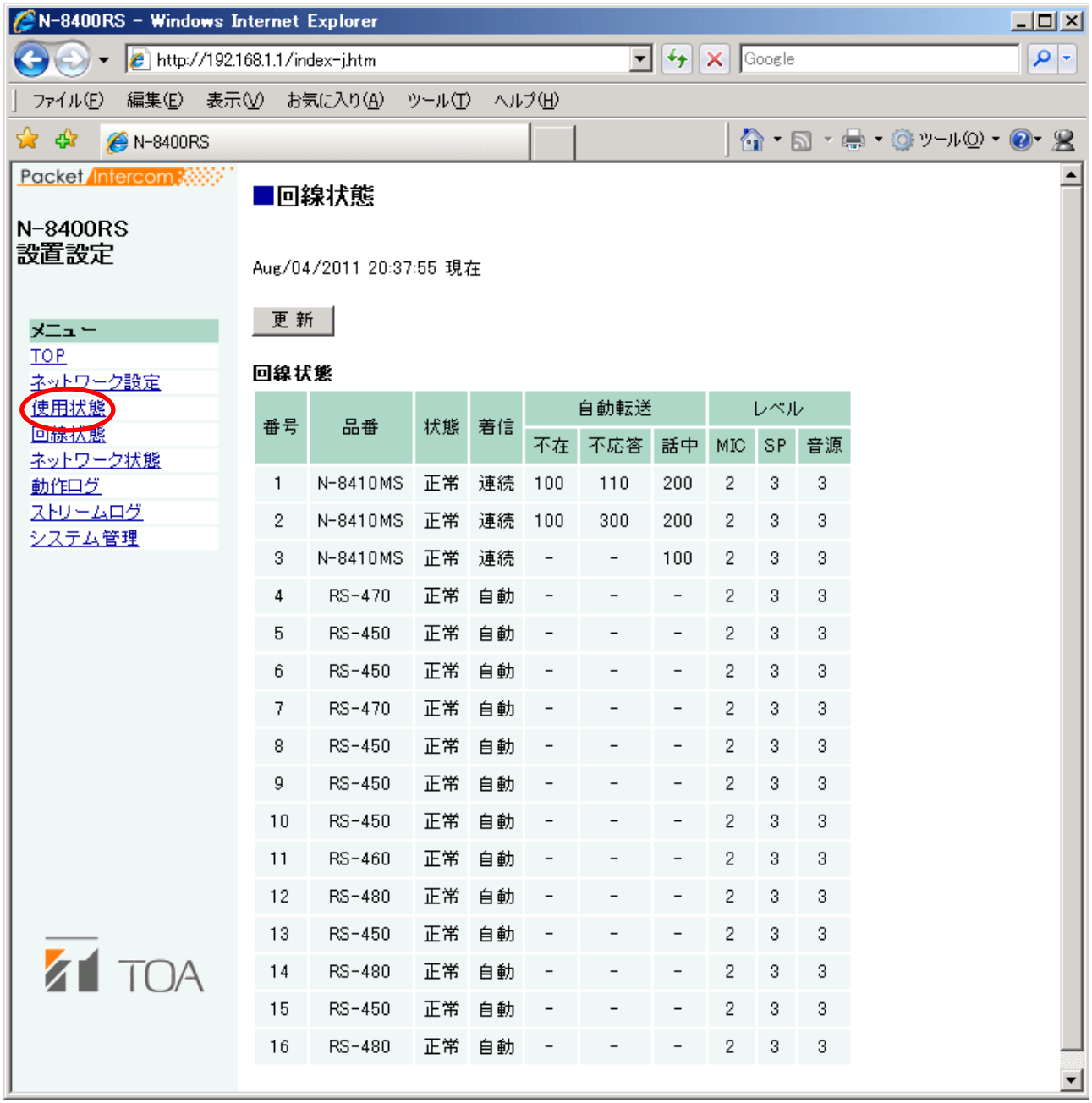
② **品番**
設定されている端末の品番です。

③ **着信**
設定されている端末の着信音動作です。

④ **レベル**
設定されている端末の各種音量です。
各表示は次のとおりです。
MIC：マイク感度
SP ：スピーカー出力
音源：呼び出し音量

● N-8400RS の場合

画面左側のメニューから「回線状態」をクリックします。
回線の状態および接続されている端末の情報が表示されます。



番号	品番	状態	着信	自動転送			レベル		
				不在	不応答	話中	MIC	SP	音源
1	N-8410MS	正常	連続	100	110	200	2	3	3
2	N-8410MS	正常	連続	100	300	200	2	3	3
3	N-8410MS	正常	連続	-	-	100	2	3	3
4	RS-470	正常	自動	-	-	-	2	3	3
5	RS-450	正常	自動	-	-	-	2	3	3
6	RS-450	正常	自動	-	-	-	2	3	3
7	RS-470	正常	自動	-	-	-	2	3	3
8	RS-450	正常	自動	-	-	-	2	3	3
9	RS-450	正常	自動	-	-	-	2	3	3
10	RS-450	正常	自動	-	-	-	2	3	3
11	RS-460	正常	自動	-	-	-	2	3	3
12	RS-480	正常	自動	-	-	-	2	3	3
13	RS-450	正常	自動	-	-	-	2	3	3
14	RS-480	正常	自動	-	-	-	2	3	3
15	RS-450	正常	自動	-	-	-	2	3	3
16	RS-480	正常	自動	-	-	-	2	3	3

[操作ボタン]

① **更新**
　回線状態および端末の接続情報を最新の情報に更新します。

[回線状態]

現在、N-8400RS に接続されている端末の状態が表示されます。
接続されていない回線は、すべての欄に「ー」が表示されます。

① **番号**
　回線番号です。

② **品番**
接続されている端末の品番です。

③ **状態**
回線状態です。

④ **着信**
接続されている端末の着信音動作です。

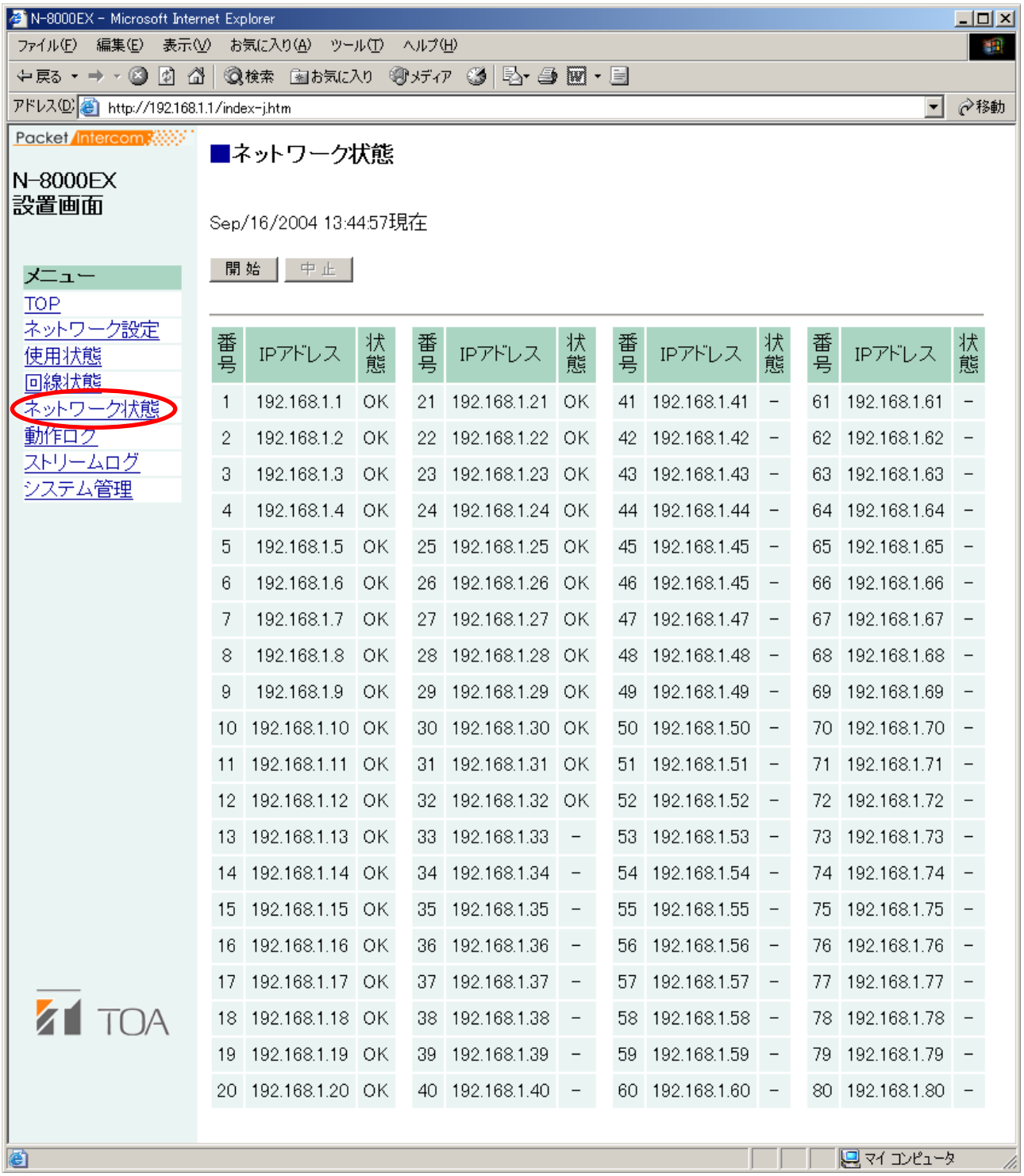
⑤ **自動転送**
接続されている端末の自動転送先の端末番号です。

⑥ **レベル**
サンプリング周波数です。16 kHz または 8 kHz です。
接続されている端末の各種音量です。
各表示は次のとおりです。
MIC：マイク感度
SP ：スピーカー出力
音源：呼び出し音量

ネットワーク状態の表示

画面左側のメニューから「ネットワーク状態」をクリックします。
システム内のすべての交換機、各種インターフェースユニット、または IP 端末とのネットワーク接続状態を確認できます。2 秒おきに接続状態が更新され、10 秒経ってもネットワーク接続ができない場合、その機器とのネットワーク接続ができないと判定します。

※ 下の画面は N-8000EX の例です。



番号	IPアドレス	状態	番号	IPアドレス	状態	番号	IPアドレス	状態	番号	IPアドレス	状態
1	192.168.1.1	OK	21	192.168.1.21	OK	41	192.168.1.41	-	61	192.168.1.61	-
2	192.168.1.2	OK	22	192.168.1.22	OK	42	192.168.1.42	-	62	192.168.1.62	-
3	192.168.1.3	OK	23	192.168.1.23	OK	43	192.168.1.43	-	63	192.168.1.63	-
4	192.168.1.4	OK	24	192.168.1.24	OK	44	192.168.1.44	-	64	192.168.1.64	-
5	192.168.1.5	OK	25	192.168.1.25	OK	45	192.168.1.45	-	65	192.168.1.65	-
6	192.168.1.6	OK	26	192.168.1.26	OK	46	192.168.1.45	-	66	192.168.1.66	-
7	192.168.1.7	OK	27	192.168.1.27	OK	47	192.168.1.47	-	67	192.168.1.67	-
8	192.168.1.8	OK	28	192.168.1.28	OK	48	192.168.1.48	-	68	192.168.1.68	-
9	192.168.1.9	OK	29	192.168.1.29	OK	49	192.168.1.49	-	69	192.168.1.69	-
10	192.168.1.10	OK	30	192.168.1.30	OK	50	192.168.1.50	-	70	192.168.1.70	-
11	192.168.1.11	OK	31	192.168.1.31	OK	51	192.168.1.51	-	71	192.168.1.71	-
12	192.168.1.12	OK	32	192.168.1.32	OK	52	192.168.1.52	-	72	192.168.1.72	-
13	192.168.1.13	OK	33	192.168.1.33	-	53	192.168.1.53	-	73	192.168.1.73	-
14	192.168.1.14	OK	34	192.168.1.34	-	54	192.168.1.54	-	74	192.168.1.74	-
15	192.168.1.15	OK	35	192.168.1.35	-	55	192.168.1.55	-	75	192.168.1.75	-
16	192.168.1.16	OK	36	192.168.1.36	-	56	192.168.1.56	-	76	192.168.1.76	-
17	192.168.1.17	OK	37	192.168.1.37	-	57	192.168.1.57	-	77	192.168.1.77	-
18	192.168.1.18	OK	38	192.168.1.38	-	58	192.168.1.58	-	78	192.168.1.78	-
19	192.168.1.19	OK	39	192.168.1.39	-	59	192.168.1.59	-	79	192.168.1.79	-
20	192.168.1.20	OK	40	192.168.1.40	-	60	192.168.1.60	-	80	192.168.1.80	-

[操作ボタン]

① **開始**
ネットワーク接続確認が開始されます。

② **中止**
ネットワーク接続確認を途中で中止します。

［ネットワーク状態の項目］

① 番号
システム内のすべての交換機、各種インターフェースユニット、または IP 端末の機器番号です。

② IP アドレス
システム内のすべての交換機、各種インターフェースユニット、または IP 端末の IP アドレスです。

③ 状態
接続ができていれば「OK」と表示されます。
接続ができていない場合は「NG」と表示されます。
接続確認中は「－」と表示されます。

動作ログ

画面左側のメニューから「動作ログ」をクリックします。
動作ログは機器の動作履歴を表示します。最大 1000 件の履歴を保存できます。

※ 下の画面は N-8000EX の例です。

[操作ボタン]

① ログ保存ボタン
　動作ログをパソコンに保存します。

② 最新ボタン
動作ログを最新の情報に更新します。

③ 前ページボタン
前のページに移動します。

④ 次ページボタン
次のページに移動します。

⑤ 番号表示ボタン
回線欄の端末表示を端末番号表示と回線番号表示とに切り換えます。押すたびに表示が切り換わります。

⑥ 詳細表示ボタン
動作ログの表示にエラーログ表示の有無を切り換えます。押すたびに表示が切り換わります。

[ログの項目]

① 時刻
イベントが発生した時刻を表示します。

② 種類
ログの種類を表示します。
交換処理：回線制御情報
システム：システム情報
リモート：パソコンからの制御

③ 内容
イベントの内容を表示します。エラーは赤で表示されます。

④ 回線 1、回線 2、回線 3
イベントが発生した回線を表示します。端末、IP アドレスが表示されます。

ご注意

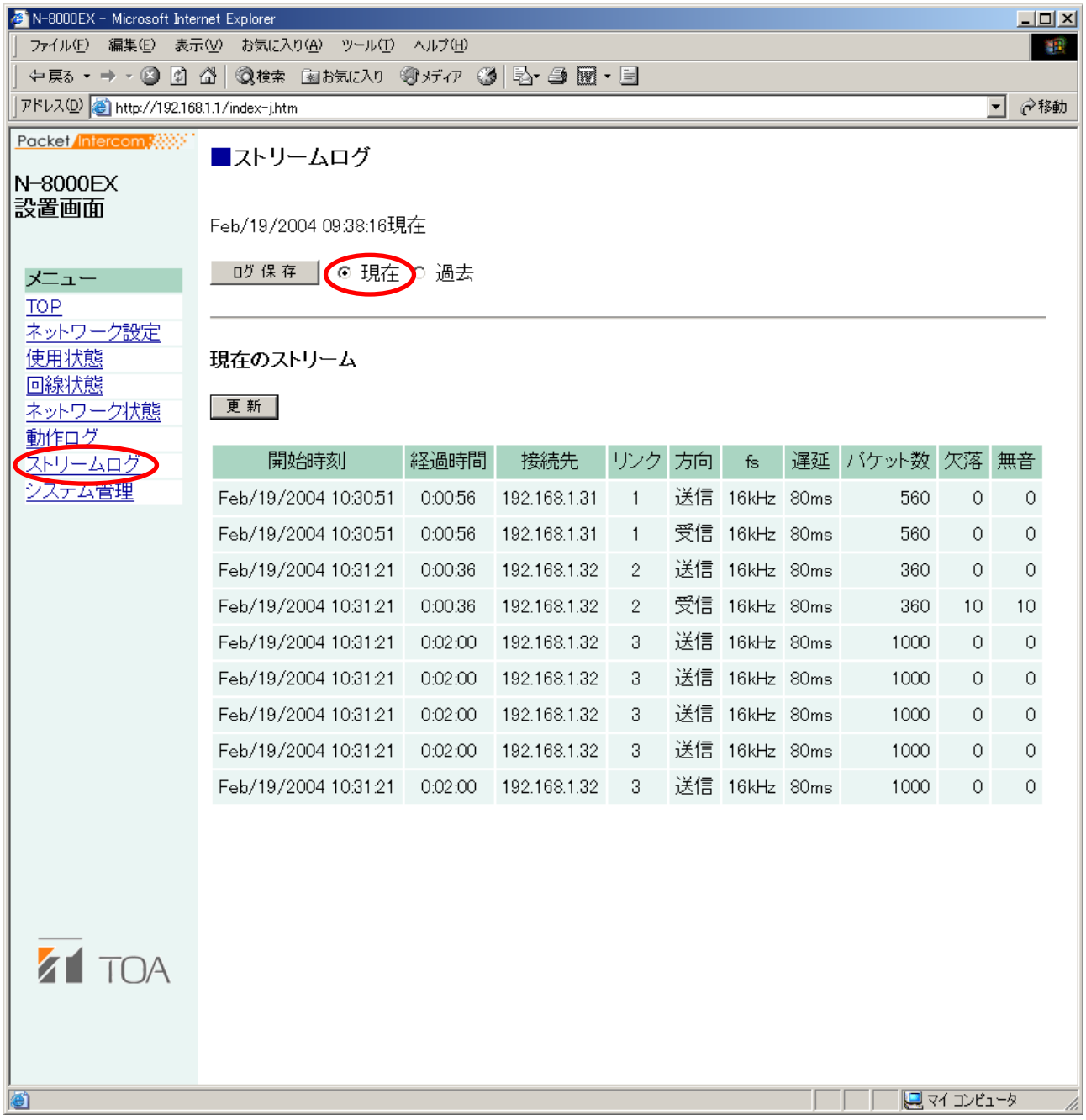
「ファームウェアに問題が発生しました。当社営業所に連絡してください。」と表示されたら、システムに問題が発生しており、故障のおそれがあります。当社営業所にご連絡ください。

ストリームログ

画面左側のメニューから「ストリームログ」をクリックします。
ストリームログは、IP ネットワークによる音声通信（通話、ページング）の履歴です。現在の履歴と過去の履歴を切り換えて表示することができます。過去の履歴は最大 1000 件まで保存できます。

［現在のストリーム画面］

※ 下の画面は N-8000EX の例です。



［操作ボタン］

① ログ保存ボタン
　ストリームログをパソコンに保存します。

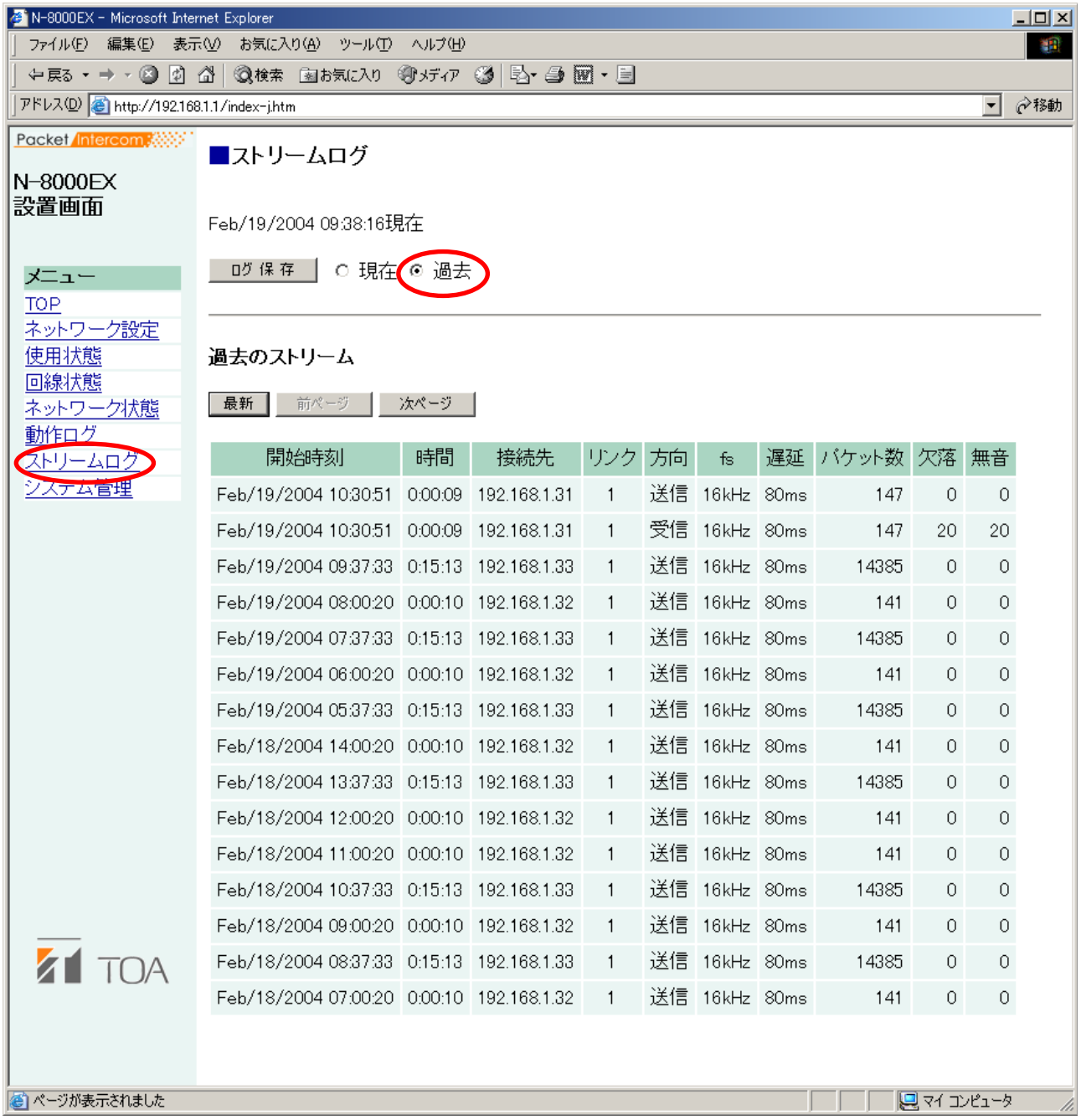
② 現在／過去ボタン
現在ボタンを押すと現在のストリームログが、過去ボタンを押すと終了したストリームログが表示されます。

[現在のストリーム操作ボタン]

① 更新ボタン
最新の情報に更新されます。

[過去のストリーム画面]

※ 下の画面は N-8000EX の例です。



[過去のストリーム操作ボタン]

① 最新
終了したストリームの最新 16 件を表示します。

② 前ページ
前のページに移動します。

③ 次ページ
次のページに移動します。

[ログの項目]（現在と過去のストリームログ共通）

① 開始時刻
ストリームの開始時刻です。

② 時間
ストリームの通信時間です。

③ 接続先
通信先の IP アドレスです。

④ リンク
通話路番号です。

⑤ 方向
送信または受信になります。

⑥ fs
サンプリング周波数です。16 kHz または 8 kHz です。

⑦ 遅延
音声が入力されて出力されるまでの時間です。

⑧ パケット数
送信時は送信したパケット数、受信時は正常に受信したパケット数です。

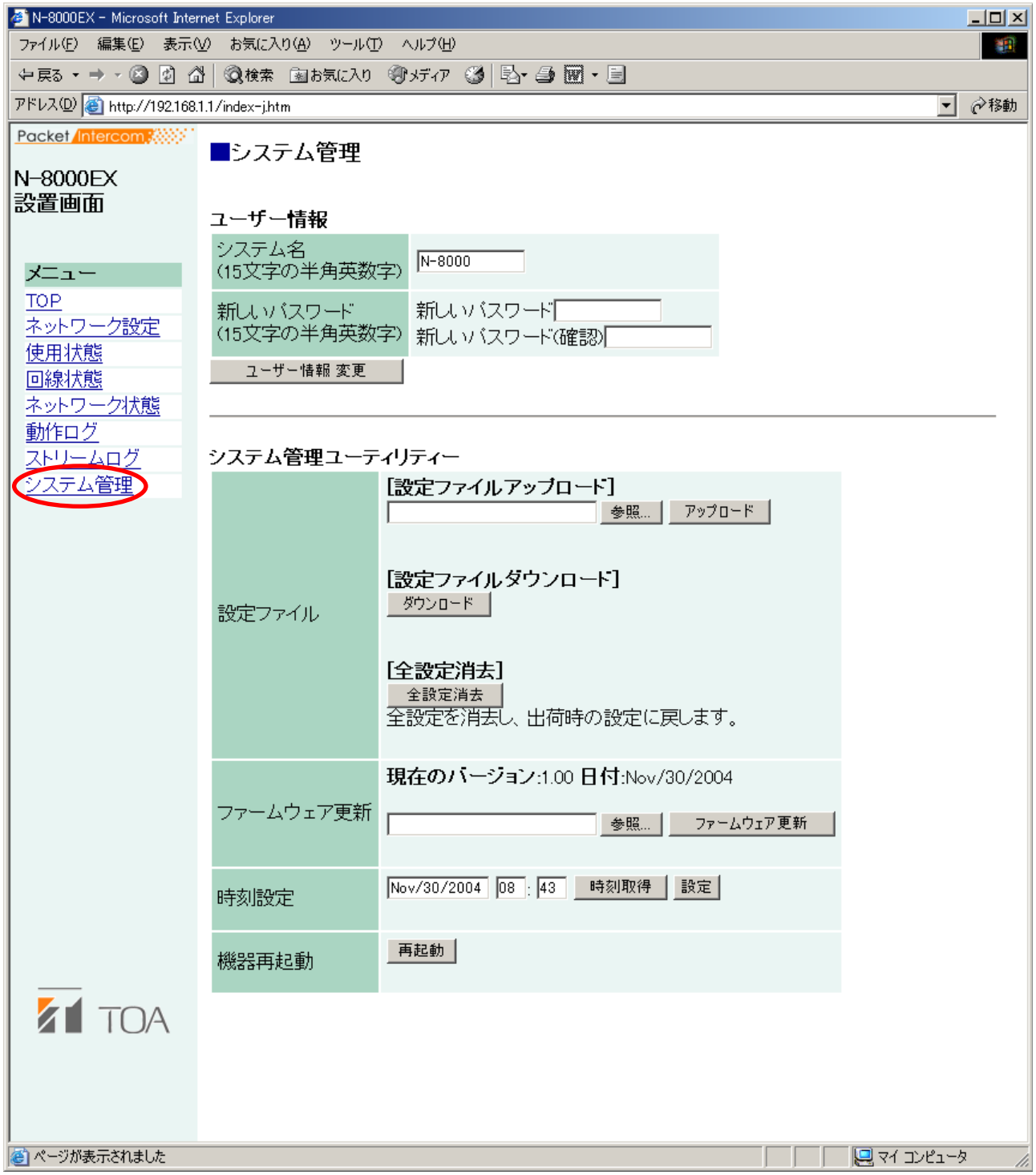
⑨ 欠落
ネットワーク障害により欠落したパケット数です。受信時にしかカウントされません。

⑩ 無音
パケット欠落またはネットワークのゆらぎによりパケットの到着が遅くなったため、音声出力で無音再生したときにカウントされます。受信時にしかカウントされません。

システム管理

画面左側のメニューから「システム管理」をクリックします。

※ 下の画面は N-8000EX の例です。



[ユーザー情報]
システム名とパスワードを変更することができます。（☞ P. 6-47）

① システム名
ブラウザー起動時のユーザー認証画面で入力されたユーザー名が表示されます。（☞ P. 6-3）

② 新しいパスワード
現在のパスワードを変更したいときに入力します。

③ 新しいパスワード（確認）
確認のため、もう一度同じパスワードを入力します。

④ ユーザー情報変更ボタン
変更されたユーザー情報が更新されます。

[システム管理ユーティリティー]

① アップロードボタン
バックアップしている設定ファイルをこの機器（パソコンに接続しているシステム内のすべての交換機、各種インターフェースユニット、または IP 端末）に書き込みます。（☞ P. 6-48）

② 参照ボタン
ファイルを選択するダイアログが開きます。

③ ダウンロードボタン
この機器に登録されている設定情報（ファイル）をパソコンに保存します。（☞ P. 6-49）

④ 全設定消去ボタン
全設定を消去し、工場出荷状態の設定に戻します。工場出荷時は以下の設定になっています。
IP アドレス：192.168.1.1
システム名：N-8000
パスワード：guest
その他の設定については、N-8000 ソフトウェアで接続してご確認ください。

⑤ ファームウェア更新ボタン
ファームウェアの更新を行います。（☞ P. 6-50）
最新のものを下記サイトからダウンロードしてお使いください。

メ　モ

- ファームウェアの最新版を TOA 商品データダウンロードサイト（http://www.toa-products.com/）で公開しています。
- 現在のバージョンはファームウェア更新ボタンの上に表示されています。

⑥ 時刻取得ボタン
年月日と時刻が、パソコンの時刻に合わせて表示されます。（☞ P. 6-51）

⑦ 設定ボタン
この機器に対して時刻を設定します。（☞ P. 6-51）

⑧ 再起動ボタン
この機器を再起動します。

ご注意

設定ファイルやファームウェア更新中には絶対に再起動しないでください。

■ システム名とパスワードを変更する

システム内のすべての交換機、各種インターフェースユニット、または IP 端末を追加したり、初期化したときなどに、システム設定用のパソコンがない場所でも、ブラウザーからシステム名とパスワードを変更できます。

ご注意

システム名とパスワードはシステム共通で使用します。同じシステムの中で異なるパスワードを設定すると、N-8000 ソフトウェアで集中管理できなくなりますので、N-8000 ソフトウェアで設定したシステム名およびシステムパスワードと同じものに設定してください。

1 「システム名」に変更後のシステム名を入力する。

半角英数記号 15 文字以内で入力してください。
大文字、小文字は区別します。
以下の記号は使用できません。

: ; / ¥ | , * ? " < >

2 「新しいパスワード」に変更後のパスワードを入力する。

半角英数記号 15 文字以内で入力してください。
大文字、小文字は区別します。
以下の記号は使用できません。

: ; / ¥ | , * ? " < >

3 確認のため「新しいパスワード（確認）」に手順 2 で入力した変更後のパスワードを入力する。

4 ユーザー情報変更ボタンを押す。

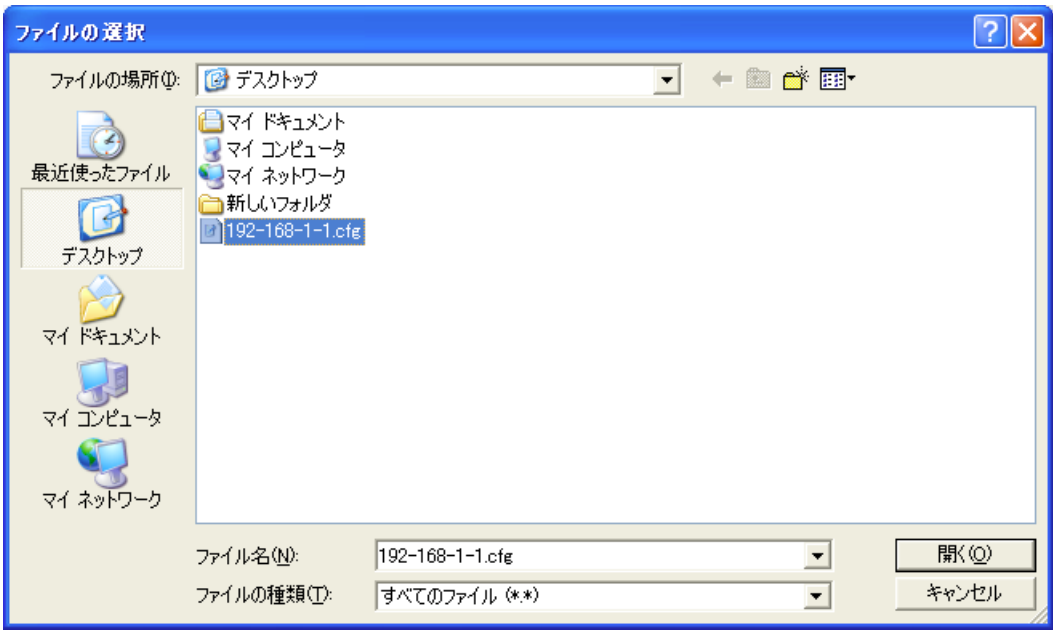
ご注意

更新中はシステム内のすべての交換機・各種インターフェースユニット前面の STATUS 表示灯、または IP 端末の状態表示灯が点灯します。絶対に電源を切る、再起動、LAN ケーブルを抜くなどをしないでください。

■ 設定ファイルをアップロードする

1 参照ボタンを押す。

［ファイルの選択］ダイアログが表示されます。



2 バックアップファイル（拡張子 cfg）を選択し、［開く］ボタンを押す。

3 アップロードボタンを押す。

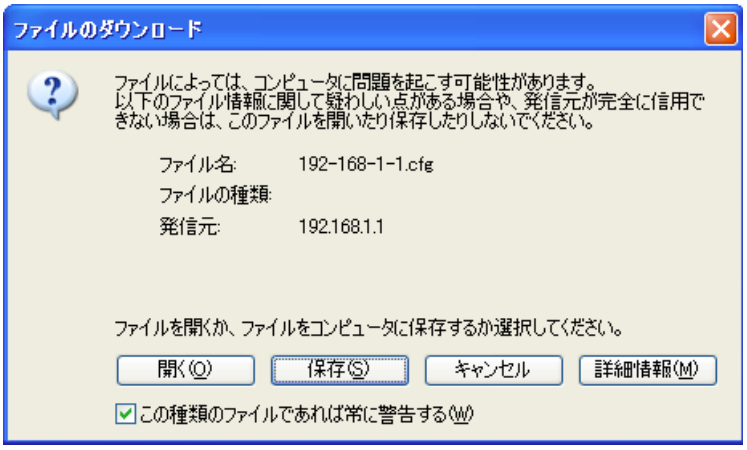
ご注意

更新中はシステム内のすべての交換機・各種インターフェースユニット前面の STATUS 表示灯、または IP 端末の状態表示灯が点灯します。絶対に電源を切る、再起動、LAN ケーブルを抜くなどをしないでください。

■ 設定ファイルをダウンロードする

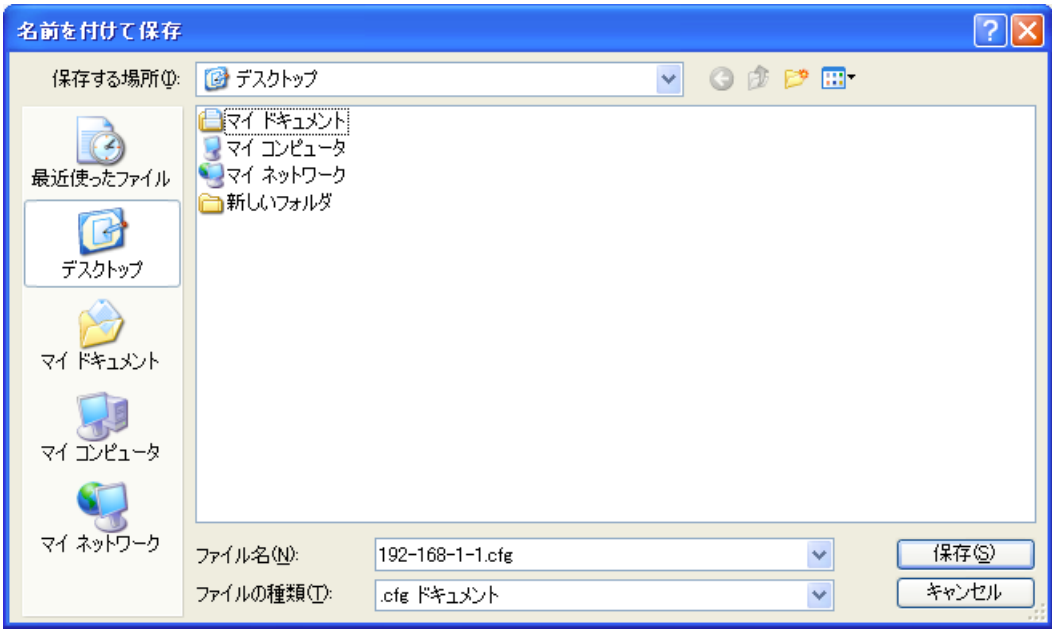
1 ダウンロードボタンを押す。

［ファイルの選択］ダイアログが表示されます。



2 保存ボタンを押す。

ダイアログが表示されます。



3 保存場所を選択し、ファイル名を入力する。

メ　モ

最初、ファイル名は［IP アドレス］.cfg になっています。

4 ファイルの種類は「すべてのファイル」を選択して、［保存］ボタンを押す。

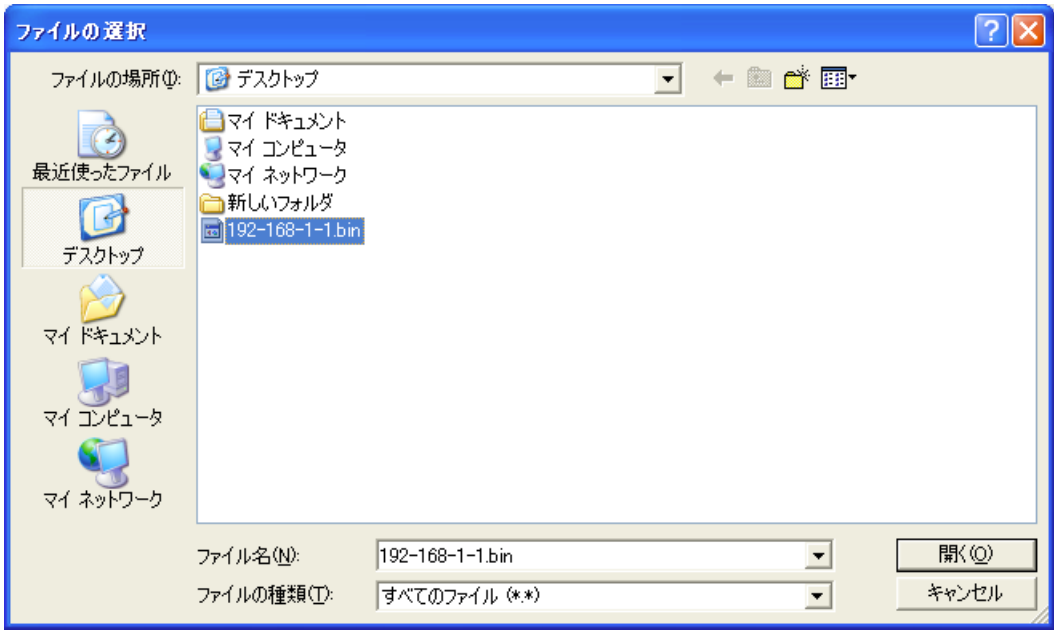
■ ファームウェアを更新する

ご注意

ファームウェアを更新すると、バージョンアップの内容によっては、すでに設定されているデータを消去する（工場出荷状態に戻す）場合があります。
必ず現在の設定ファイルをパソコンに保存してから、更新してください。
更新後、ネットワーク設定、システム名とパスワードの変更を行い、保存しておいた設定ファイルを N-8000 ソフトウェアでアップロードして、設定しなおしてください。

1 参照ボタンを押す。

［ファイルの選択］ダイアログが表示されます。



2 ファームウェア（拡張子 bin）を選択し、［開く］ボタンを押す。

最新のものを下記サイトからダウンロードしてお使いください。

メ　モ

- ファームウェアの最新版を TOA 商品データダウンロードサイト（http://www.toa-products.com/）で公開しています。
- 現在のファームウェアのバージョンは、ブラウザーのシステム管理画面で確認できます。

3 ファームウェア更新ボタンを押す。

ファームウェアの更新を開始します。

ご注意

更新中はシステム内のすべての交換機・各種インターフェースユニット前面の STATUS 表示灯、または IP 端末の状態表示灯が点灯します。絶対に電源を切る、再起動、LAN ケーブルを抜くなどをしないでください。

■ 時刻を設定する

システム内のすべての交換機、各種インターフェースユニット、または IP 端末間で時差がある場合など、個別に時刻設定が行えます。
また、時刻設定の欄に赤字で「時刻が設定されておりません」と表示されたときは、過去一度も設定されていないか、長時間電源が切れていた可能性がありますので、設定を行ってください。

● 時刻取得ボタンを使用する方法

パソコンの年月日および時刻に合わせることができます。

1 時刻取得ボタンを押す。

2 設定ボタンを押す。

● パソコンのキーで入力する方法

時刻を入力することができます。この方法では、年月日は変更できません。

1 時、分を入力する。
入力するセルにカーソルを移動して、24 時制で入力してください。

2 設定ボタンを押す。

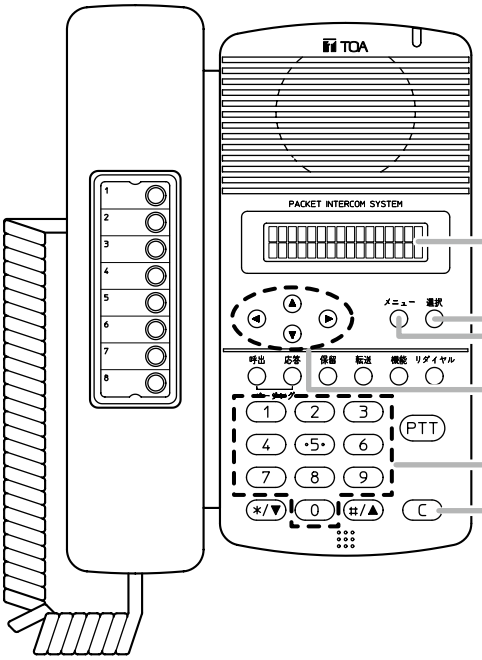
第７章

多機能端末の
メニュー操作画面
（N-8000MS/8500MS
/8600MS のみ）

この章では、多機能マスター端末および IP 多機能マスター端末のメニュー画面を使用した設定や表示などの操作について説明します。

メニュー画面の操作に使用するキー

多機能マスター端末 N-8000MS、IP 多機能マスター端末 N-8500MS/8600MS のメニュー画面での操作には、次のキーを使用します。



※ 図は N-8000MS です。

メニュー項目

- 1. オートダイヤル登録（☞ P. 2-12）
  オートダイヤルキーに登録します。
- 2. 回線モニター（☞ P. 7-4）
  交換機の回線の接続状態をモニターします。
- 3. ログファイル更新（☞ P. 7-5）
  交換機または N-8500MS/8600MS の動作履歴のファイルを更新します。
- 4. 音量（☞ P. 7-5）
  N-8500MS/8600MS の設定音量を確認します。（N-8500MS/8600MS のみ）
- 5. LCD バックライト（☞ P. 7-6）
  N-8600MS の液晶画面（LCD）のバックライトのオン／オフを設定します。（N-8600MS のみ）
- 0. 保守（☞ P. 7-7）
  - 1. ネットワーク設定（☞ P. 7-8）
    交換機または N-8500MS/8600MS の IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを変更します。
  - 2. 回線属性設定（☞ P. 7-9）
    すべての端末および IP 端末の端末番号を設定します。
  - 3. 時刻設定（☞ P. 7-10）
    システムの時刻を設定します。
  - 4. 交換機リセット（☞ P. 7-11）
    交換機または N-8500MS/8600MS を再起動します。
    ※ ネットワークの設定を変更したときは、交換機または N-8500MS/8600MS を再起動する必要があります。

回線状態をモニターする

N-8000MS に接続されている交換機の全 16 回線の接続状態をその端末の液晶画面に表示します。
N-8500MS/8600MS ではモニターできません。

1 **メニューキーを押す。**
設定モードになります。

```
→1：ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙﾄｳﾛｸ
 2：ｶｲｾﾝﾓﾆﾀｰ
```

2 **下矢印キーまたは［2］キーを押して、カーソルを「2：カイセンモニター」に移動させる。**

```
 1：ｵｰﾄﾀﾞｲﾔﾙﾄｳﾛｸ
→2：ｶｲｾﾝﾓﾆﾀｰ
```

3 **選択キーを押す。**
操作している端末が接続されている交換機の全 16 回線の接続状態が表示されます。
左から、回線 1、回線 2、…、回線 16 の順番です。

```
 2：ｶｲｾﾝﾓﾆﾀｰ
OOOXOOOXXOOFFOOO
```

表示文字	内　容	詳　細
O	接続あり（正常）	回線に端末が接続され、端末との間で正常に通信されています。
X	接続なし	回線に端末が接続されていないか、断線しています。
F	接続あり（異常）	回線に端末が接続されていますが、正しく通信ができません。

N-8500MS/8600MS の場合は、「ジョウホウナシ」と表示されます。

4 **メニューキーを押す。**
通常モードに戻り、待ち受け表示になります。

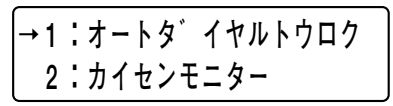
```
10：08  AM
          2000
```

ログファイルを更新する

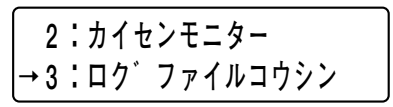
交換機または N-8500MS/8600MS *の動作履歴を蓄積するファイルを更新します。トラブル発生時などにパソコンから動作履歴が参照（ブラウザーによる動作ログ表示 ☞ P. 6-40 ）できない場合に、この操作を行います。以下の手順で、端末でログファイルを更新してから交換機または N-8500MS/8600MS を再起動してください。

* N-8000MS の場合は接続されている交換機、N-8500MS/8600MS の場合はその端末

1 **メニューキーを押す。**
設定モードになります。

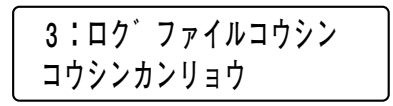


2 **下矢印キーまたは［3］キーを押して、カーソルを「3：ログファイルコウシン」に移動させる。**

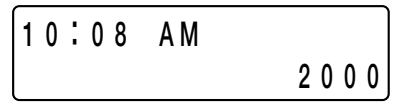


3 **選択キーを押す。**
交換機または N-8500MS/8600MS のログファイルが更新されます。

ご注意
更新中は交換機前面の STATUS 表示灯または N-8500MS/8600MS の状態表示灯が点灯します。絶対に再起動したり電源を切ったりしないでください。



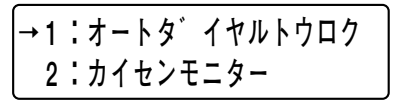
4 **メニューキーを押す。**
通常モードに戻り、待ち受け表示になります。



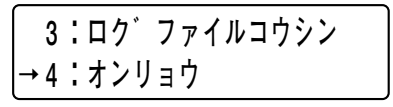
音量の設定を確認する（N-8500MS/8600MS のみ）

N-8500MS/8600MS のマイク感度とスピーカー出力の設定を確認できます。

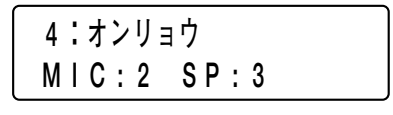
1 **メニューキーを押す。**
設定モードになります。



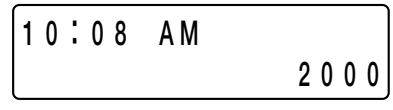
2 **下矢印キーまたは［4］キーを押して、カーソルを「4：オンリョウ」に移動させる。**



3 **選択キーを押す。**
設定されているマイク感度（MIC）とスピーカー出力（SP）が表示されます。
マイク感度は 1 ～ 3 の 3 段階で表示されます。1 が最小、3 が最大です。
スピーカー出力のレベルは 1 ～ 5 の 5 段階で表示されます。1 が最小、5 が最大です。



4 **メニューキーを押す。**
通常モードに戻り、待ち受け表示になります。



LCD バックライトの設定をする（N-8600MS のみ）

N-8600MS の液晶画面（LCD）のバックライトのオン／オフを設定できます。

1 **メニューキーを押す。**
設定モードになります。

```
→1：オートﾀﾞｲﾔﾙﾄｳﾛｸ
 2：カイセンモニター
```

2 **下矢印キーまたは［5］キーを押して、カーソルを「5：LCD バックライト」に移動させる。**

```
 4：オンリョウ
→5：LCDﾊﾞｯｸﾗｲﾄ
```

3 **選択キーを押す。**
現在の設定がカーソルで表示されます。

```
 5：LCDﾊﾞｯｸﾗｲﾄ
→ON  OFF  オート
```

4 **左右矢印キーを押してカーソルを「ON」、「OFF」または「オート」に移動させる。**
設定内容は以下のとおりです。

ON	：常時オン（工場出荷時の設定）
OFF	：常時オフ
オート	：待ち受け時はオフ、使用時はオン、使用後待ち受けになってから 5 秒後にオフ

```
 5：LCDﾊﾞｯｸﾗｲﾄ
ON→OFF  オート
```

5 **選択キーを押す。**
カーソルのある位置の設定に変わります。

```
 5：LCDﾊﾞｯｸﾗｲﾄ
ON→OFF  オート
```

6 **メニューキーを押す。**
通常モードに戻り、待ち受け表示になります。

```
10：08  AM
          2000
```

システムを設定する

システム設定の一部の項目についてのみ、多機能端末から設定できます。

■ 保守画面に入る

1 メニューキーを押す。
設定モードになります。

メニュー

→1：オートﾀﾞｲﾔﾙﾄｳﾛｸ
　2：カイセンモニター

2 上下矢印キーまたは［0］キーを押して、カーソルを「0：ホシュ」に移動させる。

　3：ﾛｸﾞﾌｧｲﾙｺｳｼﾝ
→0：ホシュ

3 選択キーを押す。
パスワード入力画面が表示されます。

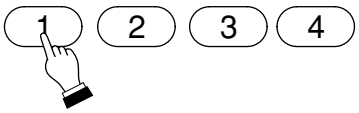
選択

ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ：
→＝＊＊＊＊

4 ダイヤルキーで 4 桁のパスワード*を入力し、選択キーを押す。

* 工場出荷時には「0000」に設定されています。N-8000 設定ソフトウェアにより、変更できます。
（☞ P. 5-30）

［例］



パスワードが正しく入力されると、システム設定画面が表示されます。

選択

→1：ﾈｯﾄﾜｰｸｾｯﾃｲ
　2：カイセンｿﾞｸｾｲｾｯﾃｲ

■ ネットワークを設定する

交換機または N-8500MS/8600MS *の IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを変更することができます。

* N-8000MS の場合は接続されている交換機、N-8500MS/8600MS の場合はその端末

1 **保守画面で上下矢印キーまたは［1］キーを押して、カーソルを「1：ネットワークセッテイ」に移動させる。**

```
→1：ネットワークセッテイ
  2：カイセンｿﾞ ｸセイセッテイ
```

2 **選択キーを押す。**

交換機または N-8500MS/8600MS の IP アドレスが表示されます。

```
ＩＰｱﾄﾞﾚｽ
→１９２．１６８．００１．１２８
```

3 **ダイヤルキーで変更したい IP アドレスを入力し、選択キーを押す。変更しないときは、選択キーだけを押す。**

交換機または N-8500MS/8600MS のサブネットマスクが表示されます。

※ ピリオド（.）の入力は必要ありません。数字を続けて入力してください。

※ ピリオドで区切られた数字が 1 桁または 2 桁の場合は、先頭に「00」または「0」を付け、3 桁にして入力してください。

（例）192.168.5.64 は「192168005064」と入力します。

```
ＩＰｱﾄﾞﾚｽ
→１９２．１６８．００５．０６４
```

```
ｻﾌﾞﾈｯﾄﾏｽｸ
→２５５．２５５．２５５．０００
```

4 **ダイヤルキーで変更したいサブネットマスクを入力し、選択キーを押す。変更しないときは、選択キーだけを押す。**

交換機または N-8500MS/8600MS のデフォルトゲートウェイが表示されます。

※ 数字の入力のしかたは、**手順 3** と同様です。

```
ｻﾌﾞﾈｯﾄﾏｽｸ
→２５５．２５５．０００．０００
```

```
ﾃﾞﾌｫﾙﾄｹﾞｰﾄｳｪｲ
→１９２．１６８．００１．２５４
```

5 **ダイヤルキーで変更したいデフォルトゲートウェイを入力し、選択キーを押す。変更しないときは、選択キーだけを押す。**

システム設定画面の項目選択表示に戻り、ネットワーク設定の変更は完了です。

※ 数字の入力のしかたは、**手順 3** と同様です。

```
ﾃﾞﾌｫﾙﾄｹﾞｰﾄｳｪｲ
→１９２．１６８．２５４．００１
```

```
→1：ネットワークセッテイ
  2：カイセンｿﾞ ｸセイセッテイ
```

6 **メニューキーを押す。**

通常モードに戻り、待ち受け表示になります。

```
１０：０８　ＡＭ
              ２０００
```

ご注意

ネットワークの設定は、変更してもすぐに更新されません。交換機または N-8500MS/8600MS を再起動すると、新しい設定内容になります。

設定変更後は、交換機または N-8500MS/8600MS を再起動してください。交換機の場合は、交換機前面の RESET キーを押すか、または交換機リセット画面（☞ P. 7-11）から交換機を再起動してください。N-8500MS/8600MS の場合は、交換機リセット画面（☞ P. 7-11）から N-8500MS/8600MS を再起動してください。

■ 端末番号を設定する

すべての端末および IP 端末の端末番号を設定できます。

1 **保守画面で上下矢印キーまたは［2］キーを押して、カーソルを「2：カイセンゾクセイセッテイ」に移動させる。**

```
 1：ネットワークセッテイ
→2：カイセンｿﾞクセイセッテイ
```

2 **選択キーを押す。**

回線属性設定画面が表示されます。

```
カイセンｿﾞクセイ
→コウカンキＮｏ．
```

3 **設定する交換機または IP 端末の機器番号（001 ～ 192）をダイヤルキー（3 桁）で入力し、選択キーを押す。**

回線番号選択画面が表示されます。

```
カイセンｿﾞクセイ
→コウカンキＮｏ．０２４
```

4 **設定する回線の回線番号（01 ～ 16）をダイヤルキー（2 桁）で入力し、選択キーを押す。**

IP 端末の場合は、回線番号 01 を選択してください。

```
ＥＸ０２４：→ＬＩＮＥ０１
  トウロクナシ
```

```
ＥＸ０２４：ＬＩＮＥ０１
→トウロクナシ
```

5 **指定した回線の端末種別をダイヤルキーまたは矢印キーで選び、選択キーを押す。**

このとき選択できる端末の種別は下記のとおりです。

```
ＥＸ０２４：ＬＩＮＥ０１
→タキノウ
```

ダイヤルキー	表　示	機器種別	該当型番
0	トウロクナシ	──	なし
1	タキノウ	多機能マスター端末、IP多機能マスター端末	N-8000MS/8500MS/8600MS
2	マスター	標準マスター端末、IP標準マスター端末、電話機	N-8010MS/8410MS/8510MS/8515MS /8610MS/8616MS/8000AL
3	ハンズフリー	ハンズフリー専用標準マスター端末	N-8011MS
4	コウジョウ	工場用マスター端末	N-8020MS
5	ウメコミ	ハンズフリー専用埋込型マスター端末	N-8031MS/8033MS
6	ドア	ドア端末、IPドア端末、サブ端末	N-8050DS/8540DS/8640DS/8650DS RS-140/142/143/144/150/160/170 /180/450/460/470/480

「トウロクナシ」を選択したときのみ、ここで登録が完了して、**手順 2** へ戻り、次の回線種別を設定したい機器番号を入力することができます。

```
カイセンｿﾞクセイ
→コウカンキＮｏ．
```

6 **指定した回線の端末番号（00 ～ 999999）をダイヤルキーで入力し、選択キーを押す。**

「ドア」を選択した場合のみ、マスター呼び出し端末番号を設定する画面が表示されますので、**手順 7** に進みます。
それ以外の場合は、登録が完了して、**手順 2** へ戻り、次の回線種別を設定したい機器番号を入力することができます。

EX024:LINE01
タキノウ→2002

カイセンゾ゛クセイ
→コウカンキNo.

7 **（ドア端末 /IP ドア端末／サブ端末の場合のみ）マスター呼び出し端末番号（00 ～ 999999）をダイヤルキーで入力し、選択キーを押す。**

登録が完了して、**手順 2** へ戻り、次の回線種別を設定したい機器番号を入力することができます。

EX024:LINE01
→マスターNo.2005

カイセンゾ゛クセイ
→コウカンキNo.

8 **メニューキーを押す。**

通常モードに戻り、待ち受け表示になります。

10:08　AM
2000

■ システム時刻を設定する

交換機または N-8500MS/8600MS *の時刻を設定できます。
システムに接続する機器間で時差がある場合などにシステム時刻を設定します。

* N-8000MS の場合は接続されている交換機、N-8500MS/8600MS の場合はその端末

1 **保守画面で上下矢印キーまたは［3］キーを押して、カーソルを「3：ジコクセッテイ」に移動させる。**

2:カイセンゾ゛クセイセッテイ
→3:ジ゛コクセッテイ

2 **選択キーを押す。**

時刻設定画面が表示されます。

ジ゛コクセッテイ
→

3 **交換機または N-8500MS/8600MS に設定する時刻を「時、分、秒」の順で 2 桁ずつダイヤルキーで入力する。**

※ 24 時制の時刻で入力してください。
※「：」の入力は必要ありません。

ジ゛コクセッテイ
→08:22:00

4 **選択キーを押す。**

手順 1 の画面に戻ります。

2:カイセンゾ゛クセイセッテイ
→3:ジ゛コクセッテイ

5 **メニューキーを押す。**

通常モードに戻り、変更された時刻での待ち受け表示になります。

8:22　AM
2000

■ 機器を再起動する

ネットワーク設定を変更したときなどに、交換機または N-8500MS/8600MS * を再起動します。
交換機前面の RESET キーを押さなくても、N-8000MS からの操作で交換機を再起動できます。

* N-8000MS の場合は接続されている交換機、N-8500MS/8600MS の場合はその端末

ご注意

交換機を再起動するときは、その交換機でページング、通話、ファームウェアの更新などの操作が行われていないことを確認してから行ってください。

1 保守画面で上下矢印キーまたは［4］キーを押して、カーソルを「4:コウカンキリセット」に移動させる。

```
 3:ｼﾞｺｸｾｯﾃｲ
→4:ｺｳｶﾝｷﾘｾｯﾄ
```

2 選択キーを押す。
確認画面が表示されます。

```
ｺｳｶﾝｷﾘｾｯﾄOK?
 Yes→No
```

3 左右矢印キーを押して、カーソルを「Yes」に移動させる。

```
ｺｳｶﾝｷﾘｾｯﾄOK?
→Yes  No
```

4 選択キーを押す。
手順 1 の画面に戻り、交換機または N-8500MS/8600MS が再起動されます。
再起動中は、キー操作は受け付けられません。
再起動が完了すると、待ち受け表示になります。

```
 3:ｼﾞｺｸｾｯﾃｲ
→4:ｺｳｶﾝｷﾘｾｯﾄ
```

```
 8:22  AM
        2000
```

第 8 章

付録

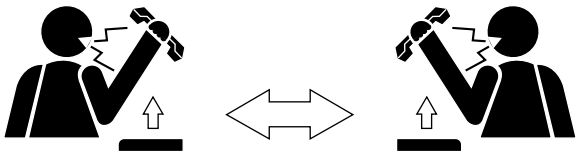
同時通話と交互通話について

■ 通話方式

パケットインターカムでは、端末間の通話方式は、5 通りあります。
それぞれの通話方式がどのような条件のときに動作するかについては、P. 8-5 の表を参照してください。

● ハンドセット通話同士の同時通話

一般加入電話で通常使用されている方法と同じです。
両者の音声が常に伝達できます。
（☞ P. 8-5「同時通話」）

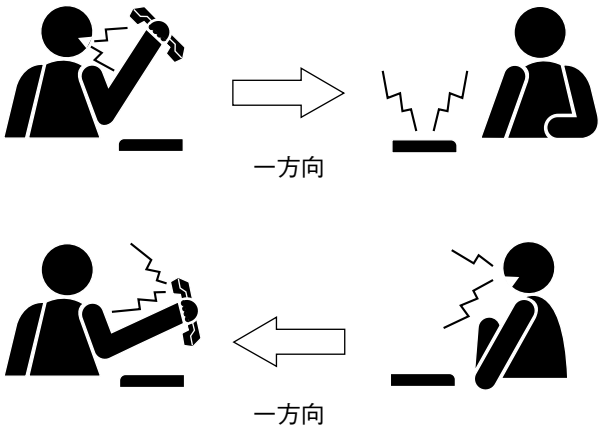


● エコーキャンセラーによる同時通話

エコーキャンセラーの働きにより、両者が同時に会話をすることができます。（☞ P. 8-5「AEC」）
エコーキャンセラーとは、端末の内部スピーカーからの音声がマイクに入ることによって発生するハウリングやエコーを防止する回路のことです。

● 音声スイッチによる交互通話

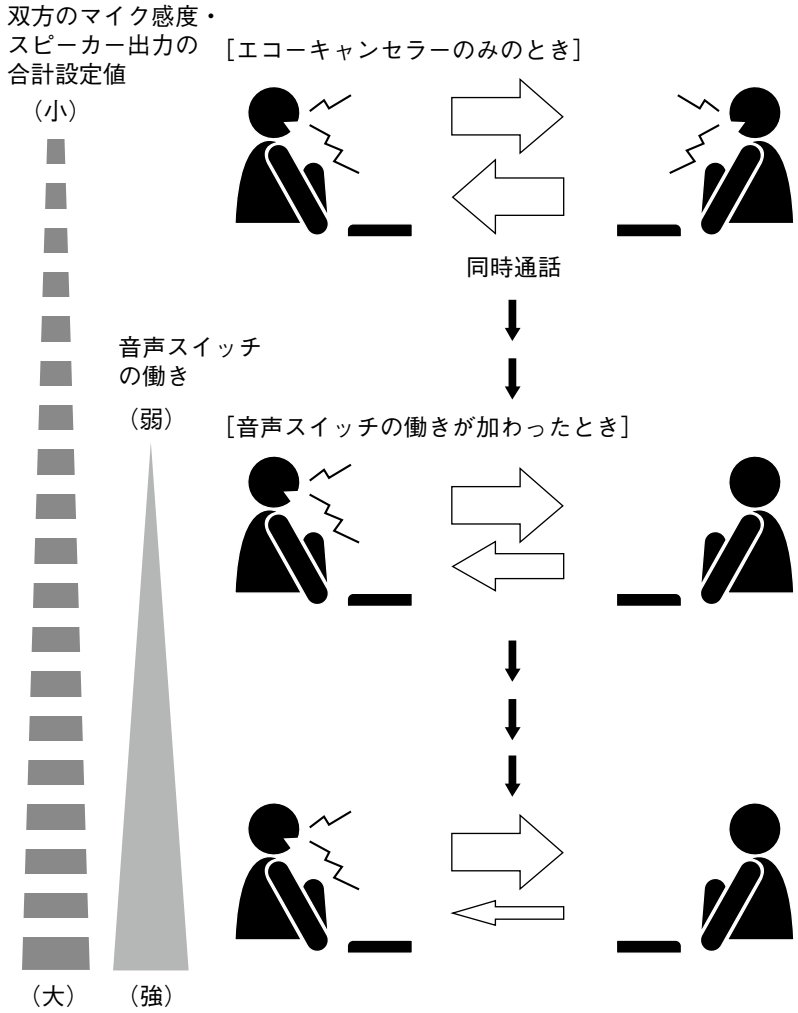
音声を発した側からの一方向通話です。
相手が話し終えてから音声を発すると、音声の伝達方向が切り換わり、交互に会話をすることができます。
（相手の話し中に音声を発しても、方向は切り換わりません。）
（☞ P. 8-5「VS」）



● エコーキャンセラーと音声スイッチを組み合わせた同時通話

エコーキャンセラー（☞ 前ページ）と音声スイッチを組み合わせた通話方式です。
この通話方式では、エコーキャンセラーは常に動作しています。
この動作に、音声スイッチによる働きが加わります。音声スイッチは相手の音量を減衰させる働きをします。音声スイッチの働きが強いときは減衰量が大きくなり、弱いときは減衰量が小さくなります。この動作の強さは、双方の端末のマイク感度とスピーカー出力の合計設定値に左右されます。合計設定値が小さくなると、音声スイッチの働きが弱く、減衰量が小さくなり（減衰量が 0 になるとエコーキャンセラーのみの動作となる）、設定値が大きくなると音声スイッチの働きが強く、減衰量が大きくなります。
このように動作することで、相手の音声をカットしないので、できるだけハンドセット通話同士の同時通話に近い状態で使用できるようになっています。ただし、端末のマイク感度・スピーカー出力の設定によっては、相手の音声がほとんど聞こえないような状態になります。

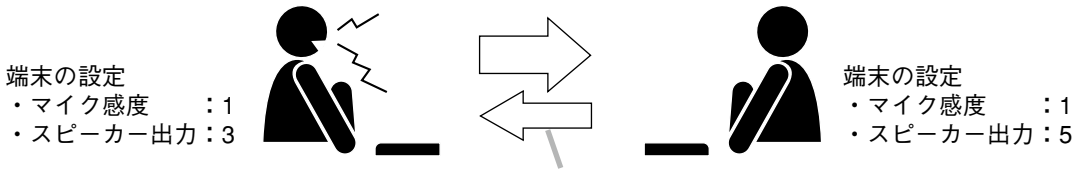
（☞ P. 8-5「AEC ＋ VS」）



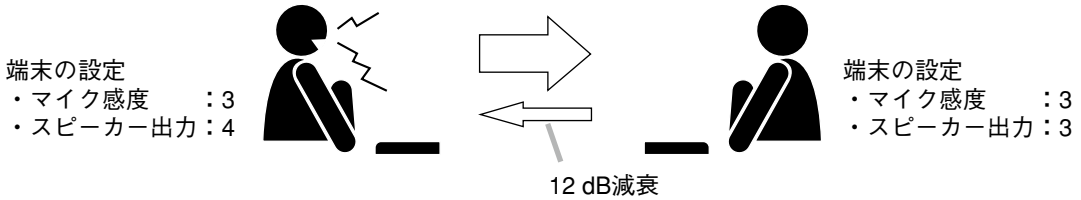
※ エコーキャンセラーは常に動作しています。
※ 同時通話の白い矢印が細くなるほど、伝達する音量が小さいことを示しています。

［設定例］

（例1：双方の端末の合計設定値が10のとき）

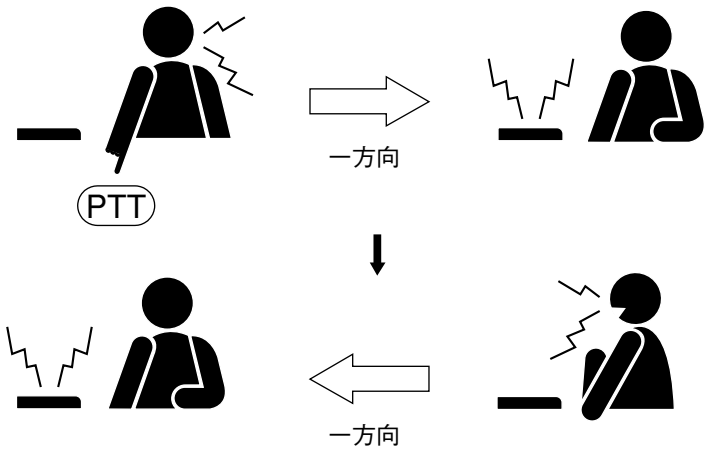


（例2：双方の端末の合計設定値が13のとき）



● PTT キーの操作による交互通話

PTT キーを押すと、押した側からの一方向通話になり、離すと相手側からの一方向通話になります。
両端末が操作したときは、後押し優先となります。
（☞ 次ページ「PTT 通話」）



■ 端末の使用状況による通話方式の違い

パケットインターカムでは、ハンズフリーでの同時通話が可能です。しかし、使用する端末や通話相手、またそれぞれの使用状況（ハンドセットかハンズフリーか、など）によって、エコーキャンセラーや音声スイッチの動作が変化し、交互通話となる場合もあります。
ハンズフリー通話を上手にお使いいただくには、設定や操作のしかたに考慮が必要です。（次項参照）
端末の使用状況と通話方式の対応を表にまとめました。使用環境などを考慮するときの参考にしてください。

発呼側＼被呼側		マスター端末、IP マスター端末（N-86xxMS）		IP リモートマイク端末	ドア端末、IP ドア端末（N-86xxDS）	IP マスター端末（N-85xxMS）、アナログマスター端末		IP ドア端末（N-8540DS）	サブ端末
		ハンドセット	ハンズフリー			ハンドセット	ハンズフリー		
マスター端末、IP マスター端末（N-86xxMS）	ハンドセット	同時通話	AEC PTT 通話	AEC PTT 通話	AEC PTT 通話	同時通話	VS PTT 通話	VS PTT 通話	VS PTT 通話
	ハンズフリー	AEC PTT 通話	AEC ＋ VS PTT 通話	AEC ＋ VS PTT 通話	AEC ＋ VS PTT 通話	AEC PTT 通話	VS PTT 通話	VS PTT 通話	× （通話不可能）
IP リモートマイク端末		AEC PTT 通話	AEC ＋ VS PTT 通話	AEC ＋ VS PTT 通話	AEC ＋ VS PTT 通話	AEC PTT 通話	VS PTT 通話	VS PTT 通話	× （通話不可能）
ドア端末、IP ドア端末（N-86xxDS）		AEC	AEC ＋ VS PTT 通話	AEC ＋ VS PTT 通話	× （通話不可能）	AEC PTT 通話	VS PTT 通話	× （通話不可能）	× （通話不可能）
IP マスター端末（N-85xxMS）、アナログマスター端末	ハンドセット	同時通話	AEC PTT 通話	AEC PTT 通話	AEC	同時通話	VS PTT 通話	VS PTT 通話	VS PTT 通話
	ハンズフリー	VS PTT 通話	VS PTT 通話	VS PTT 通話	VS PTT 通話	VS PTT 通話	VS PTT 通話	VS PTT 通話	× （通話不可能）
IP ドア端末（N-8540DS）		VS PTT 通話	VS PTT 通話	VS PTT 通話	× （通話不可能）	VS PTT 通話	VS PTT 通話	× （通話不可能）	× （通話不可能）
サブ端末		VS PTT 通話	× （通話不可能）	× （通話不可能）	× （通話不可能）	VS PTT 通話	× （通話不可能）	× （通話不可能）	× （通話不可能）

※ 表中の用語についての解説
- ・発呼側　　：呼び出しをする端末と、その使用状況を示します。
- ・被呼側　　：呼び出しを受けた端末と、その使用状況を示します。
- ・AEC　　：エコーキャンセラーが動作する状態です。同時通話が常に可能です。
- ・VS　　：音声スイッチが動作する状態です。交互通話をすることができます。
- ・AEC ＋ VS ：端末のマイク感度・スピーカー出力の設定に応じて、エコーキャンセラーと音声スイッチを組み合わせた動作となります。
- ・PTT 通話　：マスター端末、IP マスター端末、または IP リモートマイク端末の PTT キーを押すと、交互通話をすることができます。
- ・同時通話　：ハンドセット同士の通話では、同時通話が常に可能です。
- ・通話不可能：ドア端末同士、サブ端末同士、ドア端末とサブ端末間の通話はできません。

※ 端末の機種対応は下記のとおりです。
- ・マスター端末　　：N-8000MS、N-8010MS、N-8011MS、N-8020MS、N-8031MS、N-8033MS
- ・ドア端末　　：N-8050DS
- ・IP マスター端末　　：N-8500MS、N-8510MS、N-8515MS、N-8600MS、N-8610MS（N-8616MS は除く）
- ・IP リモートマイク端末：N-8610RM
- ・IP ドア端末　　：N-8540DS、N-8640DS、N-8650DS
- ・アナログマスター端末：N-8410MS

※ サブ端末と通話する場合、マスター端末、IP マスター端末では必ずハンドセットを使用してください。このときの通話はすべて交互通話となります。

※ アナログマスター端末が同一のサブ端末接続ユニットに接続されたアナログマスター端末と通話する場合、ハンズフリー同士の通話は交互通話、それ以外は同時通話となります。

※ N-8616MS の通話は、ハンズフリーの場合は PTT 通話、ハンドセットの場合は同時通話となります。

※ N-8000CO を用いた局線との通話は、ハンズフリーの場合は音声スイッチによる交互通話、ハンドセットの場合は同時通話となります。

※ N-8000AL に接続されたアナログ電話機は、マスター端末のハンドセット使用時と同じ動作になります。

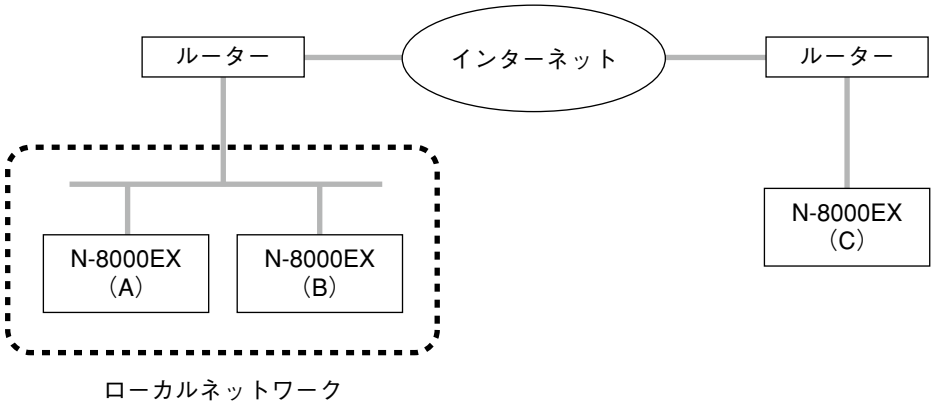
■ 通話が正しく行えないときの対処のしかた

- マスター端末およびドア端末の音声スイッチがうまく切り換わらないときは、マイク感度・スピーカー出力を調節してください。（☞ マスター端末：P. 2-5、P. 5-68、P. 5-83、ドア端末：P. 5-68、P. 5-83）
- IP 端末では、自動的に常に最適な通話ができるようになっていますが、音声スイッチがうまく切り換わらないときは、マイク感度・スピーカー出力を調節してください。（☞ P. 2-5、P. 2-97、P. 5-68）
- ハンズフリー同士の通話で、周囲騒音が大きくて片方通話になってしまうときや通話中にエコーが発生するときは、PTT 通話の操作をしてお使いください。

ネットワークの豆知識

■ IP ネットワークとアドレス

交換機、各種インターフェースユニット、および IP 端末で使用可能な IP ネットワークには、社内や構内など小規模地域で使用する LAN（ローカルネットワーク）や、広域遠隔地で使用するインターネットなどがあります。



ローカルネットワークとインターネットでは使用する IP アドレスが異なります。

ローカルアドレス（プライベート IP アドレス）：
　ローカルネットワークで使用します。ローカルネットワーク内では自由に設定できるアドレスです。

グローバル IP アドレス：
　インターネットを利用するために使用する 1 つしかないアドレスです。
　交換機、各種インターフェースユニット、および IP 端末をインターネット経由で使用するときは、固定のグローバル IP アドレスを取得し、各機器に割り当てる必要があります。ルーターを使用するときは、ルーターにグローバル IP アドレスを設定します。

機器 B から機器 A に接続するときはローカルアドレスを使用することができますが、機器 C から機器 A に接続するときはグローバル IP アドレスを使用する必要があります。

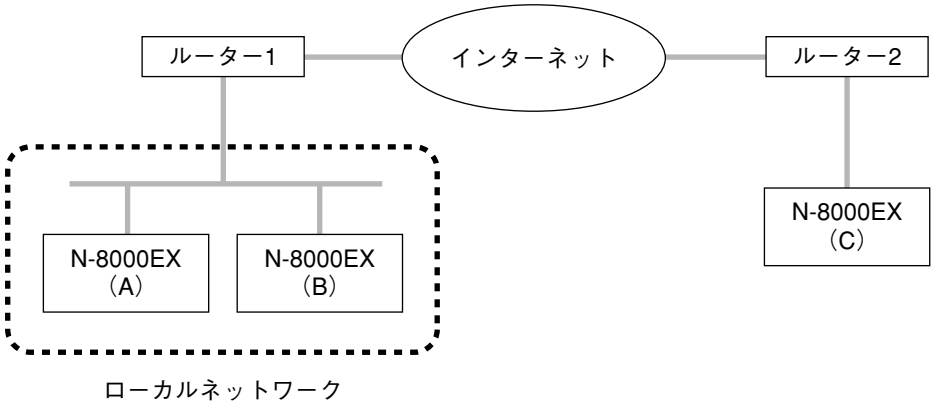
インターネット経由で接続する場合、接続先の機器に、固定のグローバル IP アドレスを割り当てる必要があります。
固定のグローバル IP アドレスの取得については、ネットワーク管理者またはインターネットプロバイダーにお問い合わせください。

ご注意

インターネットの場合、伝送品質が保証されているわけではありません。ネットワークが混雑している状態では、パケットの欠落が起こり、通話音声が途切れたり、ノイズが出たりする場合があります。

■ ネットワークアドレスポート変換（NAPT、IP マスカレード）と N-8000 設定ソフトウェア

ローカルネットワークで使用されているローカルアドレスではインターネットに接続できないため、ネットワークアドレスポート変換（NAPT：Network Address Port Translation、IP マスカレード）により、ローカルアドレスをグローバル IP アドレスに変換する必要があります。



機器 C から機器 A へ接続するときはグローバル IP アドレスで接続します。接続に使用されたグローバル IP アドレスはルーター 1 により機器 A のローカルアドレスへ変換されます。

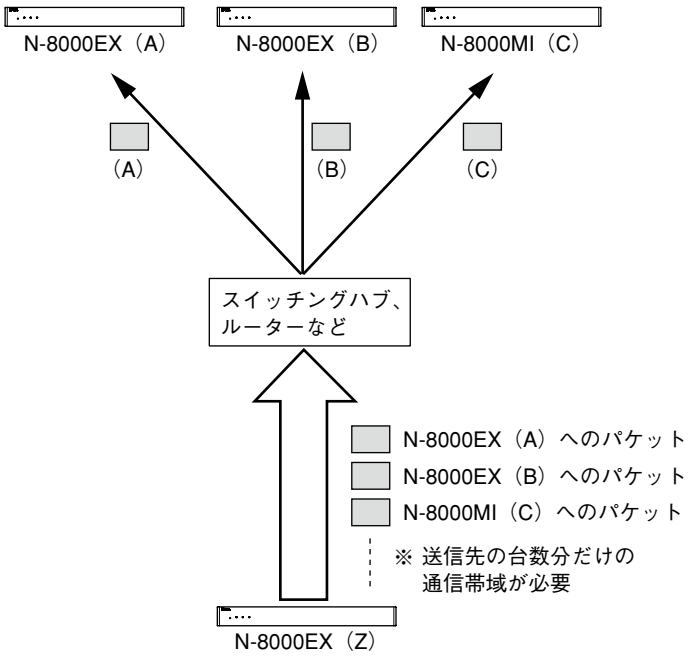
N-8000 設定ソフトウェアは NAPT（IP マスカレード）に対応しています。
NAPT（IP マスカレード）を使用して接続された機器の設定をする場合は、交換機、各種インターフェースユニット、IP 端末の「ネットワーク設定」タブで表示される画面内の「NAPT 対応」にチェックを入れ、ルーターの IP アドレス、ポート番号を入力してください。（☞ P. 5-34、5-42、5-54、5-62、5-89、5-97、5-106、5-114、5-121）

■ ユニキャストとマルチキャストの違い

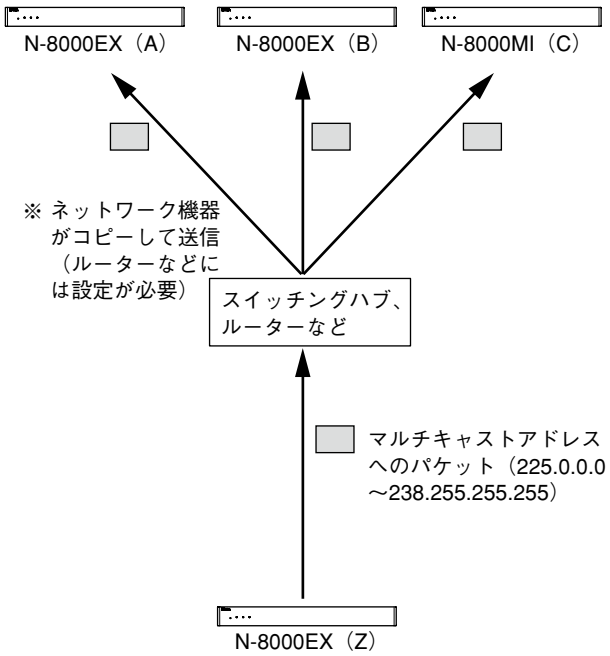
ネットワーク接続された複数の交換機、各種インターフェースユニット、または IP 端末を介してページングをする場合、ユニキャストとマルチキャストという 2 つの通信方法を選択することができます。
ユニキャストは宛先となる個々の IP アドレスに対して、それぞれ別のパケットを作成して送出する方法で、マルチキャストは特殊なマルチキャストアドレスを宛先にした 1 つのパケットを送出する方法です。
マルチキャストを利用すると、通信帯域を少なくできるというメリットがあります。しかしマルチキャストを使用するネットワーク上のルーターなどのネットワーク機器（ノンインテリジェントなハブやスイッチは除く）は、特殊なマルチキャストアドレス宛てのパケットを通信できるようにする IGMP（Internet Group Management Protocol）などのサポートが必要です。このシステムで有効なマルチキャストアドレス範囲は 225.0.0.0 から 238.255.255.255 です。（一部使えないマルチキャストアドレスがあります。☞ P. 5-28）

※マルチキャストアドレスを設定する場合は、その通信が可能かどうかも含め、ネットワーク管理者にご相談ください。
ユニキャストを利用すると、送信先となる交換機、各種インターフェースユニット、または IP 端末の台数分の通信帯域が送信元の交換機または IP 端末側に必要になります。

［ユニキャスト］



［マルチキャスト］



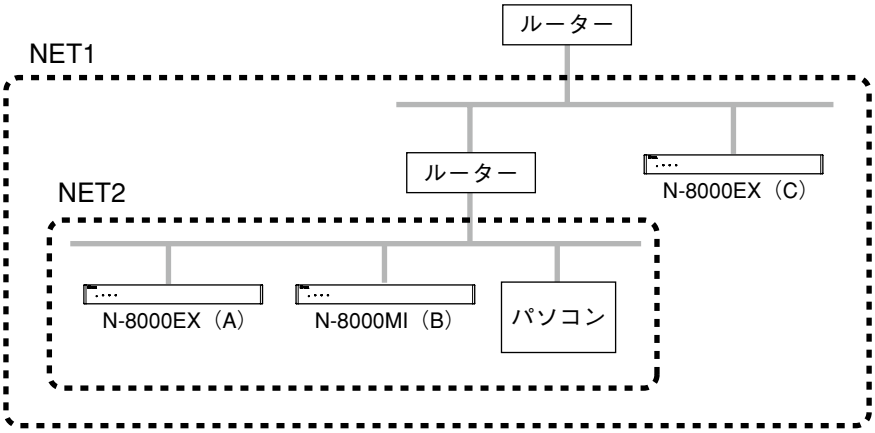
■ ネットワーク経由でのページング先の制限

上記ユニキャストとマルチキャスト、それぞれの通信方法によってネットワーク経由でのページングをする場合、ページングの送信先の数に下記のとおり制限があります。

- マルチキャストのみのページング先　：191 カ所まで
- ユニキャストのみのページング先　：交換機、IP 端末（N-8616MS を除く）、N-8000MI は 16 カ所まで
  各種インターフェースユニット、N-8616MS は 8 カ所まで
- マルチキャスト＋ユニキャストの場合：マルチキャストとユニキャストを合わせて 191 カ所まで
  ただし、ユニキャストは交換機、IP 端末（N-8616MS を除く）、N-8000MI は 15 カ所まで、各種インターフェースユニット、N-8616MS は 7 カ所まで

■ 機器検出とブロードキャストドメイン

ローカルネットワーク上に接続された機器（交換機、各種インターフェースユニット、および IP 端末）の検出には、ブロードキャストという通信方法を利用します。したがって、機器の検出は、ネットワーク上のブロードキャストが伝送できる範囲でのみ可能です。この範囲をブロードキャストドメインといいます。検出に使用するブロードキャストアドレスは 255.255.255.255 です。ローカルネットワーク内でもルーターを超える場合は、通常ブロードキャストパケットは届きません。

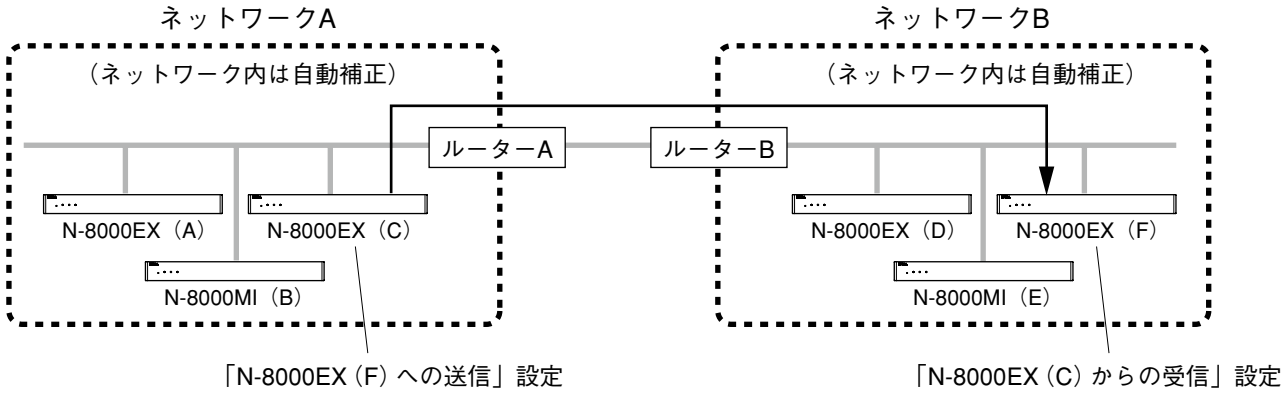


上図の NET1 はネットワークを表しています。NET2 はブロードキャストが有効な範囲です。例えば図のパソコンから機器の検出をした場合、機器 C は同一ローカルネットワーク内でも検出できません。

※ ブロードキャストが有効な範囲は、ネットワーク管理者にご確認ください。

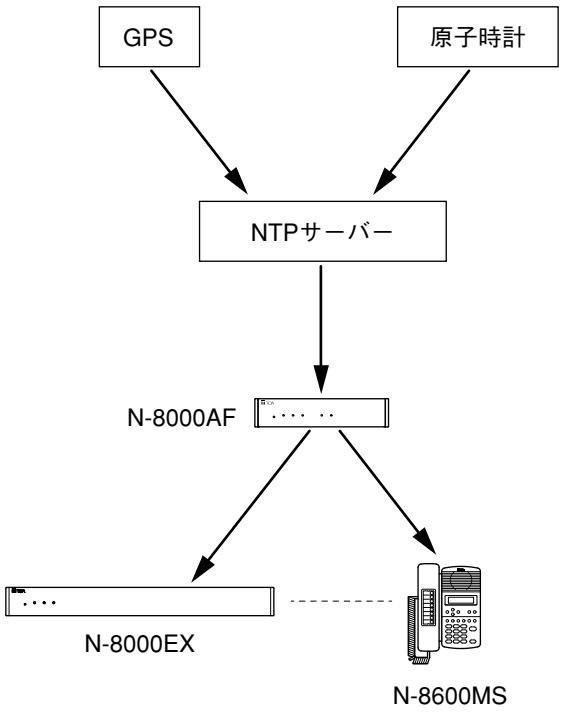
■ サンプリング周波数補正機能（N-8000EX/8010EX/8000MI のみ）

システム上の全交換機およびマルチインターフェースユニットの動作クロックを同じ値に補正します。動作クロックが補正されていないと、2 分以上の放送をする場合に音声が途切れることがあります。
工場出荷時の設定では、上記ブロードキャストドメインの中の機器同士は、すべて自動で補正が可能です。ルーターなどで分けられたネットワーク A、B に接続された機器間のサンプリング周波数補正を実現するには、ネットワーク A に接続されている交換機またはマルチインターフェースユニットの任意の 1 台にサンプリング周波数補正送信の設定を行います。補正情報の送信先をネットワーク B に接続されている交換機またはマルチインターフェースユニットの任意の 1 台の IP アドレスに設定します。その B の任意の 1 台には補正情報受信の設定をします。ルーター B がアドレス変換（NAT）をしている場合は、補正情報の送信先にルーター B のグローバル IP アドレスを設定します。
補正情報の転送先の数の制限は、ユニキャストおよびマルチキャスト合計で 16 カ所までです。



■ NTP（Network Time Protocol）

NTP は、TCP/IP ネットワークを通じて正しい現在時刻を取得するためのプロトコルです。通常、UDP ポート 123 番を使用して通信を行います。
NTP クライアントに設定した N-8000AF は、NTP サーバーと通信して時刻情報を取得し、現在時刻を設定します。



故障かな？と思ったら

症　状	調べるところ	処　置
交換機、各種インターフェースユニットが動作しない。	電源、ケーブルなどが正しく接続されていますか？	正しく接続してください。
	機器前面の表示灯がすべて消灯していませんか？	電源を入れてください。
	機器前面の STATUS 表示灯がずっと点灯している、または、STATUS 表示灯が 3 回点滅して 1 秒消灯という状態を繰り返していませんか？	「表示灯の状態と異常時の対処のしかた」（☞ P. 8-15 ）を確認してください。
IP 端末が動作しない。	電源、ケーブルなどが正しく接続されていますか？	正しく接続してください。
	待ち受け時の状態表示灯が 3 回点滅して 1 秒消灯という状態を繰り返していませんか？	「表示灯の状態と異常時の対処のしかた」（☞ P. 8-15 ）を確認してください。
N-8000 設定ソフトウェアが交換機、各種インターフェースユニット、IP 端末を認識できない。 （ネットワーク設定が可能な場合も含む。）	N-8000 設定ソフトウェアを使用するパソコンが、ネットワークに正しく接続、設定されていますか？	パソコンの IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを適切に設定し、正しく接続してください。
	機器の IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、ポート番号が適切に設定されていますか？	機器の IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、ポート番号を適切に設定してください。 （☞ P. 5-18、6-5）
	ルーターを介して別のネットワークと接続している場合、そのルーターが正しく設定されていますか？	ネットワーク管理者にそのルーターが正しく設定されているかを確認してください。
ブラウザーによる設定画面が正しく表示されない。 （ネットワーク設定が可能な場合も含む。）	ブラウザーによる設定をするパソコンが正しくネットワークに接続されていますか？また、ブラウザーが正しく設定されていますか？	正しく接続・設定してください。 （☞ P. 6-2）
	ブラウザーがプロキシを経由する設定になっていませんか？	ブラウザーがプロキシを経由する設定になっていると正しく表示できない場合があります。ネットワーク管理者にご相談ください。
交換機、各種インターフェースユニット、IP 端末が正しく動作しない。 （他の交換機を経由した通話やページングなどができない。）	機器登録は正しく行われていますか？	機器登録画面で機種名を正しく選択してください。（☞ P. 5-23）

症　状	調べるところ	処　置
音声が出ない、または音が歪む。	交換機または各種インターフェースユニットとアンプ、スピーカーなどが正しく接続されていますか？	正しく接続してください。
	アンプ側の音声入力ボリュームが適切に調節されていますか？	音声入力ボリュームを適切に調節してください。
	アンプ側の音声入力レベル切換スイッチが適切に設定されていますか？	音声入力レベル切換スイッチを適切に設定してください。
	音声に関する設定が適切ですか？	「音声スペック」を適切に設定してください。（☞ P. 5-36、5-44、5-56、5-64、5-91、5-99、5-108）
	通話相手のマイクの音声レベルが著しく小さい可能性があります。 通話相手のマイク（ハンドセット）が正しく接続されていますか？ または、通話相手のハンズフリー用マイク開口部がふさがれていませんか？ このような場合には、交換機の動作ログに「入力音声エラー」と表示されたり、IP 端末の動作ログに「DSP 無音障害」と表示されたりすることがあります。ログ内容をお確かめください。 （☞ P. 6-40）	通話相手のハンドセットを正しく接続してください。 または、通話相手のマイク開口部をふさいでいる物を取り除いてください。
音声に「プチッ」というノイズが入る、または途切れる。	ネットワークが混雑している可能性があります。ログ内容をお確かめください。（☞ P. 6-42）	ネットワークの混雑が確認されたときは、ネットワーク管理者にご相談ください。
端末のスピーカーから音が出ない。	端末の内部スピーカー（ハンドセット）が正しく接続されていますか？	ハンドセットを正しく接続してください。
端末の内部/外部スピーカーから音が出ない。 (N-8000MS/8020MS/8500MS/8600MS のみ)	スピーカー切換スイッチは正しく切り換えられていますか？	端末底面のスピーカー切換スイッチを使用したいスピーカー側に切り換えてください。
交換機が発熱する。	交換機前面の STATUS 表示灯の点滅が続いていませんか？	故障のおそれがあります。当社営業所にご連絡ください。
システムが一時的に止まり、数秒後に再開する。	動作ログに「ファームウェアに問題が発生しました。当社営業所に連絡してください。」と表示されていませんか？	システムに問題が発生しましたが、自動復旧しています。故障のおそれがありますので、当社営業所にご連絡ください。
交換機、各種インターフェースユニットの LNK/ACT 表示灯、IP 端末の FD 表示灯（ネットワーク接続端子側）が点灯しない。	LAN ケーブルが正しく接続されていますか？スイッチングハブなどとの接続が正しい種類のケーブル、適切なポートに接続されていますか？	LAN ケーブルを確認し、正しく接続してください。
	スイッチングハブに電源が入っていますか？	スイッチングハブの電源を入れてください。

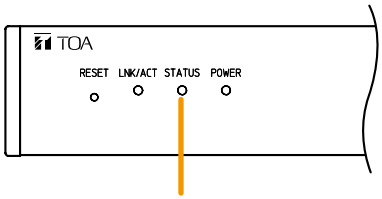
症　状	調べるところ	処　置
端末が動作しない。	ケーブルが正しく接続されていますか？	ケーブルを正しく接続してください。
パスワードを忘れた。	——	当社営業所にご連絡ください。

表示灯の状態と異常時の対処のしかた

［交換機、各種インターフェースユニットの場合］

STATUS 表示灯によって、機器の状態が確認できます。
機器の状態に応じて、以下のとおり対処してください。

交換機、各種インターフェースユニット前面左側

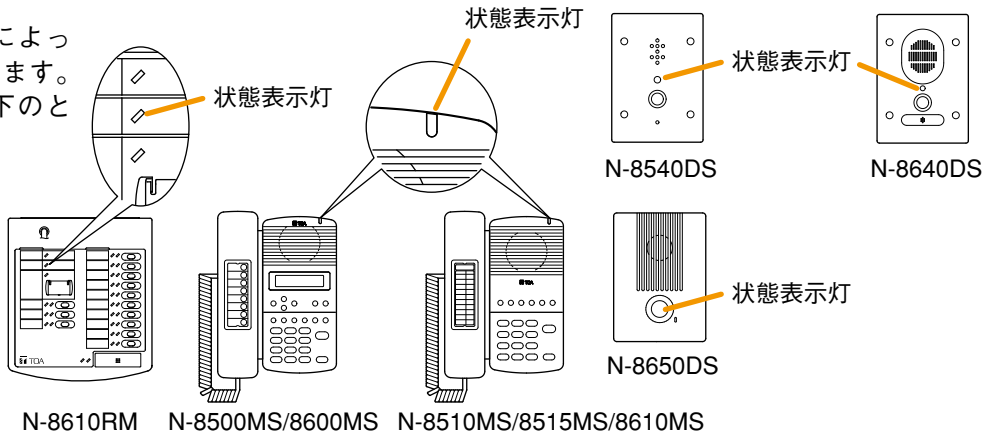


STATUS 表示灯の状態	機器の状態	対処のしかた
消灯	正常動作または電源 OFF	——
高速点滅* （200 ms 周期）	冷却ファンの故障	当社営業所にご連絡ください。
3 回点滅(200 ms 周期)の後、1 秒消灯	故障	当社営業所にご連絡ください。
数秒間点灯して消灯する状態を繰り返す。	フラッシュメモリーアクセス中（正常動作）	完全に消灯するまで、絶対に電源を切ったり、RESET キーを押したりしないでください。
点灯（長時間）	故障	当社営業所にご連絡ください。
低速点滅（4 s 周期）	通常では使用しないモードで動作中	RESET キーを押すと、通常動作に戻ります。

* N-8000EX/8010EX/8000RS/8010RS/8400RS のみ

［IP 端末の場合］

待ち受け時の状態表示灯によって、機器の状態が確認できます。
機器の状態に応じて、以下のとおり対処してください。



状態表示灯の状態	機器の状態	対処のしかた
消灯	正常動作または電源 OFF	——
3 回点滅（200 ms 周期）の後、1 秒消灯	故障	当社営業所にご連絡ください。
数秒間点灯して消灯する状態を繰り返す。	フラッシュメモリーアクセス中（正常動作）	完全に消灯するまで、絶対に電源を切ったり、再起動したりしないでください。
低速点滅（4 s 周期）	通常では使用しないモードで動作中	再起動すると、通常動作に戻ります。

仕　様

■ IP インターカム交換機　N-8000EX

電源		AC100 V、50/60 Hz
消費電力		50 W（定格時）、75 W（ピーク時）
端末I/F部	回線数	16 回線
	通話リンク数	内部 4 リンク／外部 8 リンク
	通話路構成	空間分割／時分割スイッチ併用
	伝送方式	2 線 160 kbps エコーキャンセラー伝送方式
	信号レベル	0 dB*以下
	伝送距離	最大 1500 m/φ0.65 mm（ループ抵抗 170 Ω）
	通話方式	ハンズフリー：エコーキャンセラーによる同時通話 ハンドセット：エコーキャンセラーによる同時通話／音声スイッチによる交互通話 PTT 通話
	接続コネクター	専用コネクター
	配線方式	ツイストペア線 1 対
	給電能力	DC48 V、最大 70 mA
ページング出力		音声　　：2 系統、最大 0 dB*、600 Ω、平衡 制御　　：2 系統、リレー接点出力、接点容量：DC24 V/0.5 A 接続コネクター：着脱式ターミナルブロック
ネットワーク部	ネットワーク I/F	10BASE-T/100BASE-TX 自動切り換え
	ネットワークプロトコル	TCP/IP、UDP、ARP、ICMP、HTTP、RTP、IGMP
	音声パケット伝送方式	ユニキャスト、マルチキャスト
	ページング送信数	ユニキャスト（最大 16 カ所）、マルチキャスト（最大 191 カ所）
	接続コネクター	RJ-45 コネクター
	音声サンプリング周波数	16 kHz、8 kHz（ソフトウェア切換式）
	量子化ビット数	16 ビット
	音声符号化方式	Sub-band ADPCM、暗号化
	音声パケット欠落補正	無音挿入
	音声遅延時間	80 ms、320 ms（ソフトウェア切換式
表示		LNK/ACT 表示灯、STATUS 表示灯、電源表示灯
その他		ファームウェア更新機能、システム登録データ保持機能、 RESET キー（前面パネル）、強制空冷、時刻保持機能
設置方法		ラック、壁掛け、据え置き兼用
使用温度範囲		0 ～ 40℃
使用湿度範囲		90%RH 以下（ただし結露のないこと）
仕上げ		プレコート鋼板、黒（マンセル N1.0 近似色）、3 分艶
寸法		420（幅）× 44.3（高さ）× 356（奥行）mm
質量		4.1 kg

* 0 dB = 1 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

電源コード（2 m）..... 1
CD（N-8000 設定ソフトウェアほか）..... 1
着脱式ターミナルプラグ（4P）..... 2
圧接コネクター（2P）..... 20
プラスチック足 4
小ねじ M4 × 20 4
ラックマウント金具 2
タッピンねじ 3 × 8 8
ラック取付ねじ 5 × 12（平座金付き）..... 4
壁取付金具 2
木ねじ 3.5 × 20 4

■ IP インターカム交換機　N-8010EX

電源		AC100 V、50/60 Hz
消費電力		50 W（定格時）、75 W（ピーク時）
端末I/F部	回線数	16 回線
	通話リンク数	内部 1 リンク／外部 2 リンク
	通話路構成	空間分割／時分割スイッチ併用
	伝送方式	2 線 160 kbps エコーキャンセラー伝送方式
	信号レベル	0 dB*以下
	伝送距離	最大 1500 m/φ0.65 mm（ループ抵抗 170 Ω）
	通話方式	ハンズフリー：エコーキャンセラーによる同時通話 ハンドセット：エコーキャンセラーによる同時通話／音声スイッチによる交互通話 PTT 通話
	接続コネクター	専用コネクター
	配線方式	ツイストペア線 1 対
	給電能力	DC48 V、最大 70 mA
ページング出力		ステーションページングのみ
ネットワーク部	ネットワーク I/F	10BASE-T/100BASE-TX 自動切り換え
	ネットワークプロトコル	TCP/IP、UDP、ARP、ICMP、HTTP、RTP、IGMP
	音声パケット伝送方式	ユニキャスト、マルチキャスト
	ページング送信数	ユニキャスト（最大 16 カ所）、マルチキャスト（最大 191 カ所）
	接続コネクター	RJ-45 コネクター
	音声サンプリング周波数	16 kHz、8 kHz（ソフトウェア切換式）
	量子化ビット数	16 ビット
	音声符号化方式	Sub-band ADPCM、暗号化
	音声パケット欠落補正	無音挿入
	音声遅延時間	80 ms、320 ms（ソフトウェア切換式）
表示		LNK/ACT 表示灯、STATUS 表示灯、電源表示灯
その他		ファームウェア更新機能、システム登録データ保持機能、 RESET キー（前面パネル）、強制空冷、時刻保持機能
設置方法		ラック、壁掛け、据え置き兼用
使用温度範囲		0 ～ 40℃
使用湿度範囲		90%RH 以下（ただし結露のないこと）
仕上げ		プレコート鋼板、黒（マンセル N1.0 近似色）、3 分艶
寸法		420（幅）× 44.3（高さ）× 356（奥行）mm
質量		4.2 kg

* 0 dB = 1 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

電源コード（2 m）..... 1
CD（N-8000 設定ソフトウェアほか）..... 1
圧接コネクター（2P）..... 20
プラスチック足 4
小ねじ M4 × 20 4
ラックマウント金具 2
タッピンねじ 3 × 8 8
ラック取付ねじ 5 × 12（平座金付き）..... 4
壁取付金具 2
木ねじ 3.5 × 20 4

■ 多機能マスター端末　N-8000MS

電源	DC48 V（IP インターカム交換機 N-8000EX/8010EX から供給）
消費電力	1.8 W（定格時）、2.4 W（ピーク時）
配線方式	ツイストペア線 1 対
伝送方式	2 線 160 kbps エコーキャンセラー伝送式
信号レベル	0 dB*以下
通話方式	ハンドセット／ハンズフリー通話兼用
通話帯域	300 Hz ～ 7 kHz
伝送距離	最大 1500 m/φ0.65 mm（ループ抵抗 170 Ω）
ハンズフリー	スピーカー ： 5.7 cm コーン型、0.6 W、8 Ω マイク　　： 無指向性エレクトレットコンデンサーマイクロホン
ハンドセット	受話器：ダイナミック型 送話器：エレクトレットコンデンサーマイクロホン
表示	LCD（カナ、英数字、16 文字× 2 行）、状態表示灯
回線接続端子	RJ-11 モジュラージャック
ヘッドセット端子	スピーカー　：3 mW、32 Ω 推奨マイク　：–49 dB（1 kHz、0 dB = 1 V/Pa）、エレクトレットコンデンサーマイクロホン、φ 3.5 ミニジャック
外部スピーカー端子	0.6 W、8 Ω、スクリューレスコネクター（2P）
設置方法	卓上／壁掛け兼用（壁掛け時は別売の YC-280 を使用）
使用温度範囲	0 ～ 40℃
使用湿度範囲	90%RH 以下（ただし結露のないこと）
仕上げ	本体、ハンドセット：ABS 樹脂、グレー（マンセル 6.1Y8.2/0.5 近似色）
寸法	148（幅）× 208（高さ）× 70.5（奥行）mm（コード部を除く）
質量	800 g

* 0 dB = 1 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

接続コード（3 m）..... 1

■ 標準マスター端末　N-8010MS

電源	DC48 V（IP インターカム交換機 N-8000EX/8010EX から供給）
消費電力	1.8 W（定格時）、2.4 W（ピーク時）
配線方式	ツイストペア線 1 対
伝送方式	2 線 160 kbps エコーキャンセラー伝送式
信号レベル	0 dB*以下
通話方式	ハンドセット／ハンズフリー通話兼用
通話帯域	300 Hz ～ 7 kHz
伝送距離	最大 1500 m/φ0.65 mm（ループ抵抗 170 Ω）
ハンズフリー	スピーカー ：5.7 cm コーン型、0.6 W、8 Ω マイク　　：無指向性エレクトレットコンデンサーマイクロホン
ハンドセット	受話器：ダイナミック型 送話器：エレクトレットコンデンサーマイクロホン
表示	状態表示灯
回線接続端子	RJ-11 モジュラージャック
設置方法	卓上／壁掛け兼用（壁掛け時は別売の YC-280 を使用）
使用温度範囲	0 ～ 40℃
使用湿度範囲	90%RH 以下（ただし結露のないこと）
仕上げ	本体、ハンドセット：ABS 樹脂、グレー（マンセル 6.1Y8.2/0.5 近似色）
寸法	148（幅）× 208（高さ）× 70.5（奥行）mm（コード部を除く）
質量	700 g

* 0 dB = 1 V
※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

接続コード（3 m）..... 1

■ ハンズフリー専用標準マスター端末　N-8011MS

電源	DC48 V（IP インターカム交換機 N-8000EX/8010EX から供給）
消費電力	1.8 W（定格時）、2.4 W（ピーク時）
配線方式	ツイストペア線 1 対
伝送方式	2 線 160 kbps エコーキャンセラー伝送式
信号レベル	0 dB*以下
通話方式	ハンズフリー通話専用
通話帯域	300 Hz ～ 7 kHz
伝送距離	最大 1500 m/φ0.65 mm（ループ抵抗 170 Ω）
ハンズフリー	スピーカー　：5.7 cm コーン型、0.6 W、8 Ω マイク　　：無指向性エレクトレットコンデンサーマイクロホン
表示	状態表示灯
回線接続端子	RJ-11 モジュラージャック
設置方法	卓上／壁掛け兼用（壁掛け時は別売の YC-290 を使用）
使用温度範囲	0 ～ 40℃
使用湿度範囲	90%RH 以下（ただし結露のないこと）
仕上げ	本体：ABS 樹脂、グレー（マンセル 6.1Y8.2/0.5 近似色）
寸法	92（幅）× 195（高さ）× 56.1（奥行）mm
質量	400 g

* 0 dB = 1 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

接続コード（3 m）..... 1

■ 工場用マスター端末　N-8020MS

電源	DC48 V（IP インターカム交換機 N-8000EX/8010EX から供給）
消費電力	1.8 W（定格時）、2.4 W（ピーク時）
配線方式	ツイストペア線 1 対
伝送方式	2 線 160 kbps エコーキャンセラー伝送式
信号レベル	0 dB*以下
通話方式	ハンドセット／ハンズフリー通話兼用
通話帯域	300 Hz ～ 7 kHz
伝送距離	最大 1500 m/φ0.65 mm（ループ抵抗 170 Ω）
ハンズフリー	スピーカー　：5.7 cm コーン型、0.6 W、8 Ω マイク　　：無指向性エレクトレットコンデンサーマイクロホン
ハンドセット	受話器：ダイナミック型 送話器：エレクトレットコンデンサーマイクロホン
着信接点出力	オープンコレクター出力（極性あり）、耐電圧：最大 DC30 V、 制御電流：最大 50 mA、スクリューレスコネクター（2P）
回線接続端子	RJ-11 モジュラージャック
表示	状態表示灯
外部スピーカー端子	0.6 W、8 Ω、スクリューレスコネクター（2P）
設置方法	卓上／壁掛け兼用（壁掛け時は別売の YC-280 を使用）
使用温度範囲	−10 ～ +50℃
使用湿度範囲	90%RH 以下（ただし結露のないこと）
防塵・防水性能	IP54
仕上げ	本体、ハンドセット：ABS 樹脂、グレー（マンセル 5.1Y7.3/0.4 近似色）
寸法	170（幅）× 220（高さ）× 97.8（奥行）mm（コード部、突起部を除く）
質量	1 kg

* 0 dB = 1 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

ゴムブッシング 2

■ ハンズフリー専用埋込型マスター端末　N-8031MS

電源	DC48 V（IP インターカム交換機 N-8000EX/8010EX から供給）
消費電力	1.8 W（定格時）、2.4 W（ピーク時）
配線方式	ツイストペア線 1 対
伝送方式	2 線 160 kbps エコーキャンセラー伝送式
信号レベル	0 dB*以下
通話方式	ハンズフリー通話専用（オプションハンドセット RS-191 を接続するとハンドセット通話が可能）
通話帯域	300 Hz ～ 7 kHz
伝送距離	最大 1500 m/ ϕ 0.65 mm（ループ抵抗 170 Ω）
ハンズフリー	スピーカー　：5.7 cm コーン型、0.6 W、8 Ω マイク　　：無指向性エレクトレットコンデンサーマイクロホン
回線接続端子	ピンヘッダー（2P）
表示	状態表示灯
外部ダイヤル入力	無電圧メイク接点入力、開放電圧：DC 5 V、短絡電流：1 mA、 スクリューレスコネクター（5P）
設置方法	壁埋め込み／露出兼用
使用温度範囲	0 ～ 40℃
使用湿度範囲	90%RH 以下（ただし結露のないこと）
仕上げ	パネル：ステンレス（SUS304）、ヘアライン
寸法	115（幅）× 254（高さ）× 54.6（奥行）mm
質量	850 g
適合ボックス（別売）	埋め込み：JIS C 8340　5 個用スイッチボックス（カバー付き） 露出　　：5 個用スイッチボックス（パナソニック製（DZB295 推奨））

* 0 dB = 1 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

小ねじ M4 × 25 4
着脱式ターミナルプラグ（2P、本体取り付け済み）..... 1
ハンドセットジャンパー（8P、本体取り付け済み）..... 1
フェライトクランプ 1
吸音材 1

■ オプションハンドセット　RS-191

受話器	ダイナミック型
送話器	エレクトレットコンデンサー型
使用温度範囲	0 ～ 40℃（ただし、スピーカー・スイッチが凍結しないこと）
仕上げ	ABS 樹脂、ペールホワイト（マンセル 2.5Y9/1 近似色）
寸法	116（幅）× 220（高さ）× 70（奥行）mm
質量	330 g
適合ボックス	JIS C 8340（中形四角アウトレットボックスおよび中形四角 2 個用スイッチカバー）

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

小ねじ M4 × 25 4

UNC No.6-32 × 8 4

● 適合機種

N-8031MS

■ ハンズフリー防水壁埋込マスター端末　N-8033MS

電源	DC48 V（IP インターカム交換機 N-8000EX/8010EX から供給）
消費電力	1.8 W（定格時）、2.4 W（ピーク時）
配線方式	ツイストペア線 1 対
伝送方式	2 線 160 kbps エコーキャンセラー伝送式
信号レベル	0 dB*以下
通話方式	ハンズフリー通話専用
通話帯域	300 Hz ～ 7 kHz
伝送距離	最大 1500 m/φ0.65 mm（ループ抵抗 170 Ω）
ハンズフリー	スピーカー　：5.7 cm コーン型、0.6 W、8 Ω マイク　　：無指向性エレクトレットコンデンサーマイクロホン
回線接続端子	ピンヘッダー（2P）
表示	状態表示灯
外部ダイヤル入力	無電圧メイク接点入力、開放電圧：DC 5 V、短絡電流：1 mA、 スクリューレスコネクター（5P）
設置方法	壁埋め込み／壁掛兼用
使用温度範囲	0 ～ 40℃
使用湿度範囲	90%RH 以下（ただし結露のないこと）
防塵・防水性能	IP65（ただし設置時にパネル外周をシーリング処理すること）
耐環境性能	当社耐薬品試験合格
仕上げ	メンブレンスイッチ：ポリエステルフィルム
寸法	115（幅）× 254（高さ）× 51（奥行）mm
質量	850 g
適合ボックス（別売）	壁埋め込み／露出兼用：YC-841

* 0 dB = 1 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

小ねじ M4 × 35 4
着脱式ターミナルプラグ（2P、本体取り付け済み） 1
吸音材 1

■ ドア端末　N-8050DS

電源	DC48 V（IP インターカム交換機 N-8000EX/8010EX から供給）
消費電力	1.8 W（定格時）、2.4 W（ピーク時）
配線方式	ツイストペア線 1 対
伝送方式	2 線 160 kbps エコーキャンセラー伝送式
信号レベル	0 dB*以下
通話方式	ハンズフリー通話専用
通話帯域	300 Hz ～ 7 kHz
伝送距離	最大 1500 m/φ0.65 mm（ループ抵抗 170 Ω）
ハンズフリー	スピーカー　：3.5 cm コーン型、1 W、8 Ω マイク　　：無指向性エレクトレットコンデンサーマイクロホン
接点出力	オープンコレクター出力、耐電圧：最大 DC30 V、制御電流：最大 50 mA、 ワンショット：1 ～ 9 s 設定可、ねじ締め端子（極性あり）
回線接続端子	2 線、ねじ締め端子（極性なし）
表示	状態表示灯
設置方法	壁埋め込み／露出兼用
使用温度範囲	−10 ～ +50℃
使用湿度範囲	90%RH 以下（ただし結露のないこと）
堅牢性能	BS EN62262:2002 規格 IK02 相当
防塵・防水性能	IP54（ただし設置時にパネル外周をシーリング処理すること）
仕上げ	プレート　　：ステンレス（SUS304）、ヘアライン 呼び出しボタン：金属
寸法	115（幅）× 162（高さ）× 54（奥行）mm
質量	680 g
適合ボックス（別売）	埋め込み：JIS C 8340　3 個用スイッチボックス（カバー付き） 露出　　：YS-13A

* 0 dB = 1 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

小ねじ M4 × 25 4
UNC No.6-32 × 18 4
吸音材 1

■ IP 多機能マスター端末　N-8500MS

電源		IEEE802.3af 準拠の電源供給装置または DC12 V（AC アダプターから供給）
消費電力		4.2 W（定格時）、6 W（ピーク時）
通話方式		ハンドセット／ハンズフリー通話兼用
通話帯域		300 Hz ～ 7 kHz
ハンズフリー		スピーカー　：5.7 cm コーン型、0.6 W、8 Ω マイク　　：無指向性エレクトレットコンデンサーマイクロホン
ハンドセット		受話器：ダイナミック型 送話器：エレクトレットコンデンサーマイクロホン
ヘッドセット端子		スピーカー　：3 mW、32 Ω 推奨マイク　：-49 dB（1 kHz 0 dB = 1 V/Pa）、エレクトレットコンデンサーマイクロホン、φ 3.5 ミニジャック
外部スピーカー端子		0.6 W、8 Ω、スクリューレスコネクター（2P）
ネットワーク部	ネットワーク I/F	10BASE-T/100BASE-TX 自動切り換え
	ネットワークプロトコル	TCP/IP、UDP、ARP、ICMP、HTTP、RTP、IGMP
	音声パケット伝送方式	ユニキャスト、マルチキャスト
	ページング送信数	ユニキャスト（最大 16 カ所）、マルチキャスト（最大 191 カ所）
	接続コネクター	LAN：RJ-45 コネクター（PoE 対応） PC　：RJ-45 コネクター（PoE 非対応）
	音声サンプリング周波数	16 kHz、8 kHz（ソフトウェア切換式）
	量子化ビット数	16 ビット
	音声符号化方式	Sub-band ADPCM、暗号化
	音声パケット欠落補正	無音挿入
	音声遅延時間	80 ms、320 ms（ソフトウェア切換式）
表示		LCD（カナ、英数字、16 文字×２行）、状態表示灯
設置方法		卓上、壁掛け兼用（壁掛け時は別売の YC-280 を使用）
使用温度範囲		0 ～ 40℃
使用湿度範囲		90%RH 以下（ただし結露のないこと）
仕上げ		本体、ハンドセット：ABS 樹脂、グレー（マンセル 6.1Y8.2/0.5 近似色）
寸法		148（幅）×208（高さ）×70.5（奥行）mm（コード部を除く）
質量		810 g

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

CD（N-8000 設定ソフトウェアほか）..... 1

■ IP 標準マスター端末　N-8510MS

電源		IEEE802.3af 準拠の電源供給装置または DC12 V（AC アダプターから供給）
消費電力		4.2 W（定格時）、6 W（ピーク時）
通話方式		ハンドセット／ハンズフリー通話兼用
通話帯域		300 Hz ～ 7 kHz
ハンズフリー		スピーカー　：5.7 cm コーン型、0.6 W、8 Ω マイク　　：無指向性エレクトレットコンデンサーマイクロホン
ハンドセット		受話器：ダイナミック型 送話器：エレクトレットコンデンサーマイクロホン
外部制御入力端子		無電圧メイク接点入力、開放電圧：DC 5 V、短絡電流：5 mA 以下、スクリューレスコネクター（2P）
ネットワーク部	ネットワーク I/F	10BASE-T/100BASE-TX 自動切り換え
	ネットワークプロトコル	TCP/IP、UDP、ARP、ICMP、HTTP、RTP、IGMP
	音声パケット伝送方式	ユニキャスト、マルチキャスト
	ページング送信数	ユニキャスト（最大 16 カ所）、マルチキャスト（最大 191 カ所）
	接続コネクター	LAN：RJ-45 コネクター（PoE 対応） PC　：RJ-45 コネクター（PoE 非対応）
	音声サンプリング周波数	16 kHz、8 kHz（ソフトウェア切換式）
	量子化ビット数	16 ビット
	音声符号化方式	Sub-band ADPCM、暗号化
	音声パケット欠落補正	無音挿入
	音声遅延時間	80 ms、320 ms（ソフトウェア切換式）
表示		状態表示灯
設置方法		卓上、壁掛け兼用（壁掛け時は別売の YC-280 を使用）
使用温度範囲		0 ～ 40℃
使用湿度範囲		90%RH 以下（ただし結露のないこと）
仕上げ		本体、ハンドセット：ABS 樹脂、グレー（マンセル 6.1Y8.2/0.5 近似色）
寸法		148（幅）× 208（高さ）× 70.5（奥行）mm（コード部を除く）
質量		740 g

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

CD（N-8000 設定ソフトウェアほか）..... 1

■ IP 標準マスター端末　N-8515MS

電源		DC12 V（AC アダプターから供給）
消費電力		4.2 W（定格時）、6 W（ピーク時）
通話方式		ハンドセット／ハンズフリー通話兼用
通話帯域		300 Hz ～ 7 kHz
ハンズフリー		スピーカー　：5.7 cm コーン型、0.6 W、8 Ω マイク　　：無指向性エレクトレットコンデンサーマイクロホン
ハンドセット		受話器：ダイナミック型 送話器：エレクトレットコンデンサーマイクロホン
外部制御入力端子		無電圧メイク接点入力、開放電圧：DC 5 V、短絡電流：5 mA 以下、 スクリューレスコネクター（2P）
ネットワーク部	ネットワーク I/F	10BASE-T/100BASE-TX 自動切り換え
	ネットワークプロトコル	TCP/IP、UDP、ARP、ICMP、HTTP、RTP、IGMP
	音声パケット伝送方式	ユニキャスト、マルチキャスト
	ページング送信数	ユニキャスト（最大 16 カ所）、マルチキャスト（最大 191 カ所）
	接続コネクター	LAN ：RJ-45 コネクター（PoE 非対応） PC　：RJ-45 コネクター（PoE 非対応）
	音声サンプリング周波数	16 kHz、8 kHz（ソフトウェア切換式）
	量子化ビット数	16 ビット
	音声符号化方式	Sub-band ADPCM、暗号化
	音声パケット欠落補正	無音挿入
	音声遅延時間	80 ms、320 ms（ソフトウェア切換式）
表示		状態表示灯
設置方法		卓上、壁掛け兼用（壁掛け時は付属の壁掛卓上金具を使用）
使用温度範囲		0 ～ 40℃
使用湿度範囲		90%RH 以下（ただし結露のないこと）
仕上げ		本体、ハンドセット：ABS 樹脂、グレー（マンセル 6.1Y8.2/0.5 近似色）
寸法		148（幅）× 208（高さ）× 70.5（奥行）mm（コード部を除く）
質量		730 g（本体のみ）

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

CD（N-8000 設定ソフトウェアほか） 1
壁掛卓上金具 1
AC アダプター 1
木ねじ 3.5 × 20 2
ゴム足 4

■ IP 多機能マスター端末　N-8600MS

電源		IEEE802.3af 準拠の電源供給装置または DC12 V（AC アダプターから供給）
消費電力		AC アダプター使用時（DC12 V）：2.5 W（本体） PoE 使用時（DC48 V）　　：3 W
通話方式		ハンドセット／ハンズフリー通話兼用
通話帯域		300 Hz ～ 7 kHz
ハンズフリー		スピーカー　：5.7 cm コーン型、最大出力 0.5 W、8 Ω マイク　　：無指向性エレクトレットコンデンサーマイクロホン
ハンドセット		受話器：ダイナミック型 送話器：エレクトレットコンデンサーマイクロホン
ヘッドセット端子		スピーカー　：150 Ω、φ 3.5 ミニジャック 推奨マイク　：−49 dB（1 kHz 0 dB = 1 V/Pa）、エレクトレットコンデンサーマイクロホン、φ 3.5 ミニジャック
外部スピーカー端子		最大出力 0.5 W、8 Ω、スクリューレスコネクター（2P）
ネットワーク部	ネットワーク I/F	10BASE-T/100BASE-TX 自動切り換え
	ネットワークプロトコル	TCP/IP、UDP、ARP、ICMP、HTTP、RTP、IGMP
	音声パケット伝送方式	ユニキャスト、マルチキャスト
	ページング送信数	ユニキャスト（最大 16 カ所）、マルチキャスト（最大 191 カ所）
	接続コネクター	RJ-45 コネクター（PoE 対応）
	音声サンプリング周波数	16 kHz、8 kHz（ソフトウェア切換式）
	量子化ビット数	16 ビット
	音声符号化方式	Sub-band ADPCM、暗号化
	音声パケット欠落補正	無音挿入
	音声遅延時間	80 ms、320 ms（ソフトウェア切換式）
表示		LCD（カナ、英数字、16 文字×２行）、状態表示灯
設置方法		卓上、壁掛け兼用（壁掛け時は別売の YC-280 を使用）
使用温度範囲		0 ～ 40℃
使用湿度範囲		90%RH 以下（ただし結露のないこと）
仕上げ		本体、ハンドセット：ABS 樹脂、グレー（マンセル 6.1Y8.2/0.5 近似色）
寸法		148（幅）×208（高さ）×70.5（奥行）mm（コード部を除く）
質量		770 g

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

CD（N-8000 設定ソフトウェアほか）..... 1

■ IP 標準マスター端末　N-8610MS

電源		IEEE802.3af 準拠の電源供給装置または DC12 V（AC アダプターから供給）
消費電力		AC アダプター使用時（DC12 V）：2.5 W（本体） PoE 使用時（DC48 V）　　：3 W
通話方式		ハンドセット／ハンズフリー通話兼用
通話帯域		300 Hz ～ 7 kHz
ハンズフリー		スピーカー　：5.7 cm コーン型、最大出力 0.5 W、8 Ω マイク　　：無指向性エレクトレットコンデンサーマイクロホン
ハンドセット		受話器：ダイナミック型 送話器：エレクトレットコンデンサーマイクロホン
外部制御入力端子		無電圧メイク接点入力、開放電圧：DC 12 V、短絡電流：5 mA 以下、スクリューレスコネクター（2P）
ネットワーク部	ネットワーク I/F	10BASE-T/100BASE-TX 自動切り換え
	ネットワークプロトコル	TCP/IP、UDP、ARP、ICMP、HTTP、RTP、IGMP
	音声パケット伝送方式	ユニキャスト、マルチキャスト
	ページング送信数	ユニキャスト（最大 16 カ所）、マルチキャスト（最大 191 カ所）
	接続コネクター	LAN：RJ-45 コネクター（PoE 対応） PC　：RJ-45 コネクター（PoE 非対応）
	音声サンプリング周波数	16 kHz、8 kHz（ソフトウェア切換式）
	量子化ビット数	16 ビット
	音声符号化方式	Sub-band ADPCM、暗号化
	音声パケット欠落補正	無音挿入
	音声遅延時間	80 ms、320 ms（ソフトウェア切換式）
表示		状態表示灯
設置方法		卓上、壁掛け兼用（壁掛け時は付属の壁掛卓上金具を使用）
使用温度範囲		0 ～ 40℃
使用湿度範囲		90%RH 以下（ただし結露のないこと）
仕上げ		本体、ハンドセット：ABS 樹脂、グレー（マンセル 6.1Y8.2/0.5 近似色）
寸法		148（幅）× 208（高さ）× 70.5（奥行）mm（コード部を除く）
質量		740 g

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

CD（N-8000 設定ソフトウェアほか）..... 1
壁掛卓上金具 1
木ねじ 3.5 × 20 2
ゴム足 4

■ IP 緊急マスター端末　N-8616MS

電源		DC12 V（AC アダプターから供給）
消費電力		3 W（定格時）、4 W（ピーク時）
通話方式		ハンドセット通話
通話帯域		300 Hz ～ 7 kHz
ハンドセット		受話器：ダイナミック型 送話器：エレクトレットコンデンサーマイクロホン
外部制御出力端子		オープンコレクター出力、耐電圧：最大 DC30 V、 制御電流：最大 200 mA、スクリューレス端子（2P）
外部制御入力端子		無電圧メイク接点入力、開放電圧：DC12 V、短絡電流：10 mA 以下、 スクリューレス端子（2P）
ネットワーク部	ネットワーク I/F	10BASE-T/100BASE-TX 自動切り換え
	ネットワークプロトコル	TCP/IP、UDP、ARP、ICMP、HTTP、RTP、IGMP
	音声パケット伝送方式	ユニキャスト、マルチキャスト
	ページング送信数	ユニキャスト（最大 8 カ所）、マルチキャスト（最大 191 カ所）
	接続コネクター	RJ-45 コネクター（PoE 非対応）
	音声サンプリング周波数	16 kHz、8 kHz（ソフトウェア切換式）
	量子化ビット数	16 ビット
	音声符号化方式	Sub-band ADPCM、暗号化
	音声パケット欠落補正	無音挿入
	音声遅延時間	80 ms、320 ms（ソフトウェア切換式）
表示		状態表示灯
その他		ファームウェア更新機能、システム登録データ保持機能、 時刻保持機能
設置方法		卓上、壁掛け兼用（壁掛け時は別売の YC-280 を使用）
使用温度範囲		0 ～ 40℃
使用湿度範囲		90%RH 以下（ただし結露のないこと）
仕上げ		本体、ハンドセット：ABS 樹脂、グレー（マンセル 6.1Y8.2/0.5 近似色）
寸法		148（幅）× 208（高さ）× 70.5（奥行）mm（コード部を除く）
質量		730 g（本体のみ）

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

AC アダプター 1
緊急スイッチ保護カバー 1

■ IP リモートマイク端末　N-8610RM

電源		IEEE802.3af 準拠の電源供給装置または DC12 V（AC アダプターから供給）
消費電力		AC アダプター使用時（DC12 V）：4 W（本体のみ） 8.5 W（拡張ユニット RM-210 ×4 台接続） PoE 使用時（DC48 V）：5.2 W（本体のみ） 7.5 W（拡張ユニット RM-210 ×2 台接続）
通話方式		ハンズフリー通話兼用（グースネックマイクを使用）
通話帯域		300 Hz ～ 7 kHz
使用マイクロホン		単一指向性エレクトレットコンデンサーマイクロホン
本体スピーカー		6.6 cm、コーン型、定格出力 0.3 W、8 Ω
ネットワーク部	ネットワーク I/F	10BASE-T/100BASE-TX 自動切り換え
	ネットワークプロトコル	TCP/IP、UDP、ARP、ICMP、HTTP、RTP、IGMP
	音声パケット伝送方式	ユニキャスト、マルチキャスト
	ページング送信数	ユニキャスト（最大 16 カ所）、マルチキャスト（最大 191 カ所）
	接続コネクター	RJ-45 コネクター（PoE 対応）
	音声サンプリング周波数	16 kHz、8 kHz（ソフトウェア切換式）
	量子化ビット数	16 ビット
	音声符号化方式	Sub-band ADPCM、暗号化
	音声パケット欠落補正	無音挿入
	音声遅延時間	80 ms、320 ms（ソフトウェア切換式）
拡張ユニット接続数		最大 4 台（PoE 給電時は最大 2 台）
操作部		機能キー（カバー付きを含む）、トークキー
表示部		電源表示灯、状態表示灯、選択表示灯、放送状態表示灯、マイク表示灯
設置方法		卓上、壁掛け兼用（壁掛け時は別売の WB-RM200 を使用）
使用温度範囲		0 ～ 40℃
使用湿度範囲		90%RH 以下（ただし結露のないこと）
仕上げ		ABS 樹脂、ブルーグレー（マンセル 6.4PB8.0/0.5 近似色）
寸法		190（幅）× 76.5（高さ）× 215（奥行）mm（マイク部を除く）
質量		700 g

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

CD（N-8000 設定ソフトウェアほか）..... 1

フェライトクランプ（黒）..... 2
フェライトクランプ（白）..... 1

● 別売品

拡張ユニット：RM-210
壁取付金具　：WB-RM20

■ IP ドア端末　N-8540DS

電源		IEEE802.3af 準拠の電源供給装置または DC12 V（AC アダプターから供給）
消費電力		4.2 W（定格時）、6 W（ピーク時）
通話方式		ハンズフリー通話専用
通話帯域		300 Hz ～ 7 kHz
ハンズフリー		スピーカー　：3.5 cm コーン型、1 W、8 Ω マイク　　：無指向性エレクトレットコンデンサーマイクロホン
接点出力		オープンコレクター出力、耐電圧：DC30 V、制御電流：50 mA、 ワンショット：1 ～ 9 s 設定可、ねじ締め端子（極性あり）
ネットワーク部	ネットワーク I/F	10BASE-T/100BASE-TX 自動切り換え
	ネットワークプロトコル	TCP/IP、UDP、ARP、ICMP、HTTP、RTP、IGMP
	音声パケット伝送方式	ユニキャスト、マルチキャスト
	ページング送信数	0 ※受信のみ
	接続コネクター	RJ-45 コネクター（PoE 対応）
	音声サンプリング周波数	16 kHz、8 kHz（ソフトウェア切換式）
	量子化ビット数	16 ビット
	音声符号化方式	Sub-band ADPCM、暗号化
	音声パケット欠落補正	無音挿入
	音声遅延時間	80 ms、320 ms（ソフトウェア切換式）
表示		状態表示灯
設置方法		壁埋め込み／壁掛け兼用
使用温度範囲		−10 ～ +50℃
使用湿度範囲		90%RH 以下（ただし結露のないこと）
堅牢性能		BS EN62262: 2002 規格　IK02 相当
防塵・防水性能		IP54（ただし設置時にパネル外周をシーリング処理すること）
仕上げ		プレート　　：ステンレス（SUS304）、ヘアライン 呼び出しボタン：金属
寸法		115（幅）× 162（高さ）× 55.1（奥行）mm
質量		700 g
適合ボックス（別売）		埋め込み：JIS C 8340　3 個用スイッチボックス（カバー付き） 露出　　：YS-13A

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

小ねじ M4 × 25 4
フェライトクランプ 1
UNC No.6-32 × 18 4

■ IP ドア端末　N-8640DS

電源		IEEE802.3af 準拠の電源供給装置または DC12 V（AC アダプターから供給）
消費電力		AC アダプター使用時（DC12 V）：3.5 W（本体） PoE 使用時（DC48 V）　　：5 W
通話方式		ハンズフリー通話専用
通話帯域		300 Hz ～ 7 kHz
ハンズフリー		スピーカー　：3.5 cm コーン型、最大出力 0.5 W、8 Ω マイク　　：無指向性エレクトレットコンデンサーマイクロホン
接点入力		1 系統、無電圧メイク接点入力、開放電圧：DC 5 V、 短絡電流：10 mA 以下、バラ線
接点出力		オープンコレクター出力 4 系統、耐電圧：DC30 V、 最大制御電流　：50 mA（4 出力に 1 COMMON）、バラ線 リレー接点出力 1 系統、耐電圧：DC30 V、最大制御電流：500 mA、バラ線
外部スピーカー端子		最大出力 0.5 W、8 Ω、バラ線
ネットワーク部	ネットワーク I/F	10BASE-T/100BASE-TX 自動切り換え
	ネットワークプロトコル	TCP/IP、UDP、ARP、ICMP、HTTP、RTP、IGMP
	音声パケット伝送方式	ユニキャスト、マルチキャスト
	ページング送信数	0 ※受信のみ
	接続コネクター	RJ-45 コネクター（PoE 対応）
	音声サンプリング周波数	16 kHz、8 kHz（ソフトウェア切換式）
	量子化ビット数	16 ビット
	音声符号化方式	Sub-band ADPCM、暗号化
	音声パケット欠落補正	無音挿入
	音声遅延時間	80 ms、320 ms（ソフトウェア切換式）
表示		状態表示灯
設置方法		壁埋め込み／壁掛け兼用
使用温度範囲		−10 ～ +50℃
使用湿度範囲		90%RH 以下（ただし結露のないこと）
堅牢性能		BS EN62262: 2002 規格　IK02 相当
防塵・防水性能		IP65（ただし設置時にパネル外周をシーリング処理すること）
仕上げ		プレート　　：ステンレス（SUS304）、ヘアライン 呼び出しボタン：金属
寸法		115（幅）× 162（高さ）× 58.5（奥行）mm
質量		780 g
適合ボックス（別売）		露出　　：YS-13A 埋め込み：JIS C 8340　3 個用スイッチボックス（カバー付き）

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

小ねじ M4 × 20 4
UNC No.6-32 × 20 4
防水ワッシャー 4
LAN 中継コネクター 1

■ IP 屋内ドア端末　N-8650DS

電源		IEEE802.3af 準拠の電源供給装置または DC12 V（AC アダプターから供給）
消費電力		AC アダプター使用時（DC12 V）：3.5 W（本体） PoE 使用時（DC48 V）　　：5 W
通話方式		ハンズフリー通話専用
通話帯域		300 Hz ～ 7 kHz
ハンズフリー		スピーカー　：3.5 cm コーン型、最大出力 0.5 W、8 Ω マイク　　：無指向性エレクトレットコンデンサーマイクロホン
接点入力		1 系統、無電圧メイク接点入力、開放電圧：DC 5 V、 短絡電流：10 mA 以下、バラ線
接点出力		オープンコレクター出力 4 系統、耐電圧：DC30 V、 最大制御電流　：50 mA（4 出力に 1 COMMON）、バラ線 リレー接点出力 1 系統、耐電圧：DC30 V、最大制御電流：500 mA、バラ線
外部スピーカー端子		最大出力 0.5 W、8 Ω、バラ線
ネットワーク部	ネットワーク I/F	10BASE-T/100BASE-TX 自動切り換え
	ネットワークプロトコル	TCP/IP、UDP、ARP、ICMP、HTTP、RTP、IGMP
	音声パケット伝送方式	ユニキャスト、マルチキャスト
	ページング送信数	0 ※受信のみ
	接続コネクター	RJ-45 コネクター（PoE 対応）
	音声サンプリング周波数	16 kHz、8 kHz（ソフトウェア切換式）
	量子化ビット数	16 ビット
	音声符号化方式	Sub-band ADPCM、暗号化
	音声パケット欠落補正	無音挿入
	音声遅延時間	80 ms、320 ms（ソフトウェア切換式）
表示		状態表示灯（呼び出しボタン兼用）
設置方法		壁埋め込み／壁掛け兼用
使用温度範囲		−10 ～ +50℃
使用湿度範囲		90%RH 以下（ただし結露のないこと）
仕上げ		ABS 樹脂、ダークグレー
寸法		116（幅）× 162（高さ）× 60（奥行）mm
質量		400 g
適合ボックス（別売）		露出　　：YS-13A 埋め込み：JIS C 8340　3 個用スイッチボックス（カバー付き）

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

小ねじ M4 × 20 4
UNC No.6-32 × 20 4
LAN 中継コネクター 1

■ サブ端末接続ユニット　N-8000RS

電源		AC100 V、50/60 Hz
消費電力		35 W（定格時）、45 W（ピーク時）
サブ端末I/F部	回線数	16 回線
	通話リンク数	2 リンク
	伝送方式	アナログベースバンド方式
	伝送距離	500 m/φ0.5 mm、800 m/φ0.65 mm、1300 m/φ0.9 mm
	通話方式	音声スイッチによる交互通話
	接続コネクター	着脱式ターミナルブロック（3P）
	配線方式	2 心シールド線
	音声出力	最大 1 W ／回線（通話時）、最大 0.5 W ／回線（ページング時）
	給電能力	DC22 V、最大 30 mA
	制御信号	コールインボタン検出、プライバシーボタン検出、フック検出
ネットワーク部	ネットワーク I/F	10BASE-T/100BASE-TX 自動切り換え
	ネットワークプロトコル	TCP/IP、UDP、ARP、ICMP、HTTP、RTP、IGMP
	音声パケット伝送方式	ユニキャスト、マルチキャスト
	ページング送信数	0 ※受信のみ
	接続コネクター	RJ-45 コネクター
	音声サンプリング周波数	16 kHz、8 kHz（ソフトウェア切換式）
	量子化ビット数	16 ビット
	音声符号化方式	Sub-band ADPCM、暗号化
	音声パケット欠落補正	無音挿入
	音声遅延時間	80 ms、320 ms（ソフトウェア切換式）
表示		LNK/ACT 表示灯、STATUS 表示灯、電源表示灯
その他		ファームウェア更新機能、システム登録データ保持機能、 RESET キー（前面パネル）、強制空冷
設置方法		ラック、壁掛け、据え置き兼用
使用温度範囲		0 ～ 40℃
使用湿度範囲		90%RH 以下（ただし結露のないこと）
仕上げ		プレコート鋼板、黒（マンセル N1.0 近似色）、3 分艶
寸法		420（幅）× 44.3（高さ）× 325.5（奥行）mm
質量		3.9 kg

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

電源コード（2 m）..... 1
CD（N-8000 設定ソフトウェアほか）..... 1
着脱式ターミナルプラグ（3P）..... 16
プラスチック足 4
小ねじ M3 × 8 4
ラックマウント金具 2
タッピンねじ 3 × 8..... 8
ラック取付ねじ 5 × 12（平座金付き）..... 4

■ サブ端末接続ユニット　N-8010RS

電源		AC100 V、50/60 Hz
消費電力		26 W（定格時）、32 W（ピーク時）
サブ端末I/F部	回線数	16 回線
	通話リンク数	1 リンク
	伝送方式	アナログベースバンド方式
	伝送距離	500 m/φ0.5 mm、800 m/φ0.65 mm、1300 m/φ0.9 mm
	通話方式	音声スイッチによる交互通話
	接続コネクター	着脱式ターミナルブロック（3P）
	配線方式	2 心シールド線
	音声出力	最大 1 W ／回線（通話時）、最大 0.5 W ／回線（ページング時）
	給電能力	DC22 V、最大 30 mA
	制御信号	コールインボタン検出、プライバシーボタン検出、フック検出
ネットワーク部	ネットワーク I/F	10BASE-T/100BASE-TX 自動切り換え
	ネットワークプロトコル	TCP/IP、UDP、ARP、ICMP、HTTP、RTP、IGMP
	音声パケット伝送方式	ユニキャスト、マルチキャスト
	ページング送信数	0 ※受信のみ
	接続コネクター	RJ-45 コネクター
	音声サンプリング周波数	16 kHz、8 kHz（ソフトウェア切換式）
	量子化ビット数	16 ビット
	音声符号化方式	Sub-band ADPCM、暗号化
	音声パケット欠落補正	無音挿入
	音声遅延時間	80 ms、320 ms（ソフトウェア切換式）
表示		LNK/ACT 表示灯、STATUS 表示灯、電源表示灯
その他		ファームウェア更新機能、システム登録データ保持機能、 RESET キー（前面パネル）、強制空冷
設置方法		ラック、壁掛け、据え置き兼用
使用温度範囲		0 ～ 40℃
使用湿度範囲		90%RH 以下（ただし結露のないこと）
仕上げ		プレコート鋼板、黒（マンセル N1.0 近似色）、3 分艶
寸法		420（幅）× 44.3（高さ）× 325.5（奥行）mm
質量		3.9 kg

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

電源コード（2 m）..... 1
CD（N-8000 設定ソフトウェアほか）..... 1
着脱式ターミナルプラグ（3P）..... 16
プラスチック足 4
小ねじ M3 × 8 4
ラックマウント金具 2
タッピンねじ 3 × 8..... 8
ラック取付ねじ 5 × 12（平座金付き）..... 4

■ 屋内用サブ端末　RS-150

定　格　入　力	1 W
定格インピーダンス	625 Ω（1 W/25 V）
内 部 ス ピ ー カ ー	4 cm コーン型
配　線	2 心シールド線
伝　送　距　離	500 m/ φ 0.5 mm、800 m/ φ 0.65 mm、1300 m/ φ 0.9 mm
使 用 温 度 範 囲	−10 ～ +50℃（ただし、スピーカー・スイッチが凍結しないこと）
仕　上　げ	プレート　：ステンレス、ヘアライン 呼び出しボタン：樹脂
寸　法	120（幅）× 120（高さ）× 48.5（奥行）mm
質　量	410 g
適合ボックス（別売）	露出ボックス：YC-822 埋込ボックス：JIS C 8340 （中形四角アウトレットボックスおよび中形2個用スイッチカバー）

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

小ねじ M4 × 25 ..... 4　　UNC No.6-32 × 18 4

■ 屋内用堅牢型サブ端末　RS-160

定　格　入　力	1 W
定格インピーダンス	625 Ω（1 W/25 V）
内 部 ス ピ ー カ ー	4 cm コーン型
配　線	2 心シールド線
伝　送　距　離	500 m/ φ 0.5 mm、800 m/ φ 0.65 mm、1300 m/ φ 0.9 mm
使 用 温 度 範 囲	−10 ～ +50℃（ただし、スピーカー・スイッチが凍結しないこと）
仕　上　げ	プレート　：ステンレス、ヘアライン 呼び出しボタン：金属
寸　法	120（幅）× 120（高さ）× 57.5（奥行）mm
質　量	540 g
適合ボックス（別売）	露出ボックス：YC-822 埋込ボックス：JIS C 8340 （中形四角アウトレットボックスおよび中形2個用スイッチカバー）

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

小ねじ M4 × 25 ..... 4　　UNC No.6-32 × 18 4

■ 屋外用堅牢型サブ端末　RS-170

定　格　入　力	1 W
定格インピーダンス	625 Ω（1 W/25 V）
内 部 ス ピ ー カ ー	4 cm コーン型
配　線	2 心シールド線
伝　送　距　離	500 m/φ0.5 mm、800 m/φ0.65 mm、1300 m/φ0.9 mm
使 用 温 度 範 囲	−10 ～ +50℃（ただし、スピーカー・スイッチが凍結しないこと）
仕　上　げ	プレート　：ステンレス、ヘアライン 呼び出しボタン：金属 基板　：耐候性コーティング
寸　法	120（幅）× 120（高さ）× 57.5（奥行）mm
質　量	540 g
適合ボックス（別売）	露出ボックス：YC-822、YC-823 埋込ボックス：JIS C 8340 （中形四角アウトレットボックスおよび中形 2 個用スイッチカバー）

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

小ねじ M4 × 25 ..... 4　　UNC No.6-32 × 18 4

■ 呼び出し表示灯付きサブ端末　RS-180

定　格　入　力	1 W
定格インピーダンス	625 Ω（1 W/25 V）
内 部 ス ピ ー カ ー	4 cm コーン型
配　線	2 心シールド線
伝　送　距　離	500 m/φ0.5 mm、800 m/φ0.65 mm、1300 m/φ0.9 mm
制　御　出　力	オープンコレクター出力、耐電圧：DC30 V、制御電流：30 mA、 （オープンコレクター出力は、呼び出しボタンを押してから通話が終わるまで出力し続けます。）
使 用 温 度 範 囲	−10 ～ +50℃（ただし、スピーカー・スイッチが凍結しないこと）
仕　上　げ	プレート　：ステンレス、ヘアライン 呼び出しボタン：金属 基板　：耐候性コーティング
寸　法	120（幅）× 120（高さ）× 58.5（奥行）mm
質　量	570 g
適合ボックス（別売）	露出ボックス：YC-822、YC-823 埋込ボックス：JIS C 8340 （中形四角アウトレットボックスおよび中形 2 個用スイッチカバー）

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

小ねじ M4 × 25 ..... 4　　UNC No.6-32 × 18 4

■ スイッチパネル　RS-140

呼び出しボタン	モーメンタリー式
プライバシーボタン	ロック式
表示	呼び出し中　：呼び出し表示灯（赤色）点滅 通話中　　：呼び出し表示灯（赤色）点灯 プライバシー：プライバシー表示灯（赤色）点灯
配線	2 心シールド線
伝送距離	500 m/ ϕ 0.5 mm、800 m/ ϕ 0.65 mm、1300 m/ ϕ 0.9 mm
使用温度範囲	0 ～ 40℃
仕上げ	プレート　　：ステンレス、ヘアライン 呼び出しボタン　：樹脂、赤 プライバシーボタン：樹脂、白
寸法	70（幅）× 115（高さ）× 28.6（奥行）mm
質量	80 g
適合ボックス（別売）	埋込ボックス：JIS C 8340　1 個用スイッチボックスカバー付き 露出ボックス：1 個用スイッチボックス（パナソニック製 DZB271KW 推奨）

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

取付金具 1
UNC No.6-32 × 18 2
小ねじ M4 × 30 2
UNC No.6-32 × 30 2

■ オプションハンドセット　RS-141

受話器	ダイナミック型
送話器	エレクトレットコンデンサー型
配線	2 心シールド線
受話音量調節	スライドボリューム、最大 12 dB 以上 18 dB 以下
使用温度範囲	0 ～ 40℃
仕上げ	ABS 樹脂、ペールホワイト（マンセル 2.5Y9/1 近似色）
寸法	116（幅）× 220（高さ）× 71（奥行）mm
質量	350 g
適合ボックス	埋込ボックス：JIS C 8340（中形四角アウトレットボックスおよび中形 2 個用スイッチカバー） 露出ボックス：2 個用スイッチボックス（パナソニック製 DZB272W 推奨）

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

小ねじ M4 × 25 4
UNC No.6-32 × 8 4

● 適合機種

RS-140/142/143/144

■ スイッチボード　RS-142

呼び出しボタン用配線	4 本（モーメンタリー式スイッチ 2 個分）
配線	2 心シールド線
伝送距離	500 m/ φ 0.5 mm、800 m/ φ 0.65 mm、1300 m/ φ 0.9 mm
使用温度範囲	0 ～ 40℃
質量	30 g

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

■ スイッチパネル　RS-143

呼び出しボタン	モーメンタリー式
配線	2 心シールド線
伝送距離	500 m/ φ 0.5 mm、800 m/ φ 0.65 mm、1300 m/ φ 0.9 mm
使用温度範囲	0 ～ 40℃
仕上げ	プレート　　：ステンレス、ヘアライン 呼び出しボタン：樹脂、赤
寸法	70（幅）× 115（高さ）× 28.6（奥行）mm
質量	80 g
適合ボックス（別売）	埋込ボックス：JIS C 8340　1 個用スイッチボックスカバー付き 露出ボックス：1 個用スイッチボックス（パナソニック製 DZB271KW 推奨）

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

取付金具 1
UNC No.6-32 × 18 2
小ねじ M4 × 30 2
UNC No.6-32 × 30 2

■ スイッチパネル　RS-144

呼び出しボタン	モーメンタリー式（EMERGENCY、NORMAL）
配線	2 心シールド線
伝送距離	500 m/ φ 0.5 mm、800 m/ φ 0.65 mm、1300 m/ φ 0.9 mm
使用温度範囲	0 ～ 40℃
仕上げ	プレート　　：ステンレス、ヘアライン 呼び出しボタン（EMERGENCY）：樹脂、赤 呼び出しボタン（NORMAL）　　：樹脂、白
寸法	70（幅）× 115（高さ）× 28.6（奥行）mm
質量	80 g
適合ボックス（別売）	埋込ボックス：JIS C 8340　1 個用スイッチボックスカバー付き 露出ボックス：1 個用スイッチボックス（パナソニック製 DZB271KW 推奨）

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

取付金具 1
UNC No.6-32 × 18 2
小ねじ M4 × 30 2
UNC No.6-32 × 30 2

■ サブ端末接続ユニット　N-8400RS

電源		AC100 V、50/60 Hz
消費電力		30 W（定格時）、45 W（ピーク時）
サブ端末 I/F 部	回線数	16 回線
	通話リンク数	内部 1 リンク／外部 2 リンク
	伝送方式	アナログベースバンド方式
	伝送距離	1 km/φ0.5 mm、1.5 km/φ0.65 mm、2 km/φ0.9 mm
	通話方式	ハンズフリー：音声スイッチによる交互通話 ハンドセット：同時通話
	接続コネクター	着脱式ターミナルブロック（4P）
	配線方式	ツイストペア線 2 対
	音声出力	最大 1 W ／回線（通話時）、最大 0.5 W ／回線（ページング時）
	給電能力	DC24 V、最大 30 mA
	制御信号	コールインボタン検出、フック検出
ネットワーク部	ネットワーク I/F	10BASE-T/100BASE-TX 自動切り換え
	ネットワークプロトコル	TCP/IP、UDP、ARP、ICMP、HTTP、RTP、IGMP
	音声パケット伝送方式	ユニキャスト、マルチキャスト
	ページング送信数	ユニキャスト（最大 8 カ所）、マルチキャスト（最大 191 カ所）
	接続コネクター	RJ-45 コネクター
	音声サンプリング周波数	16 kHz、8 kHz（ソフトウェア切換式）
	量子化ビット数	16 ビット
	音声符号化方式	Sub-band ADPCM、暗号化
	音声パケット欠落補正	無音挿入
	音声遅延時間	80 ms、320 ms（ソフトウェア切換式）
表示		LNK/ACT 表示灯、STATUS 表示灯、電源表示灯
その他		ファームウェア更新機能、システム登録データ保持機能、 RESET キー（前面パネル）、強制空冷
設置方法		ラック、壁掛け、据え置き兼用
使用温度範囲		0 ～ 40℃
使用湿度範囲		90%RH 以下（ただし結露のないこと）
仕上げ		プレコート鋼板、黒（マンセル N1.0 近似色）、3 分艶
寸法		420（幅）× 44.3（高さ）× 325.5（奥行）mm
質量		4 kg

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

電源コード（2 m）..... 1
CD（N-8000 設定ソフトウェアほか）..... 1
着脱式ターミナルプラグ（4P）..... 16
プラスチック足 4
小ねじ M3 × 8 4
ラックマウント金具 2
タッピンねじ 3 × 8..... 8
ラック取付ねじ 5 × 12（平座金付き）..... 4

■ アナログ標準マスター端末　N-8410MS

電源	DC24 V（サブ端末接続ユニット N-8400RS から供給）
消費電力	最大 30 mA
配線方式	ツイストペア線 2 対
伝送方式	4 線式ベースバンド
信号レベル	下り 25 dB*、上り 0 dB*以下
通話方式	ハンドセット／ハンズフリー通話兼用
通話帯域	300 Hz ～ 7 kHz
伝送距離	1 km（φ 0.5 mm）／ 1.5 km（φ 0.65 mm）／ 2 km（φ 0.9 mm）
ハンズフリー	スピーカー　　：5.7 cm コーン型、0.6 W、8 Ω マイク　　：無指向性エレクトレットコンデンサーマイクロホン スピーカー音量調節：3 段階切り換え（1 段階で 4 dB）
ハンドセット	受話器　　：ダイナミック型 送話器　　：エレクトレットコンデンサーマイクロホン 受話音量調節：ロータリーボリューム、最大 12 dB 以上 18 dB 以下
表示	状態表示灯
回線接続端子	RJ-11 モジュラージャック
設置方法	卓上／壁掛け兼用（壁掛け時は別売の YC-280 を使用）
使用温度範囲	0 ～ 40℃
使用湿度範囲	90%RH 以下（ただし結露のないこと）
仕上げ	本体、ハンドセット：ABS 樹脂、グレー（マンセル 6.1Y8.2/0.5 近似色）
寸法	148（幅）× 208（高さ）× 70.5（奥行）mm（コード部を除く）
質量	720 g

* 0 dB = 1 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

接続コード（3 m）..... 1

■ サブ端末　RS-450

呼び出しボタン	モーメンタリー式（400 ms 以内の 2 度押しで緊急呼び出し）
定格入力	1 W
内部スピーカー	コーン型
内部マイクロホン	エレクトレットコンデンサーマイクロホン
配線	ツイストペア線（2 対）
伝送距離	1 km/ ϕ 0.5 mm、1.5 km/ ϕ 0.65 mm、2 km/ ϕ 0.9 mm
使用温度範囲	−10 ～ +50℃（ただし、スピーカー・スイッチが凍結しないこと）
仕上げ	プレート　　：ステンレス、ヘアライン 呼び出しボタン：樹脂、黒
寸法	120（幅）× 120（高さ）× 41.5（奥行）mm
質量	510 g
適合ボックス（別売）	埋込ボックス　：JIS C 8340（中形四角アウトレットボックスおよび中形 2 個用スイッチカバー） 露出ボックス　：YC-822 または 2 個用スイッチボックス（パナソニック製 DZB272W 推奨）

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

小ねじ M4 × 25 ..... 4　　UNC No.6-32 × 18 4

■ 堅牢型サブ端末　RS-460

呼び出しボタン	モーメンタリー式（400 ms 以内の 2 度押しで緊急呼び出し）
定格入力	1 W
内部スピーカー	コーン型
内部マイクロホン	エレクトレットコンデンサーマイクロホン
配線	ツイストペア線（2 対）
伝送距離	1 km/ ϕ 0.5 mm、1.5 km/ ϕ 0.65 mm、2 km/ ϕ 0.9 mm
使用温度範囲	−10 ～ +50℃（ただし、スピーカー・スイッチが凍結しないこと）
堅牢性能	BS EN62262：2002 規格、IK02 相当
仕上げ	プレート　　：ステンレス、ヘアライン 呼び出しボタン：金属、シルバー
寸法	120（幅）× 120（高さ）× 49.5（奥行）mm
質量	540 g
適合ボックス（別売）	埋込ボックス　：JIS C 8340（中形四角アウトレットボックスおよび中形 2 個用スイッチカバー） 露出ボックス　：YC-822 または 2 個用スイッチボックス（パナソニック製 DZB272W 推奨）

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

小ねじ M4 × 25 ..... 4　　UNC No.6-32 × 18 4

■ 屋外堅牢型サブ端末　RS-470

呼び出しボタン	モーメンタリー式（400 ms 以内の 2 度押しで緊急呼び出し）
定格入力	1 W
内部スピーカー	コーン型
内部マイクロホン	エレクトレットコンデンサーマイクロホン
配線	ツイストペア線（2 対）
伝送距離	1 km/ ϕ 0.5 mm、1.5 km/ ϕ 0.65 mm、2 km/ ϕ 0.9 mm
使用温度範囲	−10 ～ +50℃（ただし、スピーカー・スイッチが凍結しないこと）
堅牢性能	BS EN62262：2002 規格、IK02 相当
防塵・防水性能	IP54
仕上げ	プレート　：ステンレス、ヘアライン 呼び出しボタン：金属、シルバー 基板　：耐候性コーティング
寸法	120（幅）× 120（高さ）× 49.5（奥行）mm
質量	550 g
適合ボックス（別売）	埋込ボックス　：JIS C 8340（中形四角アウトレットボックスおよび中形 2 個用スイッチカバー） 露出ボックス　：YC-822、YC-823、または 2 個用スイッチボックス（パナソニック製 DZB272W 推奨）

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

小ねじ M4 × 25 ..... 4　　UNC No.6-32 × 18 4

■ 呼び出し表示灯付きサブ端末　RS-480

呼び出しボタン	モーメンタリー式（400 ms 以内の 2 度押しで緊急呼び出し）
定格入力	1 W
制御出力	オープンコレクター出力、耐電圧：DC30 V、制御電流：30 mA
内部スピーカー	コーン型
内部マイクロホン	エレクトレットコンデンサーマイクロホン
表示	呼び出し中：LED（赤色）点滅 通話中　　：LED（赤色）点灯
配線	ツイストペア線（2 対）
伝送距離	1 km/ ϕ 0.5 mm、1.5 km/ ϕ 0.65 mm、2 km/ ϕ 0.9 mm
使用温度範囲	−10 ～ +50℃（ただし、スピーカー・スイッチが凍結しないこと）
堅牢性能	BS EN62262：2002 規格、IK02 相当
防塵・防水性能	IP54
仕上げ	プレート　　：ステンレス、ヘアライン 呼び出しボタン：金属、赤 基板　　：耐候性コーティング
寸法	120（幅）× 120（高さ）× 50.5（奥行）mm
質量	575 g
適合ボックス（別売）	埋込ボックス　：JIS C 8340（中形四角アウトレットボックスおよび中形 2 個用スイッチカバー） 露出ボックス　：YC-822、YC-823、または 2 個用スイッチボックス（パナソニック製 DZB272W 推奨）

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

小ねじ M4 × 25 ..... 4　　UNC No.6-32 × 18 4

■ スイッチボード　RS-442

呼び出しボタン用配線	6 本（モーメンタリー式スイッチ 3 個分）
定格入力	1 W
制御出力	オープンコレクター、耐電圧：DC30 V、許容電流：30 mA
使用マイクロホン	エレクトレットコンデンサーマイクロホン
配線	ツイストペア線（2 対）
伝送距離	1 km/ ϕ 0.5 mm、1.5 km/ ϕ 0.65 mm、2 km/ ϕ 0.9 mm
使用温度範囲	0 ～ 40℃
質量	140 g

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

■ オプションハンドセット　RS-481

受話器	ダイナミック型
受話音量調節	スライドボリューム、最大：12 ～ 18 dB
送話器	エレクトレットコンデンサーマイクロホン
使用温度範囲	0 ～ 40℃
仕上げ	ABS 樹脂、ペールホワイト（マンセル 2.5Y9/1 近似色）
寸法	116（幅）× 220（高さ）× 71（奥行）mm（カールコードを除く）
質量	365 g
適合ボックス	埋込ボックス　：JIS C 8340（中形四角アウトレットボックスおよび中形 2 個用スイッチカバー） 露出ボックス　：YC-822 または 2 個用スイッチボックス（パナソニック製 DZB272W 推奨

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

小ねじ M4 × 25 ..... 4　　UNC No.6-32 × 8 4

● 適合機種

RS-442/480

■ マルチインターフェースユニット　N-8000MI

電源		AC100 V、50/60 Hz
消費電力		16 W（定格時）、21 W（ピーク時）
音声入力*3		入力：2 系統（2P ／系統）、最大 0 dB*1、600 Ω以下、平衡、 調節用半固定ボリューム付き（0 ～ –25 dB） 制御：2 系統（2P ／系統）、無電圧メイク接点入力、 開放電圧：DC12 V、短絡電流：10 mA 着脱式ターミナルブロック（8P）
音声出力*3		出力：2 系統（2P ／系統）、最大 0 dB*1、600 Ω以下、平衡 制御：2 系統（2P ／系統）、リレー接点出力、 接点容量：DC24 V/0.5 A 着脱式ターミナルブロック（8P）
接点入力*3		16 系統、無電圧メイク接点入力、開放電圧：DC12 V、 短絡電流：10 mA 以下、着脱式ターミナルブロック（18P）
接点出力*3		16 系統、リレー接点出力、接点容量：DC24 V/0.5 A、 着脱式ターミナルブロック（18P）
PBX I/F*3		PBX 入出力　：2 系統、最大：0 dB*2 以下、平均：–15 dB*2 以下、 600 Ω、平衡、圧接コネクター（2P）、 端末設備等規則準拠 信号方式　：SS-SR 方式（TTC 標準 JJ21.10 準拠） セカンドダイヤルトーン方式、ウインクスタート方式、 タイミングスタート方式対応
タイライン I/F*3		タイライン 2 系統、最大 0 dB*2 以下、平均：–15 dB*2 以下、 600 Ω、平衡、圧接コネクター（2P）、 アナログ専用通信回線端末の電気的条件等準拠 （入出力ともに調整機能付き） 信号方式　：EXES-2000/EXES-6000/EXES-7000 タイライン方式 選択信号　：DTMF 信号
ネットワーク部	ネットワーク I/F	10BASE-T/100BASE-TX 自動切り換え
	ネットワークプロトコル	TCP/IP、UDP、ARP、ICMP、HTTP、RTP、IGMP
	音声パケット伝送方式	ユニキャスト、マルチキャスト
	ページング送信数	ユニキャスト（最大 16 カ所）、マルチキャスト（最大 191 カ所）
	接続コネクター	RJ-45 コネクター
	音声サンプリング周波数	16 kHz、8 kHz（ソフトウェア切換式）
	量子化ビット数	16 ビット
	音声符号化方式	Sub-band ADPCM、暗号化
	音声パケット欠落補正	無音挿入
	音声遅延時間	80 ms、320 ms（ソフトウェア切換式）
表示		LNK/ACT 表示灯、STATUS 表示灯、電源表示灯
その他		ファームウェア更新機能、システム登録データ保持機能、時刻保持機能、 RESET キー（前面パネル）
設置方法		ラック、壁掛け、据え置き兼用
使用温度範囲		0 ～ 40℃
使用湿度範囲		90%RH 以下（ただし結露のないこと）
仕上げ		プレコート鋼板、黒（マンセル N1.0 近似色）、3 分艶
寸法		420（幅）× 44.3（高さ）× 239.5（奥行）mm
質量		2.8 kg

*1 0 dB = 1 V　　*2 0 dB = 0.775 V　　*3 各入出力の可能な組み合わせ（ ☞ P. 1-15）

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

電源コード（2 m）..... 1
CD（N-8000 設定ソフトウェアほか）..... 1
着脱式ターミナルプラグ（9P）..... 4
着脱式ターミナルプラグ（8P）..... 2
圧接コネクター（2P）..... 10
プラスチック足 4
小ねじ M4 × 20 4
ラックマウント金具 2
タッピンねじ 3 × 8 8
ラック取付ねじ 5 × 12（平座金付き）..... 4
壁取付金具 2
木ねじ 3.5 × 20 4

■ 局線インターフェースユニット　N-8000CO

電源		AC100 V、50/60 Hz
消費電力		6 W（ピーク時）
回線 I/F 部		適用電話回線：アナログ公衆電話回線 回線数　　：1 回線 選択信号種別：DTMF 信号 信号形式　　：ループスタート 配線方式　　：ツイストペア線 1 対
ネットワーク部	ネットワーク I/F	10BASE-T/100BASE-TX 自動切り換え
	ネットワークプロトコル	TCP/IP、UDP、ARP、ICMP、HTTP、RTP、IGMP
	音声パケット伝送方式	ユニキャスト、マルチキャスト
	ページング送信数	ユニキャスト（最大 8 カ所）、マルチキャスト（最大 191 カ所）
	接続コネクター	RJ-45 コネクター
	音声サンプリング周波数	16 kHz、8 kHz（ソフトウェア切換式）
	量子化ビット数	16 ビット
	音声符号化方式	Sub-band ADPCM、暗号化
	音声パケット欠落補正	無音挿入
	音声遅延時間	80 ms、320 ms（ソフトウェア切換式）
表示		LNK/ACT 表示灯、STATUS 表示灯、電源表示灯、局線表示灯
その他		ファームウェア更新機能、システム登録データ保持機能、 時刻保持機能、RESET キー（前面パネル）
設置方法		ラック、壁掛け、据え置き兼用
使用温度範囲		0 ～ 40℃
使用湿度範囲		90%RH 以下（ただし結露のないこと）
仕上げ		プレコート鋼板、黒（マンセル N1.0 近似色）、3 分艶
寸法		210（幅）× 44.3（高さ）× 267（奥行）mm
質量		1.7 kg

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

電源コード（2 m）..... 1
CD（N-8000 設定ソフトウェアほか）..... 1
圧接コネクター（2P）..... 2
プラスチック足 4
小ねじ M3 × 8 4

● 別売品

ラックマウント金具　：MB-15B-BK（1 台ラックマウントする場合）
　　MB-15B-J（2 台連結してラックマウントする場合）

■ 音声インターフェースユニット　N-8000AF

電源		AC100 V、50/60 Hz
消費電力		6 W（ピーク時）
音声入力		1 系統（トランスアイソレート）、−58 ～ 0 dB*、2 k Ω、 平衡（MIC/LINE 入力、ソフトウェア切換式）、 調節用つまみ操作式ボリューム付き、着脱式ターミナルブロック（3P）
音声出力		1 系統（トランスアイソレート）、0 dB*、600 Ω、平衡、 着脱式ターミナルブロック（3P）
接点入力		8 系統、無電圧メイク接点入力、開放電圧：DC24 V、 短絡電流：5 mA 以下、 着脱式ターミナルブロック（10P）（4 入力あたり 1 COMMON）
接点出力		8 系統、リレー接点出力、接点容量：DC24 V/2 ～ 500 mA、 着脱式ターミナルブロック（16P）
調時入力		1 系統、無電圧メイク接点入力、開放電圧：DC24 V、 短絡電流：5 mA 以下、着脱式ターミナルブロック（2P）
ネットワーク部	ネットワーク I/F	10BASE-T/100BASE-TX 自動切り換え
	ネットワークプロトコル	TCP/IP、UDP、ARP、ICMP、HTTP、RTP、IGMP
	音声パケット伝送方式	ユニキャスト、マルチキャスト
	ページング送信数	ユニキャスト（最大 8 カ所）、マルチキャスト（最大 191 カ所）
	接続コネクター	RJ-45 コネクター
	音声サンプリング周波数	16 kHz、8 kHz（ソフトウェア切換式）
	量子化ビット数	16 ビット
	音声符号化方式	Sub-band ADPCM、暗号化
	音声パケット欠落補正	無音挿入
	音声遅延時間	80 ms、320 ms（ソフトウェア切換式）
表示		LNK/ACT 表示灯、STATUS 表示灯、電源表示灯、シグナル表示灯、 ピーク表示灯
その他		ファームウェア更新機能、システム登録データ保持機能、 時刻保持機能、RESET キー（前面パネル）
設置方法		ラック、壁掛け、据え置き兼用
使用温度範囲		−10 ～ +50℃
使用湿度範囲		90%RH 以下（ただし結露のないこと）
仕上げ		プレコート鋼板、黒（マンセル N1.0 近似色）、3 分艶
寸法		210（幅）× 44.3（高さ）× 267（奥行）mm
質量		1.7 kg

* 0 dB = 1 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

電源コード（2 m）..... 1
CD（N-8000 設定ソフトウェアほか）..... 1
着脱式ターミナルプラグ（2P）..... 1
着脱式ターミナルプラグ（3P）..... 2
着脱式ターミナルプラグ（5P）..... 2
着脱式ターミナルプラグ（8P）..... 2
プラスチック足 4
小ねじ M3 × 8 4

● 別売品

ラックマウント金具　：MB-15B-BK（1 台ラックマウントする場合）
MB-15B-J（2 台連結してラックマウントする場合）

■ 電話インターフェースユニット　N-8000AL

電源		AC100 V、50/60 Hz
消費電力		7 W（ピーク時）
電話機 I / F 部		適用電話機　：技術基準適合認定電話機 回線数　　：1 回線 選択信号種別：DTMF 信号 配線方式　　：ツイストペア線 1 対 短絡電流　　：120 mA 開放電圧　　：DC24 V 最大出力電圧：AC80 V（0-p）（IR 信号出力時）16 Hz
ネットワーク部	ネットワーク I/F	10BASE-T/100BASE-TX 自動切り換え
	ネットワークプロトコル	TCP/IP、UDP、ARP、ICMP、HTTP、RTP、IGMP
	音声パケット伝送方式	ユニキャスト、マルチキャスト
	ページング送信数	ユニキャスト（最大 8 カ所）、マルチキャスト（最大 191 カ所）
	接続コネクター	RJ-45 コネクター
	音声サンプリング周波数	16 kHz、8 kHz（ソフトウェア切換式）
	量子化ビット数	16 ビット
	音声符号化方式	Sub-band ADPCM、暗号化
	音声パケット欠落補正	無音挿入
	音声遅延時間	80 ms、320 ms（ソフトウェア切換式）
表示		LNK/ACT 表示灯、STATUS 表示灯、電源表示灯、ライン表示灯
その他		ファームウェア更新機能、システム登録データ保持機能、 時刻保持機能、RESET キー（前面パネル）
設置方法		ラック、壁掛け、据え置き兼用
使用温度範囲		0 ～ 40℃
使用湿度範囲		90%RH 以下（ただし結露のないこと）
仕上げ		プレコート鋼板、黒（マンセル N1.0 近似色）、3 分艶
寸法		210（幅）× 44.3（高さ）× 267（奥行）mm
質量		1.7 kg

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

電源コード（2 m）..... 1
CD（N-8000 設定ソフトウェアほか）..... 1
圧接コネクター（2P）..... 2
プラスチック足 4
小ねじ M3 × 8 4

● 別売品

ラックマウント金具：MB-15B-BK（1 台ラックマウントする場合）
MB-15B-J（2 台連結してラックマウントする場合）

■ ダイレクトセレクトユニット　N-8000DI

電源		AC100 V、50/60 Hz
消費電力		16 W（ピーク時）
接点入力		32 系統、無電圧メイク接点入力、開放電圧：DC24 V、 短絡電流：5 mA 以下、 着脱式ターミナルブロック（20P）（4 入力あたり 1 COMMON）
接点出力		32 系統、リレー接点出力、接点容量：DC24 V/2 ～ 500 mA、 着脱式ターミナルブロック（32P）
ネットワーク部	ネットワーク I/F	10BASE-T/100BASE-TX 自動切り換え
	ネットワークプロトコル	TCP/IP、UDP、ARP、ICMP、HTTP、RTP、IGMP
	接続コネクター	RJ-45 コネクター
表示		LNK/ACT 表示灯、STATUS 表示灯、電源表示灯、 チャンネル状態表示灯（32 ch）
その他		ファームウェア更新機能、システム登録データ保持機能、 時刻保持機能、RESET キー（前面パネル）
設置方法		ラック型／据置型／壁掛型兼用
使用温度範囲		0 ～ 40℃
使用湿度範囲		90%RH 以下（ただし結露のないこと）
仕上げ		プレコート鋼板、黒（マンセル N1.0 近似色）、3 分艶
寸法		420（幅）× 44.3（高さ）× 267（奥行）mm
質量		2.8 kg

* 0 dB = 1 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

電源コード（2 m）..... 1
CD（N-8000 設定ソフトウェアほか）..... 1
着脱式ターミナルプラグ（10P）..... 4
着脱式ターミナルプラグ（16P）..... 4
プラスチック足 4
小ねじ M3 × 8 4
ラックマウント金具 2
タッピンねじ 3 × 8 8
ラック取付ねじ 5 × 12（平座金付き）..... 4

■ スマートマトリクス IP モジュール　SX-200IP

ネットワーク部	ネットワーク I/F　：10BASE-T/100BASE-TX 自動切り換え ネットワークプロトコル：TCP/IP、UDP、ARP、ICMP、HTTP、RTP、IGMP 接続コネクター　：RJ-45 コネクター 音声サンプリング周波数：16 kHz、8 kHz（ソフトウェア切換式）、SX-2000 システムのみ 48 kHz にサンプリング周波数変換 量子化ビット数　：16 ビット 音声符号化方式　：Sub-band ADPCM、暗号化 音声パケット欠落補正　：無音挿入 音声遅延時間　：80 ms、320 ms（ソフトウェア切換式）
表示	RUN 表示灯
使用温度範囲	0 ～ 40℃
使用湿度範囲	90% RH 以下（ただし結露のないこと）
仕上げ	パネル：プレコート鋼板、黒（マンセル N 1.0 近似色）、3 分艶
寸法	35（幅）× 119.5（高さ）× 178.4（奥行）mm
質量	150 g

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

■ 壁掛卓上金具　YC-280

仕上げ	表面処理鋼板、ホワイト（マンセル N9.0 近似色）、塗装
寸法	100（幅）× 140（高さ）× 31.8（奥行）mm
質量	120 g

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

木ねじ 3.5 × 20 ..... 2　　ゴム足 4

● 適合機種

N-8000MS/8010MS/8020MS/8410MS/8500MS/8510MS/8515MS/8600MS/8610MS/8616MS

■ 壁掛卓上金具　YC-290

仕上げ	表面処理鋼板、ホワイト（マンセル N9.0 近似色）、塗装
寸法	64（幅）× 131.5（高さ）× 31.8（奥行）mm
質量	100 g

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

木ねじ 3.5 × 20 ..... 2　　ゴム足 4

● 適合機種

N-8011MS

■ サブ端末屋内露出ボックス　YC-822

仕　　上　　げ	表面処理鋼板、オフホワイト
寸　　法	124（幅）× 124（高さ）× 61（奥行）mm
質　　量	400 g

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

木ねじ 3.5 × 20 4

● 適合機種

RS-141/150/160/170/180/191/450/460/470/480/481

■ サブ端末屋外露出ボックス　YC-823

仕　　上　　げ	ステンレス、オフホワイト
寸　　法	124（幅）× 124（高さ）× 62（奥行）mm
質　　量	440 g

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

木ねじ 3.5 × 20 4

● 適合機種

RS-170/180/470/480

■ 壁埋込／露出兼用ボックス　YC-841

仕　　上　　げ	表面処理鋼板、ホワイト
寸　　法	119（幅）× 258（高さ）× 57（奥行）mm
質　　量	1 kg

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

木ねじ 3.5 × 20 4

● 適合機種

N-8033MS

■ インターフェースユニット壁掛金具　YC-850

仕　　上　　げ	表面処理鋼板、黒（マンセル N1.0 近似色）、3 分艶
寸　　法	45.1（幅）× 220（高さ）× 10（奥行）mm
質　　量	180 g

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

木ねじ 3.5 × 20 4
小ねじ M3 × 6 4

● 適合機種

N-8000RS/8010RS/8400RS/8000DI/8000AF/8000CO/8000AL

■ 露出ボックス　YS-13A

仕　　上　　げ	表面処理鋼板、オフホワイト（マンセル 5Y9/1 近似色）
寸　　法	116.5（幅）× 163.5（高さ）× 55（奥行）mm
質　　量	550 g

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

小ねじ M3 × 12 4
木ねじ 3.8 × 16 4
ゴム足 4
ブッシング 1

● 適合機種

N-8050DS/8540DS/8640DS/8650DS

■ 端子盤　E-7000TB

回線接続端子数	80（40 回線）
回線接続端子	クリップターミナル
仕　　上　　げ	パネル：表面処理鋼板、黒（マンセル N1.0 近似色）、3 分艶
寸　　法	482（幅）× 132.6（高さ）× 108.8（奥行）mm
質　　量	2.5 kg

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

ラック取付ねじ 5 × 12 4
ファイバーワッシャー（M5 用）..... 4
記名板 4
コードクランプ 6

■ AC アダプター　AD-1210P

電源	AC100 ～ 240 V、50/60 Hz
出力	DC12 V、1 A
消費電流	AC270 mA、入力 100 V
消費電力	27 VA
コード長	1.5 m
プラグ	センター ⊕
使用温度範囲	0 ～ 40℃
仕上げ	ケース：ポリカーボネート、黒
寸法	50（幅）× 72（高さ）× 58（奥行）mm（コード部を除く）
質量	110 g

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 適合機種

N-8500MS/8510MS/8515MS/8600MS/8616MS/8540DS/8640DS/8650DS

■ AC アダプター　AD-1215P

電源	AC100 ～ 240 V、50/60 Hz
出力	DC12 V、1.5 A
消費電流	AC0.5 A、入力 100 V（定格出力時）
消費電力	27 VA
コード長	1.8 m
プラグ	導体部：センター ⊕、ϕ 5.5 ×ϕ 2.1 × L9.5 mm
使用温度範囲	0 ～ 40℃
仕上げ	ケース：ポリカーボネート、黒
寸法	45（幅）× 70（高さ）× 55.5（奥行）mm（コード部を除く）
質量	130 g

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 適合機種

N-8500MS/8510MS/8515MS/8600MS/8610MS/8616MS/8610RM/8540DS/8640DS/8650DS

TOA お客様相談センター	フリーダイヤル 0120-108-117 ナビダイヤル 0570-064-475（有料） FAX 0570-017-108（有料） ※ PHS、IP 電話からはつながりません。	商品の価格・在庫・修理などのお問い合わせ、およびカタログのご請求については、取り扱い店または最寄りの営業所へお申し付けください。最寄りの営業所については、TOA ホームページをご確認ください。
商品の内容や組み合わせ、設置方法などについての技術的なお問い合わせにお応えします。 受付時間 9：00 ～ 17：00（土日、祝日除く）		

当社は、お客様から提供された個人情報をお問い合わせ対応または修理対応の目的に利用いたします。また、修理委託目的で委託先業者へ提供することがあります。個人情報の取り扱いに関する方針については、TOA ホームページをご覧ください。

TOA ホームページ http://www.toa.co.jp/

TOA株式会社

201712